

**2020年度  
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目  
100番台  
講義概要（シラバス）**



**法政大学**

# 科目一覧

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1453】 補講英語 1・2 - I [岩下 弘史] 春学期授業/Spring.....	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1454】 補講英語 1・2 - II [岩下 弘史] 秋学期授業/Fall .....	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1455】 補講英語 1・2 - I [岩下 弘史] 春学期授業/Spring.....	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1456】 補講英語 1・2 - II [岩下 弘史] 秋学期授業/Fall .....	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1457】 補講英語 1・2 - I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring.....	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1458】 補講英語 1・2 - II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall .....	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1802】 Academic Literacy A [パワー トーマス G] 秋学期授業/Fall.....	7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1803】 Academic Literacy B [Power THOMAS] 春学期授業/Spring .....	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1804】 College Writing A [パワー トーマス G] 秋学期授業/Fall .....	10
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1805】 College Writing B [ドナルド ホワイト] 春学期授業/Spring .....	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2227】 ドイツ語補講 1 - I [伊東 直美] 春学期授業/Spring.....	13
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2228】 ドイツ語補講 1 - II [伊東 直美] 秋学期授業/Fall .....	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2229】 ドイツ語補講 2 - I [畠山 勝彦] 春学期授業/Spring.....	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2230】 ドイツ語補講 2 - II [畠山 勝彦] 秋学期授業/Fall .....	16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3249】 フランス語補講 1 - I [西川 純子] 春学期授業/Spring .....	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3250】 フランス語補講 1 - II [西川 純子] 秋学期授業/Fall .....	18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3251】 フランス語補講 2 - I [中村 美緒] 春学期授業/Spring .....	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3252】 フランス語補講 2 - II [中村 美緒] 秋学期授業/Fall .....	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3253】 フランス語補講 3 - I [篠原 学] 春学期授業/Spring.....	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3254】 フランス語補講 3 - II [篠原 学] 秋学期授業/Fall .....	22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4221】 ロシア語補講 1 - I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring.....	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4222】 ロシア語補講 1 - II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall .....	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4223】 ロシア語補講 2 - I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring.....	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4224】 ロシア語補講 2 - II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall .....	26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F4001】 ロシア語 (1) I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring.....	27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F4002】 ロシア語 (1) II [油本 真理] 秋学期授業/Fall .....	28

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F4003】 ロシア語 (2) I [土岐 康子] 春学期授業/Spring	29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F4004】 ロシア語 (2) II [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8055】 日本語 1-I [板井 美佐] 春学期授業/Spring	31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8056】 日本語 1-II [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	32
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8059】 日本語 1-I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	33
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8060】 日本語 1-II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8061】 日本語 2-I [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8062】 日本語 2-II [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	36
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8063】 日本語 2-I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8064】 日本語 2-II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8065】 日本語 2-I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	39
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【F8066】 日本語 2-II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【F9104】 Elementary Health and Physical Education [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9005】 ロシア語 1 [木部 敬] 春学期授業/Spring	42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9006】 ロシア語 3 [木部 敬] 秋学期授業/Fall	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9007】 ロシア語 2 [土岐 康子] 春学期授業/Spring	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9008】 ロシア語 4 [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9951】 朝鮮語 1 [富所 明秀、内山 政春] 春学期授業/Spring	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9952】 朝鮮語 3 [富所 明秀、内山 政春] 秋学期授業/Fall	47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9953】 朝鮮語 2 [新谷 あゆり、内山 政春] 春学期授業/Spring	48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G9954】 朝鮮語 4 [新谷 あゆり、内山 政春] 秋学期授業/Fall	49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0162】 Elementary Information Technology [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0163】 Information Technology [Yukou MATSUDA] 春学期授業/Spring	51
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0632】 Elementary Career Development [源島 福己] 秋学期授業/Fall	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1302】 Elementary Humanities A [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1304】 Elementary Humanities B [リチャード・バロース] 秋学期授業/Fall	55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2301】 Elementary Social Science A [SCHIFANO ADRIEN] 春学期授業/Spring	57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2302】 Elementary Social Science B [スキハノ アドリアン] 秋学期授業/Fall	58

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3602】 Elementary Mathematics A [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	59
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3603】 Elementary Mathematics B [Takeyoshi KOGISO] 春学期授業/Spring	60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0001】 基礎ゼミ I [安孫子 信] 春学期授業/Spring	61
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0002】 基礎ゼミ II [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0003】 基礎ゼミ I [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	63
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0004】 基礎ゼミ II [奥田 和夫] 秋学期授業/Fall	64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0005】 基礎ゼミ I [小島 尚人] 春学期授業/Spring	65
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0007】 基礎ゼミ I [田中 裕希] 春学期授業/Spring	66
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0009】 基礎ゼミ I [小島 尚人] 春学期授業/Spring	67
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0011】 基礎ゼミ I [丹治 愛] 春学期授業/Spring	68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0013】 基礎ゼミ I [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0015】 基礎ゼミ I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	70
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0017】 基礎ゼミ I [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	71
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0019】 基礎ゼミ I [長井 純市] 春学期授業/Spring	72
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0021】 基礎ゼミ I [羽佐田 絃大] 春学期授業/Spring	73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0023】 基礎ゼミ I [中俣 均] 春学期授業/Spring	74
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0025】 基礎ゼミ I [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	75
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0027】 基礎ゼミ I [小原 文明] 春学期授業/Spring	76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0029】 基礎ゼミ I [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	77
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0030】 基礎ゼミ II [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	79
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0031】 基礎ゼミ I [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0032】 基礎ゼミ II [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	83
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0033】 基礎ゼミ I [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	85
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0034】 基礎ゼミ II [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	86
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0041】 基礎ゼミ [上西 充子] 春学期授業/Spring	87
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0043】 基礎ゼミ [李 舜志] 春学期授業/Spring	88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0045】 基礎ゼミ [坂本 旬] 春学期授業/Spring	89
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0047】 基礎ゼミ [神野 潔] 春学期授業/Spring	90

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0049】基礎ゼミ [飯尾 真貴子] 春学期授業/Spring .....	91
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0051】基礎ゼミ [橋本 広大] 春学期授業/Spring .....	92
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0053】基礎ゼミ [田口 賢太郎] 春学期授業/Spring .....	93
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0055】基礎ゼミ [仲 修平] 春学期授業/Spring .....	94
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0057】基礎ゼミ [島村 泰子] 春学期授業/Spring .....	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0059】基礎ゼミ [北村 美穂] 春学期授業/Spring .....	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0061】基礎ゼミ [李 舜志] 春学期授業/Spring .....	97
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0063】基礎ゼミ [福井 令恵] 春学期授業/Spring .....	98
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0065】基礎ゼミ [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring .....	99
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0067】基礎ゼミ [酒井 理] 春学期授業/Spring .....	100
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0069】基礎ゼミ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring .....	101
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0071】基礎ゼミ [熊谷 智博] 春学期授業/Spring .....	102
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring .....	103
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring .....	104
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring .....	105
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0107】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring .....	106
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0109】情報処理演習 I [中村 文隆] 春学期授業/Spring .....	107
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0111】情報処理演習 I [中村 文隆] 春学期授業/Spring .....	108
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0113】情報処理演習 I [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring .....	109
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0115】情報処理演習 I [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring .....	111
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0117】情報処理演習 I [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring .....	112
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0119】情報処理演習 I [重定 如彦] 春学期授業/Spring .....	113
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0121】情報処理演習 I [重定 如彦] 春学期授業/Spring .....	114
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0123】情報処理演習 I [松田 裕幸] 春学期授業/Spring .....	116
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0125】情報処理演習 I [松田 裕幸] 春学期授業/Spring .....	117
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0127】情報処理演習 I [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring .....	118
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0129】情報処理演習 I [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring .....	119
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0131】情報処理演習 I [久東 義典] 春学期授業/Spring .....	121

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0133】 情報処理演習Ⅰ [久東 義典] 春学期授業/Spring	123
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0135】 情報処理演習Ⅰ [名児耶 厚] 春学期授業/Spring	125
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0137】 情報処理演習Ⅰ [名児耶 厚] 春学期授業/Spring	126
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0139】 情報処理演習Ⅰ [名児耶 厚] 春学期授業/Spring	127
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0141】 情報処理演習Ⅰ [名児耶 厚] 春学期授業/Spring	128
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0143】 情報処理演習Ⅰ [星 善光] 春学期授業/Spring	129
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0145】 情報処理演習Ⅰ [星 善光] 春学期授業/Spring	130
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0201】 情報リテラシーⅠ [色川 進] 春学期授業/Spring	131
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0203】 情報リテラシーⅠ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	132
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0205】 情報リテラシーⅠ [色川 進] 春学期授業/Spring	134
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0207】 情報リテラシーⅠ [四手井 綱章] 春学期授業/Spring	135
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0209】 情報リテラシーⅠ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	137
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0211】 情報リテラシーⅠ [四手井 綱章] 春学期授業/Spring	138
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0213】 情報リテラシーⅠ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	140
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0215】 情報リテラシーⅡ [色川 進] 春学期授業/Spring	141
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0217】 情報リテラシーⅡ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	142
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0219】 情報リテラシーⅡ [色川 進] 春学期授業/Spring	143
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0221】 情報リテラシーⅡ [四手井 綱章] 春学期授業/Spring	144
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0223】 情報リテラシーⅡ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	145
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0225】 情報リテラシーⅡ [四手井 綱章] 春学期授業/Spring	146
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0227】 情報リテラシーⅡ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	147
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0301】 情報処理演習 [大間 哲] 春学期授業/Spring	148
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0303】 情報処理演習 [寺澤 信雄] 春学期授業/Spring	150
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0305】 情報処理演習 [寺澤 信雄] 春学期授業/Spring	151
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0307】 情報処理演習 [御園生 純] 春学期授業/Spring	153
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0431】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	154
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0432】 キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	156
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0433】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	158

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0434】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring .....	160
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0435】 キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring .....	162
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0436】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring .....	163
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0437】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring .....	165
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0451】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall .....	167
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0452】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall .....	168
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0453】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall .....	170
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0454】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall .....	171
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0501】 大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、小倉 淳一] 春学期授業/Spring .....	173
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0621】 リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ：岩田和子、講師(ゲストスピーカー)：山本洋一郎氏他] 春学期授業/Spring .....	174
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1001】 日本古典文学A [表 きよし] 春学期授業/Spring .....	175
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1002】 日本古典文学B [表 きよし] 秋学期授業/Fall .....	176
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1003】 日本古典文学A [園 明美 ] 春学期授業/Spring .....	178
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1004】 日本古典文学B [園 明美 ] 秋学期授業/Fall .....	179
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1005】 日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring .....	180
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1006】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall .....	181
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1007】 日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring .....	182
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1008】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall .....	183
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1009】 日本近・現代文学A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring .....	184
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1010】 日本近・現代文学B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall .....	185
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1011】 日本近・現代文学A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring .....	186
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1012】 日本近・現代文学B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall .....	187
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1013】 日本文学A [倉本 さおり] 春学期授業/Spring .....	188
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1014】 日本文学B [倉本 さおり] 秋学期授業/Fall .....	189
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1015】 日本文学A [村山 龍] 春学期授業/Spring .....	190
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1016】 日本文学B [村山 龍] 秋学期授業/Fall .....	191
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1017】 外国文学A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring .....	192
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1018】 外国文学B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall .....	193

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1019】外国文学A [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	194
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1020】外国文学B [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	195
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1021】外国文学A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	196
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1022】外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	197
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1023】外国文学A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	198
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1024】外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1025】外国文学A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	200
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1026】外国文学B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	201
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1027】日本近・現代文学A [鈴木 彩] 春学期授業/Spring	202
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1028】日本近・現代文学B [鈴木 彩] 秋学期授業/Fall	203
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1061】文章論 [萩野 了子] 春学期授業/Spring	204
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1062】文章論 [西元 康雅] 春学期授業/Spring	205
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1063】文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	206
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1064】文章論 [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	208
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1065】文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	209
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1066】文章論 [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	210
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1069】文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall	211
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1070】文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall	212
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1081】言語学A [板井 美佐] 春学期授業/Spring	213
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1082】言語学B [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	214
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1083】言語学A [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	215
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1084】言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	217
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1085】言語学A [江村 裕文] 春学期授業/Spring	218
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1086】言語学B [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	219
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1091】哲学I [滝口 清栄] 春学期授業/Spring	220
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1092】哲学II [滝口 清栄] 秋学期授業/Fall	221
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1093】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	222
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1094】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	223
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1095】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	224
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1096】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	225
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1097】哲学I [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	226
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1098】哲学II [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	227
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1099】哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	228
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1100】哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	229
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1101】哲学I [谷口 力] 春学期授業/Spring	230
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1102】哲学II [谷口 力] 秋学期授業/Fall	231

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1103】 哲学 I [大西 正人] 春学期授 業/Spring . . . . .	232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1104】 哲学 II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1105】 哲学 I [近堂 秀] 春学期授業/Spring	234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1106】 哲学 II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1107】 哲学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring . . . . .	236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1108】 哲学 II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1109】 哲学 I [白根 裕里枝] 春学期授 業/Spring . . . . .	238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1110】 哲学 II [白根 裕里枝] 秋学期授 業/Fall . . . . .	239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1121】 倫理学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring . . . . .	240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1122】 倫理学 II [越部 良一] 秋学期授 業/Fall . . . . .	241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1123】 倫理学 I [杉本 隆久] 春学期授 業/Spring . . . . .	242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1124】 倫理学 II [杉本 隆久] 秋学期授 業/Fall . . . . .	243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1125】 倫理学 I [伊藤 直樹] 春学期授 業/Spring . . . . .	244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1126】 倫理学 II [伊藤 直樹] 秋学期授 業/Fall . . . . .	245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1127】 倫理学 I [田島 樹里奈] 春学期 授業/Spring . . . . .	246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1128】 倫理学 II [田島 樹里奈] 秋学期 授業/Fall . . . . .	247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1129】 倫理学 I [森村 修] 春学期授 業/Spring . . . . .	248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1130】 倫理学 II [森村 修] 秋学期授業/Fall	249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1131】 倫理学 I [佐藤 英明] 春学期授 業/Spring . . . . .	250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1132】 倫理学 II [佐藤 英明] 秋学期授 業/Fall . . . . .	251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1133】 倫理学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring . . . . .	252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1134】 倫理学 II [越部 良一] 秋学期授 業/Fall . . . . .	253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1141】 論理学 I [大西 正人] 春学期授 業/Spring . . . . .	254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1142】 論理学 II [大西 正人] 秋学期授 業/Fall . . . . .	255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1143】 論理学 I [白根 裕里枝] 春学期 授業/Spring . . . . .	256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1144】 論理学 II [白根 裕里枝] 秋学期 授業/Fall . . . . .	257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1145】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring . . . . .	258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1146】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授 業/Fall . . . . .	259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1147】 論理学 I [鶴澤 和彦] 春学期授 業/Spring . . . . .	260
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1148】 論理学 II [鶴澤 和彦] 秋学期授 業/Fall . . . . .	262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1149】 論理学 I [大貫 義久] 春学期授 業/Spring . . . . .	263

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1150】 論理学Ⅱ [大貫 義久] 秋学期授 業/Fall .....	264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1151】 論理学Ⅰ [滝口 清栄] 春学期授 業/Spring .....	265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1152】 論理学Ⅱ [滝口 清栄] 秋学期授 業/Fall .....	266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1153】 論理学Ⅰ [白根 裕里枝] 春学期 授業/Spring .....	267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1154】 論理学Ⅱ [白根 裕里枝] 秋学期 授業/Fall .....	268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1155】 論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授 業/Spring .....	269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1156】 論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授 業/Fall .....	270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1161】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring .....	271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1162】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1163】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring .....	273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1164】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1165】 東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授 業/Spring .....	275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1166】 東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授 業/Fall .....	276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1167】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring .....	277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授 業/Spring .....	279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授 業/Fall .....	280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring .....	281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall .....	282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring .....	283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall .....	284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring .....	285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall .....	286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1187】 西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring .....	287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1188】 西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall .....	288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1201】 日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授 業/Spring .....	289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1202】 日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授 業/Fall .....	290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1203】 日本史Ⅰ [永田 一] 春学期授 業/Spring .....	291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1204】 日本史Ⅱ [永田 一] 秋学期授業/Fall	293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1205】 日本史Ⅰ [永田 一] 春学期授 業/Spring .....	294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1206】 日本史Ⅱ [永田 一] 秋学期授業/Fall	296

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1207】日本史I [真辺 美佐] 春学期授業/Spring	297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1208】日本史II [真辺 美佐] 秋学期授業/Fall	298
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1209】日本史I [永田 一] 春学期授業/Spring	299
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1210】日本史II [永田 一] 秋学期授業/Fall	301
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1211】日本史I [根崎 光男] 春学期授業/Spring	302
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1212】日本史II [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	303
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1221】宗教論I [若林 明彦] 春学期授業/Spring	304
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1222】宗教論II [若林 明彦] 秋学期授業/Fall	305
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1223】宗教論I [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	306
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1224】宗教論II [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	307
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1231】芸術A [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	308
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1232】芸術B [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	309
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1233】芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	310
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1234】芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	311
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1235】芸術A [中川 三千代] 春学期授業/Spring	312
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1236】芸術B [中川 三千代] 秋学期授業/Fall	313
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2001】法学I [山本 圭子] 春学期授業/Spring	314
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2002】法学II [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	315
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2003】法学I [内藤 淳] 春学期授業/Spring	316
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2004】法学II [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	317
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2005】法学I [前川 佳夫] 春学期授業/Spring	318
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2006】法学II [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	320
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2007】法学I [権 敬殷] 春学期授業/Spring	321
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2008】法学II [権 敬殷] 秋学期授業/Fall	322
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2009】法学I [石川 澄雄] 春学期授業/Spring	323
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2010】法学II [石川 澄雄] 秋学期授業/Fall	324
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2011】法学I [水野 圭子] 春学期授業/Spring	326
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2012】法学II [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	327
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2013】法学I [権 敬殷] 春学期授業/Spring	328
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2014】法学II [権 敬殷] 秋学期授業/Fall	329
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2015】法学I [金子 匡良] 春学期授業/Spring	330
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2016】法学II [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	331
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2017】法学I [前川 佳夫] 春学期授業/Spring	332
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2018】法学II [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	333
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2031】法学(日本国憲法) [金子 匡良] 春学期授業/Spring	334
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2032】法学(日本国憲法) [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	335
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2033】法学(日本国憲法) [石川 澄雄] 春学期授業/Spring	336

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2034】 法学 (日本国憲法) [石川 澄雄] 秋学期授業/Fall .....	338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2041】 経済学 I [玉之内 直] 春学期授 業/Spring .....	339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2042】 経済学 II [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall .....	340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】 経済学 I [西崎 文平] 春学期授 業/Spring .....	341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】 経済学 II [西崎 文平] 秋学期授 業/Fall .....	342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2045】 経済学 I [梅溪 健児] 春学期授 業/Spring .....	343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2046】 経済学 II [梅溪 健児] 秋学期授 業/Fall .....	344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2049】 経済学 I [玉之内 直] 春学期授 業/Spring .....	345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2050】 経済学 II [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall .....	346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】 マクロ経済学 I [平田 英明] 春 学期授業/Spring .....	347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】 マクロ経済学 II [平田 英明] 秋 学期授業/Fall .....	348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2063】 マクロ経済学 I [伊藤 信雄] 春 学期授業/Spring .....	349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2064】 マクロ経済学 II [伊藤 信雄] 秋 学期授業/Fall .....	350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2071】 心理学 I [佐藤 洋輔] 春学期授 業/Spring .....	351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2072】 心理学 II [佐藤 洋輔] 秋学期授 業/Fall .....	352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2073】 心理学 I [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring .....	353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2074】 心理学 II [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall .....	354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2075】 心理学 I [小島 弥生] 春学期授 業/Spring .....	355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2076】 心理学 II [小島 弥生] 秋学期授 業/Fall .....	356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2077】 心理学 I [海部 紀行] 春学期授 業/Spring .....	357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2078】 心理学 II [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall .....	358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2079】 心理学 I [海部 紀行] 春学期授 業/Spring .....	359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2080】 心理学 II [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall .....	360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2081】 心理学 I [小島 弥生] 春学期授 業/Spring .....	361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2082】 心理学 II [小島 弥生] 秋学期授 業/Fall .....	362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2083】 心理学 I [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring .....	363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2084】 心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall .....	364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2085】 心理学 I [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring .....	365

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2086】心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall .....	366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2111】地理学Ⅰ [高木 正] 春学期授業/Spring .....	367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2112】地理学Ⅱ [高木 正] 秋学期授業/Fal	368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2113】地理学Ⅰ [前川 明彦] 春学期授業/Spring .....	369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2114】地理学Ⅱ [前川 明彦] 秋学期授業/Fall .....	370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2115】地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期授業/Spring .....	371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2116】地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall .....	372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2117】地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring .....	373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2118】地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall .....	374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2119】地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring .....	375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2120】地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall .....	376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2131】社会学Ⅰ [菅野 摂子] 春学期授業/Spring .....	377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2132】社会学Ⅱ [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall .....	378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2133】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring .....	379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2134】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fal	380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2135】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring .....	381
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2136】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fal	382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2137】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授業/Spring .....	383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2138】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2139】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授業/Spring .....	385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2140】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2141】社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期授業/Spring .....	387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2142】社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期授業/Fall .....	388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2143】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring .....	389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2144】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2145】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring .....	391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2146】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2161】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授業/Spring .....	393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2162】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授業/Fall .....	394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2163】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring .....	395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fal	396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2165】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring .....	397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2166】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fal	398

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授業/Spring	399
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授業/Fall	400
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2169】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授業/Spring	401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2170】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授業/Fall	402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授業/Spring	403
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fall	404
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期授業/Spring	405
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	406
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授業/Spring	407
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授業/Fall	408
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	409
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2193】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授業/Spring	410
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2195】文化人類学 [岩原 紘伊] 春学期授業/Spring	411
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2197】文化人類学 [長沢 利明] 春学期授業/Spring	412
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	413
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2201】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授業/Spring	414
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2203】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授業/Spring	415
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2205】文化人類学 [岩原 紘伊] 春学期授業/Spring	416
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2207】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授業/Spring	417
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2209】文化人類学 [石森 大知] 春学期授業/Spring	418
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2211】社会思想Ⅰ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	419
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2212】社会思想Ⅱ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	420
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2213】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring	421
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2214】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall	422
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2215】社会思想Ⅰ [洪 貴義] 春学期授業/Spring	423
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2216】社会思想Ⅱ [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	424
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2217】社会思想Ⅰ [網谷 壮介] 春学期授業/Spring	425
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2218】社会思想Ⅱ [網谷 壮介] 秋学期授業/Fall	426
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2219】社会思想Ⅰ [熊沢 敏之] 春学期授業/Spring	427

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2220】 社会思想Ⅱ [熊沢 敏之] 秋学期授業/Fall .....	429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2221】 社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring .....	430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2222】 社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall .....	431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3001】 教養数学A [平田 康史] 春学期授業/Spring .....	432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3002】 教養数学B [平田 康史] 秋学期授業/Fall .....	433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3003】 教養数学A [平田 康史] 春学期授業/Spring .....	434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3004】 教養数学B [平田 康史] 秋学期授業/Fall .....	435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3005】 教養数学A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring .....	436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3006】 教養数学B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall .....	437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3007】 教養数学A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring .....	438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3008】 教養数学B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall .....	439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3011】 教養数学A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring .....	440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3012】 教養数学B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall .....	441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3013】 教養数学A [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring .....	442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3014】 教養数学B [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall .....	443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3015】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring .....	444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3016】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall .....	445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3017】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring .....	446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3018】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall .....	447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3031】 基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学期授業/Spring .....	448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3032】 基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall .....	449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3033】 基礎数学Ⅰ [松田 直祐] 春学期授業/Spring .....	450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3034】 基礎数学Ⅱ [松田 直祐] 秋学期授業/Fall .....	451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3035】 基礎数学Ⅰ [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring .....	452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3036】 基礎数学Ⅱ [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall .....	453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3037】 基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学期授業/Spring .....	454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3038】 基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall .....	455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3039】 基礎数学Ⅰ [松田 直祐] 春学期授業/Spring .....	456

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3040】基礎数学Ⅱ [松田 直祐] 秋学期 授業/Fall .....	457
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3041】基礎数学Ⅰ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring .....	458
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3042】基礎数学Ⅱ [倉田 俊彦] 秋学期 授業/Fall .....	459
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3043】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期 授業/Spring .....	460
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3044】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期 授業/Fall .....	461
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3047】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期 授業/Spring .....	462
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3048】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期 授業/Fall .....	463
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3051】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring .....	464
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3052】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall .....	465
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3053】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring .....	466
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3054】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall .....	467
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3055】入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring .....	468
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3056】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall .....	469
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3057】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring .....	470
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3058】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall .....	472
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3059】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring .....	473
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3060】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall .....	474
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3061】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring .....	475
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3062】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall .....	476
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3065】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring .....	477
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3066】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall .....	479
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3067】入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring .....	480
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3068】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall .....	481
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3081】入門生物学A [木原 章] 春学期授 業/Spring .....	482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3082】入門生物学B [木原 章] 秋学期授 業/Fall .....	483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3083】入門生物学A [木原 章] 春学期授 業/Spring .....	485
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3084】入門生物学B [木原 章] 秋学期授 業/Fall .....	486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3085】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring .....	487

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3086】入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall .....	489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3087】入門生物学A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring .....	490
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3088】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall .....	492
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3089】入門生物学A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring .....	493
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3090】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall .....	494
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3091】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring .....	495
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3092】入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall .....	497
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3093】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring .....	498
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3094】入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall .....	500
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3111】入門化学A [向井 知大] 春学期授 業/Spring .....	501
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3112】入門化学B [向井 知大] 秋学期授 業/Fall .....	502
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3113】入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring .....	503
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3114】入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall .....	504
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3115】入門化学A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring .....	505
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3116】入門化学B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall .....	506
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3117】入門化学A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring .....	507
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3118】入門化学B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall .....	508
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3119】入門化学A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring .....	509
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3120】入門化学B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall .....	511
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3121】入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring .....	512
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3122】入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall .....	513
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3125】入門化学A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring .....	514
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3126】入門化学B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall .....	516
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3171】天文学A [福島 登志夫] 春学期授 業/Spring .....	517
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3172】天文学B [福島 登志夫] 秋学期授 業/Fall .....	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3173】天文学A [松本 倫明] 春学期授 業/Spring .....	519
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3174】天文学B [松本 倫明] 秋学期授 業/Fall .....	520
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3175】天文学A [福島 登志夫] 春学期授 業/Spring .....	521

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3176】天文学B〔福島 登志夫〕秋学期授業/Fall	522
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3181】科学史A〔谷本 勉〕春学期授業/Spring	523
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3182】科学史B〔谷本 勉〕秋学期授業/Fall	524
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3183】科学史A〔詫間 直樹〕春学期授業/Spring	525
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3184】科学史B〔詫間 直樹〕秋学期授業/Fall	527
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3185】科学史A〔谷本 勉〕春学期授業/Spring	528
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3186】科学史B〔谷本 勉〕秋学期授業/Fall	529
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3187】科学史A〔谷本 勉〕春学期授業/Spring	530
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3188】科学史B〔谷本 勉〕秋学期授業/Fall	531
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3301】サイエンス・ラボA〔長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美〕春学期授業/Spring	532
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3302】サイエンス・ラボB〔長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美〕秋学期授業/Fall	533
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3303】サイエンス・ラボA〔長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美〕春学期授業/Spring	534
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3304】サイエンス・ラボB〔長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美〕秋学期授業/Fall	535
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3305】サイエンス・ラボA〔田中 浩輔、吉田 智、伊藤 晋平〕春学期授業/Spring	536
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3306】サイエンス・ラボB〔田中 浩輔、鈴木 裕武、伊藤 晋平〕秋学期授業/Fall	537
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3307】サイエンス・ラボA〔田中 浩輔、石川 壮一、伊藤 晋平〕春学期授業/Spring	538
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3308】サイエンス・ラボB〔田中 浩輔、鈴木 裕武、伊藤 晋平〕秋学期授業/Fall	539
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3309】サイエンス・ラボA〔経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一〕春学期授業/Spring	540
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3310】サイエンス・ラボB〔経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一〕秋学期授業/Fall	541
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3311】サイエンス・ラボA〔経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一〕春学期授業/Spring	542
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3312】サイエンス・ラボB〔経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一〕秋学期授業/Fall	543
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3313】サイエンス・ラボA〔島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大〕春学期授業/Spring	544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3314】サイエンス・ラボB〔島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大〕秋学期授業/Fall	545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3315】サイエンス・ラボA〔島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大〕春学期授業/Spring	546
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3316】サイエンス・ラボB〔島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大〕秋学期授業/Fall	547
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3317】サイエンス・ラボA〔小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美〕春学期授業/Spring	548
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3318】サイエンス・ラボB〔小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美〕秋学期授業/Fall	549
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3319】サイエンス・ラボA〔小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美〕春学期授業/Spring	550
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3320】サイエンス・ラボB〔小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美〕秋学期授業/Fall	551
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3321】サイエンス・ラボA〔井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子〕春学期授業/Spring	552
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3322】サイエンス・ラボB〔井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子〕秋学期授業/Fall	553

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3323】サイエンス・ラボA [井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子] 春学期授業/Spring .....	554
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3324】サイエンス・ラボB [井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子] 秋学期授業/Fall .....	555
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3325】サイエンス・ラボA [吉田 智、伊藤 晋平、田中 浩輔] 春学期授業/Spring .....	556
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3326】サイエンス・ラボB [鈴木 裕武、伊藤 晋平、田中 浩輔] 秋学期授業/Fall .....	557
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3327】サイエンス・ラボA [石川 壮一、伊藤 晋平、田中 浩輔] 春学期授業/Spring .....	558
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3328】サイエンス・ラボB [鈴木 裕武、伊藤 晋平、田中 浩輔] 秋学期授業/Fall .....	559
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3329】サイエンス・ラボA [鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎] 春学期授業/Spring .....	560
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3330】サイエンス・ラボB [鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎] 秋学期授業/Fall .....	561
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3331】サイエンス・ラボA [鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎] 春学期授業/Spring .....	562
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3332】サイエンス・ラボB [鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎] 秋学期授業/Fall .....	563
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3333】サイエンス・ラボA [柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之] 春学期授業/Spring .....	564
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3334】サイエンス・ラボB [柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之] 秋学期授業/Fall .....	565
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3335】サイエンス・ラボA [柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之] 春学期授業/Spring .....	566
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3336】サイエンス・ラボB [柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之] 秋学期授業/Fall .....	567
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3337】サイエンス・ラボA [島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵] 春学期授業/Spring .....	568
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3338】サイエンス・ラボB [島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵] 秋学期授業/Fall .....	569
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3339】サイエンス・ラボA [島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵] 春学期授業/Spring .....	570
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3340】サイエンス・ラボB [島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵] 秋学期授業/Fall .....	571
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3341】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring .....	572
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3342】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall .....	573
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3343】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring .....	574
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3344】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall .....	575
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3345】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring .....	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3346】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall .....	577
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3347】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring .....	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3348】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall .....	579
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3349】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring .....	580
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3350】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall .....	581

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3351】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring .....	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3352】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall .....	583
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring .....	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3354】サイエンス・ラボB [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall .....	585
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring .....	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3356】サイエンス・ラボB [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall .....	587
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3357】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring .....	588
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3358】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall .....	589
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3359】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring .....	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3360】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall .....	591
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5001】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring .....	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5002】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 秋学期授業/Fall .....	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5003】スポーツ総合演習 [門口 智 泰] 春学期授業/Spring .....	594
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5004】スポーツ総合演習 [門口 智 泰] 秋学期授業/Fall .....	595
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5005】スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring .....	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5006】スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall .....	597
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5007】スポーツ総合演習 [辻 大士] 春学期授業/Spring .....	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5008】スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall .....	599
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5009】スポーツ総合演習 [門口 智 泰] 春学期授業/Spring .....	600
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5010】スポーツ総合演習 [門口 智 泰] 秋学期授業/Fall .....	601
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5011】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring .....	602
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5012】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 秋学期授業/Fall .....	603
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5013】スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring .....	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5014】スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall .....	605
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5015】スポーツ総合演習 [辻 大士] 春学期授業/Spring .....	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5016】スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall .....	607
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5017】スポーツ総合演習 [林 容市] 春学期授業/Spring .....	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5018】スポーツ総合演習 [林 容市] 秋学期授業/Fall .....	609

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5019】 スポーツ総合演習 [門口 智泰] 春学期授業/Spring	610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5020】 スポーツ総合演習 [門口 智泰] 秋学期授業/Fall	611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5021】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring	612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5022】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5101】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 春学期授業/Spring	614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5102】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5103】 スポーツ総合演習 [久保 賢師] 春学期授業/Spring	616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5104】 スポーツ総合演習 [久保 賢師] 秋学期授業/Fall	617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5105】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 春学期授業/Spring	618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5106】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5107】 スポーツ総合演習 [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5108】 スポーツ総合演習 [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5109】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 春学期授業/Spring	622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5110】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5111】 スポーツ総合演習 [久保 賢師] 春学期授業/Spring	624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5112】 スポーツ総合演習 [久保 賢師] 秋学期授業/Fall	625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5113】 スポーツ総合演習 [位高 駿夫] 春学期授業/Spring	626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5114】 スポーツ総合演習 [位高 駿夫] 秋学期授業/Fall	627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5115】 スポーツ総合演習 [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5116】 スポーツ総合演習 [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5117】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 春学期授業/Spring	630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5118】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5119】 スポーツ総合演習 [飯村 周平] 春学期授業/Spring	632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5120】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5121】 スポーツ総合演習 [位高 駿夫] 春学期授業/Spring	634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5122】 スポーツ総合演習 [位高 駿夫] 秋学期授業/Fall	635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5201】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5202】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 秋学期授業/Fall	637

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5203】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 春学期授業/Spring	639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5204】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 秋学期授業/Fall	640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5205】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 春学期授業/Spring	642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5206】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 秋学期授業/Fall	644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5207】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 春学期授業/Spring	645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5208】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 秋学期授業/Fall	647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5209】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5210】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 秋学期授業/Fall	650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5211】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 春学期授業/Spring	651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5212】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 秋学期授業/Fall	653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5213】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 春学期授業/Spring	655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5214】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 秋学期授業/Fall	657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5215】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 春学期授業/Spring	658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5216】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 秋学期授業/Fall	660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5217】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5218】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 秋学期授業/Fall	663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5219】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 春学期授業/Spring	664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5220】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 秋学期授業/Fall	666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5221】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 春学期授業/Spring	668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5222】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 秋学期授業/Fall	669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5223】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 春学期授業/Spring	671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5224】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 秋学期授業/Fall	672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5301】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 春学期授業/Spring	674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5302】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 秋学期授業/Fall	675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5303】 スポーツ総合演習 [福井 邦宗] 春学期授業/Spring	676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5304】 スポーツ総合演習 [福井 邦宗] 秋学期授業/Fall	677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5305】 スポーツ総合演習 [和田 拓真] 春学期授業/Spring	678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5306】 スポーツ総合演習 [和田 拓真] 秋学期授業/Fall	679

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5307】スポーツ総合演習〔飯村 周平〕春学期授業/Spring	680
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5308】スポーツ総合演習〔飯村 周平〕秋学期授業/Fall	681
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5309】スポーツ総合演習〔千葉 陽子〕春学期授業/Spring	682
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5310】スポーツ総合演習〔千葉 陽子〕秋学期授業/Fall	683
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5311】スポーツ総合演習〔福井 邦宗〕春学期授業/Spring	684
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5312】スポーツ総合演習〔福井 邦宗〕秋学期授業/Fall	685
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5313】スポーツ総合演習〔和田 拓真〕春学期授業/Spring	686
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5314】スポーツ総合演習〔和田 拓真〕秋学期授業/Fall	687
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5315】スポーツ総合演習〔飯村 周平〕春学期授業/Spring	688
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5316】スポーツ総合演習〔飯村 周平〕秋学期授業/Fall	689
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5317】スポーツ総合演習〔千葉 陽子〕春学期授業/Spring	690
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5318】スポーツ総合演習〔千葉 陽子〕秋学期授業/Fall	691
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5319】スポーツ総合演習〔飯村 周平〕春学期授業/Spring	692
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5320】スポーツ総合演習〔飯村 周平〕秋学期授業/Fall	693
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5321】スポーツ総合演習〔笠井 淳〕春学期授業/Spring	694
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5322】スポーツ総合演習〔笠井 淳〕秋学期授業/Fall	695
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5327】スポーツ総合演習〔朝比奈 茂〕春学期授業/Spring	696
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5328】スポーツ総合演習〔竹内 洋輔〕秋学期授業/Fall	697
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5329】スポーツ総合演習〔秋本 成晴〕春学期授業/Spring	699
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5330】スポーツ総合演習〔秋本 成晴〕秋学期授業/Fall	700
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5331】スポーツ総合演習〔竹内 洋輔〕春学期授業/Spring	701
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5332】スポーツ総合演習〔竹内 洋輔〕秋学期授業/Fall	702
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5501】スポーツ総合演習S〔國井 和彦〕春学期授業/Spring	703
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5502】スポーツ総合演習S〔國井 和彦〕秋学期授業/Fall	704
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5603】スポーツ総合演習〔竹内 洋輔〕春学期授業/Spring	705
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5604】スポーツ総合演習〔竹内 洋輔〕秋学期授業/Fall	706
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群〔必修〕英語【R0001】English 1 I〔豊口 真衣子〕春学期授業/Spring	708
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群〔必修〕英語【R0002】English 1 II〔豊口 真衣子〕秋学期授業/Fall	709

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0003】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring .....	710
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0004】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall .....	711
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0005】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring .....	712
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0006】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall .....	713
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0007】 English 1 I [當麻 幸子] 春学期授業/Spring .....	715
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0008】 English 1 II [當麻 幸子] 秋学期授業/Fall .....	716
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0009】 English 1 I [神 康介] 春学期授業/Spring .....	717
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0010】 English 1 II [神 康介] 秋学期授業/Fall .....	718
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0011】 English 1 I [小川 真也] 春学期授業/Spring .....	719
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0012】 English 1 II [小川 真也] 秋学期授業/Fall .....	720
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0013】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring .....	722
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0014】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall .....	723
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0015】 English 1 I [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring .....	725
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0016】 English 1 II [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall .....	726
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0017】 English 1 I [高 友希子] 春学期授業/Spring .....	727
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0018】 English 1 II [高 友希子] 秋学期授業/Fall .....	728
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0019】 English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring .....	729
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0020】 English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall .....	730
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0021】 English 1 I [保坂 嘉恵美] 春学期授業/Spring .....	732
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0022】 English 1 II [保坂 嘉恵美] 秋学期授業/Fall .....	733
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0023】 English 1 I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring .....	735
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0024】 English 1 II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall .....	736
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0025】 English 1 I [余田 亜希] 春学期授業/Spring .....	737
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0026】 English 1 II [余田 亜希] 秋学期授業/Fall .....	738
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0027】 English 1 I [深澤 清] 春学期授業/Spring .....	739
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0028】 English 1 II [深澤 清] 秋学期授業/Fall .....	740
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0029】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring .....	741
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0030】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall .....	743

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0035】English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring .....	744
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0036】English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall .....	746
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0037】English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring .....	747
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0038】English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall .....	749
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0039】English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring .....	750
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0040】English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall .....	751
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0041】English 1 I [神 康介] 春学期授業/Spring .....	752
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0042】English 1 II [神 康介] 秋学期授業/Fall .....	753
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0043】English 1 I [久慈 美貴] 春学期授業/Spring .....	754
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0044】English 1 II [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall .....	755
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0045】English 1 I [小川 真也] 春学期授業/Spring .....	756
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0046】English 1 II [小川 真也] 秋学期授業/Fall .....	758
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0047】English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring .....	759
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0048】English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall .....	761
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0049】English 1 I [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring .....	762
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0050】English 1 II [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall .....	763
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0051】English 1 I [高 友希子] 春学期授業/Spring .....	764
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0052】English 1 II [高 友希子] 秋学期授業/Fall .....	765
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0053】English 1 I [余田 亜希] 春学期授業/Spring .....	766
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0054】English 1 II [余田 亜希] 秋学期授業/Fall .....	767
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0055】English 1 I [保坂 嘉恵美] 春学期授業/Spring .....	768
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0056】English 1 II [保坂 嘉恵美] 秋学期授業/Fall .....	770
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0057】English 1 I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring .....	771
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0058】English 1 II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall .....	772
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0059】English 1 I [深澤 清] 春学期授業/Spring .....	773
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0060】English 1 II [深澤 清] 秋学期授業/Fall .....	775
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0061】English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring .....	776
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0062】English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall .....	777

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0063】English 1 I [當麻 幸子] 春学期授業/Spring .....	779
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0064】English 1 II [當麻 幸子] 秋学期授業/Fall .....	780
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0071】English 1 I [清水 純子] 春学期授業/Spring .....	781
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0072】English 1 II [清水 純子] 秋学期授業/Fall .....	782
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0073】English 1 I [大澤 岳彦] 春学期授業/Spring .....	784
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0074】English 1 II [大澤 岳彦] 秋学期授業/Fall .....	785
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0075】English 1 I [竹内 晶子] 春学期授業/Spring .....	786
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0076】English 1 II [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall .....	787
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0077】English 1 I [北 文美子] 春学期授業/Spring .....	788
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0078】English 1 II [北 文美子] 秋学期授業/Fall .....	789
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0079】English 1 I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring .....	790
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0080】English 1 II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall .....	791
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0081】English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring .....	792
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0082】English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall .....	793
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0083】English 1 I [余田 剛] 春学期授業/Spring .....	794
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0084】English 1 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall .....	795
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0085】English 1 I [川野 芽生] 春学期授業/Spring .....	796
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0086】English 1 II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall .....	797
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0087】English 1 I [本間 章郎] 春学期授業/Spring .....	798
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0088】English 1 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall .....	799
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0089】English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring .....	800
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0090】English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall .....	801
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0091】English 1 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring .....	802
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0092】English 1 II [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall .....	803
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0093】English 1 I [利根川 真紀] 春学期授業/Spring .....	804
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0094】English 1 II [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall .....	805
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0095】English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring .....	806
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0096】English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall .....	807

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0097】 English 1 I [萩原 眞一] 春学期授業/Spring .....	808
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0098】 English 1 II [萩原 眞一] 秋学期授業/Fall .....	809
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0099】 English 1 I [岩坪 友子] 春学期授業/Spring .....	810
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0100】 English 1 II [岩坪 友子] 秋学期授業/Fall .....	812
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0105】 English 1 I [竹内 晶子] 春学期授業/Spring .....	813
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0106】 English 1 II [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall .....	814
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0107】 English 1 I [大澤 岳彦] 春学期授業/Spring .....	815
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0108】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋学期授業/Fall .....	816
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0109】 English 1 I [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring .....	817
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0110】 English 1 II [担当者未定] 秋学期授業/Fall .....	818
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0111】 English 1 I [宇野 毅] 春学期授業/Spring .....	819
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0112】 English 1 II [宇野 毅] 秋学期授業/Fall .....	820
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0113】 English 1 I [余田 剛] 春学期授業/Spring .....	821
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0114】 English 1 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall .....	822
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0115】 English 1 I [萩原 眞一] 春学期授業/Spring .....	823
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0116】 English 1 II [萩原 眞一] 秋学期授業/Fall .....	824
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0117】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring .....	825
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0118】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall .....	826
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0119】 English 1 I [川野 芽生] 春学期授業/Spring .....	827
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0120】 English 1 II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall .....	828
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0121】 English 1 I [本間 章郎] 春学期授業/Spring .....	829
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0122】 English 1 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall .....	830
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0123】 English 1 I [北 文美子] 春学期授業/Spring .....	831
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0124】 English 1 II [北 文美子] 秋学期授業/Fall .....	832
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0125】 English 1 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring .....	833
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0126】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall .....	834
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0127】 English 1 I [利根川 眞紀] 春学期授業/Spring .....	835
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0128】 English 1 II [利根川 眞紀] 秋学期授業/Fall .....	836

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0129】 English 1 I [岩坪 友子] 春 学期授業/Spring .....	837
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0130】 English 1 II [岩坪 友子] 秋 学期授業/Fall .....	838
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0131】 English 1 I [清水 純子] 春 学期授業/Spring .....	840
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0132】 English 1 II [清水 純子] 秋 学期授業/Fall .....	841
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0133】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring .....	842
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0134】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall .....	843
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0135】 English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring .....	844
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0136】 English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall .....	845
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0141】 English 1 I [岩坪 友子] 春 学期授業/Spring .....	846
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0142】 English 1 II [岩坪 友子] 秋 学期授業/Fall .....	848
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0143】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring .....	849
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0144】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall .....	851
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0145】 English 1 I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring .....	852
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0146】 English 1 II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall .....	853
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0147】 English 1 I [高橋 優身] 春 学期授業/Spring .....	854
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0148】 English 1 II [高橋 優身] 秋 学期授業/Fall .....	855
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0149】 English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring .....	856
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0150】 English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall .....	857
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0151】 English 1 I [田中 邦佳] 春 学期授業/Spring .....	859
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0152】 English 1 II [田中 邦佳] 秋 学期授業/Fall .....	860
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0153】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring .....	861
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0154】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall .....	862
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0155】 English 1 I [田口 清一] 春 学期授業/Spring .....	863
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0156】 English 1 II [田口 清一] 秋 学期授業/Fall .....	864
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0157】 English 1 I [岩下 弘史] 春 学期授業/Spring .....	865
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0158】 English 1 II [岩下 弘史] 秋 学期授業/Fall .....	866
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0159】 English 1 I [吉田 和久] 春 学期授業/Spring .....	867
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0160】 English 1 II [吉田 和久] 秋 学期授業/Fall .....	868

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0161】 English 1 I [北 文美子] 春 学期授業/Spring .....	869
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0162】 English 1 II [北 文美子] 秋 学期授業/Fall .....	870
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0163】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring .....	871
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0164】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall .....	872
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0165】 English 1 I [藤井 道行] 春 学期授業/Spring .....	873
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0166】 English 1 II [藤井 道行] 秋 学期授業/Fall .....	875
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0167】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring .....	876
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0168】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall .....	877
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0169】 English 1 I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring .....	878
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0170】 English 1 II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall .....	880
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0171】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春 学期授業/Spring .....	881
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0172】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋 学期授業/Fall .....	882
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0173】 English 1 I [滝沢 玄] 春学 期授業/Spring .....	883
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0174】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学 期授業/Fall .....	884
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0181】 English 1 I [菊池 かおり] 春学期授業/Spring .....	885
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0182】 English 1 II [菊池 かおり] 秋学期授業/Fall .....	886
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0183】 English 1 I [滝沢 玄] 春学 期授業/Spring .....	887
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0184】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学 期授業/Fall .....	888
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0185】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring .....	889
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0186】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall .....	891
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0187】 English 1 I [田口 清一] 春 学期授業/Spring .....	892
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0188】 English 1 II [田口 清一] 秋 学期授業/Fall .....	893
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0189】 English 1 I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring .....	894
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0190】 English 1 II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall .....	895
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0191】 English 1 I [李 太喜] 春学 期授業/Spring .....	896
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0192】 English 1 II [李 太喜] 秋学 期授業/Fall .....	897
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0193】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring .....	898
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0194】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall .....	899

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0195】 English 1 I [岩下 弘史] 春 学期授業/Spring .....	900
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0196】 English 1 II [岩下 弘史] 秋 学期授業/Fall .....	901
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0197】 English 1 I [須藤 祐二] 春 学期授業/Spring .....	902
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0198】 English 1 II [須藤 祐二] 秋 学期授業/Fall .....	903
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0199】 English 1 I [吉田 和久] 春 学期授業/Spring .....	904
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0200】 English 1 II [吉田 和久] 秋 学期授業/Fall .....	905
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0201】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring .....	906
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0202】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall .....	908
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0203】 English 1 I [北 文美子] 春 学期授業/Spring .....	909
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0204】 English 1 II [北 文美子] 秋 学期授業/Fall .....	910
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0205】 English 1 I [田中 邦佳] 春 学期授業/Spring .....	911
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0206】 English 1 II [田中 邦佳] 秋 学期授業/Fall .....	912
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0207】 English 1 I [高橋 優身] 春 学期授業/Spring .....	913
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0208】 English 1 II [高橋 優身] 秋 学期授業/Fall .....	914
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0209】 English 1 I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring .....	915
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0210】 English 1 II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall .....	916
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0211】 English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring .....	918
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0212】 English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall .....	919
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0213】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring .....	921
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0214】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall .....	922
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0215】 English 1 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring .....	923
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0216】 English 1 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall .....	924
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0217】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring .....	926
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0218】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall .....	927
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0219】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring .....	928
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0220】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall .....	929
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0221】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring .....	930
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0222】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall .....	931

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0223】English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	932
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0224】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	933
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0225】English 2 I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	934
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0226】English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	935
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0227】English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	936
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0228】English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	937
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0229】English 2 I [ジェイソン・ポー ル・スミス] 春学期授業/Spring	938
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0230】English 2 II [ジェイソン・ポー ル・スミス] 秋学期授業/Fall	939
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0231】English 2 I [ナゲー ジャミ リア] 春学期授業/Spring	940
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0232】English 2 II [ナゲー ジャミ リア] 秋学期授業/Fall	941
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0233】English 2 I [ヴァイヒャート ロビン フランク] 春学期授業/Spring	942
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0234】English 2 II [ヴァイヒャート ロビン フランク] 秋学期授業/Fall	943
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0235】English 2 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	944
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0236】English 2 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	945
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0237】English 2 I [マイケル マー フィー] 春学期授業/Spring	946
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0238】English 2 II [マイケル マー フィー] 秋学期授業/Fall	947
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0239】English 2 I [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	948
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0240】English 2 II [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	950
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0241】English 2 I [アンドリュウ・ チェン] 春学期授業/Spring	951
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0242】English 2 II [アンドリュウ・ チェン] 秋学期授業/Fall	953
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0243】English 2 I [リチャード・バ ロース] 春学期授業/Spring	954
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0244】English 2 II [リチャード・バ ロース] 秋学期授業/Fall	955
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0245】English 2 I [Patrick M McEvelly] 春学期授業/Spring	957
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0246】English 2 II [Patrick M McEvelly] 秋学期授業/Fall	958
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0247】English 2 I [ステイーブン モリス] 春学期授業/Spring	959
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0248】English 2 II [ステイーブン モリス] 秋学期授業/Fall	960
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0249】English 2 I [Genc Burcu] 春学期授業/Spring	961
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0250】English 2 II [Genc Burcu] 秋学期授業/Fall	962

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0255】 English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring .....	963
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0256】 English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall .....	964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0257】 English 2 I [Genc Burcu] 春学期授業/Spring .....	965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0258】 English 2 II [Genc Burcu] 秋学期授業/Fall .....	966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0259】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring .....	967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0260】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall .....	968
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0261】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring .....	969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0262】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall .....	970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0263】 English 2 I [ナダー ジャミ リア] 春学期授業/Spring .....	971
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0264】 English 2 II [ナダー ジャミ リア] 秋学期授業/Fall .....	972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0265】 English 2 I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring .....	973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0266】 English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall .....	974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0267】 English 2 I [ヴァイヒャート ロビン フランク] 春学期授業/Spring .....	975
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0268】 English 2 II [ヴァイヒャート ロビン フランク] 秋学期授業/Fall .....	976
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0269】 English 2 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring .....	977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0270】 English 2 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall .....	978
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0271】 English 2 I [マイケル マー フィー] 春学期授業/Spring .....	979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0272】 English 2 II [マイケル マー フィー] 秋学期授業/Fall .....	980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0273】 English 2 I [ロジャー エド ウイン パティモア] 春学期授業/Spring .....	981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0274】 English 2 II [ロジャー エド ウイン パティモア] 秋学期授業/Fall .....	982
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0275】 English 2 I [アンドリュー・ チェン] 春学期授業/Spring .....	984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0276】 English 2 II [アンドリュー・ チェン] 秋学期授業/Fall .....	985
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0277】 English 2 I [ステイーブン モリス] 春学期授業/Spring .....	987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0278】 English 2 II [ステイーブン モリス] 秋学期授業/Fall .....	988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0279】 English 2 I [リチャード・バ ロース] 春学期授業/Spring .....	989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0280】 English 2 II [リチャード・バ ロース] 秋学期授業/Fall .....	990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0281】 English 2 I [ジェイソン・ポー ル・スミス] 春学期授業/Spring .....	991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0282】 English 2 II [ジェイソン・ポー ル・スミス] 秋学期授業/Fall .....	992

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0283】 English 2 I [Patrick M McEvilly] 春学期授業/Spring	993
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0284】 English 2 II [Patrick M McEvilly] 秋学期授業/Fall	994
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0291】 English 2 I [石原 紀子] 春学期授業/Spring	995
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0292】 English 2 II [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	996
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0293】 English 2 I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	997
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0294】 English 2 II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	999
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0295】 English 2 I [クレッグ ジョ ンストン] 春学期授業/Spring	1000
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0296】 English 2 II [クレッグ ジョ ンストン] 秋学期授業/Fall	1001
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0297】 English 2 I [クリストファー マシオ] 春学期授業/Spring	1002
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0298】 English 2 II [クリストファー マシオ] 秋学期授業/Fall	1003
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0299】 English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	1004
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0300】 English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	1006
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0301】 English 2 I [宮本 裕子] 春 学期授業/Spring	1008
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0302】 English 2 II [宮本 裕子] 秋 学期授業/Fall	1009
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0303】 English 2 I [クレッグ ジョ ンストン] 春学期授業/Spring	1010
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0304】 English 2 II [クレッグ ジョ ンストン] 秋学期授業/Fall	1011
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0305】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	1012
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0306】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	1013
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0307】 English 2 I [リチャード シーハン] 春学期授業/Spring	1014
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0308】 English 2 II [リチャード シーハン] 秋学期授業/Fall	1015
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0309】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	1016
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0310】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	1018
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0311】 English 2 I [ロバート・D・ ヒントン] 春学期授業/Spring	1019
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0312】 English 2 II [ロバート・D・ ヒントン] 秋学期授業/Fall	1020
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0313】 English 2 I [ロジャー エド ウィン パティモア] 春学期授業/Spring	1021
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0314】 English 2 II [ロジャー エド ウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	1022
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0315】 English 2 I [山崎 暁子] 春 学期授業/Spring	1024
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0316】 English 2 II [山崎 暁子] 秋 学期授業/Fall	1025

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0317】 English 2 I [クリストファー マシオ] 春学期授業/Spring	1026
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0318】 English 2 II [クリストファー マシオ] 秋学期授業/Fall	1027
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0319】 English 2 I [フィル ケニー] 春学期授業/Spring	1028
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0320】 English 2 II [フィル ケニー] 秋学期授業/Fall	1029
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0325】 English 2 I [ロジャー エド ウィン パティモア] 春学期授業/Spring	1030
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0326】 English 2 II [ロジャー エド ウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	1031
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0327】 English 2 I [フィル ケニー] 春学期授業/Spring	1033
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0328】 English 2 II [フィル ケニー] 秋学期授業/Fall	1034
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0329】 English 2 I [クリストファー マシオ] 春学期授業/Spring	1035
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0330】 English 2 II [クリストファー マシオ] 秋学期授業/Fall	1036
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0331】 English 2 I [榎原 益子] 春学期授業/Spring	1037
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0332】 English 2 II [榎原 益子] 秋学期授業/Fall	1039
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0333】 English 2 I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	1041
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0334】 English 2 II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	1042
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0335】 English 2 I [クリストファー マシオ] 春学期授業/Spring	1044
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0336】 English 2 II [クリストファー マシオ] 秋学期授業/Fall	1045
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0337】 English 2 I [宮本 裕子] 春学期授業/Spring	1046
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0338】 English 2 II [宮本 裕子] 秋学期授業/Fall	1047
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0339】 English 2 I [クレグ ジョ ンストン] 春学期授業/Spring	1048
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0340】 English 2 II [クレグ ジョ ンストン] 秋学期授業/Fall	1049
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0341】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	1050
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0342】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	1051
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0343】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	1052
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0344】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	1053
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0345】 English 2 I [ロバート・D・ ヒントン] 春学期授業/Spring	1054
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0346】 English 2 II [ロバート・D・ ヒントン] 秋学期授業/Fall	1055
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0347】 English 2 I [リチャード シーハン] 春学期授業/Spring	1056
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0348】 English 2 II [リチャード シーハン] 秋学期授業/Fall	1057

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0349】 English 2 I [山崎 暁子] 春 学期授業/Spring .....	1058
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0350】 English 2 II [山崎 暁子] 秋 学期授業/Fall .....	1059
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0351】 English 2 I [パワー トーマ ス G] 春学期授業/Spring .....	1060
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0352】 English 2 II [ドナルド ホワ イト] 秋学期授業/Fall .....	1061
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0353】 English 2 I [石原 紀子] 春 学期授業/Spring .....	1062
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0354】 English 2 II [石原 紀子] 秋 学期授業/Fall .....	1063
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0355】 English 2 I [クレッグ ジョ ンストーン] 春学期授業/Spring .....	1064
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0356】 English 2 II [クレッグ ジョ ンストーン] 秋学期授業/Fall .....	1065
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0361】 English 2 I [アネット・グ ルーバー] 春学期授業/Spring .....	1066
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0362】 English 2 II [アネット・グ ルーバー] 秋学期授業/Fall .....	1067
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0363】 English 2 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring .....	1068
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0364】 English 2 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall .....	1070
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0365】 English 2 I [門馬 義幸] 春 学期授業/Spring .....	1071
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0366】 English 2 II [門馬 義幸] 秋 学期授業/Fall .....	1072
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0367】 English 2 I [パワー トーマ ス G] 春学期授業/Spring .....	1073
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0368】 English 2 II [パワー トーマ ス G] 秋学期授業/Fall .....	1074
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0369】 English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春 学期授業/Spring .....	1075
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0370】 English 2 II [鹿子嶋 由佳] 秋 学期授業/Fall .....	1076
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0371】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring .....	1077
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0372】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall .....	1078
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0373】 English 2 I [森永 豊] 春学 期授業/Spring .....	1079
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0374】 English 2 II [森永 豊] 秋学 期授業/Fall .....	1080
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0375】 English 2 I [ウォルター カ ズマー] 春学期授業/Spring .....	1081
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0376】 English 2 II [ウォルター カ ズマー] 秋学期授業/Fall .....	1082
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0377】 English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring .....	1083
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0378】 English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall .....	1085
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0379】 English 2 I [ヴァイヒャート ロビン フランク] 春学期授業/Spring .....	1086
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0380】 English 2 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall .....	1087

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0381】English 2 I [ドノヴァン マイケル] 春学期授業/Spring	1089
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0382】English 2 II [ドノヴァン マイケル] 秋学期授業/Fall	1090
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0383】English 2 I [リチャード・パロース] 春学期授業/Spring	1091
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0384】English 2 II [リチャード・パロース] 秋学期授業/Fall	1092
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0385】English 2 I [フィル ケニー] 春学期授業/Spring	1093
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0386】English 2 II [フィル ケニー] 秋学期授業/Fall	1094
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0387】English 2 I [クレグ ジョINSTON] 春学期授業/Spring	1095
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0388】English 2 II [クレグ ジョINSTON] 秋学期授業/Fall	1096
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0389】English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	1097
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0390】English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	1098
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0391】English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1099
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0392】English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1100
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0393】English 2 I [ステイブン モリス] 春学期授業/Spring	1101
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0394】English 2 II [ステイブン モリス] 秋学期授業/Fall	1102
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0401】English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春学期授業/Spring	1103
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0402】English 2 II [鹿子嶋 由佳] 秋学期授業/Fall	1104
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0403】English 2 I [アネット・グルーバー] 春学期授業/Spring	1105
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0404】English 2 II [アネット・グルーバー] 秋学期授業/Fall	1106
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0405】English 2 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	1107
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0406】English 2 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	1109
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0407】English 2 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	1110
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0408】English 2 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	1111
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0409】English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1112
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0410】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1113
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0411】English 2 I [門馬 義幸] 春学期授業/Spring	1114
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0412】English 2 II [門馬 義幸] 秋学期授業/Fall	1115
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0413】English 2 I [森永 豊] 春学期授業/Spring	1116
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0414】English 2 II [森永 豊] 秋学期授業/Fall	1117

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0415】English 2 I [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	1118
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0416】English 2 II [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall	1119
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0417】English 2 I [榊原 益子] 春学期授業/Spring	1120
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0418】English 2 II [榊原 益子] 秋学期授業/Fall	1121
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0419】English 2 I [ヴァイヒャート ロビン フランク] 春学期授業/Spring	1123
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0420】English 2 II [ヴァイヒャート ロビン フランク] 秋学期授業/Fall	1124
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0421】English 2 I [リチャード・バロース] 春学期授業/Spring	1125
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0422】English 2 II [リチャード・バロース] 秋学期授業/Fall	1126
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0423】English 2 I [ドノヴァン マイケル] 春学期授業/Spring	1127
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0424】English 2 II [ドノヴァン マイケル] 秋学期授業/Fall	1128
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0425】English 2 I [斎藤 昇] 春学期授業/Spring	1129
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0426】English 2 II [斎藤 昇] 秋学期授業/Fall	1130
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0427】English 2 I [フィル ケニー] 春学期授業/Spring	1131
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0428】English 2 II [フィル ケニー] 秋学期授業/Fall	1132
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0429】English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	1133
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0430】English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	1134
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0431】English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1135
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0432】English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1136
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0433】English 2 I [Patrick M McEvilly] 春学期授業/Spring	1137
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0434】English 2 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	1138
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0435】English 2 I [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring	1140
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0436】English 2 II [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall	1141
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0437】English 2 I [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring	1142
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0438】English 2 II [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall	1143
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0439】English 2 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	1144
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0440】English 2 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	1145
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0501】英語1 [小川 真也] 春学期授業/Spring	1146
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0502】英語3 [小川 真也] 秋学期授業/Fall	1147

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0503】英語1 [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	1149
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0504】英語3 [菊池 かおり] 秋学期授業/Fall	1150
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0505】英語1 [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	1151
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0506】英語3 [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	1152
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0507】英語1 [永井 大輔] 春学期授業/Spring	1153
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0508】英語3 [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	1154
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0509】英語1 [粟飯原 文子] 春学期授業/Spring	1156
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0510】英語3 [粟飯原 文子] 秋学期授業/Fall	1157
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0511】英語1 [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	1158
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0512】英語3 [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	1159
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0513】英語1 [小川 真也] 春学期授業/Spring	1160
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0514】英語3 [小川 真也] 秋学期授業/Fall	1161
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0515】英語1 [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	1163
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0516】英語3 [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	1164
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0517】英語1 [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	1165
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0518】英語3 [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	1166
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0519】英語1 [永井 大輔] 春学期授業/Spring	1167
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0520】英語3 [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	1168
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0521】英語1 [粟飯原 文子] 春学期授業/Spring	1170
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0522】英語3 [粟飯原 文子] 秋学期授業/Fall	1171
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0523】英語1 [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	1172
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0524】英語3 [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	1173
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0531】英語2 [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	1174
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0532】英語4 [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	1175
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0533】英語2 [ジェイソン・ポール・スミス] 春学期授業/Spring	1176
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0534】英語4 [ジェイソン・ポール・スミス] 秋学期授業/Fall	1177
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0535】英語2 [ジョナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	1178
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0536】英語4 [ジョナサン・エーブル] 秋学期授業/Fall	1179

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0537】英語2 [栩木 玲子] 春学期授業/Spring	1180
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0538】英語4 [栩木 玲子] 秋学期授業/Fall	1181
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0539】英語2 [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1182
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0540】英語4 [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1183
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0541】英語2 [ヴァイヒャート ロビン フランク] 春学期授業/Spring	1185
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0542】英語4 [ヴァイヒャート ロビン フランク] 秋学期授業/Fall	1186
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0543】英語2 [ステイーブン モリス] 春学期授業/Spring	1187
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0544】英語4 [ステイーブン モリス] 秋学期授業/Fall	1188
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0545】英語2 [ジェイソン・ポール・スミス] 春学期授業/Spring	1189
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0546】英語4 [ジェイソン・ポール・スミス] 秋学期授業/Fall	1190
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0547】英語2 [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1191
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0548】英語4 [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1192
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0549】英語2 [ヴァイヒャート ロビン フランク] 春学期授業/Spring	1194
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0550】英語4 [ヴァイヒャート ロビン フランク] 秋学期授業/Fall	1195
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0551】英語2 [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	1196
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0552】英語4 [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	1197
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0553】英語2 [栩木 玲子] 春学期授業/Spring	1198
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0554】英語4 [栩木 玲子] 秋学期授業/Fall	1199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0561】英語5 [トビー トラブ] 春学期授業/Spring	1200
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0562】英語6 [トビー トラブ] 秋学期授業/Fall	1202
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0563】英語5 [ラスカイル・ハウザー] 春学期授業/Spring	1204
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0564】英語6 [ラスカイル・ハウザー] 秋学期授業/Fall	1205
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0565】英語5 [フィル ケニー] 春学期授業/Spring	1206
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0566】英語6 [フィル ケニー] 秋学期授業/Fall	1207
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0567】英語5 [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	1208
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0568】英語6 [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall	1209
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0569】英語5 [マーク・フィールド] 春学期授業/Spring	1210
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0570】英語6 [マーク・フィールド] 秋学期授業/Fall	1211

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0571】英語5 [ラスカイル・ハウザー] 春学期授業/Spring .....	1212
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0572】英語6 [ラスカイル・ハウザー] 秋学期授業/Fall .....	1213
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0573】英語5 [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring .....	1214
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0574】英語6 [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall .....	1215
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0601】English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring .....	1216
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0602】English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall .....	1217
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0603】English 1-I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring .....	1218
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0604】English 1-II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall .....	1219
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0605】English 1-I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring .....	1220
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0606】English 1-II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall .....	1221
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0607】English 1-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring .....	1222
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0608】English 1-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall .....	1223
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0609】English 1-I [根本 怜奈] 春 学期授業/Spring .....	1225
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0610】English 1-II [根本 怜奈] 秋 学期授業/Fall .....	1226
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0611】English 1-I [舟橋 美香] 春 学期授業/Spring .....	1227
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0612】English 1-II [舟橋 美香] 秋 学期授業/Fall .....	1228
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0613】English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring .....	1229
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0614】English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall .....	1230
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0615】English 1-I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring .....	1231
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0616】English 1-II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall .....	1232
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0617】English 1-I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring .....	1233
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0618】English 1-II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall .....	1234
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0619】English 1-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring .....	1235
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0620】English 1-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall .....	1236
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0621】English 1-I [根本 怜奈] 春 学期授業/Spring .....	1238
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0622】English 1-II [根本 怜奈] 秋 学期授業/Fall .....	1239
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0623】English 1-I [舟橋 美香] 春 学期授業/Spring .....	1240
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0624】English 1-II [舟橋 美香] 秋 学期授業/Fall .....	1241

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0625】English 1-I [青山 恵子] 春 学期授業/Spring .....	1242
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0626】English 1-II [青山 恵子] 秋 学期授業/Fall .....	1243
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0627】English 1-I [青山 恵子] 春 学期授業/Spring .....	1244
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0628】English 1-II [青山 恵子] 秋 学期授業/Fall .....	1245
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0631】English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring .....	1246
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0632】English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall .....	1247
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0633】English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring .....	1249
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0634】English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall .....	1250
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0635】English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring .....	1251
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0636】English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall .....	1252
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0637】English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring .....	1253
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0638】English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall .....	1254
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0639】English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring .....	1255
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0640】English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall .....	1256
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0641】English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring .....	1257
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0642】English 2-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall .....	1258
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0643】English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring .....	1260
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0644】English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall .....	1261
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0645】English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring .....	1263
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0646】English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall .....	1264
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0647】English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring .....	1265
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0648】English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall .....	1266
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0649】English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring .....	1267
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0650】English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall .....	1268
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0651】English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring .....	1269
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0652】English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall .....	1270
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0653】English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring .....	1271
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0654】English 2-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall .....	1272

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0655】 English 2-I [ストックウェル・エスター] 春学期授業/Spring	1274
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0656】 English 2-II [ストックウェル・エスター] 秋学期授業/Fall	1275
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0657】 English 2-I [ストックウェル・エスター] 春学期授業/Spring	1276
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0658】 English 2-II [ストックウェル・エスター] 秋学期授業/Fall	1277
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0701】 英語1-I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1278
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0702】 英語1-II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1279
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0703】 英語1-I [高橋 優身] 春学期授業/Spring	1280
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0704】 英語1-II [高橋 優身] 秋学期授業/Fall	1281
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0705】 英語1-I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	1282
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0706】 英語1-II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall	1283
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0707】 英語1-I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	1284
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0708】 英語1-II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	1285
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0709】 英語1-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1286
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0710】 英語1-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1287
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0711】 英語1-I [鈴木 博雄] 春学期授業/Spring	1288
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0712】 英語1-II [鈴木 博雄] 秋学期授業/Fall	1289
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0713】 英語1-I [高橋 優身] 春学期授業/Spring	1290
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0714】 英語1-II [高橋 優身] 秋学期授業/Fall	1291
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0715】 英語1-I [亀岡 浩一] 春学期授業/Spring	1292
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0716】 英語1-II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1293
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0717】 英語1-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1294
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0718】 英語1-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1294
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0719】 英語1-I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1295
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0720】 英語1-II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1296
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0721】 英語1-I [宮本 和恵] 春学期授業/Spring	1297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0722】 英語1-II [宮本 和恵] 秋学期授業/Fall	1297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0723】 英語1-I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1298
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0724】 英語1-II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1299

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0725】英語1-I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	1300
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0726】英語1-II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	1301
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0731】英語2-I [高橋 優身] 春学期授業/Spring	1302
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0732】英語2-II [高橋 優身] 秋学期授業/Fall	1303
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0733】英語2-I [亀岡 浩一] 春学期授業/Spring	1304
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0734】英語2-II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1305
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0735】英語2-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1306
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0736】英語2-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1307
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0737】英語2-I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1307
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0738】英語2-II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1308
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0739】英語2-I [宮本 和恵] 春学期授業/Spring	1309
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0740】英語2-II [宮本 和恵] 秋学期授業/Fall	1310
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0741】英語2-I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1311
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0742】英語2-II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1312
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0743】英語2-I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1313
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0744】英語2-II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1314
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0745】英語2-I [高橋 優身] 春学期授業/Spring	1315
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0746】英語2-II [高橋 優身] 秋学期授業/Fall	1316
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0747】英語2-I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	1317
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0748】英語2-II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	1318
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0749】英語2-I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	1319
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0750】英語2-II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	1320
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0751】英語2-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1321
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0752】英語2-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1322
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0753】英語2-I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	1323
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0754】英語2-II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	1324
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0755】英語2-I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	1325
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0756】英語2-II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall	1326

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0901】 Academic English I [ナダージャマリア] 春学期授業/Spring	1327
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0902】 Academic English II [ナダージャマリア] 秋学期授業/Fall	1328
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0903】 Academic English I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1330
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0904】 Academic English II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1331
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0905】 Academic English I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	1333
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0906】 Academic English II [コートランド D スミス] 秋学期授業/Fall	1334
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0907】 Academic English I [ナダージャマリア] 春学期授業/Spring	1335
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0908】 Academic English II [ナダージャマリア] 秋学期授業/Fall	1336
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0909】 Academic English I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1338
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0910】 Academic English II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1339
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0911】 Academic English I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	1341
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0912】 Academic English II [コートランド D スミス] 秋学期授業/Fall	1342
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3501】 日本語1 I [板井 美佐] 春学期授業/Spring	1343
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3502】 日本語1 II [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	1344
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3505】 日本語1 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1345
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3506】 日本語1 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1346
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3511】 日本語2 I [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	1347
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3512】 日本語2 II [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	1348
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3513】 日本語2 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1349
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3514】 日本語2 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1350
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3515】 日本語2 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1351
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3516】 日本語2 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1352
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4001】 ドイツ語1 I [丸山 達也] 春学期授業/Spring	1353
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4002】 ドイツ語1 II [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	1354
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4003】 ドイツ語1 I [天沼 春樹] 春学期授業/Spring	1355
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4004】 ドイツ語1 II [天沼 春樹] 秋学期授業/Fall	1356
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4005】 ドイツ語1 I [高木 葉子] 春学期授業/Spring	1357
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4006】 ドイツ語1 II [高木 葉子] 秋学期授業/Fall	1358

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4007】 ドイツ語 1 I [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring .....	1359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4008】 ドイツ語 1 II [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall .....	1360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4011】 ドイツ語 1 I [渡辺 国彦] 春学期授業/Spring .....	1361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4012】 ドイツ語 1 II [渡辺 国彦] 秋学期授業/Fall .....	1362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4017】 ドイツ語 1 I [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring .....	1362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4018】 ドイツ語 1 II [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall .....	1363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4019】 ドイツ語 1 I [外山 知子] 春学期授業/Spring .....	1364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4020】 ドイツ語 1 II [外山 知子] 秋学期授業/Fall .....	1365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4023】 ドイツ語 1 I [高橋 泰雄] 春学期授業/Spring .....	1366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4024】 ドイツ語 1 II [高橋 泰雄] 秋学期授業/Fall .....	1367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4025】 ドイツ語 1 I [浦田 智] 春学期授業/Spring .....	1368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4026】 ドイツ語 1 II [浦田 智] 秋学期授業/Fall .....	1369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4027】 ドイツ語 1 I [高橋 泰雄] 春学期授業/Spring .....	1370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4028】 ドイツ語 1 II [高橋 泰雄] 秋学期授業/Fall .....	1371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4029】 ドイツ語 1 I [佐藤 まり 子] 春学期授業/Spring .....	1372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4030】 ドイツ語 1 II [佐藤 まり 子] 秋学期授業/Fall .....	1373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4031】 ドイツ語 1 I [畠山 勝彦] 春学期授業/Spring .....	1374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4032】 ドイツ語 1 II [畠山 勝彦] 秋学期授業/Fall .....	1375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4051】 ドイツ語 2 I [佐藤 まり 子] 春学期授業/Spring .....	1376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4052】 ドイツ語 2 II [佐藤 まり 子] 秋学期授業/Fall .....	1377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4053】 ドイツ語 2 I [渡辺 国彦] 春学期授業/Spring .....	1378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4054】 ドイツ語 2 II [渡辺 国彦] 秋学期授業/Fall .....	1379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4055】 ドイツ語 2 I [長澤 優子] 春学期授業/Spring .....	1380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4056】 ドイツ語 2 II [長澤 優子] 秋学期授業/Fall .....	1381
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4057】 ドイツ語 2 I [高木 葉子] 春学期授業/Spring .....	1382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4058】 ドイツ語 2 II [高木 葉子] 秋学期授業/Fall .....	1383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4061】 ドイツ語 2 I [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring .....	1384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4062】 ドイツ語 2 II [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall .....	1385

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4065】 ドイツ語2 I [D. ハイデ ンライヒ] 春学期授業/Spring	1386
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4066】 ドイツ語2 II [D. ハイデ ンライヒ] 秋学期授業/Fall	1387
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4067】 ドイツ語2 I [浦田 智] 春学期授業/Spring	1388
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4068】 ドイツ語2 II [浦田 智] 秋学期授業/Fall	1389
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4071】 ドイツ語2 I [岡本 雅克] 春学期授業/Spring	1390
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4072】 ドイツ語2 II [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall	1391
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4073】 ドイツ語2 I [オストヴァ ルト・イエンス] 春学期授業/Spring	1392
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4074】 ドイツ語2 II [オストヴァ ルト・イエンス] 秋学期授業/Fall	1393
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4075】 ドイツ語2 I [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring	1394
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4076】 ドイツ語2 II [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall	1395
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4077】 ドイツ語2 I [小野間 亮 子] 春学期授業/Spring	1396
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4078】 ドイツ語2 II [小野間 亮 子] 秋学期授業/Fall	1397
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4079】 ドイツ語2 I [天沼 春樹] 春学期授業/Spring	1398
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4080】 ドイツ語2 II [天沼 春樹] 秋学期授業/Fall	1400
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4101】 ドイツ語(1) I [浦田 智] 春学期授業/Spring	1401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4102】 ドイツ語(1) II [浦田 智] 秋学期授業/Fall	1401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4111】 ドイツ語(2) I [岡本 雅 克] 春学期授業/Spring	1402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4112】 ドイツ語(2) II [岡本 雅 克] 秋学期授業/Fall	1403
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4121】 ドイツ語1 [林 志津江] 春学期授業/Spring	1404
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4122】 ドイツ語3 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	1405
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4123】 ドイツ語2 [アネット・グ ルーバー] 春学期授業/Spring	1407
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4124】 ドイツ語4 [アネット・グ ルーバー] 秋学期授業/Fall	1408
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4125】 ドイツ語5 [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring	1409
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4126】 ドイツ語6 [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall	1410
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4127】 ドイツ語1 [丸山 達也] 春学期授業/Spring	1411
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4128】 ドイツ語3 [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	1412
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4129】 ドイツ語2 [ウテ・シュミッ ト] 春学期授業/Spring	1413
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4130】 ドイツ語4 [ウテ・シュミッ ト] 秋学期授業/Fall	1414

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4141】 ドイツ語 1-I [上田 知夫] 春学期授業/Spring .....	1415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4142】 ドイツ語 1-II [上田 知夫] 秋学期授業/Fall .....	1416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4143】 ドイツ語 1-I [辻 英史] 春学期授業/Spring .....	1417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4144】 ドイツ語 1-II [辻 英史] 秋学期授業/Fall .....	1418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4145】 ドイツ語 1-I [畠山 勝彦] 春学期授業/Spring .....	1419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4146】 ドイツ語 1-II [畠山 勝彦] 秋学期授業/Fall .....	1420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4147】 ドイツ語 1-I [畠山 勝彦] 春学期授業/Spring .....	1421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4148】 ドイツ語 1-II [畠山 勝彦] 秋学期授業/Fall .....	1422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4151】 ドイツ語 2-I [長澤 優子] 春学期授業/Spring .....	1423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4152】 ドイツ語 2-II [長澤 優子] 秋学期授業/Fall .....	1424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4153】 ドイツ語 2-I [伊東 直美] 春学期授業/Spring .....	1425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4154】 ドイツ語 2-II [伊東 直美] 秋学期授業/Fall .....	1426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4155】 ドイツ語 2-I [岡本 雅克] 春学期授業/Spring .....	1427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4156】 ドイツ語 2-II [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall .....	1428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4157】 ドイツ語 2-I [丸山 達也] 春学期授業/Spring .....	1429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4158】 ドイツ語 2-II [丸山 達也] 秋学期授業/Fall .....	1430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5001】 フランス語 1 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring .....	1431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5002】 フランス語 1 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall .....	1432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5003】 フランス語 1 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring .....	1433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5004】 フランス語 1 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall .....	1434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5005】 フランス語 1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring .....	1434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5006】 フランス語 1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall .....	1435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5007】 フランス語 1 I [西川 純子] 春学期授業/Spring .....	1436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5008】 フランス語 1 II [西川 純子] 秋学期授業/Fall .....	1437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5009】 フランス語 1 I [寺家村 博] 春学期授業/Spring .....	1438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5010】 フランス語 1 II [寺家村 博] 秋学期授業/Fall .....	1439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5011】 フランス語 1 I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring .....	1440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5012】 フランス語 1 II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall .....	1441

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5013】 フランス語1Ⅰ [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1442
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5014】 フランス語1Ⅱ [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1443
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5015】 フランス語1Ⅰ [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1444
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5016】 フランス語1Ⅱ [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1445
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5019】 フランス語1Ⅰ [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1446
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5020】 フランス語1Ⅱ [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1447
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5021】 フランス語1Ⅰ [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1447
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5022】 フランス語1Ⅱ [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1448
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5041】 フランス語2Ⅰ [野村 訓子] 春学期授業/Spring	1449
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5042】 フランス語2Ⅱ [野村 訓子] 秋学期授業/Fall	1450
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5043】 フランス語2Ⅰ [ヴァリエ ンヌ コリヌ] 春学期授業/Spring	1451
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5044】 フランス語2Ⅱ [ヴァリエ ンヌ コリヌ] 秋学期授業/Fall	1452
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5045】 フランス語2Ⅰ [村松 マリ エマニュエル] 春学期授業/Spring	1453
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5046】 フランス語2Ⅱ [村松 マリ エマニュエル] 秋学期授業/Fall	1454
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5047】 フランス語2Ⅰ [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1455
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5048】 フランス語2Ⅱ [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1456
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5049】 フランス語2Ⅰ [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1457
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5050】 フランス語2Ⅱ [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1458
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5051】 フランス語2Ⅰ [野村 訓子] 春学期授業/Spring	1459
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5052】 フランス語2Ⅱ [野村 訓子] 秋学期授業/Fall	1460
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5053】 フランス語2Ⅰ [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1461
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5054】 フランス語2Ⅱ [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1462
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5055】 フランス語2Ⅰ [アガエス ジュリアン] 春学期授業/Spring	1463
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5056】 フランス語2Ⅱ [アガエス ジュリアン] 秋学期授業/Fall	1464
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5059】 フランス語2Ⅰ [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1465
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5060】 フランス語2Ⅱ [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1466
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5061】 フランス語2Ⅰ [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	1467
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5062】 フランス語2Ⅱ [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	1468

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5081】 フランス語(1) I [佐藤正和] 春学期授業/Spring	1469
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5082】 フランス語(1) II [佐藤正和] 秋学期授業/Fall	1470
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5083】 フランス語(2) I [ヴァリエンス コリンス] 春学期授業/Spring	1471
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5084】 フランス語(2) II [ヴァリエンス コリンス] 秋学期授業/Fall	1472
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5091】 フランス語1 [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	1473
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5092】 フランス語3 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	1474
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5093】 フランス語2 [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	1475
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5094】 フランス語4 [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	1476
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5095】 フランス語5 [ジョルディ・フィリップ] 春学期授業/Spring	1477
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5096】 フランス語6 [ジョルディ・フィリップ] 秋学期授業/Fall	1478
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5097】 フランス語1 [廣松 勲] 春学期授業/Spring	1479
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5098】 フランス語3 [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	1481
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5099】 フランス語2 [カレンス・フィリップ] 春学期授業/Spring	1482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5100】 フランス語4 [カレンス・フィリップ] 秋学期授業/Fall	1483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5101】 フランス語1 [中村 美緒] 春学期授業/Spring	1484
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5102】 フランス語3 [中村 美緒] 秋学期授業/Fall	1485
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5103】 フランス語2 [ヴァリエンス コリンス] 春学期授業/Spring	1486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5104】 フランス語4 [ヴァリエンス コリンス] 秋学期授業/Fall	1487
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5111】 フランス語1-I [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1488
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5112】 フランス語1-II [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5113】 フランス語1-I [竹本 研史] 春学期授業/Spring	1489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5114】 フランス語1-II [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	1491
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5115】 フランス語1-I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1492
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5116】 フランス語1-II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1493
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5117】 フランス語1-I [瀬戸 和子] 春学期授業/Spring	1494
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5118】 フランス語1-II [瀬戸 和子] 秋学期授業/Fall	1495
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5121】 フランス語2-I [ニコラ・ガイヤール] 春学期授業/Spring	1496
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5122】 フランス語2-II [ニコラ・ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1497

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5123】 フランス語2-I [ニコラ・ガイヤール] 春学期授業/Spring	1498
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5124】 フランス語2-II [ニコラ・ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1499
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5125】 フランス語2-I [篠原学] 春学期授業/Spring	1500
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5126】 フランス語2-II [篠原学] 秋学期授業/Fall	1501
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5127】 フランス語2-I [杉村裕史] 春学期授業/Spring	1502
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5128】 フランス語2-II [杉村裕史] 秋学期授業/Fall	1503
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6001】 ロシア語1 I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1504
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6002】 ロシア語1 II [油本 真理] 秋学期授業/Fall	1505
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6003】 ロシア語1 I [木部 敬] 春学期授業/Spring	1506
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6004】 ロシア語1 II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	1507
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6005】 ロシア語1 I [長屋 房夫] 春学期授業/Spring	1508
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6006】 ロシア語1 II [長屋 房夫] 秋学期授業/Fall	1509
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6011】 ロシア語2 I [土岐 康子] 春学期授業/Spring	1510
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6012】 ロシア語2 II [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	1511
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6013】 ロシア語2 I [土岐 康子] 春学期授業/Spring	1512
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6014】 ロシア語2 II [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	1513
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6015】 ロシア語2 I [土岐 康子] 春学期授業/Spring	1514
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6016】 ロシア語2 II [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	1515
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6031】 ロシア語1 [三神 エレーナ] 春学期授業/Spring	1516
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6032】 ロシア語3 [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	1517
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6033】 ロシア語2 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	1518
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6034】 ロシア語4 [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	1519
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6035】 ロシア語5 [上野 理恵] 春学期授業/Spring	1520
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6036】 ロシア語6 [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	1521
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6041】 ロシア語1-I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1522
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6042】 ロシア語1-II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	1523
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6043】 ロシア語1-I [木部 敬] 春学期授業/Spring	1524
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6044】 ロシア語1-II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	1525

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6051】 ロシア語 2-I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6052】 ロシア語 2-II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	1527
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6053】 ロシア語 2-I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6054】 ロシア語 2-II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	1529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7001】 中国語 1 I [渡部 れい子] 春学期授業/Spring	1530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7002】 中国語 1 II [渡部 れい子] 秋学期授業/Fall	1531
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7003】 中国語 1 I [渋井 君也] 春学期授業/Spring	1532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7004】 中国語 1 II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	1533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7005】 中国語 1 I [池田 麻希子] 春学期授業/Spring	1534
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7006】 中国語 1 II [池田 麻希子] 秋学期授業/Fall	1535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7007】 中国語 1 I [野村 英登] 春学期授業/Spring	1536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7008】 中国語 1 II [野村 英登] 秋学期授業/Fall	1537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7009】 中国語 1 I [鷺巣 益美] 春学期授業/Spring	1538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7010】 中国語 1 II [鷺巣 益美] 秋学期授業/Fall	1539
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7011】 中国語 1 I [赤平 恵里] 春学期授業/Spring	1540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7012】 中国語 1 II [赤平 恵里] 秋学期授業/Fall	1541
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7013】 中国語 1 I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	1542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7014】 中国語 1 II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	1543
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7015】 中国語 1 I [渋井 君也] 春学期授業/Spring	1544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7016】 中国語 1 II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	1545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7017】 中国語 1 I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	1546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7018】 中国語 1 II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	1547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7019】 中国語 1 I [青木 正子] 春学期授業/Spring	1548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7020】 中国語 1 II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	1549
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7021】 中国語 1 I [倉持 貴文] 春学期授業/Spring	1550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7022】 中国語 1 II [倉持 貴文] 秋学期授業/Fall	1551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7023】 中国語 1 I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	1552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7024】 中国語 1 II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall	1553

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7025】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring .....	1554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7026】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall .....	1555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7027】 中国語 1 I [渡部 れい子]	
春学期授業/Spring .....	1556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7028】 中国語 1 II [渡部 れい子]	
秋学期授業/Fall .....	1557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7029】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring .....	1558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7030】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall .....	1559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7031】 中国語 1 I [赤平 恵里]	
春学期授業/Spring .....	1560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7032】 中国語 1 II [赤平 恵里]	
秋学期授業/Fall .....	1561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7033】 中国語 1 I [倉持 貴文]	
春学期授業/Spring .....	1562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7034】 中国語 1 II [倉持 貴文]	
秋学期授業/Fall .....	1563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7035】 中国語 1 I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring .....	1564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7036】 中国語 1 II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall .....	1565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7037】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring .....	1566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7038】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall .....	1567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7039】 中国語 1 I [野村 英登]	
春学期授業/Spring .....	1568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7040】 中国語 1 II [野村 英登]	
秋学期授業/Fall .....	1569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7041】 中国語 1 I [大江 千晶]	
春学期授業/Spring .....	1570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7042】 中国語 1 II [大江 千晶]	
秋学期授業/Fall .....	1571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7043】 中国語 1 I [福木 滋久]	
春学期授業/Spring .....	1572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7044】 中国語 1 II [福木 滋久]	
秋学期授業/Fall .....	1573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7045】 中国語 1 I [大江 千晶]	
春学期授業/Spring .....	1574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7046】 中国語 1 II [大江 千晶]	
秋学期授業/Fall .....	1575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7047】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring .....	1576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7048】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall .....	1577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7049】 中国語 1 I [鷺巣 益美]	
春学期授業/Spring .....	1578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7050】 中国語 1 II [鷺巣 益美]	
秋学期授業/Fall .....	1579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7051】 中国語 1 I [洪井 君也]	
春学期授業/Spring .....	1580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7052】 中国語 1 II [洪井 君也]	
秋学期授業/Fall .....	1581

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7071】 中国語 2 I [孫 琦] 春学期授業/Spring . . . . .	1582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7072】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学期授業/Fall . . . . .	1583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7073】 中国語 2 I [齊 霞] 春学期授業/Spring . . . . .	1584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7074】 中国語 2 II [齊 霞] 秋学期授業/Fall . . . . .	1585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7075】 中国語 2 I [祝 振媛] 春学期授業/Spring . . . . .	1586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7076】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋学期授業/Fall . . . . .	1587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7077】 中国語 2 I [葉 会] 春学期授業/Spring . . . . .	1588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7078】 中国語 2 II [葉 会] 秋学期授業/Fall . . . . .	1589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7079】 中国語 2 I [齊 霞] 春学期授業/Spring . . . . .	1590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7080】 中国語 2 II [齊 霞] 秋学期授業/Fall . . . . .	1591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7081】 中国語 2 I [齊 霞] 春学期授業/Spring . . . . .	1592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7082】 中国語 2 II [齊 霞] 秋学期授業/Fall . . . . .	1593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7083】 中国語 2 I [馬 挺] 春学期授業/Spring . . . . .	1594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7084】 中国語 2 II [馬 挺] 秋学期授業/Fall . . . . .	1595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7085】 中国語 2 I [王 安] 春学期授業/Spring . . . . .	1596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7086】 中国語 2 II [王 安] 秋学期授業/Fall . . . . .	1597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7087】 中国語 2 I [馬 挺] 春学期授業/Spring . . . . .	1598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7088】 中国語 2 II [馬 挺] 秋学期授業/Fall . . . . .	1599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7089】 中国語 2 I [薄 宏] 春学期授業/Spring . . . . .	1600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7090】 中国語 2 II [薄 宏] 秋学期授業/Fall . . . . .	1601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7091】 中国語 2 I [劉 渴水] 春学期授業/Spring . . . . .	1602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7092】 中国語 2 II [劉 渴水] 秋学期授業/Fall . . . . .	1603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7093】 中国語 2 I [余 瀾] 春学期授業/Spring . . . . .	1604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7094】 中国語 2 II [余 瀾] 秋学期授業/Fall . . . . .	1605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7095】 中国語 2 I [劉 光赤] 春学期授業/Spring . . . . .	1606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7096】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋学期授業/Fall . . . . .	1607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7097】 中国語 2 I [孫 琦] 春学期授業/Spring . . . . .	1608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7098】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学期授業/Fall . . . . .	1609

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7099】 中国語 2 I [祝 振媛] 春 学期授業/Spring .....	1610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7100】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋 学期授業/Fall .....	1611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7101】 中国語 2 I [葉 会] 春学 期授業/Spring .....	1612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7102】 中国語 2 II [葉 会] 秋学 期授業/Fall .....	1613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7103】 中国語 2 I [孫 琦] 春学 期授業/Spring .....	1614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7104】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学 期授業/Fall .....	1615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7105】 中国語 2 I [劉 光赤] 春 学期授業/Spring .....	1616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7106】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋 学期授業/Fall .....	1617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7107】 中国語 2 I [葉 進] 春学 期授業/Spring .....	1618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7108】 中国語 2 II [葉 進] 秋学 期授業/Fall .....	1619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7109】 中国語 2 I [柯 明] 春学 期授業/Spring .....	1620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7110】 中国語 2 II [柯 明] 秋学 期授業/Fall .....	1621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7111】 中国語 2 I [耿 函] 春学 期授業/Spring .....	1622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7112】 中国語 2 II [耿 函] 秋学 期授業/Fall .....	1623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7113】 中国語 2 I [周 重雷] 春 学期授業/Spring .....	1624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7114】 中国語 2 II [周 重雷] 秋 学期授業/Fall .....	1625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7115】 中国語 2 I [蒋 彧婷] 春 学期授業/Spring .....	1626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7116】 中国語 2 II [蒋 彧婷] 秋 学期授業/Fall .....	1627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7117】 中国語 2 I [葉 会] 春学 期授業/Spring .....	1628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7118】 中国語 2 II [葉 会] 秋学 期授業/Fall .....	1629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7119】 中国語 2 I [薄 宏] 春学 期授業/Spring .....	1630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7120】 中国語 2 II [薄 宏] 秋学 期授業/Fall .....	1631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7121】 中国語 2 I [柯 明] 春学 期授業/Spring .....	1632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7122】 中国語 2 II [柯 明] 秋学 期授業/Fall .....	1633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7141】 中国語 (1) I [鷺巢 益 美] 春学期授業/Spring .....	1634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7142】 中国語 (1) II [鷺巢 益 美] 秋学期授業/Fall .....	1635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7143】 中国語 (1) I [岩田 和 子] 春学期授業/Spring .....	1636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7144】 中国語 (1) II [岩田 和 子] 秋学期授業/Fall .....	1637

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7151】 中国語(2) I [康 鴻音] 春学期授業/Spring .....	1638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7152】 中国語(2) II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall .....	1639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7153】 中国語(2) I [周 重雷] 春学期授業/Spring .....	1640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7154】 中国語(2) II [周 重雷] 秋学期授業/Fall .....	1641
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7161】 中国語 1 [鈴木 靖] 春学 期授業/Spring .....	1642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7162】 中国語 3 [鈴木 靖] 秋学 期授業/Fall .....	1643
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7163】 中国語 2 [蔣 彧婷] 春学 期授業/Spring .....	1644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7164】 中国語 4 [蔣 彧婷] 秋学 期授業/Fall .....	1645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7165】 中国語 5 [鈴木 靖] 春学 期授業/Spring .....	1646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7166】 中国語 6 [鈴木 靖] 秋学 期授業/Fall .....	1648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7167】 中国語 1 [渡辺 昭太] 春 学期授業/Spring .....	1649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7168】 中国語 3 [渡辺 昭太] 秋 学期授業/Fall .....	1650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7169】 中国語 2 [薬 会] 春学期 授業/Spring .....	1651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7170】 中国語 4 [薬 会] 秋学期 授業/Fall .....	1652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7171】 中国語 1 [曾 士才] 春学 期授業/Spring .....	1653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7172】 中国語 2 [祝 振媛] 春学 期授業/Spring .....	1654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7173】 中国語 3 [曾 士才] 秋学 期授業/Fall .....	1655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7174】 中国語 4 [祝 振媛] 秋学 期授業/Fall .....	1656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7181】 中国語 1 - I [永江 貴子] 春学期授業/Spring .....	1657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7182】 中国語 1 - II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall .....	1658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7183】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring .....	1659
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7184】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall .....	1660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7185】 中国語 1 - I [永江 貴子] 春学期授業/Spring .....	1661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7186】 中国語 1 - II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall .....	1662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7187】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring .....	1663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7188】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall .....	1664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7189】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring .....	1665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7190】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall .....	1666

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7191】 中国語 1-I [劉 湯水] 春 学期授業/Spring .....	1667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7192】 中国語 1-II [劉 湯水] 秋 学期授業/Fall .....	1668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7193】 中国語 1-I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring .....	1669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7194】 中国語 1-II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall .....	1670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7195】 中国語 1-I [劉 湯水] 春 学期授業/Spring .....	1671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7196】 中国語 1-II [劉 湯水] 秋 学期授業/Fall .....	1672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7211】 中国語 2-I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring .....	1673
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7212】 中国語 2-II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall .....	1674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7213】 中国語 2-I [渋井 君也] 春学期授業/Spring .....	1675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7214】 中国語 2-II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall .....	1676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7215】 中国語 2-I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring .....	1677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7216】 中国語 2-II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall .....	1678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7217】 中国語 2-I [渋井 君也] 春学期授業/Spring .....	1679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7218】 中国語 2-II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall .....	1680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7219】 中国語 2-I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring .....	1681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7220】 中国語 2-II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall .....	1682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7221】 中国語 2-I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring .....	1683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7222】 中国語 2-II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall .....	1684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7223】 中国語 2-I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring .....	1685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7224】 中国語 2-II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall .....	1686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7225】 中国語 2-I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring .....	1687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7226】 中国語 2-II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall .....	1688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7251】 中国語補講 1-I [池田 麻希子] 春学期授業/Spring .....	1689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7252】 中国語補講 1-II [池田 麻希子] 秋学期授業/Fall .....	1690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7253】 中国語補講 1-I [王 安] 春学期授業/Spring .....	1691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7254】 中国語補講 1-II [王 安] 秋学期授業/Fall .....	1692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7255】 中国語補講 1-I [沈 小 南] 春学期授業/Spring .....	1693
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7256】 中国語補講 1-II [沈 小 南] 秋学期授業/Fall .....	1693

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7257】 中国語補講 1-I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	1694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7258】 中国語補講 1-II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall	1695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7259】 中国語補講 2-I [沈 小 南] 春学期授業/Spring	1696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7260】 中国語補講 2-II [沈 小 南] 秋学期授業/Fall	1696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7261】 中国語補講 2-I [余 瀾] 春学期授業/Spring	1697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7262】 中国語補講 2-II [余 瀾] 秋学期授業/Fall	1698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7263】 中国語補講 2-I [劉 光 赤] 春学期授業/Spring	1699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7264】 中国語補講 2-II [劉 光 赤] 秋学期授業/Fall	1700
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8001】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8002】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8003】 スペイン語 1 I [敦賀 公 子] 春学期授業/Spring	1703
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8004】 スペイン語 1 II [敦賀 公 子] 秋学期授業/Fall	1704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8005】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1705
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8006】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1706
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8007】 スペイン語 1 I [ロベル ト・コルメナ・ロメロ] 春学期授業/Spring	1707
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8008】 スペイン語 1 II [ロベル ト・コルメナ・ロメロ] 秋学期授業/Fall	1708
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8009】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1709
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8010】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8011】 スペイン語 1 I [保崎 典 子] 春学期授業/Spring	1711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8012】 スペイン語 1 II [保崎 典 子] 秋学期授業/Fall	1712
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8013】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8014】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1714
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8015】 スペイン語 1 I [日高 憲 三] 春学期授業/Spring	1715
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8016】 スペイン語 1 II [日高 憲 三] 秋学期授業/Fall	1716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8017】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8018】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1718
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8019】 スペイン語 1 I [岡本 年 正] 春学期授業/Spring	1719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8020】 スペイン語 1 II [岡本 年 正] 秋学期授業/Fall	1720

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8021】 スペイン語1Ⅰ [若林 大我] 春学期授業/Spring	1721
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8022】 スペイン語1Ⅱ [若林 大我] 秋学期授業/Fall	1722
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8023】 スペイン語1Ⅰ [若林 大我] 春学期授業/Spring	1723
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8024】 スペイン語1Ⅱ [若林 大我] 秋学期授業/Fall	1724
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8025】 スペイン語1Ⅰ [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1725
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8026】 スペイン語1Ⅱ [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1726
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8027】 スペイン語1Ⅰ [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1727
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8028】 スペイン語1Ⅱ [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1728
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8031】 スペイン語1Ⅰ [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1729
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8032】 スペイン語1Ⅱ [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1730
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8061】 スペイン語2Ⅰ [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1731
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8062】 スペイン語2Ⅱ [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1732
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8063】 スペイン語2Ⅰ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	1733
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8064】 スペイン語2Ⅱ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	1734
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8065】 スペイン語2Ⅰ [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1735
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8066】 スペイン語2Ⅱ [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1736
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8067】 スペイン語2Ⅰ [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1737
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8068】 スペイン語2Ⅱ [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1738
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8069】 スペイン語2Ⅰ [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1739
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8070】 スペイン語2Ⅱ [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1740
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8071】 スペイン語2Ⅰ [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1741
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8072】 スペイン語2Ⅱ [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1742
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8073】 スペイン語2Ⅰ [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1742
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8074】 スペイン語2Ⅱ [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1743
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8075】 スペイン語2Ⅰ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	1744
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8076】 スペイン語2Ⅱ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	1745
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8077】 スペイン語2Ⅰ [バリエン トス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1746
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8078】 スペイン語2Ⅱ [バリエン トス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1747

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8079】 スペイン語2Ⅰ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	1748
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8080】 スペイン語2Ⅱ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	1749
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8081】 スペイン語2Ⅰ [大貫 良 史] 春学期授業/Spring	1750
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8082】 スペイン語2Ⅱ [大貫 良 史] 秋学期授業/Fall	1751
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8083】 スペイン語2Ⅰ [ヴィラ・ ラケル] 春学期授業/Spring	1752
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8084】 スペイン語2Ⅱ [ヴィラ・ ラケル] 秋学期授業/Fall	1753
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8085】 スペイン語2Ⅰ [バリエン トス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1754
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8086】 スペイン語2Ⅱ [バリエン トス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1755
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8087】 スペイン語2Ⅰ [保崎 典 子] 春学期授業/Spring	1756
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8088】 スペイン語2Ⅱ [保崎 典 子] 秋学期授業/Fall	1757
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8091】 スペイン語2Ⅰ [バリエン トス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1758
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8092】 スペイン語2Ⅱ [バリエン トス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1759
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8121】 スペイン語(1)Ⅰ [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1760
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8122】 スペイン語(1)Ⅱ [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1761
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8123】 スペイン語(1)Ⅰ [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1762
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8124】 スペイン語(1)Ⅱ [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1763
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8131】 スペイン語(2)Ⅰ [バリエ ントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1764
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8132】 スペイン語(2)Ⅱ [バリエ ントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1765
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8133】 スペイン語(2)Ⅰ [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1766
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8134】 スペイン語(2)Ⅱ [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1767
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8141】 スペイン語1 [大西 亮] 春学期授業/Spring	1768
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8142】 スペイン語3 [大西 亮] 秋学期授業/Fall	1769
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8143】 スペイン語2 [佐々木 直 美] 春学期授業/Spring	1770
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8144】 スペイン語4 [佐々木 直 美] 秋学期授業/Fall	1771
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8145】 スペイン語5 [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1772
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8146】 スペイン語6 [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1773
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8147】 スペイン語1 [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1774
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8148】 スペイン語3 [佐々木 直 美] 秋学期授業/Fall	1775

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8149】 スペイン語2 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 春学期授業/Spring .....	1776
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8150】 スペイン語4 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 秋学期授業/Fall .....	1777
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8151】 スペイン語1 [大西 亮] 春学期授業/Spring .....	1778
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8152】 スペイン語3 [大西 亮] 秋学期授業/Fall .....	1779
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8153】 スペイン語2 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 春学期授業/Spring .....	1780
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8154】 スペイン語4 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 秋学期授業/Fall .....	1781
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8161】 スペイン語1-I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring .....	1782
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8162】 スペイン語1-II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall .....	1783
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8163】 スペイン語1-I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring .....	1784
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8164】 スペイン語1-II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall .....	1785
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8165】 スペイン語1-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring .....	1786
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8166】 スペイン語1-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall .....	1787
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8167】 スペイン語1-I [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 春学期授業/Spring .....	1788
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8168】 スペイン語1-II [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 秋学期授業/Fall .....	1789
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8181】 スペイン語2-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring .....	1790
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8182】 スペイン語2-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall .....	1791
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8183】 スペイン語2-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring .....	1792
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8184】 スペイン語2-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall .....	1793
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8185】 スペイン語2-I [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring .....	1794
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8186】 スペイン語2-II [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall .....	1795
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8187】 スペイン語2-I [大貫 良史] 春学期授業/Spring .....	1796
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8188】 スペイン語2-II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall .....	1797
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8307】 スペイン語補講1-I [大貫 良史] 春学期授業/Spring .....	1798
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8308】 スペイン語補講1-II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall .....	1799
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8309】 スペイン語補講1-I [岡本 年正] 春学期授業/Spring .....	1800
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8310】 スペイン語補講1-II [岡本 年正] 秋学期授業/Fall .....	1801
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8311】 スペイン語補講2-I [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring .....	1802
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8312】 スペイン語補講2-II [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall .....	1803

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8313】 スペイン語補講2-I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1803
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8314】 スペイン語補講2-II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1804
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9001】 朝鮮語1 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1805
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9002】 朝鮮語1 II [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	1806
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9003】 朝鮮語1 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1807
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9004】 朝鮮語1 II [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	1808
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9005】 朝鮮語1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1809
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9006】 朝鮮語1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1810
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9007】 朝鮮語1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1811
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9008】 朝鮮語1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1812
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9009】 朝鮮語1 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1813
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9010】 朝鮮語1 II [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	1814
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9011】 朝鮮語1 I [永原 歩] 春学期授業/Spring	1815
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9012】 朝鮮語1 II [永原 歩] 秋学期授業/Fall	1816
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9013】 朝鮮語1 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1817
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9014】 朝鮮語1 II [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	1818
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9021】 朝鮮語2 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1819
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9022】 朝鮮語2 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1820
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9023】 朝鮮語2 I [内山 政春] 春学期授業/Spring	1821
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9024】 朝鮮語2 II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1822
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9025】 朝鮮語2 I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	1823
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9026】 朝鮮語2 II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	1824
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9027】 朝鮮語2 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1825
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9028】 朝鮮語2 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1826
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9029】 朝鮮語2 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1827
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9030】 朝鮮語2 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1828
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9031】 朝鮮語2 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1829
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9032】 朝鮮語2 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1830

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9033】 朝鮮語 2 I [内山 政春] 春学期授業/Spring .....	1831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9034】 朝鮮語 2 II [内山 政春] 秋学期授業/Fall .....	1832
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9041】 朝鮮語 (1) I [富所 明 秀] 春学期授業/Spring .....	1833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9042】 朝鮮語 (1) II [富所 明 秀] 秋学期授業/Fall .....	1834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9043】 朝鮮語 (2) I [新谷 あゆ り] 春学期授業/Spring .....	1835
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9044】 朝鮮語 (2) II [新谷 あゆ り] 秋学期授業/Fall .....	1836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9051】 朝鮮語 1 [富所 明秀] 春 学期授業/Spring .....	1837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9052】 朝鮮語 3 [富所 明秀] 秋 学期授業/Fall .....	1838
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9053】 朝鮮語 2 [梁 禮先] 春学 期授業/Spring .....	1839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9054】 朝鮮語 4 [梁 禮先] 秋学 期授業/Fall .....	1840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9055】 朝鮮語 5 [内山 政春] 春 学期授業/Spring .....	1841
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9056】 朝鮮語 6 [内山 政春] 秋 学期授業/Fall .....	1842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9061】 朝鮮語 1-I [新谷 あゆ り] 春学期授業/Spring .....	1843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9062】 朝鮮語 1-II [新谷 あゆ り] 秋学期授業/Fall .....	1844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9063】 朝鮮語 1-I [内山 政春] 春学期授業/Spring .....	1845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9064】 朝鮮語 1-II [内山 政春] 秋学期授業/Fall .....	1846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9071】 朝鮮語 2-I [内山 政春] 春学期授業/Spring .....	1847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9072】 朝鮮語 2-II [内山 政春] 秋学期授業/Fall .....	1848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9073】 朝鮮語 2-I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring .....	1849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9074】 朝鮮語 2-II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall .....	1850



LANe100LA

## 補講英語 1・2 - I

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

## 【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。本授業の開始日は5月2日です。

同日はガイダンスで、授業計画や成績の付け方などについて指示します。

受講者の人数やインターネット環境、さらに対面授業が可能になるかどうかなど様々な状況に応じて変わりますが、当面は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業で出された課題の解説が配布されるので、答え合わせをしたあとで、解説を読む（40分）
- ・リスニング課題に取り組み提出（15分）
- ・次回授業の課題に取り組み、提出（45分）

時間はあくまで目安です。

当面はライブ授業は行いません。

もちろん、先にも書いたように状況に応じて臨機応変に対応いたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容と範囲については授業内で説明します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

## 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回課題を出します）50%

期末試験50%

4回以上課題を出さなかった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy.

LANe100LA

## 補講英語 1・2 - II

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

## 【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関してのコメント
  - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読してもらうので予習が必要です）
  - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容や範囲については授業内で説明します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

## 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）30%

期末試験 70%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in ever

LANe100LA

## 補講英語 1・2 - I

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

## 【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。本授業の開始日は5月2日です。

同日はガイダンスで、授業計画や成績の付け方などについて指示します。

受講者の人数やインターネット環境、さらに対面授業が可能になるかどうかなど様々な状況に応じて変わりますが、当面は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業で出された課題の解説が配布されるので、答え合わせをしたあとで、解説を読む（40分）
- ・リスニング課題に取り組み提出（15分）
- ・次回授業の課題に取り組み、提出（45分）

時間はあくまで目安です。

当面はライブ授業は行いません。

もちろん、先にも書いたように状況に応じて臨機応変に対応いたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容や範囲については授業内で説明します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

## 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回課題を出します）50%

期末試験 50%

4 回以上課題を出さなかった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy.

LANe100LA

## 補講英語 1・2－II

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

## 【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DPI

## 【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
  - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
  - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容や範囲については授業内で確認します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

## 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）30%

期末試験 70%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in ever

LANe100LA

## 補講英語 1・2 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカに旅行で出かける日本人のストーリーで、臨場感のあるリスニングと旅行を疑似体験できるリーディングの練習をして、英語力の充実を目指す。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、各シチュエーションでのリスニングを聞き取り、テキストの英文の内容をきちんと理解できる力身につけることである。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。5月11日から授業を遠隔授業で行います。大学からの対面授業の許可がおりるまで、学習支援システムを通して授業を行います。春学期終わりまで対面授業ができない場合には、春学期を通してこの形が得られます。6月1日からは教科書があるという前提で授業を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Youtube の英会話を 10 lessons 見て、勉強する。	テキストの注文をする。学習支援システムで、Youtube を見て、英会話の勉強をする。
2 回目	Youtube の英会話を 10 lessons 見て、勉強する。	学習支援システムで、Youtube を見て、英会話の勉強をする。
3 回目	Youtube の英会話を 10 lessons 見て、勉強する。	学習支援システムで、Youtube を見て、英会話の勉強をする。
4 回目	Lesson 1 機内	飛行機の機内での会話、税関申請書などのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
5 回目	Lesson 3 ケイトと再会	ケイトの家での会話のリスニング、天気予報のリーディングなどを行う。テキストの予習復習をする。
6 回目	Lesson 4 自由の女神	一人で自由の女神を観光するリスニング、自由の女神観光のチケット、説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
7 回目	Lesson 5 メトロポリタン美術館	メトロポリタン美術館を観光するリスニング、フロア地図や美術館の説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
8 回目	Lesson 6 レストラン	レストランでの注文のリスニング、レストランのレシート、メニューのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。

9 回目	Lesson 7 ミュージカル	ミュージカルを話題にした会話のリスニング、ミュージカルのチケット、パンフレットのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
10 回目	Lesson 8 体調不良	具合が悪くなった時の会話、薬局での会話、薬の箱や保健センターの説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
11 回目	Lesson 9 スーパーでの買い物	スーパーで買い物する会話のリスニング、クーポン、スーパーでの広告のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
12 回目	Lesson 10 スポーツ観戦	スポーツ観戦に向かう会話、スポーツについての会話のリスニング、試合のチケット、ヤンキースの歴史についてのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
13 回目	1 3 回目の授業はありません	授業なし
14 回目	1 4 回目の授業はありません	授業なし

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。最初の 3 回は、Youtube の英会話で勉強します。4 回目からはテキストの予習復習をして、教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題を解いてくる。

## 【テキスト（教科書）】

Hiroko Nishikage, Itsuko Haginoya ほか『Let's Go Abroad! Takeshi's Journey to the U.S.』セーダーラーニング

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

各時間の授業の小テスト、90 %で採点する。残りの 10 %は、授業での発言、発表などによる。各時間のテストや課題の未提出が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの情報がありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

Develop reading and listening skills through a text book named Let's Go Abroad!: Takeshi's Journey to the U.S.

LANe100LA

## 補講英語 1・2 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人が日本滞在中に感じた、イギリスと日本の違いについての Reading を読み、

TOEIC 方式の問題を含む問題を解いて、英語力の充実を目指す。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問の答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。また、問の答えは、各時間に答え合わせをしてからシートを回収し、成績の中に入れる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。テキストを買っておく。
2 回目	Lesson 1 Heights	背も高いと良くないこともあるというエッセイを読む。テキストの予習復習をする。
3 回目	Lesson 2 Seasons	季節の移ろいに感じることを綴ったエッセイを読む。テキストの予習復習をする。
4 回目	Lesson 3 Be careful with your licence	運転免許証の扱い方の日英での違いを学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Lesson 4 Doctors	英国の長く待たされて受ける治療について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Lesson 5 Business Hours	時間の考え方に日英で違いがあることを学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Lesson 6 Public Holidays	本当の休暇については何かについて読んで考える。テキストの予習復習をする。
8 回目	Lesson 7 Your Transport, My Transport	公共交通機関で見られる日英の違いについて読んで学ぶ。テキストの予習復習をする。
9 回目	Lesson 8 Convenience Store	コンビニが生活に与える影響について読み考える。テキストの予習復習をする。
10 回目	Lesson 9 Is it a good noise?	雑音、それとも心地よい音について、日英の違いについて読んで学ぶ。テキストの予習復習をする。
11 回目	Lesson 10 Fireworks	日英で花火の季節が異なる背景を学ぶ。テキストの予習復習をする。

12 回目 Lesson 11 Public or Private? 英国人の目から見るとプライベートなものが公然と行われていることへの驚きのエッセイを読む。テキストの予習復習をする。

13 回目 Lesson 13 Weddings 日英の結婚式、披露宴の違いについて学ぶ。テキストの予習復習をする。

14 回目 まとめ 学期内にテキストで進んだ箇所を復習しておく。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題、TOEIC 方式の問題、ポキャブラリーについての問題に答え、配布シートに答えを転記する。

## 【テキスト（教科書）】

Terry O'Brien, Kei Mihara ほか、『Viewpoints: Japan and England』、南雲堂

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

毎回回収するシートを 40%、期末試験を 60% で採点する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートの情報がないので、フィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

Develop English skills using a textbook on the differences between England and Japan through reading each chapter's reading section and questions based on TOEIC

LANe100LA

## Academic Literacy A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of Academic Literacy A is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present their opinions effectively in discussions, written responses, and presentations. This course is designed to help students to further develop transferable academic skills necessary for success in a university setting.

## 【到達目標】

The course textbook, University Success Oral Communications, Transition Level, “builds essential skills that prepare students to understand and process lengthy academic lectures, defend their ideas, utilize the text to present concepts, speak thoughtfully in discussions, and contribute to group projects. Authentic lectures delivered by top professors from Stanford University provide real-life learning experiences.”

Each unit has three parts: 1) fundamental oral communication skills, 2) critical thinking skills, and 3) extended lectures. Students will read articles and listen to lectures on topics related to sociology, economics, biology, and other disciplines.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Active participation is essential. Students will improve their academic skills and social skills through participation in pair and group activities, lectures, discussions, presentations, and written assignments. Homework will be given each week to prepare students for the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria.
Week 2	Unit 1 Sociology Part 1	Fundamental skills: Note-taking, paraphrasing, summarizing, and discussion techniques. Review APA style and ways to citation of texts.
Week 3	Unit 1 Sociology Part 2	Critical thinking skills: Listening passages and analysis, identify and use generalizations, inferences, and implications.

Week 4	Unit 1 Sociology Part 3	Extended lecture: "Five Revolutions" by a Stanford professor. Research, prepare and deliver an individual presentation. Use APA format for in-text citations and reference lists.
Week 5	Reading and Writing Skills	Review academic skills: Note-taking, paraphrasing, summarizing, citing sources, vocabulary-building, and discussion techniques.
Week 6	Unit 2 Economics Part 1	Fundamental skills: Idea development, identify main ideas and details, study structure of a persuasive presentation.
Week 7	Unit 2 Economics Part 2	Critical thinking skills: Understand implications and inferences, identify implied meaning, synthesize information from multiple sources.
Week 8	Unit 2 Economics Part 3	Extended lecture: "Supply and Demand" by a Stanford professor. Research, prepare and deliver a group presentation.
Week 9	Research Methods and In-Text Citation and Reference List	Review of APA style and use of quotations and paraphrasing in presentations and research papers. Essay format and structure
Week 10	Unit 3 Biology Part 1	Fundamental skills: Participate in extended discussions, respond to controversial topics, lead discussions and debate techniques.
Week 11	Unit 3 Biology Part 2	Critical thinking skills: Understand and present processes, identify structure and purpose of a process presentation, explain a complex process, use generalizations and specific information.
Week 12	Unit 3 Biology Part 3	Extended lecture: "Are Virus Alive?" by a Stanford professor. Have a panel discussion or deliver a presentation.
Week 13	Preparation of final reports	Review of reading, discussion, research, and presentations skills
Week 14	Review and final assessment	Submission of final reports. Comments.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignments, reading materials, and in-class worksheets will be assigned. All student presentations are to be researched outside class and reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Cavage, Christina. (2017) University Success Oral Communication, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc. ISBN-13: 978-0-13-440027-3

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

**【参考書】**

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

**【成績評価の方法と基準】**

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written assignments 30%

Presentations 30%

Final Report 20%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not applicable.

**【Outline and objectives】**

The aim of Academic Literacy A is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present their opinions effectively in discussions, written responses, and presentations. This course is designed to help students to further develop transferable academic skills necessary for success in a university setting.

LANe100LA

## Academic Literacy B

2016年度以前入学者

サブタイトル：

## Power THOMAS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of Academic Literacy B is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present their opinions effectively in discussions, written responses, and presentations. This course is designed to help students to further develop transferable academic skills necessary for success in a university setting.

## 【到達目標】

The course textbook, University Success Oral Communications, Transition Level, “builds essential skills that prepare students to understand and process lengthy academic lectures, defend their ideas, utilize the text to present concepts, speak thoughtfully in discussions, and contribute to group projects. Authentic lectures delivered by top professors from Stanford University provide real-life learning experiences.”

Each unit has three parts: 1) fundamental oral communication skills, 2) critical thinking skills, and 3) extended lectures. Students will read articles and listen to lectures on topics related to biology, humanities, environmental engineering, and other disciplines.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Active participation is essential. Students will improve their academic skills and social skills through participation in pair and group activities, lectures, discussions, presentations, and written assignments. Homework will be given each week to prepare students for the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria.
Week 2	Unit 3 Biology Part 1	Fundamental skills: Participate in extended discussions, respond to controversial topics, lead discussions and debate techniques.
Week 3	Unit 1 Biology Part 2	Critical thinking skills: Understand and present processes, identify structure and purpose of a process presentation, explain a complex process, use generalizations and specific information.

Week 4	Unit 3 Biology Part 3	Extended lecture: "Are Virus Alive?" by a Stanford professor. Research, prepare, and have a panel discussion or deliver an individual presentation.
Week 5	Reading and Writing Skills	Review academic skills: Note-taking, paraphrasing, summarizing, citing sources, vocabulary-building, and discussion techniques.
Week 6	Unit 4 Humanities Part 1	Fundamental skills: Recognize speaking styles, identify emphatic argumentation and succinct argumentation, identify cohesion in presentations and discussions.
Week 7	Unit 4 Humanities Part 2	Critical thinking skills: Make analogies, use metaphors and similes, make assumptions, assess the quality of a conclusion, and use colloquial language.
Week 8	Unit 4 Humanities Part 3	Extended lecture: "Love and Education" by a Stanford professor. Prepare and have a panel discussion, or research and deliver an individual presentation.
Week 9	Research Methods APA style	In-text citation and reference list; quoting and paraphrasing in presentations and research papers. Essay format and structure
Week 10	Unit 5 Environmental Engineering Part 1	Fundamental skills: Connect visuals to a lecture, read and interpret complex visuals, synthesize text into a visual, create and communicate visuals.
Week 11	Unit 5 Environmental Engineering Part 2	Critical thinking skills: Summarize and synthesize research, present well-integrated research, present a research report, source academic references.
Week 12	Unit 5 Environmental Engineering Part 3	Extended lecture: "Air Filtration Systems for the Home" by a Stanford professor. Research, prepare, and have a class debate for and against a topic covered, or prepare and deliver an information group presentation..
Week 13	Preparation of final reports	Review reading, discussion, research, and presentations skills.
Week 14	Review and final assessment	Submission of final reports. Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
Homework assignments, reading materials, and in-class worksheets will be assigned. All student presentations are to be researched outside class and reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Cavage, Christina. (2017) University Success Oral Communication, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc. ISBN-13: 978-0-13-440027-3

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

## 【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

## 【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written assignments 30%

Presentations 30%

Final Report 20%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【Outline and objectives】

The aim of Academic Literacy B is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present their opinions effectively in discussions, written responses, and presentations. This course is designed to help students to further develop transferable academic skills necessary for success in a university setting.

LANe100LA

## College Writing A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College Writing A introduces the formal structures and styles of academic writing. The course focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research. Additionally, this class will build confidence and competence in writing more generally, preparing you for College Writing B, in which you will write a formal research paper.

## 【到達目標】

The course aims to build competence in the following tasks:

1. Planning and organizing a major research paper.
2. Choosing, evaluating, and using academic sources.
3. Building on previous research in developing original research contribution.
4. Proofreading, editing, and revising research papers.
5. Research using information from class materials and outside sources.
6. Write essays in an academic style (APA Style for this course).
7. Discuss topics in small groups related to reading materials.
8. Make presentations in an academic style to the class.
9. Synthesize information and ideas.
10. Express opinions and support them with examples from a text or from your own experience and /or cultural background.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Each class consists of a short lecture or demonstration of academic writing principles and a number of writing or editing exercises, as well as discussion activities. Often we will work together on exercises, both in small groups and as a class. We will also share and edit each other's writing, so students should grow accustomed to both giving and receiving constructive feedback on assignments.

Assignments must be completed in a timely manner. All work done in this course is to prepare for a final paper which is due in the final class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction:	After brainstorming ideas, aims, methods, expectations, and grading criteria. Share with class.
Week 2	Review of the Essay.	Standard parts and format of an essay.

Week 3	Choosing a Topic.	Brainstorming for an appropriate topic. Persuasive and expository research papers.	<b>【Outline and objectives】</b> College Writing A introduces the formal structures and styles of academic writing. The course focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research. Additionally, this class will build confidence and competence in writing more generally, preparing you for College Writing B, in which you will write a formal research paper.
Week 4	Peer Review.	Learning to effectively review papers. Making revision decisions.	
Week 5	Researching.	Considering sources. Learning effective online search. Evaluating reliability. Focus of research.	
Week 6	Outlining.	Learning outlining techniques and considering common patterns of organization.	
Week 7	Avoiding plagiarism.	Learning the importance of crediting sources. Quoting and paraphrasing practice.	
Week 8	Academic language of the research paper.	Considering appropriate style and tone for academic writing. How to make points strong and precise.	
Week 9	In-text citations.	Learning format of APA style. Practicing paraphrasing and quoting using in-text citations.	
Week 10	Summarizing and paraphrasing.	Practice summarizing and the use of common grammatical structures in a research paper.	
Week 11	Editing and abstract writing.	Learning how to check paper for language and punctuation. Practice writing an abstract.	
Week 12	Revising and proofreading.	Peer review and editing.	
Week 13	Presentations of papers 1	Peer Q and A plus peer evaluation.	
Week 14	Presentation of papers 2	Peer Q and A plus peer evaluation. Deadline for final paper submission.	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to come prepared to class each week by doing the readings and homework in advance. Late work will not be accepted unless there is a good reason (illness, emergency).

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Folse, Keith S. and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

**【参考書】**

Hacker, Diana and Sommers, Nancy. (2011) A Writer's Reference for Multilingual Writers and ESL, 7th Edition. Boston: Harvard University ISBN: 0-312-60143-3

Oshima, Alice and Hogue, Ann. (2014) Academic Writing Series: Essays to Research Papers. 5th Edition. Pearson Longman. ISBN: 0132912740

**【成績評価の方法と基準】**

30% In-class Participation: discussions, group work, pair work, in class writing exercises and peer review.

40% Written assignments.

20% Final research paper.

10% Presentation about final paper.

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not Applicable.

LANe100LA

## College Writing B

2016年度以前入学者

サブタイトル：

## ドナルド ホワイト

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Following on from College Writing A, the formal styles and structures of academic writing will be considered. The course focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research.

## 【到達目標】

This class will build confidence and competence in academic writing and, therefore, help prepare the students for their final formal research paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Students are expected to actively participate. Brainstorming ideas, debating topics to consider other arguments, sharing opinions, note taking and peer correction are all activities that will be used.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction	An overview of the contents of the course will be given and the responsibilities of the students will be outlined.
week 2	Review of the Essay	Basic structure review followed by a writing assignment.
week 3	Pre-writing Activities	Preparation before writing is a necessary step so the various methods will be discussed
week 4	Choosing a Topic	Group discussions to brainstorm a list of topics. Considering the suitability of topics.
week 5	Essay Writing	Draft of essay to be written in class followed by peer review. Rewrite to follow.
week 6	Different Kinds of Essays	Students will consider the various kinds of essays and their purpose.
week 7	Researching	Considering sources. Learning effective online search. Evaluating reliability. Focus on research.
week 8	Plagiarism	The importance of this topic will be emphasized. Citations, quoting, paraphrasing and summarizing will be considered.
week 9	Academic Language	Considering appropriate style and tone for academic writing. How to make points strong and precise.
week 10	Referencing and Citations	Learning the APA style
week 11	Editing and Abstract Writing	Learning how to check paper for language and punctuation. Practice writing an abstract.
week 12	Proofreading	Revising, editing and peer review
week 13	Presentation of papers 1	Peer Q and A Peer evaluation
week 14	Presentation of papers 2	Peer Q and A Peer evaluation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Writing assignments and reading/research to prepare for them will be expected. Students will be expected also to bring materials to class to discuss with their peers to help prepare for a discussion leading to written work.

It is considered that 4 hours of study outside of class, including reading, research and writing would be appropriate.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook will be used.

Handouts and reading material will be provided by the lecturer.

## 【参考書】

Longman Academic Writing Series: Essays to Research Papers

Alice Oshima and Ann Hogue, 2014

Pearson Longman. ISBN: 0132912740

A writer's Reference for Multilingual Writers and ESL.

7th Edition. Diana Hacker and Nancy Sommers. 2011

Harvard University ISBN: 0132912740

Proofreading, Revising, and Editing Skills

Success in 20 Minutes a Day

1st Edition. Brady Smith 2003

Learning Express, LLC. ISBN: 1-576855-466-3

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation 30%

Written assignments 30%

Final research paper 30%

Presentation 10%

No more than 3 absences will be accepted.

Being late 3 times by 10 minutes will equal 1 absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【Outline and objectives】

Following on from College Writing A, the formal styles and structures of academic writing will be considered. The course focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research.

LANd100LA

## ドイツ語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

## 【到達目標】

ドイツ語検定試験の5～4級にチャレンジできるレベルへ。  
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに高まること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月23日、10時40分からZoomで開催するため、準備をしておいてほしい。URLは学習支援システムの授業内掲示板を見ること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツ語の発音	アルファベットの読み方、ドイツ語の単語の発音。
2	動詞 1	規則動詞の現在人称変化
3	動詞 2	定動詞の位置 sein の変化
4	名詞 1	名詞の性と冠詞
5	名詞 2	名詞の格変化 複数形
6	数詞	数の数え方
7	動詞 3	不規則動詞の現在人称変化
8	命令形	命令文をつくる
9	人称代名詞	人称代名詞の3格と4格
10	前置詞 1	前置詞の格支配
11	前置詞 2	前置詞と定冠詞との融合形。前置詞と人称代名詞との融合形。
12	否定	nicht,kein の使い方
13	助動詞	話法の助動詞。未来の助動詞 werden。
14	試験日 最終週の授業内	辞書参照可の予定。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

春日正男・松澤淳著『Lecker! Lecker! Lecker!』都文堂

## 【参考書】

関口一郎『マイスター ドイツ語コース 文法』大修館書店

矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』研究社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業への積極的な参加 30 %、宿題 20 %の割合で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

## 【その他の重要事項】

授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

## 【Outline and objectives】

This class is intended for the students who failed the course for beginners. In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding.

LANd100LA

## ドイツ語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2~3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

## 【到達目標】

ドイツ語検定試験の5~4級にチャレンジできるレベルへ。  
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに高まること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。ドイツ語の映画など映像を使用して、「生きた」ドイツ語に親しむ。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	分離動詞	分離動詞と非分離動詞
2	再帰動詞	sich の使い方
3	過去形	過去人称変化
4	従属接続詞	従属接続詞と副文
5	完了形	現在完了形
6	不定詞	zu 不定詞の使い方
7	形容詞	形容詞の格変化
8	比較	形容詞・副詞の比較変化
9	受動態	werden, sein と過去分詞
10	関係代名詞	主文と関係文の成り立ち
11	仮定 1	接続法第二式
12	仮定 2	接続法第一式
13	現在分詞	形容詞と同じ働き of 現在分詞について
14	試験日 最終授業内	辞書参照可の予定

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

春日正男・松澤淳著『Lecker! Lecker! Lecker!』 郁文堂

## 【参考書】

関口一郎『マイスター ドイツ語コース 文法』 大修館書店

矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』 研究社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業への積極的な参加 30 %、宿題 20 % の割合で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

## 【その他の重要事項】

授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

## 【Outline and objectives】

This class is intended for the students who failed the course for beginners.

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding.

LANd100LA

## ドイツ語補講2－I

2017年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 アルファベット等について
2	ドイツ語の概要 2	発音記号について
3	Lektion1	
3	Lektion2	動詞の人称変化 文の構造
4	Lektion3	不規則動詞 命令文
5	Lektion4	名詞 冠詞
6	Lektion5	人称代名詞 冠詞類 基数
7	Lektion6	分離動詞 非分離動詞 es
8	Lektion7	接続詞 (1) 前置詞 (1)
9	Lektion8	前置詞 (2) 疑問詞 was と wer
10	Lektion9	助動詞
11	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

## 【テキスト（教科書）】

ideal 例文で学ぶドイツ語文法 改訂版

秋葉裕一・石井道子・中村采女・Wolfgang Schlecht 著

朝日出版社 2020年発行 定価 2500円＋税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600円＋税

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

## ドイツ語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2~3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業の開始日を5月6日とします。

ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。

小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion10-1	形容詞 1 序数 1
2	Lektion10-2	形容詞 2 序数 2
3	Lektion11	比較級と最上級 再帰代名詞と再帰動詞
4	Lektion12	過去形
5	Lektion13	完了形
6	Lektion14	zu 不定詞
7	Lektion15	受動
8	Lektion16	関係代名詞
9	Lektion17	関係副詞 指示代名詞
10	Lektion18	接続法 (1)
11	Lektion19	接続法 (2)
12	Lektion20	接続法 (3)
13	期末試験	期末試験
14	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期 の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

## 【テキスト（教科書）】

ideal 例文で学ぶドイツ語文法 改訂版

秋葉裕一・石井道子・中村采女・Wolfgang Schlecht 著

朝日出版社 2020 年発行 定価 2500 円 + 税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600 円 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANf100LA

## フランス語補講 1－I

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 6/Thu.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。  
語彙の拡張。

## 【到達目標】

すでに学んだフランス語文法の基礎を再確認し、文法知識を深化させます。またフランス語の基礎的な語彙を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。各課ごとの Mini-dialogue を暗記し、それに関する練習問題を解くことで、文法事項の理解を徹底し、さらにその知識を深めていきます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業方針を説明
第 2 回	第 1 課	発音と綴り 簡単な表現
第 3 回	第 1 課	名詞の性・数 不定冠詞と定冠詞
第 4 回	第 2 課	基本的な動詞の活用 (1) 人や物を提示する表現
第 5 回	第 2 課	疑問文 数詞
第 6 回	第 3 課	基本的な動詞の活用とその表現 (2)
第 7 回	第 3 課	否定形 品質形容詞
第 8 回	第 4 課	第 1 群規則動詞の活用
第 9 回	第 4 課	母音字、または無音の h で始まる第 1 群規則動詞
第 10 回	第 5 課	人称代名詞 所有形容詞 疑問代名詞
第 11 回	第 5 課	命令法 第 2 群規則動詞の活用
第 12 回	第 6 課	不規則動詞の活用 部分冠詞
第 13 回	第 6 課	非人称構文
第 14 回	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた文法事項を復習して練習問題を必ず行い、分からなかった箇所を掲示板に投稿するか、教師にメールをするか、とにかく必ず疑問を解消するように努めてください。本授業のために学習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『コミュニケーションのためのマニエルフランス文法』 傳田久仁子、神田修悦他著 第三書房。

## 【参考書】

教室で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の苦手とする箇所を重点的に補うようにします。

## 【Outline and objectives】

learn essential grammar in use

LANf100LA

## フランス語補講 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 6/Thu.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。

語彙の拡張。

### 【到達目標】

春学期と同様、すでに学んだ文法事項を再確認し、文法の知識を深化させます。語彙の拡張を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

春学期と同様、教科書に沿って進めます。各課ごとの Mini-dialogue を暗記し、それに関する練習問題を解くことで、文法事項の理解を徹底させます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項を復習する
第 2 回	第 7 課	不規則動詞の活用と近接未来、近接過去
第 3 回	第 7 課	比較構文 名詞の数量の比較
第 4 回	第 8 課	補語人称代名詞 (1)
第 5 回	第 8 課	補語人称代名詞 (2) 指示代名詞
第 6 回	第 9 課	代名動詞の活用
第 7 回	第 9 課	代名動詞の用法
第 8 回	第 10 課	複合過去 複合過去の否定文、疑問文
第 9 回	第 10 課	代名動詞の複合過去
第 10 回	第 11 課	半過去 半過去と複合過去
第 11 回	第 11 課	大過去 シャンソン
第 12 回	第 12 課	単純未来 前未来 受動態
第 13 回	第 13 課	関係代名詞 現在分詞 ジェロンディフ
第 14 回	試験	試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた文法事項を復習し、分からなかった箇所は次週に確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『コミュニケーションのためのマニエールフランス文法』 傳田久仁子、神田修悦他著 第三書房。

### 【参考書】

教室で指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

試験 50%、小テスト 30 %、授業への参加度 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の弱点を補えるよう、理解が徹底していない箇所を繰り返して学習するようにします。

### 【Outline and objectives】

learn essential grammar in use

LANf100LA

## フランス語補講 2-I

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行う授業です。ダイアログを参考にしながら練習問題で文法の復習をし、聞き取り・書き取り・語彙の強化を行います。

## 【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルになりましょう。映像の内容を簡単に説明することができる作文力も身につきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。Zoom を使って、ダイアログで使われている文法事項を確認してから練習問題を解きます。さらに音声を書き取る練習をします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
2 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
3 回目	Leçon 3「年齢・家族」	不定冠詞、否定文
4 回目	Leçon 4「好き」	定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
5 回目	応用「好きな物、好きなこと」	作文・発表
6 回目	Leçon 5「持ち物」	指示形容詞・所有形容詞、強勢形
7 回目	Leçon 6「友だち」	形容詞
8 回目	Leçon 7「たずねる」	疑問代名詞・疑問副詞
9 回目	応用「誰かの物、自分の友だち」	作文・発表
10 回目	Leçon 8「近い未来・近い過去」	近接未来・近接過去、縮約、中性代名詞 y
11 回目	Leçon 9「時間・天候」	疑問形容詞、非人称構文
12 回目	Leçon 10「数量」	部分冠詞、中性代名詞 en
13 回目	応用「このあと、何食べよう？」	作文・発表
14 回目	Leçon 11「紹介する」	補語人称代名詞

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。習った文法事項を確認してから、練習問題を解いてみましょう。

< 5/5 までの事前準備 >

① <http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-411-01124-4> を聴きながら、テキスト 1 で文法事項を確認

② テキスト 2 の練習問題を解いて発音を練習しておく

## 【テキスト（教科書）】

『新・東京一バリ、初飛行（新装改訂 2 版）』藤田裕二・藤田知子著（駿河台出版社）

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の発言・課題の提出で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は Hoppii に配信します。

## 【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書と、動詞の変化表があると便利です。

## 【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～）フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

## 【Outline and objectives】

This is a lesson to review basic grammar. Review grammar with practice exercises while referring to the dialogue, and we do also listening, writing and vocabulary enhancement.

LANf100LA

## フランス語補講 2-Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行う授業です。ダイアログを参考にしながら練習問題で文法の復習をし、聞き取り・書き取り・語彙の強化を行います。

## 【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルになりましょう。映像の内容を簡単に説明することができる作文力も身につきます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。Zoom を使って、ダイアログで使われている文法事項を確認してから練習問題を解きます。さらに音声を書き取る練習をします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	春学期の復習	小テスト
2 回目	Leçon 12「一日の動作」	代名動詞
3 回目	Leçon 13「依頼する」	命令法、動詞 <i>devoir</i>
4 回目	Leçon 14「将来のこと」	単純未来、動詞 <i>espérer</i>
5 回目	応用「今と 3 年後」	作文・発表
6 回目	Leçon 15「過去のこと 1」	複合過去
7 回目	Leçon 16「過去のこと 2」	半過去・大過去
8 回目	Leçon 17「人や物について」	関係代名詞、指示代名詞
9 回目	Leçon 18「比較する」	比較級・最上級
10 回目	応用「昔の思い出」	作文・発表
11 回目	Leçon 19「受け身と同時性」	受動態、現在分詞・ジェロンディフ
12 回目	Leçon 20「仮定する」	条件法現在・条件法過去
13 回目	Leçon 21「感情表現」	接続法現在・接続法過去
14 回目	応用「自分の意見」	作文・発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回習った文法事項を確認してから、Hoppii に配信される宿題プリントを解いてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『新・東京一バリ、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子著（駿河台出版社）

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の発言・課題の提出で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は Hoppii に配信します。

## 【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書と、動詞の変化表があると便利です。

## 【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

## 【Outline and objectives】

This is a lesson to review basic grammar. Review grammar with practice exercises while referring to the dialogue, and we do also listening, writing and vocabulary enhancement.

LANf200LA

## フランス語補講 3 - I

2017 年度以降入学者

篠原 学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営環 3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の学習を終えた学生が、文法の復習をしながら、やさしいフランス語の物語を読む授業です。文法の知識を、読むということにどうつなげていくか。そのコツがわかれば、これから先、フランス語を独習することができるようになるはずです。文法と語彙を一から確認しながら、ゆっくりテキストを読んでいます。

## 【到達目標】

フランス語の文法の知識を定着させることができる。  
フランス語の語彙を増やすことができる。  
フランス語の文法の知識を使って、やさしいフランス語の文章が読めるようになる。  
辞書の使い方を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

当面は、学習支援システムを活用したオンラインでの開講となります。本授業の開始日は4月24日で、この日は Google hangouts meet を用いて、今後の進め方等についてガイダンスを行います（メールで URL をお送りします）。ガイダンスに出席できなかった学生のために、学習支援システムに資料を残す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	読解の基本となる考え方、辞書の引き方
第 2 回	物語の冒頭	基本的な動詞
第 3 回	人物の導入	理由・原因を表す接続詞
第 4 回	ある午後の場面（仕事風景）	会話で頻度の高い動詞
第 5 回	見知らぬ人物との密会	時刻の表現
第 6 回	外出の理由	「行く」と「来る」、「何も～ない」の表現
第 7 回	食事の約束	直説法複合過去と直説法半過去
第 8 回	宝石店にて	前置詞、時を表す接続詞
第 9 回	首飾りは誰のものか	条件法現在
第 10 回	尋問	中性代名詞、様々な前置詞
第 11 回	証言の食い違い	名詞による副詞的表現
第 12 回	秘密の電話	直説法単純未来
第 13 回	どこで落ち合うか	非人称表現
第 14 回	これまでのまとめ	振り返りと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の予習・復習でやることは同じです。予習の段階では、知らない単語を辞書で引き、完全にわからなくてもよいのでその課の文章を読み、意味を考えてくること。復習では、その日に読んだ文章が自分で訳せるように、文法や構文のポイントを整理してください。単語ノートも作成することをお勧めします。

## 【テキスト（教科書）】

『Le Collier（初級～中級読み物 ル・コリエ）、小川・メルメ・フロランス、久松健一、朝日出版社、2017 年、2100 円＋税

## 【参考書】

参考書は指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む） 40 %  
期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【Outline and objectives】

This is the course of reading a story written in French for students who have learned the basic grammar. The question is how to read with your knowledge of grammar. This is the key in order to continue your study of French by yourselves. On checking the grammar and vocabulary, let's read the textbook slowly.

LANF200LA

## フランス語補講 3 - II

2017 年度以降入学者

篠原 学

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営環 3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先学期に引き続き、やさしいフランス語の物語を読みます。文法の知識を確認しながら、テキストを読み進めていきます。生きたフランス語の文章に取り組むことで、文法や語彙の知識を運用に結びつける方法を学んでいきましょう。

## 【到達目標】

辞書を引きながらフランス語の文章が読めるようになる。  
ことばに刻まれたフランスの文化について知識が得られる。  
基本的な表現に習熟し、自分でもフランス語の文が作れるようになる。  
フランス語を独習する力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式ですが、学生を指名して、フランス語の文章を口に出して読んでもらいます。学生どうしてテキストの場面を演じてもらうこともあります。簡単な文を、その場で訳してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	劇場へ	不定法
第 2 回	消えた首飾り	直説法大過去
第 3 回	警視からの連絡	接続法
第 4 回	応答	強調構文、仮定の表現
第 5 回	劇場からの帰り	受動態、受動態のニュアンスを帯びる表現
第 6 回	電話と嘘	否定に関する注意、副詞
第 7 回	泥棒は誰か	直説法と接続法
第 8 回	宝石はどこに	指示代名詞と不定代名詞
第 9 回	封筒の交換	使役動詞、代名動詞
第 10 回	振り出しに戻る	ジェロンディフ
第 11 回	全員が嘘をついている	ne の省略、関係代名詞
第 12 回	重要人物の登場	話法、等位接続詞と従位接続詞
第 13 回	解決	倒置、:と;の違い
第 14 回	これまでのまとめ	振り返りと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の予習・復習でやることは同じです。予習では、とにかく辞書を引いて、わからない単語を調べてくること（単語ノートを作ることをお勧めします）。その上で、わからなくてもよいので、その週に読む文章を最後まで読んできてください。復習では、授業で読んだところが自分で訳せるように、文法や構文上のポイントを整理してください。

## 【テキスト（教科書）】

『Le Collier（初級～中級読み物 ル・コリエ）』、小川・メルメ・フロランス、久松健一、朝日出版社、2017 年、2100 円＋税

## 【参考書】

参考書は指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができていないかも含みます） 40 %  
期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【Outline and objectives】

This is the course of reading a story written in easy French. You check your knowledge of grammar and read the textbook. Reading practical French will help you to use your knowledge of grammar and vocabulary in various situations.

LANr100LA

## ロシア語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再履修の学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットを覚え、単語やテキストを正確に発音することができる。初級文法をしっかりと習得し、辞書を用いてテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）をきちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし語学力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>o</sup>の開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>o</sup>その都度提示します。本授業の開始日は4月27日（月2）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。（旧シラバス；最初の1ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を学びながら、ロシア語能力検定試験4級に向けての練習問題も解いていきます。また、DVDやCDなどの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	補講に関するガイダンス	ロシア語補講に関して（再履修の心構え）
	第1課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）、簡単な挨拶
2	第1課 ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
4	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト	中間テスト
10	第5課 動詞（不定形と過去形）	動詞（不定形と過去形）
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）

13 第6課 前置格 前置格の用法と練習問題、春学期のまとめ

14 期末テスト 期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

再履修の語学では、前回より成績が上がるよう、時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムをしっかりと身につけることが重要。小テスト前には集中的に復習を行う。

また、ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などで積極的にロシア語に触れる。授業外の学習時間は1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020 年  
授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き - 3 級・4 級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005 年、¥1650）  
・『ティータムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が<sup>o</sup>オンラインで<sup>o</sup>の開講となったことにとまない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法表の繰り返しなど、毎回授業でリズムよく復唱したいと思います。補講を受けた翌年5月にロシア語能力検定試験4級に合格した学生がいます。皆さんも頑張ってください。

## 【その他の重要事項】

授業計画は、学生の習熟度により若干の変更があり得ます。

## 【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-I and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

## ロシア語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2~3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題にも挑戦する。

## 【到達目標】

ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	期末テスト	期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。中間および期末テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題を解く。ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編、2020 年）  
適宜初級文法の解説や練習問題のプリントを配布します。

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き - 3 級・4 級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005 年、¥1650）  
・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

## 【その他の重要事項】

学生の習熟度により授業計画は変更する可能性があります。

## 【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

## ロシア語補講 2 - I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再履修の学生を対象とした授業です。これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>\*</sup>の開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>\*</sup>その都度提示します。本授業の開始日は4月23日（木3）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。（旧シラバス：最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得し直します。テキストの正確で美しい音読の練習を行います。初級文法を学び直ししながら、ロシア語能力検定試験4級の練習問題も解いていきます。適時ミニテストを行い、文法の習熟度を確認します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットと発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音、簡単な挨拶
2	ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
4	基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
5	名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
6	名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
9	形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	動詞	動詞（不定形と過去形）
11	副詞、格の説明	副詞の作り方、格の説明
12	動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	動詞と前置格	不規則動詞と前置格
14	授業内試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。小テスト前には集中的に復習をする。

ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）2020 年  
適宜初級文法解説と練習問題のプリントを配布します。

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き - 3 級・4 級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005 年、¥1650）  
・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が<sup>\*</sup>オンラインで<sup>\*</sup>の開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。

## 【学生の意見等からの気づき】

初級文法の規則性をきちんと習得できるよう、授業での復唱時間を増やす。

## 【その他の重要事項】

授業計画は進度により変更があり得ます。

## 【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 2-I and take it for a second time. You will relearn the alphabet and pronunciation of basic Russian that you could not master until now. In parallel with grammar lessons using textbooks and teaching materials, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will aim to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4 as one of your goals; in preparation, you will tackle past tests and formulate strategies. You will master daily conversation, self-introductions, etc., that you can actually use for communication.

LANr100LA

## ロシア語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2~3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験 4 級受験の準備を行う。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

## 【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）

12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	期末テスト	期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。中間および期末テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題を解く。ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編、2020 年）  
適宜文法の解説や練習問題のテキストを配布します。

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き - 3 級・4 級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005 年、¥1650）  
・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

検定試験合格を視野に、授業での格変化表の暗唱、単語のミニテスト、リーディングの練習を増やす。

## 【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

After reviewing the grammar you learned in the spring semester, you will learn to understand the structure of Russian grammar focusing on case inflection. First, you will memorize the declensions of nouns, adjectives, personal pronouns, and so on. Then, you will learn the imperative forms of verbs and the verbs for movement, which are very different from Japanese. You will continue preparing for the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4. Furthermore, you will develop your ability to translate Russian texts to Japanese and Japanese texts to Russian using a dictionary. Through listening, reading, and conversation practice, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing."

LANr100LA

ロシア語（1）I 2017年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語1 I 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

国際政治1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を「読む・聞く・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につける。正確に文字を発音し、テキストをきれいに音読できる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。文法を使いテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。ロシア語能力検定試験4級合格を目指した準備を始める。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>o</sup>の開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>o</sup>その都度提示します。本授業の開始日は4月23日（木5）とします。その際に当面の授業形態について説明します。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス：最初の一ヶ月間で、ロシア語の文字とその発音をしっかりと習得します。名詞、形容詞、動詞を中心とした初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験4級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、視聴覚教材や習字帳などを用い、「読む・聞く・話す・書く」等、五感でロシア語に親しみます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第1課 文字の発音と書き方	ロシア語の文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第1課 文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア語の文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	第5課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明

12	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第6課 前置格 春学期の復習	前置格の説明、春学期の復習
14	授業内試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験4級合格を目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得していく。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心を持ち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020年

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404  
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）  
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が<sup>o</sup>オンラインで<sup>o</sup>の開講となったことにとまない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。また、実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

## 【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

You will practice Russian by “listening, reading, talking, and writing” and definitely acquire it as your first new language subject at the university. You will be able to pronounce characters exactly and read text smoothly. You will learn basic grammar using textbooks. You will be able to understand the meaning of text by using the grammar you have acquired. You will be able to greet people in Russian. You will start preparing to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語（1）Ⅱ 2017年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語1Ⅱ 2017年度以降入学者

油本 真理

国際政治1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「ロシア語1Ⅱ」に引き続き、ロシア語の諸学者を対象とする。本授業ではロシア語の初級文法の習得に加え、簡単な会話、文章の読み書きを学ぶ。

## 【到達目標】

(1) 簡単なロシア語会話ができる。(2) ロシア語の文章から情報を得たり、ロシア語で必要な情報を伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら習得を目指す。また、文法の勉強と並行して会話練習や文章講読などにも取り組み、学んだ文法知識を実践する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項の確認
2	第7課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の命令形、対格変化（名詞、人称代名詞）
3	第7課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	対格変化、曜日の表現
4	第7課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の変化（-с я、歯音、唇音）
5	第8課 運動の動詞	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
6	第8課 運動の動詞	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
7	第9課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格
8	第9課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の変化
9	第9課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	人称代名詞の変化
10	第10課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
11	第10課 生格	所有の表現、否定生格
12	第11課 与格と造格	与格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
13	第11課 与格と造格	造格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
14	まとめと確認	秋学期に学んだ文法事項のまとめと確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

## 【参考書】

露和・和露辞典（博友社『ロシア語辞典』（1995年）など）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60%）、期末テスト（40%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

重要な文法事項については繰り返し復習を行って確実な定着を図る。

## 【Outline and objectives】

This course introduces you to the foundations of Russian language. It will be offered to students who take the “Russian 1Ⅱ” course in the spring semester. In this semester, we will focus on providing knowledge on Russian grammar and vocabulary, as well as basic reading, listening comprehension, speaking, and writing skills. By the end of this course, students will be able to 1) communicate in Russian through basic phrases and 2) read and write basic Russian texts.

LANr100LA

ロシア語（2） I 2017年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語2 I 2017年度以降入学者

土岐 康子

国際政治1年

## 【Outline and objectives】

This class is for students learning Russian for the first time. Start with how to read and write Cyrillic (Russian), and then we will begin learning simple greetings and grammar. Practice of pronunciation and intonation peculiar to Russian are performed using audiovisual materials.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語1で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

## 【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音し、イントネーションを意識して文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示します。基本的には説明、課題提示 → 課題提出 → 添削、返却などの形になります。また、ロシア語1との連携授業です。授業開始日は4月27日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化	第1変化の説明と練習
10	動詞の現在人称変化	第2変化の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	既習事項の復習	既習事項のまとめと復習
14	既習事項の確認	既習事項の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は2時間を目安とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

## 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法を変更します。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

LANr100LA

ロシア語（2）Ⅱ 2017年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語2Ⅱ 2017年度以降入学者

土岐 康子

国際政治1年

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語1で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である6つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

#### 【到達目標】

動詞の形（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

ロシア語1と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の順に授業を進めます。

なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	運動の動詞	行先と交通手段の表現
4	形容詞などの格変化	形容詞などの格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と練習
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有・否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格を要求する前置詞など
12	格変化の復習①	名詞の格変化の総復習
13	格変化の復習②	形容詞などの格変化の総復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

#### 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30%、学期末試験70%の総合評価。

#### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

LANj100LA

**日本語 1 - I**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 1 I**

2017 年度以降入学者

板井 美佐

キ 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生が大学の講義や口頭発表を聞くために必要な日本語の聴解能力を養成する。

学生は、ある程度の長さのスクリプトを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材の Q&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行った後で、要約文を書く。

**【到達目標】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

1. 学生は、講義や発表の概要をつかめるようになる。
2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
3. 学生は、聞いたことの要約ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- i. スクリプト全体を聞く
- ii. 大意をつかみながらメモを作成
- iii. Q&A、穴埋め問題に解答
- IV. 要約を作成
- v. ディスカッション

授業では、聞き取り、要約文を書き、理解した内容について討論を行い、自分の意見を発表することで、聴解力、文章力、発表する力を伸ばす練習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入
第 2 回	社会問題 1	導入
第 3 回	社会問題 2	発展
第 4 回	社会問題 3	応用
第 5 回	社会問題 4	まとめ
第 6 回	日本事情 1	導入
第 7 回	日本事情 2	発展
第 8 回	日本事情 3	応用
第 9 回	日本事情 4	まとめ
第 10 回	日本の文化 1	導入
第 11 回	日本の文化 2	発展
第 12 回	日本の文化 3	応用
第 13 回	日本の文化 4	まとめ
第 14 回	総まとめ	総まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

1. 復習型の授業。授業後に学生は練習問題で間違った箇所を再度チェックすること。
  2. 要約文は、リライトをし、翌週の授業で提出。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

コピー教材

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本授業で学んだことをもとに応用力をつけてほしいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

1. 授業開始と同時に聴解を行うので、遅刻しないよう心がけてください。
  2. 教室でスマホは使用不可とするので、辞書を持参してください。
  3. 課題がある場合は、授業終了直後に課題を提出します。遅れて提出した場合、評価点は与えられません。
- ※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

Undergraduate listening class -this class will help listening skill of students improve by listening to a script. They will be required to write a summary based on what they have heard and notes they have written.

LANj100LA

**日本語 1 - II**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 1 II**

2017 年度以降入学者

板井 美佐

キ 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学の講義やゼミの受講に必要な日本語の聴解・読解能力を養成する。学生は、ある程度の長さのニュース番組などを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材の Q&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行う。聞き取り練習で扱ったトピックに関する読み物を読み、読みのスキルも同時に養成する。

**【到達目標】**

1. 学生は、講義やゼミの受講に必要な聴解・読解力がつく。
2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
3. 学生は、理解した内容について自分の意見を発表できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- i. ニュース全体を聞く
- ii. 大意をつかみながらメモを作成する
- iii. Q&A、穴埋め問題に解答する
- iv. 要約を作成する
- v. 討論と発表 1
- vi. ニュースのトピックについての文章を読む
- vii. 討論と発表 2

授業では、聞き取り理解した内容について討論を行い、さらに文章を読み、自分の意見を発表することで、聴解力、読解力、プレゼンテーション力を伸ばす練習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入
第 2 回	社会問題 1	導入
第 3 回	社会問題 2	発展
第 4 回	社会問題 3	応用
第 5 回	社会問題 4	まとめ
第 6 回	日本事情 1	導入
第 7 回	日本事情 2	発展
第 8 回	日本事情 3	応用
第 9 回	日本事情 4	まとめ
第 10 回	日本の文化 1	導入
第 11 回	日本の文化 2	発展
第 12 回	日本の文化 3	応用
第 13 回	日本の文化 4	まとめ
第 14 回	総まとめ	総まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習型の授業。授業後は、学生は練習問題で間違った箇所を再度チェックし、きちんと復習することで、授業で学んだことを消化する。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教材・資料を毎回配布。

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：授業への積極的取り組みなど（30%）  
課題：ノートテイキング、穴埋め、Q&A、要約など（50%）  
期末試験（20%）

※4 回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

**【学生の意見等からの気づき】**

本授業で学んだことをもとに応用力をつけていってほしいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

1. 授業開始と同時に聴解を行うので、遅刻しないよう心がけてほしい。
  2. 教室でスマホは使用不可とするので、辞書を持参してください。
  3. 課題がある場合は、授業終了後に課題を提出します。遅れて提出した場合、評価点は与えられません。
- ※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this class is students would be able to listen to the lectures, grasp the point, take a note, and write a summary.

LANj100LA

## 日本語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 1 I

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

## 【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. （可能であれば）読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

本授業は 5 月 7 日（木）から開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

## 日本語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 1 II

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

## 国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

## 【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 %、課題（発表、提出物）40 %、試験 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

## 日本語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 2 I

2017 年度以降入学者

## 山本 そのこ

キ 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。  
対象は日本語を母語としない学部 1 年の学生を基本とする。

## 【到達目標】

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、文法、表現の知識を持ち、必要に応じてこれができる。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の文体や語彙、表現など、必要な基礎知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Google Classroom と Zoom を使い、教科書に沿った課題演習を中心に進行。適宜ハンドアウトによる補充問題の演習も行う。演習には、毎回何らかの作文作成が含まれる。また、授業のはじめに前週の課題のフィードバックと、復習クイズを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第 2 回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文法の接続
第 3 回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第 4 回	文の基本②	・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・パラフレーズ
第 5 回	首尾一貫した文	・呼応 ・複文の適切な使い方
第 6 回	各種記号と引用	・句読点と記号 ・引用文
第 7 回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第 8 回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第 9 回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第 10 回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第 11 回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第 12 回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中、前週の学習内容について、小テストを行うので、復習しておくこと。また、小テストが受けられなかった場合は、その分の評価を受けられないので注意すること。

・授業外学習時間は 30 分を標準とするが、授業内に課題が完成しない場合、また添削後に書き直しが指示された場合は、さらに 30 分ほど必要と想定している。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

## 【参考書】

- ①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク
- ②小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版
- ③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
- ④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への 1 2 のステップ』スリーエーネットワーク

## 【成績評価の方法と基準】

提出物（宿題）と平常点、および授業中のクイズで評価する

★提出物を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、期日を守ることを。

## 【学生の意見等からの気づき】

学部 1 年生は、前期末の各教科の各種レポートの作成に不安や戸惑いがあるので、前期終了段階で基礎的なレポート作成の目安がほしいとの声が多かった。そのため、本授業では、前期終了少し前にはレポート作成技術のある程度習得し、学生のニーズに応えられるように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン（PC が好ましい）

## 【その他の重要事項】

★授業は、4 月 21 日に始まります。

★必ずグーグルクラスルームに登録すること。

★グーグルクラスルームへの参加方法をはじめ、最新情報を Hoppii で確認すること。

また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

・タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

## 日本語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 2 II

2017 年度以降入学者

山本 そのこ

キ 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない、学部 1 年生の日本語作文。  
前半は日本語 2 - I に続くレポートの作成練習、後半は様々な実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

## 【到達目標】

日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に対応して簡潔かつ適切な文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書を用いた演習。  
前半は教科書に沿ったレポート作成の基本を学習する。  
後半は各テーマごとに、問題点を話し合い、その後各自あるいはグループで、与えられた状況に応じた文章の作成を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	意見と根拠①	・効果的な意見の述べ方 ・意見表明の文末表現・
第 2 回	意見と根拠②	・事実と意見のかき分け ・レポート論文における事実文、意見文、行動文の使い方の確認
第 3 回	資料の利用	・資料の探し方と選別、利用のしかた
第 4 回	資料の引用	・引用文の復習 ・参考文献の書き方
第 5 回	レポートの作成①	・レポートの構成と作成のプロセス
第 6 回	レポートの作成②	・レポートのドラフト作成
第 7 回	メールの書き方 お知らせのメール①	・同窓会への招待
第 8 回	お知らせのメール②	・長期欠席の通知
第 9 回	問い合わせのメール	・活動内容の問い合わせ ・資料請求など
第 10 回	お願いのメール① 掲示板やメーリングリストを使う	・本の貸し出し依頼 ・期限の延期願い
第 11 回	お願いのメール②	・アドバイスを求める ・資料提供を求める
第 12 回	掲示板やメーリングリストを使う	・使い方と、トラブル回避の方法
第 13 回	自己アピールをする①	・奨学金などへの応募
第 14 回	自己アピールをする②	・就職・転職活動をする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回から第 5 回までの授業では、授業外学習時間は 20～30 分程度を想定していますが、第 6 回目は、レポート作成のために 3 時間程度は必要です。

第 7 回以降は、原則として、毎回の授業の終わりに課題が与えられるので、期日（授業の次の金曜日 21:00）までにメールで課題を提出すること。7 回目以降の授業に必要な学習時間は、30～40 分を標準とします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

## 【参考書】

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

## 【成績評価の方法と基準】

提出物：60% 平常点：40%

★欠席 4 回以上で履修資格を失うので注意すること。

★遅刻（授業開始後 20 分まで）3 回で欠席 1 回として扱う。

★課題を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、提出期限を守る。

## 【学生の意見等からの気づき】

・トピックによって、グループ活動を行う。

・また、学生の作文の添削作業を一部クラス内で参加者全員で行う。（昨年度後半から学生の意見により導入したところ、好評だったため）

## 【学生が準備すべき機器他】

スマートホン、タブレット、ノート PC などがあれば便利。

## 【Outline and objectives】

This course is basically designed for the first-year students who use Japanese as second language. It provides students with basic knowledge of writing for practical uses, such as e-mails, application forms, reports, etc., as well as academic report writing.

LANj100LA

**日本語 2 - I**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 I**

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

環 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

**【到達目標】**

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

学習支援システムにアップされた文章作成課題に取り組む。  
課題に対する教師からのフィードバックを読み、課題に修正を加える。  
本授業は 5 月 6 日（水）から開始する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入、実力診断作文
第 2 回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎①	「論理的コミュニケーション（論証）」とは何か
第 3 回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎②	「論理的コミュニケーション（論証）」のプロトタイプ（根拠と主張）を理解する
第 4 回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎③	「論拠」について理解する
第 5 回	パラグラフ・ライティングの基礎①	段落を「構成する」ことの重要性を理解する
第 6 回	パラグラフ・ライティングの基礎②	段落の基本構造を理解する
第 7 回	パラグラフ・ライティングの基礎③	「論証する」ために段落を「構成する」ことができる
第 8 回	パラグラフ・ライティングの基礎④	文と文、段落と段落を関連づける、メタ言語の役割を理解する
第 9 回	要約文①	文章の要約を通して、文章の概要（アウトライン）を把握する
第 10 回	要約文②	論文の構造を把握し、論文の概要（アウトライン）を把握する
第 11 回	レポートを書く①	レポートの基本的な書式と形式
第 12 回	レポートを書く②	序論の展開について理解する
第 13 回	レポートを書く③	本論と結論の展開について理解する
第 14 回	総括	今学期の内容を振り返る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

・毎回、プリントを配布する。

・補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくる。

**【参考書】**

適宜指示。

**【成績評価の方法と基準】**

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるように思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

**日本語 2 - II**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 II**

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

環 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

**【到達目標】**

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教員が課した課題に学生は個人またはグループで取り組む。その後、課題に関連した発表を行う場合もある。文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設ける。時間内に終わらなかった場合は、次回の授業までの宿題とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	レポートを見直す①	春学期に提出したレポートを見直し、修正すべき点を検討する
第 3 回	レポートを見直す②	春学期に提出したレポートを見直し、修正を加える
第 4 回	レポートを見直す③	修正したレポートを再度見直す
第 5 回	ミニレポート①	提示されたテーマについて、ミニレポートを作成する
第 6 回	ミニレポート①見直し	作成したミニレポート①を見直し、修正点を検討する
第 7 回	ミニレポート②	提示されたテーマについて、ミニレポートを作成する
第 8 回	ミニレポート②	作成したミニレポート②を見直し、修正点を検討する
第 9 回	論文①	論文を読み、レジメを作成する
第 10 回	論文①	論文を読み、要約を作成する
第 11 回	論文②	論文を読み、レジメを作成する
第 12 回	論文②	論文を読み、要約を作成する
第 13 回	最終課題	論文①②を引用しつつ、ミニレポートを作成する（レポートの構成を考える）
第 14 回	最終課題	論文①②を引用しつつ、ミニレポートを作成する（レポートを執筆する）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教員が提起した問題、あるいは、課した課題に学生は個人でないグループで取り組む。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設けるが、書き終わらなかった場合は、次回までに完成し提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- ・毎回、プリントを配布する。
- ・補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくること。

**【参考書】**

適宜指示。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点 (30%)
- ・各授業の課題 (40%)
- ・期末課題 (30%)

※ 4 回以上欠席した場合は、原則として単位を出さない。

※ 課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

**【学生の意見等からの気づき】**

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※ 最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

**日本語 2 - I**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 I**

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。  
対象は日本語を母語としない学部 1 年の学生を基本とする。

**【到達目標】**

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、文法、表現の知識を持ち、必要に応じてこれができる。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の文体や語彙、表現など、必要な基礎知識を持つ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

Google Classroom と Zoom を使い、教科書に沿った課題演習を中心に行う。適宜ハンドアウトによる補充問題の演習も行う。演習には、毎回何らかの作文作成が含まれる。また、授業のはじめに前週の課題のフィードバックと、復習クイズを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第 2 回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文法の接続
第 3 回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第 4 回	文の基本②	・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・パラフレーズ
第 5 回	首尾一貫した文	・呼応 ・複文の適切な使い方
第 6 回	各種記号と引用	・句読点と記号 ・引用文
第 7 回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第 8 回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第 9 回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第 10 回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第 11 回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第 12 回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・授業中、前週の学習内容について、小テストを行うので、復習しておくこと。また、小テストが受けられなかった場合は、その分の評価を受けられないので注意すること。

・授業外学習時間は 30 分を標準とするが、授業内に課題が完成しない場合、また添削後に書き直しが指示された場合は、さらに 30 分ほど必要と想定している。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

**【参考書】**

- ①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク
- ②小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版
- ③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
- ④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への 1 2 のステップ』スリーエーネットワーク

**【成績評価の方法と基準】**

提出物（宿題）と平常点、および授業中のクイズで評価する

★提出物を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、期日を守ることを。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度から担当するクラスのためアンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン（PC が好ましい）

**【その他の重要事項】**

★授業は、4 月 27 日に始まります。

★必ずグーグルクラスルームに登録すること。

★グーグルクラスルームへの参加方法をはじめ、最新情報を Hoppii で確認すること。

また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

・タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

**【Outline and objectives】**

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

**日本語 2 - II**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 II**

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語を母語としない、学部1年生の日本語作文。  
前半は日本語2-1に続く小論文・レポート作成練習。後半は様々な  
実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

**【到達目標】**

日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に对应して簡潔かつ  
適切な文章表現ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：  
DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、  
キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

前半は小論文・レポート作成の基本を学習する。後半は各テーマご  
とに問題点を話し合い、その後各自あるいはグループで、与えられ  
た状況に応じた文章の作成を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	指示詞	指示詞「こ」と「そ」
第2回	前後の関係	接続詞・接続表現
第3回	前の文に関係づける	「のだ」の文
第4回	意見文①	事実と意見
第5回	意見文②	効果的に意見を述べる
第6回	レポート・論文の作成	小論文・レポート
第7回	レポート・論文の作成	小論文・レポート
第8回	Eメール①	メールの書き方 基礎
第9回	Eメール②	お知らせ
第10回	Eメール③	問い合わせ
第11回	Eメール④	お願い
第12回	自己アピールをする①	奨学金などへの応募
第13回	自己アピールをする②	エントリーシート
第14回	レポート・小論文提出	レポート・小論文提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

原則として、毎回の授業の終わりに課題が与えられるので、翌週に  
印刷して提出すること。毎週 30 分-1 時間必要。小論文・レポート  
作成には 3-4 時間必要。

**【テキスト（教科書）】**

プリント配布

**【参考書】**

- ①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク
- ②二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
- ③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパフレーション演習』スリーエーネットワーク
- ④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク
- ⑤野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

⑥小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』スリーエーネットワーク

**【成績評価の方法と基準】**

提出物・クイズ：60% 平常点：40%

★欠席あるいは遅刻4回以上で履修資格を失うので注意すること。

★課題を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、提出期限を守ることに。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当科目のためフィードバックできません。

**【Outline and objectives】**

This course is basically designed for the first-year students who use Japanese as second language. It provides students with basic knowledge of writing for practical uses, such as e-mails, application forms, reports, etc.

HSS100LA

## Elementary Health and Physical Education 2017年度以降入学者

サブタイトル：

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Understanding the various physical activities and their effect on self-control and physical, mental and social health for life. Students will learn through lectures and practical lessons.

## 【到達目標】

1. Learning about various ways of exercising and their importance.
2. Understanding the basics of a healthy lifestyle.
3. Learning about basic self control and its importance.
4. Exercising simple decision making, leadership, communication in a dependent and co-dependent environment.
5. Creating a demand for future self-education and self-development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Each class will be comprised of either a lecture, film screening, group discussion, practical activities or a combination of these. Also, students will submit the reaction paper as it's necessary.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance (Lecture)	Introduction of the course.
2	Futsal (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Futsal, its basic rules and skills.
3	Volleyball (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Volleyball, its basic rules and skills.
4	Sitting-Volleyball (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Sitting-Volleyball, its basic rules and skills.
5	Badminton (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Badminton, its basic rules and skills.
6	Fitness 1 (Lecture & Practical Lesson)	Learning about warm up, static/dynamic stretches, body weight exercises and resistance training (upper body).
7	Fitness 2 (Lecture & Practical Lesson)	Learning about warm up, static/dynamic stretches, body weight exercises and resistance training (lower body).

8	Table-Tennis (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Table-tennis, its basic rules and skills.
9	New-Sports (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Boccia and Dodgebee.
10	Basketball (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Basketball, its basic rules and skills.
11	Blind-Football (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Blind-Football, its basic rules and skills.
12	Sport and Nutrition (Lecture & Discussion)	Learning about basic principle of sport nutrition.
13	Sport and Society (Lecture & Discussion)	Learning about the importance of sports in society.
14	Sport for Life-long Participation (Lecture & Discussion)	Overview of the course and summarizing what students have learned with discussions about sport for life-long participation and enjoyment.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each student is required to prepare themselves to have a good physical and mental condition in order to participate safely in the lesson. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook will be used.

## 【参考書】

Reference books may be introduced as and if necessary.

## 【成績評価の方法と基準】

Overall Commitment and Attitude to the classes: 70%

Reports &amp; Reaction Paper: 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

## 【その他の重要事項】

・Each student is required to bring their own proper sports wear and indoor shoes.

・The order and content of each class can be changed/modified due to the number of participants and available facilities.

・If students do not feel well or have (possible) injuries before or after the class, students must inform their condition to the teacher for safety.

## 【Outline and objectives】

Understanding the various physical activities and their effect on self-control and physical, mental and social health for life. Students will learn through lectures and practical lessons.

LANr100LA

## ロシア語 1

2017 年度以降入学者

LANr100LA

## ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

木部 敬

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

## 【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。これにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示するので、同システムの情報を常に確認するようにしてください。本授業の開始日は5月6日水曜とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

ロシア語をはじめ学ぶ学生を対象とします。「ロシア語 1 II」とセットになっています。また、「ロシア語 2 I」と提携して行なわれる授業です。ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから、英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。毎回小テスト等で復習しながら、着実にものにしていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。

⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。  
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、5月6日の授業開始以降、学習支援システムで提示します。以下は変更前の方法と基準です。参考にしてください。

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

## 【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.).

LANr100LA

**ロシア語 3**

2017 年度以降入学者

LANr100LA

**ロシア語 1 II**

2017 年度以降入学者

木部 敬

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

**【到達目標】**

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2 II」と提携して行なわれる授業です。ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。問題を繰り返し解く反復練習を行い、春学期にも増して小テスト等での復習を重視します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形など。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

**【テキスト（教科書）】**

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。  
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

**【学生の意見等からの気づき】**

音声教材をより一層利用するよう努める。

**【Outline and objectives】**

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA

**ロシア語 2**

2017 年度以降入学者

LANr100LA

**ロシア語 2 I**

2017 年度以降入学者

土岐 康子

国 1 年非 SA

**【Outline and objectives】**

This class is for students learning Russian for the first time. Start with how to read and write Cyrillic (Russian), and then we will begin learning simple greetings and grammar. Practice of pronunciation and intonation peculiar to Russian are performed using audiovisual materials.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

**【到達目標】**

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音し、イントネーションを意識して文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるのに伴い、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでお知らせします。授業は基本的に課題提示 → 課題提出 → 添削などの流れになります。授業開始日は 4 月 24 日です。ロシア語 1 との提携授業です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化	第 1 変化の説明と練習
10	動詞の現在人称変化	第 2 変化の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	既習事項の復習	既習事項のまとめと復習
14	既習事項の確認	既習事項の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

**【参考書】**

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法を変更します。具体的には授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

LANr100LA

**ロシア語 4**

2017 年度以降入学者

LANr100LA

**ロシア語 2 II**

2017 年度以降入学者

土岐 康子

国 1 年非 SA

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

**【到達目標】**

動詞の形（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の順に授業を進めます。

なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	運動の動詞	行先と交通手段の表現
4	形容詞などの格変化	形容詞などの格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と練習
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有・否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格を要求する前置詞など
12	格変化の復習①	名詞の格変化の総復習
13	格変化の復習②	形容詞などの格変化の総復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

**【参考書】**

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

LANk100LA

**朝鮮語 1**

2017 年度以降入学者

LANk100LA

**朝鮮語 (1) I**

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

**【到達目標】**

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 課/第 2 課	基本母音字/子音字その 1
2	第 3 課/第 4 課	子音字その 2/子音字その 3
3	第 5 課/第 6 課	7 つの終声/用言の「ですます」形
4	第 7 課/第 8 課	激音/合成母音字
5	第 9 課/第 10 課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第 11 課/第 12 課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第 13 課/第 14 課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課/第 16 課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第 17 課/第 18 課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第 19 課/第 20 課	過去形その 1/過去形その 2
13	第 21 課/第 22 課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語 3**

2017 年度以降入学者

LANk100LA

**朝鮮語 (1) II**

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言 (動詞、形容詞など) に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式 (同一の教材を用いて一体の授業として行なう) によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席 (遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります) がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANK100LA

**朝鮮語 2**

2017 年度以降入学者

LANK100LA

**朝鮮語 (2) I**

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

朝鮮語の文字 (=ハングル) を学び、その上で文法の初歩を学びます。

**【到達目標】**

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

4 月 23 日授業開始

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式 (同一の教材を用いて一体の授業として行なう) によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 課/第 2 課	基本母音字/子音字その 1
2	第 3 課/第 4 課	子音字その 2/子音字その 3
3	第 5 課/第 6 課	7 つの終声/用言の「ですます」形
4	第 7 課/第 8 課	激音/合成母音字
5	第 9 課/第 10 課	濃音/連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課/第 12 課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第 13 課/第 14 課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課/第 16 課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第 17 課/第 18 課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課/第 20 課	過去形その 1/過去形その 2
13	第 21 課/第 22 課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席 (遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります) がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語 4**

2017 年度以降入学者

LANk100LA

**朝鮮語 (2) II**

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言 (動詞、形容詞など) に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式 (同一の教材を用いて一体の授業として行なう) によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席 (遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります) がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

PRI100LA

Elementary Information Technol- 2017年度以降入学者  
ogy

サブタイトル：

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn basic knowledge about information technology.

## 【到達目標】

You will learn basic knowledges of information technology, especially computer architecture, algorithmic programing, data science, and the mechanism of the Internet and related subjects (social network, e-commerce, ethics, security).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国  
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学  
部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

The 2/3 time will be used for lectures and the rest for  
assignments.【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What's Information Technology	The history and the current trend of information technology.
2	Data Processing	Several kinds of data and how to process data.
3	Information Processing	Define the information and how to process and communicate information.
4	Computing Technology	Architecture of computing system. From old fashioned type to super computer.
5	Algorithmic Programming	Design algorithms for solving problem.
6	Data Science - Predicting	Predicting the future being given the past data.
7	Data Science - Classification	Classifying the data according to certain criteria.
8	Communication Technology	Understanding the information communication technology.
9	Internet Protocol	TCP/IP
10	Mechanism of email and World Wide Web (WWW)	Based on server/client system, encoding/decoding information and TCP/IP makes it possible, email and www.
11	e-Commerce	the core technology of e-commerce is public key encryption and block chain.
12	Social Network	Graph theory: understanding the relation among entities.
13	Internet Ethics and Security	Several aspects of ethics and security inherent in the Internet.

14 Final Examination examination performed with  
paper and pencil.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We specify a short article related to the next class in advance,  
you should read, understand, bring the issue discussed in the  
article. Preparatory study and review time for this class are 2  
hours each.

## 【テキスト（教科書）】

None.

## 【参考書】

All texts are uploaded in Etude.

## 【成績評価の方法と基準】

Total evaluation of 14 short assignments : 50%

The score fo the final examination: 50%

You need more than and equal to 60% of the max 100 points to  
pass the class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他の重要事項】

I have a long carrier in writing and designing for automatic  
programming, teaching human knowledge to computer, espe-  
cially natural language.

## 【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

## Information Technology

2016年度以前入学者

サブタイトル：

Yukou MATSUDA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn the information and communication technology with Python programming.

## 【到達目標】

You will learn the information and communication technology with Python programming. The main topics are the forms of information, knowledge representation of human knowledge, and autonomous systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course will start at April 23 by an online lecture due to the covid\_19. You need register your student account for this class until April 23 in Learning Support System Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>. The detail of how to get the on line lecture is explained on the course page. Please read the detail in advance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Forms of Information	raw data, text, audio and visual data.
2	Information Theory	the measure of uncertainty-ness.
3	Encoding / Decoding of Information	encoding/decoding information between human and machine or machine and machine
4	Information System: Knowledge Representation Tool	knowledge representation for which machines understand.
5	Natural Language vs. Artificial Language	language as a communication tool.
6	Syntax (grammar) and Semantics of language	grammar and meaning of natural language and artificial language.
7	Ontology: the Network of Meaning	Hierarchy of knowledge.
8	Teaching Human Knowledge to Machines	Knowledge engineering.
9	Human Intelligence and Artificial Intelligence	Intelligent system.
10	Complex Systems	The world is constructed as a complex system.
11	Modeling the System	Model definition of the system.
12	Simulating the System	Evaluating the model by simulating the system.
13	Automatic IT and Autonomous IT	Automatic programming.
14	Final Assignment	Final Assignment.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We specify a short article related to the next class in advance, you should read, understand, bring the issue discussed in the article. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None.

## 【参考書】

All texts are uploaded in Etude.

## 【成績評価の方法と基準】

Total evaluation of 14 short assignments : 50%

The score fo the final assignment 50%

You need more than and equal to 60% of the max 100 points to pass the class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

none.

【その他の重要事項】

I have a long carrier in writing and designing for automatic programming, teaching human knowledge to computer, especially natural language.

【Outline and objectives】

You will learn the information and communication technology with Python programming.

CAR100LA

## Elementary Career Development 2017 年度以降入学者

サブタイトル：What you should know to work in Japan

源島 福己

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は将来日本で就職を希望する外国人留学生を対象に、仕事とキャリアの意味や意義について考えさせ、日本社会の現状と企業組織の持つ特徴を理解した上で、就職活動やキャリア形成に必要な意識、態度、具体的な知識を身につけさせるのが狙いです。授業は英語で行われます。また授業内の議論も多く、その結果を発表したりレポートを書くための英語力が必要です。

## 【到達目標】

Students should be able to explain:

(1)their personal profiles including such as strengths and weaknesses, values, aspirations, skills and life styles,(2)differences between job and career and the work they would like to do,(3)characteristics of Japanese companies,(4)necessary skills and competencies that are required from the Japanese society,(5)necessity to explore internships and job opportunities spontaneously.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course consists of lectures by the instructor, discussions and presentations by the students on each theme. Sometimes students are required to create a worksheet during the class and write a report as an assignment after the class. All of the class activities will be conducted in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Outline of what you learn throughout the course is briefly explained. Also self-introduction by the instructor and each participant is planned. You should introduce yourself by saying such as (1) the town where I was born, (2) why I decided to study in Japan and at Hosei Univ., (3) what I am interested in doing and achieving during study abroad.

Week 2	Higher Education and Career Development	By understanding the current situation of increasing youth unemployment and non-regular employment in Japan, you should learn how important it is to make a proper job selection and its influence on your career formation.
Week 3	Telling a Life Story to Know Yourself	Understanding about yourself better is the first step that you should take to find a job that suits you and develop your career later on. So let's learn what a life story telling is, how it works to know you better and experience it with the other class members.
Week 4	Presentation of Your Life Story	This is the time for you to talk about a story highlighting a memorable moment to review how your personality, interests, sense of values, abilities and life style have been influenced by it and let others get to know you better.
week 5	Fundamental Skills for a Working Person	There are a couple of fundamental skills that you need to know and acquire before you enter the world of work in Japan. These are minimum requirements from society for any new worker and highly valued in Japan.
Week 6	Intercultural Competence	The world we live in today is getting more and more globalized and interdependent. So you will very likely to work with people speaking different languages, having different sense of values, behaviors and customs based on their cultural backgrounds. How can you get along with them?
Week 7	Life Roles and Career Development	People today may live longer than their parents did. So you may have more works to do and roles to play in your entire life course. Think about what those life roles are and how you can balance them with your job and career in order to maintain quality of your life.
Week 8	Personality and Work Environment for Job Selection	You will learn about several personality types, relationship between people of each personality type and their preferred job environment to know what job will likely to match your personality type through an occupational interest test.
Week 9	Corporate Culture and Business Practice	If you want to get and maintain a job and pursue a career in Japan you should know about the cultural characteristics of the company and its business practices to get along with the other members of the team.

Week 10	Human Resource Management in Japan	Human resource management plays a very important role for the operation and functions of the company. So you need to know what and how they proceed with the daily work.	【None】 None 【None】 None 【None】 None
Week 11	Japanese MSC (Medium to Small Sized Companies) as Your Job Targets	The Japanese economy has been supported by and dependent on a large number of MSC (medium to small sized companies). In this respect you should know more about them and consider them as potential candidates of your job hunting in the future.	【None】 None 【None】 None 【None】 None 【Outline and objectives】 This course aims to enhance consciousness and practical knowledge about a job and a career of the international students who want to work in Japan. For this purpose the course will mainly cover areas such as knowing oneself, thinking about a job and a career and understanding the Japanese society including such as company's human resource management system, business practices, corporate culture and others that are indispensable for the international student to understand to prepare for the job hunting activities in Japan.
Week 12	How Japanese Company Recruits and Fosters Young Employees	Even if you could successfully get a job offer, you would probably be not so confident in your ability to cope with the job requirements. But you do not need to worry too much about it if you knew how Japanese company helps foster young employees.	【None】 None 【None】 None 【None】 None 【Outline and objectives】 This course aims to enhance consciousness and practical knowledge about a job and a career of the international students who want to work in Japan. For this purpose the course will mainly cover areas such as knowing oneself, thinking about a job and a career and understanding the Japanese society including such as company's human resource management system, business practices, corporate culture and others that are indispensable for the international student to understand to prepare for the job hunting activities in Japan.
Week 13	Lecture by the Guest Speaker	Hearing stories from the people working and ask questions about pros and cons of working in Japan will give you good insights and hints when you select your job and career.	【None】 None 【None】 None 【None】 None 【Outline and objectives】 This course aims to enhance consciousness and practical knowledge about a job and a career of the international students who want to work in Japan. For this purpose the course will mainly cover areas such as knowing oneself, thinking about a job and a career and understanding the Japanese society including such as company's human resource management system, business practices, corporate culture and others that are indispensable for the international student to understand to prepare for the job hunting activities in Japan.
Week 14	Review and Report Writing	You will review what you learned and considered in this course and write a final report about it. Your report must also include what you would like to be and work for based on your understanding of yourself, job and career, Japanese society and the world of work today.	【None】 None 【None】 None 【None】 None 【Outline and objectives】 This course aims to enhance consciousness and practical knowledge about a job and a career of the international students who want to work in Japan. For this purpose the course will mainly cover areas such as knowing oneself, thinking about a job and a career and understanding the Japanese society including such as company's human resource management system, business practices, corporate culture and others that are indispensable for the international student to understand to prepare for the job hunting activities in Japan.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

This course requires preparation and review of around 4 hours a week for a two-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Materials to be used and/or previewed will be designated or delivered by the instructor appropriately.

**【参考書】**

1. Robinson, Ken, & Aronica, Lou. 「 Finding Your Element: How to Discover Your Talents and Passions and Transform Your Life」, Viking Adult (May 21, 2013)
2. Tim Clark, 「Business Model You」, John Wiley & Sons, Inc.

**【成績評価の方法と基準】**

There will be no mid-term and final in-class examination. Grading is decided by the following criteria:

- (1) Participation and Learning Attitude (20%)
- (2) Report Writing (60%)
- (3) Discussion and Presentation (20%)

**【学生の意見等からの気づき】**

Not Available

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

None

【None】

None

【None】

None

ART100LA

## Elementary Humanities A 2017年度以降入学者

サブタイトル：Japanese Literature I.

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views.

## 【到達目標】

1. to learn about major literary works in their historical and cultural context
2. to gain deeper understanding of the different philosophical backgrounds that have influenced the way of thinking in Japan and the West
3. to improve your English vocabulary regarding the topic

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course is based on lectures by the instructor featuring the use of written and audio-visual materials. In addition, every student will be required to deliver a class presentation on a given topic and to submit a short written summary of the presentation and an essay. The topics together with the study materials for the presentation will be distributed at the beginning of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction to course; scheduling of presentations
2.	Historical overview of Japanese literature	Brief overview of major literary works in their historical context with a focus on the <i>Nara</i> and <i>Heian</i> periods
3.	Japanese perception of nature, Part 1	Definition of nature and corresponding terms in Japanese; Japanese love for nature and its various aspects; Japanese vs. Western concepts of nature
4.	Japanese perception of nature, Part 2	The four seasons as one of the central concepts in Japanese culture and literature; the concept of transformation and change, harmony of <i>yin</i> and <i>yang</i> ; perception of time

5.	Natural images in classical Japanese poetry	Literal and figural meaning of images; metaphors in Japanese vs. Western poetic tradition; pivot-words ( <i>kahekotoba</i> )
6.	Key concepts of Japanese aesthetics	Four aesthetic concepts in Japanese culture and literature; demonstration of these concepts in <i>Essays in Idleness</i> by the Buddhist priest <i>Kenkō</i>
7.	Japanese mythology	<i>Records of Ancient Matters (Kojiki)</i> ; Japanese mythology vs. Western ideological concepts (Greek mythology and Christianity)
8.	Japanese poetry, Part 1	The role of poetry from ancient times through the era of <i>Man'yōshū (Collection of Ten Thousand Leaves)</i> to the flourishing era of imperial poetry anthologies
9.	Japanese poetry, Part 2	Long and short poetic forms ( <i>chōka</i> and <i>tanka</i> ); believed to be the first Japanese poem in the fixed form; major themes and literary devices in classical poetry
10.	Japanese prose, Part 1	Japanese tales and its various genres; the oldest preserved tale ( <i>The Tale of the Bamboo Cutter; Taketori Monogatari</i> ) and the collection of poem tales ( <i>Tales of Ise; Ise Monogatari</i> )
11.	Japanese prose, Part 2	Flourishing of women writers in the <i>Heian</i> period with a focus on two prominent figures <i>Murasaki Shikibu</i> and <i>Sei Shōnagon</i> and their works <i>The Tale of Genji (Genji Monogatari)</i> and <i>The Pillow Book (Makura no Sōshi)</i>
12.	Okinawan language and poetry – Introduction	Languages of the Ryūkyū Islands as part of the Japanese language group; language rules in Okinawan poetry <i>ryūka</i>
13.	The world of Okinawan poetry	The oldest preserved collection of old epic songs <i>Omorosōshi</i> ; Okinawan lyrical poetry <i>ryūka</i>
14.	Course wrap up	Submit short summary of presentation and essay; final written exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Prepare a short self-introduction
  2. Reading: handout on anthology of Japanese literature
  3. Reading: Asquith 1-35
  4. Readings: Asquith 36 – 53; handout related to the topic
  5. Readings: Asquith 54 – 67; handout on Western poetry
  6. Reading: Keene 3 – 22
  7. Reading: handout on the *Kojiki*
  8. Reading: Keene 47 – 69
  9. Reading: Keene 25 – 44
  10. Readings: Keene 73 – 95; handout on Japanese tales
  11. Reading: handout on women's classical prose
  12. & 13. Reading: text by lecturer on Okinawan poetry
  14. Submit short summary of presentation and essay; final written exam
- Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

Asquith, Pamela J. and Arne Kalland, ed. *Japanese Images of Nature*. Richmond: Curzon Press, 1997.

Keene, Donald. *The Pleasures of Japanese Literature*. New York: Columbia University Press, 1988.

All necessary study materials and handouts will be provided by the lecturer.

Students don't need to purchase the textbooks.

## 【参考書】

Keene, Donald. *Anthology of Japanese Literature*. Rutland, Vermont & Tokyo: Charles E. Tuttle Company, 1956. Twenty-second edition, 1991.

McCullough, Helen Craig. *Classical Japanese Prose: an Anthology*. Stanford: Stanford University Press, 1990.

Miner, Earl. *An Introduction to Japanese Court Poetry*. Stanford: Stanford University Press, 1968.

## 【成績評価の方法と基準】

Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination and essay (60%).

## 【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

## 【Outline and objectives】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views.

ARSA100LA

## Elementary Humanities B

2017年度以降入学者

サブタイトル：UK Society &amp; Culture

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulation audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

## 【到達目標】

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills. Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

The previous lesson's reading assignment will be reviewed before a pair-work preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.

Pair-work comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing discussion will offer more chances to analyze the material. Time permitting, there will be structured conversation practice before outlining the following week's homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Overview	Course Introduction
2	Listening & Speaking	Presentation Guidance
3	Listening & Speaking	The Seven Wonders of Britain
4	Listening & Speaking	Wales
5	Listening & Speaking	BBC
6	Listening & Speaking	The Mini
7	Listening & Speaking	The Village
8	Listening & Speaking	British Tea
9	Listening & Speaking	The Purple Violin
10	Listening & Speaking	Sherlock Holmes

11	Listening & Speaking	Agatha Christie
12	Listening & Speaking	The Sea
13	Listening & Speaking	London Taxis
14	Listening & Speaking	UK Public Schools

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Regular reading assignments with comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation.No more than 3 absences will be permitted. Preparatory study and review time for this class are about 1 hour for each.University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

None

**【参考書】**

An electronic dictionary or smartphone dictionary will be required at every lesson

**【成績評価の方法と基準】**

Participation & Punctuality 30%

Homework & Classwork 30%

Presentation 20%

Report 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

A more comprehensive vocabulary preview will be provided for students having difficulty with audio-visual comprehension.

**【学生が準備すべき機器他】**

Access to a PC & Printer in order to prepare a PowerPoint presentation & print final report

**【その他の重要事項】**

Since there is no textbook in this course, students will need to bring an A4 or B4 folder or binder to each class in order to keep the photocopies that will be handed out at every lesson.

**【None】**

None

**【None】**

None

**【None】**

None

**【None】**

None

**【None】**

None

**【Outline and objectives】**

In addition to offering a greater understanding of contemporary UK culture, the course encourages students through the presentation & report to critically compare & contrast UK culture & society with their own.

POL100LA

Elementary Social Science A 2016年度以前入学者

サブタイトル：Introduction to International Law

SCHIFANO ADRIEN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims at introducing basic notions of international law. First part of the course introduces main subjects of international law and focus in particular on elements of statehood. A second part will discuss how norms of international law are created. Finally, a third part will provide these elements with some dynamism by examining the course of normal relations between States.

## 【到達目標】

By the end of this course, it is expected that students will have become familiar with:

1. basic notions of international law
2. current international issues
3. functioning of the international system

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Classes will consist in alternating lectures and more practical assignments.

The first class will occur on April 23, at 13:00 as scheduled. Students will be provided with further information by email and on Hoppii. Please check announcements on Hoppii and report on your capacity to attend classes online.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction; Subjects (1)	Characters of international law / The State (1): statehood / sovereign government / territory / population / recognition / self-determination / succession
2.	Subjects (2)	The State (2): more on territory / acquisition / the sea / the sky / outer space / servitudes
3.	Subjects (3)	The State (3): more on population / individuals / groups of individuals / Other subjects / Peoples / Belligerents / Insurgents / subjects ad hoc / International Organizations
4.	Subjects (4)	Short test (quiz). Review of the first part of the class. Study of material and documents: the maritime territory of Japan
5.	Norms (1)	General Observations / Formal sources / Art. 38 ICJ statute / Customary law / two elements doctrine / practice / opinio juris / persistent objector / Taxonomy / Principles of International Law
6.	Norms (2)	Treaties / Definition / Taxonomy / Sources of the law of treaties / Conclusion / Entry into force / Good faith / Reservations / Vices of consent / Termination / Contents / Interpretation / Relation to custom

7.	Norms (3)	Other sources / case law / scholarship / municipal law / acts of international organizations / equity / Implementation of international norms / Relations between international and municipal law / dualism / monism / Reciprocity / Counter-measures / Short test (quiz).
8.	Norms (4)	Review of the second part of the class. Study of material and documents.
9.	Relations between States (1)	Basic Principles of Contemporary International Law / States jurisdiction / territorial / personal / States immunity from jurisdiction / Sovereign immunities / Diplomatic immunities
10.	Relations between States (2)	Responsibility / Basic mechanism / International responsibility of states / Components / international wrongful act / causal link / damage / Reparation / Exemptions / Other consequences
11.	Relations between States (3)	Law of War / Prohibition of war / Self-defense / Conditions / Pre-emptive self-defense / Collective self-defense / Humanitarian law / the Hague Conventions / the Geneva Conventions and their protocols / War crimes / Crimes against humanity / International criminal court and tribunals
12.	Relations between States (4)	Peaceful settlement of disputes / Taxonomy / Negotiation / Good offices, mediation, conciliation / Arbitration / Permanent Court of Arbitration / Judicial Settlement / International Courts / UN Charter / UN dispute settlement system / Security Council / General Assembly / International Court of Justice / ICJ jurisdiction and States

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As a preparation for each class, students will be assigned some readings from the textbook. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Acquisition of the following textbook is necessary:  
LOWE, Vaughan, "International Law: A Very Short Introduction" (2015; Oxford University Press) 144 pages, ISBN 13: 978-0199239337

## 【参考書】

www.un.org  
Jan KLABBERS, International Law, 2nd ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316506608  
Malcolm SHAW, International Law, 8th ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316638538

## 【成績評価の方法と基準】

Participation in class and short tests: 50%  
Final examination (to be held during the test period): 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

Outline revised. Course contents modified. Grading criteria changed. Textbook added.

## 【学生が準備すべき機器他】

Some paper and a pen.

## 【Outline and objectives】

This course aims at introducing basic notions of international law. First part of the course introduces main subjects of international law and focus in particular on elements of statehood. A second part will discuss how norms of international law are created. Finally, a third part will provide these elements with some dynamism by examining the course of normal relations between States.

POL100LA

Elementary Social Science B 2017年度以降入学者

サブタイトル：Basic Legal Concepts

スキハノ アドリアン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

## 【到達目標】

By attending this course, students will be able to:

- understand basic legal concepts,
- build a foundation for studying more specialized fields of law,
- acquire basic legal knowledge that will complement their studies in other fields,
- handle better daily life situations by acquiring a feeling of what is legally correct and what is not, which will hopefully help them to remain free from abuses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

The course will introduce one new concept each week. In so doing, the class will consist in lecture and discussion. In addition, the course will rely on studying excerpts from classical works. Practice for this course will consist in text commentaries.

The course follows a progression so that each class is dependent on previous classes; hence, students may find it easier to follow classes if they have consistent attendance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Rationale for the course and overview / Law, what? / Legal science, what? / Panorama of modern law / Methodology
2.	Justice	Suum cuique / Justice, what? / Equality, what? / Contemporary approaches
3.	Legal order (1): Forms of government	Legal order, what? / Typology / Social functions / Constitution, what? / Horizontal distribution of powers / Legislative, what? / Executive, what? / Judiciary, what?

4.	Legal order (2): Forms of state	Vertical distribution of power / Federalism and its rules / Classification / Changes in power and constitutional change
5.	The Subject of Law (1): Personality	Subject of law, what? / Equality, how? / Typology / Issues
6.	The Subject of Law (2): Capacity	Capacity, what? / Capacity v. rights / Variations of legal capacity / Guardianship / Agency / Delegation
7.	The Norm (1): Validity	Norm, what? / Typology / Formal sources / Sphere of validity
8.	The Norm (2): Legal System	Set of norms, what? / Hierarchy / Classification / Relations among norms
9.	The Legal Relation	Legal relation, what? / Rights / Obligations / Powers / Typology
10.	Horizontal Relations (1): Agreement	Agreement, what? / Contract, what? / Basic principles / Forms / Contents
11.	Horizontal Relations (2): Responsibility	Responsibility, what? / Evolution / Typology / Civil responsibility / Components / Basic principles / Procedures
12.	Vertical Relations (1): Public order	Public order, what? / Authority / Police / Criminal responsibility / Offense, what? / Basic principles / Procedures
13.	Vertical Relations (2): Public interest	Public interest, what? / Public service, what? / Basic principles / Procedures, issues
14.	Human Rights Conclusion	Human rights, what? / History / Typology / Protection at several levels / Enforcement

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are strongly encouraged to read the material for each class beforehand. Homework will be (moderately) requested. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook will be used. Students will be provided with the material necessary for each class.

## 【参考書】

Jaap HAGE and Bram AKKERMANS (editors) *Introduction to Law* (2014, Springer)

## 【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including homework and discussion): 40%

Presentation (number of presentations per student will depend on the number of students attending the course): 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

Material for the class has been reviewed.

## 【学生が準備すべき機器他】

A pen and some paper might prove useful.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

MAT100LA

## Elementary Mathematics A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

SGU コース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who need calculus to study business, economics, or other related business majors. In particular, the course will review the basic ideas you need to start calculus. The topics include exponential and logarithmic functions, arithmetic and geometric sequences, graphing basic functions, graphing exponential and logarithmic functions, limit of a sequence, limit of a function.

## 【到達目標】

At the end of this course, students will demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries 1
02.	Basics and Key Terms	Preliminaries 2
03.	Exponential Functions	Functions and Graphs 1
04.	Logarithmic Functions	Functions and Graphs 2
05.	Graphing Basic Functions	Functions and Graphs 3
06.	Shifting and Stretching Graphs	Functions and Graphs 4
07.	Inverse Functions	Functions and Graphs 5
08.	Graphing Exponential Functions	Functions and Graphs 6
09.	Graphing Logarithmic Functions	Functions and Graphs 7
10.	Composite Functions	Functions and Graphs 8)
11.	Arithmetic and Geometric Sequences	Limits 1

12. Sigma Notation and Limits 2  
Sequences of Differences
13. Limit of a Sequence Limits 3
14. Limit of a Function Limits 4

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a text book. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

## 【参考書】

You don't need to prepare references.

## 【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

## 【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

## 【Outline and objectives】

In this class, we study basic mathematics for preliminary to understand calculus.

MAT100LA

## Elementary Mathematics B 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Takeyoshi KOGISO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

SGU コース

## 【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

## 【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

## 【Outline and objectives】

In this class, you will learn the basics of calculus by doing exercises.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a calculus course intended for those studying business, economics, or other related business majors, and a continuation of topics from "Elementary Mathematics II". The following topics are presented with applications: derivatives, differentiation rules, derivative of an exponential function and logarithmic function, higher-order derivative, Taylor and Maclaurin series, integrals.

## 【到達目標】

Students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries
02.	The Derivative and the Slope of a Graph	Differentiation: Basic Concepts 1
03.	Some Rules for Differentiation	Differentiation: Basic Concepts 2
04.	The Product and Quotient Rules	Differentiation: Basic Concepts 3
05.	The Chain Rule	Differentiation: Basic Concepts 4
06.	Derivatives of Exponential Functions	Differentiation: Basic Concepts 5
07.	Derivatives of Logarithmic Functions	Differentiation: Basic Concepts 6
08.	Higher-order Derivatives	Differentiation: Basic Concepts 7
09.	Extrema and the First-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 1
10.	Concavity and the Second-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 2
11.	The Mean Value Theorem, Taylor's Theorem	Additional Applications of the Derivative 3
12.	Taylor and Maclaurin Series	Additional Applications of the Derivative 4
13.	Approximate Values	Additional Applications of the Derivative 5)
14.	Antiderivatives, Differential Equation	Additional Topics 1

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a textbook. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

## 【参考書】

You don't need to prepare references.

BSP100LA

**基礎ゼミ I**

2017 年度以降入学者

**安孫子 信**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

〈アランの『幸福論』と出会う〉

「読む、調べる、理解する、その上で考える」という、哲学の一連の作業の練習をすることが、この授業の目的です。その練習台となるのは、「この世でもっとも美しい本の一つ」（フランスの作家アンドレ・モロワ）とも言われるアランの『幸福論』です。

**【到達目標】**

- 読めない漢字もなく、文を声に出して読むことができる。
- 不可解な語もなく、文一つ一つの意味を理解できる。
- 文と文のつながりを論理的にたどることができる。
- 文章全体の主旨を把握し、それに対して自分の考えを持つことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

※オンラインで授業を 4 月 21 日に開講します。

授業では、フランスの哲学者アラン（1868-1951）が「プロポ」（語録）と名づけて書き残した短文を取り上げ、「読む、調べる、理解する、その上で考える」という一連の作業を行っていきます。そのうち、授業で主に行うのは「理解する、その上で考える」の部分です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方を確認し、テキストの先行部分の説明を行います。
2	王様は退屈する (1)	読みと理解
3	王様は退屈する (2)	批判と考察
4	欲すること (1)	読みと理解
5	欲すること (2)	批判と考察
6	雨の中で (1)	読みと理解
7	雨の中で (2)	批判と考察
8	克服 (1)	読みと理解
9	克服 (2)	批判と考察
10	始めている仕事 (1)	読みと理解
11	始めている仕事 (2)	批判と考察
12	幸福は徳である (1)	読みと理解
13	幸福は徳である (2)	批判と考察
14	総括	参加者からの問題提起を受けて、全体で総括の討論を行います。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

「読む、調べる、理解する、その上で考える」のうち、「読む、調べる」は家で予習で行ってください。「理解する、その上で考える」は授業での作業ですが、これについても家で復習をし、リアクションペーパーを提出してもらいます。学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

アラン『幸福論』（神谷幹夫訳、岩波文庫）

**【参考書】**

桑原武夫編『アラン・ヴァレリー』（中公バックス・世界の名著 66）

アンドレ・モロワ『アラン』（佐貫健訳、みすず書房）

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業への積極的参加（30％）とリアクションペーパーの提出（30％）、および学期末レポート（40％）で評価します。なおそれぞれの方法において、4つの到達目標への到達度は、語の読みと意味調べ 30％、論理的理解 30％、哲学的理解 40％の割合で勘案します。

**【学生の意見等からの気づき】**

グループ討論を始め、できるだけ皆さんの間で話し合ってもらおう機会を作りたいと思っています。

**【Outline and objectives】**

The goal of this lesson is to meet Alan's "On Happiness". Alan's "On Happiness" is said to be "one of the most beautiful books in the world" (André Maurois). While repeating the basic work of the philosophy of read and think, encounter with this book will be realized.

BSP100LA

**基礎ゼミⅡ**

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

デカルトの『省察』をテキストとして、文章を理解し、その内容について議論したりプレゼンテーションしたりする練習をします。授業は基本的に教師との質疑応答形式で進めていきますので、受講生にはテキストを予習し、教師からの質問に積極的に答えようとする姿勢を求めます。

**【到達目標】**

- (A) 文章を曖昧さを残さずに理解するとはどのようなことかがわかり、それを実践することができる。  
 (B) まとまった学術的内容についてわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

全員で一文一文、テキストを読み進めていきます。そのなかで、随時、テキストの内容にかんする質問が教師からなされるので、指名された受講生はそれに答えます。すぐに答えが出ない場合には全員で議論をします。最終回に、それまでに読んだ文章の内容についてグループに分かれてプレゼンテーションします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の進め方と概要の説明
第2回	『省察』 省察一①	疑いをさしはさみうるものについて
第3回	『省察』 省察一②	読解と議論
第4回	『省察』 省察二①	人間の精神の本性について
第5回	『省察』 省察二②	読解と議論
第6回	『省察』 省察三①	神について
第7回	『省察』 省察三②	読解と議論
第8回	『省察』 省察四①	真と偽について
第9回	『省察』 省察四②	読解と議論
第10回	『省察』 省察五①	物質的事物の本質とふたたび神について
第11回	『省察』 省察五②	読解と議論
第12回	『省察』 省察六①	精神と身体の区別について
第13回	『省察』 省察六②	読解と議論
第14回	総括	プレゼンテーション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。全員がテキストの該当箇所を予習し、授業での質問に備えます。プレゼンテーションの担当グループのメンバーは教師の指示に従い、協力してプレゼンテーションの準備をします。

**【テキスト（教科書）】**

R. デカルト著・井上庄七・森啓・野田又夫訳『省察 情念論』、中央公論新社（中公クラシックス）、2002年。  
購入するのが望ましいですが、希望者にはコピーを配ります。

**【参考書】**

授業で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業での取り組みが60%、プレゼンテーションの内容が40%です。上記到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

議論の深まりと授業の進行速度のバランスを取るよう心がけます。

**【Outline and objectives】**

In this course, using Descartes' *Meditations* as a course text, students will practice understanding a written text and discussing and giving a presentation about its content. The class proceeds based on the questions and answers between teacher and students, so students are required to prepare for the class and be willing to answer the questions from teacher.

BSP100LA

## 基礎ゼミⅠ

2017年度以降入学者

西塚 俊太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『人生論ノート』の各断章を下敷きにしなが、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の基礎の習得を目指す。

## 【到達目標】

- ・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

予定通り4月21日開始です

- (1) 受講者全員に三木清の『人生論ノート』内の各断章を発表担当箇所として割り当てる。
- (2) 担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	三木清『人生論ノート』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明
第2回	大学での学習とゼミについて	ゼミ形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 ゼミでの議論の形式
第3回	「死について」 「幸福について」	三木清『人生論ノート』の「死について」「幸福について」の二断章に関する発表と議論
第4回	「懐疑について」 「習慣について」	「懐疑について」「習慣について」の二断章に関する発表と議論
第5回	「虚栄について」 「名誉心について」	「虚栄について」「名誉心について」の二断章に関する発表と議論
第6回	「怒について」 「人間の条件について」	「怒について」「人間の条件について」の二断章に関する発表と議論
第7回	「孤独について」 「嫉妬について」	「孤独について」「嫉妬について」の二断章に関する発表と議論
第8回	「成功について」 「瞑想について」	「成功について」「瞑想について」の二断章に関する発表と議論
第9回	「噂について」 「利己主義について」	「噂について」「利己主義について」の二断章に関する発表と議論
第10回	「健康について」 「秩序について」	「健康について」「秩序について」の二断章に関する発表と議論
第11回	「感傷について」 「仮説について」	「感傷について」「仮説について」の二断章に関する発表と議論
第12回	「偽善について」 「娯楽について」	「偽善について」「娯楽について」の二断章に関する発表と議論

第13回 「希望について」 「希望について」「旅について」の二断章に関する発表と議論

第14回 「個性について」 「個性について」に関する発表と全体の総まとめの発表、それにまつわる議論  
総まとめの発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

三木清『人生論ノート』（新潮文庫）

教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

## 【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『人生論ノート』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎ゼミの主目的の一つである。参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40%）と講義内での発言や講義への参加姿勢（38%）と学期末レポート（22%）の合算によって評価する。

講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさない。事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

## 【学生の意見等からの気づき】

質疑応答・討論の時間をより長く確保するために、時間配分をいっそう心掛けて演習を運営していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

## 【その他の重要事項】

2020年度春学期は講義計画に大幅な変更が生じます。特に学期始めは教室での演習ではなくオンラインで実施する可能性が極めて高いので、大学からの情報や通知、掲示板による連絡に十分注意してください。履修希望者は Hoppii への「仮登録」をなるべく早めに行ってください。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史  
<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究  
<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第2号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第26輯』、2019）

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Life theory notes" by Miki Kiyoshi.

BSP100LA

## 基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

奥田 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文(哲)1年

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

主として文学部哲学科の1年生を対象とするこの授業では、哲学原典のテキスト(日本語訳本文)を読み、それに関する文章を書き、そして問題となる「ことがら」を考え・論じるトレーニングを行う。これらの作業をとおして、「自分の頭で考える」ことを自覚しながら「考える練習」をしてもらいたい。

この授業では、西洋哲学の大本にあるギリシア哲学の古典の中から『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を読む。ソクラテスはどのような理由で裁判にかけられ、何を法廷で語り、どのようにして死刑判決は確定したのか。また、死刑執行を目前に脱獄の準備をととのえ、ソクラテスを連れ出そうとする親友クリトンに対して、ソクラテスはどのような理由で獄中にとどまったのか——。ソクラテスの弟子プラトンが著わした、これら二つの作品をとおして、ソクラテスその人の思想を探り、その思想はわれわれにとってどのような意義をもつのかを考察する。このような考察により、哲学・思想がもつ生命力をわがものとしてとらえてみるのがテーマである。

## 【到達目標】

『弁明』と『クリトン』の内容(各場面)を思い描きながら、そこで扱われている「問題」を正確にとらえ、その「問題」についてみずから考え、その考えを他者に伝えることができるようになること、そして上の【授業の目的】に記した主旨をふまえ「哲学とは何か」について自分なりの考えをもつことが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は毎回報告者(発表者)が担当箇所の「要旨」、「重要事項」、「疑問点・考察」を発表し、それを糸口にして出席者で討議し内容理解を深める。履修者は必ず1回は報告(発表)を担当する。詳細は秋学期の初回時に説明するので、必ず出席すること。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の詳細説明と『ソクラテスの弁明』『クリトン』の概略説明。
第2回	『ソクラテスの弁明』(以下『弁明』)第1-5章の発表にもとづく検討・理解	ソクラテスの法廷における基本姿勢、神託事件
第3回	『弁明』第6-10章の発表に基づく検討・理解	無知の自覚
第4回	『弁明』第11-15章の発表に基づく検討・理解	メレトスへの反論
第5回	『弁明』第16-20章の発表にもとづく検討・理解	ソクラテスの愛知・哲学
第6回	『弁明』第21-25章の発表にもとづく検討・理解	ソクラテスの正義

第7回 『弁明』第26-30章 有罪判決へのソクラテスの対応の発表にもとづく検討・理解

第8回 『弁明』第31-33章 ソクラテスの生死の発表にもとづく検討・理解/『弁明』のまとめ

第9回 『クリトン』第1-5章 クリトンによる脱獄の説得章の発表にもとづく検討・理解

第10回 『クリトン』第6-10章の発表にもとづく検討・理解

第11回 『クリトン』第11-15章の発表にもとづく検討・理解

第12回 『クリトン』第16-17章の発表にもとづく検討・理解/『クリトン』のまとめ

第13回 『弁明』、『クリトン』 ソクラテスの哲学・思想における思想の検討・理解

第14回 全体のまとめ/レポート提出

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で疑問点を提出できるように『ソクラテスの弁明』、『クリトン』を熟読し内容をよく考えること。参考文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

『プラトン』(中公クラシック)を使用する。各自用意すること。

## 【参考書】

『ソクラテス』(岩波新書) その他は初回時にプリントを配布して説明する。

## 【成績評価の方法と基準】

① 授業での報告・発表(20%) ② 毎回の討議への貢献度(20%) ③ 小レポート(20%) ④ 期末レポートの内容(40%)により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

In this class we read Plato's "The Apology of Socrates" and "Crito". The objects of the class are careful reading, understanding of the ways the characters think (and the author thinks) and estimation of their (his) thoughts, and by practicing these works students will go into training for their own thinking.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

小島 尚人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

文(英) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

## 【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

初回授業は 4 月 24 日 (金) です。

\*\*\*\*\*

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 (第 1 回目)

第 13 回 Presentations 3 グループによる調査・発表 (第 2 回目)

第 14 回 Presentations 4 グループによる調査・発表 (第 3 回目)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

## 【参考書】

必要に応じて、そのつと教員が指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

## 【その他の重要事項】

\* 英文学科 1 年生は必ず履修してください。

## 【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

田中 裕希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

文(英) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

## 【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は 4 月 24 日です。オンライン授業の方法や課題は、学習支援システムでお知らせします。

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Library Tour	図書館の使い方
第 3 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 1 回目
第 13 回	Presentations 3	グループによる調査・発表 2 回目

第 14 回 Presentations 4 グループによる調査・発表 3 回目

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

## 【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続きアクティブにディスカッションしていく。

## 【その他の重要事項】

\*英文学科 1 年生は必ず履修してください。

## 【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

小島 尚人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

文(英) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

## 【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

初回授業は 4 月 24 日 (金) です。

\*\*\*\*\*

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 (第 1 回目)

第 13 回 Presentations 3 グループによる調査・発表 (第 2 回目)

第 14 回 Presentations 4 グループによる調査・発表 (第 3 回目)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

## 【参考書】

必要に応じて、そのつと教員が指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

## 【その他の重要事項】

\* 英文学科 1 年生は必ず履修してください。

## 【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

丹治 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文(英) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

## 【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日、4月24日

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方

第 12 回 Presentations 2: グループによる調査・発表 1 Group Presentations, 第 1

回目

第 13 回 Presentations 3: グループによる調査・発表 2 Group Presentations, 第 2

回目

第 14 回 Presentations 4: グループによる調査・発表 3 Group Presentations, 第 3

回目

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

## 【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト) から総合的に評価します [授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%]。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

## 【その他の重要事項】

\* 英文学科 1 年生は必ず履修してください。

## 【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文（史）1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までの受け身の学習を脱し、大学生として必要な学習上の心構えと技術を身につける。大学での学習においてはレポート・論述試験・ゼミ発表など、自主的に学び、かつ自分の言葉で表現することが求められる。これらに主体的に向きあい、大学生としてふさわしい学習方法について検討・実践していく。

## 【到達目標】

大学生としての授業への参加方法を理解する。

論説文の読み方と要約方法が身につく。

資料の集め方、レポートの書式と執筆方法、発表資料の作成方法を習得する。

ゼミ発表の方法を実践する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていくが、授業中に出るさまざまな課題に取り組み、大学の授業への向き合い方を考える授業とする。各回のテーマにもとづく意見交換・討論・発表・レポートなどを通じて授業内容を共有することになる。

[2020.4.17 追記] 春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要説明
第2回	ノートの作り方 1	学習計画と大学の授業形態
第3回	ノートの作り方 2	役立つノートとは何か
第4回	テキスト・論文の読み方 1	一般的な文章と論説文の違い
第5回	テキスト・論文の読み方 2	論説文を読み込む
第6回	図書館の利用と情報検索	図書館とデータベースの利用
第7回	キャリア・ガイダンス	自己の将来を考える
第8回	要約の方法 1	要約とは何か
第9回	要約の方法 2	要約の実践
第10回	レポートを書く 1	レポートの書式
第11回	レポートを書く 2	レポートの内容
第12回	レジュメの作り方 1	レジュメの書式
第13回	レジュメの作り方 2	レジュメの内容・ゼミ発表の心構え
第14回	成果提出と講評	レポート提出と講評

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストを事前に読んでおくこと。レポート等の課題には必ず対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）2006『大学基礎講座 改増版』北大路書房（税込2,090円）

[2020.4.17 追記] 教科書の入手が困難となることが予想されることから、当面の間は『法政大学学習支援ハンドブック』を利用する。

## 【参考書】

歴史学関係の文献等は授業中に紹介する。授業内ではプリント等も利用する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）：30% 授業内課題への取り組み：30%  
期末レポート：40%

ただし、3回以上の連続欠席者および出席率70%未満のものは自動的に単位を失う。

[2020.4.17 追記] オンライン授業の期間においては、小レポート等で参加態度や発言・発表内容を評価する。その際 Web 会議システム等の活用もあり得る。授業への出席と提出物は必須である。

## 【学生の意見等からの気づき】

大学での学業を修めるためには授業内外における多様な課題に応えながら、自らを高めていく必要がある。この授業では多くの場面を通じて大学生として必要な姿勢と技術について伝えることにしたい。

## 【Outline and objectives】

The aim of this class is to ensure that the learners acquire the learning skills appropriate for a university student.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文(史)1年

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的に学び、考えることの出来る自分を構築する

### 【到達目標】

自分と他者を見つめる目を養成し、その上で「主体的に学ぶとは如何なる行為か」、そして「授業とは何か」「自分がいかに授業に関わっていくか」について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち以下に関連している。文学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

課題を設定し授業内で発表を行ってもらいます。

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムかメールを用いて行っていきます。学習支援システムと大学の割り当てたアドレス宛てのメールをこまめに確認するようにしてください。授業開始日は4月23日になります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自分を知る	大学生生活の出発点を考える
第2回	まとめる・書く(1)	情報のまとめ方の実践的トレーニング:1回目
第3回	まとめる・書く(2)	情報のまとめ方の実践的トレーニング:2回目
第4回	まとめる・書く(3)	情報のまとめ方の実践的トレーニング:3回目
第5回	読む・説明する(1)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:1回目
第6回	図書館を使う	図書館の利用法を学ぶ
第7回	読む・説明する(2)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:2回目
第8回	キャリアを考える	キャリアセンターによる授業
第9回	読む・説明する(3)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:3回目
第10回	読む・説明する(4)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:4回目
第11回	読む・説明する(5)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:5回目
第12回	読む・説明する(6)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:6回目
第13回	読む・説明する(7)	読み方、まとめ方、報告の仕方の実践的トレーニング:7回目
第14回	大学と社会	社会との関わりの中から大学生生活を考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

報告やレポートの準備をしてもらいます。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

### 【参考書】

特になし。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート・発表 50%

いずれも単にこなすだけでなく、主体的な取り組みが出来るようになってきたか否かで評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【その他の重要事項】

授業の予定は変わることがあります。

### 【Outline and objectives】

Improving skills to study and critical minds

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

高澤 紀恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文(史)1年

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「市ヶ谷を歴史する」をテーマに、自分の身近な場を歴史的な考察の対象としてみましょう。グループで調査・報告し、各人が短いレポートを書く中で、大学で学ぶ基礎的スキルを身につけましょう。

## 【到達目標】

史学科の学生として、今後四年間、主体的に歴史を考え、学ぶための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。具体的には図書館での文献資料の探し方、レジュメの書き方、報告の仕方、レポートの書き方などのスキル習得を目指します。

☆4月23日の授業開始までに授業支援システムを通して最初の三週分の進め方をお知らせします。その後は状況を見つつ進めましょう。見落としがないように気をつけてください。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・「市ヶ谷を歴史する」を共通テーマに、具体的な研究テーマを探してみましょう。

・そのために親しみやすく学問的な本をみんなで読んでみましょう。

・街を歩いてみましょう。プランを一緒に考えましょう。

・ゼミ生を6グループにわけます。各グループごとにリサーチし、報告してみましょう。

・ひとりひとり短いレポート(2000字+注+参考文献表)を書いてみましょう。

☆4月23日から授業支援システムを最大限に用いて授業を始めます。お知らせなどに注意しておいてください。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	歴史を学ぶとは? なにを歴史する? 文献発表と小フィールドトリップのグループ分け(3グループ)
2	本を読んでみよう①	陣内秀信『東京の空間人類学』前半の講読と議論
3	本を読んでみよう②	陣内秀信『東京の空間人類学』後半の講読と議論
4	問いを立ててみよう	「市ヶ谷を歴史する」テーマ探しとグループ分け
5	図書館に行ってみよう	資料の探し方、見分け方を身につけよう。
6	街を歩いてみよう	小フィールドトリップ: 市ヶ谷を歩こう。
7	キャリア・ガイダンス	将来を考えてみよう。 (グループごとに文献リストを提出)
8	グループ発表①	「市ヶ谷を歴史する」テーマ① 中世の市ヶ谷?
9	グループ発表②	「市ヶ谷を歴史する」テーマ② 近世の市ヶ谷?
10	グループ発表③	「市ヶ谷を歴史する」テーマ③ 近代の市ヶ谷?

11	グループ発表④	「市ヶ谷を歴史する」テーマ④ 現代の市ヶ谷?
12	グループ発表⑤	「市ヶ谷を歴史する」テーマ⑤ 世界の中の市ヶ谷?
13	グループ発表⑥	「市ヶ谷を歴史する」テーマ⑥ 明日の市ヶ谷?
14	まとめ	全体討論 (レポート提出)

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①文献講読 or 小フィールドトリップの担当(グループ作業)

+

②「市ヶ谷を歴史する」のグループ報告(グループ作業)

+

③各人でレポート作成(2000字本文+脚注+文献表)

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

陣内秀信『東京の空間人類学』筑摩文庫、1992年

## 【参考書】

・斎藤望編『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2006年。

・テッサ・モーリス＝スズキ『Doing History 「歴史」に対して、わたしたちができること』弦書房、2017年。

・上田信『歴史を歴史家から取り戻せ!』清水書院、2018年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(ディスカッションへの参加)10%

①の課題 25%

②の課題 25%

③レポート 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

はじめて大学生になった学生たちになすべき課題、ゼミへの参加態度(していけないこと、すべきこと)をもっと明確に提示すべきであったと思います。今年度は最初の授業できちんと全員で共有したいと思います。授業支援システムをもっと上手に活用したいと思います。

## 【その他の重要事項】

☆4月23日の授業開始までに授業支援システムを通して最初の三週分の進め方をお知らせします。その後は状況を見つつ進めましょう。見落としがないように気をつけてください。

## 【Outline and objectives】

This course aims to get a necessary academic skill as a student of the history department. Let's practice "doing history on Ichigaya."

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

長井 純市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文(史)1年

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

授業の概要：大学生としての学習に関わる心構えとスキルを養い、キャリア形成に向けた積極的な姿勢を確立する。

目的：大学生としての安定した生活と積極的な学習姿勢を確立する心構えを得る。授業内容の正確な把握・理解と発展的な自主学習のためのスキルを得る。大学卒業後のキャリア形成に向けて展望を得る。

## 【到達目標】

到達目標：1) 大学生として社会的責任を自覚し、誇りを持つこと。2) 授業内容を理解し定着させ、さらに深めるスキルを得ること。3) 大学での学習のために必要な諸施設を活用することが出来ること。4) 協調性を持って学習に取り組む姿勢を確立すること。5) 大学の諸制度を利用して学生生活を充実させることが出来るようになること。6) 大学卒業後のキャリア形成に関わる見通しを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業の進め方：講義形式である。

方法：受講生の能動的な学習促進と双方向的な授業運営とを図り、教員と受講生との授業内コミュニケーションを密にする。また、受講生による発表を取り入れる。

下の「その他の重要事項」を参照のこと。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の説明。
第2回	法政大学学(愛校心と持続的社会的貢献)	法政大学と文学部の歴史について学ぶ。また、受講生各自の抱負を述べるショートプレゼンテーション。
第3回	ノート・テーキング(学習スキル)	ノート・テーキングの方法について学ぶ。また、模擬授業とノート・テーキング実践。
第4回	学術文献利用法(学習スキル)	学術文献(図書・論文)の調査・利用法について学ぶ。
第5回	図書館利用法(学習スキル)	図書館において専門職員のガイダンスを受ける。
第6回	レポートの書き方(学習スキル)	レポートの書き方を学ぶ。レポート作成実践。
第7回	キャリア形成(人生百年時代と社会的貢献)	キャリアセンターの専門職員によるガイダンスを受ける。
第8回	論文の書き方(学習スキル)	卒業論文を想定した書き方について学ぶ。
第9回	ウェブサイト利用法(IT利用学習)	アカデミックなウェブサイトの紹介とその利用法を学ぶ。
第10回	留学と外国語修得(グローバル化)	留学に関わる学内の諸制度と外国語修得に関わる諸施策について学ぶ。
第11回	プレゼンテーション(IT利用学習)	ゼミ発表を想定したプレゼンテーションについて学ぶ。

第12回 プレゼンテーション実践(1)(学習スキルとコミュニケーション力)

第13回 プレゼンテーション実践(2)(学習スキルとコミュニケーション力)

第14回 まとめ

受講生によるプレゼンテーションと質疑応答、合評会。  
受講生によるプレゼンテーションと質疑応答、合評会。  
授業総括と質疑応答。まとめのレポート作成・提出。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習：参考書を読むこと。

復習：宿題に取り組むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

刊本としてのテキストは使用しない。プリントを配布する。

## 【参考書】

藤田哲也『大学基礎講座改増版』(北大路書房)

佐藤望ほか『大学・学びのことはじめ』(ナカニシヤ出版)

アラン・プリンクリほか『シカゴ大学教授法ハンドブック』(玉川大学出版会)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点60%、期末レポート40%。なお、特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、不合格の評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック出来ません。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムの掲示板に、毎回授業の要点を記すので、それを利用することが出来るIT機器。

## 【その他の重要事項】

「図書館利用法」と「キャリア形成」は、それぞれ担当講師の都合により、日程が変更になることがある。なお、この2回は共に他の基礎ゼミクラスと合同で行われる。

新型コロナウイルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学Web学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。

今学期の授業初日は、4月23日である。

## 【Outline and objectives】

This is a class for a fresh student who will adjust him/her to college education and campus. This class has three main points. The first point is that through this class every student is expected to have pride and awareness of responsibility as a college student. The second one is students obtain skills necessary to study subjects they want to take. The third is students have confidence and a good prospect for their career after the graduation of this university.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

羽佐田 紘大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文(地) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、大学での能動的な学習に必要な基礎的なスキルの修得を目指す。

## 【到達目標】

文献や資料を自ら調べ、内容を理解した上で、レポート作成やプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

## 【変更前】

演習形式で行う。授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくレポート作成やプレゼンテーションについて学んでいく。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月30日(木)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【変更後】

授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくレポート作成やプレゼンテーションについて学んでいく。通常の対面授業は困難なため、学習支援システム上で授業を実施する。状況に応じて ZOOM や Google Classroom を用いる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法を説明する。
第 2 回	大学におけるハラスメント	ハラスメントに関する講習を受ける。
第 3 回	図書館の利用	図書館の利用方法を学ぶ。
第 4 回	視覚的な自己紹介	PowerPoint を使って自己紹介をする。
第 5 回	文献の検索	個々の興味に沿って文献を検索する。
第 6 回	文献の紹介	ビブリオバトルを行う。
第 7 回	レポートの作成 (1)	レポートを作成するための基本的なスキルを学ぶ。
第 8 回	レポートの作成 (2)	レポートを作成するにあたって各自テーマを設定し、資料探しを行う。
第 9 回	レポートの作成 (3)	設定したテーマに基づいてレポートを作成する。
第 10 回	プレゼンテーション (1)	作成したレポートに基づいてプレゼンテーションの準備を行う。
第 11 回	プレゼンテーション (2)	全体を 3 グループに分けた上で、1 グループ目のメンバーが各自プレゼンテーションを行う。
第 12 回	プレゼンテーション (3)	全 3 グループのうち、2 グループ目のメンバーが各自プレゼンテーションを行う。

第 13 回 プレゼンテーション (4) 全 3 グループのうち、3 グループ目のメンバーが各自プレゼンテーションを行う。

第 14 回 ディベート これまでのプレゼンテーションの内容を参考にディベートを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表準備など授業時間外での取り組みが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

使用しない。授業内で適宜プリントの配布や文献の紹介を行う。

## 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %)、レポート (30 %)、プレゼンテーション (30 %) により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上で授業を実施するため、各自 PC (※ Word や PowerPoint 等インストール済み) を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

## 【その他の重要事項】

授業各回の順序は講習の予約状況によって入れ替わることがある。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic skills required to learn in university.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

中俣 均

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文(地) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これから大学で学ぶために必要な姿勢と技法を身につける事が目的である。地理学科の学生であることを意識するなら、書斎(研究室または教室)とフィールド(野外すなわち現実に人々が生活する現場)との往復運動により、学問的知見を獲得していくのが基本的な態度であるが、初年次科目であるため、デスクワークに比重を置いた授業となる。

## 【到達目標】

これから大学生として知的な生活を送っていくために必要な諸事項を身につけることが到達目標である。具体的には、現代の大学生にふさわしい「読み・書き・ソロバン(ならぬパソコン)」、すなわち、①通俗的なものでない専門的な書物や論文を読む、②長短を問わず達意の文章を書く、③それらを達成するための情報収集の方法と整理の仕方を身につける があげられる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義と実習との組み合わせになる。春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日を 4 月 23 日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業内容の説明と出席者の確認など
第 2 回	知的な学生生活とは?	大学という場・空間の持つ意味、学生の本分、市ヶ谷キャンパス学内探検
第 3 回	文献探索の方法	研究に用いる文献の種類。文献の存在と所在
第 4 回	図書館の利用法	法政大学図書館での利用実習
第 5 回	具体的な邦語文献の読み方(1)	対象文献の決定と読破
第 6 回	具体的な邦語文献の読み方(2)	文献内容の要約と発表 1 回目
第 7 回	具体的な邦語文献の読み方(3)	文献内容の要約と発表 2 回目
第 8 回	具体的な英語文献の読み方(1)	欧文文献について
第 9 回	具体的な英語文献の読み方(2)	文献内容の要約と発表 1 回目
第 10 回	具体的な英語文献の読み方(3)	文献内容の要約と発表 2 回目
第 11 回	文章の書き方	的確で明晰な文章とはどのようなものか。レポート作成法。
第 12 回	課題エッセイを書く	文章の種類と書式。学問的な文章の書き方。
第 13 回	課題エッセイへの講評	課題エッセイへの個人別講評

第 14 回 口頭発表のしかた 口頭発表のしかた

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

提出を求められた課題を締切までにきちんと成し遂げて提出すること。A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊(数十円で買える)用意して、毎回の授業内容(時分でとったノート、配布された資料プリントなど)を、適宜綴じ込んで整理しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

・法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター編(2020):『法政大学学習支援ハンドブック 2020』  
 ・・・・これは大学から無料で全員に配布される

## 【参考書】

・Pauline E. Kneale(2003): Study Skills For Geography Students; A Practical Guide, Second Edition. (Arnold)

・・・地理学科事務室の図書室に配架されている。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

いわゆるプレゼンの演習的なことを授業に加えてほしいという要望があった。それを全く拒否するわけではないが、限られた授業回数であり、技術的なことを学ぶのはより専門的な科目を自主的に履修してからにほしい。本科目では、口先だけのプレゼンよりも、何を伝えるかの中身の充実をまず図るべきというのが担当者の考えである。

## 【学生が準備すべき機器他】

指示された授業時に個人用のパソコン(個人所持のもの、あるいは大学からの貸し出しパソコン)を用意すること。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the fundamental skills about thinking and making your life as a university student, especially how to read and write and argue about Geography.

BSP100LA

## 基礎ゼミⅠ

2017年度以降入学者

小寺 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文(地) 1年

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

大学で自発的に勉強するための基本的な情報、知識、方法について学び、高校までの受動的学習との違いに戸惑うことなく、大学生活にスムーズに適応するための導入的授業である。

## 【到達目標】

大学での勉強は、教科書を鵜呑みにすることではなく、批判的に読むこと。卒業時に取得する学士号とは専門分野で何らかの創造をした証である。最高学府の学生として、自信と自覚をもって行動できるようにするための基礎的事項を習得することを到達点とする。

具体的には、専門ゼミに入る前段階として、大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

具体的な内容として、図書館での文献検索の実習、文献の収集、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習する。大学生として、主体的に各課題に取り込むこと。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
2	文献検索の方法	図書館での実習を含め、様々な検索の方法を学ぶ。
3	キャンパスの構造	市ヶ谷キャンパスや近隣キャンパスの様子を理解する。
4	雑誌論文と専門書	地理学科図書室や文献センターで専門書や雑誌論文を検索し、具体的に参照してまとめる。
5	文章の書き方①	大学の試験答案、レポートを書くための基本的スキルを、参考文献を読みながら学習。短い3分間コラム。
6	文章の書き方②	大学の試験答案、レポートを書くための基本的スキルを、参考文献を読みながら学習。少し長い10分間コラム。
7	文章の書き方③	大学の試験答案、レポートを書くための基本的スキルを、参考文献を読みながら学習。少し時間をかけて推敲する文章に取り組む。
8	文章の書き方④	具体的なテーマを設定し、文献レビューを行ったうえで、具体的な資料を収集し、考察した結果を小論文としてまとめる。
9	自分で考える①	教員がテーマを設定して、それに関して意見を述べる。一般的なテーマ。
10	自分で考える②	教員がテーマを設定して、それに関して意見を述べる。地理学全般のテーマ。

11	自分で考える③	教員がテーマを設定して、それに関して意見を述べる。具体的な地理学の分野に関するテーマ。
12	テーマの発表①	課題を与え、パワーポイントでプレゼンテーション。 一般的なテーマに取り組む。
13	テーマの発表②	課題を与え、パワーポイントでプレゼンテーション。 地理学全般のテーマに取り組む。
14	まとめ	学生の課題に対する講評

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

レジュメ(要約)やパワーポイントを授業の前に自宅および大学で準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

木下是雄著「レポートの組み立て方」(ちくま学芸文庫)

## 【参考書】

授業内で適宜、紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

出席 30%、課題 40%、発表 30%、授業への積極的な参加を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

個人差を踏まえて、ゆっくりと進めながらも、限られた期間内での能力育成を目指す。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンによるプレゼンテーションが前提なので、基本的なスキルと機器を準備しておく必要がある。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

## 【Outline and objectives】

This is an introductory lesson for students to learn basic information, knowledge, and methods for studying voluntarily at university and to adapt smoothly to university life without being puzzled by the differences from passive learning up to high school.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

小原 文明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文(地) 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は初めて大学で学ぶ者のための入門・基礎科目に位置づけられ、大学における学問とはどのようなものであるのかを理解するための授業です。高校までの学問とこれから大学で学ぶ学問との大きな違いは、より能動的に取り組む姿勢が求められる点と、自分の考えを論理的な思考の下で表明することが必要となってくる点にあります。そこで、本授業ではそれらの点に留意して、「問題意識を持つ」、「調べる」、「発表する・意見を述べる」、「文章を書く」ことに主眼を置いた演習を行います。

## 【到達目標】

本授業を通じて、大学で学ぶ上での意識・姿勢を理解し、基礎的な知識・技術を身に付けられるようになります。また、物事の見方・論理的な考え方についても修得することを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業は演習(ゼミナール)形式で行います。具体的な授業内容は、①新聞記事や文献の紹介・発表、②簡単なフィールド調査の実施および発表、③関心あるテーマについての発表を行います。ゼミ形式の授業なので、発表担当者はレジュメや配布資料を作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うこととなります。また、各発表について参加者全員でディスカッションを行います。したがって、各回のテーマに合わせて、授業内外にて主体的に課題に取り組むことが求められます。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう授業計画の変更は授業を通じてあらかじめ提示します。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムにて提示します。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要について、大学における学問とは
第2回	自己紹介・出身地の紹介	自分についてのプレゼンテーション
第3回	問題意識・テーマの見つけ方	生活の中から問題・テーマを考える
第4回	文献の探し方	図書館等で文献の検索方法を学ぶ
第5回	新聞記事に関する発表・討論①	関心がある記事についてのプレゼンテーション
第6回	新聞記事に関する発表・討論②	新聞記事に関するディスカッション
第7回	書籍に関する発表①	関心がある書籍に関するプレゼンテーション
第8回	書籍に関する発表②	書籍に関するディスカッション
第9回	フィールド調査入門①	身近な場所について考える
第10回	フィールド調査入門②	キャンパス周辺の現地調査
第11回	テーマ別調査・発表①	テーマ設定・調査
第12回	テーマ別調査・発表②	調査内容に関するプレゼンテーション
第13回	レポートの作成①	レポート等学術的文章のルールについて

第14回 レポートの作成② レポートの書き方・まとめ方のコツについて

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の性質上、定期的に授業外でのレポート課題等を課すので、積極的に取り組む姿勢が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準としますが、授業外課題の内容によってはその限りではありません。

## 【テキスト(教科書)】

文献の紹介・発表では、社会的な問題を扱ったテキストを用います。テキストの詳細は授業の中で紹介します。

## 【参考書】

関連する文献については、授業中に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、課題：50%で評価します。具体的には、平常点については発表やディスカッション等における授業への取り組む態度を基に総合的に評価を行います。また、課題については提出状況や内容によって評価を行います。授業の性質上、必ず出席することを前提とします。大学生として求められる能動的・積極的な姿勢を期待します。

なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまなない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は学習支援システムや授業を通じて提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生がより能動的に取り組めるテーマ・内容を設定し、必要なリテラシーが修得できるよう配慮します。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are to help students get active approach to learning at the university and present their own thoughts logically. The students taking this course need to make presentations and discuss various subjects in order to achieve these aims.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

藤田 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

文(心)1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

\*この授業は当面、オンデマンド方式（必ずしも授業開始時刻に学習支援システムに接続しなくても大丈夫です）で行います。ただし、毎週の課題提出が必須になります。

授業開始は 4 月 24 日です。当日の朝には第一回の教材を学習支援システムにアップしますので、それを確認の上、課題に取り組んでください。

春学期の基礎ゼミ I では、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

## 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書けること」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べること」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第 4 回	初年次教育とは	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践
第 9 回	図書館の利用	PC を利用した情報検索法と、図書館ツアー

- 第10回 レポートの書き方1 大学レポートが要求すること、基本レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる
- 第11回 レポートの書き方2 レポートや試験の出題意図をふま効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる
- 第12回 レポート提出と自己評価 レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認  
レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく
- 第13回 ここまでの総括 これまでの授業内での「気づき」基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える
- 第14回 レポート返却 自己評価と教員評価の比較と自己レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

- 第1回 教科書第0講の予習  
第2回 教科書第1講の予習とノートの見直し  
第3回 教科書第2講の予習と、ノートの整理  
第4回 教科書補講の予習とこれまでの総復習  
第5回 教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題  
第6回 教科書第4講の予習・再度の要約課題  
第7回 教科書第5講の予習・教科書の練習課題  
第8回 教科書第5講の予習・練習課題の実施  
第9回 教科書第6講の予習・情報検索の宿題  
第10回 教科書第7講の予習・第8回宿題見直し  
第11回 教科書第8講の予習・練習課題直し  
第12回 レポート作成・春学期総復習  
第13回 「気づき振り返りシート」作成  
第14回 これまでのプリント類の整理と振り返り

#### 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

#### 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた0～10点までの評価とします。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「履修してよかった」は1限は3.27（去年は4.55）、2限は3.86（去年は4.44）でした。これはこれまでにない低い値なのですが、昨年までと授業の内容も進め方も特に変更していませんから、どう解釈してよいのか理解に困っています。最終回での時間配分のミスで、回答者が少なかったため、自由記述欄からも改善のためのヒントが得られず反省しています。例年は好評を得ている内容なので、低い評価が今年度の一部の受講生に限定したことなのか次年度に様子を見ることにします。

#### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.



- 第14回 総括 秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎を振り返り、自分にゼミで身につけたことの意識化としての意味を説明できる

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第1回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する  
第2回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する  
第3回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる  
第4回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習  
第5回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習  
第6回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備  
第7回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習  
第8回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習  
第9回 本発表に向けて構想の練り直し  
第10回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす  
第11回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習  
第12回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習  
第13回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する  
第14回 一年間この授業で学んできたことを、二年度以降の学習目標に活かすための展望を持つ

#### 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 -充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

#### 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…授業へ出席し積極的に班活動に参加することを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価(未受験)とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

2019年度はWで15名、Xで全員が「履修してよかった」で5あるいは4と回答してくれました。これは例年よりかなりよい結果ですが、2019年度は履修する学生の比率が低かったのですが、もしかしたら例年否定的に受け止める層がそもそも受講していなかっただけでもありません。いずれにせよ、せっかく受講してくれた人からは基本的に肯定的な意見が寄せられて一安心ですし、次年度も今年度と同様の授業を行う予定です。多くの人が「かなり大変だったがやりがいがあった。成長できた」と自由記述に書いてくれました。その通りで、楽な道ばかり選んでいたら成長できないということを、今後も忘れずに学生生活を送ってください。授業外学習時間も例年より長く、週に2時間以上の人はWで12名、Xで17名でしたが、ほとんど行っていない人もいます。2018年度はかなり短かったので、全員が班活動にコミットするよう、言葉がけを多く行った成果だとは思いますが、全員に効果を持ったわけではなさそうです。2年次の心理学測定法Ⅰでも班活動をしますので、そこでは授業での班活動に工夫をしてみます。

#### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

BSP100LA

## 基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

藤田 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

文(心)1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

\*この授業は当面、オンデマンド方式（必ずしも授業開始時刻に学習支援システムに接続しなくても大丈夫です）で行います。ただし、毎週の課題提出が必須になります。

授業開始は4月24日です。当日の朝には第一回の教材を学習支援システムにアップしますので、それを確認の上、課題に取り組んでください。なお、この授業は学習支援システム上は金1（Wクラス）に集約された形で運用します。仮登録するとWクラスに登録されたように見えると思いますがエラーではないので安心してください。

春学期の基礎ゼミ I では、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

## 【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書けること」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べること」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解 この授業の教育目標を理解し、自分なりに説明できるようになる
第2回	ノートの取り方1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる 高校と大学の授業の違いをふまえ、ノートの取り方を工夫できるようになる
第3回	ノートの取り方2	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件 ノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を 得る
第4回	初年次教育とは	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連 「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようになる
第5回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成 読解を困難にする要因を理解し、文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようになる
第6回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約 元の文章からの抜粋ではなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる
第7回	きちんと考える方法1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味 情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し、実践できるようになる
第8回	きちんと考える方法2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践 自分の意見を持ち、適切に表現するための基本テクニックを使えるようになる
第9回	図書館の利用	PCを利用した情報検索法と、図書館ツアー 高校の図書室と大学図書館の違いを理解し、適切に蔵書検索できるようになる

- 第10回 レポートの書き方1 大学レポートが要求すること、基本レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる
- 第11回 レポートの書き方2 レポートや試験の出題意図をふま効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる
- 第12回 レポート提出と自己評価 レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認  
レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく
- 第13回 ここまでの総括 これまでの授業内での「気づき」基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える
- 第14回 レポート返却 自己評価と教員評価の比較と自己レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

- 第1回 教科書第0講の予習  
第2回 教科書第1講の予習とノートの見直し  
第3回 教科書第2講の予習と、ノートの整理  
第4回 教科書補講の予習とこれまでの総復習  
第5回 教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題  
第6回 教科書第4講の予習・再度の要約課題  
第7回 教科書第5講の予習・教科書の練習課題  
第8回 教科書第5講の予習・練習課題の実施  
第9回 教科書第6講の予習・情報検索の宿題  
第10回 教科書第7講の予習・第8回宿題見直し  
第11回 教科書第8講の予習・練習課題直し  
第12回 レポート作成・春学期総復習  
第13回 「気づき振り返りシート」作成  
第14回 これまでのプリント類の整理と振り返り

#### 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために -」, 北大路書房

#### 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた0～10点までの評価とします。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「履修してよかった」は1限は3.27（去年は4.55）、2限は3.86（去年は4.44）でした。これはこれまでにない低い値なのですが、昨年までと授業の内容も進め方も特に変更していませんから、どう解釈してよいのか理解に困っています。最終回での時間配分のミスで、回答者が少なかったため、自由記述欄からも改善のためのヒントが得られず反省しています。例年は好評を得ている内容なので、低い評価が今年度の一部の受講生に限定したことなのか次年度に様子を見ることにします。

#### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.



- 第14回 総括 秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎を振り返り、自分にゼミで身につけたことの意識化としての意味を説明できる

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第1回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する  
第2回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する  
第3回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる  
第4回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習  
第5回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習  
第6回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備  
第7回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習  
第8回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習  
第9回 本発表に向けて構想の練り直し  
第10回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす  
第11回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習  
第12回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習  
第13回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する  
第14回 一年間この授業で学んできたことを、二年度以降の学習目標に活かすための展望を持つ

#### 【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 -充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

#### 【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…授業へ出席し積極的に班活動に参加することを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価(未受験)とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

2019年度はWで15名、Xで全員が「履修してよかった」で5あるいは4と回答してくれました。これは例年よりかなりよい結果ですが、2019年度は履修する学生の比率が低かったのですが、もしかしたら例年否定的に受け止める層がそもそも受講していなかっただけでもありません。いずれにせよ、せっかく受講してくれた人からは基本的に肯定的な意見が寄せられて一安心ですし、次年度も今年度と同様の授業を行う予定です。多くの人が「かなり大変だったがやりがいがあった。成長できた」と自由記述に書いてくれました。その通りで、楽な道ばかり選んでいたら成長できないということを、今後も忘れずに学生生活を送ってください。授業外学習時間も例年より長く、週に2時間以上の人はWで12名、Xで17名でしたが、ほとんど行っていない人もいます。2018年度はかなり短かったので、全員が班活動にコミットするよう、言葉がけを多く行った成果だとは思いますが、全員に効果を持ったわけではなさそうです。2年次の心理学測定法Ⅰでも班活動を行いますので、そこでは授業での班活動に工夫をしてみます。

#### 【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

BSP100LA

**基礎ゼミ I**

2017 年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

レポートや論文の書き方を学びます。

**【到達目標】**

- ・レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。
- ・論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。
- ・正しく読みやすい文章が書けるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

重要：授業開始は 4 月 23 日です。第 1 回の課題や教材については学習支援システム上で指示します。

講義とワークが中心です。春学期を通して段階的に一つのレポートを完成させていきます。提出してもらったレポートは返却し、一人一人に改善すべき点を伝えます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・課題説明
2 回目	事実と意見	テーマに基づく講義
3 回目	主張・根拠・例	説明とワーク
4 回目	論の展開のしかた	説明とワーク
5 回目	アイディアの出し方	説明とワーク
6 回目	図書館ガイダンス	図書館でガイダンス受講
7 回目	資料に基づいてアウトラインを書く	説明とワーク
8 回目	プランの立て方	説明とワーク
9 回目	自分の言葉と他人の言葉を区別する	説明とワーク
10 回目	参考文献からの引用によって自分の主張に根拠を与える	説明とワーク
11 回目	要約のしかた	説明とワーク
12 回目	参考文献の書き方、レポート評価基準	説明とワーク
13 回目	読みにくい文章を修正する	説明とワーク、およびレポートの提出
14 回目	レポート返却	説明

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学期中に一つのレポートを完成させるために、授業内に終わらなかった作業は授業時間外に済ませてください。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版

**【参考書】**

・木下是雄『レポートの組み立てかた』、ちくまライブラリー 36、筑摩書房、1990 年

・『学生による学生のためのダメレポート脱出法』、慶応義塾大学出版会、2015 年

・『法政大学 学習支援ハンドブック』

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 50 %、レポート 50 %

**【学生の意見等からの気づき】**

より分かりやすい説明を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室授業が可能になりましたら LL 教室を使用します。Word を使ってワークを行います。数回の授業にわたって同じ課題に取り組みますので、前回の続きから作業ができるよう USB を用意してください。

**【その他の重要事項】**

遠隔授業の実施に伴う授業計画の変更については、学習支援システム上で通知します。

**【Outline and objectives】**

A guide to how to write an essay in Japanese.

BSP100LA

## 基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

法文営1年

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションのしかたを学びます。

### 【到達目標】

- ・論理的に話すとは何かを理解すること。
- ・授業でプレゼンテーションをする際の準備のしかた、注意すべき点を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

講義および口頭による練習が中心です。秋学期の終わりには、課題についてのプレゼンテーションを一人ずつ、もしくはグループで行います。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	イントロダクション	授業内容説明
2回目	キケロによるスピーチの基本構成	説明と練習
3回目	その他のスピーチの構成方法	説明と練習
4回目	根拠と例、およびスピーチのトーン	説明と練習
5回目	資料を読み、プランを立てた上で意見を述べる	説明と練習
6回目	授業におけるプレゼンテーションのしかた	説明と練習
7回目	人に聞いてもらえる話し方	説明と練習
8回目	声、姿勢、ジェスチャー、空間の使い方、視線の向け方	説明と練習
9回目	ディスカッションの基礎（易しいテーマによるディスカッション）	説明と練習
10回目	対立意見の討論とは	説明と練習
11回目	参加型の討論とは	説明と練習
12回目	プレゼンテーション（第1グループ）	プレゼンテーションと講評
13回目	プレゼンテーション（第2グループ）	プレゼンテーションと講評
14回目	プレゼンテーション（第3グループ）	プレゼンテーションと講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備は授業時間外に行います。その他、自主的にスピーチの練習をしたい人のためには、練習問題を授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010年改増版

### 【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、プレゼンテーション50%

### 【学生の意見等からの気づき】

課題の目的および指示を明確に示すようにします。

### 【Outline and objectives】

A guide to how to give a presentation in Japanese.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

上西 充子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

キ1年A

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

## 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

本授業の開始日は4月22日とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討や意見交換を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。学生生活の開始にあたって。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。
第3回	論説文を読む	要点を読み取り、論述する。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事の活用	図書館データベースを活用し、新聞記事、雑誌記事を検索する。
第6回	データを読み取る	統計データの活用の際の注意。
第7回	問いを立てる	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。

第8回	論点をめぐる検討	論点を出し合い、論点の検討を深める。
第9回	論述の方法	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第10回	レポートの作成（1）	レポートの構成を検討する。
第11回	レポート作成（2）	レポートの執筆と検討。
第12回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け手で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題の提出に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出等）：45%

提出課題（期末レポート）：55%

## 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

## 【その他の重要事項】

状況の変化に応じて、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。変更や連絡は学習支援システムの「お知らせ」で随時連絡します。

## 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

## 李 舜志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

キ 1 年 B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

## 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は4月23日を初回授業開始日とします。

この授業は学習支援システムに教材・資料を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施します。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いる。
第5回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第6回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。

第9回 レポートの作成と発表 レポートの作成と発表の準備の準備

第10回 プレゼンテーション① 作成したスライドを使用し、プレゼンテーションを実施する。

第11回 プレゼンテーション② 作成したスライドを使用し、プレゼンテーションを実施する。

第12回 まとめと今後の学習ガイダンス 半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

第13回 .

第14回 .

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

- ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）
- ・各クラス指定の文献（学部より配布）

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（期限を守った課題の提出、活動への積極的参加等）：45%  
提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55%

## 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

## 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

## 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

## 坂本 旬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

キ1年C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★新型コロナ対応のため、授業の詳細は授業の中で伝えます。

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

## 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。

第9回 プレゼンテーションの方法  
プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。

第10回 レポートの作成と発表の準備  
レポートの作成と発表の準備。

第11回 キャリアサポートワークショップ  
学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。

第12回 グループ発表（1）  
グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）。

第13回 グループ発表（2）  
グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）。

第14回 まとめと今後の学習ガイダンス  
半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）  
・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）  
・各クラス指定の文献（学部より配布）

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

★新型コロナ対応のため、評価方法の詳細は授業の中で伝えます。

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55%

## 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

## 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

## 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

**基礎ゼミ**

2017年度以降入学者

神野 潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

キ1年D

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

【オンラインで行います。まずは、基礎ゼミ第1回にオンラインで参加できるよう、以下の「授業の進め方と方法」の欄を必ずご一読ください】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

**【到達目標】**

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

※第1回目の基礎ゼミは、4月22日（水）13時より、オンラインで行います。具体的な方法については学習支援システムの「お知らせ」などに掲載しましたが、4月20日18時現在で、学習支援システムはかなりアクセスしにくい状況のようです。同じ内容の情報を、担当者からみなさんの大学のメールアドレスに宛ててお送りしましたので、そちらを読んでお返事をいただけるとありがたいです。大学のメールアドレスがわからない・開けない・メールが届いていないという方は、私のメールアドレス k.jinno アット rs.tus.ac.jp にメールしてください（アドレスは、「アット」のところを「@」に変えてください）。4月22日（水）13時からのオンライン授業で、画面越しとはいえお目にかかれるのを楽しみにしています。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	オンラインで行います。基礎ゼミの概要説明と自己紹介が主な内容ですが、今後のゼミの進め方について意見交換もしたいと思います。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワークショップ	学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）。
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック2020』（大学より配布）
- ・各クラス指定の文献（学部より配布）

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等）：45%  
提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55%

**【学生の意見等からの気づき】**

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

**【その他の重要事項】**

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

**【Outline and objectives】**

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

飯尾 真貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

キ 1 年 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

## 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

## 【重要：新型コロナの影響による授業形式の変更について】

この授業は、4月23日（木）を初回授業開始日とします。

新型コロナの影響により、通常の対面式授業からオンライン授業に変更になりました。具体的には、学習支援システム Hoppii を用いた資料配信型や Zoom などのリアルタイム配信型を組み合わせた授業を実施する予定です。初回（4月23日）は、資料配信型の学習支援システムを用いて課題を出し、アンケートも実施します。二回目以降は、みなさんのネット環境に関するアンケート結果をふまえた上で、リアルタイム配信型も含めたオンライン授業に移行していきたいと考えています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	【オンライン】授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	【オンライン】大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	【オンライン】レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。（現時点では実施予定）

第5回	【オンライン】新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	【オンライン】レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	【オンライン】レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	【オンライン】論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第9回	【オンライン】プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	【オンライン】レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	【オンライン】グループ発表	グループ発表。質疑と教員コメント
第12回	【オンライン】まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法(質的調査・量的調査)の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。
第13回	全12回のため休講	全12回のため休講
第14回	全12回のため休講	全12回のため休講

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル(技能)の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年(各自で購入)  
 ・法政大学『学習支援ハンドブック2020』(大学より配布)  
 ・各クラス指定の文献(学部より配布)

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等)：45%  
 提出課題(プレゼンテーション、レポート等)：55%

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing "life, work, and learning" from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

橋本 広大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

キ1年F

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

#### 【以下4月18日加筆】

初回のゼミは4月23日(木)の3限(13:00開始)に行う予定です。具体的な実施方法やゼミで扱う内容等につきましては、学習支援システムにてご確認ください。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。

第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワークショップ	学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）。
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）  
 ・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）  
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55%

#### 【以下4月20日加筆】

当面の間、本科目がオンラインでの開講となったことに伴い、上記成績評価の方法と基準が変更になることがあります。その際は学習支援システムで掲示する予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

田口 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

キ1年G

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
2. 情報の内容理解・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
3. 情報発信能力・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
4. 議論するための基礎的な力・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。

第7回	レポートの書き方 (3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディス カッション	グループディスカッションによ り、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの 方法	プレゼンテーションの作成、実施 方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表 の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワー クショップ	学部上級生の主導によるキャリア サポートワークショップ。
第12回	グループ発表(1)	グループ発表。質疑と教員コメン ト(※第1グループ)。
第13回	グループ発表(2)	グループ発表。質疑と教員コメン ト(※第2グループ)。
第14回	まとめと今後の学習ガ イダンス	半期の振り返りと、キャリア研究 調査法(質的調査・量的調査)の 履修ガイダンス、および秋学期以 降の学習計画等。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル(技能)の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年(各自で購入)  
・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』(大学より配布)  
・各クラス指定の文献(学部より配布)

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等)：45%  
提出課題(プレゼンテーション、レポート等)：55%  
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing "life, work, and learning" from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

### 仲 修平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

キ1年H

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

初回授業日は、「5月6日」とします。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。

第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワークショップ	学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）。
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

- ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック2020』（大学より配布）
- ・各クラス指定の文献（学部より配布）

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55%

上記の成績評価の方法に変更はありません（2020年4月17日）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

島村 泰子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

キ1年I

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【補足】授業開始日は、4月22日です。当初予定していた第11回「キャリアサポートワークショップ」は中止になります。第7回「レポートの書き方（3）」は、レポートの書き方（2）に統合します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。

第7回	レポートの書き方 (3) 注) レポートの書き方 (2)に統合します	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。 (注) レポートの書き方(2)に 統合します。
第8回	論点をめぐるディス カッション	グループディスカッションによ り、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの 方法	プレゼンテーションの作成、実施 方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表 の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワー クショップ 注) 中止になります	学部上級生の主導によるキャリア サポートワークショップ。
第12回	グループ発表(1)	グループ発表。質疑と教員コメン ト(※第1グループ)。
第13回	グループ発表(2)	グループ発表。質疑と教員コメン ト(※第2グループ)。
第14回	まとめと今後の学習ガ イダンス	半期の振り返りと、キャリア研究 調査法(質的調査・量的調査)の 履修ガイダンス、および秋学期以 降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル(技能)の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年(各自で購入)  
・法政大学『学習支援ハンドブック2020』(大学より配布)  
・各クラス指定の文献(学部より配布)

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等)：45%

提出課題(プレゼンテーション、レポート等)：55%

注) 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing "life, work, and learning" from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

北村 美穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

キ1年J

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方(1)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(2)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	ディスカッションにより、論点の検討を深める方法を学ぶ。
第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の方法	レポートの作成と発表の仕方について学ぶ。
第11回	レポート作成	各人の設定したテーマでレポート作成を行う。
第12回	....	....

第13回 ……  
第14回 ……

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）  
・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）  
・各クラス指定の文献（学部より配布）

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

### 李 舜志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

キ1年K

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
2. 情報の内容理解・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
3. 情報発信能力・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
4. 議論するための基礎的な力・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

この授業は4月22日を初回授業開始日とします。

この授業は学習支援システムに教材・資料を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施します。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第5回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(3)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。

第 8 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第 9 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 10 回	プレゼンテーション①	作成したスライドを使用し、プレゼンテーションを実施する。
第 11 回	プレゼンテーション②	作成したスライドを使用し、プレゼンテーションを実施する。
第 12 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

- ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 3 版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）
- ・各クラス指定の文献（学部より配布）

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（期限を守った課題の提出、活動への積極的参加等）：45 %  
提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3  
単位数：2 単位  
キ 1 年 L

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
2. 情報の内容理解・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
3. 情報発信能力・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
4. 議論するための基礎的な力・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度掲示します。

本授業の開始日は 4 月 23 日とします。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。学生生活の開始にあたって。
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。
第 3 回	論説文を読む	要点を読み取り、論述する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	問いを立てる	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	論点をめぐる検討	論点を出し、検討を深める。

第8回	論述の方法	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第9回	レポートの作成(1)	レポートの構成を検討
第10回	レポートの作成(2)	レポートの執筆と検討
第11回	レポートの作成(3)	レポートの執筆と検討
第12回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）  
・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出等）：45%  
提出課題（期末レポート）：55%

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

状況の変化に応じて、上記の授業計画に一文変更がある可能性があります。変更や連絡は学習支援システムの「お知らせ」で随時連絡します。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

齋藤 嘉孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

キ1年M

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
2. 情報の内容理解・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
3. 情報発信能力・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
4. 議論するための基礎的な力・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は4月23日を初回授業開始日とする。学習支援システムに教材・資料を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施する。学習支援システムの該当ページを毎回必ず参照すること（2020年4月16日追記）。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。

第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワークショップ	学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）。
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）  
 ・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）  
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート等）：55%  
 なお、2020年度は特別対応のため、上記が変更になる可能性があります。学習支援システムを参照のこと（2020年4月16日追記）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。  
 また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing "life, work, and learning" from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

酒井 理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

キ1年N

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。

第10回	レポートの作成と発表の準備	3000字レポートの作成と発表の準備。
第11回	レポート発表(1-6)	レポートの発表。質疑と教員コメント
第12回	レポート発表(6-12)	レポートの発表。質疑と教員コメント
第13回	レポート発表(13-18)	レポートの発表。質疑と教員コメント
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	研究調査法(質的調査・量的調査)の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル(技能)の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年(各自で購入)  
 ・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』(大学より配布)  
 ・各クラス指定の文献(学部より配布)

#### 【参考書】

適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業毎の課題の提出、web上の小テスト：45%  
 3000字レポート：55%

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

#### 【その他の重要事項】

初回の授業は連休明けの5月7日木曜です。  
 ただし、初回についてはリアルタイムでwebミーティングをするわけではありませんので、授業時間は気にしないで結構です。  
 5月7日中に学習支援システムにアクセスしてください。  
 事前(連休中)に資料をシステムにアップします。課題を出しますので確認してください。  
 追々、みなさんが遠隔通信の授業に慣れてきたら、webミーティングの方法で授業をすることを検討します。その際は皆さんの通信環境の状況を聞きながら対応したいと思います。通信環境が不十分なままの実施はしませんので安心してください。  
 (その他)  
 図書館ガイダンスをweb上で実施する予定です。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

#### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing "life, work, and learning" from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

佐藤 恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3  
 単位数：2単位  
 キ1年〇

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

#### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力)・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
2. 情報の内容理解)・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
3. 情報発信能力)・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
4. 議論するための基礎的な力)・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

2020年4月20日追記

春学期はオンラインでの開講となります。

学習支援システムに資料を掲示し、資料の理解度や自習の成果を小レポート等の課題で確認するといった方法で、オンライン授業を実施します。ゼミという授業の特性に応じて、Zoom等を用いたリアルタイム配信型授業も部分的に取り入れることがあります。

初回授業日は5月7日(木)です。

成績評価方法は変更ありませんが、「平常点」は小レポートや授業への参加、「提出課題」は期末レポートとします。

なお、基礎ゼミの全クラス共通テキスト(井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法第3版』(慶應義塾大学出版会、2019年)【第3版であることに注意してください】)につきましては、授業開始までに法政大学生協ホームページより各自で通信販売の申し込みをし、購入してください。

また、クラス別の指定図書(佐藤恵クラスは、平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』(講談社現代新書、2012年))に関しましては、学部で全員分を購入し、5月中旬以降、各自の住所宛に発送する予定です。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワークショップ	学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。
第12回	グループ発表(1)	グループ発表。質疑と教員コメント(※第1グループ)。
第13回	グループ発表(2)	グループ発表。質疑と教員コメント(※第2グループ)。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法(質的調査・量的調査)の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル(技能)の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年(各自で購入)  
 ・法政大学『学習支援ハンドブック2020』(大学より配布)  
 ・各クラス指定の文献(学部より配布)

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組み等)：45%  
 提出課題(プレゼンテーション、レポート等)：55%

## 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

## 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。

また、学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップが行われる予定です。

## 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

## 基礎ゼミ

2017年度以降入学者

熊谷 智博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

キ1年P

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

## 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
2. 情報の内容理解・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
3. 情報発信能力・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
4. 議論するための基礎的な力・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本年度は学習支援システムを用いてのオンライン授業形式で基本的に実施します。授業開始は5月6日とします。それまでに下記指定テキストを必ず一度は通読してください。授業は既に内容を理解している前提で行います。

担当教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え方、資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成します。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介。
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。

第9回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第10回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備。
第11回	キャリアサポートワークショップ	学部上級生の主導によるキャリアサポートワークショップ。
第12回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、キャリア研究調査法（質的調査・量的調査）の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）  
 ・法政大学『学習支援ハンドブック 2020』（大学より配布）  
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出等）：45%  
 提出課題（レポート等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります（本年度での実施は未定）。

### 【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

法文営 1～2年

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

### 【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とし、学習支援システムにて提示される内容を各自確認してください。

仮に、対面授業が可能となった場合は、以下の通りとします。

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第05回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

#### 【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事、3～4 回ほどを予定。

#### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

#### 【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

#### 【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、学習支援システムにて提示される内容を各自確認してください。

仮に、対面授業が可能となった場合は、以下の通りとします。

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者も前提として、タイプライター練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

#### 【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事、3~4 回ほどを予定。

#### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

#### 【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営 1~2 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

#### 【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、学習支援システムにて提示される内容を各自確認してください。

仮に、対面授業が可能となった場合は、以下の通りとします。

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者も前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第08回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習2の内容につなげる。
第12回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするためのID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第3版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

#### 【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事、3～4回ほどを予定。

#### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

#### 【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

#### 【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とし、学習支援システムにて提示される内容を各自確認してください。

仮に、対面授業が可能となった場合は、以下の通りとします。

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第05回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

- 第 08 回 テンプレートの利用 Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
- 第 09 回 長文作成 Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
- 第 10 回 差し込み印刷 Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
- 第 11 回 グラフの挿入 Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
- 第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎） コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
- 第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用） プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
- 第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム） 簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 円

#### 【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事、3~4 回ほどを予定。

#### 【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

#### 【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営 1~2 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

#### 【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

授業の前半に説明を行い、後半に課題を解く、あるいはタイピングなどの実習を行う形式を基本とします。課題は教科書から指定されますので、購入し授業に持参してください。また、資料の配布と課題の提出を授業支援システムを用いて行います。授業支援システムへの登録と使い方については授業内で説明します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

#### 【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

授業の前半に説明を行い、後半に課題を解く、あるいはタイピングなどの実習を行う形式を基本とします。課題は教科書から指定されますので、購入し授業に持参してください。また、資料の配布と課題の提出を授業支援システムを用いて行います。授業支援システムへの登録と使い方については授業内で説明します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

第8回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWW その1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWW その2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物（80%）と平常点（20%）で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピューターを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

## 情報処理演習Ⅰ

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

法文営 1～2年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

#### 【到達目標】

web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。

表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は4月21日（火）に開始します。学習支援システムで教員が提示した資料を読み、学習支援システムで課題を提出します。この授業を履修するためには抽選に当選する必要があります。

抽選エントリー日時：2020年4月15日（水）午前10：00～20日（月）午前9：00

結果発表：2020年4月21日（火）午前9：00

詳細は下記 URL を参照して下さい。

<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>

対面授業が可能になった場合

ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピューターを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excelの基本を実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト <b>Word</b> を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト <b>Word</b> を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、 <b>html</b> によるホームページ作成について実習する。

#### 【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

#### 【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]  
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著  
出版：サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Word と Excel が使用できるパソコンを準備する。

#### 【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。  
この授業を履修するためには抽選手続きが必要です。  
抽選エントリー日時：2020 年 4 月 15 日 (水) 午前 10 : 00 ~ 20 日 (月) 午前 9 : 00  
結果発表：2020 年 4 月 21 日 (火) 午前 9 : 00  
詳細は下記 URL を参照して下さい。  
<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

## 【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を中心として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

## 【追記：重要】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。そのため、学習支援システムでの課題提示・提出が授業の進め方の軸となります。授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

## 【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Word 2013 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

## 【追記：重要】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準が変更になる可能性があります。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

## 【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。  
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp  
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>  
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

## 【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

## 【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を中心として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

## 【追記：重要】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。そのため、学習支援システムでの課題提示・提出が授業の進め方の軸となります。授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

## 【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Word 2013 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

## 【追記：重要】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準が変更になる可能性があります。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

## 【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

## 【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

## 【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4/22 から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方については授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回 ファイル操作その 1 ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回 ファイル操作その 2 エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

第 8 回 コンピューターとデータ デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ

第 9 回 インターネットと電子メールその 1 インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ

第 10 回 インターネットと電子メールその 2 電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1 WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2 WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1 インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2 フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウイルス、コンピュータ犯罪について学ぶ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

## 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

## 【配分】

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

## 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

## 【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

## 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4  
 単位数：2 単位  
 法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

## 【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4/22 から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。  
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。  
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本年度は新型コロナウイルスの影響のため、当面の間、オンライン講義を行います。本科目の授業開始日は4月23日(木)です。当日までに、学習支援システム Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal> にアクセスし、授業登録を行ってください。授業ページにオンライン講義を受講するための詳細が明記されています。なお、本登録は仮登録であり、大学への履修届けは別途必要です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

## 【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

## 【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

## 【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本年度は新型コロナウイルスの影響のため、当面の間、オンライン講義を行います。本科目の授業開始日は4月23日(木)です。当日までに、学習支援システム Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal> にアクセスし、授業登録を行ってください。授業ページにオンライン講義を受講するための詳細が明記されています。なお、本登録は仮登録であり、大学への履修届けは別途必要です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

## 【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を100点として、60点以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

## 【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word, Excel, パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

## 【到達目標】

web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。

表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業は4月23日（木）に開始します。学習支援システムで教員が提示した資料を読み、学習支援システムで課題を提出します。

この授業を履修するためには抽選に当選する必要があります。

抽選エントリー日時：2020年4月15日（水）午前10：00～20日（月）午前9：00

結果発表：結果発表：2020年4月21日（火）午前9：00

詳細は下記 URL を参照して下さい。

<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>

対面授業が可能になった場合

ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

学種支援システムで指示します。

## 【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

## 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

## 【学生が準備すべき機器他】

Word と Excel が使用できるパソコンを準備する。

## 【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには抽選手続きが必要です。

抽選エントリー日時：2020年4月15日（水）午前10：00～20日（月）午前9：00

結果発表：2020年4月21日（火）午前9：00

詳細は下記 URL を参照して下さい。

<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>

## 【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word, Excel, パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

## 【到達目標】

web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。

表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業は4月23日（木）に開始します。学習支援システムで教員が提示した資料を読み、学習支援システムで課題を提出します。この授業を履修するためには抽選に当選する必要があります。

抽選エントリー日時：2020年4月15日（水）午前10：00～20日（月）午前9：00

結果発表：結果発表：2020年4月21日（火）午前9：00

詳細は下記 URL を参照して下さい。

<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>

対面授業が可能になった場合

ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト <b>Word</b> を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト <b>Word</b> を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト <b>Excel</b> を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、 <b>html</b> によるホームページ作成について実習する。

#### 【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

#### 【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]  
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著  
出版：サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Word と Excel が使用できるパソコンを準備する。

#### 【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。  
この授業を履修するためには抽選手続きが必要です。  
抽選エントリー日時：2020 年 4 月 15 日 (水) 午前 10 : 00 ~ 20 日 (月) 午前 9 : 00  
結果発表：2020 年 4 月 21 日 (火) 午前 9 : 00  
詳細は下記 URL を参照して下さい。  
<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、ホームページ作成にも触れ、Web 関連の最新知識についても説明する。

この授業は、基本的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的にする。

## 【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本の知識については教科書を使って講義と演習を進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 14 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 (1) 授業を進めるにあたって、ルールとマナー (2) ツールとメールの利用上の諸注意 (3) アプリケーション Excel・Word・PowerPoint) の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。コンピュータと計算、コンピュータと人間の違い、コンピュータと計算の違い、コンピュータの分類、コンピュータの基本構成、ハードウェアとソフトウェアについて理解します。 Word によるレポート提出の課題があります。

3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですすでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windows の基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excel によるレポート提出の課題があります。
4	キーボードと文字入力ならびに ICT スキル診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。 キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excel によるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むこととなります。
5	ファイル操作	コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。
6	コンピュータとデータ（その 1）	同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えば CD）で録音した演奏」を聞くには、差があるのでしょうか？どちらが良いのでしょうか？この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。

- 7 コンピュータとデータ (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とバイトビットを理解します。  
**Excel** を使って2進数等を理解する課題提出があります。
- 8 コンピュータとデータ (その3) 前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。  
文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。  
**Word・Excel・PowerPoint** を使って音声や画像を貼り付ける課題提出があります。
- 9 インターネットと電子メール たくさんのコンピュータをつないで、お互いに（双方向に）データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。  
ネチケット（インターネット利用上のエチケット・マナー）について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 10 World Wide Web (その1) インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。**WWW** とハイパーテキストを理解します。  
**Word** や **Excel**、テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、**Html** ファイルを作成する課題提出があります。
- 11 World Wide Web (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、**WWW** の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、**WWW** の用語、リンク切れなどを理解します。  
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 12 World Wide Web (その3) 前回の内容をうけて、ここでは、**WWW** と情報社会への影響を学習します。**WWW** の歴史、**WWW** で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。  
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 13 インターネットとメディアリテラシ (その1) 高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。  
インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。  
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 14 インターネットとメディアリテラシ (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。  
インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。  
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎（知識定着ための教材）

[lect-ip.cocolog-nifty.com](http://lect-ip.cocolog-nifty.com)

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

情報処理の実践（**Excel・Word・PowerPoint** を使った課題提出用の教材）

[pract-ip.cocolog-nifty.com](http://pract-ip.cocolog-nifty.com)

**【テキスト（教科書）】**

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）

サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1352-0

初版ではなく第2版を購入のこと。

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

**【参考書】**

講義中に紹介するホームページなどを使って指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%

レポート課題30%

小テスト20%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

1人1台パソコンを使用します。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、ホームページ作成にも触れ、Web 関連の最新知識についても説明する。

この授業は、基本的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的にする。

## 【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本の知識については教科書を使って講義と演習を進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 14 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 (1) 授業を進めるにあたって、ルールとマナー (2) ツールとメールの利用上の諸注意 (3) アプリケーション Excel・Word・PowerPoint) の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。コンピュータと計算、コンピュータと人間の違い、コンピュータと計算の違い、コンピュータの種類、コンピュータの基本構成、ハードウェアとソフトウェアについて理解します。 Word によるレポート提出の課題があります。

3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですすでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windows の基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excel によるレポート提出の課題があります。
4	キーボードと文字入力 ならびに ICT スキル 診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。 キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excel によるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むこととなります。
5	ファイル操作	コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。
6	コンピュータとデータ (その 1)	同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えば CD）で録音した演奏」を聞くには、差があるのでしょうか？ どちらが良いのでしょうか？この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。

- |    |                         |   |  |                        |   |
|----|-------------------------|---|--|------------------------|---|
| 7  | コンピュータとデータ<br>(その2)     | <p>前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とバイトビットを理解します。</p> <p><b>Excel</b> を使って2進数等を理解する課題提出があります。</p>  | 14   | インターネットとメディアリテラシ (その2) | <p>前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。</p> <p>関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。</p> |
| 8  | コンピュータとデータ<br>(その3)     | <p>前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。</p> <p>文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。</p> <p><b>Word・Excel・PowerPoint</b> を使って音声や画像を貼り付けする課題提出があります。</p> | <p><b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b></p> <p>各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。</p> <p>&lt; 授業で紹介するホームページの URL &gt;</p> <p>情報技術の基礎（知識定着ための教材）<br/>lect-ip.cocolog-nifty.com<br/>本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。<br/>情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出用の教材）<br/>pract-ip.cocolog-nifty.com</p> <p><b>【テキスト（教科書）】</b></p> <p>実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1352-0<br/>初版ではなく第2版を購入のこと。<br/>情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>講義中に紹介するホームページなどを使って指示します。</p> <p><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%<br/>レポート課題30%<br/>小テスト20%</p> <p><b>【学生の意見等からの気づき】</b></p> <p>授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。</p> <p><b>【学生が準備すべき機器他】</b></p> <p>1人1台パソコンを使用します。</p> <p><b>【Outline and objectives】</b></p> <p>The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.</p> |                        |   |
| 9  | インターネットと電子メール           | <p>たくさんのコンピュータをつないで、お互いに（双方向に）データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。</p> <p>ネチケット（インターネット利用上のエチケット・マナー）について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。</p>            |  |                        |   |
| 10 | World Wide Web<br>(その1) | <p>インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。WWW とハイパーテキストを理解します。</p> <p><b>Word</b> や <b>Excel</b>、テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、<b>Html</b> ファイルを作成する課題提出があります。</p>                                    |  |                        |   |
| 11 | World Wide Web<br>(その2) | <p>前回の内容をうけて、ここでは、WWW の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、WWW の用語、リンク切れなどを理解します。</p> <p>関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。</p>   |  |                        |   |
| 12 | World Wide Web<br>(その3) | <p>前回の内容をうけて、ここでは、WWW と情報社会への影響を学習します。WWW の歴史、WWW で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。</p> <p>関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。</p>   |  |                        |   |
| 13 | インターネットとメディアリテラシ (その1)  | <p>高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。</p> <p>インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。</p> <p>関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。</p>   |  |                        |   |

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

## 【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

## 【授業の進め方と方法】

実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく演習・実習形式が中心となります。授業内の実習と課題は分離せず、実習室の環境だけに限らない一般的知識の習得を目指します。

追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本来の初日にあたる 4 月 24 日にガイダンスを公開して受講準備ができるようにし、5 月 8 日から実習等を開始できるようにする。具体的なオンライン授業の方法などは、順次学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な実習	これまでのまとめとその後

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内実習・課題を行い、特に授業時に不十分と感じた項目を中心に準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。参考書欄に昨年度の教科書を示しています。

## 【参考書】

昨年度教科書：実習 情報リテラシ [第 2 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：ICT・情報系の入門書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

## 【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実技・実習を中心に課題部分を追記するため、提出物が実習・課題の両方を兼ねる形となります。

追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるよう丁寧な説明を心がけつつ、進捗が合わないと感じる人に気づけるような機会を増やしていくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。配布・提出に授業支援システムを使用します。

## 【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

## 【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

## 【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

## 【授業の進め方と方法】

実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく演習・実習形式が中心となります。授業内の実習と課題は分離せず、実習室の環境だけに限らない一般的な知識の習得を目指します。

追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本来の初日にあたる 4 月 24 日にガイダンスを公開して受講準備ができるようにし、5 月 8 日から実習等を開始できるようにする。具体的なオンライン授業の方法などは、順次学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な実習	これまでのまとめとその後

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内実習・課題を行い、特に授業時に不十分と感じた項目を中心に準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。参考書欄に昨年度の教科書を示しています。

## 【参考書】

昨年度教科書：実習 情報リテラシ [第 2 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：ICT・情報系の入門書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

## 【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実技・実習を中心に課題部分を追記するため、提出物が実習・課題の両方を兼ねる形となります。

追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるよう丁寧な説明を心がけつつ、進捗が合わないと感じる人に気づけるような機会を増やしていくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。配布・提出に授業支援システムを使用します。

## 【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

## 【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

## 【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

## 【授業の進め方と方法】

実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく演習・実習形式が中心となります。授業内の実習と課題は分離せず、実習室の環境だけに限らない一般的知識の習得を目指します。

追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本来の初日にあたる 4 月 24 日にガイダンスを公開して受講準備ができるようにし、5 月 8 日から実習等を開始できるようにする。具体的なオンライン授業の方法などは、順次学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な実習	これまでのまとめとその後

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内実習・課題を行い、特に授業時に不十分と感じた項目を中心に準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。参考書欄に昨年度の教科書を示しています。

## 【参考書】

昨年度教科書：実習 情報リテラシ [第 2 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：ICT・情報系の入門書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

## 【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実技・実習を中心に課題部分を追記するため、提出物が実習・課題の両方を兼ねる形となります。

追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるよう丁寧な説明を心がけつつ、進捗が合わないと感じる人に気づけるような機会を増やしていくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。配布・提出に授業支援システムを使用します。

## 【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

## 【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

## 【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

## 【授業の進め方と方法】

実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく演習・実習形式が中心となります。授業内の実習と課題は分離せず、実習室の環境だけに限らない一般的な知識の習得を目指します。

追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本来の初日にあたる 4 月 24 日にガイダンスを公開して受講準備ができるようにし、5 月 8 日から実習等を開始できるようにする。具体的なオンライン授業の方法などは、順次学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な実習	これまでのまとめとその後

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内実習・課題を行い、特に授業時に不十分と感じた項目を中心に準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。参考書欄に昨年度の教科書を示しています。

## 【参考書】

昨年度教科書：実習 情報リテラシ [第 2 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：ICT・情報系の入門書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

## 【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実技・実習を中心に課題部分を追記するため、提出物が実習・課題の両方を兼ねる形となります。

追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるよう丁寧な説明を心がけつつ、進捗が合わないと感じる人に気づけるような機会を増やしていくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。配布・提出に授業支援システムを使用します。

## 【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

## 【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

## 星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※授業は 4 月 24 日（金）から開始します※

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。

第 12 回 画面切り替えとアニメーション Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。

第 13 回 スライドデザイン・発表課題の説明 Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。

第 14 回 課題② 発表課題の資料作成に取り組む。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

## 【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社  
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

## 【成績評価の方法と基準】

課題 (80%)、平常点 (20%) として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

## 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

## 【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

## 情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※授業は 4 月 24 日（金）から開始します※

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。

第 12 回 画面切り替えとアニメーション Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。

第 13 回 スライドデザイン・発表課題の説明 Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。

第 14 回 課題② 発表課題の資料作成に取り組む。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

## 【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社  
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

## 【成績評価の方法と基準】

課題 (80%)、平常点 (20%) として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

## 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

## 【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

## 情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

## 【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

## 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

## 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

## 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

**【その他の重要事項】**

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

**【Outline and objectives】**

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

**情報リテラシーⅠ**

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

**【到達目標】**

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

**【授業の進め方と方法】**

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」をご覧ください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。  
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。  
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

## 【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

## 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

## 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

## 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

**【その他の重要事項】**

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

**【Outline and objectives】**

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

**情報リテラシーⅠ**

2017年度以降入学者

**四手井 綱章**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

**【到達目標】**

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

**【授業の進め方と方法】**

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」をご覧ください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第6回	ファイル操作その1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第7回	ファイル操作その2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第8回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWW その1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWW その2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。  
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。  
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。  
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。  
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

## 【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプライター、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

## 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

## 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

## 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

**【その他の重要事項】**

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

**【Outline and objectives】**

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

**情報リテラシーⅠ**

2017年度以降入学者

**四手井 綱章**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

**【到達目標】**

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

**【授業の進め方と方法】**

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。  
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。  
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

## 【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4/20 の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」をご覧ください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプライター、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

## 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

## 【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

## 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

## 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

## 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

国1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

## 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」をご覧ください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10%、レポート 40%、期末試験 50%

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

国1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

#### 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

#### 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

国1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

#### 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

#### 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

「配分」

平常点 10%、レポート 40%、期末試験 50%

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

### 四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

国1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

#### 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

#### 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

国1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

#### 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

#### 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

「配分」

平常点 10%、レポート 40%、期末試験 50%

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

### 四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

国1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

#### 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

#### 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10%、レポート 40%、期末試験 50%

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

国1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

#### 【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

#### 【授業の進め方と方法】

授業は4/20の週から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社  
第2版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

#### 【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス  
「実習 Word」 入野野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

#### 【配分】

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

#### 【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

#### 【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して下さい。

#### 【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

## 情報処理演習

2017年度以降入学者

### 大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

キ1~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、やりたい事ができるようになることです。情報処理の技術は日進月歩ですから、今のコンピュータが使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、各コンピュータ・ソフトウェアの操作の「やり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることが大切です。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時検索して見つけられるようになることを目的とします。そのための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的操作方法を習得します。

<オンラインでの開講に伴う加筆>

新型コロナウイルス感染拡大（COVID-19）に伴うオンラインでの開講となることで、（少なくとも授業開始当初は）皆さんに直接会って授業をすることができず、教員として残念です。また、当初予定していた教室での演習が、困難となりました。しかし、このことによって上記の目的が変わることはありません。

#### 【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOffice2019（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を学びます。また必要時には操作方法を検索する技術を身につけることを目標とします。

<オンラインでの開講に伴う加筆>

前述のとおり、授業がオンラインでの開講になることで、授業の目的や到達目標が変わることはありません。ただし、環境が整わない場合などは、基本操作を実際に演習することが困難な場合があります。その時には、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

<授業カレンダーの変更並びにオンラインでの開講に伴う変更>

当初は以下の（1）～（3）を提示してあったが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる（後半もオンラインになる可能性もある）ため、その時々状況に合わせて授業計画を柔軟に変更していかなくてはならない。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

<以下は当初シラバスに提示していた授業の進め方と方法>

- (1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
- (2) 毎回の授業は、講義と演習を組み合わせで行います。
- (3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報を検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Windows の基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ	授業ガイダンス。情報教室 PC へのログイン方法の確認。 WindowsPC の基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。
第 2 回	電子メールとネットの基本 USB メモリの取扱方法	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールや SNS との比較。 USB メモリの使い方と使用上の注意点。
第 3 回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用	ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法。 Dropbox の利用と、注意点。
第 4 回	Word(1)	ワープロソフト (Word) の基本操作を習得する。
第 5 回	Word(2)	基本的な文章作成方法。Word で絵・写真や図を挿入する方法。
第 6 回	Word(3)	脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成。
第 7 回	Excel(1)	表計算ソフト (Excel) の基本操作を習得する。 「表計算ソフト」とは、Excel ができることを知る。
第 8 回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。
第 9 回	Excel(3)	計算式や関数の応用的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第 10 回	Excel(4)	Excel でグラフを作成する。 Excel で統計データを扱う。
第 11 回	Excel と Word の合わせ技	Excel の表・グラフを Word に貼り付けて使う方法。 Excel でデータ (リスト) 管理。差し込み印刷。
第 12 回	PowerPoint	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を習得する。
第 13 回	Google のサービス	Gmail、Google フォームを使ったアンケートの作り方。
第 14 回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業で扱った内容を、次回までに必ず復習しておいてください。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。

**【テキスト (教科書)】**

『情報リテラシー 教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社 (定価：本体 1900 円)

**【参考書】**

『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・IT エンジニア・SE のためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム (定価：本体 1800 円)

**【成績評価の方法と基準】**

<オンラインでの開講に伴う変更>

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。当初は以下のように提示していましたが、具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

<当初提示していた、成績評価の方法と基準>

授業への参加状況や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、それまで (高校も含む) の経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。初心者であっても、真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要最低限のゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加 (配点比重 50%)
- ・毎回の小課題の提出 (未提出はその課題について 0 点。提出遅れは減点) (配点比重 30%)
- ・総合課題 (配点比重 20%)

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・初回参加時に、このシラバスを良く読んでおくこと。(特に、オンラインでの開講に伴う加筆や変更部分をよく読むこと)。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。<オンラインでの開講に伴い、以下は必要になったら、学習支援システムで指示します>
- ・指定された時までに USB メモリー (容量 1 GB 以上が望ましい) を入手し、持参すること。

**【その他の重要事項】**

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

**【Outline and objectives】**

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now on and beyond future. Since information technology is developing everyday, it is more important to understand what the computers or network services actually is and what can be done with them than memorizing the way of using computers. In this class, you will learn the way of using internet search engines as well as basic skills needed in using computer software and network services.

PRI100LA

## 情報処理演習

2017年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

キ1～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

## 【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

## 【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は4月23日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がみつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに1回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己PRのホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

## 【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

## 【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

## 【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

## 情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

## 【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようです。無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらい、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7回	ワードプロセッサソフト (WS Word) : 続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己PRのホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

#### 【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

#### 【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

#### 【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

## 情報処理演習

2017 年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

## 【日常で活かす IT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の 3 点を授業の柱とします。

## ■プレゼンテーションの達人になる！

プレゼンとは何か？ 他者に自分の考えを伝えることとは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引くプレゼンをつくる

## ■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピュータでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

## ■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的な操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

## 【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に各種プレゼンツール（パワーポイント・Prezi）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

## 【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学ぶ。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法
④	電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP	メールアカウントの設定とメールソフトについて
⑤	アプリケーションソフト	基礎的な日本語入力

ト習得～MS Word  
(1)

- ⑥ アプリケーションソフト 表組みと描画など  
ト習得～MS Word  
(2)
- ⑦ アプリケーションソフト アウトラインプロセッサについて  
ト習得～MS Word  
(3)
- ⑧ アプリケーションソフト エクセルの基礎的な画面構成の理  
ト習得～MS Excel 解  
(1)
- ⑨ アプリケーションソフト 計算式と関数①  
ト習得～MS Excel  
(2)
- ⑩ アプリケーションソフト 計算式と関数②  
ト習得～MS Excel  
(3)
- ⑪ アプリケーションソフト マクロ・VBA 基礎  
ト習得～MS Excel  
(4)
- ⑫ ドローイングソフト習 ドローソフトの基本的構造とレイ  
得～inkscape ① ヤーの意味
- ⑬ ドローイングソフト習 オリジナルスタンプを作ってみよ  
得～inkscape ② う
- ⑭ プレゼンテーション～ prezi を使ったプレゼンテーショ  
prezi ① ンの作成～アカウント取得など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

prezi アカウント取得のため、かならず大学のメールを利用できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ありません。

## 【その他の重要事項】

定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

## 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is not only to use basic application software but also to acquire information literacy as expression method.

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

## 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と人材	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。【キーワード：インターンシップ】

- |    |                 |   |   |
|----|-----------------|---|---|
| 9  | 思考法             | 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】 | <p><b>【成績評価の方法と基準】</b><br/>毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末レポートでの成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位の取得には特段の事情がない限り 70 %以上の出席が必要です。</p> <p><b>【学生の意見等からの気づき】</b><br/>今年度よりアクティブラーニングを導入します。</p> <p><b>【学生が準備すべき機器他】</b><br/>当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。(必須ではありません) 同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。</p> <p><b>【Outline and objectives】</b><br/>The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.</p> |
| 10 | 意思決定の科学         | いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方(認知)」、「自分が自由にできる裁量権(選択)」、「決めることに関するところの動き(意思決定)」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】        |   |
| 11 | 幸福について考える       | キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福(ウエルビーイング)になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMA モデル】           |   |
| 12 | モチベーションを高める     | 自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために重要な役割を果たすモチベーションを高める考え方や自己効力について科学的知見を学んでいく。【キーワード：内発的動機付け、自己効力】                                      |   |
| 13 | チャンスを広げるための行動様式 | チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】    |   |
| 14 | 学生時代の過ごし方       | 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】           |   |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

**【テキスト(教科書)】**

特に定めません。

**【参考書】**

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献を紹介いたします。

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

高橋 実

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

## 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※新型コロナウイルスの影響により、一部授業の進め方（シラバス）を変更します。

## 【4/21～】

学習支援システム上で課題を出します。（数回の予定）

提出物、レポート等、指示に従ってください。

## 【5/11～】

オンライン授業により、授業を実施します。

※オンライン授業方法については、別途案内します。

注）春学期は、原則オンライン授業での実施となる予定ですが、新型コロナウイルスの影響によっては変更になる可能性があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
（自主学 習）	オリエンテーション	現役の企業人事部長として、自身のキャリアケースをお話しします。また、授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何を学ぶべきなのかをお伝えします。

- |   |                   |   |
|---|-------------------|---|
| 1 | 大学での学び            | 「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」。多くの大人がそう考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も姿勢も大きく変えなければいけません。では、大学という場所では何を学び、何を活かしていくべきなのか。現役社会人の立場から皆さんに伝え、これからの大学での学び方を考えます。 |
| 2 | 「社会に出る」というトランジション | 大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何が変わるのかを学び、自分自身のキャリアで何を考え、行動していくかを考えます。                                       |
| 3 | 働くことの意味           | 「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか？ では「働きがい」とはどういうことでしょうか？ 働くことは本当に辛いことなのでしょうか？ 大人でも悩むこのテーマを考えます。                         |
| 4 | キャリアモデルケーススタディ    | 現役で働いている社会人をお呼びして、その方のキャリアと、どういう想いでキャリアを培ってきたのかをお話いただきます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のキャリアに置き換えて考えます。   |
| 5 | 外部環境と個人のキャリア      | これからの日本は世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。そんな日本でこれからどんなことが起こるのか？ そして、皆さんは其中でどのように生きていくべきなのか。社会の外部環境で起こることを学びながら、自分自身のキャリアを考えます。                      |
| 6 | なぜ企業は採用をするのか      | なぜ企業は「採用」を行うのでしょうか？ 現役の人事部長だからこそ話せる、企業がなぜ採用をするのか、どんなことを考えて採用を行っているのかを赤裸々にお話しします。就活の相手となる企業の考えを理解することで、皆さんのこれからのキャリアの作り方を考えます。                 |
| 7 | 働き方と多様性           | 女性は勿論、外国人、高齢者、障害者、LDBTなど、働く人も多様になってきており、これからの時代は働き方そのものが大きく変わります。現職人事部長の経験を伝えながら、これからの社会で自分自身は何を考え、しなければならぬのかを考えます。                           |
| 8 | 組織におけるコミュニケーション   | 組織に属すると、周囲の人と必ずコミュニケーションを行っていかねばなりません。組織の目的と個人の目的は時とずれてしまうこともあります。社会に出ると、好きでない人と付き合わねばならないことも多くあります。そんな組織で、どのようにコミュニケーションをとっていきべきなのかを考えます。    |

- 9 「評価される」とはどういうことか  
 (自主学 インターンシップ 習)
- 10 学生生活の過ごし方
- 社会人になり、経験を重ね、スキルやノウハウがつくと、立場が変わり、社会的責任が大きくなり、お給料も上がっていきます。そのキャリアプロセスでは常に「評価される」ということが行われます。「評価される」ということはどういうことなのかを考えます。今は、様々な「インターンシップ」が存在します。そもそも、インターンシップとは何なのか。どのようなことをするのだろうか。キャリアセンターの担当者、現役人事部長それぞれの視点から、インターンシップを理解してもらい、どのように取り組むべきかを考えます。
- 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し、グループでディスカッションをしながら「大学時代に何をやるか」の目標を設定しましょう。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 また、復習のために、本受講の受講者は、必ず「本授業専用キャリアノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。  
 なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは受け付けます（加点评価を行います。積極的に取り組んでみてください）

#### 【テキスト（教科書）】

特に定めません。

#### 【参考書】

授業内で参考になる書籍を適宜案内します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらおうリアクションペーパーが60%。期末レポートが40%の割合で評価します。また、平常点も加味します。  
 本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、授業の内容をもとに自分自身に置き換え考えることを求めます（評価基準になります）。  
 また、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出を可とします。その場合は、提出内容を精査した上で、加点评価として加味します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「自分自身のキャリアを真剣に考えたい」人のみが受講してください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本授業専用「キャリアノート」を必ず準備して、毎回の授業に持参してください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

#### 【その他の重要事項】

##### ■講師プロフィール

新卒でJCB入社、その後NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後40歳にして人事に転身。トヨタファイナンス、創業100年企業、IT企業のHDE（現HENNGE）で人事部長を歴任。これまで2,000人を超える新卒学生と面接実績あり。現職は「マイクロ人事部長」として、北九州のソウルフード「資さんうどん」、福岡のビザチェーン「ビザクック」の人事部長など5社で人事責任者として従事。  
 現職企業人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。

<https://mosaicwork.co.jp/archives/515>

[https://www.dodadsj.com/content/180403\\_takahashi/](https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/)

#### 【Outline and objectives】

In this lesson, we think about your university life and work in society together.

I support you can spend great time in your university life.

In this class, I provide the basic knowledge on the concept necessary for your “long-term” life and working in society.

Through this opportunity, the purpose of this lesson is to create your good attitude that you can think and act by yourself.

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

## 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と人材	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。【キーワード：インターンシップ】

- |    |                 |   |   |
|----|-----------------|---|---|
| 9  | 思考法             | 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】 | <p><b>【成績評価の方法と基準】</b><br/>毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末レポートでの成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位の取得には特定の事情がない限り 70 %以上の出席が必要です。</p> <p><b>【学生の意見等からの気づき】</b><br/>今年度よりアクティブラーニングを導入します。</p> <p><b>【学生が準備すべき機器他】</b><br/>当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。(必須ではありません) 同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。</p> <p><b>【Outline and objectives】</b><br/>The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.</p> |
| 10 | 意思決定の科学         | いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方(認知)」、「自分が自由にできる裁量権(選択)」、「決めることに関するところの動き(意思決定)」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】        |   |
| 11 | 幸福について考える       | キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福(ウエルビーイング)になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMA モデル】           |   |
| 12 | モチベーションを高める     | 自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために重要な役割を果たすモチベーションを高める考え方や自己効力について科学的知見を学んでいく。【キーワード：内発的動機付け、自己効力】                                      |   |
| 13 | チャンスを広げるための行動様式 | チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】    |   |
| 14 | 学生時代の過ごし方       | 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】           |   |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

**【テキスト(教科書)】**

特に定めません。

**【参考書】**

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献を紹介いたします。

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

## 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と人材	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。【キーワード：インターンシップ】

- |    |                 |   |   |
|----|-----------------|---|---|
| 9  | 思考法             | 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】 | <p><b>【成績評価の方法と基準】</b><br/>毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末レポートでの成績が 30 % という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位の取得には特定の事情がない限り 70 % 以上の出席が必要です。</p> <p><b>【学生の意見等からの気づき】</b><br/>今年度よりアクティブラーニングを導入します。</p> <p><b>【学生が準備すべき機器他】</b><br/>当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。(必須ではありません) 同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。</p> <p><b>【Outline and objectives】</b><br/>The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.</p> |
| 10 | 意思決定の科学         | いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方(認知)」、「自分が自由にできる裁量権(選択)」、「決めることに関するこころの動き(意思決定)」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】        |   |
| 11 | 幸福について考える       | キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福(ウェルビーイング)になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル】           |   |
| 12 | モチベーションを高める     | 自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために重要な役割を果たすモチベーションを高める考え方や自己効力について科学的知見を学んでいく。【キーワード：内発的動機付け、自己効力】                                      |   |
| 13 | チャンスを広げるための行動様式 | チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】    |   |
| 14 | 学生時代の過ごし方       | 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】           |   |

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

**【テキスト(教科書)】**

特に定めません。

**【参考書】**

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献を紹介いたします。

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたくと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

## 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

【重要】4/24 第1回の授業（オリエンテーション）開催いたしました。すでに授業資料を Hoppii にアップロードしていますので、履修予定者は仮登録の上、授業資料を確認ください。2020 春学期、オンライン授業が実施されることに伴い、授業計画が一部変更されています。授業計画は3月末のものになってますが、新しい授業内容はオリエンテーション（資料あり）で説明します。第2回は5/8を予定しています。

●5/15 以降、ZOOM 等を活用し参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業主旨、進め方、成績評価方法、求められる参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明します。
第2回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても議論します。

## 第3回 学生と社会人

社会人には何が求められているのだろう。学生とは何が異なるのだろう。それぞれの役割を比較しながら、就職活動やインターンシップで求められる基本的な態度やマナー等も理解していきます。

## 第4回 労働の連鎖

私たちの社会は、労働の連鎖でできあがっています。連鎖が一つでも途絶えると、通常の生活ができなくなります。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働が関わっているかを例に考えていきます。

## 第5回 ストレスマネジメント

適度なストレスは、何かを頑張るための良い刺激となり、自己成長へ繋がります。一方、心が苦しくなったり、嫌な気分になったり、やる気をなくしたりする悪いストレスもあります。ストレスを理解し、対処する方法を学びます。

## 第6回 アルバイト経験の意味

アルバイトとして働く場合も、労働法によって保護されています。労働基準法やパートタイム労働法など、働く上での基本的な権利と義務について学んでいきます。アルバイトは就業経験としてどのような意味があるのかも考えていきます。

## 第7回 やる気とモチベーション

これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源になるものを見つけていきます。

## 第8回 インターンシップ

インターンシップとは何か。何をやるのか。どういう効果があるのか。どのように参加するのがよいのだろうかなど、窓口であるキャリアセンター職員をゲストにお呼びし、過去の先輩の事例や参加の注意点などを聞いていきます。

## 第9回 働き方と多様性

現代の日本では、外国人、高齢者、障害者、性的マイノリティなど様々な人たちが、様々な雇用形態で働いています。雇用形態の変化、新しい働き方のあり方やその意義について考えます。

## 第10回 グローバル人材とは

グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。

## 第11回 働くことの意味

働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論し発表します。

## 第12回 企業の採用活動

就職活動を採用される立場からだけでなく、採用する側の立場で考えてみましょう。企業社会で求められる人材とはどういう人だろうかという視点を持ち、自分がどんな人間なのかを人に伝えるためのワークを実施していきます。

- 第13回 世の中の動きと求められる人材 これから世の中はどのように変化していくのか、変化に対応しながら、皆さんはどのような生活を営み、キャリアを歩んでいくのでしょうか。近未来予想図を描いてみます。
- 第14回 学生生活の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し、「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業の中で適宜指示をします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードをしたりプリントアウトをして、学習に役立ててください。

#### 【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業の回数が増えたことに伴い、評価の比重を変更する予定です。授業内でアナウンスをしますのでご確認ください（更新2020.4.26）毎回のリアクションペーパーが70%、期末試験での成績が30%という構成。リアクションペーパーは、記述内容、論理構成等を評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、学生と教員、学生同士、学生と先輩社会人の相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

筆記用具は必ず持ってくる。それ以外に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

#### 【その他の重要事項】

コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。また企業や大学では、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にも関わりました。授業では、企業・組織の実態などを共有し、これからの大学生活を送る上で、また社会に出ていく準備期間としてキャリアデザインの必要性を伝えていきます。

■皆様の参加をお待ちしています■ 4月23日更新

オリエンテーション（資料）にて、今後の授業の進め方の詳細・授業内容の変更など詳細を説明していますので確認ください。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法文営国環キG1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

#### 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムを用いて、その都度提示する。また、本授業開始日時は、4月24日（金）10:40～12:20とする。具体的なオンライン授業の方法などについて、初回授業日に学習支援システムを用いて提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法を説明します。また、キャリアとは何か、大学生にとってのキャリアとは何か、導入講義を行います。
2	働くことの意味	なぜキャリアデザインが必要なのか、あなたにとって働くことの意味や意義、やりがいとは何か、ワークを通して検討します。
3	労働の連鎖	社会は労働（職業や役割等）の連鎖でできています。社会の中で自分自身がどのような役割を担っているのか、ワークを通して検討します。

4	インターンシップ	インターンシップとは何か（意義や内容、効果）、どのように参加するよいか。窓口であるキャリアセンター職員をゲストに呼び、過去の先輩たちの事例や参加の注意点などについて学びます。
5	これまでの自分を振り返る	キャリアデザインの枠組みを学び、これまでの自分を振り返ります。自身の人生観や価値観、仕事観に影響を与えた出会いをまとめるワークを行います。
6	今の自分を分析する	自己理解の基本姿勢について学びます。また、あなた自身が見ている「今の自分」について分析したうえで自己紹介ワークを行います。
7	多様なキャリアの捉え方	これまでの授業で紹介したキャリアに関する理論を整理します。また、理論を用いて長期的なキャリアを展望するワークを行います。
8	偶然を活かすキャリア	偶然を活かすキャリア理論について学びます。参考動画の視聴を通して偶然の活かし方を検討します。また、長期的な人生を歩むうえで役立つであろう「偶然を味方にする」ワークを行います。
9	人生の転機と変幻自在なキャリア	人生の転機とは何か、転機を活かすキャリア理論と変幻自在なキャリアについて学び、自身が長期的な人生を歩む上で必要となる考え方を探ります。
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスとは何か、結婚、出産や育児といったライフ・イベントに関する事例をもとにグループで検討します。
11	働き方と多様性	現代の日本社会における雇用形態を学び、性別・年齢・国籍などの属性的条件、価値観やライフスタイルなどの違いによる働き方を考えます。
12	企業の採用活動と求められる能力	企業の採用活動、求められる能力について学びます。自身の行動を振り返ることで能力を整理し、学生生活の過ごし方のヒントを探ります。
13	大学での学び	大学での学びとは何か、春学期の授業を振り返ります。本授業と他の授業の接点や自身の生活における学びの応用など、ワークを通して検討します。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどのように過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるために何が必要か、学生生活の目標を設定します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
各回の授業では当該テーマに関して生活の中で接点を探したり、それをきっかけに学びを深めたりすることを期待した発展ワークを出題します。  
日常生活でも学びを応用する機会を増やしていきましょう。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

#### 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。  
リアクションペーパー（毎回）：70%、レポート：30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度ゲストスピーカー登壇について好評を得たため、今年度も予定しています。  
なお、授業内での意見によって運営方法等は変更することがあります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

配布資料（レジュメ、ワークシート等）や課題提出等で授業支援システムを利用します。各自印刷のうえ、授業に持参してください。

#### 【その他の重要事項】

新卒で人材紹介会社にて人事コンサルティング営業に従事したのち、メーカー販売会社にて法人営業に就き、ベンチャー企業と創業100年を超える老舗企業を経験しました。また、3つの大学でキャリアカウンセラーとして、累計2,000件を超えるキャリアカウンセリングの経験があります。  
企業経験の観点からはリアルに、キャリアカウンセリングの観点からは皆さんと近い目線でキャリアデザインについて一緒に考えていきたいと思っています。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with the how to spend at university and working in society.

By thinking them together, I will support you so that you can spend your student life meaningfully.

In the classroom, we provide basic knowledge about the way of thinking, society, and working that are necessary for walking a longer-term life.

It also enhances the development of students' attitude to act autonomously.

CAR100LA

## キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

## 【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と人材	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考法 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定の科学 いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 幸福について考える キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウエルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMA モデル】
- 12 モチベーションを高める 自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために重要な役割を果たすモチベーションを高める考え方や自己効力について科学的知見を学んでいく。【キーワード：内発的動機付け、自己効力】
- 13 チャンスを広げるための行動様式 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディビティ】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末レポートでの成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位の取得には特段の事情がない限り 70 %以上の出席が必要です。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年度よりアクティブラーニングを導入します。

**【学生が準備すべき機器他】**

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。(必須ではありません) 同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めません。

**【参考書】**

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献を紹介いたします。

CAR100LA		4	仕事研究③ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者	5	仕事研究④ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。	
大八木 智一	開講時期：秋学期授業/Fall   曜日・時限：月 3/Mon.3 単位数：2 単位 法文営国環キ G 1 年～	6	仕事研究⑤ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、「企業活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。 この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。		7	仕事研究⑥ 「海外事業」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外事業」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。	
【到達目標】 この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の働き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。		8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	
【授業の進め方と方法】 参加型の授業スタイルを取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を確保します（グループワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。		10	働き方研究③ 「自己成長への行動」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「心の持ち方」「内発的動機づけ」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり/Yes		11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。	
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし/No					
【授業計画】					
回	テーマ	内容			
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。	10	働き方研究③ 「自己成長への行動」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「心の持ち方」「内発的動機づけ」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
2	仕事研究① 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。			
3	仕事研究② 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。

- 12 キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について「仕事を通じた幸福度」「職場条件」「選択の基準」の視点から検討を加える。
- 13 キャリア戦略② 「人生の経営戦略」
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- 14 キャリア戦略③ 「自己実現のためのキャリアデザイン戦略」
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスで自分でお膳立てして、職場や仕事が変わっても役に立つスキルを常に持ち続けることが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザインをグループで話し合い、各自がそれぞれの考えを戦略レベルにまで深めていく。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

#### 【テキスト（教科書）】

特に定めません。

#### 【参考書】

授業内で都度紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが70%、期末レポートでの成績が30%という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り70%以上の出席が必要です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度よりアクティブラーニングを導入いたします。

#### 【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

#### 【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

CAR100LA

## キャリアデザイン応用

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

法文営国環キG1年～

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

#### 【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の働き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を確保します（グループワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	仕事研究① 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成したDVD視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究② 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成したDVD視聴を通じて理解を深めていく。

- |    |                      |  |    |                                 |  |
|----|----------------------|--|----|---------------------------------|--|
| 4  | 仕事研究③<br>「開発」        | 開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。   | 12 | キャリア戦略①<br>「キャリア選択の考え方」         | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について「仕事を通じた幸福度」「職場条件」「選択の基準」の視点から検討を加える。                          |
| 5  | 仕事研究④<br>「コンサルティング」  | コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。                                | 13 | キャリア戦略②<br>「人生の経営戦略」            | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。                                       |
| 6  | 仕事研究⑤<br>「マーケティング」   | マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。                      | 14 | キャリア戦略③<br>「自己実現のためのキャリアデザイン戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、職場や仕事が変わっても役に立つスキルを常に持ち続けることが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザインをグループで話し合い、各自がそれぞれの考えを戦略レベルにまで深めていく。 |
| 7  | 仕事研究⑥<br>「海外事業」      | 現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外事業」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。                             |    |                                 |  |
| 8  | 働き方研究①<br>「チームワーク」   | 組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。          |    |                                 |  |
| 9  | 働き方研究②<br>「リーダーシップ」  | リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。 |    |                                 |  |
| 10 | 働き方研究③<br>「自己成長への行動」 | 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「心の持ち方」「内発的動機づけ」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。              |    |                                 |  |
| 11 | 働き方研究④<br>「メンタルヘルス」  | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。                 |    |                                 |  |
- 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**  
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。
- 【テキスト（教科書）】**  
特に定めません。
- 【参考書】**  
授業内で都度紹介します。
- 【成績評価の方法と基準】**  
毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末レポートでの成績が 30 % という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り 70 % 以上の出席が必要です。
- 【学生の意見等からの気づき】**  
本年度よりアクティブラーニングを導入いたします。
- 【学生が準備すべき機器他】**  
当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。
- 【Outline and objectives】**  
In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

CAR100LA

## キャリアデザイン応用

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法文営国環キG 1年～

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

## 【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を確保します（グループワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	仕事研究① 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究② 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。

4	仕事研究③ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究④ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑤ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑥ 「海外事業」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外事業」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
10	働き方研究③ 「自己成長への行動」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「心の持ち方」「内発的動機づけ」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。

- 12 キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」  
キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について「仕事を通じた幸福度」「職場条件」「選択の基準」の視点から検討を加える。
- 13 キャリア戦略② 「人生の経営戦略」  
「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- 14 キャリア戦略③ 「自己実現のためのキャリアデザイン戦略」  
これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスで自分でお膳立てして、職場や仕事が変わっても役に立つスキルを常に持ち続けることが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザインをグループで話し合い、各自がそれぞれの考えを戦略レベルにまで深めていく。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

#### 【テキスト（教科書）】

特に定めません。

#### 【参考書】

授業内で都度紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが70%、期末レポートでの成績が30%という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り70%以上の出席が必要です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度よりアクティブラーニングを導入いたします。

#### 【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

#### 【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

CAR100LA

## キャリアデザイン応用

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キG1年～

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

#### 【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を確保します（グループワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	仕事研究① 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成したDVD視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究② 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成したDVD視聴を通じて理解を深めていく。

- |    |                      |  |    |                                 |   |
|----|----------------------|--|----|---------------------------------|---|
| 4  | 仕事研究③<br>「開発」        | 開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。   | 12 | キャリア戦略①<br>「キャリア選択の考え方」         | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について「仕事を通じた幸福度」「職場条件」「選択の基準」の視点から検討を加える。                           |
| 5  | 仕事研究④<br>「コンサルティング」  | コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。                                | 13 | キャリア戦略②<br>「人生の経営戦略」            | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。  |
| 6  | 仕事研究⑤<br>「マーケティング」   | マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。                      | 14 | キャリア戦略③<br>「自己実現のためのキャリアデザイン戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを見自分でお膳立てして、職場や仕事が変わっても役に立つスキルを常に持ち続けることが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザインをグループで話し合い、各自がそれぞれの考えを戦略レベルにまで深めていく。 |
| 7  | 仕事研究⑥<br>「海外事業」      | 現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外事業」の仕事について実例をもとに作成した DVD 視聴を通じて理解を深めていく。                             |    |                                 |   |
| 8  | 働き方研究①<br>「チームワーク」   | 組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。          |    |                                 |   |
| 9  | 働き方研究②<br>「リーダーシップ」  | リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。 |    |                                 |   |
| 10 | 働き方研究③<br>「自己成長への行動」 | 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「心の持ち方」「内発的動機づけ」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。              |    |                                 |   |
| 11 | 働き方研究④<br>「メンタルヘルス」  | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。                 |    |                                 |   |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めません。

**【参考書】**

授業内で都度紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末レポートでの成績が 30 % という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り 70 % 以上の出席が必要です。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度よりアクティブラーニングを導入いたします。

**【学生が準備すべき機器他】**

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

**【Outline and objectives】**

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

IDN100LA

**大学を知らう <法政学>への招 待** 2017年度以降入学者

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キG 1年～

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいではありませんか？

この授業では、創立以来 140 年になる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

**【到達目標】**

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。  
・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

毎週金曜日に資料を提示し、1 週間課題（300 字程度）を提出してもらってフィードバックする形式で進めます。

資料はスライド、文献、動画などさまざま。こんな時だからこそ、じっくりわれらが〈法政大学〉をみつめてみましょう。

詳細は Hoppi 上の添付ファイルをご覧ください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・校歌を知らう！	校歌の資料を提示し、法政大学について考えるヒントにします。
2	法政大学の歴史を大まかに知らう！	今後の授業展開の指針となる大学のあゆみを把握します。（小林ふみ子）
3	法律学校・東京法学校としての草創期	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について（浜村彰）
4	大民法学者梅謙次郎のもとでの和仏法律学校としての発展と中国・韓国との関係	開学後約 30 年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わり、留学生受け入れなどについて（高柳俊男）
5	大正期のリベラリズムのなかでの文学者・哲学者たちの活躍	本学で教えた夏目漱石門下の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。（衣笠正晃）
6	法政大学にかかわる作家の小説・随筆を読もう！	前週の作家・思想家たちの著述から
7	戦時下の日本と法政大学生	戦時下の大学と学徒出陣について（古俣達郎）
8	戦後の総合大学としての大発展期	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える（横内正雄）
9	法政大学の学生文化	学生生活と文化の今昔を知る（古俣達郎）

- |    |                          |  |
|----|--------------------------|--|
| 10 | 改革と発展の時代へ                | 本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に新たに置かれた 4 学部について学ぶ。 |
| 11 | 法政大学における「自由」の概念と「法政大学憲章」 | 「法政らしさ」を考える                                    |
| 12 | ふりかえり                    | この授業を受けてどう思ったか、これからの自身の学びや法政大学に期待したいことなどを共有する。 |
| 13 | (なし)                     | *****  |
| 14 | (なし)                     | *****  |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。

4 月オープンの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。

**【参考書】**

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

**【成績評価の方法と基準】**

初回を除く各回の課題を 10 点満点で採点し、その集計で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

開設 10 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

配付資料類は後日、授業支援システムを通じても配付します。

**【その他の重要事項】**

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。  
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

**【Outline and objectives】**

Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

BSP100LA

## リベラルアーツ特別講座 2017年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：岩田和子、講師（ゲストスピーカー）：山本洋一郎氏他

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キG 1年～

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

## 【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。授業の開始日は4月24日（金）からとし、全12回の講義とします。本講義は、複数回の動画配信（教材配布あり）と、教材のみ配布の方法にて実施します。成績評価の方法と基準については、変更ありません。なお、今後授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

オムニバス形式ですが、授業としての統一性を保てるよう、責任者の教員が同席します。そのコーディネートのもと、各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、講義を担当します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・金融経済教育の重要性 ・人生とお金	・生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ。 ・人生にかかるお金の意味、ライフデザイン的重要性などを学ぶ。
2	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
3	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
4	ライフプランを描く①	ライフプランの重要性、人生の3大費用などを学ぶ
5	ライフプランを描く②	キャッシュフローの分析演習など
6	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
7	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点

8	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンとの関係、長期投資の重要性などを学ぶ
9	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ
10	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用法などを学ぶ
11	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用法などを学ぶ
12	・トラブルに強くなる ・全体総括	・学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ。 ・全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

配布資料およびweb上の参考資料を事後に読むこと。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

## 【参考書】

資料については開講時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7割以上）（20%）、中間小テスト（2回）（20%）および最終レポート（60%）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

※リアクションペーパーは、学習支援システムのテスト/アンケート機能等を活用して実施いたします。

## 【学生の意見等からの気づき】

2020年度より開講のため、なし。

## 【Outline and objectives】

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill.

The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank, Ltd.

LIT100LA

## 日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

## 表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

## 【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1～2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、学習支援システムに教材とレポート課題を掲示するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起るか把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。

④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落としと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。
⑤	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
⑥	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
⑦	逆櫓の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
⑧	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
⑨	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇的的船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
⑩	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
⑪	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
⑫	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
⑬	腰越の事	平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
⑭	全体のまとめ	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で取り上げる段には必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおよその内容を把握するように心がける。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959年。761頁。

**【参考書】**

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004年。  
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014年。2200頁。  
1500頁。

日下力『平家物語転読』笠間書院。2006年。1900頁。

山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012年。1900頁

**【成績評価の方法と基準】**

様々な人物の描き方、話の展開の工夫など、『平家物語』の持つ特色が十分に理解できたかどうかを論述式の試験で問う。試験の点数(70%)と授業への参加態度(30%)を総合して成績評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。試験の実施が困難な場合は、学期末のレポートにより70%の評価を行う予定である。

**【学生の意見等からの気づき】**

『平家物語』は登場人物が多岐なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

**【Outline and objectives】**

Read the "Heike Monogatari" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

LIT100LA

**日本古典文学B**

2017年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

**表 きよし**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

**【到達目標】**

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

義経・弁慶の成長過程、二人が会って主従となる経過、追われる立場となった二人の苦難の様子を、様々な作品を通して読み進め、作品による描かれ方の違いなどを講義していく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。
④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。

- ⑤ 義経と兵法書 奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入力するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
- ⑥ 弁慶の誕生と成長 弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
- ⑦ 義経・弁慶の出会い 京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
- ⑧ 義経・弁慶の主従契約 清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
- ⑨ 頼朝からの刺客 平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入れず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
- ⑩ 義経・弁慶の都落 鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
- ⑪ 静との別れ 義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
- ⑫ 義経・弁慶の北国落 吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
- ⑬ 義経・弁慶の最期 奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
- ⑭ 全体のまとめ 今までの授業を振り返りながら、義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品や古典芸能の面白さを理解できたかを確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。プリントを配布する。

#### 【参考書】

梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。4457円

#### 【成績評価の方法と基準】

古典文学作品に描かれる義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品の面白さを人に伝えられるかを論述式の試験で問う。試験の点数（70%）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（30%）を総合して成績評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

#### 【Outline and objectives】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

LIT100LA

## 日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：清少納言と紫式部—平安朝の才女対決—

## 園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代の文学作品」といえば『枕草子』や『源氏物語』を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。

前者の作者である清少納言と後者の作者である紫式部は、いずれも平安時代きっての才女として並び称されてきたが、実際のところ、この両者の人物像や関係性はどのようなものであったのか。

本授業では、主として彼女らの書き遺した作品を通して、清少納言と紫式部の人物像と関係性を考察することを目的とする。

## 【到達目標】

主に『枕草子』と『紫式部日記』の中から、清少納言と紫式部の宮廷内でのふるまいや性格がうかがえる記事を取り上げて読むことにより、両者の人物像を理解した上で、両者の関係性についても考察する。

さらには、それぞれの作品を読むことを通して、平安時代の慣習等についても、理解を深めてゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	枕草子	華やかな宮廷生活
③	枕草子	中宮定子への敬愛
④	枕草子	貴公子たちとの交流
⑤	栄花物語	主家の没落
⑥	枕草子	失われぬ矜持
⑦	紫式部日記	内省的な性格（?）
⑧	紫式部日記	主家の繁栄を見つめて
⑨	紫式部日記	男性貴族たちへのまなざし
⑩	紫式部日記	道長夫妻との関係性
⑪	紫式部日記	中宮彰子との関係性
⑫	紫式部日記	「ライバルたち」への批評
⑬	無名草子	後世の二人への評価
⑭	試験・まとめと解説	試験の実施・授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回新しい記事を紹介するので、事前準備は必要ない。

授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返り、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業中にプリントを配布する。

## 【参考書】

なし。（それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介すること（フィードバック）により、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

## 【Outline and objectives】

This course introduces to Murasaki Shikibu and Sei Shonagon students taking this course. (They are both very famous female writers of the Heian period.)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about Murasaki Shikibu and Sei Shonagon.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

## 日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：和泉式部一平安朝の恋多き女

## 園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和泉式部は、平安時代の有名女流歌人の一人で、『紫式部日記』にもその名が見える人物であるが、清少納言や紫式部に比べると、知名度は劣るかもしれない。

しかしながら、この女性はいわゆる「恋多き女」として有名で、藤原道長にも「浮かれ女」と呼ばれたという。これは、現代における「モテ」「非モテ」という感覚ともつながるものであろう。

この授業では、『和泉式部日記』と『和泉式部集』をはじめとする文学作品を通して、和泉式部という一人の女性の人生を理解することを目的とする。

## 【到達目標】

『和泉式部日記』『和泉式部集』をはじめとして、和泉式部にまつわるエピソードを載せる文学作品の記事を読むことで、和泉式部という女性の人生のさまざまな側面を考えるとともに、現代とは異なる平安時代の身分制度や婚姻の慣習等についても理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、メッセージが記入できる出席カードを配布し、提示された質問やコメントを次回の授業の最初のフィードバックの際に反映することで、理解を含め、視野を広げることに役立つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と概説
②	和泉式部日記	師宮敦道親王とのなれそめ
③	和泉式部日記	恋の進展
④	和泉式部日記	愛と不信と一揺れ動く二人の関係
⑤	和泉式部日記	再燃する愛情
⑥	和泉式部日記	宮邸入りの誘い
⑦	和泉式部日記	宮邸に迎えられて
⑧	和泉式部日記	日記の結末－宮の正妻の退去
⑨	大鏡	二人の恋に対する世間の目
⑩	和泉式部集他	親王亡き後の和泉式部
⑪	古本説話集他	最後の男・藤原保昌
⑫	栄花物語他	「母」としての和泉式部
⑬	無名草子他	和泉式部への評価
⑭	試験・まとめと解説	試験の実施・授業全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回新しい記事を紹介するので、事前準備は必要ない。

授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返り、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業中にプリントを配布する。

## 【参考書】

なし。（それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。）

## 【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行い、答案内容によって評価する（90%）。

ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。

平常点は最終評価の参考とする（10%）。ただし、特別な理由もなく出席率が 60% 以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介すること（フィードバック）により、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

## 【Outline and objectives】

This course introduces to Izumii Shikibu students taking this course. (Izumi Shikibu is one of the famous lady poets of the Heian period.)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about Izumii Shikibu.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

## 日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「紫式部日記」を敦成親王誕生記録部分を中心に読み解く

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「紫式部日記」を前半の敦成親王誕生記録を中心日記に読む。現代はブログなどが盛んだが、そこに「日記」と共通する享受のありようがみられるのではないだろうか。1000 年前の女性のブログとして「紫式部日記」をみた場合、どのように読むことができるかといった意識をもって、読解をしていきたい。そこからさらに、書くということ、文学の価値、意味について考えていく。

## 【到達目標】

古典文学に対して、古文というふうには縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。現代語訳付のテキストを使っての講義形式。教科書が現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。また、人数にもよるが、読解に関するディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	①導入 時代背景と登場人物紹介
2	冒頭	情景描写を味わう
3	人物描写	道長・彰子などへのまなざし
4	記録者としての紫式部	イベント記録としての日記
5	紫式部の立場	イベントを通して描かれる社会
6	記録からはみ出るもの	イベントがもたらす思索
7	関わる人々の描写	敦成親王の誕生が意味するもの
8	依頼者としての道長	敦成親王誕生記録の編集意図
9	権力との距離感と批評眼	男性日記の記録との比較
10	王権へのまなざし	源氏物語との関連性
11	女房としての生きることとは	仕事人としての意識
12	枕草子との比較	女房意識を中心に
13	紫式部日記とはなんだったか	敦成親王誕生記録とその他の部分との関連性
14	試験・まとめと解説	事前発表設問による論述テスト。引用等の書式についての指導。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する古典文学や風習などに目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「原文&現代語訳シリーズ 紫式部日記」小谷野純一訳・注 笠間書院 1700 円 → 大学生協にて通販できます

## 【参考書】

「日本古典文学集成 紫式部日記・紫式部集」新潮社  
高校時代の日本史の年表  
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

直近のアンケートより、受講者からの意見として、感想を求めながらの読解をしていくことについて、前向きに捉える学生と、否定的にとらえる学生がいた。これに対し、質問や感想を求められて、とっさに出てくる言葉・答えでは説明として不十分であるということに、気づいてもらいたい、それがレポートを作成するうえでの論理性に繋がると思うので、この方式は続けたい。

## 【Outline and objectives】

Read "Murasaki Shikibu Diary". In modern times, blogs and the like are thriving, but I guess there is a common enjoyment with "diary" there. If you look at the "Murasaki Shikibu Diary" as a woman's blog 1000 years ago, I would like to read it with awareness of how you can read it. From that point on, I think about writing, the value and meaning of literature.

LIT100LA

## 日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：「紫式部日記」を随想部分を中心に読み解く

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「紫式部日記」を、物語作者と女房という二足のわらじを履く紫式部の個人的な内面を吐露した部分を中心に読み取っていく。それは、仕事と自己のありかたの一致に悩む現代人にも共通するものでもあるのではないだろうか。

## 【到達目標】

日本古典文学に対して、親しみを感じられるようになる。  
現代にまでつながる日本の文化のありように関する知識を深める。  
読解を通して文学作品を享受し現代にも通じる価値を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に、講義形式。現代語付きのテキストを使うことから、現代語訳して終わりではなく、その先にある解釈、理解・享受を目的として進める。受講人数にもよるが、受講者からの意見、感想を求めながら、ディスカッションも出来たらいいと思っている。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	時代背景と登場人物紹介
2	自意識と処世	紫式部とはどのような存在か
3	男性社会へのまなざし	学問との関わり方
4	物語の女性と比較する意識	同僚女房品定め 格上女房
5	仕事をする女性	同僚女房品定め 同輩女房
6	女房としての意識	清少納言との比較
7	理想の女性像	皇后定子と中宮彰子
8	女房生活の経験がもたらしたもの	道長の栄華と源氏物語との関わり
9	紫式部集との関連	女友達との交際
10	述懐的文章からみる思い	人生への思い
11	出家願望	物語の女性たちとの関係
12	当時の女性像との比較	女房・作家としての紫式部と一般女性
13	紫式部日記の意義	日記を書くことの意味
14	レポート提出・まとめと解説	レポート提出。論文の書き方等の指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前、もしくは必要に応じてその後に、高校時代の、日本史（奈良時代から平安時代）の知識および文学史の枕草子や源氏物語についての知識についての復習・確認がなされることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「原文&現代語訳シリーズ 紫式部日記」小谷野純一訳・注 笠間書院 1700円

## 【参考書】

「日本古典文学集成 紫式部日記・紫式部集」新潮社  
「ビギナーズクラシックス 枕草子」角川ソフィア文庫

## 【成績評価の方法と基準】

出席をとる。半分以上の出席がレポートの提出資格とする。  
レポートが評価の100%。レポートは4000字相当。  
作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的に述べられているかが重要な評価基準となる

## 【学生の意見等からの気づき】

直近のアンケートより、受講者からの意見として、感想を求めながらの読解をしていくことについて、前向きに捉える学生と、否定的にとらえる学生がいた。これに対し、質問や感想を求められて、とっさに出てくる言葉・答えでは説明として不十分であるということに、気づいてもらいたい、それがレポートを作成するうえでの論理性に繋がると思うので、この方式は続けたい。

## 【Outline and objectives】

Read "Murasaki Shikibu Diary". I will focus on the part of Murasaki Shikibu who wears two straws, the story creator and the wife, exposing the inner surface of the individual. Isn't that common to modern people who are struggling with the unity of work and self?

LIT100LA

## 日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「紫式部日記」を敦成親王誕生記録部分を中心に読み解く

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「紫式部日記」を前半の敦成親王誕生記録を中心日記に読む。現代はブログなどが盛んだが、そこに「日記」と共通する享受のありようがみられるのではないだろうか。1000 年前の女性のブログとして「紫式部日記」をみた場合、どのように読むことができるかといった意識をもって、読解をしていきたい。そこからさらに、書くということ、文学の価値、意味について考えていく。

## 【到達目標】

古典文学に対して、古文というふうには縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。現代語訳付のテキストを使っての講義形式。教科書が現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。また、人数にもよるが、読解に関するディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	①導入 時代背景と登場人物紹介
2	冒頭	情景描写を味わう
3	人物描写	道長・彰子などへのまなざし
4	記録者としての紫式部	イベント記録としての日記
5	紫式部の立場	イベントを通して描かれる社会
6	記録からはみ出るもの	イベントから生み出される思索
7	関わる人々の描写	敦成親王の誕生が意味するもの
8	依頼者としての道長	敦成親王誕生記録の編集意図
9	権力との距離感と批評眼	男性日記の記録との比較
10	王権へのまなざし	源氏物語との関連性
11	女房としての生きることとは	仕事人としての意識
12	枕草子との比較	女房意識を中心に
13	紫式部日記とはなんだったか	敦成親王誕生記録とその他の部分との関連性
14	試験・まとめと解説	事前発表設問による論述テスト。引用等の書式についての指導。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する古典文学や風習などに目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「原文&現代語訳シリーズ 紫式部日記」小谷野純一訳・注 笠間書院 1700 円 → 大学生協にて通販できます

## 【参考書】

「日本古典文学集成 紫式部日記・紫式部集」新潮社  
高校時代の日本史の年表  
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

直近のアンケートより、受講者からの意見として、感想を求めながらの読解をしていくことについて、前向きに捉える学生と、否定的にとらえる学生がいた。これに対し、質問や感想を求められて、とっさに出てくる言葉・答えでは説明として不十分であるということに、気づいてもらいたい、それがレポートを作成するうえでの論理性に繋がると思うので、この方式は続けたい。

## 【Outline and objectives】

Read "Murasaki Shikibu Diary". In modern times, blogs and the like are thriving, but I guess there is a common enjoyment with "diary" there. If you look at the "Murasaki Shikibu Diary" as a woman's blog 1000 years ago, I would like to read it with awareness of how you can read it. From that point on, I think about writing, the value and meaning of literature.

LIT100LA

## 日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：「紫式部日記」を随想部分を中心に読み解く

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「紫式部日記」を、物語作者と女房という二足のわらじを履く紫式部の個人的な内面を吐露した部分を中心に読み取っていく。それは、仕事と自己のありかたの一致に悩む現代人にも共通するものでもあるのではないだろうか。

## 【到達目標】

日本古典文学に対して、親しみを感ぜられるようになる。現代にまでつながる日本の文化のありように関する知識を深める。読解を通して文学作品を享受し現代にも通じる価値を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に、講義形式。現代語付きのテキストを使うことから、現代語訳して終わりではなく、その先にある解釈、理解・享受を目的として進める。受講人数にもよるが、受講者からの意見、感想を求めながら、ディスカッションも出来たらいいと思っている。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	時代背景と登場人物紹介
2	自意識と処世	紫式部とはどのような存在か
3	男性社会へのまなざし	学問との関わり方
4	物語の女性像への意識	同僚女房品定め 格上
5	仕事と女性	同僚女房品定め 同輩
6	女房としての意識	清少納言との比較
7	理想の女性像	皇后定子と中宮彰子
8	女房生活の経験がもたらしたもの	道長の栄華と源氏物語との関わり
9	紫式部集との関連	女友達との交際
10	述懐的文章からみる思い	人生観
11	出家願望	物語の女性像との関わり
12	当時の女性像との比較	女房・作家としての紫式部と一般女性
13	紫式部日記の意義	日記を書くことの意味
14	レポート提出・まとめと解説	レポート提出。論文の書き方等の指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前、もしくは必要に応じてその後に、高校時代の、日本史（奈良時代から平安時代）の知識および文学史の枕草子や源氏物語についての知識についての復習・確認がなされることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「原文&現代語訳シリーズ 紫式部日記」小谷野純一訳・注 笠間書院 1700円

## 【参考書】

「日本古典文学集成 紫式部日記・紫式部集」新潮社  
「ビギナーズクラシックス 枕草子」角川ソフィア文庫

## 【成績評価の方法と基準】

出席をとる。半分以上の出席がレポートの提出資格とする。レポートが評価の100%。レポートは4000字相当。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的に述べられているかが重要な評価基準となる

## 【学生の意見等からの気づき】

直近のアンケートより、受講者からの意見として、感想を求めながらの読解をしていくことについて、前向きに捉える学生と、否定的にとらえる学生がいた。これに対し、質問や感想を求められて、とっさに出てくる言葉・答えでは説明として不十分であるということに、気づいてもらいたい、それがレポートを作成するうえでの論理性に繋がると思うので、この方式は続けたい。

## 【Outline and objectives】

Read "Murasaki Shikibu Diary". I will focus on the part of Murasaki Shikibu who wears two straws, the story creator and the wife, exposing the inner surface of the individual. Isn't that common to modern people who are struggling with the unity of work and self?

LIT100LA

## 日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。  
一作品につき2～3回程度の授業で進行します。

## 【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
  - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
  - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。  
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。  
春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「日本近代文学」の始まり：「日本」	授業計画および予備知識の説明。 『浮雲』
2	「日本近代文学」の始まり：「近代」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり：「文学」	『浮雲』
4	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
5	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
6	テキストの空白について	『たけくらべ』
7	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』

8	自然主義とはなにか 作者の意図と表現について	『破戒』
9	夏目漱石について	『ころ』
10	テキスト論について	『ころ』
11	他者という恐怖について	『ころ』
12	試験・まとめと説明	試験・まとめと説明
13	(2020年度に限り、なし)	(2020年度に限り、なし)
14	(2020年度に限り、なし)	(2020年度に限り、なし)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか  
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』岩波文庫  
島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか  
夏目漱石『ころ』新潮文庫ほか

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。  
2020年度春学期は、状況によってはレポート100%になる可能性もあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

## 【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※ 今年度春学期については、開講時期が遅れ、かつ、対面形式の授業がいつから可能になるか不明であるため、(1)当面は学習支援システムを通じて資料(PDF)、パワーポイントのファイルを配布し、可能であれば小テストを実施し、また掲示板で質問を受けたり、議論をしたりするというやり方で授業を進めます。(2)授業回数は減りますが、内容を調整して進行することとし、上記4作品を読む方針は変更しないことにします。

※ 状況次第で、成績評価の材料をテストではなくレポートに切り替えます。

※ 学生が不利を被るようなことのないように、留意します。

## 【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

## 日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

## 川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。

一作品につき3回程度の授業で進行します。

## 【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
  - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
  - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。
- わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
- 秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱った作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません（ただし『たけくらべ』は集英社文庫版は避けてください）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはなにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはなにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』

13 日向のにおい 『沈黙』

14 試験・まとめと説明 試験・まとめと説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 椎の若葉』講談社文芸文庫

芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

遠藤周作『沈黙』新潮文庫

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

## 【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

## 【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

## 日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。  
一作品につき2～3回程度の授業で進行します。

## 【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
  - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
  - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。  
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。  
春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「日本近代文学」の始まり：「日本」	授業計画および予備知識の説明。『浮雲』
2	「日本近代文学」の始まり：「近代」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり：「文学」	『浮雲』
4	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
5	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
6	テキストの空白について	『たけくらべ』
7	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』

8	自然主義とはなにか 作者の意図と表現について	『破戒』
9	夏目漱石について	『ころ』
10	テキスト論について	『ころ』
11	他者という恐怖について	『ころ』
12	試験・まとめと説明	試験・まとめと説明
13	(2020年度に限り、なし)	(2020年度に限り、なし)
14	(2020年度に限り、なし)	(2020年度に限り、なし)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか  
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』岩波文庫  
島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか  
夏目漱石『ころ』新潮文庫ほか

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。  
2020年度春学期は、状況によってはレポート100%になる可能性もあります。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

## 【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※ 今年度春学期については、開講時期が遅れ、かつ、対面形式の授業がいつから可能になるか不明であるため、(1)当面は学習支援システムを通じて資料(PDF)、パワーポイントのファイルを配布し、可能であれば小テストを実施し、また掲示板で質問を受けたり、議論をしたりするというやり方で授業を進めます。(2)授業回数は減りますが、内容を調整して進行することとし、上記4作品を読む方針は変更しないことにします。

※ 状況次第で、成績評価の材料をテストではなくレポートに切り替えます。

※ 学生が不利を被るようなことのないように、留意します。

## 【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

## 日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

## 川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。

一作品につき3回程度の授業で進行します。

## 【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
  - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
  - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。
- わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
- 秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱った作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません（ただし『たけくらべ』は集英社文庫版は避けてください）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはなにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはなにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』

13 日向のにおい 『沈黙』

14 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 椎の若葉』講談社文芸文庫

芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

遠藤周作『沈黙』新潮文庫

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

## 【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

## 【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

## 日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：あらすじ「を」学ぶ文芸批評

倉本 さおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説作品の「あらすじ」とは、テキスト自体を構成するさまざまな要素を拾いあげたものであると同時に、同時代の現実を生きる人びとのさまざまな視点を含みこんでいます。この授業では、現代において第一線で活躍している作家の作品をとりあげ、そのあらすじの一例を検証することで文芸批評の基礎を学んでいくと同時に、文学におけるアクチュアルなテーマについて理解を深めていきます。

## 【到達目標】

- ・テキストの基本的な構造や読解の方法について理解し、あらゆる学問のベースとなる言語能力を向上させる
- ・先行研究を踏まえると同時に、情報検索の効果的なやり方を身につけ、客観的な説得力をそなえた論文を書くことができるようになる
- ・授業中に学んだ視点を応用して自ら問題を発見し、多角的に答えを見出すことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とします。教材となるプリントを配布し、それについて解説しながら進める形を基本としますが、ミニレポートやリアクションペーパー、その他授業内の課題、学生どうしの話し合いなど、学生が主体的に学ぶことを求める部分が時間あるので、積極的に参加することを期待します。  
※ガイダンスを含めた授業開始日は22日を予定していますが、春学期は「学習支援システム（HOPPII）」を利用したオンライン授業につき、時間割で決められた曜日・時刻どおりにページにアクセスする必要はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業概要のガイダンス	この授業の進め方について説明します。また、第2回目の授業に必要な課題を配付します。
第2回	ストーリーとプロット（「桃太郎」を書いてみよう）	「桃太郎」のお話のパロディを書いてみます。そのとき、「プロット」を構築することで「物語」がどのようにしたら「小説」になるのかについて考えていきます。
第3回	プロットの基本理論（「小説」とは何か）	第2回の授業を踏まえ、E.M. フォスター「小説とは何か」等を参考にしながら、文芸批評の理論とはどのようなものか、基本的な考え方を身につけていきます。
第4回	テキストの考え方（「テキスト」とは何か）	ロラン・バルトが論じた「テキスト」がどのような考え方なのかを、具体的な小説テキストを踏まえながら考えていきます。
第5回	テキストの語り（『むらさきのスカートの女』を読む）	今村夏子『むらさきのスカートの女』を読み、テキストの「語り」「語り手」とはどのような枠組みなのか学んでいきます。
第6回	テキストと引用（『チョコレートコスモス』を読む）	いくつかの恩田陸作品を分析します。特に『チョコレートコスモス』の場合、美内すずえの漫画『ガラスの仮面』との関係を見ていくことで、インターテクスチュアリティの考え方を学んでいきます。
第7回	テキストと文化（『横道世之介』を読む）	吉田修一『横道世之介』『続横道世之介』等を分析し、テキストが現代の文化とどのように関わっているのか具体的に検証しながら考えていきます。

第8回	クイアリーディングの基礎（『ドレス』を読む）	藤野可織『ドレス』を分析し、テキストに文化としてのジェンダーがどのように介入しているのかを考えることで、クイアリーディングの理論についての基礎を学んでいきます。
第9回	フェミニズム小説の現在（『リリース』『無限の玄／風下の朱』を読む）	古谷田奈月『リリース』『無限の玄／風下の朱』等を通じて、ジェンダー論やクイアリーディングがフェミニズムの議論とどのように関わっているのか考えていきます。
第10回	メディアとは何か（『問いのない答え』を読む）	長嶋有『問いのない答え』とインターネットメディアとの関わりを通じ、メディアという概念についての基本的な考え方を学んでいきます。
第11回	読者と文学（『坂下あたると、しじょうの宇宙』を読む）	町屋良平『坂下あたると、しじょうの宇宙』を読み、現代の文学がインターネットメディアや小説投稿サイトとどのように関わっているのか考察していきます。
第12回	まとめ（授業の振り返りと期末レポートについて）	これまでの授業を振り返り、身につけた視点を改めて整理しながら、各自設定した期末レポートのテーマにフィードバックしていきます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う小説テキストは準備学習として事前に読んでくれることが望ましいです。また授業内で書き切れなかった課題やリアクションペーパーも宿題扱いとして評価の対象とするので、諦めずに次の回に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【参考書】

小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい 文学研究の基本15講』（慶應大学出版会）  
廣野由美子『批評理論入門』中公新書  
他、取り上げた作品に応じて授業ごとに参考書や参考作品を提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度 20%、授業内で執筆・提出する課題 40%、期末レポート 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当代行のためフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

春学期は授業支援システムを利用したオンライン授業が基本となります。

## 【Outline and objectives】

The "Summary" of a novel not only captures the various elements that make up the text itself, but also includes various perspectives of people living in contemporary reality. In this class, students learn the basics of literary criticism by examining examples of the "Summary" of works by leading contemporary writers and deepen their understanding of actual themes in literature.

LIT100LA

## 日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：あらすじ「を」読む文学史

倉本 さおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「あらすじ」とは単純にストーリーの概要をまとめたものではありません。作品の中のどの情報を相手に伝えるかの判断によって——つまり書き手次第で大きく異なるものになります。この授業では、日本文学の著名な小説を取り上げ、それぞれのテキストと「あらすじ」の一例を分析していくと同時に、自分であらすじをまとめたり書評を書く時間を設けることで、小説とはどういう表現メディアなのか多角的かつ主体的に学んでいきます。

## 【到達目標】

- ・テキストの基本的な構造や読解の方法について理解し、あらゆる学問のベースとなる言語能力を向上させる
- ・テキストから必要に応じて適宜情報を取り出す訓練を行うことで、客観的な説得力をそなえた文章を書くことができるようになる
- ・授業中に学んだ視点を応用して自ら問題を発見し、多角的に答えを見出すことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とします。教材となるプリントを配布し、それについて解説をしながら進める形を基本としますが、ミニレポートやリアクションペーパー、その他授業内の課題、学生どうしの話し合いなど、学生が主体的に学ぶことを求める部分が時間あるので、積極的に参加することを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「あらすじ」とは何か	「あらすじ」の基本的な構造や性格についてガイダンスすると同時に、その功罪についても学んでいきます。
第2回	ストーリーとプロット（「ごんぎつね」を読む）	新美南吉「ごんぎつね」を分析することで、「ストーリー」と「プロット」がどのように構造化されているかを具体的に分析します。
第3回	あらすじを書いてみる（「ごんぎつね」のあらすじ）	第2回で分析した内容をもとに、学生それぞれが実際にあらすじを書いてみます。その上で、専門家がまとめたあらすじや、他の学生が書いたあらすじなどと読みと読み比べ、自分の書いたものとの差異がどのように生じているかを考えます。
第4回	翻案とあらすじ（「山月記」を読む）	中島敦「山月記」と、その原典「人虎伝」とを読み比べることで、翻案とはどういうものかを学ぶとともに、原典のあらすじがどのように改編されるのかを分析します
第5回	あらすじをおもしろくする（「山月記」のあらすじ）	第4回の授業内容を踏まえ、自分であらすじを書いてみます。その際、より「魅力的」なあらすじにするには、どのような工夫をすれば良いのかについて考えていきます。
第6回	小説メディアと映像メディア（「羅生門」をさまざまな形で読む）	芥川龍之介の小説「羅生門」「藪の中」を読んだ上で、黒澤明の映画「羅生門」を鑑賞します。双方の差異を分析すると同時に、アダプテーションについての基本的な考え方を学んでいきます。
第7回	国語教育におけるあらすじ（「羅生門」の教育的位置づけ）	高等学校の「国語総合」において、芥川龍之介「羅生門」がどのように教えられていたのか、そこであらすじがどのように扱われていたのか考察していきます。

第8回	小説の時代背景（「檸檬」の時代背景）	梶井基次郎「檸檬」に、書かれた当時の時代背景や文化がどのように入り込んでいるのか検証していきます。（例：「丸善」や店内にあるさまざまな商品、自意識の問題など）
第9回	小説の多様な読み（「檸檬」の分析とあらすじ）	梶井基次郎の「檸檬」のあらすじを書いてみます。そのとき、現代の視点から読解する場合と、時代背景を踏まえて読解する場合との違いについて分析することで、文学テキストがどのような形で生き延びていくのか考察します。
第10回	小説とジェンダー（「走れメロス」を読む）	太宰治「走れメロス」を分析します。特に、ジェンダー論の視点を踏まえることで、国語教育で学んできた読みがどのように変わるのか考えていきます。
第11回	「書評」を書く（「走れメロス」の書評）	太宰治「走れメロス」の書評を書いてみます。まとめた「あらすじ」をどのようにして「書評」という形に持っていくのか考えることを通じて、「書評」とはどのような文章ジャンルなのかについて学びます。
第12回	定説を疑う（「こころ」を読む）	夏目漱石「こころ」を分析します。その際、「こころ」について教科書等ではしばしば指摘される「明治の精神」という読みがどの程度まで有効なのかを考えると同時に、定説として行われている読みを突き崩す可能性についても検証します。
第13回	第13回書評のプレゼンテーション（「こころ」を用いてプレゼンテーションを行う）	書評として書いた内容を、口頭で伝えるにはどのようにしたら良いのかを考えてみます。この回はゲスト講師にプレゼンテーションをしてもらい、その内容について検討します。
第14回	まとめ（これまで書いたあらすじについての講評）	授業内で書いたり、提出してもらったあらすじについてフィードバックを行います。また、期末レポートでは、それらのあらすじをどのように書き換えれば良いのかについて説明を行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う小説テキストは、準備学習として事前に読んでくることになります。また、授業内で書き切れなかったあらすじや書評は、基本的には宿題扱いとなるので、諦めずに次の回に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

授業で扱う小説作品はすべて青空文庫（作品のテキストを無料公開しているインターネット上の電子図書館）で読めるものを選んでありますが、各自文庫本や全集等入手して解説も含めて読んでおくことより理解度が深まると思っています。

## 【参考書】

小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい 文学研究の基本15講』（慶應大学出版会）  
 廣野由美子『批評理論入門』中公新書  
 他、取り上げた作品に応じて授業ごとに参考書や参考作品を提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度 30%、授業内で執筆・提出する課題 35%、期末レポート 35%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当代行のためフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

"Arasuji" is not just a summary of the story. It changes a lot depending on what kind of information you want to convey to others. In this class, students can take up famous novels in Japanese literature, analyze the sentences and examples of "Summary", summarize their own outlines, and write book reviews, so that they can learn from various perspectives and independently about the expressions of novels.

LIT100LA

## 日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：コトバと文学

村山 龍

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学テキストは人の手によって編まれた〈コトバ〉の集積体である。日本語という〈コトバ〉を用いて何が語られているのか、さらになぜその〈コトバ〉が用いられているのか、私たちが当たり前のこととして見過ごしているところに実は大きな意味が隠されていることもある。話者の態度や社会通念などさまざまなものが〈コトバ〉の意味を操作し、構築し、連関を紡いでいるのだ。本講義ではこうした問題意識をもとに、日本近代文学の分析を通じて〈コトバ〉というものの働きを学んでいく。

## 【到達目標】

- ・明治以後の日本近代文学のテキストを用いて、社会と人間と文学の関わりを説明することができる。
- ・文学テキストが娯楽であると同時に、高度な学問の対象でもあることを理解し、多角的に物ごとをとらえ、思考する力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第2回	国語と日本語と母語	〈国語／日本語／母語〉のそれぞれの違いを考える
第3回	内面記述の方法として①	日本近代文学はいかにしてはじまったか
第4回	内面記述の方法として②	二葉亭四迷「浮雲」が果たした役割について考える
第5回	内面記述の方法として③	森鷗外「舞姫」の新しさを考える
第6回	男らしさと女らしさ①	ジェンダーと言葉の関係について考える
第7回	男らしさと女らしさ②	夏目漱石「三四郎」を読む
第8回	男らしさと女らしさ③	太宰治の女性独白体① 1930年代の綴方教育から考える
第9回	男らしさと女らしさ④	太宰治の女性独白体②「千代女」と「女生徒」を読む
第10回	コトバと身体	身体性をコトバがどのように表したのかを考える
第11回	〈方言〉という機能	近代文学において方言が果たしている機能について考える
第12回	言葉と〈コトバ〉①	谷川俊太郎の言語観を知る
第13回	言葉と〈コトバ〉②	近代詩における異化作用について考える
第14回	まとめと解説	これまでの講義を振り返る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示したテキストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。小説作品については授業支援システムで基本的には配布するが、夏目漱石『三四郎』（各社文庫）はそれぞれ購入し、通読しておくこと。

## 【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：30%
  - ・定期試験：70%（ただし、履修者数によっては授業内試験に変更する場合もある）
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

文学批評に関する用語（パラダイムやアンビバレンツなど）を授業中に用いることがある。できる限り説明を加えていきたいと思うが、そうした語句については『読解を深める 現代文単語〈評論・小説〉改訂版』（桐原書店、2018）などでも学ぶことができるので、ぜひ役立ててほしい。

## 【Outline and objectives】

Literary texts are collections of "words" knitted by human hands. In fact the great meaning is actually hidden in what we are missing as to what it is told by using the Japanese "words" and why those "words" are used. Sometimes, Various things such as the attitude of the speaker and social wisdom operate the meaning of "words", build it, and spin the linkage. Based on these problem consciousness, this lecture will learn the work of "words" through analysis of modern Japanese literature.

LIT100LA

## 日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日本近現代文学の多様性

村山 龍

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学問は人文科学分野と自然科学分野とに大別され、それぞれで極めて精緻な研究が行われてきた。日本近代文学も「〈日本〉の〈近代〉の文学」という枠組みがあり、そのなかでさらに細分化されて研究が進められている。しかし、現在、狭い枠組みにとらわれず、いくつもの他領域を横断することによって新しい知見が生み出されるようになってきている。そこで本講義では文学テキストを通じて様々な問題系へと認識を拡げることが目的とする。

## 【到達目標】

- ・文学テキストをただ読むのではなく、解釈に通じる深い読解をするための知識を身につけることができる。
- ・具体的な文学テキストの精読を通じて、多様な問題を考える柔軟な思考を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第2回	テキスト分析の方法論①	文学テキストはどう読むかを学ぶ
第3回	テキスト分析の方法論②	芥川龍之介「羅生門」読解
第4回	テキスト分析の方法論③	志賀直哉「小僧の神様」読解
第5回	語りと内容の分析①	夢野久作「瓶詰の地獄」①ワークシート
第6回	語りと内容の分析②	夢野久作「瓶詰の地獄」②グループディスカッションと解説
第7回	明治期のイエ制度①	夏目漱石「それから」①概説
第8回	明治期のイエ制度②	夏目漱石「それから」②読解
第9回	経済を描く①	横光利一「家族会議」①概説
第10回	経済を描く②	横光利一「家族会議」②読解
第11回	政治と文学①	目取真俊「水滴」ワークシートと読解
第12回	政治と文学②	目取真俊「魚群記」ワークシートと読解
第13回	宗教性を問う	宮澤賢治「ひかりの素足」読解
第14回	まとめと解説	これまでの講義を振り返る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示したテキストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

授業内で取り扱う小説については、基本的に授業支援システムを用いて読むことができるようにするが、次の2冊は購入して読んでおくこと。

①夏目漱石『それから』（各社文庫）

②横光利一『家族会議』（講談社文芸文庫、2000、¥1,242-（ただしKindle版））

## 【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・授業中に貸すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（平常点）：30%

・定期試験：70%（ただし、履修者数によっては授業内試験にする場合もある）

以上を考慮し、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内で、小説に関する読解ワークを行ってもらおう。例年、学生の多くが力が入った読みを提示してくれるので、今年度の学生にもぜひ頑張ってもらいたい。

## 【Outline and objectives】

Currently, academic disciplines are roughly divided into humanities and natural sciences. And very sophisticated research has been done in each of them. Modern Japanese literature also has a framework called "Literature" of "Modern" in "Japan", and further research has been undertaken with further refinement. However, at present, new knowledge is created by traversing several other areas without being restricted by a narrow framework. Therefore, this lecture aims to expand recognition to various problem systems through literary texts.

LIT100LA

## 外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「旅」

## D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、ゲーテ『イタリア紀行』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考える。

\*\*\* 授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。\*\*\*

## 【到達目標】

- 文学の題材と形式の関係を知ること。
- 「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

入門的な講義、日本語のテキストを購読、全員での討議によって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての旅について
第2回	『オデュッセイア』精読（1）	第十一歌（ハデス）
第3回	『オデュッセイア』精読（2）	課題、ディスカッション
第4回	冥界への旅（1）	『オルベウスとエウリュディケ』読解
第5回	冥界への旅（2）	課題、ディスカッション
第6回	近代文学とギリシャ神話（1）	T. マン『ベニスに死す』第3章読解
第7回	近代文学とギリシャ神話（2）	課題、ディスカッション
第8回	教養小説と「旅」（1）	ゲーテ『イタリア紀行』「ローマ」読解
第9回	教養小説と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第10回	ロマン主義と「旅」（1）	アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』第一章 読解
第11回	ロマン主義と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第12回	映画と流行歌における「旅」	W. ヴェンダース <i>Lisbon Story</i> 等
第13回	映画と流行歌における「旅」	課題、ディスカッション

第14回 まとめ

授業の総括および試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

ホメロス『オデュッセイア』

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験：60%

（課題提出も含む）平常点：40%

（受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。）

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムも利用する。

普段使用しているメールアドレスを登録してください。

## 【Outline and objectives】

From ancient Greek mythology *Odyssey*, to Swift's *Gulliver's travels*, Montaigne's *Essays*, until Eichendorf's *Memoirs of a Good-for-Nothing*, the relationship between travel and literature is one of the important theme of world literature.

In this course we will investigate various forms of travel literature including epic poem, diary, essay, satire, novel of formation etc.

LIT100LA

## 外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

## D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

## 【到達目標】

- 今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- 「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

出席者との対話も取り入れながら進めていくので授業中に取り上げる作品はあらかじめ読んでおくこと。メディア比較のために、絵、写真、映画のシーンも時々鑑賞する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第 2 回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解（1）
第 3 回	神話と変身（2）	オウィディウス『変身物語』読解（2） 課題、ディスカッション
第 4 回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第 5 回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	メルヘンと変装（1）	ペロー『ロバの皮』読解
第 7 回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第 9 回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	変身物語と映画（1）	ステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第 11 回	変身物語と映画（2）	ステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較 課題、ディスカッション
第 12 回	変身物語と映画（3）	カフカ『変身』読解（1） 諸映画、コミック等との比較
第 13 回	変身物語と映画（4）	カフカ『変身』読解（2） 諸映画、コミック等との比較 課題、ディスカッション

第 14 回 まとめ

授業の総括および試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

## 【参考書】

オウィディウス『変身物語』

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験：60%

（課題提出も含む）平常点：40%

（受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。）

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムも利用する。  
普段使用しているメールアドレスを登録してください。

## 【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

## 【Outline and objectives】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

LIT100LA

## 外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：バカロレアとフランス文学

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスのバカロレアは19世紀にナポレオンI世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。創設当時より、試験は記述式で行われています。

本授業では、バカロレアの国語の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます（作品は日本語で読みます）。課題は「テキスト解釈」「小論文」「総括」「創作作文」という四種類の論述文です。これらの課題の理解を容易にするため、日本の小説にも言及します。

## 【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

重要：授業開始は4月27日です。第1回の課題や教材については学習支援システム上で指示します。

講義中心です。指示した文章（リアクションペーパー、コメントなど）を書いてもらうこともあります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要・課題説明
2	テキスト解釈導入	ヴォルテール『百科全書』
3	テキスト解釈導入つづき	夏目漱石『こころ』
4	テキスト解釈基本	夏目漱石『こころ』
5	テキスト解釈応用	エミール・ゾラ『居酒屋』
6	「テキスト解釈」バカロレア過去問題	アナトール・フランスによるエミール・ゾラ追悼演説
7	小論文基礎	身近な文章
8	小論文基本	文学の課題
9	「小論文」バカロレア過去問題	2016年度の問題
10	総括基礎	身近な文章
11	総括基本	文学の課題
12	「総括」バカロレア過去問題	2016年度の問題
13	「創作作文」バカロレア過去問題	2016年度の問題
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと（17世紀から19世紀にかけての作品）。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で2時間程度とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

## 【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%（教室授業が可能となった場合）

## 【学生の意見等からの気づき】

期末試験に対する不安を軽減するよう、より分かりやすい説明を心がけます。

## 【その他の重要事項】

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知します。

## 【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA

## 外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：バカロレアとフランス文学

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀にナポレオンⅠ世によって創設されたフランスのバカロレアは、幾度かの改革を経て今日に至っています。2021年度には再び大改革が行われ、必修科目の一つに「新口述試験」が加えられます。

本授業では、春学期の続きとして、まず国語の口述試験の内容—文学作品の解釈のプレゼンテーション—について学びます。次に、初等・中等教育の集大成と位置づけられる「新口述試験」について学びます。

## 【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における口述試験について、フランスの事例を理解する。
- ・演説というジャンルを理解し、口頭で発表するための基礎的なスキルを身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習です。課題はプレゼンテーションです。そのための実践的な練習も行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期授業内容総括、および秋学期授業内容概説・課題説明
2	バカロレア国語の口述試験第1部	ラ・フォンテーヌ『寓話』
3	バカロレア国語の口述試験第2部	ラ・フォンテーヌ『寓話』
4	論述の技術	エミリー・デュシャトレ「幸福論」抜粋等
5	様々な文学ジャンルにおける論述	寓話、小説、哲学コント
6	演説	説得の技術（ヴィクトル・ユゴー、ロベール・バダンテール）
7	演説の伝統的構成法	キケロによる演説の構成
8	中等教育における口述試験	試験の種類と目的
9	「新口述試験」	試験内容、目的、対策（構想、内容構成、口頭練習）
10	プレゼンテーションの内容以外の要素	身体の使い方
11	プレゼンテーションの内容以外の要素	声、沈黙、視線
12	プレゼンテーション（グループ1）	プレゼンテーションと講評
13	プレゼンテーション（グループ2）	プレゼンテーションと講評

## 14 プレゼンテーション プレゼンテーションと講評（グループ3）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読む他、プレゼンテーションの練習を行ってください。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で2時間程度とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

## 【参考書】

- ・横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年
- ・TEDEX 映像

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、プレゼンテーション 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年と同じ授業を担当していますが、秋学期は授業内容を変えていますので、特にありません。

## 【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA

## 外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

## 【到達目標】

これから先中国古典詩に興味を持った際に、使うべき字書や辞書がわかるようになる。漢詩を鑑賞するために必要な知識とスキルを習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、実はコツを掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、原文を訓読で読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。授業は春秋から唐代まで、時代順に進める。

授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出していただき、学生の興味・方向性と積極性を見る。

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。それに伴う内容の変更等は、学習支援システムにて都度お知らせします。本授業の開始日は、4月27日（月）15時です。受講予定の方は、この時間以降、当日中に必ず学習支援システムを確認してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国とは 授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第2回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第3回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第4回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第5回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第6回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第7回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に、崔顥の「黃鶴樓」と孟浩然の「春暁」を読む。

第8回 李白

李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。

第9回 王維

王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。

第10回 杜甫

「春望」など、リアリストと言われる杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。

第11回 白居易

「長恨歌」を読み解く。

第12回 杜牧

杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。

第13回 復習と解説

第1回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。

第14回 総括

これまで学んだ内容が身についているか確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

## 【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店2003年）

岡村繁『文選の研究』（岩波書店1999年）

興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店2000年）

小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店1975年）

松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店1987年）

この他、授業時に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する機会がある。

シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

## 【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background · culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.

LIT100LA

## 外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代ものから、物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、多くの話に触れ人物のエピソードを知り、その当時の時代背景や文化などと一緒に読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

## 【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識とスキルにより、更に中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。授業の終わりには毎回アクションペーパーを提出していただき、学生の興味や方向性と積極性を見る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第2回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔齊伝を読む。
第3回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第4回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第5回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第6回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第7回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第8回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第9回	「長恨歌伝」を読む	玄宗と楊貴妃の故事がどのように語られていたのか学ぶ。
第10回	「人虎伝」を読む（1）	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝はあまりにも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
第11回	「人虎伝」を読む（2）	人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。

第12回 「人虎伝」を読む（3） 人虎伝の結末を読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。

第13回 復習と解説

第1回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。

第14回 総括

これまでに扱った作品について、知識などが身につけているか確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などととも、資料などを適宜配布する。

## 【参考書】

明治書院『中国古典小説選 穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』

明治書院『中国古典小説選 搜神記・幽明録・異苑他』

明治書院『新釈漢文大系 史記八（列伝一）』

明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』

平凡社『東洋文庫 搜神記』

その他、授業時に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する機会がある。シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

## 【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

LIT100LA

## 外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中の文学作品や文献などを比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

日中両国の文学作品をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出していただき、学生の興味・方向性と積極性を見る。春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。それに伴う内容の変更等は、学習支援システムにて都度お知らせします。本授業の開始日は、4月22日（水）13時です。受講予定の方は、この時間以降当日中に必ず学習支援システムを確認してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第2回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第3回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第4回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、夏・殷と実在の王朝へとつながる部分を読む。
第5回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第6回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第7回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。ここでは『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。
第8回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。

第9回	説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や他界観が読み取れる話を読む。
第10回	説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第11回	『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説の中から、『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第12回	『枕草子』と『白氏文集』	『白氏文集』は平安期の日本に多大な影響を与えた書物である。ここでは『枕草子』の有名なエピソードと白居易の作品とを合わせて学ぶ。
第13回	復習と解説	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回	総括	これまで学んだものを復習し、知識が身につけているか確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

## 【参考書】

岩波文庫『古事記』  
 明治書院『新釈漢文大系 史記一（本紀上）』  
 中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』渡邊義浩著  
 小学館『日本古典文学全集 今昔物語』  
 小学館『日本古典文学全集 宇治拾遺物語』  
 明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』  
 小学館『日本古典文学全集 枕草子』  
 など

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する機会がある。シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

## 【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくることを望ましい。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

LIT100LA

## 外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

## 【到達目標】

精読を通して日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

授業の終わりには毎回アクションペーパーを提出していただき、学生の興味の方角性と積極性を見る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第2回	流浪する英雄—中国— (1)	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第3回	流浪する英雄—中国— (2)	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第4回	流浪する英雄—中国— (3)	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第5回	流浪する英雄—中国— (4)	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第6回	流浪する英雄—中国— (5)	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第7回	流浪する英雄—日本— (1)	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第8回	流浪する英雄—日本— (2)	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第9回	戦の天才とその末路— 中国— (1)	『史記』楽毅列伝から、中国史における軍事の天才の1人である楽毅の話を読む。
第10回	戦の天才とその末路— 中国— (2)	当時の時代背景などに注意しつつ、引き続き楽毅列伝を読む。
第11回	戦の天才とその末路— 日本— (1)	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。
第12回	戦の天才とその末路— 日本— (2)	『平家物語』の続きを読み、平家の結末に関して解説する。
第13回	復習と解説	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。

## 第14回 総括

これまでに扱った作品について、知識などが身についているか確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

## 【参考書】

明治書院『新釈漢文大系 史記五（世世上）』  
 明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝（一）』  
 明治書院『新釈漢文大系 国語（上）』  
 明治書院『新釈漢文大系 国語（下）』  
 明治書院『新釈漢文大系 史記九（列伝二）』  
 小学館『日本古典文学全集 古事記 上代歌謡』  
 岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』  
 岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』  
 など

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する機会がある。シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

## 【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

LIT100LA

## 外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較（日韓交流と理解）

## 梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

## 【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり意見や質問などについて、説明したり直接意見を聞いたりします。本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4月15日（水）午前10：00～4月20日（月）午前9：00

詳細は、以下に掲載の「2020年度ILAC科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>)を確認してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第2回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第3回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第4回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第5回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べてみます。
第6回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第7回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第8回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第9回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。
第10回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第11回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。

- 第12回 日韓の現在の問題について比較 5 日韓の現在の政治的な問題について比較します。
- 第13回 日韓の現在の問題について比較 6 日韓の歴史的な様々な問題について比較します。
- 第14回 日韓問題について直接意見交換など 意見交換をします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。  
日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

#### 【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点・リアクションペーパーの内容・レポートなど50%、期末レポート50%。

（学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします）

合計100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

もっと日韓文化・問題を知りたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業中にDVDやインターネットを使います。

#### 【その他の重要事項】

授業の内容は、学生の意見などで変わることもあります。

春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

#### 【Outline and objectives】

We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

LIT100LA

## 外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

### 梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者のトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思っています。

#### 【到達目標】

常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。

リアクションペーパー提出。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4月15日（水）午前10：00～4月20日（月）午前9：00

詳細は、以下に掲載の「2020年度ILAC科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>)を確認してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第2回	日韓文化比較1	現在の韓流について考えてみます。
第3回	日韓文化比較2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第4回	日韓のトレンド比較1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第5回	日韓のトレンド比較2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第6回	日韓文化比較3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第7回	日韓問題比較1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第8回	日韓問題比較2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第9回	日韓文化比較4	北朝鮮について調べてみます。
第10回	日韓文化比較5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。

- 第 11 回 日韓問題比較 3 日韓の宗教問題などを比較してみます。
- 第 12 回 日韓問題比較 4 日韓の企業問題などを比較してみます。
- 第 13 回 日韓文化比較 6 在日コリアン問題を調べてみます。
- 第 14 回 総合問題などの意見交換 意見交換などをします。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

**【参考書】**

文献・資料などは授業中に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点・リアクションペーパーの内容・レポートなど 50%、期末レポート 50%  
 （積極的な授業参加なども参考にします）  
 合計 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

日韓の様々な文化・問題についてもっと知りたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありませんが、授業では DVD やインターネットなどを使用します。

**【その他の重要事項】**

授業内容は、諸理由などで変わることがあります。  
 春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

**【Outline and objectives】**

Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

LIT100LA

**日本近・現代文学 A**

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アダプテーションからみる日本近現代文学

**鈴木 彩**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本近現代文学（特に明治・大正・昭和期）の「アダプテーション」について学ぶ。「アダプテーション」とは、ある作品を元に別の作品を創造すること、および創造された作品を指す言葉であり、小説やマンガの映画化・舞台化のように私たちの周囲に数多く存在する。この授業では、その中から文学テキストとして読むことが可能な小説と戯曲（演劇台本）を中心に引き上げ、既存の物語がいかに作り替えられてきたのか、また、その変容に影響するものは何かを考える。

**【到達目標】**

私たちはアダプテーションの良し悪しを「原作」に忠実か、その雰囲気や再現し得ているかという点で評価する傾向にある。しかし、この授業ではそうした視点を離れ、アダプテーションの中にみられる原作の多様で自由な解釈や、原作に対する批評を読み解くことを主な目標とする。また、原作からの変容のしかたと、その変容の背景（時代・場所・作者など）の関係についても考察を試みる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期（少なくとも前半）はオンラインで開講し、授業開始日は5月1日（金）とする。

方法は、スライドや読むべき資料を学習支援システムで配布する「資料配信型」である。毎回の資料に目を通した後、リアクションペーパーに相当する課題（講義に関する問に対して自分の考えを書くなど）または小テストに取り組んでもらうことを予定している。授業のオンライン化に伴い、各回の授業内容に一部変更が生じる可能性があるが、詳細は授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第 2 回	「アダプテーション」	授業で用いる概念の解説と「間テキスト性」
第 3 回	原作への忠実さ・原作からの距離①	尾崎紅葉「金色夜叉」
第 4 回	原作への忠実さ・原作からの距離②	宮本研「新釈・金色夜叉」
第 5 回	小説／演劇における「語り」の性質①	芥川龍之介「地獄変」
第 6 回	小説／演劇における「語り」の性質②	三島由紀夫「地獄変」
第 7 回	古典文学から近代文学へ①	森鷗外「生田川」
第 8 回	古典文学から近代文学へ②	志賀直哉「クローディアスの日記」

- 第9回 上演とアダプテーション 泉鏡花「海神別荘」の境界①
- 第10回 上演とアダプテーション 泉鏡花「海神別荘」の境界②
- 第11回 ちりばめられた作品イメージ 泉鏡花「南地心中」
- 第12回 アダプテーションと上演 三島由紀夫「春の雪」演団体①
- 第13回 アダプテーションと上演 宝塚歌劇「春の雪」演団体②
- 第14回 総括 授業内容のまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業計画」に挙げた作品は、必ず事前に読んでから授業に臨むこと。（長編作品の場合は、目を通すべき章を授業内で指示する。）本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜資料の配布を行う。

#### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期（少なくとも前半）がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。

現在のところ、春学期末のまとめの課題（レポートなど）と、毎授業後に取り組んでもらう課題を総合して判断する予定である。方法と基準の詳細は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎授業の始めに、前回のリアクションペーパーにみられた質問・意見への応答を行うことは好評であるため、今年度も継続したい。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with “Adaptation”. “Adaptation” means the creation of works based on another work such as making a movie from a popular manga. Many adapted works exist around us. In this course, I will pick up the novels and plays (theater scripts) because we can read them as published texts. Students can learn differences between an original work and adapted work, and what influences the differences.

LIT100LA

## 日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日本近現代文学から浮かび上がる作者のイメージ

### 鈴木 彩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学テキストから浮かび上がる「作者像」を読み解く。多くの場合、文学作品を読む読者は、それを書いた作者について、何らかのイメージを抱く。しかし実在の作者と、作品から想起される「作者像」は必ずしも同じではない。この授業では日本近現代文学（特に明治・大正・昭和期）の中から、作家を主人公にして書かれたフィクションや、作者の体験に重なる小説などを読むことを通して、作者のイメージがどのように形成され、流布するのかを考える。

#### 【到達目標】

作者に関する情報は、作品を読むにあたって参照され、時にはそれに基づいて登場人物と作者が重ねられもする。しかし文学を学ぶにあたっては、実在する作者と、作品を読む上で想起される「作者像」を適切に切り分ける必要がある。そのことを理解した上で、テキストがどのような「作者像」を構築しようとしているかを読み取り、それらのテキストが持つ意義や戦略性を学ぶことを、この授業の主な目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎授業の終了時に、リアクションペーパー（講義の感想・質問・講義に関連する問に対する自分の考えなど）を記入してもらう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	文学研究は「作者」をどう考えるか	授業で用いる概念の解説
第3回	「作者像」の流布と更新①	樋口一葉「にぎりえ」
第4回	「作者像」の流布と更新②	樋口一葉「十三夜」
第5回	「作者像」の流布と更新③	井上ひさし「頭痛肩こり樋口一葉」
第6回	作家の顔・作家以外の顔①	森鷗外「沈黙の塔」
第7回	作家の顔・作家以外の顔②	永井愛「鷗外の怪談」
第8回	自伝的小説を書き換えること①	林美美子「放浪記」
第9回	自伝的小説を書き換えること②	「放浪記」の異同について
第10回	流行作家の文壇批判①	龍胆寺雄の経歴を知る
第11回	流行作家の文壇批判②	龍胆寺雄「M・子への遺書」
第12回	「作者像」の構築方法①	太宰治「新ハムレット」

第13回 〃作者像、の構築方法 太宰治「人間失格」

②

第14回 総括 授業内容のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

「授業計画」に挙げた作品は、必ず事前に読んでから授業に臨むこと。  
 （長編作品の場合は、目を通すべき章などを授業内で指示する。）本  
 授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

・試験による評価（履修人数に応じ、レポートに変更する可能性あり）70%

・平常点（授業内で実施するリアクションペーパーの内容、授業態度）30%

以上を総合して判断する。ただし試験またはレポートの受験・提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎授業の始めに、前回のリアクションペーパーにみられた質問・意見への応答を行うことは好評であるため、今年度も継続したい。

**【Outline and objectives】**

This course deals with the images of authors. While reading literary work, we can imagine what kind of personality the author has (earnest, delicate, humorous, and so on) However, that image is not necessarily the same as the actual author. In this course, I will focus on the works that overlap the experiences of the author, and the works in which authors appear as characters. Students can learn how the images of authors are formed and disseminated.

BSP100LA

**文章論**

2017年度以降入学者

サブタイトル：

**萩野 了子**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法キ1年/法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

正しい日本語の文章の書き方を学び、自身の考えを正確に分かりやすく伝える技術・知識を身につける。

**【到達目標】**

レポート、小論文、手紙（メール）などの正しい書き方について学ぶ。普段日本語を用いて生活していたとしても、正しい作法で分かりやすい文章を書くことは、実は決して容易ではない。今一度、文章表現の基礎を見直しながら繰り返し作文練習を行うことで、これまでよりも高い水準の文章を作成できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。

授業時間になったら、学習支援システム上に教材・課題がアップロードされる。各自ダウンロードの上、それらをよく読んで、課題を作成・提出すること。

提出課題は添削してシステム上で返却する。

(リアルタイムの映像授業等を行わない。)

学習支援システム内の提示、お知らせ、メール通知などを、よく確認すること。

本授業の開始日は4月22日とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の進め方について
第二回	文章表現の基礎①	原稿用紙の使い方について
第三回	文章表現の基礎②	基本的な文法について
第四回	文章表現の基礎③	レトリック・敬語表現について
第五回	文章表現の基礎・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第六回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第七回	レポート・小論文の書き方①	アカデミックライティングの基礎
第八回	レポート・小論文の書き方②	文章構成について
第九回	レポート・小論文の書き方・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第十回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十一回	手紙・メールの書き方①	マナー学習・敬語表現の復習
第十二回	手紙・メールの書き方②	これまでの内容を総括・文章作成
第十三回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十四回	まとめ	授業の総括・課題提出

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で実施する漢字テストのための予習（今回はテストを行わず、自主学習の予定）、授業内で提示する課題レポートの作成など。

**【テキスト（教科書）】**

授業時間までに、学習支援システムにアップロードするので各自ダウンロードすること。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 50 点・小テスト 10 点・レポート課題 40 点

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

## 1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。  
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに、仮登録をしてください。  
23:59 に締め切ります。

・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

## 2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。  
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

## 3 複数の「文章論」クラスへの仮登録

・なお、春学期にはこの授業も含めて4クラスの「文章論」の授業があります（川鍋担当の留学生クラスを除く）。

Q1062 文章論文国環1年／法文営国環キ2～4年水3C4 西元康雅

Q1061 文章論法キ1年／法文営国環キ2～4年水5C5 萩野了子

Q1065 文章論文営環1年／法文営国環キ2～4年金4E4 川鍋義一

・それぞれの担当が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。

・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスを予め全て仮登録しておいてください。

・春学期は、西元クラス → 萩野クラス → 川鍋クラス（通常クラス）の順に選抜（抽選）します。

・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。（例：西元クラスで当選 → 萩野クラスと川鍋クラスの仮登録を取り消され、選抜（抽選）を受けられない。）

## 4 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

**【Outline and objectives】**

The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to write an effective composition.

BSP100LA

**文章論**

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

**西元 康雅**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では論文・レポート執筆法に加え、エッセー、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさを味わって欲しい。

**【到達目標】**

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	要約	要約の三要素
第2回	推敲	簡潔な文章を目指す
第3回	論文の構成～入門編	ワークシートを用いて、パラグラフライティングを学ぶ
第4回	パラグラフライティングの難所	トピックセンテンスとサポートセンテンスを上手く書き出す
第5回	パラグラフライティングの完成	秀逸な学生の記述を基にレビュー、後にリライト
第6回	批評文を知る	どのような文章が批評文として優れているかを考察する
第7回	批評文を書く	講義内で示した批評文を書くコツをもとに、単なる批判にとどまらない批評文を作成する
第8回	批評文の完成	秀逸な学生のエッセーを披露し、レビュー。後に各自リライト。
第9回	エッセーを書く	作家のエッセーを基に、どういった着眼点がエッセーに求められるかを考察する。後、エッセーを書く
第10回	エッセーを完成させる	秀逸な学生のエッセーをもとに、エッセーをリライトする
第11回	口語自由詩の作成	萩原朔太郎に導かれながら、口語自由詩を実作する

第12回	リレー小説	ある有名な短編の柱を切り取り、余白を分担しながら全員で埋めていく
第13回	リレー小説レビュー	出来上がったリレー小説をレビュー、期末課題を提示
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30%、提出物 40%、期末課題 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

より学生の視点に立った添削・コメントを施す。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン（Wordをインストール）

**【Outline and objectives】**

In this lesson, in addition to writing paragraph writing writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from essays, criticisms to the creation of novels.

BSP100LA

**文章論**

2017年度以降入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

**川鍋 義一**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。  
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。（留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。）

**【到達目標】**

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全15回の授業でみなさんには5回の作文を書いてもらうことになります。（※ 末尾の【その他の重要事項】を参照）。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題 ①提示	課題：エッセイを書く (聞かれたことに答える・調べ物をする)

2 回	課題①提出および講義 A	講義 A：辞書記号・常用漢字について学ぶ／引用・参考文献を示す方法を学ぶ／原稿用紙の使い方を学ぶ／資料探査の方法を学ぶ	・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。 2 仮登録 ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。 ・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。 ・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。
3 回	課題①添削返却および講評	課題①：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く／ループリックについて学ぶ	3 選抜（抽選）後 ・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。 ・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。
4 回	課題②提示および講義 B	講義 B：意味段落構成について学ぶ（三段構成とはどういうものか・四段構成はやめましょう）	
5 回	課題②提出および講義 C	講義 C：わかりやすい文章とはどういうものかを外山滋比古の文章から学ぶ／例示・比喻・一般化とはどういうことかを学ぶ	
6 回	課題②添削返却および講評	課題②：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く	
7 回	課題③提示および講義 D	講義 D：わかりにくい文章を分析し反面教師にする／敬語・誤りやすい表現を学ぶ	
8 回	課題③提出および講義 E	講義 E：データを一般化するとはどういうことかを学ぶ	
9 回	課題③添削返却および講評	課題③：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く	
10 回	課題④提示および講義 F	講義 F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その1）	
11 回	課題④作文提出および講義 F	講義 F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その2）	
12 回	課題④添削返却および講評	課題④：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く	
13 回	課題⑤提示および講義 F	講義 F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その3）	
14 回	課題⑤提出および講義 G	課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）／全回まとめ	

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを5回。ほかに漢字テストの予習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数50%で評価します。

1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

#### 【その他の重要事項】

※ 以下、大変重要なことですから、しっかり読んでください。

今年度春学期については、開講時期が遅れ、かつ、対面形式の授業がいつから可能になるか不明であるため、(1)当面は学習支援システムを通じて資料を配布し、パワーポイントのファイル（学習のポイントを解説する）を配布し、また掲示板で質問を受けたり、議論をしたりするというやり方で授業を進めます。(2)授業回数が減るので、上記課題④は実施しません。12回の授業で完結するように調整します。(3)対面形式の授業が可能になるまでは、学習支援システムを通じて課題の提出、返却を行います。

※ もう一点、大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。  
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに、仮登録をしてください。

23:59 に締め切ります。

BSP100LA

## 文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

## 川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。

川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。（留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。）

## 【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全15回の授業でみなさんには5回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

上記IおよびIIIの回には、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（おうふう刊）の「書き取り」問題から、漢字テストを実施します。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く（聞かれたことに答える・調べ物をする）
2 回	課題①提出および講義A	講義A：辞書記号・常用漢字について学ぶ／引用・参考文献を示す方法を学ぶ／原稿用紙の使い方を学ぶ／資料探査の方法を学ぶ

3 回	課題①添削返却および講評（ほかに漢字テスト1）	課題①：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読む、その講評を聴く／ループリットクについて学ぶ
4 回	課題②提示および講義B（ほかに漢字テスト2）	講義B：意味段落構成について学ぶ（三段構成とはどういうものか・四段構成はやめましょう）
5 回	課題②提出および講義C	講義C：わかりやすい文章とはどういうものかを外山滋比古の文章から学ぶ／例示・比喩・一般化とはどういうことかを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講評（ほかに漢字テスト3）	課題②：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く
7 回	課題③提示（ほかに漢字テスト4）および講義D	講義D：わかりにくい文章を分析し反面教師にする／敬語・誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義E	講義E：データを一般化することかを学ぶ
9 回	課題③添削返却および講評（ほかに漢字テスト5）	課題③：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く
10 回	課題④提示および講義F（ほかに漢字テスト6）	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その1）
11 回	課題④作文提出および講義F	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その2）
12 回	課題④添削返却および講評（ほかに漢字テスト7）	課題④：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読む、その講評を聴く
13 回	課題⑤提示および講義F（ほかに漢字テスト8）	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その3）
14 回	課題⑤提出および講義G	課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）／全回まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを5回。ほかに漢字テストの予習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

漢字テストの問題として、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（川鍋義一・小秋元段編、おうふう、2011年、760円+税）ほか、随時プリント配布。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数50%で評価します。

1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

## 【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

## 【その他の重要事項】

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

## 【Outline and objectives】

This course introduces academic writing for international students.

BSP100LA

## 文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

## 川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文営環 1 年/法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

## 【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐える「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全15回の授業でみなさんには5回の作文を書いてもらうことになります（※ 末尾の【その他の重要事項】を参照）。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず4/23までに仮登録をしてください。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く (聞かれたことに答える・調べ物をする)
2 回	課題①提出および講義A	講義A：辞書記号・常用漢字について学ぶ/引用・参考文献を示す方法を学ぶ/原稿用紙の使い方を学ぶ/資料探査の方法を学ぶ

3 回	課題①添削返却および講評	課題①：作文評価、添削内容について質問をする/優秀作品を読み、その講評を聴く/ループリックについて学ぶ
4 回	課題②提示および講義B	講義B：意味段落構成について学ぶ(三段構成とはどういうものか・四段構成はやめましょう)
5 回	課題②提出および講義C	講義C：わかりやすい文章とはどういうものかを外山滋比古の文章から学ぶ/例示・比喩・一般化とはどういうことかを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講評	課題②：作文評価、添削内容について質問をする/優秀作品を読み、その講評を聴く
7 回	課題③提示および講義D	講義D：わかりにくい文章を分析し反面教師にする/敬語・誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義E	講義E：データを一般化するとはどういうことかを学ぶ
9 回	課題③添削返却および講評	課題③：作文評価、添削内容について質問をする/優秀作品を読み、その講評を聴く
10 回	課題④提示および講義F	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ(その1)
11 回	課題④作文提出および講義F	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ(その2)
12 回	課題④添削返却および講評	課題④：作文評価、添削内容について質問をする/優秀作品を読み、その講評を聴く
13 回	課題⑤提示および講義F	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ(その3)
14 回	課題⑤提出および講義G	課題⑤作文講評(課題⑤の返却は授業支援システムを利用する)/全回まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを5回。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回プリント配布。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか)50%、提出物の点数50%で評価します。

1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

## 【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力(それと「読む」力)を伸ばすためです。がんばりましょう。

## 【その他の重要事項】

※ 以下、大変重要なことですから、しっかり読んでください。

今年度春学期については、開講時期が遅れ、かつ、対面形式の授業がいつから可能になるか不明であるため、(1)当面は学習支援システムを通じて資料を配布し、パワーポイントのファイル(学習のポイントを解説する)を配布し、また掲示板で質問を受けたり、議論をしたりするというやり方で授業を進めます。(2)授業回数が減るので、上記課題④は実施しません。12回の授業で完結するように調整します。(3)対面形式の授業が可能になるまでは、学習支援システムを通じて課題の提出、返却を行います。

※ 以下も大変重要なことですから、しっかり読んでください。

## 1 選抜(抽選)

・「文章論」では、受講者数の制限をします(約30名を上限とする)。  
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに、仮登録をしてください。23:59に締め切ります。

・抽選なので、選抜(抽選)のための課題提出は必要ありません。

## 2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜(抽選)をします。  
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

3 複数の「文章論」クラスへの仮登録

・なお、春学期にはこの授業も含めて3クラスの「文章論」の授業があります（川鍋担当の留学生クラスを除く）。

Q1062 文章論文国環1年／法文営国環キ2～4年水3C4 西元康雅

Q1061 文章論法キ1年／法文営国環キ2～4年水5C5 萩野了子

Q1065 文章論文営環1年／法文営国環キ2～4年金4E4 川鍋義一

・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。

・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスを予め全て仮登録しておいてください。

・春学期は、西元クラス → 萩野クラス → 川鍋クラス（通常クラス）の順に選抜（抽選）します。

・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。（例：西元クラスで当選 → 萩野クラスと川鍋クラスの仮登録を取り消され、選抜（抽選）を受けられない。）

4 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。

・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

## 文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

文営国1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

#### 【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全15回の授業でみなさんには5回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

上記IおよびIIIの回には、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（おうふう刊）の「書き取り」問題から、漢字テストを実施します。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く (聞かれたことに答える・調べ物をする)
2回	課題①提出および講義A	講義A：辞書記号・常用漢字について学ぶ／引用・参考文献を示す方法を学ぶ／原稿用紙の使い方を学ぶ／資料探査の方法を学ぶ

3 回	課題①添削返却および講評（ほかに漢字テスト1）	課題①：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く／ルーブリックについて学ぶ
4 回	課題②提示および講義B（ほかに漢字テスト2）	講義B：意味段落構成について学ぶ（三段構成とはどういうものか・四段構成はやめましょう）
5 回	課題②提出および講義C	講義C：わかりやすい文章とはどういうものかを外山滋比古の文章から学ぶ／例示・比喩・一般化とはどういうことかを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講評（ほかに漢字テスト3）	課題②：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く
7 回	課題③提示（ほかに漢字テスト4）および講義D	講義D：わかりにくい文章を分析し反面教師にする／敬語・誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義E	講義E：データを一般化するとはどういうことかを学ぶ
9 回	課題③添削返却および講評（ほかに漢字テスト5）	課題③：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く
10 回	課題④提示および講義F（ほかに漢字テスト6）	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その1）
11 回	課題④作文提出および講義F	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その2）
12 回	課題④添削返却および講評（ほかに漢字テスト7）	課題④：作文評価、添削内容について質問をする／優秀作品を読み、その講評を聴く
13 回	課題⑤提示および講義F（ほかに漢字テスト8）	講義F：文章をパターンで理解する方法を学ぶ（その3）
14 回	課題⑤提出および講義G	課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）／全回まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを5回。ほかに漢字テストの予習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

漢字テストの問題として、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（川鍋義一・小秋元段編、おうふう、2011年、760円＋税）ほか、随時プリント配布。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数50%で評価します。

1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

#### 【その他の重要事項】

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

## 文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：-

西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、小論文やレポートの課題を書くことに困っていませんか？それは（おそらく）これまで日本語の書き方を正式に教わってこなかったからです。ルールさえ知っていれば、書くことは難しくありません。本授業では実践的な「書く力」の修得を目指します。

#### 【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ること、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

\*4/22から開始する

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介文	他社の共感を得られる「私」へ
第2回	原稿用紙の使い方	タイトル・学科・学籍番号・氏名を正確に配置する
第3回	推敲の基礎	ワークシートに基づいて悪文を知る
第4回	推敲の応用	自己紹介文のリライト
第5回	意見文	夫婦別姓について
第6回	意見文のレビュー	意見文のリライト
第7回	出典表示	雑誌・新聞・和書・訳書などの書き分け
第8回	アカデミック・ライティング	問いの立て方
第9回	パラグラフ構成	トピックセンテンスとは？
第10回	パラグラフライティングの手引き	ワークシートで演習
第11回	パラグラフライティングの基礎	アウトラインを作成する
第12回	パラグラフライティングの実践	アウトラインから文章を作る
第13回	パラグラフライティングのレビュー	好例を励みに、リライトする

## 第14回 総括 期末レポートの提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
下書きを完成させる、推敲を行う、清書を作成するなどの指示をします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

授業中に適宜、紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、中間提出物 30%、期末レポート 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

添削をより充実させる。

## 【Outline and objectives】

Do you have trouble writing an essay or report subject at university? That is because I probably have not officially taught how to write Japanese. If you know even the rules, writing is not difficult. In this class we aim to acquire practical "writing power".

BSP100LA

## 文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

## 西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではパラグラフライティングといった論文執筆法に加え、エッセイ、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさを味わって欲しい。

## 【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	要約	要約の三要素
第2回	推敲	簡潔な文章を目指す
第3回	論文の構成～入門編	ワークシートを用いて、パラグラフライティングを学ぶ
第4回	パラグラフライティングの難所	トピックセンテンスとサポートセンテンスを上手く書き出す
第5回	パラグラフライティングの完成	秀逸な学生の記述を基にレビュー、後にリライト
第6回	批評文を知る	どのような文章が批評文として優れているかを考察する
第7回	批評文を書く	講義内で示した批評文を書くコツをもとに、単なる批判にとどまらない批評文を作成する
第8回	批評文の完成	秀逸な学生のエッセイを披露し、レビュー。後に各自リライト。
第9回	エッセイを書く	作家のエッセイを基に、どういった着眼点がエッセイに求められるかを考察する。後、エッセイを書く
第10回	エッセイを完成させる	秀逸な学生のエッセイをもとに、エッセイをリライトする
第11回	口語自由詩の作成	萩原朔太郎に導かれながら、口語自由詩を実作する

第12回	リレー小説	ある有名な短編の柱を切り取り、余白を分担しながら全員で埋めていく
第13回	リレー小説レビュー	出来上がったリレー小説をレビュー、期末課題を提示
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30%、提出物 40%、期末課題 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

より学生の視点に立った添削・コメントを施す。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン（Wordをインストール）

**【Outline and objectives】**

In this lesson, in addition to writing paragraph writing writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from essays, criticisms to the creation of novels.

LIN100LA

**言語学 A**

2017年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2単位

法1年 A~W / 法文営国環キ 2~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、第二言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

**【到達目標】**

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 言語学入門1	言語学とは何か 言語の特質（1）
第2回	言語学入門2	言語の特質（2）
第3回	言語学入門3	言語の特質（3）
第4回	音声学1	音声器官
第5回	音声学2	調音
第6回	音声学3	母音、子音
第7回	音韻論1	異音、相補分布
第8回	音韻論2	環境同化、音声的類似
第9回	音韻論3	日本語の音韻体系
第10回	第二言語習得研究1	第二言語習得研究の流れ
第11回	第二言語習得研究2	中間言語
第12回	第二言語習得研究3	学習者の母語と第二言語習得
第13回	第二言語習得研究4	習得順序と発達順序
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。

講義の骨子はPPTの形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業ではPPTの空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPTを含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。配布資料は毎回持参すること。  
PPTは基本的に配布しないので、授業時に持参すること。

## 【参考書】

参考文献は適宜PPTなどで紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

※履修者数によっては、初回時に、リアクションペーパーで選抜をするかもしれない。

## 【Outline and objectives】

Linguistic course - this is an introductory course to Linguistics. This course is not just to introduce students to language, phonetics, phonology and another second language acquisition but to encourage them to analyze, be interactive and seize the many aspects of the language and language learning.

LIN100LA

## 言語学 B

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A~W / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

## 【到達目標】

学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	言語学とは何か
第 2 回	第一言語習得 1	第一言語とは 第一言語習得とは？
第 3 回	第一言語習得 2	第一言語習得研究の方法
第 4 回	第一言語習得 3	格助詞、動詞活用変化、受動態の 第一言語習得研究
第 5 回	第一言語習得理論 1	第一言語習得のメカニズム
第 6 回	第一言語習得理論 2	主な言語発達理論
第 7 回	第一言語習得理論 3	子どもの構造依存性 語順獲得
第 8 回	母語獲得とインプットの役割 1	母語獲得とインプットの役割
第 9 回	母語獲得とインプットの役割 2	肯定証拠と否定証拠
第 10 回	母語獲得とインプットの役割 3	インプットの効果
第 11 回	日本語教育文法 1	格助詞
第 12 回	日本語教育文法 2	さまざまな格助詞の用例
第 13 回	日本語教育文法 3	自動詞と他動詞
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。

講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。配布資料は毎回持参すること。  
PPT は基本的に配布しないので、授業時に持参すること。

#### 【参考書】

参考文献は適宜 PPT などで紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を 100 点満点換算で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。  
・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【Outline and objectives】

Fall semester course has two parts:

- I. The first half of this course is an overview of the first language acquisition.
- II. The second half is understanding Japanese language history and grammar.

LIN100LA

## 言語学 A

2017 年度以降入学者

輿石 哲哉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y・文環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、コミュニケーションの手段として言語を用いてはいませんが、話すときにどこの器官をどう使っているのか、相手のことばをどのように解釈しているのかとか、そもそもどのようにして言語が話せるようになるのかとか、具体的な問題をほとんど意識したことはありません。この授業では、このように通常意識されない言語に関しての、さまざまな問題を考えていきます。

#### 【到達目標】

1. 言語について記述するときの方法を知ること。
2. 言語について記述する際に、ある記述が他の記述と比べてどう優れているか知ること。
3. 世界の様々な言語の共通の特徴や多様性について知ること。
4. 言語学の様々な分野を知ること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

【4 月 16 日加筆】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。基本的に授業スケジュールに変更はありませんが、変更がある場合は、学習支援システムで提示します。本授業の開始日は、4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

可能な限り履修者とのインターアクションのある授業を目指したいと思いますが、履修者数により講義形式が主体になることもあります。毎回、前回の復習、次回にやることについて、具体的に示し、履修者に事前、事後の学習を奨励していきます。また、必要に応じて、授業中に小テストを課すことも考えています。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の内容についてお話するとともに、2 回目の授業に際しての問題提起を行います。
2	言語学の「深みのなさ」について	言語の研究の独特のところとして、意味に関する研究をとりあえず棚上げにして、形式面での体系を考えていくことで、言語の仕組みがわかる、という側面があります。そのことについて授業で考察します。
3	言語と音声（1）	言語を音声の観点から見ていきます。どのようにして発話が可能になるのか等について考察します。
4	言語と音声（2）	前回に引き続き、言語と音声の関係について学んでいきます。
5	私が English teacher でないわけ—音声はどのようにに用いられているのか、授業で考察します。	音声はそれぞれの言語でどのようにに用いられているのか、授業で考察します。

- |    |                                |   |
|----|--------------------------------|---|
| 6  | 言語と記号                          | 言語は記号であると言われますが、どのような観点からそう言われるのか、授業で考察します。                             |
| 7  | 英語に漢字があったら？一言語と文字との関係は？        | 言語を書き留める時の文字の働きについて、授業で考察します。   |
| 8  | 世界の言語の語順について                   | 世界の言語は多様性がありながら、少数のパターン化が可能です。このことについて、語順をテーマにして、授業で考察します。              |
| 9  | 語とは何か？                         | 語 (word) というのはどのような単位なのか考えていきます。さらに、いわゆる形態論的な類型論についても、授業で考察します。         |
| 10 | 言語の立体性について                     | 言語は時間軸に沿って平面的に進んでいますが、それを解釈する場合は立体的な構造を付与して考えざるを得ません。このことについて、授業で考察します。 |
| 11 | ヨーロッパの言語事情について (1)             | ヨーロッパの言語事情について、授業で考察します。  |
| 12 | ヨーロッパの言語事情について (2)             | 前回に引き続き、ヨーロッパの言語事情について学んでいきます。  |
| 13 | 「うちのお父さんは今いらっやしません」一言語と社会の関係は？ | 言語と社会の関係について、授業で考察します。  |
| 14 | 「狼と羊の話」の言語学                    | 言語の詩的機能について、言語と社会の関係について、授業で考察します。ロシア・フォルマリストの考え方が中心です。                 |

#### 【カリキュラム上の位置づけ】

本科目はリベラルアーツ 1 群に属す選択必修科目です。春学期のみの開講で、担当者が毎年交代する科目です。

#### 【Outline and objectives】

We human beings use language as a means of communication. However, when we come to think how we use our organs to speak, how we interpret speech, how we learn to speak; we realise that we are not at all conscious of actual challenges. The objective of this course is to consider these problems which are totally dropped out of our consciousness.

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最初に授業内容のスライドを公開しますので、それを見て授業に臨んでください。さらに、授業後、授業支援者システムにて必ず毎回フィードバックを行いますので、未知であった用語等について、調べて固めておくことが大切です。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

特定のものと考えてはいません。適宜、プリントなどを配布いたします。

#### 【参考書】

千野栄一 (1980). 『言語学のためのしみ』. 東京: 大修館書店.  
千野栄一 (1975). 『言語学の散歩』. 東京: 大修館書店.  
泉井久之助 (1968). 『ヨーロッパの言語』. 東京: 岩波書店.  
Mihalicek, V. and C. Wilson (eds.) (2011). *Language Files*. [11th edition.] Columbus, OH: The Ohio State University Press.

#### 【成績評価の方法と基準】

出席を重視いたします。平常点と試験を 50% ずつにします。欠席は基本的に認めませんので、注意してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業自体がなかったため、気づきはありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンがあるといろいろ便利です。特に言語学的な知識をいろいろなサイトから得るだけでなく、発音記号のフォントを使ったり、言語学で重要な樹形図を描くことができたりと、いろいろ勉強の可能性が広がります。

#### 【その他の重要事項】

言語学は用語等が特殊でとっつきにくいところがありますが、その基本的な考え方を知ることは、言語の分析のみならず他の文化事象に関わる点が多く、これまでにない知見を皆さんに提供してくれるでしょう。なお、トピックを含め、授業に関しての具体的なことは、実情に合わせて変更・修正いたします。

LIN100LA

## 言語学B

2017年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

法1年Y・文環キ1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

## 【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第2回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第3回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第4回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第5回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第6回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強勢の違い
第7回	形態論 1	語の構造と語の構成
第8回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第9回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第10回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第11回	形態論 5	語の右側主要部規則
第12回	統語論 1	文法とは何か
第13回	統語論 2	文法構造
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使授業中に配布するプリントを主に試験範囲とするので、その内容も確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

## 【参考書】

適宜指定する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

## 言語学 A

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

当国 1 年 / 法文当国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうかとえらるかを考えます。

## 【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	世界の言語・言語の起源	世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	ヨーロッパの諸言語入門	使用するテキストについて、印欧語とは何か
第 4 回	インド・ヨーロッパ語について	グリムの法則
第 5 回	比較言語学の誕生	「印欧諸語」の成立について解説する
第 6 回	比較言語学の成果	「比較言語学」でわかったことを紹介する
第 7 回	アフリカの諸言語入門	アフリカの語族について
第 8 回	アフリカの「アフロアジア諸語」	「アフロアジア諸語」の解説
第 9 回	アフリカの「ニジェール・コルドファン諸語」	「ニジェール・コルドファン諸語（バントゥー諸語）」の解説
第 10 回	日本語の音韻に関する諸問題	日本語の音声・音韻の諸問題を扱う

第 11 回 日本語の文法に関する諸問題 日本語の文法に関する諸問題を扱う

第 12 回 ポライトネス 人間の社会的距離を調整する言語の機能について解説する

第 13 回 日本語の「敬語」 ポライトネスの観点からみると、日本語の「敬語」とは何か

第 14 回 「ことば」を考えると「ことば」の力、言語の発見等について考える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ヨーロッパの諸言語については、ステイーブンソン / 江村他訳 (2010) 『図説 ことばの世界 - 欧米の言語史 -』 青山社、を使用します。

## 【参考書】

「言語学史」については、風間喜代三 (1978) 『言語学の誕生』 岩波新書、「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社と千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988) 『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

## 【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれに応じてやり方を考えます。

## 【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてやることを期待します。

## 【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and thier theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

LIN100LA

## 言語学B

2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

当国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうかとえられるかを考えます。

## 【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語：コード理論	「コード」として言語を考える
第 2 回	言語の要素：音の単位	「音声学」から「音韻論」について解説する
第 3 回	言語の要素：意味の単位	「形態論」、「組み立て規則」について解説する
第 4 回	意味	「意味」について考察する
第 5 回	「意義素論」	「意義素論」を紹介する
第 6 回	文法カテゴリー（数・人称他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 7 回	文法カテゴリー（クラス・ダイクシス他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 8 回	構造	構造とは何かについて概観する
第 9 回	宗教	言語の最重要課題である宗教について概観する
第 10 回	言語学と語用論	言語学と語用論の視点の違いについて紹介する
第 11 回	コミュニケーションの定義	そもそもコミュニケーションとは何か、解説する
第 12 回	コミュニケーションにおける「ことば」	コミュニケーションの要素の一つ、「ことば」について解説する

第 13 回 コミュニケーションの要素 コミュニケーションを考えたときの要素について解説する

第 14 回 コミュニケーションの限界 コミュニケーションの限界について考える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

秋学期のテキストは未定です。

## 【参考書】

「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社と千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988) 『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

## 【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれに合わせてやり方を考えます。

## 【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしていただくことを期待します。

## 【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and their theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

## 滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

## 【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

本講義では、環境と共生をめぐる哲学的アプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション 自然観をめぐる近代以前と近代	自然と人間との関係についてのとらえ方の違いを扱う。
第 2 回	哲学の基本的性格 1 自然を支配するという考え方	近代の哲学者デカルトを通して、その歴史的意義を扱う。
第 3 回	哲学の基本的性格 2 人間の権利、自然の権利	権利概念が、哲学の歩みのなかでどう広がってきたかを扱う。
第 4 回	哲学の歴史 1 エコロジーの哲学史的意味 1	19 世紀前半のアメリカのナチュラリスト、ソローを通して、考える。
第 5 回	哲学の歴史 2 エコロジーの哲学史的意味	19 世紀半ばのドイツの生物学者ヘッケルの提唱した「エコロジー」の意味を明らかにする。
第 6 回	哲学の歴史 3 エコロジーの発想にもとづく新しい学問的成果	20 世紀初頭の成果、食物連鎖、ならびに遷移- 極相理論の哲学的意味を探る。
第 7 回	哲学の歴史 4 エコロジーと環境保護	1930 年代中西部アメリカの砂嵐問題とエコロジーの出会いを扱う。
第 8 回	哲学の歴史 5 現代環境思想のフロンティア	レオポルドのランド・エシックスを取り上げる。
第 9 回	哲学の基本問題 1 現代環境思想 1	生命圏中心主義をとるディープ・エコロジーを取り上げる。

第 10 回	哲学の基本問題 2 現代環境思想 2	アメリカの女性哲学者マーチャントの、社会的公正を重視するラディカル・エコロジーを取り上げる。
第 11 回	哲学の基本問題 3 環境と共生をめぐる現代的テーマ 1	配分的正義の問題を扱う。
第 12 回	哲学の基本問題 4 環境と共生をめぐる現代的テーマ 2	世代間の公正の問題を扱う。
第 13 回	哲学の基本問題 5 環境と共生をめぐる現代的テーマ 3	自然の権利の問題を扱う。
第 14 回	哲学 I のまとめ	春学期に扱った諸問題をふりかえり、まとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出席にあたっては、教科書を下読みしていただくことが望ましい。講義で取り扱ったテーマについて、リアクションペーパーに感想や質問を書くことで、さらに理解が深まるでしょう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

滝口清栄『環境と共生のリテラシー』（DTP 出版、1200 円）

## 【参考書】

『環境と共生のリテラシー』の巻末に一覧をあげておきました。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、私語に対してきちんと対処している中で、静かな雰囲気の中で受講できるという評価を得ています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the basic characters of philosophy in the historical point of view, then makes clear the fundamental problems of philosophy. In particular this course deals with the relationship of nature, mankind and society.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。

本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

## 【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式をとってすすめますが、リアクションペーパーを毎回配りますので、そこに皆さんの理解の具合や感想、質問を書いてもらいたいと思います。次の講義の始めに、答えます。また話しのつながりが分かるように、そして平明に話すようつとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	近代という時代の特徴をつかんで、この時代の哲学思想にアプローチする。
第 2 回	18 - 19 世紀の思想と時代の動き	J. ロックを通して、近代の新しいテーマを理解する。
第 3 回	哲学の基本的性格 1 個人の自由と社会	A. スミスを通して、伝統的な見方が転換する場面を理解する。
第 4 回	哲学の基本的性格 2 経済の哲学的意義	ルソーを通して、自由をめぐる独創的な問題提起を理解する。
第 5 回	哲学の根本問題について 1 自由と共同	フランス革命がドイツの思想界に与えたインパクトを扱う。
第 6 回	哲学の根本問題について 2 フランス革命とドイツ思想界	若きヘーゲルの思索の出発点を扱う。
第 7 回	哲学の根本問題について 3 宗教をめぐる哲学的思索	理想と現実との関係をめぐり抜けるとはどういうことか？ヘーゲルの思索を扱う。
第 8 回	哲学の根本問題について 4 理想と現実	

第 8 回	哲学の根本問題について 5 〈存在するものの理解〉という視点	現実にアプローチするとはどのようなことか？ヘーゲルの思索を追う。
第 9 回	哲学の根本問題について 6 哲学は〈体系〉という発想法	ドイツ観念論のなかでライトモチーフとなる体系という発想の特徴を理解する。
第 10 回	哲学の根本問題について 7 近代とはどのような時代か？	ヘーゲルの近代観の特徴を、ほかの諸思想との対比のなかで理解する。
第 11 回	哲学の根本問題について 8 世界を経験して、教養形成の旅	哲学史のなかの奇書『精神現象学』を取り上げる。
第 12 回	現代世界と哲学について 社会をグランドデザインするとはどういうことか？	『法（権利）の哲学』（1820 年）を通して、このテーマにアプローチする。
第 13 回	現代日本と哲学について 人類に発展はあるか？	『世界史の哲学講義』を通して、この問題にアプローチし、あわせて、後世ならびに日本への影響を扱う。
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	秋学期にとりあげた諸問題をふりかえり、論点の整理をおこなう。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を下読みしていただくのがぞましい。講義を聴いて、感想、質問などをリアクションペーパーに書くことを通して、理解を深めてほしい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

滝口清栄『ヘーゲル哲学入門』（社会評論社、1800 円）

## 【参考書】

広松渉・加藤尚武編『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー、1500 円）

## 【成績評価の方法と基準】

学期末授業内試験 90%、平常点 10% として、それらを総合して成績を出します。

## 【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、授業中の私語について、きちんと対処しているので、静かな雰囲気の中で、講義を聴けるという評価を得ています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In general the philosophy aims for criticizing old ways of thinking and new ways of thinking. From this perspective this course explains major theories from ancient times to modern times. In particular this course deals with Hegels philosophy.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

## 【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学
第 13 回	哲学の基本問題 5	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第 14 回	哲学 I のまとめ	まとめ・授業内筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読  
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

## 【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

## 【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年  
その他の参考書は、授業毎に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

まず何よりも学生には、テキスト・資料を深く読むこと、そして思想の本質を捉えることを強く望みます。解説は丁寧に行います。

## 【Outline and objectives】

The main aim of this course is to help students understand the meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy, the grounds for the possibility of common understanding on values, and how to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

## 【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

- この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
  - 近代哲学の難問とその解決策。
  - ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

毎回、授業終了時にリアクションペーパーを書いてもらいます（リアクションペーパー提出の代わりに、小テストを実施する場合もあり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 8 回	哲学の根本問題について 5	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 10 回	哲学の根本問題について 7	超越論的哲学の展開（近代哲学の難問との関連から）
第 11 回	哲学の根本問題について 8	ニヒリズム ニーチェの対応法

第 12 回 現代世界と哲学について 世界像生成の根本原理  
て

第 13 回 現代日本と哲学について 比較思想的考察  
て ニーチェと仏教  
「生きること」それ自体に意味はあるのか？

第 14 回 哲学Ⅱのまとめ まとめ・授業内筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

## 【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

## 【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年  
その他の参考書は、授業毎に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績（70%）、リアクションペーパーの内容・小テストの解答（10%）と平常点（20%）とに基づき評価。  
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明がわかりやすいという評価をもらった。これからも丁寧な解説につとめたい。

## 【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems.

This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

## 【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学
第 13 回	哲学の基本問題 5	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第 14 回	哲学 I のまとめ	まとめ・授業内筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読  
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

## 【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

## 【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年  
その他の参考書は、授業毎に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生には何よりも、テキスト・資料を深く読み、そして思想の本質を捉えて欲しいと思います。解説は丁寧に行います。

## 【Outline and objectives】

The main aim of this course is to help students understand the meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy, the grounds for the possibility of common understanding on values, and how to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

キ1年/法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

## 【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

- この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
  - 近代哲学の難問とその解決策。
  - ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

毎回、授業終了時にリアクションペーパーを書いてもらいます（リアクションペーパー提出の代わりに、小テストを実施する場合もあり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第8回	哲学の根本問題について5	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第9回	哲学の根本問題について6	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第10回	哲学の根本問題について7	超越論的哲学の展開（近代哲学の難問との関連から）
第11回	哲学の根本問題について8	ニヒリズム ニーチェの対応法

第12回 現代世界と哲学について 世界像生成の根本原理

第13回 現代日本と哲学について 比較思想的考察  
ニーチェと仏教

「生きること」それ自体に意味はあるのか？

第14回 哲学Ⅱのまとめ まとめ・授業内筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

## 【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

## 【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年  
その他の参考書は、授業毎に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績（70%）、リアクションペーパーの内容・小テストの解答（10%）と平常点（20%）とに基づき評価。  
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明がわかりやすいという評価をもらった。これからも丁寧な解説につとめたい。

## 【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems.

This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、哲学が私たちの生きる「現実」の成り立ちを理解するために用いてきたいくつかの基本概念を取り上げ、それらについてできる限り行き届いた理解を得ることを目指します。そのことを通じて、哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

## 【到達目標】

(A) 授業で取り上げる哲学の基本概念について行き届いた理解を得る。  
 (B) それらの概念を使って「現実」の成り立ちについてある程度説明できるようになる。  
 (C) 以上を通じて哲学とはどのような営みかを理解する。  
 これらの到達目標は、次のことを趣旨として設定されています。すなわち、哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。  
 追記（4月13日）：春学期の少なくとも前半は、オンラインで授業を行います。具体的な授業の進め方は学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、必ず仮登録をして、その説明を読んでから受講してください。なお本授業の開始日は4月24日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	授業の進め方と概要の説明
第 2 回	哲学の基本的性格 1	基本概念①哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	基本概念②カテゴリー
第 4 回	哲学の歴史 1	基本概念③実体
第 5 回	哲学の歴史 2	基本概念④本質
第 6 回	哲学の歴史 3	基本概念⑤真理
第 7 回	哲学の歴史 4	基本概念⑥美
第 8 回	哲学の歴史 5	基本概念⑦主観
第 9 回	哲学の基本問題 1	基本概念⑧客観
第 10 回	哲学の基本問題 2	基本概念⑨技術
第 11 回	哲学の基本問題 3	基本概念⑩人工物
第 12 回	哲学の基本問題 4	基本概念⑪自然種
第 13 回	哲学の基本問題 5	基本概念⑫定義
第 14 回	哲学 I のまとめ	概念の地図を描く

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
 授業で指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

## 【参考書】

授業で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 40%、期末試験が 60%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とします。後者では上記の到達目標 (A) (B) (C) がどれだけ達成されているかを見ます。

追記（4月13日）：オンラインで授業を行う期間は、成績評価の仕方も変更します。こちらも学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、そちらをご覧ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングを積極的に取り入れるようにします。

## 【Outline and objectives】

In this course, we will focus on some of the basic concepts of philosophy that are used to make sense of the structure of "reality" in which we live, and aim to acquire a detailed understanding of them.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文1年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業ではとくに、哲学が私たちの「生」の成り立ちを理解するために用いてきたいくつかの基本概念を取り上げます。

## 【到達目標】

- (A) 授業で取り上げる哲学の基本概念について行き届いた理解を得る。  
 (B) それらの概念を使って自分の「生」の成り立ちについてある程度説明できるようになる。  
 (C) 以上を通じて哲学とはどのような営みかを理解する。  
 これらの目標は、次のことを趣旨として設定されています。すなわち、授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	授業の進め方と概要の説明
第2回	哲学の基本的性格 1	基本概念①哲学
第3回	哲学の基本的性格 2	基本概念②自律性
第4回	哲学の根本問題について 1	基本概念③自由
第5回	哲学の根本問題について 2	基本概念④意志
第6回	哲学の根本問題について 3	基本概念⑤行為
第7回	哲学の根本問題について 4	基本概念⑥行為の理由
第8回	哲学の根本問題について 5	基本概念⑦幸福の多義性
第9回	哲学の根本問題について 6	基本概念⑧幸福の各種理論
第10回	哲学の根本問題について 7	基本概念⑨価値の多義性
第11回	哲学の根本問題について 8	基本概念⑩価値の各種理論
第12回	現代世界と哲学について	基本概念⑪正義
第13回	現代日本と哲学について	基本概念⑫責任
第14回	哲学Ⅱのまとめ	概念の地図を描く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業で指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

## 【参考書】

授業で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 40%、期末試験が 60%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とします。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見ます。

## 【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングを積極的に取り入れます。

## 【Outline and objectives】

In this course, we will focus on some of the basic concepts of philosophy that are used to make sense of the structure of "reality" in which we live, and aim to acquire a detailed understanding of them.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

## 【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、授業の最後に理解度を確認する小テストを行うか自分の考えをリアクションペーパーに書いてもらいます。

追記（4月18日）：

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の实在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

## 【参考書】

講義中に随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験：60%

平常点：40%

平常点は小テストやリアクションペーパーに基づいて評価します。

追記（4月18日）：

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

## 【Outline and objectives】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文1年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

## 【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、授業の最後に理解度を確認する小テストを行うか自分の考えをリアクションペーパーに書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1 — 現実世界について	「ある」
5	哲学の根本問題について 2 — 科学的世界像について	時間
6	哲学の根本問題について 3 — 言語について	言葉の意味
7	哲学の根本問題について 4 — 個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5 — 幸福について	退屈
9	哲学の根本問題について 6 — 我執について	悪
10	哲学の根本問題について 7 — 道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8 — 死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

## 【参考書】

講義中に随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験：60%

平常点：40%

平常点は小テストやリアクションペーパーに基づいて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

## 【Outline and objectives】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口 力

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「世界」、および、「世界」に関するいくらかの論理的問題（存在論、認識論、言語論、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

## 【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界の原理について
- ・大陸合理論における世界の構造について
- ・イギリス経験論における世界の認識について
- ・近代ドイツ哲学における世界の説明について
- ・19~20 世紀哲学における世界の解釈について
- ・現代分析哲学における世界の分析について

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明した上で、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

⇒ 追記 (4/20)：当面、オンラインでの開講となり、学習支援システムを使用します。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、当日までに具体的な授業方法等を学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち① (さまざまなアルケー、有)
第 3 回	哲学の基本問題 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・ソクラテス以前の哲学者たち② (ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース) ・ソクラテス (無知の知)
第 4 回	哲学の基本問題 3 ：古代ギリシャ哲学 (3)	・プラトン① (イデア論)
第 5 回	哲学の基本問題 4 ：古代ギリシャ哲学 (4)	・プラトン② (知識とは何か) ・アリストテレス (四原理、デユナミスとエネルゲイア) ・プロティノス (一者、流出説)

第 6 回	哲学の基本問題 5 ：大陸合理論 (1)	・近代への過渡期 ・デカルト (実体、神、精神と物体)
第 7 回	哲学の基本問題 6 ：大陸合理論 (2)	・スピノザ (実体、属性、様態) ・ライプニッツ (モノドロジー、最善世界説)
第 8 回	哲学の基本問題 7 ：イギリス経験論 (1)	・ロック (経験と観念)
第 9 回	哲学の基本問題 8 ：イギリス経験論 (2)	・ヒューム (因果律の否定) ・バークリ (物質的実体の否定)
第 10 回	哲学の基本問題 9 ：近代ドイツ哲学 (1)	・カント (感性と悟性、カテゴリーと図式、ア・プリオリな総合判断)
第 11 回	哲学の基本問題 10 ：近代ドイツ哲学 (2)	・フィヒテ (自我と非我) ・シェリング (主客の無差別) ・ヘーゲル (絶対者の自己発展、弁証法)
第 12 回	哲学の基本問題 11 ：19~20 世紀哲学	・ショーペンハウアー (意志と表象) ・ニーチェ (真理らしさ、パースペクティブ) ・ハイデガー (世界-内-存在)
第 13 回	哲学の基本問題 12 ：現代分析哲学 (1)	・ウイトゲンシュタイン (事実の総体、言語批判、語りえぬもの)
第 14 回	哲学の基本問題 13 ：現代分析哲学 (2) ～哲学 I のまとめ	・その他の現代形而上学 (さまざまな時間論、世界 5 分前仮説、世界制作の方法、可能世界、など) ・試験について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。

授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

## 【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』(上・下巻)、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

⇒ 追記 (4/20)：当面、オンラインでの開講となるため、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

## 【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ° world ° and some related logical problems of ° world ° (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

谷口 力

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「心」、および、「心」に関するいくつかの倫理的な問題（価値、道徳、生、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

## 【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心の原理について
- ・大陸合理論における心の構造について
- ・イギリス経験論における心の認識について
- ・近代ドイツ哲学における心の説明について
- ・19～20 世紀哲学における心の解釈について
- ・現代分析哲学における心の分析について

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明した上で、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（プシケ、ハデス、想起説）
第 3 回	哲学の根本問題について 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・プラトン②（魂の正しさ） ・アリストテレス（アニマ）
第 4 回	哲学の根本問題について 3 ：大陸合理論	・デカルト（コギト、心身二元論） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノイド）
第 5 回	哲学の根本問題について 4 ：イギリス経験論	・ロック（タブラ・ラサ、感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）

第 6 回	哲学の根本問題について 5 ：近代ドイツ哲学 (1)	・カント（先験的仮象、実践的要請、定言命法）
第 7 回	哲学の根本問題について 6 ：近代ドイツ哲学 (2)	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 8 回	哲学の根本問題について 7 ：19～20 世紀哲学	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（身体、エス） ・ジェームズ（純粹経験） ・フッサール（志向性）
第 9 回	哲学の根本問題について 8 ：現代分析哲学 (1)	・ワイトゲンシュタイン①（独我論の貫徹および消去、視野の比喩） ・ライル（カテゴリー-ミステイク、行動主義）
第 10 回	哲学の根本問題について 9 ：現代分析哲学 (2)	・その他の現代の心の哲学①（心脳同一説、機能主義、消去主義、クオリア、など）
第 11 回	哲学の根本問題について 10 ：現代分析哲学 (3)	・その他の現代の心の哲学②（随伴現象説、性質二元論、非法則的一元論、認知的閉鎖、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11 ：現代分析哲学 (4)	・その他の現代の心の哲学③（外在主義と内在主義、さまざまな思考実験、など）
第 13 回	哲学の根本問題について 12 ：現代分析哲学 (5)	・ワイトゲンシュタイン②（生きている人間、目、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるものが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

## 【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

## 【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: <sup>o</sup> mind <sup>o</sup> and some related ethical problems of <sup>o</sup> mind <sup>o</sup> (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。

特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

## 【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。→ 以下の通り変更

☆春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 8 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』 アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』 ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』 - 「問柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾の統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間

14 哲学 I のまとめ

ふりかえりと試験対策

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、講義の内容をノートで整理すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

## 【参考書】

授業中に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験 100 % で評価。→ 以下の通り変更

☆春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

## 【Outline and objectives】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

## 【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論

- 13 現代日本と哲学について カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観  
 14 哲学Ⅱのまとめ カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、講義の内容をノートで整理すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

## 【参考書】

授業中に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験 100 % で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

## 【Outline and objectives】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文 1 年 L~R、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

## 【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラトン—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリストテレス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

## 【参考書】

授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容、到達目標と内容理解度のバランスを考えます。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

文1年L～R、国1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カントの世界市民主義の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

## 【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。基本的に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第2回	哲学の基本的性格1	近代の哲学思想1—デカルト—
第3回	哲学の基本的性格2	近代の哲学思想2—ロック—
第4回	哲学の基本的性格3	カント哲学の概要
第5回	哲学の根本問題について1	カントの理論哲学1—『純粋理性批判』の内容—
第6回	哲学の根本問題について2	カントの理論哲学2—「純粋悟性概念の演繹について」—
第7回	哲学の根本問題について3	『純粋理性批判』を読む1—第一版演繹—
第8回	哲学の根本問題について4	『純粋理性批判』を読む2—第二版演繹—
第9回	哲学の根本問題について5	カントの実践哲学1—純粋実践理性の根本法則—
第10回	哲学の根本問題について6	カントの実践哲学2—人格と自由—
第11回	現代世界と哲学について1	カント哲学の解釈
第12回	現代世界と哲学について2	カントの政治思想
第13回	現代世界と哲学について3	カントの世界市民主義
第14回	現代日本と哲学について まとめ	グローバル化時代の哲学

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

## 【参考書】

授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度30%、学期末レポート70%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容、到達目標と内容理解度のバランスを考えます。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 T~V、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探求するものです。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆきます。

## 【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は5月1日（金）とし、授業の進め方などは、その日に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに、前年の（対面でのこの授業の）進め方を記しておく。

前年度は、授業は講義形式で進め、思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とした。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	講義全体の外観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 — 哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 — 近代 ①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 — 近代 ②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 — 現代 ①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 — 現代 ②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 — 死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 — 死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 — 現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 — 人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 — 古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志
第 13 回	哲学の歴史 6 — 中世	証空：浄土教における無限者との一体化

第 14 回 哲学 I のまとめ

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントを読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業開講にともなう成績評価の方法などについても、授業開始日（5月1日）に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに、前年の（対面でのこの授業の）評価方法を記しておく。

前年度は、学期末の筆記試験（60%くらい）と平常点（40%くらい）の2つにより、総合的に評価した。

## 【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文1年T～V、環1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

## 【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第3回	哲学の根本問題について1—科学的認識と行為の因果性について	カントの認識論
第4回	哲学の根本問題について2—道徳、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第5回	哲学の根本問題について3—現実世界と人間存在について	ヤスパース：包摂者論
第6回	哲学の根本問題について4—真理について	ヤスパース：理性と交わり
第7回	哲学の根本問題について5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第8回	哲学の根本問題について6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第9回	現代日本と哲学について1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位
第10回	現代日本と哲学について2	夏目漱石：道と天
第11回	現代世界と哲学について1	小林秀雄：信じられる自己
第12回	現代世界と哲学について2	小林秀雄：言葉、物、美
第13回	現代世界と哲学について3	小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在

第14回 哲学Ⅱのまとめ 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントを読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60%くらい）と平常点（40%くらい）の2つにより総合的に評価する予定である。

## 【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view.

PHL100LA

## 哲学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

## 【到達目標】

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大な信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性を再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

哲学（I）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。毎回の学生のコメントや質問に丁寧に答えて、わかりやすい授業を目指す。出席を重視する。

★授業の開始日は4月30日をめどとしましたが、学習支援にうまく教材をアップできないので、5月10日からとします。また再度お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 (哲学の出発点 1)	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 (哲学の出発点 2)	ソクラテスの無知の自覚
6	哲学の歴史 3 (哲学の出発点 3)	懐疑、驚き、絶望… (デカルト～ヤスパース)

7	哲学の歴史 4 (哲学の究極)	愛についての考察・イデア論とプラトニックラブ
8	哲学の歴史 5 (哲学とは何か・まとめ)	愛の3つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 (哲学と科学 1)	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 (哲学と科学 2)	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 (哲学と科学 3)	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学の基本問題 4 (哲学と科学 4)	事実と価値・目的と手段
13	哲学の基本問題 5 (哲学と科学 5)	主体知と客体知・相補性
14	哲学 I まとめ	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、下記の参考書を何冊か読むこと。

## 【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房  
『哲学の歴史』1～5、中央公論新社  
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書  
『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と学期末試験（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は、手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

## 【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。授業中の私語と、板書の写メ、スマホは禁止する。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL100LA

## 哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

## 【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というものについて、付かず離れずに見る視点を確保することができる。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つけようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」ことと「知る」こととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式で進めます。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントやDVDなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。

毎回の学生のコメントや質問に丁寧に答えて、分かりやすい授業を目指します。出席を重視します。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か? 哲学と科学と宗教
2	哲学の基本的性格 1	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場

3	哲学の基本的性格 2 (宗教の予備学習 1)	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格 3 (宗教の予備学習 2)	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について 1 (哲学と宗教 1)	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について 2 (哲学と宗教 2)	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について 3 (哲学と宗教 3)	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について 4 (哲学と宗教 4)	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 5 (哲学と宗教 5)	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	現代日本と哲学について (哲学と幸福 1)	幸福論——哲学とよき生について
11	現代日本と哲学について (哲学と幸福 2)	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について (哲学と幸福 3)	正義と幸福——ソクラテスの場合
13	現代世界と哲学について (幸福論の系譜)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学Ⅱ まとめ	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、下記の参考書を何冊か読むこと。

## 【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』 1～5、中央公論新社

『哲学のすすめ』 岩崎武雄、講談社現代新書

『はじめて学ぶ哲学』 渡辺二郎、ちくま学芸文庫

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

## 【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。授業中の私語と板書の写メ、スマホは禁止する。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月4日（月）とし、授業の進め方などについては、その日に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに前年度の進め方を記しておく。

授業は講義形式で進め、思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とした。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わっているのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノート、配布プリントをよく見ておくこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講になったことにもなう、成績評価の方法などについては、授業開始日（5月4日）に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに、前年度の評価方法を記しておく。前年度は学期末の筆記試験（60%くらい）と平常点（40%くらい）の2つにより、総合的に評価した。

## 【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあつて、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第 12 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力と倫理学か？

第 14 回 授業のまとめ 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノート、配布プリントをよく見ておくこと。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60%くらい）と平常点（40%くらい）の2つにより、総合的に評価する予定である。

## 【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A~I、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただし春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。オンラインでの授業は基本的に学習支援システム上でを行い、教材や講義資料を配布し、小テストなどの課題を提出してもらう。

またオンラインでの開講に伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快樂主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義

第 14 回 まとめ

まとめを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、講義資料と課題を提示し、課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。

評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

掲示板を活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

## 【その他の重要事項】

倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきっている場面で生かしていかない限り、倫理的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問いただす姿勢をもつようにしてもらいたい。

## 【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～I、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	動物倫理学
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならぬのか？（1）	環境倫理学とは何か？

第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？

ならないのか？（2）

第 13 回 環境は保護しなければ 21世紀の倫理学に向けて

ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ まとめを行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年  
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年  
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（60%）に加え、小論文（20%）、リアクションペーパー（20%）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

## 【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。いずれかの方法で、毎授業ごとにコメントを提出してもらいます。授業開始日 4月24日

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第11回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第12回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第13回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第14回	まとめ	まとめと授業内テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年  
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2/3以上参加してください。学期末にレポートを課します。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答します。コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

## 【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (allied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかを見てゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？ (1)	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するか？ (2)	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？ (3)	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (1)	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (2)	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (3)	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (4)	生命倫理学
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？ (1)	責任という原理 (ヨナス)
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？ (2)	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？ (3)	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならぬのか？ (1)	環境倫理学とは何か？

第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？  
ならないのか？ (2)

第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて  
ならないのか？ (3)

第 14 回 まとめ これまでのまとめ、レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年  
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年  
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点 35%；レポート 65%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は次のような感想がありました。

「哲学対話」というディスカッションを取り入れました。それについての感想です。

「哲学対話は色んな人の考えを聞き、「ひとつのテーマに集中的に向き合って考える」ことができるので貴重な時間だった。

ぜひこれからも行なって行くべきだと思う。」

今年度も、哲学対話の時間を設けたい。

## 【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

※授業支援システムが機能しない状況に関して※（4/20）

現在、アクセス数集中のためか、支援システムがダウンしてしまう時間帯があるようです。

そのため、このクラスでは Google Classroom に新規クラスを開設しました。おそらく皆さんの大学用のメールアドレスを使用して Google Classroom に入れると思います。（右上のアプリ選択のようなマークの下の方にあります）こちらのシラバスを見た人は試してみてください。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。また本授業では、倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月22日（水）

初回は動画にて配信。今後、なるべくプリント類も添付していく予定。初回の授業動画は、授業支援システム並びに Google Class（クラスコード：7y4fkiy）にアップしてあります。

29日は学部授業なしのため、第2回目は5月6日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第3回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？

第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か：自由意志と責任
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第11回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第12回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第13回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第14回	まとめ	全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年 適宜、授業の中で紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

## 【Outline and objectives】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？

第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて  
ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ 総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年  
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年  
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019 年  
その他、適宜授業中に紹介します

## 【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

## 【その他の重要事項】

倫理学Ⅰを受けてから受講すると、より理解しやすくなります。

## 【Outline and objectives】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 L~X・キ／法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

## 【変更】 授業開始日

4月22日（水）4時限（15:00-16:40）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション ・「現に問うているのは誰か？」
第 2 回	人間とは何か？（2）	・ハイデガー哲学からみた「私」の位置 ・「世界内存在としての私」
第 3 回	人間とは何か？（3）	・「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」 ・倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務

第 11 回 私は法にかなったこと ・法実証主義  
をなすべきか？（1） ・法と倫理

第 12 回 私は法にかなったこと ・社会契約論  
をなすべきか？（2） ・国家と個人

第 13 回 私は法にかなったこと ・自由主義・共同体主義  
をなすべきか？（3） ・政治と倫理  
・社会と個人

第 14 回 まとめ ・倫理学の現代的意味

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

・定期試験（80%）に加え、小テスト（20%）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

## ※要注意【変更】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

初回授業日に、その時点での成績評価の方針について、「学習支援システム」で受講者に通知する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

## 【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かさなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

## 【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 L~X・キ／法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第 2 回	何が暴力を抑止するか？（2）	・暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならぬのか？（1）	・環境倫理学とは何か？

第 12 回 環境は保護しなければ ・持続可能な社会とは何か？  
ならないのか？（2）

第 13 回 環境は保護しなければ ・21世紀の倫理学に向けて  
ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ ・応用倫理学の現代的な意味について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年  
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年  
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）に加え、小テスト（20％）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

## 【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

少なくとも前半がオンラインでの開講となることに変更されたが、それにとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（2） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイデガーの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（3） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？（1） ——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の 3 つのレベルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？（2） ——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？（3） ——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？（4） ——快樂主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1） ——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。

第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2） ——自由とは何か？	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3） ——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1） ——法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2） ——社会契約論	ホッブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3） ——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体としての善を重視する「共同体主義」について考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年など

## 【成績評価の方法と基準】

少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書事項の改善。

## 【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はありうるか？	正義論とはなにか、正義論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」という評価をおこなう可能性について考える。
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」について解説する。
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学	動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。

第 8 回 人間の責任はどこまで 人間の責任概念を中心に相互性及ぶのか？（1）—— の問題について考える。

責任という原理（ヨナス）

第 9 回 人間の責任はどこまで 科学技術の発展がもたらす倫理問及ぶのか？（2）—— 題を考える。

科学技術の倫理

第 10 回 人間の責任はどこまで 世代内倫理に対する世代間倫理に及ぶのか？（3）—— ついて解説する。

世代間倫理

第 11 回 環境は保護しなければ 世代間倫理としての環境倫理学にならないのか？（1） ついて解説する。

——環境倫理学とは何か？

第 12 回 環境は保護しなければ 「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。

——持続可能な社会とは何か？

第 13 回 環境は保護しなければ なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。

——21世紀の倫理学に向けて

第 14 回 まとめ これまでの授業全体を振り返り、※別途定期試験を実施 理解を深める。

する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年  
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年  
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年  
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年  
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年  
など

## 【成績評価の方法と基準】

原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう（試験 60%・小テスト 40%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書方法の改善。

## 【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

## 倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月1日（金）とし、授業の進め方などについては、その日に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに前年度の進め方を記しておく。

授業は講義形式で進め、思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とした。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わっているのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノート、配布プリントをよく見ておくこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講になったことにもなう、成績評価の方法などについては、授業開始日（5月1日）に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに、前年度の評価方法を記しておく。前年度は、学期末の筆記試験（60%くらい）と平常点（40%くらい）の2つにより、総合的に評価した。

## 【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

## 倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあつて、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

## 【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第 12 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力と倫理学か？

第 14 回 授業のまとめ 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノート、配布プリントをよく見ておくこと。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60%くらい）と平常点（40%くらい）の2つにより、総合的に評価する予定である。

## 【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった!」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

## 【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。→以下の通り変更

☆春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何か－内包と外延、類と種
4	概念 (2)	矛盾概念と反対概念
5	概念 (3)	概念の定義
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	ベン図の図形
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

## 【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20 %で評価。→以下の通り変更  
☆春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

授業内でたびたびリアクションペーパーの提出があります。

## 【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

文1年P～X / 法文営国環キ 2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった!」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考え「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

## 【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式と規則
3	三段論法 (2)	三段論法の格式と規則
4	三段論法 (3)	ペンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

## 【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20 % で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

授業内でたびたびリアクションペーパーの提出があります。

## 【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In LogicI, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this LogicII also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take LogicI.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。

## 【到達目標】

概念、命題、推理について、その基礎を学びます。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。レポートなどを書く上でも言葉や論理に気をつけるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはプリントを用いた講義形式ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく説明していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席を重視します。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

★授業の開始日は4月30日をめどとしましたが、学習支援にうまく教材をアップできないので、5月10日からとします。また再度お知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律
3	概念論 1	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4	概念の種類・問題演習
7	命題論 1	命題とは何か
8	命題論 2	定言命題の基本形式
9	命題論 3	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4	問題演習
11	推理 1 直接推理	対当関係による推理
12	推理 2	対当の四角形
13	推理 3	対当による推理
14	前期のまとめ	問題演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

## 【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃  
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と学期末試験の成績（60%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるように、徹底して私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文1年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆきます。

## 【到達目標】

実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートを書く際にも役立つ。われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的な事柄をプリントを用いて講義した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？ いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席を重視します。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か
2	変形による直接推理 1	換質法・問題演習
3	変形による直接推理 2	换位法・問題演習
4	変形による直接推理 3	換質・换位法のまとめと問題演習
5	定言三段論法 1	三段論法とは？
6	定言三段論法 2	定言三段論法の公理と規則（1） 公理と6つの規則、特に媒概念不周延の誤謬について
7	定言三段論法 3	定言三段論法の公理と規則（2） 大概念、小概念不当周延の規則について、その他の規則について
8	定言三段論法 4	問題演習・定言三段論法の格と式について
9	仮言三段論法 1	混合仮言三段論法の解き方と問題演習
10	仮言三段論法 2	純粋仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	前期のまとめ	まとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

## 【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃  
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と学期末試験の成績（60%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう、徹底して私語を排除するよう努力する。板書の写メとスマホも禁止する。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

## 【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度も高まります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月6日とします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となりますので、それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示することとします。また、具体的なオンライン授業の方法などについては、授業開始日までに、これも学習支援システムで提示する予定です。

但し、以下については、変更ありません：

- ①この授業は、伝統的論理学における概念論から始め、判断論（命題論）、推理論の順で概説すること。
- ②授業の理解度と思考力を高めるため、多くの練習問題を出すこと。
- ③教室での授業では、受講者に、練習問題の解答作業を黒板上でもらうことがあること。また、復習のために宿題を出すことがあること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）

## 第 3 回 概念論

1. 概念の形成過程
2. 概念の外延と内包
3. アリストテレスの概念論
4. 概念の種類

## 第 4 回 判断論（命題論） 1

1. 判断（命題）とは
2. 命題の種類
3. 定言命題
4. 命題の標準形式化
5. 練習問題

## 第 5 回 判断論（命題論） 2

1. 周延の概念
2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係
3. 定言命題において周延をもつ名辞

## 第 6 回 推理論：直接推理 1

1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当
2. 練習問題

## 第 7 回 推理論：直接推理 2

1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当
2. 練習問題

## 第 8 回 推理論：直接推理 3

1. 命題の変形による推理：換質法・换位法
2. 練習問題

## 第 9 回 推理論：直接推理 4

1. 命題の変形による推理：換質换位法
2. 練習問題

## 第 10 回 推理論：間接推理 1（定言三段論法）

1. 間接推理（三段論法）の種類
2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞
3. 定言三段論法の格と式

## 第 11 回 推理論：間接推理 2（定言三段論法）

1. 妥当な定言三段論法の見分け方

## 第 12 回 推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）

2. 練習問題（初級）
1. 練習問題（中級）
2. 仮言命題（条件文）について
3. 純粹仮言三段論法
4. 練習問題

## 第 13 回 推理論：間接推理 4（仮言三段論法）

1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
2. 練習問題

## 第 14 回 授業内試験・まとめ

- 筆記試験  
まとめ・解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。宿題または参考書の練習問題を解く。特に復習は必ずしっかり行ってください。

（前回の授業内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。）

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

## 【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

論理学は、理解して自分で問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。丁寧な解説を行いますので、授業中に出す練習問題に積極的に取り組んで下さい。

## 【その他の重要事項】

論理的思考力の養成には時間がかかり、論理学 II で扱う知識・技法も必要となるので、通年での履修を強く奨めます。

## 【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

法1年A～I / 法文営国環キ 2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

## 【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
  2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
  3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

序論として、仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までをまず学び、ここで一度、小テストを行います。

次に、自然演繹の推論規則を順々に学んでいき、学期内最後の授業において、二回目の小テストを行います。

授業は基本的に講義形式です。論理学Ⅰにおいてと同様、毎回授業の始めに、任意に指名した受講者に前回の授業内容を質問し答えてもらいます。授業の理解度と思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。受講者には、練習問題の解答作業を黒板上でもらうことがあります。また、復習のために宿題を出すこともあります。

授業内容・練習問題で分からないことがあったら、すぐに直接質問に来るようにして下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）： 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法

- 第3回 命題論理学(1) 1. 論理語についての説明  
2. 十分条件と必要条件  
3. 真理値表を作ってみる
- 第4回 命題論理学(2) 1. カッコの省略  
2. 練習問題
- 第5回 命題論理学(3) 1. 日常文を記号化してみる  
2. 練習問題
- 第6回 命題論理学(4) 1. 真理関数と真理値分析  
2. 練習問題
- 第7回 命題論理学(5) 1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か  
2. トートロジーと推論  
3. 練習問題
- 第8回 自然演繹(1) 1. 小テスト  
2. 意味論と構文論
- 第9回 自然演繹(2) 1. 含意の導入則と除去則  
2. 練習問題
- 第10回 自然演繹(3) 1. 連言の導入則と除去則  
2. 練習問題
- 第11回 自然演繹(4) 1. 選言の導入則と除去則  
2. 練習問題
- 第12回 自然演繹(5) 1. 否定の導入則と除去則  
2. 練習問題  
3. 矛盾律  
4. 練習問題
- 第13回 自然演繹(6) 1. 排中律  
2. 練習問題  
3. 排中律と二重否定除去法則
- 第14回 自然演繹(7) 1. 二重否定除去法則と矛盾律  
2. 練習問題  
3. 排中律と二重否定除去法則  
4. 練習問題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。  
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。  
復習：前回授業内容の確認。宿題または参考書の練習問題を解く。  
特に復習は必ずしっかり行ってください。  
(前回の内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。)

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

## 【参考書】

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年  
野矢秀樹著『論理学』、東京大学出版会、1994年  
野矢秀樹著『入門！論理学』、中公新書、2006年  
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

2回の小テスト（筆記試験）の成績（80%）と平常点（20%）に基づき評価。  
2回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためず問題を出す予定。  
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に行っている練習問題が学生の授業理解度を上げていると思えました。丁寧な解説を行いますので、積極的に練習問題に取り組んで下さい。

## 【その他の重要事項】

春学期の論理学Ⅰを履修せずに、秋学期の論理学Ⅱから履修し単位を取得する学生も若干名いるのですが、この授業は基本的に、論理学Ⅰで論理学の基礎知識をある程度習得した学生を対象としているので、春学期の論理学Ⅰからの履修を推奨します。

## 【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic (natural deduction). The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid inferences.

PHL100LA

## 論理学Ⅰ

2017年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

営1年A～J、環1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにはほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

## 【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業は、オンデマンド型オンライン授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題、質疑応答が行われます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題の提出をもって、出席と判断します。授業開始日は4月21日（火曜日）です。第1回課題提出は、仮登録期間が終了する5月11日です。なお、法政大学学習支援システム Hoppii のサーバーにアクセスできない場合、本授業のバックアップサイト（Google Classroom の同名サイト）から教材等をダウンロードしてください。クラスコードは 3ebpauc です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）

5	変形推理 (1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 戻換法)	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント (第 1 回から第 5 回) の解答と解説、三段論法	課題プリント (第 1 回から第 5 回) の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題 (設問 1 から設問 6)、妥当性の判定の練習問題 (設問 8 から 11)
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格 (第 1 格、第 2 格、第 3 格、第 4 格)、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理 (第 1 格)、差異の原理 (第 2 格)、用例の原理 (第 3 格)、逆の原理 (第 4 格)
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粹仮言三段論法 (第 1 格から第 4 格)
11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類 (肯定否定式、否定肯定式)、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法 (ディレンマ)、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類 (単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法)、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する (2 時間)。  
 復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する (2 時間)。

#### 【テキスト (教科書)】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)

#### 【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木石川訳、ちくま学芸文庫

#### 【成績評価の方法と基準】

①平常点 (参加姿勢、課題プリントの評価など)、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。このシステムを活用してください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。もし可能であれば、Web カメラとプリンターを用意してください。

#### 【その他の重要事項】

オンデマンド型オンライン授業の詳細は、すでに学習支援システム Hoppii に掲載していますので、そちらをご覧ください。

#### 【Outline and objectives】

Learning logic is all about laying the groundwork for us to think and act reasonably. It can help solve the various problems we encounter in our daily lives and also foster the employment skills we need to prepare as members of society. The Logic course deals with traditional logic from Aristotle and aims to develop the ability to determine the correct reasoning.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

## 【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の妥当性を判定することができる。
- ③命題内部の論理構造を的確に把握することができる。
- ④仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ①毎回授業プリントを配布して、学習内容の定着を図ります。
- ②プロジェクターを使います。
- ③教科書やプリントの練習問題を解いていきます。
- ④毎回の授業に関する課題プリントを配布し、次回の授業に回収します。課題プリントは、採点され返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび F・ベーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ベーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ベーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライプニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライプニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方
第 7 回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第 8 回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。

第 9 回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第 10 回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第 11 回	帰謬法	教科書およびその他の練習問題を解く。
第 12 回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第 13 回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第 14 回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量の考え方、量化記号

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。  
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2 時間）。

## 【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)

## 【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

## 【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価します。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

## 【学生の意見等からの気づき】

プロジェクターを用いて論理学を分かりやすく解説していきます。課題プリントは教員によって添削され、次の授業時に返却されます。受講者は、添削された課題プリントを見直すことで、授業内容をより的確に理解することができます。

## 【学生が準備すべき機器他】

法政大学授業支援システムを用い、授業で使用した教材や練習問題及びその解答などを随時ダウンロードできるようにします。したがって、学内外でパソコン、インターネット、プリンターなどを使用します。

## 【その他の重要事項】

授業支援システムのメーリングリストを使用して、受講生に連絡を取りますので、授業登録時に連絡可能なメールアドレスを必ず記入してください。オフィスアワーについては、授業終了後に質問を受け付ける。なお、随時、メールでの質問も受け付ける。

## 【Outline and objectives】

Learning logic is all about laying the groundwork for us to think and act reasonably. It can help solve the various problems we encounter in our daily lives and also foster the employment skills we need to prepare as members of society. This class aims to acquire modern propositional logic and logic on scientific thinking, cognition, and history.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、それは推理は誤っています。この講義は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいかということや、基礎から順に学んでゆきます。そして最後に、日常の生活で正しく思考（判断）し行動するためには正しい知識と正しい論理が必要であることを確認します。

## 【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業が学習支援システムで開始されるのは5月7日（木曜）です。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。まずは資料ファイルを進めて行きます。教科書も使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明してゆきます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として練習問題に取り組みます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めてゆき、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでゆきますから。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。

第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・换位法についての説明
第 12 回	命題の変形による直接推理について	換質换位法及び本格的な推理についての説明
第 13 回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第 14 回	授業内試験：まとめと解説	論理的な正しい思考ができるかを見る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、特に学んだ事柄を教科書で復習し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 2 時間。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社、2013 年）

## 【参考書】

授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の取り組み（20%）と学期末試験（80%：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。状況によっては、オンライン課題のみで評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「問題演習もあってよかった」等、書いてくれていました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なも

正しい思考は正しい知識と論理から可能になります。その論理（推理）をここでは学びます。前期の復習から始めて本格的な推理へと丁寧に説明してゆきます。

正しい思考は正しい知識と正しい論理から可能になります。その正しい論理（推理）をこの授業では学びます。春学期の復習をした上で本格的な推理（三段論法）について丁寧に説明してゆきます。日常的に行っている推理の誤りを指摘し、正しく本格的に推理する仕方を学びます。そして最後に、現代論理学（命題論理学）の基本を学びます。

## 【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明してゆきます。また、論理的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を解いてゆきます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粹仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。

第 10 回 両刀論法（ディレンマ）について

単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明

第 11 回 両刀論法と詭弁両刀論法について

詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。

第 12 回 現代論理学への導入

命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明

第 13 回 命題論理学の演習

問題の解答と説明

第 14 回 授業内の試験

複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、学んだ内容を教科書で復習し、次の授業内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 2 時間。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社・2013 年）

## 【参考書】

授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20％）と学期末の授業内試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

## 【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が授業について「わかりやすかった」、「推理に興味を持った」と書いてくれました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明してゆきます。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students.

Lastly this course gives students an introduction to modern propositional logic. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 J~N / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論というかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

## 【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていません。しかし、文法をよく知るとなれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。

本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論理的に考える—論理と接続詞	接続詞を通して、論理的な頭の体操をします。
2	論理学の原理	論理学の基本原則を学ぶ。同一律、矛盾律、排中律
3	概念とは何か？	ひとは概念を通して考え、判断をしている。概念の基本を学ぶ
4	定義と区分	分かるとははっきりと分けることができること。ものごとの道理をつかむ基本は定義と区分にある
5	概念、定義と区分—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
6	判断とは何か？	判断を通して、私たちはものごとを知っていきます。その基本を学ぶ
7	判断とは何か？ 練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
8	対当推理	判断と判断の関係を扱うのが、対当推理です。ていねいに見ていきます
9	対当推理—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める

10	これまでの学習内容の確認のための試験と講評	第一回小テストをおこない、講評します
11	変形推理	一つの判断を、意味内容を同じしたままにして、判断を変形していきます。その基本問題を見ておきます
12	変形推理—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
13	虚偽論	論理学を学ぶ意義の一つは、論理的にいかさまを見抜く力をつけることです。論理的虚偽の基本パターンをみます
14	虚偽論	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業内で解くほかに、課題を出します。また復習さちんとやってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社、2000 年

## 【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習問題を解くことで理解が深まるというコメントが多くみられます。本年も同じように練習問題を解きながら、理解を深めていきます。なお、論理学は積み重ねなので、欠席しないようにしてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

私語は、他の人への迷惑、授業の障害。厳しく対処します。

## 【Outline and objectives】

This course introduces traditional logic, for example, concept, proposition, deformation reasoning, oppositions and fallaciousness fallacy. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 J~N / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

## 【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていません。しかし、文法をよく知るようになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。

本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。ただし、できるだけ多く問題を解くことによって、思考の訓練をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	定言三段論法（1）	二つの前提から結論をひきだす三段論法の規則を学びます。論理的思考が深まるでしょう
2	定言三段論法（2）	三つの円を使って、正しいか間違っているかを判定する、ベン図による判定をおこないます
3	定言三段論法—練習問題	練習問題を通して、理解を深めます
4	仮言三段論法	ふだんの生活のなかで、ひっかかりやすい仮言三段論法があります。この理解を通して、論理的センスを磨きます
5	仮言三段論法—練習問題を解く	練習問題を通して、理解を深めます
6	選言三段論法	選言三段論法のしくみを説明する
7	選言三段論法—練習問題を解く	練習問題を解いて、理解を深めます
8	定言三段論法、仮言三段論法、選言三段論法について確認の試験と講評をおこなう	これまで学んだ三つの三段論法についての定着度を見るために小テストおこない、講評する
9	両刀論法	これまでの三つの三段論法を総合した両刀論法のしくみを説明します
10	両刀論法—練習問題を解く	不完全な両刀論法をどう切り返すか？ 練習問題を解きます

- |    |                        |  |
|----|------------------------|--|
| 11 | ミルの帰納法—データをもとに規則を発見する。 | 近代では科学的発見の論理として、帰納法が重視されます。その基本を学びます   |
| 12 | 帰納法について練習問題を解く         | これまでの科学的発見のなかで、どの方法がつかわれていたか、出題します   |
| 13 | 論理的な文を記号で表す            | 記号論理学のなかでも、命題論理学の初歩を学びます。命題を単位として、推理が妥当かどうかを見ていくものです。その手始めに、いろいろな推理を記号で表す練習をしてみます。 |
| 14 | 真理表を作り、真偽を判定する         | そして、実際に表を作り、ある推理が妥当かどうかの判定をおこないます  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業以外に、課題を出しますから、それを家でやってきてください。また復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします

## 【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社

## 【参考書】

## 【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

## 【成績評価の方法と基準】

各学期のなかで、2 回の小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します（第一回小テスト、第二回小テスト、計 90%）、授業への参加度 10%。

## 【学生の意見等からの気づき】

練習問題については、理解が深まるというコメントが多く寄せられますので、本年も同じく練習問題を通して理解を深めるようにします。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

練習問題を解くことで、理解が深まるという声を聞きます。こつこつと取り組むことから、得られることが多いと思います。

## 【Outline and objectives】

This course introduces syllogism, inductive reasoning and propositional logic first steps. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法 1 年 S~W、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。

## 【到達目標】

概念、命題、推理について、その基礎を学びます。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。レポートなどを書く上でも言葉や論理に気をつけるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはプリントを用いた講義形式ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく説明していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席を重視します。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

★授業の開始日は4月30日をめどとしましたが、学習支援にうまく教材をアップできないので、5月10日からとします。また再度お知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律
3	概念論 1	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4	概念の種類・問題演習
7	命題論 1	命題とは何か
8	命題論 2	定言命題の基本形式
9	命題論 3	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4	問題演習
11	推理 1 直接推理	対当関係による推理
12	推理 2	対当の四角形
13	推理 3	対当による推理
14	前期のまとめ	問題演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

## 【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃

『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と学期末試験の成績（60%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるように、徹底して私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法1年S~W、キ1年/法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆきます。

## 【到達目標】

実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートを書く際にも役立つ。われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的な事柄をプリントを用いて講義した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？ いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席を重視します。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か
2	変形による直接推理 1	換質法・問題演習
3	変形による直接推理 2	换位法・問題演習
4	変形による直接推理 3	換質・换位法のまとめと問題演習
5	定言三段論法 1	三段論法とは？
6	定言三段論法 2	定言三段論法の公理と規則（1） 公理と6つの規則。特に、媒概念 不周延の誤謬について
7	定言三段論法 3	定言三段論法の公理と規則（2） 大概念・小概念不当周延の誤謬 と、その他の規則について
8	定言三段論法 4	問題演習・定言三段論法の格と式 について
9	仮言三段論法 1	混合仮言三段論法の解き方と問題 演習
10	仮言三段論法 2	純粋仮言三段論法の解き方と問題 演習
11	選言三段論法	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法	両刀論法（ジレンマ）の解き方と 問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	前期のまとめ	まとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

## 【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃  
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と学期末試験の成績（60%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう、徹底して私語を排除するよう努力する。板書の写メとスマホも禁止する。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

## 論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 Y・国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

## 【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度も高まります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月7日とします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となりますので、それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示することとします。また、具体的なオンライン授業の方法などについては、授業開始日までに、これも学習支援システムで提示する予定です。

但し、以下については、変更ありません：

- ①この授業は、伝統的論理学における概念論から始め、判断論（命題論）、推理論の順で概説すること。
- ②授業の理解度と思考力を高めるため、多くの練習問題を出すこと。
- ③教室での授業では、受講者に、練習問題の解答作業を黒板上でもらうことがあること。また、復習のために宿題を出すことがあること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）

## 第 3 回 概念論

1. 概念の形成過程
2. 概念の外延と内包
3. アリストテレスの概念論
4. 概念の種類

## 第 4 回 判断論（命題論） 1

1. 判断（命題）とは
2. 命題の種類
3. 定言命題
4. 命題の標準形式化
5. 練習問題

## 第 5 回 判断論（命題論） 2

1. 周延の概念
2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係
3. 定言命題において周延をもつ名辞

## 第 6 回 推理論：直接推理 1

1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当
2. 練習問題

## 第 7 回 推理論：直接推理 2

1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当
2. 練習問題

## 第 8 回 推理論：直接推理 3

1. 命題の変形による推理：換質法・换位法
2. 練習問題

## 第 9 回 推理論：直接推理 4

1. 命題の変形による推理：換質换位法
2. 練習問題

## 第 10 回 推理論：間接推理 1（定言三段論法）

1. 間接推理（三段論法）の種類
2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞
3. 定言三段論法の格と式

## 第 11 回 推理論：間接推理 2（定言三段論法）

1. 妥当な定言三段論法の見分け方

## 第 12 回 推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）

2. 練習問題（初級）
1. 練習問題（中級）
2. 仮言命題（条件文）について
3. 純粹仮言三段論法
4. 練習問題

## 第 13 回 推理論：間接推理 4（仮言三段論法）

1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
2. 練習問題

## 第 14 回 授業内試験・まとめ

- 筆記試験  
まとめ・解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。宿題または参考書の練習問題を解く。特に復習は必ずしっかり行ってください。

（前回の授業内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。）

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

## 【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

論理学は、理解して自分で問題が解けるようになると、どんどん楽しくなる科目です。丁寧な解説を行いますので、授業中に出す練習問題に積極的に取り組んで下さい。

## 【その他の重要事項】

論理的思考力の養成には時間がかかり、論理学Ⅱで扱う知識・技法も必要となるので、通年での履修を強く奨めます。

## 【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

## 論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法1年Y・国1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

## 【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
  2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
  3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

序論として、仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までをまず学び、ここで一度、小テストを行います。

次に、自然演繹の推論規則を順々に学んでいき、学期内最後の授業において、二回目の小テストを行います。

授業は基本的に講義形式です。論理学Ⅰにおいてと同様、毎回授業の始めに、任意に指名した受講者に前回の授業内容を質問し答えてもらいます。授業の理解度と思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。受講者には、練習問題の解答作業を黒板上でもらうことがあります。また、復習のために宿題を出すこともあります。

授業内容・練習問題で分からないことがあったら、すぐに直接質問に来るようにして下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）： 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法

- 第3回 命題論理学(1) 1. 論理語についての説明  
2. 十分条件と必要条件  
3. 真理値表を作ってみる
- 第4回 命題論理学(2) 1. カッコの省略  
2. 練習問題
- 第5回 命題論理学(3) 1. 日常文を記号化してみる  
2. 練習問題
- 第6回 命題論理学(4) 1. 真理関数と真理値分析  
2. 練習問題
- 第7回 命題論理学(5) 1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か  
2. トートロジーと推論  
3. 練習問題
- 第8回 自然演繹(1) 1. 小テスト  
2. 意味論と構文論
- 第9回 自然演繹(2) 1. 含意の導入則と除去則  
2. 練習問題
- 第10回 自然演繹(3) 1. 連言の導入則と除去則  
2. 練習問題
- 第11回 自然演繹(4) 1. 選言の導入則と除去則  
2. 練習問題
- 第12回 自然演繹(5) 1. 否定の導入則と除去則  
2. 練習問題  
3. 矛盾律  
4. 練習問題
- 第13回 自然演繹(6) 1. 排中律  
2. 練習問題  
3. 排中律と二重否定除去法則
- 第14回 自然演繹(7) 1. 二重否定除去法則と矛盾律  
2. 練習問題
- 第15回 自然演繹(8) 1. 命題論理の階層  
2. 小テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。  
復習：前回授業内容の確認。宿題または参考書の練習問題を解く。  
特に復習は必ずしっかり行ってください。  
(前回の内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。)

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

#### 【参考書】

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年  
野矢秀樹著『論理学』、東京大学出版会、1994年  
野矢秀樹著『入門！論理学』、中公新書、2006年  
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

2回の小テスト(筆記試験)の成績(80%)と平常点(20%)に基づき評価。  
2回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をたためす問題を出す予定。  
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に行っている練習問題が学生の授業理解度を上げていると思いました。丁寧な解説を行いますので、積極的に練習問題に取り組んで下さい。

#### 【その他の重要事項】

春学期の論理学Ⅰを履修せずに、秋学期の論理学Ⅱから履修し単位を取得する学生も若干名いるのですが、この授業は基本的に、論理学Ⅰで論理学の基礎知識をある程度習得した学生を対象としているので、春学期の論理学Ⅰからの履修を推奨します。

#### 【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic (natural deduction). The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid inferences.

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

法1年A～N、国キ1年/法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大  
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

#### 【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムを用いて行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。授業開始日は4月27日になります。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4月15日(水)午前10:00～4月20日(月)午前9:00

詳細は、以下に掲載の「2020年度ILAC科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>)を確認してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

## 東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

法1年A～N、国キ1年/法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

## 【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4月15日（水）午前10：00～4月20日（月）午前9：00

詳細は、以下に掲載の「2020年度ILAC科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>)を確認してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ/中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

## 東洋史 I

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y、文 1 年 A~N / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

## 【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムを用いて行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。授業開始日は4月23日になります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

## 東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y、文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

## 【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

## 東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

## 【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムを用いて行っています。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。授業開始日は4月24日（金）になります。この日まで、授業方法などを学習支援システム上で掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文1年P～X、環1年／法文営国環キ2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

## 東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

## 【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムを用いて行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。授業開始日は4月27日になります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

## 東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

## 【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

## 東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

## 【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムを用いて行っています。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。授業開始日は4月24日（金）になります。この日までに、授業方法などを学習支援システム上で掲示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

随時、紹介していきます。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

営1年K～U、キ1年／法文営国環キ2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

## 西洋史 I

2017 年度以降入学者

## 大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化を上げてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

## 【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

[追記（2020年4月17日）]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示する。まずは、授業日初日（4月25日）に、シラバスとオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。必ず確認すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界 1：ギリシア・ボリス社会の形成	ギリシア・ボリス社会の形成と特徴について
第3回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第4回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界 4：共和制から帝国へと至るローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第7回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について

第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教の発展、十字軍運動の展開について	キリスト教世界の発展と十字軍
第12回	中世ヨーロッパ5：黒死病や戦争などの影響、国家体	危機と変容
第13回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%  
\*出席管理は厳格に行う。  
・期末試験：70%

[追記（2020年4月17日）]

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な方法と基準については、授業日初日に学習支援システムを通じて配信するシラバスで確認すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

## 西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

文1年P～X、環1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

#### 【到達目標】

・近世から現代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。  
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第3回	近世という時代2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出と植民地支配について
第4回	近世という時代3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第5回	近代の西洋1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第6回	近代の西洋2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第7回	近代の西洋3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第8回	近代の西洋4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第9回	近代の西洋5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第11回	現代の西洋2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第12回	現代の西洋3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近代現代』ミネルヴァ書房、2011年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

## 西洋史 I

2017年度以降入学者

### 大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：2単位

文1年A～N、国キ1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

#### 【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

【追記（2020年4月17日）】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示する。まずは、授業日初日（4月25日）に、シラバスとオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。必ず確認すること。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界1：ギリシア・ボリス社会の形成	ギリシア・ボリス社会の形成について
第3回	古代地中海世界2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会と生活について
第4回	古代地中海世界3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会と生活について
第7回	古代地中海世界6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ2：中世ヨーロッパにおける諸国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について

第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教の発展、十字軍運動の展開について	キリスト教世界の発展と十字軍
第12回	中世ヨーロッパ5：黒死病や戦争などの影響、国家体	危機と変容
第13回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%  
\*出席管理は厳格に行う。  
・期末試験：70%

[追記（2020年4月17日）]

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な方法と基準については、授業日初日に学習支援システムを通じて配信するシラバスで確認すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

## 西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2単位

文1年A～N、国キ1年/法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

#### 【到達目標】

・近世から現代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。  
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第3回	近世という時代2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出と植民地支配について
第4回	近世という時代3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第5回	近代の西洋1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第6回	近代の西洋2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第7回	近代の西洋3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第8回	近代の西洋4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第9回	近代の西洋5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第11回	現代の西洋2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第12回	現代の西洋3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近代現代』ミネルヴァ書房、2011年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

## 西洋史 I

2017年度以降入学者

### 大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

営1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとおしてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

#### 【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

【追記（2020年4月17日）】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示する。まずは、授業日初日（4月27日）に、シラバスとオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。必ず確認すること。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界1：ギリシア・ボリス社会の形成	ギリシア・ボリス社会の形成について
第3回	古代地中海世界2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシアの社会と生活について
第4回	古代地中海世界3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマの社会と生活について
第7回	古代地中海世界6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ2：中世ヨーロッパにおける諸国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について

第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教の発展、十字軍運動の展開について	キリスト教世界の発展と十字軍
第12回	中世ヨーロッパ5：黒死病や戦争などの影響、国家体	危機と変容
第13回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%

\*出席管理は厳格に行う。

・期末試験：70%

[追記（2020年4月17日）]

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な方法と基準については、授業日初日に学習支援システムを通じて配信するシラバスで確認すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

## 西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

営1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

#### 【到達目標】

・近世から現代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。  
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第3回	近世という時代2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出と植民地支配について
第4回	近世という時代3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第5回	近代の西洋1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第6回	近代の西洋2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第7回	近代の西洋3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第8回	近代の西洋4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第9回	近代の西洋5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第11回	現代の西洋2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第12回	現代の西洋3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近代現代』ミネルヴァ書房、2011年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

## 西洋史 I

2017年度以降入学者

### 大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

法1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化を上げてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

#### 【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

[追記（2020年4月17日）]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示する。まずは、授業日初日（4月21日）に、シラバスとオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。必ず確認すること。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界1：ギリシア・ボリス社会の形成	ギリシア・ボリス社会の形成について
第3回	古代地中海世界2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会と生活について
第4回	古代地中海世界3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会と生活について
第7回	古代地中海世界6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ2：中世ヨーロッパにおける諸国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について

第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教の発展、十字軍運動の展開について	キリスト教世界の発展と十字軍
第12回	中世ヨーロッパ5：黒死病や戦争などの影響、国家体	制と社会の変容について
第13回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第14回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%  
\*出席管理は厳格に行う。  
・期末試験：70%

[追記（2020年4月17日）]

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な方法と基準については、授業日初日に学習支援システムを通じて配信するシラバスで確認すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

## 西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

法1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

#### 【到達目標】

・近世から現代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。  
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第2回	近世という時代1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第3回	近世という時代2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出と植民地支配について
第4回	近世という時代3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第5回	近代の西洋1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第6回	近代の西洋2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第7回	近代の西洋3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第8回	近代の西洋4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第9回	近代の西洋5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第10回	現代の西洋1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第11回	現代の西洋2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第12回	現代の西洋3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第13回	現代の西洋4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第14回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

#### 【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年  
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%  
\*出席管理は厳格に行う。  
・期末試験：70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

日本史 I

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法1年A~H / 法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

#### 【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス—東アジア世界のなかの日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第3回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と8世紀の外交について
第4回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第5回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第6回	東アジア世界の文化と国風文化	10世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第7回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第8回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第9回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について

第10回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について
第11回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第12回	日明関係と室町文化の特質	15・16世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第13回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第14回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

**【参考書】**

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

**日本史Ⅱ**

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法1年 A～H / 法文営国環キ 2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

**【到達目標】**

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。

第5回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第6回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況を視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

#### 【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

HIS100LA

## 日本史 I

2017年度以降入学者

永田 一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

文1年 T~V、営1年 A~J、国1年 / 法文営国環キ 2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

#### 【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは将来の社会生活において必ず役に立つはずで

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。これによる各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんとじっくりと考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討して見ます。

- 第3回 律令国家の誕生と国際環境 古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
- 第4回 古代家族と在地首長制 通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
- 第5回 律令国家の展開と終焉 国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
- 第6回 東アジア世界の文化と国風文化 冊封体制かで中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、聴てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
- 第7回 摂関政治と王朝国家 新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
- 第8回 院政の展開と日宋貿易 摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
- 第9回 武士の誕生と鎌倉幕府 荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
- 第10回 執権政治の展開と元寇 御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
- 第11回 建武新政と室町幕府の展開 鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
- 第12回 日明関係と室町文化の特質 日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
- 第13回 戦国の動乱と関東地方 室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
- 第14回 試験・まとめと解説 まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
(予習) 事前に参考書に目を通しておくことが望ましい。  
(復習) 配布プリントを読み返し復習すること。引用史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、興味を持ったことに関して、辞典を引く、参考文献を読むなどして理解を深めることが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

小口雅史他『日本史概論』(上) (同成社)  
佐々木潤之介他『概論日本歴史』(吉川弘文館)

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

難解な論点や用語について分かりやすく解説すること、また、補足資料を充実させた理解しやすいプリントの作成を心がけます。

#### 【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

#### 【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

## 日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

永田 一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 T～V、営 1 年 A～J、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

## 【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係と、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

（予習）事前に参考書に目を通しておくことが望ましい。

（復習）配布プリントを読み返し復習すること。引用史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、興味を持ったことに関して、辞典を引く、参考文献を読むなどして理解を深めることが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）により評価する。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

## 【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

## 日本史 I

2017 年度以降入学者

永田 一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

## 【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは将来の社会生活において必ず役に立つはずで

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。これによる各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。

- 第3回 律令国家の誕生と国際環境 古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
- 第4回 古代家族と在地首長制 通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
- 第5回 律令国家の展開と終焉 国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
- 第6回 東アジア世界の文化と国風文化 冊封体制かで中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、聴てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
- 第7回 摂関政治と王朝国家 新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
- 第8回 院政の展開と日宋貿易 摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
- 第9回 武士の誕生と鎌倉幕府 荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
- 第10回 執権政治の展開と元寇 御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
- 第11回 建武新政と室町幕府の展開 鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
- 第12回 日明関係と室町文化の特質 日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
- 第13回 戦国の動乱と関東地方 室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
- 第14回 試験・まとめと解説 まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 (予習) 事前に参考書に目を通しておくことが望ましい。  
 (復習) 配布プリントを読み返し復習すること。引用史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、興味を持ったことに関して、辞典を引く、参考文献を読むなどして理解を深めることが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

小口雅史他『日本史概論』(上) (同成社)  
 佐々木潤之介他『概論日本歴史』(吉川弘文館)

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

難解な論点や用語について分かりやすく解説すること、また、補足資料を充実させた理解しやすいプリントの作成を心がけます。

#### 【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

#### 【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

## 日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

永田 一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

## 【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

（予習）事前に参考書に目を通しておくことが望ましい。

（復習）配布プリントを読み返し復習すること。引用史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、興味を持ったことに関して、辞典を引く、参考文献を読むなどして理解を深めることが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）により評価する。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

## 【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

## 日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 1～Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

## 【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

2020 年 4 月 24 日（金）に第 1 回目の授業を始めます。学習支援システムを通じて教材（レジュメなど）を配付いたしますので、そのなかに具体的な授業の進め方を書いております。しっかりと目を通してください。

なお原則、毎回の授業時間までに、レジュメなど教材を配付しますので、定期的に学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジア世界の中の日本 — 東アジアのなかの日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。

9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。
10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。
11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総合的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解度を深めるために、授業内で配付したレジュメを熟読するなどの準備学習・復習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

#### 【参考書】

随時、授業で紹介いたします。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（80％）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（20％）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I~Y / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

#### 【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確保するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本 — 世界における日本の近世・近代の時代区分に関する諸説を検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察し、国際関係のなかで鎖国の意味を読み解く。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。

9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。
10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを具体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解度を深めるために、授業内で配付したレジュメを熟読するなどの準備学習・復習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

#### 【参考書】

随時、授業で紹介いたします。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（80％）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（20％）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史 I

2017年度以降入学者

永田 一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

営1年K～U、環1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈についての意見を求めることも考えています。

#### 【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは将来の社会生活において必ず役に立つはずで

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。これによる各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。

- 第3回 律令国家の誕生と国際環境 古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
- 第4回 古代家族と在地首長制 通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
- 第5回 律令国家の展開と終焉 国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
- 第6回 東アジア世界の文化と国風文化 冊封体制かで中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、聴てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
- 第7回 摂関政治と王朝国家 新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
- 第8回 院政の展開と日宋貿易 摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
- 第9回 武士の誕生と鎌倉幕府 荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
- 第10回 執権政治の展開と元寇 御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
- 第11回 建武新政と室町幕府の展開 鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
- 第12回 日明関係と室町文化の特質 日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
- 第13回 戦国の動乱と関東地方 室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
- 第14回 試験・まとめと解説 まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
(予習) 事前に参考書に目を通しておくことが望ましい。  
(復習) 配布プリントを読み返し復習すること。引用史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、興味を持ったことに関して、辞典を引く、参考文献を読むなどして理解を深めることが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

小口雅史他『日本史概論』(上) (同成社)  
佐々木潤之介他『概論日本歴史』(吉川弘文館)

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

難解な論点や用語について分かりやすく解説すること、また、補足資料を充実させた理解しやすいプリントの作成を心がけます。

#### 【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

#### 【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

## 日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

永田 一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

## 【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係と、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

（予習）事前に参考書に目を通しておくことが望ましい。

（復習）配布プリントを読み返し復習すること。引用史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、興味を持ったことに関して、辞典を引く、参考文献を読むなどして理解を深めることが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）により評価する。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

## 【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

## 日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

国環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

## 【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス- 東アジア世界の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第3回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と8世紀の外交について
第4回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第5回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第6回	東アジア世界の文化と国風文化	10世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第7回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第8回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第9回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について

第10回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について
第11回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第12回	日明関係と室町文化の特質	15・16世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第13回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第14回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

#### 【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

## 日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

国環キ1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

#### 【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。

第5回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第6回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

#### 【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

PHL100LA

## 宗教論 I

2017年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法営国キ1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教とは何か」について歴史的観点から解き明かしてゆく。まず、人類はいつ、どのような、宗教的とみなされる活動を始めたのかを知り、次に農耕という新しい富の生産技術を手に入れた高度な文明地域において、宗教はいかに高度化したかを明らかにし、さらにそこに誕生するいわゆる世界宗教がなぜその世界性と普遍性をもちえたのかを解明する。そして、世界宗教である仏教が日本に伝播することによって、日本人の宗教観がどのように形成されていったかを知る。

#### 【到達目標】

人類史において、いつから人間は宗教的とみなされる行為をしたのかを学ぶことによって、人間性と宗教性との深い結びつきを知ることができる。次に、文明地域における宗教を学ぶことによって、社会規範（倫理）や経済と宗教との関係性を知ることができる。さらに世界宗教を学ぶことによって普遍的人間という概念の生成にそれがいかに重要な役割を果たしたかを知ることができる。最後に日本の宗教史を学ぶことによって、日本人の宗教観の根底にあるものを知ることができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教と歴史	「宗教」という概念及び「宗教学」という学問の歴史性
2	宗教の起源	宗教の発生を人類の起源に遡って考察する
3	文明の誕生と宗教	オリエント文明圏、インド文明圏、中国文明圏において起こった精神革命はどのような宗教を生み出したか
4	ユダヤ教	キリスト教、イスラームを生み出す唯一神教の誕生
5	世界宗教としてのキリスト教(1)	イエスとは何者だったのか
6	世界宗教としてのキリスト教(2)	キリスト教はいかにして世界宗教になりえたか
7	世界宗教としてのイスラーム(1)	ムハンマドとは何者だったか
8	世界宗教としてのイスラーム(2)	イスラームの発展と現代の問題
9	世界宗教としての仏教(1)	ブッダとは何者だったか
10	世界宗教としての仏教(2)	仏教の東アジアへの伝播

11	日本人と宗教	日本人の宗教観の土壌となるものはいかにして形成されたか
12	日本の民俗宗教	仏教と神道はいかに習合したか
13	まとめ	これまでの講義内容の補足説明と疑問点を解決する
14	試験	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

#### 【参考書】

- ①ユヴァル・ノア・ハラリ『サピエンス全史- 文明の構造と人類の幸福』（2016 年、河出書房新社）
- ②棚次正和・山中弘『宗教学入門』（2005 年、ミネルヴァ書房）

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

スライド資料に文字を入れすぎるとの批判もあるので、よりシンプルにします。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of various religions from the historical point of view. First, the students taking this course learn when and what kind of religious activities mankind started, and then how religion has become more sophisticated in advanced civilized areas where humans began agriculture. Furthermore, they learn why the so-called world religion born there had its globality and universality. Moreover they learn how Buddhism as a world religion spread to Japan and how the Japanese view of religion was formed.

PHL100LA

## 宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法営国キ 1 年/法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教とは何か」という問いに対して現象学的観点から解き明かしてゆく。人々の生活の中に深く浸透している宗教的な儀式、慣習、そして人々の考え方の中に少なからず影響を与えている宗教的な観念、心理などを「宗教現象」（その宗教性を意識しているいないにかかわらず）として捉え、その意味は何なのかを知る。

#### 【到達目標】

到達目標は、「宗教」は何か危険なもの、「信仰」をもつ人は何か異質な人、という多くの日本人が漠然としてもっている宗教理解の一面性を批判する力、いかなる宗教であれそれを客観的に公正に評価することができる力、さらにはその知識を自分の生き方に活かす力を身に着けることにある。したがって、成績評価の基準は日常的経験の中に潜む宗教現象の意味を的確に分析、批判できるようになったかどうかにある。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教研究の方法	「宗教学」とはどのような学問か。神学、宗教哲学との違いは何か
2	比較宗教学の方法	様々な宗教を分類・類型化する
3	宗教現象学の方法	「宗教現象」の基本的な枠組みとしての「聖と俗」、「ハレとケ」
4	聖なる言葉 (1)	「祈り」とは何か
5	聖なる言葉 (2)	「物語」とは何か
6	聖なる言葉 (3)	「神話」という物語は何を語るのか
7	宗教的世界観	我々はどこから来て、今どのような世界に生き、死後どこへ行くのか
8	聖なる行為 (1)	儀礼とは何か
9	聖なる行為 (2)	通過儀礼、イニシエーションとは何か
10	聖なる行為 (3)	祝祭とは何か
11	宗教と呪術	シャーマニズムとは何か
12	宗教と近代科学 (1)	科学革命を成しえた西欧におけるキリスト教という宗教の役割
13	宗教と近代科学 (2)	科学の時代における宗教の意義とは何か
14	授業内試験	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

- ①ファン・デル・レーウ『宗教現象学入門』（1979年、東京大学出版会）  
 ②ミルチャ・エリアーデ『聖と俗』（1994年、法政大学出版局）  
 ③ウィリアム・E・ペイドン『比較宗教学』（1995年、東京大学出版会）  
 ④佐々木宏幹『宗教人類学』（1995年、講談社学術文庫）

## 【成績評価の方法と基準】

授業内小論文試験

## 【学生の意見等からの気づき】

スライド資料に文字を入れすぎとの批判もあるので、よりシンプルにします。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the question "what is religion?" from a phenomenological point of view. The students taking this course learn the meaning of religious phenomena like rituals or customs that have deeply penetrated into people's lives, and like religious ideas or psychology that have a considerable influence on people's views of life and sense of values.

PHL100LA

## 宗教論 I

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文営環1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

## 【到達目標】

- (A) 宗教の基本を客観的に学んで、  
 (B) そのことを通じて「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。適宜リアクションペーパーの提出を求める。

追記（4月13日）：春学期の少なくとも前半は、オンラインで授業を行います。具体的な授業の進め方は学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、必ず仮登録をして、その説明を読んでから受講してください。なお本授業の開始日は4月24日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
第2回	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
第3回	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
第4回	世界の主要宗教を概観する（1）	ユダヤ教
第5回	世界の主要宗教を概観する（2）	キリスト教
第6回	世界の主要宗教を概観する（3）	イスラム教
第7回	世界の主要宗教を概観する（4）	仏教
第8回	日本の宗教観（1）	神道と仏教
第9回	日本の宗教観（2）	無宗教と現代
第10回	宗教現象の分析（1）	神とカミガミ
第11回	宗教現象の分析（2）	祈り
第12回	宗教現象の分析（3）	祭礼
第13回	宗教現象の分析（4）	現代の問題
第14回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業中に指示される参考書に目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習する。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。資料を適宜配布する。

## 【参考書】

授業で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度が40%、試験が60%。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とする。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見る。

追記（4月13日）：オンラインで授業を行う期間は、成績評価の仕方も変更します。こちらも学習支援システム（Hoppi）の「お知らせ」で説明していますので、そちらをご覧ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

**【Outline and objectives】**

We will acquire an overview on the genesis and forms of religions and deepen our understanding of existing religions.

PHL100LA

**宗教論Ⅱ**

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文営環1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

**【到達目標】**

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。適宜リアクションペーパーの提出を求める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	今学期の授業の概要の説明	宗教論とは何か
第2回	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
第3回	宗教現象の基本的な見方	聖と俗など
第4回	聖なることば（1）	祈りを中心に
第5回	聖なることば（2）	神話を中心に
第6回	宗教的世界観（3）	聖なる空間および他界について
第7回	聖なる行為（1）	儀礼とは何か
第8回	聖なる行為（2）	通過儀礼が意味するもの
第9回	聖なる行為（3）	祝祭とは何か
第10回	理性と宗教（1）	宗教・呪術・科学
第11回	理性と宗教（2）	呪術と宗教
第12回	理性と宗教（3）	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
第13回	理性と宗教（4）	近代科学革命のなかで
第14回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業中に指示される参考書に目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習する。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。資料を適宜配布する。

**【参考書】**

授業で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度が40%、試験が60%。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とする。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見る。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

## 【Outline and objectives】

We will learn about major religious phenomenona, mainly focusing on the relationship between God (or gods) and human beings. We will also consider the role religion played in the history from ancient to modern.

ART100LA

## 芸術A

2017年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文営国1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術とは何か」を学ぶ。具体的には、さまざまな芸術のイメージと概念を通じて、芸術の意味を理解していくことが目的である。

## 【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術とは何か」を問い、芸術の意味を理解することが目標である。そして具体的には、実際に映像やスライドを見ながら、芸術作品について、みなで語れるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストとしてのプリント読解とスライドを用いて、講義形式で授業を行うが、ときに、芸術作品についての議論や、リアクションペーパーなども利用しながら、授業の理解度を確認していきたい。

\*なお、春学期は4月21日より、学習支援システムにて授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの読み方、勉強方法、ダンスの映像作品鑑賞。
第2回	ダイナミック・イメージ1	ダンスと何か、舞踏作品鑑賞。
第3回	ダイナミック・イメージ2	人間感情の表現としてのダンス、映像作品鑑賞。
第4回	表現性1	形の問題、映像作品鑑賞。
第5回	表現性2	ダイナミックな形、論理的な形態、映像作品鑑賞。
第6回	表現性3	情動と感情の客観化、映像作品鑑賞。
第7回	表現性4	芸術作品のなか生命感、映像作品鑑賞。
第8回	創作1	絵画の虚像的空間、映像作品鑑賞。
第9回	創作2	虚像空間と実際空間、芸術的ヴィジョンと日常的ヴィジョン、映像作品鑑賞。
第10回	創作3	音楽と虚像空間、感じられた時間、映像作品鑑賞。
第11回	創作4	音楽と虚像的時間、映像作品鑑賞。
第12回	生きた形態1	芸術作品のダイナミズムと有機的運動の形態、映像作品鑑賞。
第13回	生きた形態2	芸術作品のリズム化と有機的構成、映像作品鑑賞。

## 第14回 期末試験 諸問題の整理.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけては、展覧会、演劇、コンサートなどに足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、自作のテキストをプリントして配布する。

## 【参考書】

S.K. ランガー 『芸術とは何か』（岩波新書）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と到達目標に関する記述試験（60％）によって総合的に評価する。

\*春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

You learn the essence of art: what is art. The objective of this class is to understand the meaning of art through the images and the terms of art.

ART100LA

## 芸術B

2017年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

文営国1年／法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術とは何か」を学ぶ。具体的にはさまざまな芸術のイメージと概念を通じて、芸術の意味を理解していくことが目的である。

## 【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術とは何か」を問い、芸術の意味を理解することが目標である。そして具体的には、実際に映像やスライドを見ながら、芸術作品について、みなで語れるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストとしてのプリント読解と、スライドを用いて、講義形式で授業を行うが、ときに、芸術作品についての議論や、リアクションペーパーなども利用しながら、学生諸君の理解度を確認していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	芸術の理解と勉強の仕方。 映像作品鑑賞。
第2回	芸術の生きた形態1	ダイナミックなものとしての生命的形態。 映像作品鑑賞。
第3回	芸術の生きた形態2	有機体とリズム。 映像作品鑑賞。
第4回	芸術の生きた形態3	虚像的空間と生きた形態。 映像作品鑑賞。
第5回	芸術の生きた形態4	比喩と生きた形態。 映像作品鑑賞。
第6回	芸術的認識1	作品の生命的意味。 映像作品鑑賞。
第7回	芸術的認識2	推論と直観的認識。 映像作品鑑賞。
第8回	芸術的認識3	自然の光と物のなかの普遍性。 映像作品鑑賞。
第9回	芸術的認識4	想像力としての認識。 映像作品鑑賞。
第10回	諸芸術の関係性	大文字AのArt。諸芸術の交叉と同化の原理。 映像作品鑑賞。
第11回	諸芸術の模倣と転換	自然の模倣と抽象化としての転換。 映像作品鑑賞。
第12回	芸術の原理	人間感情を表現する技術としての芸術。 映像作品鑑賞。
第13回	シンボルとしての芸術	感情の観念としてのシンボル形態。比喩としてのシンボル。 映像作品鑑賞。
第14回	期末試験	芸術に関する諸問題の整理。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

時間を見つけては、展覧会、演劇、コンサートに足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストとしてのプリントを配布する。

**【参考書】**

S. K. ランガー『芸術とは何か』（岩波新書）。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（40％）と到達目標に関する記述試験（60％）で総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

You learn the essence of art: what is art. The objective of this subject is to understand the meaning of art through the images and conceptions of art.

ART100LA

**芸術A**

2017年度以降入学者

**小澤 慶介**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

法環キ1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

美術の歴史だけではなく、哲学思想や社会学、文化人類学などの関連する学問領域の議論も参照し、同時代を表象する芸術について考える。それは、複雑で多様な現代の社会を捉える力を養うことでもある。

**【到達目標】**

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

学習支援システムで授業を開始するのは、5月7日（木）

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本授業において、どのようなものあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	芸術の規則	過去200年のアートの歩みを振り返り、芸術は時代とともにどのように変容してきたのかを概観する。
3	絵画の歩み	グスタフ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術家の仕事および思考について。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれがアートに与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とは何か？	彫刻の歩みについて、19世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	彫刻からインスタレーションへ	台座から解放され、ときには美術館の外に出てゆく彫刻の進化について考える。
9	映像の誕生	19世紀末フランスのリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
10	映像が変えた20世紀	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。

- 11 大正デモクラシーと太平洋戦争期の芸術 自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。
- 12 日本戦後の前衛芸術の歩み 「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本の芸術と時代の関係を考える。
- 13 授業内試験 小論文の執筆と提出
- 14 多様化する現代の芸術 絵画や彫刻、写真、インスタレーション、映像、デジタルテクノロジー、またそれらの組み合わせで成立する現代の芸術について。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

#### 【参考書】

<http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施

#### 【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

#### 【Outline and objectives】

To overview art and art history for the past approximately 200 years up to present day, by referring to philosophy, anthropology or sociology. This means to nourish ability and capability to grasp and cope with complex state of our society today.

ART100LA

## 芸術B

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係を、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などを巡って考察する。

#### 【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方と、時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代美術のあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界とともに芸術の可能性を探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代美術の作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術の世界 1	美術界の仕組みと運動について概説する。現代の芸術をめぐる人、モノ、お金の巡りとアートマーケット。
2	芸術の世界 2	新自由主義によって変容する美術館とそれに関連する現象を考察する。
3	展覧会の歴史	時代や社会を鋭い視点で描き出した伝説的な展覧会を紹介する。
4	グローバリゼーションと多文化主義	1980 年代後半以降の展覧会と表象文化における議論を紹介する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	「他者」とは誰か？ 1	植民地主義以降の文化間格差と芸術の政治性について検討する。
7	「他者」とは誰か？ 2	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11 などをとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14 (2017) について考える。
9	地域社会と芸術祭	近年、全国各地で開催されるようになっていく芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
10	アーティスト・イン・レジデンスと地域社会	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。

- |    |                |  |
|----|----------------|--|
| 11 | 自己への配慮、他者への眼差し | アートはこれからどのようなものになってゆくのかということについて、いくつかの視点を投げかける。    |
| 12 | キュレーターの職能      | 今、キュレーターは何を考えてどのように展覧会づくりに取り組んでいるのか。事例を紹介しながら解説する。 |
| 13 | 授業内試験          | 小論文の執筆と提出  |
| 14 | 2020年以降の芸術を考える | 格差社会、気候変動、資本主義の限界、少子高齢化などの課題を抱える社会と芸術のこれから。        |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

**【参考書】**

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

**【成績評価の方法と基準】**

授業内試験を実施

**【学生の意見等からの気づき】**

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

**【Outline and objectives】**

To overview contemporary art after globalization of the economy on 1990's, by touching upon topics such as international exhibitions including Venice Biennale or Documenta, art market or art museum privatization etc.

ART100LA

**芸術A**

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

文国1年/法文営国環キ 2~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

**【到達目標】**

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。

**【2020/4/17 追記】**

本授業の初回講義は2020/4/23に学習支援システムにアップロードされます。授業の進め方についても同日お知らせする予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第3回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第4回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第5回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第6回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第7回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第8回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第9回	世紀末から20世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第10回 彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。
第11回 万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第12回 ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第13回 欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第14回 まとめ	授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート1本を課します。また、授業外では、美術館やギャラリーを積極的に訪れ、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

#### 【参考書】

授業中に随時指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：60%

課題レポート：40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

歴史的な内容について、授業の進行が速かったとの意見が多かったため、該当内容について昨年度に比べてコマが1つ増えています。また、作品鑑賞の時間を多く取ることとします。

#### 【Outline and objectives】

In this class, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history after the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

ART100LA

## 芸術B

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

文国1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

#### 【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第3回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第4回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第5回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第6回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第7回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第8回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。

第9回	黎明期の日本の美術館	日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。
第10回	美術館の役割（展示・作品収集）	美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する。
第11回	美術館の役割（保存修復）	美術館の役割の1つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。
第12回	美術館の役割（調査研究・教育普及）	調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。
第13回	美術館の外の美術	パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
第14回	まとめ	授業を通しての総括を行う。また、各界で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート1本を課します。また、授業外では、美術館やギャラリーを積極的に訪れ、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

#### 【参考書】

授業中に随時指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：60%

課題レポート：40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、作品紹介・鑑賞をより増やしてほしいという意見が多かったため、取り扱う作品数を増やし、各々の解説も多くなるとしました。

#### 【Outline and objectives】

In this class, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The establishment process and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

LAW100LA

## 法学 I

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

営1年K～U、国1年/法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基礎を身につけ、日本国憲法の基本原則を理解し、法律との関連を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原則と基本構造を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式。レジュメは学習支援システムで配布する。ただし、春学期の前半はオンラインで対応することとなる。当初は、学生はテキストを入手し、学習支援システムで提示された課題にとりくみ、学習支援システムを用いたレポート課題提出（ワード使用）や理解度チェックに取り組むこととなる。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義
第2回	法とは何か	法の特徴と働き、法の学び方
第3回	法の仕組み	法源、成文法の種類
第4回	憲法1（憲法の基礎）	日本国憲法の基本
第5回	憲法2（国の統治機構1）	三権分立、国会
第6回	憲法3（国の統治機構2）	裁判所、地方自治
第7回	憲法4（人権①平等）	人権の保障の基礎、平等権を学ぶ
第8回	憲法5（人権②精神的自由権）	精神的自由権を学ぶ
第9回	憲法6（人権③経済的自由権）	経済的自由権を学ぶ
第10回	憲法7（人権④人身の自由）	人身の自由を学ぶ
第11回	憲法8（人権⑤生存権）	生存権、教育権を学ぶ
第12回	憲法9（人権⑥社会権）	勤労権、労働基本権を学ぶ

第13回 裁判の仕組みを学ぶ 裁判の意義と機能を学ぶ  
 第14回 授業内試験と解説 筆記試験の実施、解説・講評を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの該当箇所を事前の予習する。毎回の授業の後には判例百選等を用いて、扱った裁判例を復習する。授業支援システムで宿題を提出する。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

大谷實編著『エッセンシャル法学』（第7版）（成文堂、2019年）2900円＋税

**【参考書】**

授業の中で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生に授業内でビデオ視聴をしてレポートを取りまとめることを実施する。裁判傍聴を奨励する。

**【学生が準備すべき機器他】**

事前に授業支援システムで配布した資料をプリントアウトして持参すること。

**【Outline and objectives】**

It aims to acquire the foundation of law, to understand the basic principles of the Japanese Constitution, and to understand the relationship with the law.

LAW100LA

**法学Ⅱ**

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

営1年K～U、国1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

法学の基礎を身につける。民法、刑法、商法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等の基礎を理解することを目的とする。

**【到達目標】**

学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。民法、刑法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べるができることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で、パワーポイントを用いて授業を行う。レポートの提出を求めることがある。法改正動向によって授業計画が変更されることがある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	財産と法1	財産法の構造、債権法の基礎
2	財産と法2	物権、法律行為の主体
3	経済取引と法1	消費者契約法、消費者被害と法
4	経済取引と法2	企業と法、経済と法
5	家族と法1	家族法総論、夫婦と法
6	家族と法2	親子と法、相続
7	犯罪と法	刑法の機能と基本原則
8	労働と法	労働基準法、労働基本権
9	事故と法	不法行為責任、被害者救済
10	社会保障と社会福祉	社会保障法、社会福祉制度
11	医療と法	医療訴訟、生命を巡る法律問題
12	情報化社会と法	情報の保護と法、アクセス権
13	国際社会と法	国際社会と国際法
14	試験とまとめ	授業内試験の実施と解説、講評を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

夏休み中に指定テキストの第11章から20章を通読しておくこと。毎回講義前にテキストの該当する箇所を通読し、レジュメをプリントアウトして予習し、疑問点をノートに書き出しておくこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

大谷實編著『エッセンシャル法学（第7版）』成文堂、2019年、2900円＋税

**【参考書】**

講義の中で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

論述式の筆記試験の得点（80％）と、授業期間中の課題、宿題の評価（20％）とを総合して評価する。試験については、授業で取り扱う諸法のうち2つの分野から出題し、設問に対し、法律条文を解釈し、学説や判例を引用したうえで自分の意見を論理的に述べるができるかを評価基準とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内配布資料の再配付、授業内で視聴するVTRのDVDの貸し出し等はしないので毎回授業に出てくること。授業内で視聴するVTRを視聴できない場合には、関連する書籍に講読を指示する。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムで事前にレジュメを配布するので、各自、プリントアウトして持参のこと。裁判傍聴を行うことを推奨している。

**【Outline and objectives】**

It aims to acquire the foundation of civil law, criminal law, commercial law, labor law, social security law, medical law, information law, international law.

LAW100LA

**法学 I**

2017年度以降入学者

**内藤 淳**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

法1年1～N / 法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

当面の間、学習支援システムを通じた課題設定による代替措置を実施する。青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012年、1800円＋税）をテキストとし、内容上のポイントごとに学習支援システムを通じて課題を出していく（例えば1000字程度の小論文課題など）。授業の進め方、課題の詳細、成績評価の方法など、具体的な内容は学習支援システムに適宜掲載する。また、テキストを各自で入手しておくこと。

授業開始は4/21からとするが、5/11までを準備期間とするので、受講希望者はそれまでに所定の準備をすること。詳細は学習支援システムの「お知らせ」を参照。

**【注意】**以下のすべての項目のシラバス内容は、代替措置以前の通常時のものであるが、授業のコンセプトを示すために基本的にそのまま掲載しておく。通常授業が可能になった場合は適宜こちらの計画内容を反映させる。

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

**【到達目標】**

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかん解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

\*授業開始は4/21からとするが、5/11までを準備期間とするので、受講希望者はそれまでに所定の準備をすること。詳細は学習支援システムの「お知らせ」を参照。

法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

授業は基本的に講義形式で行うが、その中で問題を出して受講生に意見やコメント提出を求め、それに関する議論・論点解説を行う場合がある。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第2回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第3回	法と権利	権利義務関係
第4回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第5回	法の解釈	法解釈の意義と役割
第6回	法の分類	制定法の体系と関係
第7回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第8回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第9回	日本国憲法の基本原理 1	国民主権
第10回	日本国憲法の基本原理 2	平和主義
第11回	日本国憲法の基本原理 3- (1)	基本的人権とは
第12回	日本国憲法の基本原理 3- (2)	人権規定の構成
第13回	統治機構 1	国会と内閣
第14回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布して授業を行う。六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

## 【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 % 程度の範囲で加点・減点する予定）。

## 【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

## 法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

## 内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法 1 年 1～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

## 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

授業は基本的に講義形式で行うが、その中で問題を出して受講生に意見やコメント提出を求め、それに関する議論・論点解説を行う場合がある。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第2回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第3回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第4回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力
第5回	民法の基本原則 1- (1)	契約自由の原則
第6回	民法の基本原則 1- (2)	契約の成立と効力
第7回	民法の基本原則 2- (1)	不法行為と損害賠償

第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布して授業を行う。六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持ってくる。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

#### 【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 % 程度の範囲で加点・減点する予定）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

#### 【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《追記》当分の間、教室での授業は行わず、インターネット環境を利用した「オンライン授業」を行います。「オンライン授業」の進め方、各回の課題など、具体的な内容は、学習支援システムに毎週掲載する予定です。

以下のシラバスは、「オンライン授業」による代替措置がとられる前のものですが、この授業の基本的な方針、趣旨等が示されていますのでそのまま掲載します。参考にしてください。

以下、[原] シラバスです。

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

#### 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部：法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

《追記》当分の間、インターネット環境を利用したオンライン授業を行います。なお、本授業の開始日は、4月28日（火）とし、各回の授業時までには、オンライン授業の進め方、課題の提出などについて、学習支援システムで提示します。よくわからないことや不明な点など、気軽に質問してください。

なお、この授業全体の基本方針は、以下のとおりです。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外のさまざまな政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています（第 3 の法制改革）。今年 2020 年 4 月には、明治期の民法制定以来 120 年ぶりの大改正ともいわれる民法・債権法改正法が施行されました。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもとりあげながら、主として講義形式で授業を進めますが、受講しているみなさんとのディスカッションの時間ももうける予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	社会規範としての法—その特徴と働き

3	法と権利	権利・義務の関係とはなにか
4	紛争と裁判	変化する裁判の仕組み－裁判員制度がかかえる課題
5	法の解釈	法の解釈とはなにか－法解釈学の役割
6	法の分類	法をどう分類するか－法というものの多面的な特徴
7	国家と法	立憲主義とはなにか－「法の支配」の重要性
8	明治憲法と日本国憲法	近代日本のふたつの法体系の特質
9	日本国憲法の基本原理 1	国民主権の原理とは
10	日本国憲法の基本原理 2	平和主義の原理とは
11	日本国憲法の基本原理 3 (1)	基本的人権の保障とは
12	日本国憲法の基本原理 3 (2)	人権規定の構成－自由権と社会権の相克
13	統治機構 1	立法権と行政権のありか
14	統治機構 2	司法権の独立とは

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②下記の「参考書」欄に挙げた書物を参考に、関心ある書物などの一部または全部を読んでおくこと、が大切と思います。

また講義後の復習としては、①配布したプリントを見直すこと、②プリントに掲載されている引用部分の出典にあたってみること、③講義のなかでとりあげた文献等を実際に手にしてみること、以上 3 点が大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、現代の社会生活の基礎を支える「政治」、「経済」、「法」の 3 領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかもしませんが是非がんばってください。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します）。

#### 【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）  
「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）  
「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）  
「法学の誕生－近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）  
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）  
「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

#### 【成績評価の方法と基準】

《追記》今後、教室での授業が再開できず、期末試験も行えない場合、成績は、期末レポート（60%）、授業期間中のレポート（40%）の割合で、評価することになると思います。なお、成績評価の方法については、授業開始後、受講するみなさんの意見も聞きながら、学習支援システムを利用して、より詳細な検討を加えたく思っています。以下は、「緊急事態宣言」が発出される前の記載内容です。参考にしてください。

期末試験（80%）、授業中のレポート（20%）の割合で評価します。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるように思っています。

板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

#### 【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law (jurisprudence) for the students who study law for the first time. It covers most of the basic concepts in Japanese legal system, and provides a brief explanation of the structure and the principles of the Constituion of Japan.

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法1年Y、文1年A～I / 法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

**【到達目標】**

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外のさまざまな政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています（第3の法制改革）。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、刑法、民法、労働法、そして国際法にかかわるテーマをとりあげながら、主として講義形式で授業を進めますが、受講しているみなさんとのディスカッションの時間ももうける予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義とはなにか
3	犯罪と刑罰 2	犯罪成立の要件とは
4	権利能力と行為能力	近代市民法は個人（＝人間）をどのように把握したのか
5	契約自由の原則	契約自由の原則はなぜ大切なのか
6	契約の成立と効力	契約が成立するとどうなるかー消費者契約、雇用（労働）契約を中心に
7	不法行為と損害賠償	契約責任と不法行為責任
8	過失責任の原則	過失責任と無過失責任ー法的責任追及のあり方
9	家族関係と法 1	夫婦関係と親子関係のルール
10	家族関係と法 2	扶養と相続をめぐるルール
11	労働関係と法 1	「労働法」の理念と「市民法」の理念
12	労働関係と法 2	「労働法」の誕生とその後の変化
13	国際関係と法 1	主権と領土をめぐる対立と国家間のルール形成

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②下記の「参考書」欄に挙げた書物を参考に、関心ある書物などの一部または全部を読んでおくこと、が大切と思います。

また講義後の復習としては、①配布したプリントを見直すこと、②プリントに掲載されている引用部分の出典にあたってみること、③講義のなかでとりあげた文献等を実際に手にしてみることを、以上3点が大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、現代の社会生活の基礎を支える「政治」、「経済」、「法」の3領域全体の動向に目を配るということです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します）。

**【参考書】**

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）

「法の世界へ（第7版）」池田真朗ほか（有斐閣）

「日本の法」緒方桂子ほか（日本評論社）

「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）

「法学の誕生ー近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）

「市民社会と市民法——civilの思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（80%）、授業中のレポート（20%）の割合で評価します。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一步先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいものです。

**【Outline and objectives】**

This course provides an overview of the basic concepts of law(jurisprudence) for the students who study law for the first time. The course will give you a comprehensive introduction of the modern Japanese laws : such as Criminal Law, Civil Law, Labor Law, and International Law.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

## 権 敬 殷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 L~X、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

## 【到達目標】

- ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
- ② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
- ③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
- ④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

法学の初学者・法学を専門としない履修者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。憲法、刑法、民法などを中心にその基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念を理解する。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。授業開始日は 2020 年 4 月 22 日である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法学を学ぶにあたって	ガイダンス、法学を学ぶことの意義
第 2 回	法学における議論の特徴	①法規の構造 ②法解釈の必要性とその意味
第 3 回	法解釈の諸方法	法解釈の出発点とその技術
第 4 回	法の体系と形式	①法の分類 ②制定法のいろいろ
第 5 回	法の適用	①裁判所と各種裁判手続 ②民事裁判手続 ③刑事裁判手続
第 6 回	判決	①判例の重要性 ②判決の読み方
第 7 回	憲法の仕組み	憲法の基本原則
第 8 回	憲法と基本権 (1)	憲法と人について考える:刑法からのアプローチ
第 9 回	憲法と基本権 (2)	憲法と人について考える:民法からのアプローチ
第 10 回	法律行為 (1)	契約の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第 11 回	法律行為 (2)	契約の成立：申込みと承諾
第 12 回	法律行為 (3)	意思表示：心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫
第 13 回	まとめ	全体の内容のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。事前に配布されたレジュメや資料に目を通しておく。本授業の予習・復習に要する時間は、各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

## 【参考書】

道垣内弘人『ブレップ法学を学ぶ前に〔第 2 版〕』（弘文堂、2017 年）  
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2014 年）  
伊藤正己・加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）  
小野秀誠・良永和隆・山田創一・中川敏宏・中村肇『民法総則』（法律文化社、2018 年）  
池田真郎『スタートライン民法総論〔第 3 版〕』（日本評論社、2018 年）  
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）

## 【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0~10 % 程度の範囲で加点・減点する可能性がある）。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。  
毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties.

This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

## 権 敬殷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 L～X、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

## 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。

- ① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
- ② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
- ③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ④ 国際関係についてのルールを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

法学Ⅰと同じく、授業毎に配布するレジュメを用いて行う。人と人が法律行為、特に契約を締結することによってその当事者間に発生する権利・義務関係や、それによって人が取得する物に対する権利について概観する。

さらに、「法の支配」について国際的な観点から考える力を身につける。

授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①財産法を学ぶことの意義 ②国際的な観点から見たルールの在り方
第 2 回	人と人との約束関係について (1)	契約の成立・効力・有効性
第 3 回	人と人との約束関係について (2)	契約の解除
第 4 回	人と人との約束関係について考える (3)	契約の種類：権利移転型の契約・貸借型の契約・労務提供型の契約
第 5 回	人とその所有する物との関係について (1)	物の概念
第 6 回	人とその所有する物との関係について (2)	所有権：内容、効力
第 7 回	人とその所有する物との関係について (3)	所有権：取得
第 8 回	人とその所有する物との関係について (4)	契約による不動産所有権の変動
第 9 回	人とその所有する物との関係について (5)	契約による動産所有権の変動
第 10 回	民事ルールの構成	物権と債権の区別
第 11 回	人（個人）と国との関係について考える	国籍、外国人、難民の問題について

第 12 回 人権の国際的保障につ 人種差別、児童の権利について考える

第 13 回 まとめ 全体の内容のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。前回の授業のレジュメや資料をよく読み直しておく。本授業の予習・復習に要する時間は、各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

## 【参考書】

池田真郎『スタートライン民法総論〔第 3 版〕』（日本評論社、2018 年）  
池田真朗『スタートライン債権法〔第 6 版〕』（日本評論社、2017 年）  
内田貴『民法Ⅰ〔第 4 版〕』（東京大学出版会、2014 年）  
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）  
浅田正彦『国際法〔第 4 版〕』（東信堂、2019 年）  
大森正仁『よくわかる国際法〔第 2 版〕』（ミネルヴァ書房、2014 年）

## 【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。

毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties.

This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

石川 澄雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 E~J / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我々は「法的な社会」に生きている。このようなものとして我々に関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題に目を向け、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というものについての基本的な理解を得る。

## 【到達目標】

「法」は国家と密接不可分の関係にあるが、同時に、人々も「法」と密接に関わりながら日々を送っている。本講義では、とくに「法・国家・人間」のそれぞれの関係についての基本的な理解を得ることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本年度の春学期は授業を変則的に進めざるを得なくなり、したがって授業計画をある程度変更することとしました。

当面はオンラインでの開講とし、「学習支援システム」上に教材（レジュメ—プリント）を順次アップすることとします。受講者はそれに目を通した上で、まずはそこに示された事柄の「考え方」を学んで理解に努めてください。

本講義では、法と人間との一般的な関係および「法律問題」の数々について考えます。今日的なトピックを多く取り上げることで、法と人間、さらには法と国家との関係等をめぐる諸問題についての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指します。受講生の法意識を涵養（かんよう）すべく、できるだけ平易な講述を心がけ、その意図のもとにレジュメ（プリント）をまとめていきます（と思っています）。本授業は開始日を 4 月 24 日（金）とし、この日までに「学習支援システム（「教材」欄）にレジュメ（プリント）をアップし、あわせて授業の方法等についての提示をします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①本科目履修の意義及び受講上の注意等（ガイダンス）。 ②法（または「ルール」）とは何か。それらを設けることの意味や目的（その 1）	①履修者は当然ながら「専門外」の学生諸君であることから、高校までは学ぶことのなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意等について述べる。 ②次いで「法（または「ルール」）とは何か。…」につき講述。多かれ少なかれ人の自由を制限する法（ルール）を、なぜ人はあえて設けるのか。その意味や目的を探ることで、法（ルール）というものの「原点」に迫る。
第 2 回	法（または「ルール」）とは何か。それらを設けることの意味や目的（その 2）	前回（②）の続き。具体例を挙げながらテーマについて確認する。

第 3 回	前回に関連して「校則」について考える	第 1・2 回で確認した法その他のルールを設ける目的に照らすと、「校則」の目的が概ねその逆のものであると評することができることに鑑み、「校則」をめぐる諸問題について多面的に考える。とくに「制定者の人権意識・感覚」にも言及。
第 4 回	「いじめ」と法について	前回の校則問題は制定者（学校）の人権意識（の希薄さ）とも関係しており、その意識が「いじめ問題」と不可分の関係にあるとの問題意識からテーマについて考える。
第 5 回	法とそれ以外の「ルール」との相違を探る	社会には「狭義の法（法律）」のほか様々な「広義の法」が存在し、人の行動や関係を規律しているが、両者には何か違いがあるのか、あるとすればどのようなものか、等について考える。
第 6 回	法というものについて、「権利」に焦点を当ててその特質を考える	法と他のルールとの基本的な相違の一つが「権利義務関係」成立の有無にあると考えられることから、おもに権利を基軸として法について考察する。
第 7 回	法というものについて、「権利」に焦点を当ててその特質を考える（その 2） および、法と「道徳・慣習・習俗・文化等」との関係から法の特質を探る	前回の続き。さらに道徳・慣習・習俗・文化等も、ある時代ある社会における規範（ルール）として人々の行動や関係を規律していることから、それらを眺めるによって法の特質を探る。
第 8 回	法と「道徳・慣習・習俗・文化等」との関係から法の特質を探る（その 2）	前回の続き。
第 9 回	日本人の権利意識（法意識・訴訟意識）について（その 1）	「権利義務関係成立の前提条件」を指摘しつつ、かつそれを踏まえながら、「日本人の権利意識」について多角的にながめる。
第 10 回	日本人の権利意識（法意識・訴訟意識）について（その 2）	「日本人の権利意識」の高低について評価が区々としている状況に鑑み、その現況の一端を例示しながら、なお日本人（および日本社会）の権利・人権意識が「低い、ままであることと、その理由と」考えられることを指摘。
第 11 回	「法の支配」について	我々の社会における「法（近代法）」、さらには「憲法（近・現代憲法）」について考える場合に「法の支配」の原則を抜きにはできない。これにつき検討し、併せて「憲法の原点」を確認する。
第 12 回	「法の支配」について（その 2）	前回の続き。および「近代憲法」の成立について。
第 13 回	憲法の基本原理（「国民主権」「基本的人権」「平和主義」）について	法を語る場合には憲法を抜きにできないので、ここで改めてその基本原理につき概要を述べる。
第 14 回	憲法の基本原理について（その 2）。 および、まとめと質疑。	「基本的人権」——「人権宣言としての日本国憲法」

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各 2 時間を標準としたい。

②しばしば「何を覚えたらいいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

#### 【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

#### 【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の授業変更にもとまらず、成績評価方法と基準についても変更することとします。これについては授業開講日に「学習支援システム」上に提示することとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに声を出してほしい。「訊くはいつきの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。

#### 【その他の重要事項】

授業中の「私語」は「絶対に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。

#### 【Outline and objectives】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us.

And so many legal problems do concern each of us. In each lecture we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues.

LAW100LA

## 法学Ⅱ

2017年度以降入学者

石川 澄雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 E～J / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我われは「法的な社会」に生きている。このようなものとして我われに関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題を多く取り上げ、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを探ることで、法および「法律問題」というものについての基本的な理解を得る。加えて本講義では法学の中心でもある「法の解釈」をめぐる諸問題を取り上げる。さらに上記を踏まえて憲法の基本および「国際社会と法」についても言及する。

#### 【到達目標】

「法的社会」の基本を眺めることを通じて、最小限ないし適度の法感覚や法意識、また法的思考（リーガルマインド・バランス感覚）等を養い、さらに我々がそのような社会で生活していることの意味をも知ることで、総じて受講生の「法を見る目を養う」ことを目指す。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

受講生がおもに初学者であることから「特殊法技術的な講述、は極力避け、より多くの今日的なトピックや具体例を挙げて「法的社会」の諸相を眺めながら、「近代法」の諸原則や思想等との関連にも言及する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①本科目履修の意義及び受講上の注意点等（ガイダンス）。 ②「法律問題」とは何か	①履修者は当然ながら「専門外」の学生諸君であるから、大学まで殆ど学ぶことのない「法学」について、その履修の意義や受講上の注意等について概要を述べる。併せて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点なども述べる。  ②次いで、「たんなる法的問題」ではなく「法律問題」とは何かについて、その特質等を指摘する。「法律問題」は、大きく「民事事件」、「刑事事件」、「行政事件」の3つに分けられる。そして、それぞれに「民事法（分野の各法律）」、「刑事法（分野の各法律）」、「行政法（分野の各法律）」が対応する。本講義ではこれらの各事件・法規等についてその基本事項を中心に述べる。まずは「民事事件（民事法）」を取り上げる。「裁判規範」としての民事法。
第 2 回	「民事事件」について	

第3回 「民事事件」について (その2)	前回の続き。民事事件（民事紛争）の解決には一連の「民事法」が適用される。この民事法の特徴・特質等について眺める。「民事法は裁判規範である」ということをきちんと理解する。このことへの理解の有無が法の見方を大きく左右する。	第13回 国際社会と「国家・法および人間」	国際社会のルールとしての国際法をながめる。国際法の「法源」としての条約および国際慣習法について。「大国」と「小国」を結ぶもの。日本国憲法と条約について。
第4回 「民事事件」について (その3)	前回に関連して「任意法規」と「強行法規」について考える。これらの違いを知ることとも法の見方に大きな影響を与える。	第14回 国際社会と「国家・法および人間」(その2) ——「国際人権法」について	「弱者保護目的」の様々な人権について考える（各種の「差別禁止条約」等を例に）。
第5回 「刑事事件」について	「国家の刑罰権」について考える。「犯罪は国家によって作られる」ということ。 すなわち国家の介入なしに「犯罪」は成立しないということ。そのことの意味等を考える。		
第6回 「刑事事件」について (その2)	前回の続き。「無罪の推定」原則。「疑わしきは被告人の利益に」。「黙秘権」の意味等について。		
第7回 「刑事事件」について (その3)	前回に関連して、「起訴独占主義」についてと、それがもたらす問題点。さらに「えん罪」事件が後を絶たない現況にかんがみ、日本国憲法および他の刑事諸法規が保障する「人身の自由」（基本的人権の一）について言及。		
第8回 「刑事事件」について (その4)	前回に続いて、日本における「えん罪」の多発状況から、その発生原因・背景等を探る。		
第9回 「行政事件」について	権利関係をめぐって、公権力を行使する「国家」（「行政庁」）と、その相手方である国民との間に生ずる紛争事件。相手が「行政庁」であることから、あまり身近な事件ではないような印象を受けるかも知れないが決してそうではない。具体例を挙げながら対応する諸法規につき眺める。		
第10回 「行政事件」について (その2)	前回の続き。および「行為規範」としての行政法規について。「行政事件」と「民事事件」の関係について。「国家の私経済的作用」。国および公共団体が「不法行為責任」を問われた場合。		
第11回 「法と正義」をめぐって——「法の解釈」	現代日本の法状況を取り上げて「法と正義」をめぐらる問題考える。「改憲問題」／「死刑制度」をめぐらる論議／「人の死」をめぐって（心臓死と脳死）／「選択的夫婦別姓」問題、「男女平等」をめぐらる問題、等。 法を語るには「正義」の問題を抜きにできない。ここではとくに「法的正義」についてその特質を探ることと併せて「法解釈」との関係にも言及する。さらには法解釈の実際や解釈技術等をもながめる。		
第12回 憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理について（「国民主権」「基本的人権の尊重」「永久平和主義」）。および「憲法の基本原理」のさらに「基本原理」としての憲法第13条（個人の尊重・幸福追求権）について。		
			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ①授業後に、講述内容を思い出しながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各2時間を標準としたい。 ②しばしば「何を覚えたらいいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということで、そのための「訓練の場、として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。
			【テキスト（教科書）】 「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。
			【参考書】 上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。
			【成績評価の方法と基準】 ①定期試験のみ（100%）。レポートは課さない。 その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。 基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。 ②定期試験前に「試験についての注意」をまとめたプリントを配布するので、必ず目を通してほしい。
			【学生の意見等からの気づき】 理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに出してほしい。「訊くはいつきの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。
			【その他の重要事項】 授業中の「私語」は「絶対に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。
			【Outline and objectives】 Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us. And so many legal problems do concern each of us. In each lecture we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues, and especially in autumn semester we will also learn 'the interpretation of law' that is the center of law (or jurisprudence). And further, we will briefly refer to the principles of the Constitution and the international law.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

## 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、外出自粛が求められる中、授業がどのように行われるか、不安を感じていらっしゃると思います。

残念ながら、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

学生の皆さんの通信容量とネット環境が整うまで、映像を利用した講義は行いません。レジュメ、資料、課題を学習支援システムに UP し、それをダウンロードし学習を進め、課題を提出するという形式で授業を進めてきます。

教科書と六法は使用しますので準備をお願いいたします。

本授業の開始日は4月28日とします。なお、最初に関連情報・資料を学習支援システムで発信する日を、授業開始日としますので、学習支援システムにレジュメ・課題等が UP されるが28日となります。

今日の状況は大変厳しいものがありますが、社会政策という観点から見ると、様々な問題を提起しています。このような状況における社会政策を検討する課題も取扱うことを予定しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
2	契約をすることと生活	生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
3	契約と権利義務	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。

4	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について
5	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について
8	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10	憲法と私人	憲法は何を保障するか。憲法が保障する基本的人権について
11	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12	裁判制度	権力の一つである裁判制度を概観する
13	冤罪と司法改革	冤罪を防ぐためにどのような手法がとられているか
14	まとめ	春学期の重要な点について再度、検討を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第7版〕』（有斐閣アルマ、2017年）

## 【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

田中淳子・大野正博編『法学入門』（成文堂、2015年）

末川博編『法学入門〔第6版〕』（有斐閣双書、2009年）

松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第3版〕』（有斐閣、2014年） など

## 【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80%）、これに、授業内で行った小テスト（20%）で評価する。これらの合計を60点~69点をC、70点から79点をB、80点~89点をA、90点以上A+とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

板書は楷書でおこない、パワーポイントを利用する。

## 【Outline and objectives】

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

LAW100LA

## 法学Ⅱ

2017年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法1年S～Y / 法文営国環キ 2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっているEUの仕組みなどを通じて、国際的な法律関係についても知識を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。

これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EUなどの国際的な関係についても、労働という視点からEU指令、EU裁判所制度、EUの社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、講義形式で授業を進める。必要に応じて、ドキュメンタリー、映画などの視聴覚資料を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
3	働く場合の法律 労働時間・賃金	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金
4	働く場合の法律 休む	休憩・休息時間・休日・休暇について
5	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
6	働く場合の法律	最近の問題
7	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
8	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
10	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
11	EU諸国と働くこと	EU市民とEU加盟国はどのような関係にあるのか
12	EUの制度概略	EU指令の制度、EU加盟国の立法権、EU裁判所の制度

13	働くことと憲法	労働について憲法に定められている権利
14	働くことと憲法	労働について憲法に定められている権利

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第7版〕』（有斐閣アルマ、2017年）（改訂版が出た場合は最新のもの）

このほか今年度版の六法を用意すること。六法については初回の授業で詳しく紹介します。

## 【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）  
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第7版〕』（有斐閣アルマ、2019年）

## 【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80%）、これに、授業内で行った小テスト（20%）で評価する。これらの合計を60点～69点をC、70点から79点をB、80点～89点をA、90点以上A+とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的に法学検定の問題を解くなどして、知識の確認と定着を図ることとしたい。

## 【Outline and objectives】

Even if you work as a regular employee, even students, there are close relationships between labor and law, such as when working part-time. However, there are not many opportunities to learn about law and labor in the age of students. In this lecture, we will consider the problems of labor and law related to students. Specifically, employment offer and cancellation, premium wage for overtime work, paid vacation, occupational accidents. Next, consider important issues such as wages, working hours, relocation, and dismissal. Also consider the Constitution related to labor. It aims to deepen knowledge about international legal relations through freedom of movement of workers in the EU, regulations on labor by EU directive, and so on.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

## 権 敬殷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

## 【到達目標】

- ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
- ② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
- ③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
- ④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

法学の初学者・法学を専門としない履修者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。憲法、刑法、民法などを中心にその基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念を理解する。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。授業開始日は 2020 年 4 月 22 日である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法学を学ぶにあたって	ガイダンス、法学を学ぶことの意義
第 2 回	法学における議論の特徴	①法規の構造 ②法解釈の必要性とその意味
第 3 回	法解釈の諸方法	法解釈の出発点とその技術
第 4 回	法の体系と形式	①法の分類 ②制定法のいろいろ
第 5 回	法の適用	①裁判所と各種裁判手続 ②民事裁判手続 ③刑事裁判手続
第 6 回	判決	①判例の重要性 ②判決の読み方
第 7 回	憲法の仕組み	憲法の基本原則
第 8 回	憲法と基本権 (1)	憲法と人について考える:刑法からのアプローチ
第 9 回	憲法と基本権 (2)	憲法と人について考える:民法からのアプローチ
第 10 回	法律行為の主体	権利能力、意思能力、行為能力
第 11 回	法律行為の成立	契約の成立：申込みと承諾
第 12 回	法律行為の構成要素	意思表示：心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫
第 13 回	法律行為の代理 (1)	代理権、代理行為、代理の効果
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。前回の授業のレジュメや資料をよく読み直しておく。本授業の予習・復習に要する時間は、各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

## 【参考書】

道垣内弘人『ブレップ法学を学ぶ前に〔第 2 版〕』（弘文堂、2017 年）  
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2014 年）  
伊藤正己・加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）  
小野秀誠・良永和隆・山田創一・中川敏宏・中村肇『民法総則』（法律文化社、2018 年）  
池田真郎『スタートライン民法総論〔第 3 版〕』（日本評論社、2018 年）  
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）

## 【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0~10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。  
毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

## 法学Ⅱ

2017年度以降入学者

## 権 敬殷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

## 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。

- ① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
- ② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
- ③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ④ 国際関係についてのルールを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

法学Ⅰと同じく、授業毎に配布するレジュメを用いて行う。人と人が法律行為、特に契約を締結することによってその当事者間に発生する権利・義務関係や、それによって人が取得する物に対する権利について概観する。

さらに、「法の支配」について国際的な観点から考える力を身につける。

授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①財産法を学ぶことの意義 ②国際的な観点から見たルールの在り方
第 2 回	人と人との約束関係について (1)	契約の成立・効力・有効性
第 3 回	人と人との約束関係について (2)	契約の解除
第 4 回	人と人との約束関係について考える (3)	契約の種類：権利移転型の契約・貸借型の契約・労務提供型の契約
第 5 回	人とその所有する物との関係について (1)	物の概念
第 6 回	人とその所有する物との関係について (2)	所有権：内容、効力
第 7 回	人とその所有する物との関係について (3)	所有権：取得
第 8 回	人とその所有する物との関係について (4)	契約による不動産所有権の変動
第 9 回	人とその所有する物との関係について (5)	契約による動産所有権の変動
第 10 回	民事ルールの構成	物権と債権の区別
第 11 回	人（個人）と国との関係について考える	国籍、外国人、難民の問題について

第 12 回 人権の国際的保障につ 人種差別、児童の権利について  
いて考える

第 13 回 人の生命について考え 戦争と平和について  
る

第 14 回 まとめ 全体の内容のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。前回の授業のレジュメや資料をよく読み直しておく。本授業の予習・復習に要する時間は、各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

## 【参考書】

池田真郎『スタートライン民法総論〔第 3 版〕』（日本評論社、2018 年）  
池田真朗『スタートライン債権法〔第 6 版〕』（日本評論社、2017 年）  
内田貴『民法Ⅰ〔第 4 版〕』（東京大学出版会、2014 年）  
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）。  
浅田正彦『国際法〔第 4 版〕』（東信堂、2019 年）。  
大森正仁『よくわかる国際法〔第 2 版〕』（ミネルヴァ書房、2014 年）

## 【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

## 【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用心がける。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。

毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties.

This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法の意義や種類といった法学全体に関わる一般的・包括的な知識と、裁判の種類や裁判手続といった裁判制度に関する知識を柱とする。

## 【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかを理解する。
- ③裁判制度、裁判手続、裁判所の組織について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じて配布するプリントに基づいて、講義形式で授業を行うが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は5月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。なお、本授業では、秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法の分類	法の種類と体系
第 4 回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第 5 回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第 6 回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第 7 回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第 8 回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第 9 回	法の歴史	大陸法と英米法
第 10 回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第 11 回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第 12 回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第 13 回	法の根拠	自然法の意義、法実証主義による自然法批判
第 14 回	法の効力	法の効力の種類、法適用の原則

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間はそれぞれ2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

## 【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけではなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

## 【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the judicial system.

LAW100LA

## 法学Ⅱ

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

営1年A～D / 法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

## 【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②民法、消費者法、経済法、労働法、刑法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ③法的なものの考え方（いわゆる「リーガルマインド」）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業支援システムを通じて配布するプリントに基づいて、講義形式で授業を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進捗や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第3回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第4回	民法②：契約法	契約法の基礎的知識について学ぶ。
第5回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎的知識について学ぶ。
第6回	民法④：物権法	物権法の基礎的知識について学ぶ。
第7回	民法⑤：家族法・相続法	家族法・相続法の基礎的知識について学ぶ。
第8回	消費者法	消費者法の基礎的知識について学ぶ。
第9回	経済法	経済法の基礎的知識について学ぶ。
第10回	労働法	労働法の基礎的知識について学ぶ。
第11回	憲法	憲法の基礎的知識について学ぶ。
第12回	刑法	刑法の基礎的知識について学ぶ。
第13回	国際法	国際法の基礎知識について学ぶ。
第14回	現代法の課題	授業全体のまとめと現代法の今後の課題について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

## 【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

## 【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law.

LAW100LA

## 法学 I

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年/法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《追記》当分の間、教室での授業は行わず、インターネット環境を利用した「オンライン授業」を行います。「オンライン授業」の進め方、各回の課題など、具体的な内容は、学習支援システムに毎週掲載する予定です。

以下のシラバスは、「オンライン授業」による代替措置がとられる前のものですが、この授業の基本的な方針、趣旨等が示されていますのでそのまま掲載します。参考にしてください。

以下、[原] シラバスです。

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

## 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

《追記》当分の間、インターネット環境を利用したオンライン授業を行います。なお、本授業の開始日は、4月28日（火）とし、各回の授業時まで、オンライン授業の進め方、課題の提出などについて、学習支援システムで提示します。よくわからないことや不明な点など、気軽に質問してください。

なお、この授業全体の基本方針は、以下のとおりです。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外のさまざまな政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています（第3の法制改革）。今年 2020 年 4 月には、明治期の民法制定以来 120 年ぶりの大改正ともいわれる民法・債権法改正法が施行されました。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもとりあげながら、主として講義形式で授業を進めますが、受講しているみなさんとのディスカッションの時間ももつての予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	社会規範としての法—その特徴と働き

3	法と権利	権利・義務の関係とはなにか
4	紛争と裁判	変化する裁判の仕組み—裁判員制度がかかえる課題
5	法の解釈	法の解釈とはなにか—法解釈学の役割
6	法の分類	法をどう分類するか—法というものの多面的な特徴
7	国家と法	立憲主義とはなにか—「法の支配」の重要性
8	明治憲法と日本国憲法	近代日本のふたつの法体系の特徴
9	日本国憲法の基本原理	国民主権の原理とは
10	日本国憲法の基本原理	平和主義の原理とは
11	日本国憲法の基本原理	基本的人権の保障とは
12	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成—自由権と社会権の相克
13	統治機構 1	立法権と行政権のありか
14	統治機構 2	司法権の独立とは

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②下記の「参考書」欄にあげた書物を参考に関心ある書物などの一部または全部を読んでおくこと、が大切と思います。

また講義後の復習としては、①配布したプリントを見直すこと、②プリントに掲載されている引用部分の出典にあたってみること、③講義のなかでとりあげた文献等を実際に手にしてみることで、以上 3 点が大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、現代の社会生活の基礎を支える「政治」、「経済」、「法」の 3 領域全体の動向に目を配るということです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します）。

## 【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）

「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）

「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）

「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）

「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）

「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

## 【成績評価の方法と基準】

《追記》今後、教室での授業が再開できず、期末試験も行えない場合、成績は、期末レポート（60%）、授業期間中のレポート（40%）の割合で、評価することになります。なお、成績評価の方法については、授業開始後、受講するみなさんの意見も聞きながら、学習支援システムを利用して、より詳細な検討を加えたく思っています。以下は、「緊急事態宣言」が発出される前の記載内容です。参考してください。

期末試験（80%）、授業中のレポート（20%）の割合で評価します。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいです。

## 【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law (jurisprudence) for the students who study law for the first time. It covers most of the basic concepts in Japanese legal system, and provides a brief explanation of the structure and the principles of the Constitution of Japan.

LAW100LA

## 法学Ⅱ

2017年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

## 【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外のさまざまな政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています（第3の法制改革）。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、刑法、民法、労働法、そして国際法にかかわるテーマをとりあげながら、主として講義形式で授業を進めますが、受講しているみなさんとのディスカッションの時間ももうける予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義とはなにか
3	犯罪と刑罰 2	犯罪成立の要件とは
4	権利能力と行為能力	近代市民法は個人（＝人間）をどのように把握したのか
5	契約自由の原則	契約自由の原則はなぜ大切なのか
6	契約の成立と効力	契約が成立するとどうなるかー消費者契約、雇用（労働）契約を中心に
7	不法行為と損害賠償	契約責任と不法行為責任
8	過失責任の原則	過失責任と無過失責任ー法的責任追及のあり方
9	家族関係と法 1	夫婦関係と親子関係のルール
10	家族関係と法 2	扶養と相続をめぐるルール
11	労働関係と法 1	「労働法」の理念と「市民法」の理念
12	労働関係と法 2	「労働法」の誕生とその後の変化
13	国際関係と法 1	主権と領土をめぐる対立と国家間のルール形成

## 14 国際関係と法2 国際法と国内法の関係

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②下記の「参考書」欄にあげた書物を参考に興味ある書物などの一部または全部を読んでおくこと、が大切と思います。

また講義後の復習としては、①配布したプリントを見直すこと、②プリントに掲載されている引用部分の出典にあたってみること、③講義のなかでとりあげた文献等を実際に手にしてみることで、以上3点が大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、現代の社会生活の基礎を支える「政治」、「経済」、「法」の3領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します）。

## 【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）  
「法の世界へ（第7版）」池田真朗ほか（有斐閣）  
「日本の法」緒方桂子ほか（日本評論社）  
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）  
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）  
「市民社会と市民法——civilの思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、授業中のレポート（20%）の割合で評価します。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいものです。

## 【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law(jurisprudence) for the students who study law for the first time. The course will give you a comprehensive introduction of the modern Japanese laws : such as Criminal Law, Civil Law, Labor Law, and International Law.

LAW100LA

## 法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

## 金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と内容を概観する。

## 【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
- ③日本国憲法の構造について理解する。
- ④日本国憲法が保障する人権の内容と限界について理解する。
- ⑤日本国憲法が定める平和主義の意義と内容について理解する。
- ⑥日本国憲法が定める統治機構の内容について理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って、授業を進めていくが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点を説明する
第2回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第3回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第4回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第7回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第8回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第9回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の種類とそれぞれの特質について学ぶ。
第10回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ
第11回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第12回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法9条の解釈論について学ぶ。

第13回 統治機構①：日本国憲法 日本国憲法上の統治機構について法が定める権力分立 学ぶ。

第14回 統治機構②：行政国家 権力分立の現代的課題について学  
家・政党国家 学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

#### 【参考書】

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）  
安西文雄・巻美矢紀・戸冢常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

#### 【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

#### 【Outline and objectives】

In this class, you first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, you learn about the history and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

## 法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と内容を概観する。

#### 【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
- ③日本国憲法の構造について理解する。
- ④日本国憲法が保障する人権の内容と限界について理解する。
- ⑤日本国憲法が定める平和主義の意義と内容について理解する。
- ⑥日本国憲法が定める統治機構の内容について理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

授業システムを通じて配布するプリントに沿って、講義形式で授業を進める。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点を説明する
第2回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第3回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第4回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第7回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第8回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第9回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の類型とそれぞれの特質について学ぶ。
第10回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ
第11回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第12回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法9条の解釈論について学ぶ。
第13回	統治機構①：日本国憲法が定める権力分立	日本国憲法上の統治機構について学ぶ。
第14回	統治機構②：行政国家・政党国家	権力分立の現代的課題について学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

**【参考書】**

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）  
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記到達目標が達成できたか否かを期末試験によって判定し、成績を評価する（100%）。期末試験では基本的な問題を60点分、応用的な問題を40点分出題し、60点以上で合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

**【その他の重要事項】**

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

**【Outline and objectives】**

In this class, you first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, you learn about the history and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

**法学（日本国憲法）**

2017年度以降入学者

石川 澄雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすらすら十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

**【到達目標】**

日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

本年度の春学期は授業を変則的に進めざるを得なくなり、したがって授業計画をある程度変更することとしました。

当面はオンラインでの開講とし、「学習支援システム」上に教材（レジュメ——プリント）を順次アップすることとします。受講者はそれに目を通した上で、まずはそこに示された事柄の「考え方」を学んで理解に努めてください。

本授業は受講者が初学者であることを踏まえて、「法および憲法」に関わる今日的なトピックをより多く取り上げて理解の一助としますが、それは何より抽象的な議論や講述に陥ることを避けて、基本事項や事柄についての理解が得られるようにするためです。

本授業は開始日を4月24日（金）とし、この日までに「学習支援システム（「教材」欄）にレジュメ（プリント）をアップし、あわせて授業の方法等についての提示をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	①本科目履修の意義および受講上の注意点等（ガイダンス） ②「法と国家」との関係について（その1）	①履修者は多くが複数の学部に来たがる新入生ということから、大学まで殆ど学ぶことがなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意点等について概要をのべる。あわせて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点などにも触れる。  ②次いで、法（または、広く「法」を含む規範・ルール）とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。

2	法と国家との関係について(その2)	前回(②)に続いて、法(または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法と「それ以外のルール」(すなわち「社会規範」——道徳・慣習・習俗・宗教規範等)との相違点等を探る。
4	法と法律について。憲法第41条(「国会の地位」および「立法権」)を中心に	「狭義の法、としての「法律」について。「唯一の立法機関」としての国会(および国会の地位)について。立法と「政党」の関係(「政党政治」)についても言及する。
5	法の特質について。「権利」を中心として	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
6	法の特質について。「権利」を中心として(その2)	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
7	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」	「法の支配」とは何か。それと「立憲主義」との関係とは。それらを基軸に「近・現代憲法の原点」に及ぶ。
8	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」(その2)	「憲法の基本理念・原則(「個人の尊重」・国民主権・基本的人権の尊重・平和主義)」について。
9	国家統治の基本理念について。「国民主権」	「個人の尊重」理念(憲法第13条)から日本国憲法の諸原則を考える。 まずは国家統治の基本原則としての「国民主権」について考える。「主権」とは何か。
10	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣(組織と機能)」「司法権と裁判所(組織と機能)」に言及。
11	「権力分立」について(その2)	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣(組織と機能)」「司法権と裁判所(組織と機能)」に言及。 また「行政国家日本」についてもふれる。
12	「基本的人権」について	「人権宣言としての日本国憲法」。人権と「公共の福祉」との関係。これに関連して「権利の社会性」についても言及する。
13	「基本的人権」について(その2)	前回の続き。および「人権規定」と現実とのギャップをながめる。「思想・良心の自由」「表現の自由と知る権利」「社会権(生存権)」等について。
14	①「平和主義」について ②改めて憲法第13条(「個人の尊重・幸福追求権」)について	①「平和主義」について。憲法を特徴づける第9条の背景と趣旨、および同条をめぐる(今日的)諸問題について。 ②おわりに日本国憲法の「最重要規定」でもある第13条について約言し、まとめに代える。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト(「講義レジュメ」)や講義ノートなどで簡単に整理(おさらい)するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各2時間を標準としたい。

②しばしば「何を覚えたらよいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということで、そのための「訓練の場、として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ!」式の話はしないので留意されたい。

### 【テキスト(教科書)】

「講義レジュメ(プリント)」および適宜配布する資料を使用。

### 【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献(基本書または概説書)」を載せるが、授業中でも適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期の授業変更にともない、成績評価方法と基準についても変更することとします。これについては授業開講日に「学習支援システム」上に提示することとします。

### 【学生の意見等からの気づき】

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに声を出してほしい。「訊くはいつきの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。

### 【その他の重要事項】

授業中の「私語」は「絶対」に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害(聴講権の侵害)」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。

本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中して、「お友だち」とのおしゃべりは休み時間まで待つしてほしい。

### 【Outline and objectives】

In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. Not a few people even today don't understand the meaning of the Constitution ('Everything the government does is bound by the Constitution'). So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

石川 澄雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすらなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

## 【到達目標】

日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

受講者が初学者であることを踏まえて、「法および憲法」に関わる今日的なトピックをより多く取り上げることで抽象的な議論・講述に陥ることを避け、あくまでも基本的理解が得られるように授業を進めたい。もちろん、憲法を軸とした授業といっても、受講者が複数の学部にもまたがっていることから、「専門科目の憲法」の授業とは一味ちがう。授業となることはいうまでもない。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①本科目履修の意義および受講上の注意点等（ガイダンス） ②「法と国家」との関係について（その1）	①履修者は多くが複数の学部にもまたがる新入生ということから、大学まで殆ど学ぶことがなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意点等について概要をのべる。あわせて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点などにも触れる。 ②次いで、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
2	法と国家との関係について（その2）	前回（②）に続いて、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法と「それ以外のルール」（すなわち「社会規範」——道徳・慣習・習俗・宗教規範等）との相違点等を探る。

4	法と法律について。憲法第41条（「国会の地位」および「立法権」）を中心に	「狭義の法、としての「法律」について。「唯一の立法機関」としての国会（および国会の地位）について。立法と「政党」の関係（「政党政治」）についても言及する。
5	法の特質について。「権利」を中心として	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
6	法の特質について。「権利」を中心として（その2）	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
7	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」	「法の支配」とは何か。それと「立憲主義」との関係とは。それらを基軸に「近・現代憲法の原点」に及ぶ。
8	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」（その2）	「憲法の基本理念・原則（「個人の尊重」・「民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）について。
9	国家統治の基本原則について。「民主権」	「個人の尊重」理念（憲法第13条）から日本国憲法の諸原則を考える。まずは国家統治の基本原則としての「民主権」について考える。「主権」とは何か。
10	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。
11	「権力分立」について（その2）	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。また「行政国家日本」についてもふれる。
12	「基本的人権」について	「人権宣言としての日本国憲法」。人権と「公共の福祉」との関係。これに関連して「権利の社会性」についても言及する。
13	「基本的人権」について（その2）	前回の続き。および「人権規定」と現実とのギャップをながめる。「思想・良心の自由」「表現の自由」と知る権利」「社会権（生存権）」等について。
14	①「平和主義」について ②改めて憲法第13条（「個人の尊重・幸福追求権」）について	①「平和主義」について。憲法を特徴づける第9条の背景と趣旨、および同条をめぐる（今日的）諸問題について。 ②おわりに日本国憲法の「最重要規定」でもある第13条について約言し、まとめに代える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各2時間を標準としたい。  
②しばしば「何を覚えたらいいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に」ながめ、かつ考察するということで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

**【テキスト（教科書）】**

「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

**【参考書】**

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

①定期試験のみ（100%）。レポートは課さない。  
その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。

基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。

②定期試験前に「試験についての注意」をまとめたプリントを配布するので、必ず目を通してほしい。

**【学生の意見等からの気づき】**

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから‘ガマン’せずに声を出してほしい。「訊くはいつの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな‘無益な’ことわざなどは振り払ってほしい。

**【その他の重要事項】**

授業中の「私語」は、絶対に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。

本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中して、「お友だち」とのおしゃべりは休み時間までつつしんでほしい。

**【Outline and objectives】**

In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. Not a few people even today don't understand the meaning of the Constitution ('Everything the government does is bound by the Constitution'). So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

ECN100LA

**経済学 I**

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、第 1 回授業資料の中に提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	需要、供給、および、政府の政策（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	企業行動と産業組織	競争市場における企業、独占、寡占等（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	開放経済のマクロ経済学	貿易収支、対外純投資（教科書、マクロ編第Ⅴ部）
第 12 回	短期の経済変動①	総需要と総供給、金融政策、財政政策（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 13 回	短期の経済変動②	インフレ率と失業率（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 14 回	おわりに（実社会の経済学）	資産運用について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

**【参考書】**

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.  
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

**【その他の重要事項】**

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

**経済学Ⅱ**

2017年度以降入学者

**玉之内 直**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A～N / 法文国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

**【到達目標】**

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義の前半では、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の私的年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第V部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第V部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第V部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第V部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポーフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	株式投資と債券投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	実務の経済学④	実社会における経済学上の課題

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

## 【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

## 【成績評価の方法と基準】

受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における 2~3 回の発表と授業への貢献により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学 I との関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

## 【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

## 【その他の重要事項】

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

## 【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

## 経済学 I

2017 年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

国環キ 1 年 / 法文国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I はミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意味決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学 II はマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

## 【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

4/25 開始。Zoom によるリアルタイム講義形式。毎回、授業開始前の 10:30-40 の間に接続を完了してください。なお、ICT 環境が整わない学生に配慮し、毎回の課題（練習問題）提出と期末試験のみでも単位取得ができるようにします。課題は毎回、授業終了後に支援システムに掲載しますので、次の授業までに提出してください。また、今後の状況によっては、期末試験をレポート提出に代える可能性があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎概念、需要と供給	経済学とは、家計の需要、企業の供給
第 2 回	市場均衡	市場とは、需要曲線、供給曲線、市場均衡
第 3 回	市場均衡の変化	需要曲線のシフト、供給曲線のシフト、市場均衡の変化
第 4 回	価格弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、価格弾力性と均衡の変化
第 5 回	価格規制	上限価格規制、下限価格規制、割当て
第 6 回	租税	課税による均衡の変化、価格弾力性と税の帰着
第 7 回	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡の効率性
第 8 回	市場の失敗	独占、外部性
第 9 回	分業の利益	トレードオフと機会費用、比較優位と交易の利益、絶対優位と比較優位
第 10 回	貿易政策	内外価格差と貿易、保護貿易
第 11 回	需要と供給の方程式	直線の方程式、関数記号による記述
第 12 回	ゲーム理論①	ゲームとは、ナッシュ均衡、有名なゲーム
第 13 回	ゲーム理論②	逐次手番ゲーム、コミットメント

## 第14回 まとめ 難しかった点の復習など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、授業の流れをつかんでおく。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第2版）、東洋経済新報社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）+期末試験（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度からさらに内容を絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料を授業支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。

## 【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

## 【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

## 経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

## 西崎 文平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

国環キ1年／法文国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰはミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意味決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学Ⅱはマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

## 【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、理論モデルやその応用について説明したうえで、例題の解き方を解説します。また、最後の5-10分程度を練習問題にあてます。第2回以降は、冒頭で前回出題した練習問題の解答を説明します。図と高校レベルの数式を使った説明を基本とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学の考え方	マクロ経済学とは、マクロ経済学と政策
第2回	GDP	国民経済計算、三面等価、経済成長率
第3回	民間需要	個人消費、設備投資
第4回	GDP決定の簡単なモデル	財市場の均衡、乗数
第5回	財政政策	財政政策とは、財政政策の効果
第6回	金融①	利子率、金融政策
第7回	金融②	株式市場、銀行、金融危機
第8回	物価	物価とは、物価の統計、名目利子率と実質利子率
第9回	為替レート	為替レートの見方、購買力平価、金利平価
第10回	外需と国際収支	輸出入の決定要因、経常収支と財・サービス収支
第11回	貨幣と物価	貨幣とは、貨幣数量方程式
第12回	総需要と雇用	総需要のまとめ、失業率の変動
第13回	経済成長	GDPと生活水準、経済成長の源泉
第14回	まとめ	難しかった点の復習など

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、授業の流れをつかんでおく。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第2版）、東洋経済新報社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）+期末試験（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度からさらに内容を絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料を授業支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。

## 【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

## 【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

## 経済学 I

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立って、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

## 【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できることを目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

（追加：4月20日）Google Classroom のクラスコードは ueipdam である。

（追加：4月16日）講義開始日は4月23日とする。当面はオンライン授業を行うが、授業の進め方は学習支援システムに掲載する。授業計画は一部変更する。

（オリジナル）授業は教科書に基づき講義形式で進める。現実問題の理解を深めるために、新聞・雑誌などからも教材を選択する。講義資料はパワーポイントで作成し、学習支援システムに掲載する。リアクションペーパーを4回予定し、経済学の基礎用語の理解を確認する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「経済学」と「政治経済」の違い	高校で学んだ「政治経済」とこれから学ぶ「経済学」の違いを理解する
2	市場の取引	需要と供給により市場の取引が成立する全体像を理解する（教科書第1章、以下同じ）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論	囚人のディレンマを学ぶ（第8章）
11	経済学と経済政策	競争政策や公共財に関する政策の考え方を学ぶ（第5章、第6章、第8章）

12	経済学と社会保障	医療の経済学的分析を学ぶ（第7章）
13	経済学と東京集中	人口移動の経済学的分析を学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧めます。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

## 【参考書】

大竹文雄（2017）『競争社会の歩き方』中公新書  
坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書  
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書  
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

## 【成績評価の方法と基準】

（追加：4月16日）受講生の学習環境を踏まえて改めて学習支援システムに掲載する。  
（オリジナル）リアクションペーパー 40%（4回）、期末試験 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生に講義が理解できなかった人はいませんでした。講義内容があたりはまる事例を生活の中からも取り上げたことが理解に役立ったとの意見が多数あったので、具体例の紹介を今年度も続けます。

講義では基礎的な経済用語の習得を最優先に進めます。慣れるまでとまどうかもしれませんが、スタンダードな入門レベルをマスターするとその後の学修は加速が可能です。

## 【学生が準備すべき機器他】

（追加：4月16日）安定した通信環境で学習できることが望ましい。  
（オリジナル）学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

就職活動にあたり経済学が要件になる学生が多い場合には、授業の教材を工夫する。毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

## 【Outline and objectives】

This is a course for introductory microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social events based on the reasoning with microeconomics.

ECN100LA

## 経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法1年S～Y / 法文国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

## 【到達目標】

目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。講義資料はパワーポイントで作成し、学習支援システムに掲載する。リアクションペーパーを4回予定し、マクロ経済学の重要用語が正しく理解できるかを試す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP（国内総生産）を学ぶ（教科書第9章、以下同じ）
2	経済成長	持続的な経済成長を考える（第15章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第12章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第13章）
9	高齢社会の財政運営	社会保障改革を学ぶ（第14章）
10	財政健全化	財政赤字の原因と対処を学ぶ（第14章）
11	成長モデル	成長会計と教育の役割を学ぶ（第15章）
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方や貿易と直接投資の動向を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧めます。

#### 【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

#### 【参考書】

吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書

宮崎勇・本庄真・田谷慎三（2013）『日本経済図説』（第四版）岩波新書

一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫

#### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 40%（4回）、期末試験 60%

#### 【学生の意見等からの気づき】

マクロ経済学は日常生活ではなじみが薄い学問かもしれませんが。そのため、講義が難しかったという意見が少数ありました。他方、授業時間外に学習した学生が多く、履修してよかったとの意見が半数程度に達しました。マクロ経済学に親しめるように事例紹介を増やすなどの工夫をしますので、受講生は復習を行いながら履修してください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

#### 【その他の重要事項】

就職活動にあたり経済学が要件になる学生が多い場合には、授業の教材を工夫する。毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

#### 【Outline and objectives】

This is an introductory course for standard macroeconomics. Topics to be covered are GDP statistics, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, and goods and service trade and financial transaction. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory.

ECN100LA

## 経済学 I

2017 年度以降入学者

### 玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年、国 1 年／法文国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

#### 【到達目標】

この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理論と実践を同時に身につけられるようにする」ことにある。そして、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 25 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、第 1 回授業資料の中に提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	需要、供給、および、政府の政策（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	企業行動と産業組織	競争市場における企業、独占、寡占等（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	開放経済のマクロ経済学	貿易収支、対外純投資（教科書、マクロ編第Ⅴ部）
第 12 回	短期の経済変動①	総需要と総供給、金融政策、財政政策（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 13 回	短期の経済変動②	インフレ率と失業率（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 14 回	おわりに（実社会の経済学）	資産運用について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

**【参考書】**

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

**【成績評価の方法と基準】**

受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における2~3回の発表と授業への貢献により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

**【学生が準備すべき機器他】**

特に指定しない。

**【その他の重要事項】**

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

**経済学Ⅱ**

2017年度以降入学者

**玉之内 直**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2単位

文1年、国1年/法文国環キ2~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

**【到達目標】**

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義の前半では、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第3回	社会保障②	我が国の私的年金制度（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポーフオリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	株式投資と債券投資
第13回	実務の経済学②	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	実務の経済学④	実社会における経済学上の課題

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。

#### 【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

#### 【成績評価の方法と基準】

受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における 2~3 回の発表と授業への貢献により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。

#### 【その他の重要事項】

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

#### 【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

## マクロ経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 営 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような差を見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

#### 【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。状況を見て、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパーの提出をお願いする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済を観察する 1	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	マクロ経済を観察する 2	GDP の基本を学びます
3	マクロ経済を観察する 3	実質と名目と物価の関係を学びます
4	マクロ経済を観察する 4	物価統計と失業統計の基本的な特徴を理解します
5	マクロ経済を支える金融市場 1	金融と実体経済の関係を考察します
6	マクロ経済を支える金融市場 2	金利と金融市場の基礎を学びます
7	マネーの機能と中央銀行の役割 1	マネーとは何かを学びます

8	マネーの機能と中央銀行の役割2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マネーの機能と中央銀行の役割3	金融システムの安定化の意義を理解します
10	財政の仕組みと機能1	財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能2	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能3	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	GDPと金利の決まり方1	消費と投資の決定メカニズム、政府と中央銀行の経済政策を学びます
14	GDPと金利の決まり方2	IS-LMモデルを構築します

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣、2020年03月下旬予定の最新版を購入のこと）

#### 【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

#### 【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+aとして授業内での発言等について加点をすることがあります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

#### 【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

#### 【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

## マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

営1年A～J / 営2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

#### 【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDPやその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価とGDPの決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。状況を見て、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパーの提出をお願いする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総需要・総供給と物価の決まり方1	総需要と物価の関係を学びます
2	総需要・総供給と物価の決まり方2	総供給と物価の関係を学びます
3	総需要・総供給と物価の決まり方3	物価とGDPの決まり方を考察します
4	総需要・総供給と物価の決まり方4	経済政策の役割を考察します
5	インフレとデフレ1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
6	インフレとデフレ2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
7	為替レートの決まり方1	海外との取引の計測の仕方を学びます
8	為替レートの決まり方2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます

9	為替レートの決まり方 3	開放経済下での経済政策の効果を学びます
10	経済成長1	経済成長の意味を理解します
11	経済成長2	経済成長モデルを使った分析を行います
12	景気変動1	景気変動の要因を理解します
13	景気変動2	景気変動モデルを使った分析を行います
14	資産価格の決まり方	資産バブルの意味を学びます

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一步前」から応用まで新版』（有斐閣）

#### 【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

#### 【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+aとして授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

#### 【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

#### 【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

## マクロ経済学 I

2017年度以降入学者

伊藤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

営1年K～U / 営2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨今、新型コロナウイルスを契機とした不況の到来が取沙汰されています。しかし、世界経済はほぼ10年おきに大規模なショックに見舞われてきました。マクロ経済学は、日本や世界の経済を大づかみにするための見方の軸を提供し、皆さんが今後経営学部で企業や市場をより深く学ぶための基礎力を養うことができます。

なお、本講義の担当教員は金融実務家を兼ねているため、講義においては企業経営全般、特に企業金融・金融市場・上場企業のガバナンス・スタートアップの資本政策・企業再生等の現場についても折に触れて言及する予定であり、それが本講義の特徴でもあります。

#### 【到達目標】

企業経営というミクロの現場の意思決定においても、普段から国全体の景気動向や先行きはどうか、政府の財政政策や中央銀行の金融政策はどう影響してくるか、国際経済の動向は自社に何を示唆してくるかなど、マクロ的な経済動向が及ぼす影響は極めて大きいものがあります。また、経営者はみなそうした景気動向に注意を払っています。本講義では、マクロ経済学という物差しを用いて、国や世界といったレベルでの経済の見方の基本を身に付けることが目標です。実務からの観点では、景気変動が金融市場を通じてどのような企業の資金調達に影響するか、といった点に重点を置いて理解を目指します。

春学期（マクロ経済学 I）では、GDP やその他の主要な経済指標の基本事項について学んだ後に、政府の財政政策、中央銀行の金融政策の基礎に触れ、それらを総合したモデルの基本事項を概観します。秋学期（マクロ経済学 II）では、春学期での学習を踏まえて物価と GDP の決定、インフレとデフレ、為替レートや経済成長、資産バブル等について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義開始日は4月21日（火）です。講義形式はオンラインとなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済を観察する 1	授業計画の紹介、日本経済の諸問題の概観、マクロ経済学とミクロ経済学の違い
2	マクロ経済を観察する 2	戦後日本経済の振り返り、GDPの基本
3	マクロ経済を観察する 3	戦後世界経済の振り返り、実質と名目・物価・失業の基本
4	金融市場1（金融と実 体）	金融と実体経済との関係
5	金融市場2（会社と は）	企業の仕組み、企業と決算、税金は
6	金融市場3（企業金 融）	金利、現在価値、企業金融の基礎
7	金融市場4（企業金融 2）	企業金融の基礎（続き）
8	マネーと中央銀行1	マネーとは何か、中央銀行の政策とは

9	マネーと中央銀行 2	中央銀行の政策（続き）、金融システムの安定化
10	財政の仕組みと機能 1	財政の意義と決まり方
11	財政の仕組みと機能 2	税制の基本
12	財政の仕組みと機能 3	国債、政府債務
13	為替レートの決まり方 1	企業と国際間取引の基礎
14	期末試験、まとめ	授業の総まとめ及び期末試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習は不要ですが、復習 2 時間程度は必須です。

#### 【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の「一步前」から応用まで』（有斐閣）

#### 【参考書】

砂川伸幸『コーポレートファイナンス（第二版）』（日経文庫）  
清水・大野・松原・川崎『徹底解説 国際金融』（日本評論社）  
新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）

#### 【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。期末試験 100 % + X %（授業への参加（発言・質問等））の 2 要素で成績評価を行います。なお、授業内での発言・質問等についてはあくまで加点であり、原則としては期末試験の成績で成績評価を決めます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This course provides an introduction to macroeconomic issues of Japan and to basic macroeconomic principles. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

ECN100LA

## マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 信雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 営 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨今、新型コロナウイルスを契機とした不況の到来が取沙汰されています。しかし、世界経済はほぼ 10 年おきに大規模なショックに見舞われてきました。マクロ経済学は、日本や世界の経済を大づかみにするための見方の軸を提供し、皆さんが今後経営学部で企業や市場をより深く学ぶための基礎力を養うことができます。

なお、本講義の担当教員は金融実務家を兼ねているため、講義においては企業経営全般、特に企業金融・金融市場・上場企業のガバナンス・スタートアップの資本政策・企業再生等の現場についても折に触れて言及する予定であり、それが本講義の特徴でもあります。

#### 【到達目標】

企業経営というミクロの現場の意思決定においても、普段から国全体の景気動向や先行きはどうか、政府の財政政策や中央銀行の金融政策はどう影響してくるか、国際経済の動向は自社に何を示唆してくるかなど、マクロ的な経済動向が及ぼす影響は極めて大きいものがあります。また、経営者はみなそうした景気動向に注意を払っています。本講義では、マクロ経済学という物差しを用いて、国や世界といったレベルでの経済の見方の基本を身に付けることが目標です。実務からの観点では、景気変動が金融市場を通じてどのように企業の資金調達に影響するか、といった点に重点を置いて理解を目指します。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）では、GDP やその他の主要な経済指標の基本事項について学んだ後に、政府の財政政策、中央銀行の金融政策の基礎に触れ、それらを総合したモデルの基本事項を概観します。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）では、春学期での学習を踏まえて物価と GDP の決定、インフレとデフレ、為替レートや経済成長、資産バブル等について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	家計の消費行動
2	GDP と金利の決まり方 2	企業の投資行動
3	GDP と金利の決まり方 3	IS-LM モデル
4	総需要・総供給と物価の決まり方 1	総需要・総供給と物価
5	総需要・総供給と物価の決まり方 2	財政金融政策の効果とその限界
6	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味、原因と効果
7	インフレとデフレ 2	アベノミクスが目指したものとその到達点
8	雇用、失業、社会保障	雇用問題、社会保障の基礎
9	資産価格の決まり方	資産価格バブルについて
10	為替レートの決まり方	為替レートの決定メカニズム

- 11 為替レートの決め方 開放経済体制下での経済政策  
3
- 12 経済成長 1 経済成長の意味とモデル
- 13 経済成長 2 イノベーションの果たす役割
- 14 期末試験、まとめ 授業の総まとめ及び期末試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習は不要ですが、復習 2 時間程度は必須です。

**【テキスト（教科書）】**

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の「一步前」から応用まで』（有斐閣）

**【参考書】**

砂川伸幸『コーポレートファイナンス』（日経文庫）  
清水・大野・松原・川崎『徹底解説 国際金融』（日本評論社）  
新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）

**【成績評価の方法と基準】**

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。期末試験 100 % + X %（授業への参加（発言、質問等））の 2 要素で成績評価を行います。なお、授業内での発言・質問等についてはあくまで加点であり、原則としては期末試験の成績で成績評価を決めます。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline and objectives】**

This course provides an introduction to macroeconomic issues of Japan and to basic macroeconomic principles. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

PSY100LA

**心理学 I**

2017 年度以降入学者

佐藤 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 1～Y / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

**【到達目標】**

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論を中心にとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学Ⅱ」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身に付けてもらいたいと考えている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにならう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	パーソナリティ心理学	人間の性格について心理学がどのように理解してきたかを知り、自分自身の性格について考える。
第 4 回	無意識の心理学（フロイト①）—精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 5 回	無意識の心理学（フロイト②）—心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト③）—精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 7 回	無意識の心理学（ユング①）—無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（ユング②）—無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 9 回	心の発達	人間の心の発達について、さまざまな理論から解説する。

第10回	アイデンティティの心理学	エリクソンの心理・社会的発達論について解説する。
第11回	精神疾患と心理学	われわれの身の回りにある精神疾患について知る。
第12回	ジェンダーと心理学	人間の心理や行動に、私たちの「性」がどのように影響しているかを考える。
第13回	心理学の視点から見る映画	映画「ビューティフル・マインド」を視聴し、心の健康について考える。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行なう。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配布する。

**【参考書】**

下山晴彦（編）『よくわかる臨床心理学 [改訂新版]』（ミネルヴァ書房、2009年）

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

**【Outline and objectives】**

Through this course, students will understand human mind and behavior from the perspective of various theory of psychology, and consider the relation between our daily experience and psychological theory.

PSY100LA

**心理学Ⅱ**

2017年度以降入学者

佐藤 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年1～Y / 法文営国環キ 2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

**【到達目標】**

本講義では、「心理学Ⅰ」で取り上げたところの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学、認知行動療法をとりあげ、それぞれの理論がどこをどのように捉えているかを解説していく。また、授業の最後では心理学とセクシュアリティの関連について解説し、心理的健康における多様性の重要性について考える。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義を中心に授業を行なう。また、時折ビデオ/DVD教材を用いて日常生活の中に見られるところの問題を映像として捉えてみたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第3回	行動主義心理学と行動療法①—さまざまな学習理論について	行動主義心理学に基づくさまざまな学習理論を解説する。
第4回	行動主義心理学と行動療法②—行動療法がどのような学習理論に基づき、実際の、どのように行われるのか	行動療法がどのような学習理論に基づき、実際、どのように行われているのかを解説する。
第5回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①—基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第6回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②—ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第7回	人間性心理学と心理療法①—来談者中心療法の基本的な考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的な考え方を解説する。
第8回	人間性心理学と心理療法②—来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。

第9回	認知行動療法①—認知行動療法の考え方	認知行動療法の基本的な考え方について解説する。
第10回	認知行動療法②—認知行動療法の実際	認知行動療法がカウンセリング場面でどのように用いられているのかを解説する。
第11回	『グロリアと3人のセラピスト』から理解するカウンセリング	ゲシュタルト療法・来談者中心療法・認知行動療法についてビデオ教材を視聴し、その共通点や違いについて考える。
第12回	セクシュアリティと心理学①—セクシュアリティに関する基本的知識	セクシュアリティに関する基本的な知識や、心理学研究における知見などを紹介する。
第13回	セクシュアリティと心理学②—セクシュアリティに関する基本的知識	セクシュアル・マイノリティ当事者の体験について学び、われわれの生活における多様性について考える。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行なう。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配布する。

#### 【参考書】

下山晴彦（編）『よくわかる臨床心理学 [改訂新版]』（ミネルヴァ書房、2009年）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

#### 【Outline and objectives】

Through this course, students will understand human mind and behavior from the perspective of various theory of psychology, and consider the relation between our daily experience and psychological theory.

PSY100LA

## 心理学 I

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法1年A～H、国1年/法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

#### 【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第13回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。

2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。  
 3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』  
 櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）  
 有斐閣アルマ、2014年  
 2,100円＋税

## 【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男著 誠信書房  
 『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

自分が小学生のとくと、今の小学生を取り巻く環境が変化してきていることを改めて考える良い機会になった。  
 パワーポイントを使用すること、教科書の重要箇所を確認していくことが学生の理解を深めることに役立った。

## 【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

## 心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 単位数：2単位  
 法1年A～H、国1年/法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてる。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

## 【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義中心であるが、テーマに基づく資料についてリアクションペーパーの提出を毎回求める。授業内容に即したDVDの視聴を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングのDVD視聴
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。
  - ・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つ。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』 櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

## 【参考書】

授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自分について振り返ることができた。自分自身が今まで集団社会のなかでどのように生きてきたか、改めて考える良い機会になったという学生が多かった。これから子どもと関わっていくうえで、授業が役に立つと感じたようである。

## 【その他の重要事項】

心理学 I を履修していることが望ましい。

## 【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

PSY100LA

## 心理学 I

2017 年度以降入学者

小島 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

## 【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学 II を連続履修することを期待します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

【2020 年 4 月 15 日時点】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業のガイダンスは 4 月 21 日までに学習支援システムの教材フォルダにパワーポイントで作成したファイルをアップデートするので、まずはそのパワーポイントのファイルが視聴可能かを確認してください。4 月 21 日にはガイダンスファイルと 1 回目授業のファイル、4 月 28 日に 2 回目授業ファイルをアップデートし、受講生が視聴可能かを確認した上で、本格的な授業開始日は 5 月 12 日～とする予定です。当面の間は火曜日に授業ファイルを学習支援システムにアップデートする形でオンデマンド型の講義を展開します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス：授業計画、授業のねらいなどの説明
2	科学的心理学の歩み	心理学における人間観、「心の理論」は人間をどう捉えるか
3	見えの不思議（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
4	見えの不思議（2）	注意・バイアス、社会的知覚
5	学習の不思議	条件づけ、強化と消去、般化と分化、モデリング・社会的学習
6	記憶の不思議	短期記憶と長期記憶、感覚記憶、記憶と忘却
7	思考の不思議	思考と問題解決、創造的思考
8	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ
9	内発的動機づけと外的報酬	言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
10	無気力	学習性無力感、達成目標と無気力
11	発達	遺伝も環境も影響、発達段階、生涯発達
12	性役割の獲得／青年の心理的特徴	性同一性・性役割、アイデンティティ
13	エイジング	成人期、高齢期

## 14 まとめ これまでの授業内容を振り返る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。不定期に、授業内小テストを実施します（例、授業内容に関連すると考える身の回りの出来事を説明する、など）。実施前週に予告をしますが、受講学生は小テストに備えた準備を授業時間外に行う必要があります。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布します。

## 【参考書】

この授業で配布する授業プリントでは、榎本博明・古澤照幸編著『心理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであればこの書籍の購入を推奨します。

→【2020年4月15日時点】出版社の都合で上記書籍の購入は不可能になったので、参考書は学習支援システムにて随時、紹介することとします。

## 【成績評価の方法と基準】

不定期に授業内小テスト（簡単な論述試験）を実施します。この小テストおよび毎回のリアクションペーパーの記述内容（RP点）と、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。小テスト・RP点の配分が30%、期末試験の配分が70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

→【2020年4月15日時点】オンライン授業の期間は授業内小テストの実施は困難なため、毎回の授業の「最後のファイル」に課題（小レポート）を出します。これを小テストおよびRP点の代わりとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生からは概ね好評を得たととらえています。昨年度の授業ではリアクションペーパーに記載された内容に対する補足説明の時間をほとんど取ることができなかつたので、今年度は見直しをしたいと思います。配付プリント（A4サイズ両面印刷、1～2回の授業に1枚を配布するペースで配付を予定）とは別に授業で表示するパワーポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよう、画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

## 【学生が準備すべき機器他】

配布プリントをPDFファイルに変換し、学習支援システムに掲載します。プリントが配布された週に欠席した学生は、自分で学習支援システムにアクセスし、PDFファイルをダウンロードして利用してください。その他、連絡事項や授業で参加協力を求めた調査のフィードバック等を学習支援システムを使って行うことがあります。→【2020年4月15日時点】授業プリントのPDFファイルに加え、オンライン授業の期間は授業ファイルをパワーポイントのスライドショー形式で学習支援システムに掲載しています。2020年4月21日と4月28日の確認期間にパワーポイントのスライドショーが視聴できない学生が存在した場合には、スライドショーを動画に変換したものを動画サイト（例、YouTubeなど）に転載することも考慮します。ただ、動画に変換すると1ファイルが30MB近くの容量になる（スライドショー形式なら4MB程度）ことを覚悟してください。

## 【その他の重要事項】

アクティブラーニングを完全に行うことは受講学生数を考えると困難ですが、可能な限り一方向性のみではない授業を行うため、不定期に心理学の調査への参加協力を求める場合があります。積極的な参加協力を期待します。

## 【Outline and objectives】

In principle, this class will advance in a lecture style. I will ask for reaction paper on the contents of the class as appropriate, and will also provide feedback on it.

PSY100LA

## 心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

小島 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

国1年、環1年/法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

## 【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

受講学生が一定人数を超えることが予想されるため、講義を基本とします。パワーポイントを使い講義内容をスライド表示させますが、スライドは講師の話を書くための視覚的補足資料であるため、スライドを書き写すことではなく、話を聞き、理解することに集中してほしいです。出席カードのコメント欄に授業内容に関するリアクションの記述を求める時もあります。講義内容に関する質問等も出席カードのコメント欄に記してください。翌週以降の授業で回答するように努めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
2	自分を良く知りたい	自己概念
3	パーソナリティの理解	類型論、特性論、状況論・相互作用論
4	人間関係	親・家族との関係
5	友達・仲間との関係	友達・仲間関係の発達
6	社会性	向社会的行動とは何か、向社会的行動の発達
7	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
8	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
9	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
10	心の問題にどう向き合うか（1）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観（精神分析学、行動療法など）
11	心の問題にどう向き合うか（2）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観（ゲシュタルト療法、来談者中心療法など）
12	不登校・いじめ	なぜ不登校、いじめは起こるのか
13	心理的ウェルビーイングを考える	精神的に健康で、充実した人生を生きるために
14	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
不定期に、授業内小テストを実施します（例、授業内容に関連する  
と考える身の回りの出来事を説明する、など）。実施前週に予告を  
しますが、受講学生は小テストに備えた準備を授業時間外に行う必要  
があります。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布  
します。

**【参考書】**

この授業で配布する授業プリントでは、榎本博明・古澤照幸編著『心  
理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであ  
ればこの書籍の購入を推奨します。

**【成績評価の方法と基準】**

不定期に授業内小テスト（簡単な論述試験）を実施します。この小  
テストおよび毎回のリアクションペーパーの記述内容（RP 点）と、  
期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。小テスト・  
RP 点の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、  
受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講学生からは概ね好評を得たととらえています。昨年度の授業で  
はリアクションペーパーに記載された内容に対する補足説明の時間  
をほとんど取ることができなかつたので、今年度は見直しをしたい  
と思います。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1  
枚を配布するペースで配付を予定）とは別に授業で表示するパワー  
ポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという  
要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよ  
う、画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

**【学生が準備すべき機器他】**

配布プリントを PDF ファイルに変換し、授業支援システムに掲載  
します。プリントが配布された週に欠席した学生は、自分で授業支  
援システムにアクセスし、PDF ファイルをダウンロードして利用  
してください。その他、連絡事項や授業で参加協力を求めた調査の  
フィードバック等を授業支援システムを使って行うことがあります。

**【その他の重要事項】**

アクティブラーニングを完全に行うことは受講学生数を考えると困  
難ですが、可能な限り一方向性のみではない授業を行うため、不定  
期に心理学の調査への参加協力を求める場合があります。積極的な  
参加協力を期待します。

**【Outline and objectives】**

In principle, this class will advance in a lecture style. I will ask  
for reaction paper on the contents of the class as appropriate,  
and will also provide feedback on it.

PSY100LA

**心理学 I**

2017 年度以降入学者

**海部 紀行**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多岐にわたる心理学のなかでも、すぐに役立つ実用性や効率性がな  
さそうなアカデミックな領域を概観します。

計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、  
パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を  
学びます。

※参考：心理学 II では、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社  
会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

**【到達目標】**

心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。

ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけ  
ていきます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国  
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学  
部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィ  
ードバックも行います。

おもしろい and/or たのしいかどうか、ほかの参加者のコメントか  
ら広がる話題も含め、受け身でいたら退屈するだけかもしれません。

**【補足・改定】**

当面、講義が不可能なので、各自が指定テキストを読み進めてい  
くことを踏まえた「進め方と方法」になる見込みです。

4 月 22 日（水）を「学習支援システム」での開始日とし、改めて告  
知します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
	実質「休講」	同左
	実質「休講」	同左
1	ガイダンス／「心」は 目に見えない…	講義の特徴／計量心理学〔テキ スト序章①〕
2	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
3	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
4	何を・どのように見て いる？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
5	「心」は見えないが行 動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
6	刺激-反応-結果で説明 できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
7	ヒトの「心」の特徴 は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
8	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
9	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
10	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
11	それぞれの人にそれぞ れの心	パーソナリティ心理学〔テキ スト第 5 章①〕
12	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキ スト第 5 章②〕

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

「準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。」〔文部科学省基準のデフォルト〕

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。

ともあれ、「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

**【テキスト（教科書）】**

『ゼロからはじめる心理学・入門—人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

【補足・改定】

大学生協書籍部で通信販売を実施します。以下を参照のこと。

[https://www.univcoop.jp/hosei/order/order\\_82.html](https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_82.html)

**【参考書】**

とくに指定しません。

**【成績評価の方法と基準】**

試験点（100%）：定期試験期間に実施する試験（短答記述式：持ち込み・参照すべて不可）では、どのように心理学を把握し、ヒト（心）について、どれほどの切り口から捉えているか、（設問に関する詳細な事前説明なしに）各自が確認することを課題とします。

当日配付の試験用紙に6つほどの文章を示します。各々に設けられた3~4か所の空欄に適切な語句を記入し、それぞれの文章を完成させる形式です。講義に参加し、あるいは少なくともテキスト（教科書）を精読していれば、解答は容易です。

短答記述の1語句あたり5点（0点~5点）、計20語句で100点（0点~100点）といった採点基準となる見込みです。

【補足・改定】

上記の「方法と基準」は困難ですから、日常普通の取り組みを基本とすることになる見込みです。

「学習支援システム」での開始日である4月22日（水）に改めて告知します。

**【学生の意見等からの気づき】**

「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックで、考えさせられたり学んだりすることが多かった」

「テキストにないリアルな心理学（？）に触れることもあり、たのしく参加できた」

「自分の気持ちと向き合う時間だった。なるほどなあ~と思うことばかりだった」

**【その他の重要事項】**

(1) 心理学Ⅰ（春学期）と心理学Ⅱ（秋学期）は連動します。続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ（秋学期）は、ガイダンスなしで、いきなり講義を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&Aタイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各6時限に設ける見込みです。同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、[kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp](mailto:kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp)へ。

**【Outline and objectives】**

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

\* Note : Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

**心理学Ⅱ**

2017年度以降入学者

**海部 紀行**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

文1年P~X / 法文営国環キ2~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多岐にわたる心理学のなかでも、すぐに役立つ実用性や効率性がなさそうなアカデミックな領域を概観します。

認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

**【到達目標】**

心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。

ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

おもしろい and/or たのしいかどうか、ほかの参加者のコメントから広がる話題も含め、受け身でいたら退屈するだけかもしれません。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる？	認知心理学〔テキスト第6章①〕
2	記憶はどこにある？	認知心理学〔テキスト第6章②〕
3	ヒトは白紙で生まれてくる？	発達心理学〔テキスト第7章①〕
4	発達にとって何が重要？	発達心理学〔テキスト第7章②〕
5	表情から感情がわかる？	感情心理学〔テキスト第8章①〕
6	感情の役割って？	感情心理学〔テキスト第8章②〕
7	いい人？ 悪い人？	社会心理学〔テキスト第9章①〕
8	文化が違っても見るものは同じ？	社会心理学〔テキスト第9章②〕
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学〔テキスト第10章①〕
10	ストレスへの対処	臨床心理学〔テキスト第10章②〕
11	発達の「障害」とは？	発達の偏りと多様性：臨床心理学〔テキスト第11章①〕
12	種類と多様性	発達の偏りと多様性：臨床心理学〔テキスト第11章②〕
13	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第12章①〕
14	「支援」とは何か	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第12章②〕

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

「準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。」〔文部科学省基準のデフォルト〕

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。

ともあれ、「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

**【テキスト（教科書）】**

『ゼロからはじめる心理学・入門—人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

**【参考書】**

とくに指定しません。

**【成績評価の方法と基準】**

試験点（100 %）：定期試験期間に実施する試験（短答記述式：持ち込み・参照すべて不可）では、どのように心理学を把握し、ヒト（心）について、どれほどの切り口から捉えているか、（設問に関する詳細な事前説明なしに）各自が確認することを課題とします。当日配付の試験用紙に 6 つほどの文章を示します。各々に設けられた 3～4 か所の空欄に適切な語句を記入し、それぞれの文章を完成させる形式です。講義に参加し、あるいは少なくともテキスト（教科書）を精読していれば、解答は容易です。

短答記述の 1 語句あたり 5 点（0 点～5 点）、計 20 語句で 100 点（0 点～100 点）といった採点基準となる見込みです。

**【学生の意見等からの気づき】**

「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックで、考えさせられたり学んだりすることが多かった」

「テキストにないリアルな心理学（？）に触れることもあり、たのしく参加できた」

「自分の気持ちと向き合う時間だった。なるほどなあ～と思うことばかりだった」

**【その他の重要事項】**

(1) 心理学Ⅰ（春学期）と心理学Ⅱ（秋学期）は連動します。続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ（秋学期）は、ガイダンスなしで、いきなり講義を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 時限に設ける見込みです。同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、[kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp](mailto:kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp) へ。

**【Outline and objectives】**

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

\* Note : Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

**心理学Ⅰ**

2017 年度以降入学者

**海部 紀行**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 E～N / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多岐にわたる心理学のなかでも、すぐに役立つ実用性や効率性がなさそうなアカデミックな領域を概観します。

計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

**【到達目標】**

心理学とはどのようなものを理解することが目標です。

ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

おもしろい and/or たのしいかどうか、ほかの参加者のコメントから広がる話題も含め、受け身でいたら退席するだけかもしれません。

**【補足・改定】**

当面、講義が不可能なので、各自が指定テキストを読み進めていくことを踏まえた「進め方と方法」になる見込みです。

4 月 23 日（木）を「学習支援システム」での開始日とし、改めて告知します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
	実質「休講」	同左
	実質「休講」	同左
1	ガイダンス／「心」は目に見えない…	講義の特徴／計量心理学〔テキスト序章①〕
2	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
3	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
4	何を・どのように見ている？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
5	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
6	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
7	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
8	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
9	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
10	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
11	それぞれの人にそれぞれの心	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
12	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

「準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。」〔文部科学省基準のデフォルト〕

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。

ともあれ、「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

**【テキスト（教科書）】**

『ゼロからはじめる心理学・入門—人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

【補足・改定】

大学生協書籍部で通信販売を実施します。以下を参照のこと。

[https://www.univcoop.jp/hosei/order/order\\_82.html](https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_82.html)

**【参考書】**

とくに指定しません。

**【成績評価の方法と基準】**

試験点（100%）：定期試験期間に実施する試験（短答記述式：持ち込み・参照すべて不可）では、どのように心理学を把握し、ヒト（心）について、どれほどの切り口から捉えているか、（設問に関する詳細な事前説明なしに）各自が確認することを課題とします。

当日配付の試験用紙に6つほどの文章を示します。各々に設けられた3~4か所の空欄に適切な語句を記入し、それぞれの文章を完成させる形式です。講義に参加し、あるいは少なくともテキスト（教科書）を精読していれば、解答は容易です。

短答記述の1語句あたり5点（0点~5点）、計20語句で100点（0点~100点）といった採点基準となる見込みです。

【補足・改定】

上記の「方法と基準」は困難ですから、日常普段の取り組みを基本とすることになる見込みです。

「学習支援システム」での開始日である4月23日（木）に改めて告知します。

【補足・改定】

上記の「方法と基準」は困難ですから、日常普段の取り組みを基本とすることになる見込みです。

「学習支援システム」での開始日である4月23日（木）に改めて告知します。

**【学生の意見等からの気づき】**

「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックで、考えさせられたり学んだりすることが多かった」

「テキストにないリアルな心理学(?)に触れることもあり、たのしく参加できた」

「自分の気持ちと向き合う時間だった。なるほどなあ~と思うことばかりだった」

**【その他の重要事項】**

(1) 心理学Ⅰ（春学期）と心理学Ⅱ（秋学期）は連動します。続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ（秋学期）は、ガイダンスなしで、いきなり講義を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&Aタイム? なんでもお喋りタイム?）は原則として水曜・木曜の各6時限に設ける見込みです。同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、[kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp](mailto:kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp)へ。

**【Outline and objectives】**

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

\* Note : Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

**心理学Ⅱ**

2017年度以降入学者

**海部 紀行**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

文1年E~N / 法文営国環キ2~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多岐にわたる心理学のなかでも、すぐに役立つ実用性や効率性がなさそうなアカデミックな領域を概観します。

認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

**【到達目標】**

心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。

ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

おもしろい and/or たのしいかどうか、ほかの参加者のコメントから広がる話題も含め、受け身でいたら退屈するだけかもしれません。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる?	認知心理学〔テキスト第6章①〕
2	記憶はどこにある?	認知心理学〔テキスト第6章②〕
3	ヒトは白紙で生まれてくる?	発達心理学〔テキスト第7章①〕
4	発達にとって何が重要?	発達心理学〔テキスト第7章②〕
5	表情から感情がわかる?	感情心理学〔テキスト第8章①〕
6	感情の役割って?	感情心理学〔テキスト第8章②〕
7	いい人? 悪い人?	社会心理学〔テキスト第9章①〕
8	文化が違って見るとのは同じ?	社会心理学〔テキスト第9章②〕
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学〔テキスト第10章①〕
10	ストレスへの対処	臨床心理学〔テキスト第10章②〕
11	発達の「障害」とは?	発達の偏りと多様性：臨床心理学〔テキスト第11章①〕
12	種類と多様性	発達の偏りと多様性：臨床心理学〔テキスト第11章②〕
13	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第12章①〕
14	「支援」とは何か	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第12章②〕

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

「準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。」〔文部科学省基準のデフォルト〕

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。

ともあれ、「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

**【テキスト（教科書）】**

『ゼロからはじめる心理学・入門—人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

**【参考書】**

とくに指定しません。

**【成績評価の方法と基準】**

試験点（100 %）：定期試験期間に実施する試験（短答記述式：持ち込み・参照すべて不可）では、どのように心理学を把握し、ヒト（心）について、どれほどの切り口から捉えているか、（設問に関する詳細な事前説明なしに）各自が確認することを課題とします。当日配付の試験用紙に 6 つほどの文章を示します。各々に設けられた 3～4 か所の空欄に適切な語句を記入し、それぞれの文章を完成させる形式です。講義に参加し、あるいは少なくともテキスト（教科書）を精読していれば、解答は容易です。

短答記述の 1 語句あたり 5 点（0 点～5 点）、計 20 語句で 100 点（0 点～100 点）といった採点基準となる見込みです。

**【学生の意見等からの気づき】**

「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックで、考えさせられたり学んだりすることが多かった」

「テキストにないリアルな心理学（？）に触れることもあり、たのしく参加できた」

「自分の気持ちと向き合う時間だった。なるほどなあ～と思うことばかりだった」

**【その他の重要事項】**

(1) 心理学Ⅰ（春学期）と心理学Ⅱ（秋学期）は連動します。続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ（秋学期）は、ガイダンスなしで、いきなり講義を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 時限に設ける見込みです。同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、[kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp](mailto:kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp) へ。

**【Outline and objectives】**

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

\* Note : Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

**心理学Ⅰ**

2017 年度以降入学者

小島 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行っていきます。

**【到達目標】**

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

【2020 年 4 月 15 日時点】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業のガイダンスは 4 月 21 日までに学習支援システムの教材フォルダにパワーポイントで作成したファイルをアップロードするので、まずはそのパワーポイントのファイルが視聴可能かを確認してください。4 月 21 日にはガイダンスファイルと 1 回目授業のファイル、4 月 28 日に 2 回目授業ファイルをアップデートし、受講生が視聴可能かを確認した上で、本格的な授業開始日は 5 月 12 日～とする予定です。当面の間は火曜日に授業ファイルを学生支援システムにアップデートする形でオンデマンド型の講義を展開します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス：授業計画、授業のねらいなどの説明
2	科学的心理学の歩み	心理学における人間観、「心の理論」は人間をどう捉えるか
3	見えの不思議（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
4	見えの不思議（2）	注意・バイアス、社会的知覚
5	学習の不思議	条件づけ、強化と消去、般化と分化、モデリング・社会的学習
6	記憶の不思議	短期記憶と長期記憶、感覚記憶、記憶と忘却
7	思考の不思議	思考と問題解決、創造的思考
8	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ
9	内発的動機づけと外的報酬	言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
10	無気力	学習性無力感、達成目標と無気力
11	発達	遺伝も環境も影響、発達段階、生涯発達
12	性役割の獲得／青年の心理的特徴	性同一性・性役割、アイデンティティ
13	エイジング	成人期、高齢期

## 14 まとめ これまでの授業内容を振り返る

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
不定期に、授業内小テストを実施します（例、授業内容に関連すると考える身の回りの出来事を説明する、など）。実施前週に予告をしますが、受講学生は小テストに備えた準備を授業時間外に行う必要があります。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布します。

## 【参考書】

この授業で配布する授業プリントでは、榎本博明・古澤照幸編著『心理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであればこの書籍の購入を推奨します。

→【2020年4月15日時点】出版社の都合で上記書籍の購入は不可能になったので、参考書は学習支援システムにて随時、紹介することとします。

## 【成績評価の方法と基準】

不定期に授業内小テスト（簡単な論述試験）を実施します。この小テストおよび毎回のリアクションペーパーの記述内容（RP 点）と、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。小テスト・RP 点の配分が 30%、期末試験の配分が 70% を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

→【2020年4月15日時点】オンライン授業の期間は授業内小テストの実施は困難なため、毎回の授業の「最後のファイル」に課題（小レポート）を出します。これを小テストおよび RP 点の代わりとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講学生からは概ね好評を得たととらえています。昨年度の授業ではリアクションペーパーに記載された内容に対する補足説明の時間をほとんど取ることができなかつたので、今年度は見直しをしたいと思います。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1 枚を配布するペースで配付を予定）とは別に授業で表示するパワーポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよう、画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

## 【学生が準備すべき機器他】

配布プリントを PDF ファイルに変換し、学習支援システムに掲載します。プリントが配布された週に欠席した学生は、自分で学習支援システムにアクセスし、PDF ファイルをダウンロードして利用してください。その他、連絡事項や授業で参加協力を求めた調査のフィードバック等を学習支援システムを使って行うことがあります。  
→【2020年4月15日時点】授業プリントの PDF ファイルに加え、オンライン授業の期間は授業ファイルをパワーポイントのスライドショー形式で学習支援システムに掲載しています。2020年4月21日と4月28日の確認期間にパワーポイントのスライドショーが視聴できない学生が存在した場合には、スライドショーを動画に変換したものを動画サイト（例、YouTube など）に転載することも考慮します。ただ、動画に変換すると 1 ファイルが 30MB 近くの容量になる（スライドショー形式なら 4MB 程度）ことを覚悟してください。

## 【その他の重要事項】

アクティブラーニングを完全に行うことは受講学生数を考えると困難ですが、可能な限り一方向性のみではない授業を行うため、不定期に心理学の調査への参加協力を求める場合があります。積極的な参加協力を期待します。

## 【Outline and objectives】

In principle, this class will advance in a lecture style. I will ask for reaction paper on the contents of the class as appropriate, and will also provide feedback on it.

PSY100LA

## 心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

小島 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

## 【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

受講学生が一定人数を超えることが予想されるため、講義を基本とします。パワーポイントを使い講義内容をスライド表示させますが、スライドは講師の話を書くための視覚的補足資料であるため、スライドを書き写すことではなく、話を聞き、理解することに集中してほしいです。出席カードのコメント欄に授業内容に関するリアクションの記述を求める時もあります。講義内容に関する質問等も出席カードのコメント欄に記してください。翌週以降の授業で回答するように努めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
2	自分を良く知りたい	自己概念
3	パーソナリティの理解	類型論、特性論、状況論・相互作用論
4	人間関係	親・家族との関係
5	友達・仲間との関係	友達・仲間関係の発達
6	社会性	向社会的行動とは何か、向社会的行動の発達
7	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
8	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
9	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
10	心の問題にどう向き合うか（1）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観（精神分析学、行動療法など）
11	心の問題にどう向き合うか（2）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観（ゲシュタルト療法、来談者中心療法など）
12	不登校・いじめ	なぜ不登校、いじめは起こるのか
13	心理的ウェルビーイングを考える	精神的に健康で、充実した人生を生きるために
14	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
不定期に、授業内小テストを実施します（例、授業内容に関連する  
と考える身の回りの出来事を説明する、など）。実施前週に予告をし  
ますが、受講学生は小テストに備えた準備を授業時間外に行う必要  
があります。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布  
します。

**【参考書】**

この授業で配布する授業プリントでは、榎本博明・古澤照幸編著『心  
理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであ  
ればこの書籍の購入を推奨します。

**【成績評価の方法と基準】**

不定期に授業内小テスト（簡単な論述試験）を実施します。この小  
テストおよび毎回のリアクションペーパーの記述内容（RP 点）と、  
期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。小テスト・  
RP 点の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、  
受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講学生からは概ね好評を得たととらえています。昨年度の授業で  
はリアクションペーパーに記載された内容に対する補足説明の時間  
をほとんど取ることができなかつたので、今年度は見直しをしたい  
と思います。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1  
枚を配布するペースで配付を予定）とは別に授業で表示するパワー  
ポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという  
要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよ  
う、画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

**【学生が準備すべき機器他】**

配布プリントを PDF ファイルに変換し、授業支援システムに掲載  
します。プリントが配布された週に欠席した学生は、自分で授業支  
援システムにアクセスし、PDF ファイルをダウンロードして利用  
してください。その他、連絡事項や授業で参加協力を求めた調査の  
フィードバック等を授業支援システムを使って行うことがあります。

**【その他の重要事項】**

アクティブラーニングを完全に行うことは受講学生数を考えると困  
難ですが、可能な限り一方向性のみではない授業を行うため、不定  
期に心理学の調査への参加協力を求める場合があります。積極的な  
参加協力を期待します。

**【Outline and objectives】**

In principle, this class will advance in a lecture style. I will ask  
for reaction paper on the contents of the class as appropriate,  
and will also provide feedback on it.

PSY100LA

**心理学 I**

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

※この内容は改訂前のものです。オンライン授業実施に伴う新たな  
シラバスについては、学習支援システムを通してお知らせします。

\*\*\*\*\*

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探  
究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのよ  
うに推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さ  
えながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方  
法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にど  
のように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平  
和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考  
察していきます。

**【到達目標】**

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」、「心が折  
れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？ ま  
た、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？ これらの問い  
に答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心  
の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身に付  
けることを本授業の主眼とします。さらには、「心理学 II」を連続履  
修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考  
力や想像力の素地となってくれることを期待します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国  
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学  
部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

オンライン授業となります。学習支援システムと Google Classroom  
を併用し、Zoom による双方向型授業を取り入れます。各回の授業  
計画については、学生各々のオンラインでの学習環境に配慮し、授  
業の進捗状況を見計らいながら、柔軟に対応していきます（下記の  
授業計画は改訂前のものです）。

5 月 12 日（火曜）に、授業のオリエンテーションを行います。当  
日までにオンライン授業を受講する環境が整わない場合、授業終了  
後に Google Classroom に録画ファイルをアップしますので、そち  
らを視聴するか、授業外の時間で質疑応答のためのオフィスアワー  
（オンライン）を設けますので、後日、そちらに参加して説明を受け  
てください。

その他の詳細についてはオリエンテーションでお伝えします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における人文・社会・自然 科学的人間観
第 3 回	「知る」の不思議 (1)	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の不思議 (2)	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の不思議	学習過程と条件づけ：強化と消 去、般化と分化、モデリング・社 会的学習
第 6 回	「憶える」の不思議	認知過程と記憶：長期記憶と短期 記憶、感覚記憶、天才的記憶、記 憶錯誤

第7回 「考える」の不思議	高次認知過程と思考：思考と問題解決、創造的思考
第8回 「やる気」の不思議(1)	動機づけのメカニズム、誘因動機づけと報酬、食の動機づけ
第9回 「やる気」の不思議(2)	学習性無力感(学習性楽観)、心理学的レジリエンス
第10回 「感じる」の不思議	「二人の自分」と主観的経験、ポジティブ感情とネガティブ感情、身体的反応と感情
第11回 「成長する」の不思議	生得論と経験論、発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第12回 「進化する」の不思議 〔「心理学Ⅱ」イントロ〕	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤、人類の進化と遺伝子
第13回 期末試験	レポート(小論文)形式、オープンブック
第14回 「心理学Ⅰ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』(日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎)  
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料をGoogle Classroomにアップします。

#### 【参考書】

特に指定しません。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40%、中間レポート 40%、期末レポートに関係するアクティビティ 20%

それぞれの詳細についてはオリエンテーションでお伝えします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

※ The descriptions above are from the original syllabus. A revised syllabus for the online class will be noticed via the university student portal (Hoppii).

\*\*\*\*\*

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day problems (which will be examined in Psychology II).

PSY100LA

## 心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

営1年K~U / 法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

人間の条件について、心理学という学問が20世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

#### 【到達目標】

「心理学Ⅰ」で取り上げた、心に関する基礎的知識をより発展させる形で、「人間には心があるから厄介なのか、それとも心があるから素晴らしいのか?」という問いをめぐり、関連性の高い心理学領域で扱われている主題とコンテキストに絞り学習します。前世紀から持ち越されたこの問いへの応答として、本授業の終了時には、自分なりの建設的な行動指針にたどり着けることを目指します。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を進めていきますが、インタラクティブな授業となります。講義にはスライドを使用し、スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。また、映像資料も織り交ぜながら、心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関連のある質問紙(いわゆる「心理テスト」)。成績評価の対象にはならないテストです)を実施するほか、リアクションペーパー(こちらは成績評価の対象です)を提出してもらいます。リアクションペーパーに対しては授業内でフィードバックも行います。授業計画にある内容はすべて押さえますが、各回の授業ペースは一応の目安と捉えていただき、進捗状況に応じて柔軟に対応しながら進めていきます。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第2回	私は誰?(ここは法政大学)	社会の中の自己、様々な自己概念、シリアスな自己紹介<社会心理学>
第3回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか?	類型論、特性論、状況論・相互作用論、心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観<パーソナリティ心理学>
第4回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、サイコパシーとソシオパシー<臨床心理学(異常心理学)>
第5回	子どもと青少年における社会性	幽霊のメタファー、社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ<臨床心理学(異常心理学)>

第6回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」(第2回授業)の発表・評価・提出
第7回	人間的欲求としての戦争(「社会性」再考)	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性<社会心理学・平和心理学>
第8回	狂気か、それとも悪か?	暴力性の本質、道徳的排他性、モラル・サークル<臨床心理学(異常心理学)・社会心理学・平和心理学・道徳心理学>
第9回	人間性を(再)定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動<道徳心理学・平和心理学・ポジティブ心理学>
第10回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、強みと美德、興味関心と才能、価値観<パーソナリティ心理学・ポジティブ心理学>
第11回	なぜあの人は私よりも幸せなのか?	幸福感と個人差、人生満足度、心理的ウェルビーイング<ポジティブ心理学>
第12回	「俺か、俺以外か。」を科学する	ポジティブな主観的経験、愛と社会的つながり、「ポジティブティの高い生き方」事例<ポジティブ心理学>
第13回	期末試験	レポート(小論文)形式、オープンブック
第14回	「心理学II」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷(ユートピア)は可能か?

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』(クリストファー・ピーターソン著、春秋社)  
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

#### 【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、中間レポート 30%、リアクションペーパー 20%  
中間レポートは、第2回授業(「シリアスな自己紹介」)の内容に基づく出題となりますが、第6回目授業内でグループ発表と評価も行ってもらいます(当日提出となります)。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート(小論文)形式となります。

※暗記ではなく理解を確認しますので、試験当日はオープンブック(補助資料等持ち込み可)とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day problems (which will be examined in Psychology II).

PSY100LA

## 心理学 I

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

文1年A~B、キ1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

心理学のなかでも児童(子ども)の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

#### 【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもたちの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第13回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。

2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。  
 3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』  
 櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）  
 有斐閣アルマ、2014年  
 2,100円＋税

## 【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男著 誠信書房  
 『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

自分が小学生のとくと、今の小学生を取り巻く環境が変化してきていることを改めて考える良い機会になった。  
 パワーポイントを使用すること、教科書の重要箇所を確認していくことが学生の理解を深めることに役立った。

## 【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

## 心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4  
 単位数：2単位  
 文1年A～B、キ1年/法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてる。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

## 【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義中心であるが、テーマに基づく資料についてリアクションペーパーの提出を毎回求める。授業内容に即したDVDの視聴を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングのDVD視聴
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。
  - ・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つ。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』 櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

**【参考書】**

授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

学生自身が自分について振り返ることができた。自分自身が今まで集団社会のなかでどのように生きてきたか、改めて考える良い機会になったという学生が多かった。これから子どもと関わっていくうえで、授業が役に立つと感じたようである。

**【その他の重要事項】**

心理学 I を履修していることが望ましい。

**【Outline and objectives】**

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

GEO100LA

**地理学 I**

2017 年度以降入学者

高木 正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

**【到達目標】**

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。学習支援システムでの授業開始は、5月11日からとします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へー地理学の学問的性格
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	日本における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	宗教からみる世界の多様性
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	現代世界の政治状況
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	観光と地域経済
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントを持参してください。プリントは予備がないので、跡で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を用途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績要素の配分は、試験 80 %、平常点 20 %とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

## 【Outline and objectives】

Main subjects:Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

## 地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

## 【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントで行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図の一般的説明とその観方
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料の紹介とその活用
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	新聞記事の紹介とその利用方法
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映像資料の紹介とその活用
第 7 回	現代世界の諸地域 (1)	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域 (2)	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域 (3)	人口
第 10 回	現代世界の諸地域 (4)	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域 (5)	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域 (6)	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業で配布したプリントを持参してください。プリントの予備はないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を別途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

滑舌をよくします。

**【Outline and objectives】**

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

**地理学 I**

2017 年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

今回、PANDEMIC から、しばらくは WEB 授業となること、地理学 LC/LD のための基礎ということから、身近な東京、都市、PANDEMIC などに関連させ、いくつかのテーマで地理学を学びます。まずはシラバスのファイルを開けてみてください。なお、classroom、ZOOM などに関しては、すぐには始めません。

各回のテーマも変更や順番をかえる可能性がありますので、支援システムのお知らせなどを常に確認してください。すでに支援システムには最初の教材を載せています。

従来の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

**【到達目標】**

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。さらに重要なことは、学問にふれながら、どんな時代でも、どんな危機の時でも、自らの意思で行動し、自ら考える能力を成長させていくことだと思います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

オンラインでの開講での各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどで連絡します。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、学習支援システム教材などを参考にしてください。いきなり、映画・ドラマを見ようでびっくりするかもしれません。しばらくはこの科目では双方向は、限界（システムや人数など）があると思いますので行いませんが、長引けば可能な場合も出てくるので、お知らせを見てください。

高校時代に地理を学習していない受講生や留学生でも参加しやすいように、AL やフィールドワークの基礎を映像から試みます（添付ファイルなどを参照）、大学での地理学の基礎を身近なことから考えていきますので、高校の地理の暗記科目というイメージと違い、基礎的なリベラルアーツの入り口と位置付けています。各テーマにかかわるトピックやテーマの内容等を映像等も含めて紹介、考えていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	地理学への招待状 アンテナをはろう
4/22		
第 2 回	地理学が扱う諸問題	地域という考え方 映像とフィールドワーク 映画やドラマをみよう
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 東京・TOKYO・今いる地域

第4回	身近な事象を通して地理学を考える(2)	メディアにおける地理学的考え方のプラタモリの世界
第5回	現代世界における生態・環境(1)	世界における生態・環境 ー海外旅行はいつが一番お得かを地理学でー
第6回	現代世界における生態・環境(2)	日本における生態・環境 なぜ、最近暑い
第7回	現代の人びとの生活・文化	餃子で考える、環境・文化・食文化と環境決定論の世界
第8回	現代社会の経済・社会・政治	グローバルゼーション ・・PANDEMIC・・
第9回	現代社会の情報・通信・観光	ビックデータ？ GIS RESAS AI
第10回	日本社会における諸問題(1)	地理学的な考え方を学ぶには？ Google Mapで東北へ
第11回	日本社会における諸問題(2)	日本の諸地域を事例として 東京だけが・・
第12回	グローバル社会における諸問題(1)	地理学的な考え方を学ぶには？ あなたの服はどこで作られた
第13回	グローバル社会における諸問題(2)	世界の諸地域を事例として 共生と分断の今
第14階	まとめ	まとめと解説

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特になし。

### 【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内および授業支援システムなどで紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日(4月22日)に学習支援システムで提示しますが、原則的には、複数レポートによる評価の可能性が有ります。なお、従来は以下でした。持ち込み可の授業内試験(60%)、レポート・平常点(40%)で評価いたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

映像資料(写真やDVD、映画など)は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。また、ALなどの関係でグループワークで授業を行うときもありますが、知り合いがいなくとも心配はまったくありません。むしろ、知り合いが増え、ネットワークが広がるという意見がありました。なんでも前向きに考えてみましょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組、新聞などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。また、支援システム等で資料などを提示する機会が多いですので、慣れるようにしてください。

### 【その他の重要事項】

暗記科目からの脱却などから、春学期で問題意識や論理的思考からの学問への一歩ととらえ基礎的なリベラルアーツと位置付けています。これは教職や公務員志望の人も同様で論理的にどう考えるか、応用できるかで学びがかわると思います。秋学期のIIはグローバルな地誌的な見方での応用が中心ですから、できるだけ通年でなくとも、I、IIを合わせて履修してみてください。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。なお、担当者の地理学LC、LDの発展編とは異なる予定です。このためI、IIの授業内容の詳細に関しては4月(9月)に授業内で説明します。

### 【Outline and objectives】

In high school geography, it seems that the focus was "to memorize" various events around the world and Japan. However, in university geography, from the geographical keywords such as space, area, landscape and place, we deeply understand the various events of the modern world and learn the importance of what students themselves think logically.

GEO100LA

## 地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

営1年A~J/法文営国環キ2~4年

### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

今回、PANDEMICから春学期は当分WEB授業となります。最初に地理学LC/LD、I・IIすべてのシラバスのファイルを開けてください。各回のテーマも変更や順番をかえる可能性がありますので、支援システムのお知らせなどを常に確認してください。すでに支援システムには最初の教材を載せています。

さて、今後教室再開後、再び変更もあるかと思いますが、秋学期の地理学Ⅱでは世界とビックデータという2つの柱などを関連させていくつかのテーマを学びます。本当のグローバル世界を知らないままに日本はある気がします。少子高齢化のなかで、それは、今回の出来事で明らかになったかもしれません。インバウンド中心にした企業は頑張れるでしょうか。各国の対応にも地域差や国の特色が出ました。秋学期は世界を知ろうが柱にもなります。

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

### 【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。パンデミック後の世界各地や日本などについても自ら考え、多様な考え方を尊重することも同様に目標としたいと思います。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で担当者の研究の関係等から日本、アジア、欧米を中心に扱います。秋学期がどうなっているかはわかりませんが、教室でやる場合は、一方的な講義ではなく、できるかぎり学生とともに、GDを進める方向性で行いたいと思います。このため、現在の以下のテーマ内容から変化することもあるかもしれませんので、このシラバスの添付ファイルや支援システムに注意してください。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは? ~地理学への招待
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは?	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	海外の地下鉄マップやGISなどから考える
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	GISやビックデータなど統計資料の紹介と分析を学ぶ
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	フェイクニュース、クールジャパン、カルチャー
第6回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画を分析してみよう
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家をアメリカから考える
第8回	現代世界の諸地域	アジアの自然・資源・産業

第9回	現代世界の諸地域	アジアの成長市場
第10回	現代世界の諸地域	世界と日本の都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの生活文化
第12回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。

#### 【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春の現時点では、原則的には、授業内試験（60％）レポートおよびリアクションシートなど（40％）で評価。これらについては、秋の最初の授業時などで説明します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。また、グルーピングで授業を行うときもありますが、知り合いがいなくとも心配はまったくありません。むしろ、たくさんの知り合いが増え、ネットワークが広がるという意見が多かったため今期も前向きに考えてみてください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するの、慣れてほしい。

#### 【その他の重要事項】

日本や世界の各地域の状況を理解するために、地理学Ⅰ同様に、様々な映像資料を使います。基礎的なリベラルアーツと位置付けですが、Ⅱではグローバルな地誌的な見方での応用を予定しており、できるだけ通年でなくともⅠ、Ⅱを合わせて履修してみてください。なお、担当者の地理学LC、LDの内容とは異なる予定ですので、Ⅰ同様にⅡの授業内容の詳細に関しては4月（9月）に授業内で説明します。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。不安な人は先輩などこれまでの受講生に聞いてみるのも良いかもしれません。

#### 【Outline and objectives】

We will compare various regions of the world and Japan based on various materials and learn that there are various regions and people in modern society. Besides, in the society in which globalization is prosperous, we will cultivate the students themselves to think about the importance of coexistence of diverse people.

GEO100LA

## 地理学Ⅰ

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

文1年A～N、キ1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

#### 【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシア・ヨーロッパの集落景観、民族と国家、観光などを中心に扱います。各テーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明 ～集落景観と地理学
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方 ～法政大学周辺を地理学的に考える
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ～プラタモリにみる地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境～ロシア・ヨーロッパの地形・気候・土壌・植生
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境～日本の地形・気候・土壌・植生
第7回	現代の人びとの生活・文化	ロシア・モスクワの都市生活・文化
第8回	現代社会の経済・社会・政治	ロシア・カフカス地方における紛争
第9回	現代社会の情報・通信・観光	ヨーロッパにおける世界遺産と歴史的景観保存
第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ ～日本の観光地理の現在
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として～現代日本におけるインバウンド観光と地域のあり方～京都・大阪
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ ～ロシア・ヨーロッパにおける地域共同体の現在

- 第13回 グローバル社会における諸問題（2） 世界の諸地域を事例として～ロシア・ヨーロッパの民族と国家の関係
- 第14回 まとめ 試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内試験100%で評価いたします。

**【学生の意見等からの気づき】**

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。

**【Outline and objectives】**

This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

GEO100LA

**地理学Ⅱ**

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

文1年A～N、キ1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

**【到達目標】**

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、担当者の専門の関係から、主に日本・ロシアの地誌を扱います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？～地誌＝地域像・世界像の構築
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明～日本とロシアの地誌とは？
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料をもとに、ロシアと日本の現状を把握する
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日露関係をめぐるニュースや記事を取り上げる
第6回	映像資料から世界・日本について考える	北方領土問題に関するNHKスペシャルを見る
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家～ロシアと日本
第8回	現代世界の諸地域	日本とロシアの資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	日本とロシアの人口問題
第10回	現代世界の諸地域	日本とロシアの都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	日本とロシアの生活文化
第12回	現代世界の諸地域	日本とロシアの民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために～日露関係の未来とは？
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内試験 100%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

**【Outline and objectives】**

This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

GEO100LA

**地理学 I**

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目ではとくに「海」を取り上げて、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに「人間社会と海の関係性」を考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

**【到達目標】**

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。今日深刻化している海水温・海水面の上昇やマイクロプラスチックの問題をはじめ、海をめぐる様々な問題の多くは陸域の人間社会のあり様が深く関わって生起している現象です。全 14 回により、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

学習支援システムでの授業の開始日は 4 月 22 日（水）です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？

第13回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として  
する諸問題（2）

第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

### 【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述）による評価（100%）とし、その際、各回における「日頃の学び」が反映されているかを大切な評価基準といたします。質問やコメントなど、積極的な姿勢を評価いたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

### 【Outline and objectives】

High school geography focuses on memorizing various phenomena in the world and Japan. However, in university geography, we learn the importance of understanding and logically thinking about various phenomena in the modern world from geographic keywords such as space, region, landscape, and place. This course aims to study the "relationship between human society and the sea" based on various materials including maps, charts, statistics, videos, and photographs, and finally to understand the island living space.

GEO100LA

## 地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P～X、国1年／法文営国環キ2～4年

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「海」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きるこの島嶼（とうしょ）生活空間についてさらに理解を深めていくことを目的とします。

### 【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映され生起している現象です。したがって陸の視点も組み入れて諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼システムを見据えながら「人間社会と海の関係性」をさらに考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	瀬戸内海の開発とその問題
第4回	映像資料から世界・日本について考える	里海再生の取り組み
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と人々の暮らし
第6回	統計資料をもとに世界・日本について考える	海洋産業の現状と課題
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために

## 第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

## 【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述）による評価（100%）とし、その際、各回における「日頃の学び」が反映されているかを大切な評価基準といたします。質問やコメントなど、積極的な姿勢を評価いたします。

## 【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

## 【Outline and objectives】

We will consider the importance of coexistence of diverse regions and people in globalization based on various materials including maps, statistics, newspapers, videos, and photographs. The purpose of this course is to examine the "relationship between human society and the sea", and finally to understand the island living space.

GEO100LA

## 地理学 I

2017年度以降入学者

## 前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

営1年K~U / 法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

## 【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で顕在化してきています。全14回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

学習支援システムでの授業の開始日は4月22日（水）です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第8回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第9回	現代のんびりと生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として

- 第12回 グローバル社会における地理学的な考え方を学ぶには？  
諸問題（1）
- 第13回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として  
諸問題（2）
- 第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

#### 【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述）による評価（100%）とし、その際、各回における「日頃の学び」が反映されているかを大切な評価基準といたします。質問やコメントなど、積極的な姿勢を評価いたします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

#### 【Outline and objectives】

High school geography focuses on memorizing various phenomena in the world and Japan. However, in university geography, we learn the importance of understanding and logically thinking about various phenomena in the modern world from geographic keywords such as space, region, landscape, and place. The aim of this course is to understand the living space of islands based on many materials including maps, charts, statistics, videos and photographs.

GEO100LA

## 地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

営1年K～U / 法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的な性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

#### 【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全14回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的な性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようにすることを目指します。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第4回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰
第5回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後の島嶼政策の展開とその問題
第6回	映像資料から世界・日本について考える	島嶼コミュニティの力
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。毎回プリント教材を配布します。

**【参考書】**

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（論述）による評価（100%）とし、その際、各回における「日頃の学び」が反映されているかを大切な評価基準といたします。質問やコメントなど、積極的な姿勢を評価いたします。

**【学生の意見等からの気づき】**

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

**【Outline and objectives】**

We will consider the importance of coexisting with diverse regions and people in globalization based on various materials including maps, statistics, newspapers, videos, and photographs. This course examines the general nature and the diversity of islands, and finally to understand the island living space.

SOC100LA

**社会学 I**

2017年度以降入学者

**菅野 摂子**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A～N / 法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

**【到達目標】**

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	導入	「社会学」とはどのような学問か
第2回	自己と他者の社会学	相互行為と自己
第3回	行為と集団	行為の種類、群衆・公衆・大衆
第4回	公共空間と親密空間	電車の中の社会学
第5回	多様化する家族	誰を家族とするか
第6回	生殖という問題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理
第7回	家族の中の人生	現代の家族をめぐる諸問題
第8回	セクシュアリティとジェンダー	性現象の見方、フェミニズム
第9回	職業労働と家事労働	ワーク・ライフ・バランス、男性学
第10回	社会福祉と社会保障	福祉国家・貧困・福祉政策
第11回	健康と医療	医療社会学の基本概念
第12回	医療と自己決定	「病いの語り」を解釈する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

配布するレジюмеに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジюмеの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が作成した印刷物（レジюме）を授業にて配布する。

## 【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007年）、松田健『テキスト現代社会学【第3版】』ミネルヴァ書房（2003年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017年）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

## 【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

## 社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

## 菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A～N / 法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

## 【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

主として講義形式。講義内容に即したテーマで意見交換の機会もある。リアクションペーパーは毎回提出する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働の意味	就労をめぐる諸問題
第2回	消費社会を生きる	ポストフォーダイズムと超越性
第3回	地域社会	コミュニティの形成と都市社会学
第4回	国家とグローバリゼーション	グローバル化、ネ이션、ナショナリズム
第5回	エスニシティ	エスニシティとは何か、同化主義、多文化主義
第6回	宗教と社会	社会学にける宗教研究、グローバル化と宗教対立
第7回	犯罪と逸脱	「犯罪とは何か」という問い
第8回	教育と社会	現近代における教育、教育格差
第9回	社会秩序と権力	秩序維持のメカニズム、フリーライダー問題
第10回	社会運動と社会構想	市民活動と政治変革
第11回	マスコミュニケーション	マスコミの効果・影響
第12回	ジャーナリズム	ニュースのつくられ方
第13回	メディア	公共性、メディア論の視点
第14回	総括	「個人と社会」再考

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）を授業にて配布する。

## 【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007年）、松田健『テキスト現代社会学[第3版]』ミネルヴァ書房（2003年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017年）

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%、平常点 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたりアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

## 【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

## 社会学 I

2017年度以降入学者

## 山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

## 【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を、歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」という視点を、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※この授業は、5月8日（金）に、授業支援システム上で開始します。初回は、いずれもオンラインでの、説明、デジタル資料の配付、および課題の提示をおこなう予定です。案内等は、授業支援システムを使った登録者への一斉メール（大学メールアドレス宛）でおこないますので、履修者はできれば今月中には授業支援システムへの仮登録を済ませておいて下さい。

『ポスト戦後社会』をテキストとする。社会学Iでは、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第1、2章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方等について
第2回	社会変動	社会変動の概念について学習する。
第3回	「スペクタクルの社会」	新左翼運動の終末を「スペクタクルの社会」という視点から考察する。
第4回	社会運動（1）定義と原理	社会運動の定義、原理について学習した上で、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第5回	社会運動（2）新しい社会運動	「新しい社会運動」について、対抗文化の概念と合わせて学習する。
第6回	社会運動（3）「市民」運動	新しい社会運動の具体的事例として、1960～70年代の「市民」運動について考察する。
第7回	社会運動（4）女性解放運動	新しい社会運動の具体的事例として、1970年代の女性解放運動を事例に考察するとともに、ジェンダーの概念について学習する。
第8回	情報化社会	「情報化社会」をメディアの観点から考察する。
第9回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察をおこなう。
第10回	消費社会（1）流通革命	買物スタイルの変容と流通革命について学習する。
第11回	消費社会（2）消費・メディア・都市空間	都市のメディア化と消費社会の関係について考察する。

第12回	消費社会（3）「情報化・消費化社会」における自己	「情報化・消費化社会」の視点と、それが対象化する社会における自己について考察する。
第13回	都市空間をメディア論の視点から読む	都市空間をメディア論の視点から考察する視点を応用するべく、大学周辺で小規模なフィールド調査をおこなう（ただし、天候等により変更になる場合がある）
第14回	政治社会学	政治現象を社会変化と結びつけて考察する視点を学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題、質問に取り組むための前提として、次の授業で取り上げられる部分の資料をあらかじめ読んで、理解した事柄を整理しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

## 【参考書】

- ・NHKアーカイブス「NHK名作選」>ニュース  
(<http://www.nhk.or.jp/archives/search/genre/>)
  - ・ニッポン戦後サブカルチャー史  
(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)
- その他、授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験70%、平常点30%（積極的な発言、質問、課題等への取り組み）  
\*授業内で複数回、課題・小テストを実施する。成績評価の対象となる「試験」とは、原則としてそれらの課題・小テストを指す。  
なお、オンライン授業については、授業支援システム上で出される課題・小テストの提出状況とその内容、100%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が発言しやすい環境づくりを心がける。

## 【その他の重要事項】

- ・テキストを各種の方法で入手し、毎回持参すること（テキストの入手方法に関しては、初回授業で説明する）。
- ・受講者には発言など積極的な授業参加を求める一方で、私語は厳禁とする。

## 【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

## 社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

営1年K~U / 法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

## 【到達目標】

- ① ジェンダー構造とその変化について、統計データを使って説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、個人情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

『ポスト戦後社会』をテキストとする。社会学Ⅱでは、家族の意識・ジェンダー構造・住まいや地域開発をテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方等について
第2回	家族（1）ジェンダー構造	日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	家族（2）住まい	郊外の拡大とマイホーム
第4回	「リアリティ」の変化	現在のスマートフォンにつながるパーソナルメディアの普及を「リアリティ」の変化という観点から考察する視点を取り上げ、考察する。
第5回	犯罪の社会学（1）Nの事件と戦後社会	見田宗介の論文「まなごしの地獄」におけるN事件についての考察を取り上げる。
第6回	犯罪の社会学（2）Mの事件とポスト戦後社会	大塚英志『Mの世代』におけるM事件についての考察を取り上げる。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を取り上げる。
第8回	前半のまとめ	前半のまとめをおこなう。
第9回	公害と環境問題（1）水俣病	水俣病の重層的構造について考察する。
第10回	公害と環境問題（2）エコロジー	「環境問題」の提起する視点について考察する。
第11回	地域開発（1）1960年代~70年代前半	1960年代~70年代前半の地域開発について、映像資料を交えて考察する。
第12回	地域開発（1）1970年代中頃~90年代	1970年代中頃~90年代の地域開発を、「定住構想」および「開発 vs. 環境」の視点を中心に考察する
第13回	都市再開発と「風街」	都市の再開発を「風街」の感受性と絡めて考察する。

## 第14回 まちづくり

社会変動の視点からみた運動としてのまちづくりについて、具体的事例を取り上げて考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業で扱うテキスト範囲の予習。出された課題への取り組み。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

## 【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)  
 ・NHK 地域づくりアーカイブス ([www.nhk.or.jp/chiiki/index.html](http://www.nhk.or.jp/chiiki/index.html))  
 その他、授業の中で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験70%、平常点30%（積極的な発言、質問、課題等への取り組み）  
 ＊授業内で複数回、小テストを実施する。成績評価の対象となる「試験」とは、原則としてそれらの小テストを指す。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が発言しやすい環境づくりを心がける。

## 【その他の重要事項】

・テキストを各種の方法で入手し、毎回持参すること（テキストの入手方法に関しては、初回授業で説明する）。  
 ・受講者には発言など積極的な授業参加を求める一方で、私語は厳禁とする。

## 【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

## 社会学Ⅰ

2017年度以降入学者

## 山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

文1年A～N / 法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

## 【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を、歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」という視点を、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※この授業は、5月6日（水）に、授業支援システム上で開始します。初回は、いずれもオンラインでの、説明、デジタル資料の配付、および課題の提示をおこなう予定です。案内等は、授業支援システムを使った登録者への一斉メール（大学メールアドレス宛）でおこないますので、履修者はできれば今月中には授業支援システムへの仮登録を済ませておいて下さい。

『ポスト戦後社会』をテキストとする。社会学Ⅰでは、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第1、2章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方等について
第2回	社会変動	社会変動の概念について学習する。
第3回	「スペクタクルの社会」	新左翼運動の終末を「スペクタクルの社会」という視点から考察する。
第4回	社会運動（1）定義と原理	社会運動の定義、原理について学習した上で、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第5回	社会運動（2）新しい社会運動	「新しい社会運動」について、対抗文化の概念と合わせて学習する。
第6回	社会運動（3）「市民」運動	新しい社会運動の具体的事例として、1960～70年代の「市民」運動について考察する。
第7回	社会運動（4）女性解放運動	新しい社会運動の具体的事例として、1970年代の女性解放運動を事例に考察するとともに、ジェンダーの概念について学習する。
第8回	情報化社会	「情報化社会」をメディアの観点から考察する。
第9回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察をおこなう。
第10回	消費社会（1）流通革命	買物スタイルの変容と流通革命について学習する。
第11回	消費社会（2）消費・メディア・都市空間	都市のメディア化と消費社会の関係について考察する。

第12回	消費社会（3）「情報化・消費化社会」における自己	「情報化・消費化社会」の視点と、それが対象化する社会における自己について考察する。
第13回	都市空間をメディア論の視点から読む	都市空間をメディア論の視点から考察する視点を応用するべく、大学周辺で小規模なフィールド調査をおこなう（ただし、天候等により変更になる場合がある）
第14回	政治社会学	政治現象を社会変化と結びつけて考察する視点を学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題、質問に取り組むための前提として、次の授業で取り上げられる部分の資料をあらかじめ読んで、理解した事柄を整理しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

## 【参考書】

- ・NHKアーカイブス「NHK名作選」>ニュース  
(<http://www.nhk.or.jp/archives/search/genre/>)
  - ・ニッポン戦後サブカルチャー史  
(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)
- その他、授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験70%、平常点30%（積極的な発言、質問、課題等への取り組み）  
\*授業内で複数回、課題・小テストを実施する。成績評価の対象となる「試験」とは、原則としてそれらの課題・小テストを指す。  
なお、オンライン授業については、授業支援システム上で出される課題・小テストの提出状況とその内容、100%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が発言しやすい環境づくりを心がける。

## 【その他の重要事項】

- ・テキストを各種の方法で入手し、毎回持参すること（テキストの入手方法に関しては、初回授業で説明する）。
- ・受講者には発言など積極的な授業参加を求める一方で、私語は厳禁とする。

## 【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

## 社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

## 山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

文1年A～N / 法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

## 【到達目標】

- ① ジェンダー構造とその変化について、統計データを使って説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、個人用情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

『ポスト戦後社会』をテキストとする。社会学Ⅱでは、家族の意識・ジェンダー構造・住まいや地域開発をテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方等について
第2回	家族（1）ジェンダー構造	日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	家族（2）住まい	郊外の拡大とマイホーム
第4回	「リアリティ」の変化	現在のスマートフォンにつながるパーソナルメディアの普及を「リアリティ」の変化という観点から考察する視点を取り上げ、考察する。
第5回	犯罪の社会学（1）Nの事件と戦後社会	見田宗介の論文「まなごしの地獄」におけるN事件についての考察を取り上げる。
第6回	犯罪の社会学（2）Mの事件とポスト戦後社会	大塚英志『Mの世代』におけるM事件についての考察を取り上げる。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を取り上げる。
第8回	前半のまとめ	前半のまとめをおこなう。
第9回	公害と環境問題（1）水俣病	水俣病の重層的構造について考察する。
第10回	公害と環境問題（2）エコロジー	「環境問題」の提起する視点について考察する。
第11回	地域開発（1）1960年代～70年代前半	1960年代～70年代前半の地域開発について、映像資料を交えて考察する。

第12回	地域開発（1）1970年代中頃～90年代	1970年代中頃～90年代の地域開発を、「定住構想」および「開発vs. 環境」の視点を中心に考察する
第13回	都市再開発と「風街」	都市の再開発を「風街」の感受性と絡めて考察する。
第14回	まちづくり	社会変動の視点からみた運動としてのまちづくりについて、具体的な事例を取り上げて考察する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業で扱うテキスト範囲の予習。出された課題への取り組み。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

#### 【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス ([www.nhk.or.jp/chiiki/index.html](http://www.nhk.or.jp/chiiki/index.html))

その他、授業の中で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験70%、平常点30%（積極的な発言、質問、課題等への取り組み）

\*授業内で複数回、小テストを実施する。成績評価の対象となる「試験」とは、原則としてそれらの小テストを指す。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生が発言しやすい環境づくりを心がける。

#### 【その他の重要事項】

・テキストを各種の方法で入手し、毎回持参すること（テキストの入手方法に関しては、初回授業で説明する）。

・受講者には発言など積極的な授業参加を求める一方で、私語は厳禁とする。

#### 【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

## 社会学 I

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P～X / 法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

#### 【到達目標】

履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第2回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第3回	社会を感じる その2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第4回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第5回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第6回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第7回	メディアの歴史 その1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第8回	メディアの歴史 その2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第9回	メディアの歴史 その3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第10回	メディアの歴史 その4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第11回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第12回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第13回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。

第14回 現代の社会について考 今後の課題を確認します。  
える 4

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備時間は1時間、復習時間は3時間を標準とします。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます  
4 自分が社会について考えるための題材を決めます  
5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます  
7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます  
11. 学生は自分にとって、スポーツはどのようなものなのかを考えます  
12. 学生は自分にとって、旅はどのようなものなのかを考えます  
13. 学生は自分にとって、家族はどのようなものなのかを考えます  
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

**【テキスト（教科書）】**

使用しません

**【参考書】**

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995年  
[https://socius.jp/?page\\_id=1089](https://socius.jp/?page_id=1089)

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

**【Outline and objectives】**

In sociology, students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

**社会学Ⅱ**

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P~X / 法文営国環キ2~4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

**【到達目標】**

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は講義形式です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題 (2)	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題 (3)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (4)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (5)	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備時間は1時間、復習時間は3時間を標準とします。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します

- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういふものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

#### 【テキスト（教科書）】

使用しません

#### 【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内の作業（50％）と、期末レポート（50％）によります。期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

#### 【Outline and objectives】

In sociology, students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

## 社会学 I

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

#### 【到達目標】

履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第2回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第3回	社会を感じる その2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第4回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第5回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第6回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第7回	メディアの歴史 その1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第8回	メディアの歴史 その2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第9回	メディアの歴史 その3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第10回	メディアの歴史 その4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第11回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第12回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第13回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。

第14回 現代の社会について考 今後の課題を確認します。  
える 4

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備時間は1時間、復習時間は3時間を標準とします。

1-3 学生は「社会的なもの」について考えます

4 自分が社会について考えるための題材を決めます

5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます

7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます

11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます

12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます

13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます

14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

**【テキスト（教科書）】**

使用しません

**【参考書】**

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995年

[https://socius.jp/?page\\_id=1089](https://socius.jp/?page_id=1089)

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

**【Outline and objectives】**

In sociology, students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

**社会学Ⅱ**

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

営1年A～J、環1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

**【到達目標】**

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は講義形式です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題 (2)	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題 (3)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (4)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (5)	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備時間は1時間、復習時間は3時間を標準とします。

1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します

- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

#### 【テキスト（教科書）】

使用しません

#### 【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内の作業（50％）と、期末レポート（50％）によります。期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

#### 【Outline and objectives】

In sociology, students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

## 社会学 I

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年S～Y / 法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

#### 【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

《変更》基本的にはオンデマンド講義。インターネットを介した意見交換や提出課題も取り入れる。授業前夜にレジュメおよびパワーポイントのファイルをアップロードするので、各自ダウンロード（できれば印刷も）しておくこと。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方について（ネット環境の確認）、テキスト第1章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第1章応用
3	相互作用と自己	テキスト第2章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第2章応用
5	家族と親密な関係	テキスト第3章概説
6	「フツの家族」は普通のものか	第3章応用
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第4章概説
8	男社会の構造は変わりうるか	第4章応用
9	労働と企業組織	テキスト第5章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第5章応用
11	環境と科学技術	テキスト第6章概説
12	環境は成長と開発の呪縛を解くことができるか	第6章応用
13	逸脱と社会病理	テキスト第8章を読んできたことを前提にディスカッション
14	まとめと試験	ふりかえり

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

- ・テキストおよび参考文献を読む。
- ・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

**【テキスト（教科書）】**

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。  
またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

**【参考書】**

授業時に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

《変更》期末レポート 50%＋平常点 50%。

\* 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度とはテキストが異なるので参考にしにくい、さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生それぞれに関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

**【Outline and objectives】**

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

**社会学Ⅱ**

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

**【到達目標】**

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

基本的に講義形式。随時、意見交換やリアクションペーパー提出も取り入れる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、医療・保健・福祉	授業の進め方の説明、テキスト第 7 章概説
2	病いや障害は「不幸」なことなのか	第 7 章応用
3	階層・階級・不平等	テキスト第 9 章概説
4	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第 9 章応用
5	都市とコミュニティ	テキスト第 10 章概説
6	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第 10 章応用
7	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第 11 章概説
8	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第 11 章応用
9	メディアとコミュニケーション	テキスト第 13 章概説
10	「民意を問う」とはどのようなことか	第 13 章応用
11	社会運動と NPO/NGO	テキスト第 14 章概説
12	市民は社会を変革できるか	第 14 章応用
13	国家・権力・公共性	事前にテキスト第 15 章を読んでいることを前提としたディスカッション
14	まとめと試験	ふりかえり

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

- ・テキストおよび参考文献を読む。
- ・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

**【テキスト（教科書）】**

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。  
またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

**【参考書】**

授業時に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 70%＋平常点 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度とはテキストが異なるので参考にしにくいですが、さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生それぞれに関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

**【その他の重要事項】**

授業内容は春学期の続き（テキスト第 8 章以降）であるが、扱うテーマは独立したものであるため、秋学期から受講しても差し支えない。ただし社会学の基本的視座を示したテキスト第 1 章は開講前に読んでおくこと。

なお受講生に相談したうえで順序等を変更する可能性がある。

**【Outline and objectives】**

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

**社会学 I**

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

**【到達目標】**

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、開始日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	政治学、経済学との比較を通して、社会学の特徴を理解する
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	森達也『放送禁止歌』を事例に
10	対抗文化	小池征人のドキュメンタリー映画「人間の街」を事例に
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナシヨリナズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』、同『権力と支配』の一部講読

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

**【参考書】**

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。  
マックス・ヴェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

マックス・ヴェーバー（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始 1 週間前に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを利用しての課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

**【Outline and objectives】**

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

**社会学Ⅱ**

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

**【到達目標】**

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り具体的な事例を用いて身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、講義の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の講義で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず、配布資料を用います。

## 【参考書】

見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書  
ジグムント・パウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用した課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

## 【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

## 社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

## 【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、開始日に合わせて具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	政治学、経済学との比較を通して、社会学の特徴を理解する
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	森達也『放送禁止歌』を事例に
10	対抗文化	小池征人のドキュメンタリー映画「人間の街」を事例に
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナシヨリナズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』、同『権力と支配』の一部講読

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

**【参考書】**

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。  
マックス・ヴェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

マックス・ヴェーバー（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始 1 週間前に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを利用しての課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

**【Outline and objectives】**

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

**社会学Ⅱ**

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

**【到達目標】**

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り具体的な事例を用いて身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、講義の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の講義で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず、配布資料を用います。

## 【参考書】

見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書  
ジグムント・パウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用した課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

## 【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

POL100LA

## 政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。民主主義の歴史を学び、主権者として政治に参加することの意義、政治をめぐる環境の変化についても考察する。

## 【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

学習支援システムを用いての本授業の開始日は、5月8日とする。この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システムを通じて提示する。

当面はオンライン授業となる可能性が高いが、面接授業が可能になった段階で、改めて新たな授業方法などを提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。予習は各回のテーマに沿って、テキストや指示された資料を読んで要点をまとめ、復習は講義のノートを参考にしながらテキストを再度読み返す。テーマに関連する新聞記事や専門書などをチェックしたうえで、自分の意見を小論文として記述してみるなどの学習も望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「政治学」新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）定価 2000 円+税

## 【参考書】

「民主主義は終わるのか」山口二郎（岩波新書）  
「左翼はなぜ衰退したのか」及川智洋（祥伝社新書）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（記述式）の評価 80%、授業時間内に提出を求める小レポートを含めた平常点 20%。いずれも、課題とする政治上のテーマを理解したうえで、自分の意見を明記し、かつその根拠を説明できることを評価基準とする。テーマによっては、反対意見の存在も含めて考察するように求めることもある。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規に担当するため、特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

We will study theory and history of democracy in this subject. So we must consider about role of sovereign and change of political environment.

POL100LA

## 政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

## 【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的にテキストを参照しつつ口頭・板書で行う講義が主になる。テーマによってはテキスト以外の資料を利用する。期末試験以外にも授業時間内に小レポートを書いて提出してもらうことがある。受講生数によっては、グループディスカッションを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。予習は各回のテーマに沿って、テキストや指示された資料を読んで要点をまとめ、復習は講義のノートを参考にしながらテキストを再度読み返す。テーマに関連する新聞記事や専門書などをチェックしたうえで、自分の意見を小論文として記述してみるなどの学習も望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

「政治学」新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）定価 2000 円+税

**【参考書】**

「民主主義は終わるのか」山口二郎（岩波新書）  
「左翼はなぜ衰退したのか」及川智洋（祥伝社新書）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（記述式）の評価 80%、授業時間内に提出を求める小レポートを含めた平常点 20%。いずれも、課題とする政治学上のテーマを理解したうえで、自分の意見を明記し、かつその根拠を説明できることを評価基準とする。テーマによっては、反対意見の存在も含めて考察するように求めることもある。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度から新規に担当するため、特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

We will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

**政治学 I**

2017 年度以降入学者

**崔 先鎬**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年 P~X / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

**【到達目標】**

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

(学習支援システムでの春学期ですが、学年暦通りの 4 月 22 日 (水) 開始となります。)

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要ところは筆記しましょう。)

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年  
杉田敦著 『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

## 【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年  
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年  
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

## 【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度(=レポートなどの提出物、30%) + 試験(黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)です。  
(ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、上記の参加度のみの100%の評価といたします。2020年春学期ですが、学年暦通りの4月22日(水)開始となります。)

## 【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

## 【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。  
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

## 【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

## 政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

## 崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2単位

文1年P~X / 法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

## 【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第3回	戦後憲法の制定	政治的存在としての「市民」における関連用語の紹介および説明
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。  
(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。)

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年  
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

## 【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年  
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年  
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

## 【成績評価の方法と基準】

参加度（=レポートなどの提出物、30%）+試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

## 【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

## 【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。  
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

## 【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

## 政治学 I

2017 年度以降入学者

## 崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

## 【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

（学習支援システムでの春学期ですが、学年暦通りの 4 月 22 日（水）開始となります。）

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要ところは筆記しましょう。）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年  
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

## 【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年  
 佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年  
 南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

## 【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度(=レポートなどの提出物、30%) + 試験(黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)です。  
 (ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、上記の参加度のみの100%の評価といたします。2020年春学期ですが、学年暦通りの4月22日(水)開始となります。)

## 【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記。

## 【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。  
 試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

## 【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

## 政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

文1年A～N / 法文営国環キ2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

## 【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。  
 (授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。)

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年  
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014年

## 【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年  
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年  
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

## 【成績評価の方法と基準】

参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

## 【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

## 【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。  
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

## 【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

## 政治学 I

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法 1 年 H～N、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

## 【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメに基づく講義形式

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。  
復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

## 【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

## 【参考書】

・『政治学事典』弘文堂

- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

**【成績評価の方法と基準】**

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

**【学生の意見等からの気づき】**

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

**【その他の重要事項】**

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

**【Outline and objectives】**

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

**政治学Ⅱ**

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2単位

法1年H～N、環キ1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

**【到達目標】**

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

テキストとレジュメに基づいた講義形式

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確かなものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

**【テキスト（教科書）】**

①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

**【参考書】**

- ①『政治学事典』弘文堂  
②『社会思想事典』岩波書店

**【成績評価の方法と基準】**

期末に実施する選択肢型試験（100%）

**【学生の意見等からの気づき】**

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

**【その他の重要事項】**

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。  
②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

**【Outline and objectives】**

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

**政治学Ⅰ**

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法1年A～G / 法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。民主主義の歴史を学び、主権者として政治に参加することの意義、政治をめぐる環境の変化についても考察する。

**【到達目標】**

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

学習支援システムを用いての本授業の開始日は、5月8日とする。この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システムを通じて提示する。

当面はオンライン授業となる可能性が高いが、面接授業が可能になった段階で、改めて新たな授業方法などを提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。予習は各回のテーマに沿って、テキストや指示された資料を読んで要点をまとめ、復習は講義のノートを参考にしながらテキストを再度読み返す。テーマに関連する新聞記事や専門書などをチェックしたうえで、自分の意見を小論文として記述してみるなどの学習も望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「政治学」新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）定価 2000 円+税

## 【参考書】

「民主主義は終わるのか」山口二郎（岩波新書）  
「左翼はなぜ衰退したのか」及川智洋（祥伝社新書）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（記述式）の評価 80%、授業時間内に提出を求める小レポートを含めた平常点 20%。いずれも、課題とする政治学上のテーマを理解したうえで、自分の意見を明記し、かつその根拠を説明できることを評価基準とする。テーマによっては、反対意見の存在も含めて考察するように求めることもある。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規に担当するため、特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

We will study theory and history of democracy in this subject. So we must consider about role of sovereign and change of political environment.

POL100LA

## 政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

## 【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的にテキストを参照しつつ口頭・板書で行う講義が主になる。テーマによってはテキスト以外の資料を利用する。期末試験以外にも授業時間内に小レポートを書いて提出してもらうことがある。受講生数によっては、グループディスカッションを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。予習は各回のテーマに沿って、テキストや指示された資料を読んで要点をまとめ、復習は講義のノートを参考にしながらテキストを再度読み返す。テーマに関連する新聞記事や専門書などをチェックしたうえで、自分の意見を小論文として記述してみるなどの学習も望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

「政治学」新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹（有斐閣、2017年）定価 2000 円+税

## 【参考書】

「民主主義は終わるのか」山口二郎（岩波新書）  
「左翼はなぜ衰退したのか」及川智洋（祥伝社新書）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（記述式）の評価 80%、授業時間内に提出を求める小レポートを含めた平常点 20%。いずれも、課題とする政治学上のテーマを理解したうえで、自分の意見を明記し、かつその根拠を説明できることを評価基準とする。テーマによっては、反対意見の存在も含めて考察するように求めることもある。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規に担当するため、特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

We will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

## 政治学 I

2017 年度以降入学者

## 面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 Q~U、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

## 【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりも各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。代わりに、参考書に関連する配布資料を適宜用いる。

## 【参考書】

荻部直、宇野重規、中本義彦編著『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年）。川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）。

砂原庸介、稗田健志、多湖淳編著『政治学の第一歩』（有斐閣、2015年）。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）

リアクションペーパー（20%）

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日（4月21日）に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

#### 【Outline and objectives】

This introductory course focuses on the basic concepts of political science and the political systems.

POL100LA

## 政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

### 面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

営1年Q～U、国1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

#### 【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性の政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	試験	まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。代わりに、参考書に関連する配布資料を適宜用いる。

#### 【参考書】

荻部直、宇野重規、中本義彦編著『政治学をつかむ』（有斐閣、2011年）。川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012年）。

砂原庸介、稗田健志、多湖淳編著『政治学の第一歩』（有斐閣、2015年）。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）  
リアクションペーパー（20%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

#### 【Outline and objectives】

This introductory course focuses on the analysis of Japanese politics - by using the concepts of political science - compared with other developed countries.

POL100LA

## 政治学 I

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

#### 【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月23日（木）を予定している。具体的なオンライン授業の方法等については、授業開始日に提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

レジュメやノートにもとづき、毎回復習をしてください。また、日ごろから政治的な事象について関心を持ち、新聞等をよく読むようにしてください。講義の中で紹介する参考文献や関連資料については、積極的に読み進めてください。

#### 【テキスト（教科書）】

とくに指定なし。レジュメを用いて授業を行う。

**【参考書】**

授業内で、適宜参考文献を紹介していく。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの授業となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日（4月23日）に学習支援システムで提示する。

追記

成績は、すべて平常点によって評価します。平常点の内容は、授業への取り組み、課題（レポートや報告）の提出と内容などの評価を総合したものととなります。

**【学生の意見等からの気づき】**

社会における課題と政治学を関連付け、考察する機会を意識的につくりたい。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with basic concepts of the political science.

POL100LA

**政治学Ⅱ**

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2単位

営1年A～E / 法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

**【到達目標】**

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業では、毎回のレジメをもとに、社会と政治との関係性について幅広い領域を講義する。この際、時事的な事象についても、その都度取り上げていく。複数回の授業内におけるレポートの提出を予定しているほか、毎回の授業時に学生は意見や質問をまとめて提出する。グループディスカッションについては、受講者数などを考慮したうえで、可能であれば実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

レジメやノートにもとづき、毎回復習をしてください。また、日ごろから政治的な事象について関心をもち、新聞等をよく読むようにしてください。講義の中で紹介する参考文献や関連資料については、積極的に読み進めてください。

#### 【テキスト（教科書）】

とくに指定なし。レジメを用いて授業を行う。

#### 【参考書】

授業内で、適宜紹介していく。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点により、総合的に評価する。平常点は、授業内でのレポートなどの提出物、授業への取り組みにより構成される。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生自らが社会における政治的な問題について、自ら考えを養い表現できる機会を充実させていく。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with the modern politics in Japan.

POL100LA

## 政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 F~O / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

#### 【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

テキストとレジメに基づく講義形式

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：資料やレジメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

#### 【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジメ

#### 【参考書】

・『政治学事典』弘文堂

- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

## 【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

## 【学生の意見等からの気づき】

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

## 【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

## 【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

## 政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 F~O / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

## 【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメに基づいた講義形式

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確かなものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

## 【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

#### 【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂  
②『社会思想事典』岩波書店

#### 【成績評価の方法と基準】

期末に実施する選択肢型試験（100%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

#### 【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。  
②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

#### 【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

CUA100LA

## 文化人類学

2017年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

#### 【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

4月22日より、毎週水曜日に学習支援システムの当該授業のページに、アップロードする教材（映像および文書ファイル）と課題を使って、授業を進めていく。履修者は毎週アップロードされる教材によく目を通すとともに自主学習をしながら、毎週だされる課題にこたえるものとする。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換、再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。

第十回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構成主義的な考え方を理解する。
第十二回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十三回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。
第十四回	授業内試験	これまでの講義および授業外の学習を踏まえた記述試験を行う。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

#### 【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクション・ペーパーの提出を求め、毎回の授業の冒頭に前回のリアクション・ペーパーの紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

#### 【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法 1 年 I~N / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

#### 【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを発信することができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は、主に音声付きのパワーポイントを使用し、全10回に分けて進めていきます。

授業開始日は、5月1日です。この授業は本来木曜開講でしたが、オンライン授業への変更に伴い、5月1日以降、順次「学習支援システム」の「教材」にファイルをアップロードしていくことにします。春学期期間中はいつでも受講可能ですので、都合が良い時に受講してください。質問等は、「学習支援システム」の「授業内掲示板」に設置した「質問箱」をお願いします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌：人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず出席してください。
3	文化相対主義という視点：他者とともに生きるための手がかかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。
4	言葉と認識：言葉が違ふと世界も違って見える？	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。
5	ケガレとタブー：「きついなさ」の正体を考える	日常生活で私たちの行動を方向付ける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。

- 6 ケガレと吉祥：スリランカ女性のライフサイクルと身体 スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
- 7 贈与交換と絆：社会をつくる経済活動 人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がり方について考えます。
- 8 布施が支える社会福祉：スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
- 9 輪廻転生の世界観：チベット死者の書 輪廻転生の世界観や死生観について、ラダック地方に伝わるチベット死者の書を題材に考えます。
- 10 不幸の説明と呪術：医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくなるのはなぜだろう？ 突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ？」という問いに対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
- 11 癒しと呪術：スリランカの悪魔祓い スリランカの悪魔払いの映像を見ながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共通性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
- 12 自己に住まう他者：「私」と「あなた」の境界はどこにある？ 「私」とは、皮膚に区画された身体に固定されたものなのでしょうか。様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。
- 13 ジェンダー：「振る舞い」としての「男」と「女」 文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
- 14 総括 授業のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
 なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対しオンライン・インタビューを実施し、それに基づきその人のライフストーリーを作成してもらいます。

#### 【テキスト（教科書）】

購入が必要な教科書の指定はありません。

#### 【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（60%）およびリアクションペーパーの内容（40%）にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、リアクションペーパーの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど

#### 【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

## 文化人類学

2017 年度以降入学者

岩原 紘伊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、アジアやその他地域の事例を紹介しつつ、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の生活や文化の多様性と共通点を知る。

#### 【到達目標】

- ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
- ②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者との間にかしらの共通点や理解できる部分があるという考え方を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

文化人類学は、地球に生きる人間の様々な生のあり方を文化や社会に注目して理解することを目指す学問である。この授業では、文化人類学が対象とする個別のテーマを掘り下げることにより、文化人類学の基礎的な考え方について解説する。

（4月19日追記）本授業の開始日は4月28日（火）とする。毎週火曜日に学習支援システムに教材をアップロードしたり、双方向型WEB会議システムを利用したりして授業を実施することを予定している。履修者はこれらに基づき学習を進め、毎週の課題にこたえるものとする。具体的なオンライン授業の方法などは、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、成績評価など
2	文化人類学の歴史①	文化人類学の誕生と進化主義
3	文化人類学の歴史②	文化相対主義という考え方
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の調査・研究手法
5	人間と文化	文化とは何か
6	エスニシティ	エスニシティと民族、エスニシティと国家
7	親族①	家族と親子
8	親族②	結婚と社会
9	ジェンダーとセクシャリティ	男らしさと女らしさ
10	経済①	狩猟採集、牧畜、農耕
11	経済②	贈与交換と社会関係
12	宗教①	信仰の世界
13	宗教②	宗教と日本社会
14	授業内試験	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回の授業でレジュメを配布する。

## 【参考書】

山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード（改訂版）』（有斐閣、2008年）

その他、授業時に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

資料を授業支援システムにアップロードする際にファイル名を統一したり、具体的な事例を用いて理論を説明するように心がける。

## 【その他の重要事項】

文化人類学 L（秋学期開講）をあわせて履修することが望ましい。

## 【Outline and objectives】

This class introduces you to the key concepts of cultural anthropology through focusing on the topics such as kinship, gender, economy and religion. By exploring the variety of cases related to the topics from the Asia and beyond, you will be deepen your critical thoughts on the differences and similarities of culture and human life.

CUA100LA

## 文化人類学

2017年度以降入学者

## 長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

## 【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語（1）	言語人類学について解説する。
4	言語（2）	言語人類学について解説する。
5	言語（3）	言語人類学について解説する。
6	民俗社会	日本の民俗社会について考える。
7	社会構造	社会構造について解説する。
8	通過儀礼（1）	通過儀礼について解説する。
9	通過儀礼（2）	通過儀礼について解説する。
10	農耕	農耕と文化について解説する。
11	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
12	補足（2）	全体的な補足をおこなう。
13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

**【参考書】**

講義中に適宜、紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

試験の結果によって成績評価をおこなう。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline and objectives】**

You can study on this program about general theory of cultural anthropology.

CUA100LA

**文化人類学**

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

**【到達目標】**

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

4 月 22 日より、毎週水曜日に学習支援システムの当該授業のページに、アップロードする教材（映像および文書ファイル）と課題を使って、授業を進めていく。履修者は毎週アップロードされる教材によく目を通すとともに自主学習をしながら、毎週だされる課題にこたえるものとする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する 1960 年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換、再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。

第十回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構成主義的な考え方を理解する。
第十二回	オリエンタリズム批判とポストモダンリズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十三回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。
第十四回	試験	これまでの講義および授業外の学習を踏まえた記述試験を行う。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

#### 【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクション・ペーパーの提出を求め、毎回の授業の冒頭に前回のリアクション・ペーパーの紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

#### 【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

## 文化人類学

2017年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

営1年A～J / 法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

#### 【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを発信することができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は、主に音声付きのパワーポイントを使用し、全10回に分けて進めていきます。

授業開始日は、5月1日です。この授業は本来火曜開講でしたが、オンライン授業への変更に伴い、5月1日以降、順次「学習支援システム」の「教材」にファイルをアップロードしていくことにします。春学期期間中はいつでも受講可能ですので、都合が良い時に受講してください。質問等は、「学習支援システム」の「授業内掲示板」に設置した「質問箱」をお願いします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず出席してください。
3	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。
4	言葉と認識:言葉が違えば世界も違って見える?	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。

5	ケガレとタブー:「きたなさ」の正体を考える	日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
6	ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体	スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上的の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
7	贈与交換と絆:社会をつくる経済活動	人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がり方について考えます。
8	布施が支える社会福祉:スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス	スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
9	輪廻転生の世界観:チベット死者の書	輪廻転生の世界観や死生観について、ラダック地方に伝わるチベット死者の書を題材に考えます。
10	不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくなならないのはなぜだろう?	突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
11	癒しと呪術:スリランカの悪魔祓い	スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
12	自己に住まう他者:「私」と「あなた」の境界はどこにある?	様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。
13	ジェンダー	文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
14	総括	授業のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対しオンライン・インタビューを実施し、それに基づきその人のライフストーリーを作成してもらいます。

#### 【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

#### 【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) およびリアクションペーパーの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、リアクションペーパーの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【その他の重要事項】

5月1日より授業をアップロードします。アップロードした授業は、春学期期間中いつでも受講可能です。

#### 【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

## 文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 K~O / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「古い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

#### 【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを発信することができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は、主に音声付きのパワーポイントを使用し、全10回に分けて進めていきます。

授業開始日は、5月1日です。この授業は本来火曜開講でしたが、オンライン授業への変更に伴い、5月1日以降、順次「学習支援システム」の「教材」にファイルをアップロードしていくことにします。春学期期間中はいつでも受講可能ですので、都合が良い時に受講してください。質問等は、「学習支援システム」の「授業内掲示板」に設置した「質問箱」をお願いします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	ライフストーリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず出席してください。
3	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。
4	言葉と認識:言葉が違くと世界も違って見える?	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論やエスノサイエンス(民族科学)について学びます。

- 5 ケガレとタブー：「きたなさ」の正体を探る 日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
- 6 ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体 スリランカ女性のライフサイクルに応じて生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
- 7 贈与交換と絆：社会をつくる経済活動 人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がりに関して考えます。
- 8 布施が支える社会福祉：スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
- 9 輪廻転生の世界観：チベット死者の書 輪廻転生の世界観や死生観について、ラダック地方に伝わるチベット死者の書を題材に考えます。
- 10 不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくならないのはなぜだろう? 突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
- 11 癒しと呪術：スリランカの悪魔払い スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
- 12 自己に住まう他者：「私」と「あなた」の境界はどこにある? 様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。
- 13 ジェンダー 文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
- 14 総括 授業のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対しオンライン・インタビューを実施し、それに基づきその人のライフストーリーを作成してもらいます。

#### 【テキスト（教科書）】

購入の必要なテキストの指定はありません。

#### 【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(60%)およびリアクションペーパーの内容(40%)にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、リアクションペーパーの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【その他の重要事項】

5月1日より授業をアップロードします。アップロードした授業は、春学期期間中いつでも受講可能です。

#### 【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

## 文化人類学

2017年度以降入学者

岩原 紘伊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

営1年Q~U / 法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、アジアやその他地域の事例を紹介しつつ、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の生活や文化の多様性と共通点を知る。

#### 【到達目標】

①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。  
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者の間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという視点を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

文化人類学は、地球に生きる人間の様々な生のあり方を文化や社会に注目して理解することを目指す学問である。この授業では、文化人類学が対象とする個別のテーマを掘り下げることにより、文化人類学の基礎的な考え方について解説する。

(4月19日追記) 本授業の開始日は4月28日(火)とする。毎週火曜日に学習支援システムに教材をアップロードしたり、双方向型WEB会議システムを利用したりして授業を実施することを予定している。履修者はこれらに基づき学習を進め、毎週の課題にこたえるものとする。具体的なオンライン授業の方法などは、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、成績評価など
2	文化人類学の歴史①	文化人類学の誕生と進化主義
3	文化人類学の歴史②	文化相対主義という考え方
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の調査・研究方法
5	人間と文化	文化とは何か
6	エスニシティ	エスニシティと民族、エスニシティと国家
7	親族①	家族と親子
8	親族②	結婚と社会
9	ジェンダーとセクシャリティ	男らしさと女らしさ
10	経済①	狩猟採集、牧畜、農耕
11	経済②	贈与交換と社会関係
12	宗教①	信仰の世界
13	宗教②	宗教と日本社会
14	授業内試験	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回の授業でレジュメを配布する。

## 【参考書】

山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード（改訂版）』（有斐閣、2008年）

その他、授業時に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

資料を授業支援システムにアップロードする際にファイル名を統一したり、具体的な事例を用いて理論を説明するように心がける。

## 【その他の重要事項】

文化人類学 L（秋学期開講）をあわせて履修することが望ましい。

## 【Outline and objectives】

This class introduces you to the key concepts of cultural anthropology through focusing on the topics such as kinship, gender, economy and religion. By exploring the variety of cases related to the topics from the Asia and beyond, you will be deepen your critical thoughts on the differences and similarities of culture and human life.

CUA100LA

## 文化人類学

2017年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

## 【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを発信することができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、主に音声付きのパワーポイントを使用し、全10回に分けて進めていきます。

授業開始日は、5月1日です。この授業は本来木曜開講でしたが、オンライン授業への変更に伴い、5月1日以降、順次「学習支援システム」の「教材」にファイルをアップロードしていくことにします。春学期期間中はいつでも受講可能ですので、都合が良い時に受講してください。質問等は、「学習支援システム」の「授業内掲示板」に設置した「質問箱」をお願いします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌：人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず出席してください。
3	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。
4	言葉と認識：言葉が違おうと世界も違って見える？	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論やエスノサイエンス（民族科学）について学びます。

- 5 ケガレとタブー：「きたなさ」の正体をさぐる  
日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
- 6 ケガレと吉祥：スリランカ女性のライフサイクルと身体  
スリランカ女性のライフサイクルに応じて生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
- 7 贈与交換と絆：社会をつくる経済活動  
人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がり方について考えます。
- 8 布施が支える社会福祉：スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス  
スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
- 9 輪廻転生の世界観：チベット死者の書  
輪廻転生の世界観や死生観について、ラダック地方に伝わるチベット死者の書を題材に考えます。
- 10 不幸の説明と呪術：医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくなならないのはなぜだろう？  
突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ？」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
- 11 癒しと呪術：スリランカの悪魔払い  
スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
- 12 自己に住まう他者：「私」と「あなた」の境界はどこにある？  
様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。
- 13 ジェンダー  
文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
- 14 総括  
授業のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対しオンライン・インタビューを実施し、それに基づきその人のライフストーリーを作成してもらいます。

#### 【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

#### 【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(60%)およびリアクションペーパーの内容(40%)にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、リアクションペーパーの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【その他の重要事項】

5月1日より授業をアップロードします。アップロードした授業は、春学期期間中いつでも受講可能です。

#### 【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

## 文化人類学

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

環キ1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、宗教とナショナリズム、開発援助、科学技術、観光と文化創造などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

#### 【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月23日とします。本授業は講義形式で行う予定でしたが、現時点では対面授業はできません。そのため、履修生のみなさんには「学習支援システム」を通して配布される授業資料を用いた学習を行っていただきます。授業資料では、通常の対面授業時の配布資料よりも、詳しい説明を増やします。また、必要に応じて補足資料（文献や、映像および音声資料等）もあわせて配布する予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要（文化人類学のものの見方）、成績評価方法の説明
第2回	フィールドワーク論	質的調査の方法論とその考え方
第3回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第4回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第5回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第6回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第7回	セクシュアリティとジェンダー	性の多義性とは
第8回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第9回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第10回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第11回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第12回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第13回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括、授業内試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。  
 松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。  
 岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018年。  
 梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。  
 波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版(第3版)』医学書院、2011年。

## 【成績評価の方法と基準】

教室試験の実施が難しいと考えられるため、試験からレポートに切り替えます。一方、平常点はリアクションペーパーをもとに評価を行います。加えて、授業方法の変更に伴って「レポート:50%、平常点:50%」の比率とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

## 【Outline and objectives】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We try to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective.

SOS100LA

## 社会思想 I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文1年 E~N、T~X / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆（2020/4/20 追記）しばらくの期間、バックアップ用として、Google Classroom（クラスコード 5qui7c3）でも開講します。内容はまったく同一です。「学習支援システム（Hoppii）」が不安定な場合は、大学のアドレスでログインして、こちらで受講・課題提出してください。<https://classroom.google.com/>

◆（2020/4/7 追記）学習支援システムに「授業の進め方（2020/4/7、第1報）」を掲載しました。これ以降は、学習支援システムをつかって連絡を行います。

◆（2020/4/6 追記）この授業では、ナレーション付きパワーポイントをもちいて授業を行う予定です（初回を除く）。以下の追記部分を参考にしてください。

「社会思想」は、社会にかかわるさまざまな考えを学ぶ科目です。この「社会思想 I」のクラスでは、まったくの初学者にも学びやすいように、過去から現代までの理想社会論（ユートピア論）を学びます。どのような社会が、理想的な社会なのでしょう。だれかが考えた「理想社会」は、ほかのひとにとっては、悪夢ではないでしょうか。

## 【到達目標】

古代から現代までの代表的なユートピア論について理解を深めて、社会や政治にかかわる学問的理解の基礎を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

【◆（2020/4/13 追記）本授業の開始日は4月22日とする予定です。】

【◆（2020/4/6 追記）毎回、「ナレーション付きパワーポイント」（およそ30分程度の内容）と「原典プリント」という資料を学習支援システムで配布します。毎回の説明を聞いたのちに、簡単な小テストを実施します。質問は、学習支援システム経由でお答えする予定です。】

講義形式。原則として1回に1作品（あるいは1テーマ）を採りあげて説明をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要 【◆（2020/4/6 追記）初回のみ動画もつかって、授業のすすめかたを説明します】
第2回	プラトン『国家』	真理にもとづく政治
第3回	ユートピア思想としてのキリスト教	政治に無関心ではいけないのか 【◆（追記）この回は今年度は省略します】
第4回	モア『ユートピア』	平等という理想
第5回	ベーコン『ニューアトランティス』、カンパネラ『太陽の都』	コントロールされる性愛
第6回	ハリントン『オセアナ』	制度論のアプローチ

第7回	カント『永遠平和のために』	国際社会の理想と現実
第8回	ユートピア思想としての社会主義	社会主義とはなんだったかの社会主義
第9回	オーウェル『動物農場』	ユートピアからディストピアへ場
第10回	オーウェル『1984年』	システムという権力
第11回	ハクスリー『すばらしい新世界』	主観的幸福のディストピア
第12回	現代のユートピア論(1)	ソルニット、ノージック、ローティ
第13回	現代のユートピア論(2)	宮崎駿 【◆(追記) この回は今年度は省略します】
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した作品を1冊でも、最初から最後まで実際に自分で読んでみることを推奨します。

#### 【テキスト（教科書）】

授業で用いる資料は「授業支援システム」で配布します。資料配付の方法や注意事項は、初回の講義で説明します。

#### 【参考書】

授業内に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

【◆(2020/4/6 追記) 現時点で以下のように変更します。毎回、簡単な小テストを実施して、これをもとにして平常点を積算します。平常点の割合を70%とします。最終回(第12回)は、授業内試験の回として、学習支援システムを用いて簡単な期末テストを実施します(30%)。】

平常点(コメントペーパー、発言、貢献など。50点)、期末試験(50点、持ち込み可)。授業への出席は単位修得の前提条件です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方向的な講義とならないように留意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

「授業支援システム」を利用するための情報通信環境が必須です。

#### 【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。

さまざまな他人の考えを学ぶのは、それに賛成か反対かにかかわらず、わたしたち自身の考え方を豊かにするための有力な方法です(大学の授業は、特定の思想を押しつけるものではありません)。

#### 【Outline and objectives】

Explores history of Utopian political theories from ancient Greece to contemporary Japan.

SOS100LA

## 社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

文1年 E~N、T~X / 法文営国環キ 2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会思想」は、社会についてのさまざまな考え方を学ぶ科目です。この「社会思想Ⅱ」のクラスでは、「正義」をめぐる社会思想を学びます。

\* 2020年度より新しい授業内容になっています。

#### 【到達目標】

「正義」について理解を深めて、社会にある実際の問題について考える思考力をアップグレードします。

消防や救急の現場において、仮にひとりしか助けられなかったら、だれを助けるべきなのでしょう。貧困は、努力しなかった本人の自己責任ではないのでしょうか。海外の貧困よりも、国内の貧困にこそ、優先的に取り組むべきでしょうか。死刑は、認められるのでしょうか。正しい戦争はあるのでしょうか——この授業では、こうした問題を考えるための学問的基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この「社会思想Ⅱ」では、講義形式の授業が中心となります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：正義とはなにか。正義は、ひとそれぞれではないのか。	教科書第1章
第2回	最大多数の最大幸福(1)	教科書第3章(1)
第3回	最大多数の最大幸福(2)	教科書第3章(2)
第4回	貧困や格差をどうするか(1)	教科書第8章前半、第2章か(1)
第5回	貧困や格差をどうするか(2)	教科書第5章か(2)
第6回	貧困や格差をどうするか(3)	教科書第6章か(3)
第7回	貧困や格差をどうするか(4)	教科書第7章か(4)
第8回	グローバルな貧困・格差	教科書第8章後半
第9回	教育	教科書第9章
第10回	医療	教科書第10章
第11回	死刑	教科書第11章
第12回	戦争	教科書第12章
第13回	地球環境	教科書第14章
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の本学のカリキュラムでは、「大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習(2単位)では1回につき4時間以上、実験・実習及び実技(1単位)では1回につき1時間以上が標準となる」と記載するよう指示がなされています。

**【テキスト（教科書）】**

宇佐見誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論』（法律文化社、2019）  
講義は、この教科書に即して行いますので、より深い理解のためには、この本をもちいた予習・復習がとく推奨されます。しかし、毎回の授業に持参する必要はありません。

**【参考書】**

上記参照。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50点）、期末試験（50点、持ち込み可）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるかぎり一方向的な講義とならないように留意します。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用して、授業資料をダウンロード・印刷することが必要です。

**【その他の重要事項】**

担当教員は法学部政治学科所属。

**【Outline and objectives】**

Explores various conceptions of justice in social philosophy.

SOS100LA

**社会思想 I**

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年H～Y、キ1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

**【到達目標】**

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

すくなくとも春学期の前半は、オンラインでの開講になります。これにともなう授業の計画や進め方の変更に関する詳細については、「学習支援システム」をつうじて伝達いたします。なお、本授業の開始日は4月24日（金）といたします。この日をめどに、Youtube上に講義動画を公開し、URLを履修者にお伝えする予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について

4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

#### 【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

すくなくとも春学期の前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の基準も変更することになりそうです。詳細につきましては、「学習支援システム」をつうじてお伝えいたします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

なし

#### 【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

## 社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年H～Y、キ1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を取捨する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで20世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

#### 【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、板書を利用したオーソドックスな講義形式でおこなう。ただし、毎回質疑応答の機会をもうける。履修者による活発な授業への参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホブズの『リヴァイヤサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	パークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

#### 【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題30%、期末試験70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

なし

#### 【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

## 社会思想 I

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P～R、営1年A～H、国1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では小説家フランツ・カフカの思想を学びます。19世紀末にオーストリア＝ハンガリー帝国領ブラハで生まれ、ドイツ語で書いたユダヤ人カフカの作品は現代においてもなお「重要な問い」を発しています。この授業では世紀転換期を生きたその生涯を概観しながら、具体的な作品を読み、名前、アイデンティティ、法、家族、フィクション、ディアスポラ性などの主題について学びます。

#### 【到達目標】

カフカの作品をていねいに読むことができる  
時代背景をふまえて、カフカ思想の主題を理解することができる  
カフカの作品から学んだことを自分の言葉で表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

（2020年度春学期の変更点）

※2020年度春学期はオンラインで授業を行い、5月6日に学習支援システムを通して授業を開始します。その際初回ガイダンスを行いますので、詳細は提示するガイダンスのファイルを確認するようにしてください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、進め方、成績評価の方法などについての説明
2	導入（1）	19世紀末という時代（1）
3	導入（2）	19世紀末という時代（2）
4	展開（1）	抑圧された名前（1）
5	展開（2）	抑圧された名前（2）
6	展開（3）	アイデンティティの病（1）
7	展開（4）	アイデンティティの病（2）
8	展開（5）	ディアスポラ（1）
9	展開（6）	ディアスポラ（2）
10	展開（7）	掟の前で（1）
11	展開（8）	掟の前で（2）
12	結論（1）	脱出（1）
13	結論（2）	脱出（2）
14	結論（3）	フィクションと現実

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって、1時間ほどテキストや参考文献を自ら読んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

#### 【参考書】

授業中に説明します。

#### 【成績評価の方法と基準】

各授業ごとの平常点（50%）と学期末のレポート（50%）の両方を成績評価の基準とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course introduces some ideas of novelist Franz Kafka to students taking this course.

Although born at the end of 19's century Prague Kafka is still bringing up important issues for us. The aim of this course is to guide students to acquire of these issues, for example a meaning of name, identity, law, family, fiction and a state of diaspora.

SOS100LA

## 社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

## 洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～R、営 1 年 A～H、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではハンナ・アーレントの思想を学びます。20 世紀初めにドイツで生まれ、ハイデガーやヤスパーズに哲学を学び、ユダヤ人であったためナチズムから逃れてアメリカへ亡命するという経験は彼女を政治思想に向かわせました。この授業ではその生涯を踏まえながら、20 世紀という時代の経験を生きたアーレントの政治思想を学びます。

## 【到達目標】

アーレントが生きた時代の歴史的背景を理解することができる

アーレントの政治思想を理解することができる

アーレントの政治思想をレポートなどによって自分の言葉で表現することができる

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式をとりますが、出席者には各授業においてリアクションペーパーやメールを提出してもらい、授業へのフィードバックに活かして、アクティブ・ラーニングを行っていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価の方法についての説明
2	導入（1）	時代背景（1）
3	導入（2）	時代背景（2）
4	哲学と詩（1）	マルブルクとハイデルベルク
5	哲学と詩（2）	ナチ前夜
6	亡命の時代（1）	パリ
7	亡命の時代（2）	収容所
8	ニューヨーク（1）	難民という経験
9	ニューヨーク（2）	全体主義の起源
10	1950 年代（1）	ヨーロッパ再訪
11	1950 年代（2）	人間の条件
12	アメリカ社会（1）	レッシング賞
13	アメリカ社会（2）	アイヒマン論争
14	まとめ	精神の生活

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって、1 時間ほど、参考文献を自ら進んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

## 【参考書】

授業中に説明します。

## 【成績評価の方法と基準】

各授業ごとの平常点（50 %）と学期末のレポート（50 %）の両方を成績評価の基準とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course introduces political ideas of Hannah Arendt to students taking this course.

Born in Germany at the beginning of the 20's century and after grown up she studied philosophy from Heidegger and Jaspers. But German Nazism expelled her from her own country to USA and that event made her political philosopher. The aim of this course is to guide students to acquire Arendt's life and her political ideas.

SOS100LA

## 社会思想 I

2017 年度以降入学者

## 網谷 壮介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B、営 1 年 J～U、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考えてきたのか、その思想が織りなす歴史を研究する学問です。春学期は社会契約論という考え方を学びます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

高校で世界史を履修していることが望ましいですが、履修していない人にも理解できるように説明します。

## 【到達目標】

本講義は社会契約論という考え方をテーマに、主に 17 世紀から現代の思想家までを取り上げます。社会契約論とは「私たちの社会は契約によって成り立っている」という発想です。これは、ちょっとぎょっとする考え方かもしれませんが、どうして国家に服従しなければならないのか、政治はどのように行われるべきか、どんな社会が正しい社会なのかといった問題を考える際に、非常に重要なツールとなります。社会契約という発想は、歴史のなかで繰り返し登場しますが、それが登場する文脈は異なります。どのような発想が、どのような文脈で、なんのために用いられたのかを理解し、それを説明できるようになることが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日である。Zoom を用いて行う。受講方法の詳細は、Hoppii の「お知らせ」欄に掲載の「【重要】授業方法・成績評価方法の変更」にて通知している。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会思想史とはなにかを理解する。
第 2 回	古代・中世の社会観	アリストテレスのゾーン・ポリテイコン、キリスト教における国家論を理解する。
第 3 回	危機のヨーロッパ	宗教戦争期の社会を背景に、王権神授説とモナルコマキの議論を説明できるようになる。
第 4 回	ホブズとイングランドの内戦	ホブズ『リヴァイアサン』の政治的コンテクストを理解する。
第 5 回	ホブズの契約論	ホブズの『リヴァイアサン』の契約論を、政治的コンテクストと照らし合わせて理解する。
第 6 回	プーフェンドルフのホブズ批判	ドイツの法学者プーフェンドルフのホブズ批判の要点を説明できるようになる。

第7回	ロックと名誉革命	名誉革命期の論争を背景に、ロックの契約論を理解し、ホッブズ、プーフェンドルフとの違いを説明できるようにする。
第8回	ヒュームの契約論批判	ヒュームの社会契約論批判を理解する。
第9回	ルソーの『社会契約論』	一般意志の概念と社会契約の観念について理解する。
第10回	カントの道徳・政治哲学	ルソーを引き継ぎ、道徳・政治哲学を理性の観点から構築したカントの議論を理解する。
第11回	カントの国家論とフランス革命	社会契約論を理性理念とし、正義の基準としたカントの国家論が説明できるようにする。
第12回	市民社会論：スミスとヘーゲル	ヒュームの議論を受け継ぎ政治経済学を確立したスミス、スミスの市民社会論を国家論に統合したヘーゲルを理解する。
第13回	ロールズの正義論	現代政治哲学において、長く忘れられていた社会契約論を再興し、正義論へと彫琢したロールズの議論を理解する。
第14回	総括	社会契約論の理論的展開を概括し、要点を整理する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で取り上げた著作を、自分で読んでみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業で取り上げた思想家の著作を実際に手にとって読んでみてください。

#### 【参考書】

網谷壮介『カントの政治哲学入門：政治における理念とは何か』白澤社、2018年

重田園江『社会契約論』ちくま新書、2013年

宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。

授業課題:80%

期末レポート:20%

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度の履修者によれば、本講義の内容を難しいと感じる学生が一定数います。授業で講義の内容を聞いただけではなかなか理解できないと感じるのであれば、その場合には参考書の欄に挙げた著作を読むなどして復習することを薦めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムにスライドと資料のpdfファイルをアップロードしておくので、授業時に印刷して持参してもらう必要があります。

#### 【Outline and objectives】

This course offers an introduction to history of western social and political thought, with special emphasis on the topics around social contract theory. The main objectives are to understand social thoughts in historical contexts and to gain a critical perspective on the social and political institutions which we have so far taken for granted.

SOS100LA

## 社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

### 網谷 壮介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

文1年A～B、営1年J～U、環1年／法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考えてきたのか、その思想が織りなす歴史を研究する学問です。秋学期では公共性について歴史的に考えていきます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。高校で世界史を履修していることが望ましいですが、履修していない人にも理解できるように説明します。

#### 【到達目標】

本講義では公共性という概念を歴史の中で検討することで、「公」と「私」の関係の望ましいあり方を考えます。到達目標は、(1)古代と近代、現代で公共性概念にどのような違いが見られるか、(2)カント、アレント、ハーバーマスの公共性概念とはどのようなものか、(3)現代の公共性の問題は何かを理解し、自分の言葉で説明できるようにすることです。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式で行いますが、授業内で実際に資料を読んでもらい、受講生同士で内容についてディスカッションして理解を深める時間を設けます。事前に学習支援システムにスライドと資料のpdfファイルをアップロードしておくので、授業時に印刷して持参してもらう必要があります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ブレインストーミングを通じて、公共性についてイメージと概略を掴む。
第2回	古代ギリシアの公共性	古代ギリシアの民主制を背景にし、プラトン、アリストテレスの政治思想における公の概念を理解する。
第3回	古代ローマの公共性	共和制ローマの思想家ポリュビオス、キケロにおいて <i>res publica</i> とは何を意味したのかを説明できるようにする。
第4回	哲学者と観想的生	古典古代の思想家たちが、市民的生と観想的生をいかに区別していたのか、特にディオゲネス、ストア派、初期キリスト教思想を概観する。
第5回	絶対主義における公共性	絶対主義期の公共性の特徴を、宮廷や国家理性、権力の観点から理解する。
第6回	市民的公共性の誕生	ハーバーマス『公共性の構造展開』をもとに、市民的公共性の生成過程を理解し、自分の言葉で説明できるようにする。

第7回	カントと理性の公的使用	事前に「啓蒙とはなにか」を読んできてもらい、授業内でカントの啓蒙と理性の公的使用について議論する。
第8回	公共性の構造転換	ミル、トクヴィル、マルクスの市民的公共性批判を説明できるようになる。
第9回	ファシスト的公共性	全体主義時代の公共性について、映像やポスターを通じて理解する。
第10回	アーレント	公共性の哲学者としてアーレントを取り上げ、彼女の議論を自分の言葉で説明できるようになる。
第11回	ハーバーマス	公共性の哲学者としてハーバーマスを取り上げ、討議理性や熟識民主主義について理解する。
第12回	現代の公共性の課題(1)	現代の公共性の課題として、公共圏からの排除(女性、黒人、少数民族、LGBT)の問題を理解し、批判的に思考できるようになる。
第13回	現代の公共性の課題(2)	現代の公共性の課題として、新自由主義的統治を理解し、自分の言葉でその問題点を論じられるようになる。
第14回	試験	公共性の思想史に関する論述試験を行う。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

第7回の授業には事前の予習(カントのテキストを読んでくる)が必要になります。その他、授業内で取り上げた著作を実際に手にとって読んでみるのが強く推奨されます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業で取り上げた思想家の著作を実際に手にとって読んでみてください。

#### 【参考書】

齋藤純一『公共性』岩波書店、2000年  
 ユルゲン・ハーバーマス、細谷貞雄・山田正行訳『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究〔第2版〕』未来社、1994年  
 ハンナ・アーレント、志水速雄訳『人間の条件』ちくま学芸文庫、1994年  
 宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年  
 網谷社介『カントの政治哲学入門：政治における理念とは何か』白澤社、2018年

#### 【成績評価の方法と基準】

授業課題(30パーセント)＋期末試験(70パーセント)  
 授業後にweb上で課題を提出してもらい回を不定期に6回程度設けます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度の履修者によれば、本講義の内容を難しいと感じる学生が一定数います。授業で講義の内容を聞いただけではなかなか理解できないと感じるのであれば、その場合には参考書の欄に挙げた著作を読むなどして復習することを薦めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムにスライドと資料のpdfファイルをアップロードしておくので、授業時に印刷して持参してもらう必要があります。

#### 【Outline and objectives】

This course offers an introduction to history of western social and political thought, with special emphasis on the topics around public and private sphere. The main objectives are to understand social thoughts in historical contexts and to gain a critical perspective on the social and political institutions which we have so far taken for granted.

SOS100LA

## 社会思想 I

2017年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

環1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

社会批評の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の1945年から1980年代まで、もっとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版人に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

#### 【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようにする。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。パワーポイントの内容は、授業の前に「授業支援システム」の「教材」に掲げる。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4月15日(水)午前10:00~4月20日(月)午前9:00

詳細は、以下に掲載の「2020年度ILAC科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>)を確認してください。

【以下、変更点(4月20日現在)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日(月)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/ 人文学の再定義	授業の進め方を提示しながら、人文書を読むことの意義を再確認する。
2	社会科学から人文学へ	社会科学と人文学は本質的にどこが違うのか？ 戦後思想を考察するための基礎的な定義を試みる。
3	8月15日からの出発 ——丸山眞男①	『世界』の創刊(1946年)と丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を中心に、戦後ジャーナリズムの始まりを見る。

- |    |                         |   |
|----|-------------------------|---|
| 4  | 8月15日からの出発<br>——丸山眞男②   | 「超国家主義の論理と心理」を精読し、「抑圧移譲」など丸山政治学の基礎的発想の意味を再検討する。         |
| 5  | マルクス、リベラル、保守            | 講和条約から60年安保闘争へと至る時代に現れて戦後思想の基盤を形作った、「左・右」さまざまな思潮を概観する。  |
| 6  | 60年安保とマスコミ知識人——清水幾太郎①   | 戦後最大の大衆運動、60年安保闘争の渦中に進出したマスコミ知識人たちの活動を、清水幾太郎らによる啓蒙に探る。  |
| 7  | 60年安保闘争とマスコミ知識人——清水幾太郎② | 清水幾太郎『現代思想』（1966年）を参照しながら、清水の「転向」と60年安保以降の思想の転換点を探る。    |
| 8  | 戦後の終焉と日本民俗の再発見——柳田國男    | 戦後の終焉と高度経済成長の開始とともに見直された日本の民俗文化を、柳田國男『遠野物語』を中心に解説する。    |
| 9  | 在野思想家の顛覆戦略——吉本隆明        | 東京オリンピックを経た高度経済成長時代を挟み、既成知識人を圧倒した在野思想家吉本隆明の戦略を探る。       |
| 10 | 文化人類学と新しい知——山口昌男        | 歴史主義的思考に異を唱えた山口昌男の「中心と周縁」論と、構造人類学がもたらした新しい知の誕生の成否を探る。   |
| 11 | 言語学から構造主義へ——翻訳書の時代      | レヴィ＝ストロースの人類学と、それに影響を与えたソシュール『一般言語学講義』における構造主義の衝撃を読む。   |
| 12 | 伝統からの応答①国文学——西郷信綱       | 伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 国文学者西郷信綱の著作をもとに、古典を読むことの意味を再発見する。 |
| 13 | 伝統からの応答②歴史学——網野善彦       | 伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 日本史学者網野善彦の著作のなかに、新しい人文学誕生の可能性を見る。 |
| 14 | まとめ                     | 13回分の講義を総復習して、春学期のまとめとする。                               |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでとりあげる参考文献を熟読する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

#### 【参考書】

丸山眞男『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）、清水幾太郎『現代思想』（岩波書店）、柳田國男『遠野物語』（ちくま文庫）、吉本隆明『共同幻想論』（角川ソフィア文庫）、山口昌男『山口昌男コレクション』（ちくま学芸文庫）、ソシュール／小林英夫訳『一般言語学講義』（岩波書店）、西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）、網野善彦『増補 無縁・公界・楽』（平凡社ライブラリー）など。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験を中心に行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。ただし、学期中数回にわたってレスポンスシートを回収し、期末試験への加点（最大で10%ほど）とする。

#### 【以下、変更点（4月20日現在）】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

双方向性をもつ授業が望ましいが、毎年、学生数がかかなり多いので断念する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし。

#### 【Outline and objectives】

This is a lecture by an active publisher on the history of postwar publication and books on humanities. We consider the process of formation and spread of social criticism while focusing on the thinkers, books on humanities and publishers that most remarkably influenced the postwar Japan from 1945 to the 1980s. Finally, we think about the impact and meaning of those thoughts on our society.

SOS100LA

## 社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が開花しようとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

## 【到達目標】

20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本テキストならびに配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。パワーポイントの内容は、授業の前に「授業支援システム」の「教材」に掲げる。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4 月 15 日（水）午前 10：00～4 月 20 日（月）午前 9：00

詳細は、以下に掲載の「2020 年度 ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>) を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 20 世紀思想の星座	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として 20 世紀思想の翻訳の現場を紹介する。
2	ベンヤミンのパリ	19 世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（I「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（I「フーリエあるいはパサージュ」②）。

5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（I「フーリエあるいはパサージュ」③）。
6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる（II「ダゲールあるいはパノラマ」）。
7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界（III「グランヴィルあるいは万国博覧会」）。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する（IV「ルイ＝フィリップあるいは室内」）。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった（V「ボードレールあるいはパリの街路」①）。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する（V「ボードレールあるいはパリの街路」②）。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性（V「ボードレールあるいはパリの街路」③）。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する（VI「オスマンあるいはバリケード」①）。
13	コミュニケーションの夢	広い街路にバリケードが造られ、パリ・コミュニケーションの夢が一瞬だけ実現するが……（VI「オスマンあるいはバリケード」②）。
14	まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでとりあげる参考文献を熟読する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」（浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション 1』ちくま学芸文庫、1995 年、所収）を主に使用する。

## 【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験を中心に行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。ただし、学期中数回にわたってレスポンスシートを回収し、期末試験への加点（最大で 10 % ほど）とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向性をもつ授業が望ましいが、毎年、学生数がかかなり多いので断念する。講読するテキストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【Outline and objectives】

In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

SOS100LA

## 社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

## 【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

すくなくとも春学期の前半は、オンラインでの開講になります。これにともなう授業の計画や進め方の変更に関する詳細については、「学習支援システム」をつうじて伝達いたします。なお、本授業の開始日は4月24日（金）といたします。この日をめどに、Youtube上に講義動画を公開し、URLを履修者にお伝えする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について

4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

#### 【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

すくなくとも春学期の前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の基準も変更することになりそうです。詳細につきましては、「学習支援システム」をつうじてお伝えいたします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

なし

#### 【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

## 社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法1年A～G、キ1年/法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を取捨する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで20世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

#### 【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、板書を利用したオーソドックスな講義形式でおこなう。ただし、毎回質疑応答の機会をもうける。履修者による活発な授業への参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホブズの『リヴァイヤサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名譽革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	パークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

#### 【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート課題30%、期末試験70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

なし

#### 【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

MAT100LA

## 教養数学 A

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

法1年A～G、文1年E～I・P～V / 法文営国環キ2～4年

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

### 【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（帽子と眼鏡と付け髭）** 市谷くんは帽子  $H_1, H_2, \dots, H_{15}$  と眼鏡  $G_1, G_2, \dots, G_{10}$  と付け髭  $M_1, M_2, \dots, M_{25}$  をもっている。それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は  $H_1, G_1, M_1$  の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには  $H_{13}, G_8, M_{18}$  の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第2回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第3回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第4回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。

第10回 連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回 連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回 整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回 整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回 整数の理論の応用	計算の効率について考える。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

#### 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

## 教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法1年A～G、文1年E～I・P～V / 法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

#### 【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。

第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の $n$ についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価する。(100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

## 教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H~N、キ 1 年/法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

## 【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（帽子と眼鏡と付け髭）** 市谷くんは帽子  $H_1, H_2, \dots, H_{15}$  と眼鏡  $G_1, G_2, \dots, G_{10}$  と付け髭  $M_1, M_2, \dots, M_{25}$  をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は  $H_1, G_1, M_1$  の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには  $H_{13}, G_8, M_{18}$  の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えが必ず得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。

第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

#### 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

## 教養数学 B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H~N、キ 1 年/法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

#### 【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。

第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の $n$ についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

#### 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

#### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価する。(100%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

## 教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

#### 【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（帽子と眼鏡と付け髭）** 市谷くんは帽子  $H_1, H_2, \dots, H_{15}$  と眼鏡  $G_1, G_2, \dots, G_{10}$  と付け髭  $M_1, M_2, \dots, M_{25}$  をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は  $H_1, G_1, M_1$  の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには  $H_{13}, G_8, M_{18}$  の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

**【学生の意見等からの気づき】**

私語がなくなるよう改善したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【Outline and objectives】**

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

**教養数学 B**

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

**【到達目標】**

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験

## 【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

## 教養数学A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文1年A・B・L～N・W・X、国1年／法文営国環キ 2～4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

## 【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（帽子と眼鏡と付け髭）** 市谷くんは帽子  $H_1, H_2, \dots, H_{15}$  と眼鏡  $G_1, G_2, \dots, G_{10}$  と付け髭  $M_1, M_2, \dots, M_{25}$  をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は  $H_1, G_1, M_1$  の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには  $H_{13}, G_8, M_{18}$  の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

**【学生の意見等からの気づき】**

私語がなくなるよう改善したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【Outline and objectives】**

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

**教養数学 B**

2017 年度以降入学者

**小木曾 岳義**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A・B・L～N・W・X、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

**【到達目標】**

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験

## 【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

## 教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

## 【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（帽子と眼鏡と付け髭）** 市谷くんは帽子  $H_1, H_2, \dots, H_{15}$  と眼鏡  $G_1, G_2, \dots, G_{10}$  と付け髭  $M_1, M_2, \dots, M_{25}$  をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は  $H_1, G_1, M_1$  の組み合わせであった。市谷くんのお気に入り入りは  $H_{13}, G_8, M_{18}$  の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。

第13回 さまざまな応用 置換でアミダクジを作る。  
 第14回 さまざまな応用 結婚可能かどうかを計算する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

#### 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

#### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

## 教養数学B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

キ1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

#### 【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる際の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第13回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第14回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

## 教養数学 A

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

## 【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（帽子と眼鏡と付け髭）** 市谷くんは帽子  $H_1, H_2, \dots, H_{15}$  と眼鏡  $G_1, G_2, \dots, G_{10}$  と付け髭  $M_1, M_2, \dots, M_{25}$  をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は  $H_1, G_1, M_1$  の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには  $H_{13}, G_8, M_{18}$  の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日（概要資料のアップロード）は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	連立合同式	合同式を利用して、上記例題の解法を修得する。
第 06 回	整数論の応用	整数論を利用した公開鍵暗号の仕組みを理解する。
第 07 回	エラトステネスの篩	素数表の作成法と素数分布の特徴を紹介する。

第 08 回	計算の一般化	行列の基本的な定義や用語を理解する。
第 09 回	行列の基本計算	行列の掛算と計算の意味を理解する。
第 10 回	行列計算の応用	日本の 2030 年人口の予測を行う。
第 11 回	隣接行列・確率行列	隣接行列・確率行列の応用例を学ぶ。
第 12 回	逆行列	逆行列の計算方法とその応用例を学ぶ。
第 13 回	項書換え系	項書換え系の基本的な定義を理解する。
第 14 回	項書換え系の応用	項書換え系を利用した代数問題の解法を学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、アンケートや普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

#### 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

## 教養数学 B

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

#### 【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	動的計画法	動的計画法の基本的な考え方を理解する。
第 03 回	ナップサック問題	ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。
第 04 回	予習時間計画問題	試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。
第 05 回	編集距離	2つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。
第 06 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 07 回	グラフ理論の応用例	グラフ理論の初歩的な活用事例を紹介する。
第 08 回	プリム法	東京 23 区区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。
第 09 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。

第10回	オイラーの定理	上記例題に答える為の定理を紹介する。
第11回	一筆書きの構成	一筆書き経路を具体的に作成する方法を学ぶ。
第12回	ダイキストラ法	町田から羽田空港への最短経路を求める。
第13回	組合せ論	順列と組合せの基本的な計算方法を学ぶ。
第14回	母関数	100円の両替パターンの総数を求める。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

#### 【参考書】

特に指定しないが。

#### 【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、アンケートや普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

#### 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

## 教養数学A

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

国環1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

#### 【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的な算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月5日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第3回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第4回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第5回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第6回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第7回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第8回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第9回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第10回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第11回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第12回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

双方向の授業になるよう心がける。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

**教養数学 B**

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

**【到達目標】**

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定マッチング 1	安定結婚問題における Gale-Shapley のアルゴリズムについて学ぶ。
第 3 回	安定マッチング 2	Gale-Shapley のアルゴリズムの計算量について学ぶ。
第 4 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 5 回	アルゴリズム解析 1	計算量の定義について学ぶ。
第 6 回	アルゴリズム解析 2	種々の計算量について学ぶ。
第 7 回	無向グラフ 1	無向グラフの定義と記法を確認する。
第 8 回	無向グラフ 2	2 部グラフとケーニッヒの定理について学ぶ。
第 9 回	グラフアルゴリズム 1	木構造と幅優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 10 回	グラフアルゴリズム 2	木構造と深さ優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 11 回	データ構造	配列とリストについて学ぶ。

- 第12回 有向グラフ1 有向グラフの定義と記法を確認する。  
 第13回 有向グラフ2 トポロジカルソートについて学ぶ。  
 第14回 まとめ 授業全体を再確認してまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

## 教養数学A

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

環キ1年/法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

## 【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的な算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第3回	ユークリッドの互除法1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第4回	ユークリッドの互除法2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第5回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第6回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第7回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第8回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第9回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第10回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第11回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第12回	RSA 公開鍵暗号1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

双方向の授業になるよう心がける。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

**教養数学 B**

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

**【到達目標】**

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

**問題（郵便配達）** 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる際の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定マッチング 1	安定結婚問題における Gale-Shapley のアルゴリズムについて学ぶ。
第 3 回	安定マッチング 2	Gale-Shapley のアルゴリズムの計算量について学ぶ。
第 4 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 5 回	アルゴリズム解析 1	計算量の定義について学ぶ。
第 6 回	アルゴリズム解析 2	種々の計算量について学ぶ。
第 7 回	無向グラフ 1	無向グラフの定義と記法を確認する。
第 8 回	無向グラフ 2	2 部グラフとケーニッヒの定理について学ぶ。
第 9 回	グラフアルゴリズム 1	木構造と幅優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 10 回	グラフアルゴリズム 2	木構造と深さ優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 11 回	データ構造	配列とリストについて学ぶ。

- 第12回 有向グラフ1 有向グラフの定義と記法を確認する。  
 第13回 有向グラフ2 トポロジカルソートについて学ぶ。  
 第14回 まとめ 授業全体を再確認してまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

## 基礎数学 I

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

営1年A・B・C / 法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

## 【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	$\Sigma$ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

問題の難易度の調整に気を配りたい。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A・B・C / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

## 【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

## 基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

松田 直祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 D・E / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

## 【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

授業開始は5月7日とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	$\Sigma$ 記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

他には特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

松田 直祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 D・E / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

## ～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

その他には特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

**【その他の重要事項】**

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

**基礎数学Ⅰ**

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 G / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

**【到達目標】**

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

当面の間、オンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

問題の難易度の調整に気を配りたい。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 G / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

## ～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

## 【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

## 基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 S・T・U / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

## 【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	$\Sigma$ 記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

問題の難易度の調整に気を配りたい。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 S・T・U / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

## 【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

## 基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

松田 直祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 O・Q・R / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

## 【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

授業開始は5月7日とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	$\Sigma$ 記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし。

## 【参考書】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

他には特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

松田 直祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 O・Q・R / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

## ～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

その他には特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

**【その他の重要事項】**

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

**基礎数学Ⅰ**

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 N / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

**【到達目標】**

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日（概要資料のアップロード）は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

問題の難易度の調整に気を配りたい。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 N / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

## 【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

## 基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 F・H・J / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

## 【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日（概要資料のアップロード）は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中に課題に取り組む時間を十分に確保したい。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 F・H・J / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に課題に取り組む時間を十分に確保したい。

## 【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

## 基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 K・L・M / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

## 【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日（概要資料のアップロード）は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ( $n=1,2,\dots$ ) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ( $n=-1,-2,\dots$ ) のグラフ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

## 【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

課題ごとの難易度に配慮したい。

**【その他の重要事項】**

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

**【Outline and objectives】**

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

**基礎数学Ⅱ**

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 K・L・M / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

**【到達目標】**

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

**【参考書】**

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

課題ごとの難易度に配慮したい。

## 【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

## 【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによつて、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

## 【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

本授業の開始日は 4 月 23 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動	惑星の運動を明らかにしたケプラーの法則について、歴史的な背景も含めて解説する。
第 3 回	地上での物体の運動	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	太陽系天体の運動	ハレー彗星を含めた太陽系天体の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。
第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。

- 第12回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。そこから導かれる宇宙最下限の温度である絶対零度についても解説する。
- 第13回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。
- 第14回 まとめ 全体のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

#### 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績70%と授業への積極的な貢献度30%で評価する。なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムにて提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、コメントシート等を活用して疑問や質問に答えていきたいと思えます。

#### 【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法1年 A～G、国1年/法文営国環キ 2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の1つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば21世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

#### 【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定である。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていく。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業の全体について紹介する。
第2回	光の性質〈波動性〉	光の波動性について、発見に至る経緯も含めて解説する。
第3回	光の性質〈粒子性〉	太陽電池に関係する光の粒子性について、発見に至る経緯も含めて解説する。
第4回	光の性質〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第5回	原子の構造〈電子の発見〉	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第6回	原子の構造〈原子核の発見〉	原子の構造について、その発見に至る過程も含めて解説する。
第7回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第8回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第9回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第10回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の1つである超新星爆発について解説する。
第11回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第12回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。

- 第13回 銀河系、宇宙の大規模構造 我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
- 第14回 まとめ 最新の宇宙論について紹介し、全体のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

#### 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 70%と授業への積極的な貢献度 30%で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、コメントシート等を活用して疑問や質問に答えていきたいと思えます。

#### 【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。

身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

#### 【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自然科学の中で物理学の研究対象や、本講義の内容について概観する
2	宇宙の力学	主にケプラーの法則を中心に、惑星の運動を解説する
3	地上の力学	落体の法則と慣性の法則について解説する
4	運動の記述	運動を記述する上で必要なデカルト座標、速度、加速度などについて解説する
5	ニュートンの運動の法則	運動の3法則について解説する
6	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
7	摩擦や空気抵抗のある運動	より現実的な、摩擦や空気抵抗のある場合の運動について具体例を示して解説する
8	運動量保存則	運動量保存則について解説する
9	仕事とエネルギー	物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する

10	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する
11	ロケットや人工衛星の運動	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
12	円運動とコリオリ力	コリオリ力とその具体例について解説する
13	剛体の回転運動	剛体の回転運動と角運動量保存則について解説する
14	まとめと期末試験	春学期のまとめを行う。期末試験を実施する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

#### 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と期末試験（約 50 %）により評価する。期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。期末レポートは、授業内容に関する身近な例や具体例に関した課題を出題する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・Explain the falling motion of objects
- ・Describe the scientific definition of the work and energy
- ・Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に大きな宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

#### 【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義で扱うテーマについて概観する
2	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
3	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
4	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
5	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
6	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
7	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
8	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
9	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
10	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
11	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する

12	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
13	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
14	まとめと期末試験	授業のまとめを行う。期末試験を実施する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて講義中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績 80 % と小レポート（学期中に2回程度実施）20 % で評価する。

期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。小レポートは、授業で扱った基礎的な内容について簡潔な文章で説明するものであり、学期中に2回程度実施する。

**【学生の意見等からの気づき】**

分かりやすい授業になるように心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

**入門物理学 A**

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H~N・Y / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。
- ・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

**【到達目標】**

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々の身の回り起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。（以下は対面授業が可能となった場合）
- ・高校で物理を履修していなくても理解できるように平易に（数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように）講義を行う。
- ・講義内容の理解を深めるための演習問題を用意し、解説を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。

8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
10	色々な運動 (2)	乗り物によっているときや自転している地球上での運動について考える。
11	色々な運動 (3)	我々の太陽系以外の惑星系の探索方法やその最近の成果について学ぶ。
12	色々な運動 (4)	宇宙における天体の運動の解析から知られるように暗黒物質などの最新のテーマについて学ぶ。
13	色々な運動 (5)	月や他の惑星に向かうための力学的条件について学ぶ。
14	まとめ	物体運動の予言性 (決定論・非決定論) について考える。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布されるプリント、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみること。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著 (東京大学出版会、1996)  
・「物理学への招待」大槻義彦著 (培風館、1989)  
シップマン・自然科学入門「新物理学」(増補改訂版) J. T. Shipman 著、勝守寛監訳 (学術図書出版社、2002)  
・「世界のたね-真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳 (日本放送出版協会、1999)  
(その他、必要に応じて授業中に紹介する。)

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental field of physics.

Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H~N・Y / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱 (熱伝導、熱機関、...)、光 (昼気楼、虹、光通信、光電池、...) といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的 (マクロ)、微視的 (ミクロ) それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。  
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

#### 【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。  
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的 (マクロ)、微視的 (ミクロ) それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

・高校で物理を履修していなくても理解できるように平易に (数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように) 講義を行う。  
・講義内容の理解を深めるための演習問題を用意し、解説を行う。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	光 (1)	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	光 (2)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	光 (3)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	光 (4)	光電効果など光の持っている粒子的性質を学ぶ。
10	光 (5)	原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	粒子性と波動性	光の持っている”波動性”、”粒子性”について考える。
13	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。
14	まとめ	講義のまとめとして、”巨視的・微視的に見る”ことおよび、”エネルギーの変換と保存”という観点から身の回りの現象を考察する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されるプリント、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）  
 ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）  
 ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）  
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を8割程度とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいくうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

#### 【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通じて、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とする。ただし、初回授業は授業計画にあるようにガイダンスなどが主な内容である。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示する。物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は講義形式で行う。物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（主に図や動画）と黒板（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。

第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときを感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。授業で使用したパワーポイントの pdf ファイルを授業支援システムに掲載する。

#### 【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻, 第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。評価方法については受講者のインターネット環境（機器が PC かスマホかなど）やスキルも考慮しなければならないので、アンケートを実施する予定である。アンケートの結果により評価方法を変更する場合もある。

平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料（授業支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合、単位取得は出来ないと思われるので、出席は重要である。病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布と授業に関するお知らせの掲示に授業支援システムを使用するので、自宅でインターネットに接続できる機器（スマホや PC など）が必要である。

#### 【その他の重要事項】

オンライン授業の場合以下の内容は適用しない。  
授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回・3 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 A 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取ること。

#### 【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：オーロラと星と宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくしてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

## 【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

授業は講義形式で行う。物理学の基礎知識がなくても（「入門物理学 A」を受講していなくても）理解できるように解説する。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（主に図や動画）と黒板（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	$\alpha$ と $\beta$ と $\gamma$ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。

第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを授業支援システムに掲載する。

## 【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理科学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理科学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やさしい放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

(pdf ファイル <https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>)

## 【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料（授業支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合、単位取得は出来ないと思われるので、出席は重要である。病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持っているかどうかという点にあるのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布と授業に関するお知らせの掲示に授業支援システムを使用するので、自宅でインターネットに接続できる機器（スマホや PC など）が必要である。

## 【その他の重要事項】

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 B 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取ること。

## 【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。

身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

## 【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自然科学の中で物理学の研究対象や、本講義の内容について概観する
2	宇宙の力学	主にケプラーの法則を中心に、惑星の運動を解説する
3	地上の力学	落体の法則と慣性の法則について解説する
4	運動の記述	運動を記述する上で必要なデカルト座標、速度、加速度などについて解説する
5	ニュートンの運動の法則	運動の 3 法則について解説する
6	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
7	摩擦や空気抵抗のある運動	より現実的な、摩擦や空気抵抗のある場合の運動について具体例を示して解説する
8	運動量保存則	運動量保存則について解説する
9	仕事とエネルギー	物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する

10	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する
11	ロケットや人工衛星の運動	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
12	円運動とコリオリ力	コリオリ力とその具体例について解説する
13	剛体の回転運動	剛体の回転運動と角運動量保存則について解説する
14	まとめと期末試験	春学期のまとめを行う。期末試験を実施する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて講義中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポート（約 50 %）と期末試験（約 50 %）により評価する。期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。期末レポートは、授業内容に関する身近な例や具体例に関した課題を出題する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

分かりやすい授業になるように心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・ Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・ Explain the falling motion of objects
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

**入門物理学 B**

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

**井坂 政裕**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に大きな宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

**【到達目標】**

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	序章	講義で扱うテーマについて概観する
2	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
3	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
4	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
5	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
6	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
7	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
8	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
9	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
10	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
11	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する

12	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
13	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
14	まとめと期末試験	授業のまとめを行う。期末試験を実施する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

#### 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80 % と小レポート（学期中に2回程度実施）20 % で評価する。

期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。小レポートは、授業で扱った基礎的な内容について簡潔な文章で説明するものであり、学期中に2回程度実施する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

#### 【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

本授業の開始日は 4 月 23 日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の

方法などを、学習支援システムで提示する予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動	惑星の運動を明らかにしたケプラーの法則について、歴史的な背景も含めて解説する。
第 3 回	地上での物体の運動	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	太陽系天体の運動	ハレー彗星を含めた太陽系天体の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。そこから導かれる宇宙最下限の温度である絶対零度についても解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

#### 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 70%と授業への積極的な貢献度 30%で評価する。なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムにて提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、コメントシート等を活用して疑問や質問に答えていきたいと思えます。

#### 【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A~J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

#### 【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定である。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質〈波動性〉	光の波動性について、発見に至る経緯も含めて解説する。
第 3 回	光の性質〈粒子性〉	太陽電池に関係する光の粒子性について、発見に至る経緯も含めて解説する。
第 4 回	光の性質〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 5 回	原子の構造〈電子の発見〉	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第 6 回	原子の構造〈原子核の発見〉	原子の構造について、その発見に至る過程も合わせて解説する。
第 7 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 8 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 9 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 10 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つである超新星爆発について解説する。
第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。

第13回 銀河系、宇宙の大規模構造 我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。

第14回 まとめ 最新の宇宙論について紹介し、全体のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

#### 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 70%と授業への積極的な貢献度 30%で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、コメントシート等を活用して疑問や質問に答えていきたいと思えます。

#### 【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

#### 【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とする。ただし、初回授業は授業計画にあるようにガイダンスなどが主な内容である。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示する。物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は講義形式で行う。物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（主に図や動画）と黒板（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。

第3回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第4回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第5回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第6回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときを感じる慣性力を理解する。
第7回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第8回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第9回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第10回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第11回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第12回	相対論的ダイエツト法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第13回	ダイエツトしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第14回	試験・まとめと解説	期末試験を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。授業で使用したパワーポイントのpdfファイルを授業支援システムに掲載する。

#### 【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論のABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。評価方法については受講者のインターネット環境（機器がPCかスマホかなど）やスキルも考慮しなければならぬので、アンケートを実施する予定である。アンケートの結果により評価方法を変更する場合もある。

平常評価（小テストなど、配分40%）と期末試験（配分60%）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料（授業支援システムに掲載したpdfファイルを印刷したもの）を参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が0点の場合、単位取得は出来ないと考えるので、出席は重要である。病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を定めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布と授業に関するお知らせの掲示に授業支援システムを使用するので、自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやPCなど）が必要である。

#### 【その他の重要事項】

オンライン授業の場合以下の内容は適用しない。

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2回・3回の授業時に配布するプリント「入門物理学A 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取ること。

#### 【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：オーロラと星と宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくしてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

## 【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

授業は講義形式で行う。物理学の基礎知識がなくても（「入門物理学 A」を受講していなくても）理解できるように解説する。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（主に図や動画）と黒板（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	$\alpha$ と $\beta$ と $\gamma$ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。

第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする	宇宙が地球環境に与える影響を学ぼう。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。授業で利用したパワーポイントの pdf ファイルを授業支援システムに掲載する。

## 【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

(pdf ファイル <https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>)

## 【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テストなど、配分 40 %）と期末試験（配分 60 %）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料（授業支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合、単位取得は出来ないと思われるので、出席は重要である。病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布と授業に関するお知らせの掲示に授業支援システムを使用するので、自宅でインターネットに接続できる機器（スマホや PC など）が必要である。

## 【その他の重要事項】

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 B 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取る。

## 【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

## 入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。

・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

## 【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。（以下は対面授業が可能となった場合）

・高校で物理を履修していなくても理解できるように平易に（数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように）講義を行う。

・講義内容の理解を深めるための演習問題を用意し、解説を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。

8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
10	色々な運動 (2)	乗り物によっているときや自転している地球上での運動について考える。
11	色々な運動 (3)	我々の太陽系以外の惑星系の探索方法やその最近の成果について学ぶ。
12	色々な運動 (4)	宇宙における天体の運動の解析から知られるように暗黒物質などの最新のテーマについて学ぶ。
13	色々な運動 (5)	月や他の惑星に向かうための力学的条件について学ぶ。
14	まとめ	物体運動の予言性 (決定論・非決定論) について考える。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布されるプリント、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみること。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著 (東京大学出版会、1996)  
・「物理学への招待」大槻義彦著 (培風館、1989)  
シップマン・自然科学入門「新物理学」(増補改訂版) J. T. Shipman 著、勝守寛監訳 (学術図書出版社、2002)  
・「世界のたね-真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳 (日本放送出版協会、1999)  
(その他、必要に応じて授業中に紹介する。)

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental field of physics.

Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

## 入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱 (熱伝導、熱機関、...)、光 (昼気楼、虹、光通信、光電池、...) といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的 (マクロ)、微視的 (ミクロ) それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。  
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

#### 【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。  
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的 (マクロ)、微視的 (ミクロ) それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

・高校で物理を履修していなくても理解できるように平易に (数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように) 講義を行う。  
・講義内容の理解を深めるための演習問題を用意し、解説を行う。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	光 (1)	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	光 (2)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	光 (3)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	光 (4)	光電効果など光の持っている粒子的性質を学ぶ。
10	光 (5)	原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	粒子性と波動性	光の持っている”波動性”、”粒子性”について考える。
13	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。
14	まとめ	講義のまとめとして、”巨視的・微視的に見る”および、”エネルギーの変換と保存”という観点から身の回りの現象を考察する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されるプリント、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）  
 ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）  
 ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）  
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を8割程度とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

BIO100LA

## 入門生物学 A

2017年度以降入学者

### 木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNAから細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私たちの生活や社会に対してどのような影響をもたらし、私たちの「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

#### 【到達目標】

本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

4月20日(月)現在、学習支援システムがストップしていることから、仮登録ができない学生が出ているようです。そこで、授業開始を1週間遅らせることにしました。ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

4月28日(火)は学習支援システムにアクセスしてガイダンスを受けて下さい。

5月12日(火)からZOOMを使ったオンライン授業を行います。生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の3項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点はパワポで示しますが、必ずノートを取るようになって下さい。毎回、授業の後半に10~15分程度の映像教材を呈示します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第2回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第3回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第4回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第5回	遺伝子の正体DNA	メンデルが提唱した遺伝子がDNAであることが解明された経緯を学びます。
第6回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第7回	遺伝子改変生物の是非	人間があたりに作り出した生物の是非を考えます。

第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。
第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週 1 時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週 1 時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。(週 1 時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

#### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

出席 20% (ZOOM 会議に出席したら 10 分以内にチャットで学生番号を投稿)

授業内アンケート参加率 20%

授業要約 200 字 60%

翌週までに、授業内容を約 200 字で要約して学習支援システムに投稿。

要約のコツは 4 月 28 日 (火) の授業で説明する。

ZOOM にアクセスできない場合の対応は、個別にお知らせします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認して下さい。

#### 【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

#### 【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行い、板書を多用します。毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10~15 分程度の映像教材を呈示します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「マクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 4 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。

第 5 回 本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 6 回 意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 7 回 ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 8 回 群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 9 回 社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 10 回 発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 11 回 再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 12 回 生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 13 回 種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われていています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第 14 回 まとめ	13 回のまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。（週 1 時間以上）以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

#### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100 %提出された要約によって評価します。

春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

#### 【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくいという場合は、前の方に座って下さい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスが必須です。

#### 【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

BIO100LA

## 入門生物学 A

2017 年度以降入学者

## 木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのかを考えていきます。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

4 月 20 日 (月) 現在、学習支援システムがストップしていることから、仮登録ができない学生が出ています。そこで、授業開始を 1 週間遅らせることにしました。ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

4 月 28 日 (火) は学習支援システムにアクセスしてガイダンスを受けて下さい。

5 月 12 日 (火) から ZOOM を使ったオンライン授業を行います。生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の 3 項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点はパワポで示しますが、必ずノートを取るようして下さい。毎回、授業の後半に 10~15 分程度の映像教材を呈示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体 DNA	メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間があたりに作り出した生物の是非を考えます。

第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。
第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週 1 時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週 1 時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。(週 1 時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

## 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

出席 20 % (ZOOM 会議に出席したら 10 分以内にチャットで学生番号を投稿)

授業内アンケート参加率 20 %

授業要約 200 字 60 %

翌週までに、授業内容を約 200 字で要約して学習支援システムに投稿。

要約のコツは 4 月 28 日 (火) の授業で説明する。

ZOOM にアクセスできない場合の対応は、個別にお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

## 【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

## 【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行い、板書を多用します。毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10~15 分程度の映像教材を呈示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「マイクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 4 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。

## 第 5 回 本能行動

動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？ 神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。

## 第 6 回 意識と神経

ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

## 第 7 回 ミームの進化

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

## 第 8 回 社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。

## 第 9 回 発生・分化

多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

## 第 10 回 再生

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

## 第 11 回 生態学的生命観

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

## 第 12 回 種と多様性

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われてます。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

## 第 13 回 まとめ

13 回のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上） 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週 1 時間以上） 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

## 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100 %提出された要約によって評価します。  
春学期の授業支援システムでの入力は5月下旬以降になる予定です。

#### 【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくいという場合は、前の方に座って下さい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスが必須です。

#### 【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

BIO100LA

## 入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりでなく、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかっていくことでしょう。

#### 【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

4月20日(月)現在、学習支援システムがストップしていることから、仮登録ができない学生が出ています。そこで、下記の通りに授業開始日を遅らせることにしました。ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

#### 【授業開始日（変更後）】

授業開始日（第1回）：5月6日(水)5限 16:50～Zoomを用いてガイダンスとミニ講義を行います。

- ・授業はZoomを用いてオンラインで行います。Zoom授業に参加するための情報は学習支援システムを通じてお知らせします。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどのように説明するか。その考え方について、紀元前から現在までの変化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	ダーウィンは、地球上の生命は単一の起源から進化したという「進化論」を提唱しました。以降の生物学の進歩で、進化論は現在どのように考えられているのか解説します。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルは「遺伝子」という考え方を19世紀に提唱しました。その後、遺伝子の正体がDNAであることがわかり、生物学は大きく進歩します。

第4回	化学反応と酵素	今から200年ほど前「発酵」は化学反応か生物活動かという大論争が起きました。その後、酵素が発見され、多くの生命現象は酵素による化学反応であることが判明しました。
第5回	微生物工場	発酵食品は、微生物が増殖しながら代謝産物を放出する性質を利用して作られます。人工的に作られた微生物で薬品も製造されています。微生物の活用の歴史について学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという二重らせん構造をとる物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を保持するシステムとして働くために、どのような仕組みが存在しているのか解説します。
第8回	ウイルスと生命	ウイルスは19世紀末に病原体として発見され、単なる物質とも生命体ともとらえられています。生物にとってウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変することで新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されています。その原理を学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	人工的に遺伝子を改変された生物は、我々に恩恵をもたらす一方で、社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA全塩基配列の情報から、先天性の病気にとどまらず体質まで予測する時代になりました。今後ゲノムデータとどのようにつきあえばよいかを考えます。
第12回	遺伝子治療	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。原理的には人間を強化することも夢ではありません。ヒトの遺伝子改変の是非について考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	多細胞動物では、細胞の運命はいったん決まると元に戻ることはありません。このいったん決まった細胞運命を人工的に初期化する技術が、クローン技術とiPS細胞技術です。
第14回	移植医療・再生医療	移植用臓器不足問題を克服するため、クローン技術やiPS細胞技術で体のパーツをいくらかでも作れるようにする「再生医療」研究が進められています。その現状を解説します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

#### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 20%（授業内アンケートへの参加率などを評価します。）

・200字要約レポート 80%（第1回目の授業でミニ講義をし、第2回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第2回目以降の授業の要約レポートを作成してもらいます。提出方法など詳細は授業内でお知らせします。）

Zoomにアクセスできない場合の対応は、個別にお知らせします。

#### 【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

板書のスピードが早いことがある・板書の文字が下の方だと見えないとの意見がありましたので、気をつけていきます。映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

#### 【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、個別の生命現象を取り上げ、その背後に潜む生物特有のしくみを見つけ出していきます。授業は、講義形式で行い、板書を基本とします。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命誕生以降、光合成生物の誕生、陸上への進出などの大イベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えてみましょう。
第 2 回	マクロレベルの生命現象	生物をパーツに分解して調べるのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかという問題を扱う学問になります。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。ここでは、進化が起きるしくみと、その本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と虫といった共進化について学びます。
第 5 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。

第 6 回 本能行動

動物が生まれながらにして身につけている行動を「本能行動」と言います。そのしくみを調べるべくさまざまなアプローチの研究が行われました。

第 7 回 意識と神経

神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。ここではアリを取りあげ、その社会構造や個々のアリの働き方について学びます。

第 11 回 発生・分化

はじめは一細胞の受精卵が、細胞分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な一つの生物個体を作り上げるまでのしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物には傷を修復する能力が備わっており、生き物によってその程度はさまざまです。それぞれの生存戦略を、再生能力という点から考えます。

第 13 回 種

人類は多様な生き物を認識するために、生物に名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えてみます。

第 14 回 生物多様性

長い生命の歴史が作り出した生物多様性の成り立ちと、その保全のために行われている取り組みについて学び、現在の課題について考えます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

## 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字程度で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

## 【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真・動画の撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書のスピードが早いことがある・板書の文字が下の方だと見えないとの意見がありましたので、気をつけていきます。映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

**【その他の重要事項】**

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

**【Outline and objectives】**

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

BIO100LA

**入門生物学 A**

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A~G / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的現象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、ニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響が見えてくると思います。

**【到達目標】**

本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) ミクロレベルの生物学的現象に関する基礎知識の取得。2) 取得した知識の歴史・社会的な背景・意義の把握。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教室での授業ができない間は Zoom を使った遠隔授業を行います。4 月 20 日（月）現在、授業開始日は 5 月 8 日（金）です。前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式ですが、必要に応じて映像資料を使います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。
第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの現象としての呼吸の仕組みを学びます。

第 6 回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第 7 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第 8 回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報(ゲノム)を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第 9 回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第 10 回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用 1 ：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第 12 回	生命操作と生物利用 2 ：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産から衛生管理まで、開発・実用事例から現状を解説します。
第 13 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。学習内容を振り返りながら考察します。
第 14 回	春学期期末試験	春学期全体まとめの後、期末試験を実施します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、各回の授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

欠席時には学習支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

#### 【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

#### 【成績評価の方法と基準】

「成績評価は小テスト＝40%、期末試験＝50%、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に2回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。」という予定でしたが、遠隔授業の実施期間に各種課題を活用することが想定されますので、暫定的に「成績評価は小テスト＝20%、期末試験＝50%、授業参加（授業内外の課題）＝40%を基本とします。小テストは学期中に1回実施。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。」今後の状況次第で変更される可能性がありますので、随時通知します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

生物学の知識・関心にはばらつきがあり、配布資料や映像資料を充実させることや簡単な授業内活動を導入することで幅広く学生のニーズに対応することを心がけたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保、遠隔授業を受ける準備

#### 【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course provides an opportunity to learn basic biology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A~G / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得。2) 取得した基礎知識の問題解決における応用・意義の理解。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業は原則パワーポイントを使った講義形式ですが、学習内容のまとめを兼ねた演習を2回予定しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数動的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第2回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第3回	生態系のはたらき1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第4回	生態系のはたらき2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第5回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第6回	森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。

第7回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第8回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第9回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第10回	多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第11回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第12回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第13回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第14回	秋学期試験	秋学期全体のまとめの後期末試験を実施します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、各回の授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

## 【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト = 40%、期末試験 = 50%、授業参加 = 10%を基本とします。小テストは学期中に2回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習などの講義形式以外の授業方法の希望が多く、学習効果もあるようなので参加型の授業展開を検討したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

## 入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、ニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響が見えてくると思われます。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) ミクロレベルの生物学的事象に関する基礎知識の取得。2) 取得した知識の歴史・社会的な背景・意義の把握。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教室での授業ができない間は Zoom を使った遠隔授業を行います。4月20日（月）現在、授業開始日は5月8日（金）です。前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式ですが、必要に応じて映像資料を使います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。
第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。

## 第 6 回 進化論

現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。

## 第 7 回 メンデル遺伝学

現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。

## 第 8 回 ゲノム分析

ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。

## 第 9 回 遺伝子を操作する技術

分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。

## 第 10 回 クローニング技術

再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。

## 第 11 回 生命操作と生物利用 1 : 微生物

人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。

## 第 12 回 生命操作と生物利用 2 : 動植物

遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産から衛生管理まで、開発・実用事例から現状を解説します。

## 第 13 回 生命倫理

生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。学習内容を振り返りながら考察します。

## 第 14 回 春学期期末試験

春学期全体まとめの後、期末試験を実施します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、各回の授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

欠席時には学習支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

## 【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

## 【成績評価の方法と基準】

「成績評価は小テスト＝40%、期末試験＝50%、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に2回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。」という予定でしたが、遠隔授業の実施期間に各種課題を活用することが想定されますので、暫定的に「成績評価は小テスト＝20%、期末試験＝50%、授業参加（授業内外の課題）＝40%を基本とします。小テストは学期中に1回実施。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。」今後の状況次第で変更される可能性がありますので、随時通知します。

## 【学生の意見等からの気づき】

生物学の知識・関心にはばらつきがあり、配布資料や映像資料を充実させることや簡単な授業内活動を導入することで幅広く学生のニーズに対応することを心がけたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保、遠隔授業を受ける準備

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course provides an opportunity to learn basic biology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得。2) 取得した基礎知識の問題解決における応用・意義の理解。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業は原則パワーポイントを使った講義形式ですが、学習内容のまとめを兼ねた演習を2回予定しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第2回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第3回	生態系のはたらき1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第4回	生態系のはたらき2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第5回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第6回	森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。

第7回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第8回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第9回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第10回	多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第11回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第12回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第13回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第14回	秋学期試験	秋学期全体のまとめの後期末試験を実施します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、各回の授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

#### 【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40%、期末試験＝50%、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に2回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習などの講義形式以外の授業方法の希望が多く、学習効果もあるようなので参加型の授業展開を検討したい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

#### 【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

## 入門生物学A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

法1年H～N / 法文営国環キ2～4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNAから細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりでなく、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかっていくことでしょう。

#### 【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

4月20日(月)現在、学習支援システムがストップしていることから、仮登録ができない学生が出ています。そこで、下記の通りに授業開始日を遅らせることにしました。ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

#### 【授業開始日（変更後）】

授業開始日（第1回）：5月6日(水)3限 13:00～Zoomを用いてガイダンスとミニ講義を行います。

- ・授業はZoomを用いてオンラインで行います。Zoom授業に参加するための情報は学習支援システムを通じてお知らせします。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどのように説明するか。その考え方について、紀元前から現在までの変化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	ダーウィンは、地球上の生命は単一の起源から進化したという「進化論」を提唱しました。以降の生物学の進歩で、進化論は現在どのように考えられているのか解説します。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルは「遺伝子」という考え方を19世紀に提唱しました。その後、遺伝子の正体がDNAであることがわかり、生物学は大きく進歩します。

第4回	化学反応と酵素	今から200年ほど前「発酵」は化学反応か生物活動かという大論争が起きました。その後、酵素が発見され、多くの生命現象は酵素による化学反応であることが判明しました。
第5回	微生物工場	発酵食品は、微生物が増殖しながら代謝産物を放出する性質を利用して作られます。人工的に作られた微生物で薬品も製造されています。微生物の活用の歴史について学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという二重らせん構造をとる物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を保持するシステムとして働くために、どのような仕組みが存在しているのか解説します。
第8回	ウイルスと生命	ウイルスは19世紀末に病原体として発見され、単なる物質とも生命体ともとらえられています。生物にとってウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変することで新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されています。その原理を学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	人工的に遺伝子を改変された生物は、我々に恩恵をもたらす一方で、社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA全塩基配列の情報から、先天性の病気にとどまらず体質まで予測する時代になりました。今後ゲノムデータとどのようにつきあえばよいかを考えます。
第12回	遺伝子治療	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。原理的には人間を強化することも夢ではありません。ヒトの遺伝子改変の是非について考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	多細胞動物では、細胞の運命はいったん決まると元に戻ることはありません。このいったん決まった細胞運命を人工的に初期化する技術が、クローン技術とiPS細胞技術です。
第14回	移植医療・再生医療	移植用臓器不足問題を克服するため、クローン技術やiPS細胞技術で体のパーツをいくらかでも作れるようにする「再生医療」研究が進められています。その現状を解説します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

#### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 20%（授業内アンケートへの参加率などを評価します。）

・200字要約レポート 80%（第1回目の授業でミニ講義をし、第2回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第2回目以降の授業の要約レポートを作成してもらおう予定です。提出方法など詳細は授業内でお知らせします。）

Zoomにアクセスできない場合の対応は、個別にお知らせします。

#### 【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

板書のスピードが早いことがある・板書の文字が下の方だと見えないとの意見がありましたので、気をつけていきます。映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

#### 【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、個別の生命現象を取り上げ、その背後に潜む生物特有のしくみを見つけ出していきます。授業は、講義形式で行い、板書を基本とします。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命誕生以降、光合成生物の誕生、陸上への進出などの大イベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えてみましょう。
第 2 回	マクロレベルの生命現象	生物をパーツに分解して調べるのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかという問題を扱う学問になります。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。ここでは、進化が起きるしくみと、その本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と虫といった共進化について学びます。
第 5 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。

第 6 回 本能行動

動物が生まれながらにして身につけている行動を「本能行動」と言います。そのしくみを調べるべくさまざまなアプローチの研究が行われました。

第 7 回 意識と神経

神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。ここではアリを取りあげ、その社会構造や個々のアリの働き方について学びます。

第 11 回 発生・分化

はじめは一細胞の受精卵が、細胞分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な一つの生物個体を作り上げるまでのしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物には傷を修復する能力が備わっており、生き物によってその程度はさまざまです。それぞれの生存戦略を、再生能力という点から考えます。

第 13 回 種

人類は多様な生き物を認識するために、生物に名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えてみます。

第 14 回 生物多様性

長い生命の歴史が作り出した生物多様性の成り立ちと、その保全のために行われている取り組みについて学び、現在の課題について考えます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

## 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字程度で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

## 【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真・動画の撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書のスピードが早いことがある・板書の文字が下の方だと見えないとの意見がありましたので、気をつけていきます。映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

**【その他の重要事項】**

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

**【Outline and objectives】**

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

BIO100LA

**入門生物学 A**

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私たちの生活や社会に関わる技術について考えます。生物学の進歩は、私たちの生活ばかりでなく、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかっていくことでしょう。

**【到達目標】**

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

4月20日(月)現在、学習支援システムがストップしていることから、仮登録ができない学生が出ています。そこで、下記の通りに授業開始日を遅らせることにしました。ご迷惑をおかけして大変申し訳ありません。

**【授業開始日（変更後）】**

授業開始日（第1回）：5月7日(木)3限 13:00～Zoom を用いてガイダンスとミニ講義を行います。

- ・授業は Zoom を用いてオンラインで行います。Zoom 授業に参加するための情報は学習支援システムを通じてお知らせします。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどのように説明するか。その考え方について、紀元前から現在までの変化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンは、地球上の生命は単一の起源から進化したという「進化論」を提唱しました。以降の生物学の進歩で、進化論は現在どのように考えられているのか解説します。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルは「遺伝子」という考え方を 19 世紀に提唱しました。その後、遺伝子の正体が DNA であることがわかり、生物学は大きく進歩します。

第 4 回	化学反応と酵素	今から 200 年ほど前「発酵」は化学反応か生物活動かという大論争が起きました。その後、酵素が発見され、多くの生命現象は酵素による化学反応であることが判明しました。	・200 字要約レポート 80% (第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降の授業の要約レポートを作成してもらう予定です。提出方法など詳細は授業内でお知らせします。) Zoom にアクセスできない場合の対応は、個別にお知らせします。
第 5 回	微生物工場	発酵食品は、微生物が増殖しながら代謝産物を放出する性質を利用して作られます。人工的に作られた微生物で薬品も製造されています。微生物の活用の歴史について学びます。	【成績に関わるルール】 200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という二重らせん構造をとる物質でした。その発見の歴史を学びます。	【学生の意見等からの気づき】 板書のスピードが早いことがある・板書の文字が下の方だと見えないとの意見がありましたので、気をつけていきます。映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。
第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を保持するシステムとして働くために、どのような仕組みが存在しているのか解説します。	【学生が準備すべき機器他】 単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。
第 8 回	ウイルスと生命	ウイルスは 19 世紀末に病原体として発見され、単なる物質とも生命体ともとらえられています。生物にとってウイルスはどのような存在なのかを学びます。	【その他の重要事項】 メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変することで新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されています。その原理を学びます。	【Outline and objectives】 This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	人工的に遺伝子を改変された生物は、我々に恩恵をもたらす一方で、社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。	
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 全塩基配列の情報から、先天性の病気にとどまらず体質まで予測する時代になりました。今後ゲノムデータとどのようにつきあえばよいかを考えます。	
第 12 回	遺伝子治療	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。原理的には人間を強化することも夢ではありません。ヒトの遺伝子改変の是非について考えます。	
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	多細胞動物では、細胞の運命はいったん決まると元に戻ることはありません。このいったん決まった細胞運命を人工的に初期化する技術が、クローン技術と iPS 細胞技術です。	
第 14 回	移植医療・再生医療	移植用臓器不足問題を克服するため、クローン技術や iPS 細胞技術で体のパーツをいくらかでも作れるようにする「再生医療」研究が進められています。その現状を解説します。	

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

#### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 20% (授業内アンケートへの参加率などを評価します。)

BIO100LA

## 入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、個別の生命現象を取り上げ、その背後に潜む生物特有のしくみを見つけ出していきます。授業は、講義形式で行い、板書を基本とします。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命誕生以降、光合成生物の誕生、陸上への進出などの大イベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えてみましょう。
第 2 回	マクロレベルの生命現象	生物をパーツに分解して調べるのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかという問題を扱う学問になります。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。ここでは、進化が起きるしくみと、その本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と虫といった共進化について学びます。
第 5 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。

第 6 回 本能行動

動物が生まれながらにして身につけている行動を「本能行動」と言います。そのしくみを調べるべくさまざまなアプローチの研究が行われました。

第 7 回 意識と神経

神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。ここではアリを取りあげ、その社会構造や個々のアリの働き方について学びます。

第 11 回 発生・分化

はじめは一細胞の受精卵が、細胞分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な一つの生物個体を作り上げるまでのしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物には傷を修復する能力が備わっており、生き物によってその程度はさまざまです。それぞれの生存戦略を、再生能力という点から考えます。

第 13 回 種

人類は多様な生き物を認識するために、生物に名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えてみます。

第 14 回 生物多様性

長い生命の歴史が作り出した生物多様性の成り立ちと、その保全のために行われている取り組みについて学び、現在の課題について考えます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

## 【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字程度で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

## 【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真・動画の撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書のスピードが早いことがある・板書の文字が下の方だと見えないとの意見がありましたので、気をつけていきます。映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

**【その他の重要事項】**

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

**【Outline and objectives】**

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

CHM100LA

**入門化学 A**

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I~N、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

**【到達目標】**

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 4 回	原子固有の光	電子の軌道と光のエネルギーについて
第 5 回	同位体	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線の種類と性質
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びつく仕組みについて
第 9 回	分子の立体構造	化学結合によってできる分子の形について
第 10 回	炭素材料	炭素原子のみでできた物質の種類と機能について
第 11 回	水と物質	物質に対する水の挙動について
第 12 回	燃焼と消火	物質と酸素の化学反応
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しません。毎時間プリントを配布します。

**【参考書】**

使用しません。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験により評価します。(配分 100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

## 入門化学B

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I~N、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

## 【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。重要なページはプリントで配布します。また、授業で理解しておいて欲しいところを問題にしたプリントも配布します。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

## 【参考書】

使用しません。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します。(配分 100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

## 入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~W、文 1 年 P~V / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

## 【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようにすることを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明、化学とは何か、化学で使われる単位
第2回	物質を作るもの	原子、分子、イオン
第3回	原子の構造	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合
第5回	酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第6回	酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第7回	化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第8回	物質の状態	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第9回	放射能とは	放射性崩壊とは、放射線の種類、放射性物質
第10回	地球温暖化（1）	地球温暖化の仕組みと原因物質
第11回	地球温暖化（2）	地球温暖化の現状、予測、影響、対策
第12回	大気・水質・土壌汚染	オゾン層の破壊、海洋汚染、有害物質
第13回	エネルギーと環境	化石燃料、原子力発電、再生可能エネルギー
第14回	試験	全講義内容（ノート等持込可）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

## 【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房  
化学のちから 生命・環境・エネルギーの理解のために、岡野 光俊(著)、裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業後半の環境問題に関する講義が好評だったが、前半での基礎化学が高校で化学を履修していない学生にとっては難しかった、という意見があったため、基礎化学については内容を絞ってより丁寧な説明をするともに、環境問題をはじめ身近な話題と化学とのつながりがより理解しやすいようにします。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

## 入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~W、文 1 年 P~V / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

## 【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、下記の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、原子・分子について
第 2 回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式
第 3 回	官能基について	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める性質とは、酸性・塩基性官能基とは
第 5 回	炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料
第 6 回	酸素・窒素含有化合物	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質
第 7 回	芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質
第 8 回	有機化合物の反応	有機化合物の酸化反応について、重合反応について、プラスチックについて
第 9 回	生体を作る有機化合物 ①	糖質とタンパク質について
第 10 回	生体を作る有機化合物 ②	脂質と核酸について
第 11 回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第 12 回	有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質、化学物質の有害性情報について
第 13 回	まとめ	まとめと復習
第 14 回	試験	全講義内容（ノート等持込可）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しません。プリントを配布します。

**【参考書】**

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房  
化学のちから 生命・環境・エネルギーの理解のために、岡野 光俊（著）、裳華房

**【成績評価の方法と基準】**

授業参加度（10%）、期末試験（ノート等持込可）（90%）

**【学生の意見等からの気づき】**

化学の基礎知識を身に付けることができ良かった、という意見がある一方で、難しかった、という意見もあったので、内容を絞り、説明にもっと時間をかけるようにします。身近な問題や環境問題と化学とのつながりについての説明が好評だったので、プラスチックゴミの問題や栄養に関するトピックを有機化学や生化学の知識との関連で講義に盛り込みます。

**【Outline and objectives】**

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

**入門化学A**

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文1年A～N、環1年／法文営国環キ2～4年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

**【到達目標】**

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

新型コロナウイルスの感染拡大のため、本授業はオンラインで行われます。履修者は、毎回、学習支援システムを通して授業メモやスライド資料をダウンロードします。また、必要に応じてプリント教材を配布します。履修者は、授業メモをよく読み、スライド資料・プリント教材や教科書とあわせて内容をよく理解してください。その際、自分なりのノート（レジュメ）を作成することをお勧めします。質問等は学習支援システムを通して受付けます。その後、その回の内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習して下さい。春学期中に何度かレポート課題を課しますので、指示にしたがってレポートを学習支援システムを利用して提出します。本授業は、化学の知識がなくても授業を理解できるように配慮します。なお、状況に応じて授業計画が変更になることがあります。その場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日（木）とし、この日までに第1回「イントロダクション」の資料を授業支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について説明する。
第2回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第3回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第4回	放射性壊変（1）	$\alpha$ 壊変および $\beta$ 壊変について学習する。
第5回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。

第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習すると共に、核反応にもなって出入りする熱エネルギーについて考察する。
第 8 回	235U の誘導核分裂	235U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 10 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 11 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 12 回	まとめ	本授業のまとめを行う。
第 13 回	該当無し	該当無し
第 14 回	該当無し	該当無し

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成やレポート作成等を行ってください。

#### 【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版社：三共出版

#### 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート（100%）によって決定されます。レポート課題の詳細については、授業内でお伝えします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

#### 【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。なお、入門化学 B の開講形態については、今後の新型コロナウイルス感染状況によって変化する可能性（すなわち、入門化学 B もオンライン授業になる可能性）があることをお含み置きください。

#### 【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

## 入門化学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文 1 年 A~N、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

#### 【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式を進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第 7 回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 8 回	CO <sub>2</sub> の排出量	CO <sub>2</sub> の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 9 回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第10回 石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回 天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第12回 その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回 温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回 まとめ	本授業のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

#### 【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

#### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進める。

#### 【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

## 入門化学A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

営1年K~U、環1年/法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

#### 【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの感染拡大のため、本授業はオンラインで行われます。履修者は、毎回、学習支援システムを通して授業メモやスライド資料をダウンロードします。また、必要に応じてプリント教材を配布します。履修者は、授業メモをよく読み、スライド資料・プリント教材や教科書とあわせて内容をよく理解してください。その際、自分なりのノート（レジュメ）を作成することをお勧めします。質問等は学習支援システムを通して受付けます。その後、その回の内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習して下さい。春学期中に何度かレポート課題を課しますので、指示にしたがってレポートを学習支援システムを利用して提出します。本授業は、化学の知識がなくても授業を理解できるように配慮します。なお、状況に応じて授業計画が変更になることがあります。その場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月8日（金）とし、この日までに第1回「イントロダクション」の資料を授業支援システムで提示します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について説明する。
第2回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第3回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第4回	放射性壊変（1）	$\alpha$ 壊変および $\beta$ 壊変について学習する。
第5回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。

第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習すると共に、核反応にもなって出入りする熱エネルギーについて考察する。
第 8 回	235U の誘導核分裂	235U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 10 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 11 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 12 回	まとめ	本授業のまとめを行う。
第 13 回	該当無し	該当無し
第 14 回	該当無し	該当無し

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成やレポート作成等を行ってください。

#### 【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版社：三共出版

#### 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート（100%）によって決定されます。レポート課題の詳細については、授業内でお伝えします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

#### 【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。なお、入門化学 B の開講形態については、今後の新型コロナウイルス感染状況によって変化する可能性（すなわち、入門化学 B もオンライン授業になる可能性）があることをお含み置きください。

#### 【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

## 入門化学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

#### 【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式を進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第 7 回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 8 回	CO <sub>2</sub> の排出量	CO <sub>2</sub> の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 9 回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第10回 石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回 天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第12回 その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回 温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回 まとめ	本授業のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

#### 【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

#### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進める。

#### 【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

## 入門化学A

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

営1年A~J、キ1年／法文営国環キ2~4年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質そして生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

#### 【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようにすること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りがないこと。
- 3) 分子は人類の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常的世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になります。それに伴う授業計画の変更は各授業のたびに学習支援システムを通じて（原則授業教材の中で）連絡します。授業は、週一回資料を掲載することで行います。予定通り12回行う予定ですが、変更がある場合はその都度連絡します。なお、この授業の開始日は4月21日（火曜日、3限）です。この時間は確保してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。
6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。

7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するとき、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。
13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復讐の時間を合わせて、4時間は必要です。

**【テキスト（教科書）】**

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

**【参考書】**

1)「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。なお、この他にも授業中に紹介します。また、授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になりましたので、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、開始日に授業教材と一緒に提示します。変更前は、以下のようでした。([']の間)『期末試験70%、レポート一回30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。』=これは変更前の評価法。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、前年度もそうでしたが、次回の授業でできる限り答えるようにしていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

秋学期の入門化学B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学Bも履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

**【Outline and objectives】**

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms: b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

## 入門化学B

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営 1 年 A~J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

## 【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。黒板のほか、パワーポイントも毎回使います。授業内での発表等、アクティブ・ラーニング的方法は取りません。しかし、学生の授業への実質的参加を促すため、授業中に質問をしたり、1回の授業内容を文章でまとめてもらったりしたいと思います。宿題も課します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。

7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていきません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	光と分子：光は分子に何が出来るか。	光の性質、そして、光と有機化合物の相互作用の仕方を学びます。
10	光と有機化合物：形の変化と反応	有機化合物は光を吸収して形を変えます。これで分子が持つエネルギーが変わります。
11	太陽光とクロロフィルの化学	光合成は生命の源です。何が起きているか、光と分子の観点から探ります。
12	エネルギーと有機化学：化石燃料	化石燃料とその利用について学びます。
13	太陽光有効利用と化学	エネルギーは人類生存に欠かせません。光が起こす有機化合物の反応からこの問題を考えます。
14	まとめ	これまでのまとめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復讐の時間を合わせて、4時間は必要です。

## 【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

## 【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第2版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、レポート一回30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、前年度もそうでしたが、次回の授業でできる限り答えるようにしていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましい。しかし、初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には4)が、エネルギーの化学全般には5)が有用です。

## 【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

CHM100LA

## 入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A~H・Y、文1年W~X / 法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

## 【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようにすることを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、以下の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明、化学とは何か、化学で使われる単位
第2回	物質を作るもの	原子、分子、イオン
第3回	原子の構造	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合
第5回	酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第6回	酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第7回	化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第8回	物質の状態	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第9回	放射能とは	放射性崩壊とは、放射線の種類、放射性物質
第10回	地球温暖化（1）	地球温暖化の仕組みと原因物質
第11回	地球温暖化（2）	地球温暖化の現状、予測、影響、対策
第12回	大気・水質・土壌汚染	オゾン層の破壊、海洋汚染、有害物質
第13回	エネルギーと環境	化石燃料、原子力発電、再生可能エネルギー
第14回	試験	全講義内容（ノート等持込可）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。プリントを配布します。

## 【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房  
 化学のちから 生命・環境・エネルギーの理解のために、岡野 光俊  
 (著)、裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度(10%)、期末試験(ノート等持込可)(90%)

## 【学生の意見等からの気づき】

授業後半の環境問題に関する講義が好評だったが、前半での基礎化学が高校で化学を履修していない学生にとっては難しかった、という意見があったため、基礎化学については内容を絞ってより丁寧な説明をするとともに、環境問題をはじめ身近な話題と化学とのつながりがより理解しやすいようにします。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

## 入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A~H・Y、文1年W~X / 法文営国環キ2~4年

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

## 【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、下記の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明、原子・分子について
第2回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式
第3回	官能基について	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める性質とは、酸性・塩基性官能基とは
第5回	炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料
第6回	酸素・窒素含有化合物	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質
第7回	芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質
第8回	有機化合物の反応	有機化合物の酸化反応について、重合反応について、プラスチックについて
第9回	生体を作る有機化合物 ①	糖質とタンパク質について
第10回	生体を作る有機化合物 ②	脂質と核酸について
第11回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第12回	有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質、化学物質の有害性情報について
第13回	まとめ	まとめと復習
第14回	試験	全講義内容(ノート等持込可)

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

復習をし、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。プリントを配布します。

## 【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房  
化学のちから 生命・環境・エネルギーの理解のために、岡野 光俊（著）、裳華房

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度（10%）、期末試験（ノート等持込可）（90%）

## 【学生の意見等からの気づき】

化学の基礎知識を身に付けることができ良かった、という意見がある一方で、難しかった、という意見もあったので、内容を絞り、説明にもっと時間をかけるようにします。身近な問題や環境問題と化学とのつながりについての説明が好評だったので、プラスチックゴミの問題や栄養に関するトピックを有機化学や生化学の知識との関連で講義に盛り込みます。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

## 入門化学A

2017 年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質そして生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

## 【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りがないこと。
- 3) 分子は人類の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常的世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になります。それに伴う授業計画の変更は各授業のたびに学習支援システムを通じて（原則授業教材の中で）連絡します。授業は、週一回資料を掲載することで行います。予定通り12回行う予定ですが、変更がある場合はその都度連絡します。なお、この授業の開始日は4月21日（火曜日、4限）です。この時間は確保してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。
6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。

7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するとき、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。
13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復讐の時間を合わせて、4時間は必要です。

#### 【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

#### 【参考書】

1)「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。なお、この他にも授業中に紹介します。また、授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になりましたので、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、開始日に授業教材と一緒に提示します。変更前は、以下のようでした。([']の間)『期末試験70%、レポート一回30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。』=これは変更前の評価法。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、前年度もそうでしたが、次回の授業でできる限り答えるようにしていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

#### 【その他の重要事項】

秋学期の入門化学B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学Bも履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

#### 【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms: b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

## 入門化学B

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

## 【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。黒板のほか、パワーポイントも毎回使います。授業内での発表等、アクティブ・ラーニング的方法は取りません。しかし、学生の授業への実質的参加を促すため、授業中に質問をしたり、1回の授業内容を文章でまとめてもらったりしたいと思います。宿題も課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。

7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていきません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	光と分子：光は分子に何が出来るか。	光の性質、そして、光と有機化合物の相互作用の仕方を学びます。
10	光と有機化合物：形の変化と反応	有機化合物は光を吸収して形を変えます。これで分子が持つエネルギーが変わります。
11	太陽光とクロロフィルの化学	光合成は生命の源です。何が起きているか、光と分子の観点から探ります。
12	エネルギーと有機化学：化石燃料	化石燃料とその利用について学びます。
13	太陽光有効利用と化学	エネルギーは人類生存に欠かせません。光が起こす有機化合物の反応からこの問題を考えます。
14	まとめ	これまでのまとめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復讐の時間を合わせて、4時間は必要です。

## 【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

## 【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第2版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、レポート一回30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、前年度もそうでしたが、次回の授業でできる限り答えるようにしていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましい。しかし、初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には4)が、エネルギーの化学全般には5)が有用です。

## 【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

ASR100LA

## 天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

## 【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
はじめ	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
宇宙の姿	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
太陽系 1	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
太陽系 2	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
太陽系 3	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
太陽系 4	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
望遠鏡	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
電磁波で探る宇宙	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
星の一生	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
銀河系	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
宇宙の大構造	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
宇宙の初めと終わり	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
ダークマター	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。[https://www.researchgate.net/publication/327306485\\_Introduction\\_to\\_Astronomy\\_2018\\_in\\_Japanese](https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese)  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

参考書は指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題（100%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポート課題は電子提出とする。

**【学生が準備すべき機器他】**

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を持参することを勧める。

**【Outline and objectives】**

Study the wonder of the universe. Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

**天文学 B**

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

**【到達目標】**

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
重力の特徴	電磁力など他の力になり重力の特徴を学ぶ	斥力がない、長距離力である、対象を選ばない。
惑星の運動	惑星の運動の謎	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
天動説と地動説	天動説と地動説の論争	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
ケプラーの法則	ケプラーの3つの法則の由来と意味	大いなる現象論と物理三法則の初め
万有引力	ニュートンの重力理論	遠隔力、現実をよく説明。
彗星の運動	ニュートン力学による新しい示唆	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
地球の形状	英仏の大論争	フランス大探検隊の実測による決着
三体問題	解けない問題	現実問題の不可解性
天王星の発見	アマチュア天文学者のハッセルの功績	計算から発見の時代へ
惑星の探査	小惑星の発見	ティティウス・ボーデの法則の台頭
海王星の予言	理論的予言の勝利	ティティウス・ボーデの法則の滅亡
水星の運動の謎	水星の運動に残る微かな違い	未知惑星バルカンの探索
エーテルの否定	マックスウェル電磁気学とニュートン力学の矛盾	特殊相対論の誕生
光は曲がる	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。[https://www.researchgate.net/publication/299732606\\_Introduction\\_to\\_Astronomy\\_part\\_2\\_-\\_Enigma\\_of\\_Gravitation\\_in\\_Japanese](https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

参考書は指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題（100%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポートは電子提出とする。

**【学生が準備すべき機器他】**

ネットに接続できるスマホもしくはPCを持参することを勧める。

**【Outline and objectives】**

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

ASR100LA

**天文学 A**

2017年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。春学期では、地球・太陽系・恒星に焦点を当てる。とくに我々の身近な環境である地球環境に重点を置く。

**【到達目標】**

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業開始日：4月21日

学習支援システムにアクセスしてください。

プロジェクタを用いて、最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	宇宙の階層構造	地球のスケールから宇宙全体のスケールまでの構造を概観する。
第3回	地球の構造	地球の構造について学ぶ。
第4回	地球の大気	地球のうち、大気に焦点を当てる。
第5回	気候変動	気候変動について学ぶ。地球温暖化についても焦点を当てる。
第6回	温室効果	大気の温室効果について説明する。
第7回	地球の歴史	地球誕生から現在までの46億年の歴史を概観する。さらに生物の進化について考察する。
第8回	月	月の形成と地球との関わりについて学ぶ。
第9回	太陽系の概要	太陽系全体を概観する。
第10回	惑星	地球型惑星と木製型惑星の違いを学ぶ。
第11回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第12回	恒星の構造	恒星の構造について学び、恒星がなぜ光るかを理解する。
第13回	恒星と惑星の形成	恒星と惑星が形成する過程について学ぶ。
第14回	恒星の進化	恒星の進化について学ぶ。白色矮星・中性子星・ブラックホールについても学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

観望会を行うことがあるが参加は任意である。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。授業中に資料としてプリントを随時配布する。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

#### 【Outline and objectives】

The students learn the introduction of astronomy. In the spring semester, we focus on the Earth, solar system, and stars.

ASR100LA

## 天文学 B

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。秋学期では、恒星の集団である銀河、銀河の集団である銀河団、さらに宇宙全体を対象とする。

天文学 II は天文学 I からの続きである。必ずしも天文学 I を事前に受講する必要はないが、天文学 I と II を両方受講すると理解は深まるであろう。

#### 【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

プロジェクタを用いて、最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	銀河の分類	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 3 回	銀河の構造	それぞれの銀河の種類について、それらの構造を学ぶ。
第 4 回	銀河の進化	銀河の内部における星形成と、銀河の進化について学ぶ。
第 5 回	暗黒物質	銀河の主要な構成要素である暗黒物質（ダークマター）について学ぶ。
第 6 回	銀河の形成	銀河の形成過程について学ぶ。
第 7 回	宇宙膨張	膨張する宇宙について学ぶ。ハッブルの法則について学ぶ。
第 8 回	宇宙の大規模構造	宇宙全体の構造について学ぶ。赤方偏移探査について学ぶ。
第 9 回	ビッグバン	宇宙の始まりであるビッグバンについて学ぶ。
第 10 回	宇宙年齢	ハッブルの法則を用いて、宇宙の年齢を導く。
第 11 回	宇宙背景放射	ビッグバンの残光である宇宙背景放射について学ぶ。
第 12 回	宇宙の地平線	宇宙の果てがどのようなになっているかを理解する。
第 13 回	宇宙の未来	今後宇宙がどのような進化をたどるかを学ぶ。
第 14 回	地球外生命探査	地球以外の惑星に生物はいるか。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

観望会を行うことがあるが参加は任意である。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。授業中に資料としてプリントを随時配布する。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

#### 【Outline and objectives】

The students learn the introduction of astronomy. In the fall semester, we focus on galaxies and the Universe.

ASR100LA

## 天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

#### 【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
はじめ	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
宇宙の姿	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
太陽系 1	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
太陽系 2	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
太陽系 3	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
太陽系 4	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
望遠鏡	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
電磁波で探る宇宙	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
宇宙の生	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
銀河系	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
宇宙の大構造	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
宇宙の初めと終わり	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
ダークマター	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。[https://www.researchgate.net/publication/327306485\\_Introduction\\_to\\_Astronomy\\_2018\\_in\\_Japanese](https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese)  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

参考書は指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題（100%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポート課題は電子提出とする。

**【学生が準備すべき機器他】**

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を持参することを勧める。

**【Outline and objectives】**

Study the wonder of the universe. Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

**天文学 B**

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

**【到達目標】**

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
重力の特徴	電磁力など他の力になり重力の特徴を学ぶ	斥力がない、長距離力である、対象を選ばない。
惑星の運動	惑星の運動の謎	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
天動説と地動説	天動説と地動説の論争	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
ケプラーの法則	ケプラーの3つの法則の由来と意味	大いなる現象論と物理三法則の初め
万有引力	ニュートンの重力理論	遠隔力、現実をよく説明。
彗星の運動	ニュートン力学による新しい示唆	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
地球の形状	英仏の大論争	フランス大探検隊の実測による決着
三体問題	解けない問題	現実問題の不可解性
天王星の発見	アマチュア天文学者の発見	計算から発見の時代へ
惑星の探査	ハッセルの功績	ティティウス・ボーデの法則の台頭
海王星の予言	理論的予言の勝利	ティティウス・ボーデの法則の滅亡
水星の運動の謎	水星の運動に残る微かな違い	未知惑星バルカンの探索
エーテルの存在	マックスウェル電磁気学とニュートン力学の矛盾	特殊相対論の誕生
光は曲がる	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。[https://www.researchgate.net/publication/299732606\\_Introduction\\_to\\_Astronomy\\_part\\_2\\_-\\_Enigma\\_of\\_Gravitation\\_-\\_in\\_Japanese](https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

参考書は指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題（100%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポートは電子提出とする。

**【学生が準備すべき機器他】**

ネットに接続できるスマホもしくはPCを持参することを勧める。

**【Outline and objectives】**

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

SHS100LA

**科学史 A**

2017年度以降入学者

谷本 勉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

**【到達目標】**

今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業開始日は4月23日。学習支援システムを参照のこと。

古代ギリシアの自然観の革命の変革の歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布して、明らかにしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第2回	科学哲学的議論	自然認識の基盤にあるものを説明する
第3回	古代オリエントの神話的呪術的自然観	各文化に共通する自然観の典型として説明する
第4回	古代ギリシアにおける自然観の革命	なぜ西欧世界が近代科学を生み出し得たのかを考える
第5回	自然観革命（1）	根源のもの（アルケー）は何かを考えるイオニア的自然観
第6回	自然観革命（2）	ヘラクレイトスとエレア派によるイオニア的自然観批判
第7回	自然観革命（3）	多元論者によるイオニア的自然観の再構築
第8回	自然観革命（4）	原子論的自然観の完成
第9回	自然観革命（5）	原子論的自然観とは根本的に異なる数学的自然観
第10回	自然観革命（6）	プラトンの数学的自然観
第11回	自然観革命（7）	アリストテレスの生物学的目的論的自然観I
第12回	自然観革命（8）	アリストテレスの自然観II
第13回	アレクサンドリア時代の科学	ギリシアの自然観の具体的発展としての、ユークリッドやアルキメデス
第14回	ローマ時代の科学	古代科学と技術の関係

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。適宜プリントを配布する。

**【参考書】**

授業の中で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

**【Outline and objectives】**

This lecture presents the history of scientific thinking from the ancient Orient period to the era of the ancient Roman Empire. Especially in this lecture, we aim to understand the history of three nature views created in ancient Greece, which is regarded as having great influence on the birth of modern science. Plato's mathematical view of nature, Aristotle's biological view of nature and Democritus's atomistic view of nature are that.

SHS100LA

**科学史 B**

2017 年度以降入学者

谷本 勉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

**【到達目標】**

現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

古代ギリシアの自然観に源をもつ流れが中世からルネサンスを経 16・17 世紀の科学革命にいたり、さらに近代科学の誕生にいたるまでの歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布しながら、明らかにしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	ベルシアとアラビアの科学	古代ギリシアの自然観と科学の受容の謎
第 3 回	12 世紀ルネサンス	西欧世界への古代ギリシアの自然観と科学の導入の謎
第 4 回	13 世紀の方法論革命とスコラ哲学	キリスト教とアリストテレスの関係
第 5 回	14 世紀のアリストテレス批判	近代科学誕生の序章としての力学の登場
第 6 回	神秘思想と近代科学	スコラ哲学を乗り越えるために必要だったもの
第 7 回	科学革命（1）	地球中心説からコペルニクスの太陽中心説への転換
第 8 回	科学革命（2）	崩壊したコスモスに秩序を与えたケプラーの天文学
第 9 回	科学革命（3）	新しい力学を数学的自然観と原子論的発想で形成したガリレオ
第 10 回	科学革命（4）	世界を機械論的自然観で説明しきれると考えたデカルト
第 11 回	科学革命（5）	ニュートンによる天の力学と地の力学の統一
第 12 回	啓蒙主義運動と 18 世紀の科学	ニュートン力学の受容と展開
第 13 回	産業革命と 19 世紀の科学	諸科学の登場と技術の関係
第 14 回	20 世紀の科学	現代科学の根本的特徴とは何か

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【Outline and objectives】

This lecture outlines the history of science from the death of the ancient West Roman Empire to the present age. Especially focusing on the 12th century Renaissance and the 17th century scientific revolution, we will clarify the situation that Western Europe produced modern science. The purpose of this lecture is to provide a viewpoint to think about the ideal form of science in the 21st century.

SHS100LA

## 科学史 A

2017 年度以降入学者

## 詫間 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、科学技術のアウトプット（科学知識や人工物など）は社会のすみずみまで浸透している。また、大抵の社会問題に科学技術が絡んでくるようになって来ているので、科学技術なしには問題を語ることも解決することもできないと言ってよいほどの状況にある。この授業は、科学技術がこれほどまでに大きな存在となった歴史的経緯をたどり、科学技術に対する理解を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

- ・科学技術の歴史がどのように展開してきたのか、その流れをイメージできるようにすること。
- ・科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようにすること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

授業開始日は4月24日（金）5限（16:50～18:30）です。

Zoom を使って実施します。初回授業のミーティング ID とパスワードは以下のとおりです。

ミーティング ID: 914-6594-0450

ミーティングパスワード: 1Bicss

（パスワードの文字は大文字と小文字を区別して下さい。）

なお、自分の端末（スマホ、Pad、PC など）に Zoom アプリをインストールしておいてください。

原則出席してほしいですが、通信環境その他の支障があって出席できない場合は、授業支援システム"H'etude"にアップロードする諸資料を見ておいてください。

——以下は、当初シラバスに書いた内容——

講義形式で行う。スライド (PowerPoint) を用いる。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。科学技術に関する個別の専門的知識は必要としない。文科系の学生にも分かりやすいように、科学と技術の歴史的・社会的性格を論じる。

また、毎回、授業の終わりにリアクションペーパーに感想・意見・質問等を記入してもらう。授業中に出した問題や質問の答えを記入してもらうこともある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の概要と進め方。「科学」「技術」「科学技術」の簡単な定義。科学と技術の歴史的発達の概要。本講義で科学と技術を一緒に議論する理由。
第 2 回	古代ギリシャ・ローマの科学と技術	古代ギリシャ人による自然現象の探求と、古代ローマ人の実用重視の傾向を理解する。

第3回	中世の科学・技術（その1）	西欧における農業生産の拡大、都市の発達、イスラムの科学・技術、12世紀ルネサンス、などを例に文明と科学・技術の関係を理解する。
第4回	中世の科学・技術（その2）	火薬、鉄砲、製紙、活版印刷など、今日にも影響を与えている諸技術について、その発明と発達の様子を見る。
第5回	科学革命への先駆け—地動説の発達	地動説の発達を支えた観測技術、および研究者たちの異様な努力を知る。
第6回	科学革命と科学の制度化	英国王立協会や仏科学アカデミーなど科学の制度化とその思想的背景を理解する。また、ニュートンによる力学の確立を簡単にふりかえる。
第7回	産業革命の始まり	産業革命の発端が、蒸気機関の導入ではなく、木綿工業における生産性の飛躍的向上であることを理解する。
第8回	産業革命の他部門への波及	木綿工業における紡績・織布工程の生産革命が、他の部門（動力（蒸気機関）、漂白剤、製鉄業、鉄道、工作機械など）の発達を促進した経緯を理解する。
第9回	産業革命のイギリス以外の国々への波及	産業革命が仏・独・米・日などへの国々へ波及していく過程を追い、産業革命と国家形成が共進化する様子を把握する。
第10回	科学の専門職業化	研究・教育で生計をたてることのできる科学者が大量に出現した経緯を、独・仏・米・日本における大学や高等教育機関の整備と併わせて理解する。
第11回	第二次産業革命	科学知識をベースとするに産業革命の特徴を理解する。
第12回	戦争と科学技術	二つの世界大戦における科学者・技術者の動員体制の形成と権益化の様子を見る。
第13回	大量生産方式の発達	アメリカンシステム（互換性の確立）、フォードとGMの生産方式、トヨタのカンバン方式、全自動無人工場など、大量生産方式の過去の具体例を学び、未来の生産方式を考える際の基礎とする。
第14回	まとめ	授業をふりかえり、総括を行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 毎回の授業の前までにその前の週の授業内容について、復習を充分しておくこと。
  - ② 中間レポートには十分な時間を掛けて取り組むこと。
  - ③ 期末試験の前には再度復習を行い、2000年に及ぶ歴史のおおよその流れを把握しておくこと。
  - ④ 毎回の授業で紹介する関連文献やインターネットサイトについて積極的に閲覧し、理解を深めることを推奨する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。

#### 【参考書】

本授業で取り上げた事項についてさらに詳しく調べたい人は、たとえば、

中島秀人（2008年）『社会の中の科学』（日本放送出版協会）を参照されたい。

また、必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

・平常点 30%、中間レポート 20%、期末試験 50%。

・平常点は、毎回提出してもらおうリアクション・ペーパーをもとに採点する。

白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。

・中間レポートでは、科学史・技術史の研究者カードウェルの文章を要約してもらおう。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックはありません。

#### 【Outline and objectives】

The outputs of science and technology, such as scientific knowledge and artifacts, have spread into every corner of society. We may say that science and technology are indispensable in dealing with almost all the social problems. This course aims at providing students' understanding of science and technology by observing how they have become such a big stuff.

SHS100LA

## 科学史 B

2017 年度以降入学者

## 説問 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の発達は、かつては輝かしい未来を約束するものであったが、近年では手放して喜べるものではなくなっている。

本講義では、現代史において科学技術の負の側面が社会に悪影響をもたらした事例を紹介し、そうした負の側面にどう対処して正の側面を活かせばよいか、ガバナンス方法を考えていく。

## 【到達目標】

・現代史における諸事例を通じて、科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようになること。

・その理解のために有用な諸概念や考え方を紹介するので、それに習熟すること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。スライド (PowerPoint) を用いて各回の授業テーマについて解説を行う。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。

また、毎回、授業の終わりに、リアクションペーパーに感想・意見・質問を記入してもらう。授業中に出了た問題や質問の答えを記入してもらうこともある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的と背景、授業の進め方についての説明。「科学」「技術」「科学技術」の定義、科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第 2 回	関連する諸概念の紹介	研究開発とリニアモデル、イノベーションと科学技術との関係（技術イノベーションと社会イノベーションの違い）。
第 3 回	科学に対する期待のターニングポイント	科学が光り輝いていた 1960 年代、科学技術に対する疑念が生じた 1970 年代。
第 4 回	日本における科学者・専門家への信頼の失墜 — 1995 年	阪神淡路大震災、オウム真理教による地下鉄サリン事件、高速増殖炉もんじゅのナトリウム漏洩事故、薬害エイズ問題。
第 5 回	英国における科学者・専門家への信頼の失墜と信頼回復の取り組み	英国における BSE（牛海綿状脳症）危機で科学者や専門家に対する信頼が失墜した経緯を論じ、その後、信頼を取り戻すために科学コミュニケーションスタイルが刷新されたことを紹介する。
第 6 回	科学技術のガバナンス方法の変遷	行政における専門家の台頭、政府の失敗と市場の活用、市場の失敗と第三の道としての市民参加型熟議。

第 7 回	科学技術がはらむ不確実性とリスク	<b>Known unknowns</b> ：地震予測と気候変動問題における不確実性、 <b>Unknown unknowns</b> ：フロンによるオゾン層破壊。
第 8 回	科学技術のガバナンスの手法（その 1）	立証責任の配分と事前警戒原則、リオ宣言、偽陰性と偽陽性、水俣病にける立証責任配分と事前警戒原則。
第 9 回	科学技術のガバナンスの手法（その 2）	今日の環境問題と医療裁判における立証責任と事前警戒原則の取り扱い、事前警戒原則の適用にあたっての注意点。
第 10 回	科学技術のガバナンスの手法（その 3）	気候変動問題における政策決定方法。
第 11 回	科学技術のガバナンスにおける総合的なフレーミングの必要性	「緑の革命」が一部地域で飢餓をもたらした理由。
第 12 回	医療と生命科学における諸問題（その 1）	医師患者関係とインフォームド・コンセント。
第 13 回	医療と生命科学における諸問題（その 2）	ES 細胞、iPS 細胞、遺伝子組み換えとゲノム編集。
第 14 回	まとめ	講義を振り返り、総括を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は利用しない。

## 【参考書】

多くの授業回は、次の本を参考としている：

平川秀幸（2010 年）『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK 出版生人新書）。

紙媒体は品切れだが、電子書籍版が購入できる。

そのほか、必要に応じて授業中に関連文献を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・平常点 30 %、中間レポート 20%、期末試験 50 %。

・平常点は、毎回提出してもらったリアクション・ペーパーをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。

・中間レポートは、20 世紀以降において科学技術が引き起こした失敗事例の一つを選んで報告してもらうことを予定している。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

Development of science and technology once were to promise a rosy future, but recently we can't think so without reservation. This lecture examines recent examples of science and technology where there was negative impacts on society, and discusses how we can govern such negative impacts and make better use of science and technology.

SHS100LA

## 科学史 A

2017 年度以降入学者

谷本 勉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

## 【到達目標】

今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日は 4 月 23 日。学習支援システムを参照のこと。  
古代ギリシアの自然観の革命の変革の歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布して、明らかにしていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	科学哲学的議論	自然認識の基盤にあるものを説明する
第 3 回	古代オリエントの神話的呪術的自然観	各文化に共通する自然観の典型として説明する
第 4 回	古代ギリシアにおける自然観の革命	なぜ西欧世界が近代科学を生み出し得たのかを考える
第 5 回	自然観革命（1）	根源のもの（アルケー）は何かを考えるイオニア的自然観
第 6 回	自然観革命（2）	ヘラクレイトスとエレア派によるイオニア的自然観批判
第 7 回	自然観革命（3）	多元論者によるイオニア的自然観の再構築
第 8 回	自然観革命（4）	原子論的自然観の完成
第 9 回	自然観革命（5）	原子論的自然観とは根本的に異なる数学的自然観
第 10 回	自然観革命（6）	プラトンの数学的自然観
第 11 回	自然観革命（7）	アリストテレスの生物学的目的論的自然観 I
第 12 回	自然観革命（8）	アリストテレスの自然観 II
第 13 回	アレクサンドリア時代の科学	ギリシアの自然観の具体的発展としての、ユークリッドやアルキメデス
第 14 回	ローマ時代の科学	古代科学と技術の関係

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）と平常点（50%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【Outline and objectives】

This lecture presents the history of scientific thinking from the ancient Orient period to the era of the ancient Roman Empire. Especially in this lecture, we aim to understand the history of three nature views created in ancient Greece, which is regarded as having great influence on the birth of modern science. Plato's mathematical view of nature, Aristotle's biological view of nature and Democritus's atomistic view of nature are that.

SHS100LA

## 科学史 B

2017 年度以降入学者

谷本 勉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

## 【到達目標】

現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観に源をもつ流れが中世からルネサンスを経 16・17 世紀の科学革命にいたり、さらに近代科学の誕生にいたるまでの歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布しながら、明らかにしていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	ベルシアとアラビアの科学	古代ギリシアの自然観と科学の受容の謎
第 3 回	12 世紀ルネサンス	西欧世界への古代ギリシアの自然観と科学の導入の謎
第 4 回	13 世紀の方法論革命とスコラ哲学	キリスト教とアリストテレスの関係
第 5 回	14 世紀のアリストテレス批判	近代科学誕生の序章としての力学の登場
第 6 回	神秘思想と近代科学	スコラ哲学を乗り越えるために必要だったもの
第 7 回	科学革命（1）	地球中心説からコペルニクスの太陽中心説への転換
第 8 回	科学革命（2）	崩壊したコスモスに秩序を与えたケプラーの天文学
第 9 回	科学革命（3）	新しい力学を数学的自然観と原子論的発想で形成したガリレオ
第 10 回	科学革命（4）	世界を機械論的自然観で説明しきれると考えたデカルト
第 11 回	科学革命（5）	ニュートンによる天の力学と地の力学の統一
第 12 回	啓蒙主義運動と 18 世紀の科学	ニュートン力学の受容と展開
第 13 回	産業革命と 19 世紀の科学	諸科学の登場と技術の関係
第 14 回	20 世紀の科学	現代科学の根本的特徴とは何か

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【Outline and objectives】

This lecture outlines the history of science from the death of the ancient West Roman Empire to the present age. Especially focusing on the 12th century Renaissance and the 17th century scientific revolution, we will clarify the situation that Western Europe produced modern science. The purpose of this lecture is to provide a viewpoint to think about the ideal form of science in the 21st century.

SHS100LA

## 科学史 A

2017 年度以降入学者

谷本 勉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

當キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

## 【到達目標】

今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日は 4 月 23 日。学習支援システムを参照のこと。  
古代ギリシアの自然観の革命の変革の歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布して、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	科学哲学的議論	自然認識の基盤にあるものを説明する
第 3 回	古代オリエントの神話的呪術的自然観	各文化に共通する自然観の典型として説明する
第 4 回	古代ギリシアにおける自然観の革命	なぜ西欧世界が近代科学を生み出し得たのかを考える
第 5 回	自然観革命（1）	根源のもの（アルケー）は何かを考えるイオニア的自然観
第 6 回	自然観革命（2）	ヘラクレイトスとエレア派によるイオニア的自然観批判
第 7 回	自然観革命（3）	多元論者によるイオニア的自然観の再構築
第 8 回	自然観革命（4）	原子論的自然観の完成
第 9 回	自然観革命（5）	原子論的自然観とは根本的に異なる数学的自然観
第 10 回	自然観革命（6）	プラトンの数学的自然観
第 11 回	自然観革命（7）	アリストテレスの生物学的目的論的自然観 I
第 12 回	自然観革命（8）	アリストテレスの自然観 II
第 13 回	アレクサンドリア時代の科学	ギリシアの自然観の具体的発展としての、ユークリッドやアルキメデス
第 14 回	ローマ時代の科学	古代科学と技術の関係

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）と平常点（50%）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【Outline and objectives】

This lecture presents the history of scientific thinking from the ancient Orient period to the era of the ancient Roman Empire. Especially in this lecture, we aim to understand the history of three nature views created in ancient Greece, which is regarded as having great influence on the birth of modern science. Plato's mathematical view of nature, Aristotle's biological view of nature and Democritus's atomistic view of nature are that.

SHS100LA

## 科学史 B

2017 年度以降入学者

谷本 勉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

当キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

## 【到達目標】

現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観に源をもつ流れが中世からルネサンスを経 16・17 世紀の科学革命にいたり、さらに近代科学の誕生にいたるまでの歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布しながら、明らかにしていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	ペルシアとアラビアの科学	古代ギリシアの自然観と科学の受容の謎
第 3 回	12 世紀ルネサンス	西欧世界への古代ギリシアの自然観と科学の導入の謎
第 4 回	13 世紀の方法論革命とスコラ哲学	キリスト教とアリストテレスの関係
第 5 回	14 世紀のアリストテレス批判	近代科学誕生の序章としての力学の登場
第 6 回	神秘思想と近代科学	スコラ哲学を乗り越えるために必要だったもの
第 7 回	科学革命（1）	地球中心説からコペルニクスの太陽中心説への転換
第 8 回	科学革命（2）	崩壊したコスモスに秩序を与えたケプラーの天文学
第 9 回	科学革命（3）	新しい力学を数学的自然観と原子論的発想で形成したガリレオ
第 10 回	科学革命（4）	世界を機械論的自然観で説明しきれると考えたデカルト
第 11 回	科学革命（5）	ニュートンによる天の力学と地の力学の統一
第 12 回	啓蒙主義運動と 18 世紀の科学	ニュートン力学の受容と展開
第 13 回	産業革命と 19 世紀の科学	諸科学の登場と技術の関係
第 14 回	20 世紀の科学	現代科学の根本的特徴とは何か

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【Outline and objectives】

This lecture outlines the history of science from the death of the ancient West Roman Empire to the present age. Especially focusing on the 12th century Renaissance and the 17th century scientific revolution, we will clarify the situation that Western Europe produced modern science. The purpose of this lecture is to provide a viewpoint to think about the ideal form of science in the 21st century.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

\* 4月21日が授業開始日です。この週の授業はオンラインによるガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの掲示に注意してください。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

必要に応じて、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

\* 春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで掲示します。試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

分かりやすい授業になるように心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	火一燃焼一酸化一電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

\* 4月21日が授業開始日です。この週の授業はオンラインによるガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの掲示に注意してください。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

必要に応じて、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

\* 春学期の少なくとも前半がオンライン開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで掲示します。試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

分かりやすい授業になるように心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

長谷川 真紀子、井坂 政裕、石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	火一燃焼一酸化一電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

田中 浩輔、吉田 智、伊藤 晋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となり、それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月21日とし、ガイダンスを行います。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

ただし、春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

田中 浩輔、鈴木 裕武、伊藤 晋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	火一燃焼一酸化一電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

田中 浩輔、石川 壮一、伊藤 晋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

田中 浩輔、鈴木 裕武、伊藤 晋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	火一燃焼一酸化一電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。ただし、初回授業はサイエンス・ラボ授業のガイダンスを行います。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。変更後も試験は行いません。以下変更前  
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

**【その他の重要事項】**

なし。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正され、燃焼が理解されたのかを学ぶ。
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	酸とアルカリの反応（化学）	燃焼ガスが酸性を示し、灰がアルカリ性を示すこと、石鹸の仕組みなどを学びます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。ただし、初回授業はサイエンス・ラボ授業のガイダンスを行います。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。変更後も試験は行いません。以下変更前  
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

経塚 啓一郎、鈴木 裕武、中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正され、燃焼が理解されたのかを学ぶ。
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	酸とアルカリの反応（化学）	燃焼ガスが酸性を示し、灰がアルカリ性を示すこと、石鹼の仕組みなどを学びます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週 太陽電池の実験（物理学） 太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週 光スペクトルの観察（物理学） 簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第9週 ナノワールドの観察（物理学） CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

第10週 物質と光の相互作用（化学） 色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第11週 分子模型を使った分子組み立て（化学） 色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第12週 色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学） 色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。

第13週 色素の抽出と合成（化学） 天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第14週 色素増感太陽電池の評価（化学） 実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	火一燃焼一酸化一電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

※ 4月21日からの週の授業はガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの提示に注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ-1-（生物学）	眼でもが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ-2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

島野 智之、柳瀬 宏太、向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。
第10週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第11週	火一燃焼一酸化一電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光計を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD の表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部：法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎を学ぶ。

第7週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第8週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。
第9週	プランク定数の測定（物理学）	LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学（量子論）の一端に触れる。
第10週	物理学の世界（物理学）	超伝導に関する講義とデモンストラーション実験を行う。
第11週	火—燃焼—酸化—電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光計を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD の表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

小林 富美恵、島野 孝史、西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部：法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎を学ぶ。

第7週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第8週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。
第9週	プランク定数の測定（物理学）	LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学（量子論）の一端に触れる。
第10週	物理学の世界（物理学）	超伝導に関する講義とデモンストラーション実験を行う。
第11週	火—燃焼—酸化—電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第12週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第13週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

\*4月21日が授業開始日です。この週の授業はオンラインによるガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの掲示に注意してください。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

\*春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで掲示します。

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

\*4月21日が授業開始日です。この週の授業はオンラインによるガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの掲示に注意してください。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

\*春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで掲示します。試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕、石塚 芽具美、長谷川 真紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

吉田 智、伊藤 晋平、田中 浩輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となり、それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月21日とし、ガイダンスを行います。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

ただし、春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

鈴木 裕武、伊藤 晋平、田中 浩輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考に学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石川 壮一、伊藤 晋平、田中 浩輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

鈴木 裕武、伊藤 晋平、田中 浩輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。ただし、初回授業はサイエンス・ラボ授業のガイダンスを行います。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。変更後も試験は行いません。以下変更前

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

**【その他の重要事項】**

なし。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正され、燃焼が理解されたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸とアルカリの反応（化学）	燃焼ガスが酸性を示し、灰がアルカリ性を示すこと、石鹼の仕組みなどを学びます。
第10週	灰の文化誌（化学）	アルカリ性を示すものが灰に限られていた昔、どのように灰が利用されていたかを学びます。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。ただし、初回授業はサイエンス・ラボ授業のガイダンスを行います。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。変更後も試験は行いません。以下変更前  
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

鈴木 裕武、中島 弘一、経塚 啓一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正され、燃焼が理解されたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸とアルカリの反応（化学）	燃焼ガスが酸性を示し、灰がアルカリ性を示すこと、石鹼の仕組みなどを学びます。
第10週	灰の文化誌（化学）	アルカリ性を示すものが灰に限られていた昔、どのように灰が利用されていたかを学びます。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

※4月21日からの週の授業はガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの提示に注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

※4月21日からの週の授業はガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの提示に注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

柳瀬 宏太、向井 知大、島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第2週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第3週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第4週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

第5週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光計を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD の表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎を学ぶ。
第2週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第3週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。

第4週	プランク定数の測定（物理学）	LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学（量子論）の一端に触れる。
第5週	物理学の世界（物理学）	超伝導に関する講義とデモンストラーション実験を行う。
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光計を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD の表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第9週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第10週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第11週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第12週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

島野 孝史、西村 直美、小林 富美恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎を学ぶ。
第2週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第3週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。

第4週	プランク定数の測定（物理学）	LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学（量子論）の一端に触れる。
第5週	物理学の世界（物理学）	超伝導に関する講義とデモンストラーション実験を行う。
第6週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第10週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

\* 4月21日が授業開始日です。この週の授業はオンラインによるガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの掲示に注意してください。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

\*春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで掲示します。試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

\* 4月21日が授業開始日です。この週の授業はオンラインによるガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの掲示に注意してください。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

必要に応じて、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

\* 春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで掲示します。試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

分かりやすい授業になるように心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となり、それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月21日とし、ガイダンスを行います。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

ただし、春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。ただし、初回授業はサイエンス・ラボ授業のガイダンスを行います。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。変更後も試験は行いません。以下変更前  
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正され、燃焼が理解されたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸とアルカリの反応（化学）	燃焼ガスが酸性を示し、灰がアルカリ性を示すこと、石鹼の仕組みなどを学びます。

第5週	灰の文化誌（化学）	アルカリ性を示すものが灰に限られていた昔、どのように灰が利用されていたかを学びます。
第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。ただし、初回授業はサイエンス・ラボ授業のガイダンスを行います。オンライン授業の方法などは、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。変更後も試験は行いません。以下変更前  
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正され、燃焼が理解されたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸とアルカリの反応（化学）	燃焼ガスが酸性を示し、灰がアルカリ性を示すこと、石鹼の仕組みなどを学びます。

第5週	灰の文化誌（化学）	アルカリ性を示すものが灰に限られていた昔、どのように灰が利用されていたかを学びます。
第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、必要に応じて授業内で指示します。

## 【その他の重要事項】

なし。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

※4月21日からの週の授業はガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの提示に注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

※4月21日からの週の授業はガイダンスと、一部では授業が開始されます。学習支援システムでの提示に注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第12週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第13週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第14週	交流周波数の測定（物理学）	一般家庭のコンセントに流れている交流の周波数を測定することを通じ、電気エネルギーや共鳴振動について調べる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光計を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD の表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	物理学の世界（物理学）	He-Ne レーザーを使ったデモンストレーション実験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎を学ぶ。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。
第14週	プランク定数の測定（物理学）	LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学（量子論）の一端に触れる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

**【到達目標】**

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第9週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第10週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第11週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第12週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光計を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD の表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	物理学の世界（物理学）	He-Ne レーザーを使ったデモンストレーション実験を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

**【参考書】**

授業時間内に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

**【Outline and objectives】**

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

## サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制（事前登録が必要、詳細は Hoppii からアクセスできる WEB 掲示板参照）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

## 【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第2週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第3週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第4週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第7週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第8週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第9週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第10週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第11週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎を学ぶ。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。
第14週	プランク定数の測定（物理学）	LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学（量子論）の一端に触れる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

## 【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

## 【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：英文 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング実習	レジスタンストレーニングの理論と方法（講義）
4	トレーニング演習	レジスタンストレーニングの実践方法（演習）。
5	運動老年学講義	加齢に伴う身体的虚弱（フレイル・サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球基礎編	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・実習）。
7	卓球実践編	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
8	卓球応用編	ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バスケットボール基礎編	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・実習）。
10	バスケットボール実践編	ミニゲーム（3対3）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。

- |    |             |   |
|----|-------------|---|
| 11 | バスケットボール応用編 | ゲーム（5対5）を実践し、応用的な戦術について学習する（講義・実習）。     |
| 12 | バドミントン基礎編   | 基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。 |
| 13 | バドミントン実践編   | ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。   |
| 14 | バドミントン応用編   | ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な戦術について学習する（講義・実習）。    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：哲 AB・日 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	レジスタンストレーニングの理論と方法（講義）
4	トレーニング実習	レジスタンストレーニングの実践方法（演習）。
5	運動老年学講義	加齢に伴う身体的虚弱（フレイル・サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球基礎編	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・演習）。
7	卓球実践編	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
8	卓球応用編	ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バスケットボール基礎編	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。

10	バスケットボール実践編	ミニゲーム（3対3）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
11	バスケットボール応用編	ゲーム（5対5）を実践し、応用的な戦術について学習する（講義・実習）。
12	バドミントン基礎編	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
13	バドミントン実践編	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
14	バドミントン応用編	ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な戦術について学習する（講義・実習）。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

門口 智泰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

文：英文 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

4月21日を講義開始日とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントン（シングルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
5	バドミントン（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジボールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジボールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。

- |    |                          |                                  |
|----|--------------------------|----------------------------------|
| 10 | ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）     | フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。  |
| 11 | スポーツと疾患について学ぶ（講義）        | スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。    |
| 12 | 運動生理学について学ぶ（講義）          | 運動生理学について学び、意見交換を行う。             |
| 13 | 卓球（シングルス）について学ぶ（講義および実習） | 卓球（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。 |
| 14 | 卓球（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）  | 卓球（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

## 【その他の重要事項】

状況により予定していた実技科目が変更になることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

門口 智泰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：哲 AB・日 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントン（シングルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
5	バドミントン（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジゴールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジゴールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。

- |    |                          |                                  |
|----|--------------------------|----------------------------------|
| 10 | ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）     | フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。  |
| 11 | スポーツと疾患について学ぶ（講義）        | スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。    |
| 12 | 運動生理学について学ぶ（講義）          | 運動生理学について学び、意見交換を行う。             |
| 13 | 卓球（シングルス）について学ぶ（講義および実習） | 卓球（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。 |
| 14 | 卓球（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）  | 卓球（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

## 【その他の重要事項】

状況により予定していた実技科目が変更になることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：英文 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。(講義及び実習)
3	卓球の基礎を学ぶ	卓球の基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球の基礎的な知識をゲームに応用する	卓球基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)

5	卓球の応用的知識をダブルスに応用する	応用技術や戦術を学び、ダブルスなど応用のゲームを行う。(講義及び実習)
6	バレーボールの基礎的な技能を学ぶ	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
7	バレーボールの戦術やゲームに必要な知識を学ぶ	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
8	バレーボールの基礎と応用的技能を活用したゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントンを学ぶ	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホックの基礎的な技能を学ぶ	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホックの基礎的な技能を用いたゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体のトレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題や資料が担当の教員から配布される予定である。そういった資料も用いて、予習・復習を行う。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：哲 AB・日 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。(講義及び実習)
3	卓球の基礎を学ぶ	卓球の基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球の基礎的知識をゲームに応用する	卓球基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
5	卓球の応用的知識をダブルスに応用する	応用技術や戦術を学び、ダブルスなど応用のゲームを行う。(講義及び実習)
6	バレーボールの基礎的技術を学ぶ	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

7	バレーボールの戦術やゲームに必要な知識を学ぶ	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
8	バレーボールの基礎と応用的技能を活用したゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントンを学ぶ	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホックの基礎的技術を学ぶ	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホックの基礎的技術を用いたゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題や資料が担当の教員から配布される予定である。そういった資料も用いて、予習・復習を行う。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

## 辻 大士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：英文 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。

7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題（授業外学習）の時間は週に4時間以上を目安と

して行ってください。行うべき課題や次の授業に向けての準備等の詳細は必要に応じて指示をします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

## 辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：哲 AB・日 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。

9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題（授業外学習）の時間は週に4時間以上を目安と

して行ってください。行うべき課題や次の授業に向けての準備等の詳細は必要に応じて指示をします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けしており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

門口 智泰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

4月21日を講義開始日とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントン（シングルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
5	バドミントン（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジボールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジボールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。

- |    |                          |                                  |
|----|--------------------------|----------------------------------|
| 10 | ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）     | フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。  |
| 11 | スポーツと疾患について学ぶ（講義）        | スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。    |
| 12 | 運動生理学について学ぶ（講義）          | 運動生理学について学び、意見交換を行う。             |
| 13 | 卓球（シングルス）について学ぶ（講義および実習） | 卓球（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。 |
| 14 | 卓球（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）  | 卓球（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

## 【その他の重要事項】

状況により予定していた実技科目が変更になることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

門口 智泰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントン（シングルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
5	バドミントン（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジゴールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジゴールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。

- |    |                          |                                  |
|----|--------------------------|----------------------------------|
| 10 | ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）     | フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。  |
| 11 | スポーツと疾患について学ぶ（講義）        | スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。    |
| 12 | 運動生理学について学ぶ（講義）          | 運動生理学について学び、意見交換を行う。             |
| 13 | 卓球（シングルス）について学ぶ（講義および実習） | 卓球（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。 |
| 14 | 卓球（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）  | 卓球（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

## 【その他の重要事項】

状況により予定していた実技科目が変更になることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング実習	レジスタンストレーニングの理論と方法（講義）
4	トレーニング演習	レジスタンストレーニングの実践方法（演習）。
5	運動老年学講義	加齢に伴う身体的虚弱（フレイル・サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球基礎編	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・実習）。
7	卓球実践編	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
8	卓球応用編	ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バスケットボール基礎編	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・実習）。
10	バスケットボール実践編	ミニゲーム（3対3）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。

- |    |             |   |
|----|-------------|---|
| 11 | バスケットボール応用編 | ゲーム（5対5）を実践し、応用的な戦術について学習する（講義・実習）。     |
| 12 | バドミントン基礎編   | 基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。 |
| 13 | バドミントン実践編   | ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。   |
| 14 | バドミントン応用編   | ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な戦術について学習する（講義・実習）。    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング実習	レジスタンストレーニングの理論と方法（講義）
4	トレーニング演習	レジスタンストレーニングの実践方法（演習）。
5	運動老年学講義	加齢に伴う身体的虚弱（フレイル・サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球基礎編	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・演習）。
7	卓球実践編	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
8	卓球応用編	ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バスケットボール基礎編	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。

10	バスケットボール実践編	ミニゲーム（3対3）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
11	バスケットボール応用編	ゲーム（5対5）を実践し、応用的な技術について学習する（講義・実習）。
12	バドミントン基礎編	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
13	バドミントン実践編	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
14	バドミントン応用編	ゲーム（ダブルス）を実践し、応用的な技術について学習する（講義・実習）。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するテスト 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。(講義及び実習)
3	卓球の基礎を学ぶ	卓球の基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球の基礎的な知識をゲームに応用する	卓球基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)

5	卓球の応用的知識をダブルスに応用する	応用技術や戦術を学び、ダブルスなど応用のゲームを行う。(講義及び実習)
6	バレーボールの基礎的な技術を学ぶ	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
7	バレーボールの戦術やゲームに必要な知識を学ぶ	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
8	バレーボールの基礎と応用的技能を活用したゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントンを学ぶ	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホックの基礎的な技術を学ぶ	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホックの基礎的な技能を用いたゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体のトレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題や資料が担当の教員から配布される予定である。そういった資料も用いて、予習・復習を行う。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。(講義及び実習)
3	卓球の基礎を学ぶ	卓球の基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球の基礎的知識をゲームに応用する	卓球基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
5	卓球の応用的知識をダブルスに応用する	応用技術や戦術を学び、ダブルスなど応用のゲームを行う。(講義及び実習)
6	バレーボールの基礎的技術を学ぶ	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

7	バレーボールの戦術やゲームに必要な知識を学ぶ	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
8	バレーボールの基礎と応用的技能を活用したゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントンを学ぶ	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホックの基礎的技術を学ぶ	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホックの基礎的技術を用いたゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題や資料が担当の教員から配布される予定である。そういった資料も用いて、予習・復習を行う。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

## 辻 大士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。

7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題（授業外学習）の時間は週に4時間以上を目安と

して行ってください。行うべき課題や次の授業に向けての準備等の詳細は必要に応じて指示をします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

## 辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。

9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題（授業外学習）の時間は週に4時間以上を目安と

して行ってください。行うべき課題や次の授業に向けての準備等の詳細は必要に応じて指示をします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受け、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：史 PQR

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は4月21日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
第2回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第3回	基礎的なトレーニング方法を学ぶ	体力の維持・向上に向けた基礎的なトレーニング法の学習と実践（講義および実習）
第4回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第5回	身体活動と健康との関係を理解する	スポーツ・身体活動が心身に及ぼす影響と健康への貢献（講義）
第6回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（1）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）
第7回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（2）	卓球の技能練習（ダブルス）を通じたグループ活動の実践（講義および実習）

第8回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（3）	卓球のゲーム（ダブルス）を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第9回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（1）	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）
第10回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（2）	バレーボールの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第11回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（3）	バレーボールのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第12回	ニューススポーツを学ぶ（1）	様々なニューススポーツの概要や特徴の理解、ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第13回	ニューススポーツを学ぶ（2）	アルティメット技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第14回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布する。

## 【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題・レポート 40%、の配分として総合評価する。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。なお、当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度未担当のため特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly leaning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their health, to acquire the necessary knowledge to self-health care, and develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：日1・心 WX

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
第2回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第3回	基礎的なトレーニング方法を学ぶ	体力の維持・向上に向けた基礎的なトレーニング法の学習と実践（講義および実習）
第4回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第5回	身体活動と健康との関係を理解する	スポーツ・身体活動が心身に及ぼす影響と健康への貢献（講義）
第6回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（1）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）
第7回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（2）	卓球の技能練習（ダブルス）を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第8回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（3）	卓球のゲーム（ダブルス）を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第9回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（1）	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）

第10回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（2）	バレーボールの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第11回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（3）	バレーボールのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第12回	ニューススポーツを学ぶ（1）	様々なニューススポーツの概要や特徴の理解、ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第13回	ニューススポーツを学ぶ（2）	アルティメット技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第14回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布する。

## 【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題・レポート 40%、の配分として総合評価する。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度未担当のため特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly leaning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their health, to acquire the necessary knowledge to self-health care, and develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

門口 智泰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：史 PQR

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

4月21日を講義開始日とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントン（シングルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
5	バドミントン（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジゴールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジゴールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。

- |    |                          |                                  |
|----|--------------------------|----------------------------------|
| 10 | ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）     | フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。  |
| 11 | スポーツと疾患について学ぶ（講義）        | スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。    |
| 12 | 運動生理学について学ぶ（講義）          | 運動生理学について学び、意見交換を行う。             |
| 13 | 卓球（シングルス）について学ぶ（講義および実習） | 卓球（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。 |
| 14 | 卓球（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）  | 卓球（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

## 【その他の重要事項】

状況により予定していた実技科目が変更になることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

門口 智泰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：日1・心 WX

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントン（シングルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
5	バドミントン（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）	バドミントン（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジゴールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジゴールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。

- |    |                          |                                  |
|----|--------------------------|----------------------------------|
| 10 | ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）     | フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。  |
| 11 | スポーツと疾患について学ぶ（講義）        | スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。    |
| 12 | 運動生理学について学ぶ（講義）          | 運動生理学について学び、意見交換を行う。             |
| 13 | 卓球（シングルス）について学ぶ（講義および実習） | 卓球（シングルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。 |
| 14 | 卓球（ダブルス）について学ぶ（講義および実習）  | 卓球（ダブルス）のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

## 【その他の重要事項】

状況により予定していた実技科目が変更になることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：史 PQR

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。(講義及び実習)
3	卓球の基礎を学ぶ	卓球の基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球の基礎的な知識をゲームに応用する	卓球基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)

5	卓球の応用的知識をダブルスに応用する	応用技術や戦術を学び、ダブルスなど応用のゲームを行う。(講義及び実習)
6	バレーボールの基礎的な技術を学ぶ	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
7	バレーボールの戦術やゲームに必要な知識を学ぶ	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
8	バレーボールの基礎と応用的技能を活用したゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントンを学ぶ	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホックの基礎的な技術を学ぶ	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホックの基礎的な技能を用いたゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体のトレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題や資料が担当の教員から配布される予定である。そういった資料も用いて、予習・復習を行う。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：日1・心 WX

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。(講義及び実習)
3	卓球の基礎を学ぶ	卓球の基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球の基礎的知識をゲームに応用する	卓球基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
5	卓球の応用的知識をダブルスに応用する	応用技術や戦術を学び、ダブルスなど応用のゲームを行う。(講義及び実習)
6	バレーボールの基礎的技術を学ぶ	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

7	バレーボールの戦術やゲームに必要な知識を学ぶ	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
8	バレーボールの基礎と応用的技能を活用したゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントンを学ぶ	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホックの基礎的技術を学ぶ	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホックの基礎的技術を用いたゲーム学習	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題や資料が担当の教員から配布される予定である。そういった資料も用いて、予習・復習を行う。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 N・市場 QRS

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

開始は4月22日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン基本練習	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サーブ・レシーブ等) 半面シングル
4	バドミントンゲーム練習	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム
5	卓球基本練習とシングルスゲーム	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等) シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする

8	バレーボール	歴史・道具・ルールの説明 パス・アタック等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AEDのビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
13	卓球基本練習とダブルスゲーム	ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ドライブ・カット等) ダブルスのゲーム
14	教室	総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD

## 【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 O・市場 TU

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業の開始を4月22日とします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン基本練習	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サーブ・レシーブ等) 半面シングル
4	バドミントンゲーム練習	自分たちでシングルゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム
5	卓球基本練習とシングルスゲーム	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等) シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする

8	バレーボール	歴史・道具・ルールの説明 パス・アタック等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AEDのビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
13	卓球基本練習とダブルスゲーム	ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ドライブ・カット等) ダブルスのゲーム
14	教室	総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必用に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD

## 【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 N・市場 QRS

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

4月22日から学習支援システムで授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	ルール及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	ルール及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する

第13回 講義及びバスケットボール

バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する

第14回 講義及びフットサルまとめ

フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ2時間程度

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略○・市場 TU

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	ルール及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	ルール及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する

第13回 講義及びバスケットボール

バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する

第14回 講義及びフットサルまとめ

フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ2時間程度

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略N・市場 QRS

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業はコロナウイルスの影響により、オンライン授業となります。開始日は4月22日です。

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	体力測定の意義について講義 卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及びルールについて説明する

第10回	講義及びバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	授業の総括	生涯スポーツについて講義 ニュースポーツへの挑戦 レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。  
毎日の体重の管理、栄養摂取、睡眠時間について注意をはらうこと。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況60%
- 2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 O・市場 TU

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	体力測定の意義について講義 卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する

第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	授業の総括	生涯スポーツについて講義 ニュースポーツへの挑戦 レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎日の体重の管理、栄養摂取、睡眠時間について注意をはらうこと。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況60%
  - 2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and sffect of physical activity deeply.

Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students future of life.

Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care,and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 N・市場 QRS

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は4月22日から学習支援システム内で開始します。

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習&講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習&講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習&講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。

- |    |                                |  |
|----|--------------------------------|--|
| 11 | ストレッチ及びバランスポールトレーニングの実践（実習&講義） | ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスポールエクササイズを実践する。 |
| 12 | ドッジボールの実践（実習&講義）               | ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。      |
| 13 | バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）         | バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。          |
| 14 | ストレスについての講義及びレポート作成・提出         | ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略〇・市場 TU

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習&講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習&講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習&講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。

- |    |                                |  |
|----|--------------------------------|--|
| 11 | ストレッチ及びバランスポールトレーニングの実践（実習&講義） | ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスポールエクササイズを実践する。 |
| 12 | ドッジボールの実践（実習&講義）               | ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。      |
| 13 | バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）         | バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。          |
| 14 | ストレスについての講義及びレポート作成・提出         | ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業の開始を4月22日とします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン基本練習	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サーブ・レシーブ等) 半面シングル
4	バドミントンゲーム練習	自分たちでシングルゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム
5	卓球基本練習とシングルスゲーム	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等) シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする

8	バレーボール	歴史・道具・ルールの説明 パス・アタック等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AEDのビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
13	卓球基本練習とダブルスゲーム	ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ドライブ・カット等) ダブルスのゲーム
14	教室	総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必用に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD

## 【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 CDEF

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン基本練習	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングル
4	バドミントンゲーム練習	自分たちでシングルゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム
5	卓球基本練習とシングルスゲーム	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等) シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする

8	バレーボール	歴史・道具・ルールの説明 パス・アタック等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AEDのビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
13	卓球基本練習とダブルスゲーム	ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ドライブ・カット等) ダブルスのゲーム
14	教室	総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必用に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD

## 【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	ルール及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	ルール及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する

第14回 講義及びフットサル フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ2時間程度

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 CDEF

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	ルール及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	ルール及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する

第13回 講義及びバスケットボール

バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する

第14回 講義及びフットサルまとめ

フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ2時間程度

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

<授業最新連絡（担当：位高 4/16 加筆）>

授業開始日は 4/22 から開始します。

- ① 「授業の登録」を早急に実施してください。
- ② 4/22 に、授業支援システムに「教材」をアップロードしますので、受講について確認をしてください。
- ③ 「5/5 締切の課題」も設定しますので、確認して提出をしてください。

まずは、オンラインでの授業についての受講環境が整っているか、情報取得できているかを確認します。協力をお願いします。

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第 3 回	運動の必要性について科学的に理解する	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を通して、生涯スポーツとして運動実践ができるようための知識を習得する（講義および実習）

第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第 5 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）
第 8 回	レクリエーション	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第 9 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 10 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	卓球（シングルス・団体）	卓球（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 12 回	卓球（ダブルス）	卓球（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第 14 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

営：営 CDEF

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第3回	運動の必要性について科学的に理解する	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を通して、生涯スポーツとして運動実践ができるようための知識を習得する（講義および実習）
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第5回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第6回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）

第7回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）
第8回	レクリエーション	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第9回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第10回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第11回	卓球（シングルス・団体）	卓球（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第12回	卓球（ダブルス）	卓球（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第13回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第14回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2019年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の1つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は4月22日から学習支援システム内で開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習&講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習&講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習&講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。

- |    |                                |  |
|----|--------------------------------|--|
| 11 | ストレッチ及びバランスポールトレーニングの実践（実習&講義） | ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスポールエクササイズを実践する。 |
| 12 | ドッジボールの実践（実習&講義）               | ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。      |
| 13 | バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）         | バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。          |
| 14 | ストレスについての講義及びレポート作成・提出         | ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 CDEF

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習&講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習&講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習&講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。

- |    |                                |  |
|----|--------------------------------|--|
| 11 | ストレッチ及びバランスポールトレーニングの実践（実習&講義） | ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスポールエクササイズを実践する。 |
| 12 | ドッジボールの実践（実習&講義）               | ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。      |
| 13 | バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）         | バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。          |
| 14 | ストレスについての講義及びレポート作成・提出         | ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。      |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 JL

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン基本練習	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サーブ・レシーブ等) 半面シングル
4	バドミントンゲーム練習	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム
5	卓球基本練習とシングルスゲーム	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等) シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする

8	バレーボール	歴史・道具・ルールの説明 パス・アタック等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AEDのビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
13	卓球基本練習とダブルスゲーム	ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ドライブ・カット等) ダブルスのゲーム
14	教室	総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必用に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD

## 【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 KM

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン基本練習	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングル
4	バドミントンゲーム練習	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム
5	卓球基本練習とシングルスゲーム	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等) シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする

8	バレーボール	歴史・道具・ルールの説明 パス・アタック等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AEDのビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
13	卓球基本練習とダブルスゲーム	ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ドライブ・カット等) ダブルスのゲーム
14	教室	総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必用に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD

## 【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 JL

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
5	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
6	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習
7	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
8	スポーツと心理学の基礎	ウェルビーイングの向上に関する基礎講義
9	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
10	ソフトバレーボールの応用	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール応用実習

11	バドミントンの応用	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン応用実習
12	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習
13	卓球の基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングの向上に関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する可能性がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 KM

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及びバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得及びゲームを行う またルールについて説明する
第4回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基本技術の習得及びゲームを行う またルールについて説明する
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について説明する
第6回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第7回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及びゲームを行う またルールについて説明する
第8回	講義及びバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基本技術の習得及びゲームを行う またルールについて説明する

第9回	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基本技術の習得及びゲームを行う。またルールについて説明する
第10回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第11回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術の習得及びゲームを行う またルールについて説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論について説明する
第13回	トレーニングについての講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第14回	授業の総括	生涯スポーツについて講義 ニュースポーツへの挑戦 レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。  
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。  
毎日の体重の管理、栄養摂取、睡眠時間について注意をはらうこと。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況60%
  - 2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

## 【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 JL

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

<授業最新連絡（担当：位高 4/16 加筆）>

授業開始日は 4/22 から開始します。

- ① 「授業の登録」を早急に実施してください。
- ② 4/22 に、授業支援システムに「教材」をアップロードしますので、受講について確認をしてください。
- ③ 「5/5 締切の課題」も設定しますので、確認して提出をしてください。

まずは、オンラインでの授業についての受講環境が整っているか、情報取得できているかを確認します。協力をお願いします。

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第 3 回	運動の必要性について科学的に理解する	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を通して、生涯スポーツとして運動実践ができるようための知識を習得する（講義および実習）

第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第 5 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）
第 8 回	レクリエーション	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第 9 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 10 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	卓球（シングルス・団体）	卓球（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 12 回	卓球（ダブルス）	卓球（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第 14 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにもとない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

営：戦略 KM

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第3回	運動の必要性について科学的に理解する	アイズブレイクを中心としたレクリエーション活動を通して、生涯スポーツとして運動実践ができるようための知識を習得する（講義および実習）
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第5回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第6回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）

第7回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）
第8回	レクリエーション	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第9回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第10回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第11回	卓球（シングルス・団体）	卓球（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第12回	卓球（ダブルス）	卓球（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第13回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第14回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

2019年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の1つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 BCDH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べるができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価

2	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
3	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
4	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
5	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
6	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組みの講義
7	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
8	姿勢と動作Ⅰ（骨盤操作と姿勢）	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
9	姿勢と動作Ⅱ（胸椎と肩の操作）	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
10	姿勢と動作Ⅲ（身体への気づきと心身の健康）	身体動作への気づきと心身の健康
11	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
12	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
13	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
- ②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれません。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法：法律 AEFG

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
3	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
4	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
5	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
6	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組みの講義
7	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
8	姿勢と動作Ⅰ(骨盤操作と姿勢)	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
9	姿勢と動作Ⅱ(胸椎と肩の操作)	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
10	姿勢と動作Ⅲ(身体への気づきと心身の健康)	身体動作への気づきと心身の健康
11	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
12	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
13	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価20%＋試験80%

大西：授業内評価24%＋試験76%

草山：授業内評価24%＋試験76%

三好：授業内評価80%＋試験20%

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習のためのレポートなど)やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が8回以上の者を対象とするので注意してください(欠席および遅刻、早退は減点されます)。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法：法律 BCDH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べるができる
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半 オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更について、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日 5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践

3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題1：骨盤のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ胸椎と肩の操作	動作課題2：背骨と肩のセルフコントロール
13	スポーツと動作Ⅲ身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
- ②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版  
この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれません。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業を受講できる機器を準備して下さい。

**【その他の重要事項】**

○ 授業中に発生した怪我（体調不良を含む）などについて  
授業には十分な体調管理を行った上で、参加することを心がけてください。授業内容によっては、運動動作を伴うことがあります。準備運動をしっかりと行い、怪我が起こらないよう十分注意して実施してください。

また、指示された内容が、体調不良や怪我などによって実施できない場合は、その旨を担当教員に連絡（事後でもかまわない）して、その後の指示に従ってください。

体調不良には、心理的な要因も含まれるので、何らかの不安がある場合は、遠慮せず担当教員に相談してください。

万が一、授業内に体調不良や怪我などが発生した場合は、速やかに担当教員に連絡をとり、指示に従ってください。緊急の場合は、状況に応じて救急処置を施し、しかるべき対応をとるようにしてください（例えば、救急車を呼ぶなどする）。

授業内で発生した怪我に関しては、大学が加入している保険が適用されます。但し、授業とは関係ない状況で発生した怪我などについては、保険の適用になりません。詳しくは市ヶ谷保健体育センター事務に連絡して確認してください。

**【Outline and objectives】****Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

**スポーツ総合演習**

2017年度以降入学者

鈴木 良則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法：法律 AEFG

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

1. はじめに  
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ  
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注)各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践
3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題1：骨盤のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ胸椎と肩の操作	動作課題2：背骨と肩のセルフコントロール
13	スポーツと動作Ⅲ身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けた準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない!ゆるまない!ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価20%+試験80%

大西：授業内評価24%+試験76%

草山：授業内評価24%+試験76%

三好：授業内評価80%+試験20%

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習のためのレポートなど)やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が8回以上の者を対象とするので注意してください(欠席および遅刻、早退は減点されます)。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目=スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

草山 太一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 BCDH

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

### 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

1. はじめに  
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ  
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注)各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および身体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
12	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
13	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない!ゆるまない!ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目=スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

草山 太一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 AEFG

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的モチベーションの種類と外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	身体構造と運動Ⅲ（身体動作への気づきと心身の健康の実践）	身体動作への気づきと心身の健康の実践
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %  
 大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

## 三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 BCDH

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

本授業は演習内容を 4 つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである 4 人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。

- 1：身体運動と構造〔鈴木〕
- 2：スポーツと医学〔大西〕
- 3：スポーツと心理〔草山〕
- 4：姿勢と動作〔三好〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および身体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	姿勢と動作Ⅰ：骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	姿勢と動作Ⅱ：胸椎と肩の操作	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	姿勢と動作Ⅲ：身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。

具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 AEFG

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べるができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	姿勢と動作Ⅰ：骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	姿勢と動作Ⅱ：胸椎と肩の操作	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	姿勢と動作Ⅲ：身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %  
 大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

## 大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：国際 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価

2	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
3	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
4	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
5	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
6	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組みの講義
7	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
8	姿勢と動作Ⅰ(骨盤操作と姿勢)	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
9	姿勢と動作Ⅱ(胸椎と肩の操作)	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
10	姿勢と動作Ⅲ(身体への気づきと心身の健康)	身体動作への気づきと心身の健康
11	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
12	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
13	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
- ②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：政治 STUVW

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
3	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
4	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
5	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
6	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組みの講義
7	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
8	姿勢と動作Ⅰ（骨盤操作と姿勢）	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
9	姿勢と動作Ⅱ（胸椎と肩の操作）	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
10	姿勢と動作Ⅲ（身体への気づきと心身の健康）	身体動作への気づきと心身の健康
11	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的モチベーションの種類と外発的動機づけ） ②目標設定技法
12	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
13	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

### 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %

大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %

草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %

三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：国際 Y

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

### 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

春学期授業開始日 4 月 23 日（木曜）

1. はじめに

スポーツ総合演習におきましても、大学方針に則り「オンライン授業」を行う予定となっております。具体的には「双方向オンライン型」、「動画配信オンデマンド型」、「資料配信型」などを組み合わせ、授業を行います。

授業開始日のガイダンスは、学習支援システムにアクセスし「お知らせ」に資料があります。

その思慮をもってガイダンスとします。

2 回目以降からオムニバス形式にて授業が行われます。

新型コロナウイルスが収束し、大学方針が変わった場合については、対面での講義に切り替わる可能性もあります。どのような形式であっても、教員、学生がそれぞれの責任を果たし、充実した内容で行うことを切に願います。

本授業を行うに当たって、いくつかの注意点をお知らせします。

○ 教員からの連絡について

授業に関する一切は、「学習支援システム」を通じて、やり取りを行います。

「学習支援システム」は本学ホームページ左下の「法政ポータルサイト (Hoppii)」より入れます。

「法政ポータルサイト (Hoppii)」

<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal/site/gateway/page/gateway-100?sakai.state.reset=true>

右上の「学習支援システム／統合認証」をクリックしてログインすると「学習支援システム」トップページの画面になります。

## 2. 授業の位置づけ

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため必ず確認してください。

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

## 3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくりに資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕  
4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は前述した事により全12回ですが、1回目（4月23日）はガイダンスを行い、2～13回目をオムニバス形式で授業を行います。そして、総合的に評価した上で単位認定を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および身体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法

9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題1：骨盤のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ胸椎と肩の操作	動作課題2：背骨と肩のセルフコントロール
13	スポーツと動作Ⅲ身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」（各教員によって方法は異なるので指示に従ってください）とします。

授業内評価では、各分野別の授業で提示される課題の内容によって評価しますが、課題提出が確認できない場合は欠席扱いとします。

※期限内に提出がない場合（期限を過ぎて提出した場合）は減点の対象となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講できる機器を準備して下さい。

## 【その他の重要事項】

- 授業中に発生した怪我（体調不良を含む）などについて

授業には十分な体調管理を行った上で、参加することを心がけてください。授業内容によっては、運動動作を伴うことがあります。準備運動をしっかりと行い、怪我が起こらないよう十分注意して実施してください。

また、指示された内容が、体調不良や怪我などによって実施できない場合は、その旨を担当教員に連絡（事後でもかまわない）して、その後の指示に従ってください。

体調不良には、心理的な要因も含まれるので、何らかの不安がある場合は、遠慮せずに担当教員に相談してください。

万が一、授業内に体調不良や怪我などが発生した場合は、速やかに担当教員に連絡をとり、指示に従ってください。緊急の場合は、状況に応じて救急処置を施し、しかるべき対応をとるようにしてください（例えば、救急車を呼ぶなどする）。

授業内で発生した怪我に関しては、大学が加入している保険が適用されます。但し、授業とは関係ない状況で発生した怪我などについては、保険の適用になりません。詳しくは市ヶ谷保健体育センター事務に連絡して確認してください。

#### 【Outline and objectives】

##### Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

鈴木 良則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：政治 STUVW

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

#### 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べるができる
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践
3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題1：骨盤のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ胸椎と肩の操作	動作課題2：背骨と肩のセルフコントロール
13	スポーツと動作Ⅲ身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けた準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価20%＋試験80%

大西：授業内評価24%＋試験76%

草山：授業内評価24%＋試験76%

三好：授業内評価80%＋試験20%

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習のためのレポートなど)やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が8回以上の者を対象とするので注意してください(欠席および遅刻、早退は減点されます)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

#### 【Outline and objectives】

##### Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

草山 太一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：国際 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および身体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
12	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
13	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻878号
  6. 齊藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目=スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

草山 太一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：政治 STUVW

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的モチベーションの種類と外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	身体構造と運動Ⅲ（身体動作への気づきと心身の健康作の実践）	身体動作への気づきと心身の健康作の実践
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %  
 大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

## 三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：国際 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

本授業は演習内容を 4 つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである 4 人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。

- 1：身体運動と構造〔鈴木〕
- 2：スポーツと医学〔大西〕
- 3：スポーツと心理〔草山〕
- 4：姿勢と動作〔三好〕

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および身体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	姿勢と動作Ⅰ：骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	姿勢と動作Ⅱ：胸椎と肩の操作	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	姿勢と動作Ⅲ：身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。

具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：政治 STUVW

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	姿勢と動作Ⅰ：骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	姿勢と動作Ⅱ：胸椎と肩の操作	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	姿勢と動作Ⅲ：身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %  
 大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %  
 三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

## 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

## 大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価

2	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
3	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
4	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
5	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
6	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組みの講義
7	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
8	姿勢と動作Ⅰ(骨盤操作と姿勢)	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
9	姿勢と動作Ⅱ(胸椎と肩の操作)	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
10	姿勢と動作Ⅲ(身体への気づきと心身の健康)	身体動作への気づきと心身の健康
11	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
12	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
13	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
- ②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 IJK

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
3	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
4	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
5	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
6	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組みの講義
7	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
8	姿勢と動作Ⅰ（骨盤操作と姿勢）	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
9	姿勢と動作Ⅱ（胸椎と肩の操作）	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
10	姿勢と動作Ⅲ（身体への気づきと心身の健康）	身体動作への気づきと心身の健康
11	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的モチベーションの種類と外発的モチベーションの種類） ②目標設定技法
12	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
13	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

### 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %

大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %

草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %

三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法履修修クラス

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

### 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
  - 2) 体力測定の意義を述べることができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半 オンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更について、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動 I（動	①身体運動と動く仕組みの実践 く仕組みの実践）

3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題1：骨盤のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ胸椎と肩の操作	動作課題2：背骨と肩のセルフコントロール
13	スポーツと動作Ⅲ身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
- ②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講できる機器を準備して下さい。

#### 【その他の重要事項】

○ 授業中に発生した怪我(体調不良を含む)などについて  
授業には十分な体調管理を行った上で、参加することを心がけてください。授業内容によっては、運動動作を伴うことがありますが、準備運動をしっかりと行い、怪我が起こらないよう十分注意して実施してください。

また、指示された内容が、体調不良や怪我などによって実施できない場合は、その旨を担当教員に連絡(事後でもかまわない)して、その後の指示に従ってください。

体調不良には、心理的な要因も含まれるので、何らかの不安がある場合は、遠慮せずに担当教員に相談してください。

万が一、授業内に体調不良や怪我などが発生した場合は、速やかに担当教員に連絡をとり、指示に従ってください。緊急の場合は、状況に応じて救急処置を施し、しかるべき対応をとるようにしてください(例えば、救急車を呼ぶなどする)。

授業内で発生した怪我に関しては、大学が加入している保険が適用されます。但し、授業とは関係ない状況で発生した怪我などについては、保険の適用になりません。詳しくは市ヶ谷保健体育センター事務に連絡して確認してください。

#### 【Outline and objectives】

##### Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

鈴木 良則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法再履修クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題1：骨盤のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ胸椎と肩の操作	動作課題2：背骨と肩のセルフコントロール
13	スポーツと動作Ⅲ身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』プティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %

大西：授業内評価 24 % + 試験 76 %

草山：授業内評価 24 % + 試験 76 %

三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 8 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれませんが。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

#### 【Outline and objectives】

##### Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

草山 太一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践Ⅰ）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する。まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

**【参考書】**

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

**【成績評価の方法と基準】**

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれません。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020 年度は 2019 年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

**【その他の重要事項】**

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

**【Outline and objectives】**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

**スポーツ総合演習**

2017 年度以降入学者

草山 太一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 IJK

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べるができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
- 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
  - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
  - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週 1 回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の 1 回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
12	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
13	身体構造と運動Ⅲ(身体動作への気づきと心身の健康の実践)	身体動作への気づきと心身の健康の実践
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価20%+試験80%

大西：授業内評価24%+試験76%

草山：授業内評価24%+試験76%

三好：授業内評価80%+試験20%

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習のためのレポートなど)やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が8回以上の者を対象とするので注意してください(欠席および遅刻、早退は減点されます)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目=スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 LMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べるができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 1) 1) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 1) 2) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 1) 3) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 1) 4) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 1) 5) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の授業はオンラインで開講します。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、具体的なオンライン授業の方法などのガイダンスを改めて行います。

本授業は演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。

- 1：身体運動と構造〔鈴木〕
- 2：スポーツと医学〔大西〕
- 3：スポーツと心理〔草山〕
- 4：姿勢と動作〔三好〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ（動く仕組みの実践）	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ（随意運動）	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ（動作の実践）	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ（身体活動と健康との関係）	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ（健康運動演習：身体活動と身体応答）	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ（生活習慣病とその運動処方）	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ（モチベーションの種類と目標設定技法）	①モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ（内発的動機づけと外部報酬との関係）	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ（集団における動機づけ）	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	姿勢と動作Ⅰ：骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1（骨盤のセルフコントロール）
12	姿勢と動作Ⅱ：胸椎と肩の操作	動作課題2（背骨と肩のセルフコントロール）
13	姿勢と動作Ⅲ：身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

## 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
  7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。

具体的な方法と基準は、授業開始後に改めてお知らせします。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

**【Outline and objectives】**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

**スポーツ総合演習**

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 IJK

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好
  - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる。
  - 2) 体力測定の意義を述べるができる
  - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. 身体構造と運動との関係を知る：鈴木
  - 1) 動作や運動について理解する
  - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
  - 3) 遊びについて理解を深める
  - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. スポーツと医学：大西
  - 5) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
  - 6) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
  - 7) 実際の身体活動と運動強度および生体応答との関係を理解する
  - 8) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと心理：草山
  - 9) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
  - 10) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
    - 11) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
    - 12) 集団でスポーツを行なう際の心理的事象について説明できる
5. 姿勢と動作：三好
  - 13) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
  - 14) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
  - 15) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

1. はじめに
 

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ
 

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注)各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回(=教員4人×授業3回)の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：姿勢と動作〔三好〕

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価
2	身体構造と運動Ⅰ(動く仕組みの実践)	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ(随意運動)	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ(動作の実践)	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ(身体活動と健康との関係)	①身体活動とエネルギー消費 ②身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
6	スポーツと医学Ⅱ(健康運動演習：身体活動と身体応答)	身体活動と運動強度および生体応答
7	スポーツと医学Ⅲ(生活習慣病とその運動処方)	生活習慣病とその運動処方
8	スポーツと心理Ⅰ(モチベーションの種類と目標設定技法)	①モチベーションの種類(内発的動機づけと外発的動機づけ) ②目標設定技法
9	スポーツと心理Ⅱ(内発的動機づけと外部報酬との関係)	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ(集団における動機づけ)	①達成動機と要求水準 ②集団による同調 ③社会的促進と社会的手抜き
11	姿勢と動作Ⅰ:骨盤操作と姿勢	①立位姿勢の構造 ②実習：動作課題1(骨盤のセルフコントロール)
12	姿勢と動作Ⅱ:胸椎と肩の操作	動作課題2(背骨と肩のセルフコントロール)
13	姿勢と動作Ⅲ:身体への気づきと心身の健康	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験(マークシート解答方式)を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

②本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
  2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
  3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
  4. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
  5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
  6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版
  7. 伊藤マモル(監修)『痛めない!ゆるまない!ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
  8. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- その他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価20%+試験80%

大西：授業内評価24%+試験76%

草山：授業内評価24%+試験76%

三好：授業内評価80%+試験20%

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習のためのレポートなど)やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が8回以上の者を対象とするので注意してください(欠席および遅刻、早退は減点されます)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目=スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2020年度は2019年度までの授業内容を踏襲する中で、各教員が工夫を加え授業内容を考えています。

#### 【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）

第11回	卓球 - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球 - 応用 -	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

春学期はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

## 【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

千葉 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）

第11回	卓球 - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球 - 応用 -	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

## 【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

福井 邦宗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更について、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とする。

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントン（基礎）	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）

8	バドミントン（応用）	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
9	卓球（基礎）	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球（応用）	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーション（講義）	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーション（実技）	対人及びグループ間でのワークもしくは身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2) 課題・レポート 40%。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3) 原則として欠席3回までを評価の対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

福井 邦宗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントン（基礎）	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
8	バドミントン（応用）	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）

9	卓球（基礎）	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球（応用）	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーション（講義）	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーション（実技）	対人及びグループ間でのワークもしくは身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2) 課題・レポート 40%。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3) 原則として欠席3回までを評価の対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

和田 拓真

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始は、4月24日から始まります。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解して実施する（講義および実習）
第3回	ドッチビー（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第4回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第6回	ドッチビー（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第7回	卓球（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第8回	卓球（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第9回	スポーツ心理学（自己理解）	自己理解に関する講義およびレポートの作成（講義）
第10回	スポーツ心理学（相互理解）	相互理解に関する講義およびレポートの提出（講義）
第11回	バドミントン（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）

第12回 バドミントン（応用） 試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

第13回 ソフトバレーボール（基礎） ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）

第14回 ソフトバレーボール（応用） 試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること。また、授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

和田 拓真

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解して実施する（講義および実習）
第3回	ドッチビー（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第4回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第6回	ドッチビー（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第7回	卓球（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第8回	卓球（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第9回	スポーツ心理学（自己理解）	自己理解に関する講義およびレポートの作成（講義）
第10回	スポーツ心理学（相互理解）	相互理解に関する講義およびレポートの提出（講義）
第11回	バドミントン（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）

第12回	バドミントン（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第13回	ソフトバレーボール（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第14回	ソフトバレーボール（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること。また、授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
5	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
6	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習
7	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
8	スポーツと心理学の基礎	ウェルビーイングの向上に関する基礎講義
9	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
10	ソフトバレーボールの応用	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール応用実習

11	バドミントンの応用	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン応用実習
12	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習
13	卓球基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングの向上に関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する可能性がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

国 GKM・環 DE・キ F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。※春学期中は学習支援システムで授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
5	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
6	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習
7	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
8	スポーツと心理学の基礎	ウェルビーイングの向上に関する基礎講義
9	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
10	ソフトバレーボールの応用	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール応用実習
11	バドミントンの応用	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン応用実習
12	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習

13	卓球の基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングの向上に関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対処・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）

第11回	卓球 - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球 - 応用 -	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

## 【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

千葉 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）

第11回	卓球 - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球 - 応用 -	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

## 【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

福井 邦宗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更について、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とする。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントン（基礎）	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）

8	バドミントン（応用）	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
9	卓球（基礎）	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球（応用）	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーション（講義）	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーション（実技）	対人及びグループ間でのワークもしくは身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2) 課題・レポート 40%。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3) 原則として欠席3回までを評価の対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること。

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

福井 邦宗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定フィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントン（基礎）	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
8	バドミントン（応用）	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）

9	卓球（基礎）	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球（応用）	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーション（講義）	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーション（実技）	対人及びグループ間での身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2) 課題・レポート 40%。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3) 原則として欠席3回までを評価の対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

## 【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

和田 拓真

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始は、4月24日から始まります。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解して実施する（講義および実習）
第3回	ドッチビー（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第4回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第6回	ドッチビー（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第7回	卓球（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第8回	卓球（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第9回	スポーツ心理学（自己理解）	自己理解に関する講義およびレポートの作成（講義）
第10回	スポーツ心理学（相互理解）	相互理解に関する講義およびレポートの提出（講義）
第11回	バドミントン（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）

第12回	バドミントン（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第13回	ソフトバレーボール（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第14回	ソフトバレーボール（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること。また、授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

和田 拓真

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解して実施する（講義および実習）
第3回	ドッチビー（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第4回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第6回	ドッチビー（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第7回	卓球（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第8回	卓球（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第9回	スポーツ心理学（自己理解）	自己理解に関する講義およびレポートの作成（講義）
第10回	スポーツ心理学（相互理解）	相互理解に関する講義およびレポートの提出（講義）
第11回	バドミントン（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）

第12回	バドミントン（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第13回	ソフトバレーボール（基礎）	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第14回	ソフトバレーボール（応用）	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること。また、授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。※春学期中は学習支援システムで授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
5	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
6	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
7	卓球の基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
8	スポーツと心理学の基礎	ウェルビーイングの向上に関する基礎講義
9	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
10	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習

11	バドミントンの応用	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン応用実習
12	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習
13	ソフトバレーボールの応用	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール応用実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングの向上に関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する可能性がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。※春学期中は学習支援システムで授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
5	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
6	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習
7	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
8	スポーツと心理学の基礎	ウェルビーイングの向上に関する基礎講義
9	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
10	ソフトバレーボールの応用	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール応用実習
11	バドミントンの応用	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン応用実習
12	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習

13	卓球の基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングの向上に関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ JKLMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）

第11回	卓球 - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球 - 応用 -	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

## 【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

千葉 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ ABCDE

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン - 応用 -	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）

第11回	卓球 - 基礎 -	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球 - 応用 -	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

## 【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ JKLMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
4	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
5	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
6	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
7	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
8	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習
9	卓球の基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
10	ヘデイスの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したヘデイス基礎実習

11	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
12	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習
13	ウォーキングの応用	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング応用実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングに関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ ABCDE

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。※春学期中は学習支援システムで授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
5	バドミントンの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン基礎実習
6	ソフトバレーボールの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール基礎実習
7	ウォーキングの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したウォーキング基礎実習
8	スポーツと心理学の基礎	ウェルビーイングの向上に関する基礎講義
9	ドッチビーの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したドッチビー基礎実習
10	ソフトバレーボールの応用	ウェルビーイングの向上を目指したソフトバレーボール応用実習
11	バドミントンの応用	ウェルビーイングの向上を目指したバドミントン応用実習
12	インディアカの基礎	ウェルビーイングの向上を目指したインディアカ基礎実習

13	卓球の基礎	ウェルビーイングの向上を目指した卓球基礎実習
14	スポーツと心理学のまとめ	授業の総括、ウェルビーイングの向上に関するレポートの作成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対処・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

## 【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

## 【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ JKLMN

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業はコロナウイルスの影響により、オンライン授業となります。開始日は4月24日となります。

この授業は必修科目で、原則、学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間でコミュニケーションをとる。
- 3) 同時帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業展開評価方法のガイダンス
第2回	体力測定	体力測定の意義を理解し、実践する。
第3回	講義およびバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基本技術の習得およびルールを説明する
第4回	講義およびソフトバレーボール	スポーツと健康について講義 ソフトバレーボールの基本技術の習得、ルール及びチームワークを説明する
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について説明する
第6回	講義及び3X3バスケットボール	スポーツと健康について講義 3X3バスケットボールの基本技術習得&ゲーム

第7回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術習得&ゲーム
第8回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及&ゲーム
第9回	体力についての講義	体力及び体力測定の定義、評価について説明する
第10回	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基本技術の習得及びゲームを行う またルールについて説明する
第11回	講義及びバレーボール	チームワークについて講義 バレーボールのゲームを行う
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の効果について説明する（講義と実践）
第13回	講義及びバスケットボール	チームワークについて講義 バスケットボールのゲームを行う
第14回	授業の総括	授業の総括及び生涯スポーツについて講義 レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします  
教員の指示に従って、以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる（技術やルール、マナー等）。
- 2) 日常生活（食事・運動・休養等）記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて心身の健康状態を整える。

## 【テキスト（教科書）】

授業時に体力カード・資料を配布する

## 【参考書】

必要・希望に応じて紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況60%
  - 2) 課題・レポート内容40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

運動意欲や参加意欲の高い学生が多いのがアンケートからわかる。日ごろの運動不足を少しでも解消できるように指導し色々な種目を体験し実施することで経験や習得した知識が、これからの学生が健康に生活していくために少しでも役立つように指導したい。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ ABCDE

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則、学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間でコミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業展開評価方法のガイダンス
第2回	体力測定	体力測定の意義を理解し、実践する。
第3回	講義およびバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基本技術の習得およびルールを説明する
第4回	講義およびソフトバレーボール	スポーツと健康について講義 ソフトバレーボールの基本技術の習得、ルール及びチームワークを説明する
第5回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について説明する
第6回	講義及び3X3バスケットボール	スポーツと健康について講義 3X3バスケットボールの基本技術習得&ゲーム
第7回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術習得&ゲーム

第8回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得&ゲーム
第9回	体力についての講義	体力及び体力測定の定義、評価について説明する
第10回	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基本技術の習得及びゲームを行う またルールを説明する
第11回	講義及びバレーボール	チームワークについて講義 バレーボールのゲーム
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の効果について説明する（講義と実践）
第13回	講義及びバスケットボール	チームワークについて講義 バスケットボールのゲーム
第14回	授業の総括	授業の総括及び生涯スポーツについて講義 レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします  
教員の指示に従って、以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる（技術やルール、マナー等）。
- 2) 日常生活（食事・運動・休養等）記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて心身の健康状態を整える。

## 【テキスト（教科書）】

授業時に体力カード・資料を配布する

## 【参考書】

必要・希望に応じて紹介する

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
  - 2) 課題・レポート内容 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

運動意欲や参加意欲の高い学生が多いのがアンケートからわかる。日ごろの運動不足を少しでも解消できるように指導し色々な種目を体験し実施することで経験や習得した知識が、これからの学生が健康に生活していくために少しでも役立つように指導したい。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 6/Mon.6

単位数：2 単位

法以外の再履修・社会人クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、法学部以外の学部再履修生および社会人学生（RSP 学生を含む）を対象に開講される。春学期授業の1～8回はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また9～12回はサマーセッション期間中に多摩キャンパスで行う。ただ、状況によってはオンライン授業に変わる可能性もあるので、8回目の授業で伝達する。

本授業の開始日は4月27日（月）6時限目とし、この日までに具体的にはオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康に及ぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	トレーニング演習 (講義および実習)	トレーニング理論および実践方法を理解し、実際に機器を使ってトレーニングを行う。また、自重を用いたトレーニング方法を習得する。
5	ウォーミングアップとクーリングダウン (講義および実習)	ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性について説明する。特にストレッチの種類、正確な行い方については実践を通じて習得する。

6	スポーツ傷害と応急処置 (講義および実習)	スポーツ傷害について、発生要因とその応急処置を説明する。また温・冷罨法における生体機能について説明する。
7	スポーツ・ウォーキング (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングにの身体へ及ぼす影響を理解し、基本的なウォーキング技術を習得しながら、多摩キャンパス内を実践する。
8	食事と健康 (講義)	栄養素と身体活動との関係を理解し、多摩キャンパス内の食堂でバランスの取れた食事を摂取する。
9	ニューススポーツ (講義および実習)	ニューススポーツについて概説し、その一つであるソフトバレーを実践する。基本的なパス、レシーブ、サーブ練習を行った後に、チームに分かれてゲームを行う。
10	ヨガと瞑想 (講義および実習)	ヨガについて概説し、基本のポーズを筋肉の解剖を理解しながら実践する。同時に、呼吸法の一つを実践することで瞑想状態に近づける。
11	トレッキングの基礎知識 (講義および実習)	トレッキングの基礎知識を概説し、多摩キャンパス近くにある高尾山を歩き、トレッキングを体験する。
12	トレッキングと自然環境 (講義および実習)	自然活動を行う際の基礎的な知識から、トレッキングなどの専門的な知識などを実践を通じて学習する。高尾山の自然環境を体感することで、環境問題について意見を述べ合い、その対策などを確認しながら、トレッキングを実践する。
13	トレッキングと健康 (講義および実習)	トレッキングが身体への諸器官に与える影響について説明する。また適切な水分摂取の方法や身体ケアの方法について習得する。総括として、自然活動のマナーやルールについて学生同士話し合いを行う。
14	まとめ (講義)	授業全体を通じて、学んだこと、感じたことを振り返り、身体活動の意義や役割について、学生同士意見交換を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学修支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
- 3) 毎回授業の最後に次回の内容を伝達し、回りの準備にあてるよう工夫を行う。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

**スポーツ総合演習**

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 6/Mon.6

単位数：2 単位

法以外の再履修・社会人クラス

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ（基礎）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う

7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ(基礎)(講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ(応用)(講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式(ネット型)のスポーツを学ぶⅢ(基礎)(講義と実習)	対戦形式(ネット型)を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスゲームを行う
11	対戦形式(ネット型)のスポーツを学ぶⅣ(応用)(講義と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ(基礎)(理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ(応用)(理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括(講義)	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

環 HIJ

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定を行い、その意義について学ぶ。
3	運動・スポーツと健康 (講義)	体力測定の結果を踏まえ、自身の体力を客観的に捉え、健康な体力作りに必要な方策について考える。
4	トレーニング演習 (講義および実習)	トレーニングの理論と実践方法
5	チームビルディング・バレーボール（基礎） (講義および実習)	チームビルディングの重要性並びに、バレーボールの基礎について学ぶ。
6	バレーボール（応用）・シッティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールのゲームについて学ぶとともに、様々なスポーツ参加のあり方について学ぶ。
7	フットサル・ブラインドサッカー (講義および実習)	フットサルについて学ぶとともに、様々なスポーツ参加のあり方について学ぶ。
8	スポーツの社会的意義 (講義)	オリンピック・パラリンピック大会について学ぶとともに、スポーツの社会的意義について学ぶ。
9	バドミントン（基礎） (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。

10	バドミントン（応用） (講義および実習)	バドミントンの応用について学び、ルール等を工夫してゲームを行う。
11	卓球（基礎） (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
12	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のゲームおよび、様々なスポーツ参加のあり方について学ぶ。
13	アダプテッド・スポーツ (講義および実習)	スポーツの構造について実践を通して学び、工夫することを通して様々な参加方法があることを学ぶ。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見交換を行い、授業全体の総括を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。教場並びに受講者数等の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

キ IOP

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定を行い、その意義について学ぶ。
3	運動・スポーツと健康 (講義)	体力測定の結果を踏まえ、自身の体力を客観的に捉え、健康な体力作りに必要な方策について考える。
4	トレーニング演習 (講義および実習)	トレーニングの理論と実践方法
5	チームビルディング・バレーボール（基礎） (講義および実習)	チームビルディングの重要性並びに、バレーボールの基礎について学ぶ。
6	バレーボール（応用）・シットイングバレーボール (講義および実習)	バレーボールのゲームについて学ぶとともに、様々なスポーツ参加のあり方について学ぶ。
7	フットサル・フラインドサッカー (講義および実習)	フットサルについて学ぶとともに、様々なスポーツ参加のあり方について学ぶ。

8	スポーツの社会的意義 (講義)	オリンピック・パラリンピック大会について学ぶとともに、スポーツの社会的意義について学ぶ。
9	バドミントン（基礎） (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
10	バドミントン（応用） (講義および実習)	バドミントンの応用について学び、ルール等を工夫してゲームを行う。
11	卓球（基礎） (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
12	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のゲームおよび、様々なスポーツ参加のあり方について学ぶ。
13	アダプテッド・スポーツ (講義および実習)	スポーツの構造について実践を通して学び、工夫することを通して様々な参加方法があることを学ぶ。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見交換を行い、授業全体の総括を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

## 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
  - 2) 課題レポート 40%
- の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。教場並びに受講者数等の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

環 HIJ

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ（基礎）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める

8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（基礎）（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

キ IOP

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ（基礎）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う

7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（基礎）（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体に関して体調・自身の傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

## 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

選択

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及実習を通じて育成する。

## 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

自由に選択履修できる週1回半期型授業（選択授業）

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位をする。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	講義の概要、実技のねらい 授業の進め方、注意事項の説明、 到達目標などを説明する。
2 回目	フリスビーゲーム	アルティメットゲーム 投げ方、オフセス、デフェンス の方法。
3 回目	ウォーキング方法	ウォーキングの良さを話す。ト レッドミルで脈拍100拍を目標 で歩く。
4 回目	講義	運動が健康に及ぼす影響を説明す る。
5 回目	バトミントン	ハイクリアー、スマッシュ、ド ロップなど基本の打ち方の練習。 シングル、ダブルスゲーム。
6 回目	ストレッチ体操と軽い トレーニングの実践	柔軟性が不足しているので日常や れる種目を指導する。

7 回目	ウォーキングを外で	ウォーキングの良さを実践をし理解する。クラスの仲間と会話をしながら楽しく歩く。
8 回目	バスケットボール	パス、左右からのシュート、レイアップシュート、オフセンス、デフェンスの動きを理解する。ゲーム
9 回目	ユニホッケー	ストックの使い方、パス、ドリブル、シュート練習。ゲーム
10 回目	フットサル	インサイドキック、トラップの練習。1人でドリブルシュート、2人でバスからのシュート。ゲーム
11 回目	縄跳び	簡単な跳びから複雑な跳びへ跳へ。学生同志のコミュニケーションと脚力強化を図る。
12 回目	ストレッチ体操、バランスボールの実践	バランスボールとトレーニングマシンの説明をする。そして各学生が不足している筋力に合わせてメニューを作り実践する。
13 回目	卓球	ペン、シェイクの打ち方の違い。フォアハンド、バックハンド、スマッシュ等の打ち方の練習。シングル、ダブルスゲームする。
14 回目	まとめ	講義とテスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業に行くべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

#### 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者にたいしては、個別に対応・評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見・授業内での学習の様子を踏まえ、目標達成を念頭に置く。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

## スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

国井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

選択

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

#### 【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で抽選可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	講義の概要、実技のねらい、進め方、注意事項、到達目標など説明する。
2 回目	フリスビー	投げ方、オフセンス、デフェンスの方法。 アルティメットゲーム
3 回目	ウォーキング方法	ウォーキングの良さを話す。トレッドミルで脈拍を100拍を目標で歩く。
4 回目	講義	運動が健康に及ぼす影響を説明する。
5 回目	バトミントン	ハイクリアー、スマッシュ、ドロップなど基本の打ち方の練習。シングル、ダブルスゲーム。
6 回目	ストレッチ体操と軽いトレーニングの実践	柔軟性が不足しているので日常やれる種目を指導する。
7 回目	ウォーキングを外で	ウォーキングの良さを実践し理解する。クラスの仲間と会話をしながら楽しく歩く。
8 回目	バスケットボール	パス、左右からのシュートレイアップシュート、オフセンス、デフェンスの動きを理解する。ゲーム

9 回目	ユニホッケー	ストックの使い方、パス、ドリブル、シュート練習。ゲーム
10 回目	フットサル	インサイドキック、トラップの練習。1人でドリブルシュート、2人でパスからのシュート。ゲーム
11 回目	縄跳び	簡単な跳びから複雑な跳びへ。学生同志のコミュニケーションと脚力強化を図る。
12 回目	ストレッチ体操、バランスボールの実践。	バランスボールとトレーニングマシンの説明する。そして各学生が不足している筋力に合わせてメニューを作り、実践する。
13 回目	卓球	ペン、シェイクの打ち方の違い。フォアハンド、バックハンド、スマッシュ等の練習。シングル、ダブルスゲームを実践。
14 回目	まとめ	講義とテスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員配布する。

#### 【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見・授業内での学習の様子を踏まえ、目標達成を念頭に置く。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that

HSS100LA

## スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法以外の再履修クラス

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

#### 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ（基礎）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める

8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（基礎）（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。  
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。  
授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。  
授業当日、実技実施前後において、自身の身体に関して体調・自身の傷害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

**【Outline and objectives】**

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

**スポーツ総合演習**

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法以外の再履修クラス

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。  
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ（基礎）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う

7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（基礎）（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（応用）（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（基礎）（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（応用）（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体に関して体調・自身の傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

#### 【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようになる。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。5月29日までは共通教材を使用した自習となり、テキストを使用した本授業の開始日は5月30日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて5回ずつ練習して下さい。出欠確認時に見せてもらいます（対面授業時のみ）
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	共通課題	共通課題による学習
2	共通課題	共通課題による学習
3	共通課題	共通課題による学習
4	共通課題	共通課題による学習
5	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？ (前半)
6	Chapter 1	(後半)
7	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 (前半)
8	Chapter 2	(後半)
9	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来 (前半)
10	Chapter 3	(後半)

11	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」 (前半)
12	Chapter 4	(後半)
13	Chapter 5	貴族社会の実情 (前半)
14	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに5回ずつ練習する。音声は教科書のHPから無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。  
<http://www.otowatsurumi.com/3838>

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいままを知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2019年、1800円

## 【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更される場合がある。随時シラバスと学習支援システムで提示する。
- ・平常点（授業参加度、授業態度、課題等）30% + 学期末試験 70% = 100%
- ・各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4回以上に匹敵する課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3回遅刻で1回の欠席と同等にする。
- ・欠席・遅刻は平常点の減点対象となる。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、学習支援システムを用いるため、スマートフォンやパソコンが必要となります。

## 【その他の重要事項】

コロナ対策のため、シラバスには随時変更があります。

## 【Outline and objectives】

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。出欠確認時に見せてもらいます。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	大学と高等教育 (前半)
2	Chapter 7	(後半)
3	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
4	Chapter 8	(後半)
5	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術、発明、ビジネス (前半)
6	Chapter 9	(後半)
7	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
8	Chapter 10	(後半)
9	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
10	Chapter 11	(後半)
11	Chapter 12 Music and fashion	音楽とファッションの密な関係 (前半)
12	Chapter 12	(後半)

13	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
14	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）音羽書房鶴見書店、2019 年、1800 円

## 【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 学期末試験 70 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30 分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3 回の遅刻で 1 回の欠席と同等にする。
- ・欠席・遅刻は平常点の減点対象となる。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する可能性がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 30 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Cool, Calm and Heroic (listening)
3	Unit 1	Cool, Calm and Heroic (reading)
4	Unit 2	Flying into the Future (listening)
5	Unit 2	Flying into the Future (reading)
6	Unit 3	Food Healthy for the Planet (listening)
7	Unit 3	Food Healthy for the Planet (reading)
8	Unit 4	Explosive Demand for Cobalt (listening)
9	Unit 4	Explosive Demand for Cobalt (reading)
10	Unit 5	Starting Somewhere (listening)
11	Unit 5	Starting Somewhere (reading)
12	Unit 6	Serious Solution Needed (listening)
13	Unit 6	Serious Solution Needed (reading)
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (21)』

(朝日出版社)

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30% で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。今学期出す 14 回分の課題のうち 4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位取得の資格を失います。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

## 【その他の重要事項】

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

## 【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Self-Inflicted Wounds (listening)
3	Unit 7	Self-Inflicted Wounds (reading)
4	Unit 8	Deeply Disturbing (listening)
5	Unit 8	Deeply Disturbing (reading)
6	Unit 9	Coping with Change (listening)
7	Unit 9	Coping with Change (reading)
8	Unit 10	Playing a Better Role (listening)
9	Unit 10	Playing a Better Role (reading)
10	Unit 11	Breaking the Connection (listening)
11	Unit 11	Breaking the Connection (reading)
12	Unit 12	As Young as You Feel (listening)
13	Unit 12	As Young as You Feel (reading)
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study of the Definition と Examples を、後半はニュースのクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (21)』  
(朝日出版社)

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

## 【その他の重要事項】

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

## 【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語の文章を正確に読み取ることを目指し、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence) に留意して論旨を把握することに重点を置きます。物事を批判的にみる力の養成も行います。大学生にとって身近な問題から社会問題まで扱った英文を読み、主旨にどの程度同意するかを、テキストブックのタスクを通して、自分の意見を発言できる力を養成します。また、ディスカッションを多用して、コミュニケーション能力を高めます。

4 技能統合型のテキストブックに加えて、サブ・テキストブックの *TOEIC Test Vocabulary Quizzes* を用いて語彙力の増強を図ります。また、新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げ、時事問題や社会問題についての理解を深めます。

**【到達目標】**

英語の文章をある程度のスピードで正確に読み取る能力を伸ばすことを目指します。そのために、高校までの英文解釈とは異なり、英文を英語のまま理解するスキルを身につけることができることを目的とします。

どのユニットにおいてもディスカッションの機会があるため、英語で発言することに慣れます。学生同士の意見の交換を通して、学生はコミュニケーション能力を高める機会を得ます。

テキストブックやサブ・テキストブック、その他の記事を読むことで、語彙の増強を図ります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

>重要 本授業の開始日は、4 月 22 日 (水) とします。この日まで具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。なお、ご承知のように春学期の少なくとも前半は、オンラインでの授業となります。それにともなう授業内容の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

学生は、各ユニットに記載されている QR コードを使った聞き取り問題をスマートフォンを用いて、必ず授業前に予習することを義務付けします。それを授業において音声を通してディクテーションをします。提出された結果は、授業評定に含めますので、予習は必修となります。

テキストの読解に加えて、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションの機会をもちます。授業の理解度と、教師との意思の疎通をはかるために、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。課題について意見を授業内で発表したり、宿題として提出を求める場合があります。リスニング力をつけるために語学教材ビデオを平常授業の合間に用いる場合があります。

授業はスケジュールに沿って行いますが、時事問題の記事を取り上げる場合に多少変更することがあります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について

2	Unit 1-1	We should keep early hours(1): Step 0 - Step 8
3	Unit 1-2 <i>TOEIC Test Vocabulary Quizzes</i>	We should keep early hours(2): Step 9 - Optional Step
4	Unit 2-1	College Students should live alone(1): Step 0 - Step 8
5	Unit 2-2 <i>TOEIC Test Vocabulary Quizzes</i>	College Students should live alone(2): Step 9 - Optional Step
6	Unit 3-1	Club activities should be banned at schools(1): Step 0 - Step 8
7	Unit 3-2 <i>TOEIC Test Vocabulary Quizzes</i>	Club activities should be banned at schools(2): Step 9 - Optional Step
8	Unit 4-1	Study abroad experience should be a requirement for university graduation (1): Step 0 - Step 8
9	Unit 4-2 <i>TOEIC Test Vocabulary Quizzes</i>	Study abroad experience should be a requirement for university graduation (2): Step 9 - Optional Step
10	Unit 6-1	College students should choose an occupation that suits them(1): Step 0 - Step 8
11	Unit 6-2 <i>TOEIC Test Vocabulary Quizzes</i>	College students should choose an occupation that suits them(2): Step 9 - Optional Step
12	Unit 7-1	We should consider important rules and manners for online communication(1): Step 0 - Step 8
13	Unit 7-2 <i>TOEIC Test Vocabulary Quizzes</i>	We should consider important rules and manners for online communication(2): Step 9 - Optional Step
14	期末試験	テキストブック・サブ・テキストブック、配布したプリントから出題。 試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は大学のガイドラインにおいて、1 単位の学科では合わせて週に 1 時間を標準としています。ただし、これは最低限の勉強時間数であり、テキストブックの読み込みや単語の意味調べなどの準備学習や復習を行うには、当然、これ以上の勉強時間数が必要となります。

(University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.)

学生はテキストブックを事前に予習し、特に QR コードを読み取って行うディクテーションがすらすら書けるよう、何度も聞き返しておくこと。授業内でレポートなどの提出を求められる場合は、提出日時をきちんと守ることが必要です。期日を守らない場合、受け取りませんので減点となります。

**【テキスト（教科書）】**

1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD、三修社、2019 年、2000 円  
2. *TOEIC Test Vocabulary Quizzes*, SATO Seishi、南雲堂、2018 年、700 円

**【参考書】**

テキストブックの音声ダウンロードサイト：  
<http://www.sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>  
総合英語 *Evergreen*、いっずな書店、2018 年、1520 円

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、以下に記述した成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、実際にオンライン授業を始めてみて、その内容と期間を考慮のうえ、学習支援システム上に提示します。

学期末試験 (40%)、小テスト (20%)、宿題 (20%)、平常点：学習状況や参加度 (20%) として総合評価します。

成績評価は 100 点満点で 60 点以上が合格となります。

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を与えません。始業時間から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなります。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

## 【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。

## 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

## 【その他の重要事項】

授業中に教師からの指示があった場合や、辞書代わりに使うことを教師に求めた場合以外にスマートフォンを使用することを厳禁とします。授業目的以外にスマートフォンを使用したことを教師がみつけた場合は、平常点からの減点対象となります。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge about the structure of English sentences (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence). Students will be able to discover various aspects of the society through reading the text books. To develop the communication skills, students will have a number of discussion occasions. In addition to the main textbook, we will use *TOEIC Vocabulary Quizzes* and articles from newspapers, magazines and the Web sites to widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、英語の文章の構造を理解し、論旨を素早く理解できるよう、英文解釈ではなく、英語のまま理解するスキルを伸ばしていきます。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて発信力を高めていきます。

語彙力の増強を図るために、サブ・テキストブックを使用し、時事英語の記事などを適宜取り入れ、語彙を増やすだけでなく社会問題について考察します。

## 【到達目標】

英語の文章をある程度のスピードで正確に読み取る能力を伸ばすことを目指します。そのために、高校までの英文解釈とは異なり、英文を英語のまま理解するスキルを身につけることができることを目的とします。

どのユニットにおいてもディスカッションの機会があるため、英語で発言することに慣れます。学生同士の意見の交換を通して、学生はコミュニケーション能力を高めることを目指します。

テキストブックやサブ・テキストブック、その他の記事を読むことで、語彙の増強を図ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

学生は、各ユニットに記載されている QR コードを使った聞き取り問題をスマートフォンを用いて、必ず授業前に予習することを義務付けします。それを授業において音声を通してディクテーションをします。提出された結果は、授業評定に含めますので、予習は必修となります。

テキストの読解に加えて、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションの機会をもちます。授業の理解度と、教師との意思の疎通をはかるために、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。課題について意見を授業内で発表したり、宿題として提出を求める場合があります。リスニング力をつけるために語学教材ビデオを平常授業の合間に用いる場合があります。

授業はスケジュールに沿って行いますが、時事問題の記事を取り上げる場合に多少変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1	More Japanese companies should use English as their main language of business(1): Step 0- Step 8
2	Unit 8-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	More Japanese companies should use English as their main language of business(2): Step 9 - Optional Step
3	Unit 9-1	School and company uniforms should be abolished(1): Step 0 - Step 8
4	Unit 9-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	School and company uniforms should be abolished(2): Step 9 - Optional Step

5	Unit 10-1	We should promote private lodging more(1): Step 0 - Step 8
6	Unit 10-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	We should promote private lodging more(2): Step 9 - Optional Step
7	Unit 11-1	We should limit the number of tourists from abroad(1): Step 0 - Step 8
8	Unit 11-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	We should limit the number of tourists from abroad(2): Step 9 - Optional Step
9	Unit 13-1	We should not let elementary school kids use smartphones(1): Step 0 - Step 8
10	Unit 13-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	We should not let elementary school kids use smartphones(2): Step 9 - Optional Step
11	Unit 15-1	Married Japanese women should be allowed to keep their family name(1): Step 0 - Step 8
12	Unit 15-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	Married Japanese women should be allowed to keep their family name (2): Step 9 - Optional Step
13	Review Reading	Vocabulary review Articles from current topics
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題。 試験、まとめと解説

#### 【その他の重要事項】

授業中に教師からの指示があった場合や、辞書代わりに使うことを教師に求めた場合以外にスマートフォンを使用することを厳禁とします。授業目的以外にスマートフォンを使用したことを教師がみつけた場合は、平常点からの減点対象となります。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge about the structure of English sentences (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence). Students will be able to discover various aspects of the society through reading the text books. To develop the communication skills, students will have a number of discussion occasions. In addition to the main textbook, we will use *TOEIC Vocabulary Quizzes* and articles from newspapers, magazines and the Web sites to widen the students' vocabulary and their horizons.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は大学のガイドラインにおいて、1単位の学科では合わせて週に1時間を標準としています。ただし、これは最低限の勉強時間数であり、テキストブックの読み込みや単語の意味調べなどの準備学習や復習を行うには、当然、これ以上の勉強時間数が必要となります。

(University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.)

学生はテキストブックを予習し、特にQRコードを読み取って行うディクテーションがすらすらと書けるように何度も聞き返して準備すること。また、レポートなどの提出は、期日をきちんと守ることが必要です。期日を守らない場合は受け取りませんので、減点の対象になります。

#### 【テキスト（教科書）】

1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD、三修社、2019年、2000円
2. *TOEIC Test Vocabulary Quizzes*, SATO Seishi、南雲堂、2018年、700円

#### 【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：  
<http://www.sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>  
 総合英語 *Evergreen*、いづな書店、2018年、1520円

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (40%)、小テスト (20%)、宿題 (20%)、平常点：学習状況や参加度 (20%) として総合評価します。  
 成績評価は 100 点満点で 60 点以上が合格となります。  
 欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を与えません。始業時間から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなります。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカについての知識を習得しながら、読解・文法・語彙に重点を置いて英語を学ぶ。

## 【到達目標】

アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当を決めず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	授業についての詳しい説明など
2	The New World	新世界について reading
3	Columbus	コロンブスについて exercise
4	New England	ニューイングランドについて reading
5	Southern Colonies	南部の植民地について exercise
6	Before the War of Independence	独立戦争以前について reading
7	The War of Independence	独立戦争について exercise
8	Lewis and Clark	ルイス アンド クラークについて reading
9	The West	西部について exercise
10	Americans Move West	西漸運動について reading
11	Pioneers	開拓者について exercise
12	Gold Rush	ゴールドラッシュについて reading
13	期末試験と総括	春学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。準備：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、関連する文献を読んでおく。

復習：準備段階で分からなかったところを読み直し、深く理解できるようにしておく。

宿題：テキストに関連した事柄で発表できるようにしておく。

## 【テキスト（教科書）】

Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

必ず辞書を持ってくること。

## 【Outline and objectives】

We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカについての知識を習得しながら、読解・文法・語彙に重点を置いて英語を学ぶ。

## 【到達目標】

アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当を決めず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	春学期の復習及び秋学期の授業についての詳しい説明
2	Slavery	奴隷制度について reading
3	The Civil War	南北戦争について exercise
4	The Great Depression	世界恐慌について reading
5	The New Deal	ニューディール政策について exercise
6	Before the Second World War	第二次世界大戦以前について reading
7	Pearl Harbor	真珠湾について Exercise
8	Hitler	ヒトラーについて reading
9	The Pacific War	太平洋戦争について exercise
10	The Viet Nam War	ベトナム戦争について reading
11	After the Viet Nam War	ベトナム戦争後について exercise
12	The Expansion of the United States	領土拡張について reading
13	期末試験と総括	秋学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。準備：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、関連する文献を読んでおく。

復習：準備段階で分からなかったところを読み直し、深く理解できるようにしておく。

宿題：テキストに関連した事柄で発表できるようにしておく。

## 【テキスト（教科書）】

Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

## 【その他の重要事項】

必ず辞書を持ってくること。

## 【Outline and objectives】

We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

## 神 康介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

使用するテキストは日本の文化、教養、健康、そしてビジネス展開をテーマとし、それに関連した題材を学習する。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味が十分に満たされる。

## 【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Yuzuru Hanyu Kei Nishikori	日本のスポーツについて学習する。
3	Christel Takigawa Kyary Pamyu Pamyu	日本の新しい文化について学習する。
4	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産について学習する。
5	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産について学習する。
6	Spiber	新しい産業について学習する。
7	Abenomics	経済について学習する。
8	Maglev Train	工業技術について学習する。
9	Pokémon Go	エンターテインメントについて学習する。
10	My Number	マイナンバーについて学習する。
11	Net TV	インターネットについて学習する。
12	Epsilon Rocket	人工知能について学習する。
13	Olive Oil Medicinal Plants	食品産業について学習する。 薬草について学習する。
14	期末試験	半期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

Cool Japan 南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で40%、期末試験の結果で60%で評価する。原則として半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs.

This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from Japanese culture and improve their language skills at the same time.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

使用するテキストは現代のイギリス社会についての英文を取り上げ、英語力の向上を目指している。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味を本書が十分に満たすものと思われる。

## 【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	LESSON1 No More Shakespeare?	秋学期オリエンテーション シェイクスピアについて
2	LESSON2 Privacy Matters LESSON3 Pet Peeves	プライバシー保護 ペット問題
3	LESSON4 Truth in Advertising LESSON5 The Race to Work	広告 通勤
4	LESSON6 Un safe at Any Speed	スピード違反
5	LESSON7 Up in Smoke	嫌煙権
6	LESSON8 Keeping Up Appearances	外見を飾る
7	LESSON9 Painful Cuts	財政問題
8	LESSON10 The Future of Cinema?	映画
9	LESSON11 Separate Ways	離婚

10	LESSON12 Power to the People	環境問題
11	LESSON13 Behind Bars	獄中からの叫び
12	LESSON14 O City of Broken Dreams	貧困
13	LESSON15 Changing Times	変遷
14	期末試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

U.K. Update いま、イギリスを読む 南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。・成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs.

This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from the U.K. today and update their language skills at the same time.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

**【到達目標】**

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Going Viral: How are some people getting so famous online?	「ネットで拡散：人はどのようにしてネットで有名になるのか」前半講読
3	Chapter 1-2 Going Viral: How are some people getting so famous online?	「ネットで拡散：人はどのようにしてネットで有名になるのか」後半講読
4	Chapter 6-1 Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction?	「完全に死滅：多くの種が絶滅の危機に瀕しているのはなぜか」前半講読
5	Chapter 6-2 Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction?	「完全に死滅：多くの種が絶滅の危機に瀕しているのはなぜか」後半講読
6	英作文	chapter 1.6 に関する各自の意見を英語でまとめる

7	Chapter 11-1 A perfect World: How close are we to achieving world peace?	「理想郷：世界平和の実現は近いのか」前半講読
8	Chapter 11-2 A perfect World: How close are we to achieving world peace?	「理想郷：世界平和の実現は近いのか」後半講読
9	Chapter 16-1 Time Travel: Will it one day be possible to build a time machine?	「タイムトラベル：いつの日かタイムマシンは作れるか」前半講読
10	Chapter 16-2 Time Travel: Will it one day be possible to build a time machine?	「タイムトラベル：いつの日かタイムマシンは作れるか」後半講読
11	Chapter 2-1 Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals?	「観光客だらけ：オーバーツーリズム（観光公害）が地元市民の生活に与える影響」前半講読
12	Chapter 2-2 Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals?	「観光客だらけ：オーバーツーリズム（観光公害）が地元市民の生活に与える影響」後半講読
13	英作文	chapter 11.16.2 に関する各自の意見を英語でまとめる
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習を前提に授業を進め、chapter ごとに2回、小テストを実施するので、予習復習に少なくとも1時間取り、教科書を読み、わからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

Getting Ready to Change the World-New Challenge, New Opportunities-  
(Francois de Soete 著、成美堂、2020年、1,900円＋税)

**【参考書】**

英語系辞書

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

**【Outline and objectives】**

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

## 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、2回の授業で1つのchapterを扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。chapterごとに2回、復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Chapter 7-1 It's a Dry Heat: Where is the hottest place on Earth?	「カラッとした暑さ：地球上で一番暑い場所はどこか？」前半講読
3	Chapter 7-2 It's a Dry Heat: Where is the hottest place on Earth?	「カラッとした暑さ：地球上で一番暑い場所はどこか？」後半講読
4	Chapter 12-1 Modern Frankenstein: Will genetic engineering change life as we know it?	「現代のフランケンシュタイン：遺伝子工学は人間の生活を劇的に変化させるか」前半講読

5	Chapter 12-2 Modern Frankenstein: Will genetic engineering change life as we know it?	「現代のフランケンシュタイン： 遺伝子工学は人間の生活を劇的に 変化させるか」後半講読
6	英作文	chapter7-12 に関して各自の意見 を英語でまとめる
7	Chapter 17-1 Great Unknown: How big is the universe?	「最大の未知：宇宙はどのくらい 大きいのか」前半講読
8	Chapter 17-2 Great Unknown: How big is the universe?	「最大の未知：宇宙はどのくらい 大きいのか」後半講読
9	Chapter 3-1 Deal Me In: What makes poker tournaments so popular?	「私にもカードを：ポーカートー ナメントが人気なのはなぜか」前 半講読
10	Chapter 3-2 Deal Me In: What makes poker tournaments so popular?	「私にもカードを：ポーカートー ナメントが人気なのはなぜか」後 半講読
11	Chapter 8-1 Man's Best Friend: Why is the French bulldog a controversial breed?	「人間の最良の友、犬：フレンチ ブルドッグが議論を呼ぶ犬種なの はなぜか」前半講読
12	Chapter 8-2 Man's Best Friend: Why is the French bulldog a controversial breed?	「人間の最良の友、犬：フレンチ ブルドッグが議論を呼ぶ犬種なの はなぜか」後半講読
13	英作文	chapter 17.3.8 に関して各自の 意見を英語でまとめる
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進め、chapter ごとに2回小テストを実施するので、少なくとも1時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。  
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World-New Challenge, New Opportunities-  
(Francois de Soete 著、成美堂、2020年、1,900円+税)

#### 【参考書】

英語系辞書

#### 【成績評価の方法と基準】

授業発表 10% 小テスト 40% 試験 50%  
欠席回数が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。  
授業開始から30分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。  
遅刻2回で欠席1回とみなす。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

#### 【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワーク、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

## 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 1	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	第 1 回フィールドワーク準備	アンケート作成
第 4 回	第 1 回フィールドワーク	海外からの観光客にアンケートを実施
第 5 回	Unit 2 Texting & Driving	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 3 Texting & Driving	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Mid-Term Test	評価
第 9 回	Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 6 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 7 A Wave of Asian Immigrants	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 8 A Wave of Asian Immigrants	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末試験・まとめと解説	評価
第 14 回	春学期追試験・再試験・まとめと解説	評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イデオロムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたいうで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。アクティブラーニング、英語によるディベートに備えて、図書館、インターネットなどを駆使して自分自身の意見を構築した上で授業に臨む。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施るので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。アクティブラーニングの一環で図書館、インターネットを駆使して自分の意見を構築しておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3  
Nobuhiro Kumai, Steven Timson  
(Seibido)  
ISBN9784791960330  
¥2400(税抜き)

#### 【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回まで。4 回以上のけっせきは、単位の修得を認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

#### 【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

#### 【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break and study English in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

#### 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 9	Unit8 の復習 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 9	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions devating Evaluation
第 3 回	Preparations for the first field work at Sensoji Temple	Making questionnaires for the field work
第 4 回	The first field work	The questionnaires in English at Sensoji Temple
第 5 回	Presentation	Presenting the result of the questionnaires Evaluation
第 6 回	Unit 10	Unit 9 word test Critical Thinking Group Works Presentation EvaLuatio11 1 1 1
第 7 回	Unit 11	Unit 10 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 8 回	Mid-Term Test	
第 9 回	Unit 12	Unit 11 Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 13	Unit 12 Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Unit 13	Unit 12 Review Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 14	Unit 13 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末試験・まとめと解説	評価
第 14 回	追試験・再試験・まとめと解説	評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBNNN9784791960330 ¥2400+税

## 【参考書】

CBS News Break 3 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

## 【成績評価の方法と基準】

秋学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

## 【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

## 【その他の重要事項】

授業の前夜、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

## 【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は世の中の動向に注視し、社会の様々な問題に関心を持つことが重要である。そのため、英字新聞のニュース・コラムを読むことによって、情報力及び英語力を身につけることをめざす。

## 【到達目標】

ニュースの情報力と英語の読解力 (Reading)・要約力・発表力 (speaking) を身につける。新聞ニュース記事の背景知識を把握し、新聞英語に見られる語彙・語法などの特徴を学習し、英字新聞を気軽に読めるようにする。また、英文をスムーズに音読し、英文を精読し、さらにどんな社会問題についても自分の意見を言えるようにする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の前半4回分（5月6日、13日、20日、27日）は、英語1の共通教材・課題で学習する。6月3日から、毎回、英字新聞にある政治・経済・社会・文化・スポーツなどの記事を取り上げ、語彙・語法をチェックした後、見出し、パラグラフごと訳し、さらに記事の内容について各自の意見をまとめる。本授業の開始は5月6日である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	新聞の構成を学ぶ。	見出し・書き出し・本文を役割を説明する。
3	「見出し」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「見出し」の特徴を学び、演習する。
4	「書き出し」「本文」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「書き出し」「本文」の特徴を学び、演習する。
5	語彙・語法を学ぶ。 (1)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
6	語彙・語法を学ぶ。 (2)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
7	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(1)	パラグラフを要約する。 社会問題を考える。
8	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(2)	パラグラフを要約する。 社会問題を考える。
9	中間テスト	英文記事をパラグラフごとに訳す。
10	スキミング・スキヤニングを学ぶ(1)	スキミング・スキヤニングを実践演習する。
11	スキミング・スキヤニングを学ぶ(2)	スキミング・スキヤニングを実践演習する。
12	速読の方法を学ぶ。 (1)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
13	速読の方法を学ぶ。 (2)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
14	期末テスト	読解力をテストする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業準備：1時間】授業直前1週間のニュースをチェックしておく。前週に配布されたプリントを予習する。音読練習し、滑らかに発音できるようにする。また、英文を正確に訳せるように準備する。記事の問題点などについて自分の意見を発表できるように関連情報を調べ、自分の意見をまとめておく。

【授業復習：1時間】授業内容について復習する。

## 【テキスト（教科書）】

プリント使用

## 【参考書】

『現代用語の基礎知識』『2020年の論点100』ほか

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業により、本授業の成績評価の方法と基準は変更する。変更内容は、授業開始日（5月6日）に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

スポーツなど様々な分野のニュース記事を取り上げ、社会の動向に関心を持てるようにする。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read various topics in newspapers, including politics, economy, sports and social problems. Students will take a mid-term test and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞のニュース・コラムを取り上げ、速読（スキミング・スキミング）により記事全体を速く把握し、読解力（reading）や要約する力を身につける。さらに、社会問題について自分の意見を発表するため、ニュースの背景知識を学習し、批判力・批評力を身につけることをめざす。

## 【到達目標】

ニュースを読む語彙力と意見を発表できる力を身につける。英文を理解するための基本スキルである語彙力を定着するため、毎回語彙テストを実施する。また、発表力を養うために自分でニュース記事を選び、レジュメを準備して口頭発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞からニュース・コラムを選び、語彙・語法・内容をチェックし、意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	語彙テスト(1) 「政治」のニュース・ コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表 をする。
3	語彙テスト(2) 「経済」のニュース・ コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表 をする。
4	語彙テスト(3) 「社会」のニュース・ コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表 をする。
5	語彙テスト(4) 「社会」のニュースコ ラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表す る。
6	語彙テスト(5) 「スポーツ」のニュー スを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表す る。
7	中間テスト	記事全体を要約する。
8	語彙テスト(6) 「映画」のニュースを 読む。	語彙テストを実施する。
9	語彙テスト(7) 「データ記事」を読む。 (1)	語彙テストを実施する。 データを速読する。
10	語彙テスト(8) 「データ記事」を読む。 (2)	語彙テストを実施する。 データを速読する。
11	語彙テスト(9) 「時事漫画」を読む。	語彙テストを実施する。 「時事漫画」の背景を理解する。
12	語彙テスト(10) 「写真ニュース」を読 む。(1)	語彙テストを実施する。 「写真ニュース」の背景を理解す る。

- 13 語彙テスト(11) 語彙テストを実施する。  
「写真ニュース」を読  
む。(2) 「写真ニュース」の背景を理解す  
る。
- 14 期末テスト 読解力をテストする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業準備:1時間】授業直前1週間のニュースをチェックする。語彙テストに備える。発表のために、トピック選び、訳、問題点の解説、意見考察などレジュメ作成の準備をする。

【授業復習:1時間】授業内容について復習する。

## 【テキスト（教科書）】

プリント使用

## 【参考書】

春学期と同じ

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への参加度（欠席は3回まで） 30%

語彙テスト：20%

期末試験：筆記テスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

語彙力を養う語彙テストの方法を検討する。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a mid-term test and final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 9 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

## 【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースを正確に理解し、自らの意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	(B) Story 1 (F) Lesson 1
第 3 回	Blood Testing: Charged with Massive Fraud	(B) Story 2 (F) Lesson 2
第 4 回	Millionaire Millennial	(B) Story 3 (F) Lesson 3
第 5 回	Fighting Robocalls	(B) Story 4
第 6 回	The Blue World	(B) Story 5 (F) Lesson 4
第 7 回	Moment of Impact	(B) Story 6 (F) Lesson 5
第 8 回	Father's New Hand	(B) Story 7 (F) Lesson 6
第 9 回	Trump's Weapon Ban?	(B) Story 8 (F) Lesson 7
第 10 回	American Men's Bobsledding Team	(B) Story 9
第 11 回	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	(B) Story 10 (F) Lesson 8
第 12 回	The Children of Syria	(B) Story 11 (F) Lesson 9
第 13 回	Honoring Martin Luther King Jr	(B) Story 12 (F) Lesson 10
第 14 回	Inside the Drug Cartel	(B) Story 13

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（授業への積極的参加）（30 %）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業の際には、辞書を必ず持参してください。

## 【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 9 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

## 【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースの内容を正確に理解し、自らの意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Repairing Big Ben	(B) Unit 1 (F) Lesson 11
第 2 回	Learning to Walk again	(B) Unit 2 (F) Lesson 12
第 3 回	A Secret Garden in London	(B) Unit 3 (F) Lesson 13
第 4 回	Unpaid Internships	(B) Unit 4
第 5 回	The Wedding Gallery	(B) Unit 5 (F) Lesson 14
第 6 回	A Modern Steam Train	(B) Unit 6 (F) Lesson 15
第 7 回	A T-shirt Exhibition	(B) Unit 7 (F) Lesson 16
第 8 回	Generation Z	(B) Unit 8 (F) Lesson 17
第 9 回	Veganuary	(B) Unit 9
第 10 回	Wind Power in Britain	(B) Unit 10 (F) Lesson 18
第 11 回	Preventing Transgender Bullying	(B) Unit 11 (F) Lesson 19
第 12 回	A Plastic Tenner	(B) Unit 12 (F) Lesson 20
第 13 回	How to Delay Ageing	(B) Unit 13
第 14 回	School Deal with Fake News	(B) Unit 14

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura. M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).

Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（授業への積極的参加）（30 %）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業の際には、辞書を必ず持参してください。

## 【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

## 【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

【授業計画】は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

## 【授業の進め方と方法 / Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。ただし、習熟度別クラス編成による授業は 5 月 30 日（土）より開始となり、それまでの期間は共通教材による学習期間となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 1a	Learning from the past
3	Workbook: Unit 1a	Things they never taught you
4	Unit 1b	What makes us who we are?
5	Workbook: Unit 1b	What's in a name?
6	Unit 1c	Immortal words
7	Workbook: 1c	The English we speak
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 1f	Arctic wisdom
10	Unit 2a	Living off the sea
11	Unit 2b	Smokejumpers
12	Unit 2c	Daring, defiant, and free
13	Workbook: Unit 2c	Guerrilla geographer

14 期末試験

期末試験実施  
まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split

著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,880 円

## 【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-workbook-audio>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-audio-students-book>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-students-book-video>

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。

遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

（上記変更理由）

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

（変更後）

平常点 20%

課題 40%

期末試験 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

## 【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

**【Outline and objectives】**

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

**English 1 II**

2017年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法1年：英語 10組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

**【到達目標】**

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 2f	Climbing Yosemite
2	Unit 3a	Towns with character
3	Unit 3b	Compact living
4	Unit 3c	The paper architect
5	Workbook: 3c	Biomimetic architecture
6	Unit 4a	Shrink it, bend it, fold it
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 4b	The mother of invention
9	Unit 4c	The shoe giver
10	Workbook: Unit 4c	The new philanthropists
11	Unit 5a	How we travel
12	Unit 5c	The adventures of Herge
13	Unit 6c	The enigma of beauty
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。  
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split

著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,880 円

#### 【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-workbook-audio>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-audio-students-book>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-students-book-video>

#### 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中、4回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

遅刻は、30分以上の場合は欠席扱い。

遅刻2回で1回分の欠席扱いとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

#### 【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

#### 【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

保坂 嘉恵美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察力を高める。

## 【到達目標】

- ①英語の幅広い語彙力を伸ばす
- ②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
- ③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う  
またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④リスニング力を強化する
- ⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業最初の 20～30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。ニュース内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って春学期 6 チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトラングムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習しておくことが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回とは特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進捗や読むチャプターなど変更する場合もある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業方針・内容の説明
2	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ①	Chapter1.Going Viral: How are some people getting so famous online? ネットで拡散：人はどのようにしてネットで有名になるのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。

3	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
4	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ③	Chapter 2. Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals? 観光客だらけ：オーバーツーリズム（観光公害）が地元市民の生活に与える影響について書かれた エッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
5	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
6	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑤	Chapter 3. Deal Me In: What makes poker tournaments so popular? 私にもカードを：ポーカートーナメントが人気なのはなぜか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
7	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑥	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
8	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑦	Chapter 4. Full Contact: Are some sports too rough? フルコンタクト：危険すぎるスポーツもあるのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
9	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑧	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
10	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑨	Chapter 5. Fake News: How does false information pass off as news? フェイクニュース：偽情報がニュースと間違えられるのはなぜか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
11	Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑩	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。

- 12 Section II: People and Nature 人間と自然について考える① Chapter 6. Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction? 完全に死滅：多くの種が絶滅の危機に瀕しているのはなぜか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 13 Section II: People and Nature 人間と自然について考える② 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 14 試験・まとめと解説 60分程度の筆記試験と総括

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうかを確認する。

#### 【テキスト（教科書）】

François de Soete, *Getting Ready to Change the World: New Challenges, New Opportunities*

邦題『グローバル時代を生き抜く変革への視点』（成美堂 2020/¥1900）その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

#### 【参考書】

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）+ 用例豊富な英和辞典。英英辞典の活用についても指導する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりやっていたら授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の英語力に合わせたテキストを選んでいるが、個人差もあると思われる。読み進むスピードなどは、学生の力に応じて適宜調整していきたい。

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

#### 【Outline and objectives】

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

保坂 嘉恵美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察力を高める。

#### 【到達目標】

- ① 英語の幅広い語彙力を伸ばす
- ② 論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
- ③ グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う  
またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④ リスニング力を強化する
- ⑤ 今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業最初の 20～30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。報道内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って秋学期、テキスト後半の 6 チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引き、知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトランダムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習してくることが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回とは特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進度や読むチャプターなど変更する場合もある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える①	Chapter 11. A Perfect World: How close are we to achieving world peace? 理想郷：世界平和の実現は近いのか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。

2	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。	11	Section IV: Science and Technology 科学とテクノロジーについて考える①	Chapter 18. The Endgame: Has artificial intelligence surpassed human intelligence? 終局：AI（人工知能）は人間を凌駕したか?について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
3	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える③	Chapter 12. Modern Frankenstein: Will genetic engineering change life as we know it? 現代のフランケンシュタイン：遺伝子工学は人間の生活を劇的に変化させるか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。	12	Section IV: Science and Technology 科学とテクノロジーについて考える②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
4	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。	13	英文エッセイの構造と内容の効率的な把握	エッセイの構造を理解し、過不足のない「要約」の仕方を学ぶ。
5	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑤	Chapter 13. Tinted Lenses: Is it possible to be truly objective? 色眼鏡：真に客観的になることは可能か?について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。	14	試験・まとめと解説	60分程度の筆記試験と総括
6	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑥	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。	<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b> 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。 <b>【テキスト（教科書）】</b> François de Soete, <i>Getting Ready to Change the World: New Challenges, New Opportunities</i> 邦題『グローバル時代を生き抜く変革への視点』（成美堂 2020/¥1900）その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等 <b>【参考書】</b> 必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）+用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。 <b>【成績評価の方法と基準】</b> 平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりとやっていたら授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。 <b>【学生の意見等からの気づき】</b> ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。 <b>【Outline and objectives】</b> This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.		
7	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑦	Chapter 14. Get Well Soon: How are X-rays affecting healthcare today? お大事に：X線は今日の医療にどのような影響を及ぼしているか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。			
8	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑧	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。			
9	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑨	Chapter 15. The Need for Speed: Is it time to restrict how fast cars can go? スピード狂：車の最高速度は制限すべきか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。			
10	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑩	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。			

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日はクラス分けの都合上 5 月 30 日となる。以下、当初の授業の進め方と方法もよく確認しておくこと。テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ~ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ~ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ~ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ~ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants

第 14 回 学期末試験

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間のオンラインでの開講にともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下の当初の方法と基準に可能な限り沿う形をとる予定なので、以下の内容もよく確認しておくこと。

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ~ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ~ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ~ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ~ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

時事問題を扱ったテキストや新聞・雑誌の記事を使用して語彙力と読解力を強化する。英語圏のニュースなどを理解するために必要な知識を身につける。

**【到達目標】**

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書のリスニング及び問題解説を行う。各章の終わりに関連するテーマのディスカッションを行うこともある。授業後半は、あらかじめ配布した新聞記事や雑誌記事の精読と日本語訳を行う。状況に応じてパラフレーズの練習もする予定。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 1 Civilian Drones 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
3	Chapter 1 Civilian Drones 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
4	Chapter 2 Reading While Young 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
5	Chapter 2 Reading While Young 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
6	Chapter 3 Intelligent Assistance 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
7	Chapter 3 Intelligent Assistance 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
8	Chapter 4 Keeping It Clean 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
9	Chapter 4 Keeping It Clean 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
10	Chapter 5 Manners in Public 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
11	Chapter 5 Manners in Public 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解

12	Chapter 6 Which News Is Fake? 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
13	Chapter 6 Which News Is Fake? 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。必ず事前にテキストを読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

**【テキスト（教科書）】**

『Listening to Dialogues on Social Issues 社会的な問題についての会話リスニング 15 章』音羽書房鶴見書店

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業に対する積極的な取り組み 20 %

授業内での質疑応答 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていききたい。

**【その他の重要事項】**

教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

**【Outline and objectives】**

This course will focus on reading articles and essays on current topics to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the English-speaking world.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、時事問題を扱ったテキストや新聞・雑誌の記事を使用して語彙力と読解力を強化する。英語圏のニュースなどを理解するために必要な知識を身につける。

## 【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書のリスニング及び問題解説を行う。各章の終わりに関連するテーマのディスカッションを行うこともある。授業後半は、あらかじめ配布した新聞記事や雑誌記事の精読と日本語訳を行う。状況に応じてパラフレーズの練習もする予定。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 7 Food Self-sufficiency 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
3	Chapter 7 Food Self-sufficiency 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
4	Chapter 8 Whose Fish? 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
5	Chapter 8 Whose Fish? 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
6	Chapter 9 English: Necessary or Not? 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
7	Chapter 9 English: Necessary or Not? 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
8	Chapter 10 Career Education 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
9	Chapter 10 Career Education 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
10	Chapter 11 Hours Worked 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
11	Chapter 11 Hours Worked 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解

12	Chapter 12 Gender Equality 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
13	Chapter 12 Gender Equality 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前にテキストを読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

## 【テキスト（教科書）】

『Listening to Dialogues on Social Issues 社会的な問題についての会話リスニング 15 章』音羽書房鶴見書店

## 【参考書】

授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20 %

授業内での質疑応答 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

## 【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

## 【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on current topics to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the English-speaking world.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング（文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強）のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分の伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを適切に理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

**【到達目標】**

テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語語彙力を身につける。（英単語レベル 4 以上をマスターする。）短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記する。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出す。英語で自分の意見を述べるができる。コミュニケーション能力を培い、自信を持って話せるようになる。リスニング、リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ウイルス問題に対処するため、対面授業開始まで大学の授業支援システムを活用し、授業開始日を 4/25 日（土）とします。（今学期、このシステムを使って出された課題 14 回分のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失うことがある。）尚、ネットワーク環境のない学生に対しては調査の上、対策を考えるので心配無用です。基本的に教科書に沿って授業を進めるので、あらかじめ教科書の予習をしてください。授業で配布するプリントを用いて学習内容を確認する。英語の語彙力アップのため、毎回の授業では英単語の小テストを実施する。リアクションペーパーを提出する。教科書の記述内容について、ペアワーク、グループワークにより意見交換をする。最後に、ウイルス蔓延の状況により対面授業開始が遅れても、授業支援システムを用いてシラバスに沿った授業内容とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Unit 1	Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.

Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.
Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、この授業については予習時間は 90 分とする。復習時間も同様に 90 分とし、テキスト、授業内で配布されるプリント等を見直す。また、毎回実施する英語のボキャブラリー小テストのための準備も行う。さらに、本学「授業支援」Web ページに掲載された課題、教材を提出する。

**【テキスト（教科書）】**

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos, Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082

**【参考書】**

電子辞書又は本型の辞書等（機種、出版社等是不問）授業には毎回持参すること。

**【成績評価の方法と基準】**

50% = グループ活動、授業中の課題、宿題、英語によるプレゼンテーション

40% = 筆記試験、リスニング試験

10% = 英単語、イディオム等の小テスト

尚、各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

**【授業について】**積極的に授業のディスカッションに参加すること。すべての課題を完成させること。ノートと英語辞典(電子・書籍等)を持参すること。

**【Outline and objectives】**

The goal of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development. Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.

LANe100LA

**English 1 II**

2017年度以降入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

グローバル化が進む社会を考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English)を養う。本講義は1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice)の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技術の向上を目指す。さらにビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。英語を聴く力の育成も行う。

**【到達目標】**

英語語彙力をつける。(英単語レベル4程度をマスターする。)テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記する。英語ジャーナルを書いて発表する。英字新聞の記事内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出す。プレゼンテーションのための基礎的技術を向上させる。人前で自分の意見を英語で伝える。英語のリスニング力を向上させる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書に沿って授業を行うので、教科書の予習をしっかりとすること。語彙力強化のため授業では毎回、英単語の小テストを行う。基本的な短い英文を暗記し、英語での会話や英文文に应用する。TOEIC(R)、英検等の資格試験対策も早期から取り組む。さらに、英字新聞等を読み、自分の意見を英語でまとめる練習をする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Unit 1	The History of Our University	Talk about the history of our university. : Time
Unit 2	My Favorite Country	Talk about the country you'd like to visit. : Place
Unit 3	The Four Basic Food Groups	Talk about the four basic food groups. Topical Pattern
Unit 4	Japan's Education System	Talk about Japan's Education System. : Classification Pattern
Unit 5	What is Science?	Talk about Science. :Concept
Unit 6	Social Networking Services	Talk about the good and bad points of social networking services. : Advantages & Disadvantages
Unit 7	Should Students Wear School Uniforms?	Talk about school uniforms. : Questions of Value
Unit 8	The Case for Organ Donation	Share opinions on organ donation. : Questions of Fact

Unit 9	Global Warming: What is to be done?	Plan to speak about a serious problem, global warming. : Problem-Solution Method
Unit 10	Exercise and Physical Fitness	Talk about exercise and physical fitness. : Problem-Cause-Solution Method
Unit 11	Overpopulation: Causes and Consequences	Talk about Overpopulation Problem-Cause-Effect Method
Unit 12	Hybrid or Electric?	Talk about Questions of Policy: Comparative-Advantage-Method
Unit 13	Informative Presentations:	Brainstorming & Organizing
Unit 14	Persuasive Presentation	Create your own ideas

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準としますが、この授業では授業時間外の学習として、〔予習〕次回授業の範囲について事前にテキストを読み、疑問点を明確にしておくこと。(90分程度)〔復習〕授業内容について復習するため、テキストや配布資料等を読み返して知識の定着を図ること。(90分程度)〔宿題〕授業時に毎回配布する英語演習のプリントを完成させる。また、本学の授業支援システムを利用し、与えられた課題を提出すること。(60分程度)尚、質問等があればEメールを使って問い合わせること。メールアドレスは講義開始時に伝える。

#### 【テキスト（教科書）】

Text: Writing for Presentations in English

Yoshihito Sugita, 出版社: 南雲堂 ISBN:978-4-523-17731-9

#### 【参考書】

英語辞書等(電子・紙)は毎回、授業に持参すること。

#### 【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

50% = グループ活動、授業中の課題、出席、宿題、発表 (Participation in group work, classroom activities, attendance, homework assignments, presentations)

50% = 筆記試験、口頭試験 (Written tests and/or speaking tests)  
各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない

#### 【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【Outline and objectives】

The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks. They are also expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

法1年：英語15組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVDで米国の3大ネットワークの1つ、CBSニュースをナチュラルスピードで視聴する(インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表(アウトプット)する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の4技能(「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」)を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

#### 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の4技能(「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」)を涵養する。

DVDで米国の3大ネットワークの1つ、CBSニュースをナチュラルスピードで視聴する(インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表(アウトプット)する。さらに、技術の進歩により、DVDの80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して)英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造(topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

DVDの視聴、講義、演習(シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして)ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL(何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー(担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入)を作成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第1回	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第2回	Unit 2	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第3回	Unit 2とフィールドワーク準備	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第4回	第1回フィールドワーク（浅草寺）	フィールドワーク 海外からの観光客に英語でアンケート実施
第5回	フィールドワーク結果発表会	プレゼンテーション
第6回	Unit 3	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第7回	Unit 4	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第8回	Unit 5	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第9回	Unit 6	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第10回	Unit 7	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第11回	Unit 8	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第12回	Unit 8	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第13回	春学期末試験・まとめと解説	評価
第14回	春学期追試験・再試験・まとめと解説	評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットのDVDを前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたいうで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施るので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連したURLを紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3

Nobuhiro Kumai, Steven Timson

(Seibido)

ISBN9784791960330

¥2400(税抜き)

## 【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻3回で1回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は3回までとする。4回以上の欠席は単位の修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBLの観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

## 【学生が準備すべき機器他】

USBメモリー（中古品可）（ただし、CALL教室の場合のみ）。

## 【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

## 【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, anf by the field work at Sensoji Temple in Asakussa.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

## 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 9	Unit8 の復習 Unit 7 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 9	Unit 8 Word Test Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation Questionaries for the field work
第 3 回	Preparation for the first field work at Sensoji Temple	
第 4 回	The first field work at Sensoji Temple	Questionaries to the tourists from abroad at Sensoji Temple
第 5 回	Presentation	The results of the questionaries Presentation Evaluation
第 6 回	Unit 10	Unit 9 Word Test Critical Thinking Group Works Presentation Evaluation
第 7 回	Unit 11	Unit 10 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 8 回	Mid-Term Test	
第 9 回	Unit 11	Unit 10 Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 12	Unit 11 Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Unit 21 Word Test Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 14	Unit 31 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末試験・まとめと解説	評価
第 14 回	追試験・再試験・まとめと解説	評価

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由を選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくはアクティブラーニングとディベートのための下調べとして図書館の蔵書の閲覧、インターネットでの下調べが必要である。成績の欄を参照してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791960330 ¥2400+税

**【参考書】**

CBS News Break 3 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

**【成績評価の方法と基準】**

秋学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回まで。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

**【学生が準備すべき機器他】**

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

**【その他の重要事項】**

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

**【Outline and objectives】**

We are going to watch the CBS News Break 3 and study english in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, anf by the field work at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

**English 1 I**

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語の文章を正確に読み取ることを目指し、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence) に留意して論旨を把握することに重点を置きます。物事を批判的にみる力の養成も行います。大学生にとって身近な問題から社会問題まで扱った英文を読み、主旨にどの程度同意するかを、テキストブックのタスクを通して、自分の意見を発言できる力を養成します。また、ディスカッションを多用して、コミュニケーション能力を高めます。

4 技能統合型のテキストブックに加えて、サブ・テキストブックの TOEIC Test Vocabulary Quizzes を用いて語彙力の増強を図ります。また、新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げ、時事問題や社会問題についての理解を深めます。

**【到達目標】**

英語の文章をある程度のスピードで正確に読み取る能力を伸ばすことを目指します。そのために、高校までの英文解釈とは異なり、英文を英語のまま理解するスキルを身につけることができることを目的とします。

どのユニットにおいてもディスカッションの機会があるため、英語で発言することに慣れます。学生同士の意見の交換を通して、学生はコミュニケーション能力を高める機会を得ます。

テキストブックやサブ・テキストブック、その他の記事を読むことで、語彙の増強を図ります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

<重要> 本授業の開始日は、4 月 22 日 (水) とします。この日まで具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。なお、ご承知のように春学期の少なくとも前半は、オンラインでの授業となります。それともなう授業内容の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

学生は、各ユニットに記載されている QR コードを使った聞き取り問題をスマートフォンを用いて、必ず授業前に予習することを義務付けします。それを授業において音声を通してディクテーションをします。提出された結果は、授業評定に含めますので、予習は必修となります。

テキストの読解に加えて、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションの機会をもちます。授業の理解度と、教師との意思の疎通をはかるために、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。課題について意見を授業内で発表したり、宿題として提出を求める場合があります。リスニング力をつけるために語学教材ビデオを平常授業の合間に用いる場合があります。

授業はスケジュールに沿って行いますが、時事問題の記事を取り上げる場合に多少変更することがあります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について

2	Unit 1-1	We should keep early hours(1): Step 0 - Step 8
3	Unit 1-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	We should keep early hours(2): Step 9 - Optional Step
4	Unit 2-1	College Students should live alone(1): Step 0 - Step 8
5	Unit 2-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	College Students should live alone(2): Step 9 - Optional Step
6	Unit 3-1	Club activities should be banned at schools (1):Step 0 - Step 8
7	Unit 3-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	Club activities should be banned at schools(2): Step 9 - Optional Step
8	Unit 4-1	Study abroad experience should be a requirement for university graduation(1): Step 0 - Step 8
9	Unit 4-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	Study abroad experience should be a requirement for university graduation(2): Step 9 - Optional Step
10	Unit 6-1	College students should choose an occupation that suits them(1): Step 0 - Step 8
11	Unit 6-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	College students should choose an occupation that suits them(2): Step 9 - Optional Step
12	Unit 7-1	We should consider important rules and manners for online communication(1): Step 0 - Step 8
13	Unit 7-2 <i>TOEIC Test</i> <i>Vocabulary Quizzes</i>	We should consider important rules and manners for online communication(2): Step 9 - Optional Step
14	期末試験	テキストブック・サブ・テキスト ブック、配布したプリントから 出題。 試験：まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は大学のガイドラインにおいて、1単位の学科では合わせて週に1時間を標準としています。ただし、これは最低限の勉強時間数であり、テキストブックの読み込みや単語の意味調べなどの準備学習や復習を行うには、当然、これ以上の勉強時間数が必要となります。

(University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.)

学生はテキストブックを予習し、特にQRコードを読み取って行うディクテーションがすらすら書けるよう、何度も聞き返しておくこと。宿題の提出を求められた場合、提出期日をきちんと守ることが必要です。期日を守らない場合、受け取りませんので減点となります。

#### 【テキスト（教科書）】

1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD、三修社、2019年、2000円
2. *TOEIC Test Vocabulary Quizzes*, SATO Seishi、南雲堂、2018年、700円

#### 【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：

<http://www.sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>

総合英語 *Evergreen*、いっぴずな書店、2018年、1520円

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、以下に記述した成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、実際にオンライン授業を始めてみて、その内容と期間を考慮のうえ、学習支援システム上に提示します。

学期末試験(40%)、小テスト(20%)、宿題(20%)、平常点：学習状況や参加度(20%)として総合評価します。成績評価は100点満点で60点以上が合格となります。

欠席が4回以上の場合は、原則として単位を与えません。始業時間から30分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなります。また、15分以上の遅刻2回は欠席1回とみなします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

#### 【その他の重要事項】

授業中に教師からの指示があった場合や、辞書代わりに使うことを教師に求めた場合以外にスマートフォンを使用することを厳禁とします。授業目的以外にスマートフォンを使用したことを教師がみつけた場合は、平常点からの減点対象となります。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge about the structure of English sentences (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence). Students will be able to discover various aspects of the society through reading the textbooks. To develop the communication skills, students will have a number of discussion occasions.

In addition to the main textbook, we will use *TOEIC Vocabulary Quizzes* and articles from newspapers, magazines and the Web sites to widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、英語の文章の構造を理解し、論旨を素早く理解できるように、英文解釈ではなく、英語のまま理解するスキルを伸ばしていきます。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて発信力を高めていきます。

語彙力の増強を図るために、サブ・テキストブックを使用し、時事英語の記事などを適宜取り入れ、語彙を増やすだけでなく社会問題について考察します。

## 【到達目標】

英語の文章をある程度のスピードで正確に読み取る能力を伸ばすことを目指します。そのために、高校までの英文解釈とは異なり、英文を英語のまま理解するスキルを身につけることができることを目的とします。

どのユニットにおいてもディスカッションの機会があるため、英語で発言することに慣れます。学生同士の意見の交換を通して、学生はコミュニケーション能力を高めることを目指します。

テキストブックやサブ・テキストブック、その他の記事を読むことで、語彙の増強を図ります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

学生は、各ユニットに記載されている QR コードを使った聞き取り問題をスマートフォンを用いて、必ず授業前に予習することを義務付けします。それを授業において音声を通してディクテーションをします。提出された結果は、授業評定に含めますので、予習は必修となります。

テキストの読解に加えて、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションの機会をもちます。授業の理解度と、教師との意思の疎通をはかるために、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。課題について意見を授業内で発表したり、宿題として提出を求める場合があります。リスニング力をつけるために語学教材ビデオを平常授業の合間に用いる場合があります。

授業はスケジュールに沿って行いますが、時事問題の記事を取り上げる場合に多少変更することがあります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1	More Japanese companies should use English as their main language of business(1): Step 0- Step 8
2	Unit 8-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	More Japanese companies should use English as their main language of business(2): Step 9 - Optional Step
3	Unit 9-1	School and company uniforms should be abolished(1): Step 0 - Step 8
4	Unit 9-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	School and company uniforms should be abolished(2): Step 9 - Optional Step

5	Unit 10-1	We should promote private lodging more(1): Step 0 - Step 8
6	Unit 10-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	We should promote private lodging more(2): Step 9 - Optional Step
7	Unit 11-1	We should limit the number of tourists from abroad(1): Step 0 - Step 8
8	Unit 11-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	We should limit the number of tourists from abroad(2): Step 9 - Optional Step
9	Unit 13-1	We should not let elementary school kids use smartphones(1): Step 0 - Step 8
10	Unit 13-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	We should not let elementary school kids use smartphones(2): Step 9 - Optional Step
11	Unit 15-1	Married Japanese women should be allowed to keep their family name(1): Step 0 - Step 8
12	Unit 15-2 TOEIC Test Vocabulary Quizzes	Married Japanese women should be allowed to keep their family name (2): Step 9 - Optional Step
13	Review Reading	Vocabulary review Articles from current topics
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題。 試験、まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は大学のガイドラインにおいて、1 単位の学科では合わせて週に 1 時間を標準としています。ただし、これは最低限の勉強時間数であり、テキストブックの読み込みや単語の意味調べなどの準備学習や復習を行うには、当然、これ以上の勉強時間数が必要となります。

(University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for an one-credit course.)

学生はテキストブックを予習し、特に QR コードを読み取って行うディクテーションがすらすらと書けるように何度も聞き返して準備すること。また、レポートなどの提出は、期日をきちんと守ることが必要です。期日を守らない場合は受け取りませんので、減点の対象となります。

## 【テキスト（教科書）】

1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD、三修社、2019 年、2000 円
2. *TOEIC Test Vocabulary Quizzes*, SATO Seishi、南雲堂、2018 年、700 円

## 【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：  
<http://www.sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>  
総合英語 Evergreen、いっずな書店、2018 年、1520 円

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (40%)、小テスト (20%)、宿題 (20%)、平常点：学習状況や参加度 (20%) として総合評価します。成績評価は 100 点満点で 60 点以上が合格となります。

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を与えません。始業時間から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなります。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

## 【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。

## 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

## 【その他の重要事項】

授業中に教師からの指示があった場合や、辞書代わりに使うことを教師に求めた場合以外にスマートフォンを使用することを厳禁とします。授業目的以外にスマートフォンを使用したことを教師がみつけた場合は、平常点からの減点対象となります。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge about the structure of English sentences (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence). Students will be able to discover various aspects of the society through reading the textbooks. To develop the communication skills, students will have a number of discussion occasions. In addition to the main textbook, we will use *TOEIC Vocabulary Quizzes* and articles from the newspapers, magazines and the Web sites to widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

## 【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

## 【授業の進め方と方法 / Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月9日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。ただし、習熟度別クラス編成による授業は5月30日(土)より開始となり、それまでの期間は共通教材による学習期間となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業内容の説明	授業内容の説明
2	Unit 1A	Inspired Leadership
3	Unit 1B	How to start a Movement
4	Unit 2A	Trouble for the Air Plants
5	Unit 2B	Conserving the Canopy
6	Unit 3A	Big Problems, Simple Solutions
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 3B	A Warm Embrace that Saves Lives
9	Unit 4A	Is Gaming Good For You?
10	Unit 4B	Gaming Can Make a Better World

11	Unit 4 Review	Jane McGonigal について補足資料を読む、聞く。
12	Unit 5A	Engaging Learners
13	Unit 5B	The Key to Success? Grit
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
  2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
  3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
  4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
  5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を開き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
  6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
- 授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書: 21st Century Reading 2  
著者: Laurie Blass/ Mari Vargo/ Eunice Yeates  
出版社: National Geographic Learning  
出版年: 2016  
価格: 2,900 円+税

#### 【参考書】

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/audio>  
<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>  
<https://www.ted.com/>  
<https://www.ted.com/podcasts/ted-radio-hour>

#### 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%  
期末試験 40%  
平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%  
学期中、4回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。  
遅刻は、30分以上の場合は欠席扱い。  
遅刻2回で1回分の欠席扱いとします。  
（上記変更理由）  
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。  
（変更後）  
平常点 20%  
課題 40%  
期末試験 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

#### 【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

#### 【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

## 【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 6A	Food Revolution
2	Unit 6B	Teach Every Child About Food
3	Unit 6 Review	Jamie Oliver についての補足資料を読む、聞く。
4	Unit 7A	Power Poses
5	Unit 7B	Your Body Language Shapes Who You Are
6	Unit 8A	Kite Power
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8B	How I Harnessed the Wind
9	Unit 9A	Thinking in Pictures
10	Unit 9B	Deep Sea Diving... in a Wheelchair
11	Unit 10A	Information is Beautiful
12	Unit 10B	The Beauty of Data Visualization
13	Unit 10 Review	Biographical article, News report のサンプルを読む。
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
  2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
  3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
  4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
  5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
  6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
- 授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書: 21st Century Reading 2

著者: Laurie Blass/ Mari Vargo/ Eunice Yeates

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2016

価格: 2,900 円+税

## 【参考書】

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/audio>

<https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>

<https://www.ted.com/>

<https://www.ted.com/podcasts/ted-radio-hour>

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。

遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

## 【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

## 【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年：英語18組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月30日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Cool, Calm and Heroic (listening)
3	Unit 1	Cool, Calm and Heroic (reading)
4	Unit 2	Flying into the Future (listening)
5	Unit 2	Flying into the Future (reading)
6	Unit 3	Food Healthy for the Planet (listening)
7	Unit 3	Food Healthy for the Planet (reading)
8	Unit 4	Explosive Demand for Cobalt (listening)
9	Unit 4	Explosive Demand for Cobalt (reading)
10	Unit 5	Starting Somewhere (listening)
11	Unit 5	Starting Somewhere (reading)
12	Unit 6	Serious Solution Needed (listening)
13	Unit 6	Serious Solution Needed (reading)
14	試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習を前提として授業を行います。前半は **Words and Phrases to Study of the Definition and Examples** を、後半はニュースのスク립トと **Judgments to Make** を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『CNN ビデオで見る世界のニュース (21)』  
(朝日出版社)

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30% で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。今学期出す 14 回分の課題のうち 4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位取得の資格を失います。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

**【その他の重要事項】**

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

**【Outline and objectives】**

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

**English 1 II**

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

**【到達目標】**

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語 (Englishes) の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Self-Inflicted Wounds (listening)
3	Unit 7	Self-Inflicted Wounds (reading)
4	Unit 8	Deeply Disturbing (listening)
5	Unit 8	Deeply Disturbing (reading)
6	Unit 9	Coping with Change (listening)
7	Unit 9	Coping with Change (reading)
8	Unit 10	Playing a Better Role (listening)
9	Unit 10	Playing a Better Role (reading)
10	Unit 11	Breaking the Connection (listening)
11	Unit 11	Breaking the Connection (reading)
12	Unit 12	As Young as You Feel (listening)
13	Unit 12	As Young as You Feel (reading)
14	試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習を前提として授業を行います。前半は **Words and Phrases to Study of the Definition and Examples** を、後半はニュースのスク립トと **Judgments to Make** を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『CNN ビデオで見る世界のニュース (21)』  
(朝日出版社)

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

**【学生の意見等からの気づき】**

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

**【その他の重要事項】**

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

**【Outline and objectives】**

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

**English 1 I**

2017 年度以降入学者

**神 康介**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 19 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

使用するテキストは日本の文化、教養、健康、そしてビジネス展開をテーマとし、それに関連した題材を学習する。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味が十分に満たされる。

**【到達目標】**

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く **Exercises** で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Yuzuru Hanyu Kei Nishikori	日本のスポーツについて学習する。
3	Christel Takigawa Kyary Pamyu Pamyu	日本の新しい文化について学習する。
4	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産について学習する。
5	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産について学習する。
6	Spiber	新しい産業について学習する。
7	Abenomics	経済について学習する。
8	Maglev Train	工業技術について学習する。
9	Pokémon Go	エンターテインメントについて学習する。
10	My Number	マイナンバーについて学習する。
11	Net TV	インターネットについて学習する。
12	Epsilon Rocket	人工知能について学習する。
13	Olive Oil Medicinal Plants	食品産業について学習する。 薬草について学習する。
14	期末試験	半期のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈のない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

Cool Japan 南雲堂

**【参考書】**

参考書は指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

クラスでの平常点で40%、期末試験の結果で60%で評価する。原則として半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

視聴覚機器をもっと活用する。

**【Outline and objectives】**

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs.

This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from Japanese culture and improve their language skills at the same time.

LANe100LA

**English 1 II**

2017年度以降入学者

**神 康介**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年：英語19組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

使用するテキストは現代のイギリス社会についての英文を取り上げ、英語力の向上を目指している。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味を本書が十分に満たすものと思われる。

**【到達目標】**

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	LESSON1 No More Shakespeare?	秋学期オリエンテーション シェイクスピアについて
2	LESSON2 Privacy Matters LESSON3 Pet Peeves	プライバシー保護 ペット問題
3	LESSON4 Truth in Advertising LESSON5 The Race to Work	広告 通勤
4	LESSON6 Un safe at Any Speed	スピード違反
5	LESSON7 Up in Smoke	嫌煙権
6	LESSON8 Keeping Up Appearances	外見を飾る
7	LESSON9 Painful Cuts	財政問題
8	LESSON10 The Future of Cinema?	映画
9	LESSON11 Separate Ways	離婚

10	LESSON12 Power to the People	環境問題
11	LESSON13 Behind Bars	獄中からの叫び
12	LESSON14 O City of Broken Dreams	貧困
13	LESSON15 Changing Times	変遷
14	期末試験	まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

U.k. Update いま、イギリスを読む 南雲堂

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点が40%、期末試験の結果で60%で評価する。半期で4回欠席した場合単位は認めない。・成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs.

This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from the U.K. today and update their language skills at the same time.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語20組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

reading と writing を主眼に英語スキルの向上を目指します。テキストとして、新聞・雑誌の記事をプリントして配布します。基本文法と語法を確認しながら文を読み、英語でまとめる練習をします。さまざまなジャンルと長さの英文を正確に読み取ることを目標に、流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出しましょう。

## 【到達目標】

さまざまなジャンル・長さの英文を正確に読み取ることを目標に、パラグラフの流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になる。授業計画の変更は、学習支援システムで、その都度指示する。本授業の開始日は5月6日（水曜）とし、5月27日（水曜）までの期間は、共通教材による学習期間となる。（共通教材による課題の提出は、習熟度別クラスが確定する5月30日以降に、まとめて行うものとする。）習熟度別クラス編成による授業は6月3日（水曜）からとなる。これ以降の授業の方法などは、学習支援システムで5月30日以降に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What's the Problem? 論旨のピックアップと要約文の作り方のフォームを配布して解説する。
2	Natural Environment	配布記事を読み、内容を確認するクイズに答える。
3	Natural Environment 2	パラグラフの標題をつくり、全体の流れを考える。
4	Global Warming	パラグラフをさらに大きなブロックとして捉え、全体の流れを考える。
5	Global Warming 2	論理の展開を追って、記事のまとめを作る。
6	Society	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
7	Society 2	記事の背景情報を視野に入れて、筆者の意図を考える。
8	Great Speeches	歴史背景を検索して、演説の意図を考える。
9	Great Speeches 2	社会・歴史の知識をもとに比喻や含意を考える。
10	Around Wars	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
11	Around Wars 2	パラグラフの流れに沿ってまとめを作り、コメントをつける。
12	Health	記事を読み、内容に関するクイズに答える。

13	grammar review	文法と語法の復習プリントを配布する。
14	Review for Spring Term	春期のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は併せて1時間とする。配布したプリントをよく読みこんで、論旨、問題点をピックアップしておくこと。要点抜出のほか、自分の言葉でわかりやすく言い換えるとしたらいかにまとめられるか、考えてほしい。

### 【テキスト（教科書）】

プリント配布

### 【参考書】

とくに指定しない

### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の基準と方法を変更する。具体的な基準は5月30日以降、学習支援システムで提示する。

ただし、共通教材による学習期間を含めて、4回以上課題を提出しない場合は、評価の対象としない。

### 【学生の意見等からの気づき】

評価票の提出について：レポートする記事の選択は「各自の興味あるもの」としてありますが、秋期のプレゼンテーションの下準備で、各自の興味の方向性をしぼることが目的です。単発でおわる記事ではなく、シリーズとして追いかけれそうなもの、続報が手に入りやすそうなトピックを選んでください。とくに、紹介記事などを扱う場合は、ほかにどんな切り口がありそうか、広く展開できそうなものかを考えて、レポートに取り上げるかどうかを判断するとよいでしょう。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業には必ずハードコピーの辞書または電子辞書を携帯してください。通信機器は使用しないでください。

### 【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行してください。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意してください。

### 【Outline and objectives】

This class aims at enhancing your English-reading and writing skill. You'll be given various types of articles from newspapers or magazines. Try to pick out theme and support parts of the article and understand what the writer means.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語20組

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続きさまざまなテーマの英文に触れ、語彙を広げ、読解の基礎力を付けていきましょう。

英文を読み、論旨を英文でまとめたり、コメントを付ける練習をします。

### 【到達目標】

\*自分で設定したテーマに沿って資料を検索する。

\***theme/idea/opinion + support** という形でのまとめを作る。

\*記事の原文そのままを抜き出してまとめるのではなく、全体の流れを把握したうえで、要点をじぶんの言葉で説明する。

\*記事の内容に関してじぶんの意見をまとめてみる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

### 【授業の進め方と方法】

英文記事を読み、内容把握のためのチェックプリントを使って論旨をつかむ。

配布プリントのほか、4人程度のグループに分かれて、各自用意した記事をレポートしてもらおう。グループ分けとプレゼンテーションの担当日は、使用する記事を提出してもらったうえで、授業時に指定する。プレゼンテーションは、4人程度のグループセッションで記事の内容を説明し、疑問点などを話し合ったのち、クラスセッションに移る。クラスセッションでは同グループのメンバーがプレゼンターのサポートに当たる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Natural Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。 各自プレゼンテーション用の記事を提出。
2	Natural Science 2	配布した記事を読み、要約を作成する。 プレゼンテーションのグループ分けとスケジュールを決定。
3	Medical Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。レポート担当者は使用する記事のコピーをグループ内で配布する。
4	presentation 1	グループごとに担当者がレポートを行い、質問を出し合った後、クラス全員の前で発表してもらおう。
5	On Japanese Culture	配布した記事を読み、パラグラフの流れを考える。次回レポーターは記事のコピーを配布のこと。
6	presentation 2	グループセッションのあと、クラスセッション。
7	Social problems	配布記事を読み、背景情報を参考に問題点をピックアップする。次回レポーターは記事のコピーを配布のこと。

8	presentation 3	グループセッションの後、クラスセッション。
9	Modern Technology	配布記事を読み、コメントを書いてみる。次回レポーターは、記事のコピーを配布のこと。
10	presentation 4	グループセッションの後、クラスセッション。
11	Crime	配布記事を読み、問題点は何か、話し合う。次回レポーターは記事のコピーを配布のこと。
12	presentation 5	グループセッションの後、クラスセッション。
13	Grammar Review	文法と語法の復習プリントを配布する。 全員、プレゼンテーションのまとめレポートを提出のこと。
14	Review for Autumn Term	秋期のまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。レポートのテーマが同じ場合、レポートする記事もほかの発表者と重複することがあります。一つの分野でも、複数の記事に目を通し、いろいろな切り口からレポートできるように考えておきましょう。記事の長さなどは授業時に指定し、発表用のフォーム、提出用のフォームを配布しますので、しっかり準備して発表に臨んでください。

#### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布

#### 【参考書】

とくに指定しない

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%、授業時の提出物（小テスト・プレゼンテーションのグループセッションの際に記入して提出する予習用シートなど） 50%、プレゼンテーションとファイナルレポート 20%として評価する。4回以上欠席した場合、評価の対象としない。

プレゼンテーションの予習用シートは、プレゼンターがあらかじめ配布する記事をグループメンバーが読み、重要単語やキーフレーズをまとめ、質問点を記入するもので、このシートを準備することでグループ内の質疑応答を活性化する目的で配布している。シートの提出は各プレゼンテーションの当日のみ受け付けるので、自分が担当する日以外もしっかり記事を読み、グループ内で活発な議論が行われるようにしてほしい。プレゼンテーションの評価は、クラスセッションでの口頭発表と、ファイナルレポートを併せて行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションでは800語以上の記事を選ぶよう指示してありましたが、記事が短すぎ、急遽追加の記事を探す必要のあるかたが数人ありました。また、disputable point（論争となる問題点）を挙げてまとめてもらいましたが、状況説明に終始する記事を選んだため、指定されたまとめができなかった例もありました。

充実したプレゼンテーションを行うために、どんな記事が適しているかよく考えて選択してください。

春期に新聞記事のまとめを作っていたのも、自分の興味がどこにあるかをあらかじめ考えていただきたいからです。

長期的に追いかけられるテーマを早い段階で明確にしておく必要があるでしょう。

また、ファイナルレポートにはプレゼンテーションに使用した記事のほかに、サポートとなる追加記事のまとめも提出してもらいます。メインとなる記事の輪郭がより鮮明になるようなサポート記事を考えてもらえればと期待しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

#### 【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行すること。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意が必要。

#### 【Outline and objectives】

You will make a presentation on an article of your choice. Try to explain clearly what is the problem and what the writer thinks of the problem through the group session and class session.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語21組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようにすることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

#### 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Going Viral: How are some people getting so famous online?	「ネットで拡散：人はどのようにしてネットで有名になるのか」前半講読
3	Chapter 1-2 Going Viral: How are some people getting so famous online?	「ネットで拡散：人はどのようにしてネットで有名になるのか」後半講読
4	Chapter 6-1 Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction?	「完全に死滅：多くの種が絶滅の危機に瀕しているのはなぜか」前半講読
5	Chapter 6-2 Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction?	「完全に死滅：多くの種が絶滅の危機に瀕しているのはなぜか」後半講読
6	英作文	chapter 1.6に関する各自の意見を英語でまとめる

7	Chapter 11-1 A perfect World: How close are we to achieving world peace?	「理想郷：世界平和の実現は近い か」前半講読
8	Chapter 11-2 A perfect World: How close are we to achieving world peace?	「理想郷：世界平和の実現は近い か」後半講読
9	Chapter 16-1 Time Travel: Will it one day be possible to build a time machine?	「タイムトラベル：いつの日かタ イムマシンは作れるか」前半講読
10	Chapter 16-2 Time Travel: Will it one day be possible to build a time machine?	「タイムトラベル：いつの日かタ イムマシンは作れるか」後半講読
11	Chapter 2-1 Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals?	「観光客だらけ：オーバーツーリ ズム（観光公害）が地元市民の生 活に与える影響」前半講読
12	Chapter 2-2 Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals?	「観光客だらけ：オーバーツーリ ズム（観光公害）が地元市民の生 活に与える影響」後半講読
13	英作文	chapter 11.16.2 に関する各自の 意見を英語でまとめる
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapterごとに2回、小テストを実施するので、予習復習に少なくとも1時間取り、教科書を読み、わからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World-New Challenge, New Opportunities-  
(Francois de Soete 著、成美堂、2020年、1,900円+税)

#### 【参考書】

英語系辞書

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

#### 【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

## 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。chapter ごとに 2 回、復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Chapter 7-1 It's a Dry Heat: Where is the hottest place on Earth?	「カラッとした暑さ：地球上で一番暑い場所はどこか？」前半講読
3	Chapter 7-2 It's a Dry Heat: Where is the hottest place on Earth?	「カラッとした暑さ：地球上で一番暑い場所はどこか？」後半講読
4	Chapter 12-1 Modern Frankenstein: Will genetic engineering change life as we know it?	「現代のフランケンシュタイン：遺伝子工学は人間の生活を劇的に変化させるか」前半講読

5	Chapter 12-2 Modern Frankenstein: Will genetic engineering change life as we know it?	「現代のフランケンシュタイン：遺伝子工学は人間の生活を劇的に変化させるか」後半講読
6	英作文	chapter7-12 に関して各自の意見を英語でまとめる
7	Chapter 17-1 Great Unknown: How big is the universe?	「最大の未知：宇宙はどのくらい大きいのか」前半講読
8	Chapter 17-2 Great Unknown: How big is the universe?	「最大の未知：宇宙はどのくらい大きいのか」後半講読
9	Chapter 3-1 Deal Me In: What makes poker tournaments so popular?	「私にもカードを：ポーカートーナメントが人気なのはなぜか」前半講読
10	Chapter 3-2 Deal Me In: What makes poker tournaments so popular?	「私にもカードを：ポーカートーナメントが人気なのはなぜか」後半講読
11	Chapter 8-1 Man's Best Friend: Why is the French bulldog a controversial breed?	「人間の最良の友、犬：フレンチブルドッグが議論を呼ぶ犬種なのはなぜか」前半講読
12	Chapter 8-2 Man's Best Friend: Why is the French bulldog a controversial breed?	「人間の最良の友、犬：フレンチブルドッグが議論を呼ぶ犬種なのはなぜか」後半講読
13	英作文	chapter 17.3.8 に関して各自の意見を英語でまとめる
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World-New Challenge, New Opportunities- (Francois de Soete 著、成美堂、2020 年、1,900 円+税)

## 【参考書】

英語系辞書

## 【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %  
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

## 【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの一つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

## 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことに伴い、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
ガイダンスと第1回	Unit 1 UNIQLO Aims High	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第2回	Unit 1 UNIQLO Aims High	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第3回	第1回フィールドワーク準備	海外からの観光客に実施する英語のアンケート作成
第4回	第1回フィールドワーク（浅草寺）	海外からの観光客に異文化の視点からアンケート実施
第5回	Unit 2	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第6回	Unit 3	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第7回	Unit 4	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第8回	中間テスト	評価
第9回	Unit 5	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第10回	Unit 5	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第11回	Unit 6	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第12回	Unit 7	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第13回	春学期末試験・まとめと解説	評価
第14回	春学期追試験・再試験・まとめと解説	評価

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の授業に備えて、各々のユニットのDVDを前もって視聴する（または、ストーリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたいうで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連したURLを紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。アクティブラーニング、ディベートの準備として図書館での下調べ、インターネットでのサーチなどを通じて自身の意見を構築しておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

CBS News Break 3  
Nobuhiro Kumai, Steven Timson  
(Seibido)  
ISBN9784791960330  
¥2400(税抜き)

**【参考書】**

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

**【学生が準備すべき機器他】**

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

**【その他の重要事項】**

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

**【Outline and objectives】**

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, and by the fieldwork at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

## 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 9 目	Uni8 の復習 Unit 7 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 9 目	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation
第 3 回	Preparation for the field work 目	Making questionaries in English planning for the field work English Composition Evaluation
第 4 回	Field work at Sensoji Temple 目	Questionaries for the sightseers from abroad Expresssing Opinions Evaluation
第 5 回	Presentation 目	The result of the field work Presentation Evaluation
第 6 回	Unit 10 目	Unit 9 Word Test Critical Thinking Group Works Presentation EvaLuation
第 7 回	Unit 11 目	Unit10 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回	Unit 12 目	Unit 11 Word Test0 Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Presentation Evaluation
第 9 回	Unit 113 目	Unit 12 Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 14 目	Unit 13 Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Unit 14 目	Unit Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 15 目	Unit 14 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation

- 第13回 秋学期期末試験・まとめと解説  
 第14回 追試験・再試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TALK から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティブラーニングとディヴェートの準備のため図書館やインターネットでトピックについて下調べをして授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791960330 ¥2400+税

#### 【参考書】

CBS News Break 3 (Seibido) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 40%、シャドウイングテスト 20%、単語テスト、小テスト 10%、宿題 10%、発表 10%、活発な意見の交換と授業貢献度 10%。の合計 100%。

ただし、4回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3回で1回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は3回までとする。4回以上の欠席は単位の修得を認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBLの観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

#### 【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

#### 【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by a field work.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 23 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は世の中の動向を注視し、社会の様々な問題に関心を持つことが重要である。そのため、英字新聞のニュース・コラムを読むことによって、情報力及び英語力を身につけることをめざす。

#### 【到達目標】

ニュースの情報力と英語の読解力(reading)・要約力・発表力を身につける。新聞ニュース記事の背景知識を把握し、英文に見られる英語の語彙・語法の特徴を学習し、英字新聞を気軽に読めるようにする。また、英文をスムーズに音読し、英文を正確に読解し、どんな問題についても自分の意見を言えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期前半のオンライン授業4回分（5月6日、13日、20日、27日）は英語1の共通教材・課題で学習する。6月3日からは、毎回、英字新聞にある政治・経済・社会・文化・スポーツなどの記事を取り上げ、語彙・語法をチェックした後、パラグラフごとに訳し、さらに記事の内容について意見を発表する。本授業の開始は5月6日である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	新聞の構成を学ぶ。	見出し・書き出し・本文を役割を説明する。
3	「見出し」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「見出し」の特徴を学び、演習する。
4	「書き出し」「本文」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「書き出し」「本文」の特徴を学び、演習する。
5	語彙・語法を学ぶ。	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
6	語彙・語法を学ぶ。	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
7	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。 (1)	パラグラフを要約する。 社会問題を考える。
8	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。 (2)	パラグラフを要約する。 社会問題を考える。
9	中間テスト	英文記事をパラグラフごとに訳す。
10	スキミング・スキヤニングを学ぶ。 (1)	スキミング・スキヤニングを 実践演習する。
11	スキミング・スキヤニングを学ぶ。 (2)	スキミング・スキヤニングを 実践演習する。
12	速読の方法を学ぶ。 (1)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。

- 13 速読の方法を学ぶ。 ニュース記事全体を速読し、内容  
(2) 把握の演習をする。
- 14 期末テスト 内容把握のテストをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業準備:1時間】授業直前1週間のニュースをチェックしておく。前週に配布されたプリントを予習する。英文をスムーズに音読できるようにしておく。英文の単語・語法を調べ、正確に訳せるように予習する。また、記事の問題について自分の意見が発表できるようにまとめておく。

【授業復習：1時間】授業内容について復習する。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

『現代用語の基礎知識』『2020年の論点100』ほか

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は変更する。具体的内容については、授業開始の5月6日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ記事などさまざまなニュース記事を取り上げる。取り上げる記事の難易度に差ないように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a mid-term and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語23組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞のニュース・コラムを取り上げ、速読（スキミング・スキヤニング）により記事全体の内容を速く把握し、読解力（reading）、要約する力を身につける。さらに社会問題について自分の意見を発表するため、ニュースの背景知識を学習し、批判力・批評力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースを読む語彙力と意見を発表できる力を身につける。英文を理解するための基本スキルである語彙力を定着させるため、毎回語彙テストを実施する。また、発表力を養うために自分でニュース記事を選び、レジュメを準備して口頭発表できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞からニュース・コラムを選び、語彙・語法・内容をチェックし、意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	語彙テスト（1）	語彙テストを実施する。
	「政治」のニュース・コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
3	語彙テスト（2）	語彙テストを実施する。
	「経済」のニュース・コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
4	語彙テスト（3）	語彙テストを実施する。
	「社会」のニュース・コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
5	語彙テスト（4）	語彙テストを実施する。
		記事全体を要約し、意見を発表する。
6	語彙テスト（5）	語彙テストを実施する。
		記事全体を要約し、意見を発表する。
7	中間テスト	記事全体を要約する。
8	語彙テスト（6）	語彙テストを実施する。
9	語彙テスト（7）	語彙テストを実施する。
	「データ記事」を読む。	データを速読する。
10	語彙テスト（8）	語彙テストを実施する。
	「データ記事」を読む。	データを速読する。
11	語彙テスト（9）	語彙テストを実施する。
	「時事漫画」を読む。	「時事漫画」の背景を理解する。
12	語彙テスト（10）	語彙テストを実施する。
	「写真ニュース」を読む。	「写真ニュース」の背景を理解する。

- 13 語彙テスト（1） 語彙テストを実施する。  
「写真ニュース」を読む。「写真ニュース」の背景を理解する。（2）
- 14 期末テスト 内容把握の理解度をテストする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業準備：1時間】 授業直前1週間のニュースをチェックする。語彙テストに備える。発表のために、トピック選び、訳、問題点の解説、意見考察などレジュメ作成の準備をする。

【授業復習：1時間】 授業内容について復習する。

## 【テキスト（教科書）】

プリント使用

## 【参考書】

春学期と同じ

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・姿勢・欠席は3回まで）：30%

語彙テスト：20%

テスト：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

政治・経済以外のスポーツ・芸能など様々な分野のニュースを取り上げる。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a mid-term test and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

## 高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語 24組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

## 【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースを正確に理解し、自らの意見を発信できるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	(B) Story 1 (F) Lesson 1
第3回	Blood Testing: Charged with Massive Fraud	(B) Story 2 (F) Lesson 2
第4回	Millionaire Millennial	(B) Story 3 (F) Lesson 3
第5回	Fighting Robocalls	(B) Story 4
第6回	The Blue World	(B) Story 5 (F) Lesson 4
第7回	Moment of Impact	(B) Story 6 (F) Lesson 5
第8回	Father's New Hand	(B) Story 7 (F) Lesson 6
第9回	Trump's Weapon Ban?	(B) Story 8 (F) Lesson 7
第10回	American Men's Bobsledding Team	(B) Story 9
第11回	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	(B) Story 10 (F) Lesson 8
第12回	The Children of Syria	(B) Story 11 (F) Lesson 9
第13回	Honoring Martin Luther King Jr	(B) Story 12 (F) Lesson 10
第14回	Inside the Drug Cartel	(B) Story 13

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %)、平常点 (授業への積極的参加) (30 %)

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業の際には、辞書を必ず持参してください。

## 【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

## 【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースの内容を正確に理解し、自らの意見を発信できるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Repairing Big Ben	(B) Unit 1 (F) Lesson 11
第 2 回	Learning to Walk again	(B) Unit 2 (F) Lesson 12
第 3 回	A Secret Garden in London	(B) Unit 3 (F) Lesson 13
第 4 回	Unpaid Internships	(B) Unit 4
第 5 回	The Wedding Gallery	(B) Unit 5 (F) Lesson 14
第 6 回	A Modern Steam Train	(B) Unit 6 (F) Lesson 15
第 7 回	A T-shirt Exhibition	(B) Unit 7 (F) Lesson 16
第 8 回	Generation Z	(B) Unit 8 (F) Lesson 17
第 9 回	Veganuary	(B) Unit 9
第 10 回	Wind Power in Britain	(B) Unit 10 (F) Lesson 18
第 11 回	Preventing Transgender Bullying	(B) Unit 11 (F) Lesson 19
第 12 回	A Plastic Tenner	(B) Unit 12 (F) Lesson 20
第 13 回	How to Delay Ageing	(B) Unit 13
第 14 回	School Deal with Fake News	(B) Unit 14

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura. M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).

Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、平常点（授業への積極的参加）（30％）  
なお、欠席が4回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の際には、辞書を必ず持参してください。

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事問題を扱ったテキストや新聞・雑誌の記事を使用して語彙力と読解力を強化する。英語圏のニュースなどを理解するために必要な知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書のリスニング及び問題解説を行う。各章の終わりに関連するテーマのディスカッションを行うこともある。授業後半は、あらかじめ配布した新聞記事や雑誌記事の精読と日本語訳を行う。状況に応じてパラフレーズの練習もする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 1 Civilian Drones 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
3	Chapter 1 Civilian Drones 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
4	Chapter 2 Reading While Young 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
5	Chapter 2 Reading While Young 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
6	Chapter 3 Intelligent Assistance 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
7	Chapter 3 Intelligent Assistance 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
8	Chapter 4 Keeping It Clean 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
9	Chapter 4 Keeping It Clean 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
10	Chapter 5 Manners in Public 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
11	Chapter 5 Manners in Public 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解

12	Chapter 6 Which News Is Fake? 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
13	Chapter 6 Which News Is Fake? 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前にテキストを読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

#### 【テキスト（教科書）】

『Listening to Dialogues on Social Issues 社会的な問題についての会話リスニング 15 章』音羽書房鶴見書店

#### 【参考書】

授業時に指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20 %

授業内での質疑応答 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていききたい。

#### 【その他の重要事項】

教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

#### 【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on current topics to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the English-speaking world.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、時事問題を扱ったテキストや新聞・雑誌の記事を使用して語彙力と読解力を強化する。英語圏のニュースなどを理解するために必要な知識を身につける。

#### 【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書のリスニング及び問題解説を行う。各章の終わりに関連するテーマのディスカッションを行うこともある。授業後半は、あらかじめ配布した新聞記事や雑誌記事の精読と日本語訳を行う。状況に応じてパラフレーズの練習もする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 7 Food Self-sufficiency 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
3	Chapter 7 Food Self-sufficiency 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
4	Chapter 8 Whose Fish? 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
5	Chapter 8 Whose Fish? 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
6	Chapter 9 English: Necessary or Not? 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
7	Chapter 9 English: Necessary or Not? 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
8	Chapter 10 Career Education 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
9	Chapter 10 Career Education 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
10	Chapter 11 Hours Worked 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
11	Chapter 11 Hours Worked 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解

12	Chapter 12 Gender Equality 前半	リスニング ディクテーション 配布資料の読解
13	Chapter 12 Gender Equality 後半	ボキャブラリー ディスカッション 配布資料の読解
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。必ず事前にテキストを読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

#### 【テキスト（教科書）】

『Listening to Dialogues on Social Issues 社会的な問題についての会話リスニング 15 章』音羽書房鶴見書店

#### 【参考書】

授業時に指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20%

授業内での質疑応答 20%

期末試験 60%

欠席回数が4回となった時点で単位取得の資格を失う。

30分以内の遅刻・早退は3回で欠席1回として取り扱う。

30分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱ってきたい。

#### 【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

#### 【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on current topics to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the English-speaking world.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

保坂 嘉恵美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法1年：英語 26組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察力を高める。

#### 【到達目標】

- ①英語の幅広い語彙力を伸ばす
- ②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
- ③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う  
またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④リスニング力を強化する
- ⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業最初の20～30分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。ニュース内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業2回で1チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って春学期6チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトランダムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習してくることが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回とは特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進捗や読むチャプターなど変更する場合もある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業方針・内容の説明
2	Section I: Media and Entertainment	Chapter1.Going Viral: How are some people getting so famous online? ネットで拡散：人はどのようにしてネットで有名になるのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。

- 3 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ② 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 4 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ③ Chapter 2. Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals? 観光客だらけ：オーバートリズム（観光公害）が地元市民の生活に与える影響について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 5 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ④ 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 6 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑤ Chapter 3. Deal Me In: What makes poker tournaments so popular? 私にもカードを：ポーカートーナメントが人気なのはなぜか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 7 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑥ 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 8 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑦ Chapter 4. Full Contact: Are some sports too rough? フルコンタクト：危険すぎるスポーツもあるのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 9 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑧ 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 10 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑨ Chapter 5. Fake News: How does false information pass off as news? フェイクニュース：偽情報がニュースと間違えられるのはなぜか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 11 Section I: Media and Entertainment メディアとエンターテイメントについて考える ⑩ 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 12 Section II: People and Nature 人間と自然について考える ① Chapter 6. Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction? 完全に死滅：多くの種が絶滅の危機に瀕しているのはなぜか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 13 Section II: People and Nature 人間と自然について考える ② 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 14 試験・まとめと解説 60 分程度の筆記試験と総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。

**【テキスト（教科書）】**

François de Soete, *Getting Ready to Change the World: New Challenges, New Opportunities*

邦題『グローバル時代を生き抜く変革への視点』（成美堂 2020 / ¥1900）その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

**【参考書】**

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）+ 用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりとやっていけば授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の英語力に合わせたテキストを選んでいるが、個人差もあると思われる。読み進むスピードなどは、学生の力に応じて適宜調整していきたい。

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

**【Outline and objectives】**

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

保坂 嘉恵美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察力を高める。

## 【到達目標】

- ①英語の幅広い語彙力を伸ばす
- ②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
- ③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う  
またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④リスニング力を強化する
- ⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業最初の 20~30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。報道内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って秋学期、テキスト後半の 6 チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトラングムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習しておくことが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回とは特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進度や読むチャプターなど変更する場合もある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える①	Chapter 11. A Perfect World: How close are we to achieving world peace? 理想郷：世界平和の実現は近いか?について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。

2	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
3	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える③	Chapter 12. Modern Frankenstein: Will genetic engineering change life as we know it? 現代のフランケンシュタイン：遺伝子工学は人間の生活を劇的に変化させるか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
4	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
5	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑤	Chapter 13. Tinted Lenses: Is it possible to be truly objective? 色眼鏡：真に客観的になることは可能か?について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
6	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑥	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
7	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑦	Chapter 14. Get Well Soon: How are X-rays affecting healthcare today? お大事に：X線は今日の医療にどのような影響を及ぼしているか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
8	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑧	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
9	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑨	Chapter 15. The Need for Speed: Is it time to restrict how fast cars can go? スピード狂：車の最高速度は制限すべきか? について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
10	Section III: Culture and Society 文化と社会について考える⑩	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。

- 11 Section IV: Science and Technology 科学とテクノロジーについて考える① Chapter 18. The Endgame: Has artificial intelligence surpassed human intelligence? 終局：AI（人工知能）は人間を凌駕したか?について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
- 12 Section IV: Science and Technology 科学とテクノロジーについて考える② 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
- 13 英文エッセイの構造と内容の効率的な把握 エッセイの構造を理解し、過不足のない「要約」の仕方を学ぶ。
- 14 試験・まとめと解説 60分程度の筆記試験と総括

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。

#### 【テキスト（教科書）】

François de Soete, *Getting Ready to Change the World: New Challenges, New Opportunities*

邦題『グローバル時代を生き抜く変革への視点』（成美堂 2020/¥1900）その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

#### 【参考書】

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）+ 用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりやっていたら授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則4回以上で単位修得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

#### 【Outline and objectives】

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

## 根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

#### 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日はクラス分けの都合上5月30日となる。以下、当初の授業の進め方と方法もよく確認しておくこと。テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Unit が3つか4つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第2回	Unit 1	Digital Amnesia
第3回	Unit 2	Sleep Paralysis
第4回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第5回	Unit 1～Unit 3のまとめ	Unit 1～Unit 3の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第6回	Unit 4	The McCollough Effect
第7回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第8回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第9回	Unit 7	Live to Be 120
第10回	Unit 4～Unit 7のまとめ	Unit 4～Unit 7の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第11回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第12回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第13回	Unit 10	Lazy Ants

## 第14回 学期末試験

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。  
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。  
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。  
英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間のオンラインでの開講にともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下の当初の方法と基準に可能な限り沿う形をとる予定なので、以下の内容もよく確認しておくこと。  
期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。  
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ~ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ~ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ~ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ~ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

#### 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。

#### 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング (文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強) のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分の伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを適切に理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

#### 【到達目標】

テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語語彙力を身につける。(英単語レベル 4 以上をマスターする。) 短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記する。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出す。英語で自分の意見を述べることができる。コミュニケーション能力を培い、自信を持って話せるようにする。リスニング、リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

ウイルス問題に対処するため、対面授業開始まで大学の授業支援システムを活用し、授業開始日を 4/25 日(土)とします。(今学期、このシステムを使って出された課題 14 回分のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失うことがある。) 尚、ネットワーク環境のない学生に対しては調査の上、対策を考えるので心配無用です。基本的に教科書に沿って授業を進めるので、あらかじめ教科書の予習をしてください。授業で配布するプリントを用いて学習内容を確認する。英語の語彙力アップのため、毎回の授業では英単語の小テストを実施する。リアクションペーパーを提出をする。教科書の記述内容について、ペアワーク、グループワークにより意見交換をする。最後に、ウイルス蔓延の状況により対面授業開始が遅れても、授業支援システムを用いてシラバスに沿った授業内容とする。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.

Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.
Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.

**【成績評価の方法と基準】**

50% = グループ活動、授業中の課題、宿題、英語によるプレゼンテーション

40% = 筆記試験、リスニング試験

10% = 英単語、イディオム等の小テスト

尚、各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

特にありませんが、今後も実りある授業ができるよう研究を重ねていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

**【授業について】**積極的に授業のディスカッションに参加すること。すべての課題を完成させること。ノートと英語辞典(電子・書籍等)を持参すること。

**【Outline and objectives】**

The goal of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development. Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準としますが、この授業については予習時間は90分とする。復習時間も同様に90分とし、テキスト、授業内で配布されるプリント等を見直す。また、毎回実施する英語のポキャブラリー小テストのための準備も行う。さらに、本学「授業支援」Webページに掲載された課題、教材を提出する。

**【テキスト(教科書)】**

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos,  
Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082

**【参考書】**

電子辞書又は本型の辞書等(機種、出版社等不問)授業には毎回持参すること。

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進む社会を考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English)を養う。本講義は1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice)の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技術の向上を目指す。さらにビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。英語を聴く力の育成も行う。

## 【到達目標】

英語語彙力をつける。(英単語レベル 4 程度をマスターする。)テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記する。英語ジャーナルを書いて発表する。英字新聞の記事内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出す。プレゼンテーションのための基礎的技術を向上させる。人前で自分の意見を英語で伝える。英語のリスニング力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を行うので、教科書の予習をしっかりと行うこと。語彙力強化のため授業では毎回、英単語の小テストを行う。基本的な短い英文を暗記し、英語での会話や英作文に応用する。TOEIC(R)、英検等の資格試験対策も早期から取り組む。さらに、英字新聞等を読み、自分の意見を英語でまとめる練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	The History of Our University	Talk about Informative Presentations: Time
Unit 2	My Favorite Country	Talk about the place
Unit 3	The Four Basic Food Groups	Talk about Topical pattern
Unit 4	Japan's Education System	Talk about Classification Pattern
Unit 5	What is Science?	Talk about Concepts
Unit 6	Social Networking Services	Talk about Advantages & Disadvantages
Unit 7	Should Students Wear School Uniforms?	Talk about Questions of Value
Unit 8	The Case for Organ Donation?	Talk about Questions of Fact
Unit 9	Exercise and Physical Fitness	Talk about Questions of Policy: Problem-Solution Method
Unit 10	Overpopulation: Cause and Consequences	Talk about Questions of Policy: Problem-Cause-Effect Method

Unit 11	Hybrid or Electric?	Talk about Questions of Policy: Comparative-Advantage-Method
Unit 12	Informative Presentations	Brainstorming & Organizing
Unit 13	Persuasive Presentations	Organizing and Outline
Unit 14	Review all pages	Create your own ideas

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、この授業においては授業時間外の学習として、〔予習〕次回授業の範囲について事前にテキストを読み、疑問点を明確にしておくこと。(90 分程度)〔復習〕授業内容について復習するため、テキストや配布資料等を読み返して知識の定着を図ること。(90 分程度)〔宿題〕授業時に毎回配布する英語演習のプリントを完成させる。また、本学の授業支援システムを利用し、与えられた課題を提出すること。(60 分程度)尚、質問等があれば E メールを使って問い合わせること。メールアドレスは講義開始時に伝える。

## 【テキスト（教科書）】

Text: Writing for Presentations in English

Yoshihito Sugita, 出版社: 南雲堂 ISBN:978-4-523-17731-9

## 【参考書】

英語辞書等(電子・紙)は毎回、授業に持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

50% = グループ活動、授業中の課題、出席、宿題、発表 (Participation in group work, classroom activities, attendance, homework assignments, presentations)

50% = 筆記試験、口頭試験 (Written tests and/or speaking tests)

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks. They are also expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワーク、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

## 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことに伴い、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 1	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	第 1 回フィールドワーク準備	アンケート作成
第 4 回	第 1 回フィールドワーク	海外からの観光客にアンケートを実施
第 5 回	Unit 2 Texting & Driving	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 3 Texting & Driving	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Mid-Term Test	評価
第 9 回	Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 6 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 7 A Wave of Asian Immigrants	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 8 A Wave of Asian Immigrants	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末試験・まとめと解説	評価
第 14 回	春学期追試験・再試験・まとめと解説	評価

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。アクティブラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットでトピックの下調べをして自身の意見を構築して授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
CBS News Break 3  
Nobuhiro Kumai, Steven Timson  
(Seibido)  
ISBN9784791960330  
¥2400(税抜き)

## 【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席はは単位の修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

## 【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

## 【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

## 【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュース 3 をナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

## 【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 9	Unit8 の復習 Unit 7 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 2 回	Unit 10	Unit7 の Word Test Reading 8 Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 3 回	第 1 回フィールドワークの準備	Questionary for the fieldwork
第 4 回	第 1 回フィールドワーク (浅草寺)	第 1 回フィールドワーク 海外からの観光客に異文化の視点から英語に世湯アンケート実施
第 5 回	フィールドワーク結果発表会	フィールドワークのアンケート結果発表 (プレゼンテーション)
第 6 回	Unit 11	Unit 10 word test Dictation shadowing comprehension tests
第 7 回	Unit 12	Unit 11 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 8 回	中間テスト	評価
第 9 回	Unit 12	Unit 10 Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 13	Unit 11 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Unit 13	Unit 11 Word Test Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation

第 12 回	Unit 1 3	Unit 11 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末試験・まとめと解説	評価
第 14 回	追試験・再試験・まとめと解説	評価

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TALK から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティブラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791960330 ¥2400+税

**【参考書】**

CBS News Break 4 (Seibido) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

**【成績評価の方法と基準】**

秋学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー (速読、精読、ともに) を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

**【学生が準備すべき機器他】**

USB メモリー (中古品可) (ただし、CALL 教室の場合のみ)。

**【その他の重要事項】**

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

**【Outline and objectives】**

We are going to watch the CBS News Break 3 and study reading and listening English in Journalism, mainly by shadowing, reading comprehensions, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカについての知識を習得しながら、読解・文法・語彙に重点を置いて英語を学ぶ。

## 【到達目標】

アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当を決めず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	授業についての詳しい説明など
2	The New World	新世界について reading
3	Columbus	コロンブスについて exercise
4	New England	ニューイングランドについて reading
5	Southern Colonies	南部の植民地について exercise
6	Before the War of Independence	独立戦争以前について reading
7	The War of Independence	独立戦争について exercise
8	Lewis and Clark	ルイス アンド クラークについて reading
9	The West	西部について exercise
10	Americans Move West	西漸運動について reading
11	Pioneers	開拓者について exercise
12	Gold Rush	ゴールドラッシュについて reading
13	期末試験と総括	春学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

必ず辞書を持ってくること。

## 【Outline and objectives】

We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカについての知識を習得しながら、読解・文法・語彙に重点を置いて英語を学ぶ。

## 【到達目標】

アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当を決めず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	春学期の復習及び秋学期の授業についての詳しい説明
2	Slavery	奴隷制度について reading
3	The Civil War	南北戦争について exercise
4	The Great Depression	世界恐慌について reading
5	The New Deal	ニューディール政策について exercise
6	Before the Second World War	第二次世界大戦以前について reading
7	Pearl Harbor	真珠湾について Exercise
8	Hitler	ヒトラーについて reading
9	The Pacific War	太平洋戦争について exercise
10	The Viet Nam War	ベトナム戦争について reading
11	After the Viet Nam War	ベトナム戦争後について exercise
12	The Expansion of the United States	領土拡張について reading
13	期末試験と総括	秋学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

## 【その他の重要事項】

必ず辞書を持ってくること。

## 【Outline and objectives】

We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。最初の 5 回は共通教材を使って授業、以降は未定。平常授業になれば指定教科書を使う。対面授業が無理な場合は、オンライン教材を使用する予定。

です。

とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/>

アクセスしてみてください。

~~~~~

21 世紀に入って医療技術の進歩は著しい。現代は一般的医療の知識がないと無事に過ごせない時代である。Caregiver は、知っておくと便利な医療の題材や、healthcare に関する一般的な題材を VOA ニュース、ハーバード大学新聞、サイエンス・ディリー、タイムマガジン、ニューヨークタイムズ、ジャパンニュース (読売英字新聞) その他のインターネットソースの医療・健康に関する記事から得た。Useful Expressions は患者と医師、患者と看護師の会話表現である。実際に病院で診察を受けた時、病院側の意向を正確に知り、意思疎通をうまく図るための表現演習である。海外で自分の身を守るために必須の医療英語を学ぶ。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

## 【到達目標】

Caregiver のテキスト学習によって、現代医療に関わる単語と言い回しを学び、医療環境を理解し、海外での生活と健康の管理に役立つ英語力とスキルの向上をとめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

非常事態宣言により、最初の 5 回は共通教材を使って授業、以降は未定。平常授業になれば指定教科書を使う。対面授業が無理な場合は、オンライン教材を使用する予定。

~~~~~

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まず重要な語句に注意しながらメインの英文を読んで理解し、次に練習問題を解き、Reading for Discussion を読んで討論し、最後に Coffee Break について話し合う。学期の終わりには、授業に関わりのある有益な映画を選んで批評と意見交換を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習	4 月 27 日スタートです。とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。

2	平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習	5 月 4 日 とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。
3	平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習	5 月 11 日 とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。
4	平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習	5 月 18 日 とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。
5	平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習	5 月 25 日 とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。
6	以下未定	6 月 1 日 対面授業には入れれば、指定した教科書で授業をします。無理な場合は独自のオンライン教材を作成しました。
7	以下未定	6 月 8 日
8	以下未定	6 月 15 日
9	Unit 4	Medical Robots Useful Expressions 2: Forms, Medical History and Billing 後半 Exercises
10	Unit 5	Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide 前半
11	Unit 5	Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide 後半 Exercises
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『世界に見る医療と看護』〔新訂版〕Caregiver - New Edition 朝日出版社 近藤進他著 ISBN: 978-4-255-15565-4 1,900 円 + 税

## 【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

~~~~~

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50%) の総合判断による。60 点以上が合格点である。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

#### 【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

#### 【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn Medical English which is quite important for us. In the 21st century, medical technology has made remarkable progress. Nowadays, we cannot safely live without general medical knowledge. *Caregiver* provides useful medical and general healthcare topics on VOA News, Harvard University Newspapers, Science Daily, Time Magazine, New York Times, Japan News (Yomiuri English Newspaper) and other Internet sources obtained from articles on medical care and health. There are Useful Expressions and conversation between patients and doctors, and between patients and nurses. This is an expression exercise to accurately understand the intentions of the hospital and a doctor when you seek medical advice and to communicate well. Let's learn the essential medical English to protect yourself abroad.

We would also like to enjoy DVDs for understanding English speaking world languages and cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

清水 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 1 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀に入って医療技術の進歩は著しい。現代は一般的な医療の知識がないと無事に過ごせない時代である。*Caregiver* は、知っておくと便利な医療の題材や、*healthcare* に関する一般的な題材をVOA ニュース、ハーバード大学新聞、サイエンス・ディリー、タイムマガジン、ニューヨークタイムズ、ジャパンニュース（読売英字新聞）その他のインターネットソースの医療・健康に関する記事から得た。*Useful Expressions* は患者と医師、患者と看護師の会話表現である。実際に病院で診察を受けた時、病院側の意向を正確に知り、意思疎通をうまく図るための表現演習である。海外で自分の身を守るために必須の医療英語を学ぶ。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

#### 【到達目標】

*Caregiver* のテキスト学習によって、現代医療に関わる単語と言い回しを学び、医療環境を理解し、海外での生活と健康の管理に役立つ英語力とスキルの向上をとめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

1ユニットで1テーマをなす本テキストを理想的には2回の授業で仕上げたい。まず重要な語句に注意しながらメインの英文を読んで理解し、次に練習問題を解き、*Reading for Discussion* を読んで討論し、最後に *Coffee Break* について話し合う。学期の終わりには、授業に関わりのある有益な映画を選んで批評と意見交換を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

| 回 | テーマ         | 内容                                                                                                               |
|---|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 序/イントロダクション | 本授業を履修する心構え、ルールとマナー                                                                                              |
| 2 | Unit 6      | How Emergency Rooms Work<br>Useful Expressions 3:<br>Emergency Room 前半                                           |
| 3 | Unit 6      | How Emergency Rooms Work<br>Useful Expressions 3:<br>Emergency Room 後半<br>Exercises                              |
| 4 | Unit 7      | Keep Your Heart Moving<br>前半                                                                                     |
| 5 | Unit 7      | Keep Your Heart Moving<br>後半 Exercises                                                                           |
| 6 | Unit 8      | Teens Light Up E-Cigarettes<br>Useful Expressions 4:<br>Examination Language and<br>General Exam Instructions 前半 |

|    |                     |                                                                                                                                |                                                                                                                                          |
|----|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7  | Unit 8              | Teens Light Up E-Cigarettes<br>Useful Expressions 4:<br>Examination Language and<br>General Exam Instructions 後<br>半 Exercises | We would also like to enjoy DVDs for understanding English speaking world languages and cultures both in the spring and the autumn term. |
| 8  | Unit 9              | Curing Peanut Allergies<br>前半                                                                                                  |                                                                                                                                          |
| 9  | Unit 9              | Curing Peanut Allergies<br>後半 Exercises                                                                                        |                                                                                                                                          |
| 10 | Unit 10             | Cancer and Poverty<br>Useful Expressions 5: Pains<br>and Sensations<br>前半                                                      |                                                                                                                                          |
| 11 | Unit 10             | Cancer and Poverty<br>Useful Expressions 5: Pains<br>and Sensations<br>後半 Exercises                                            |                                                                                                                                          |
| 12 | 映像批判分析              | 映像対象については未定                                                                                                                    |                                                                                                                                          |
| 13 | 映像批判分析<br>質疑応答      | 映像対象については未定<br>今学期学習したことの質疑応答 +<br>まとめテストの説明                                                                                   |                                                                                                                                          |
| 14 | 授業内まとめのテスト<br>とその解説 | 内容は未定ならびに秘密事項                                                                                                                  |                                                                                                                                          |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題;各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『世界に見る医療と看護』（新訂版）Caregiver - New Edition 朝日出版社  
近藤進他著 ISBN: 978-4-255-15565-4 1,900円＋税

#### 【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

#### 【成績評価の方法と基準】

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。  
各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

#### 【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

#### 【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn Medical English which is quite important for us. In the 21st century, medical technology has made remarkable progress. Nowadays, we cannot safely live without general medical knowledge. *Caregiver* provides useful medical and general healthcare topics on VOA News, Harvard University Newspapers, Science Daily, Time Magazine, New York Times, Japan News (Yomiuri English Newspaper) and other Internet sources obtained from articles on medical care and health. There are Useful Expressions and conversation between patients and doctors, and between patients and nurses. This is an expression exercise to accurately understand the intentions of the hospital and a doctor when you seek medical advice and to communicate well. Let's learn the essential medical English to protect yourself abroad.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

## 【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。

受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                                        | 内容                    |
|---|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1 | イントロダクション                                                                  | 授業内容・進め方、テキストの紹介など    |
| 2 | 英語ニュースのきまり                                                                 | 英字新聞の読み方、テレビニュースの見方   |
| 3 | Sanrio takes big risk with new strategy                                    | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 4 | New nine-year school category eyed                                         | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 5 | Species going extinct up to 10,000 times faster than normal                | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 6 | Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 7 | Mountain Day created as newest official public holiday                     | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 8 | Simplest animals may help cure brain disease                               | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 9 | One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study       | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |

10 Superbug threat requires urgent world action: Scientist

ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

11 Japan neglecting wetlands: Ministry

ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

12 In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff

ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

13 Anchors Strike Back 1

レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

14 Anchors Strike Back 2

レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 2" 金星堂

## 【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物：50%、授業への取組み：20%、期末レポート：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価する。

欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がLL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

## 【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

## 【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、レポートなどを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

| 回  | テーマ                                                                | 内容                      |
|----|--------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | イントロダクション、秋学期の進め方等                                                 | 休暇中ニュースのフォローアップ         |
| 2  | 新聞、ニュース英語の共通点、相違点                                                  | 英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解 |
| 3  | WHO urged not to restrict e-cigarettes                             | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 4  | Baby boomers becoming gray gang                                    | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 5  | Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides                   | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 6  | As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns           | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 7  | Feral cats causing extinction of unique Australian mammals         | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 8  | Easier-to-use retro cellphones making a comeback                   | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 9  | Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 10 | Tea, wine stepped in shared history                                | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |

|    |                                                    |                                |
|----|----------------------------------------------------|--------------------------------|
| 11 | Evidence found of planet that hit Earth, made moon | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 12 | Stunning pterosaur eggs found                      | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 13 | Anchors Strike Back 1                              | レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。 |
| 14 | Anchors Strike Back 2                              | レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 2" 金星堂

## 【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物：50%、授業への取組み：20%、期末レポート：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価する。

欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がLL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

## 【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で書かれた膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりとおさえながら、実際の英語ニュース記事を聴き取り、また読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

## 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                | 内容                    |
|---|----------------------------------------------------|-----------------------|
| 1 | イントロダクション                                          | 授業紹介                  |
| 2 | unit 1-I: Can Babies Choose Between Good and Bad?  | reading and listening |
| 3 | unit 1-II: Can Babies Choose Between Good and Bad? | reading and writing   |
| 4 | unit 2-I: Half-Empty or Half-Full?                 | reading and listening |
| 5 | unit 2-IO: Half-Empty or Half-Full?                | reading and writing   |
| 6 | unit 3-I: How to Pass a Test                       | reading and listening |
| 7 | unit 3-II: How to Pass a Test                      | reading and writing   |
| 8 | Review Exam                                        | units 1-3             |
| 9 | unit 4-I: Soccer Brain Study                       | reading and listening |

|    |                                          |                       |
|----|------------------------------------------|-----------------------|
| 10 | unit 4-II: Soccer Brain Study            | reading and writing   |
| 11 | unit 5-I: Google Glass for Firefighters  | reading and listening |
| 12 | unit 5-II: Google Glass for Firefighters | reading and writing   |
| 13 | unit 6: Women on Submarine               | reading and listening |
| 14 | Review Exam                              | Units 4-6             |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

## 【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）：40 パーセント  
中間・期末テスト：30 パーセントずつ

## 【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

## 【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

## 【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報がすぐ手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりと覚えながら、実際の英語ニュース記事を読み取り、読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

## 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ                                         | 内容                    |
|----|---------------------------------------------|-----------------------|
| 1  | Unit 7-I: iPhone Musician                   | reading and listening |
| 2  | Unit 7-II: iPhone Musician                  | reading and writing   |
| 3  | Unit 8-I: Bringing People Back to Baseball  | reading and listening |
| 4  | Unit 8-II: Bringing People Back to Baseball | reading and writing   |
| 5  | Unit 9-I: Smell of Success                  | reading and listening |
| 6  | Unit 9-II: Smell of Success                 | reading and writing   |
| 7  | Review Exam                                 | Units 7-9             |
| 8  | Unit 10-I: Octocpter                        | reading and listening |
| 9  | Unit 10-II: Octocpter                       | reading and writing   |
| 10 | Unit 11-I: Staying Safe Online              | reading and listening |

|    |                                           |                       |
|----|-------------------------------------------|-----------------------|
| 11 | Unit 11-II: Staying Safe Online           | reading and writing   |
| 12 | Unit 12-I: Air Pollution in Asian Cities  | reading and listening |
| 13 | Unit 12-II: Air Pollution in Asian Cities | reading and writing   |
| 14 | Review Exam                               | Units 10-12           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。教科書に訳を書き込むのは不可。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をこなさなかったものとみなします。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

## 【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）：40 パーセント  
中間・期末テスト：30 パーセントずつ

## 【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

## 【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

## 【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位周到を認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

文章の例を具体的に示し、解説したい。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また、テレビ、インターネットなどのニュースにも十分に対応することができるように、リスニング能力も向上させます。

## 【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

CD 付きの教材を使用し、リスニングの課題を出します。授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。また、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。学期中の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位の修得を認めません。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ       | 内容                |
|----|-----------|-------------------|
| 1  | イントロダクション | 授業の進め方の解説         |
| 2  | 第 1 課     | 海外留学をめぐる議論        |
| 3  | 第 1 課     | 海外留学に対する各自の意見     |
| 4  | 第 2 課     | 原子力発電をめぐる議論       |
| 5  | 第 2 課     | エネルギーに対する各自の意見    |
| 6  | 第 3 課     | 移民流入をめぐる議論        |
| 7  | 第 3 課     | 移民流入に対する各自の意見     |
| 8  | 第 4 課     | セイフティネットをめぐる議論    |
| 9  | 第 4 課     | セイフティネットに対する各自の意見 |
| 10 | 第 5 課     | 地球温暖化をめぐる議論       |
| 11 | 第 5 課     | 地球温暖化に対する各自の意見    |
| 12 | 第 6 課     | 男女雇用均等についての議論     |
| 13 | 第 6 課     | 男女雇用均等に対する各自の意見   |
| 14 | 学期末試験、まとめ | 学期末試験、まとめ         |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組むてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Michael Hood, Think Smart (金星堂)

その他、適宜プリントを使用します。

## 【参考書】

その都度授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様です。

## 【到達目標】

春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の内容に加えて、章ごとのテーマに対して、各自英語で意見を表現してもらうため、パラグラフ・ライティング作業を組み合わせます。春学期同様、学期の欠席が4回以上の場合には、原則として単位の修得を認めません。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ       | 内容                  |
|----|-----------|---------------------|
| 1  | イントロダクション | ライティングの解説           |
| 2  | 第7課       | 教育についての議論           |
| 3  | 第7課       | 教育の役割に対する各自の意見      |
| 4  | 第8課       | 食品添加物についての議論        |
| 5  | 第8課       | 食品添加物の表示に対する各自の意見   |
| 6  | 第9課       | デジタル社会の行方についての議論    |
| 7  | 第9課       | デジタル社会のマナーに対する各自の意見 |
| 8  | 第10課      | 能力給についての議論          |
| 9  | 第10課      | 能力給に対する各自の意見        |
| 10 | 第11課      | アメリカ軍基地についての議論      |
| 11 | 第11課      | アメリカ軍基地に対する各自の意見    |
| 12 | 第12課      | 税制度についての議論          |
| 13 | 第12課      | 税金に対する各自の意見         |
| 14 | 学期末試験、まとめ | 学期末試験、まとめ           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。各章ごとのリスニングの課題を行ってください。春学期同様、復習・予習時間に1時間以上必要です。

## 【テキスト（教科書）】

春学期と同様です。

## 【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

春学期同様、欠席4回以上で、原則単位修得が認められません。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

## 【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ       | 内容                                                                                             |
|---|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス     | 授業の目的、方針、進め方について説明する。                                                                          |
| 2 | Chapter 1 | Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（精読）                                                       |
| 3 | Chapter 1 | Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（再読、リスニング、質疑応答）                                            |
| 4 | Chapter 2 | Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（精読）            |
| 5 | Chapter 2 | Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（再読、リスニング、質疑応答） |
| 6 | Chapter 3 | Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の4分の1がネット依存（精読）                    |
| 7 | Chapter 3 | Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の4分の1がネット依存（再読、リスニング、質疑応答）         |
| 8 | Chapter 4 | Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（精読）                                                  |

|    |           |                                                                                          |
|----|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | Chapter 4 | Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（再読、リスニング、質疑応答）                                 |
| 10 | Chapter 5 | Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公（精読）                         |
| 11 | Chapter 5 | Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公（再読、リスニング、質疑応答）              |
| 12 | Chapter 6 | Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のためのすり（精読）            |
| 13 | Chapter 6 | Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のためのすり（再読、リスニング、質疑応答） |
| 14 | Chapter 7 | Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car 26 歳がスポーツカーをデザイン（精読）                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語については授業後に復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

## 【参考書】

授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

## 【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ        | 内容                                                                                              |
|---|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス      | 授業の目的、方針、進め方について説明する。                                                                           |
| 2 | Chapter 8  | Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（精読）            |
| 3 | Chapter 8  | Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（再読、リスニング、質疑応答） |
| 4 | Chapter 9  | Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（精読）                                            |
| 5 | Chapter 9  | Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（再読、リスニング、質疑応答）                                 |
| 6 | Chapter 10 | Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（精読）                              |
| 7 | Chapter 10 | Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）                   |

|    |            |                                                                                   |
|----|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 8  | Chapter 11 | Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（精読）            |
| 9  | Chapter 11 | Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答） |
| 10 | Chapter 12 | Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（精読）                           |
| 11 | Chapter 12 | Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）                |
| 12 | Chapter 13 | Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（精読）                |
| 13 | Chapter 13 | Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（再読、リスニング、質疑応答）     |
| 14 | Chapter 14 | Chapter 14 UN Women opens Japan office 国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）               |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについては予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

## 【参考書】

授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40% で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。5月29日までは共通教材を使用した自習となり、テキストを使用した本授業の開始日は6月1日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて5回ずつ練習して下さい。出欠確認時に見せてもらいます（対面授業時のみ）
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ                                | 内容                    |
|----|------------------------------------|-----------------------|
| 1  | 共通課題                               | 共通課題による学習             |
| 2  | 共通課題                               | 共通課題による学習             |
| 3  | 共通課題                               | 共通課題による学習             |
| 4  | 共通課題                               | 共通課題による学習             |
| 5  | Chapter 1<br>The United Kingdom?   | 英国人の国籍は？<br>(前半)      |
| 6  | Chapter 1                          | (後半)                  |
| 7  | Chapter 2<br>Multicultural Britain | 多民族社会の現状<br>(前半)      |
| 8  | Chapter 2                          | (後半)                  |
| 9  | Chapter 3<br>The UK and the EU     | EU 離脱と UK の未来<br>(前半) |
| 10 | Chapter 3                          | (後半)                  |
| 11 | Chapter 4<br>Tea                   | なんといっても「ティー」<br>(前半)  |

|    |           |                 |
|----|-----------|-----------------|
| 12 | Chapter 4 | (後半)            |
| 13 | Chapter 5 | 貴族社会の実情<br>(前半) |
| 14 | 学期末試験     | 試験・まとめと解説       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに5回ずつ練習する。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。  
<http://www.otowatsurumi.com/3838>

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）音羽書房鶴見書店、2019年、1800円

## 【参考書】

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更される場合がある。随時シラバスと学習支援システムで提示する。
- ・平常点（授業参加度、授業態度、課題等）30% + 学期末試験 70% = 100%
- ・各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4回以上に匹敵する課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3回遅刻で1回の欠席と同等にする。
- ・欠席・遅刻は平常点の減点対象となる。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、学習支援システムを用いるため、スマートフォンやパソコンが必要となります。

## 【その他の重要事項】

コロナ対策のため、シラバスには随時変更があります。

## 【Outline and objectives】

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することができる。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。出欠確認時に見せてもらいます。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ                                                         | 内容                     |
|----|-------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1  | Chapter 7<br>Univresity students<br>and higher<br>education | 大学と高等教育<br>(前半)        |
| 2  | Chapter 7                                                   | (後半)                   |
| 3  | Chapter 8<br>Women in society                               | 活躍する英国女性<br>(前半)       |
| 4  | Chapter 8                                                   | (後半)                   |
| 5  | Chapter 9<br>Science, inventions<br>and business            | 科学技術、発明、ビジネス<br>(前半)   |
| 6  | Chapter 9                                                   | (後半)                   |
| 7  | Chapter 10<br>Politics and<br>government                    | 英国政治のいま<br>(前半)        |
| 8  | Chapter 10                                                  | (後半)                   |
| 9  | Chapter 11<br>Food                                          | 英国の食文化<br>(前半)         |
| 10 | Chapter 11                                                  | (後半)                   |
| 11 | Chapter 12<br>Music and fashion                             | 音楽とファッションの密な関係<br>(前半) |
| 12 | Chapter 12                                                  | (後半)                   |

|    |                                   |                   |
|----|-----------------------------------|-------------------|
| 13 | Chapter 13<br>Fantasy and castles | ファンタジーの系譜<br>(前半) |
| 14 | 学期末試験                             | 試験・まとめと解説         |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の<いま>を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2019 年、1800 円

## 【参考書】

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 学期末試験 70 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30 分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3 回の遅刻で 1 回の欠席と同等にする。
- ・欠席・遅刻は平常点の減点対象となる。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listning skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

## 【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

超高齢社会、ロボットの進化と仕事の変化、大学と人種差別などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日は 6 月 1 日（月）です。1 限 8：50 までに説明文を Hoppii に掲載します。

TOEIC® の対策問題集を使い、リスニングの演習を行う。

CNN のテキストは、短いニュースのリスニングとスクリプトの読解、そして理解度を確かめる問題演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                           | 内容                                                               |
|---|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス                                         | 授業内容の概要を説明<br>課題①：自己紹介等                                          |
| 2 | TOEIC® テキスト<br>Unit 1 +<br>CNN テキスト Unit<br>1 | 資格試験問題演習 +<br>課題②："Super-Aged" Societies<br>のリスニング、リーディング        |
| 3 | TOEIC® テキスト<br>Unit 2 +<br>CNN テキスト Unit<br>2 | 資格試験問題演習 +<br>課題③：Toward Living on the<br>Moon のリスニング、リーディング     |
| 4 | TOEIC® テキスト<br>Unit 3 +<br>CNN テキスト Unit<br>3 | 課題④：資格試験問題演習 +<br>課題⑤：Dangerous Proposal<br>のリスニング、リーディング        |
| 5 | TOEIC® テキスト<br>Unit 4 +<br>CNN テキスト Unit<br>4 | 資格試験問題演習 +<br>課題⑥：Automation<br>Threatens Jobs のリスニング、<br>リーディング |

|    |                                               |                                                                               |
|----|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 6  | TOEIC® テキスト<br>Unit 5 +<br>CNN テキスト Unit<br>5 | 課題⑦：資格試験問題演習 +<br>課題⑧：Harvard Accused of<br>Racial Bias のリスニング、リーディング         |
| 7  | TOEIC® テキスト<br>Unit 6 +<br>CNN テキスト Unit<br>6 | 課題⑨：資格試験問題演習 +<br>課題⑩：Thought-Controlled<br>Artificial Arms のリスニング、<br>リーディング |
| 8  | なし                                            | なし                                                                            |
| 9  | なし                                            | なし                                                                            |
| 10 | なし                                            | なし                                                                            |
| 11 | なし                                            | なし                                                                            |
| 12 | なし                                            | なし                                                                            |
| 13 | なし                                            | なし                                                                            |
| 14 | なし                                            | なし                                                                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回授業時間までにテキストの予習をしてください。また、授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

6 月までに示された共通課題 4 回分と授業計画に示した 10 回分を足した 14 回分の課題と、授業への取り組み具合などその他要素も加味し、総合的に評価する。課題を 4 回以上提出しなかった者は、単位取得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

## 【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

地球温暖化、環境汚染、最新技術による義肢の作成などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

TOEIC® の対策問題集を使い、リスニングとライティングの演習を行う。

CNN のテキストは、各 Unit のニュースのスク립トを中心に扱う。ニュースを聞き穴埋めをしたうえで、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的にはスク립トを逐語訳してもらった形式で進めていく。また、テキスト以外の題材も教員が適宜用意し扱う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                              | 内容                                                                             |
|---|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス                                            | 授業内容の概要を説明                                                                     |
| 2 | TOEIC® テキスト<br>Unit 7 前半+<br>CNN テキスト Unit<br>9  | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Heat Threat in the Middle East のリスニング、リーディング        |
| 3 | TOEIC® テキスト<br>Unit 7 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>10 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Growing Impact of Plastic on Seabirds のリスニング、リーディング |
| 4 | TOEIC® テキスト<br>Unit 8 前半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                             |
| 5 | TOEIC® テキスト<br>Unit 8 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>11 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>China's Life-Shortening Air のリスニング、リーディング           |

|    |                                                   |                                                                             |
|----|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 6  | TOEIC® テキスト<br>Unit 9 前半+<br>CNN テキスト Unit<br>12  | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Prosthetic Limbs from 3-D Printers のリスニング、リーディング |
| 7  | TOEIC® テキスト<br>Unit 9 後半+<br>テキスト以外の題材            | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 8  | TOEIC® テキスト<br>Unit 10 前半+<br>CNN テキスト Unit<br>13 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>NZ Makes Cyberbullying Illegal のリスニング、リーディング     |
| 9  | TOEIC® テキスト<br>Unit 10 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>14 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Musical Taste and Personality のリスニング、リーディング      |
| 10 | TOEIC® テキスト<br>Unit 11 前半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 11 | TOEIC® テキスト<br>Unit 11 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>15 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Morning-Person Genes のリスニング、リーディング               |
| 12 | TOEIC® テキスト<br>Unit 12 前半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 13 | TOEIC® テキスト<br>Unit 12 後半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 14 | 試験                                                | 授業で扱った内容を範囲とした授業内試験・まとめと解説                                                  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業についていくのが不安な場合はテキストの予習をしてください。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。この復習は必須とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (70%) と平常点 (30%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達することに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習してもらえよう指示も出したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事英語の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ        | 内容                             |
|----|------------|--------------------------------|
| 1  | Chapter 1  | はやぶさ 2、小惑星への着地に成功              |
| 2  | Chapter 2  | 米中が貿易消耗戦に突入、米国消費者がもっとも被害を受けそう  |
| 3  | Chapter 3  | 本庶さんがノーベル賞受賞、癌治療の広がりを希望        |
| 4  | Chapter 4  | トランプと金の首脳会談、非核化で決裂             |
| 5  | Chapter 5  | 全米オープン覇者大坂なおみ選手が帰国             |
| 6  | Chapter 6  | 外国人労働者受け入れ目標 345,150 人         |
| 7  | Chapter 7  | 『万引き家族』がカンヌ映画祭でパルムドール獲得        |
| 8  | Chapter 8  | イギリス議会がメイ首相の Brexit 協定案を圧倒的に否決 |
| 9  | Chapter 9  | 安室奈美恵さんが比類のない 30 年のキャリアに終止符    |
| 10 | Chapter 10 | 日中新時代へ向けて競争から協調へ向かうことで安倍と習が合意  |
| 11 | Chapter 11 | ゴーン日産前会長が特別背任罪で逮捕              |
| 12 | Chapter 12 | 「みんなぶじだ」：タイサッカー・チームの大胆な救出作戦終了  |
| 13 | Chapter 13 | 安倍は領土問題の早い結果を望むが、プーチンの意図は不明    |
| 14 | 期末試験       | 復習と試験                          |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

必ず事前に Reading のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Yoshisada Kinoshita, Masako Eguchi, Adam Hailes, News Gallery 2020（開文社、2020）、1900 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English news and learn how to collect intelligence and to express their opinions through English.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術や言語など、現代社会の多様な位相を概観できる英語の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ        | 内容                                                                              |
|----|------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | Chapter 1  | What's the difference between modern and contemporary art?                      |
| 2  | Chapter 2  | Jeff Koons and his balloon dogs                                                 |
| 3  | Chapter 3  | The contemporaries: Mary SIbande                                                |
| 4  | Chapter 4  | What language are spoken in the Philippines?                                    |
| 5  | Chapter 5  | 'Latinx' explained: a history of the controversial word and how to pronounce it |
| 6  | Chapter 6  | English is the language of science. That isn't always a good thing              |
| 7  | Chapter 7  | School feeding schemes can fill children's tummies and farmer's pockets         |
| 8  | Chapter 8  | If you're poor in America, you can be both overweight and hungry                |
| 9  | Chapter 9  | This supermarket sells only wasted food                                         |
| 10 | Chapter 10 | The missing women in workforce data                                             |
| 11 | Chapter 11 | Saudi women join the workforce as country reforms                               |
| 12 | Chapter 12 | Migrant workers in Thailand live harsh, but improving, reality                  |

13 chapter 13

A modern history of the Ogasawara Islands: migration, diversity, and war

14 期末試験

復習と試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。必ず事前に Reading のテキストを読み、訳してこよう。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に読みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Aya Miyamoto/ The World's Big Deals: Art, Language, Food Education, Work Style, and Heritage (松柏社、2020 年)、1900 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

期末試験 60 %

学期中に四回以上授業を欠席した場合は、原則として単位の修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about arts, languages, and other subjects related to modern society.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 9 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようになることを期待します。

## 【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に頻出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は6月5日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                    | 内容           |
|-------|------------------------|--------------|
| 第 1 回 | 授業の説明                  | 授業の目標と進め方の説明 |
| 第 2 回 | Chapter 1: 国内政治        | 問題演習及び読解     |
| 第 3 回 | Chapter 2: 経済・ビジネス (1) | 問題演習及び読解     |
| 第 4 回 | Chapter 3: 経済・ビジネス (2) | 問題演習及び読解     |
| 第 5 回 | Chapter 4: 外交・国際会議     | 問題演習及び読解     |
| 第 6 回 | Chapter 5: 軍事          | 問題演習及び読解     |
| 第 7 回 | Chapter 6: 海外政治情勢      | 問題演習及び読解     |
| 第 8 回 | Chapter 7: 文化・社会       | 問題演習及び読解     |
| 第 9 回 | Chapter 8: 犯罪・事件       | 問題演習及び読解     |

第 10 回 Chapter 9: 裁判・法令 問題演習及び読解

第 11 回 Chapter 10: 地球環境 問題演習及び読解

第 12 回 Chapter 11: 気象・災害 問題演習及び読解

第 13 回 Chapter 12: 人口・労働問題 問題演習及び読解

第 14 回 試験・まとめと解説 授業の内容の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2020 Edition (『時事英語の総合演習 — 2020 年度版』)

堀江洋文他著 朝日出版社 2020 年 1600 円

## 【参考書】

参考書は特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (60%)、英作文 (20%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。

なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、上記の成績評価の方法と基準を変更する必要がある可能性があります。変更した場合、成績評価の方法と基準は学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果に基づき、もう少し予習・復習に時間を掛けるよう、受講者に促したいと思います。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文1年：英語9組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に英語の効果的なリーディングについて学びます。授業では、教科書のトピックに関してみなさんの考えを英語で話したり、書いたりして、クラスの人と意見交換をすることで、多様な視点を学ぶことを目標とします。この授業では、英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を統合的に学習します。

## 【到達目標】

This course aims at two goals: 1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; and 2) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn reading skills, such as skimming, scanning, summarizing or paraphrasing.
- 2) You will develop your English vocabulary.
- 3) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 4) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                                                                                                                          | 内容                                                                                                                                                                                                           |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Review of what you learned and Reflection on your study in the spring semester<br>Introduction of this course<br>Writing: Goal Setting and Self-Introduction | You will review and reflect on your study in the spring semester. I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this course. You will also write about your self-introduction. |
| 2 | Self-Introduction<br>Chapter 2                                                                                                                               | You will introduce yourself to your classmates.<br>You will learn about political correctness in Chapter 2.                                                                                                  |
| 3 | Chapter 2                                                                                                                                                    | You will continue to study Chapter 2.                                                                                                                                                                        |
| 4 | Chapter 3                                                                                                                                                    | You will learn the effect of your attitudes on your career.                                                                                                                                                  |
| 5 | Chapter 3                                                                                                                                                    | You will continue to study Chapter 3.                                                                                                                                                                        |
| 6 | Chapter 4                                                                                                                                                    | You will learn diversity in human senses and think of the way to deal with diversity.                                                                                                                        |
| 7 | Chapter 4                                                                                                                                                    | You will continue to study Chapter 4.                                                                                                                                                                        |
| 8 | Chapter 5                                                                                                                                                    | You will learn about creative thinking.                                                                                                                                                                      |

|    |                      |                                                                                                                                                     |
|----|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | Chapter 5            | You will continue to study Chapter 5.                                                                                                               |
| 10 | Chapter 7            | You will learn about typical American students' diet and think of wellness.                                                                         |
| 11 | Chapter 7            | You will continue to study Chapter 7.                                                                                                               |
| 12 | Chapter 11           | You will learn how you should be skillful readers.                                                                                                  |
| 13 | Chapter 11<br>Review | You will continue to study Chapter 11.<br>You will review what you have learned in this class and discuss impressive chapters with your classmates. |
| 14 | Self-Reflection      | You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.                                                        |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
  - 2) to prepare for weekly quizzes
  - 3) to watch or listen to an English program regularly
  - 4) to practice overshadowing text every week
  - 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline
- University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Title: Select Readings (2nd Edition). Upper-Intermediate  
Authors: Linder Lee, and Jean Bernard  
Publisher: Oxford University Press  
Publishing Year: 2011

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

## 【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), weekly quizzes (10%), assignments (10%), and final examinations (60%)

\*If you have four absences per semester without permission, do not make a presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

## 【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

## 【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

## 【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

## 【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. This course aims to enhance your English holistically.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

## 【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

## 1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」

①指定のニュースを使い、2人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には5枚から7枚のパワポを準備して頂きます。

②発表の内容について、英語で質疑応答をします。

③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。

④ニュースの解説

⑤単語の学習

## 2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

⑦ Writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                | 内容                                |
|---|--------------------|-----------------------------------|
| 1 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Manga Message for the Young(語彙)   |
| 2 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Manga Message for the Young (DVD) |
| 3 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Manga Message for the Young (訳読)  |
| 4 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Manga Message for the Young (英作文) |

|    |                    |                                 |
|----|--------------------|---------------------------------|
| 5  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Jumping for the Victory (語彙)    |
| 6  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Jumping for the Victory (DVD)   |
| 7  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Jumping for the Victory (訳読)    |
| 8  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Jumping for the Victory (英作文)   |
| 9  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Seeking Quality over Cost (語彙)  |
| 10 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Seeking Quality over Cost (DVD) |
| 11 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Seeking Quality over Cost (訳読)  |
| 12 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Seeking Quality over Cost (英作文) |
| 13 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Getting Dads Home Earlier (語彙)  |
| 14 | 期末テスト              | 期末テスト                           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習（1時間から2時間）テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。

2. 復習（1時間から2時間）テキストは音読3回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

## 【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40%、プレゼンテーション 30%、平常点 30%  
原則として、欠席が4回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生はプレゼンテーションとそのあとの質疑応答に関心が高いため、十分に時間をかけて指導していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

英和、和英辞書を持参すること

## 【その他の重要事項】

上記のシラバスは、授業進行上、かなりの変更を加えます（5月いっぱいまでは共通課題）

初回の授業は5月11日（月）です。

## 【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from international points of views. In the beginning of every class, two students are required to make presentations for ten minutes based on the text that was read in the previous week. After that, the students will read and write about several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

## 【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

## 1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」

- ①指定のニュースを使い、2人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には5枚から7枚のパワポを準備して頂きます。
- ②発表の内容について、英語で質疑応答をします。
- ③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。
- ④ニュースの解説
- ⑤単語の学習

## 2 テキストの学習

- ① Words & Phrases
- ② Before you Watch
- ③ Watch the News
- ④ Understand the News
- ⑤ News の読解
- ⑥ Review the Key Expressions
- ⑦ Writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                | 内容                                 |
|---|--------------------|------------------------------------|
| 1 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Getting Dads Home Earlier<br>(DVD) |
| 2 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Getting Dads Home Earlier (訳<br>読) |
| 3 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Getting Dads Home Earlier<br>(英作文) |
| 4 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Plugging Privacy (語彙)              |

|    |                    |                                     |
|----|--------------------|-------------------------------------|
| 5  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Plugging Privacy (DVD)              |
| 6  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Plugging Privacy (訳読)               |
| 7  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Plugging Privacy (英作文)              |
| 8  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Recycling Messages of Hope<br>(語彙)  |
| 9  | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Recycling Messages of Hope<br>(DVD) |
| 10 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Recycling Messages of Hope<br>(訳読)  |
| 11 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Recycling Messages of Hope<br>(英作文) |
| 12 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Breaking Out (語彙)                   |
| 13 | 最新のニュース<br>テキストの学習 | Breaking Out (DVD)                  |
| 14 | テキストの学習            | Breaking Out(訳読 英作文)                |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習（1時間から2時間）テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。
2. 復習（1時間から2時間）テキストは音読3回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki.(2017) What's on Japan, Kinseido

## 【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40 %、プレゼンテーション 30 %、平常点 20 %、単語テスト 10 %  
原則として、欠席が4回以上の場合、単位の認定はいたしません。  
遅刻は15分まで

## 【学生の意見等からの気づき】

学生はプレゼンテーションとそのあとの質疑応答に関心が高いので丁寧な指導していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

英和英辞書

## 【その他の重要事項】

上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。  
オフィスアワーは授業の前後教室または教授室

## 【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from international points of views. In the beginning of every class, two students are required to make presentations for ten minutes based on the text that was read in the previous week. After that, the students will read and write about several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

## 【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・プロコビッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話を基にした作品）。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 6 月 1 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。大学からのお知らせや授業支援からの連絡がメールで届くことを確認しておいてください

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                               | 内容                                                                                 |
|-------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回 | イントロダクション                         | プレテスト・Unit 1・映画視聴                                                                  |
| 第 2 回 | Unit 2: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 3 回 | Unit 2: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 4 回 | Unit 3: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and listening quizzes                                             |
| 第 5 回 | Unit 3: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and listening                                                     |
| 第 6 回 | Unit 4: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 7 回 | Unit 4: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 8 回 | Unit 5: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and Listening quizzes                                             |

|        |                                   |                                                                                    |
|--------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 9 回  | Unit 5: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and Listening comprehension                                       |
| 第 10 回 | Unit 6: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 11 回 | Unit 6: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 12 回 | Unit 7: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and listening quizzes                                             |
| 第 13 回 | Unit 7: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and listening comprehension & 発表                                  |
| 第 14 回 | 期末試験（筆記）                          | まとめ & ポストテスト                                                                       |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

*English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich* 『映画「エリン・プロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂, 2015）

## 【参考書】

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業となったことに伴ない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行った結果、読み方や発音などが向上した受講生が多く見られるようになった。授業に取り入れた多読と洋楽クイズは比較的楽しく取り組めたようである。パソコンの指示がわかりにくかったとの指摘があったので改善に努めたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

## 【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

**【到達目標】**

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・プロコピッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話を基にした作品）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

| 回      | テーマ                                | 内容                                                                                 |
|--------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回  | イントロダクション                          | 授業方針の説明・プレテスト                                                                      |
| 第 2 回  | Unit 8: Reading                    | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 3 回  | Unit 8: Reading comprehension      | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 4 回  | Unit 9: Audio Visual Learning (1)  | Watching a scene and Listening quizzes                                             |
| 第 5 回  | Unit 9: Audio Visual Learning (2)  | Watching a scene and Listening comprehension                                       |
| 第 6 回  | Unit 10: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 7 回  | Unit 10: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 8 回  | Unit 11: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and Listening quizzes                                             |
| 第 9 回  | Unit 11: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and Listening comprehension                                       |
| 第 10 回 | Unit 12: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 11 回 | Unit 12: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |

|        |                                    |                                                |
|--------|------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第 12 回 | Unit 13: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and Listening quizzes         |
| 第 13 回 | Unit 13: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene, Listening comprehension & 発表 |
| 第 14 回 | 期末試験（筆記）                           | まとめとポストテスト                                     |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・テキストの予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。(90 分程度)  
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

*English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich* 『映画「エリン・プロコピッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂, 2015)

**【参考書】**

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition*(Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行った結果、読むスピードや発音などに変化を感じたというコメントが寄せられている。スピードと読解力の向上については小テストなどの結果にも表れた。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

**【その他の重要事項】**

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

**【Outline and objectives】**

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

## 【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                                                                              | 内容                     |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 回目  | イントロダクション                                                                        | 授業の内容・進め方の説明           |
| 2 回目  | Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入 | 健康についての文章の大枠を把握する      |
| 3 回目  | Chapter 2 詳細                                                                     | 健康についての文章の細部を理解する      |
| 4 回目  | Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入                    | 環境についての文章の大枠を把握する      |
| 5 回目  | Chapter 6 詳細                                                                     | 環境についての文章の細部を理解する      |
| 6 回目  | Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入         | ビジネスについての文章の大枠を把握する    |
| 7 回目  | Chapter 9 詳細                                                                     | ビジネスについての文章の細部を理解する    |
| 8 回目  | 新聞・雑誌記事等 選択                                                                      | 各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する    |
| 9 回目  | Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入                                   | ライフスタイルについての文章の大枠を把握する |
| 10 回目 | Chapter 11 詳細                                                                    | ライフスタイルについての文章の細部を理解する |

- 11 回目 新聞・雑誌記事等 導入 投票で決めた記事の大枠を把握する
- 12 回目 新聞・雑誌記事等 詳細 投票で決めた記事の細部を理解する & TED のスクリプト & スクリプトの大枠を把握する
- 13 回目 TED のスクリプト 導入 スクリプトの細部を理解する
- 14 回目 期末テスト・まとめと 春学期のまとめ 解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

## 【テキスト（教科書）】

*Megatrends Shaping Our Future* 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

## 【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 45%、記事紹介課題関連 15%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

## 【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回    | テーマ                                                                   | 内容                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1 回目 | イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備                                            | 授業の内容・進め方の説明             |
| 2 回目 | Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入 | 健康についての文章の大枠を把握する        |
| 3 回目 | Chapter 4 詳細                                                          | 健康についての文章の細部を理解する        |
| 4 回目 | Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入         | 環境についての文章の大枠を把握する        |
| 5 回目 | Chapter 7 詳細                                                          | 環境についての文章の細部を理解する        |
| 6 回目 | ブック・プレゼンテーション（1～11）                                                   | 夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス |
| 7 回目 | ブック・プレゼンテーション（12～24）                                                  | 夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス |
| 8 回目 | ブックパッセージについてのフォローアップ                                                  | 単語・イディオム・構文のチェック         |

|       |                                                                                               |                        |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 9 回目  | Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入 | ビジネスについての文章の大枠を把握する    |
| 10 回目 | Chapter 10 詳細                                                                                 | ビジネスについての文章の細部を理解する    |
| 11 回目 | Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入                                | ライフスタイルについての文章の大枠を把握する |
| 12 回目 | Chapter 12 詳細                                                                                 | ライフスタイルについての文章の細部を理解する |
| 13 回目 | TED のスクリプト                                                                                    | スクリプトを理解する             |
| 14 回目 | 期末テスト・まとめ                                                                                     | 秋学期のまとめ解説              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブック・プレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

## 【テキスト（教科書）】

*Megatrends Shaping Our Future* 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

## 【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、プレゼンテーション課題関連 20%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平易な英文を速く正確に読解できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。

異文化コミュニケーションを学ぶ。

## 【到達目標】

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

予習時に生じた疑問を解決し、授業内に確認していくことにより本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中核となる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ       | 内容                             |
|----|-----------|--------------------------------|
| 1  | イントロダクション | 授業について。フレーズ・リーディング、辞書の活用法について。 |
| 2  | Unit 1    | Unit1 の問題演習 1                  |
|    | Chapter 1 |                                |
| 3  | Chapter 1 | Unit1 の問題演習 2 小テスト             |
| 4  | Chapter 1 | Exercises                      |
| 5  | Chapter 2 | Unit2 の問題演習 1                  |
| 6  | Chapter 2 | Unit2 の問題演習 2 小テスト             |
| 7  | Chapter 2 | Exercises                      |
| 8  | Chapter 3 | Unit3 の問題演習 1                  |
| 9  | Chapter 3 | Unit3 の問題演習 2 小テスト             |
| 10 | Chapter 3 | Exercises                      |
| 11 | Chapter 4 | Unit4 の問題演習 1                  |
| 12 | Chapter 4 | Unit4 の問題演習 2 小テスト             |
| 13 | Chapter 4 | Exercises                      |
| 14 | review    | 1 から 14 回までの復習を行う              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。

- (1) 本文を読み、不明点を洗い出す
- (2) 練習問題を解くことが必要。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

1. The Powerful Reader 2nd Edition (Macmillian Language House)
  2. 英語辞書（英和、英英など）。
- 準備学習で使用だけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

## 【参考書】

指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 70 %

その他、授業への参加等での平常点 30%

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない・今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様に副教材として洋画等の DVD を英語字幕、英語音声で視聴することにより

身近な英語との接点を模索する予定であるが、本年度はより多岐にわたったジャンルやメディア等を使用する予定である。

## 【Outline and objectives】

This course introduces reading skill and useful vocabulary and phrases which help inter-cultural communication.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平易な英文を速く正確に把握（読解・聴解）できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。

## 【到達目標】

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

予習時に生じた疑問を解決し、本文の理解を確実にすることが、授業で行うこととの中心となる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ        | 内容        |
|----|------------|-----------|
| 1  | Unit II    | Reading   |
|    | Chapter 6  |           |
| 2  | Chapter 6  | Exercises |
| 3  | Chapter 7  | Reading   |
| 4  | Chapter 7  | Exercises |
| 5  | Chapter 8  | Reading   |
| 6  | Chapter 8  | Exercises |
| 7  | Chapter 9  | Reading   |
| 8  | Chapter 9  | Exercises |
| 9  | Chapter 10 | Reading   |
| 10 | Chapter 10 | Exercises |
| 11 | Chapter 11 | Reading   |
| 12 | Chapter 11 | Exercises |
| 13 | Chapter 12 | Reading   |
| 14 | Chapter 12 | Exercises |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。

- (1) 本文を読み、不明点を洗い出す
  - (2) 練習問題を解くことが必要
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

1. The Powerful Reader 2nd Edition. Macmillan Language House
  2. 英語辞書（英和、英英など）。
- 準備学習で使用だけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

## 【参考書】

指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

授業への参加等 30%

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様に視聴覚教材を用いた英語とのふれあいの機会を持ちたいと思っているがジャンル、メディアに関しては広くアンケートを取ったうえで検討する予定

## 【Outline and objectives】

This course introduces reading skill and useful vocabulary which help inter-cultural communication.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）および文法の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度の BBC News（英国放送協会のニュース）が15本精選され、それぞれに Understanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じて文法とライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。

**【到達目標】**

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は「6月5日」を予定とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

| 回   | テーマ                                                    | 内容                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Unit 1 "A Coffee Shop in a Phone Box"[電話ボックスの意外な活用法] ① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第2回 | Unit 1 "A Coffee Shop in a Phone Box"②                 | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第3回 | Unit 2 "Shopping without Plastic"[プラスチック・フリーで環境保護] ①   | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第4回 | Unit 2 "Shopping without Plastic"②                     | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |

|      |                                                                          |                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第5回  | Unit 3 "Edinburgh to Tax Tourists"[エディンバラで「観光税」導入?] ①                    | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第6回  | Unit 3 "Edinburgh to Tax Tourists"②                                      | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第7回  | 中間的な総括・試験                                                                | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。                  |
| 第8回  | Unit 4 "A Four-Day Week"[テクノロジーの進歩で週4日勤務が可能に?] ①                         | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第9回  | Unit 4 "A Four-Day Week"②                                                | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第10回 | Unit 5 "The Fashion Industry and the Environment"[ファッション業界の環境貢献度に疑問の声] ① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第11回 | Unit 5 "The Fashion Industry and the Environment"②                       | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第12回 | Unit 6 "Community Cycling"[自転車でマイノリティが輝く社会に!] ①                          | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第13回 | Unit 6 "Community Cycling"②                                              | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第14回 | 全体的な総括・試験                                                                | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説            |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Timothy Knowles 編著『映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース2』（金星堂、2020年）2600円（税別）

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

出欠のガイドラインについては、今学期出す14回分の課題（共通教材期間の課題4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合、原則として単位修得の資格を失います。

**【学生の意見等からの気づき】**

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）および文法の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度のBBC News（英国放送協会のニュース）が15本精選され、それぞれにUnderstanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中にDVDを視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じて文法とライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。

## 【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回   | テーマ                                                       | 内容                                                              |
|-----|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Unit 7 "A Smartphone Amnesty"[スマホ依存からティーンエイジャーを救え] ①      | DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。     |
| 第2回 | Unit 7 "A Smartphone Amnesty"②                            | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第3回 | Unit 8 "Financial Literacy at School" [[金融リテラシーが必修科目に?] ① | DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。     |
| 第4回 | Unit 8 "Financial Literacy at School" ②                   | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第5回 | Unit 9 "A Da Vinci Dispute"[ダ・ヴィンチの絵が国際問題に] ①             | DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。     |

|        |                                                                      |                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第 6 回  | Unit 9 "A Da Vinci Dispute"②                                         | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。  |
| 第 7 回  | 中間的な総括・試験                                                            | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。                  |
| 第 8 回  | Unit 10 "The Success of Hip and Knee Replacements" [人工関節でアクティブな老後を]① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。 |
| 第 9 回  | Unit 10 "The Success of Hip and Knee Replacements"②                  | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。  |
| 第 10 回 | Unit 11 "Britons Apply for German Citizenship" [EU 離脱とドイツ市民権への道]①    | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。 |
| 第 11 回 | Unit 11 "Britons Apply for German Citizenship"②                      | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。  |
| 第 12 回 | Unit 12 "Climate Change Protests" [学生ストライキで温暖化をストップ]①                | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。 |
| 第 13 回 | Unit 12 "Climate Change Protests"②                                   | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。  |
| 第 14 回 | 全体的な総括・試験                                                            | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説            |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 編著『映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 2』（金星堂、2020 年）2600 円（税別）

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点満点）と期末試験（45 点満点）を実施し、両試験の平均点を割り出し、その平均点に平常点（10 点満点）を加算した上で、100 点満点のうちほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また欠席を 4 回以上した場合、単位修得を認めません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業にするように心がけます。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>

世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

#### 【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

※学習支援システムでこの授業が開始されるのは、6 月 1 日（月）です。

※シラバスの変更点については、その際に具体的にお知らせします。予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの趣旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業を通じて身につけた力を、中間・期末試験と、学期末のショート・プレゼンテーションで発揮する流れになります。（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

| 回        | テーマ                          | 内容                          |
|----------|------------------------------|-----------------------------|
| 1 (4/13) | イントロダクション。Unit 1             | 授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読      |
| 2 (4/20) | Cross-cultural understanding | リスニング・パート。リーディング・パート導入      |
| 3 (4/27) | Cross-cultural understanding | 精読・要約・ライティング                |
| 4 (5/4)  | Unit 2 Foods                 | リスニング・速読                    |
| 5 (5/11) | Foods                        | リスニング・パート。リーディング・パート導入      |
| 6 (5/18) | Foods                        | 精読・要約・ライティング                |
| 7 (5/25) | Foods                        | リスニング・パート。リーディング・パート詳細理解と考察 |

|           |                                  |                           |
|-----------|----------------------------------|---------------------------|
| 5 (5/11)  | Unit 3 Foreign language learning | リスニング・速読                  |
| 6 (5/18)  | Foreign language learning        | 精読・要約・ライティング              |
| 7 (5/25)  | Unit 4 Sports                    | 中間試験。リスニング・速読             |
| 8 (6/1)   | Sports                           | 精読・要約・ライティング              |
| 9 (6/8)   | Unit 5 Fashion                   | リスニング・速読                  |
| 10 (6/15) | Fashion                          | 精読・要約・ライティング              |
| 11 (6/22) | Unit 6 Living things             | リスニング・速読                  |
| 12 (6/29) | Living things                    | 精読・要約・ライティング              |
| 13 (7/6)  | 期末試験。翌週の準備                       | 期末試験。プレゼンテーション・リハーサル      |
| 14 (7/13) | プレゼンテーション。まとめ                    | 発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート） |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推し、それから辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声聴き、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを繰り返すほど、英語力の伸びが期待されます。

#### 【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

#### 【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 ([www6.nhk.or.jp](http://www6.nhk.or.jp)), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2019 [春夏]』（朝日出版社）、『「英語モード」でライティング』（講談社）、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力』（三修社）、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』（DHC）、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-6』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー（BT3 階）など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

#### 【成績評価の方法と基準】

※オンラインでの開講になったことに伴う変更点について、授業開始日に学習支援システムで提示します。

平常点（予習・授業への取り組み）40%、試験 40%（中間・期末各 20%）、プレゼンテーション 20%の割合で、上記到達目標（1）～（5）に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失います。次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服／STEP ④試験・プレゼンテーションで成果を発揮

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度該当科目なし

#### 【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

#### 【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす＞  
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

## 【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの趣旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業を通じて身につけた力を、中間・期末試験と、学期末のショート・プレゼンテーションで発揮する流れになります。（下記授業計画は、状況に応じて変更場合があります。）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回         | テーマ                     | 内容           |
|-----------|-------------------------|--------------|
| 1 (9/21)  | Unit 7 Art              | リスニング・速読     |
| 2 (9/28)  | Art                     | 精読・要約・ライティング |
| 3 (10/5)  | Unit 8 Global issues    | リスニング・速読     |
| 4 (10/12) | Global issues           | 精読・要約・ライティング |
| 5 (10/19) | Unit 9 Japanese culture | リスニング・速読     |

|            |                                 |                           |
|------------|---------------------------------|---------------------------|
| 6 (10/26)  | Japanese culture                | 精読・要約・ライティング              |
| 7 (11/2)   | Unit 10 Human rights            | 中間試験。リスニング・速読             |
| 8 (11/9)   | Human rights                    | 精読・要約・ライティング              |
| 9 (11/16)  | Unit 11 Health & medical issues | リスニング・速読                  |
| 10 (11/30) | Health & medical issues         | 精読・要約・ライティング              |
| 11 (12/7)  | Unit 12 Environmental issues    | リスニング・速読                  |
| 12 (12/14) | Environmental issues            | 精読・要約・ライティング              |
| 13 (12/21) | 期末試験。翌週の準備                      | 期末試験。プレゼンテーション・リハーサル      |
| 14 (1/18)  | プレゼンテーション。まとめ                   | 発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート） |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推し、それから辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを繰り返すほど、英語力の伸びが期待されます。

## 【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

## 【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 ([www6.nhk.or.jp](http://www6.nhk.or.jp)), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2019 [春夏]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-6』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(予習・授業への取り組み) 40%、試験 40%(中間・期末各 20%)、プレゼンテーション 20%の割合で、上記到達目標(1)~(5)に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失います。次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服／STEP ④試験・プレゼンテーションで成果を発揮

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度該当科目なし

## 【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりとおさえながら、実際の英語ニュース記事を読み取り、また読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

## 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                | 内容                    |
|---|----------------------------------------------------|-----------------------|
| 1 | イントロダクション                                          | 授業紹介                  |
| 2 | unit 1-I: Can Babies Choose Between Good and Bad?  | reading and listening |
| 3 | unit 1-II: Can Babies Choose Between Good and Bad? | reading and writing   |
| 4 | unit 2-I: Half-Empty or Half-Full?                 | reading and listening |
| 5 | unit 2-IO: Half-Empty or Half-Full?                | reading and writing   |
| 6 | unit 3-I: How to Pass a Test                       | reading and listening |
| 7 | unit 3-II: How to Pass a Test                      | reading and writing   |
| 8 | Review Exam                                        | units 1-3             |
| 9 | unit 4-I: Soccer Brain Study                       | reading and listening |

|    |                                                |                       |
|----|------------------------------------------------|-----------------------|
| 10 | unit 4-II: Soccer<br>Brain Study               | reading and writing   |
| 11 | unit 5-I: Google<br>Glass for<br>Firefighters  | reading and listening |
| 12 | unit 5-II: Google<br>Glass for<br>Firefighters | reading and writing   |
| 13 | unit 6: Women on<br>Submarine                  | reading and listening |
| 14 | Review Exam                                    | Units 4-6             |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。

英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

## 【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）：40 パーセント

中間・期末テスト：30 パーセントずつ

## 【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

## 【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

## 【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報がすぐ手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりとおさえながら、実際の英語ニュース記事を聴き取り、読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

## 【到達目標】

・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。

・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。

・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。

・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ                                               | 内容                    |
|----|---------------------------------------------------|-----------------------|
| 1  | Unit 7-I: iPhone<br>Musician                      | reading and listening |
| 2  | Unit 7-II: iPhone<br>Musician                     | reading and writing   |
| 3  | Unit 8-I: Bringing<br>People Back to<br>Baseball  | reading and listening |
| 4  | Unit 8-II: Bringing<br>People Back to<br>Baseball | reading and writing   |
| 5  | Unit 9-I: Smell of<br>Success                     | reading and listening |
| 6  | Unit 9-II: Smell of<br>Success                    | reading and writing   |
| 7  | Review Exam                                       | Units 7-9             |
| 8  | Unit 10-I: Octocopter                             | reading and listening |
| 9  | Unit 10-II:<br>Octocopter                         | reading and writing   |
| 10 | Unit 11-I: Staying<br>Safe Online                 | reading and listening |

|    |                                           |                       |
|----|-------------------------------------------|-----------------------|
| 11 | Unit 11-II: Staying Safe Online           | reading and writing   |
| 12 | Unit 12-I: Air Pollution in Asian Cities  | reading and listening |
| 13 | Unit 12-II: Air Pollution in Asian Cities | reading and writing   |
| 14 | Review Exam                               | Units 10-12           |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくるのが必須の予習です。教科書に訳を書き込むのは不可。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。

英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

#### 【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

#### 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）：40 パーセント

中間・期末テスト：30 パーセントずつ

#### 【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

#### 【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

#### 【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

#### 【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。

受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                                        | 内容                    |
|---|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1 | イントロダクション                                                                  | 授業内容・進め方、テキストの紹介など    |
| 2 | 英語ニュースのきまり                                                                 | 英字新聞の読み方、テレビニュースの見方   |
| 3 | Sanrio takes big risk with new strategy                                    | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 4 | New nine-year school category eyed                                         | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 5 | Species going extinct up to 10,000 times faster than normal                | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 6 | Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 7 | Mountain Day created as newest official public holiday                     | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 8 | Simplest animals may help cure brain disease                               | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |
| 9 | One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study       | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解 |

|    |                                                                  |                                |
|----|------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 10 | Superbug threat requires urgent world action: Scientist          | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 11 | Japan neglecting wetlands: Ministry                              | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 12 | In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 13 | Anchors Strike Back 1                                            | レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。 |
| 14 | Anchors Strike Back 2                                            | レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。 |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 2" 金星堂

#### 【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物：50%、授業への取組み：20%、期末レポート：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価します。

欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がLL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

#### 【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

#### 【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心(ニュースバリュー)を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、レポートなどを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

| 回  | テーマ                                                                | 内容                      |
|----|--------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | イントロダクション、秋学期の進め方等                                                 | 休暇中ニュースのフォローアップ         |
| 2  | 新聞、ニュース英語の共通点、相違点                                                  | 英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解 |
| 3  | WHO urged not to restrict e-cigarettes                             | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 4  | Baby boomers becoming gray gang                                    | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 5  | Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides                   | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 6  | As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns           | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 7  | Feral cats causing extinction of unique Australian mammals         | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 8  | Easier-to-use retro cellphones making a comeback                   | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 9  | Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |
| 10 | Tea, wine stepped in shared history                                | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解   |

|    |                                                    |                                |
|----|----------------------------------------------------|--------------------------------|
| 11 | Evidence found of planet that hit Earth, made moon | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 12 | Stunning pterosaur eggs found                      | ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解          |
| 13 | Anchors Strike Back 1                              | レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。 |
| 14 | Anchors Strike Back 2                              | レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。 |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 2" 金星堂

#### 【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物：50%、授業への取組み：20%、期末レポート：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価する。

欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がLL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

#### 【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 18 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学習した知識を基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とします。

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を身につけます。特に、パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりに留意しつつ、構造・論旨を把握し、必要な知識・情報をつかみとること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点をおきます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的視点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行ないます。授業の一環として「聴く力」の育成も行います。また精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

#### 【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる
- ②これまでに培った文法・構文を復習し強化する
- ③目的に応じた速度で英文を読み、必要な情報をつかみとる
- ④書き手の感情や意図、論旨を正確に把握し、批判的に読んだ上で、自分の考えを英語で書くことができる
- ⑤英語辞書の効果的な使い方を習得する

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の構造や内容、注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらった場合が多いのでしっかり予習しましょう。その後、文章の内容について批判的に考え、英語で表現する練習を行います。

基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回の授業が終了した次の回で復習のための小テストを行います。また、学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。

\*進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                 | 内容                  |
|---|-----------------------------------------------------|---------------------|
| 1 | イントロダクション                                           | 授業方針・内容の説明          |
| 2 | ・英語での E-Mail の書き方を学ぶ<br>・英語学習のためのウェブサイトやアプリケーションの紹介 | PC を利用した演習          |
| 3 | Security Cameras ①                                  | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 |
| 4 | Security Cameras ②                                  | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 |

|    |                                                         |                                     |
|----|---------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 5  | Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ①<br>CHAPTER 4 | CHAPTER 2 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 |
| 6  | Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ②<br>CHAPTER 4 | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認                 |
| 7  | 中間試験                                                    | 試験の実施、解説・復習                         |
| 8  | Extreme Sports ①<br>CHAPTER 6                           | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認                 |
| 9  | Extreme Sports ②<br>CHAPTER 6                           | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認                 |
| 10 | Casinos and Gambling ①<br>CHAPTER 7                     | CHAPTER 6 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 |
| 11 | Casinos and Gambling ②<br>CHAPTER 7                     | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認                 |
| 12 | Spouse Hunting ①<br>CHAPTER 8                           | CHAPTER 7 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 |
| 13 | Spouse Hunting ②<br>CHAPTER 8                           | エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認                 |
| 14 | 期末試験                                                    | 試験の実施、解説・復習                         |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。

#### 【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

\*授業には必ず辞書を持参してください。

#### 【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。

\*各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、スピーキングのアクティビティも適宜取り入れます。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, this course will help students foster critical thinking skills, instead of accepting an object unquestioningly. This course will also offer instruction and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

### 担当者未定

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 18 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

#### 【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

|   |     |    |
|---|-----|----|
| 回 | テーマ | 内容 |
|---|-----|----|

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

#### 【参考書】

#### 【成績評価の方法と基準】

#### 【学生の意見等からの気づき】

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

宇野 毅

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・現代英語の総合的学力向上
- ・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

## 【到達目標】

- ・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論的見地からも授業を進める。
- ・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。

【補足】新型コロナウイルスの蔓延に伴う「緊急事態宣言」発出により、2020年度前期の授業は「資料・課題提示型」となります。授業開始日迄には、使用教科書を準備して、入手し次第、Chapter 1の予習に取り掛かって下さい。なお、参考書については、追って指示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                                          | 内容                             |
|-------|----------------------------------------------|--------------------------------|
| 第 1 回 | Chapter 1<br>Trainspotting (前半)              | イギリスの鉄道：<br>本文理解・解説<br>意見交換    |
| 第 2 回 | Chapter 1<br>Trainspotting (後半)              | 鉄道事情の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ  |
| 第 3 回 | Chapter 2<br>Pedal Power (前半)                | イギリスの自転車事情<br>本文理解・解説<br>意見交換  |
| 第 4 回 | Chapter 2<br>Pedal Power (後半)                | 自転車利用の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ |
| 第 5 回 | Chapter 3<br>Crime and<br>Punishment<br>(前半) | イギリスの犯罪事情<br>本文理解・解説<br>意見交換   |
| 第 6 回 | Chapter 3<br>Crime and<br>Punishment<br>(後半) | 犯罪事情の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ  |
| 第 7 回 | Chapter 4<br>Power to the People<br>(前半)     | イギリス人の権利<br>本文理解・解説<br>意見交換    |
| 第 8 回 | Chapter 4<br>Power to the People<br>(後半)     | 権利意識の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ  |

|        |                                                   |                                   |
|--------|---------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 第 9 回  | Chapter 5<br>Please, Belt Up!<br>(前半)             | イギリスの自動車事情<br>本文理解・解説<br>意見交換     |
| 第 10 回 | Chapter 5<br>Please, Belt Up!<br>(後半)             | 自動車事情の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ    |
| 第 11 回 | Chapter 6<br>Rise of the Vending<br>Machines (前半) | イギリスの自動販売機は？<br>本文理解・解説<br>意見交換   |
| 第 12 回 | Chapter 6<br>Rise of the Vending<br>Machines (後半) | 自動販売機の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ    |
| 第 13 回 | Chapter 7<br>Lovely Day, Isn't It?<br>(前半)        | 英国の気候<br>本文理解・解説<br>意見交換          |
| 第 14 回 | Chapter 7<br>Lovely Day, Isn't It?<br>(後半)        | 気候の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ<br>試験 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業出席には、必ず予習が必須である。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2時間を標準とする。
- ・(できれば紙の)辞書持参も必須である。

## 【テキスト（教科書）】

Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』（南雲堂）

## 【参考書】

『(増補版)現代イギリスの社会と文化 ゆとりと思いやりの国』（彩流社）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点40点・期末試験等60点を基準として評価する。
- ・原則として、欠席が4回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・真面目にきちんと努力した人が報われる。

## 【Outline and objectives】

- ・ Perfect understanding of English Language and culture
- ・ Improvement of the English 4 skill

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

宇野 毅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・現代英語の総合的学力向上。
- ・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

## 【到達目標】

- ・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論的見地からも授業を進める。
- ・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回      | テーマ                                          | 内容                             |
|--------|----------------------------------------------|--------------------------------|
| 第 1 回  | Chapter 8<br>The Graduate 前半                 | 英語圏の卒業式<br>本文理解・解説<br>意見交換     |
| 第 2 回  | Chapter 8<br>The Graduate 後半                 | 卒業式の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ   |
| 第 3 回  | Chapter 9<br>A Change for the Worse 前半       | 欧米人の食事傾向<br>本文理解・解説<br>意見交換    |
| 第 4 回  | Chapter 9<br>A Change for the Worse 後半       | 食事の日英比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ    |
| 第 5 回  | Chapter 10<br>Is Bigger Always Better? 前半    | 車の環境問題<br>本文理解・解説<br>意見交換      |
| 第 6 回  | Chapter 10<br>Is Bigger Always Better? 後半    | 日英環境比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ     |
| 第 7 回  | Chapter 11<br>The Land of the Loudspeaker 前半 | イギリスの選挙<br>本文理解・解説<br>意見交換     |
| 第 8 回  | Chapter 11<br>The Land of the Loudspeaker 後半 | 日英政治比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ     |
| 第 9 回  | Chapter 12<br>Taxi! 前半                       | 欧米のタクシー事情<br>本文理解・解説<br>意見交換   |
| 第 10 回 | Chapter 12<br>Taxi! 後半                       | 日英タクシー事情比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ |

|        |                                       |                                    |
|--------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 第 11 回 | Chapter 13<br>Responsible Sleeping 前半 | 仕事と睡眠<br>本文理解・解説<br>意見交換           |
| 第 12 回 | Chapter 13<br>Responsible Sleeping 後半 | 日英ライフワークバランス比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ |
| 第 13 回 | Chapter 14<br>That's Rubbish! 前半      | イギリスの環境問題<br>本文理解・解説<br>意見交換       |
| 第 14 回 | Chapter 14<br>That's Rubbish! 後半      | 日英環境問題比較<br>内容確認・問題練習<br>まとめ<br>試験 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業出席には、必ず予習が必須である。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2 時間を標準とする。
- ・(できれば紙の) 辞書持参も必須である。

## 【テキスト（教科書）】

Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』（南雲堂）

## 【参考書】

『現代イギリスの社会と文化 ゆとりとおもいやりの国』（彩流社）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 40 点・期末試験等 60 点を基準として評価する
- ・原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・真面目にきちんと努力した人が報われる。

## 【Outline and objectives】

- ・ Perfect understanding of English Language and culture
- ・ Improvement of the English 4 skill

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用し、メディアの英語に触れることと、TOEIC® など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

## 【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

超高齢社会、ロボットの進化と仕事の変化、大学と人種差別などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日は 6 月 1 日（月）です。1 限 8：50 までに説明文を Hoppii に掲載します。

TOEIC® の対策問題集を使い、リスニングの演習を行う。

CNN のテキストは、短いニュースのリスニングとスクリプトの読解、そして理解度を確かめる問題演習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                           | 内容                                                               |
|---|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス                                         | 授業内容の概要を説明<br>課題①：自己紹介等                                          |
| 2 | TOEIC® テキスト<br>Unit 1 +<br>CNN テキスト Unit<br>1 | 資格試験問題演習 +<br>課題②："Super-Aged" Societies<br>のリスニング、リーディング        |
| 3 | TOEIC® テキスト<br>Unit 2 +<br>CNN テキスト Unit<br>2 | 資格試験問題演習 +<br>課題③：Toward Living on the<br>Moon のリスニング、リーディング     |
| 4 | TOEIC® テキスト<br>Unit 3 +<br>CNN テキスト Unit<br>3 | 課題④：資格試験問題演習 +<br>課題⑤：Dangerous Proposal<br>のリスニング、リーディング        |
| 5 | TOEIC® テキスト<br>Unit 4 +<br>CNN テキスト Unit<br>4 | 資格試験問題演習 +<br>課題⑥：Automation<br>Threatens Jobs のリスニング、<br>リーディング |

|    |                                               |                                                                               |
|----|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 6  | TOEIC® テキスト<br>Unit 5 +<br>CNN テキスト Unit<br>5 | 課題⑦：資格試験問題演習 +<br>課題⑧：Harvard Accused of<br>Racial Bias のリスニング、リーディング         |
| 7  | TOEIC® テキスト<br>Unit 6 +<br>CNN テキスト Unit<br>6 | 課題⑨：資格試験問題演習 +<br>課題⑩：Thought-Controlled<br>Artificial Arms のリスニング、<br>リーディング |
| 8  | なし                                            | なし                                                                            |
| 9  | なし                                            | なし                                                                            |
| 10 | なし                                            | なし                                                                            |
| 11 | なし                                            | なし                                                                            |
| 12 | なし                                            | なし                                                                            |
| 13 | なし                                            | なし                                                                            |
| 14 | なし                                            | なし                                                                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回授業時間までにテキストの予習をしてください。また、授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

6 月までに示された共通課題 4 回分と授業計画に示した 10 回分を足した 14 回分の課題と、授業への取り組み度合などその他要素も加味し、総合的に評価する。課題を 4 回以上提出しなかった者は、単位取得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

## 【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

地球温暖化、環境汚染、最新技術による義肢の作成などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

TOEIC® の対策問題集を使い、リスニングとライティングの演習を行う。

CNN のテキストは、各 Unit のニュースのスク립トを中心に扱う。ニュースを聞き穴埋めをしたうえで、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的にはスク립トを逐語訳してもらった形式で進めていく。また、テキスト以外の題材も教員が適宜用意し扱う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                                              | 内容                                                                             |
|---|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガイダンス                                            | 授業内容の概要を説明                                                                     |
| 2 | TOEIC® テキスト<br>Unit 7 前半+<br>CNN テキスト Unit<br>9  | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Heat Threat in the Middle East のリスニング、リーディング        |
| 3 | TOEIC® テキスト<br>Unit 7 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>10 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Growing Impact of Plastic on Seabirds のリスニング、リーディング |
| 4 | TOEIC® テキスト<br>Unit 8 前半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                             |
| 5 | TOEIC® テキスト<br>Unit 8 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>11 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>China's Life-Shortening Air のリスニング、リーディング           |

|    |                                                   |                                                                             |
|----|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 6  | TOEIC® テキスト<br>Unit 9 前半+<br>CNN テキスト Unit<br>12  | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Prosthetic Limbs from 3-D Printers のリスニング、リーディング |
| 7  | TOEIC® テキスト<br>Unit 9 後半+<br>テキスト以外の題材            | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 8  | TOEIC® テキスト<br>Unit 10 前半+<br>CNN テキスト Unit<br>13 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>NZ Makes Cyberbullying Illegal のリスニング、リーディング     |
| 9  | TOEIC® テキスト<br>Unit 10 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>14 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Musical Taste and Personality のリスニング、リーディング      |
| 10 | TOEIC® テキスト<br>Unit 11 前半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 11 | TOEIC® テキスト<br>Unit 11 後半+<br>CNN テキスト Unit<br>15 | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>Morning-Person Genes のリスニング、リーディング               |
| 12 | TOEIC® テキスト<br>Unit 12 前半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 13 | TOEIC® テキスト<br>Unit 12 後半+<br>テキスト以外の題材           | 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング+<br>メディアの題材を使ったリスニング、リーディング                          |
| 14 | 試験                                                | 授業で扱った内容を範囲とした授業内試験・まとめと解説                                                  |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業についていくのが不安な場合はテキストの予習をしてください。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。この復習は必須とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (70%) と平常点 (30%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達することに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習してもらえよう指示も出したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）および文法の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度の BBC News（英国放送協会のニュース）が15本精選され、それぞれに Understanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じて文法とライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。

**【到達目標】**

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は「6月5日」を予定とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

| 回   | テーマ                                                    | 内容                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Unit 1 "A Coffee Shop in a Phone Box"[電話ボックスの意外な活用法] ① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第2回 | Unit 1 "A Coffee Shop in a Phone Box"②                 | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第3回 | Unit 2 "Shopping without Plastic"[プラスチック・フリーで環境保護] ①   | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第4回 | Unit 2 "Shopping without Plastic"②                     | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |

|      |                                                                          |                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 第5回  | Unit 3 "Edinburgh to Tax Tourists"[エディンバラで「観光税」導入?] ①                    | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第6回  | Unit 3 "Edinburgh to Tax Tourists"②                                      | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第7回  | 中間的な総括・試験                                                                | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。                  |
| 第8回  | Unit 4 "A Four-Day Week"[テクノロジーの進歩で週4日勤務が可能に?] ①                         | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第9回  | Unit 4 "A Four-Day Week"②                                                | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第10回 | Unit 5 "The Fashion Industry and the Environment"[ファッション業界の環境貢献度に疑問の声] ① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第11回 | Unit 5 "The Fashion Industry and the Environment"②                       | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第12回 | Unit 6 "Community Cycling"[自転車でマイノリティが輝く社会に!] ①                          | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。    |
| 第13回 | Unit 6 "Community Cycling"②                                              | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。 |
| 第14回 | 全体的な総括・試験                                                                | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説            |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Timothy Knowles 編著『映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース2』（金星堂、2020年）2600円（税別）

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

出欠のガイドラインについては、今学期出す14回分の課題（共通教材期間の課題4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合、原則として単位修得の資格を失います。

**【学生の意見等からの気づき】**

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）および文法の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度の BBC News（英国放送協会のニュース）が15本精選され、それぞれに Understanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じて文法とライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。

## 【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回   | テーマ                                                        | 内容                                                              |
|-----|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第1回 | Unit 7 "A Smartphone Amnesty"[スマホ依存からティーンエイジャーを救え] ①       | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。  |
| 第2回 | Unit 7 "A Smartphone Amnesty"②                             | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第3回 | Unit 8 "Financial Literacy at School" [[金融リテラシーが必修科目に? ] ① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。  |
| 第4回 | Unit 8 "Financial Literacy at School" ②                    | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第5回 | Unit 9 "A Da Vinci Dispute"[ダ・ヴィンチの絵が国際問題に] ①              | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。  |

|        |                                                                       |                                                                 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第 6 回  | Unit 9 "A Da Vinci Dispute"②                                          | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第 7 回  | 中間的な総括・試験                                                             | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。                 |
| 第 8 回  | Unit 10 "The Success of Hip and Knee Replacements" [人工関節でアクティブな老後を] ① | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。  |
| 第 9 回  | Unit 10 "The Success of Hip and Knee Replacements" ②                  | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第 10 回 | Unit 11 "Britons Apply for German Citizenship" [EU 離脱とドイツ市民権への道] ①    | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。  |
| 第 11 回 | Unit 11 "Britons Apply for German Citizenship" ②                      | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第 12 回 | Unit 12 "Climate Change Protests" [学生ストライキで温暖化をストップ] ①                | DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。  |
| 第 13 回 | Unit 12 "Climate Change Protests" ②                                   | 内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。 |
| 第 14 回 | 全体的な総括・試験                                                             | 主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説           |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 編著『映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 2』（金星堂、2020 年）2600 円（税別）

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点満点）と期末試験（45 点満点）を実施し、両試験の平均点を割り出し、その平均点に平常点（10 点満点）を加算した上で、100 点満点のうちほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また欠席を 4 回以上した場合、単位修得を認めません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業にするように心がけます。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 22 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、有名なシェイクスピアの 4 台悲劇の 1 つである『ハムレット』を平易な現代英語に書き直したあらすじのストーリーを通読します。シェイクスピアのストーリーにはたくさんの登場人物が登場し、さらにはその個人々々が複雑に絡まりあいながら話が進んでいき、大団円を迎えます。そのようなストーリーを理解するには、正確なパラグラフ・リーディングの力が必要です。ただ漫然と英文を読むのではなく、人間関係や人物の行動を理解し、話の展開の筋道を立てながら読んでいかなければなりません。本授業では、パラグラフ・リーディングの力の指導を行いながら、必要に応じて文法や構文理解の確認を行い、英語読解能力を養います。

#### 【到達目標】

- ①学生は、英語で書かれたストーリーを読み、人間関係や話の流れが理解できる。
- ②学生は、英語の 5 文型を理解し、正確なセンテンスを読めるようになる。
- ③学生は、5 文型を使って簡単かつ正確な英文が書ける。
- ④学生は、不朽の名作であるシェイクスピアの『ハムレット』の世界を楽しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行い、毎回テキストの Chapter を 1 つずつ進める予定です。クラスの状況を見て、グループワークの形式を取ることもあります。授業開始日は 4 月 27 日（月）です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

| 回        | テーマ                                                            | 内容                |
|----------|----------------------------------------------------------------|-------------------|
| 4 月 13 日 | ガイダンス                                                          | 授業の方針説明           |
| 4 月 20 日 | Chapter 1<br>"Murder Most Foul"                                | リーディング、<br>ライティング |
| 4 月 27 日 | Chapter 2<br>"Conscience Does<br>Make Cowards of Us<br>All"    | リーディング、<br>ライティング |
| 5 月 9 日  | Chapter 3<br>"The Mousetrap"                                   | リーディング、<br>ライティング |
| 5 月 11 日 | Chapter 4<br>"Words without<br>Thoughts Never to<br>Heaven Go" | リーディング、<br>ライティング |
| 5 月 18 日 | Chapter 5<br>"To Whet Thy<br>Almost Blunted<br>Sword"          | リーディング、<br>ライティング |
| 5 月 25 日 | Chapter 6<br>"One Woe Doth<br>Tread upon<br>Another's Heel"    | リーディング、<br>ライティング |

|       |                                                 |                              |
|-------|-------------------------------------------------|------------------------------|
| 6月1日  | Chapter 7<br>"Revenge Should<br>Have No Bounds" | リーディング、<br>ライティング            |
| 6月8日  | Chapter 8<br>"Then Venom, to<br>Thy Work"       | リーディング、<br>ライティング            |
| 6月15日 | 復習                                              | テキスト範囲の復習と試験対策               |
| 6月22日 | 映画視聴①                                           | 『ハムレット』の映画を鑑賞し、<br>英語で感想を書く。 |
| 6月29日 | 映画視聴②                                           | 『ハムレット』の映画を鑑賞し、<br>英語で感想を書く。 |
| 7月6日  | 学期末試験                                           | 筆記試験による学習理解の確認               |
| 7月13日 | まとめ                                             | 試験の講評、授業の総括、復習、<br>今後の学習の案内  |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

予習として、授業前までにリーディングの文章に目を通しておく。

#### 【テキスト（教科書）】

【教科書名】 Simply Shakespeare-Two Tragic Stories: HAMLET and ROMEO AND JULIET

【著者】 Jim Knudsen、田口孝夫

【出版社】 南雲堂

【出版年】 2011年

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60%、平常点 40%

欠席が4回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前回授業は講義中心であったために単調になってしまうこともあった。今年度はグループワークを取り入れ、学生が積極的に協力し合っ  
て自らの力で課題の解決にあたる機会を増やしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

必ず電子辞書または本の辞書を持参すること。携帯電話は原則として授業中は使用しない。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we will read the plot of Shakespeare's "Hamlet" written in modern simple English. Many characters appear in Shakespeare's stories, and the stories come to the last with those characters being complicatedly entangled with each other. Interpreting this kind of story requires good skills in reading, especially skills in paragraph reading. Understanding characters' relationships, meanings of characters' acts and the evolution of the story is the most important. Aimless reading makes no profit in reading this kind of story. In this class, students will develop their skills in reading English stories, through training of paragraph reading, and if necessary, reviewing grammar and sentence structure.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語22組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、有名なシェイクスピアの恋愛悲劇である『ロミオとジュリエット』をわかりやすい現代英語に書き直したあらすじのストーリーを通読します。シェイクスピアのストーリーにはたくさんの登場人物が登場し、さらにはその個々人が複雑に絡まりあいながら話が進んでいき、大団円を迎えます。そのようなストーリーを理解するには、正確なパラグラフ・リーディングの力が必要です。本授業では、パラグラフリーディングの力の指導を行いながら、必要に応じて文法や構文理解の確認を行い、英語読解能力を養います。

#### 【到達目標】

①学生は、英語で書かれたストーリーを読み、人間関係や話の流れが理解できる。

②学生は、英語の5文型を理解し、正確センテンスを読めるようになる。

③学生は、5文型を使って簡単かつ正確な英文が書ける。

④学生は、不朽の名作であるシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』の世界を楽しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行い、毎回テキストのChapterを1つずつ進める予定です。

クラスの状況を見て、グループワークの形式を取ることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

| 回      | テーマ                                                 | 内容            |
|--------|-----------------------------------------------------|---------------|
| 9月28日  | Chapter 1<br>"Lover's<br>Transgression"             | リーディング、ライティング |
| 10月5日  | Chapter 2<br>"My Life Is My Foe's<br>Debt"          | リーディング、ライティング |
| 10月12日 | Chapter 3<br>"Parting Is Such<br>Sweet Sorrow"      | リーディング、ライティング |
| 10月19日 | Chapter 4<br>"The Measure of<br>Thy Joy"            | リーディング、ライティング |
| 10月26日 | Chapter 5<br>"O, I Am Fortune's<br>Fool"            | リーディング、ライティング |
| 11月2日  | Chapter 6<br>"Take Heed, for<br>Such Die Miserable" | リーディング、ライティング |
| 11月9日  | Chapter 7<br>"Cold and Drowsy<br>Humour"            | リーディング、ライティング |
| 11月16日 | Chapter 8<br>"Never Was a Story<br>of More Woe"     | リーディング、ライティング |

|                    |                               |
|--------------------|-------------------------------|
| 11 月 復習①<br>30 日   | テキストの復習、試験対策                  |
| 12 月 7 復習②<br>日    | テキストの復習、試験対策                  |
| 12 月 映画視聴①<br>14 日 | 『ロミオとジュリエット』の映画を視聴し、英語で感想を書く。 |
| 12 月 映画視聴②<br>21 日 | 『ロミオとジュリエット』の映画を視聴し、英語で感想を書く。 |
| 1 月 18 学期末試験<br>日  | 筆記試験による学習理解の確認。               |
| 1 月 19 まとめ<br>日    | 試験の講評、授業の総括、復習、言語の学習の案内       |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

予習として、授業前までにリーディングの文章に目を通しておく。

#### 【テキスト（教科書）】

【教科書名】 Simply Shakespeare-Two Tragic Stories: HAMLET and ROMEO AND JULIET

【著者】 Jim Knudsen、田口孝夫

【出版社】 南雲堂

【出版年】 2011 年

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60 %、平常点 40 %

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前回授業は講義中心であったために単調になってしまうこともあった。今年度はグループワークを取り入れ、学生が積極的に協力し合っ  
て自らの力で課題の解決にあたる機会を増やしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

必ず電子辞書または本の辞書を持参すること。携帯電話は原則として授業中は使用しない。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we will read the plot of Shakespeare's "Romeo and Juliet" written in modern simple English. Many characters appear in Shakespeare's stories, and the stories come to the last with those characters being complicatedly entangled with each other. Interpreting this kind of story requires good skills in reading, especially skills in paragraph reading. Understanding characters' relationships, meanings of characters' acts and the evolution of the story is the most important. Aimless reading makes no profit in reading this kind of story. In this class, students will develop their skills in reading English stories, through training of paragraph reading, and if necessary, reviewing grammar and sentence structure.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 23 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事英語の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

#### 【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションを行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

| 回  | テーマ        | 内容                             |
|----|------------|--------------------------------|
| 1  | Chapter 1  | はやぶさ 2、小惑星への着地に成功              |
| 2  | Chapter 2  | 米中が貿易消耗戦に突入、米国消費者がもつとも被害を受けそう  |
| 3  | Chapter 3  | 本庶さんがノーベル賞受賞、癌治療の広がりを希望        |
| 4  | Chapter 4  | トランプと金の首脳会談、非核化で決裂             |
| 5  | Chapter 5  | 全米オープン覇者大坂なおみ選手が帰国             |
| 6  | Chapter 6  | 外国人労働者受け入れ目標 345,150 人         |
| 7  | Chapter 7  | 『万引き家族』がカンヌ映画祭でパルムドール獲得        |
| 8  | Chapter 8  | イギリス議会がメイ首相の Brexit 協定案を圧倒的に否決 |
| 9  | Chapter 9  | 安室奈美恵さんが比類のない 30 年のキャリアに終止符    |
| 10 | Chapter 10 | 日中新時代へ向けて競争から協調へ向かうことで安倍と習が合意  |
| 11 | Chapter 11 | ゴーン日産前会長が特別背任罪で逮捕              |
| 12 | Chapter 12 | 「みんなぶじだ」：タイサッカー・チームの大胆な救出作戦終了  |
| 13 | Chapter 13 | 安倍は領土問題の早い結果を望むが、プーチンの意図は不明    |
| 14 | 期末試験       | 復習と試験                          |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Reading のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

Yoshisada Kinoshita, Masako Eguchi, Adam Hailes/ News Gallery 2020（開文社、2020）、1900 円

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【Outline and objectives】**

This class aims to develop the abilities to read and listen to English news and learn how to collect intelligence and to express their opinions through English.

LANe100LA

**English 1 II**

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 23 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

時事英語の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

**【到達目標】**

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

| 回  | テーマ        | 内容                                                                              |
|----|------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | Chapter 1  | What's the difference between modern and contemporary art?                      |
| 2  | Chapter 2  | Jeff Koons and his balloon dogs                                                 |
| 3  | Chapter 3  | The contemporaries: Mary Sibande                                                |
| 4  | Chapter 4  | What languages are spoken in the Philippines?                                   |
| 5  | chapter 5  | 'Latinx' explained: a history of the controversial word and how to pronounce it |
| 6  | Chapter 6  | English is the language of Science. That isn't always a good thing              |
| 7  | Chapter 7  | School feeding schemes can fill children's tummies and farmers' pockets         |
| 8  | Chapter 8  | If you're poor in America, you can be both overweight and hungry                |
| 9  | Chapter 9  | This supermarket sells only wasted food                                         |
| 10 | Chapter 10 | The missing women in workforce data                                             |
| 11 | Chapter 11 | Saudi women join the workforce as country reforms                               |
| 12 | Chapter 12 | Migrant women in Thailand live harsh, but improving, reality                    |
| 13 | Chapter 13 | A modern history of the Ogasawara Islands: migration, diversity, and war        |

## 14 期末試験 復習と試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Reading のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Aya Miyamoto/ The World's Big Deals: Art, Language, Food Education, Work Style, and Heritage (松柏社、2020 年)、1900 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

期末試験 60 %

学期中に四回以上授業を欠席した場合は、原則として単位の修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about arts, languages, and other subjects related to modern society.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

## 本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようにすることを期待します。

## 【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に類出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 6 月 5 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                    | 内容           |
|-------|------------------------|--------------|
| 第 1 回 | 授業の説明                  | 授業の目標と進め方の説明 |
| 第 2 回 | Chapter 1: 国内政治        | 問題演習及び読解     |
| 第 3 回 | Chapter 2: 経済・ビジネス (1) | 問題演習及び読解     |
| 第 4 回 | Chapter 3: 経済・ビジネス (2) | 問題演習及び読解     |
| 第 5 回 | Chapter 4: 外交・国際会議     | 問題演習及び読解     |
| 第 6 回 | Chapter 5: 軍事          | 問題演習及び読解     |
| 第 7 回 | Chapter 6: 海外政治情勢      | 問題演習及び読解     |
| 第 8 回 | Chapter 7: 文化・社会       | 問題演習及び読解     |
| 第 9 回 | Chapter 8: 犯罪・事件       | 問題演習及び読解     |

- 第10回 Chapter 9: 裁判・法令 問題演習及び読解  
 第11回 Chapter 10: 地球環境 問題演習及び読解  
 第12回 Chapter 11: 気象・災害 問題演習及び読解  
 第13回 Chapter 12: 人口・労働問題 問題演習及び読解  
 第14回 試験・まとめと解説 授業の内容の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2020 Edition (『時事英語の総合演習 — 2020 年度版』)  
 堀江洋文他著 朝日出版社 2020年 1600円

#### 【参考書】

参考書は特にありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末テスト(60%)、英作文(20%)、小テスト(20%)から成績を評価します。主に到達目標の(1)と(2)と(4)を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3)を英作文から判断します。なお、各学期の欠席が4回以上になった場合は、原則として単位取得を認めないので注意してください。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、上記の成績評価の方法と基準を変更する必要性が生じる可能性があります。変更した場合、成績評価の方法と基準は学習支援システムで提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果に基づき、もう少し予習・復習に時間を掛けるよう、受講者に促したいと思います。

#### 【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1単位

文1年：英語24組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に英語の効果的なリーディングについて学びます。授業では、教科書のトピックに関してみなさんの考えを英語で話したり、書いたりして、クラスの人と意見交換をすることで、多様な視点を学ぶことを目標とします。この授業では、英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を統合的に学習します。

#### 【到達目標】

This course aims at two goals: 1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; and 2) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn reading skills, such as skimming, scanning, summarizing or paraphrasing.
- 2) You will develop your English vocabulary.
- 3) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 4) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

| 回 | テーマ                                                                                                                                                          | 内容                                                                                                                                                                                                           |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Review of what you learned and Reflection on your study in the spring semester<br>Introduction of this course<br>Writing: Goal Setting and Self-Introduction | You will review and reflect on your study in the spring semester. I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this course. You will also write about your self-introduction. |
| 2 | Self-Introduction<br>Chapter 2                                                                                                                               | You will introduce yourself to your classmates.<br>You will learn about political correctness in Chapter 2.                                                                                                  |
| 3 | Chapter 2                                                                                                                                                    | You will continue to study Chapter 2.                                                                                                                                                                        |
| 4 | Chapter 3                                                                                                                                                    | You will learn the effect of your attitudes on your career.                                                                                                                                                  |
| 5 | Chapter 3                                                                                                                                                    | You will continue to study Chapter 3.                                                                                                                                                                        |
| 6 | Chapter 4                                                                                                                                                    | You will learn diversity in human senses and think of the way to deal with diversity.                                                                                                                        |
| 7 | Chapter 4                                                                                                                                                    | You will continue to study Chapter 4.                                                                                                                                                                        |
| 8 | Chapter 5                                                                                                                                                    | You will learn about creative thinking.                                                                                                                                                                      |

|    |                   |                                                                                                                                                     |
|----|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | Chapter 5         | You will continue to study Chapter 5.                                                                                                               |
| 10 | Chapter 7         | You will learn about typical American students' diet and think of wellness.                                                                         |
| 11 | Chapter 7         | You will continue to study Chapter 7.                                                                                                               |
| 12 | Chapter 11        | You will learn how you should be skillful readers.                                                                                                  |
| 13 | Chapter 11 Review | You will continue to study Chapter 11.<br>You will review what you have learned in this class and discuss impressive chapters with your classmates. |
| 14 | Self-Reflection   | You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.                                                        |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
- 2) to prepare for weekly quizzes
- 3) to watch or listen to an English program regularly
- 4) to practice overshadowing text every week
- 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline

University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Title: Select Readings (2nd Edition). Upper-Intermediate

Authors: Linder Lee, and Jean Bernard

Publisher: Oxford University Press

Publishing Year: 2011

#### 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

#### 【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), weekly quizzes (10%), assignments (10%), and final examinations (60%)

\*If you have four absences per semester without permission, do not make a presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

#### 【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

#### 【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. This course aims to enhance your English holistically.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また、テレビ、インターネットなどのニュースにも十分に対応することができるように、リスニング能力も向上させます。

#### 【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

CD 付きの教材を使用し、リスニングの課題を出します。授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。また、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。学期の欠席が4回以上の場合には、原則として単位の修得を認めません。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

| 回  | テーマ       | 内容                |
|----|-----------|-------------------|
| 1  | イントロダクション | 授業の進め方の解説         |
| 2  | 第1課       | 海外留学をめぐる議論        |
| 3  | 第1課       | 海外留学に対する各自の意見     |
| 4  | 第2課       | 原子力発電をめぐる議論       |
| 5  | 第2課       | エネルギーに対する各自の意見    |
| 6  | 第3課       | 移民流入をめぐる議論        |
| 7  | 第3課       | 移民流入に対する各自の意見     |
| 8  | 第4課       | セイフティネットをめぐる議論    |
| 9  | 第4課       | セイフティネットに対する各自の意見 |
| 10 | 第5課       | 地球温暖化をめぐる議論       |
| 11 | 第5課       | 地球温暖化に対する各自の意見    |
| 12 | 第6課       | 男女雇用均等についての議論     |
| 13 | 第6課       | 男女雇用均等に対する各自の意見   |
| 14 | 学期末試験、まとめ | 学期末試験、まとめ         |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組むてください。復習・予習に一時間以上必要になります。

#### 【テキスト（教科書）】

Michael Hood, Think Smart（金星堂）

その他、適宜プリントを使用します。

#### 【参考書】

その都度授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

欠席が4回以上の場合には、原則単位の修得は認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介するようにします。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

## 北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様です。

## 【到達目標】

春学期と同様です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の内容に加えて、章ごとのテーマに対して、各自英語で意見を表現してもらうため、パラグラフ・ライティング作業を組み合わせます。春学期同様、欠席4回以上で単位の修得は認められません。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回  | テーマ       | 内容                  |
|----|-----------|---------------------|
| 1  | イントロダクション | ライティングの解説           |
| 2  | 第7課       | 教育についての議論           |
| 3  | 第7課       | 教育の役割に対する各自の意見      |
| 4  | 第8課       | 食品添加物についての議論        |
| 5  | 第8課       | 食品添加物の表示に対する各自の意見   |
| 6  | 第9課       | デジタル社会の行方についての議論    |
| 7  | 第9課       | デジタル社会のマナーに対する各自の意見 |
| 8  | 第10課      | 能力給についての議論          |
| 9  | 第10課      | 能力給に対する各自の意見        |
| 10 | 第11課      | アメリカ軍基地についての議論      |
| 11 | 第11課      | アメリカ軍基地に対する各自の意見    |
| 12 | 第12課      | 税制度についての議論          |
| 13 | 第12課      | 税金に対する各自の意見         |
| 14 | 学期末試験、まとめ | 学期末試験、まとめ           |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。各章ごとのリスニングの課題を行ってください。春学期同様、授業の準備・復習に1時間以上必要です。

## 【テキスト（教科書）】

春学期と同様です。

## 【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %  
試験 90 %

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

## 【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・プロコピッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話を基にした作品）。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 6 月 1 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。大学からのお知らせや授業支援からの連絡がメールで届くことを確認しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                               | 内容                                                                                 |
|-------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回 | イントロダクション                         | プレテスト・Unit 1・映画視聴                                                                  |
| 第 2 回 | Unit 2: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 3 回 | Unit 2: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 4 回 | Unit 3: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and listening quizzes                                             |
| 第 5 回 | Unit 3: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and listening                                                     |
| 第 6 回 | Unit 4: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 7 回 | Unit 4: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 8 回 | Unit 5: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and Listening quizzes                                             |

|        |                                   |                                                                                    |
|--------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 9 回  | Unit 5: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and Listening comprehension                                       |
| 第 10 回 | Unit 6: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 11 回 | Unit 6: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 12 回 | Unit 7: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and listening quizzes                                             |
| 第 13 回 | Unit 7: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and listening comprehension & 発表                                  |
| 第 14 回 | 期末試験（筆記）                          | まとめとポストテスト                                                                         |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

*English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich* 『映画「エリン・プロコピッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂，2015）

## 【参考書】

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン授業となったことに伴ない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ニュース英語に難しさを感じていたようである。しかし、徐々に慣れてきて、読みとり方や発音が向上した受講生も多く見られるようになった。返り読みをしなくなり、読むスピードが上がったという意見が寄せられた。また、授業に取り入れた多読と洋楽クイズは比較的楽しく取り組めたようである。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

## 【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

## 【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・プロコビッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の大規模汚染を暴いた実話に基づく作品）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回      | テーマ                                | 内容                                                                                 |
|--------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 1 回  | イントロダクション                          | 授業方針の説明 & プレテスト                                                                    |
| 第 2 回  | Unit 8: Reading                    | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 3 回  | Unit 8: Reading comprehension      | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 4 回  | Unit 9: Audio Visual Learning (1)  | Watching a scene and Listening quizzes                                             |
| 第 5 回  | Unit 9: Audio Visual Learning (2)  | Watching a scene and Listening comprehension                                       |
| 第 6 回  | Unit 10: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 7 回  | Unit 10: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |
| 第 8 回  | Unit 11: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and Listening quizzes                                             |
| 第 9 回  | Unit 11: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene and Listening comprehension                                       |
| 第 10 回 | Unit 12: Reading                   | Phrase reading & Oral reading practice                                             |
| 第 11 回 | Unit 12: Reading comprehension     | Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production |

|        |                                    |                                                |
|--------|------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第 12 回 | Unit 13: Audio Visual Learning (1) | Watching a scene and Listening quizzes         |
| 第 13 回 | Unit 13: Audio Visual Learning (2) | Watching a scene, Listening comprehension & 発表 |
| 第 14 回 | 期末試験（筆記）                           | まとめ & ポストテスト                                   |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書の予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

*English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich* 『映画「エリン・プロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂，2015）

## 【参考書】

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行った結果、読むスピードや発音などに変化を感じたというコメントが寄せられている。スピードと読解力の向上については小テストなどの結果にも表れた。授業の最初に行った洋楽クイズは比較的楽しんで取り組めたようである。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

## 【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 27 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

## 【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回     | テーマ                                                                              | 内容                     |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 回目  | イントロダクション                                                                        | 授業の内容・進め方の説明           |
| 2 回目  | Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入 | 健康についての文章の大枠を把握する      |
| 3 回目  | Chapter 2 詳細                                                                     | 健康についての文章の細部を理解する      |
| 4 回目  | Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入                    | 環境についての文章の大枠を把握する      |
| 5 回目  | Chapter 6 詳細                                                                     | 環境についての文章の細部を理解する      |
| 6 回目  | Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入         | ビジネスについての文章の大枠を把握する    |
| 7 回目  | Chapter 9 詳細                                                                     | ビジネスについての文章の細部を理解する    |
| 8 回目  | 新聞・雑誌記事等 選 択                                                                     | 各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する    |
| 9 回目  | Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入                                   | ライフスタイルについての文章の大枠を把握する |
| 10 回目 | Chapter 11 詳細                                                                    | ライフスタイルについての文章の細部を理解する |

- 11 回目 新聞・雑誌記事等 導 投票で決めた記事の大枠を把握する
- 12 回目 新聞・雑誌記事等 詳 投票で決めた記事の細部を理解する  
細& TED のスクリプト & スクリプトの大枠を把握する  
ト 導入
- 13 回目 TED のスクリプト スクリプトの細部を理解する  
詳細
- 14 回目 期末テスト・まとめと 春学期のまとめ  
解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

## 【テキスト（教科書）】

*Megatrends Shaping Our Future* 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

## 【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 45%、記事紹介課題関連 15%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English.

## 利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 27 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

## 【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回    | テーマ                                                                   | 内容                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1 回目 | イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備                                            | 授業の内容・進め方の説明             |
| 2 回目 | Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入 | 健康についての文章の大枠を把握する        |
| 3 回目 | Chapter 4 詳細                                                          | 健康についての文章の細部を理解する        |
| 4 回目 | Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入         | 環境についての文章の大枠を把握する        |
| 5 回目 | Chapter 7 詳細                                                          | 環境についての文章の細部を理解する        |
| 6 回目 | ブック・プレゼンテーション（1～11）                                                   | 夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス |
| 7 回目 | ブック・プレゼンテーション（12～24）                                                  | 夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス |
| 8 回目 | ブックパッセージについてのフォローアップ                                                  | 単語・イディオム・構文のチェック         |

|       |                                                                                               |                        |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 9 回目  | Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入 | ビジネスについての文章の大枠を把握する    |
| 10 回目 | Chapter 10 詳細                                                                                 | ビジネスについての文章の細部を理解する    |
| 11 回目 | Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入                                | ライフスタイルについての文章の大枠を把握する |
| 12 回目 | Chapter 12 詳細                                                                                 | ライフスタイルについての文章の細部を理解する |
| 13 回目 | TED のスクリプト                                                                                    | スクリプトを理解する             |
| 14 回目 | 期末テスト・まとめ                                                                                     | 秋学期のまとめ解説              |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブック・プレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

## 【テキスト（教科書）】

*Megatrends Shaping Our Future* 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

## 【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、プレゼンテーション課題関連 20%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす＞  
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

## 【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

※学習支援システムでこの授業が開始されるのは、6月1日（月）です。

※シラバスの変更点については、その際に具体的にお知らせします。予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの趣旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業を通じて身につけた力を、中間・期末試験と、学期末のショート・プレゼンテーションで発揮する流れになります。（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回        | テーマ                                                  | 内容                     |
|----------|------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 (4/13) | イントロダクション。<br>Unit 1<br>Cross-cultural understanding | 授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読 |
| 2 (4/20) | Cross-cultural understanding                         | 精読・要約・ライティング           |
| 3 (4/27) | Unit 2 Foods                                         | リスニング・速読               |
| 4 (5/4)  | Foods                                                | 精読・要約・ライティング           |

|           |                                  |                           |
|-----------|----------------------------------|---------------------------|
| 5 (5/11)  | Unit 3 Foreign language learning | リスニング・速読                  |
| 6 (5/18)  | Foreign language learning        | 精読・要約・ライティング              |
| 7 (5/25)  | 中間試験。Unit 4 Sports               | 中間試験。リスニング・速読             |
| 8 (6/1)   | Sports                           | 精読・要約・ライティング              |
| 9 (6/8)   | Unit 5 Fashion                   | リスニング・速読                  |
| 10 (6/15) | Fashion                          | 精読・要約・ライティング              |
| 11 (6/22) | Unit 6 Living things             | リスニング・速読                  |
| 12 (6/29) | Living things                    | 精読・要約・ライティング              |
| 13 (7/6)  | 期末試験。翌週の準備                       | 期末試験。プレゼンテーション・リハーサル      |
| 14 (7/13) | プレゼンテーション。まとめ                    | 発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート） |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推し、それから辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を聴き、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを繰り返すほど、英語力の伸びが期待されます。

## 【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

## 【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 ([www6.nhk.or.jp](http://www6.nhk.or.jp)), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2019 [春夏]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-6』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)ほか。国際文化学部 HP → 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

## 【成績評価の方法と基準】

※オンラインでの開講になったことに伴う変更点について、授業開始日に学習支援システムで提示します。  
平常点(予習・授業への取り組み)40%、試験40%(中間・期末各20%)、プレゼンテーション20%の割合で、上記到達目標(1)~(5)に照らして評価します。原則として欠席が4回以上になると単位取得の資格を失います。次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服／STEP ④試験・プレゼンテーションで成果を発揮

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度該当科目なし

## 【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>

世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

## 【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します(話され／書かれたもの全体やパラグラフの趣旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など)。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業を通じて身につけた力を、中間・期末試験と、学期末のショート・プレゼンテーションで発揮する流れになります。(下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。)

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

| 回         | テーマ                     | 内容                                 |
|-----------|-------------------------|------------------------------------|
| 1 (9/21)  | Unit 7 Art              | リスニング・速読<br>グ・パート。リーディング・パート導入     |
| 2 (9/28)  | Art                     | リーディング・パート詳細理解と考察<br>精読・要約・ライティング  |
| 3 (10/5)  | Unit 8 Global issues    | リスニング・速読<br>リスニング・パート。リーディング・パート導入 |
| 4 (10/12) | Global issues           | リーディング・パート詳細理解と考察<br>精読・要約・ライティング  |
| 5 (10/19) | Unit 9 Japanese culture | リスニング・速読<br>リスニング・パート。リーディング・パート導入 |

|               |                                                                   |                               |
|---------------|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 6<br>(10/26)  | Japanese culture<br>リーディング・パート<br>詳細理解と考察                         | 精読・要約・ライティング                  |
| 7 (11/2)      | 中間試験。Unit 10<br>Human rights リス<br>ニング・パート。リー<br>ディング・パート導入       | 中間試験。リスニング・速読                 |
| 8 (11/9)      | Human rights<br>リーディング・パート<br>詳細理解と考察                             | 精読・要約・ライティング                  |
| 9<br>(11/16)  | Unit 11 Health &<br>medical issues リス<br>ニング・パート。リー<br>ディング・パート導入 | リスニング・速読                      |
| 10<br>(11/30) | Health & medical<br>issues リーディン<br>グ・パート詳細理解と<br>考察              | 精読・要約・ライティング                  |
| 11<br>(12/7)  | Unit 12<br>Environmental<br>issues リスニング・<br>パート。リーディン<br>グ・パート導入 | リスニング・速読                      |
| 12<br>(12/14) | Environmental<br>issues リーディング・<br>パート詳細理解と考察                     | 精読・要約・ライティング                  |
| 13<br>(12/21) | 期末試験。翌週の準備                                                        | 期末試験。プレゼンテーション・<br>リハーサル      |
| 14<br>(1/18)  | プレゼンテーション。<br>まとめ                                                 | 発表・意見交換・講評。学期を振<br>り返る（アンケート） |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推し、それから辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを繰り返すほど、英語力の伸びが期待されます。

#### 【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、AMBITIONS Intermediate（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

#### 【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 ([www6.nhk.or.jp](http://www6.nhk.or.jp)), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2019 [春夏]』（朝日出版社）、『「英語モード」でライティング』（講談社）、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』、『英語で話す力。』（三修社）、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』（DHC）、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-6』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー（BT3 階）など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・授業への取り組み）40%、試験 40%（中間・期末各 20%）、プレゼンテーション 20%の割合で、上記到達目標 (1)~(5) に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失います。次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服／STEP ④試験・プレゼンテーションで成果を発揮

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度該当科目なし

#### 【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

#### 【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 29 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援日) システムで提示する。対面授業ができればができれば指定教科書を使い、無理な場合は、オンライン教材によって学習する。

とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」  
<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/> アクセスしてみてください。

~~~~~  
*American Vibes* が提供するアメリカの 13 の都市と地域の映像で、現地の様子や人々のリアルな姿を伝える。多様な背景を持つ人々のインタビューでは、アメリカ人のありのままの価値観・問題意識を垣間見て、アメリカの文化と歴史を多層的に捉える。学習内容は、Boston, Massachusetts, Maine, New York City, Washington, D.C. 等である。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

## 【到達目標】

*American Vibes* の DVD とテキストの学習によって、現代アメリカの文化と言語に対してより深く理解し、英語スキルの向上をはかり、国際感覚を磨くことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

非常事態宣言により、最初の 5 回は共通教材を使って授業、以降は未定。平常授業になれば指定教科書を使う。対面授業が無理な場合は、オンライン教材を使用する予定。

~~~~~

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まずそれぞれのチャプターの重要な語句を学び、次に DVD を見て、練習問題、英文リーディングをこなして、最後にネイティブのアメリカ人が話す *American Voices* の映像を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

| 回 | テーマ                   | 内容                                                                                                                                                                             |
|---|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習 | 4 月 27 日スタート<br>とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。 |
| 2 | 平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習 | 5 月 4 日<br>とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。      |

|    |                       |                                                                                                                                                                            |
|----|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3  | 平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習 | 5 月 11 日<br>とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。 |
| 4  | 平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習 | 5 月 18 日<br>とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。 |
| 5  | 平常の対面授業に入るまで、共通教材にて学習 | 5 月 25 日<br>とりあえずの共通教材は以下です。「英語リスニングハンドブック」< <a href="http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/">http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/english/</a> > アクセスしてみてください。 |
| 6  | 以下未定                  | 6 月 1 日<br>対面授業ができれば指定教科書、無理ならば独自のオンライン教材によって学習する。                                                                                                                         |
| 7  | 以後未定                  | 以後未定                                                                                                                                                                       |
| 8  | 以後未定                  | 以後未定                                                                                                                                                                       |
| 9  | Chapter 4             | New York City 2 後半<br>Exercises                                                                                                                                            |
| 10 | Chapter 5             | Washington, D.C. 前半                                                                                                                                                        |
| 11 | Chapter 5             | Washington, D.C. 後半<br>Exercises                                                                                                                                           |
| 12 | Chapter 6             | Charleston, South Carolina<br>前半                                                                                                                                           |
| 13 | 映像批判分析<br>質疑応答        | 映像対象は相談の上決定、<br>今期学習した内容について質疑応答<br>まとめテスト対策<br>内容は秘密事項                                                                                                                    |
| 14 | 授業内まとめのテストとその解説       |                                                                                                                                                                            |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Todd Rucynski 著 *American Vibes: People, Places and Perspectives* / 『映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点』金星堂 2020 年。ISBN 978-4-7647-4094-5, 2,700 円 + 税

## 【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

~~~~~

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50%) の総合判断による。60 点以上が合格点である。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

## 【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn and explore in English a wide range of American cities and culture through DVD-based text book *American Vibes*. This textbook will help you understand both American cities, culture and language: Boston, Massachusetts, Maine, New York City, Washington, D.C. etc.

We would also like to enjoy DVDs for understanding English speaking world languages and cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 29 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*American Vibes* が提供するアメリカの 13 の都市と地域の映像で、現地の様子と人々のリアルな姿を伝える。多様な背景を持つ人々のインタビューでは、アメリカ人のありのままの価値観・問題意識を垣間見て、アメリカの文化と歴史を多層的に捉える。学習内容は、**Boston, Massachusetts, Maine, New York City, Washington, D.C.** 等である。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

## 【到達目標】

*American Vibes* の DVD とテキストの学習によって、現代アメリカの文化と言語に対してより深く理解し、英語スキルの向上をはかり、国際感覚を磨くことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まずそれぞれのチャプターの重要な語句を学び、次に DVD を見て、練習問題、英文リーディングをこなして、最後にネイティブのアメリカ人が話す *American Voices* の映像を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 6	Charleston, South Carolina 前半
2	Unit 6	Charleston, South Carolina 後半 Exercises
3	Unit 7	Savannah, Georgia 前半
4	Unit 7	Savannah, Georgia 後半 Exercises
5	Unit 8	Oswego, New York 前半
6	Unit 8	Oswego, New York 後半 Exercises
7	Unit 9	Austin, Texas 前半
8	Unit 10	Saint Jo, Texas 後半 Exercises
9	Unit 10	Saint Jo, Texas 前半
10	Unit 11	Santa Fe, New Mexico 後半
11	Unit 11	Santa Fe, New Mexico 後半 Exercises
12	Unit 12 + 映像批判分析	Arizona (Grand Canyon, Route 66) 前半 映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については相談の上決定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテスト とその解説	内容は未定ならびに秘密事項

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Todd Rucynski 著『*American Vibes: People, Places and Perspectives inside Science*』『映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点』金星堂 2020年。ISBN978-4-7647-4094-5C1082, 2,700円＋税

**【参考書】**

各人の気に入った辞書およびインターネット情報  
担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

**【成績評価の方法と基準】**

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書（紙、電子、web すべて可）

**【その他の重要事項】**

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to learn and explore in English a wide range of American cities and culture through DVD-based text book *American Vibes*. This textbook will help you understand both American cities, culture and language: Boston, Massachusetts, Maine, New York City, Washington, D.C. etc. We would also like to enjoy DVDs for understanding English speaking world languages and cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

**English 1 I**

2017年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語30組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

平易な英文を速く正確に読解できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。

異文化コミュニケーションを学ぶ。

**【到達目標】**

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

予習時に生じた疑問を解決し、授業内に確認していくことによって本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中核となる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業について。フレーズ・リーディング、辞書の活用法について。
2	Unit I	Unit1の問題演習1
	Chapter 1	
3	Chapter 1	Unit1の問題演習2 小テスト
4	Chapter 1	Exercises
5	Chapter 2	Unit2の問題演習1
6	Chapter 2	Unit2の問題演習2 小テスト
7	Chapter 2	Exercises
8	Chapter 3	Unit3の問題演習1
9	Chapter 3	Unit3の問題演習2 小テスト
10	Chapter 3	Exercises
11	Chapter 4	Unit4の問題演習1
12	Chapter 4	Unit4の問題演習2 小テスト
13	Chapter 4	Exercises
14	review	1から14回までの復習を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習は必須である。

(1) 本文を読み、不明点を洗い出す

(2) 練習問題を解くことが必要。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

1. The Powerful Reader 2nd Edition (Macmillan Language House)

2. 英語辞書（英和、英英など）。

準備学習で使用するだけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

**【参考書】**

指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト 70 %

その他、授業への参加等での平常点 30%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない  
・今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度同様に副教材として洋画等の DVD を英語字幕、英語音声で視聴することにより

身近な英語との接点を模索する予定であるが、本年度はより多岐にわたったジャンルやメディア等を使用する予定である。

**【Outline and objectives】**

This course introduces reading skill and useful vocabulary and phrases which help inter-cultural communication.

LANe100LA

**English 1 II**

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 30 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

平易な英文を速く正確に把握（読解・聴解）できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。

**【到達目標】**

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

予習時に生じた疑問を解決し、本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中点となる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit II Chapter 6	Reading 小テスト
2	Chapter 6	Exercises
3	Chapter 7	Reading 小テスト
4	Chapter 7	Exercises
5	Chapter 8	Reading 小テスト
6	Chapter 8	Exercises
7	Chapter 9	Reading 小テスト
8	Chapter 9	Exercises
9	Chapter 10	Reading 小テスト
10	Chapter 10	Exercises
11	Chapter 11	Reading 小テスト
12	Chapter 11	Exercises
13	Chapter 12	Reading 小テスト
14	Chapter12	Exercises

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習は必須である。

(1) 本文を読み、不明点を洗い出す

(2) 練習問題を解くことが必要。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

1. The Powerful Reader 2nd Edition. Macmillian Language House
2. 英語辞書（英和、英英など）。

準備学習で使用するだけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

## 【参考書】

指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

授業への参加等 30%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様に視聴覚教材を用いた英語とのふれあいの機会を持ちたいと思っているがジャンル、メディアに関しては広くアンケートを取ったうえで検討する予定

## 【Outline and objectives】

This course introduces reading skill and useful vocabulary which help inter-cultural communication.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 31 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

## 【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

## 【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」

①指定のニュースを使い、2人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には5枚から7枚のパワポを準備して頂きます。

②発表の内容について、英語で質疑応答をします。

③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。

④ニュースの解説

⑤単語の学習

2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

⑦ Writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young(語彙)
2	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (DVD)
3	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (訳読)
4	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (英作文)

5	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (語彙)
6	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (DVD)
7	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (訳読)
8	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (英作 文)
9	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (語 彙)
10	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (DVD)
11	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (訳 読)
12	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (英 作文)
13	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (語 彙)
14	期末テスト	期末テスト

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 準備学習 (1 時間から 2 時間) テキストの指定箇所の予習。音読、訳読 (パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。
2. 復習 (1 時間から 2 時間) テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

#### 【テキスト (教科書)】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

#### 【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

#### 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40 %、プレゼンテーション 30 %、平常点 30 %  
原則として、欠席が 4 回以上の場合、単位の認定はいたしません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生はプレゼンテーションとそのあとの質疑応答に関心が高いので、十分に時間をかけて指導していきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

英和、和英辞書を持参すること

#### 【その他の重要事項】

上記のシラバスは、授業進行上、たくさんの変更を加えます。(5 月いっぱいまでは共通課題)

春学期は 5 月 11 日 (月) からスタートします。

#### 【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from international points of views. In the beginning of every class, two students are required to make presentations for ten minutes based on the text that was read in the previous week. After that, the students will read and write about several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 31 組

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

#### 【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

##### 1.NHK「世界へ発信! SNS 英語術」

①指定のニュースを使い、2 人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には 5 枚から 7 枚のパワポを準備して頂きます。

②発表の内容について、英語で質疑応答をします。

③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。

④ニュースの解説

⑤単語の学習

##### 2 テキストの学習

① Words & Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

⑦ Writing

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (訳 読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (英作文)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)

5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (英作文)
8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (英作文)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)
13	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (DVD)
14	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out(訳読 英作文)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 準備学習 (1 時間から 2 時間) テキストの指定箇所の予習。音読、訳読 (パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。
2. 復習 (1 時間から 2 時間) テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

## 【テキスト (教科書)】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

## 【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40 %、プレゼンテーション 30 %、平常点 20 %、単語テスト 10 %  
原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。  
遅刻は 15 分まで

## 【学生の意見等からの気づき】

学生はプレゼンテーションとそのあとの質疑応答に関心が高いため丁寧な指導していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

英和和英辞書

## 【その他の重要事項】

上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。  
オフィスアワーは授業の前後教室または教授室

## 【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from international points of views. In the beginning of every class, two students are required to make presentations for ten minutes based on the text that was read in the previous week. After that, the students will read and write about several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>

世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された/書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

## 【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

※学習支援システムでこの授業が開始されるのは、6 月 2 日 (火) です。

※シラバスの変更点については、その際に具体的にお知らせします。予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します (話され/書かれたもの全体やパラグラフの趣旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など)。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業を通じて身につけた力を、中間・期末試験と、学期末のショート・プレゼンテーションで発揮する流れになります。(下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/7)	イントロダクション。 Unit 1 Cross-cultural understanding	授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読
2 (4/14)	Cross-cultural understanding	精読・要約・ライティング
3 (4/21)	Unit 2 Foods	リスニング・速読
4 (4/28)	Foods	精読・要約・ライティング

5 (5/12)	Unit 3 Foreign language learning	リスニング・速読
6 (5/19)	Foreign language learning	精読・要約・ライティング
7 (5/26)	Unit 4 Sports	中間試験。リスニング・速読
8 (6/2)	Sports	精読・要約・ライティング
9 (6/9)	Unit 5 Fashion	リスニング・速読
10 (6/16)	Fashion	精読・要約・ライティング
11 (6/23)	Unit 6 Living things	リスニング・速読
12 (6/30)	Living things	精読・要約・ライティング
13 (7/7)	期末試験。翌週の準備	期末試験。プレゼンテーション・リハーサル
14 (7/14)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推し、それから辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声聴き、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを繰り返すほど、英語力の伸びが期待されます。

#### 【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

#### 【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 ([www6.nhk.or.jp](http://www6.nhk.or.jp)), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2019 [春夏]』（朝日出版社）、『「英語モード」でライティング』（講談社）、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力。』（三修社）、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』（DHC）、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-6』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー（BT3 階）など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

#### 【成績評価の方法と基準】

※オンラインでの開講になったことに伴う変更点について、授業開始日に学習支援システムで提示します。

平常点（予習・授業への取り組み）40%、試験 40%（中間・期末各 20%）、プレゼンテーション 20%の割合で、上記到達目標（1）～（5）に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失います。次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服／STEP ④試験・プレゼンテーションで成果を発揮

#### 【学生の意見等からの気づき】

前年度該当科目なし

#### 【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

#### 【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす＞  
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

## 【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの趣旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業を通じて身につけた力を、中間・期末試験と、学期末のショート・プレゼンテーションで発揮する流れになります。（下記授業計画は、状況に応じて変更場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/22)	Unit 7 Art	リスニング・速読
2 (9/29)	Art	精読・要約・ライティング
3 (10/6)	Unit 8 Global issues	リスニング・速読
4 (10/13)	Global issues	精読・要約・ライティング
5 (10/20)	Unit 9 Japanese culture	リスニング・速読

6 (10/27)	Japanese culture	精読・要約・ライティング
7 (11/10)	Unit 10 Human rights	中間試験。リスニング・速読
8 (11/17)	Human rights	精読・要約・ライティング
9 (11/24)	Unit 11 Health & medical issues	リスニング・速読
10 (12/1)	Health & medical issues	精読・要約・ライティング
11 (12/8)	Unit 12 Environmental issues	リスニング・速読
12 (12/15)	Environmental issues	精読・要約・ライティング
13 (12/22)	期末試験。翌週の準備	期末試験。プレゼンテーション・リハーサル
14 (1/12)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推し、それから辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を聴き、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを繰り返すほど、英語力の伸びが期待されます。

## 【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

## 【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (http://www.bbc.co.uk/learningenglish/), VOA Learning English (https://learningenglish.voanews.com/), CNN 10 (http://edition.cnn.com/cnn10), TED: Ideas Worth Spreading (https://www.ted.com), NPR (https://www.npr.org/), ABC News video (http://abcnews.go.com/video), 攻略！ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (https://www.cbsnews.com/60minutes/), The New York Times (http://www.nytimes.com/), The Guardian (http://www.theguardian.com/uk). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2019 [春夏]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-6』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(予習・授業への取り組み) 40%、試験 40%(中間・期末各 20%)、プレゼンテーション 20%の割合で、上記到達目標(1)~(5)に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失います。次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服／STEP ④試験・プレゼンテーションで成果を発揮

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度該当科目なし

## 【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

パラグラフの構造に留意して、高度な英文を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

## 【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力を修得することができるようになる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	Unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit 2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

6	Unit 3	Unit 3 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 3	Unit 3 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 4	Unit 4 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 4	Unit 4 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 5	Unit 5 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 5	Unit 5 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 6	Unit 6 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 6	Unit 6 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	前期の復習 試験	Unit 1～Unit 6

**【学生の意見等からの気づき】**

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書

**【Outline and objectives】**

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ①予習をして授業に臨むこと。  
予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。  
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。  
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。  
注意：1回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書：Reading Fusion 3  
著者：Andrew E. Bennett  
出版社：南雲堂  
出版年：2020年  
価格：2420円

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%  
各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。  
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
新宅 美樹	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木 1/Thu.1
単位数：1 単位	
営 1 年：英語 2 組	

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

## 【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	Unit 7 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	Unit 7 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	Unit 8 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	Unit 8 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 9	Unit 9 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

7	Unit 9	Unit 9 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	Unit 10 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	Unit 10 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	Unit 11 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	Unit 11 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	Unit 12 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	Unit 12 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期復習 試験	Unit 7-Unit 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①わからない単語を調べる。
  - ②英文の構造・文法事項を確認する。
  - ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：Reading Fusion 3

著者：Andrew E. Bennett

出版社：南雲堂

出版年：2020 年

価格：2420 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

## 【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

## 【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。

Chapter Hospitals Hospitals を学習する。

12

試験 試験を行う。 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Life and Health (生活と健康) (鳳書房) 1,800 円 + 税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English (桐原書店)

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %, 授業への積極性 10 %, 課題 20 %, セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

## 【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。

## 【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオ学習。	ビデオ学習をする。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Major Countries In The World (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円 + 税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。  
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。  
授業中、スマホはカバンの中に入れておくこと。

## 【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

・この授業（習熟度別クラス）の授業開始日は6月1日です。（4月21日から5月29日までは共通教材による学習期間となります）

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・課題回数は10回です。7週の間で10回の授業（課題提出）を実施するので、後半部分では間隔が込み合いますので、予め承してください。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容の説明、履修方法について説明
第2回	Don't let others influence you (Reading)	「人に流されるな」の読解
第3回	Don't let others influence you (Exercises)	「人に流されるな」の演習
第4回	Focus on what you like (Reading)	「自分が好きなことに集中しなさい」の読解
第5回	Focus on what you like (Exercises)	「自分が好きなことに集中しなさい」の演習
第6回	Common sense is not so common (Reading)	「常識はそれほど一般的なものではない」の読解
第7回	Common sense is not so common (Exercises)	「常識はそれほど一般的なものではない」の演習
第8回	Go and see the world! (Reading)	「世界を見に行きなさい」の読解
第9回	Go and see the world! (Exercises)	「世界を見に行きなさい」の演習
第10回	Learn philosophy, learn to "think" (Reading)	「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の読解

第11回 Learn philosophy, learn to "think" (Exercises) 「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の演習

第12回 It's the century of China, learn Mandarin! (Reading) 「中国の世紀、中国語を学びなさい」の読解

第13回 It's the century of China, learn Mandarin! (Exercises) 「中国の世紀、中国語を学びなさい」の演習

第14回 期末試験と解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children  
未来を生きる 朝日出版社 2,000円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しな

かった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Learn history! (Reading)	「歴史を学びなさい」の読解
第 2 回	Learn history! (Exercises)	「歴史を学びなさい」の演習
第 3 回	Know thyself (Reading)	「自分を知りなさい」の読解
第 4 回	Know thyself (Exercises)	「自分を知りなさい」の演習
第 5 回	Recognize changes and embrace them (Reading)	「変化を認識し、それを受け入れ なさい」の読解
第 6 回	Recognize changes and embrace them (Exercises)	「変化を認識し、それを受け入れ なさい」の演習
第 7 回	Look to the future! (Reading)	「未来に目を向けなさい！」の読 解
第 8 回	Look to the future! (Exercises)	「未来に目を向けなさい！」の演 習
第 9 回	Go against the tide (Reading)	「時流に逆らえ」の読解
第 10 回	Go against the tide (Exercises)	「時流に逆らえ」の演習
第 11 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Reading)	「運命の女神は努力を続ける人に 微笑む」の読解
第 12 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Exercises)	「運命の女神は努力を続ける人に 微笑む」の演習
第 13 回	調整日	進度の調整および試験前の質問に 答える
第 14 回	期末試験と解説	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children

未来を生きる 朝日出版社 2,000 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものは無い。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 5 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

**【到達目標】**

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部：法律学科：DP3・DP4、法学部：政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

\*春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は4月23日であるが5月末までは、各自共通教材に取り組むとされている。それ以降の各回の授業計画の変更や具体的なオンライン授業の方法は、毎週毎に学習支援システムで提示する。

授業再開の場合：

英文を読むときの集中力を上げることも目的として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかんでいく。内容を把握した後、音読することで英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにし、語彙・表現力を上げていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。周りの人との協力によるアクティブな学習をしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: All about Food (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: All about Food (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
4	Unit 1: Review Unit 2: Inventions (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 2: Inventions (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary

6	Unit 2: Review Unit 3: Studying Abroad (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 3: Studying Abroad (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 3: Review Unit4: Money and Budget (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
9	Unit 4: Money and Budget (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
10	Unit 4: Review Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
11	Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
12	Unit 5: Review Unit 6: The Olympics (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
13	Unit 6: The Olympics (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
14	Review Test	Review Test

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを徹底して復習することを習慣化する必要がある。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、まずは英語で書き出す。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。本授業の準備学習・復習時間は、併せて1時間以上を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Anderson, N.J., *Active Skills for Reading 1* (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

**【参考書】**

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: [www.britannica.com/](http://www.britannica.com/)

**【成績評価の方法と基準】**

\*評価方法は変更を余儀なくされる可能性が高く、その際は授業支援システムまたは授業内で通知するが、オンライン授業の場合は共通教材を含めて提出物を4回以上提出していないと原則として単位修得の資格を失うことになる。6月からの授業の評価方法も基本的に提出物（共通教材20%、それ以外60%）と小テスト（20%）とする。変更される場合には学習支援システムを通じて通知する。

授業再開の場合：

授業態度・積極性30%（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特にoral activityにおける授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。）

ユニットごとに行われる小テスト20%

Review text 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業は皆さんが自分から発言しようとする積極的な参加があるとテンポよく進みました。理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明するには苦勞したようですが、次第に考える習慣がついていきました。周囲と積極的に協力しあったり、英語を声に出したり、自分の言葉で書いたりという努力を面倒がらずにこなした受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

**【その他の重要事項】**

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

**English 1 II**

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 5 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることによって読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

**【到達目標】**

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

英文を読むときの集中力を上げることも目的として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかんでいく。内容を把握した後、音読することで英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにし、語彙・表現力を上げていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。周りの人との協力によるアクティブな学習をしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Great Structures (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
2	Unit 7: Great Structures (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 7: Great Structures (Review); Unit 8: Language and Communication (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
4	Unit 8: Language and Communication (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
5	Unit 8: Language and Communication (Review); Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary

6	Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 9: Festivals and Celebrations (Review); Unit 10: Growing Up (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 10: Growing Up (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
9	Unit 10: Growing Up (Review); Unit 11: Look into the Future (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
10	Unit 11: Look into the Future (Reading One);(Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
11	Unit 11: Look into the Future (Review); Unit 12: The Power of Stories (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
12	Unit 12: The Power of Stories (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
13	Unit 12: Look into the Future (Review)	Reviewing the context; Vocabulary test;
14	Review Test	Review Test

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

**【その他の重要事項】**

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを徹底して復習することを習慣化する必要がある。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、まずは英語で書き出す。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。本授業の準備学習・復習時間は、併せて1時間以上を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Anderson, N.J., *Active Skills for Reading 1* (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

**【参考書】**

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.  
<http://dictionary.cambridge.org/>  
<http://www.merriam-webster.com/>  
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>  
 Britannica: [www.britannica.com/](http://www.britannica.com/)

**【成績評価の方法と基準】**

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity における授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。）

ユニットごとに行われる小テスト 20 %

Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業は皆さんが自分から発言しようとする積極的な参加があるとテンポよく進みました。理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明するには苦勞したようですが、次第に考える習慣がついていきました。周囲と積極的に協力しあったり、英語を声に出したり、自分の言葉で書いたりという努力を面倒がらずにこなし受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

## 【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 9 回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第 11 回	Is netspeak harming the English language?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	Is netspeak harming the English language?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

## 【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥2,600 円+税)

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

当 1 年：英語 6 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

**【到達目標】**

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

**【テキスト（教科書）】**

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス。(¥2,600 円 + 税)

・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂。(¥1,500)

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点および課題 (30%)、中間テストおよび期末テスト (70%) の配分で評価する。

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

**【Outline and objectives】**

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

## 【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。
- ・各ユニットは4セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

## 【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

## 【参考書】

- 文法の参考書は
- ・『FOREST』桐原書店を薦める。
- 英和辞典は
- ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社
- ・『研究社英和大辞典』研究社
- ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
- ・『エクシード英和辞典』三省堂が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

## 【成績評価の方法と基準】

- 単位取得条件
- ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
- ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
- ・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
- 以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
- 期末試験
- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
- 成績評価
- ・期末試験 50%
- ・学習態度および受講態度 50%
- 遅刻の扱い
- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

## 【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

## 【その他の重要事項】

- 座席
- ・座席は指定する。
- オフィスアワー
- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

## 【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の読解を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7 (続き)	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8 (続き)	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9 (続き)	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10 (続き)	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11 (続き)	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12 (続き)	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

- ・ GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING : 読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・ READING : 本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ ACTIVITIES : 問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

### 【テキスト (教科書)】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』 金星堂

### 【参考書】

文法の参考書は

・『FOREST』 桐原書店

を薦める。

英和辞典は

・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』 研究社

・『研究社英和大辞典』 研究社

・『ランダムハウス英和大辞典』 小学館

をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないとい携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では

・『エクシード英和辞典』三省堂

が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

### 【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

・全ての授業に出席していること (ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める)。

・受講態度が良好であること (無予習、私語、居眠りは厳禁)

・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。

以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。

・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

・期末試験 50 %

・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。

・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる (1 分の遅刻は 10 と記録する)。

・なお、中座 (用便等の理由で一時退室する行為) や早退 (体調不良等で授業終了前に退室する行為) も遅刻と同様に扱う。

### 【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

### 【その他の重要事項】

座席

・座席は指定する。

オフィスアワー

・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

### 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 8 組

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識 (一般教養) が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

### 【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

\* 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。

\* 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。

\* 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。

\* 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

### 【授業の進め方と方法】

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力をも高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となるため、それに伴う授業計画の変更については学習支援システムで随時提示する。

本授業は各自のクラス配属が決まる 5 月下旬頃までは共通教材での学習となるため、その後の具体的な計画については追って提示する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (日本語と英語の相違)
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (冠詞と限定詞)
第 4 回	Chapter1:四つの国①	本文読解・音読
第 5 回	Chapter1:四つの国②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 6 回	Chapter2:湖水地方①	本文読解・音読
第 7 回	Chapter2:湖水地方②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 8 回	Chapter3:シェークスピアの故郷①	本文読解・音読

第 9 回	Chapter3:シェークスピアの故郷②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 10 回	Chapter4:ロンドンの歴史①	本文読解・音読
第 11 回	Chapter4:ロンドンの歴史②	本文読解・音読 (続)
第 12 回	Chapter5 トマス・ハーディの作品の舞台①	本文読解・音読
第 13 回	Chapter5:トマス・ハーディの作品の舞台②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 14 回	学期末試験	春学期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。また、予習の際に必ず本文の音読を行うこと。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、最低でも 2・3 時間は割いて頂きたい。

**【テキスト (教科書)】**

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂  
1,800 円 (税別)

**【参考書】**

特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

**【成績評価の方法と基準】**

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50%、「試験」50%で評価する。「平常点」では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。尚、原則として欠席が 3 回を超えた場合は不合格とする。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的なことについては授業開始日に学習支援システムで提示する。

尚、春学期に出す 14 回の課題 (共通教材期間の 4 回を含む) の内、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

**【その他の重要事項】**

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

**【Outline and objectives】**

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1  
単位数：1 単位  
営 1 年：英語 8 組

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識 (一般教養) が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

**【到達目標】**

以下の達成を主眼とする。  
\* 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。  
\* 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。  
\* 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。  
\* 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter6:アルフレッド大王の古都①	本文読解・音読
第 2 回	Chapter6:アルフレッド大王の古都②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 3 回	文法演習	動詞の時制とアスペクト (相) : 現在時制と過去時制
第 4 回	文法演習	動詞の時制とアスペクト (相) : 未来表現と法助動詞
第 5 回	Chapter7:大学町①	本文読解・音読
第 6 回	Chapter7:大学町②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 7 回	Chapter8:イングランドの庭①	本文読解・音読
第 8 回	Chapter8:イングランドの庭②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文
第 9 回	Chapter9:カンタベリー大聖堂①	本文読解・音読
第 10 回	Chapter9:カンタベリー大聖堂②	本文読解・音読 (続) リスニング・英作文

第 11 回	Chapter10:産業革命 発祥の地①	本文読解・音読
第 12 回	Chapter10:産業革命 発祥の地②	本文読解・音読(続)
第 13 回	Chapter11:シャー ロック・ホームズ	本文読解・音読
第 14 回	学期末試験	秋学期末試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読む。文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。また、予習の際に必ず本文の音読を行うこと。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、最低でも 2・3 時間は割いて頂きたい。

### 【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂  
1,800 円(税別)

### 【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書(体系的にある程度詳しく記述されたもの)を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

### 【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50%、「試験」50%で評価する。平常点では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。秋学期は春学期の習熟度も考慮する。尚、原則として欠席が 3 回を超えた場合は不合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

### 【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

### 【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 9 組

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むことになりませんが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでもよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

### 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

### 【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
  - ・読解解説(指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です)
  - ・読んだテキストのリスニング(ディクテーション含む)
  - ・小テスト
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、内容については授業内で説明します。試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『English for Mass Communication-2020 edition-（時事英語の総合演習）』（朝日出版社、2020年）

#### 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）30%

期末試験 70%

公欠を除いて4回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない45分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味を持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every class. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語9組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では秋学期も引き続き高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

これと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、ライティングの指導も行います。

#### 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確で、構造化した論理的な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント（初回授業を除く）
  - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
  - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
  - ・小テスト
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit7-1	Unit7 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit7-2	Unit7 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit8-1	Unit8 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit8-2	Unit8 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit9-1	Unit9 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit9-2	Unit9 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit10-1	Unit10 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit10-2	Unit10 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit11-1	Unit11 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit11-2	Unit11 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit12-1	Unit12 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit12-2	Unit12 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ (期末試験)	Unit23 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『English for Mass Communication-2020 edition- (時事英語の総合演習)』(朝日出版社、2020 年)

#### 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」(大修館)

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です (初回の授業で説明します)。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など) 30%

期末試験 70%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味が持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every class. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

基本的な英文の読解 (リーディング) と聴解 (リスニング) の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

#### 【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC (トイーック) のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解 (リーディング) のセクションでは、TOEIC や TOEFL (トーフル) の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解 (リスニング) のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②
9	テキストの演習	パラグラフの構造③
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【今クルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

プリントを配布します。

**【参考書】**

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

**【学生の意見等からの気づき】**

トイックとトーフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

**English 1 II**

2017年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

**【到達目標】**

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接尾辞】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【子音】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

プリントを配布します。

**【参考書】**

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験成績 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

**【学生の意見等からの気づき】**

トピックとトーフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トピックに絞ろうと思う。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

**English 1 I**

2017 年度以降入学者

**北 文美子**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

**【到達目標】**

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせてみます。テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で意見を表現してもらいます。学期中の欠席が 4 回以上の場合、単位の修得が認められません。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	社会と環境（3）	移民流入
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組んでください。授業の復習・予習に1時間以上必要です。

**【テキスト（教科書）】**

適宜プリントを使用します。

**【参考書】**

その都度授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の例を紹介します。

**【Outline and objectives】**

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

**English 1 II**

2017年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期と同様です。

**【到達目標】**

春学期と同様です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期と同様です。授業の欠席が4回以上の場合には、単位の修得が認められません。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	経済と社会（2）	経済格差
8	経済と社会（3）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。春学期同様、授業の予習・復習に一時間以上必要です。

**【テキスト（教科書）】**

春学期と同様です。

**【参考書】**

適宜、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の例を挙げます。

**【Outline and objectives】**

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パラグラフの構造に留意して、イギリスを代表する二大高級紙『タイムズ』と『ガーディアン』を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

**【到達目標】**

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 3	Unit 3 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

7 Unit 3

Unit 3

- ①前回速読した箇所の精読。
- ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

8 Unit 4

Unit 4

- ①速読・音読・内容把握。
- ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

9 Unit 4

Unit 4

- ①前回速読した箇所の精読。
- ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

10 Unit 5

Unit 5

- ①速読・音読・内容把握。
- ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

11 Unit 5

Unit 5

- ①前回速読した箇所の精読。
- ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

12 Unit 6

Unit 6

- ①速読・音読・内容把握。
- ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

13 Unit 6

Unit 6

- ①前回速読した箇所の精読。
- ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

14 前期の復習  
試験

Unit 1～Unit 6

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ①予習をして授業に臨むこと。予習の際に、英文を速読をして論旨を把握することに努めてください。その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
  - ②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかり身につけてください。
- 注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』でめぐる知の世界  
著者：田中孝信著  
出版社：音羽書房鶴見書店  
出版年：2016 年  
価格：2000 円

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%  
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。  
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。  
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書

**【Outline and objectives】**

This course aims to develop students' awareness of their own

reading and thinking processes so that they can be successful  
in  
reading college-level texts.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。  
語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論  
旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

## 【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習してきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 9	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

9	Unit 10	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期の復習 試験	Unit 7-Unit 12

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①わからない単語を調べる。
- ②英文の構造・文法事項を確認する。
- ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』でめぐる知の世界  
著者：田中孝信  
出版社：音羽書房鶴見書店  
出版年：2016年  
価格：2000円

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%  
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。  
欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。  
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

#### 【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

## English 1 I

2017年度以降入学者

### 藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1  
単位数：1単位  
営1年：英語13組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語4技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in Englishのテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

#### 【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキプトの音読にも十分時間を割り、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。ただし、習熟度別クラス編成による授業は6月4日(木)より開始となり、それまでの期間は共通教材による学習期間となる。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 1a	Learning from the past
3	Workbook: Unit 1a	Things they never taught you
4	Unit 1b	What makes us who we are?
5	Workbook: Unit 1b	What's in a name?
6	Unit 1c	Immortal words
7	Workbook: 1c	The English we speak
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 1f	Arctic wisdom
10	Unit 2a	Living off the sea
11	Unit 2b	Smokejumpers
12	Unit 2c	Daring, defiant, and free
13	Workbook: Unit 2c	Guerrilla geographer
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split

著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,880 円

### 【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-workbook-audio>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-audio-students-book>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-students-book-video>

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中、4回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

遅刻は、30分以上の場合は欠席扱い。

遅刻2回で1回分の欠席扱いとします。

（上記変更理由）

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

（変更後）

平常点 20%

課題 40%

期末試験 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

### 【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

### 【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

## 藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

## 【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は、各学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式のスタイルで行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 2f	Climbing Yosemite
2	Unit 3a	Towns with character
3	Unit 3b	Compact living
4	Unit 3c	The paper architect
5	Workbook: 3c	Biomimetic architecture
6	Unit 4a	Shrink it, bend it, fold it
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 4b	The mother of invention
9	Unit 4c	The shoe giver
10	Workbook: Unit 4c	The new philanthropists
11	Unit 5a	How we travel
12	Unit 5c	The adventures of Herge
13	Unit 6c	The enigma of beauty
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通すこと。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split

著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,880 円

## 【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-workbook-audio>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-audio-students-book>

<https://eltngl.com/sites/Life2e/student-resources/american-english/level-6/level-6-students-book-video>

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%

期末試験 40%

平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。

遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、「予習でやってくるよう言われた範囲といざやる時の範囲が違うことがあった」という、学生からの重く受け止めるべき指摘がありました。学習意欲の高い学生に失望をあたえないように、各授業の終わりに予習内容の具体的な説明を必ず行い、それに即した形で授業を展開します。

## 【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

## 【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

## 【到達目標】

Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Arriving in London	London の代表的な公共交通機関には、世界で最も古い列車である地下鉄 (tube)、London 市内を走行する赤い二階建てバス (double decker)、cube というタクシーがある。列車やバスにはプリペイド式のオイスターカードが使用できる。
②	Unit 1 Arriving in London	Unit1 の Exercise を行う。
③	Unit 2 London's museums and art galleries	イギリスの主な博物館や美術館は入場料無料である。London にある National Gallery や Tate Modern も無料であり、多くの人に絵画や展示品を見せる機会を与えている。
④	Unit 2 London's museums and art galleries	Unit2 の Exercise を行う。
⑤	Unit 3 Royal palaces and castles	イギリスには英王室にゆかりのあるいくつかの城がある。その中には女王の私邸である Windsor 城や公邸である Buckingham 宮殿を始めとして、女王が夏の大半を過ごす Balmoral 城がある。
⑥	Unit 3 Royal palaces and castles	Unit3 の Exercise を行う。
⑦	Unit 5 Shopping in London	London には Harrods や Fortnum and Mason のような伝統的な店がある一方で、多くのリーズナブルな品物を販売する fair (市) がある。

⑧	Unit 5 Shopping in London	Unit5 の Exercise を行う。
⑨	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury	Somerset は、田園地方であり、cider (リンゴ酒)、beer、cheese の製造でよく知られている。
⑩	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury	Unit7 の Exercise を行う。
⑪	Unit 10 The Yorkshire Dales	Yorkshire は、イングランドの一番北の州であり、スコットランドとの境界の州である。The Yorkshire Dales という国立公園となっている渓谷が広がっている。
⑫	Unit 10 The Yorkshire Dales	Unit10 の Exercise を行う。
⑬	Unit 11 Newcastle-upon-Tyne	Newcastle-upon-Tyne は、イングランドとスコットランドとの境界の Tyne 川のほとりにある町である。Newcastle の対岸には、Gateshead の町があり、そこには、歩行者と自転車専用の Gateshead Millennium Bridge がある。
⑭	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。各章とも、Comprehension、Vocabulary、Expressions のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

#### 【テキスト（教科書）】

Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 %として評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を3回で欠席1とみなす。

#### 【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

#### 【Outline and objectives】

Using the textbook about the United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特徴を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

#### 【到達目標】

Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 12 Swansea and Gower	Swansea は、ウェールズ的首都 Cardiff の次に大きな町であり、20 世紀の詩人 Dylan Thomas の故郷でもある。
②	Unit 12 Swansea and Gower	Unit12 の Exercise を行う。
③	Unit 13 Brecon Beacons	ウェールズの Brecon Beacons は、イギリスの国立公園の一つである。自然の美しい地域として指定されていて、そこには植物や動物を保護する特別な法律がある。
④	Unit 13 Brecon Beacons	Unit13 の Exercise を行う。
⑤	Unit 14 Conwy and Caernarfon	北ウェールズの Conwy と Caernarfon の町には、それぞれ Conwy 城と Caernarfon 城がある。
⑥	Unit 14 Conwy and Caernarfon	Unit14 の Exercise を行う。
⑦	Unit 15 Edinburgh	ブリテン島の北部の地域にある Edinburgh は、多くの学者や科学者を輩出していることから、'Athens of North' 「北のアテネ」と呼ばれている。
⑧	Unit 15 Edinburgh	Unit15 の Exercise を行う。
⑨	Unit 16 Glasgow	Glasgow は、19 世紀の産業革命の時代には、造船業で発達したが、現在は、Glasgow 出身の建築家 Charles Rennie Macintosh ゆかりの建造物を多くの観光客が訪れる場所となっている。

- ⑩ Unit 16  
Glasgow Unit 18  
Belfast Unit16 の Exercise を行う。
- ⑪ Unit 18  
Belfast アイルランドは、イギリスの自治領である北アイルランドと南のアイルランド共和国に分離している。1990 年代初頭まで、北アイルランドでは、プロテスタント系住民とカソリック系住民の間で、毎日のように小競り合いが起きていた。しかし、1998 年に平和協定が結ばれてからは、抗争はなくなっている。
- ⑫ Unit 18  
Belfast Unit18 の Exercise を行う。
- ⑬ Unit 19  
Causeway Coast Belfast から Londonderry までの道路沿いに広がっている Causeway の海岸には、世界遺産の火山岩からなる何千もの六角形の石柱群がある。
- ⑭ 試験日 試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。各章とも、Comprehension、Vocabulary、Expressions のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

## 【テキスト（教科書）】

Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持っていたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

## 【Outline and objectives】

Using the textbook about the United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会とイギリスの社会の違いについて英語で学ぶテキスト『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

## 【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	Best Behaviour 日本でしか目にしなかった光景
3	Unit 1 のつづき Unit 2	Best Behaviour 日本でしか目にしなかった光景のつづき Things That Make Me Seem Odd 日本に長く住みすぎたと思うとき
4	Unit 2 のつづき	Things That Make Me Seem Odd 日本に長く住みすぎたと思うときのつづき
5	Unit 3	Before the Olympics オリンピックを成功させるために
6	Unit 3 のつづき Unit 4	Before the Olympics オリンピックを成功させるためのつづき Devilish Hard Work 仕事熱心なのはいいけれども…

7	Unit 4 のつづき	Devilish Hard Work 仕事熱心なのはいいけれども… のつづき
8	Unit 5	Similarly Different 日本とイギリスをつなぐもの
9	Unit 5 のつづき Unit 6	Similarly Different 日本とイギリスをつなぐもの のつづき Reporting Tokyo 「トーキョー」ってどんなところ？
10	Unit 6 のつづき	Reporting Tokyo 「トーキョー」ってどんなところ？ のつづき
11	Unit 7	Educational "Horses for Courses" 日英教育制度比較
12	Unit 7 のつづき	Educational "Horses for Courses" 日英教育制度比較 のつづき
13	復習	Unit 1～Unit 7 の復習
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

## 【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook “Realise Japan” which consists of 15 cross-cultural topics between Japan and Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Colin Joyce 『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』 金星堂、1,900 円+税

## 【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

## 【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 15 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の社会とイギリスの社会の違いについて英語で学ぶテキスト『イギリス人特派員が見た日本 **Realise Japan**』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

**【到達目標】**

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

テキスト『イギリス人特派員が見た日本 **Realise Japan**』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 8	Funny Japanese 日本語は愉快だ
2	Unit 8 のつづき Unit 9	Funny Japanese 日本語は愉快だ のつづき Cultural Pitfalls それぞれの国の「当たり前」
3	Unit 9 のつづき	Cultural Pitfalls それぞれの国の「当たり前」 のつづき
4	Unit 10	A Note of Dissent カラオケに異議申す
5	Unit 10 のつづき Unit 11	A Note of Dissent カラオケに異議申す のつづき Football Japanese Style 日本式サッカーの魅力
6	Unit 11 のつづき	Football Japanese Style 日本式サッカーの魅力 のつづき
7	Unit 12	How Do You Say...? どう伝えたらよいものか

8	Unit 12 のつづき Unit 13	How Do You Say...? どう伝えたらよいものか のつづき Great "Born-in-Japan" Inventions 日常に溢れるささやかな発明たち
9	Unit 13	Great "Born-in-Japan" Inventions 日常に溢れるささやかな発明たち のつづき
10	Unit 14	Mind the (Humour) Gap 日本のユーモア、イギリスのユーモア
11	Unit 14 のつづき Unit 15	Mind the (Humour) Gap 日本のユーモア、イギリスのユーモア のつづき All Change? 日本は変わった?
12	Unit 15 のつづき	All Change? 日本は変わった? のつづき
13	復習	Unit 8～Unit 15 の復習
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Colin Joyce『イギリス人特派員が見た日本 **Rialise Japan**』金星堂、1,900 円+税

**【参考書】**

必要な際には授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

**【学生の意見等からの気づき】**

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書を必ず持参してください。

## 【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook “Realise Japan” which consists of 15 cross-cultural topics between Japan and Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は6月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Cool, Calm and Heroic (listening)
3	Unit 1	Cool, Calm and Heroic (reading)
4	Unit 2	Flying into the Future (listening)
5	Unit 2	Flying into the Future (reading)
6	Unit 3	Food Healthy for the Planet (listening)
7	Unit 3	Food Healthy for the Planet (reading)
8	Unit 4	Explosive Demand for Cobalt (listening)
9	Unit 4	Explosive Demand for Cobalt (reading)
10	Unit 5	Starting Somewhere (listening)
11	Unit 5	Starting Somewhere (reading)
12	Unit 6	Serious Solution Needed (listening)
13	Unit 6	Serious Solution Needed (reading)
14	試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習を前提として授業を行います。前半は **Words and Phrases to Study of the Definition and Examples** を、後半はニュースのスク립トと **Judgments to Make** を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『CNN ビデオで見る世界のニュース (21)』  
(朝日出版社)

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30% で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。今学期出す 14 回分の課題のうち 4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位取得の資格を失います。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

**【その他の重要事項】**

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

**【Outline and objectives】**

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

**English 1 II**

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

**【到達目標】**

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（**Englishes**）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Self-Inflicted Wounds (listening)
3	Unit 7	Self-Inflicted Wounds (reading)
4	Unit 8	Deeply Disturbing (listening)
5	Unit 8	Deeply Disturbing (reading)
6	Unit 9	Coping with Change (listening)
7	Unit 9	Coping with Change (reading)
8	Unit 10	Playing a Better Role (listening)
9	Unit 10	Playing a Better Role (reading)
10	Unit 11	Breaking the Connection (listening)
11	Unit 11	Breaking the Connection (reading)
12	Unit 12	As Young as You Feel (listening)
13	Unit 12	As Young as You Feel (reading)
14	試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習を前提として授業を行います。前半は **Words and Phrases to Study of the Definition and Examples** を、後半はニュースのスク립トと **Judgments to Make** を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『CNN ビデオで見る世界のニュース (21)』  
(朝日出版社)

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

**【学生の意見等からの気づき】**

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

**【その他の重要事項】**

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

**【Outline and objectives】**

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

**English 1 I**

2017 年度以降入学者

**滝沢 玄**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

海外一流メディアの英語記事を読みこなす力をつけ、様々なビジネス業種の取り組みを通して社会の動向への知見を深める。

**【到達目標】**

社会で起きているさまざまなビジネスの動向について関心を持ち、自らの意見を英語で表明する。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ構成の特徴をつかむ。英語の音声的傾向を体得し、リスニングの反射神経を高める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

6 月 2 日開始予定（この授業の時限の開始時間でなくてよいが、その日に学習支援システムをチェックすること。）

以下オンライン授業の方針を記す。テキスト入荷までは指定された課題にとりくむ。テキスト入手後は各章の語彙・読解問題を予習して提出する。そのうえで解答をチェックし、内容のポイントをおさえ、質問を受けつける。復習として内容要約（主として日本語の予定だが、英語も併用）を次回に提出する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Assignment	共通課題
第 2 回	Assignment	共通課題
第 3 回	Assignment	共通課題
第 4 回	Assignment	共通課題
第 5 回	1.Zara	課題の確認、質疑応答
第 6 回	2. Airbnb	課題の確認、質疑応答
第 7 回	3. Facebook	課題の確認、質疑応答
第 8 回	4. Adidas	課題の確認、質疑応答
第 9 回	5.Toyota	課題の確認、質疑応答
第 10 回	6. Starbucks	本文読解と発展問題
第 11 回	Test	春学期授業を範囲とする筆記試験・まとめと解説
第 12 回	Assignment	授業はないが、課題によってカバーする
第 13 回	Assignment	授業はないが、課題によってカバーする
第 14 回	Assignment	授業はないが、課題によってカバーする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむ。

**【テキスト（教科書）】**

Kayoko Shiomi et als., Challenges of Global Enterprises (金屋堂, 2019), ¥2100.

## 【参考書】

『エコノミスト』誌などに掲載された本格的な時事英語を読むので、『リーダーズ英和』（研究社）レベルの英語辞書は欠かせない。スマホ使用は特に認めた場合を除き原則不可。

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出とその内容 100 %。試験を行なう場合も課題にふくめる。未提出 4 回以上の者は、原則として単位修得を認めない。正当な理由なく提出が遅れた場合は減点。2 週後以降は受領しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの進捗との兼ねあいから、ディスカッションを行なうかについては迷ったが、好意的な意見もあり、目先を変えるのもよいかとも思ったので、取り入れることにした。（追記：グループ編成・打合せが困難なので春学期は中止。）

## 【Outline and objectives】

To acquire higher reading skills with a view to being more conscious of trends in contemporary business enterprises

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 滝沢 玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外一流メディアの英語記事を読みこなす力をつけ、様々なビジネス業種の取り組みを通して社会の動向への知見を深める。

## 【到達目標】

春学期のテーマを踏襲しつつ、さらに読みの精度を上げ、英文の細かなニュアンスへの対応力を高める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講者の予習を前提として、本文の音読と要約をする。単語、内容確認、リスニングの各問題もふくめ、割りあてよりも自主的な発言を優先する。各課終わりの英語で意見を述べるセクションについては、グループ分けに基づき、指定されたグループが英語でディスカッションを行なう。各課終了の翌週には単語と文法問題の小テストを行なう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験のレビュー。残りの時間によってテキストに入るか、プリントを使用する。
第 2 回	8. TED	グループ会話、本文読解と発展問題
第 3 回	8. TED/9. Amazon	グループ会話、本文読解と発展問題
第 4 回	9. Amazon	8 の小テスト、本文読解と発展問題
第 5 回	10. Sony	9 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 6 回	10. Sony/11. IKEA	グループ会話、本文読解と発展問題
第 7 回	11. IKEA	10 の小テスト、本文読解と発展問題
第 8 回	12. Google	11 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 9 回	12. Google/13. Walmart	グループ会話、本文読解と発展問題
第 10 回	13. Walmart	12 の小テスト、本文読解と発展問題
第 11 回	14. Disney	13 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 12 回	14. Disney/15. GE	グループ会話、本文読解と発展問題
第 13 回	15. GE	14 の小テスト、本文読解と発展問題
第 14 回	Test	秋学期の授業を範囲とした筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむ。

#### 【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi et als., Challenges of Global Enterprises (金星堂, 2019), ¥2100.

#### 【参考書】

『エコノミスト』誌などに掲載された本格的な時事英語を読むので、『リーダーズ英和』（研究社）レベルの英語辞書は欠かせない。スマホ使用は特に認めた場合を除き原則不可。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テストその他課題 15 %、グループディスカッション 15%、平常点 20 %（予習と授業への積極的参加）。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。欠席が 4 回以上の者は、原則として単位修得を認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

春学期と同じ。

#### 【Outline and objectives】

Follow the previous term

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

菊池 かおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 18 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の文章やニュースを日本語への逐語訳というステップを経なくても、すばやく内容を理解し、能動的に英語で自分の意見を発信できる力を養います。また、パラグラフの基本的な構造を理解し、自分の意見を論理的に英語で書いたり、発表する練習も行います。そしてそれらの練習を通して、物事を多角的観点から分析できる批判的思考力と論理的思考力を養います。

#### 【到達目標】

未知語をすべて調べなくても、大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身につける。さらに、その内容について、自分の意見を明確に表現することができるように、パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

※学習支援システムでこの授業が開始されるのは、6月4日(木)です。

※シラバスの変更点については、その際に具体的にお知らせします。(対面授業が実施できた場合)

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には Reading と Watching、そして Writing を組み合わせた実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークや学生相互の課題添削も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを理解し、パラグラフの基本的な作り方を学ぶ。
2	Unit 1a: Life Experiences	現在完了形と過去形の使い方を復習し、パラグラフの構造について理解を深める。
3	Unit 1b: Life Experiences	BBC の動画を通して学習し、過去に興味があったことについてのライティングを行う。
4	Unit 2a: Events	過去形と過去進行形の使い方を復習し、パラグラフの構造について理解を深める。
5	Unit 2b: Events	BBC の動画を通して学習し、友達についてのライティングを行う。
6	Unit 3a: Opinions	プレゼンテーションの基本的な構造を理解し、グループ・プレゼンテーションの準備に取り掛かる。
7	Unit 3b: Opinions	BBC の動画を通して学習し、プレゼンテーションのスキルを身につける。
8	Unit 4a: Customs	不定詞や動名詞の使い方を復習し、文化の違いについて学習する。

9	Group Presentation	グループ・プレゼンテーションを行う。
10	Unit 4b: Customs	BBCの動画を通して学習し、日本文化についてのライティングを行う。
11	Unit 5a: Professions and Skills	現在完了形と現在完了進行形の違いを復習し、フォーマルな表現を身に着ける。
12	Unit 5b: Professions and Skills	cause and effectのパラグラフ・ライティングについて理解を深める。
13	Unit 6: Recent Activities	現在完了進行形の使い方について、リーディングとBBCの動画を通して理解を深める。
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の準備としてテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事の全てを翻訳するのではなく、どこがどのようにわからないのか認識し、授業で理解できるようにするための予習をしましょう。また、授業で取り扱ったトピックに関して英文で意見を書いてきてもらうなど、ライティングの課題がある場合もあります。

#### 【テキスト（教科書）】

Stretch 3, Susan Stempleski, Oxford University Press  
ISBN 978-0-19-460314-0

#### 【参考書】

授業中に、適宜、紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

※オンラインでの開講になったことに伴う変更点について、授業開始日に学習支援システムで提示します。

平常点（予習・課題など）35%・プレゼンテーション20%・テスト45%

欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their English skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

菊池 かおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

営1年：英語18組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の文章やニュースを日本語への逐語訳というステップを経なくとも、すばやく内容を理解し、能動的に英語で自分の意見を発信できる力を養います。また、エッセイの基本的な構造を理解し、自分の意見を論理的に英語で書いたり、発表する練習も行います。そしてそれらの練習を通して、物事を多角的観点から分析できる批判的思考力と論理的思考力を養います。

#### 【到達目標】

未知語をすべて調べなくても、大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身に着ける。さらに、その内容について自分の意見をまとめ、エッセイを書くことができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的にはReadingとWatching、そしてWritingを組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークや学生相互の課題添削も行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを理解し、パラグラフの基本的な構造を復習する。
2	Unit 7a: Leisure Time	現在完了形と現在完了進行形の使い方を復習し、エッセイの基本的な構造を理解する。
3	Unit 7b: Leisure Time	BBCの動画を通して学習し、序論の書き方について理解を深める。
4	Unit 8a: Appearance	"used to"の使い方を復習し、結論の書き方について理解を深める。
5	Unit 8b: Appearance	BBCの動画を通して学習し、エッセイ・ライティングを行う。
6	Unit 9a: Habits	Open questionsの作り方について確認し、プレゼンの準備に取り掛かる。
7	Unit 9b: Habits	BBCの動画を通して学習し、プレゼンの準備を進める。
8	Unit 10: Stories	間接話法の復習をし、プレゼンの準備を進める。
9	Group Presentation	グループ・プレゼンテーションを行う。
10	Unit 10b: Stories	BBCの動画を通して学習し、Book Reviewの書き方を理解する。
11	Unit 11a: In the News	節の使い方を復習し、cause and effect essayの書き方を理解する。

12	Unit 11b: In the News	BBC の動画を通して学習し、ライティングを行う。
13	Unit 12: Travel Stories	BBC の動画を通して、これまで学んだことを復習する。
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の準備としてテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事の全てを翻訳するのではなく、どこがどのようにわからないのか認識し、授業で理解できるようにするための予習をしましょう。また、授業で取り扱ったトピックに関して英文で意見を書いてきてもらうなど、ライティングの課題がある場合もあります。

#### 【テキスト（教科書）】

Stretch 3, Susan Stempleski, Oxford University Press  
ISBN 978-0-19-460314-0

#### 【参考書】

授業中に、適宜、紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題など）35%・プレゼンテーション 20%・テスト 45%  
欠席が 4 回以上になった者は単位取得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their reading and listening skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

### 滝沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 19 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

より高い次元の読解力を身につけ、アメリカ社会について深く知る。

#### 【到達目標】

英語学習のみならず、現代日本の政治・経済・文化にも多大な影響力を与える、アメリカについての知見を深める。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ間のつながりを意識して読み、全体の焦点を絞りこむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

6 月 2 日開始予定（この授業の時限の開始時間ではなくてよいが、その日に学習支援システムをチェックすること。）

以下オンライン授業の方針を記す。テキスト入荷までは指定された課題にとりくむ。テキスト入手後は各章の語彙・読解問題を予習して事前に提出する。そのうえで解答をチェックし、内容のポイントをおさえ、質問を受けつける。復習として内容要約（主として日本語の予定だが、英語も併用）を次回に提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Assignment	共通課題
第 2 回	Assignment	共通課題
第 3 回	Assignment	共通課題
第 4 回	Assignment	共通課題
第 5 回	Chapter 1	Which America? Which Americans?
第 6 回	Chapter 2	Melting Pot or Vegetable Soup?/
第 7 回	Chapter 3	No Easy Task
第 8 回	Chapter 4	Immigrants
第 9 回	Chapter 5	Whose Right Is Right
第 10 回	Chapter 6	A Time for Change
第 11 回	Test	試験・まとめと解説
第 12 回	Assignment	授業は行なわれないが、課題によってカバーする
第 13 回	Assignment	授業は行なわれないが、課題によってカバーする
第 14 回	Assignment	授業は行なわれないが、課題によってカバーする

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点をまとめ、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむこと。

#### 【テキスト（教科書）】

John Tilmant et al., America: Images and Realities (成美堂, 2012), ¥1800.

## 【参考書】

レベルの高い英文を読むには『リーダーズ英和』（研究社）など語彙の充実した英語辞書は欠かせない。スマホ使用は特に認めた場合を除き原則不可。

書物ではないが、より最新のアメリカ事情について知るには、『町山智浩のアメリカを今を知る TV with CNN』（BS 朝日）が参考になる。YouTube で過去の放送（オフィシャルなもの）の視聴も可能。

## 【成績評価の方法と基準】

課題提出とその内容 100 %。試験を行なう場合も課題にふくめる。未提出 4 回以上の者は、原則として単位修得を認めない。正当な理由なく提出が遅れた場合は減点。2 週間以降は受領しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすさ、伝わりやすさは常に意識すべきと思う。それが一方通行のサービスではなく、受講者の自発性に対する応答であることを望む。

## 【Outline and objectives】

To acquire higher reading skills with a view to a further understanding of American society and culture

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 滝沢 玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

より高い次元の読解力を身につけ、アメリカ社会について深く知る。

## 【到達目標】

英語学習のみならず、現代日本の政治・経済・文化にも多大な影響力を与える、アメリカについての知見を深める。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ間のつながりを意識して読み、全体の焦点を絞りこむ。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

受講者の予習を前提として進める。本文の語彙、読解問題であらかじめ大まかな内容を把握したうえで、本文の音読とパラグラフごとの要約に入る。自主的な発言を優先し、必要に応じてランダムに当てる。各章の終わりには内容の和文あるいは英文要約、語彙や読解の小テストを行なう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験のレビュー。残りの時間によってテキストに入るか、プリントを使用する。
第 2 回	Chapter 10	A Nation Health Care Plan
第 3 回	Chapter 10-11	A Nation Health Care Plan/Education
第 4 回	Chapter 11	Education
第 5 回	Chapter 12	On the Go
第 6 回	Chapter 12-13	On the Go/A Man's House Is His Castle
第 7 回	Chapter 13	A Man's House Is His Castle
第 8 回	Mid-term Test/Chapter 14	中間テスト/A Brighter Tomorrow?
第 9 回	Chapter 14	A Brighter Tomorrow
第 10 回	Chapter 15	See You in Court
第 11 回	Chapter 15-16	See You in Court/Spreading the Wealth
第 12 回	Chapter 16	Spreading the Wealth
第 13 回	Chapter 17	Politically Correct
第 14 回	Test	秋学期の授業を範囲とした筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点をまとめ、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむこと。

## 【テキスト（教科書）】

John Tilmant et al., America: Images and Realities (成美堂, 2012), ¥1800.

**【参考書】**

レベルの高い英文を読むには『リーダーズ英和』（研究社）など語彙の充実した英語辞書は欠かせない。スマホ使用は特に認めた場合を除き原則不可。

書物ではないが、より最新のアメリカ事情について知るには、『町山智浩のアメリカを今を知る TV with CNN』（BS 朝日）が参考になる。YouTube で過去の放送（オフィシャルなもの）の視聴も可能。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 40 %、中間試験 20 %、提出課題 20 %、平常点 20 %（予習と授業での発言を反映する）。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。欠席が 4 回以上の者は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

わかりやすさ、伝わりやすさは常に意識すべきと思う。それが一方通行のサービスではなく、受講者の自発性に対する応答であることを望む。

**【Outline and objectives】**

To acquire higher reading skills with a view to a further understanding of American society and culture

LANe100LA

**English 1 I**

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パラグラフの構造に留意して、高度な英文を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

**【到達目標】**

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力を修得することができるようになる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	Unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit 2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

6	Unit 3	Unit 3 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 3	Unit 3 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 4	Unit 4 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 4	Unit 4 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 5	Unit 5 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 5	Unit 5 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 6	Unit 6 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 6	Unit 6 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	前期の復習 試験	Unit 1～Unit 6

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書

**【Outline and objectives】**

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ①予習をして授業に臨むこと。  
予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。  
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。  
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。  
注意：1回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書：Reading Fusion 3  
著者：Andrew E. Bennett  
出版社：南雲堂  
出版年：2020年  
価格：2420円

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%  
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。  
欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

## 【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	Unit 7 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	Unit 7 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	Unit 8 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	Unit 8 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 9	Unit 9 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

7	Unit 9	Unit 9 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	Unit 10 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	Unit 10 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	Unit 11 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	Unit 11 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	Unit 12 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	Unit 12 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期復習 試験	Unit 7-Unit 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①わからない単語を調べる。
- ②英文の構造・文法事項を確認する。
- ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：Reading Fusion 3

著者：Andrew E. Bennett

出版社：南雲堂

出版年：2020年

価格：2420円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

## 【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

## 【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- \* 一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- \* 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- \* 読解と表現に必要な文法を身に付ける。
- \* 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠な文化的背景や英語を取り巻く諸事情に対する認識を、延いては人間の言語そのものに対する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となるため、それに伴う授業計画の変更については学習支援システムで随時提示する。

本授業は各自のクラス配属が決まる 5 月下旬頃までは共通教材での学習となるため、その後の具体的な計画については追って提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（日本語と英語の相違）
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（冠詞と限定詞）
第 4 回	Lesson1:言語の研究①	本文読解・音読
第 5 回	Lesson1:言語の研究②	本文読解・音読（続）
第 6 回	Lesson1:言語の研究③	問題演習
第 7 回	Lesson2:イギリス英語とアメリカ英語①	本文読解・音読

第 8 回	Lesson2:イギリス英語とアメリカ英語②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 9 回	Lesson3:国際語としての英語①	本文読解・音読
第 10 回	Lesson3:国際語としての英語②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 11 回	Lesson4:言語の文化的面①	本文読解・音読
第 12 回	Lesson4:言語の文化的面②	本文読解・音読（続）
第 13 回	Lesson4:言語の文化的面③	問題演習 春学期の講評
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。また、予習の際に必ず本文の音読を行うこと。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、最低でも 2・3 時間は割いて頂きたい。

## 【テキスト（教科書）】

Twenty-Three Short Essays on English (英語についての 23 話)  
英宝社

1,900 円 ( ) 税別

## 【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

## 【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50%、「試験」50%で評価する。「平常点」では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。尚、原則として欠席が 3 回を超えた場合は不合格とする。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的なことは授業開始日に学習支援システムで提示する。

尚、春学期に出す 14 回分の課題（共通教材期間の 4 回分を含む）の内、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

## 【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

## 【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

## 【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- \*一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- \*英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- \*読解と表現に必要な文法を身に付ける。
- \*英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠な文化的背景や英語を取り巻く諸事情に対する認識を、延いては人間の言語そのものに対する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lesson5:言語使用域 ①	本文読解・音読
第 2 回	Lesson5:言語使用域 ②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 3 回	文法演習	動詞の時制とアスペクト（相）： 現在時制と過去時制
第 4 回	文法演習	動詞の時制とアスペクト（相）： 未来表現と法助動詞
第 5 回	Lesson6:言語範疇化 ①	本文読解・音読
第 6 回	Lesson6:言語範疇化 ②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 7 回	Lesson7:子供の言語 習得①	本文読解・音読
第 8 回	Lesson7:子供の言語 習得②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 9 回	Lesson8:音声の研究 ①	本文読解・音読

第 10 回	Lesson8:音声の研究 ②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 11 回	Lesson9:英語の名前 ①	本文読解・音読
第 12 回	Lesson9:英語の名前 ②	本文読解・音読（続） 問題演習
第 13 回	Lesson10:言語における借用	本文読解・音読
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。また、予習の際に必ず本文の音読を行うこと。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、最低でも 2・3 時間は割いて頂きたい。

## 【テキスト（教科書）】

Twenty-Three Short Essays on English（英語についての 23 話） 英宝社  
1,900 円（税別）

## 【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

## 【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50%、「試験」50%で評価する。平常点では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。秋学期は春学期の習熟度も考慮する。尚、原則として欠席が 3 回を超えた場合は不合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

## 【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

## 【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。

必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

## 【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。

Chapter Hospitals

Hospitals を学習する。

12

試験 試験を行う。

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Life and Health (生活と健康) (鳳書房) 1,800 円 + 税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English (桐原書店)

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。

## 【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CDを聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld (世界の主要国) 鳳書房 1,800円+税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70%、課題 20%、授業への積極性 10%、1セメスターで4回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

## 【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。授業中、スマホはカバンの中に入れておくこと。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

李 太喜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語の文章を正しく、素早く読める読解力を身に着ける。

文章の論理的構造を理解する。

英語を聞く力を鍛える。

**【到達目標】**

- ・正しい語彙や文法に照らして、正確に英語解釈ができるようになる。
- ・ある程度まとまった量の文章をパラグラフ単位で分析し、関係づけるという観点から英語の文章を読めるようになる。

- ・英語という言語に限らず、文章が持つ論理的構造がいかなるものであるのかを具体的に学び、読解において使いこなせるようになる。つまり論理力をつける。

- ・リスニングにおいても、文章の流れを意識しながら聞く力を養えるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

毎回の授業は主に 4 つの作業に分けられる。

①教科書の各章ごとのテキストを英語から日本語へと翻訳し、その後その文章のパラグラフ構成について説明したり、実際に学生たちにパラグラフ分析を実践してもらう。その際に、文章が持つ論理的な関係性一般についての解説も行う。日本語への翻訳は、前の授業で段落ごとに担当者を決めて、その担当者に発表してもらう。

②宿題として、毎授業ごとに出す（教科書とは別の）課題文を読み、パラグラフ分析を行ったものを授業前に提出してもらう。授業ではその解説を行う。

③数分程度のリスニング教材を用いて、リスニングして穴埋めを行うなどのアクティビティを行う。リスニング教材は毎回前回の授業の際に提示するので、まず日本語字幕付きで内容を予習しておいてもらう。

④本文で出てきたトピックについて、文化的ないし哲学的な話題があれば解説したり、参加者でディスカッションを行う。可能ならば英語で意見を言ってみる。

それぞれのタスクの順序や、内容は実際に授業を進める中で調整しながら行っていくが、基本的に以上の構成で授業を行っていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の位置づけや授業構成、成績について説明を行う
第 2 回	Are you ready for a pet?	教科書 Unit 1 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 3 回	Gap year	教科書 Unit 2 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 4 回	What is wealth?	教科書 Unit 3 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 5 回	Globalization	教科書 Unit 4 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 6 回	How paper is recycled?	教科書 Unit 6 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 7 回	Life expectancy	教科書 Unit 7 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う

第 8 回	前半の振り返り	論理構造について復習を行う。論理一般についてついでに講義。リスニング小テスト
第 9 回	From“snail mail”to PDAs in barely thirty years	教科書 Unit 8 を用いて、授業の進め方に基づいた授業を行う
第 10 回	Rules for success	教科書 Unit 9 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 11 回	Paid leave and public holiday	教科書 Unit 10 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 12 回	A suitable hotel	教科書 Unit 11 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 13 回	Another earth	教科書 Unit 12 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 14 回	Modern writing: be brief!	教科書 Unit 14 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う。リスニング小テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

【授業の進め方と方法】に記述した通り、授業のたびに次の予復習（1 時間程度を想定）をこなしてもらう。

（※以下、オンライン授業への変更に伴い、大幅な変更が生じる可能性を承知おきいただきたい（4/16 追記））

**≪ 予習 ≫**

- ・次の授業で扱うテキストを予習しておく。特に、日本語訳の担当になった学生は（その場で考えるのではなく）事前に訳を作ってきて読み上げられるようにする。

- ・次の授業で使うリスニング教材（TED など）を予習しておく。予習として求めることは、日本語の字幕を使っても良いので内容をしっかり把握しておくこと。

**≪ 復習 ≫**

- ・比較のまとまった量の英語を読んで、それを日本語でよいので、パラグラフ分析し、それに基づいて要約を作る。授業で扱う本文は比較的簡単な内容であるが、こちらは進度に応じて難しい文章も課す予定なので、しっかり時間を取ること。この課題は授業の前日までに事前に提出することとする。

（※第一回目の授業は、6 月 2 日を予定している。その日のうちに Hoppii 上に授業ガイダンス用の PowerPoint ファイルをアップロードするので、それを確認し、掲示板に確認したことを記載してもらう。2 日以降の授業に関してはその PowerPoint 上で説明する。）

**【テキスト（教科書）】**

English Stream (Pre-Intermediate)、竹内理・他、金星堂、2018 年、1800 円（+税）

**【参考書】**

新版論理トレーニング、野矢茂樹、産業図書、2006 年、2200 円（+税）

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も

変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

オフィスアワーはなし。授業に関する質問は授業後すぐのみ受け付ける。

**【Outline and objectives】**

To acquire ability to read English sentences accurately and quickly.

To understand what the logical structure of texts is and how to use it effectively.

To train listening skills.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

## 李 太喜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章の論理的構造を理解しながら英語を読むことが出来るようになる。

論理構造を意識して英語で文章を書けるようになる。

英語を聞く力を鍛える。

## 【到達目標】

- ・比較的に長い内容の英文を読んでパラグラフ単位で分析し、それに基づいて要約を短時間で作ることが出来るようになる。
- ・文章の持つ論理的構造に基づいて、自ら文章を書くことが出来るようになる。最終的には英語で簡単なレポートを書いてみる。
- ・リスニングにおいても、文章の流れを意識しながら聞く力を養えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は以下の作業で構成される。

- ①教科書の各章ごとのテキストをパラグラフ構成に基づいて要約してもらう。事前に決められた担当者何人かがそれを発表する。同時に、文章が持つ論理的な関係性一般について解説を行う。それを踏まえて、パラグラフのストラクチャー程度でよいので、簡単な文章を自分で実際に書く。
  - ②宿題として、毎授業ごとに出す（教科書とは別の）課題文を読み、パラグラフ分析を行ったうえで、それに基づいて要約を作ってきてもらう。何人かにはその発表を担当してもらう。授業の後半では、授業においてストラクチャーレベルで作った文章を埋め、完成させるというライティングの課題も出す。
  - ③数分程度の音源を使って、リスニングを行う。リスニングして穴埋めを行うなどのアクティビティを行う。リスニング教材は毎回前回の授業の際に提示するので、まず日本語字幕付きで内容を予習しておいてもらう。
  - ④本文で出てきたトピックについて、文化的ないし哲学的な話題があれば解説したり、参加者でディスカッションを行う。可能ならば英語で意見を言ってみる。
- それぞれのタスクの順序や、内容は実際に授業を進める中で調整しながら行っていくが、基本的に以上の構成で授業を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の位置づけや授業構成、成績評価について説明を行う
第 2 回	Orange clothing	教科書 Unit 1 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 3 回	Reasonable dream...	教科書 Unit 2 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 4 回	Color matters	教科書 Unit 4 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 5 回	Business, not bullets	教科書 Unit 5 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 6 回	Spices for life!	教科書 Unit 6 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う

第 7 回	Plastic planet	教科書 Unit 7 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 8 回	前半の復習と小テスト	前半の授業内容の振り返り リスニング小テスト
第 9 回	London coffee and lazy man	教科書 Unit 8 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 10 回	Disease vs. Hunger	教科書 Unit 10 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 11 回	May we have a catalog, please?	教科書 Unit 11 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 12 回	Bright little lights	教科書 Unit 12 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 13 回	Popular but penniless	教科書 Unit 13 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う
第 14 回	Taxing the robots	教科書 Unit 14 を用いて、【授業の進め方】に基づいた授業を行う リスニング小テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【授業の進め方と方法】に記述した通り、授業のたびに次の予復習（1 時間程度を想定）をこなしてもらう。

## ＜ 予習 ＞

- ・次の授業で扱うテキストを予習しておく。担当者はパラグラフ分析と要約を事前に手元に用意しておき、読み上げられるようにする。
- ・次の授業で使うリスニング教材（TED など）を予習しておく。予習として求めることは、日本語の字幕を使っても良いので内容をしっかり把握しておくこと。

## ＜ 復習 ＞

- ・比較的にまとまった量の英語を読んで、それを日本語もしくは英語で、パラグラフ分析し、それに基づいて要約を作る。授業で扱う本文は比較的に簡単な内容であるが、こちらは進度に応じて難しい文章も課す予定なので、しっかり時間を取る。また、授業後半では、授業中に作ったストラクチャーを実際に埋めてもらうという課題を課すこともある。これらの復習課題は授業の前日までに事前に提出することとする。

## 【テキスト（教科書）】

Writing Key: English Grammar and Usage for Better Writing、北尾泰幸・Anthony Allan、金星堂、2019 年、1800 円（+税）

## 【参考書】

新版論理トレーニング、野矢茂樹、産業図書、2006 年、2200 円（+税）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・担当時の文構造と要約発表：20 %（人数や担当回数を考慮して点数をつける）
  - ・ストラクチャー分析と要約・テキストライティングの課題：60 %（全 12 回 × 5 点）
  - ・2 回のリスニング小テスト：20 %（2 回 × 10 点）
  - ・その他、授業時の積極的な発言などは平常点として加算する。
- ※ 4 回（以上）欠席した場合は生成期評価の対象とならないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーはなし。授業に関する質問は授業後すぐのみ受け付ける。

## 【Outline and objectives】

To understand what the logical structure of texts is and how to use it effectively.  
To write English sentences considering the logical structure.  
To train listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

## 【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。
- ・各ユニットは4セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しむつつ学習して欲しい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

## 【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

## 【参考書】

- 文法の参考書は
- ・『FOREST』桐原書店を薦める。
- 英和辞典は
- ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社
- ・『研究社英和大辞典』研究社
- ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
- ・『エクシード英和辞典』三省堂が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

## 【成績評価の方法と基準】

- 単位取得条件
- ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
- ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
- ・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
- 以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
- 期末試験
- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
- 成績評価
- ・期末試験 50%
- ・学習態度および受講態度 50%
- 遅刻の扱い
- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

## 【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

## 【その他の重要事項】

- 座席
- ・座席は指定する。
- オフィスアワー
- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

## 【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の読解を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7 (続き)	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8 (続き)	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9 (続き)	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10 (続き)	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11 (続き)	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12 (続き)	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

## 【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

## 【参考書】

文法の参考書は

- ・『FOREST』桐原書店を薦める。
  - 英和辞典は
  - ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社
  - ・『研究社英和大辞典』研究社
  - ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないかと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
- ・『エクシード英和辞典』三省堂
- が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

## 【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

- ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
  - ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
  - ・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
- 以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

## 【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

## 【その他の重要事項】

座席

- ・座席は指定する。
- オフィスオワー
- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むことになりませんが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでもよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

## 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関してのコメント
  - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
  - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
  - ・小テスト
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、内容については授業内で説明します。試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『English for Mass Communication-2020 edition-（時事英語の総合演習）』（朝日出版社、2020 年）

#### 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）30%

期末試験 70%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味が持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every class. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では秋学期も引き続き高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むことになりませんが、文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

これと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、ライティングの指導も行います。

#### 【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確で、構造化した論理的な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント（初回授業を除く）
  - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
  - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
  - ・小テスト
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit7-1	Unit7 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit7-2	Unit7 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit8-1	Unit8 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit8-2	Unit8 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit9-1	Unit9 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit9-2	Unit9 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit10-1	Unit10 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit10-2	Unit10 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit11-1	Unit11 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit11-2	Unit11 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit12-1	Unit12 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit12-2	Unit12 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ (期末試験)	試験範囲、内容については授業内で説明します。試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『English for Mass Communication-2020 edition- (時事英語の総合演習)』(朝日出版社、2020 年)

#### 【参考書】

「ジーニアス英和辞典」(大修館)

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です (初回の授業で説明します)。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など) 30%

期末試験 %70

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味を持つという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every class. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

須藤 祐二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフから成る英語の文章を正確に、かつある程度の速度で読める力を養うことを目的とする。また、パラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ることに重点を置く。また、テキストの表現を使って基本的な英文を書く練習も取り入れる。受講生は、英語運用能力の強化だけでなく、現代社会の諸問題への気づき、さらにそれらを考えるうえでの基本的語彙の習得や概念の理解も目指す。

#### 【到達目標】

受講生は比較的難しい英文でも臆さずに読めるようにする。専門的な用語も含め、新聞記事や論文などで頻繁に使われる基礎的な英語表現・語句を習得する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

各授業の最初に予習度のチェックをする。その後、読解に移り、内容の確認を行う。また、教科書にでている表現を使ったライティング演習を配布プリントで行う。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の授業の概要説明を行う
第 2 回	Unit1-A(Sweet Love)	Unit1-A を演習
第 3 回	Unit1-B(Food for the Future)	Unit1-B を演習
第 4 回	Unit1 Video と Unit2-A(Song of the Humpback)	Unit1 Video と Unit2-A を演習
第 5 回	Unit2-A(Song of the Humpback) と Unit2-B(The 1000-year Bird Song)	Unit2-A と Unit2-B を演習
第 6 回	Unit2-B(The 1000-year Bird Song) と Video(The Lion's Roar)	Unit2-B と Video を演習
第 7 回	配布プリントを用いた演習	時事問題を扱った英文記事を使った演習
第 8 回	Unit3-A(Was King Tut murdered?)	Unit3-A を演習
第 9 回	Unit3-B(Who killed the Iceman?)	Unit3-B を演習
第 10 回	Unit3 Video(Walking with Giants) と Unit4-A(Living Treasures)	Unit3 Video と Unit4-A を演習

第 11 回	Unit4-A(Living Treasures) と Unit4-B(The Changing Face of King Fu)	Unit4-A と Unit4-B を演習
第 12 回	Unit4-B(The Changing Face of King Fu) と Video(Dragon Boat Festival)	Unit4-B と Video を演習
第 13 回	配布プリントを用いた演習	時事問題を扱った英文記事を使った演習
第 14 回	試験・まとめと解説	学期中に学んだ項目のまとめと復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で行う内容は必ず予習をすること。授業の最初に簡単なディクテーションを行うため、あらかじめしっかりとテキストの指定部分を読んでおくこと。また、有用と思われる英文資料を配布するので、その場合には、あらかじめ読んで授業に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

Reading Explorer 2 (Cengage Learning、第 3 版)

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、授業内に課した課題を含む平常評価 (30%) によって総合評価する。4 回以上欠席した学生は成績評価の対象から外れる。また、欠席回数による減点もあるので注意すること。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

リーディング中心の授業だが、ライティングやスピーキングの演習も従来通り取り入れる。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' ability for reading passages of multiple paragraphs written in English correctly and at a speed suitable for different circumstances. Paying attention to the logical relationship between paragraphs, students should try to fully understand the structure and argument of passages and to garner insights or relevant information from them. Practices will also be given to students for writing sentences in English, based on textbook models. In this course, students should not only improve their English proficiency, but also become more aware of contemporary social issues, and acquire the fundamental vocabulary and knowledge commonly used in them.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

須藤 祐二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る英語の文章を正確に、かつある程度の速度で読める力を養うことを目的とする。また、パラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ることに重点を置く。また、テキストの表現を使って基本的な英文を書く練習も取り入れる。受講生は、英語運用能力の強化だけでなく、現代社会の諸問題への気づき、さらにそれらを考えるうえでの基本的語彙の習得や概念の理解も目指す。

#### 【到達目標】

受講生は比較的難しい英文でも臆さずに読めるようにする。専門的な用語も含め、新聞記事や論文などで頻繁に使われる基礎的な英語表現・語句を習得する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

各授業の最初に予習度のチェックをする。その後、読解に移り、内容の確認を行う。また、教科書にでている表現を使ったライティング演習を配布プリントで行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習と秋学期の授業についての概要	春学期に学んだ項目の復習と秋学期の授業の概要説明を行う
第 2 回	Unit5-A(The Secrets in the Sand)	Unit5-A を演習
第 3 回	Unit5-B(The Stories in the Rock)	Unit5-B を演習
第 4 回	Unit5 Video(Digging into the Past) と Unit6-A(Cities beneath the Sea)	Unit5 Video と Unit6-A を演習
第 5 回	Unit6-A(Cities beneath the Sea) と Unit6-B(The Truth about Great Whites)	Unit6-A と Unit6-B を演習
第 6 回	Unit6-B(The Truth about Great Whites Roar) と Unit6 Video(Ocean Magabuilders)	Unit6-B と Video を演習
第 7 回	エッセイ・ライティングの基礎知識	エッセイ・ライティングの基本的な構成について、配布プリントを用いて説明・演習
第 8 回	Unit7-A(The Flower Trade)	Unit7-A を演習
第 9 回	Unit7-B(The Power of Perfume)	Unit7-B を演習

第10回	Unit7 Video(Flower from Ecuador) と Unit8-A(An Incredible Journey)	Unit7 Video と Unit8-A を演習
第11回	Unit8-A(An Incredible Journey) と Unit8-B(The Travels of Ibn Battuta)	Unit8-A と Unit8-B を演習
第12回	Unit8-B(The Travels of Ibn Battuta) と Video(The Legend of Marco Polo)	Unit8-B と Video を演習
第13回	エッセイのスタイルについての説明	エッセイ・ライティングのスタイルについて解説し、選択したスタイルに基づいて課題についてのエッセイを書く
第14回	試験・まとめと解説	学期中に学んだ項目のまとめと復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で行う内容は必ず予習をすること。授業の最初に簡単なディクテーションを行うため、あらかじめしっかりとテキストの指定部分を読んでおくこと。また、有用と思われる英文資料を配布するので、その場合には、あらかじめ読んで授業に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

Reading Explorer 2 (Cengage Learning, 第3版)

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、授業内に課した課題を含む平常評価(30%)によって総合評価する。4回以上欠席した学生は成績評価の対象から外れる。また、欠席回数による減点もあるので注意すること。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

リーディング中心の授業だが、ライティングやスピーキングの演習も従来通り取り入れる。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' ability for reading passages of multiple paragraphs written in English correctly and at a speed suitable for different circumstances. Paying attention to the logical relationship between paragraphs, students should try to fully understand the structure and argument of passages and to garner insights or relevant information from them. Practices will also be given to students for writing sentences in English, based on textbook models. In this course, students should not only improve their English proficiency, but also become more aware of contemporary social issues, and acquire the fundamental vocabulary and knowledge commonly used in them.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

営1年：英語27組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

#### 【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイーック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①
8	テキストの演習	パラグラフの構造②
9	テキストの演習	パラグラフの構造③
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

プリントを配布します。

**【参考書】**

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験成績70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

**【学生の意見等からの気づき】**

トイックとトーフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

**English 1 II**

2017年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 27 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

**【到達目標】**

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接尾辞】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【子音】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

## 【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験成績70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

トピックとトーフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トピックに絞ろうと思う。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、イギリスを代表する二大高級紙『タイムズ』と『ガーディアン』を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

## 【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 3	Unit 3 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

7	Unit 3	Unit 3 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.
8	Unit 4	Unit 4 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
9	Unit 4	Unit 4 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
10	Unit 5	Unit 5 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
11	Unit 5	Unit 5 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
12	Unit 6	Unit 6 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
13	Unit 6	Unit 6 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
14	前期の復習 試験	Unit 1～Unit 6	

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習をして授業に臨むこと。

予習の際に、英文を速読をして論旨を把握することに努めてください。その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。

②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。

注意：1回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』でめぐる知の世界

著者：田中孝信著

出版社：音羽書房鶴見書店

出版年：2016年

価格：2000円

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

#### 【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構成に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

## 【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習してきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 9	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

9	Unit 10	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期の復習 試験	Unit 7-Unit 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①わからない単語を調べる。
- ②英文の構造・文法事項を確認する。
- ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』でめぐる知の世界  
著者：田中孝信  
出版社：音羽書房鶴見書店  
出版年：2016 年  
価格：2000 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%  
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。  
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。  
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

## 【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

**【到達目標】**

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。授業の欠席が4回以上の場合、原則単位の修得を認めません。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で意見を表現してもらいます。学期の欠席が4回以上の場合、原則として単位の修得は認められません。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	社会と環境（3）	移民流入
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組んでください。授業の予習・復習に1時間以上必要です。

**【テキスト（教科書）】**

適宜プリントを使用します。

**【参考書】**

その都度授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の例を紹介します。

**【Outline and objectives】**

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済・経営に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

### 【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

### 【授業の進め方と方法】

ビジネスに関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	経済と社会（2）	経済格差
8	経済と社会（3）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

### 【参考書】

授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %

試験 90 %

学期の欠席が4回以上の場合、原則として単位の修得は認められません。

### 【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

### 【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

## 【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 9 回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第 11 回	Is netspeak harming the English language?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	Is netspeak harming the English language?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

## 【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円+税)

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

当 1 年：英語 30 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

**【到達目標】**

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような資料を作成し日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

**【テキスト（教科書）】**

- ・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス。(¥2,600 円 + 税)
- ・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂。(¥1,500)

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点および課題 (30%)、中間テストおよび期末テスト (70%) の配分で評価する。  
欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

**【Outline and objectives】**

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

## English 1 I

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

・この授業（習熟度別クラス）の授業開始日は6月1日です。（4月21日から5月29日までは共通教材による学習期間となります）

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・課題回数は10回です。7週の間で10回の授業（課題提出）を実施するので、後半部分では間隔が込み合いますので、予め承してください。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容の説明、履修方法について説明
第2回	Don't let others influence you (Reading)	「人に流されるな」の読解
第3回	Don't let others influence you (Exercises)	「人に流されるな」の演習
第4回	Focus on what you like (Reading)	「自分が好きなことに集中しなさい」の読解
第5回	Focus on what you like (Exercises)	「自分が好きなことに集中しなさい」の演習
第6回	Common sense is not so common (Reading)	「常識はそれほど一般的なものではない」の読解
第7回	Common sense is not so common (Exercises)	「常識はそれほど一般的なものではない」の演習
第8回	Go and see the world! (Reading)	「世界を見に行きなさい」の読解
第9回	Go and see the world! (Exercises)	「世界を見に行きなさい」の演習
第10回	Learn philosophy, learn to "think" (Reading)	「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の読解

第11回 Learn philosophy, learn to "think" (Exercises) 「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の演習

第12回 It's the century of China, learn Mandarin! (Reading) 「中国の世紀、中国語を学びなさい」の読解

第13回 It's the century of China, learn Mandarin! (Exercises) 「中国の世紀、中国語を学びなさい」の演習

第14回 期末試験と解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children  
未来を生きる 朝日出版社 2,000円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しな

かった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Learn history! (Reading)	「歴史を学びなさい」の読解
第 2 回	Learn history! (Exercises)	「歴史を学びなさい」の演習
第 3 回	Know thyself (Reading)	「自分を知りなさい」の読解
第 4 回	Know thyself (Exercises)	「自分を知りなさい」の演習
第 5 回	Recognize changes and embrace them (Reading)	「変化を認識し、それを受け入れ なさい」の読解
第 6 回	Recognize changes and embrace them (Exercises)	「変化を認識し、それを受け入れ なさい」の演習
第 7 回	Look to the future! (Reading)	「未来に目を向けなさい！」の読 解
第 8 回	Look to the future! (Exercises)	「未来に目を向けなさい！」の演 習
第 9 回	Go against the tide (Reading)	「時流に逆らえ」の読解
第 10 回	Go against the tide (Exercises)	「時流に逆らえ」の演習
第 11 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Reading)	「運命の女神は努力を続ける人に 微笑む」の読解
第 12 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Exercises)	「運命の女神は努力を続ける人に 微笑む」の演習
第 13 回	調整日	進度の調整および試験前の質問に 答える
第 14 回	期末試験と解説	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children

未来を生きる 朝日出版社 2,000 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものは無い。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会とイギリスの社会の違いについて英語で学ぶテキスト『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

## 【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	Best Behaviour 日本でしか目にしなかった光景
3	Unit 1 のつづき Unit 2	Best Behaviour 日本でしか目にしなかった光景のつづき Things That Make Me Seem Odd 日本に長く住みすぎたと思うとき
4	Unit 2 のつづき	Things That Make Me Seem Odd 日本に長く住みすぎたと思うときのつづき
5	Unit 3	Before the Olympics オリンピックを成功させるために
6	Unit 3 のつづき Unit 4	Before the Olympics オリンピックを成功させるためのつづき Devilish Hard Work 仕事熱心なのはいいけれども…

7	Unit 4 のつづき	Devilish Hard Work 仕事熱心なのはいいけれども…のつづき
8	Unit 5	Similarly Different 日本とイギリスをつなぐもの
9	Unit 5 のつづき Unit 6	Similarly Different 日本とイギリスをつなぐもの のつづき Reporting Tokyo 「トーキョー」ってどんなところ？
10	Unit 6 のつづき	Reporting Tokyo 「トーキョー」ってどんなところ？ のつづき
11	Unit 7	Educational "Horses for Courses" 日英教育制度比較
12	Unit 7 のつづき	Educational "Horses for Courses" 日英教育制度比較 のつづき
13	復習	Unit 1～Unit 7 の復習
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Colin Joyce 『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』金星堂、1,900 円+税

## 【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

## 【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

## 【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook “Realise Japan” which consists of 15 cross-cultural topics between Japan and Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会とイギリスの社会の違いについて英語で学ぶテキスト『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

## 【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス人特派員が見た日本 Realise Japan』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8	Funny Japanese 日本語は愉快だ
2	Unit 8 のつづき Unit 9	Funny Japanese 日本語は愉快だ のつづき Cultural Pitfalls それぞれの国の「当たり前」
3	Unit 9 のつづき	Cultural Pitfalls それぞれの国の「当たり前」 のつづき
4	Unit 10	A Note of Dissent カラオケに異議申す
5	Unit 10 のつづき Unit 11	A Note of Dissent カラオケに異議申す のつづき Football Japanese Style 日本式サッカーの魅力
6	Unit 11 のつづき	Football Japanese Style 日本式サッカーの魅力 のつづき
7	Unit 12	How Do You Say...? どう伝えたらいいのか

8	Unit 12 のつづき Unit 13	How Do You Say...? どう伝えたらよいものかのつづき Great "Born-in-Japan" Inventions 日常に溢れるささやかな発明たち
9	Unit 13	Great "Born-in-Japan" Inventions 日常に溢れるささやかな発明たちのつづき
10	Unit 14	Mind the (Humour) Gap 日本のユーモア、イギリスのユーモア
11	Unit 14 のつづき Unit 15	Mind the (Humour) Gap 日本のユーモア、イギリスのユーモアのつづき All Change? 日本は変わった?
12	Unit 15 のつづき	All Change? 日本は変わった? のつづき
13	復習	Unit 8～Unit 15 の復習
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

**【Outline and objectives】**

Through reading stories in the textbook "Realise Japan" which consists of 15 cross-cultural topics between Japan and Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Colin Joyce『イギリス人特派員が見た日本 Rialise Japan』金星堂、1,900円+税

**【参考書】**

必要な際には授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

**【学生の意見等からの気づき】**

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書を必ず持参してください。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

**【到達目標】**

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

\*春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は4月23日であるが5月末までは、各自共通教材に取り組むとされている。それ以降の各回の授業計画の変更や具体的なオンライン授業の方法は、毎週毎に学習支援システムで提示する。

授業再開の場合：

英文を読むときの集中力を上げることも目的として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかんでいく。内容を把握した後、音読することで英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにし、語彙・表現力を上げていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。周りの人との協力によるアクティブな学習をしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: All about Food (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: All about Food (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
4	Unit 1: Review Unit 2: Inventions (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 2: Inventions (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary

6	Unit 2: Review Unit 3: Studying Abroad (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 3: Studying Abroad (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 3: Review Unit 4: Money and Budget (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
9	Unit 4: Money and Budget (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
10	Unit 4: Review Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
11	Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
12	Unit 5: Review Unit 6: The Olympics (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
13	Unit 6: The Olympics (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
14	Review Test	Review Test

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを徹底して復習することを習慣化する必要がある。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、まずは英語で書き出す。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Anderson, N.J., Active Skills for Reading 1 (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

**【参考書】**

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: [www.britannica.com/](http://www.britannica.com/)

**【成績評価の方法と基準】**

\*評価方法は変更を余儀なくされる可能性が高く、その際は授業支援システムまたは授業内で通知するが、オンライン授業の場合は共通教材を含めて提出物を4回以上提出していないと原則として単位修得の資格を失うことになる。6月からの授業の評価方法も基本的に提出物（共通教材20%、それ以外60%）と小テスト20%とする。変更される場合には学習支援システムを通じて通知する。

授業再開の場合：

授業態度・積極性 30%（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity における授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。）

ユニットごとに行われる小テスト 20%

Review text 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業は皆さんが自分から発言しようとする積極的な参加があるとテンポよく進みました。理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明するのには苦労したようですが、次第に考える習慣がついていきました。周囲と積極的に協力しあったり、英語を声に出したり、自分の言葉で書いたりという努力を面倒がらずにこなした受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

#### 【その他の重要事項】

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

#### 【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることによって読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

#### 【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

英文を読むときの集中力を上げることも目的として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかんでいく。内容を把握した後、音読することで英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにし、語彙・表現力を上げていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。周りの人との協力によるアクティブな学習をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Great Structures (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
2	Unit 7: Great Structures (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 7: Great Structures (Review); Unit 8: Language and Communication (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
4	Unit 8: Language and Communication (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
5	Unit 8: Language and Communication (Review); Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary

6	Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 9: Festivals and Celebrations (Review); Unit 10: Growing Up (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 10: Growing Up (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
9	Unit 10: Growing Up (Review); Unit 11: Look into the Future (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
10	Unit 11: Look into the Future (Reading One);(Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
11	Unit 11: Look into the Future (Review); Unit 12: The Power of Stories (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
12	Unit 12: The Power of Stories (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
13	Unit 12: Look into the Future (Review)	Reviewing the context; Vocabulary test;
14	Review Test	Review Test

**【学生が準備すべき機器他】**

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

**【その他の重要事項】**

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを徹底して復習することを習慣化する必要がある。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、まずは英語で書き出す。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Anderson, N.J., Active Skills for Reading 1 (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

**【参考書】**

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: [www.britannica.com/](http://www.britannica.com/)

**【成績評価の方法と基準】**

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity における授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。）

ユニットごとに行われる小テスト 20 %

Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業は皆さんが自分から発言しようとする積極的な参加があるとテンポよく進みました。理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明するのには苦勞したようですが、次第に考える習慣がついていきました。周囲と積極的に協力しあったり、英語を声に出したり、自分の言葉で書いたりという努力を面倒がらずにこなした受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者ジョン・H・ランドルが、イギリスとの新しい関係を保っているアイルランドや、統一後のドイツにおもむき、変わりつつある新しいヨーロッパの現在について述べているテキストを使用する。より多様で実践的な英語の知識を学ぶことができる。

## 【到達目標】

テキストの本文（長文）、エクササイズ（会話文）のヒアリングを毎回行うことにより実践力を高める。

英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。

文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Greece: The Cradle of European Civilization	ヨーロッパ文明の発祥の地であるギリシャはまたオリンピックが生まれた国でもある。
②	Unit 1 Greece: The Cradle of European Civilization	Unit 1 の Exercise を行う。
③	Unit 3 Florence and the Renaissance	ルネッサンス芸術の都フィレンツェは、ウール産業でも発達した都市である。
④	Unit 3 Florence and the Renaissance	Unit 3 の Exercise を行う。
⑤	Unit 5 La Belle France	フランスの美しさは、フランス語、ファッション、料理の様々な分野で際立っている。
⑥	Unit 5 La Belle France	Unit 5 の Exercise を行う。
⑦	Unit 6 Paris Style	パリはまるで魔術にかけられたような町であり、古い文化遺産のノートルダム寺院やエッフェル塔がある一方で、新しいファッションナブルな街でもある。
⑧	Unit 6 Paris Style	Unit 6 の Exercise を行う。
⑨	Unit 8 Ireland: The Emerald Isle	アイルランドの国を象徴する色は緑であり、これはイギリスからの独立を意味する自由を表す色であった。3月17日の聖パトリック祭には緑色のグッズを身に付けた人々が街をパレードする。

⑩	Unit 8 Ireland: The Emerald Isle	Unit 8 の Exercise を行う。
⑪	Unit 9 The Clash of the Tartans	タータンチェックは、もとはスコットランドのクラン（氏族）の家紋であった。19世紀にイングランドに入ってからファッションに取り入れられた。
⑫	Unit 9 The Clash of the Tartans	Unit 9 の Exercise を行う。
⑬	Unit 10 London: Open City	ロンドンには海外からの移住者が多く、非常に開かれた国際都市としての面を持つ。
⑭	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章とも Reading Comprehension, Exercise の [3] のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしよう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Europe A Changing Continent (John H. Randle, Atsushi Mukuhira) 成美堂

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持たという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

## 【Outline and objectives】

Using the textbook that reflects the reality of European countries centering Britain, we can learn more diverse and practical English knowledge.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者ジョン・H・ランドルが、イギリスとの新しい関係を保っているアイルランドや、統一後のドイツにおもむき、変わりつつある新しいヨーロッパの現在について述べているテキストを使用する。より多様で実践的な英語の知識を学ぶことができる。

## 【到達目標】

テキストの本文（長文）、エクササイズ（会話文）のヒアリングを毎回行うことにより実践力を高める。

英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。

文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 11 Brussels: A Question of Language	ブリュッセルにはNATOの本拠地があり、EUの中で大事な役割を果たしている。
②	Unit 11 Brussels: A Question of Language	Unit 11 の Exercise を行う。
③	Unit 12 Strasbourg and the European Parliament	ストラスブールはワインで有名なアルザス地方の中心都市であり、1952 年以降、ヨーロッパ議会の本拠地である。
④	Unit 12 Strasbourg and the European Parliament	Unit 12 の Exercise を行う。
⑤	Unit 14 Copenhagen and the Little Mermaid	The Little Mermaid のような悲しいテーマに着想を得た像が、コペンハーゲンのシンボルの一つであることは皮肉めいているかもしれない。というのは、デンマークの人々は「世界で最も幸福な人々」と認識されているからである。
⑥	Unit 14 Copenhagen and the Little Mermaid	Unit 14 の Exercise を行う。
⑦	Unit 15 Berlin and the New Germany	ベルリンは冷戦時代には東西に分裂していた都市ではあるが、統一後 20 年を迎えた現在は、新しい建造物のある町へと生まれ変わっている。

⑧	Unit 15 Berlin and the New Germany	Unit 15 の Exercise を行う。
⑨	Unit 16 The River Rhine	六つの国にまたがっているライン川はヨーロッパ最長の川である。スイスのバーゼルの工場の汚水が流されたことから一時汚染されたが、水を浄化するライン・アクションプランにより再生した。
⑩	Unit 16 The River Rhine	Unit 16 の Exercise を行う。
⑪	Unit 18 Vienna: City of Dreams	1 月 1 日にウィーンフィルハーモニー管弦楽団によって行われるニューイヤーコンサートは、古いウィーンの町の魅力を彷彿させるものである。
⑫	Unit 18 Vienna: City of Dreams	Unit 18 の Exercise を行う。
⑬	Unit 19 Prague and the Velvet Revolution	プラハの市民は、1989 年のベルリンの壁崩壊の出来事に続き、政府に対して自由と民主主義を要求した。それがあまりに平和的に達成されたので、それは「ビロード革命」と呼ばれている。
⑭	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章とも Reading Comprehension, Exercise の [3] のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしよう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Europe A Changing Continent (John H. Randle, Atsushi Mukuhira) 成美堂

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 %として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持っていたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

## 【Outline and objectives】

Using the textbook that reflects the reality of European countries centering Britain, we can learn more diverse and practical English knowledge.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法 (Y 除く) 文営 2~3 年：補講 1 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ディベート型のトピック・エッセイを講読しながら、(1) パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ、(2) 英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う (クリティカル・シンキング/アカデミック・スキルとしての英語)。

ディベート型講読教材『Pros and Cons: Arguing Different Points of View』を教科書として、現代の社会問題にまつわるさまざまな論点に触れ、考え、自分の意見を表現する訓練を行う。「食品添加物」「消費文化」「100 円ショップ」「バリアフリー」「部活」「オンライン選挙」「動物実験」などをめぐるトピックを素材に、「Pros (賛成)」「Against (反対)」の両論の見解に触れた上で、どのように自分の意見を表現できるのか。自分の意見と異なる視点や発想から視野を広げたり、相手の主張に反論しながら自説を強調する論理展開の技法などを学ぶ。随時、英字新聞やビデオ・リスニング演習なども導入する。

## 【到達目標】

- (1) パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ
- (2) 英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う (クリティカル・シンキング/アカデミック・スキルとしての英語)。
- (3) 時事的/専門的な英語の文章に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回教科書の一章分を扱い一回完結型の演習を基本構成とし、本文の読解にまつわる報告・意見交換の演習を行う。パラグラフ・リーディングの基礎を身につけながら、英語文献の読解を踏まえた上で批判的に分析し、自説に繋げていくアカデミック・スキルの基礎を実践的に身につけることを目指す。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の運営方針/アカデミック・リーディングの方法について。
第 2 回	【概説講義】ディベート型思考——クリティカル・シンキング	【概説講義】ディベート型思考——クリティカル・シンキング
第 3 回	【概説講義】パラグラフ・リーディングとアカデミック・スキルとしての英語読解	【概説講義】パラグラフ・リーディングとアカデミック・スキルとしての英語読解
第 4 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 1 章)	Food Additives
第 5 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 2 章)	Body Image and Photoshopping

第 6 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 5 章)	Mobile Ads
第 7 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 7 章)	100-yen Shops
第 8 回	ドキュメンタリー映画で探る社会時事問題 (1)	ドキュメンタリーの現在～ビデオ・リスニング演習
第 9 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 10 章)	School Clubs
第 10 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 12 章)	Electronic Voting
第 11 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 12 章)	Animal Rights or Human Profits?
第 12 回	ドキュメンタリー映画で探る社会時事問題 (2)	ドキュメンタリーとメディア社会～ビデオ・リスニング演習
第 13 回	『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』講読演習 (第 15 章)	Animal Testing
第 14 回	総括	アカデミック・スキルとしてのクリティカル・リーディング

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

様々な時事問題を扱うことから時事的な関心を持つように心がけることが望ましい。意見交換を含む演習を通しての課題を復習として活かすことが期待される。本授業の復習時間は、各 1 時間を標準とするが、教室での演習にもっとも力点を置く。

## 【テキスト (教科書)】

Mark Jewel 『Pros and Cons: Arguing Different Point of View』 (朝日出版社)

## 【参考書】

黒川裕一 『論理的な英語力を鍛える』 (ベレ出版、2013)

## 【成績評価の方法と基準】

試験: 20 %

平常点: 80 % (「パラグラフ・リーディング」にもとづく講読演習に基づく)

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

「補講クラス」はいわゆる再履修科目であるが、それぞれの事情や背景、語学力は様々である。本来であれば複数の学部から集うクラスの特性を活用したいという思いもあるが、同時に近年の傾向としてグループディスカッションなどを苦手とする反応も少なからず見られる。教室に来ることが負担にならないような工夫を施したつもりであり、ある程度はその手ごたえを得ることができた。それぞれの語学力や適性などに目配りしながら有益な場になることを目指したクラス運営を心掛けたい。

## 【その他の重要事項】

教科書は毎回必ず携行すること。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## English 1 II

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の未来予想図を架空の新聞記事の体裁で描いた総合英語学習教材を講読しながら、(1) パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ、(2) 英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う（クリティカル・シンキング／アカデミック・スキルとしての英語）。

総合英語学習教材『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』をもとに、日本の社会問題、政治、経済、文化、グローバル化などの論点について英語を通して考える。論者の見解に触れた上で、どのように自分の意見を表現できるのか。英語文献を通じて文化を相対的に捉える視点や発想から視野を広げながら自説を強調する論理展開の技法などを学ぶ。

## 【到達目標】

- (1) パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ
- (2) 英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う（クリティカル・シンキング／アカデミック・スキルとしての英語）。
- (3) 時事的／専門的な英語の文章に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に基づく演習を基本構成とし、本文の読解にまつわる報告・意見交換の演習を行う。パラグラフ・リーディングの基礎を身につけながら、英語文献の読解を踏まえた上で批評的に分析し、自説に繋げていくアカデミック・スキルの基礎を実践的に身につけることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の運営方針／アカデミック・リーディングの方法について。
第 2 回	【概説講義】 グローバル化の中での日本の未来像	異文化比較とクリティカル・シンキング
第 3 回	【Future Times : News Reports from Japan's Next Generation】 演習 (第 1 章)	テーマ (電子マネー)
第 4 回	【Future Times : News Reports from Japan's Next Generation】 演習 (第 3 章)	テーマ (失業率)
第 5 回	【Future Times : News Reports from Japan's Next Generation】 演習 (第 4 章)	テーマ (ファーストフード) / 実践演習「読解からアカデミック・スキルとしてのクリティカル・リーディングへ」

- 第 6 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 6 章) テーマ (大学入試)
- 第 7 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 7 章) テーマ (グローバル化)
- 第 8 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 8 章) テーマ (24 時間ストア)
- 第 9 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 9 章) テーマ (宇宙旅行)
- 第 10 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 11 章) テーマ (人口減少)
- 第 11 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 13 章) テーマ (大学カリキュラム)
- 第 12 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 14 章) テーマ (自動運転車)
- 第 13 回 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』演習 (第 15 章) テーマ (温暖化)
- 第 14 回 総括 英語「で」学ぶ～クリティカル・リーディング

### 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

様々な社会問題を扱うことから社会的な関心を持つように心がけることが望ましい。意見交換を含む演習を通しての課題を復習として活かすことが期待される。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

Paul Stapleton, Atsuko Uemura 『Future Times : News Reports from Japan's Next Generation』(センゲージラーニング)

### 【参考書】

大出敦『クリティカル・リーディング入門 人文系のための読書レッスン』(慶應義塾大学出版会、2015)。

### 【成績評価の方法と基準】

試験: 20 %

平常点: 80 % (「パラグラフ・リーディング」にもとづく講読演習に基づく)

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

「補講クラス」はいわゆる再履修科目であるが、それぞれの事情や背景、語学力は様々である。本来であれば複数の学部から集うクラスの特徴を活用したいという思いもあるが、同時に近年の傾向としてグループディスカッションなどを苦手とする反応も少なからず見られる。教室に来ることが負担にならないような工夫を施したつもりであり、ある程度はその手ごたえを得ることができた。それぞれの語学力や適性などに目配りしながら有益な場になることを目指したクラス運営を心掛けたい。

### 【その他の重要事項】

教科書は毎回必ず携行すること。

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

**【到達目標】**

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながら、クラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・ブロコビッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話を基にした作品）。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 9 日（土）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。大学からのお知らせや授業支援からの連絡がメールで届くことを確認しておいてください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Unit 1 & 映画視聴
第 2 回	Unit 2: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 3 回	Unit 2: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 4 回	Unit 4: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 5 回	Unit 4: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 6 回	Unit 6: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 7 回	Unit 6: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 8 回	Unit 8: Reading	Phrase reading & Oral reading practice

第 9 回	Unit 8: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 10 回	Unit 10: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 11 回	Unit 10: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 12 回	Unit 12: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 13 回	Unit 12: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production + 発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・教科書の予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

*English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich* 『映画「エリン・ブロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂，2015）

**【参考書】**

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン授業となったことに伴ない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

今学期提出すべき 14 回分の課題のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行った結果、読み方や発音などが向上した受講生が多く見られるようになった。音読練習や英語⇔日本語の変換練習を多く行ったが、どの受講生も熱心に取り組んでいたのが印象的だった。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

**【その他の重要事項】**

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

**【Outline and objectives】**

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

## 【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。扱う映画は『フリーダム・ライターズ』。（新米教師が人種対立の深刻な問題児クラスを受け持つという実話を基にした作品）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プレテストと映画視聴
第 2 回	Chapter 1: 人種感の対立	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 3 回	Chapter 2: 国語の教師	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 4 回	Chapter 3: 縄張り	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 5 回	Chapter 4: 国境線	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 6 回	Chapter 5: 知らないのに？	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 7 回	Chapter 6: ライン・ゲーム	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 8 回	Chapter 7: 戦争	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 9 回	Chapter 8: 許可	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 10 回	Chapter 9: 寛容の博物館	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 11 回	Chapter 10: ここが僕の家	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 12 回	Chapter 11: アンネの日記	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 13 回	Chapter 12: ヒーロー	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing & 発表

第 14 回 期末試験（筆記） まとめ % ポストテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書の予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
 ・映画『フリーダム・ライターズ』は授業時に細切れに観ることになるが、予め全編を視聴しておくことが望ましい。（ポアソナード 3F ピア・ラーニング・スペースにて視聴可能）  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

*Freedom Writers* 『映画総合教材「フリーダム・ライターズ』』（鶴見書店、2011）

## 【参考書】

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。映画を楽しめたという意見がある一方で、全編を観たかったというコメントも寄せられた。扱った映画 5 本をすべて観ることは不可能だったので、ピア・ラーニング・スペースに収録されていることは伝えていたものの、やはり個人的に観る時間が取れなかったのだらうと推察する。映画を扱う場合は 1 作品に絞った方がよいことを再確認でき、今後のテキスト選定の参考にもなった。授業では音読練習や英語⇄日本語の変換練習を多く行ったが、どの受講生も熱心に取り組んでいたのが印象的だった。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

## 【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

**【到達目標】**

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながら、クラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・ブロコビッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話を基にした作品）。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 9 日（土）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。大学からのお知らせや授業支援からの連絡がメールで届くことを確認しておいてください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Unit 1 & 映画視聴
第 2 回	Unit 2: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 3 回	Unit 2: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 4 回	Unit 4: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 5 回	Unit 4: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 6 回	Unit 6: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 7 回	Unit 6: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 8 回	Unit 8: Reading	Phrase reading & Oral reading practice

第 9 回	Unit 8: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 10 回	Unit 10: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 11 回	Unit 10: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production
第 12 回	Unit 12: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第 13 回	Unit 12: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use & Grammar for Production + 発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・テキストの予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

*English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich* 『映画「エリン・ブロコビッチ」で学ぶ実践英語の基本』（金星堂，2015）

**【参考書】**

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン授業となったことに伴ない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

今学期提出すべき 14 回分の課題のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。映画は「楽しい」「生の英語に触れることができた」とのコメントが寄せられ、英語の関心を高める上で映画が大きな力になる得ることに改めて気づかされた。授業では音読練習や英語⇔日本語の変換練習に多くの時間を割いたが、どの受講生も熱心に行っていたのが印象的だった。授業に取り入れた洋楽クイズは比較的楽しく取り組めたようである。

**【学生が準備すべき機器他】**

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

**【その他の重要事項】**

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

**【Outline and objectives】**

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

## English 1 II

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

## 【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。教科書の英文をチャンク・リーディングしたり、問題を解いたりするが、それだけでなく映画を観ながらアメリカの社会や文化の理解も深めていく。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。扱う映画は『フリーダム・ライターズ』。（新米教師が人種対立の深刻な問題児クラスを受け持つという実話を基にした作品）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プレテストと映画視聴
第 2 回	Chapter 1: 人種感の対立	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 3 回	Chapter 2: 国語の教師	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 4 回	Chapter 3: 縄張り	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 5 回	Chapter 4: 国境線	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 6 回	Chapter 5: 知らないのに？	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 7 回	Chapter 6: ライン・ゲーム	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 8 回	Chapter 7: 戦争	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 9 回	Chapter 8: 許可	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 10 回	Chapter 9: 寛容の博物館	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 11 回	Chapter 10: ここが僕の家	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 12 回	Chapter 11: アンネの日記	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing
第 13 回	Chapter 12: ヒーロー	Vocabulary, First Viewing, Second Viewing & 発表

第 14 回 期末試験（筆記） まとめ % ポストテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）  
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。  
 ・映画『フリーダム・ライターズ』は授業時に細切れに観ることになるが、予め全編を視聴しておくことが望ましい。（ポアソナード 3F ピア・ラーニング・スペースにて視聴可能）  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

*Freedom Writers* 『映画総合教材「フリーダム・ライターズ」』（鶴見書店、2011）

## 【参考書】

*Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition* (Cambridge U. P., 2010)

*Practical English Usage* (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。映画教材は「楽しい」「理解しやすかった」というコメントがある一方で、春学期のように内容を掘り下げて欲しかったという意見も寄せられた。扱った作品が春学期は 1 作品だったが秋学期は 5 作品であったことによるものと推察する。映画を扱う場合は 1 作品に絞った方がよいことを再確認でき、今後のテキスト選定の参考にもなった。授業では音読練習や英語⇄日本語の変換練習を多く行ったが、どの受講生も熱心に取り組んでいたのが印象的だった。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

## 【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

## 【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

## 【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	A content based language course. Our Topic: Science Fiction. The literary heritage of S.F. Our Sub-topics: Exploration, Visitation, Transformation, Dystopia.	The origins of the Science Fiction Film: Georges Melies and A Trip to the Moon.
Week 2	Explorations Part I: Our World: Jules Verne: The father of science fiction. A look at the literary tradition. Exploring our world; Journey to the Center of the Earth. Why does man explore? Women in S.F.	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 3	Exploration; Optimism and Pessimism in the work of Jules Verne, 20,000 Leagues Under the Sea.	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
Week 4	What Does the Future hold for Humanity? H.G. Wells" The Time Machine	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking

Week 5	Early American Science Fiction and racism in the Flash Gordon Serials	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
Week 6	Screening of Forbidden Planet and the Three mysteries of the film	While watching/listening note taking and information gap activities
Week 7	Solution to the mysteries and analysis of Forbidden Planet.	All class Activity #5 discussion and review
Week 8	Visitations Part I: Duper Analysis of F.P with a twist of Freud.Introduction to theme of visitation	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 9	Our aliens and ourselves: are they projections of who we are?	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
Week 10	H.G.Wells and The War of The Worlds: A metaphorical link with the times	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 11	Screening The Thing Major themes in the Alien Invasion film	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
Week 12	Earth Vs The Flying Saucers, It Conquered The World. The Cold War	All class activity #10 pair work, Listening and Note-taking
Week 13	Visitations ;Extra-terrestrial Messiahs The Day the Earth Stood Still, E.T., Close Encounters, Contact	All Class Activity #11 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 14	Visitations Part II Extra-terrestrial Immigrants: Alien Nation, Men In Black, K-Pax	All class activity #12 pair work, Listening and Note-taking

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks.The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

A maximum of three absences are permitted each semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

## 【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Transformations; Experiments H.G. Wells' The Island of Dr. Moreau	review of previous themes, small group work and review of notes
week 2	Accidents: The Incredible Shrinking man and the Amazing Colossal Man	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 3	Evolutions: 2001 a Space Odyssey and The Time Machine	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
week 4	Augmentations: Robocop and Johnny Mnemonic	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 5	Artificial Intelligence: Colossus The Forbin Project and The Terminator	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
week 6	2001: A Space Odyssey, Screening first part of Bladerunner	All class Activity #5 discussion and review
week 7	Screening Bladerunner, the mystery of the Unicorn	While watching/listening note taking and information gap activities

week 8	Close Analysis of Bladerunner	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 9	Introduction to Dystopia: H.G. Wells Things to Come ,Fritz Lang's Metropolis,	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
week 10	Why Wells Hated Metropolis: Optimism and Pessimism again. Zamiatin's we and THX -!!38	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 11	Alders Huxley's Brave New World and Gattaca, first 12 minutes of 1984	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
week 12	Screening of 1984	While watching/listening note taking and information gap activities
week 13	Close Analysis of 1984 and Anthony Burgess's A Clockwork Orange	All Class Activity #10 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 14	John Carpenter's They :I've and Ray Bradbury's Fahrenheit 451.	All class activity #11 pair work, Listening and Note-taking

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores. A maximum of three absences are permitted each semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

## 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックが延長になり、コロナが蔓延しているなかで外国人が少なく彼らに話しかける機会もないと思われませんが積極的に話せるようにして欲しいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。また、前期後期に各1回ずつ大きなプレゼンテーションをしよう。コロナが蔓延しているため教室での授業が難しくなる恐れがありオンライン授業となると思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction Unit 1 First impressions	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Unit 1 Read
2.	Unit 1	What is your first impression of people, what do you look for in others, what is most attractive to you?
3.	Unit 1	Continuation of the previous unit. Do you disagree with what Iris, Shin and Anna are saying and why. Discussion on what appearance and personality/ lifestyle mean to you and what the class mates think about it.
4.	Unit 3 The good language learner	What do you think about the local language, what does becoming international mean
5.	Unit 3	Is English an international language? Do we have to be able to speak English? Discussion on the pros and cons of learning English

6.	Unit 5 Forever single	What do you think about being single. Are there any merits or demerits of being single or getting married.
7.	Unit 5	Discussion on the pros and cons of marriage.
8.	Unit 7 What's for lunch	What is climate change? Does food have any relationship with climate change?
9.	Unit 7	Does staying healthy contribute to climate change? Discussion on what is healthy and what is not.
10.	Unit 8 Your online past Start preparing for the presentation	What are the dangers of online posting? Did you have any problems posting on line or do you know of any one having troubles because of that. What is a presentation Class will be divided into groups and each group will discuss the theme of their choice to present to the class.
11.	Unit 8 Preparing for the presentation	Talk about the use of SNS. Discuss the merits and demerits of using a tablet, smartphone and a computer. Preparing for the presentation will be 10-15 minutes.
12.	Back-up & preparing for the presentation	Back-up class & preparing for the presentation
13.	Presentation	Presentation
14.	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting your ideas in English (Third edition)

Pearson

Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。

欠席4回以上の場合は単位取得不可となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1単位

法1年：英語2組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

## 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックの延長、コロナの蔓延に伴い日本を訪れる外国人も少なく外国人と話す機会も少なくなりつつあります。各個人で積極的に英語に取り組めるような環境を作ってもらいたいと思う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

基本的には春学期と同じように授業を進行していく。教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をします。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にディスカッションを授業内で多く行う。大きなプレゼンテーションをおこなうまたそれぞれに詩を書いてもらい授業で発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading a poem	Reading Introduction to poetry What do I Remember of the Evacuation
2	What Do I Remember of the Evacuation	What did you think about the poem? Finding symbols and what they mean. What is poetry? Writing your own poem
3	Unit 10 My student life	Why do you go to university? Do you go to a university to get a good job?
4.	Unit 10	What does going to a university mean to you? Discuss the pros and cons of going to a university and why it is important?
5	Reciting your poem	Reciting your poem in front of the class
6	Unit 11 International relationship	The world is getting borderless.What do you think of international relationship.

7	Unit 11	What are some of the advantages and disadvantages of international marriage? Discuss.
8	Unit 12 Create another future	What is happening in the year 2200. Are the people in the 2100 responsible of what is happening in 2200?
9	Unit 12	What are the reasons for global warming. What can we do to stop global warming. Discuss.
10	Unit 20 A mother's story	What do you think about capital punishment?
11	Unit 20 Start preparing for the presentation	Is capital punishment necessary? Why do some criminals deserve capital punishment and some don't. What is a presentation. Class will be divided into groups and each group will discuss the theme of their choice and what they want to present to the class.
12	Unit 20 Preparing for the presentation	Discuss the pros and cons of capital punishment. Preparing for the presentation The presentation will be 10-15 minutes.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting Your Ideas in English (Third edition)  
Pearson  
Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光や海外旅行で使われる英語を学ぶ。

まず必要な語彙を学び、実際に使われる会話を聴き取り、また適切に表現することを目標とする。

シャドーイングの練習も行う。

## 【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。※初回授業は4月25日です。

クラス分けまでは共通課題に取り組んでください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第1課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第1課 In-Flight Announcements	第1課 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 口頭練習
5	第2課 At Immigration and Customs	単語 ディクテーション
6	第2課	第1課小テスト 発音 口頭練習
7	第3課 Getting to a Hotel	単語 ディクテーション
8	第3課	第2課小テスト 発音 口頭練習
9	第4課 Checking into a Hotel	第3課小テスト 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 口頭練習
11	第5課 Checking in without a Reservation	第4課小テスト 単語 ディクテーション

12	第5課	発音 口頭練習
13	第6課 At a Restarant	第5課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	春学期授業で学んだことを試験する。まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

単語帳の作成、書き取り練習に毎日1時間充ててほしい。

**【テキスト（教科書）】**

実用観光英語 -改訂新版- 鳥田 他著 2019年 成美堂  
1900円  
ISBN978-4-7919-7185-5

**【参考書】**

辞書（電子辞書可）を必ず持つてくること。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

※今年は異例の授業設定ですので、教室での授業が行われない場合は、4回以上の課題提出の合算にて評価します。

平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

**【Outline and objectives】**

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

法1年：英語3組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

観光や海外旅行で使われる英語を学ぶ。

まず必要な語彙を学び、実際に使われる会話を聴き取り、また適切に表現することを目標とする。

シャドーイングの練習も行う。

**【到達目標】**

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求め、従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持つてくること。適宜、発表、レポートを課す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第7課	単語
3	Taking the Subway 第7課	ディクテーション 発音 口頭練習
4	第8課 At a Fast -Food Restaurant	7課小テスト 単語 ディクテーション
5	第8課	発音 口頭練習
6	第9課 Hotel Service	単語 ディクテーション
7	第9課	第8課小テスト 発音 口頭練習
8	第10課 Booking a Tour	単語 ディクテーション
9	第10課	第9課小テスト 発音 口頭練習
10	第11課 Health Care	単語 ディクテーション
11	第11課	第10課小テスト 発音 口頭練習
12	第12課 Shopping	第11課小テスト 単語 ディクテーション
13	予備日	復習・発表など

14 授業時試験 授業で学んだことを試験する。まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

単語帳の作成、書き取り練習に毎日1時間充ててほしい。

**【テキスト（教科書）】**

実用観光英語 -改訂新版- 鳥田 他著 2019年 成美堂  
1900円  
ISBN978-4-7919-7185-5

**【参考書】**

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

**【Outline and objectives】**

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

法1年：英語4組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

**【到達目標】**

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。  
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3回目	教科書1章	教科書に基づく演習（教科書1章）
4回目	教科書2章	教科書に基づく演習（教科書2章）
5回目	教科書3章	教科書に基づく演習（教科書3章）
6回目	教科書4章	教科書に基づく演習（教科書4章）
7回目	教科書1～4章（復習）	教科書1～4章の復習
8回目	教科書5章	教科書に基づく演習（教科書5章）
9回目	教科書6章	教科書に基づく演習（教科書6章）
10回目	教科書7章	教科書に基づく演習（教科書7章）
11回目	教科書8章	教科書に基づく演習（教科書8章）
12回目	教科書9章	教科書に基づく演習（教科書9章）
13回目	教科書5～9章（復習）	教科書5～9章の復習

14 回目 演説・スピーチを素材 演説・スピーチを素材にしたシャドーイング ドーイング演習  
演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモピア、2017年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ（ペレ出版）。

【成績評価の方法と基準】

演習（40%）、ライティング課題（40%）、試験（20%）

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対する不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれている。春学期・秋学期あわせて1年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を20週もくりかえすことで、途中でだれてしまうこともあるので、目先を変えて新鮮味を出せるように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが、実際には個人差が大きく、自宅学習をより効果的に伝達できるように心がけたい。1年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも、効果は十分に期待はせずである。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、スクリーンを使用。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法1年：英語4組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。

・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	教科書 10～14 章（復習）	教科書 10～14 章の復習
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）
11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）

- 13 回目 教科書 15～19 章（復 教科書 15～19 章の復習）
- 14 回目 インタビューを素材に インタビューを素材にしたシャドローイング演習 / パラグラフ・ライティング演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

翌週までに教室外でのシャドローイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

**【参考書】**

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドローイング（改定新版）』コスモピア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ペレ出版。

遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

**【成績評価の方法と基準】**

教室での演習（40%）、前の週の復習（40%）、試験（20%）

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対し、はたしてどこまで実践してもらえるかどうかという不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれており十分な手ごたえを実感することができた。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週くりかえすことにより途中でだれてしまいがちである。単調にならないように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドローイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが実際には個人差が大きく現れる。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも効果は十分に期待できるはずである。特に力点を置いているのが自主学習の方法の伝達であり、インプット・アウトプットをトレーニングするための手段は現代のメディア環境においては身のまわりに様々にありうる。自主学習の方法と習慣をより効果的に伝達できるように心がけたい。

**【Outline and objectives】**

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

**【到達目標】**

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from <a href="http://www.voanews">http://www.voanews</a> , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor.
第 4 回	differences/ commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, “Your Body Language May Shape Who You Are” (21:02) Q & A D. Work on presentations
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.

第 7 回	discussion	A. Select a short article from <a href="http://www.japantoday.com">http://www.japantoday.com</a> , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. work on presentations
第 8 回	Peer editing	A. Peer editing on typed paragraphs B. Group work on presentations
第 9 回	Short speeches	Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)
第 10 回	TED Talk	B. Tony Robbins TED Talk, “Why We Do What We Do”(21:45) C. Q & A
第 11 回	presentations	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.
第 12 回	presentations	2~3 group presentations + Q & A
第 13 回	get ready	2~3 group presentations + Q & A
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

None

**【参考書】**

As described throughout this syllabus

**【成績評価の方法と基準】**

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

**【学生の意見等からの気づき】**

None

**【Outline and objectives】**

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

**【到達目標】**

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking <a href="https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/">https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/</a>
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, “The Habits of Happiness,” Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.
第 7 回	Group Discussion	A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.

第 8 回	Read and discuss	A. Select a short article from <a href="http://www.japantoday.com">http://www.japantoday.com</a> , highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class. B. work on presentations
第 9 回	Short speeches	A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	Group discussions selected from list provided by instructor. See <a href="https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/">https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/</a>
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None

## 【参考書】

As described throughout this syllabus

## 【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

## ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

## 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Tme expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough

- 13 Unit 6. Are you a pessimist? Predictions. Opposites
- 14 Unit 6. The meaning of dreaming Review of verb forms: present, past, and future.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

## 【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

## 【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

\*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes and songs.

## 【学生が準備すべき機器他】

Bring an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

## 【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法1年：英語6組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

## 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

**【参考書】**

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

Use the CD Rom in the textbook and the English File app

**【成績評価の方法と基準】**

In-class performance\* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

\*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students requested more partner changes.

**【学生が準備すべき機器他】**

Bring an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

**【Outline and objectives】**

Use English and express yourself.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

**ヴァイハート ロビン フランク**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

**【到達目標】**

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	3A Trip Aside	be going to, airports.
7	3C Word games	defining relative clauses, paraphrasing.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.
11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.
14	6C The meaning of dreaming	review of verb forms, modifiers.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

**【参考書】**

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/Paper and writing utensils.

## 【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

## ヴァイハート ロビン フランク

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/paper and writing utensils.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills.  
Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

## 新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、基礎的な英語運用能力を身につけることを目標とする。

効率的な電子辞書の使用方法を指導する。

## 【到達目標】

高校までに学習した英語・基本的な文法を理解することができる。  
電子辞書を使用し、多彩なテーマの英語資料を理解し、必要な知識・情報を把握することができるようになる。

英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。  
更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

①各 Unit で使用される難解な語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。

②ニュースの英語を効果的に聞き取り、内容を把握する。

③ニュース内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、複数のパラグラフからなる短いレポートを書き、口頭発表などを行う。

④予習をしていることを前提に授業を進めて行く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 1	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 1	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 2	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 2	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 3	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 3	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 4	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in

9	Unit 4	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
10	Unit 5	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 5	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
12	Unit 6	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 6	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	前期の復習 試験	Unit 1-Unit 6

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べる。

②英文の構造・文法事項を確認する。

③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

注意：1回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書：CNN:ビデオで見る世界のニュース(21)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2020年

価格：1900円

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

法1年：英語8組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、基礎的なリスニング能力を身につけることを目標とする。

電子辞書の効率的な使用方法を指導する。

#### 【到達目標】

高校までに学習した英語・基本的な文法の復習をする。

英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。

更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

学生さんの積極的な授業参加を前提に授業を進めていく。

予習をして授業に臨むこと。

同義語・反意語、イディオム、連語などを授業内に確認するので、必ず辞書を持参すること。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 7	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 7	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 8	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 8	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 9	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 9	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 10	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 10	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz

10	Unit 11	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 11	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
12	Unit 12	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 12	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	後期の復習 試験	Unit 7-Unit 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べる。

②英文の構造・文法事項を確認する。

③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：CNN: ビデオで見る世界のニュース (21)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版

出版年：2020年

価格：1900円

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

法1年：英語9組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

## 【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities. The materials will be taken from the text as well as outside the text. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, reading comprehension.
7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Interchange activity: Asking classmates to borrow, lend or refuse to lend something.

10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories; notetaking
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing your own story; Groups: creating a news story.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening test plus grammar, vocabulary and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and feedback of Spring term.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

There will be weekly assignments mainly from the text. Students are expected to come to class fully prepared, having completed the assigned homework and thus able to contribute to class activities.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

**【参考書】**

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

**【成績評価の方法と基準】**

The grading criteria for this course is as follows:

Oral dictation and vocabulary quizzes, Unit tests:50%

Participation (including the timely completion of all homework assignments) 25%

Individual and small group presentations: 25%

\*Attendance: Please note that in principle no more than three absences will be permitted in the term. Unless a valid reason is provided (i.e. emergency medical or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

**【学生の意見等からの気づき】**

NA (新担当者のためなし)

**【Outline and objectives】**

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

**English 2 II**

2017 年度以降入学者

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 9 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

**【到達目標】**

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to listening and occasional DVD showings.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	DVD: Culture shock Exercises and discussion.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Listening and reading	Units 5&6 test
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Listening and vocabulary about environmental issues. Exercises and practice.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Group discussion
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.

11	Environmental solutions	Group topic presentations on various environmental issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people. Exercises and practice.
13	Famous people in Japanese history.	Biography presentations: Famous person
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed all assigned homework from the previous class, and thus able to participate in current class discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

## 【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

## 【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Oral dictation and vocabulary quizzes, Unit Tests:50%

Participation: (including the timely completion of homework assignments both written and reading) 25%

Performance in individual and group presentations: 25%

\*In principle no more than 3 absences are permitted throughout the term. Without a valid reason, (i.e. medical emergency, family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

## 【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

## 【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

## 【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

## IMPORTANT UPDATE:

Please check the Hosei Learning Management System (HOP-P11) for this class to get the updated information regarding the online classes.

習熟度別クラス編成の遅れにより、このクラスでの授業開始は 5 月 30 日（土）からとなります。

The starting date of this class has been delayed until May 30, 2020 due to the delayed online use of the ELPA a Test.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms - words with two different meanings

Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got	Further references will be provided by the instructor during the class.
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life	<b>【成績評価の方法と基準】</b> Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test. - Active participation in class: 20% (In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course) - Writing assignments and tests: 40% - Presentations: 40%
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)	<b>IMPORTANT UPDATE:</b> Please check the Hosei Learning Management System (HOP-PII) for this class to get the updated information regarding the online classes and grading criteria. 習熟度別クラス編成の遅れにより、このクラスでの授業開始は5月30日(土)からとなります。 The starting date of this class has been delayed until May 30, 2020 due to the delayed online use of the ELPA a Test.
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives	<b>【学生の意見等からの気づき】</b> There are no student comments that would require major changes to the course. The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things	<b>【その他の重要事項】</b> The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend	<b>【Outline and objectives】</b> Learning English for active communication in the international environment
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms - going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans	
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty	
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

**【参考書】**

English to English dictionary:  
<https://dictionary.cambridge.org/>

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

## 【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann - archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history

Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

## 【参考書】

English to English dictionary: <https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

## 【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

## 【その他の重要事項】

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

## 【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

## 【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	1A Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.
②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of of a paragraph.
④	1D The Devil's Dictionary Defining relative clauses	Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
⑤	2A Right place, wrong time Simple past tense, regular and irregular verbs	Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
⑥	2B A moment in time Past continuous tense	Prepositions of time and place: in, on, at. The development of a paragraph: writing concluding sentences, peer editing.

- ⑦ 2C Fifty years of pop music  
Questions with and without auxiliaries  
Question words. Pop music.  
Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions.
- ⑧ 2D One October evening  
So, because, but, although. Midterm Exam  
Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process.
- ⑨ 3A Where are you going?  
Going to, present continuous (future arrangements)  
Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments.
- ⑩ 3B The pessimist's phrase book  
Will/Won't (predictions)  
Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations.
- ⑪ 3C I'll always love you  
Will/ Won't (promises, offers, decisions)  
Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs.
- ⑫ 3D I was only dreaming  
Review of Tenses: present, past, and future  
Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs.
- ⑬ 4A From rags to riches  
Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?  
Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals.
- ⑭ 4B Family conflicts  
Present perfect + yet and already.  
Final Exam  
Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

American English File 2 by Oxford University Press 2008  
ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor

**【参考書】**

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%

Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. Students who miss four classes will not receive credit for the course.

**【学生の意見等からの気づき】**

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」  
「先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」  
「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」  
「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

**【その他の重要事項】**

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

**【Outline and objectives】**

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

## 【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infinitive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.
③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.
④	5D The name of the game Expressing movement.	Prepositions of movement, sports. Editing thesis statements. Identifying thesis statements in academic journals.
⑤	6A If something bad can happen, it will If + present: will + base form (first conditional)	Confusing verbs. Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
⑥	6B Never smile at a crocodile If + past; would + base form (second conditional)	Animals. Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.

⑦	6C Decisions, decisions May/ Might (possibility)	Word building; noun formation. Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
⑧	6D What should I do? Should / Shouldn't Midterm Exam	Get, sentence stress. Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
⑨	7A Famous fears and phobias? Present perfect + for and since	Words related to fear. Opinion essay responses, Editorials.
⑩	7B Born to direct Present perfect of simple past?	Biographies. Newspaper editorials and responses.
⑪	7C I used to be a rebel Used to	School subjects; history, geography, etc. Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
⑫	7D The mothers of invention Passive	Verbs; invent, discover, etc. Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
⑬	8A I hate weekends! Something, anything, nothing 8B How old is your body? Quantifiers, too, not enough	Adjectives ending in -ed and -ing. Writing timed essays. Health and Lifestyle. Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
⑭	8C Waking up is hard to do Word order of phrasal verbs. 8D "I'm Jim." "So am I." so/ neither + auxiliaries Final Exam	Phrasal Verbs. Similarities. Return of final essays.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

American English File 2 by Oxford University Press 2008 ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos will be provided by the instructor

## 【参考書】

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%  
Homework and writing assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. Students who miss four classes will not receive credit for the course.

## 【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」[先生が非常にやさしい]「役に立つ表現を覚えられました」  
 「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」  
 「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

## 【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

リチャード・パロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

## 【到達目標】

Through a variety of stimulating topics and the study & practice of a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required. Students will be able to read samples before practicing various writing tasks. Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Placement Test	English 2 - Unified Assignment 1
Week 3	Introduction to Online English Study	English 2 - Unified Assignment 2
Week 4	Online Orientation	English 2 - Unified Assignment 3
Week 4	Writing 1 - Format & process	The writing process & correct formatting
Week 5	Writing 2 - Pre-Writing	Topic choice, brainstorming, editing
Week 6	Writing 3 - Paragraph Structure	Topic, supporting & conclusion sentences
Week 7	Writing 4 - Paragraph Development	Details, explanation & example
Week 8	Writing 5 - Description A	Descriptive Paragraphs - Place
Week 9	Writing 6 - Description B	Descriptive Paragraphs - Person
Week 10	Writing 7 - First draft review	Reviewing, revising & rewriting

Week 12	Writing 8 -Process	Explaining order
Week 13	Writing 9 - Opinion	Expressing ideas with facts & examples
Week 14	Writing 10 - Review	Course Overview

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students will be required to produce a printed report using the type of paragraphs, the grammatical structures and the vocabulary studied & practiced during the class. The report must be printed on A4 paper, using the correct format and submitted to the teacher by the next lesson. The length of the report may vary but these assignments, including pre-writing & review are expected to take approximately 90 minutes.

**【テキスト（教科書）】**

Writing Essays (Macmillan) By Dorothy E Zemach & Lisa Ghulldu

**【参考書】**

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

**【成績評価の方法と基準】**

Grades will be decided according to the following criteria:

60% - Homework Assignments

40% - Final Report

Failure to submit homework assignments during the semester will affect students' grades.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students will have the opportunity, through the HOPPII educational support system, to contact & ask for guidance from the instructor throughout the semester.

**【学生が準備すべき機器他】**

Access to a printer & PC in order to print reports

**【その他の重要事項】**

A desire & effort to improve & practice English composition skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

**【Outline and objectives】**

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

LANe100LA

**English 2 II**

2017 年度以降入学者

リチャード・パロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

**【到達目標】**

To give the students confidence to communicate in English with the improvement in listening skills & extensive vocabulary acquisition during the first part of the semester. The second part of the course will provide students with further stimulating writing tasks & further compositional practice using models of writing that are based on real assignments, in order for them to master a multi-paragraph report.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

During the first half of the semester, students will preview theme & vocabulary before watching 2 short excerpts from the film. After viewing, they will work with a partner in English on comprehensive questions, before completing a review.

In the second half of the semester, each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Course Explanation	Introduction to the Fall Semester
Week 2	Bend It Like Beckham 1	An Indian & a British girl who love football.
Week 3	Bend It Like Beckham 2	Coach Joe & the womens'team
Week 4	Bend It Like Beckham 3	The trip to Germany
Week 5	Bend It Like Beckham 4	Jess vs Jules
Week 6	Bend It Like Beckham 5	The Wedding

Week 7	Bend It Like Beckham 6	Going to America
Week 8	Paragraph Review	A review of paragraph structure & format from the spring semester
Week 9	The Structure of an Essay	Introduction, body & concluding paragraphs
Week 10	Problem/Solution Paragraphs	Analysing & answering problems
Week 11	Outlines	How to plan a report
Week 12	Introductions & Conclusions	How to start & finish a report
Week 13	Comparison & Contrast	Writing about similarities & differences
Week 14	Writing Review	Final Evaluation

**【Outline and objectives】**

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. During the first half of the semester, there will be weekly vocabulary preparation & a review exercise, and students will be required to submit a final report on one of the themes raised in the film.

During the second half of the semester, students will be expected to prepare regular English reports which will be assigned on a weekly basis. These must be printed on A4 paper and will require approximately 1 - 2 hours of study time depending on the student's level and the level of difficulty of the report as students progress to multi-paragraph essays during the term. A maximum of 3 absences will be permitted per semester.

**【テキスト（教科書）】**

'Writing Essays' by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.  
Publisher: Macmillan Language House (second half, to be continued from spring semester)

**【参考書】**

An electronic dictionary or smartphone dictionary is required at every lesson.

**【成績評価の方法と基準】**

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

**【学生が準備すべき機器他】**

Access to a PC & Printer in order to print reports.

**【その他の重要事項】**

Regular attendance & a desire to improve & practice English communication & writing skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

Patrick M McEvilly

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

## [Course Objectives]

1. To give students maximum opportunities to communicate.
2. To build student confidence in interpersonal communication.
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

## 【到達目標】

This course aims to improve the students fluency and communicative skills.

The students will get practice in discussions, how to do research and how to give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions / Question words	Where were you born? What is your hobby?
Week 2	Getting to know you / Reading - A Blind Date	Discussion - Talking about your friends
Week 3	Whatever makes you happy / She works in comedy clubs	She makes people laugh
Week 4	Whatever makes you happy / Money - the best things in life are free	Discussion - What's important to you?
Week 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Week 6	The flight attendant who lost his cool	Discussion - Famous for 15 minutes
Week 7	Eat, drink, and be merry!	A couple talks about their diet.
Week 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants

Week 9	Looking forward - I'd like to work in New York.	The girl with two families
Week 10	Life in your twenties	Living at home/leaving home
Week 11	The way I see it	Multicultural London
Week 12	People talk about who they like in their family	Deciding what to do in Los Angeles
Week 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam
Week 14	Final Examination & Review	Will have short interviews with students covering the course materials

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 120 minutes each week to preview and review course content - the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and look at English language websites. CNN news programs

## 【テキスト（教科書）】

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Students please note that I will follow the University's attendance policy with no more than three (3) absences allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【Outline and objectives】

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

## [Course Objectives]

1. To give students maximum opportunities to communicate
2. To build student confidence in interpersonal communication
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

Patrick M McEvilly

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

[Course Objectives]

1. To give students maximum opportunities to communicate.
2. To build student confidence in interpersonal communication.
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

## 【到達目標】

This course aims to improve the students fluency and communicative skills.

The students will get practice in discussions, how to do research and how to give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Week 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Week 3	Girls and boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Week 4	Girls and boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Week 5	Time for a story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Week 6	Time for a story	My favorite writer - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Week 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story
Week 8	Our interactive world, Smartphones	On the phone - Can I speak to >>> ? I'm calling because ....

Week 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Week 10	Life's what you make it, Good news, bad news	Four generations of Gettys - a tragic dynasty
Week 11	Life's what you make it	Alison's life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Week 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Week 13	Review	Smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Week 14	Final Examination and Review	Discussion question on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to spend 120 minutes each week to preview and review course content - the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and look at English language websites. CNN news programs

## 【テキスト (教科書)】

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【Outline and objectives】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

Course Objectives]

1. To give students maximum opportunities to communicate
2. To build student confidence in interpersonal communication
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is to provide the foundation for students to form and develop their own ideas and opinions. Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities and exercises. In the first term there will be greater emphasis on the development of writing skills. In addition, guidance will be given to students on how best to present their ideas.

## 【到達目標】

Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. By the end of the course students should have an understanding of structure, logic and grammatical correctness which they should demonstrate in their speaking, listening and writing activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Course Components and Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing Active Listening Practice
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph Use of Dictionary
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing Order Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Clustering Active Listening Practice
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting

10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing Active Listening Practice
11	Organizing an Instructional Paragraph	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation Activity and Review
14	Term Review Quiz	Submit Final Assignment

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Review and Preparation for classwork participation activities and quizzes (1.5 hours).

Writing homework based on specific grammar points; assignments (1-2 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 3rd Edition

## 【参考書】

Good Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Classwork (including participation and attitude) &amp; Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Due to the ongoing Covid 19 crisis the above schedule will be subject to change. Initially, teaching will be conducted online and the content and grading system will take this into account. Once the normal teaching environment has been restored we shall return to the above syllabus

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide the foundation for students to form and develop their own ideas and opinions. Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities and exercises. In the first term there will be greater emphasis on the development of writing skills. In addition, guidance will be given to students on how best to present their ideas.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the techniques introduced in the first term, attention will focus on extending students' in-depth writing skills and building up and developing their presentation skills. Students will have the opportunity to enhance and broaden their communication skills through extensive practice in order to demonstrate their ability to express their opinions and ideas in a clear and effective manner both orally and in the written form.

## 【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the skills necessary for them to become competent and effective communicators in English across a wide variety of situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. There will be a greater emphasis on the discussion and presentation of ideas in this part of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Introduction to Presentations Techniques	Overview of Presentation Models
3	Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
4	Organising a Presentation	Analyse Three-Part Structure
5	Presentation Practice	Students deliver short presentations Review
6	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs
7	How to Enhance Descriptions	Practice on the Use of Adjectives and Prepositions
8	Paragraphs that Persuade	How to Use Reasons and Examples to Support Ideas
9	Paragraph Development	Practice Using Transition Signals to Introduce Reasons and Examples
10	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
11	Writing Points Review	Review Quiz

12	Final Term Assignment	Students choose a topic to write and to present
13	Final Presentations Group A	Complete Written Topic
14	Final Presentations Group B	Feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork participation activities and quizzes (1.5 hours).

Writing homework based on specific grammar points; assignments (1-2 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman

## 【参考書】

Good Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following:

Classwork &amp; Homework 35%

Quizzes 30%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

The above schedule is subject to change

## 【Outline and objectives】

Building on the techniques introduced in the first term, attention will focus on extending students' in-depth writing skills and building up and developing their presentation skills. Students will have the opportunity to enhance and broaden their communication skills through extensive practice in order to demonstrate their ability to express their opinions and ideas in a clear and effective manner both orally and in the written form.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

Genc Burcu

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a course aiming to assist students in acquiring basic communication skills in English. Students will be supplied with various listening, speaking, reading and writing exercises to help them improve all four language skills and express themselves in basic daily conversations.

## 【到達目標】

In this course, students will learn practical English to develop competence and confidence in everyday conversations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This is an interactive class with some lecture in each class. Students will practice English through weekly writing assignments, pair-works, group presentations, and a variety of listening exercises from the textbook and some other supplementary sources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English II	Class contents and policies
2	Meeting People	Exchanging personal information
3	Childhood Memories	Talking and writing about childhood memories
4	Rush Hour and Transportation	Asking and giving information
5	City Services	Short group Presentations
6	Unit Test I	Unit 1 & 2
7	Houses and Apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail to look for an apartment
8	Lifestyle Changes and Wishes	Talking about one's lifestyle and expressing wishes
9	Food and Snacks	Expressing likes and dislikes
10	Cooking Methods and Recipes	Group presentations on food recipes
11	Household Chores	Family life, housemates, making requests
12	Complaints, Excuses, Apologies	Complaints, and apologies in context
13	Vacations and Travel Safety	Vacation planning and travel advice
14	Unit Test II	Unit 3, 4, & 5

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 2, 5th Edition Jack C. Richards Cambridge University Press 2017 ¥ 3,245

## 【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2

## 【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%

Group Presentations: 15%

Homework and assignments: 10%

Unit Tests and quizzes: 55 %

Please keep in mind that no more than 3 absences are allowed throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

## 【学生の意見等からの気づき】

Supplementary listening exercises will be provided based on the student comments.

## 【Outline and objectives】

This is a course aiming to assist students in acquiring basic communication skills in English. Students will be supplied with various listening, speaking, reading and writing exercises to help them improve all four language skills and express themselves in basic daily conversations.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

Genc Burcu

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

## 【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and effectively express themselves in an English speaking environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term	Student expectations and objectives
2	Technology: The World of Computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological Devices	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Celebrations and Special Events	Describing festivals, and special events; Group presentations: a traditional event
5	Customs across the World	Talking about different customs across the globe
6	Life in the Past	Talking about change and making comparisons between the past and the present
7	Unit Test I	Units 7 & 8
8	What the Future Holds	Making predictions about future
9	Abilities and skills	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits
10	Careers and Job	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
11	World Landmarks and Monuments	Talking about modern wonders. Describing landmarks
12	World Knowledge: Cities and Countries	Discussing facts about cities and countries; group presentations

13 Storytelling Describing recent past events

and experiences

14 Unit Test II

Units 9, 10 &amp; 11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%

Group Presentations: 15%

Homework and assignments: 10%

Unit Tests and quizzes: 55%

Please keep in mind that no more than 3 absences are allowed throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

In addition to pair-work, more group presentations will be encouraged to further facilitate learning and to make the classes more engaging.

【Outline and objectives】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

**【到達目標】**

- ・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
- ・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習（教科書 1 章）
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習（教科書 2 章）
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習（教科書 3 章）
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習（教科書 4 章）
7 回目	教科書 1～4 章（復習）	教科書 1～4 章の復習
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習（教科書 5 章）
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習（教科書 6 章）
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習（教科書 7 章）
11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習（教科書 8 章）
12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習（教科書 9 章）
13 回目	教科書 5～9 章（復習）	教科書 5～9 章の復習

14 回目 演説・スピーチを素材 演説・スピーチを素材にしたシャドーイング ドーイング演習  
演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

**【参考書】**

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモビア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ（ペレ出版）。

**【成績評価の方法と基準】**

演習（40%）、ライティング課題（40%）、試験（20%）

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対する不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれている。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週もくりかえすことで、途中でだれてしまうこともあるので、目先を変えて新鮮味を出せるように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが、実際には個人差が大きく、自宅学習をより効果的に伝達できるように心がけたい。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも、効果は十分に期待はせずである。

**【学生が準備すべき機器他】**

DVD、スクリーンを使用。

**【Outline and objectives】**

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

## 【到達目標】

- ・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
- ・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。
- ・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	教科書 10～14 章（復習）	教科書 10～14 章の復習
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）
11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）

13 回目 教科書 15～19 章（復 教科書 15～19 章の復習）

14 回目 インタビューを素材に インタビューを素材にしたシャドーイング演習／パラグラフ・ライティング演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

## 【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモピア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ベレ出版。

遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

## 【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40 %）、前の週の復習（40 %）、試験（20 %）

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対し、はたしてどこまで実践してもらえるかどうかという不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれており十分な手ごたえを実感することができた。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週くりかえすことにより途中で慣れてしまいがちである。単調にならないように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが実際には個人差が大きく現れる。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも効果は十分に期待できるはずである。特に力を置いているのが自主学習の方法の伝達であり、インプット・アウトプットをトレーニングするための手段は現代のメディア環境においては身のまわりに様々にありうる。自主学習の方法と習慣をより効果的に伝達できるように心がけたい。

## 【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

Genc Burcu

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a course aiming to assist students in acquiring basic communication skills in English. Students will be supplied with various listening, speaking, reading and writing exercises to help them improve all four language skills and express themselves in basic daily conversations.

## 【到達目標】

In this course, students will learn practical English to develop competence and confidence in everyday conversations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This is an interactive class with some lecture in each class. Students will practice English through weekly writing assignments, pair-works, group presentations, and a variety of listening exercises from the textbook and some other supplementary sources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English II	Class contents and policies
2	Meeting People	Exchanging personal information
3	Childhood Memories	Talking and writing about childhood memories
4	Rush Hour and Transportation	Asking and giving information
5	City Services	Short group Presentations
6	Unit Test I	Unit 1 & 2
7	Houses and Apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail to look for an apartment
8	Lifestyle Changes and Wishes	Talking about one's lifestyle and expressing wishes
9	Food and Snacks	Expressing likes and dislikes
10	Cooking Methods and Recipes	Group presentations on food recipes
11	Household Chores	Family life, housemates, making requests
12	Complaints, Excuses, Apologies	Complaints, and apologies in context
13	Vacations and Travel Safety	Vacation planning and travel advice
14	Unit Test II	Unit 3, 4, & 5

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 2, 5th Edition Jack C. Richards Cambridge University Press 2017 ¥ 3,245

## 【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2

## 【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%

Group Presentations: 15%

Homework and assignments: 10%

Unit Tests and quizzes: 55%

Please keep in mind that no more than 3 absences are allowed throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

## 【学生の意見等からの気づき】

Supplementary listening exercises will be provided based on the student comments.

## 【Outline and objectives】

This is a course aiming to assist students in acquiring basic communication skills in English. Students will be supplied with various listening, speaking, reading and writing exercises to help them improve all four language skills and express themselves in basic daily conversations.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

Genc Burcu

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

## 【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and effectively express themselves in an English speaking environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term	Student expectations and objectives
2	Technology: The World of Computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological Devices	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Celebrations and Special Events	Describing festivals, and special events; Group presentations: a traditional event
5	Customs across the World	Talking about different customs across the globe
6	Life in the Past	Talking about change and making comparisons between the past and the present
7	Unit Test I	Units 7 & 8
8	What the Future Holds	Making predictions about future
9	Abilities and skills	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits
10	Careers and Job	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
11	World Landmarks and Monuments	Talking about modern wonders. Describing landmarks
12	World Knowledge: Cities and Countries	Discussing facts about cities and countries; group presentations
13	Storytelling	Describing recent past events and experiences
14	Unit Test II	Units 9, 10 & 11

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

## 【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%

Group Presentations: 15%

Homework and assignments: 10%

Unit Tests and quizzes: 55%

Please keep in mind that no more than 3 absences are allowed throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

## 【学生の意見等からの気づき】

In addition to pair-work, more group presentations will be encouraged to further facilitate learning and to make the classes more engaging.

## 【Outline and objectives】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

## 【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Course methods, rules etc. Needs and desires: Excerpts from Phantom of the Opera and Nosferatu	Students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	Lon Chaney and the making of monsters; The penalty and the Hunchback of Notre Dame	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	Lon Chaney and The Phantom of The Opera The Evil and the Ugly.	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	The Historical Dracula, the Literary Dracula and the Making of Nosferatu; Merhage's Shadow of The Vampire	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	The Universal Dracula and the revisionist Bram Stoker's Dracula	All Class activity #4; small group work and listening , note taking

week 6	The Creation and the Fall, the Garden and Forbidden fruit Interview with a Vampire. Evil as a choice	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	Review of Vampire Choice, Dracula and and Bram Stoker's Dracula .	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	A Marxist Reading of Dracula? Shadow of The vampire, Blood for Dracula	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Screening of Frankenstein (1931)	While watching activities and information gap tasks
week 10	Biblical Allegory : Creation of Man, Greek Mythology: The Theft of Fire, The Wind Mill as Cross.	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	The Monster: Guilty or Innocent?	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Introduction to and screening of Part I of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Close analysis of and Screening second part of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Dr J and Mr. H. and the Freudian interpretation of the film	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments,short writing assignments or research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade. A maximum of three absences are permitted each semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

## 【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Transformations: The Universal Wolfman	students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	The Style and new approach of John Braum's the Undying Monster	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	John Braum's The Lodger and the Real Jack	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	Screening of The Cat People	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	Close Analysis of The cat People	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Style and themes of Val Newton films: I walked with a Zombie	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	TheStyle and Themes of Newton films part two: The Leopard Man	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	Robert wises The Haunting Part One	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Robert Wises The Haunting Part two	While watching activities and information gap tasks

week 10	The "baggage we carry, The haunting as psychological Trauma explained	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	Whatever Happened to Baby Jane or the horror that dwells within the family.	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Alfred Hitchcock Psycho Part One	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Alfred Hitchcock's Psycho Part two	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Psycho: The Style and content.	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments,short writing assignments or research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

A maximum of three absences are permitted each semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい

## 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックの延長、コロナの蔓延に伴い日本を訪れる外国人も減るなかで外国人と話す機会も減るとおもわれる。そのような状況下で各個人が積極的に英語を話せるようにしてほしいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。またこのような状態なので教室で授業をすることが困難な状況でありオンライン授業となるものとおもわれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1	Introducing yourself by interacting with your partner in English Unit 1
2	Unit 1	What is your first impression of people, what do you look for in others, what is the most attractive to you? Preparing for a discussion .
3	Unit 1 Unit 3 The Good Language Learner	Continuation of the previous unit. Do you disagree with what Iris, Shin and Anna are saying and why. Discussion on what appearance and personality/ lifestyle mean to you and what the class mates think about it. What is a local language?
4	Unit 3	What do you think about the local language, what does becoming international mean

5	Unit 3	Is English an international language? Do we have to be able to speak English? Discussion on the pros and cons of learning English
6	Unit 5 Forever Single	What do you think about being single. What are the merits or demerits of being single or getting married. Discussion on the pros and cons of marriage and staying single. Which do you agree with.
7	Unit 5	What is climate change? Does food have any relation with climate change and global warming?
8	Unit 7 What's for Lunch	What do you think of the problem of the fast food industry. Does staying health contribute to climate change? Discussion on what is healthy and what is not.
9	Unit 7	What is online posting? What are the dangers of online posting? Did you have any problems posting on line or do you know of anyone having troubles because of that.
10	Unit 8 Your Online Past	What are the dangers of on line posting? Discussion of the use of SNS. Merits and demerits in using a tablet, smart phone or a computer. What is a presentation.
11	Unit 8 Start preparing for the presentation	Continuation of the previous class. Class will be divided into groups and discuss the theme of their choice to present to the rest of the class. The theme will be of the group's interest. The presentation will be 10-15 minutes.
12	Unit 8 Back-up and preparing for the presentation.	Presentation
13	Presentation	Test
14	Test	

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting your ideas in English  
Pearson Third edition

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等 15%、期末試験 70% 計 100%。とする。なお 60% が合格とする。欠席 4 回以上の場合は単位取得不可となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

もう少しゆっくと話す。

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

## 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

基本的には春学期と同じように授業を進行していく。教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にディスカッションを授業内で多く行う。春学期同様大きなプレゼンテーションをおこなうまたそれぞれに詩を書いてもらい授業で発表してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading a poem	An introduction to poetry. Reading What do I Remember of the Evacuation
2	What Do I Remember of the Evacuation	What did you think about the poem? Finding symbols and what they mean. What is poetry? Writing your own poem
3	Unit 10 My student life	Why do you go to a university? Do you go to a university to get a good job?
4	Unit 10	What does going to a university mean to you? Discuss the pros and cons of going to a university and why it is important?
5	Reciting your poem	Reciting your poem
6	Unit 11 International Relationship	The world is getting borderless.What do you think of international relationship.
7	Unit 11	What are some of the advantages and disadvantages of international marriage? Discuss.

8	Unit 12 Create another future	What is happening in the year 2100. Are the people in the 2100 responsible of what is happening in 2200?
9	Unit 12	What are the reasons for global warming. What can we do to stop global warming. Discuss.
10	Unit 20 A mother's story Start preparing for the presentation	What do you think of capital punishment. What is a presentation
11	Unit 20 Preparing for the presentation	Is capital punishment necessary? Why do some criminals deserve capital punishment and some don't. Class will be divided into groups and each group will discuss the theme and what they want to present to the class.
12	Back-up class Preparing for the presentation	Discuss the pros and cons of capital punishment.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting Your Ideas in English (Third edition)  
Pearson  
Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。欠席4回以上の場合は単位取得不可となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

## ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

## 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough

13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

## 【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

## 【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

\*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes and songs.

## 【学生が準備すべき機器他】

Bring an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

## 【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

## 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

## 【参考書】

Use the CD Rom in the textbook and the English File app. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

## 【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

\*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students requested more chances to listen to the songs.

## 【学生が準備すべき機器他】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

## 【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光や海外旅行で使う英語を学ぶ。

リスニングではカタカナ英語とネイティブの発音の違いを学び、実際に発音できるようにする。また、シャドーイングの練習も行う。

5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

## 【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

※初回授業は 4 月 25 日です。

クラス分けまでは共通課題に取り組んでください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課	この教科書の使い方
3	第 1 課	第 1 課
	接客コミュニケーション	単語
4	第 1 課	リスニング 発音 口頭練習
5	第 2 課	単語
	機内サービス	リスニング
6	第 2 課	第 1 課小テスト 発音 口頭練習
7	第 3 課	単語
	Getting to a Hotel	ディクテーション
8	第 3 課	第 2 課小テスト 発音 口頭練習
9	第 4 課	第 3 課小テスト
	面接重視の航空会社	単語 ディクテーション
10	第 4 課	発音 口頭練習
11	第 5 課	第 4 課小テスト
	チケット販売	単語 ディクテーション

12	第 5 課	発音 口頭練習
13	第 6 課	第 5 課小テスト アトラクション 単語 ディクテーション
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

## 【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年三修社 1700 円

ISBN978-4-384-33477-7

## 【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。  
 欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。  
 ※今年度は異例の授業設定ですので、教室での授業が行われない場合は、4 回以上の課題提出の合算にて評価します。

平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光や海外旅行で使う英語を学ぶ。

リスニングではカタカナ英語とネイティブの発音の違いを学び、実際に発音できるようにする。また、シャドーイングの練習も行う。

5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

## 【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 7 課	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 トラブル発生	単語 リスニング
3	第 7 課	発音 口頭練習
4	第 8 課 業界の先輩メッセージ	7 課小テスト 単語 リスニング
5	第 8 課	発音 口頭練習
6	第 9 課 ホテル業務内容	単語 リスニング
7	第 9 課	第 8 課小テスト 発音 口頭練習
8	第 10 課 料飲部門	単語 リスニング
9	第 10 課	第 9 課小テスト 発音 口頭練習
10	第 11 課 トラブル発生	単語 リスニング
11	第 11 課	第 10 課小テスト 発音 口頭練習

12	第 12 課 ホテル業界就職活動	第 11 課小テスト 単語 リスニング
13	第 12 課 ホテル業界情報	発音 口頭練習
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

## 【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年  
三修社 1700 円  
ISBN978-4-384-33477-7

## 【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

## ヴァイハート ロビン フランク

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	3A Trip Aside	be going to, airports.
7	3C Word games	defining relative clauses, paraphrasing.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.
11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.

14 6C The meaning of review of verb forms, modifiers, dreaming

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook/Paper and writing utensils.

【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ヴァイハート ロビン フランク

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法1年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/paper and writing utensils.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、基礎的な英語運用能力を身につけることを目標にします。

効率的な電子辞書の使用方法を指導する。

## 【到達目標】

高校までに学習した英語・基本的な文法を理解することができる。電子辞書を使用し、多彩なテーマの英語資料を理解し、必要な知識・情報を把握することができるようになる。

英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。

更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

学生さんの積極的な授業参加を前提に授業を進めていく。

予習をして授業に臨むこと。

同義語・反意語、イディオム、連語などを授業内に確認するので、必ず辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 1	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 1	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 2	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 2	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 3	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 3	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 4	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 4	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz

10	Unit 5	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 5	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
12	Unit 6	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 6	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	前期の復習 試験	Unit 1-Unit 6

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べる。

②英文の構造・文法事項を確認する。

③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：CNN:ビデオで見る世界のニュース (21)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2020 年

価格：1900 円

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、基礎的なリスニング能力を身につけることを目標にします。

電子辞書の効率的な使用方法を指導する。

## 【到達目標】

高校までに学習した英語・基本的な文法の復習をする。

英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。

更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

学生さんの積極的な授業参加を前提に授業を進めていく。

予習をして授業に臨むこと。

同義語・反意語、イディオム、連語などを授業内に確認するので、必ず辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 7	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 7	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 8	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 8	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 9	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 9	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 10	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 10	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz

10	Unit 11	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 11	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
12	Unit 12	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 12	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	後期の復習 試験	Unit 7-Unit 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べる。

②英文の構造・文法事項を確認する。

③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：CNN: ビデオで見る世界のニュース (21)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2020 年

価格：1900 円

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

## 【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities. The materials will be taken from the text as well as outside the text. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, reading comprehension.
7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Asking classmates to borrow items; lending or refusing to lend something.

10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing about your own story. Create your own news stories.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening for details, grammar and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and preview of Fall semester topics.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

## 【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

## 【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit tests: 50%

Participation (including \*attendance and the timely completion of all homework assignments, reading and writing) 25%

Individual and small group presentations: 25%

\*Attendance: Please note that in principle no more than three absences will be permitted in the term. Unless a valid reason is provided (i.e. emergency medical or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

## 【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

## 【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

## 【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to Interchange DVD showings.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	DVD: Culture shock Exercises and discussion.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Listening and reading	Units 5&6 test
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Reading and listening to environmental issues.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Exercises and practice.
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.

11	Environmental solutions	Group topic presentations on various issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people. Exercises and practice.
13	Famous people in Japanese history.	Biography presentations: Famous person
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ¥ 2750

## 【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

## 【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:  
Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit Tests: 50%  
Participation: (including \*attendance and the timely completion of homework assignments both written and reading: 25%  
Performance in individual and group presentations: 25%  
\*In principle no more than 3 absences are permitted throughout the term. Without a valid reason, (i.e. medical emergency, family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

## 【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

## 【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 2 I is a basic discussion course for first year university students.

The spring course has five main objectives:

1. To improve basic English skills quickly (Basic English Skills Program / BES in the contents)
2. To learn basic discussion skills on non-academic topics using the textbook
3. To improve writing skills using the textbook to write unit outlines and summaries
4. To successfully write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)
5. To improve critical thinking skills (批判的思考スキル)

## 【到達目標】

Course Goal

The goal of the course is to provide students with basic practical communication skills useful for entry-level employment in:

1. A Japanese global company (日本のグローバル企業)
2. Foreign global company (in Japan) 外国のグローバル企業
3. Public servant positions (公務員)
4. Japanese non-governmental organizations (NGOs)
5. Or other university courses taught all or partly in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes:

1. Using classroom language
2. Practicing with partners or in groups,
3. Non-study related speaking with classmates (My Change Japan program)
4. Speaking tests (of course)

\*\*Japanese can be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language HW: Unit 1 Task 1 Vocabulary

Lesson 2	Vacations I (Unit 1)	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook (TB) Overview TB Unit 1 Vacations Tasks 2, 1, 3 Homework (HW): Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II (Unit 1)	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences TB Unit 1 Tasks 4-6, 7 and 8 HW: Complete Unit 1 online exercises Unit 2 Task 1 Vocabulary Unit 1 Practice Test (Do at home)
Lesson 4	Movies I (Unit 2)	Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms TB Unit 2 Tasks 2,1, 3 Skills: Complete plan for Outlining, Summarizing, Begin the answer exercises, Paragraph (OSBP)
Lesson 5	Movies II (Unit 2)	BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) TB Unit 2 Tasks 4-6, 7 OSBP HW: Complete Unit 2 online exercises
Lesson 6	Movies III (Unit 2)	BES 6: WH Question and Answer Forms TB: Unit 2 Task 8 Understanding 'Criteria' OSBP HW: Unit 3 Task 2 Vocabulary
Lesson 7	Dating I (Unit 3)	BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) TB Unit 3 Tasks 2, 1, 3 OSBP
Lesson 8	Dating II (Unit 3)	BES 8: Follow-up Questions TB: Unit 3 Tasks 4-6, 7, 8 OSBP HW: Unit 4 Task 2 Vocabulary Complete Unit 3 online exercises
Lesson 9	Part-time Jobs I (Unit 4)	BES 9: Rebound Questions TB: Unit 4 Tasks 2, 1, 3 OSBP
Lesson 10	Part-time Jobs II (Unit 4)	BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs HW: Complete Unit 4 online exercises Unit 3 Practice Test
Lesson 11	Review and catch up week	Discussion Test Explanation / Final writing assignment time to finish
Lesson 12	Evaluation and Preparation	Unit 4 Final Paper Test Preparation for Interactive Speaking / Discussion Test
Lesson 13	Testing and Evaluation	Interactive Speaking / Discussion Test

Lesson Course Wrap Up 14  
Return of tests and assignments  
Grade idea calculation  
Ideas for further study  
Print file check

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework during the course:

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Specific homework assignments include:

1. Online exercises. For each unit
- Exercise 1: Vocabulary
- Exercise 2: Fill in the missing words (Cloze)
- Exercise 3: Make questions (20 - 30 minutes every two weeks)
2. TB Task 2 Vocabulary (15 minutes every two weeks)
3. Writing:
  - a. 1 or 2 outlines maybe 30 minutes two times per semester
  - b. 1 unit summary maybe 30 minutes - 1 hour once per semester
  - c. Eiken Level 2 type composition - 2 - 4 hours per semester  
Time depends on the student
4. Preparation for role plays, short presentations, and speaking test (once or twice per semester 1-2 hours)

## 【テキスト（教科書）】

The textbook will be passed out in the second class.

## 【参考書】

A good English / Japanese  
Japanese / English  
Especially an English / English Dictionary -  
Paper, Electronic or smartphone  
Various applications required for Smartphones

## 【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion and other in-class oral checks (5%)
3. Regular and timely completion of unit online homework (10%)
4. Begin the answer... (5%)
5. Summarizing and outlining units (10%)
6. Writing an Eiken composition (10%)
7. Unit Test (20%)
8. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 5, 6, 7, 8(10%)

Students are expected to attend class regularly. In principle, no more than 3 absences per term are allowed  
Other details of attendance will be explained again in the first and second classes.

## 【学生の意見等からの気づき】

2019 English 2 students all wrote a research paragraph or essay on English high school education. This course will be dramatically changed based on what they wrote. Basic conversation will be emphasized in the spring term, and a wider variety of short writing tasks will be introduced.

## 【学生が準備すべき機器他】

Textbook will be distributed in the second class  
Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

## 【Outline and objectives】

Same as above

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Course Summary and Objectives

English 2 II (Fall) is a continuation of the spring course.

There are four objectives for the fall course:

1. Reach a basic academic discussion level
2. Research and writing objectives:
  - a. Write good answers to discussion questions
  - b. Write effective outlines quickly
  - c. Write or report (oral) effective unit summaries
3. Academic Writing: Write a composition useful for the Eiken Level Pre 1 (英検準 1 級)  
Prepare and give an effective group presentation

## 【到達目標】

Course Goal

Similar to the spring semester, the goal of the course is to provide students with basic practical communication skills useful for entry-level employment:

1. A Japanese global company (日本のグローバル企業)
2. Foreign global company (in Japan) 外国のグローバル企業
3. Public servant positions (公務員)
4. Japanese non-governmental organizations (NGOs)
5. Or use in other courses taught in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Similar to the spring semester the first language of the course is English. I will always use English first, and students should always use English first. This includes classroom language, practice in pairs or groups, communicating with friends classmates in English (Change Japan Program). Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

Students will be given a complete plan for the Research Writing Part of the Course in second or third class. Much of this will be independent study.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Fall Orientation	Welcome back! Review of rules or policies New rules or policies Basic Discussion Skill (BDS) 00 Classroom Q and A Textbook (TB) Unit 5 Learning English Tasks 2, 1, 3 Plan for independent study (writing components)

Lesson 2	Unit 5 Learning English (Pros and cons)	BDS O – Basic classroom language for discussion TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	2. Outlining / summarizing the transcripts for some units. (20 - 30 minutes every 2 weeks) 3. Preparation for role plays and short presentations such as the a unit summary (once or twice per semester 1 hour with group members) 4. Preparation for presentation several hours outside of class 5. Eiken Level Pre 1 type composition – 2-3 hours per semester As in the spring semester, about 1 hour per week of work is expected of students.
Lesson 3	Unit 5 Learning English (Support your opinion)	BDS 00 Reporting a discussion Fall composition update Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【テキスト (教科書)】 Same as spring
Lesson 4	Unit 6 Hopes and Dreams (Security or Happiness?)	BDS 1 What do you know? TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【参考書】 We may add more apps to smartphones
Lesson 5	Unit 6 Hopes and Dreams (Can you explain that?)	BDS 2 Topics vs Issues TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【成績評価の方法と基準】 1. Print file (5%) 2. Homework completion checked by answering in class (5%) 3. Short presentations or role plays for each unit (5%) 4. Online HW Completion (5%) 5. Outlining / Summarizing (10%) 6. Unit Test (20%) 7. Group PowerPoint Presentation (15%) 8. Discussion Test (25%) 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 6, 7, 8 (10%)
Lesson 6	Evaluation Unit 9 Family (Parasite Singles)	TB Unit 5 or 6 test TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	As in the spring semester, students are expected to attend classes regularly. In principle, students cannot miss more than 3 classes per semester. More details about attendance and other policies will be given in the first lesson.
Lesson 7	Unit 9 Family (Other family problems)	BDS 3 Start a Discussion TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【学生の意見等からの気づき】 Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.
Lesson 8	Unit 10 Social Networking (Pros and Cons)	BDS Issue – Question - Opinion TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【学生が準備すべき機器他】 Same as spring semester, standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)
Lesson 9	Unit 10 Social Networking (Communication today)	TB Tasks 4-6, 7, 8 Presentation Preparation Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【Outline and objectives】 Same as above
Lesson 10	Evaluation	Presentations	
Lesson 11	Evaluation	Presentations	
Lesson 12	Evaluation	Final TB Test (Unit 9 or 10) Last presentations Discussion test preparation	
Lesson 13	Evaluation	Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up	Return of tests and assignments Grade idea calculation Ideas for further study Print file check	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Before the fall semester:

1. Students should review textbook units from the spring semester.
2. Students should also learn about their PCs.
  - a. learn MS Word and MS PowerPoint skills. There are many tutorials on YouTube in Japanese.

Word <https://www.youtube.com/watch?v=6BEswvUvj9U>

PowerPoint <https://www.youtube.com/watch?v=gij-zGOLyw>

- b. Improve keyboarding <https://www.typingclub.com/> is a good place to upgrade quickly.

During the course: The amount of work is similar to the spring semester.

1. Online exercises (3 per unit) (20 - 30 minutes every 2 weeks)

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

## 【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	1A Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.
②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of a paragraph.
④	1D The Devil's Dictionary Defining relative clauses	Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
⑤	2A Right place, wrong time Simple past tense, regular and irregular verbs	Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
⑥	2B A moment in time Past continuous tense	Prepositions of time and place: in, on, at. The development of a paragraph: writing concluding sentences, peer editing.

- ⑦ 2C Fifty years of pop music  
Questions with and without auxiliaries
- ⑧ 2D One October evening  
So, because, but, although. Midterm Exam
- ⑨ 3A Where are you going?  
Going to, present continuous (future arrangements)
- ⑩ 3B The pessimist's phrase book  
Will/Won't (predictions)
- ⑪ 3C I'll always love you  
Will/ Won't (promises, offers, decisions)
- ⑫ 3D I was only dreaming  
Review of Tenses: present, past, and future
- ⑬ 4A From rags to riches  
Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?
- ⑭ 4B Family conflicts  
Present perfect + yet and already. Final Exam
- Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions. Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process. look (for, through, etc.) Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments. Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations. Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs. Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs. Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals. Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

American English File 2 by Oxford University Press 2008 ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor

## 【参考書】

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%

Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. Students who miss four classes will not receive credit for the course.

#### 【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」  
「先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」  
「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」  
「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

#### 【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

#### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

アンドリュウ・チェン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

#### 【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infinitive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.
③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.
④	5D The name of the game Expressing movement.	Prepositions of movement, sports. Editing thesis statements. Identifying thesis statements in academic journals.
⑤	6A If something bad can happen, it will If + present: will + base form (first conditional)	Confusing verbs. Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
⑥	6B Never smile at a crocodile If + past; would + base form (second conditional)	Animals. Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.

⑦	6C Decisions, decisions May/ Might (possibility)	Word building; noun formation. Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
⑧	6D What should I do? Should / Shouldn't Midterm Exam	Get, sentence stress. Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
⑨	7A Famous fears and phobias? Present perfect + for and since	Words related to fear. Opinion essay responses, Editorials.
⑩	7B Born to direct Present perfect of simple past?	Biographies. Newspaper editorials and responses.
⑪	7C I used to be a rebel Used to	School subjects; history, geography, etc. Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
⑫	7D The mothers of invention Passive	Verbs; invent, discover, etc. Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
⑬	8A I hate weekends! Something, anything, nothing 8B How old is your body? Quantifiers, too, not enough	Adjectives ending in -ed and -ing. Writing timed essays. Health and Lifestyle. Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
⑭	8C Waking up is hard to do Word order of phrasal verbs. 8D "I'm Jim." "So am I." so/ neither + auxiliaries Final Exam	Phrasal Verbs. Similarities. Return of final essays.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

American English File 2 by Oxford University Press 2008  
ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos will be provided by the instructor

**【参考書】**

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%

Homework and writing assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. Students who miss four classes will not receive credit for the course.

**【学生の意見等からの気づき】**

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」【先生が非常にやさしい】「役に立つ表現を覚えられました」

「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」【大変だけど、やりがいのある授業でした】「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」【先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た】

**【その他の重要事項】**

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

**【Outline and objectives】**

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities and exercises.

## 【到達目標】

Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. Students will be expected to show an understanding of structure, logic and grammatical correctness in their speaking, listening and writing activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Course Components and Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing Active Listening Practice
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph Use of Dictionary
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing Order Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Clustering Active Listening Practice
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing Active Listening Practice

11	Organizing an Instructional Paragraph	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation Activity and Review
14	Term Review Quiz	Submit Final Assignment

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork participation activities and quizzes (1.5 hours).

Writing homework based on specific grammar points; assignments (1-2 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 3rd Edition

## 【参考書】

Good Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Classwork (including participation and attitude) & Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Due to the ongoing Covid 19 crisis the above schedule will be subject to change. Initially, teaching will be conducted online and the content and grading system will take this into account. Once the normal teaching environment has been restored we shall return to the above syllabus

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide the foundation for students to form and develop their own ideas and opinions. In the first term there will be greater emphasis on the development of writing skills. In addition, guidance will be given to students on how best to present their ideas.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the techniques introduced in the first term, students will have the opportunity to enhance and broaden their overall writing and oral communication skills.

## 【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the skills necessary for them to become competent and effective communicators in English across a wide variety of situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. There will be a greater emphasis on the discussion and presentation of ideas in this part of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Introduction to Presentations Techniques	Overview of Presentation Models
3	Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
4	Organising a Presentation	Analyse Three-Part Structure
5	Presentation Practice	Students deliver short presentations Review
6	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs
7	How to Enhance Descriptions	Practice on the Use of Adjectives and Prepositions
8	Paragraphs that Persuade	How to Use Reasons and Examples to Support Ideas
9	Paragraph Development	Practice Using Transition Signals to Introduce Reasons and Examples
10	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
11	Writing Points Review	Review Quiz
12	Final Term Assignment	Students choose a topic to write and to present
13	Final Presentations Group A	Complete Written Topic
14	Final Presentations Group B	Feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork participation activities and quizzes (1.5 hours).

Writing homework based on specific grammar points; assignments (1-2 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman

## 【参考書】

Good Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following:

Classwork & Homework 35%

Quizzes 30%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

## 【Outline and objectives】

In the second term attention will be focused on extending students' in-depth writing skills and building up and developing their presentation skills. Students will be expected to demonstrate their ability to express their opinions and ideas in a clear and effective manner both orally and in the written form.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

## 【到達目標】

Through a variety of stimulating topics and the study & practice of a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required. Students will be able to read samples before practicing various writing tasks. Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Placement Test	English 2 - Unified Assignment 1
Week 3	Introduction to Online English Study	English 2 - Unified Assignment 2
Week 4	Online Orientation	English 2 - Unified Assignment 3
Week 4	Writing 1 - Format & process	The writing process & correct formatting
Week 5	Writing 2 - Pre-Writing	Topic choice, brainstorming, editing
Week 6	Writing 3 - Paragraph Structure	Topic, supporting & conclusion sentences
Week 7	Writing 4 - Paragraph Development	Details, explanation & example
Week 8	Writing 5 - Description A	Descriptive Paragraphs - Place
Week 9	Writing 6 - Description B	Descriptive Paragraphs - Person
Week 10	Writing 7 - First draft review	Reviewing, revising & rewriting

Week 12	Writing 8 -Process	Explaining order
Week 13	Writing 9 - Opinion	Expressing ideas with facts & examples
Week 14	Writing 10 - Review	Course Overview

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be required to produce a printed report using the type of paragraphs, the grammatical structures and the vocabulary studied & practiced during the class. The report must be printed on A4 paper, using the correct format and submitted to the teacher by the next lesson. The length of the report may vary but these assignments, including pre-writing & review are expected to take approximately 90 minutes.

## 【テキスト (教科書)】

Writing Essays (Macmillan) By Dorothy E Zemach & Lisa Ghulldu

## 【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

60% - Homework Assignments

40% - Final Report

Failure to submit homework assignments during the semester will affect students' grades.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students will have the opportunity, through the HOPPII educational support system, to contact & ask for guidance from the instructor throughout the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

## 【その他の重要事項】

A desire & effort to improve & practice English composition skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

## 【到達目標】

To give the students confidence to communicate in English with the improvement in listening skills & extensive vocabulary acquisition during the first part of the semester. The second part of the course will provide students with further stimulating writing tasks & further compositional practice using models of writing that are based on real assignments, in order for them to master a multi-paragraph report.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

During the first half of the semester, students will preview theme & vocabulary before watching 2 short excerpts from the film. After viewing, they will work with a partner in English on comprehensive questions, before completing a review.

In the second half of the semester, each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Explanation	Introduction to the Fall Semester
Week 2	Bend It Like Beckham 1	An Indian & a British girl who love football.
Week 3	Bend It Like Beckham 2	Coach Joe & the women's team
Week 4	Bend It Like Beckham 3	The trip to Germany
Week 5	Bend It Like Beckham 4	Jess vs Jules
Week 6	Bend It Like Beckham 5	The Wedding

Week 7 Bend It Like Beckham 6 Going to America

Week 8 Paragraph Review A review of paragraph structure &amp; format from the spring semester

Week 9 The Structure of an Essay Introduction, body &amp; concluding paragraphs

Week 10 Problem/Solution Paragraphs Analysing &amp; answering problems

Week 11 Outlines How to plan a report

Week 12 Introductions &amp; Conclusions How to start &amp; finish a report

Week 13 Comparison &amp; Contrast Writing about similarities &amp; differences

Week 14 Writing Review Final Evaluation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. During the first half of the semester, there will be weekly vocabulary preparation & a review exercise, and students will be required to submit a final report on one of the themes raised in the film.

During the second half of the semester, students will be expected to prepare regular English reports which will be assigned on a weekly basis. These must be printed on A4 paper and will require approximately 1 - 2 hours of study time depending on the student's level and the level of difficulty of the report as students progress to multi-paragraph essays during the term. A maximum of 3 absences will be permitted per semester.

## 【テキスト（教科書）】

'Writing Essays' by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.

Publisher: Macmillan Language House (second half, to be continued from spring semester)

## 【参考書】

An electronic dictionary or smartphone dictionary is required at every lesson.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation &amp; Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

## 【その他の重要事項】

Regular attendance & a desire to improve & practice English communication & writing skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

**【Outline and objectives】**

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

**【到達目標】**

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from <a href="http://www.voanews">http://www.voanews</a> , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor
第 4 回	differences/ commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A D. Work on presentations
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.

第7回	discussion	A. Select a short article from <a href="http://www.japantoday.com">http://www.japantoday.com</a> , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. work on presentations
第8回	Peer editing	A. Peer editing on typed paragraphs B. Group work on presentations
第9回	Short speeches	Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)
第10回	TED Talk	B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45)
第11回	presentations	C. Q & A Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.
第12回	presentations	2~3 group presentations + Q & A
第13回	get ready	2~3 group presentations + Q & A
第14回	conversation	active and fun conversation board game

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None

## 【参考書】

As described throughout this syllabus

## 【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法1年：英語 29組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

## 【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第2回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking <a href="https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/">https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/</a>
第3回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第4回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第5回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第6回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.
第7回	Group Discussion	A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.

第 8 回	Read and discuss	A. Select a short article from <a href="http://www.japantoday.com">http://www.japantoday.com</a> , highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class. B. work on presentations
第 9 回	Short speeches	A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	Group discussions selected from list provided by instructor. See <a href="https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/">https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/</a>
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

None

**【参考書】**

As described throughout this syllabus

**【成績評価の方法と基準】**

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

**【学生の意見等からの気づき】**

None

**【Outline and objectives】**

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

Patrick M McEvilly

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

**【Course Objectives】**

1. To give students maximum opportunities to communicate.
2. To build student confidence in interpersonal communication.
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

**【到達目標】**

This course aims to improve the students fluency and communicative skills.

The students will get practice in discussions, how to do research and give presentations.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions / Question words	Question words - Where were you born? What is your hobby?
Week 2	Getting to know you / Reading - A Blind Date,	Discussion - Talking about your friends
Week 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Week 4	Whatever makes you happy / Money - the best things in life are free	Discussion - What's important to you?
Week 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Week 6	The flight attendant who lost his cool	Discussion - Famous for 15 minutes
Week 7	Eat, drink, and be merry!	A couple talks about their diet.
Week 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Week 9	Looking forward, I'd like to work in New york.	The girl with two families

Week 10	Life in your twenties	Living at home/leaving home
Week 11	The way I see it	Multicultural London
Week 12	People talk about who they like in their family	Deciding what to do in Los Angeles
Week 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam
Week 14	Review and Final Exam	Will have short interviews with students covering the course materials

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two credit course and around an hour a week for a one credit course. Students will be asked to prepare some readings in advance and to review some exercises or material covered in class.

## 【テキスト（教科書）】

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Students please note that I will follow the University's attendance policy with no more than three (3) absences allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【Outline and objectives】

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

## 【Course Objectives】

1. To give students maximum opportunities to communicate.
2. To build student confidence in interpersonal communication.
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

Patrick M McEvilly

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

## 【Course Objectives】

1. To give students maximum opportunities to communicate.
2. To build student confidence in interpersonal communication.
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

## 【到達目標】

This course aims to improve the students fluency and communicative skills.

The students will get practice in discussions, how to do research and how to give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Week 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Week 3	Girls and Boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Week 4	Girls and Boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Week 5	Time for a story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Week 6	Time for a story	My favorite writer - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Week 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story
Week 8	Our interactive world / Smartphones	On the phone - Can I speak to >>> ? I'm calling because ....

Week 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy
Week 10	Life's what you make it/Good news, bad news	Four generations of Gettys - a tragic dynasty
Week 11	Life's what you make it	Alison's life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Week 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Week 13	Review	Smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Week 14	Final Examination and Review	Discussion questions on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

University guidelines suggest 4 hours of preparation and review for a two-credit course and around an hour a week for a one credit course. Students will be asked to prepare some reading assignments in advance and to review exercises or material covered in class.

**【テキスト（教科書）】**

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press

**【参考書】**

None.

**【成績評価の方法と基準】**

[Method of evaluation]

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Students please note that I will follow the University's attendance policy with no more than three (3) absences allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not applicable.

**【学生が準備すべき機器他】**

None.

**【Outline and objectives】**

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

[Course Objectives]

1. To give students maximum opportunities to communicate.
2. To build student confidence in interpersonal communication.
3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 1 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

**【到達目標】**

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online ("Core Vocabulary") before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Final exam	Vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

**【参考書】**

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

**【成績評価の方法と基準】**

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, homework, and quizzes (35%)
- 3) Final exam (45%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

**【学生の意見等からの気づき】**

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely or mostly in English. You are encouraged to participate actively, express your ideas clearly, and explain logically.

**【Outline and objectives】**

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 1 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

**【到達目標】**

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently. In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary

9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Final exam - 1	Review test on vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

#### 【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

#### 【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, assignments, and quizzes (40%).
- 3) Final exam (40%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely/mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

#### 【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 2 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、スピーチ（プレゼンテーション）、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

#### 【到達目標】

文を暗唱することの重要性を理解する。  
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。  
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。  
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようになる。  
効果的なスピーチのやり方を習得する。  
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。  
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン授業開始は6月5日。  
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は6月5日（金）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。以下対面式授業の場合だが、オンライン授業でも基本的にこれに準じる授業を行う予定。  
授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。  
様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。  
テキスト掲載のエッセーをモデルにして、様々な形式のエッセイを作成する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	英語ニュースの聞き取りとシャドーイングを行う。
2	Conclusions/Reasons 型エッセイの理解。	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 意見サポート型（結論・理由）のエッセイの構造を理解する。

- 3 **Conclusions/Reasons** 型エッセイの実践。指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。  
意見サポート型（分析）のエッセイの和訳をする。
- 4 **Conclusions/Reasons** 型エッセイの作成。指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。  
アメリカ人肥満化のニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
意見サポート型（分析）のエッセイのレイアウトを作成する。
- 5 **Analysis** 型エッセイの理解。指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。  
東日本大震災の被災地の現状を伝えるニュースを聞く。  
意見サポート型（分析）のエッセイの構造を理解する。
- 6 **Analysis** 型エッセイの実践。指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。  
筋トレ老化防止貢献に関するニュースを聞く。  
意見サポート型（分析）のエッセイを英訳する。
- 7 **Analysis** 型のエッセイの作成。イラクの問題を扱うニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
意見サポート型（分析）のエッセイのレイアウトを作成する。
- 8 **Theory/Proof** 型のエッセイの理解。健康問題を扱うニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
意見サポート型（理論・結論）のエッセイの構造を理解する。
- 9 **Theory/Proof** 型のエッセイの実践。アメリカ大統領選挙に関するニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
意見サポート型（理論・結論）のエッセイを英訳する。
- 10 **Theory/Proof** 型のエッセイの作成。女性の銃所有者増大の自己紹介を行う。  
意見サポート型（理論・結論）のエッセイレイアウトを作成する。
- 11 **Controversy** 型のエッセイの理解。喫煙の問題を扱うニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
列挙比較型（論争）のエッセイの構造を理解する。
- 12 **Controversy** 型のエッセイの実践。野生動物に対する餌やりが招く悲劇を伝えるニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
列挙比較型（論争）のエッセイを英訳する。
- 13 **Controversy** 型のエッセイの作成。テロ事件のニュースを聞く。  
自己紹介を行う。  
列挙比較型（論争）のエッセイを書く。
- 14 提出されたエッセイに対するフィードバック。添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。  
学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。

授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。  
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。  
英文エッセイの作成（春学期に二度）。

**【テキスト（教科書）】**

石谷由美子他、『Skills for Better Writing < Basic > 構造で書く英文エッセイ < 初級編 >』（南雲堂）

**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

以下対面式授業に戻った場合。

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。

一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

原則的に遅刻は認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

リスニング教材をより興味深いものにする。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

**【その他の重要事項】**

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

**【Outline and objectives】**

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には 3 時間前後、エッセイ作成には 6 時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

## 【到達目標】

文を暗唱することの重要性を理解する。  
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。  
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。  
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。  
英語エッセーの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセーを作成できるようになる。  
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。  
様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。  
テキスト掲載のエッセーをモデルにして、様々な形式のエッセーを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Classification 型エッセーの理解。	アラスカのクマに関する聞く。列挙比較型（分類）のエッセーの構造を理解する。
2	Classification 型エッセーの実践。	スポーツ関連のニュースを聞く。列挙比較型（分類）のエッセーを英訳する。
3	Classification 型エッセーの作成。	ナキウサギ絶滅の危機に関するニュースを聞く。列挙比較型（分類）のエッセーのアウトラインを作成する。
4	Instructions 型エッセーの理解。	アメリカの同性愛者の現状に関するニュースを聞く。列挙比較型（指示）のエッセーの構造を理解する。
5	Instructions 型エッセーの実践。	自然災害に関するニュースを聞く。列挙比較型（指示）のエッセーを英訳する。

6	Instructions 型エッセーの作成。	グリズリー絶滅の危機を伝えるニュースを見る。列挙比較型（指示）のエッセーのアウトラインを作成する。
7	Chronological Order 型のエッセーの理解。	アメリカの銃所持の問題を扱うニュースを聞く。順序直線型（歴史）のエッセーの構造を理解する。
8	Chronological Order 型のエッセーの実践。	運転中のメールの危険性に関するニュースを聞く。順序直線型（歴史）のエッセーを英訳する。
9	Chronological Order 型のエッセーの作成。	アフガニスタンの現状に関するニュースを聞く。順序直線型（歴史）のエッセーのラインあるとを作成する。
10	提出されたエッセーに対するフィードバック。	添削されたエッセーをコメントを添えて返却する。学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。
11	Cause and Effect 型エッセーの理解。	米大統領選挙に関するニュースを聞く。順序直線型（原因と結果）のエッセーの構造を理解する。
12	Cause and Effect 型エッセーの実践。	アメリカの教育問題を扱うニュースを聞く。順序直線型（原因と結果）のエッセーを英訳する。
13	Cause and Effect 型エッセーの作成。	食糧危機に関するニュースを聞く。順序直線型（原因と結果）のエッセーのアウトラインを作成する。
14	提出されたエッセーに対するフィードバック。	添削されたエッセーをコメントを添えて返却する。学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には 3 時間前後、エッセー作成には 6 時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセーのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。  
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。  
英文エッセーの作成（秋学期に二度）。

## 【テキスト（教科書）】

石谷由美子他、『Skills for Better Writing < Basic > 構造で書く英文エッセー < 初級編 >』（南雲堂）

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。  
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。  
4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。  
原則的に遅刻は認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。  
ライティングの比重を高くする。  
英語で発言する機会を増やす。

**【その他の重要事項】**

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

**【Outline and objectives】**

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

**【到達目標】**

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks,	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Introducing yourself, Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 6	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	Quiz Units 1-2 Presentation #1 Describing positive and negative features, making comparisons,

Week 7	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 8	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 9	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 10	Unit 5 Going places	Quiz Units 3-4 Presentation #2 Describing vacation plans
Week 11	Unit 5 Going Places	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 12	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Making requests Accepting and refusing
Week 13	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Complaining, apologizing, making excuses
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Presentation #3

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**  
Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week.

**【テキスト（教科書）】**  
Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

**【参考書】**  
Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Workbook  
Vocabulary development:  
<https://quizlet.com/KreggJ>  
<https://www.memrise.com/>

**【成績評価の方法と基準】**  
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.  
Homework 25%  
Class participation 15%  
Quizzes/Tests 40%  
Speech/Presentation 20%  
\* Students must attend 80% of the classes in order to pass  
Students missing more than 3 classes will fail the class

**【学生の意見等からの気づき】**  
Increased emphasis on expressing and responding to opinions

**【Outline and objectives】**  
In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

**【到達目標】**

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 7 What's this for?	Describing technology an its uses Giving instructions
Week 2	Unit 7 What's this for?	Giving suggestions Using imperatives
Week 3	Unit 8 Let's celebrate	Describing holidays, festivals, and customs
Week 4	Unit 8 Let's celebrate	Using relative clauses of time. Giving advice and suggestions
Week 5	Evaluation	Quiz Units 7-8 Presentation #1
Week 6	Unit 9 Describing change	Contrasting time: past, present, future Describing possibilities
Week 7	Unit 9 Describing change	Using conditional sentences, Explaining future consequences
Week 8	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Describing abilities and skills
Week 9	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Describing personality traits Giving reasons for opinions
Week 10	Evaluation	Quiz Units 9-10 Presentation #2
Week 11	Unit 11 Places worth seeing	Talking about landmarks, monuments Describing countries

Week 12	Unit 11 Places worth seeing	Offering and discussing facts Using passive voice without "by"phrase
Week 13	Unit 12 Narrating past events	Using past continuous with simple past Talking about someone's past
Week 14	Unit 12 Narrating past events	Describing recent experiences

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

Preparation and review are around an hour a week.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

## 【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the course.

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test	Speaking and listening
8	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence.
9	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence.
11	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.

12	Unit 6 What are friends for? Unit 7 What's for lunch?	Unit 6: speaking and writing task - things close friends do for each other. Unit 7: Speaking and writing task - deciding which foods are healthy.
13	Unit 7 What's for lunch?	Presentation: what I eat.
14	Final test	Reading, writing, and listening.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)  
ISBN 9789813134386  
Pearson

## 【参考書】

Worksheets  
Handouts  
Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)  
Homework completion (30%)  
Mid-semester test (25%)  
Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your digital literacy skills.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university.
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student.
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place.
7	Mid-semester test	Speaking and listening
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
11	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.

12	1) Writing 2) Unit 16 What makes you happy?	1) Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion. 2) Speaking and writing task: what makes a person happy?
13	Unit 16 What makes you happy?	Presentation: my ideas for happiness.
14	Final test	Reading and writing

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)  
ISBN 9789813134386  
Pearson

## 【参考書】

Worksheets  
Handouts  
Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)  
Homework completion (30%)  
Mid-semester test (25%)  
Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。プレゼンテーションは原稿なしで発表することが義務付けられる。その際、発音の正確さが必須であるので、音声指導も発音矯正を兼ね徹底される。

## 【到達目標】

- ・ 1 分間スピーチを毎回授業の最初に行い、人前で英語で話すことになれる。翌週に「何を話すかを 1 週間英語で考える準備期間も英語で考える習慣をつけるのに有効である。
- ・ ニュースメディアの内容を CD や DVD で音からの内容理解を実施する。まず、音と意味を一致させた語彙を脳内に input させて語彙力を増やさない限り、コミュニケーション能力は伸びない事を自覚させる。
- ・ paragraph writing を毎回違ったトピックで書かせて習得する。翌週に添削して feedback する。
- ・ up to date なトピックについて discussion の機会を与える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月末とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduce how to proceed this class. Self Introduction in English	Introduce how to produce the correct English sounds and the structure of English sentences, marking, slash reading and paragraph writing.
2	Legacy of Captain Mariner paragraph writing students will be given a certain topic.	warm-up exercises vocabulary check(definition of soar, tactical, log) Listen to CD and Watch DVD comprehension check [予習]Legacy of Captain Mariner の vocabulary の予習。30分。 [復習] テキストを確実な音で再現する事で音と意味が一致した語彙を構築する。20分。

3	to complete news story 1 students will hand in their homework	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ discuss what they think about her. [予習] 演習問題の残りを完成。要約文の cloze quiz /h/の脱落 what do you know about U.S. Navy? 40分。 [復習] 本文の音読を正確な音で再現し、音と意味が一致した語彙を脳内に input。20分。	8	presentation	make a speech based on each one's draft [予習] 与えられたトピックで paragraph を書き、口頭で発表できるように発音などに意識を高めて練習。power point などを利用することも考慮。40分。 [復習] self-evaluation の項目に答える。20分。
4	America strong: Foster Grandparents	warm-up exercises vocabulary check(definition of spoil, nurture, stipend) Listen to CD and watch DVD comprehension check [予習] America Strong の vocabulary の予習。30分。本文の内容を事前把握 30分。 [復習] 本文を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。30分。	9	review of the news stories previously learned	read aloud in a more sound-conscious way review questions [予習] 既に学習したユニットについて疑問点をまとめる。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
5	to complete news story 2	text should be understood completely by checking the important expressions.(eg. to be overly indulgent) summarization/ discussion about these grandparents 40分。 [予習] 演習問題の残りを予習。要約文の cloze quiz What do you think of these grandparents? Are there any roles for senior citizens to play in society? discussion に向けて意見をまとめる。40分。 [復習] 本文を正確な音で再現する。20分	10	American ISIS Brides	warm-up exercises history of ISIS brides Through CD and DVD, how much the students can understand ? [予習] American ISIS Brides の vocabulary を予習。30分。本文を自分なりに把握。 [復習] 正確な音を意識して音読。
6	Assault Weapons Ban in New Zealand	warm-up exercises vocabulary check(definition of mass, emerge, steely ) Listen to CD and watch DVD comprehension check [予習] Assault Weapons Ban の vocabulary を予習。本文の内容を自分なりに把握。30分。 [復習] 本文の内容を正確な音で再現した音読で理解確認。30分。	11	to complete news story 5	review questions summarization and discuss what they think about the brides. [予習] translation, summarization を予習。現在完了形で表現。 [復習] 本文を正確な音で再現し、コミュニケーション能力を上げる。
7	to complete news story 3 presentation based on their drafts	text should be understood thoroughly by checking the important expressions.(eg. to come into view) summarization / discussion about gun violence and a law against guns [予習] 銃規制法に賛成それとも反対? について意見を纏める。1時間。 [復習] 正確な音でこの本文を再現し、コミュニケーション能力を上げる。20分。	12	Milestone Mission: virgin Galactic give the students the information about the final test	warm-up exercises preview questions vocabulary check (definition of blast, milestone, altitude) CD and DVD give them a chance to understand only through the sound. comprehension check [予習] vocabulary を予習。本文を自分なりに把握。 [復習] 正確な音で音読して内容理解。
			13	final test	according to the testing information given before, they should prepare for it.
			14	final presentation	the topic will be given two weeks before.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
BroadCast: ABC WORLD NEWS TONIGHT 2  
KINSEIDO 2,600

【参考書】  
not use

【成績評価の方法と基準】  
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】  
英語を口頭で表現し発表することに慣れていなくても、回数を重ねるごとに上達していくと実感する学生の意見が多い。とにかく先ずは喋ってみよう。

## 【その他の重要事項】

演習中心のため、欠席、遅刻に注意。

## 【Outline and objectives】

The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it. In order to get used to speaking in front of the other students, in the beginning of every class they will make one-minute speech on whatever they want to talk about. Through pair work, group activities, every student will interact with each other, which makes the class chemistry more dynamic. more positively and

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one-minute speech を充実させる。話す、聞く、書く、読むの 4 技能の習得。

## 【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。

DVD を字幕なしに理解する。

presentation: power point などを利用し、口頭発表を効果的に行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回の音読 / slash reading から本文の理解をする。

CD/DVD を使用して音声から理解を強化。

ライティング課題を各トピックについて提出。

presentation に向けて、draft を書き、口頭練習、視覚的な情報 power point などとも利用するとよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Notre Dame Cathedral: Full Damage Revealed learn how to write an essay	warm-up exercise vocabulary check (definition of collapse, douse, restore) cloze quiz Listen to CD and watch DVD marking read aloud [予習]Notre Dame の vocabulary の予習。本文を自分なりに把握。plus Media 上で streaming 視聴。30分。 [復習] テキストの正確な音声での再現で内容理解を正確にする。30分。
2	to complete the news story 7 the first essay writing assignment and the topic will be given	without reading the text understand DVD comprehension check translation and summarization [予習] 演習問題の残りを完成。 What do you know about the the partial destruction of Notre Dame?意見をまとめる。1時間。 [復習] 音読を数回繰り返し、音声だけで内容理解をする。20分。

3	Three-year-old Boy Fighting Cancer	warm-up exercise vocabulary check (definition of alternative, vow, tug of war) Listen to CD and watch DVD Marking Read aloud [予習]vocabulary の予習。自分で事前に内容把握を行う。 streaming 視聴できる。 与えられたトピックで essay writing を完成。 [復習] 本文を音読して、内容を正確に理解する。What legal battle is playing out in Florida? 2時間。 [復習] テキストを確実な音で再現し音声だけで内容理解できる。20分。	8.	Special Olympics Funding Furor	Vocabulary check (Definition of override, skewer, disabled, authorize) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。 streaming で cloze quiz を行う。30分。 [復習] 音読で内容把握を行う。30分。
4.	to complete the news story 8	DVD の字幕なしで内容が理解できるまで音読を徹底。 comprehension cloze quiz [予習] 演習問題の残りを事前に答える。Think of other parental rights. 40分 [復習] テキストを確実な音で再現し、コミュニケーション能力を上げる。20分。	9.	complete the news story 10 essay writing assignment and a new topic will be given	Without the English subtitle they are supposed to understand the text story Summarization: Why was the funding for the Special Olympics at risk? [予習] 課題のテーマについて意見をまとめる。vocabulary の予習。40分。 [復習] テキストを確実な音で音読し会話能力を強化。20分。
5.	Journey to the Edge	warm-up exercises vocabulary check (definition of recede, bedrock, stunning) Marking Read aloud Listen to CD & watch DVD [予習] vocabulary を予習。 streaming で視聴。自分で事前に内容把握。 40分。 [復習] テキストを確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。子音、語尾の音に意識を高める。20分。	10.	Measles Outbreak Quarantine in L.A.	Vocabulary check (expose, massive, exquisitely, linger) Listen to CD & watch DVD Marking (slash/ pronunciation) Read aloud [予習]essay writing のトピックについて書く。vocabulary の予習。2時間。 [復習] テキストを正確に音読して、内容把握。
6.	to complete the news story 9 essay writing assignment and a new topic will be given	The text will be read aloud and watch DVD without the English subtitle so as to understand it completely Summary and comprehension quiz What are the scientists learning from humpback whales? [予習] 演習問題の残りを事前に解答。40分。 [復習] テキストを確実な音で再現し字幕なしで内容が理解できるまで音読。20分。	11.	to complete the news story 12	Summarization: How widespread is the current outbreak of measles in the N.S.? [予習] ようやくの課題を事前にまとめる。1時間。 [復習] テキストを確実な音で再現し、DVD を字幕なしで理解する。probability に関連する副詞 allegedly, apparently, alleged believed の使い方を理解する。20分。
7.	presentation	Each student makes a speech in front of the other students based on their drafts. [予習] 与えられたトピックで essay writing. 口頭で発表できるように、念入りに発音をチェックして準備する。2時間。 [復習]self-evaluation の項目に答える。20分。	12.	Mayors Challenge Trump Who do you predict the winner of 2020 presidential race is? the information about the testing will be given	Vocabulary check (definition of outrageous, float, contradict, apprehend) Marking Reading aloud Listen to CD & watch DVD Discuss 2020presidential race. [予習] vocabulary の予習。音声を中心に事前に視聴して cloze quiz を行う。30分。 [復習] 本文を音読して内容把握。discussion について自分の意見を要約。
			13.	final test	review the previous units [予習] 試験範囲をチェックして準備する。3時間。 [復習] 解答出来なかった項目を再確認。20分。
			14.	final presentation	The students will make a speech based on their drafts. [予習]final speech に備えて入念に準備する。power point などを利用すると良い。3時間。 [復習]self-evaluation の項目に答える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の one-minute speech に向けて、自分で翌週話すトピックを探し、口頭でスピーチの練習をする。  
エッセイライティングの課題を自宅で仕上げ提出。  
各ユニットの音声の確認とスピーチの準備。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Broadcast: ABC WORLD NEWS TONIGHT 2  
KINSEIDO Kathleen Yamane 2, 6 0 0

## 【参考書】

no

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)・平常点 : presentation、paragraph/essay writing, pair work, group activities を含む (40%)。  
原則として、one-minute speech は直接の評価対象ではないが、授業の最初に実施するために、時間内にクラスにいることが前提となる。尚、4 回以上の欠席は単位習得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

英語でとにかくしゃべることに慣れる。

## 【学生が準備すべき機器他】

If you present your speech, you can use USB, PC and so on.

## 【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after learning how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through making one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with the words they've already known.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、グループでの課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

## 【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作と発表の時間も設ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit1-1	<b>Job Interview (1)</b> テキストを元に別れの挨拶を学び実際に使う訓練を行う
第 2 回	Unit1-2	<b>Job Interview (2)</b> 過去完了形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit2-1	<b>First Day on the Job (1)</b> テキストを元に依頼の表現を学び実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit2-2	<b>First Day on the Job (2)</b> 助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit3-1	<b>Hurricane on the Weekend (1)</b> テキストを元に反論の表現を学び実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit3-2	<b>Hurricane on the Weekend (2)</b> 関係代名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 7 回	Group project1	グループによる課題制作 (1) 与えられた課題についてグループで話し合う
第 8 回	Group project2	グループによる課題制作 (2) 与えられた課題について話した結果を発表する準備を行う
第 9 回	Presentation	グループによる発表 与えられた課題をグループで発表する
第 10 回	Unit4-1	<b>Andy's Makeover (1)</b> テキストを元に困惑の表現を学び実際に使う訓練を行う
第 11 回	Unit4-2	<b>Andy's Makeover (2)</b> 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う

第 12 回 Unit5-1	Andy Meets Christian (1) 聞き返す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 13 回 Unit5-2	Andy Meets Christian (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 14 回 期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
テキストを事前に読み課された宿題をする。  
授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。  
課題の制作や発表準備。

## 【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編 『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

## 【参考書】

特に定めない。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）  
宿題・課題（40%）  
期末試験（40%）  
欠席 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout the group project, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、グループでの課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

## 【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。  
英語で文章を書く技術を習得する。  
プレゼンテーション力を獲得する。  
英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作と発表の時間も設ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit6-1	Miranda's Request (1) テキストを元に希望を伝える表現を学び実際に使う訓練を行う
第 2 回	Unit6-2	Miranda's Request (2) 分詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit7-1	Nate's Birthday (1) テキストを元に驚きを示す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit7-2	Nate's Birthday (2) 仮定法の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit8-1	Andy's Decision (1) テキストを元に確認する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit8-2	Andy's Decision (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit9-1	Break up with Nate (1) テキストを元に提案する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 8 回	Unit9-2	Break up with Nate (2) 動名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 9 回	Group project 1	グループによる課題制作 (1) 与えられた課題についてグループで話し合う
第 10 回	Group project 2	グループによる課題制作 (2) 与えられた課題について話した結果を発表する準備を行う
第 11 回	Presentation	グループによる発表 与えられた課題をグループで発表する

第 12 回 Unit10-1	The Dream Job (1) テキストを元に意思・予定を述べる表現を学び実際に使う訓練を行う
第 13 回 Unit10-2	The Dream Job (2) 受動態の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 14 回 期末試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
テキストを事前に読み課された宿題をする。  
授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。  
課題の制作や発表準備。

**【テキスト（教科書）】**

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編 『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

**【参考書】**

授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（20%）

宿題・課題（40%）

期末試験（40%）

欠席 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout the group project, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

**【到達目標】**

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks,	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Introducing yourself, Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 6	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	Quiz Units 1-2 Presentation #1 Describing positive and negative features, making comparisons,

Week 7	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 8	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 9	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 10	Unit 5 Going places	Quiz Units 3-4 Presentation #2 Describing vacation plans
Week 11	Unit 5 Going Places	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 12	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Making requests Accepting and refusing
Week 13	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Complaining, apologizing, making excuses
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Presentation #3

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

## 【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Workbook  
Vocabulary development:  
<https://quizlet.com/KreggJ>  
<https://www.memrise.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

## 【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 7 What's this for?	Describing technology an its uses Giving instructions
Week 2	Unit 7 What's this for?	Giving suggestions Using imperatives
Week 3	Unit 8 Let's celebrate	Describing holidays, festivals, and customs
Week 4	Unit 8 Let's celebrate	Using relative clauses of time. Giving advice and suggestions
Week 5	Evaluation	Quiz Units 7-8 Presentation #1
Week 6	Unit 9 Describing change	Contrasting time: past, present, future Describing possibilities
Week 7	Unit 9 Describing change	Using conditional sentences, Explaining future consequences
Week 8	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Describing abilities and skills
Week 9	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Describing personality traits Giving reasons for opinions
Week 10	Evaluation	Quiz Units 9-10 Presentation #2
Week 11	Unit 11 Places worth seeing	Talking about landmarks, monuments Describing countries

Week 12	Unit 11 Places worth seeing	Offering and discussing facts Using passive voice without "by"phrase
Week 13	Unit 12 Narrating past events	Using past continuous with simple past Talking about someone's past
Week 14	Unit 12 Narrating past events	Describing recent experiences

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

Preparation and review are around an hour a week.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

## 【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the course.

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

## 【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Course methods, rules etc. Needs and desires: Excerpts from Phantom of the Opera and Nosferatu	Students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	Lon Chaney and the making of monsters; The penalty and the Hunchback of Notre Dame	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	Lon Chaney and The Phantom of The Opera The Evil and the Ugly.	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	The Historical Dracula, the Literary Dracula and the Making of Nosferatu; Merhage's Shadow of The Vampire	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	The Universal Dracula and the revisionist Bram Stoker's Dracula	All Class activity #4; small group work and listening , note taking

week 6	The Creation and the Fall, the Garden and Forbidden fruit Interview with a Vampire. Evil as a choice	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	Review of Vampire Choice, Dracula and Bram Stoker's Dracula .	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	A Marxist Reading of Dracula? Shadow of The vampire, Blood for Dracula	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Screening of Frankenstein (1931)	While watching activities and information gap tasks
week 10	Biblical Allegory : Creation of Man, Greek Mythology: The Theft of Fire, The Wind Mill as Cross.	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	The Monster: Guilty or Innocent?	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Introduction to and screening of Part I of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Close analysis of and Screening second part of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Dr J and Mr. H. and the Freudian interpretation of the film	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

#### 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

#### 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade. A maximum of three absences are permitted each semester.

#### 【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

#### 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

#### 【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Transformations: The Universal Wolfman	students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	The Style and new approach of John Braum's the Undying Monster	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	John Braum's The Lodger and the Real Jack	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	Screening of The Cat People	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	Close Analysis of The cat People	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Style and themes of Val Newton films: I walked with a Zombie	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	The Style and Themes of Newton films part two: The Leopard Man	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	Robert Wises The Haunting Part One	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Robert Wises The Haunting Part two	While watching activities and information gap tasks

week 10	The "baggage we carry, The haunting as psychological Trauma explained	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	Whatever Happened to Baby Jane or the horror that dwells within the family.	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Alfred Hitchcock Psycho Part One	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Alfred Hitchcock's Psycho Part two	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Psycho: The Style and content.	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

#### 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

#### 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

A maximum of three absences are permitted each semester.

#### 【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

#### 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

リチャード シーハン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 9 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Enhance students' ability to communicate their thoughts and opinions in a cross-cultural environment, both verbally and in writing.

#### 【到達目標】

Develop the necessary oral and written communicative skills to deal with situations students may encounter while traveling or studying overseas in an English-speaking country.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Short lectures based on textbook material in addition to online discussions and individual assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
April 27	Online assignment-TBD	
May 4	Online assignment-TBD	
May 11	Online assignment-TBD	
May 18	Online assignment-TBD	
May 25	Class orientation	Online Hoppii website
June 1	Identifying main ideas & details	Unit 1 -Inferring word meaning from context -Discussion of extreme sports
June 8	Building / supporting an argument	Unit 1 -Supporting ideas with details/examples -Discussion of future goals
June 15	Asking initial & follow-up questions	Unit 2 -Recognizing rhetorical questions -Discussion of identity theft
June 22	Asking & giving advice	Unit 2 -Using modals of advice -Discussion of security trade-offs
June 29	Agreeing & Disagreeing	Unit 3 -Speaking out with confidence -Discussion of space exploration

July 6	Analyzing cause & effect	Unit 3 -Making logical connections -Discussion of causes & effects of COVID-19
July 13	Final Assignments Due	Key learnings/takeaways from COVID-19 crisis

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**  
About one hour preparation time will be required each week in terms of reviewing the current unit and vocabulary and previewing the next unit.

**【テキスト（教科書）】**  
NorthStar 3 Listening & Speaking (4th edition)  
by Helen Solorzano & Jennifer Schmidt  
Pearson Publishing  
ISBN: 978-0-13-294040-5

**【参考書】**  
None

**【成績評価の方法と基準】**  
Participation 40%  
Assignments 60%  
If you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

**【学生の意見等からの気づき】**  
None

**【Outline and objectives】**  
Students will engage in a variety of communication tasks through group discussions and exercises with the aim of making their communication more logical and concise.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

リチャード シーハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 9 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Enhance students' ability to communicate their thoughts and opinions in a cross-cultural environment, both verbally and in writing.

**【到達目標】**

Develop the necessary oral and written communicative skills to deal with situations students may encounter while traveling or studying overseas in an English-speaking country.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Short lectures based on the textbook material in addition to group activities (discussions / presentations).

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Sept 21	Course overview Student introductions	Student interviews (summer vacation)
Sept 28	Extending conversations	Unit 5 -Using follow-up questions -Job interview role play
Oct 5	Summarizing information	Unit 5 -Asking for clarification -Discussion of ideal work environment
Oct 12	Defending & supporting ideas	Unit 6 -Thinking in a linear fashion -Discussion of the pros & cons of tourism
Oct 19	Debating a position	Unit 6 -Prioritizing ideas -Discussion of key issues facing Japan
Oct 26	Debate preparation	-Revision of Article 9 -Encouraging more immigration
Nov 2	Debate present, challenge & defend	-Revision of Article 9 -Encouraging more immigration
Nov 9	TED Talks	Discussion of the pros & cons of AI
Nov 16	Changing conversational topics	Unit 7 -Recognizing & using conversational markers -Social event role play
Nov 30	Soliciting opinions	Unit 7 -Identifying reasons for a speaker's opinion -Open topic discussion

Dec 7	Interrupting politely	Unit 8 -Being assertive -Meeting role play
Dec 14	Leading a discussion	Unit 8 -Facilitating a meeting -Meeting role play
Dec 21	YouTube video	Discussion of climate change (fact or fiction)
Jan 18	Exam & Summary	Units 5-8

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

About one hour preparation time will be required each week in terms of reviewing the current unit and vocabulary and previewing the next unit.

## 【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking (4th edition)  
by Helen Solorzano & Jennifer Schmidt  
Pearson Publishing  
ISBN: 978-0-13-294040-5

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 30%  
Assignments 40%  
Final exam 30%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

Students will engage in a variety of communication tasks through group discussions and exercises with the aim of making their communication more logical and concise.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

## 【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	A content based language course. Our Topic: Science Fiction. The literary heritage of S.F. Our Sub-topics: Exploration, Visitation, Transformation, Dystopia.	The origins of the Science Fiction Film: Georges Melies and A Trip to the Moon.
Week 2	Explorations Part I: Our World: Jules Verne: The father of science fiction. A look at the literary tradition. Exploring our world; Journey to the Center of the Earth. Why does man explore? Women in S.F.	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 3	Explorartion; Optimism and Pessimism in the work of Jules Verne, 20,000 Leagues Under the Sea.	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
Week 4	What Does the Future hold for Humanity? H.G. Wells" The Time Machine	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking

Week 5	Early American Science Fiction and racism in the Flash Gordon Serials	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
Week 6	Screening of Forbidden Planet and the Three mysteries of the film	While watching/listening note taking and information gap activities
Week 7	Solution to the mysteries and analysis of Forbidden Planet.	All class Activity #5 discussion and review
Week 8	Visitations Part I: Duper Analysis of F.P with a twist of Freud.Introduction to theme of visitation	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 9	Our aliens and ourselves: are they projections of who we are?	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
Week 10	H.G.Wells and The War of The Worlds: A metaphorical link with the times	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 11	Screening The Thing Major themes in the Alien Invasion film	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
Week 12	Earth Vs The Flying Saucers, It Conquered The World. The Cold War	All class activity #10 pair work, Listening and Note-taking
Week 13	Visitations ;Extra-terrestrial Messiahs The Day the Earth Stood Still, E.T., Close Encounters , Contact	All Class Activity #11 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 14	Visitations Part II Extra-terrestrial Immigrants: Alien Nation, Men In Black, K-Pax	All class activity #12 pair work, Listening and Note-taking

## 【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organized notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

A maximum of three absences are permitted each semester.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

## 【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Transformations; Experiments H.G. Wells' The Island of Dr. Moreau	review of previous themes, small group work and review of notes
week 2	Accidents: The Incredible Shrinking man and the Amazing Colossal Man	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 3	Evolutions: 2001 a Space Odyssey and The Time Machine	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
week 4	Augmentations: Robocop and Johnny Mnemonic	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 5	Artificial Intelligence: Colossus The Forbin Project and The Terminator	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
week 6	2001: A Space Odyssey, Screening first part of Bladerunner	All class Activity #5 discussion and review
week 7	Screening Bladerunner, the mystery of the Unicorn	While watching/listening note taking and information gap activities

week 8	Close Analysis of Bladerunner	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 9	Introduction to Dystopia: H.G. Wells Things to Come, Fritz Lang's Metropolis,	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
week 10	Why Wells Hated Metropolis: Optimism and Pessimism again. Zamiatin's we and THX -!38	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 11	Alders Huxley's Brave New World and Gattaca, first 12 minutes of 1984	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
week 12	Screening of 1984	While watching/listening note taking and information gap activities
week 13	Close Analysis of 1984 and Anthony Burgess's A Clockwork Orange	All Class Activity #10 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 14	John Carpenter's They :I've and Ray Bradbury's Fahrenheit 451.	All class activity #11 pair work, Listening and Note-taking

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores. A maximum of three absences are permitted each semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

## ロバート・D・ヒント

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

## 【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations
Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster

Week 13 Poster presentation Student presentations session

Week 14 Poster presentation Student presentations session

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%), In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

## 【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

## 【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## ロバート・D・ヒントン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

## 【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue
Week 14	Commercials	Students will evaluate the appeal of commercials

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Student grades will be determined by weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

## 【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

## 【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 2 I is a basic discussion course for first year university students.

The spring course has five main objectives:

1. To improve basic English skills quickly (Basic English Skills Program / BES in the contents)
2. To learn basic discussion skills on non-academic topics using the textbook
3. To improve writing skills using the textbook to write unit outlines and summaries
4. To successfully write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)
5. To improve critical thinking skills (批判的思考スキル)

## 【到達目標】

## Course Goal

The goal of the course is to provide students with basic practical communication skills useful for entry-level employment in:

1. A Japanese global company (日本のグローバル企業)
2. Foreign global company (in Japan) 外国のグローバル企業
3. Public servant positions (公務員)
4. Japanese non-governmental organizations (NGOs)
5. Or other university courses taught all or partly in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes:

1. Using classroom language
2. Practicing with partners or in groups,
3. Non-study related speaking with classmates (My Change Japan program)
4. Speaking tests (of course)

\*\*Japanese can be used if necessary. (As in this syllabus)

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language HW: Unit 1 Task 1 Vocabulary

Lesson 2	Vacations I (Unit 1)	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook (TB) Overview TB Unit 1 Vacations Tasks 2, 1, 3 Homework (HW): Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II (Unit 1)	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences TB Unit 1 Tasks 4-6, 7 and 8 HW: Complete Unit 1 online exercises Unit 2 Task 1 Vocabulary Unit 1 Practice Test (Do at home)
Lesson 4	Movies I (Unit 2)	Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms TB Unit 2 Tasks 2,1, 3 Skills: Complete plan for Outlining, Summarizing, Begin the answer exercises, Paragraph (OSBP)
Lesson 5	Movies II (Unit 2)	BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) TB Unit 2 Tasks 4-6, 7 OSBP HW: Complete Unit 2 online exercises
Lesson 6	Movies III (Unit 2)	BES 6: WH Question and Answer Forms TB: Unit 2 Task 8 Understanding 'Criteria' OSBP HW: Unit 3 Task 2 Vocabulary
Lesson 7	Dating I (Unit 3)	BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) TB Unit 3 Tasks 2, 1, 3 OSBP
Lesson 8	Dating II (Unit 3)	BES 8: Follow-up Questions TB: Unit 3 Tasks 4-6, 7, 8 OSBP HW: Unit 4 Task 2 Vocabulary Complete Unit 3 online exercises
Lesson 9	Part-time Jobs I (Unit 4)	BES 9: Rebound Questions TB: Unit 4 Tasks 2, 1, 3 OSBP
Lesson 10	Part-time Jobs II (Unit 4)	BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs HW: Complete Unit 4 online exercises Unit 3 Practice Test
Lesson 11	Review and catch up week	Discussion Test Explanation / Final writing assignment time to finish
Lesson 12	Evaluation and Preparation	Unit 4 Final Paper Test Preparation for Interactive Speaking / Discussion Test
Lesson 13	Testing and Evaluation	Interactive Speaking / Discussion Test

Lesson Course Wrap Up      Return of tests and  
14                                      assignments  
    Grade idea calculation  
    Ideas for further study  
    Print file check

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework during the course:

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Specific homework assignments include:

1. Online exercises. For each unit

Exercise 1: Vocabulary

Exercise 2: Fill in the missing words (Cloze)

Exercise 3: Make questions

(20 - 30 minutes every two weeks)

2. TB Task 2 Vocabulary (15 minutes every two weeks)

3. Writing:

a. 1 or 2 outlines maybe 30 minutes two times per semester

b. 1 unit summary maybe 30 minutes - 1 hour once per semester

c. Eiken Level 2 type composition - 2 - 4 hours per semester

Time depends on the student

4. Preparation for role plays, short presentations, and speaking test (once or twice per semester 1-2 hours)

**【テキスト（教科書）】**

The textbook will be passed out in the second class.

**【参考書】**

A good English / Japanese

Japanese / English

Especially an English / English Dictionary -

Paper, Electronic or smartphone

Various applications required for Smartphones

**【成績評価の方法と基準】**

1. Print file (5%)

2. Homework completion and other in-class oral checks (5%)

3. Regular and timely completion of unit online homework (10%)

4. Begin the answer... (5%)

5. Summarizing and outlining units (10%)

6. Writing an Eiken composition (10%)

7. Unit Test (20%)

8. Discussion Test (25%)

8. Bonuses for superior performance on 1, 5, 6, 7, 8(10%)

Students are expected to attend class regularly. In principle, no more than 3 absences per term are allowed

Other details of attendance will be explained again in the first and second classes.

**【学生の意見等からの気づき】**

2019 English 2 students all wrote a research paragraph or essay on English high school education. This course will be dramatically changed based on what they wrote. Basic conversation will be emphasized in the spring term, and a wider variety of short writing tasks will be introduced.

**【学生が準備すべき機器他】**

Textbook will be distributed in the second class

Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

**【Outline and objectives】**

Same as above

LANe100LA

**English 2 II**

2017年度以降入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Course Summary and Objectives

English 2 II (Fall) is a continuation of the spring course.

There are four objectives for the fall course:

1. Reach a basic academic discussion level

2. Research and writing objectives:

a. Write good answers to discussion questions

b. Write effective outlines quickly

c. Write or report (oral) effective unit summaries

3. Academic Writing: Write a composition useful for the Eiken Level Pre 1 (英検準 1 級)

Prepare and give an effective group presentation

**【到達目標】**

Course Goal

Similar to the spring semester, the goal of the course is to provide students with basic practical communication skills useful for entry-level employment:

1. A Japanese global company (日本のグローバル企業)

2. Foreign global company (in Japan) 外国のグローバル企業

3. Public servant positions (公務員)

4. Japanese non-governmental organizations (NGOs)

5. Or use in other courses taught in English

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Similar to the spring semester the first language of the course is English. I will always use English first, and students should always use English first. This includes classroom language, practice in pairs or groups, communicating with friends classmates in English (Change Japan Program). Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

Students will be given a complete plan for the Research Writing Part of the Course in second or third class. Much of this will be independent study.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Lesson	Fall Orientation	Welcome back!
1		Review of rules or policies New rules or policies Basic Discussion Skill (BDS) 00 Classroom Q and A Textbook (TB) Unit 5 Learning English Tasks 2, 1, 3 Plan for independent study (writing components)

Lesson 2	Unit 5 Learning English (Pros and cons)	BDS O – Basic classroom language for discussion TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	2. Outlining / summarizing the transcripts for some units. (20 - 30 minutes every 2 weeks) 3. Preparation for role plays and short presentations such as the a unit summary (once or twice per semester 1 hour with group members) 4. Preparation for presentation several hours outside of class 5. Eiken Level Pre 1 type composition – 2-3 hours per semester As in the spring semester, about 1 hour per week of work is expected of students.
Lesson 3	Unit 5 Learning English (Support your opinion)	BDS 00 Reporting a discussion Fall composition update Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【テキスト (教科書)】 Same as spring
Lesson 4	Unit 6 Hopes and Dreams (Security or Happiness?)	BDS 1 What do you know? TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【参考書】 We may add more apps to smartphones
Lesson 5	Unit 6 Hopes and Dreams (Can you explain that?)	BDS 2 Topics vs Issues TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【成績評価の方法と基準】 1. Print file (5%) 2. Homework completion checked by answering in class (5%) 3. Short presentations or role plays for each unit (5%) 4. Online HW Completion (5%) 5. Outlining / Summarizing (10%) 6. Unit Test (20%) 7. Group PowerPoint Presentation (15%) 8. Discussion Test (25%) 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 6, 7, 8 (10%)
Lesson 6	Evaluation Unit 9 Family (Parasite Singles)	TB Unit 5 or 6 test TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	As in the spring semester, students are expected to attend classes regularly. In principle, students cannot miss more than 3 classes per semester. More details about attendance and other policies will be given in the first lesson.
Lesson 7	Unit 9 Family (Other family problems)	BDS 3 Start a Discussion TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【学生の意見等からの気づき】 Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.
Lesson 8	Unit 10 Social Networking (Pros and Cons)	BDS Issue – Question - Opinion TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【学生が準備すべき機器他】 Same as spring semester.
Lesson 9	Unit 10 Social Networking (Communication today)	TB Tasks 4-6, 7, 8 Presentation Preparation Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【Outline and objectives】 Same as above
Lesson 10	Evaluation	Presentations	
Lesson 11	Evaluation	Presentations	
Lesson 12	Evaluation	Final TB Test (Unit 9 or 10) Last presentations Discussion test preparation	
Lesson 13	Evaluation	Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up	Return of tests and assignments Grade idea calculation Ideas for further study Print file check	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Before the fall semester:

1. Students should review textbook units from the spring semester.
2. Students should also learn about their PCs.
  - a. learn MS Word and MS PowerPoint skills. There are many tutorials on YouTube in Japanese.

Word <https://www.youtube.com/watch?v=6BEswvUvj9U>

PowerPoint <https://www.youtube.com/watch?v=gij-zGOLyw>

- b. Improve keyboarding <https://www.typingclub.com/> is a good place to upgrade quickly.

During the course: The amount of work is similar to the spring semester.

1. Online exercises (3 per unit) (20 - 30 minutes every 2 weeks)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

## 【到達目標】

論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。基本的に1つのユニットを2回の授業で扱い、1週おきにライティングの宿題を課す。ユニットによってはプレゼンテーションも行う。授業では英語でのペアワーク、グループワークも取り入れるので、積極的に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。1週おきに出される課題にしたがって英語の文章を書く。書いた文章の内容を授業中に口頭で発表することもあるので、発音練習をしておく。

## 【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年  
2200 円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、筆記試験 40 %。  
欠席が 4 回以上の場合には原則的に単位修得を認めない。遅刻・早退は合計時間が 100 分に達した時点で欠席 1 回分とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったので、引き続き取り入れる。英語で発話しやすくなるよう、発音練習や会話練習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用することがある。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write a logically organized paragraph, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

## 【到達目標】

複数のパラグラフからなる論理的なエッセイを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、効果的なパラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。最終的には複数のパラグラフから構成されるエッセイを書き、プレゼンテーションを行う。基本的に1つのユニットを2回の授業で扱い、1週おきにライティングの宿題を課す。ユニットによっては英語でのプレゼンテーションも行う。授業では英語でのペアワーク、グループワークも取り入れるので、積極的に参加すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
4	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
5	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
6	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
7	Introduction (1)	プレゼンテーションの導入とは
8	Introduction (2)	プレゼンテーションの導入を書く
9	Body (1)	プレゼンテーションの展開部とは
10	Body (2)	プレゼンテーションの展開部を書く
11	Conclusion (1)	プレゼンテーションの結論部とは
12	Conclusion (2)	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。1週おきに出される課題にしたがって英語の文章を書く。書いた文章の内容を授業中に口頭で発表することもあるので、発音練習をしておく。

## 【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年 2200 円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。

欠席が4回以上の場合原則として単位修得を認めない。遅刻・早退は合計時間が100分に達した時点で欠席1回分とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったので、引き続き取り入れる。英語での質疑応答やディスカッションがしやすくなるよう、実例を示し、テーマ設定や導入の仕方を工夫する。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用することがある。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write a short essay with multiple paragraphs, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test	Speaking and listening
9	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence.
10	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence.
11	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.

12	Unit 6 What are friends for? Unit 7 What's for lunch?	Unit 6: speaking and writing task - things close friends do for each other. Unit 7: Speaking and writing task - deciding which foods are healthy. Presentation: what I eat.
13	Unit 7 What's for lunch?	
14	Final test	Reading, writing, and listening.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

## 【参考書】

Worksheets

Handouts

Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (25%)

Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文1年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your digital literacy skills.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university.
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student.
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place.
7	Mid-semester test	Speaking and listening
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
11	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
12	1) Writing 2) Unit 16 What makes you happy?	1) Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion. 2) Speaking and writing task: what makes a person happy?

13 Unit 16 What makes you happy? Presentation: my ideas for happiness.

14 Final test Reading and writing

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

## 【参考書】

Worksheets

Handouts

Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (25%)

Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

For the first part of this semester you will work at home. The lessons are posted on the university website: HOPPII. We will use poetry, songs, animation and YouTube videos. To succeed you will be required to read, speak, listen and write.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Owl and the Pussy Cat. Exploring the world of enchantment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
2	The Unicorn. A delightful song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
3	Standing in the doorway. Exploring the feelings of loss.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
4	The Princess Bride. Story telling.	Through this delightful movie we will explore different kinds of love. An essay will be required.
5	I will rise. Exploring the language of empowerment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
6	Everybody Knows. The power of song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
7	On the Road to Mandalay Exploring memories.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
8	Getting into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.

13 Songs. Pronunciation.  
14 Dictation. Listening and writing.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【学生が準備すべき機器他】

You will need access to the Internet.

## 【その他の重要事項】

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

We will work on integrating these skills in pairs, groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

## 【到達目標】

To help you integrate your speaking, listening, reading and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No Textbook

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

We will work on integrating these skills in pairs, groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 2 I is a basic discussion course for first year university students.

The spring course has five main objectives:

1. To improve basic English skills quickly (Basic English Skills Program / BES in the contents)
2. To learn basic discussion skills on non-academic topics using the textbook
3. To improve writing skills using the textbook to write unit outlines and summaries
4. To successfully write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)
5. To improve critical thinking skills (批判的思考スキル)

## 【到達目標】

## Course Goal

The goal of the course is to provide students with basic practical communication skills useful for entry-level employment in:

1. A Japanese global company (日本のグローバル企業)
2. Foreign global company (in Japan) 外国のグローバル企業
3. Public servant positions (公務員)
4. Japanese non-governmental organizations (NGOs)
5. Or other university courses taught all or partly in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes:

1. Using classroom language
2. Practicing with partners or in groups,
3. Non-study related speaking with classmates (My Change Japan program)
4. Speaking tests (of course)

\*\*Japanese can be used if necessary. (As in this syllabus)

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language HW: Unit 1 Task 1 Vocabulary

Lesson 2	Vacations I (Unit 1)	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook (TB) Overview TB Unit 1 Vacations Tasks 2, 1, 3 Homework (HW): Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II (Unit 1)	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences TB Unit 1 Tasks 4-6, 7 and 8 HW: Complete Unit 1 online exercises Unit 2 Task 1 Vocabulary Unit 1 Practice Test (Do at home)
Lesson 4	Movies I (Unit 2)	Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms TB Unit 2 Tasks 2,1, 3 Skills: Complete plan for Outlining, Summarizing, Begin the answer exercises, Paragraph (OSBP)
Lesson 5	Movies II (Unit 2)	BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) TB Unit 2 Tasks 4-6, 7 OSBP HW: Complete Unit 2 online exercises
Lesson 6	Movies III (Unit 2)	BES 6: WH Question and Answer Forms TB: Unit 2 Task 8 Understanding 'Criteria' OSBP HW: Unit 3 Task 2 Vocabulary
Lesson 7	Dating I (Unit 3)	BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) TB Unit 3 Tasks 2, 1, 3 OSBP
Lesson 8	Dating II (Unit 3)	BES 8: Follow-up Questions TB: Unit 3 Tasks 4-6, 7, 8 OSBP HW: Unit 4 Task 2 Vocabulary Complete Unit 3 online exercises
Lesson 9	Part-time Jobs I (Unit 4)	BES 9: Rebound Questions TB: Unit 4 Tasks 2, 1, 3 OSBP
Lesson 10	Part-time Jobs II (Unit 4)	BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs HW: Complete Unit 4 online exercises Unit 3 Practice Test
Lesson 11	Review and catch up week	Discussion Test Explanation / Final writing assignment time to finish
Lesson 12	Evaluation and Preparation	Unit 4 Final Paper Test Preparation for Interactive Speaking / Discussion Test
Lesson 13	Testing and Evaluation	Interactive Speaking / Discussion Test

Lesson Course Wrap Up Return of tests and  
14 assignments  
Grade idea calculation  
Ideas for further study  
Print file check

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework during the course:

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Specific homework assignments include:

1. Online exercises. For each unit
- Exercise 1: Vocabulary
- Exercise 2: Fill in the missing words (Cloze)
- Exercise 3: Make questions (20 - 30 minutes every two weeks)
2. TB Task 2 Vocabulary (15 minutes every two weeks)
3. Writing:
  - a. 1 or 2 outlines maybe 30 minutes two times per semester
  - b. 1 unit summary maybe 30 minutes - 1 hour once per semester
  - c. Eiken Level 2 type composition - 2 - 4 hours per semester  
Time depends on the student
4. Preparation for role plays, short presentations, and speaking test (once or twice per semester 1-2 hours)

**【テキスト（教科書）】**

The textbook will be passed out in the second class.

**【参考書】**

A good English / Japanese  
Japanese / English  
Especially an English / English Dictionary -  
Paper, Electronic or smartphone  
Various applications required for Smartphones

**【成績評価の方法と基準】**

1. Print file (5%)
2. Homework completion and other in-class oral checks (5%)
3. Regular and timely completion of unit online homework (10%)
4. Begin the answer... (5%)
5. Summarizing and outlining units (10%)
6. Writing an Eiken composition (10%)
7. Unit Test (20%)
8. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 5, 6, 7, 8(10%)

Students are expected to attend class regularly. In principle, no more than 3 absences per term are allowed  
Other details of attendance will be explained again in the first and second classes.

**【学生の意見等からの気づき】**

2019 English 2 students all wrote a research paragraph or essay on English high school education. This course will be dramatically changed based on what they wrote. Basic conversation will be emphasized in the spring term, and a wider variety of short writing tasks will be introduced.

**【学生が準備すべき機器他】**

Textbook will be distributed in the second class  
Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

**【Outline and objectives】**

Same as above

LANe100LA

**English 2 II**

2017年度以降入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Course Summary and Objectives

English 2 II (Fall) is a continuation of the spring course.

There are four objectives for the fall course:

1. Reach a basic academic discussion level
2. Research and writing objectives:
  - a. Write good answers to discussion questions
  - b. Write effective outlines quickly
  - c. Write or report (oral) effective unit summaries
3. Academic Writing: Write a composition useful for the Eiken Level Pre 1 (英検準 1 級)  
Prepare and give an effective group presentation

**【到達目標】**

Course Goal

Similar to the spring semester, the goal of the course is to provide students with basic practical communication skills useful for entry-level employment:

1. A Japanese global company (日本のグローバル企業)
2. Foreign global company (in Japan) 外国のグローバル企業
3. Public servant positions (公務員)
4. Japanese non-governmental organizations (NGOs)
5. Or use in other courses taught in English

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Similar to the spring semester the first language of the course is English. I will always use English first, and students should always use English first. This includes classroom language, practice in pairs or groups, communicating with friends classmates in English (Change Japan Program). Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

Students will be given a complete plan for the Research Writing Part of the Course in second or third class. Much of this will be independent study.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Lesson 1	Fall Orientation	Welcome back! Review of rules or policies New rules or policies Basic Discussion Skill (BDS) 00 Classroom Q and A Textbook (TB) Unit 5 Learning English Tasks 2, 1, 3 Plan for independent study (writing components)

Lesson 2	Unit 5 Learning English (Pros and cons)	BDS O – Basic classroom language for discussion TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	2. Outlining / summarizing the transcripts for some units. (20 - 30 minutes every 2 weeks) 3. Preparation for role plays and short presentations such as the a unit summary (once or twice per semester 1 hour with group members) 4. Preparation for presentation several hours outside of class 5. Eiken Level Pre 1 type composition – 2-3 hours per semester As in the spring semester, about 1 hour per week of work is expected of students.
Lesson 3	Unit 5 Learning English (Support your opinion)	BDS 00 Reporting a discussion Fall composition update Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【テキスト (教科書)】 Same as spring
Lesson 4	Unit 6 Hopes and Dreams (Security or Happiness?)	BDS 1 What do you know? TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【参考書】 We may add more apps to smartphones
Lesson 5	Unit 6 Hopes and Dreams (Can you explain that?)	BDS 2 Topics vs Issues TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【成績評価の方法と基準】 1. Print file (5%) 2. Homework completion checked by answering in class (5%) 3. Short presentations or role plays for each unit (5%) 4. Online HW Completion (5%) 5. Outlining / Summarizing (10%) 6. Unit Test (20%) 7. Group PowerPoint Presentation (15%) 8. Discussion Test (25%) 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 6, 7, 8 (10%)
Lesson 6	Evaluation Unit 9 Family (Parasite Singles)	TB Unit 5 or 6 test TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	As in the spring semester, students are expected to attend classes regularly. In principle, students cannot miss more than 3 classes per semester. More details about attendance and other policies will be given in the first lesson.
Lesson 7	Unit 9 Family (Other family problems)	BDS 3 Start a Discussion TB Tasks 4-6, 7, 8 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【学生の意見等からの気づき】 Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.
Lesson 8	Unit 10 Social Networking (Pros and Cons)	BDS Issue – Question - Opinion TB Tasks 2, 1, 3 Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【学生が準備すべき機器他】 Same as spring semester.
Lesson 9	Unit 10 Social Networking (Communication today)	TB Tasks 4-6, 7, 8 Presentation Preparation Skills (writing, presenting, summarizing, outlining, research)	【Outline and objectives】 Same as above
Lesson 10	Evaluation	Presentations	
Lesson 11	Evaluation	Presentations	
Lesson 12	Evaluation	Final TB Test (Unit 9 or 10) Last presentations Discussion test preparation	
Lesson 13	Evaluation	Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up	Return of tests and assignments Grade idea calculation Ideas for further study Print file check	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Before the fall semester:

1. Students should review textbook units from the spring semester.
2. Students should also learn about their PCs.
  - a. learn MS Word and MS PowerPoint skills. There are many tutorials on YouTube in Japanese.

Word <https://www.youtube.com/watch?v=6BEswvUvj9U>

PowerPoint <https://www.youtube.com/watch?v=gij-zGOLyw>

- b. Improve keyboarding <https://www.typingclub.com/> is a good place to upgrade quickly.

During the course: The amount of work is similar to the spring semester.

1. Online exercises (3 per unit) (20 - 30 minutes every 2 weeks)

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will continue to work on your speaking, listening, reading, writing to help you feel more comfortable using the language.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

For the first part of this semester you will work from home. The lessons are posted on the university website: HOPPII. We will use poetry, songs, animation and YouTube videos. Later, in the classroom, you will work in pairs, groups and with the class. To succeed you will be required to read, speak, listen and write.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Owl and the Pussy Cat. Exploring the world of enchantment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
2	The Unicorn. A delightful story.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
3	Standing in the Doorway Exploring the feelings of loss.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
4	The Princess Bride. Story telling.	Through this delightful movie we will exploring different kinds of love.
5	I Will Rise. Exploring the language of empowerment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
6	Everybody Knows. The power of song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
7	On the Road to Mandalay. Exploring memories.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.

12 It's a wild world. The language of the jungle.

13 Songs Pronunciation.

14 Dictation Listening and writing.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【学生が準備すべき機器他】

You will need access to the Internet.

## 【その他の重要事項】

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

Integrating these skills in pairs, groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will continue to work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using the language.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world; newspapers, magazines, film, advertising, etc. in an enjoyable way. You will work in pairs, groups and with the class. To be successful you will need to speak, listen, read and write.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	Your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【学生が準備すべき機器他】

You will need access to the Internet.

## 【その他の重要事項】

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

To continue integrating these skills in pairs, in groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 18 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test	Speaking and listening
9	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence
10	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence
11	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.

12	Unit 6 What are friends for? Unit 7 What's for lunch?	Unit 6: speaking and writing task - things close friends do for each other. Unit 7: Speaking and writing task - deciding which foods are healthy. Presentation: what I eat.
13	Unit 7 What's for lunch?	
14	Final test	Reading, writing, and listening.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

## 【参考書】

Worksheets

Handouts

Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (25%)

Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文1年：英語 18 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your digital literacy skills.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university.
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student.
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place.
7	Mid-semester test	Speaking and listening
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
11	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
12	1) Writing 2) Unit 16 What makes you happy?	1) Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion. 2) Speaking and writing task: what makes a person happy?

13 Unit 16 What makes you happy? Presentation: my ideas for happiness.

14 Final test Reading and writing

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

## 【参考書】

Worksheets

Handouts

Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (25%)

Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を **paragraph** を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの **paragraph** をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。プレゼンテーションは原稿なしで発表することが義務付けられる。その際、発音の正確さが必須であるので、音声指導も発音矯正を兼ね徹底される。

## 【到達目標】

- ・ 1 分間スピーチを毎回授業の最初に行い、人前で英語で話すことになれる。翌週に「何を話すかを 1 週間英語で考える準備期間も英語で考える習慣をつけるのに有効である。
- ・ ニュースメディアの内容を CD や DVD で音からの内容理解を実施する。まず、音と意味を一致させた語彙を脳内に **input** させて語彙力を増やさない限り、コミュニケーション能力は伸びない事を自覚させる。
- ・ **paragraph writing** を毎回違ったトピックで書かせて習得する。翌週に添削して **feedback** する。
- ・ **up to date** なトピックについて **discussion** の機会を与える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduce how to proceed this class. Self Introduction in English	Introduce how to produce the correct English sounds and the structure of English sentences, marking, slash reading and paragraph writing.
2	Legacy of Captain Mariner paragraph writing students will be given a certain topic.	warm-up exercises vocabulary check(definition of soar, tactical, log) Listen to CD and Watch DVD comprehension check [予習]Legacy of Captain Mariner の vocabulary の予習。30分。 [復習] テキストを確実な音で再現する事で音と意味が一致した語彙を構築する。20分。

3	to complete news story 1 students will hand in their homework	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ discuss what they think about her. [予習] 演習問題の残りを完成。要約文の cloze quiz /h/の脱落 what do you know about U.S. Navy? 40分。 [復習] 本文の音読を正確な音で再現し、音と意味が一致した語彙を脳内に input。20分。
4	America strong: Foster Grandparents	warm-up exercises vocabulary check(definition of spoil, nurture, stipend) Listen to CD and watch DVD comprehension check [予習]America Strong の vocabulary の予習。30分。本文の内容を事前把握 30分。 [復習] 本文を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。30分。
5	to complete news story 2	text should be understood completely by checking the important expressions.(eg. to be overly indulgent) summarization/ discussion about these grandparents 40分。 [予習] 演習問題の残りを予習。要約文の cloze quiz What do you think of these grandparents?Are there any roles for senior citizens to play in society? discussion に向けて意見をまとめる。40分。 [復習] 本文を正確な音で再現する。20分
6	Assault Weapons Ban in New Zealand	warm-up exercises vocabulary check(definition of mass, emerge, steely ) Listen to CD and watch DVD comprehension check [予習]Assault Weapons Ban の vocabulary を予習。本文の内容を自分なりに把握。30分。 [復習] 本文の内容を正確な音で再現した音読で理解確認。30分。
7	to complete news story 3 presentation based on their drafts	text should be understood thoroughly by checking the important expressions.(eg.to come into view) summarization / discussion about gun violence and a law against guns [予習] 銃規制法に賛成それとも反対? について意見を纏める。1時間。 [復習] 正確な音でこの本文を再現し、コミュニケーション能力を上げる。20分。

8	presentation	make a speech based on each one's draft [予習] 与えられたトピックで paragraph を書き、口頭で発表できるように発音などに意識を高めて練習。power point などを利用することも考慮。40分。 [復習] self-evaluation の項目に答える。20分。
9	review of the news stories previously learned	read aloud in a more sound-conscious way review questions [予習] 既に学習したユニットについて疑問点をまとめる。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
10	American ISIS Brides	warm-up exercises history of ISIS brides Through CD and DVD, how much the students can understand? [予習] American ISIS Brides の vocabulary を予習。30分。本文を自分なりに把握。 [復習] 正確な音を意識して音読。
11	to complete news story 5	review questions summarization and discuss what they think about the brides. [予習] translation, summarization を予習。現在完了形で表現。 [復習] 本文を正確な音で再現し、コミュニケーション能力を上げる。
12	Milestone Mission: virgin Galactic give the students the information about the final test	warm-up exercises preview questions vocabulary check (definition of blast, milestone, altitude) CD and DVD give them a chance to understand only through the sound. comprehension check [予習] vocabulary を予習。本文を自分なりに把握。 [復習] 正確な音で音読して内容理解。
13	final test	according to the testing information given before, they should prepare for it.
14	final presentation	the topic will be given two weeks before.

**【その他の重要事項】**

演習中心のため、欠席、遅刻に注意。

**【Outline and objectives】**

The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it. In order to get used to speaking in front of the other students, in the beginning of every class they will make one-minute speech on whatever they want to talk about. Through pair work, group activities, every student will interact with each other, which makes the class chemistry more dynamic. more positively and

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

BroadCast: ABC WORLD NEWS TONIGHT 2  
KINSEIDO 2,600

**【参考書】**

not use

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

英語を口頭で表現し発表することに慣れていなくても、回数を重ねるごとに上達していくと実感する学生の意見が多い。とにかくまずは喋ってみよう。

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one -minute speech を充実させる。話す、聞く、書く、読むの 4 技能の習得。

## 【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。

DVD を字幕なしに理解する。

presentation: power point などを利用し、口頭発表を効果的にこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回の音読 / slash reading から本文の理解をする。

CD/DVD を使用して音声から理解を強化。

ライティング課題を各トピックについて提出。

presentation に向けて、draft を書き、口頭練習、視覚的な情報 power point などとも利用するとよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Notre Dame Cathedral: Full Damage Revealed learn how to write an essay	warm-up exercise vocabulary check (definition of collapse, douse, restore) cloze quiz Listen to CD and watch DVD marking read aloud [予習]Notre Dame の vocabulary の予習。本文を自分 なりに把握。plus Media 上で streaming 視聴。30分。 [復習] テキストの正確な音声での 再現で内容理解を正確にする。3 0分。
2	to complete the news story 7 the first essay writing assignment and the topic will be given	without reading the text understand DVD comprehension check translation and summarization [予習] 演習問題の残りを完成。 What do you know about the the partial destruction of Notre Dame?意見をまとめる。1時間。 [復習] 音読を数回繰り返し、音声 だけで内容理解をする。20分。

3	Three-year-old Boy Fighting Cancer	warm-up exercise vocabulary check (definition of alternative, vow, tug of war) Listen to CD and watch DVD Marking Read aloud [予習]vocabulary の予習。自分 で事前に内容把握を行う。 streaming 視聴できる。 与えられたトピックで essay writing を完成。 [復習] 本文を音読して、内容を正 確に理解する。What legal battle is playing out in Florida? 2時間。 [復習] テキストを確実な音で再現 し音声だけで内容理解できる。2 0分。
4.	to complete the news story 8	DVD の字幕なしで内容が理解で きるまで音読を徹底。 comprehension cloze quiz [予習] 演習問題の残りを事前に答 える。Think of other parental rights. 40分 [復習] テキストを確実な音で再現 し、コミュニケーション能力を上 げる。20分。
5.	Journey to the Edge	warm-up exercises vocabulary check (definition of recede, bedrock, stunning) Marking Read aloud Listen to CD & watch DVD [予習] vocabulary を予習。 streaming で視聴。自分で事前 に内容把握。 40分。 [復習] テキストを確実な音で再現 しコミュニケーションスキルを強 化。子音、語尾の音に意識を高め る。20分。
6.	to complete the news story 9 essay writing assignment and a new topic will be given	The text will be read aloud and watch DVD without the English subtitle so as to understand it completely Summary and comprehension quiz What are the scientists learning from humpback whales? [予習] 演習問題の残りを事前に解 答。40分。 [復習] テキストを確実な音で再現 し字幕なしで内容が理解できるま で音読。20分。
7.	presentation	Each student makes a speech in front of the other students based on their drafts. [予習] 与えられたトピックで essay writing. 口頭で発表できる ように、念入りに発音をチェック して準備する。2時間。 [復習]self-evaluation の項目に 答える。20分。

- |     |   |   |  |
|-----|---|---|--|
| 8.  | Special Olympics Funding Furor  | <p>Vocabulary check<br/>(Definition of override, skewer, disabled, authorize)<br/>Listen to CD &amp; watch DVD<br/>Marking Read aloud<br/>[予習] vocabulary の予習。<br/>streaming で cloze quiz を行う。<br/>30分。<br/>[復習] 音読で内容把握を行う。30分。</p>  | <p><b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b><br/>毎週の one-minute speech に向けて、自分で週話すトピックを探し、口頭でスピーチの練習をする。<br/>エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。<br/>各ユニットの音声の確認とスピーチの準備。<br/>本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。</p> <p><b>【テキスト（教科書）】</b><br/>Broadcast: ABC WORLD NEWS TONIGHT 2<br/>KINSEIDO Kathleen Yamane 2, 600</p> <p><b>【参考書】</b><br/>no</p> <p><b>【成績評価の方法と基準】</b><br/>期末試験 (60%)・平常点 : presentation、paragraph/essay writing, pair work, group activities を含む (40%)。<br/>原則として、one-minute speech は直接の評価対象ではないが、授業の最初に実施するために、時間内にクラスにいることが前提となる。<br/>尚、4回以上の欠席の場合、単位習得を認めない。</p> <p><b>【学生の意見等からの気づき】</b><br/>英語でとにかくしゃべることに慣れる。</p> <p><b>【学生が準備すべき機器他】</b><br/>If you present your speech, you can use USB, PC and so on.</p> <p><b>【Outline and objectives】</b><br/>The students are supposed to write an essay after learning how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through making one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with the words they've already known.</p> |
| 9.  | complete the news story 10<br>essay writing assignment and a new topic will be given  | <p>Without the English subtitle they are supposed to understand the text story<br/>Summarization: Why was the funding for the Special Olympics at risk?<br/>[予習] 課題のテーマについて意見をまとめる。vocabulary の予習。<br/>40分。<br/>[復習] テキストを確実な音で音読し会話能力を強化。20分。</p>                              |  |
| 10. | Measles Outbreak Quarantine in L.A.   | <p>Vocabulary check (expose, massive, exquisitely, linger)<br/>Listen to CD &amp; watch DVD<br/>Marking (slash/ pronunciation)<br/>Read aloud<br/>[予習] essay writing のトピックについて書く。vocabulary の予習。2時間。<br/>[復習] テキストを正確に音読して、内容把握。</p>  |  |
| 11. | to complete the news story 12   | <p>Summarization: How widespread is the current outbreak of measles in the N.S.?<br/>[予習] ようやくの課題を事前にまとめる。1時間。<br/>[復習] テキストを確実な音で再現し、DVD を字幕なしで理解する。<br/>probability に関連する副詞 allegedly, apparently, alleged believed の使い方を理解する。<br/>20分。</p>                                   |  |
| 12. | Mayors Challenge Trump<br>Who do you predict the winner of 2020 presidential race is? the information about the testing will be given | <p>Vocabulary check (definition of outrageous, float, contradict, apprehend) Marking Reading aloud<br/>Listen to CD &amp; watch DVD<br/>Discuss 2020presidential race.<br/>[予習] vocabulary の予習。音声を事前に視聴して cloze quiz を行う。30分。<br/>[復習] 本文を音読して内容把握。discussion について自分の意見を要約。</p> |  |
| 13. | final test  | <p>review the previous units<br/>[予習] 試験範囲をチェックして準備する。3時間。<br/>[復習] 解答出来なかった項目を再確認。20分。</p>   |  |
| 14. | final presentation  | <p>The students will make a speech based on their drafts.<br/>[予習] final speech に備えて入念に準備する。power point などを利用すると良い。3時間。<br/>[復習] self-evaluation の項目に答える。</p>   |  |

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

**【到達目標】**

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。  
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。  
英語らしい発音ができるようになる。  
リスニング能力が向上する。  
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。  
論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。  
エッセー作成のための手順を実践できる。  
辞書がなんであるかを理解する。  
英文を作成する際辞書が活用できるようになる。  
4パラグラフからなるエッセーを書くことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

オンライン授業開始は6月5日。  
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は6月5日（金）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。以下対面式授業の場合だが、オンライン授業でも基本的にこれに準じる授業を行う予定。

授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。テキスト掲載のエッセーをモデルにして、様々な形式のエッセーを作成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業の説明	音声の練習をした後、シャドーイングを行う。
2	パラグラフの基本構造の理解	パラグラフの基本構造が主題文、指示文、結論文からなることを理解する。
3	パラグラフの基本構造の実践	主題文、指示文、結論文からなるパラグラフのアウトラインを作成する。

4	Narration 型エッセイの理解	Narration 型エッセイの構造を理解し、相手に伝えたい出来事の内容を時間の流れに沿って、わかりやすく物語風に書けるようにする。
5	Narration 型エッセイの実践	Narration 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
6	Process 型エッセイの理解	型エッセイの構造を理解し、手続きや手順を相手にわかりやすく、正確に伝えられるように書けるようにする。
7	Process 型エッセイの実践	Process 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
8	Description of Feelings 型エッセイの理解	Description of Feelings 型エッセイの構造を理解し、自分の思ったこと、感じたことを書けるようにする。
9	Description of Feelings 型エッセイの実践	Description of Feelings 型のエッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
10	Description of People 型エッセイの理解	Description of People 型エッセイの構造を理解し、人物の外見、性格、気質などを書けるようにする。
11	Description of People 型エッセイの実践	Description of People 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
12	Description of Places & Locations 型エッセイの理解	Description of Places & Locations 型エッセイの構造を理解し、場所の特徴をわかりやすく表現できるようにする。
13	Description of Places & Locations 型エッセイの実践	Description of Places & Locations 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には3時間前後、エッセー作成には6時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセーのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。

英文エッセーの作成（春学期に二度）。

**【テキスト（教科書）】**

仲谷都他著『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing（はじめてのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

以下対面式授業に戻った場合。

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。

一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

原則的に遅刻は認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

#### 【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。

特に、授業中にスマホを机の上に出すことは禁止します。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

#### 【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目的とする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

#### 【到達目標】

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。

英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。

英語らしい発音ができるようになる。

リスニング能力が向上する。

シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。

論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。

エッセイ作成のための手順を実践できる。

辞書がなんであるかを理解する。

英文を作成する際辞書が活用できるようになる。

4パラグラフからなるエッセイを書くことができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。テキスト掲載のエッセイをモデルにして、様々な形式のエッセイを作成する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast 型エッセイの理解	Comparison & Contrast 型エッセイの構造を理解し、2 人の人や 2 つの物事の類似点、相違点をわかりやすく書けるようにする。
2	Comparison & Contrast 型エッセイの実践	Comparison & Contrast 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
3	Cause & Effect 型 エッセイの理解	Cause & Effect 型エッセイの構造を理解し、物事の原因と結果を理解して、書けるようにする。
4	Cause & Effect 型 エッセイの実践	Cause & Effect 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。

5	<b>Problems &amp; Solutions</b> 型エッセイの理解	<b>Problems &amp; Solutions</b> 型エッセイの構造を理解し、問題を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるようにする。
6	<b>Problems &amp; Solutions</b> 型エッセイの実践	<b>Problems &amp; Solutions</b> 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
7	提出したエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。
8	<b>Your Opinion</b> -Agree 型エッセイの理解	<b>Your Opinion</b> <b>Agree</b> 型エッセイの構造を理解し、ある事象に対して、賛成する自分の意見をまとめて書けるようにする。
9	<b>Your Opinion</b> -Agree 型エッセイの実践	<b>Your Opinion</b> <b>Agree</b> 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
10	<b>Your Opinion</b> -Disagree 型エッセイの理解	<b>Your Opinion</b> - <b>Disagree</b> 型エッセイの構造を理解し、ある事象に対して反対意見を表現できるようにする。
11	<b>Your Opinion</b> -Disagree 型エッセイの実践	<b>Your Opinion</b> - <b>Disagree</b> 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
12	<b>Data Analysis</b> 型エッセイの理解	<b>Data Analysis</b> 型エッセイの構造を理解し、集計結果をグラフや表を使用してわかりやすく書けるようにする。
13	<b>Data Analysis</b> 型エッセイの実践	<b>Data Analysis</b> 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック。	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には3時間前後、エッセイ作成には6時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。

英文エッセイの作成（秋学期に二度）。

#### 【テキスト（教科書）】

仲谷都他著『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing（はじめてのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業参加50パーセント、レポート・スピーチ・試験50パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。

一度休むごとに平常点から2点ずつ引いていく。

4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

原則的に遅刻は認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

#### 【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

#### 【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test	Speaking and listening
9	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence.
10	Paragraph writing	Topic sentence, supporting details, and concluding sentence.
11	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.

12	Unit 6 What are friends for? Unit 7 What's for lunch?	Unit 6: speaking and writing task - things close friends do for each other. Unit 7: Speaking and writing task - deciding which foods are healthy. Presentation: what I eat.
13	Unit 7 What's for lunch?	
14	Final test	Reading, writing, and listening.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

## 【参考書】

Worksheets

Handouts

Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (25%)

Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

クリストファー マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

## 【到達目標】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your digital literacy skills.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place
7	Mid-semester test	Speaking and listening
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
11	Writing	Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion.
12	1) Writing 2) Unit 16 What makes you happy?	1) Writing a short essay. Introduction, body, and conclusion. 2) Speaking and writing task: what makes a person happy?

13 Unit 16 What makes you happy? Presentation: my ideas for happiness

14 Final test Reading and writing

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class. Students will be required to spend at least 1 hour per week reviewing/previewing the content of each class and completing homework assignments.

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

## 【参考書】

Worksheets

Handouts

Edmodo.com

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (15%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (25%)

Final test (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and smartphones in class.

## 【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【Outline and objectives】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、グループでの課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

## 【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作と発表の時間も設ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit1-1	Job Interview (1) 過去完了形 別れの挨拶
第 2 回	Unit1-2	Job Interview (2) 過去完了形 別れの挨拶
第 3 回	Unit2-1	First Day on the Job (1) 助動詞 1 依頼の表現
第 4 回	Unit2-2	First Day on the Job (2) 助動詞 1 依頼の表現
第 5 回	Unit3-1	Hurricane on the Weekend (1) 関係代名詞 1 反論の表現
第 6 回	Unit3-2	Hurricane on the Weekend (2) 関係代名詞 1 反論の表現
第 7 回	Group project1	グループによる課題制作 (1)
第 8 回	Group project2	グループによる課題制作 (2)
第 9 回	Presentation	グループによる発表
第 10 回	Unit4-1	Andy's Makeover (1) 現在進行形 困惑の表現
第 11 回	Unit4-2	Andy's Makeover (2) 現在進行形 困惑の表現
第 12 回	Unit5-1	Andy Meets Christian (1) 助動詞 2 聞き返す表現
第 13 回	Unit5-2	Andy Meets Christian (2) 助動詞 2 聞き返す表現

## 第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

テキストを事前に読み課された宿題をする。

授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。

課題の制作や発表準備。

## 【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

## 【参考書】

特に定めない。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)

宿題・課題 (40%)

期末試験 (40%)

欠席 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout the group project, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、グループでの課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

## 【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作と発表の時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit6-1	Miranda's Request (1) 分詞 希望を伝える表現
第 2 回	Unit6-2	Miranda's Request (2) 分詞 希望を伝える表現
第 3 回	Unit7-1	Nate's Birthday (1) 仮定法 驚きを示す表現
第 4 回	Unit7-2	Nate's Birthday (2) 仮定法 驚きを示す表現
第 5 回	Unit8-1	Andy's Decision (1) 現在進行形 確認する表現
第 6 回	Unit8-2	Andy's Decision (2) 現在進行形 確認する表現
第 7 回	Unit9-1	Break up with Nate (1) 動名詞 提案する表現
第 8 回	Unit9-2	Break up with Nate (2) 動名詞 提案する表現
第 9 回	Group project 1	グループによる課題制作
第 10 回	Group project 2	グループによる課題制作
第 11 回	Presentation	グループによる発表
第 12 回	Unit10-1	The Dream Job (1) 受動態 意思・予定を述べる表現
第 13 回	Unit10-2	The Dream Job (2) 受動態 意思・予定を述べる表現

第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

テキストを事前に読み課された宿題をする。

授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。

課題の制作や発表準備。

## 【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

## 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）

宿題・課題（40%）

期末試験（40%）

欠席 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout the group project, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

クレグ ジョーンストン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文1年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

## 【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities	Introducing yourself; "Be" verbs in questions & statements
Week 3	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities	Exchanging personal information; Starting & ending a conversation; Subject pronouns & possessive adjectives
Week 4	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules	Asking for & giving opinions; Simple present wh- questions
Week 5	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules	Describing daily schedules; prepositions of time
Week 6	Quiz Unit 1-2	Quiz
Week 7	Unit 3 Shopping; Prices; colors; material	Talking about prices; Giving opinions; Discussing preferences
Week 8	Unit 3 Shopping; Prices; colors; material	Comparing with adjectives; How much/Which questions

Week 9	Unit 4 Music; Movies; Entertainment	Questions with "do"; Talking about likes & dislikes;
Week 10	Unit 4 Music; Movies; Entertainment	Giving opinions; making invitations & excuses
Week 11	Quiz Unit 3-4	Quiz
Week 12	Unit 5 Families & relationships	Talking about family & family members; Present continuous questions
Week 13	Unit 5 Families & relationships	Using quantifiers; Exchanging information about the present
Week 14	Quiz Unit 5	Quiz Presentation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework, class preparation, assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week.

【テキスト (教科書)】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online  
Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

<http://www.cambridge.org/interchangearcade/>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## クレグ ジョーンストン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

## 【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units from the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Begin Unit 7 Free time & weekend activities	Explanation of class Questions-simple past
Week 2	Unit 7 Free time & weekend activities	Talking about past events; Giving opinions about past experiences
Week 3	Unit 8 Stores & places in a city	Asking about and describing locations; Prepositions of place
Week 4	Unit 8 Stores & places in a city	Asking about quantity; How much/how many with nouns
Week 5	Quiz Unit 7-8	Quiz
Week 6	Unit 9 Appearance, Style, People	Asking about& describing appearance
Week 7	Unit 9 Appearance, Style, People	Identifying people; Questions for describing people; Modifiers with participles & prepositions
Week 8	Unit 10 Past experience, Unusual activities	Describing past experiences; Asking questions using the present perfect tense
Week 9	Unit 10 Past experience, Unusual activities	Using "already" and "yet" with the present perfect. Contrasting present perfect with simple past tense

Week 10	Quiz Unit 9-10	Quiz
Week 11	Unit 11 Cities, Hometowns, Countries	Asking about and describing cities; Using conjunctions in sentences
Week 12	Unit 11 Cities, Hometowns, Countries	Asking for & giving suggestions; Talking about travel; using modals "can" and "should"
Week 13	Unit 12 Health problems, medication & remedies	Talking about health problems; Asking for and giving advice; Making requests
Week 14	Quiz Unit 11-12	Quiz Presentation

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework, class preparation, assignments-paragraphs

Preparation and review are around an hour a week.

## 【テキスト (教科書)】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

## 【参考書】

Self Study online

Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

<http://www.cambridge.org/interchangearcade/>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

## 【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	A content based language course. Our Topic: Science Fiction. The literary heritage of S.F. Our Sub-topics: Exploration, Visitation, Transformation, Dystopia.	The origins of the Science Fiction Film: Georges Melies and A Trip to the Moon.
Week 2	Explorations Part I: Our World: Jules Verne: The father of science fiction. A look at the literary tradition. Exploring our world; Journey to the Center of the Earth. Why does man explore? Women in S.F.	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 3	Explorartion; Optimism and Pessimism in the work of Jules Verne, 20,000 Leagues Under the Sea.	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
Week 4	What Does the Future hold for Humanity? H.G. Wells" The Time Machine	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking

Week 5	Early American Science Fiction and racism in the Flash Gordon Serials	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
Week 6	Screening of Forbidden Planet and the Three mysteries of the film	While watching/listening note taking and information gap activities
Week 7	Solution to the mysteries and analysis of Forbidden Planet.	All class Activity #5 discussion and review
Week 8	Visitations Part I: Duper Analysis of F.P with a twist of Freud.Introduction to theme of visitation	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 9	Our aliens and ourselves: are they projections of who we are?	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
Week 10	H.G.Wells and The War of The Worlds: A metaphorical link with the times	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 11	Screening The Thing Major themes in the Alien Invasion film	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
Week 12	Earth Vs The Flying Saucers, It Conquered The World. The Cold War	All class activity #10 pair work, Listening and Note-taking
Week 13	Vistations ;Extra-terrestrial Messiahs The Day the Earth Stood Still, E.T., Close Encounters, Contact	All Class Activity #11 Speaking in small groups, Listeing and Note-taking
Week 14	Visitations Part II Extra-terrestrial Immigrants: Alien Nation, Men In Black, K-Pax	All class activity #12 pair work, Listening and Note-taking

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

## 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

## 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks.The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

A maximum of three absences are permitted each semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

## 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語24組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

## 【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Transformations; Experiments H.G. Wells' The Island of Dr. Moreau	review of previous themes, small group work and review of notes
week 2	Accidents: The Incredible Shrinking man and the Amazing Colossal Man	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 3	Evolutions: 2001 a Space Odyssey and The Time Machine	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
week 4	Augmentations: Robocop and Johnny Mnemonic	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 5	Artificial Intelligence: Colossus The Forbin Project and The Terminator	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
week 6	2001: A Space Odyssey, Screening first part of Bladerunner	All class Activity #5 discussion and review
week 7	Screening Bladerunner, the mystery of the Unicorn	While watching/listening note taking and information gap activities

week 8	Close Analysis of Bladerunner	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 9	Introduction to Dystopia: H.G. Wells Things to Come ,Fritz Lang's Metropolis,	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
week 10	Why Wells Hated Metropolis: Optimism and Pessimism again. Zamiatin's we and THX -!!38	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 11	Alders Huxley's Brave New World and Gattaca, first 12 minutes of 1984	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
week 12	Screening of 1984	While watching/listening note taking and information gap activities
week 13	Close Analysis of 1984 and Anthony Burgess's A Clockwork Orange	All Class Activity #10 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 14	John Carpenter's They :I've and Ray Bradbury's Fahrenheit 451.	All class activity #11 pair work, Listening and Note-taking

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

#### 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

#### 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores. A maximum of three absences are permitted each semester.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

#### 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

#### 【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Course methods, rules etc. Needs and desires: Excerpts from Phantom of the Opera and Nosferatu	Students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	Lon Chaney and the making of monsters; The penalty and the Hunchback of Notre Dame	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	Lon Chaney and The Phantom of The Opera The Evil and the Ugly.	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	The Historical Dracula, the Literary Dracula and the Making of Nosferatu; Merhage's Shadow of The Vampire	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	The Universal Dracula and the revisionist Bram Stoker's Dracula	All Class activity #4; small group work and listening , note taking

week 6	The Creation and the Fall, the Garden and Forbidden fruit Interview with a Vampire. Evil as a choice	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	Review of Vampire Choice, Dracula and Bram Stoker's Dracula .	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	A Marxist Reading of Dracula? Shadow of The vampire, Blood for Dracula	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Screening of Frankenstein (1931)	While watching activities and information gap tasks
week 10	Biblical Allegory : Creation of Man, Greek Mythology: The Theft of Fire, The Wind Mill as Cross.	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	The Monster: Guilty or Innocent?	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Introduction to and screening of Part I of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Close analysis of and Screening second part of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Dr J and Mr. H. and the Freudian interpretation of the film	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

#### 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

#### 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade. A maximum of three absences are permitted each semester.

#### 【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

#### 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

#### 【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Transformations: The Universal Wolfman	students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	The Style and new approach of John Braum's the Undying Monster	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	John Braum's The Lodger and the Real Jack	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	Screening of The Cat People	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	Close Analysis of The cat People	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Style and themes of Val Newton films: I walked with a Zombie	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	The Style and Themes of Newton films part two: The Leopard Man	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	Robert Wises The Haunting Part One	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Robert Wises The Haunting Part two	While watching activities and information gap tasks

week 10	The "baggage we carry, The haunting as psychological Trauma explained	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	Whatever Happened to Baby Jane or the horror that dwells within the family.	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Alfred Hitchcock Psycho Part One	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Alfred Hitchcock's Psycho Part two	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Psycho: The Style and content.	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

#### 【参考書】

Students should have a good dictionary in class

#### 【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

A maximum of three absences are permitted each semester.

#### 【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

#### 【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ロバート・D・ヒントン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

#### 【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations
Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster

Week 13	Poster presentation session	Student presentations
Week 14	Poster presentation session	Student presentations

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%), In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

## 【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

## 【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ロバート・D・ヒントン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

## 【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue
Week 14	Commercials	Students will evaluate the appeal of commercials

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

No textbook is required for this course.

**【参考書】**

None.

**【成績評価の方法と基準】**

Student grades will be determined by weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

**【学生の意見等からの気づき】**

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

**【Outline and objectives】**

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

リチャード シーハン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 27 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Enhance students' ability to communicate their thoughts and opinions in a cross-cultural environment, both verbally and in writing.

**【到達目標】**

Develop the necessary oral and written communicative skills to deal with situations students may encounter while traveling or studying overseas in an English-speaking country.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Short lectures based on textbook material in addition to online discussions and individual assignments.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
April 27	Online assignment-TBD	
May 4	Online assignment-TBD	
May 11	Online assignment-TBD	
May 18	Online assignment-TBD	
May 25	Class orientation	Online Hoppii website
June 1	Identifying main ideas & details	Unit 1 -Inferring word meaning from context -Discussion of extreme sports
June 8	Building / supporting an argument	Unit 1 -Supporting ideas with details/examples -Discussion of future goals
June 15	Asking initial & follow-up questions	Unit 2 -Recognizing rhetorical questions -Discussion of identity theft
June 22	Asking & giving advice	Unit 2 -Using modals of advice -Discussion of security trade-offs
June 29	Agreeing & Disagreeing	Unit 3 -Speaking out with confidence -Discussion of space exploration

July 6	Analyzing cause & effect	Unit 3 -Making logical connections -Discussion of causes & effects of COVID-19
July 13	Final Assignments Due	Key learnings/takeaways from COVID-19 crisis

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**  
About one hour preparation time will be required each week in terms of reviewing the current unit and vocabulary and previewing the next unit.

**【テキスト（教科書）】**  
NorthStar 3 Listening & Speaking (4th edition)  
by Helen Solorzano & Jennifer Schmidt  
Pearson Publishing  
ISBN: 978-0-13-294040-5

**【参考書】**  
None

**【成績評価の方法と基準】**  
Participation 40%  
Assignments 60%  
If you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

**【学生の意見等からの気づき】**  
None

**【Outline and objectives】**  
Students will engage in a variety of communication tasks through group discussions and exercises with the aim of making their communication more logical and concise.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

リチャード シーハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 27 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Enhance students' ability to communicate their thoughts and opinions in a cross-cultural environment, both verbally and in writing.

**【到達目標】**

Develop the necessary oral and written communicative skills to deal with situations students may encounter while traveling or studying overseas in an English-speaking country.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Short lectures based on the textbook material in addition to group activities (discussions / presentations).

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Sept 21	Course overview Student introductions	Student interviews (summer vacation)
Sept 28	Extending conversations	Unit 5 -Using follow-up questions -Job interview role play
Oct 5	Summarizing information	Unit 5 -Asking for clarification -Discussion of ideal work environment
Oct 12	Defending & supporting ideas	Unit 6 -Thinking in a linear fashion -Discussion of the pros & cons of tourism
Oct 19	Debating a position	Unit 6 -Prioritizing ideas -Discussion of key issues facing Japan
Oct 26	Debate preparation	-Revision of Article 9 -Encouraging more immigration
Nov 2	Debate present, challenge & defend	-Revision of Article 9 -Encouraging more immigration
Nov 9	TED Talks	Discussion of the pros & cons of AI
Nov 16	Changing conversational topics	Unit 7 -Recognizing & using conversational markers -Social event role play
Nov 30	Soliciting opinions	Unit 7 -Identifying reasons for a speaker's opinion -Open topic discussion

Dec 7	Interrupting politely	Unit 8 -Being assertive -Meeting role play
Dec 14	Leading a discussion	Unit 8 -Facilitating a meeting -Meeting role play
Dec 21	YouTube video	Discussion of climate change (fact or fiction)
Jan 18	Exam & Summary	Units 5-8

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

About one hour preparation time will be required each week in terms of reviewing the current unit and vocabulary and previewing the next unit.

## 【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking (4th edition)  
by Helen Solorzano & Jennifer Schmidt  
Pearson Publishing  
ISBN: 978-0-13-294040-5

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 30%  
Assignments 40%  
Final exam 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

Students will engage in a variety of communication tasks through group discussions and exercises with the aim of making their communication more logical and concise.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

## 【到達目標】

論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。基本的に1つのユニットを2回の授業で扱い、1週おきにライティングの宿題を課す。ユニットによってはプレゼンテーションも行う。授業では英語でのペアワーク、グループワークも取り入れるので、積極的に参加すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。1週おきに出される課題にしたがって英語の文章を書く。書いた文章の内容を授業中に口頭で発表することもあるので、発音練習をしておく。

## 【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年  
2200 円（税別）

## 【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、筆記試験 40 %。  
欠席が 4 回以上の場合原則的に単位修得を認めない。遅刻・早退は合計時間が 100 分に達した時点で欠席 1 回分とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。  
英語で発話しやすくなるよう、発音練習や会話練習を増やす。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用することがある。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write a logically organized paragraph, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

## 【到達目標】

複数のパラグラフからなる論理的なエッセイを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、効果的なパラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。最終的には複数のパラグラフから構成されるエッセイを書き、プレゼンテーションを行う。基本的に1つのユニットを2回の授業で扱い、1週おきにライティングの宿題を課す。ユニットによっては英語でのプレゼンテーションも行う。授業では英語でのペアワーク、グループワークも取り入れるので、積極的に参加すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
4	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
5	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
6	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
7	Introduction (1)	プレゼンテーションの導入とは
8	Introduction (2)	プレゼンテーションの導入を書く
9	Body (1)	プレゼンテーションの展開部とは
10	Body (2)	プレゼンテーションの展開部を書く
11	Conclusion (1)	プレゼンテーションの結論部とは
12	Conclusion (2)	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。1週おきに出される課題にしたがって英語の文章を書く。書いた文章の内容を授業中に口頭で発表することもあるので、発音練習をしておく。

## 【テキスト（教科書）】

*Message Delivered* < Lower Intermediate > 南雲堂 2019年  
2200円（税別）

**【参考書】**

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。  
欠席が4回以上の場合は原則として単位修得を認めない。遅刻・早退は合計時間が100分に達した時点で欠席1回分とみなす。

**【学生の意見等からの気づき】**

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。  
英語での質疑応答やディスカッションがしやすくなるよう、実例を示し、テーマ設定や導入の仕方を工夫する。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用することがある。

**【Outline and objectives】**

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write a short essay with multiple paragraphs, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文1年：英語 29 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The title of this English 2 course is "Presenting Different Opinions in English: Part I." The aim of the course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

**【到達目標】**

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. The format and structure of an essay will also be introduced. This will aid students in their preparation for presentations on the topics covered. Students will read articles, write reports, participate in discussions, and give presentations.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Active participation is essential. Students will read, discuss, and write about a variety of topics and work in pairs and in groups. Homework will be given to prepare students for the following class.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria.
Week 2	Topic: Education 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 3	Topic: Education 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 4	Topic: Travel and Culture 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 5	Topic: Travel and Culture 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 6	Topic: Health & Environment 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 7	Topic: Health & Environment 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.

Week 8	Mid-term presentations.	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
Week 9	Topic: Society 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 10	Topic: Society 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 11	Topic: Relationships 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 12	Topic: Relationships 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 13	Topic: Media and Technology 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 14	Final presentations and remarks	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics studied.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be given to help students prepare for the following lesson. Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co.Ltd. ISBN4-523-17413-X. JPY 2,200

#### 【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

#### 【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written reports 40%

Presentations 40%

More than three absences will seriously affect your final grade.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

#### 【Outline and objectives】

The title of this English 2 course is "Presenting Different Opinions in English: Part I." The aim of the course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

ドナルド ホワイト

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文1年：英語 29 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

#### 【到達目標】

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Active participation is essential.

In pairs and in groups, students will read, discuss and write about a variety of topics.

Homework will be given to prepare students for the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to the course.	Explanation of the course, class "rules" and expectations
week 2	Topic: Education 3	Reading comprehension, written response and discussion.
week 3	Topic: Education 4	Reading comprehension, written response and discussion.
week 4	Topic: Travel and Culture 3	Reading comprehension, written response and discussion.
week 5	Topic: Travel and Culture 4	Reading comprehension, written response and discussion.
week 6	Topic: Health and Environment 3	Reading comprehension, written response and discussion.
week 7	Topic: Health and Environment 4	Reading comprehension, written response and discussion.
week 8	Topic: Research skills and preparation for presentation.	All students to present a 4 minute presentation on one of the topics so far studied.
week 9	Topic: Society 3	Reading comprehension, written response and discussion.

week 10	Topic: Society 4	Reading comprehension, written response and discussion.
week 11	Topic: Relationships 3	Reading comprehension, written response and discussion.
week 12	Topic: Relationships 4	Reading comprehension, written response and discussion.
week 13	Topic: Media and Technology 3	Reading comprehension, written response and discussion.
week 14	Topic: Research skills and preparation for presentation.	All students to present a 4 minute presentation on one of the topics so far studied.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be given to help students prepare for the following lesson.

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

It is recommended that students spent 2 hours a week outside of class so that they are properly prepared for the following class.

## 【テキスト（教科書）】

Richard McMahon(2017) Presenting Different Opinions. Na'un-do Co. Ltd.

ISBN4-523-17413-X

## 【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most of which will be on the internet.

## 【成績評価の方法と基準】

Final evaluation will be based on:

Participation and attendance 20%

Homework and written reports 40%

Presentations 40%

No more than 3 absences will be accepted.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 30 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

## 【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online ("Core Vocabulary") before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	critical cartoon, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing

9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Final exam	Vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and preview your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

#### 【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

#### 【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

#### 【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, homework, and quizzes (35%)
- 3) Final exam (45%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely or mostly in English. You are encouraged to participate actively, express your ideas clearly, and explain logically.

#### 【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 30 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

#### 【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently. In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary

9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Final exam - 1	Review test on vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

#### 【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

#### 【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

#### 【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, assignments, and quizzes (40%).
- 3) Final exam (40%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely/mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

#### 【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1  
 単位数：1 単位  
 文 1 年：英語 31 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

#### 【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks,	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 2 Jobs, career skills	Comparing with gerund phrases,
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 6	Unit 3 Favors, requests, messages	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 7	Unit 3 Favors, requests, message	Leaving messages Making indirect requests
Week 8	Unit 4 Narrating a story	Describing events in the past Using past verb forms
Week 9	Unit 4 Narrating a story	Listen to news broadcasts React to news
Week 10	Unit 5 Comparing different cultures	Quiz Units 3-4 Describing customs Giving advice

Week 11	Unit 5 Comparing different cultures	Giving advice Using modals of necessity
Week 12	Unit 6 Describing problems	Making complaints Describing problems with household items
Week 13	Unit 6 Describing problems	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Unit 7 (Identifying, describing problems, coming up with solutions)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week.

**【テキスト（教科書）】**

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9  
Students' book

**【参考書】**

Self-study online  
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Workbook  
Vocabulary development:  
<https://quizlet.com/KreggJ>  
<https://www.memrise.com/>

**【成績評価の方法と基準】**

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

**【学生の意見等からの気づき】**

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

**【Outline and objectives】**

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

**English 2 II**

2017年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1単位

文1年：英語 31組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

**【到達目標】**

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 8. Learning and education	Ice-breakers/ Review Describing preferences, Talking about learning methods
Week 2	Unit 8. Learning and education	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 3	Unit 9 Self-improvement	Quiz Units 7-8 Describing things that need to be done Asking advice
Week 4	Unit 9 Self-improvement	Giving suggestions Making inferences
Week 5	Unit 10 The past and future	Talking about historic events Giving opinions on the future
Week 6	Unit 10 The past and future	Using time adverbs & prepositions
Week 7	Unit 11 Lessons in life	Quiz Units 9-10 Talking about milestones, past regrets
Weeks 8	Unit 11 Lessons in life	Using time clauses Discussing turning points
Week 9	Unit 12 The right stuff	Describing purpose Giving reasons, qualities for success
Week 10	Unit 12 The right stuff	Infinitives of purpose Talking about ads

Week 11	Unit 13 That's a possibility	Quiz Units 11-12 Explaining hypothetical events Drawing conclusions
Week 12	Unit 13 That's a possibility	Using past modals of certainty Giving opinions and advice
Week 13	Unit 14 Behind the Scenes	Describing how something is done or made Describing media careers
Week 14	Unit 14 Behind the Scenes	Describing a process Using relative clauses

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

## 【参考書】

Self-Study online  
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Workbook  
<https://quizlet.com/KreggJ>  
<https://www.memrise.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

## 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業開始は5月30日（土）から

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We

will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Placement Test	English 2 Unified Assignment #1
2	Introduction to Online English Stud	English 2 Unified Assignment #2
3	Online English Resources	English 2 Unified Assignment#3
4	Getting Ready for your Regular English Class	English 2 Unified Assignment #4
5	Orientation & Getting to Know You.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
	Unit 1. Where are you from?	
6	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
7	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
8	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
9	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
10	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions

11	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
12	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
13	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
14	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework will include writing and preparation tasks. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

**【参考書】**

Please bring a good English dictionary.

**【成績評価の方法と基準】**

Reports and online performance

**【学生の意見等からの気づき】**

Students requested listening tracks to be repeated more.

**【学生が準備すべき機器他】**

Dictionary

**【Outline and objectives】**

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

**English 2 II**

2017 年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

**【到達目標】**

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業開始は 5 月 30 日（土）から

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Placement Test	English 2 Unified Assignment #1
2	Introduction to Online English Stud	English 2 Unified Assignment #2
3	Online English Resources	English 2 Unified Assignment#3
4	Getting Ready for your Regular English Class	English 2 Unified Assignment #4
5	Orientation & Getting to Know You.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
	Unit 1. Where are you from?	
6	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
7	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
8	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
9	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
10	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions

11	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
12	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
13	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
14	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

## 【参考書】

Please bring a good English dictionary.

## 【成績評価の方法と基準】

Reports and online performance

## 【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

## 【学生が準備すべき機器他】

Dictionary

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

## 【到達目標】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.

We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Classroom Placement process
2.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Classroom Placement process
3.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Classroom Placement process
4.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment
5.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment
6.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment
7.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment

8.	Introduction and Process Writing Getting ready	Six Steps of Academic Writing. Using outlines Choosing a Topic Brainstorming Editing	Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.
9.	Paragraph structure Paragraph Development	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence Styles of support Detail, Explanation, Example	
10.	Peer editing Descriptive Writing	Give constructive feedback using on-line sharing. Using Adjectives: describing people and places.	
11.	Descriptive Paragraphs Organising ideas	Describing a process using connectors. Keeping ideas connected and in order	
12.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion	
13.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review	
14.	Using Causal Adverbs	Describing cause and effect ideas	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph.

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

**【テキスト（教科書）】**

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

**【参考書】**

To be advised

**【成績評価の方法と基準】**

Homework Assignments: 30%

Worksheet Assignments: 30%

Unified Assignments: 40%

Attendance: Due to coronavirus delays to the start of semester, this will be announced via the Hoppii Learning Management system.

**【学生の意見等からの気づき】**

None

**【学生が準備すべき機器他】**

A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability.

Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

**【その他の重要事項】**

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on their Hosei Gmail account with their "Class Number". Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code is: 2lg4uzm

**【Outline and objectives】**

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

## 【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will prepare an essay outline with: an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Comparing and Contrasting	Using comparative structures
Class 3	Similarities and Differences	Block versus Point by Point format
Class 4	Advantages and Disadvantages	Prepare and share paragraphs
Class 5	Problem and Solution Paragraphs	Using 5 Conditional Structures
Class 6	Problem and Solution Paragraphs	Linking Problems with solutions for coherence
Class 7	The structure of an Essay	Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 8	Writing thesis statements	Thesis statement and conclusion

Class 9	Essay Outlines	Using software functions to prepare an outline for an essay
Class 10	Essay Development	Putting the flesh onto the outline.
Class 11	Peer Review	Use standard software functions to Peer Review an Essay. Check for Cohesion and Unity
Class 12	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 13	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 14	Review	Review the course objectives and student achievements.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

## 【テキスト (教科書)】

Writing Essays: from paragraph to Essay, Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, Macmillan Writing Series

## 【参考書】

To be advised during course

## 【成績評価の方法と基準】

3 homework assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

3 worksheet assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

2 Student Self Evaluations of pair and group discussion participation each worth 10% = 20%

1 Presentation of Final Essay structure 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

## 【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

## 【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with their "Class Number".

## 【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice preparing a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。円安により、また東京オリンピックを控え、多くの外国人が日本を訪れるようになりました。困っている外国人を見かけることも多くなり、そのような人たちに英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail や手紙を紹介し、論理的な構成をもつパラグラフを紹介します。e-mail や手紙の書き方と基本的な口頭表現を学びます。

## 【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、本来のクラスに配属されるまでの期間、学生は科目ごとに英語分科会が用意する共通教材で学習します。本授業の開始日は5月7日とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明	Chapter 1 Hi! How are you?
2	Chapter 1	Hi! How are you?
3	Chapter 2	What's your major?
4	Chapter 2	What's your major?
5	Chapter 3	What did she look like?
6	Chapter 3	What did she look like?
7	Chapter 4	Let's take a trip!
8	Chapter 4	Let's take a trip!
9	Chapter 5	How about going out for dinner?
10	Chapter 5	How about going out for dinner?
11	Chapter 6	Let's go shopping!
12	Chapter 6	Let's go shopping!
13	春学期復習	Chapter1-6
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習してください本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』

Diane H. Nagatomo（金星堂）

## 【参考書】

必要な資料、参考書については授業で紹介いたします

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は授業開始後に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

## 【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA	4	Chapter8	Hello? Can I speak to Mary? Chapter8 後半 3.Listening Challenge (Converstaion 2,3) 4.Power Listening One More Lesson
English 2 II	5	Chapter9	I am so busy! Chapter9 前半 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge (Converstaion 1)
門馬 義幸	6	Chapter9	I am so busy! Chapter7 後半 3.Listening Challenge (Converstaion 2,3) 4.Power Listening One More Lesson
開講時期：秋学期授業/Fall   曜日・時限：木 1/Thu.1	7	Chapter10	What do you do? Chapter10 前半 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge (Converstaion 1)
単位数：1 単位	8	Chapter10	What do you do? Chapter10 後半 3.Listening Challenge (Converstaion 2,3) 4.Power Listening One More Lesson
営 1 年：英語 3 組	9	Chapter11	Let's watch sports! Chapter11 前半 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge (Converstaion 1)
<b>【授業の概要と目的（何を学ぶか）】</b>	10	Chapter11	Let's watch sports! Chapter11 後半 3.Listening Challenge (Converstaion 2,3) 4.Power Listening One More Lesson
基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。	11	Chapter12	Let's celebrate! Chapter12 前半 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge (Converstaion 1)
円安により、また東京オリンピックを控え、多くの外国人が日本を訪れるようになりました。困っている外国人を見かけることも多くなり、そのような人たちに英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。	12	Chapter12	Let's celebrate! Chapter12 後半 3.Listening Challenge (Converstaion 2,3) 4.Power Listening One More Lesson
<b>【到達目標】</b>	13	秋学期復習	Chapter7-12
この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R)や TOEFL(R)で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。	14	試験・まとめ	試験・まとめと解説
<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】</b>			<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b> 本授業は日本人が苦手としている Listening に力を入れているので、予習はしなくてけっこうです。必ず、復習をして確認テストに備えてください。復習時間は1時間を標準とします。
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3			<b>【テキスト（教科書）】</b> Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』 Diane H. Nagatomo（金星堂）
<b>【授業の進め方と方法】</b>			<b>【参考書】</b> 必要な参考書、資料等については授業で紹介します
テープを使いリスニングに力を入れながら、授業を進めていきます。予習はしなくてけっこうですが、復習は必ず行ってください。英会話に必要な基礎的な表現ばかりですので、指定した会話文はすべて暗記する必要があります。			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 学期末試験と平常点を成績評価基準とします。それぞれの配分は期末試験
授業では毎回、出席している学生全員を指名していければと考えています。各章終了後に確認テストを行います。			
私が実際に英米人とやり取りしている e-mail から英文を取り出し、e-mail の書き方や文章の論理的な構成等も説明します。			
<b>【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】</b>			
あり / Yes			
<b>【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】</b>			
なし / No			
<b>【授業計画】</b>			
回 テーマ		内容	
1 Chapter7		How are you feeling? Chapter7 前半 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge (Converstaion 1)	
2 Chapter7		How are you feeling? Chapter7 後半 3.Listening Challenge (Converstaion 2,3) 4.Power Listening One More Lesson	
3 Chapter8		Hello? Can I speak to Mary? Chapter8 前半 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge (Converstaion 1)	

(70%)、確認テスト等平常点(30%)です。授業での積極的な参加を重視するので、4回以上欠席した場合には原則として単位は認めません。遅刻3回で欠席1回とみなします。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートに基づき授業を進めたい

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

**【Outline and objectives】**

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

営1年：英語4組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The title of this English 2 course is "Presenting Different Opinions in English: Part I." The aim of the course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

**【到達目標】**

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered. Students will read articles, write reports, participate in discussions, and give presentations.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Active participation is essential. Students will read, discuss, and write about a variety of topics and work in pairs and in groups. Homework will be given to prepare students for the following class.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria.
Week 2	Topic: Education 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 3	Topic: Education 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 4	Topic: Travel and Culture 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 5	Topic: Travel and Culture 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 6	Topic: Health & Environment 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 7	Topic: Health & Environment 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.

Week 8	Mid-term presentations	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
Week 9	Topic: Society 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 10	Topic: Society 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 11	Topic: Relationships 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 12	Topic: Relationships 2	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 13	Topic: Media and Technology 1	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 14	Final presentations and remarks	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics studied.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework will be given to help students prepare for the following lesson. Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co.Ltd. ISBN4-523-17413-X. JPY 2,200

**【参考書】**

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

**【成績評価の方法と基準】**

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written reports 40%

Presentations 40%

More than three absences will seriously affect your final grade.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not applicable.

**【Outline and objectives】**

The title of this English 2 course is "Presenting Different Opinions in English: Part I." The aim of the course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 4 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The title of this English 2 course is "Presenting Different Opinions in English: Part II." The aim of the course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

**【到達目標】**

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph and an essay will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered. Students will read articles, write reports, participate in discussions, and give presentations.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Active participation is essential. Students will read, discuss, and write about a variety of topics and work in pairs and in groups. Homework will be given to prepare students for the following class.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria.
Week 2	Topic: Education 3	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 3	Topic: Education 4	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 4	Topic: Travel and Culture 3	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 5	Topic: Travel and Culture 4	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 6	Topic: Health & Environment 3	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 7	Topic: Health & Environment 4	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.

Week 8	Mid-term presentations	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics so far studied.
Week 9	Topic: Society 3	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 10	Topic: Society 4	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 11	Topic: Relationships 3	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 12	Topic: Relationships 4	Reading comprehension, written response, group discussion, and mini-presentations.
Week 13	Topic: Media and Technology 3	Reading comprehension, written response, and group discussion.
Week 14	Final presentations and remarks	All students will give a 4-minute presentation on one of the topics studied.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be given to help students prepare for the following lesson. Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co.Ltd. ISBN4-523-17413-X. JPY 2,200

#### 【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

#### 【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written reports 40%

Presentations 40%

More than three absences will seriously affect your final grade.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

#### 【Outline and objectives】

The title of this English 2 course is "Presenting Different Opinions in English: Part II." The aim of the course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 5 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking、writing、listening の練習をすることで、情報収集や paragraph writing、discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

#### 【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は共通教材学習期間終了後の5月30日(土)とし、この日までにオンライン授業の具体的な方法などを、学習支援システムで提示します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各Unitの(1)を授業で行う前にはLanguage Focusの発声練習を、各Unitの(2)を授業で行う前には「Readingの予習」を行ってください。「Readingの予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehensionの解答を書いてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

#### 【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016年

価格：2250円＋税

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。今学期出す14回の課題（共通教材期間の課題4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

#### 【その他の重要事項】

指定のテキストを準備しておいてください。オンラインでリアルタイムの指導をおこなう場合、指導の曜日・時間は火曜日2限とします。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write paragraphs and have a discussion in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

営1年：英語5組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内でのspeaking, writing, listeningの練習をすることで、情報収集やessay writing, discussionに必要な語彙力の向上を目指します。

#### 【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speakingやwritingで使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

各Unitの進め方としては、1つのUnitを前半と後半に分け、2週にわたって1つのUnitを学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の復習やテキストを中心にlistening, speaking, writingの練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストにはreadingのセクションもありますので、内容を確実に理解し、意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speakingのパフォーマンステストや語彙テストなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティ
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, として語彙に関するテストを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各Unitの(1)を授業で行う前にはLanguage Focusの発声練習を、各Unitの(2)を授業で行う前には「Readingの予習」を行ってください。「Readingの予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehensionの解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

#### 【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016年

価格：2250円＋税

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30%（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
  - ・欠席回数が4回以上の場合、原則として単位取得資格を失います。
  - ・3回の遅刻（授業開始時刻から10分を超える場合）で1回の欠席とします。
  - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
  - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。また、受講生同士で行うタスクを頻繁に取り入れます。

#### 【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write an essay and have a discussion in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語6組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

#### 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックも延長になりコロナが蔓延しているなかで日本を訪れる外国人も少なく彼らと話す機会も話す機会も少ないなか個人が積極的に英語を話せるようにしてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。また、前期後期を各1回ずつ大きなプレゼンテーションをしてもらう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 First Impressions	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Reading Unit 1.
2	Unit 1 前半 Continuation of First Impression	What is your first impression of people, what do you look for in others, what is most attractive to you? Do you agree with what Iris, Shin and Anna are saying and why.
3	Unit 1 後半 Continuation of First Impression	Continuation of the previous unit. Discussion on what appearance and personality/lifestyle mean to you and what the classmates think about it.
4	Unit 3 前半 The Good Language Learner	What do you think about the local language, what does becoming international mean.
5	Unit 3 後半 The Good Language Learner	Is English an international language? Do we have to be able to speak English? Discussion on the pros and cons of learning English

6	Unit 5 前半 Forever Single	What do you think about marriage? Are there any merits or demerits of being single or getting married.
7	Unit 5 後半 Forever Single	Discussion on the pros and cons of marriage.
8	Unit 7 前半 What's for Lunch	What is climate change. Does the food we have any relationship with climate change?
9	Unit 7 後半 What's for Lunch	Does staying healthy have anything to do with climate change? Discussion on what is healthy to eat and what is not.
10	Unit 8 前半 Your Online Past Start preparing for the presentation	What are the dangers of online posting. Did you have any problems posting on line or do you know anyone having troubles because of that. What is a presentation?
11	Unit 8 後半 Your Online Pst Preparing for the presentation	Talk about the use of SNS. Discuss the merits and demerits of using a tablet, smartphone and a computer. The students will be divided into groups and start talking about the theme they want to present.
12	Back-up Preparing for the presentation	Back-up class Continuation of the preparation for the presentation. Each group will give a 10-15 minute presentation.
13	Presentation Talk about the field work during the summer holidays.	Presentation Each group will present their presentation.
14	Test	Test まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting Your Ideas in English (Third edition)  
Pearson  
Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上が合格となる。  
各学期欠席が4回以上の場合は原則として単位取得は認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語6組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

## 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックの開催も延長、コロナが蔓延しているなかで日本を訪れる外国人も少なく話す機会も少ないと思われる。このような状況下で各個人が積極的に機会を見つけて英語を話せるようにして貰いたい。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

基本的には春学期と同じように授業を進行していく。教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話ををする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にディスカッションを授業内で多く行う。大きなプレゼンテーションをおこなうまたそれぞれに詩を書いてもらい授業で発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading a poem	Introduction to poetry. Reading What do I Remember of the Evacuation
2	What Do I Remember of the Evacuation	What Do I Remember of the Evacuation What did you think about the poem? Finding symbols and what they mean. What is poetry? Writing your own poem
3	Unit 10 前半 My Student Life	Why do you go to university? Do you go to a university to get a good job?
4.	Unit 10 後半 My Student Life	What are the pros and cons of going to a university.Discuss
5	Reciting your poem	Reciting your poetry. Students recite their poems in front of the class which they have written.
6	Unit 11 前半 International Relationship	The world is getting borderless.What do you think of international relationship.

7	Unit 11 後半 International Relationship	Discussion on the pros and cons of international marriage and what you think is happening in the global world recently.
8	Unit 12 前半 Create another Future	What is happening in the year 2100. Are the people in 2100 responsible of what is happening in 2200.
9	Unit 12 後半 Create another Future	What are the reasons for global warming. What can we do to stop global warming. Discuss.
10	Unit 20 前半 A Mother's Story Start preparing for the presentation	What do you think about capital punishment. Is capital punishment necessary? What is a presentation.
11	Unit 20 後半 A Mother's Story Preparing for the presentation	Why do some criminals deserve capital punishment and some don't. Discuss the pros and cons of capital punishment. The students will be divided into groups and start talking about the theme of their choice to present to the class.
12	Back-up class Preparing for the presentation	Continuation of the preparation for the presentation.
13	Presentation	Presentation The students will present their presentation to the class.
14	Test	Test まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上となる。

#### 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting Your Ideas in English (Third edition)

Pearson

Richard R. Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。

各学期欠席が4回以上の場合は原則として単位取得を認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

営1年：英語7組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハ°ラク°ラフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。まずは一つのハ°ラク°ラフを作ることを目指し、最終的には複数のハ°ラク°ラフからなる短いエッセーを書けるようになる。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書き、プレゼンテーションができるようになる。フ°レセ°ンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものた°から、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でフ°レセ°ンテーションで°きるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

#### 【到達目標】

- ・ハ°ラク°ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べ°ることが出来る。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス°ムで°話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

少なくとも学期の前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。学習支援システムで授業が開始される日を4月28日（火）とする。第2回の授業までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

パラグラフ形式とその論証的構造を講義する。その上で、学期を通じてふたつのトピックについてプレゼンテーションする。グループワークと添削を通してハ°ラク°ラフ形式のスキプトを練り上げ、発音練習を経た上で、フ°レセ°ンテーションを行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	人物紹介 1 パラグラフ形式の講義	プレゼンテーション課題の概要 通知 講義（パラグラフ形式、プロセスライティング、辞書の種類と使い方） 見本の提示と読解（アウトライン作り）
3	人物紹介 2	プロセスライティング (Idea Generation, Organization, Outlining)
4	人物紹介 3	アウトライン提出 プロセスライティング (First Draft)
5	人物紹介 4	プロセスライティング (Rewriting)

6	プレゼンテーションの 講義 1	スクリプト提出 講義 (プレゼンテーションのコツ と準備) 見本の聞き取り
7	人物紹介 5	プレゼンテーションの実施
8	商品・アイデア紹介 1 パラグラフ形式の講義 2	プレゼンテーション課題の概要 通知 講義 (因果関係・メカニズムの表 現、論証の基本構造) 見本の提示と読解 (アウトライン 作り)
9	商品・アイデア紹介 2	プロセスライティング (Idea Generation, Organization)
10	商品・アイデア紹介 3	プロセスライティング (Outlining, First Draft) アウトライン提出
11	商品・アイデア紹介 4	プロセスライティング (First Draft, Rewriting)
12	商品・アイデア紹介 5 プレゼンテーションの 講義 2	プロセスライティング (Rewriting) 講義 (プレゼンテーションのコツ と準備) 見本の聞き取り
13	商品・アイデア紹介 6	スクリプト提出 プレゼンテーションの準備
14	商品・アイデア紹介 7	プレゼンテーションの実施

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを持ち帰って草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に 2 回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円 (税別) (以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963)  
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円 (税込)  
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)  
その他、授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

少なくとも学期の前半がオンラインでの開講となったことにとともに、以下に定めた成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法と基準は、第 2 回の授業までに学習支援システムで提示する。  
平常点 (グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等)30%、スクリプトの提出 35%、プレゼンテーション 35%  
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

**【Outline and objectives】**

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph, and finally a short essay (consisting of several paragraphs). You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

**English 2 II**

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

エッセーの形式と構造を理解し、英語の短いエッセーを書く。また、その内容をもとにプレゼンテーションを行う。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書き、プレゼンテーションができるようになる。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

**【到達目標】**

- ・アカデミックライティングの基礎を知り、実践する。
- ・自分の意見を形成し筋道立てて述べることができる。
- ・選択した題材について、複数のパラグラフからなる短い英文エッセーを書く。
- ・その内容をプレゼンテーションする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスニングで話せる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

エッセー形式とその論証的構造を講義する。その上で、学期を通じてひとつのトピックについてエッセーを仕上げ、プレゼンテーションをしてもらう。グループワークと添削を通してエッセー形式のスクリプトを練り上げ、発音練習を経た上で、プレゼンテーションを行う。

補助資料の英文エッセーを 3 本読んで、アウトランを作って議論を把握する。3 本のうちから一つ選んで反論を考え、2~3 人のグループでショートエッセーを作成する。エッセーをもとにしたプレゼンテーションを行う。

エッセー 1 Can the American Right and Left Get Back to Civil Debate?

エッセー 2 "Rise of Machines" Is Not a Likely Future

エッセー 3 If this, what next?: Animal cruelty must not be tolerated

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明 春学期のフィードバック
2	エッセー形式の講義 1	ショートエッセー課題およびプレゼンテーション課題の概要通知 講義 (エッセー形式と執筆プロセス、他人の意見を理解すること、批判的思考)
3	読解 1 (エッセー 1)	アウトラインの抽出、議論の構造と主張の確認
4	読解 2 (エッセー 2)	アウトラインの抽出、議論の構造と主張の確認
5	読解 3 (エッセー 3)	アウトラインの抽出、議論の構造と主張の確認

6	ショートエッセー 1	見本の提示と読解(アウトライン作り) グループ編成 QFT
7	エッセー形式の講義 2 ショートエッセー 2	講義(批判的思考と論証の構造、自分の意見を形成すること) プロセスライティング(Idea Generation)
8	ショートエッセー 3	プロセスライティング(Idea Generation, Organization)
9	ショートエッセー 4	プロセスライティング(Organization, Outlining) アウトラインの提出
10	ショートエッセー 5	プロセスライティング(First Draft)
11	ショートエッセー 6 プレゼンテーションの講義 1	プロセスライティング(Rewriting) 講義(プレゼンテーションの心構え、発音仕方と伝わり方の関係) 見本の聞き取り
12	ショートエッセー 7 プレゼンテーションの講義 2	プロセスライティング(Rewriting) ショートエッセー提出 講義(補助資料の作り方) 見本の聞き取り
13	ショートエッセー 8	プレゼンテーションの準備・練習
14	ショートエッセー 9	プレゼンテーションの実施

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするエッセーの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを持ち帰って草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に2回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

#### 【テキスト(教科書)】

なし

#### 【参考書】

・『LINKS 1500—大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013年、1800円(税別)(以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>)

・綿貫陽、マーク・ヒーターセン(共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円(税込)

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円(税別)その他、授業時に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等)30%、ショートエッセーの提出 35%、プレゼンテーション 35%  
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

#### 【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion on a certain topic in the form of a shot essays. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accent. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 8 組

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Common English that students can use everyday.

#### 【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice
week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids

week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework.  
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth edition Jack Richards  
9781316620113

## 【参考書】

Handouts

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%  
Homework 33%  
Oral presentation and Quizzes 34%

## 【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

## 【その他の重要事項】

Contact email  
kadmersensri@gmail.com

## 【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

## 【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing? time	activities, time telling time
Week 3	Family, Neighborhoods, Quiz	relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms

week Oral Presentations companies, hotels, restaurants,  
14 on where our stores, government  
parents work

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, and university guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit cours

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards  
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Oral presentation and quiz 33%

Homework 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing material, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活・現代社会での興味あるトピックについて、自分の考えを書いたり、口頭で発表する英語運用能力を養う。ライティングに関しては、パラグラフライティングの構成を学び、トピックごとに英文で書く力の習得を目指す。さらに、プレゼンテーションによって、実際に口頭で発表する場を設け、スピーキングの強化も図る。そのためにも、正確な発音は不可欠な要素となるので、発音矯正指導は平行して実施。リスニングも当然この段階で組み込まれる。この授業を通して読む、書く、聞く、話すという 4 技能を習得する。

【到達目標】

パラグラフライティング・エッセイライティングを習得。

プレゼンテーションの習得、人前で話すことに慣れ、英語で考える

習慣をつけるために毎回の授業で one-minute-speech を実行。

テキストの DVD を字幕なしで理解するようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	guidance how to proceed this class	pronunciation /marking/overlapping/ paragraph writing
2	Cool, Calm and Heroic paragraph writing assignment (the topic will be given)	warm-up (managed, naval aviator) structure point (the miracle on the Hudson) words and phrases to study text understanding through DVD and CD [予習] vocabulary を予習。音声ダウンロード。30 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30 分。
3	to complete unit 1	Without the subtitle, understand the text true / false quiz Partialcomposition (compared to ~) [予習] paragraph を与えられたトピックについて書く。1 時間。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音と意味を一致させた語彙を脳内にインプットすることでコミュニケーション能力を上げる。20 分。

4	Flying into the Future	Warm-up (battery, hurdle) structure point (zooming around) Word and phrase to study (get rid of, intrigued) Listen to CD and watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。音声から穴埋め問題を実施。30分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30分。	11	Starting Somewhere	Warm-up (150 million tons) Structure point (while~) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary を予習。音声聞いて穴埋め問題を解く。30分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30分。
5	to complete unit2 paragraph writing assignment (a new topic will be given)	Without the subtitle, understand the text True/ False quiz Partial composition (incorporate ~with) [予習] 演習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを確実な音で再現し、音による語彙を蓄積しコミュニケーション能力を向上。20分。	12	to complete unit 5	Without the subtitle, understand the text True/ False quiz Partial composition (a ticking time bomb) [予習] 練習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音による語彙を増やしコミュニケーション能力を上げる。20分。
6	Food Health for the Planet	Warm-up(applied for~) structure point (by far the greatest threat) word and phrase (sizzle, derive) Listen to CD & watch DVD marking Read aloud [予習] vocabulary を予習。音声聞いて穴埋め問題を解く。30分。 [復習] 正確な音声での音読で内容把握を確実にする。30分。	13	final test	review the previous units [予習] 試験範囲を学習。2時間。 [復習] 解答できなかった項目をチェック。30分。
7	to complete unit 3 paragraph writing assignment (a new topic for the presentation will be given)	without the subtitle, understand the text True/False quiz Partial composition (thanks to~) [予習] 演習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを確実な音で再現し、音による語彙力を強化しコミュニケーション能力を上げる。20分。	14	the final presentation	the topic to be given power point, pc, pictures will be recommended [予習] draft を書き、口頭で発音に注意して練習。3時間。 [復習] self evaluation の項目に答える。20分。
8	presentation	Public speech based on the paragraph [予習] presentation に向けて draft を書き、口頭でスピーチ練習。2時間。 [復習] self evaluation の項目に答える。20分。	<p><b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b> paragraph writing の課題を宿題とする。学生はレポート用紙に正式な様式に従って英文を書き提出。 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。</p> <p><b>【テキスト（教科書）】</b> ENGLISH FOR THE GLOBAL AGE WITH CNN Vol. &gt; 21 Kansai University CNN Research Group 1,900 Asahi Press</p> <p><b>【参考書】</b> not use</p> <p><b>【成績評価の方法と基準】</b> 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。</p> <p><b>【学生の意見等からの気づき】</b> とにかく英語でしゃべらされるクラス。</p> <p><b>【学生が準備すべき機器他】</b> USB, PC and pictures will be recommended for presentation</p> <p><b>【その他の重要事項】</b> 演習中心の授業。欠席・遅刻に注意。</p> <p><b>【Outline and objectives】</b> This class focuses on enhancing speaking and writing skills mainly. As for writing, they're supposed to come to be able to write a paragraph and then an essay eventually. Along with the writing activities, they'll make a speech based on their writing. Further more, through the text book, they'll challenge to understand the DVD without the subtitles (in doing so, reading technique and pronunciation checks involved)</p>		
9	Explosive Demand for Cobalt	Warm-up (odds) Structure point (which many believe) Listen to CD & watch DVD Marking Reading Reading aloud [予習] vocabulary の予習。音声での穴埋め問題を解く。30分。 [復習] 本文を正確な音で再現し、内容把握。30分。			
10	to complete unit 4	Without the subtitle, understand the text True/ False quiz Partial composition (it is the time to~) [予習] 演習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音による語彙を増やし、会話力を強化。20分。			

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 9 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one -minute speech を充実させる。読む、書く、聞く、話すの 4 技能を習得する。

## 【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。

DVD を字幕なしに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回の音読 / slash reading から本文の理解をする。

CD/DVD を使用して音声・映像から理解を薦める。

ライティング課題を各トピックについて提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Serious Solution Needed How to write an essay Essay writing assignment (a new topic will be given)	Warm-up vocabulary (consequences) structure point (the habitats clownfish call home). Marking & read aloud Listen to CD & watch DVD. [予習] vocabulary の予習。音声を事前に聞き穴埋め問題を解く。30 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30 分。
2	to compete unit 6	Without the subtitle, understand the text. True and False quiz. Partial composition (have something to do with) [予習] 与えられたトピックで essay writing 演習問題の残りの完成。1 時間。 [復習] テキストを正確な音声で再生し、音での語彙力を強化し、コミュニケーション能力を向上。
3	Self-inflicted wounds	Warm-up vocabulary (wipe out, infrastructure) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。音声を事前にチェックして穴埋め問題を解く。40 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。20 分

4.	to complete the unit 7	Without the subtitle, understand the text. True and False quiz Partial composition (have little defense against) [予習] 練習問題の残りを完成。40 分。 [復習] テキストを確実な音で再生し音での語彙力を増やしコミュニケーション能力を強化。20 分。
5.	Deeply Disturbing Essay writing assignment (a new topic will be given).	Warm-up (Hillary or Trump) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。音声を事前に視聴して穴埋め問題を解く。40 分。 [復習] テキストを確実な音声で再生し、音に特化した語彙を強化してコミュニケーション能力を向上。20 分。
6.	to complete unit 8	without the subtitle, understand the text. True and false quiz. Partial composition (we should stay one step ahead) [予習] 演習問題の残りを完成。40 分。 [復習] テキストを確実な音声で音読し、音による語彙力を上げ会話力を強化。20 分。
7.	Review the previous units Essay writing assignment (a new topic will be given)	Check your understanding of the units learned so far. [予習] 理解できなかった箇所を事前にチェック。30 分。 [復習] 理解できなかった内容を再確認。20 分。
8.	Presentation	Make a public speech based on their own essays. [予習] 与えられたトピックについて draft を書き、口頭で練習。2 時間。 [復習] self evaluation の項目に答える。20 分。
9.	Coping with Change	Warm-up vocabulary check (used to) Words and Phrases (peer, relevant) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。事前に音声チェックで穴埋め問題を解く。40 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30 分。 [復習]
10.	to complete unit 9	without the subtitle, understand the text. True and false quiz Partial composition (until~) [予習] 演習問題の残りを完成。40 分。 [復習] テキストを正確に再現し、語彙力を強化しコミュニケーション能力を向上。20 分。

11. Playing a Better Role Warm-up vocabulary check (hierarchy, stigmatize)  
Listen to CD and watch DVD  
Marking Read aloud  
[予習] vocabulary の予習。事前に音声聞いて穴埋め問題を解く。30分。  
[復習] 本文を音読して内容把握。30分。
12. to complete unit 10 without the subtitle, understand the text.  
True and False quiz  
Partial composition (is about to~)  
[予習] 演習問題の残りを完成。40分。  
[復習] テキストを確実な音で再現して音を意識して会話力を上げる。20分。
13. final test review the previous units  
[予習] 試験範囲をチェックして準備。3時間。  
[復習] 解答できなかった項目を見直す。30分。
14. final presentation Make a public speech. (using power point, pc and other visual materials )  
[予習] 与えられたトピックについてエッセイを書き、口頭で練習。3時間。  
[復習] self-evaluation の項目に答える。20分。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

エッセイライティングの課題を自宅で仕上げ提出。  
各ユニットの音声の確認とスピーチの準備  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

ENGLISH FOR THE GLOBAL AGE WITH CNN 2020  
vol. > 21 Kansai University Research Group ASAHI PRESS  
1,900

**【参考書】**

no

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 (60%)・プレゼンテーション・ライティング (40%)  
各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

とにかくしゃべられる英語のクラス。

**【学生が準備すべき機器他】**

If you present your speech, you can use USB, CP and so on.

**【Outline and objectives】**

The students are supposed to write an essay after acquiring how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through activating one minute speech. They are encouraged to speak about what happens in their daily lives as specifically as possible with a word they've already known.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

**ヴァイヒャート ロビン フランク**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語10組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

**【到達目標】**

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation.	explanation of class requirements.
2	Life experiences	present perfect and simple past.
3	A past hobby.	listen for tense in life experiences.
4	Events.	simple past and past continuous.
5	How you met a friend.	presentation skills, make a timeline.
6	Opinions.	"too" and "enough" with adjectives and nouns.
7	The uniform debate.	listen and evaluate opinions.
8	Customs	"It" + infinitive, gerunds as subjects.
9	Food customs.	table manners, cross-cultural advice.
10	Professions and skills.	present perfect with "how long", "since", and "for"
11	Bollywood costume designer.	persuading the audience.
12	Recent activities.	present perfect continuous.
13	A record breaker.	present perfect continuous.
14	Quiz& Wrap up.	semester& book review.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Susan Stempleski. Stretch Level 3 Student's Book & Workbook Multi-Pack A with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 2,541

**【参考書】**

Additional materials may be distributed in class.

**【成績評価の方法と基準】**

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not applicable.

**【学生が準備すべき機器他】**

Notebook/Paper and writing utensils.

## 【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。また 2 つのインタビュー調査を実施し、レポートを作成し、クラスで発表します。期末レポートとしては、自分で選んで読んだ本についてレポートを書き、そのプレゼンテーションもします。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

## 【到達目標】

This course aims at four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn writing/presentation skills and strategies, learning about topic sentences, English writing/speaking organization, or summarizing.
- 2) You will discuss each topic of your writing with your classmates.
- 3) You will practice making small talk in every class.
- 4) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of what you learned and Reflection on your study in the spring semester Introduction of this course Writing: Self-introduction and Goal setting	You will review and reflect on your study in the spring semester. I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this course. You will also write about your self-introduction.
2	Organization of English Writing/Speaking: Self-introduction	I will explain the organization of English academic writing and you will introduce yourself to your classmates and me.
3	Review of Organization of English Writing Writing: My Favorite Class Interview 1: Recommended Book	You will review organization of English writing. You will also write and speak about your favorite class. You will ask a person to recommend a book that is worth reading to you and write a report about the interview.

4	Speaking: Interview Report/Decision about the Book you read in this semester for your term paper	You will report the interview in pair, small group, and class. You will choose one book you will read and write a report about it at the end of this semester and will introduce the title of the book you choose and explain why you select the book in class.	University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. 【テキスト (教科書)】 Handouts 【参考書】 Longman Dictionary of Contemporary English 【成績評価の方法と基準】 class participation (30%), assignments (20%), presentation (20%), and term paper (30%) *If you have four absences per semester without permission, make a presentation, or do not submit a term paper, you cannot receive a credit for this course. 【学生の意見等からの気づき】 I have changed the syllabus of this course. Therefore, I would like to go on fine-tuning this course in the process of this course to make this course more effective for my students' English learning. 【学生が準備すべき機器他】 Hosei's Educational Online Learning System (H'etude) 【その他の重要事項】 You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. 【Outline and objectives】 You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. In this semester, you will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English in this class. You will conduct two interviews and report them in class. You will write a term paper and make a presentation about a book you will read in this semester. You are expected to make a good learning community through participation in this class.
5	Writing/Speaking: Advantages and Disadvantages	You will write about your advantages and disadvantages and try to change disadvantage sentences into positive ones. Then you will talk about your classmates' advantages.	
6	Reading and Summary Writing	You will read a passage about how to make our life healthy, happy, and long and write a summary of the passage. Then you will discuss how to keep you fit.	
7	Writing: Your Life and Life Plan Outline of Your Term Paper	You will reflect on your life and make plans for your future life. Then you will write and speak about them. You will submit the outline of your term paper.	
8	Writing a card in English Interview 2: Career Development	You will learn how to write a letter in English and write a Christmas card in English. You will conduct interviews with three persons who have a full-time job and ask them the advantages and disadvantages of the work.	
9	Interview 2: Career Development Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English How to make a presentation and presentation slides	You will report about the interviews to your classmates and me. You will translate your favorite Japanese poem or song into English and show it to your classmates and me. You will learn how to make a presentation and presentation slides.	
10	Submission of Your Term Paper Presentation	You will submit your term paper to me. You will make a presentation about your term paper.	
11	Presentation	You will make a presentation about your term paper.	
12	Presentation	You will make a presentation about your term paper.	
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will translate your favorite Japanese poem or song into English and introduce it to your classmates.	
14	Review and Reflection	You will review what you learn in this course. You will reflect on your academic achievement in this semester and set your goals for the new academic year.	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected:

- 1) to watch or listen to an English program regularly
- 2) to do assignments, submit them, and meet the deadline.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

## 【到達目標】

We will complete an assignment, week by week. Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English. There are a variety of materials that include writing, reading, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A - Self Introduction	See Assignment A - Letter Correction for details.
2	B - Letter	See Assignment B - Letter Correction for details.
3	C - International Culture Quiz	See Assignment C - International Culture Quiz for details.
4	D - Mini Car Video	See Assignment D - Mini Car Video for details.
5	E - Mousetrap	See Assignment E - Mousetrap for details.
6	F - Sherlock Holmes Video	See Assignment F - Sherlock Holmes Video for details.
7	G - How We Met listening	See Assignment G - How We Met listening for details.
8	H - Wanted! listening	See Assignment H - Wanted! listening for details.
9	I - Romance	See Assignment I - Romance for details.
10	J - Jogging	See Assignment J - Jogging for details.
11	K - Reunion	See Assignment K - Reunion for details.
12	L - Japan Culture Quiz	See Assignment L - Japan Culture Quiz for details.
13	M - BBC World Service Video	See Assignment M - BBC World Service Video for details.
14	N - Purple Violin	See Assignment N - Purple Violin for details.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each assignment is detailed in the materials folder. There are a variety of activities which will endeavor to complete.

## 【テキスト（教科書）】

Materials for the class are available via HOPPII.

## 【参考書】

No other reference books are required.

## 【成績評価の方法と基準】

\* Note \* The first class will be held on Tuesday 2nd June. Until then, then, students are given online assignments, prepared by the English Subcommittee, which will be graded and integrated as below

Initial online assignments 25%

Remote classes -

Participation and classwork produced. 25%

Assignments. 25%

Quizzes and tests. 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

This year we are experiencing a whole new situation. We will all try to make the best of things.

## 【学生が準備すべき機器他】

A computer is best, a smart phone may work too. In any case, keep a record of your work in analog and/or digital form for inspection, if necessary.

## 【その他の重要事項】

This year, 2020, is a new situation. Let's try to make the best of things.

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please contact me.

Good luck!

## 【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

## 【到達目標】

Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner. Students will work in pairs and groups and complete a task using English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practiced and then used in freer, interactive activities in pairs and groups. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory activities.	Course overview. Classroom language. Teacher and student introductions.
2	Introductions.	Student introductions, mini presentations. Common introductory questions and answers.
3	Communication Game.	Team work information exchange activity using classroom language and everyday questions, and answers, clarifying, agreeing, disagreeing etc.
4	Picture Stories.	Narrative. Telling Stories. Pair preparation. Individual presentation
5	Picture story presentations.	Individual presentations. Extension activities.
6	British culture.	Q&A. Question formation. Pair preparation. Team quiz.
7	Letter Writing.	Form and content. Composition and error correction.

8	Newspapers.	Question and answer. Scanning a newspaper for information. Question formation. Pair work.
9	Romance picture story.	Same pictures, different order, different story. Work in pairs. Arrange the pictures, create and write a story. Switch partners, tell the story.
10	Building a better mousetrap.	Describing systems and processes. Passive forms. Work in pairs, design and individually present.
11	Problems and solutions.	Explaining a problem and giving advice for possible solutions. 2nd conditional.
12	Communication Game - baseball.	General knowledge team question and answer game. Using question and answer forms.
13	English and Japanese superstitions.	1st conditional sentences. Origins, purpose and explanation.
14	Jokes, riddles and puzzles.	Telling a joke. Understanding humour.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each class may include a homework assignment to consolidate class work and/or preparation for the next class. If a student is absent please check with classmates to to copy class notes and handouts and find out if any homework or preparation is required.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Materials for the class are available via HOPPII.

## 【参考書】

No other reference books are required.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation and classwork 50%

Assignments 25%

Quizzes and tests 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

The course is altered according to what could be improved in terms of student engagement and enjoyment, and also in terms of which topics are presented and how they are presented.

## 【学生が準備すべき機器他】

A computer is best, a smart phone may work too. In any case, keep a record of your work in analog and/or digital form for inspection, if necessary.

## 【その他の重要事項】

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please talk to me in class.

Good luck!

## 【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

## 【到達目標】

Through a variety of stimulating topics and the study & practice of a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required. Students will be able to read samples before practicing various writing tasks. Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Placement Test	English 2 - Unified Assignment 1
Week 3	Introduction to Online English Study	English 2 - Unified Assignment 2
Week 4	Online Orientation	English 2 - Unified Assignment 3
Week 4	Writing 1 - Format & process	The writing process & correct formatting
Week 5	Writing 2 - Pre-Writing	Topic choice, brainstorming, editing
Week 6	Writing 3 - Paragraph Structure	Topic, supporting & conclusion sentences
Week 7	Writing 4 - Paragraph Development	Details, explanation & example
Week 8	Writing 5 - Description A	Descriptive Paragraphs - Place
Week 9	Writing 6 - Description B	Descriptive Paragraphs - Person
Week 10	Writing 7 - First draft review	Reviewing, revising & rewriting

Week Writing 8 -Process Explaining order

12

Week Writing 9 - Opinion Expressing ideas with facts &amp; examples

13

Week Writing 10 - Review Course Overview

14

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be required to produce a printed report using the type of paragraphs, the grammatical structures and the vocabulary studied & practiced during the class. The report must be printed on A4 paper, using the correct format and submitted to the teacher by the next lesson. The length of the report may vary but these assignments, including pre-writing & review are expected to take approximately 90 minutes.

【テキスト (教科書)】

Writing Essays (Macmillan) By Dorothy E Zemach &amp; Lisa Ghulldu

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

60% - Homework Assignments

40% - Final Report

Failure to submit homework assignments during the semester will affect students' grades.

【学生の意見等からの気づき】

Students will have the opportunity, through the HOPPII educational support system, to contact & ask for guidance from the instructor throughout the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer &amp; PC in order to print reports

【その他の重要事項】

A desire & effort to improve & practice English composition skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

## 【到達目標】

To give the students confidence to communicate in English with the improvement in listening skills & extensive vocabulary acquisition during the first part of the semester. The second part of the course will provide students with further stimulating writing tasks & further compositional practice using models of writing that are based on real assignments, in order for them to master a multi-paragraph report.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

During the first half of the semester, students will preview theme & vocabulary before watching 2 short excerpts from the film. After viewing, they will work with a partner in English on comprehensive questions, before completing a review.

In the second half of the semester, each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Explanation	Introduction to the Fall Semester
Week 2	Bend It Like Beckham 1	An Indian & a British girl who love football.
Week 3	Bend It Like Beckham 2	Coach Joe & the women's team
Week 4	Bend It Like Beckham 3	The trip to Germany
Week 5	Bend It Like Beckham 4	Jess vs Jules
Week 6	Bend It Like Beckham 5	The Wedding

Week 7 Bend It Like Beckham 6 Going to America

Week 8 Paragraph Review A review of paragraph structure & format from the spring semester

Week 9 The Structure of an Essay Introduction, body & concluding paragraphs

Week 10 Problem/Solution Paragraphs Analysing & answering problems

Week 11 Outlines How to plan a report

Week 12 Introductions & Conclusions How to start & finish a report

Week 13 Comparison & Contrast Writing about similarities & differences

Week 14 Writing Review Final Evaluation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. During the first half of the semester, there will be weekly vocabulary preparation & a review exercise, and students will be required to submit a final report on one of the themes raised in the film.

During the second half of the semester, students will be expected to prepare regular English reports which will be assigned on a weekly basis. These must be printed on A4 paper and will require approximately 1 - 2 hours of study time depending on the student's level and the level of difficulty of the report as students progress to multi-paragraph essays during the term. A maximum of 3 absences will be permitted per semester.

## 【テキスト（教科書）】

'Writing Essays' by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.

Publisher: Macmillan Language House (second half, to be continued from spring semester)

## 【参考書】

An electronic dictionary or smartphone dictionary is required at every lesson.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

## 【その他の重要事項】

Regular attendance & a desire to improve & practice English communication & writing skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

フィル ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 13 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

For the first part of this semester you will work from home. The lessons are posted on the university website: HOPPII. We will use poetry, songs, animation and YouTube videos. Later, in the classroom, you will work in pairs, groups and with the class. To succeed you will be required to read, speak, listen and write.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Owl and the Pussy Cat. Exploring the world of Enchantment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
2	The Unicorn. A delightful song	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
3	Standing in the Doorway Exploring the feelings of loss.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
4	The Princess Bride. Story telling.	Through this delightful movie we will explore different kinds of love. An essay will be required.
5	I will Rise. Exploring the language of empowerment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
6	Everybody Knows. The power of song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
7	On the Road to Mandalay Exploring memories.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
8	Getting into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.

12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

No textbook required.

**【参考書】**

A good learners dictionary would be useful.

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed.

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の課題4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

**【学生の意見等からの気づき】**

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

**【学生が準備すべき機器他】**

You will need access to the Internet.

**【その他の重要事項】**

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

**【Outline and objectives】**

Integrating these skills in pairs, groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

フィル ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営1年：英語 13組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

We will work continue to help you on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

**【到達目標】**

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

We will use materials from the real world; newspapers, magazines, film, advertising, etc. in an enjoyable way. You will work in pairs, groups and with the class.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Grammar time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	Your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered in the class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

No textbook required.

**【参考書】**

A good learners dictionary would be useful.

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

**【学生の意見等からの気づき】**

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

**【学生が準備すべき機器他】**

You will need access to the Internet.

**【その他の重要事項】**

Please note that things may change so stay in touch with the university website. Lesson order may change.

**【Outline and objectives】**

Continue to work on integrating these skills using a wide range of materials.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

**【到達目標】**

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks,	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 2 Jobs, career skills	Comparing with gerund phrases,
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 6	Unit 3 Favors, requests, messages	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 7	Unit 3 Favors, requests, message	Leaving messages Making indirect requests
Week 8	Unit 4 Narrating a story	Describing events in the past Using past verb forms
Week 9	Unit 4 Narrating a story	Listen to news broadcasts React to news
Week 10	Unit 5 Comparing different cultures	Quiz Units 3-4 Describing customs Giving advice

Week 11	Unit 5 Comparing different cultures	Giving advice Using modals of necessity
Week 12	Unit 6 Describing problems	Making complaints Describing problems with household items
Week 13	Unit 6 Describing problems	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Unit 7 (Identifying, describing problems, coming up with solutions)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9  
Students' book

## 【参考書】

Self-study online  
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Workbook  
Vocabulary development:  
<https://quizlet.com/KreggJ>  
<https://www.memrise.com/>

## 【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

## 【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

クレグ ジョンストン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

## 【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 8. Learning and education	Ice-breakers/ Review Describing preferences, Talking about learning methods
Week 2	Unit 8. Learning and education	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 3	Unit 9 Self-improvement	Quiz Units 7-8 Describing things that need to be done Asking advice
Week 4	Unit 9 Self-improvement	Giving suggestions Making inferences
Week 5	Unit 10 The past and future	Talking about historic events Giving opinions on the future
Week 6	Unit 10 The past and future	Using time adverbs & prepositions
Week 7	Unit 11 Lessons in life	Quiz Units 9-10 Talking about milestones, past regrets
Weeks 8	Unit 11 Lessons in life	Using time clauses Discussing turning points
Week 9	Unit 12 The right stuff	Describing purpose Giving reasons, qualities for success
Week 10	Unit 12 The right stuff	Infinitives of purpose Talking about ads

Week 11	Unit 13 That's a possibility	Quiz Units 11-12 Explaining hypothetical events Drawing conclusions
Week 12	Unit 13 That's a possibility	Using past modals of certainty Giving opinions and advice
Week 13	Unit 14 Behind the Scenes	Describing how something is done or made Describing media careers
Week 14	Unit 14 Behind the Scenes	Describing a process Using relative clauses

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework, class preparation, assignments-paragraphs  
Preparation and review are around an hour a week. Written

**【テキスト（教科書）】**

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

**【参考書】**

Self-Study online  
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)  
Workbook  
<https://quizlet.com/KreggJ>  
<https://www.memrise.com/>

**【成績評価の方法と基準】**

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

\* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

**【学生の意見等からの気づき】**

Increased emphasis on expressing and responding to opinions

**【Outline and objectives】**

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 15 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人や物の交流が国境を越えて活発化し、日本にいても外国の文化に触れる機会が増えてきました。今後も、海外との行き来が活発化することは否めません。しかし、日本語で収集できる情報の量には限界がありますし、状況によっては、コミュニケーションの手段が日本語ばかりとは限りません。そのような時、国際語として英語が役に立つでしょう

この授業では、高校までに学んだ英語を基礎として、自分の知識や考えを英語で表現する力を養います。身近な話題に関する経験や意見を英語で書く練習をし、短いエッセイを書けるようにします。また、ロールプレイなどのアクティビティを通じて、具体的な場面に沿った英語表現を身につけることを目指します。

**【到達目標】**

- ・ 日常生活や現代社会についての短い英語の映像を見たり、音声を開いたりして、その内容を把握できるようになる。
- ・ 日常生活に関する英語表現を学び、自信をもって発言できるようになる。
- ・ 日常生活についての自分の経験、知識、意見などを英語で説明できるようになる。
- ・ 身近な話題に関しての短い文章を、英語で論理的に書けるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は、テキストに沿って進めていきます。とくに Speaking/Listening と Writing の箇所を重点的に扱います。Writing では、各ユニットのトピックに沿った短い文章を書きます。各自で書いた内容をお互いに読み合って、論理的な文章になるよう練り上げていきます。Speaking はテキストの例文を音読することに加え、ペアやグループでロールプレイやディスカッションなどを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明と今学期の目標
Week 2	Unit 1, pt. 1: Good memories	Introducing yourself
Week 3	Unit 1, pt. 2: Good memories	Writing a paragraph about your childhood
week 4	Unit 2, pt. 1: Life in the city	Talking about transportation and transportation problems
Week 5	Unit 2, pt. 2: Life in the city	Writing an outline post on a community message board about a local issue
Week 6	Unit 3, pt. 1: Making changes	Describing positive and negative features
Week 3	Unit 3, pt. 2: Making changes	Writing an email comparing two living spaces
Week 8	Unit 4, pt. 1: Have you ever tried it?	Talking about food
Week 9	Unit 4, pt. 2: Have you ever tried it?	Writing a recipe

Week 10	Unit 5, pt. 1: Hit the road!	Describing vacation plans
Week 11	Unit 5, pt. 2: Hit the road!	Writing an email with travel suggestions
Week 12	Unit 6, pt. 1: Sure! I'll do it.	Making requests
Week 13	Unit 6, pt. 2: Sure! I'll do it.	Writing a message making a request
Week 14	Review	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。  
\* 各Unitにつき、テキストの内容に関するWritingの課題が出されます。テキスト付属のウェブサイトもあります。積極的に活用してください。

#### 【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards, *Interchange 2 (5th edition)*, Cambridge University Press. ¥3,245+tax

#### 【参考書】

適宜、紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験 50% 平常点（授業への参加度、小テスト、提出物）50%
- ・ 原則として、4回以上欠席すると単位の修得が認められません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は英語を発音したり話したりする機会を設けたことと、小テストにリスニングを課したことが好評でした。今年度も引き続き、取り入れていきたいと思えます。

#### 【その他の重要事項】

- ・ 毎回の授業に辞書を持参してください（電子辞書でも構いません）。

#### 【Outline and objectives】

As the world becomes globalized, students will get more opportunities to communicate with people from abroad, and visit foreign countries as well. However, the information they can get in Japanese is limited, or they might not be able to make themselves understood only in Japanese. In that case, English, as a global language, will be useful.

This class will encourage students to confidently express their opinions about various daily life issues. Based on what they have learned till high school, they will develop their skills to speak and write English. This class will encourage students to confidently express their opinions about various daily life issues. In the spring semester, students will improve their skill to think critically through writing activities. They will write some papers and polish them. By interacting with their classmates, they will improve their abilities to think logically and convey their opinion to others. At the end of the semester, they will be expected to write a short essay.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

営1年：英語15組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、SpeakingとWritingのスキルを中心として英語を学びます。高校や春学期までに身につけた知識を基礎として、音声教材を中心にさまざまなトピックに関するテキストに触れます。それらの内容の把握につとめたり、各トピックに対して自分なりの意見を持ち、英語で表現したりすることが目標です。今学期は、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れて、春学期に身につけたWritingのスキルをSpeakingのスキルにつなげていきます。情報を効率的に収集し、それらを批判的に検討する力をつけることで、直感的な「感想」から説得力のある「意見」への深化を目指します。

#### 【到達目標】

- ・ 日常生活や現代社会についての短い映像を見たり、音声をきいたりして、その内容を把握できるようになる。
- ・ 日常生活や現代社会に関する自分の経験、知識、意見などを英語で説明できるようになる。
- ・ 日常生活や現代社会に関する情報について、批判的に検討することができるようになる。
- ・ 日常生活や現代社会に関する情報を集めて整理し、分かりやすく伝えることができるようになる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、テキストに沿って進めていきます。とくにSpeaking/ListeningとWritingの箇所を重点的に扱います。Writingでは、各ユニットのトピックに沿った短い文章を書きます。そして、その文章に基づいてペアやグループによるディスカッションを行い、情報をわかりやすく伝えたり、批判的に検討したりする力を養います。学期末には、一年の集大成としてプレゼンテーションを行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明と今学期の目標
Week 2	Unit 7, pt. 1: What do you use this for?	Describing technology
Week 3	Unit 7, pt. 2: What do you use this for?	Writing a message asking for specific favors
Week 4	Unit 8, pt. 1: Time to celebrate!	Describing holidays, festivals, customs, and special events
Week 5	Unit 8, pt. 2: Time to celebrate!	Writing an entry on a travel website about a cultural custom
Week 6	Unit 9, pt. 1: Only time will tell.	Talking about change
Week 7	Unit 9, pt. 2: Only time will tell.	Writing a paragraph describing a person's past, present, and possible future
Week 8	Unit 10, pt. 1: I like working with people	Describing abilities and skills
Week 9	Unit 10, pt. 2: I like working with people	Writing an outline cover letter for a job application

Week 10	Preparation for presentation (1)	テーマの選択
Week 11	Preparation for presentation (2)	アウトラインの作成
Week 12	Preparation for presentation (3)	原稿を書く (peer-reading)
Week 13	Preparation for presentation (4)	原稿の完成
Week 14	Review	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

\*各 Unit につき、テキストの内容に関する Writing の課題を出します。テキスト専用のウェブサイトもあります。積極的に活用してください。

#### 【テキスト (教科書)】

Jack C. Richards, Interchange 2 (5th edition), Cambridge University Press. ¥3,245+tax

#### 【参考書】

適宜、紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験 50% 平常点 (授業への参加度、小テスト、提出物) 50%
- ・ 原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は英語を発音したり話したりする機会を設けたことと、小テストにリスニングを課したことが好評でした。今年度も引き続き、取り入れていきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションの準備 (10 週目以降) にあたり、可能であればパソコンを持参してください。

#### 【その他の重要事項】

- ・ 毎回の授業に辞書を持参してください (電子辞書でも構いません)。

#### 【Outline and objectives】

Following the spring semester, this class will encourage students to confidently express their opinions about various daily life issues. Based on what they have learned till high school, they will develop their skills to speak and write English. During the fall semester, students will take more time for oral communication. As they work on several activities such as conversation practice and discussion, they will improve their abilities to think logically and convey their opinion to others. At the end of the semester, they will be expected to make a presentation.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking.

#### 【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), student will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

1. Speaking and role play in pairs & groups.
2. Presentations about a topic.
3. Listening and watching audio/video.
4. Reading articles from a book.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Student introductions & class guidelines
2	Unit 1: That's my kind of friend!	Pair & Group Work Grammar Focus 3
3	Unit 1: continued	Listening 5 Discussion 6 Writing about a good friend
4	Unit 1: continued	Grammar Focus 10 Reading 12 Pair Work
5	Unit 2: Working 9 to 5	Pair & Group Work Grammar Focus 3
6	Unit 2: continued	Word Power 4 Speaking 5 Writing 6 What's more satisfying?
7	Unit 2: continued	Grammar Focus 8 Discussion about jobs & networking. Reading about workplaces
8	Midterm on Units 1 & 2	speaking and writing
9	Unit 3: Lend a hand.	Pair & Group Work Grammar Focus 3

10	Unit 3: Continued	Listening 5 Writing a request Word Power
11	Unit 3: Continued	Grammar Focus 10 Speaking/Requests Prepare paragraph about a problem/event. p24
12	Unit 4:What happened?	Paragraph homework due. Pair & Group work Grammar Focus 3 Listening
13	Unit 4: continued	Word Power Pair work about a surprising event. Reading about internet
14	Final Exam on Units 1-4	paper exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are expected to read ahead in the book and complete the activities before the next class session.

## 【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 3 (5th Edition) Cambridge University Press

## 【参考書】

Always bring a dictionary to class.

## 【成績評価の方法と基準】

Midterm 25%

Final 25%

Writing Assignments 25%

Presentation/Effort 25%

Following department guidelines, no more than 3 absences are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

No feedback

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

Na

## 【None】

na

## 【Outline and objectives】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

## 【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), student will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussion and/or give presentations and speeches. The course will help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

1. Speaking and role play in pairs & groups.
2. Presentations about a topic.
3. Listening and watching audio/video.
4. Reading articles from a book.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5: Expanding your horizon	Pair & Group Work Word Power Grammar Focus 3
2	Unit 5: Continued	Discuss moving to a foreign country Grammar Focus 8
3	Unit 5: Continued	Speak about local customs Write a tourist brochure Reading about culture shock
4	Unit 6: That needs fixing	Pair & Group work Grammar Focus 3
5	Unit 6: Continued	Listening Role Play at a store Grammar Focus 7
6	Unit 6: Continued	Listening Write an online review Reading about problems
7	Unit 7: What can we do?	Pair & Group work Grammar Focus 3 Listening Word Power
8	Midterm	Review next chapter

9	Unit 7: Continued	Listening Word Power Grammar Focus 8
10	Unit 7: Continued	Writing about a problem Reading about Lion fish
11	Unit 8: Never stop learning	Pair & Group Work Grammar Focus 4 Listening
12	Unit 8: Continued	Listening Grammar Focus 9 Discuss learning styles
13	Unit 8: Continued	Pair & Group Work Word Power Writing about something you learned
14	Final Exam	Course feedback

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Jack C. Richards: Interchange Level 3 (5th Edition) Cambridge University Press

**【参考書】**

Na

**【成績評価の方法と基準】**

Midterm 25%

Final 25%

Writing 25%

Effort 25%

Following department guidelines, no more than 3 absences are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

none

**【学生が準備すべき機器他】**

none

**【その他の重要事項】**

na

**【na】**

na

**【Outline and objectives】**

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities and exercises.

**【到達目標】**

Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. Students will be expected to show an understanding of structure, logic and grammatical correctness in their speaking, listening and writing activities.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Course Components and Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing Active Listening Practice
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph Use of Dictionary
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing Order Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Clustering Active Listening Practice
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing Active Listening Practice

11	Organizing an Instructional Paragraph	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation Activity and Review
14	Term Review Quiz	Submit Final Assignment

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork participation activities and quizzes

(1.5 hours).

Writing homework based on specific grammar points; assignments (1-2 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 3rd Edition

## 【参考書】

Good Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Classwork (including participation and attitude) & Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Due to the ongoing Covid 19 crisis the above schedule will be subject to change. Initially, teaching will be conducted online and the content and grading system will take this into account. Once the normal teaching environment has been restored we shall return to the above syllabus

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide the foundation for students to form and develop their own ideas and opinions. In the first term there will be greater emphasis on the development of writing skills. In addition, guidance will be given to students on how best to present their ideas.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the techniques introduced in the first term, students will have the opportunity to enhance and broaden their overall writing and oral communication skills.

## 【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the skills necessary for them to become competent and effective communicators in English across a wide variety of situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. There will be a greater emphasis on the discussion and presentation of ideas in this part of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Introduction to Presentations Techniques	Overview of Presentation Models
3	Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
4	Organising a Presentation	Analyse Three-Part Structure
5	Presentation Practice	Students deliver short presentations Review
6	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs
7	How to Enhance Descriptions	Practice on the Use of Adjectives and Prepositions
8	Paragraphs that Persuade	How to Use Reasons and Examples to Support Ideas
9	Paragraph Development	Practice Using Transition Signals to Introduce Reasons and Examples
10	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
11	Writing Points Review	Review Quiz
12	Final Term Assignment	Students choose a topic to write and to present
13	Final Presentations Group A	Complete Written Topic
14	Final Presentations Group B	Feedback

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Review and Preparation for classwork participation activities and quizzes  
(1.5 hours).

Writing homework based on specific grammar points; assignments (1-2 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman

**【参考書】**

Good Dictionary required

**【成績評価の方法と基準】**

Grading will be based on the following:

Classwork & Homework 35%

Quizzes 30%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

**【学生の意見等からの気づき】**

Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

**【学生が準備すべき機器他】**

Writing materials; notebook

**【その他の重要事項】**

Above schedule is subject to change

**【Outline and objectives】**

In the second term attention will be focused on extending students' in-depth writing skills and building up and developing their presentation skills. Students will be expected to demonstrate their ability to express their opinions and ideas in a clear and effective manner both orally and in the written form.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 18 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking、writing、listening の練習をすることで、情報収集や paragraph writing、discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

**【到達目標】**

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は共通教材学習期間終了後の5月30日(土)とし、この日までにオンライン授業の具体的な方法などを、学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, として語彙に関するテストを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各Unitの(1)を授業で行う前にはLanguage Focusの発声練習を、各Unitの(2)を授業で行う前には「Readingの予習」を行ってください。「Readingの予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehensionの解答を書いてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

#### 【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016年

価格：2250円＋税

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。今学期出す14回の課題（共通教材期間の課題4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

#### 【その他の重要事項】

指定のテキストを準備しておいてください。オンラインでリアルタイムの指導をおこなう場合、指導の曜日・時間は火曜日1限とします。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write paragraphs and have a discussion in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

営1年：英語18組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内でのspeaking, writing, listeningの練習をすることで、情報収集やessay writing, discussionに必要な語彙力の向上を目指します。

#### 【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speakingやwritingで使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

各Unitの進め方としては、1つのUnitを前半と後半に分け、2週にわたって1つのUnitを学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の復習やテキストを中心にlistening, speaking, writingの練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストにはreadingのセクションもありますので、内容を確実に理解し、意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speakingのパフォーマンステストや語彙テストなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティー
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各Unitの(1)を授業で行う前にはLanguage Focusの発声練習を、各Unitの(2)を授業で行う前には「Readingの予習」を行ってください。「Readingの予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehensionの解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

#### 【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016年

価格：2250円＋税

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30%（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
  - ・欠席回数が4回以上の場合、原則として単位取得資格を失います。
  - ・3回の遅刻（授業開始時刻から10分を超える場合）で1回の欠席とします。
  - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
  - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。また、受講生同士で行うタスクを頻繁に取り入れます。

#### 【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write an essay and have a discussion in English.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

### アネッテ・グルーバー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

営1年：英語19組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

#### 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Tme expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives

12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

## 【参考書】

Please bring a good English dictionary.

## 【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation: 40%

Test after each chapter: 60%

\*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

## 【学生が準備すべき機器他】

Dictionary

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 19 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

## 【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect od past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?

14 Unit 12. The Quiz Question types.  
Book revision

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.  
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

## 【参考書】

Please bring a good English dictionary.

## 【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation 40%

Test after each chapter 60%

\*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students requested easier listening exercises.

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

## 【到達目標】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.

We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Classroom Placement process
2.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Classroom Placement process
3.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Classroom Placement process
4.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment
5.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment
6.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment
7.	Delayed Start of Semester due to Coronavirus	Unified Assignment

8.	Introduction and Process Writing Getting ready	Six Steps of Academic Writing. Using outlines Choosing a Topic Brainstorming Editing	Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.
9.	Paragraph structure Paragraph Development	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence Styles of support Detail, Explanation, Example	
10.	Peer editing Descriptive Writing	Give constructive feedback using on-line sharing. Using Adjectives: describing people and places.	
11.	Descriptive Paragraphs Organising ideas	Describing a process using connectors. Keeping ideas connected and in order	
12.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion	
13.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review	
14.	Using Causal Adverbs	Describing cause and effect ideas	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph.

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

**【テキスト（教科書）】**

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

**【参考書】**

To be advised

**【成績評価の方法と基準】**

Homework Assignments: 30%

Worksheet Assignments: 30%

Unified Assignments: 40%

Attendance: Due to coronavirus delays to the start of semester, this will be announced via the Hoppii Learning Management system.

**【学生の意見等からの気づき】**

None

**【学生が準備すべき機器他】**

A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability.

Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

**【その他の重要事項】**

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on their Hosei Gmail account with their "Class Number". Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code is: 2lg4uzm

**【Outline and objectives】**

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

## 【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will prepare an essay outline with: an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Comparing and Contrasting	Using comparative structures
Class 3	Similarities and Differences	Block versus Point by Point format
Class 4	Advantages and Disadvantages	Prepare and share paragraphs
Class 5	Problem and Solution Paragraphs	Using 5 Conditional Structures
Class 6	Problem and Solution Paragraphs	Linking Problems with solutions for coherence
Class 7	The structure of an Essay	Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 8	Writing thesis statements	Thesis statement and conclusion

Class 9	Essay Outlines	Using software functions to prepare an outline for an essay
Class 10	Essay Development	Putting the flesh onto the outline.
Class 11	Peer Review	Use standard software functions to Peer Review an Essay. Check for Cohesion and Unity
Class 12	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 13	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 14	Review	Review the course objectives and student achievements.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

## 【テキスト（教科書）】

Writing Essays: from paragraph to Essay, Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, Macmillan Writing Series

## 【参考書】

To be advised during course

## 【成績評価の方法と基準】

3 homework assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

3 worksheet assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

2 Student Self Evaluations of pair and group discussion participation each worth 10% = 20%

1 Presentation of Final Essay structure 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

## 【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

## 【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with their "Class Number".

## 【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice preparing a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようにすることを重視します。

## 【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

## 【2020 年 4 月 20 日追記】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

クラスの履修が決定しましたら法政大学生協のテキストオンライン販売で指定テキストを購入してください。

## 【変更前記載】

テキスト **British News Update** を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、**Summary** を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Unit 1 Repairing Big Ben 前半	授業の進め方の説明 英作文についての説明 Unit1 のリスニング
2	Unit 1 Repairing Big Ben 後半	テキスト P6 Summary のリスニング テキスト P1～6 の解説、会話練習
3	Unit 2 Learning to Walk Again 前半	Unit2 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
4	Unit 2 Learning to Walk Again 後半	テキスト P7～12 の解説後半、P12 Summary の小テスト、英作文
5	Unit 3 A Secret Garden in London 前半	Unit3 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
6	Unit 3 A Secret Garden in London 後半	テキスト P13～18 の解説後半、P18 Summary の小テスト、英作文
7	Unit 4 Unpaid Internships 前半	Unit4 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半

8	Unit 4 Unpaid Internships 後半	テキスト P19～24 の解説後半、P24 Summary の小テスト、英作文
9	Unit 5 The Wedding Gallery 前半	Unit5 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
10	Unit 5 The Wedding Gallery 後半	テキスト P25～30 の解説後半、P30 Summary の小テスト、英作文
11	Unit 6 A Modern Steam Train 前半	Unit6 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
12	Unit 6 A Modern Steam Train 後半	テキスト P31～36 の解説後半、P36 Summary の小テスト、英作文
13	Unit 7 T-shirt Exhibition	Unit7 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P42 Summary の小テスト、英作文
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、**News Story** の英文を事前に読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの **Making a Summary** のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

British News Update（金星堂 2019）¥2,600（+ Tax） ISBN 978-4-7647-4074-7 価格 2,600 円（+税）

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

## 【2020 年 4 月 16 日 追記】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、以下の成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【2020 年 4 月 20 日追記】

授業日に毎回学習支援システム上で提出する課題を課し、その課題の内容で評価を行います。各課題には提出の締め切りが設定されます。今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の 4 回、クラス授業での課題 10 回）のうち 4 回分を提出しなかった場合は原則として単位取得の資格を失います。

## 【変更前評価方法】

試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、提出物など）25 % 小テストの点数 15 % で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席、遅刻の回数に応じて減点となります。30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようにすることを重視します。

## 【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキスト **British News Update** を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、**Summary** を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文や会話練習も行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Unit 8 Generation Z 前半	授業についての説明と Unit8 News Story のディクテーション、会話練習
2	Unit 8 Generation Z 後半	テキスト P43-48 の解説、P48 Summary の小テスト、英作文
3	Unit 9 Veganuary 前 半	Unit9 News Story のディクテー ション、会話練習、Unit9 P49-54 の解説前半
4	Unit 9 Veganuary 後 半	Unit9 P49-54 の解説後半、P54 の Summary の小テスト、英作文
5	Unit 10 Wind Power in Britain 前半	Unit10 News Story のディク テーション、会話練習、Unit10 P55-60 の解説前半
6	Unit 10 Wind Power in Britain 後半	Unit10 P55-60 の解説後半、P60 の Summary の小テスト、英作文
7	Unit 11 Preventing Transgender Bullying 前半	Unit11 News Story のディク テーション、会話練習、Unit11 P61-66 の解説前半
8	Unit 11 Preventing Transgender Bullying 後半	Unit11 P61-66 の解説後半、P66 の Summary の小テスト、英作文
9	Unit 12 A Plastic Tenner 前半	Unit12 News Story のディク テーション、会話練習、Unit12 P67-72 の解説前半
10	Unit 12 A Plastic Tenner 後半	Unit12 P67-72 の解説後半、テ キスト P72 Summary の小テス ト、英作文

11	Unit 13 How to Delay Ageing 前半	Unit13 News Story のディク テーション、会話練習、Unit13 P73-78 の解説、P78 の Summary の小テスト、英作文
12	Unit 14 Schools Deal with Fake News	Unit14 News Story のディク テーション、会話練習、Unit14 P79-84 の解説、P84 の Summary の小テスト、英作文
13	Unit15 Experiences of Sexual Harassment 後半	Unit15 News Story のディク テーション、会話練習、Unit15 P85-90 の解説、P90 の Summary の小テスト、英作文
14	期末試験と内容のま め	第 1 回から 13 回までの内容を試 験範囲とします。秋学期全体のま とめ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、**News Story** の英文を事前に読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせを進めていきます。各ユニットの **Making a Summary** のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

British News Update（金星堂 2018）¥2,600（+ Tax）

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、グループワーク、提出物など）25 %、リスニングの点数 15 % で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席と遅刻の回数に応じて減点になります。30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話を通して自分の意見をアウトプットする機会を増やしたいと思います。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

## 【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックの開催が延長、コロナが蔓延しているなかで日本を訪れる外国人も少なく彼らと話す機会が少ないと思われる。各個人で積極的に英語を使える状況を作り出して行って欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。このような状態なので教室で授業をするということは困難だと思われオンライン授業になるとおもわれる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit 1 First impression	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Read Unit 1
2	Unit 1 前半 First Impression	What is your first impression of people, what do you look for in others, what is most attractive to you?
3	Unit 1 後半 First Impression	Continuation of the previous unit. Do you disagree with what Iris, Shin and Anna are saying and why. Discussion on what appearance and personality/ lifestyle mean to you and what the class mates think about it.
4.	Unit 3 前半 The Good Language learner	What do you think about the local language, what does becoming international mean
5	Unit 3 後半 The Good Language Learner	Is English an international language? Do we have to be able to speak English? Discussion on the pros and cons of learning English

6	Unit 5 前半 Staying Single	What do you think about being single. Are there any merits or demerits of being single or getting married.
7	Unit 5 後半 Staying Single	Discussion on the pros and cons of marriage.
8	Unit 7 前半 What's for Lunch	What is climate change? Does food have any relationship with climate change?
9	Unit 7 後半 What's for Lunch	Does staying healthy contribute to climate change? Discussion on what is healthy and what is not.
10	Unit 8 前半 Your Online Past	What are the dangers of online posting? Did you have any problems posting on line or do you know of any having troubles because of that.
11	Unit 8 前半 Your Online Past Start preparing for the presentation	Talk about the use of SNS. Discuss the merits and demerits of using a tablet, smartphone and a computer. Students will be divided into groups and start talking about the theme they want to present to the class.
12	Back-up & preparation for the presentation	Back-up class Continuation of the preparation for the presentation. Each group will give a 10-15 minute presentation.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting Your Ideas in English (Third edition)

Pearson

Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期4回以上の欠席の場合は、単位取得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

## 【到達目標】

教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にディスカッションを授業内で多く行う。大きなプレゼンテーションをおこなうまたそれぞれに詩を書いてもらい授業で発表してもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

基本的には春学期と同じように授業を進行していく。教科書 Impact Issues に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているので単価ごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にディスカッションを授業内で多く行う。大きなプレゼンテーションをおこなう。またそれぞれに詩を書いてもらい授業で発表してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading a poem	Introduction to poetry Reading "What Do I Remember of the Evacuation"
2	What Do I Remember of the Evacuation	What did you think about the poem? Finding symbols and what they mean. What is poetry? Writing your own poem
3	Unit 10 前半 My Student Life	Why do you go to university? Do you go to a university to get a good job?
4	Unit 10 後半 My Student Life	What does going to a university mean to you? Discuss the pros and cons of going to a university and why it is important?
5	Reciting your poem	Reciting your poem in front of the class

6	Unit 11 前半 International Relationship	The world is getting borderless.What do you think of international relationship.
7	Unit 11 後半 International Relationship	What are some of the advantages and disadvantages of international marriage? Discuss.
8	Unit 12 前半 Create another Future	What is happening in the year 2200. Are the people in the 2100 responsible of what is happening in 2200?
9	Unit 12 後半 Create another Future	What are the reasons for global warming. What can we do to stop global warming. Discuss.
10	Unit 20 前半 1 A Mother's Story	What do you think about capital punishment?
11	Unit 20 前半 2 A Mother's Story Start preparing for the presentation	Is capital punishment necessary? Why do some criminals deserve capital punishment and some don't. Class will be divided into groups and each will prepare for their presentation.
12	Unit 20 後半 1 A Mother's Story Back-up class and preparing for the presentation	Discuss the pros and cons of capital punishment.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上とする。

## 【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting Your Ideas in English (Third edition)  
Pearson  
Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。円安により、また東京オリンピックを控え、多くの外国人が日本を訪れるようになりました。困っている外国人を見かけることも多くなり、そのような人たちに英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail や手紙を紹介し、論理的な構成をもつパラグラフを紹介します。e-mail や手紙の書き方と基本的な口頭表現を学びます。

## 【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思いをします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、本来のクラスに配属されるまでの期間、学生は科目ごとに英語分科会が用意する共通教材で学習します。本授業の開始日は5月7日とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1	Hi! How are you? Chapter 1 前半
2	Chapter 1	Hi! How are you? Chapter 1 後半
3	Chapter 2	What's your major? Chapter 2 前半
4	Chapter 2	What's your major? Chapter 2 後半
5	Chapter 3	What did she look like? Chapter 3 前半
6	Chapter 3	What did she look like? Chapter 3 後半
7	Chapter 4	Let's take a trip! Chapter 4 前半
8	Chapter 4	Let's take a trip! Chapter 4 後半
9	Chapter 5	How about going out for dinner? Chapter 5 前半
10	Chapter 5	How about going out for dinner? Chapter 5 後半

11	Chapter 6	Let's go shopping! Chapter 6 前半
12	Chapter 6	Let's go shopping! Chapter 6 後半
13	春学期復習	chapter1-6
14	試験・まとめ	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』  
Diane H. Nagatomo（金星堂）

## 【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は授業開始後に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

## 【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## 門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。

円安により、また東京オリンピックを控え、多くの外国人が日本を訪れるようになりました。困っている外国人を見かけることも多くなり、そのような人たちに英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。

## 【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R)や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テープを使いリスニングに力を入れながら、授業を進めていきます。予習はしなくてけっこうですが、復習は必ず行ってください。英会話に必要な基礎的な表現ばかりですので、指定した会話文はすべて暗記する必要があります。

授業では毎回、出席している学生全員を指名していければと考えています。各章終了後に確認テストを行います。

私が実際に英米人とやり取りしている e-mail から英文を取り出し、e-mail の書き方や文章の論理的な構成等も説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7	How are you feeling? Chapter 7 前半
2	Chapter 7	How are you feeling? Chapter 7 後半
3	Chapter 8	Hello? Can I speak Mary? Chapter 8 前半
4	Chapter 8	Hello? Can I speak Mary? Chapter 8 後半
5	Chapter 9	I'm so busy. Chapter 9 前半
6	Chapter 9	I'm so busy. Chapter 9 後半
7	Chapter 10	What do you do? Chapter 10 前半
8	Chapter 10	What do you do? Chapter 10 後半
9	Chapter 11	Let's watch sports! Chapter 11 前半
10	Chapter 11	Let's watch sports! Chapter 11 後半
11	Chapter 12	Let's celebrate! Chapter 12 前半

12	Chapter 12	Let's celebrate! Chapter 12 後半
13	秋学期復習	Chapter 7-12
14	試験・まとめ	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期と同じく必ず復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』

Diane H. Nagatomo（金星堂）

## 【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験と平常点を成績評価基準とします。それぞれの配分は期末試験

(70%)、確認テスト等平常点(30%)です。授業での積極的な参加を重視するので、4 回以上欠席した場合には原則として単位は認めません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

## 【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パ・ラク・ラフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。まずは一つのパ・ラク・ラフを作ることを目指し、最終的には複数のパ・ラク・ラフからなる短いエッセーを書けるようになる。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書き、プレゼンテーションができるようになる。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

## 【到達目標】

- ・パ・ラク・ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べるができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズムで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

少なくとも学期の前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。学習支援システムで授業が開始される日を4月28日(火)とする。第2回の授業までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

パラグラフ形式とその論証的構造を講義する。その上で、学期を通じてふたつのトピックについてプレゼンテーションする。グループワークと添削を通してパ・ラク・ラフ形式のスクリプトを練り上げ、発音練習を経た上で、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	人物紹介 1 パラグラフ形式の講義 1	プレゼンテーション課題の概要 通知 講義（パラグラフ形式、プロセスライティング、辞書の種類と使い方） 見本の提示と読解（アウトライン作り）
3	人物紹介 2	プロセスライティング (Idea Generation, Organization, Outlining) アウトライン提出
4	人物紹介 3	プロセスライティング (First Draft)
5	人物紹介 4	プロセスライティング (Rewriting)

6	プレゼンテーションの講義 1	スクリプト提出 講義（プレゼンテーションのコツと準備） 見本の聞き取り
7	人物紹介 5	プレゼンテーションの実施
8	商品・アイデア紹介 1 パラグラフ形式の講義 2	プレゼンテーション課題の概要 通知 講義（因果関係・メカニズムの表現、論証の基本構造） 見本の提示と読解（アウトライン作り）
9	商品・アイデア紹介 2	プロセスライティング (Idea Generation, Organization)
10	商品・アイデア紹介 3	プロセスライティング (Outlining, First Draft) アウトライン提出
11	商品・アイデア紹介 4	プロセスライティング (First Draft, Rewriting)
12	商品・アイデア紹介 5 プレゼンテーションの講義 2	プロセスライティング (Rewriting) 講義（プレゼンテーションのコツと準備） 見本の聞き取り
13	商品・アイデア紹介 6	スクリプト提出 プレゼンテーションの準備
14	商品・アイデア紹介 7	プレゼンテーションの実施

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを持ち帰って草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に2回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

・『LINKS 1500—大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008年、4700円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

少なくとも学期の前半がオンラインでの開講となったこととともない、以下に定めた成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法と基準は、第2回の授業までに学習支援システムで提示する。平常点（グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、スクリプトの提出 35%、プレゼンテーション 35%  
欠席が4回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

## 【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph, and finally a short essay (consisting of several paragraphs). You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセーの形式と構造を理解し、英語の短いエッセーを書く。また、その内容をもとにプレゼンテーションを行う。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書き、プレゼンテーションができるようになる。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

## 【到達目標】

- ・アカデミックライティングの基礎を知り、実践する。
- ・自分の意見を形成し筋道立てて述べることができる。
- ・選択した題材について、複数のパラグラフからなる短い英文エッセーを書く。
- ・その内容をプレゼンテーションする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスニングで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

エッセー形式とその論証の構造を講義する。その上で、学期を通じてひとつのトピックについてエッセーを仕上げ、プレゼンテーションをしてもらう。グループワークと添削を通してエッセー形式のスキプトを練り上げ、発音練習を経た上で、プレゼンテーションを行う。

補助資料の英文エッセーを3本読んで、アウトランを作って議論を把握する。3本のうちから一つ選んで反論を考え、2～3人のグループでショートエッセーを作成する。エッセーをもとにしたプレゼンテーションを行う。

エッセー1 Can the American Right and Left Get Back to Civil Debate?

エッセー2 "Rise of Machines" Is Not a Likely Future

エッセー3 If this, what next?: Animal cruelty must not be tolerated

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明 春学期のフィードバック
2	エッセー形式の講義 1	ショートエッセー課題およびプレゼンテーション課題の概要通知 講義（エッセー形式と執筆プロセス、他人の意見を理解すること、批判的思考）
3	読解 1（エッセー 1）	アウトラインの抽出、議論の構造と主張の確認
4	読解 2（エッセー 2）	アウトラインの抽出、議論の構造と主張の確認
5	読解 3（エッセー 3）	アウトラインの抽出、議論の構造と主張の確認

6	ショートエッセー 1	見本の提示と読解（アウトライン作り） グループ編成 QFT
7	エッセー形式の講義 2 ショートエッセー 2	講義（批判的思考と論証の構造、自分の意見を形成すること） プロセスライティング（Idea Generation）
8	ショートエッセー 3	プロセスライティング（Idea Generation, Organization）
9	ショートエッセー 4	プロセスライティング（Organization, Outlining） アウトラインの提出
10	ショートエッセー 5	プロセスライティング（First Draft）
11	ショートエッセー 6 プレゼンテーションの講義 1	プロセスライティング（Rewriting） 講義（プレゼンテーションの心構え、発音仕方と伝わり方の関係） 見本の聞き取り
12	ショートエッセー 7 プレゼンテーションの講義 2	プロセスライティング（Rewriting） ショートエッセー提出 講義（補助資料の作り方） 見本の聞き取り
13	ショートエッセー 8	プレゼンテーションの準備・練習
14	ショートエッセー 9	プレゼンテーションの実施

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするエッセーの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを持ち帰って草稿に反映させる時間が必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に2回授業テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008年、4700円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、ショートエッセーの提出 35%、プレゼンテーション 35%  
欠席が4回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

## 【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion on a certain topic in the form of a shot essays. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accent. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

## 【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice
week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids

week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth Jack Richards  
9781316620113

## 【参考書】

Handouts

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Homework 33%

Oral presentation and Quizzes 34%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

## 【その他の重要事項】

Contact email

kadmersensri@gmail.com

## 【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

## 【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms

week 14 Oral Presentations on where our parents work companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, oral preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards  
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Oral presentation and quiz 33%

Homework 34%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活・現代社会での興味あるトピックについて、自分の考えを書いたり、口頭で発表する英語運用能力を養う。ライティングに関しては、パラグラフライティングの構成を学び、トピックごとに英文で書く力の習得を目指す。さらに、プレゼンテーションによって、実際に口頭で発表する場を設け、スピーキングの強化も図る。そのためにも、正確な発音は不可欠な要素となるので、発音矯正指導は平行して実施。リスニングも当然この段階で組み込まれる。この授業を通して読む、書く、聞く、話すという 4 技能を習得する。

## 【到達目標】

パラグラフライティング・エッセイライティングを習得。プレゼンテーションの習得、人前で話すことに慣れ、英語で考える習慣をつけるために毎回の授業で one-minute-speech を実行。テキストの DVD を字幕なしで理解するようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	guidance how to proceed this class	pronunciation /marking/overlapping/ paragraph writing
2	Cool, Calm and Heroic paragraph writing assignment (the topic will be given)	warm-up (managed, naval aviator) structure point (the miracle on the Hudson) words and phrases to study text understanding through DVD and CD [予習] vocabulary を予習。音声ダウンロード。30 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30 分。
3	to complete unit 1	Without the subtitle, understand the text true / false quiz Partial composition (compared to ~) [予習] paragraph を与えられたトピックについて書く。1 時間。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音と意味を一致させた語彙を脳内にインプットすることでコミュニケーション能力を上げる。20 分。

4	Flying into the Future	Warm-up (battery, hurdle) structure point (zooming around) Word and phrase to study (get rid of, intrigued) Listen to CD and watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。音声から穴埋め問題を実施。30 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30 分。
5	to complete unit 2 paragraph writing assignment (a new topic will be given)	Without the subtitle, understand the text True/ False quiz Partial composition (incorporate ~with) [予習] 演習問題の残りを完成。40 分。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音による語彙を蓄積しコミュニケーション能力を向上。20 分。
6	Food Health for the Planet	Warm-up(applied for~) structure point (by far the greatest threat) word and phrase (sizzle, derive) Listen to CD & watch DVD marking Read aloud [予習] vocabulary を予習。音声聞いて穴埋め問題を解く。30 分。 [復習] 正確な音声での音読で内容把握を確実にする。30 分。
7	to complete unit 3 paragraph writing assignment (a new topic for the presentation will be given)	without the subtitle, understand the text True/False quiz Partial composition (thanks to~) [予習] 演習問題の残りを完成。40 分。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音による語彙力を強化しコミュニケーション能力を上げる。20 分。
8	presentation	Public speech based on the paragraph [予習] presentation に向けて draft を書き、口頭でスピーチ練習。2 時間。 [復習] self evaluation の項目に答える。20 分。
9	Explosive Demand for Cobalt	Warm-up (odds) Structure point (which many believe) Listen to CD & watch DVD Marking Reading Reading aloud [予習] vocabulary の予習。音声での穴埋め問題を解く。30 分。 [復習] 本文を正確な音で再現し、内容把握。30 分。
10	to complete unit 4	Without the subtitle, understand the text True/ False quiz Partial composition (it is the time to~) [予習] 演習問題の残りを完成。40 分。 [復習] テキストを正確な音で再現し、音による語彙を増やし、会話力を強化。20 分。

- 11 Starting Somewhere Warm-up (150 million tons)  
Structure point (while~)  
Listen to CD & watch DVD  
Marking Read aloud  
[予習] vocabulary を予習。音声  
を聞いて穴埋め問題を解く。  
30 分。  
[復習] 本文を音読して内容把握。  
30 分。
- 12 to complete unit 5 Without the subtitle,  
understand the text  
True/ False quiz  
Partial composition (a ticking  
time bomb)  
[予習] 練習問題の残りを完成。  
40 分。  
[復習] テキストを正確な音で再現  
し、音による語彙を増やしコミュ  
ニケーション能力を上げる。20  
分。
- 13 final test review the previous units  
[予習] 試験範囲を学習。2 時間。  
[復習] 解答できなかった項目を  
チェック。30 分。
- 14 the final presentation the topic to be given  
power point, pc, pictures will  
be recommended  
[予習] draft を書き、口頭で発音  
に注意して練習。  
3 時間。  
[復習] self evaluation の項目に  
答える。20 分。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題とする。学生はレポート用紙に正  
式な様式に従って英文を書き提出。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ENGLISH FOR THE GLOBAL AGE WITH CNN Vol.  
> 21 Kansai University CNN Research Group 1,900 Asahi  
Press

## 【参考書】

not use

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにと  
も、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授  
業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

とにかく英語でしゃべらされるクラス。

## 【学生が準備すべき機器他】

USB, PC and pictures will be recommended for presentation

## 【その他の重要事項】

演習中心の授業。欠席・遅刻に注意。

## 【Outline and objectives】

This class focuses on enhancing speaking and writing skills  
mainly. As for writing, they're supposed to come to be able  
to write a paragraph and then an essay eventually. Along  
with the writing activities, they'll make a speech based on  
their writing. Further more, through the text book, they'll  
challeng to understand the DVD without the subtitles (in doing  
so, reading technique and pronunciation checks involved)

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さら  
なるスピーキング能力を向上させるためにも、one -minute speech  
を充実させる。読む、書く、聞く、話すの 4 技能を習得する。

## 【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。  
プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに  
充実させる。

DVD を字幕なしに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され  
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：  
DP1、経営学部： DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回の音読 / slash reading から本文の理解をする。

CD/DVD を使用して音声・映像から理解を薦める。

ライティング課題を各トピックについて提出。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Serious Solution Needed How to write an essay Essay writing assignment (a new topic will be given)	Warm-up vocabulary (consequences) structure point (the habitats clownfish call home). Marking & read aloud Listen to CD & watch DVD. [予習] vocabulary の予習。音声 を事前に聞き穴埋め問題を解く。 30 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。 30 分。
2	to compete unit 6	Without the subtitle, understand the text. True and False quiz. Partial composition (have something to do with) [予習] 与えられたトピックで essay writing 演習問題の残りの 完成。1 時間。 [復習] テキストを正確な音声で再 生し、音での語彙力を強化し、コ ミュニケーション能力を向上。
3	Self -inflicted wounds	Warm-up vocabulary (wipe out, infrastructure) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。音声 を事前にチェックして穴埋め問題 を解く。40 分。 [復習] 本文を音読して内容把握。 20 分

4.	to complete the unit 7	Without the subtitle, understand the text. True and False quiz Partial composition (have little defense against) [予習] 練習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを確実な音で再生し音での語彙力を増やしコミュニケーション能力を強化。20分。	11.	Playing a Better Role	Warm-up vocabulary check (hierarchy, stigmatize) Listen to CD and watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。事前に音声聞いて穴埋め問題を解く。30分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30分。
5.	Deeply Disturbing Essay writing assignment (a new topic will be given).	Warm-up (Hillary or Trump) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。音声を事前に視聴して穴埋め問題を解く。40分。 [復習] テキストを確実な音声で再生し、音に特化した語彙を強化してコミュニケーション能力を向上。20分。	12.	to complete unit 10	without the subtitle, understand the text. True and False quiz Partial composition (is about to~) [予習] 演習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを確実な音で再現して音を意識して会話を上げる。20分。
6.	to complete unit 8	without the subtitle, understand the text. True and false quiz. Partial composition (we should stay one step ahead) [予習] 演習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを確実な音声で音読し、音による語彙力を上げ会話を強化。20分。	13.	final test	review the previous units [予習] 試験範囲をチェックして準備。3時間。 [復習] 解答できなかった項目を見直す。30分。
7.	Review the previous units Essay writing assignment (a new topic will be given)	Check your understanding of the units learned so far. [予習] 理解できなかった箇所を事前にチェック。30分。 [復習] 理解できなかった内容を再確認。20分。	14.	final presentation	Make a public speech. (using power point, pc and other visual materials ) [予習] 与えられたトピックについてエッセイを書き、口頭で練習。3時間。 [復習] self - evaluation の項目に答える。20分。
8.	Presentation	Make a public speech based on their own essays. [予習] 与えられたトピックについて draft を書き、口頭で練習。2時間。 [復習] self evaluation の項目に答える。20分。			<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b> エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。 各ユニットの音声の確認とスピーチの準備 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
9.	Coping with Change	Warm-up vocabulary check (used to) Words and Phrases (peer, relevant) Listen to CD & watch DVD Marking Read aloud [予習] vocabulary の予習。事前に音声チェックで穴埋め問題を解く。40分。 [復習] 本文を音読して内容把握。30分。 [復習]			<b>【テキスト（教科書）】</b> ENGLISH FOR THE GLOBAL AGE WITH CNN 2020 vol. > 21 Kansai University Research Group ASAHI PRESS 1,900 <b>【参考書】</b> no <b>【成績評価の方法と基準】</b> 期末試験 (60%)・プレゼンテーション・ライティング (40%) 各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。 <b>【学生の意見等からの気づき】</b> とにかくしゃべらされる英語のクラス。 <b>【学生が準備すべき機器他】</b> If you present your speech, you can use USB, CP and so on.
10.	to complete unit 9	without the subtitle, understand the text. True and false quiz Partial composition (until~) [予習] 演習問題の残りを完成。40分。 [復習] テキストを正確に再現し、語彙力を強化しコミュニケーション能力を向上。20分。			<b>【Outline and objectives】</b> The students are supposed to write an essay after acquiring how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through activating one minute speech. They are encouraged to speak about what happens in their daily lives as specifically as possible with a word they've already known.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

ヴァイヒャート ロビン フランク

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 27 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	3A Trip Aside	be going to, airports.
7	3C Word games	defining relative clauses, paraphrasing.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.
11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.
14	6C The meaning of dreaming	review of verb forms, modifiers.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/Paper and writing utensils.

## 【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

## ヴァイヒャート ロビン フランク

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 27 組

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook/paper and writing utensils.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills.

Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fear of net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C International inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

## 【到達目標】

Through a variety of stimulating topics and the study & practice of a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required. Students will be able to read samples before practicing various writing tasks. Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Placement Test	English 2 - Unified Assignment 1
Week 3	Introduction to Online English Study	English 2 - Unified Assignment 2
Week 4	Online Orientation	English 2 - Unified Assignment 3
Week 4	Writing 1 - Format & process	The writing process & correct formatting
Week 5	Writing 2 - Pre-Writing	Topic choice, brainstorming, editing
Week 6	Writing 3 - Paragraph Structure	Topic, supporting & conclusion sentences
Week 7	Writing 4 - Paragraph Development	Details, explanation & example
Week 8	Writing 5 - Description A	Descriptive Paragraphs - Place
Week 9	Writing 6 - Description B	Descriptive Paragraphs - Person
Week 10	Writing 7 - First draft review	Reviewing, revising & rewriting

Week 12	Writing 8 -Process	Explaining order
Week 13	Writing 9 - Opinion	Expressing ideas with facts & examples
Week 14	Writing 10 - Review	Course Overview

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be required to produce a printed report using the type of paragraphs, the grammatical structures and the vocabulary studied & practiced during the class. The report must be printed on A4 paper, using the correct format and submitted to the teacher by the next lesson. The length of the report may vary but these assignments, including pre-writing & review are expected to take approximately 90 minutes.

## 【テキスト (教科書)】

Writing Essays (Macmillan) By Dorothy E Zemach & Lisa Ghulldu

## 【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

60% - Homework Assignments

40% - Final Report

Failure to submit homework assignments during the semester will affect students' grades.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students will have the opportunity, through the HOPPII educational support system, to contact & ask for guidance from the instructor throughout the semester.

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

## 【その他の重要事項】

A desire & effort to improve & practice English composition skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs in to cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

## 【到達目標】

To give the students confidence to communicate in English with the improvement in listening skills & extensive vocabulary acquisition during the first part of the semester. The second part of the course will provide students with further stimulating writing tasks & further compositional practice using models of writing that are based on real assignments, in order for them to master a multi-paragraph report.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

During the first half of the semester, students will preview theme & vocabulary before watching 2 short excerpts from the film. After viewing, they will work with a partner in English on comprehensive questions, before completing a review.

In the second half of the semester, each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Explanation	Introduction to the Fall Semester
Week 2	Bend It Like Beckham 1	An Indian & a British girl who love football.
Week 3	Bend It Like Beckham 2	Coach Joe & the women's team
Week 4	Bend It Like Beckham 3	The trip to Germany
Week 5	Bend It Like Beckham 4	Jess vs Jules
Week 6	Bend It Like Beckham 5	The Wedding

Week 7 Bend It Like Beckham 6 Going to America

Week 8 Paragraph Review A review of paragraph structure & format from the spring semester

Week 9 The Structure of an Essay Introduction, body & concluding paragraphs

Week 10 Problem/Solution Paragraphs Analysing & answering problems

Week 11 Outlines How to plan a report

Week 12 Introductions & Conclusions How to start & finish a report

Week 13 Comparison & Contrast Writing about similarities & differences

Week 14 Writing Review Final Evaluation

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. During the first half of the semester, there will be weekly vocabulary preparation & a review exercise, and students will be required to submit a final report on one of the themes raised in the film.

During the second half of the semester, students will be expected to prepare regular English reports which will be assigned on a weekly basis. These must be printed on A4 paper and will require approximately 1 - 2 hours of study time depending on the student's level and the level of difficulty of the report as students progress to multi-paragraph essays during the term. A maximum of 3 absences will be permitted per semester.

## 【テキスト（教科書）】

'Writing Essays' by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.

Publisher: Macmillan Language House (second half, to be continued from spring semester)

## 【参考書】

An electronic dictionary or smartphone dictionary is required at every lesson.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

## 【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

## 【その他の重要事項】

Regular attendance & a desire to improve & practice English communication & writing skills are prerequisites for this class.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

During the fall semester, students will have the opportunity to improve their communicative skills, with extensive conversation & listening practice, and advance the writing skills from basic paragraphs which were studied during the spring semester.

The film 'Bend It Like Beckham' takes a stimulating look at a British & an Indian girl who try to fulfill their dreams in a man's world and offers a contemporary view on cultural & gender issues. With 'Writing Essays', students will build on the skills learnt in the previous semester, challenging them to improve their multiparagraph writing techniques to a satisfactory academic level.

LANe100LA

## English 2 I

2017年度以降入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

## 【到達目標】

We will complete an assignment, week by week. Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English. There are a variety of materials that include writing, reading, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A - Self Introduction	See Assignment A - Self Introduction for details.
2	B - Letter Correction	See Assignment B - Letter Correction for details.
3	C - International Culture Quiz	See Assignment C - International Culture Quiz for details. questions, and answers, clarifying, agreeing, disagreeing etc.
4	D - Mini Car Video	See Assignment D - Mini Car Video for details.
5	E - Mousetrap	See Assignment E - Mousetrap for details.
6	F - Sherlock Holmes Video	See Assignment F - Sherlock Holmes Video for details.
7	G - How We Met listening	See Assignment G - How We Met listening for details.
8	H - Wanted! Listening	See Assignment H - Wanted! listening for details.
9	I - Romance	See Assignment I - Romance for details.
10	J - Jogging	See Assignment J - Jogging for details.
11	K - Reunion	See Assignment K - Reunion for details.
12	L - Japan Culture Quiz	See Assignment L - Japan Culture Quiz for details.
13	M - BBC World Service Video	See Assignment M - BBC World Service Video for details.
14	N - Purple Violin	See Assignment N - Purple Violin for details.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Each assignment is detailed in the materials folder. There are a variety of activities which will endeavour to complete.

**【テキスト（教科書）】**

Materials will be distributed via HOPPII

**【参考書】**

No other reference books are required.

**【成績評価の方法と基準】**

\* Note \* The first class will be held on Tuesday 2nd June. Until then, then, students are given online assignments, prepared by the English Subcommittee, which will be graded and integrated as below

Initial online assignments 25%

Remote classes -

Participation and classwork produced. 25%

Assignments. 25%

Quizzes and tests. 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

This year we are experiencing a whole new situation. We will all try to make the best of things.

**【学生が準備すべき機器他】**

A computer is best, a smart phone may work too. In any case, keep a record of your work in analog and/or digital form for inspection, if necessary.

**【その他の重要事項】**

This year, 2020, is a new situation. Let's try to make the best of things. Don't panic! Relax, enjoy and improve your English. If you have any problems or questions, please contact me. Good luck!

**【Outline and objectives】**

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

**English 2 II**

2017年度以降入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

**【到達目標】**

Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner. Students will work in pairs and groups and complete a task using English.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practiced and then used in freer, interactive activities in pairs and groups. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Holiday questionnaire.	Talking about the holidays. Q&A.
2	Cultural differences.	An American in Tokyo. Giving advice. Modal verbs of obligation.
3	What Went Wrong?	Cultural differences case studies. Pairwork, explaining and speculating.
4	Who Killed Harrison?	Pair work detective, info. exchange game. Passives/question and answer forms. Speculating and explaining.
5	Comparisons, superlatives.	Pairwork preparation. Individual presentation. Comparing, agreeing and disagreeing.
6	How They Met.	Listening. Couples discussing how they first met. Info. exchange. Similarity and difference.
7	UFO stories.	Work in pairs, use a picture sequence to create a story about a UFO sighting. Tell the story, listening and reacting to a story.

8	Telephoning.	Basic telephoning skills and language. Leaving a message. Numbers.
9	Information Exchange game.	Teamwork information exchange. Everyday language of agreeing and disagreeing.
10	Books and movies.	Explaining and discussing interests.
11	Mini presentations.	Presentation Language and content. Preparing in pairs and alone.
12	Mini Presentations. In class presentations.	Making a presentation. Listening to a presentation. Question and answer session.
13	General knowledge quiz.	Q@A. Question formation. Team game.
14	Picture stories.	Creating a telling a story. Relating experiences. Listening and reacting.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each class may include a homework assignment to consolidate class work and/or preparation for the next class. If a student is absent please check with classmates to copy class notes and handouts and find out if any homework or preparation is required.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

#### 【テキスト（教科書）】

Materials are distributed in class by the teacher.

#### 【参考書】

No other reference books are required.

#### 【成績評価の方法と基準】

Class participation and classwork 50%

Assignments 25%

Quizzes and tests 25%

#### 【学生の意見等からの気づき】

The course is altered according to what could be improved in terms of student engagement and enjoyment, and also in terms of which topics are presented and how they are presented.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Students need an A4 folder with lined A4 writing paper, pencil, eraser and dictionary. Additional materials will be handed out by the teacher in class. Please keep these and any class notes in your A4 folder.

#### 【その他の重要事項】

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please talk to me in class.

Good luck!

#### 【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

齋藤 昇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

#### 【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

必要なプリントなどを提示しながらアメリカ短編小説を読み、適宜、日常生活のトピックを英語表現することを授業で行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。
2 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の中のユーモアの英語表現スキルの養い。
3 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説のペインズの英語表現スキルの養い。小テストを実施。
4 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説のウィットの英語表現スキルの養い。
5 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説のユニークな英語表現スキルの養い。
6 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の古典的な英語表現スキルの養い。小テストを実施。
7 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の英語表現と現在の英語表現の相違について。
8 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の特徴的な英語表現について。小テストを実施。
9 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説のどんでん返しの英語表現について。
10 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の歴史的な文化理解について。
11 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説と今の意義について。小テストを実施。
12 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (11)	O・ヘンリーの短篇小説の優れた英語表現について。
13 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説に表現された英語を使つての英作スキルを養う。

- 14 回 テキスト講読とトピック O・ヘンリーの短篇小説の意義と  
クの英語表現 (12) 英語表現について。小テストを実施。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前にテキストを読んで、全体の文脈の把握をする。また、様々な日常生活のトピック英語に接する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

O.Henry: The Best Short Stories by J.Suzuki and N.Saito (松柏社)

**【参考書】**

授業時に指示する

**【成績評価の方法と基準】**

毎週の授業のプレゼンの評価 30%と適宜実施する小テストの評価 30%と出席率 40%を総合的に考慮して成績評価とする。ただし、学期欠席が4回以上の場合は原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の進捗に配慮する。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

なし

**【Outline and objectives】**

The program in the class fosters the ability to read some short stories critically, to appreciate the power of language to shape presentation. And it encourages students to develop their own style of writing English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

齋藤 昇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

**【到達目標】**

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

必要な教材を活用してアメリカ短編小説を講読し、その文化的背景と英語表現を習得します。と同時に日常生活のトピックを英語表現できるスキルを養います。それらを授業でプレゼンしてもらいます。それには丁寧な予習と日ごろの英文文脈の把握の努力が必要です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説「20 年後」の構成説明。
2 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の歴史的な背景について。
3 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の英文の特徴について。授業内小テスト実施。
4 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のユーモアについて。
5 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のウィットについて。授業内小テスト実施。
6 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の歴史的背景と英文表現の特徴について。
7 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のペースについて。授業内小テスト実施。
8 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の英語表現の特徴について。
9 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の口語体の英文表現について。授業内小テスト実施。
10 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」に表現された日常英語表現について。

- 11 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (11) O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の一葉」の英文表現の比較について。授業内小テスト実施。
- 12 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (12) O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の一葉」のユーモアの英語表現の比較について。
- 13 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (13) O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の一葉」のウィットの英語表現の比較について。
- 14 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (14) O・ヘンリーの短篇小説における作家の特性と英語表現の特徴について。授業内小テスト実施。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

丁寧なテキスト精読と日常生活のトピック英文の文脈把握に努力すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

O.Henry: The Best Short Stories by J.Suzuki and N. Saito (松柏社)とプリント配布。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎週の授業のプレゼンの評価 30%と適宜実施する小テストの評価 30%と出席率 40%を総合的に判断して成績評価とする。ただし、学期欠席が4回以上の場合原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の進捗に配慮する。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

なし

**【Outline and objectives】**

The program in the class fosters the ability to read some short stories critically, to appreciate the power of language to shape presentation. And it encourages students to develop their own style of writing English.

LANe100LA

**English 2 I**

2017年度以降入学者

**フィル ケニー**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

We will work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

**【到達目標】**

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

For the first part of this semester you will work from home. The lessons are posted on the university website: HOPPII. We will use poetry, songs, animation and YouTube videos. Later, in the classroom, you will work in pairs, groups and with the class. To succeed you will be required to read, speak, listen and write.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	The Owl and the Pussy Cat. Exploring the world of enchantment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
2	The Unicorn. A delightful story.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
3	Standing in the Doorway Exploring the feelings of loss.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
4	The Princess Bride. Story telling.	Though this delightful movie we will explore different kinds of love. An essay will be required.
5	I Will Rise. Exploring the language of empowerment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
6	Everybody knows. The power of song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
7	Finish that story.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
8	Getting into shape.	Verbs of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing meaning.

12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs.	Pronunciation.
14	Dictation.	Listening and writing.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed.

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の課題4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【学生が準備すべき機器他】

You will need access to the Internet.

## 【その他の重要事項】

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

Integrating these skills in pairs, groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

営1年：英語31組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will work continue to work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world; newspapers, magazines, film, advertising, etc. in an enjoyable way. You will work in pairs, groups and with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered in the class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

**【学生の意見等からの気づき】**

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

**【学生が準備すべき機器他】**

You will need access to the internet.

**【その他の重要事項】**

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

**【Outline and objectives】**

We will work on integrating these skills. You will be working in pairs, in groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

**English 2 I**

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人や物の交流が国境を越えて活発化し、日本にいても外国の文化に触れる機会が増えてきました。今後も、海外との行き来が活発化することは否めません。しかし、日本語で収集できる情報の量には限界がありますし、状況によっては、コミュニケーションの手段が日本語ばかりとは限りません。そのような時、国際語として英語が役に立つでしょう。

この授業では、高校までに学んだ英語を基礎として、自分の知識や考えを英語で表現する力を養います。身近な話題に関する経験や意見を英語で書く練習をし、短いエッセイを書けるようにします。また、ロールプレイなどのアクティビティを通じて、具体的な場面に沿った英語表現を身につけることを目指します。

**【到達目標】**

- ・ 日常生活や現代社会についての短い英語の映像を見たり、音声を聞いたりして、その内容を把握できるようになる。
- ・ 日常生活に関する英語表現を学び、自信をもって発言できるようになる。
- ・ 日常生活についての自分の経験、知識、意見などを英語で説明できるようになる。
- ・ 身近な話題に関しての短い文章を、英語で論理的に書けるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は、テキストに沿って進めていきます。とくに **Speaking/Listening** と **Writing** の箇所を重点的に扱います。**Writing** では、各ユニットのトピックに沿った短い文章を書きます。各自で書いた内容をお互いに読み合っ、論理的な文章になるよう練り上げていきます。**Speaking** はテキストの例文を音読することに加え、ペアやグループでロールプレイやディスカッションなどを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明と今学期の目標
Week 2	Unit 1, pt.1 : Good memories	Introducing yourself
Week 3	Unit 1, pt.2 : Good memories	Writing a paragraph about your childhood
Week 4	Unit 2, pt.1: Life in the city	Talking about transportation and transportation problems
Week 5	Unit 2, pt.2: Life in the city	Writing an outline post on a community message board about a local issue
Week 6	Unit 3, pt. 1: Making changes	Describing positive and negative features
Week 7	Unit 3, pt. 2: Making changes	Writing an email comparing two living spaces
Week 8	Unit 4, pt. 1: Have you ever tried it?	Talking about food
Week 9	Unit 4, pt. 2: Have you ever tried it?	Writing a recipe

Week 10	Unit 5, pt. 1: Hit the road!	Describing vacation plans
Week 11	Unit 5, pt. 2: Hit the road!	Writing an email with travel suggestions
Week 12	Unit 6, pt. 1: Sure! I'll do it.	Making requests
Week 13	Unit 6, pt. 2: Sure! I'll do it.	Writing a message making a request
Week 14	Review	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

\* 各 Unit につき、テキストの内容に関する Writing の課題が出されます。テキスト付属のウェブサイトもあります。積極的に活用してください。

#### 【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards, *Interchange 2* (5th edition), Cambridge University Press. ¥3,245+tax

#### 【参考書】

適宜、紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験 50% 平常点（授業への参加度、小テスト、提出物）50%
- ・ 原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は英語を発音したり話したりする機会を設けたことと、小テストにリスニングを課したことが好評でした。今年度も引き続き、取り入れていきたいと思えます。

#### 【その他の重要事項】

- ・ 毎回の授業に辞書を持参してください（電子辞書でも構いません）。

#### 【Outline and objectives】

As the world becomes globalized, students will get more opportunities to communicate with people from abroad, and visit foreign countries as well. However, the information they can get in Japanese is limited, or they might not be able to make themselves understood only in Japanese. In that case, English, as a global language, will be useful.

This class will encourage students to confidently express their opinions about various daily life issues. Based on what they have learned till high school, they will develop their skills to speak and write English. This class will encourage students to confidently express their opinions about various daily life issues. In the spring semester, students will improve their skill to think critically through writing activities. They will write some papers and polish them. By interacting with their classmates, they will improve their abilities to think logically and convey their opinion to others. At the end of the semester, they will be expected to write a short essay.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、Speaking と Writing のスキルを中心として英語を学びます。高校や春学期までに身につけた知識を基礎として、音声教材を中心にさまざまなトピックに関するテキストに触れます。それらの内容の把握につとめたり、各トピックに対して自分なりの意見を持ち、英語で表現したりすることが目標です。今学期は、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れて、春学期に身につけた Writing のスキルを Speaking のスキルにつなげていきます。情報を効率的に収集し、それらを批判的に検討する力をつけることで、直感的な「感想」から説得力のある「意見」への深化を目指します。

#### 【到達目標】

- ・ 日常生活や現代社会についての短い映像を見たり、音声をきいたりして、その内容を把握できるようになる。
- ・ 日常生活や現代社会に関する自分の経験、知識、意見などを英語で説明できるようになる。
- ・ 日常生活や現代社会に関する情報について、批判的に検討することができるようになる。
- ・ 日常生活や現代社会に関する情報を集めて整理し、分かりやすく伝えることができるようになる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、テキストに沿って進めていきます。とくに Speaking/Listening と Writing の箇所を重点的に扱います。Writing では、各ユニットのトピックに沿った短い文章を書きます。そして、その文章に基づいてペアやグループによるディスカッションを行い、情報をわかりやすく伝えたり、批判的に検討したりする力を養います。学期末には、一年の集大成としてプレゼンテーションを行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明と今学期の目標
Week 2	Unit 7, pt. 1: What do you use this for?	Describing technology
Week 3	Unit 7, pt. 2: What do you use this for?	Writing a message asking for specific favors
Week 4	Unit 8, pt. 1: Time to celebrate!	Describing holidays, festivals, customs, and special events
Week 5	Unit 8, pt. 2: Time to celebrate!	Writing an entry on a travel website about a cultural custom
Week 6	Unit 9, pt. 1: Only time will tell.	Talking about change
Week 7	Unit 9, pt. 2: Only time will tell.	Writing a paragraph describing a person's past, present, and possible future
Week 8	Unit 10, pt. 1: I like working with people	Describing abilities and skills
Week 9	Unit 10, pt. 2: I like working with people	Writing an outline cover letter for a job application

Week 10	Preparation for presentation (1)	テーマの選択
Week 11	Preparation for presentation (2)	アウトライン作成
Week 12	Preparation for presentation (3)	原稿を書く (peer-reading)
Week 13	Preparation for presentation (4)	原稿の完成
Week 14	Review	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

\* 各 Unit につき、テキストの内容に関する Writing の課題を出します。テキスト専用のウェブサイトもあります。積極的に活用してください。

#### 【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards, Interchange 2 (5th edition), Cambridge University Press. ¥3,245+tax

#### 【参考書】

適宜、紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験 50% 平常点（授業への参加度、小テスト、提出物）50%
- ・ 原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は英語を発音したり話したりする機会を設けたことと、小テストにリスニングを課したことが好評でした。今年度も引き続き、取り入れていきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションの準備（10 週目以降）は、可能であればパソコンを持参してください。

#### 【その他の重要事項】

- ・ 毎回の授業に辞書を持参してください（電子辞書でも構いません）。

#### 【Outline and objectives】

Following the spring semester, this class will encourage students to confidently express their opinions about various daily life issues. Based on what they have learned till high school, they will develop their skills to speak and write English. During the fall semester, students will take more time for oral communication. As they work on several activities such as conversation practice and discussion, they will improve their abilities to think logically and convey their opinion to others. At the end of the semester, they will be expected to make a presentation.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking.

#### 【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), student will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

1. Speaking and role play in pairs & groups.
2. Presentations about a topic.
3. Listening and watching audio/video.
4. Reading articles from a book.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Student introductions & class guidelines
2	Unit 1: That's my kind of friend!	Pair & Group Work Grammar Focus 3
3	Unit 1: continued	Listening 5 Discussion 6 Writing about a good friend
4	Unit 1: continued	Grammar Focus 10 Reading 12 Pair Work
5	Unit 2: Working 9 to 5	Pair & Group Work Grammar Focus 3
6	Unit 2: continued	Word Power 4 Speaking 5 Writing 6 What's more satisfying?
7	Unit 2: continued	Grammar Focus 8 Discussion about jobs & networking. Reading about workplaces
8	Midterm on Units 1 & 2	speaking and writing
9	Unit 3: Lend a hand.	Pair & Group Work Grammar Focus 3

10	Unit 3: Continued	Listening 5 Writing a request Word Power
11	Unit 3: Continued	Grammar Focus 10 Speaking/Requests Prepare paragraph about a problem/event. p24
12	Unit 4:What happened?	Paragraph homework due. Pair & Group work Grammar Focus 3 Listening
13	Unit 4: continued	Word Power Pair work about a surprising event. Reading about internet
14	Final Exam on Units 1-4	paper exam

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are expected to read ahead in the book and complete the activities before the next class session.

**【テキスト（教科書）】**

Jack C. Richards: Interchange Level 3 (5th Edition) Cambridge University Press

**【参考書】**

Always bring a dictionary to class.

**【成績評価の方法と基準】**

Midterm 25%

Final 25%

Writing Assignments 25%

Presentation/Effort 25%

Following department guidelines, no more than 3 absences are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

No feedback

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

Na

**【None】**

na

**【Outline and objectives】**

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking.

LANe100LA

**English 2 II**

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

**【到達目標】**

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), student will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

1. Speaking and role play in pairs & groups.
2. Presentations about a topic.
3. Listening and watching audio/video.
4. Reading articles from a book.
5. Writing paragraphs and short essay.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 5: Expanding your horizon	Pair & Group Work Word Power Grammar Focus 3
2	Unit 5: Continued	Discuss moving to a foreign country Grammar Focus 8
3	Unit 5: Continued	Speak about local customs Write a tourist brochure Reading about culture shock
4	Unit 6: That needs fixing	Pair & Group work Grammar Focus 3
5	Unit 6: Continued	Listening Role Play at a store Grammar Focus 7
6	Unit 6: Continued	Listening Write an online review Reading about problems
7	Unit 7: What can we do?	Pair & Group work Grammar Focus 3 Listening Word Power
8	Midterm	Review next chapter
9	Unit 7: Continued	Listening Word Power Grammar Focus 8

10	Unit 7: Continued	Writing about a problem Reading about Lion fish
11	Unit 8: Never stop learning	Pair & Group Work Grammar Focus 4 Listening
12	Unit 8: Continued	Listening Grammar Focus 9 Discuss learning styles
13	Unit 8: Continued	Pair & Group Work Word Power Writing about something you learned
14	Final Exam	Course feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 3 (5th Edition) Cambridge University Press

## 【参考書】

Na

## 【成績評価の方法と基準】

Midterm 25%

Final 25%

Writing 25%

Effort 25%

Following department guidelines, no more than 3 absences are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

none

## 【学生が準備すべき機器他】

none

## 【その他の重要事項】

na

[na]

na

## 【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

Patrick M McEvilly

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

## 【到達目標】

This course aims to improve the students fluency and communicative skills.

The students will get practice in discussions, how to do research and give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, Question Words	Where were you born? What is your hobby?
Week 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Talking about your friends
Week 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs, She makes people laugh
Week 4	Whatever makes you happy	Money - the best things in life are free Discussion - What's important to you?
Week 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Week 6	The flight attendant who lost his cool	Famous for 15 minutes
Week 7	Eat, drink and be merry	A couple talks about their diet
Week 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Week 9	Looking forward to it, I'd like to work in New York.	A girl with two families
Week 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home, leaving home
Week 11	The way I see it	Multicultural London
Week 12	People talk about who they like in their families	Deciding what to do in Los Angeles

Week 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam
Week 14	Final Examination & review	Will have short interviews with students covering the course materials

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-sided course.

## 【テキスト（教科書）】

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30% Students please note that I will follow the University's attendance policy with no more than three (3) absences allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【Outline and objectives】

[Course Objectives]

- 1.To give students maximum opportunities to communicate
- 2.To build student confidence in interpersonal communication
- 3.To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。また 2 つのインタビュー調査を実施し、レポートを作成し、クラスで発表します。ディベートについても学び、実際にディベートを行い、論理的な思考力の育成も目指します。期末レポートとしては、自分で選んで読んだ本についてレポートを書き、そのプレゼンテーションもします。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

## 【到達目標】

This course aims at four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

## 【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn writing/presentation/debate skills and strategies, learning about topic sentences, English writing/speaking organization, or summarizing.
- 2) You will discuss each topic of your writing with your classmates.
- 3) You will practice making small talk in every class.
- 4) You will develop critical thinking through this course work.
- 5) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of what you learned and Reflection on your study in the spring semester Introduction of this course Writing: Self-introduction and Goal setting	You will review and reflect on your study in the spring semester. I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this course. You will also write about your self-introduction.
2	Organization of English Writing/Speaking: Self-introduction	I will explain the organization of English academic writing and you will introduce yourself to your classmates and me.

3	Review of Organization of English Writing Writing: My Favorite Class Interview 1: Recommended Book	You will review organization of English writing. You will also write and speak about your favorite class. You will ask a person to recommend a book that is worth reading to you and write a report about the interview.	2) to do assignments, submit them, and meet the deadline University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. <b>【テキスト (教科書)】</b> Handouts <b>【参考書】</b> Longman Dictionary of Contemporary English <b>【成績評価の方法と基準】</b> class participation (20%), assignments (20%), debate (10%), presentation (20%), and term paper (30%) *If you have four absences per semester without permission, do not participate a debate, make a presentation, or do not submit a term paper, you cannot receive a credit for this course. <b>【学生の意見等からの気づき】</b> I have changed the syllabus of this course. Therefore, I would like to go on fine-tuning this course in the process of this course to make this course more effective for my students' English learning. <b>【学生が準備すべき機器他】</b> Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)
4	Speaking: Interview Report/Decision about the Book you read in this semester for your term paper	You will report the interview in pair, small group, and class. You will choose one book you will read and write a report about it at the end of this semester and will introduce the title of the book you choose and explain why you select the book in class.	
5	Preparation for Debate	You will learn about debates and prepare for your debate with your team members. You will develop your critical thinking through debating.	
6	Debate	Debate	
7	Writing: Your Life and Life Plan Outline of Your Term Paper	You will reflect on your life and make plans for your future life. Then you will write and speak about them. You will submit the outline of your term paper.	<b>【その他の重要事項】</b> You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. <b>【Outline and objectives】</b> You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. In this semester, you will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English in this class. You will conduct two interviews and report them in class. You will write a term paper and make a presentation about a book you will read in this semester. You are expected to make a good learning community through participation in this class.
8	Writing a card in English Interview 2: Career Development	You will learn how to write a letter in English and write a Christmas card in English. You will conduct interviews with three persons who have a full-time job and ask them the advantages and disadvantages of the work.	
9	Interview 2: Career Development Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English How to make a presentation and presentation slides	You will report about the interviews to your classmates and me. You will translate your favorite Japanese poem or song into English and show it to your classmates and me. You will learn how to make a presentation and presentation slides.	
10	Submission of Your Term Paper Presentation	You will submit your term paper to me. You will make a presentation about your term paper.	
11	Presentation	You will make a presentation about your term paper.	
12	Presentation	You will make a presentation about your term paper.	
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will translate your favorite Japanese poem or song into English and introduce it to your classmates.	
14	Review and Reflection	You will review what you learn in this course. You will reflect on your academic achievement in this semester and set your goals for the new academic year.	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

You are expected:

- 1) to watch or listen to an English program regularly

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎的スキルをもち、4 技能（聞く、話す、読む、書く）をさらに向上させることをめざす。特に、音読のトレーニング、語彙・発音・文法のチェック、を通じて聴解力と構文の理解力を身につける。仕上げとして、Essay によって自己表現できるようにする。

## 【到達目標】

テキストやプリントの演習を徹底的に実践する。TOEIC などで行われている語彙力の増強、日本人が苦手な発音の習得と聴解力の向上、高校までに身につけていない文法・語法力の向上、やや難しい文章の理解と要約、自己表現のためのエッセイ・ライティングなど、を通じて 4 技能を総合的に向上、習得できるようにすることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期前半のオンライン授業 4 回分（5 月 2 日、9 日、16 日、23 日）は英語 2 の共通教材・課題を学習する。5 月 30 日からはテキストおよび、プリント教材を使い演習形式で授業を進める。学生が Exercise の解答を行い、英文の音読・要約、課題作文の提出などに積極的に取り組む。本授業の開始日は、5 月 2 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容・方法・成績評価について説明する。
2	Unit 1 College Life(I)	文強勢、語彙、文法（品詞）、Listening、Reading の演習を行う。
3	Unit 2 College Life (II)	リズム、語彙、文法（自・他動詞）、Listening、Reading の演習を行う。
4	Essay を書く	Paragraph と Essay の機能・構成について学び、Essay を提出する。
5	Unit 3 Hobbies	イントネーション、語彙、文法（5 文型）、Listenig、Reading、の演習を行う。
6	Unit 5 Transportation	消える音、語彙、文法（未来形）、Listenig、Reading の演習をする。
7	Unit 7 Society	消える音、語彙、文法（進行形）、Listening、Reading の演習を行う。
8	Essay を書く	ニュース記事を読んで、Essay を書き、提出する。
9	Unit 8 Health	つながる音、語彙、文法（助動詞）、Listenig、Reading の演習を行う。
10	Unit 9 The Environment	つながる音、語彙、文法（受動態）、Listening、Reading の演習を行う。

11	Unit 10 Medication	同化、語彙、文法（不定詞）、Listening、Reading の演習を行う。
12	Unit 12 Shopping	弱形・強形、語彙、Listening、Reading の演習を行う。
13	テスト	Unit 1～12 までの範囲から、語彙、聴解力、文法力、読解力の習熟度を測定する。
第 14 回	まとめ	テストの返却・解説を行う。授業を振り返り、達成点と改善点を確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

JACET リスニング研究会著 Power-Up English < Pre-Intermediate >  
南雲堂 2000 円＋税

## 【参考書】

授業時に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期前半のオンライン授業により、成績評価の方法と基準を変更する。変更内容は、授業開始日の 5 月 2 日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・テストでどんな能力を測るかを普段の授業から説明する。
- ・学生の実力に合ったレベルを意識しながら授業運営を心がける。
- ・学生への指名の片寄を少なくする工夫をする。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students to improve their listening, reading and writing skills. Students will learn basic vocabulary and phrases, pronunciation, grammar and writing an essay.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎的技術をもとに、4 技能（聞く、話す、読む、書く）をさらに向上させることをめざす。特に、音読のトレーニング、語彙・発音・文法のチェック、を通じて聴解力と構文の理解力を身につける。仕上げとして、Essay によって自己表現できるようにする。

## 【到達目標】

テキストやプリントの演習を徹底的に実践する。TOEIC などで行われている語彙力の増強、日本人が苦手な発音の習得と聴解力の向上、高校までに身につけていない文法・語法力の向上、やや難しい文章の理解と要約、自己表現のためのエッセイ・ライティングなど、を通じて 4 技能を総合的に向上、習得できるようにすることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストおよび、プリント教材を使い演習形式で授業を進める。学生が Exercise の解答を行い、英文の音読・要約、課題作文の提出などに積極的に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・方法、成績評価について説明する。
2	Unit 13 Careers	Not の短縮形、文法（形容詞・副詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
3	Unit 14 Art	be・助動詞の短縮形、文法（形容詞・副詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
4	Unit 15 Culture	疑問詞の聞き取り、文法（前置詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
5	Unit 16 Population	展開を予測しながら聞く、文法（接続詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
6	Essay を書く	Paragraph Essay の機能・構成を学び、課題作文を書き、提出する。
7	Unit 17 Disasters	無声・有声音、文法（否定）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
8	Unit 18 Travel	紛らわしい音、文法（名詞構文）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
9	Unit 19 Sports	数量表現、文法（比較・最上級）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
10	Essay を書く	Essay の特徴を学び、書き、提出する。

11	Unit 20 Life	数量表現、文法（比較表現）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
12	Unit 21 Entertainment	知ってるつもり表現、文法（関係詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
13	テスト	Unit 13～21 の範囲から、習熟度を測るテストを行う。
14	まとめ・振り返り	テストを返却・解説する。また、授業の到達点と改善点を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

JACET リスニング研究会著 Power-Up English < Pre-Intermediate >  
南雲堂 2000 円＋税

## 【参考書】

授業時に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への参加度（欠席は 3 回まで）30%

Essay：2 回提出 20%

テスト：筆記・リスニングテスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・テストでどんな能力を測るかを普段の授業から説明する。
- ・学生の実力に合ったレベルを意識しながら授業運営を心がける。
- ・学生への指名の片寄を少なくする工夫をする。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students to improve their listening, reading and writing skills. Students will learn basic vocabulary and phrases, pronunciation, grammar and writing an essay.

LANe100LA

## English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎的技能をもとに、4 技能（聞く、話す、読む、書く）をさらに向上させることをめざす。特に、音読のトレーニング、語彙・発音・文法のチェック、を通じて聴解力と構文の理解力を身につける。仕上げとして、Essay によって自己表現できるようにする。

## 【到達目標】

テキストやプリントの演習を徹底的に実践する。TOEIC などで行われている語彙力の増強、日本人が苦手な発音の習得と聴解力の向上、高校までに身につけていない文法・語法力の向上、やや難しい文章の理解と要約、自己表現のためのエッセイ・ライティングなど、を通じて 4 技能を総合的に向上、習得できるようにすることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期前半のオンライン授業の 4 回分（5 月 2 日、9 日、16 日、23 日）は、英語 2 の共通教材・課題を学習する。5 月 30 日からは、テキストおよび、プリント教材を使い演習形式で授業を進める。学生は Exercise の解答を行い、英文の音読・要約、課題作文の提出などに積極的に取り組む。本授業の開始は、5 月 2 日である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容・方法・成績評価について説明する。
2	Unit 1 College Life(I)	文強勢、語彙、文法（品詞）、Listening、Reading の演習を行う。
3	Unit 1 College Life(II)	リズム、語彙、文法（自・他動詞）、Listening、Reading の演習を行う。
4	Essay を書く	Paragraph と Essay の機能・構成について学び、Essay を提出する。
5	Unit 3 Hobbies	イントネーション、語彙、文法（5 文型）、Listenig、Reading、の演習を行う。
6	Unit 5 Transportation	消える音、語彙、文法（未来形）、Listenig、Reading の演習をする。
7	Unit 6 Business	消える音、語彙、文法（進行形）、Listening、Reading の演習を行う。
8	Essay を書く	ニュース記事を読んで、Essay を書き、提出する。
9	Unit 7 Society	つながる音 I、語彙、文法（完了形）、Listenig、Reading の演習を行う。
10	Unit 8 Health	つながる音 II、語彙、文法（助動詞）、Listening、Reading の演習を行う。

11	Unit 9 The Environment	つながる音 III、語彙、文法（受動態）、Listening、Reading の演習を行う。
12	Uni 10 Medicine	同化、語彙、Listening、Reading の演習を行う。
13	習熟度確認テスト	Unit 1～10 までの範囲から、語彙力、聴解力、文法力、読解力の習熟度を測定する。
14	まとめ・振り返り	テストの返却・解説を行う。授業を振り返り、達成点と改善点を確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are

around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

JACET リスニング研究会著 Power-Up English < Pre-Intermediate 南雲堂 2000 円＋税

## 【参考書】

授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価の方法と基準は変更する。具体的内容は、初回授業（5 月 2 日）に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・テストでどんな能力を測るかを普段の授業から説明する。
- ・学生の実力に合ったレベルを意識しながら授業運営を心がける。
- ・学生への指名の片寄を少なくする工夫をする。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students to improve their listening, reading and writing skills. Students will learn basic vocabulary and phrases, pronunciation, grammar and writing an essay.

LANe100LA

## English 2 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎的技術をもとに、4 技能（聞く、話す、読む、書く）をさらに向上させることをめざす。特に、音読のトレーニング、語彙・発音・文法のチェック、を通じて聴解力と構文の理解力を身につける。仕上げとして、Essay によって自己表現できるようにする。

## 【到達目標】

テキストやプリントの演習を徹底的に実践する。TOEIC などで行われている語彙力の増強、日本人が苦手な発音の習得と聴解力の向上、高校までに身につけていない文法・語法力の向上、やや難しい文章の理解と要約、自己表現のためのエッセイ・ライティングなど、を通じて 4 技能を総合的に向上、習得できるようにすることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストおよび、プリント教材を使い演習形式で授業を進める。学生が Exercise の解答を行い、英文の音読・要約、課題作文の提出などに積極的に取り組む。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容・方法・成績評価について説明する。
2	Unit 13 Careers	Not の短縮形、文法（形容詞・副詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
3	Unit 14 Art	疑問詞の聞き取り、文法（前置詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
4	Unit 15 Culture	疑問詞の聞き取り、文法（前置詞）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
5	Unit 16 Population	展開を予測して聞く、文法（接続詞）音読、Listening、Reading の演習を行う。
6	Essay を書く	Paragraph Essay の機能・構成を学び、課題作文を書き、提出する。
7	Unit 17 Disasters	無声・有声音、文法（否定）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
8	Unit 18 Travel	紛らわしい音、文法（名刺構文）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
9	Unit 19 Sports	数量表現、文法（比較・最上級）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
10	Essay を書く	ニュース記事について Essay を書く

11	Unit 20 Life	数量表現Ⅱ、文法（比較・最上級Ⅱ）、音読、Listening、Reading の演習を行う。行う。
12	Unit 21 Entertainment	知ってるつもり英語、文法（関係詞Ⅰ）、音読、Listening、Reading の演習を行う。
13	習熟度確認テスト	Unit 13～21 の範囲から、習熟度を測るテストを行う。
14	まとめ・振り返り	テストの返却・解説する。また、授業の到達点と改善点を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

JACET リスニング研究会著 Power-Up English < Pre-Intermediate 南雲堂 2000 円＋税

## 【参考書】

授業時に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への参加度（欠席は 3 回まで）30%

Essay：2 回提出 20%

テスト：筆記・リスニングテスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・テストでどんな能力を測るかを普段の授業から説明する。
- ・学生の実力に合ったレベルを意識しながら授業運営を心がける。
- ・学生への指名の片寄を少なくする工夫をする。

## 【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students to improve their listening, reading and writing skills. Students will learn basic vocabulary and phrases, pronunciation, grammar and writing an essay.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

インターネットや SNS の発達により、今日ではライティングの能力が必須となっている。そこで、このクラスでは、特にリスニングとライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・日常生活のさまざまなトピックについて自分の意見を文章で表現できるようになる。
- ・教材の英語を聞き取れるようになる。
- ・メールを書いたり、グラフや図を英語で説明できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりも各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 25 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べること。
- ・知らない単語はルーズリーフかノートに 5 回ずつ練習してください。出欠時に見せてもらいます（対面授業時のみ）。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・音声教材を用いて聞き取りを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 1 Welcome to the party!	イントロダクション 友人へメールを書こう
2	Unit 2 I'm planning to study abroad	先輩や先生にメールを書こう
3	Unit 3 I'm afraid that it was damaged	苦情のメールを書こう
4	Unit 4 Let me introduce myself	自分の紹介文を書こう
5	Unit 5 My hobby is ...	自分の趣味を書こう
6	Unit 6 This is my dream	自分の夢を書こう
7	Unit 7 Isn't it exciting to go out?	自分の出来事を書こう
8	Unit 8 My memorial pictures	写真や絵を説明しよう
9	unit 9 What I experienced	印象的な思い出を説明しよう

10	Unit 10 How long did you sleep?	グラフや図を説明しよう
11	Unit 11 I like tennis the best	アンケートをまとめよう
12	Unit 12 In my opinion ...	調査の結果から意見を言ってみよう
13	Unit 13 Do you agree with my idea?	賛成/反対を表明しよう
14	学期末試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.kinsei-do.co.jp/download/4040>

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

工藤洋路著『Have Fun Writing! 楽しく学ぶ英文ライティング入門』金星堂、1800 円

**【参考書】**

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）と和英辞典が入っている電子辞書をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更されることがあり、随時、シラバスと学習支援システムで提示する。
- ・平常点（授業参加度、授業態度、課題等）30 % + 学期末試験 70 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4 回以上に匹敵する課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30 分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3 回遅刻で 1 回の欠席と同等にする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。
- ・コピー&ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行ったことが明らかになった場合は、当該科目を不可とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン学習時は、学習支援システムを用いるため、スマートフォンやパソコンが必要となります。

**【その他の重要事項】**

コロナ対策のため、シラバスには随時変更があります。

**【Outline and objectives】**

With the development of Internet and SNS today, the English communication is becoming more and more important for Japanese. So, in this class, students will improve the English communication skills of listening and writing.

LANe100LA

## English 2 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年にはオリンピックが開催され、英会話がより必要となっている。そこで、このクラスでは、特にリスニングとスピーキングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

## 【到達目標】

- ・日常生活のさまざまなトピックについて自分の意見を口頭で表現できるようになる。
- ・相手の英語や、教材の英語を聞き取れるようになる。
- ・学生同士が、基本的な英会話をすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキストを用いて、ペアやグループになって英会話の練習を行う。
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べること。知らない単語は 5 回ずつ練習して下さい。出欠確認時に見せてもらいます。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・音声教材を用いて聞き取りを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明等
2	Unit 1 Classroom cues	教室での会話
3	Unit 2 School life and lingo	大学生活における表現
4	Unit 3 Family fortunes	家族に関する表現
5	Unit 4 Talk of the town	住んでいる町に関する表現
6	Unit 5 Friends forever	友人に関する表現
7	Unit 6 Vacation variations	休暇に関する表現
8	Unit 7 Story studio	物語
9	unit 8 Pick your favorites	お気に入りに関する表現
10	Unit 9 Fashion Frenzy	流行に関する表現
11	Unit 10 Memory motifs	思い出に関する表現
12	Unit 11 Wanted: work	仕事に関する表現
13	Unit 12 Holiday hoopla	祝日に関する表現
14	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、知らない単語はノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Sheila Cliffe 著『Within Your Reach あなたにもできる英会話』南雲堂、2000 円

## 【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）をお勧めします。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 学期末試験 70 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30 分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3 回遅刻で 1 回の欠席と同等にする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する可能性がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The Olympic games will be held in Japan in 2020, and English conversations are becoming more and more important for Japanese. So, in this class, students will improve the English communication skills of listening and speaking.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようにすることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

## 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目指して学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身につける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」前半
3	Chapter 1-2 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」後半
4	Chapter 6-1 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」前半
5	Chapter 6-2 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」後半
6	chapter 1,6 のまとめ	chapter 1,6 のまとめと英作文と英作文

- |    |  |                                 |
|----|--|---------------------------------|
| 7  | Chapter 11-1 Saving the Environment: Can one person make a difference?         | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」前半       |
| 8  | Chapter 11-2 Saving the Environment: Can one person make a difference?         | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」後半       |
| 9  | Chapter 16-1 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」前半        |
| 10 | Chapter 16-2 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」後半        |
| 11 | chapter 11,16 のまとめと英作文   | chapter 11,16 のまとめと英作文          |
| 12 | Chapter 2-1 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」前半 |
| 13 | Chapter 2-2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」後半 |
| 14 | まとめと期末テスト  | まとめと期末テスト、解説                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進め、chapter ごとに2回、小テストを実施するので、予習・復習に少なくとも1時間をかけて、テキストを読み、わからなかった箇所を見直すこと。小テストは単語の定義を問う問題になるので、英英辞書で単語の定義を調べること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017年, 1,900円+税)

## 【参考書】

英語系辞書

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

## 【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

LANe100LA

## 英語3

2017年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

## 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に1つのchapterを2回の授業に分けて読む。秋学期は英文を速読に主眼を置く。春学期同様、授業冒頭でテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いてトピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。chapterごとに2回小テストを行なう。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 7-1 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」前半講読
3	Chapter 7-2 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」後半講読
4	Chapter 12-1 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」前半講読
5	Chapter 12-2 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」後半講読

6	Chapter 7.12 のまとめと英作文	Chapter 7,12 のまとめと英作文
7	Chapter 17-1 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」前半講読
8	Chapter 17-2 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」後半講読
9	Chapter 3-1 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」前半講読
10	Chapter 3-2 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」後半講読
11	Chapter 17,3 のまとめと英作文	Chapter 17,3 のまとめと英作文
12	Chapter 8-1 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」前半講読
13	Chapter 8-2 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回、小テストを実施するので、予習・復習に少なくとも 1 時間をかけて、テキストを読み、わからなかった箇所を見直すこと。

小テストは単語の定義を問う問題になるので、英英辞書で単語の定義を調べること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円+税)

#### 【参考書】

英語系辞書

#### 【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

#### 【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

## 【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合がありますが、グループやペアワークで確認してもらい場合が多いのでしっかり予習しましょう。

基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回の授業が終了した次の回で復習のための小テストを行います。学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。  
※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブイトやアプリケーションの紹介	PC を利用した演習
3	Security Cameras ① CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
4	Security Cameras ② CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	CHAPTER 2 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
6	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認

7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Extreme Sports ① CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
9	Extreme Sports ② CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
10	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	CHAPTER 6 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
11	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
12	Spouse Hunting ① CHAPTER 8	CHAPTER 7 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
13	Spouse Hunting ② CHAPTER 8	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

\*授業には必ず辞書を持参してください。

## 【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ/ペアワークへの参加）15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、スピーキングのアクティビティも適宜取り入れます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will review and reinforce English vocabulary, pronunciation, and grammar they learned in high school. Students will also learn how to read passages of multiple paragraphs without using a dictionary, guessing the meanings of unknown words from the context.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

菊池 かおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は英語 1 からのステップアップとして、英語の文章を日本語への逐語訳というステップを経なくても、すばやく内容を理解し、英語で自分の意見を発信できる力を養います。そのために、これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、エッセイの基本的な構造を理解し、自分の意見を論理的に英語で書いたり、発表したりする練習も行います。そしてそれらの練習を通して、物事を多角的観点から分析できる批判的思考力と論理的思考力を養います。

## 【到達目標】

未知語をすべて調べなくても、大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身につける。さらに、その内容について自分の意見をまとめ、エッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には Reading と Writing を組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークや学生相互の課題添削も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを理解し、パラグラフの基本的な構造を確認する。
2	Becoming a World Heritage Site ① CHAPTER10	記事の購読、Topic Sentence の役割について理解を深める。
3	Becoming a World Heritage Site ② CHAPTER10	記事の購読、Supporting Sentence と Concluding Sentence の役割について理解を深める。
4	Driverless Cars ① CHAPTER11	記事の購読、エッセイの基本的な構造を理解する。
5	Driverless Cars ② CHAPTER11	記事の購読、プレゼンの準備に取り掛かる。
6	The Lay-Judge System in Japan ① CHAPTER12	記事の購読、プレゼンの準備を進める。
7	The Lay-Judge System in Japan ② CHAPTER12	記事の購読、プレゼンの準備を進める。
8	グループ・プレゼンテーション	プレゼンの実施。
9	Artificial Intelligence ① CHAPTER13	記事の購読、序論の書き方について理解を深める。
10	Artificial Intelligence ② CHAPTER13	記事の購読、結論の書き方について理解を深める。

11	Life-prolonging Treatment ① CHAPTER14	記事の購読、エッセイのアウトラインを作成する。
12	Life-prolonging Treatment ② CHAPTER14	記事の購読、エッセイ・ライティングを行う。
13	Trusting Statistics CHAPTER15	記事の購読、これまでの総復習を行う。
14	期末試験	試験の実施と解説。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、毎回の授業のために、適宜、辞書をひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。また、講師の指示に従って授業で読んだ英文に関する意見を英文で書いてきてもらうこともありあす。期末試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりすれば確実に得点できるはずですよ。

## 【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント \*授業には必ず辞書を持参してください。

## 【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%・プレゼンテーション 15%・テスト 45%

欠席が 4 回以上になった者は単位取得の資格を失います。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading and writing skills. Students will learn how to write a paragraph and how to organize an essay. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

## 【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

クラス分け後の授業開始は 6 月 4 日です

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をします。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。
2	"Colonialism and Imperialism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Colonialism and Imperialism"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Theories of Colonial Discourses"	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"Theories of Colonial Discourses"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"Reading Orientalism (Part 1)"	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Reading Orientalism (Part 1)"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Reading Orientalism (Part 2)"	割り当てられたグループによる発表。
9	"Reading Orientalism (Part 2)"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History"	精読。割り当てられたグループによる発表。

11	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
12	"The Disenchantment with Nationalism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
13	"The Disenchantment with Nationalism"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
14	"English in the Colonies"	精読。割り当てられたグループによる発表。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバルイゼーションへ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

## 【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）、および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン開講になったので成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

課題含む平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。

病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。また、難解な箇所の説明にも今まで以上に力を入れたいと思います。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to read "post-colonialism" through an introductory book and discuss what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語 1」に引き続いて、ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

## 【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め。
2	"English in the Colonies"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Interrogating the Text"	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Interrogating the Text" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"The 'Double Colonisation' of Women"	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"The 'Double Colonisation' of Women"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Migration, Colonialism and Decolonisation"	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Migration, Colonialism and Decolonisation"(前回の続き)	割り当てられたグループによる発表。
9	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
11	"Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprium? (Part 1)"	精読。割り当てられたグループによる発表。

12	"Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprium? (Part 2)"	精読。割り当てられたグループによる発表。
13	関連する英文記事 (1)	関連する英文記事で新しいものを選んで読み、内容について議論する。
14	関連する英文記事 (2)	関連する英文記事について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバルゼーションへ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

## 【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

課題を含めた平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。

あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。

病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。リスニングのコツについても丁寧に説明するつもりです。

## 【Outline and objectives】

Following the course in the spring term, students will learn how to read "post-colonialism" and what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

## 【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。

この授業で皆さんは、

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面に対応できるようにする
  - ・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
  - ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
  - ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
- ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。

2	Unit 2 (1)	英語はもはや英米人だけのものではない Brits and Americans no longer own English
3	Unit 2 (2)	(前回の続き) World English and World Englishes
4	Unit 3 (1)	なぜ第 5 世代携帯電話は安全ではないのか? Why isn't 5G secure?
5	Unit 3 (2)	(前回の続き) What Is 5G and How Will It Make My Life Better
6	Unit 4 (1)	アフリカにおける中国の優位性は貸付金のおかげ China's edge in Africa: Loans
7	Unit 4 (2)	(前回の続き) Can China dispel criticism of BRI as form of 'debt trap diplomacy'?
8	Unit 6 (1)	花崇拝を止めてコーランに Flower worship gives way to the Quran
9	Unit 6 (2)	(前回の続き) How religion dominates Indonesia's politics
10	Unit 7 (1)	ベネズエラから徒歩で脱出 Fleeing Venezuela, on foot
11	Unit 7 (2)	(前回の続き) The economic crisis in Venezuela
12	Unit 8 (1)	国境での米国の恥 Our Disgrace At the Border
13	Unit 8 (2)	(前回の続き) Border desperation grows. So do smugglers' fees.
14	筆記試験（期末）	単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします）。

具体的には、

・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていきそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

## 【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2020 Edition —（15 章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2020 年度版— ）』、朝日出版社、2020 年、1200 円（税別）

## 【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失いません。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合いっていく契機として活用しましょう。

## 【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

## 【到達目標】

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。

加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的には英語 1 と変わりません。

ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9 (1)	大統領にユダヤ人が選ばれ、心穏やかでないウクライナのユダヤ人 Some Ukraine Jews Are Unhappy a Jew Was Elected President
2	Unit 9 (2)	(前回の続き) Politics in the nations of the former Soviet Union
3	Unit 10 (1)	イラン革命 40 周年でイデオロギーによる日常生活の支配が緩む Revolution at 40: Iranians Loosen Ideology's Grip on Daily Life
4	Unit 10 (2)	(前回の続き) In Iran's Crisis, the Middle Class Buckles in a Blink
5	Unit 11 (1)	ケニアでは足が速いと身を減ぼす In Kenya, running can be a road to ruin
6	Unit 11 (2)	(前回の続き) Kenyan runners' career after retirement

7	Unit 12 (1)	高層アパート崩壊でロシアの背骨にひずみが判明 <b>Strain on Russia's backbone</b>
8	Unit 12 (2)	(前回の続き) <b>Russia is clamping down on rap</b>
9	Unit 13 (1)	フランス人 中国人によるぶどう園の名称変更に恐怖で縮み上がる <b>French cringe as Chinese rename vineyards</b>
10	Unit 13 (2)	(前回の続き) <b>An Italian Luxury Brand Is Drawing Fire in China</b>
11	Unit 15 (1)	ドイツ 高速道路で速度制限か? <b>Speed limit on the autobahn!</b>
12	Unit 15 (2)	(前回の続き) <b>Germany's irrational debate on driving</b>
13	予備日	学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。
14	筆記試験 (期末)	実施の要領は英語 1 の時と同じです。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい(本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします)。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

- ・代名詞が出てきた際に、文中の何(もしくは誰)を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなっていたら、どこかで読み間違えているはずですよ。

- ・もし自分に馴染みのないテーマ(人物、国や地域、スポーツの種類など)を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

#### 【テキスト(教科書)】

高橋優身(他)、『15 Selected Units of English through the News Media — 2020 Edition — (15章版: ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2020年度版—)』、朝日出版社、2020年、1200円(税別)

#### 【参考書】

(皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく)実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』(研究社)です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。(電子辞書にせよ紙媒体にせよ)英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

#### 【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary**と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点を

それなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ(初回授業時に説明)を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積

勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの1年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて1年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

#### 【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

栗飯原 文子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・学期の半ばで、読みたい英文記事を提出してもらい、互いに批評する。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと自己紹介	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。

第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars 新聞を読む② The Asahi Shimbun	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き News in Levels で学ぶ	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き 春学期の復習	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	春学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
- ・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・小テスト・課題の提出 30 %
- ・期末テスト 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

## 【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
- ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

栗飯原 文子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおり、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
- ・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。各自、短いプレゼンテーションをおこなう。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き 新聞を読む② The Japan News	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。

第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き News in Levels で学ぶ、パラグラフ・ライティング②	Unit 11 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティング③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティング④、全体の復習	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ライティングを学ぶ。秋学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	秋学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
- ・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・小テスト・課題の提出 30 %
- ・期末テスト 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるように、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィードバックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

## 【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
  - ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

## 【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	授業の進め方についての説明
2	Chapter1	Chapter1 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
3	Chapter1	前週の復習、内容に関するまとめ
4	Chapter2	Chapter2 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
5	Chapter2	前週の復習、内容に関するまとめ
6	Chapter3	Chapter3 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
7	Chapter3	前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter4	Chapter4 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
9	Chapter4	前週の復習、内容に関するまとめ
10	Chapter5	Chapter5 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
11	Chapter5	前週の復習、内容に関するまとめ
12	Chapter6	Chapter6 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
13	Chapter6	前週の復習、内容に関するまとめ
14	まとめ	Chapter1～6 のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されている映像についての概要を把握する  
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"  
Johnson Cheu 編 國友万裕/安田優 編注（松本恵美 井上裕子  
轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円+税

## 【参考書】

都度指示します

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 30 %

小テスト 50 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない  
・今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

## 【学生の意見等からの気づき】

使用教科書の中での注釈等があまり正しくない箇所が見られた

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

## 【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter7	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
2	Chapter7	前週の復習、内容に関するまとめ
3	Chapter8	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
4	Chapter8	前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter9	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
6	Chapter9	前週の復習、内容に関するまとめ
7	Chapter10	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
8	Chapter10	前週の復習、内容に関するまとめ
9	Chapter11	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
10	Chapter11	前週の復習、内容に関するまとめ
11	Chapter12	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
12	Chapter12	前週の復習、内容に関するまとめ
13	Chapter13	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
14	Chapter13	前週の復習、内容に関するまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する  
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"

Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

## 【参考書】

特に指定なし

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 30 %

小テスト 50 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの中での注釈に不備が散見された

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

## 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目指して学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身につける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開講日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」前半
3	Chapter 1-2 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」後半
4	Chapter 6-1 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」前半
5	Chapter 6-2 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」後半
6	chapter 1,6 のまとめ	chapter 1,6 のまとめと英作文と英作文

- |    |  |                                 |
|----|--|---------------------------------|
| 7  | Chapter 11-1 Saving the Environment: Can one person make a difference?         | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」前半       |
| 8  | Chapter 11-2 Saving the Environment: Can one person make a difference?         | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」後半       |
| 9  | Chapter 16-1 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」前半        |
| 10 | Chapter 16-2 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」後半        |
| 11 | chapter 11,16 のまとめと英作文   | chapter 11,16 のまとめと英作文          |
| 12 | Chapter 2-1 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」前半 |
| 13 | Chapter 2-2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」後半 |
| 14 | まとめと期末テスト  | まとめと期末テスト、解説                    |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進め、chapter ごとに2回、小テストを実施するので、予習・復習に少なくとも1時間をかけて、テキストを読み、わからなかった箇所を見直すこと。小テストは単語の定義を問う問題になるので、英英辞書で単語の定義を調べること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017年, 1,900円+税)

## 【参考書】

英語系辞書

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

## 【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

LANe100LA

## 英語3

2017年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

## 【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に1つのchapterを2回の授業に分けて読む。秋学期は英文を速読に主眼を置く。春学期同様、授業冒頭でテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いてトピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。chapterごとに2回小テストを行なう。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 7-1 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」前半講読
3	Chapter 7-2 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」後半講読
4	Chapter 12-1 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」前半講読
5	Chapter 12-2 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」後半講読

6	Chapter 7.12 のまとめと英作文	Chapter 7,12 のまとめと英作文
7	Chapter 17-1 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」前半講読
8	Chapter 17-2 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」後半講読
9	Chapter 3-1 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」前半講読
10	Chapter 3-2 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」後半講読
11	Chapter 17,3 のまとめと英作文	Chapter 17,3 のまとめと英作文
12	Chapter 8-1 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」前半講読
13	Chapter 8-2 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回、小テストを実施するので、予習・復習に少なくとも 1 時間をかけて、テキストを読み、わからなかった箇所を見直すこと。

小テストは単語の定義を問う問題になるので、英英辞書で単語の定義を調べること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円+税)

**【参考書】**

英語系辞書

**【成績評価の方法と基準】**

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

**【Outline and objectives】**

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

## 【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合がありますが、グループやペアワークで確認してもらい場合が多いのでしっかり予習しましょう。

基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回の授業が終了した次の回で復習のための小テストを行います。学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。  
※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブイトやアプリケーションの紹介	PC を利用した演習
3	Security Cameras ① CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
4	Security Cameras ② CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	CHAPTER 2 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
6	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認

7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Extreme Sports ① CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
9	Extreme Sports ② CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
10	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	CHAPTER 6 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
11	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
12	Spouse Hunting ① CHAPTER 8	CHAPTER 7 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
13	Spouse Hunting ② CHAPTER 8	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

\*授業には必ず辞書を持参してください。

## 【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ/ペアワークへの参加）15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、スピーキングのアクティビティも適宜取り入れます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will review and reinforce English vocabulary, pronunciation, and grammar they learned in high school. Students will also learn how to read passages of multiple paragraphs without using a dictionary, guessing the meanings of unknown words from the context.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。そのためには、より多くの語彙を身につけ、英文の構成をすばやく把握する力が必要となります。また、Topic Sentence, Supporting Sentence などパラグラフ構造の基礎を学ぶことで、長文の要点を効率よく理解し、適切に内容を要約する力を身につけます。授業の後半では、テキストで扱われるトピックを参考に、自分自身の意見や論を短い英文にまとめるパラグラフ・ライティングの練習も行います。

## 【到達目標】

- ①長文の英語を正確にかつ速く読み取る力をつける。
- ②比較的易しい時事英語を読解するために必要な語彙力をつける。
- ③リーディング力を強化する過程で、常に発音やリスニングにも意識を向けることを習慣化する。
- ④ Topic Sentence, Supporting Sentence などパラグラフ構造の基礎を習得し、要約やパラグラフ・ライティングができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

現代の社会問題をテーマにしたテキストを用いながら、時事英語の長文を読み進めていきます。その際、自分の意見を分かりやすく他者に伝えるためにはどのような単語を使い、どのように文章（英文）を構成すれば良いのかということも考えながら読んでいきます。特にこのテキストでは、賛否両論ある様々なトピックスについて書かれているので、自分自身の考えと比較しながら読み進めてみましょう。英語 1 に引き続き、授業では文章の内容、文法事項、語彙、発音などを確認し、グループやペアワークなども行うので、毎週の予習はしっかりしましょう。また、語彙力を強化するために単語テストを定期的に行いますので、80%以上の得点を目指してください。※進度や各回の具体的な内容は、学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明 長文英語の文章構成とは①
第 2 回	Chapter 11	Driverless Cars 長文英語の文章構成とは②
第 3 回	Chapter 11	Driverless Cars リーディング、要点を把握する
第 4 回	Chapter 11	Driverless Cars リーディング、演習
第 5 回	Chapter 12	The Lay-Judge System in Japan リーディング、要点を把握する
第 6 回	Chapter 12	The Lay-Judge System in Japan リーディング、演習
第 7 回	中間試験	試験の実施、解説、復習
第 8 回	Chapter 13	Artificial Intelligence リーディング、要点を把握する

第 9 回	Chapter 13	Artificial Intelligence リーディング、要約
第 10 回	Chapter 14	Life-prolonging Treatment リーディング、要約
第 11 回	Chapter 14	Life-prolonging Treatment リーディング、自分の意見を表現する
第 12 回	Chapter 15	Trusting Statistics リーディング、要約
第 13 回	Chapter 15	Trusting Statistics リーディング、自分の意見を表現する
第 14 回	期末試験	試験の実施、解説、復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。日々の積み重ねは必ず自分の力になりますので、単位を取るためだけに受講（学習）するのではなく、将来の自分のために学習を習慣化し、自分に合った学習法を体得しましょう。

## 【テキスト（教科書）】

(Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

※授業には必ず辞書を持参してください

## 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献 (15%)、小テスト (15%)、中間・期末試験 (70%)

## 【学生の意見等からの気づき】

初回のため特になし

## 【その他の重要事項】

遅刻 3 回で欠席 1 回に相当。欠席回数が 4 回以上で単位習得は不可となります。

## 【Outline and objectives】

The goal of the course is to develop students' ability to read long articles, to understand the main points more quickly, and to write English sentences to express their opinions more easily. Course activities will include pair work, group work and classroom discussions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

## 【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

クラス分け後の授業開始は 6 月 4 日です

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。
2	"Colonialism and Imperialism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Colonialism and Imperialism" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Theories of Colonial Discourses"	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"Theories of Colonial Discourses" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"Reading Orientalism (Part 1)"	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Reading Orientalism (Part 1)" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Reading Orientalism (Part 2)"	割り当てられたグループによる発表。
9	"Reading Orientalism (Part 2)" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History"	精読。割り当てられたグループによる発表。

11	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
12	"The Disenchantment with Nationalism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
13	"The Disenchantment with Nationalism" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
14	"English in the Colonies"	精読。割り当てられたグループによる発表。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバリゼーションへ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

## 【参考書】

『リダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン開講になったので成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

課題含む平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。

欠席も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。また、難解な箇所の説明にも今まで以上に力を入れたいと思います。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to read "post-colonialism" through an introductory book and discuss what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語 1」に引き続いて、ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

## 【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め。
2	"English in the Colonies"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Interrogating the Text"	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Interrogating the Text"（前回の続き）	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"The 'Double Colonisation' of Women"	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"The 'Double Colonisation' of Women"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Migration, Colonialism and Decolonisation"	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Migration, Colonialism and Decolonisation"(前回の続き)	割り当てられたグループによる発表。
9	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
11	"Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprium? (Part 1)"	精読。割り当てられたグループによる発表。

12	"Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprium? (Part 2)"	精読。割り当てられたグループによる発表。
13	関連する英文記事 (1)	関連する英文記事で新しいものを選んで読み、内容について議論する。
14	関連する英文記事 (2)	関連する英文記事について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバル化へ』, John McLeod, 木村茂雄他編注（英宝社, 2015）。

## 【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

課題を含めた平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。

あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。

病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。リスニングのコツについても丁寧に説明するつもりです。

## 【Outline and objectives】

Following the course in the spring term, students will learn how to read "post-colonialism" and what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

## 【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。

この授業で皆さんは、

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面に対応できるようにする
  - ・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
  - ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
  - ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
- ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。

2	Unit 2 (1)	英語はもはや英米人だけのものではない Brits and Americans no longer own English
3	Unit 2 (2)	(前回の続き) World English and World Englishes
4	Unit 3 (1)	なぜ第 5 世代携帯電話は安全ではないのか? Why isn't 5G secure?
5	Unit 3 (2)	(前回の続き) What Is 5G and How Will It Make My Life Better
6	Unit 4 (1)	アフリカにおける中国の優位性は貸付金のおかげ China's edge in Africa: Loans
7	Unit 4 (2)	(前回の続き) Can China dispel criticism of BRI as form of 'debt trap diplomacy'?
8	Unit 6 (1)	花崇拝を止めてコーランに Flower worship gives way to the Quran
9	Unit 6 (2)	(前回の続き) How religion dominates Indonesia's politics
10	Unit 7 (1)	ベネズエラから徒歩で脱出 Fleeing Venezuela, on foot
11	Unit 7 (2)	(前回の続き) The economic crisis in Venezuela
12	Unit 8 (1)	国境での米国の恥 Our Disgrace At the Border
13	Unit 8 (2)	(前回の続き) Border desperation grows. So do smugglers' fees.
14	筆記試験（期末）	単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします）。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

- ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

- ・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

## 【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2020 Edition —（15 章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2020 年度版— ）』、朝日出版社、2020 年、1200 円（税別）

## 【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失いません。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

## 【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

## 【到達目標】

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。

加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的には英語 1 と変わりません。

ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9 (1)	大統領にユダヤ人が選ばれ、心穏やかでないウクライナのユダヤ人 Some Ukraine Jews Are Unhappy a Jew Was Elected President
2	Unit 9 (2)	（前回の続き） Politics in the nations of the former Soviet Union
3	Unit 10 (1)	イラン革命 40 周年でイデオロギーによる日常生活の支配が緩む Revolution at 40: Iranians Loosen Ideology's Grip on Daily Life
4	Unit 10 (2)	（前回の続き） In Iran's Crisis, the Middle Class Buckles in a Blink
5	Unit 11 (1)	ケニアでは足が速いと身を減ぼす In Kenya, running can be a road to ruin
6	Unit 11 (2)	（前回の続き） Kenyan runners' career after retirement

7	Unit 12 (1)	高層アパート崩壊でロシアの背骨にひずみが判明 <b>Strain on Russia's backbone</b>
8	Unit 12 (2)	(前回の続き) <b>Russia is clamping down on rap</b>
9	Unit 13 (1)	フランス人 中国人によるぶどう園の名称変更に恐怖で縮み上がる <b>French cringe as Chinese rename vineyards</b>
10	Unit 13 (2)	(前回の続き) <b>An Italian Luxury Brand Is Drawing Fire in China</b>
11	Unit 15 (1)	ドイツ 高速道路で速度制限か? <b>Speed limit on the autobahn!</b>
12	Unit 15 (2)	(前回の続き) <b>Germany's irrational debate on driving</b>
13	予備日	学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行いません。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。
14	筆記試験 (期末)	実施の要領は英語 1 の時と同じです。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい(本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします)。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

- ・代名詞が出てきた際に、文中の何(もしくは誰)を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなっていたら、どこかで読み間違えているはずですよ。

- ・もし自分に馴染みのないテーマ(人物、国や地域、スポーツの種類など)を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

#### 【テキスト (教科書)】

高橋優身(他)、『15 Selected Units of English through the News Media — 2020 Edition — (15章版: ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2020年度版—)』、朝日出版社、2020年、1200円(税別)

#### 【参考書】

(皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく)実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』(研究社)です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。(電子辞書にせよ紙媒体にせよ)英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

#### 【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summaryと記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ(初回授業時に説明)を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの1年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて1年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

#### 【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

栗飯原 文子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・学期の半ばで、読みたい英文記事を提出してもらい、互いに批評する。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。

第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars 新聞を読む② The Asahi Shimbun	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の 続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き News in Levels で学ぶ	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き 春学期の復習	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	春学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
- ・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・小テスト・課題の提出 30 %
- ・期末テスト 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

## 【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
- ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

栗飯原 文子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおり、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

## 【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
- ・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。各自、短いプレゼンテーションをおこなう。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き 新聞を読む② The Japan News	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。

第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き News in Levels で学ぶ、パラグラフ・ライティング②	Unit 11 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティング③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティング④、全体の復習	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ライティングを学ぶ。秋学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	秋学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
- ・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・小テスト・課題の提出 30 %
- ・期末テスト 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるように、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィードバックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

## 【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
  - ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

## 英語 1

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

## 【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	授業の進め方についての説明
2	Chapter1	Chapter1 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
3	Chapter1	前週の復習、内容に関するまとめ
4	Chapter2	Chapter2 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
5	Chapter2	前週の復習、内容に関するまとめ
6	Chapter3	Chapter3 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
7	Chapter3	前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter4	Chapter4 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
9	Chapter4	前週の復習、内容に関するまとめ
10	Chapter5	Chapter5 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
11	Chapter5	前週の復習、内容に関するまとめ
12	Chapter6	Chapter6 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
13	Chapter6	前週の復習、内容に関するまとめ
14	まとめ	Chapter1～6 のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する  
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"  
Johnson Cheu 編 國友万裕/安田優 編注（松本恵美 井上裕子  
轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円+税

## 【参考書】

都度指示します

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 30 %

小テスト 50 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない  
・今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの注釈等に不備が散見された

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

## 英語 3

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

## 【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題性について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter7	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
2	Chapter7	前週の復習、内容に関するまとめ
3	Chapter8	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
4	Chapter8	前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter9	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
6	Chapter9	前週の復習、内容に関するまとめ
7	Chapter10	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
8	Chapter10	前週の復習、内容に関するまとめ
9	Chapter11	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
10	Chapter11	前週の復習、内容に関するまとめ
11	Chapter12	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
12	Chapter12	前週の復習、内容に関するまとめ
13	Chapter13	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読
14	Chapter13	前週の復習、内容に関するまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する  
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"

Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

## 【参考書】

特に指定なし

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 30 %

小テスト 50 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの注釈に不備が散見されたので適宜こちらで補足します

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to enable students to develop and expand their overall communication skills with an emphasis on spoken and listening English. In addition, students will be given an opportunity to develop their writing skills within the context of the course material

## 【到達目標】

Students will practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing. It is hoped that the study of practical and topical materials will encourage students to become more independent language learners and users.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and speaking practice. Students will have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be opportunities for students to practice their reading, writing and analytical skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Introduction
2	Unit 1 - People & Places	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 1 - Communication	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussions
4	Unit 1 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz;
5	Introduction to Writing Activities	Introduction of Key Concepts; Organization
6	Unit 2 - The Mind	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
7	Unit 2 - Communication	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
8	Unit 2 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
9	Introduction of Paragraph Components	Analysing Topic sentences with Controlling Ideas
10	Unit 3 - Planet	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes

11	Unit 3 - Communication	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
12	Unit 3 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz;
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review classwork and prepare for next class (1.5 hours)

Specific homework exercises (1 hour)

Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class (1.5 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase

Heinle Cengage Learning

Reader: Spring - Desert, Mountain Sea by Sue Leather Oxford

## 【参考書】

Good Dictionary

## 【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 20%

In Class Quizzes 40%

Final Exams 40%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Introduced new text with topical themes for discussion and writing

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Due to the ongoing Covid 19 crisis the above schedule will be subject to change. Initially, teaching will be conducted online and the content and grading system will take this into account. Once the normal teaching environment has been restored we shall return to the above syllabus

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to expand and develop students' overall communication skills by building on the themes and techniques introduced in English 2. There will be an increased emphasis on writing and discussion in this part of the course.

## 【到達目標】

Students will continue to practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing.

Students will be expected to show a greater understanding of structure, logic and grammatical correctness in their speaking, listening and writing activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and discussion practice. Students will also have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be more in depth opportunities for students to practice their reading and writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Term and Goals Introduction	New Reader Introduction Writing Review
2	Unit 4 - Money	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 4 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
4	Unit 4 - Themed Reading & Listening	Video Journal; Discussion Topics Quiz
5	Writing - Building Paragraphs	Analysing Supporting Sentences for Unity and Relevance; Using Transitions
6	Unit 5 - Survival	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
7	Unit 5 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
8	Unit 5 - Themed Reading & Listening	Video Journal; Discussion Topics Quiz
9	Writing - Planning Paragraphs	Developing an Outline and Editing
10	Timed Writing Practice	In Class Writing on Selected Topic

11	Unit 6 - Art	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
12	Unit 6 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review classwork and prepare for next class (1.5 hours)

Specific homework exercises (1 hour)

Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class (1.5 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase

Heinle Cengage Learning

Reader Fall: Nelson Mandela by Rowena Akinyemi

Oxford

## 【参考書】

Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 20%

In Class Quizzes 40%

Final Exams 40%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Updated to include a larger writing component

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Above schedule is subject to review

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

## 【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations
第 8 回	childhood experiences	paper: write about several of your favorite childhood experiences.

第 9 回	traveling	A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to B. Work on presentations.
第 10 回	final group presentation preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.
第 11 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 12 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 13 回	get ready	paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40% Papers = 35% Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

## 【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.

第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	paper: open topic (student choice)
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会 (¥2,200)

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

## ジョナサン・エーブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

## 【到達目標】

The goal of this course is to give the student confidence in their practical English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

The emphasis is on confidence building through practise.

Students will be given varied opportunities to communicate in English with each other and the teacher.

A textbook covering all the English language skills provides an anchor for studies, but extensive extra materials will also be used.

Students will give small-group presentations in class in the middle of the semester on topics relevant to study abroad.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Familiarising with the course and teacher.
2	Self-introduction	How to present yourself in class and outside.
3	Language	Looking at the English language and its place in the world.
4	Numbers	A variety of uses for numbers and how we express them.
5	Locations	How to explain and use locations from small to global.
6	Time	The various expressions and importance of time.
7	Preparation for presentations	Topics, group formation and planning for the following week.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	Relationships	Exploring family and other relationships across cultures.
10	Animals	A different set of relationships.
11	Home	Where we live and how it compares with other cultures.
12	Food	What we eat, why and how we eat it.
13	Sport	What, How and Why we play.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Global Intermediate. MacMillan Pub.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation : 20%

Final interview test 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【Outline and objectives】

Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エーブル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

## 【到達目標】

The goal is to achieve confident communication across cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

In these classes students will address the wider world, communicating their own opinions and responding to those of others.

Continuing with the same basic text we will also use other media from host countries to explore daily life and cultural context.

There will be small-group presentations in class.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course content including writing example.
2	Entertainment	Movies, TV, Games and how we use them.
3	News	How we get our news. Writing week.
4	Work	Jobs in Japan and across the world.
5	Skills	What we can and can't do. Writing week.
6	Education	Learning in different cultures.
7	Presentation preparation	Forming groups, choosing topics and planning for next class.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	People	Examining how we feel about particular people. Writing week.
10	Weather	The seasons and weather as cultural phenomena.
11	Travelling	Good and bad experiences. Writing week.
12	Life events	Examining rites of passage.
13	Life on earth	Discussing nature. Writing week.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Global Intermediate. MacMillan Pub.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation : 20%

Final interview test 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【Outline and objectives】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

## 【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

< This class will start from June 1. Detailed schedule and method will be put up on the Class Support System (学習支援システム). > Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills—reading, writing, listening and speaking—although the main focus will be on the latter three.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	How to relate a certain topic
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation

13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 90 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given in class.

## 【テキスト (教科書)】

Materials will be provided in class or posted on the Class Support System.

## 【参考書】

Reference books and material will be suggested by instructor as needed.

## 【成績評価の方法と基準】

< Since classes will be given on-line for at least half of the semester, there will be changes in the grading criteria. Details will be put up on the Class Support System (学習支援システム). >

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

## 【到達目標】

Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation

13	Culture (3)	What is “intercultural communication”?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 90 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the Class Support System.

## 【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

## 【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

## IMPORTANT UPDATE:

Please check the Hosei Learning Management System (HOP-PII) for this class to get the updated information regarding the online classes.

習熟度別クラス編成の遅れにより、このクラスでの授業開始は 5 月 30 日（土）からとなります。The starting date of this class has been delayed until May 30, 2020 due to the delayed online use of the ELPA a Test.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

## 【参考書】

English to English dictionary:  
<https://dictionary.cambridge.org/>  
 Further references will be provided by the instructor during the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

## IMPORTANT UPDATE:

Please check the Hosei Learning Management System (HOP-PII) for this class to get the updated information regarding the online classes and grading criteria.

習熟度別クラス編成の遅れにより、このクラスでの授業開始は 5 月 30 日（土）からとなります。

The starting date of this class has been delayed until May 30, 2020 due to the delayed online use of the ELPA a Test.

**【学生の意見等からの気づき】**

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

**【学生が準備すべき機器他】**

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

**【その他の重要事項】**

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

**【Outline and objectives】**

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

**英語 4**

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Learning English for active communication in the international environment

**【到達目標】**

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion	<b>【その他の重要事項】</b> The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation	<b>【Outline and objectives】</b> Learning English for active communication in the international environment
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past	
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review	
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't	
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)	
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

**【参考書】**

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

**【成績評価の方法と基準】**

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

## ヴァイチャート ロビン フランク

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	3A Trip Aside	be going to, airports.
7	3C Word games	defining relative clauses, paraphrasing.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.
11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.

14 6C The meaning of review of verb forms, modifiers, dreaming

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook/Paper and writing utensils.

【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

## ヴァイハート ロビン フランク

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/paper and writing utensils.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to enable students to develop and expand their overall communication skills with an emphasis on spoken and listening English. In addition, students will be given an opportunity to develop their writing skills within the context of the course material

## 【到達目標】

Students will practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing. It is hoped that the study of practical and topical materials will encourage students to become more independent language learners and users.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and speaking practice. Students will have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be opportunities for students to practice their reading, writing and analytical skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Introduction
2	Unit 1 - People & Places	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 1 - Communication	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussions
4	Unit 1 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz;
5	Introduction to Writing Activities	Introduction of Key Concepts; Organization
6	Unit 2 - The Mind	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
7	Unit 2 - Communication	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
8	Unit 2 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
9	Introduction of Paragraph Components	Analysing Topic Sentences with Controlling Ideas
10	Unit 3 - Planet	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes

11	Unit 3 - Communication	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
12	Unit 3 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz;
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review classwork and prepare for next class (1.5 hours)

Specific homework exercises (1 hour)

Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class (1.5 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase

Heinle Cengage Learning

Reader: Spring - Desert, Mountain Sea by Sue Leather Oxford

## 【参考書】

Good Dictionary

## 【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 20%

In Class Quizzes 40%

Final Exams 40%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Introduced new text with topical themes for discussion and writing

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Due to the ongoing Covid 19 crisis the above schedule will be subject to change. Initially, teaching will be conducted online and the content and grading system will take this into account. Once the normal teaching environment has been restored we shall return to the above syllabus

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to expand and develop students' overall communication skills by building on the themes and techniques introduced in English 2. There will be an increased emphasis on writing and discussion in this part of the course.

## 【到達目標】

Students will continue to practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing.

Students will be expected to show a greater understanding of structure, logic and grammatical correctness in their speaking, listening and writing activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and discussion practice. Students will also have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be more in depth opportunities for students to practice their reading and writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Term and Goals Introduction	New Reader Introduction Writing Review
2	Unit 4 - Money	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 4 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
4	Unit 4 - Themed Reading & Listening	Video Journal; Discussion Topics Quiz
5	Writing - Building Paragraphs	Analysing Supporting Sentences for Unity and Relevance; Using Transitions
6	Unit 5 - Survival	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
7	Unit 5 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
8	Unit 5 - Themed Reading & Listening	Video Journal; Discussion Topics Quiz
9	Writing - Planning Paragraphs	Developing an Outline and Editing
10	Timed Writing Practice	In Class Writing on Selected Topic

11	Unit 6 - Art	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
12	Unit 6 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review classwork and prepare for next class (1.5 hours)

Specific homework exercises (1 hour)

Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class (1.5 hours) 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase

Heinle Cengage Learning

Reader Fall: Nelson Mandela by Rowena Akinyemi  
Oxford

## 【参考書】

Dictionary required

## 【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 20%

In Class Quizzes 40%

Final Exams 40%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

## 【学生の意見等からの気づき】

Updated to include a larger writing component

## 【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

## 【その他の重要事項】

Above schedule is subject to review

## 【Outline and objectives】

The objectives of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

## 【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations
第 8 回	childhood experiences	paper: write about several of your favorite childhood experiences.

第 9 回	traveling	A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to B. Work on presentations.
第 10 回	final group presentation preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.
第 11 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 12 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 13 回	get ready	paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会 (¥2,200)

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

## 【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.

第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	paper: open topic (student choice)
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト (教科書)】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会 (¥2,200)

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for active communication in the international environment

## 【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

## IMPORTANT UPDATE:

Please check the Hosei Learning Management System (HOP-PII) for this class to get the updated information regarding the online classes.

習熟度別クラス編成の遅れにより、このクラスでの授業開始は 5 月 30 日 (土) からとなります。

The starting date of this class has been delayed until May 30, 2020 due to the delayed online use of the ELPA a Test.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

## 【テキスト (教科書)】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

## 【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

## IMPORTANT UPDATE:

Please check the Hosei Learning Management System (HOP-PII) for this class to get the updated information regarding the online classes and grading criteria.

習熟度別クラス編成の遅れにより、このクラスでの授業開始は 5 月 30 日 (土) からとなります。

The starting date of this class has been delayed until May 30, 2020 due to the delayed online use of the ELPA a Test.

## 【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

**【学生が準備すべき機器他】**

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

**【その他の重要事項】**

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

**【Outline and objectives】**

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

**英語 4**

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Learning English for active communication in the international environment

**【到達目標】**

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion	<b>【その他の重要事項】</b> The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation	<b>【Outline and objectives】</b> Learning English for active communication in the international environment
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past	
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review	
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't	
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)	
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

**【テキスト（教科書）】**

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

**【参考書】**

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

**【成績評価の方法と基準】**

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

## ヴァイハート ロビン フランク

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	3A Trip Aside	be going to, airports.
7	3C Word games	defining relative clauses, paraphrasing.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.
11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.

14 6C The meaning of review of verb forms, modifiers, dreaming

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook/Paper and writing utensils.

【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

## ヴァイチャート ロビン フランク

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/paper and writing utensils.

## 【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Communication and academic skills in English

## 【到達目標】

Through this course students will develop greater confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn the following:

- 1) many vocabulary items
- 2) effective use of dictionaries
- 3) basics of effective oral communication
- 4) basics of group discussion
- 5) basics of group presentation
- 6) basic rules of email writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include pair and group work based on short reading or audio-visual materials on current affairs and cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation, getting to know each other, needs analysis
2	Basics of communication 1	Basic rules of oral communication 1; communicative activities; vocabulary work & quiz 1
3	Basics of communication 2	Basic rules of oral communication 2; communicative activities; vocabulary work & quiz 2
4	Basics of communication 3	Basic rules of oral communication 3; communicative activities; vocabulary work & quiz 3
5	Basics of group discussion 1	Basic rules of group discussion; group discussion based on the reading material; vocabulary work & quiz 4
6	Basics of group discussion 2	Group discussion 2; vocabulary work & quiz 5
7	Basics of group discussion 3	Group discussion 3; vocabulary work & quiz 6
8	Basics of group presentations 1	Basic rules of good presentations; vocabulary work & quiz 7

9	Basics of group presentations 2	Preparation for group presentations 1; vocabulary work & quiz 8
10	Group presentations	Group presentations; peer-evaluation
11	Reflection on group presentations	Self-evaluation and reflection; vocabulary work & quiz 9
12	Basics of email writing	Basic rules of email writing; vocabulary work & quiz 10
13	Recap of the semester	Basic rules of oral communication; basic rules of group discussion; basic rules of group presentation; basic rules of email writing; vocabulary work & quiz 11
14	Recap of the semester & student feedback	Recap of the semester; student feedback; vocabulary work & quiz 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to do homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials will be provided by the instructor. Students are recommended to have an A4 folder/file to store the materials.

## 【参考書】

Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

## 【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 35%

Homework and quizzes: 40%

Presentation: 25%

Please note that attendance and participation are \*extremely\* important. Any student who misses more than 3 classes without a reasonable excuse will be automatically dropped from the class. Please also note that students are responsible for obtaining the homework assignments and handout materials when they are absent by contacting other students, and for coming back to class in the following week with the homework and preparation done.

## 【学生の意見等からの気づき】

Do your best, and you will be happily surprised to see how much you have improved!

## 【学生が準備すべき機器他】

Sometimes important announcements will be distributed via \*Jugyo Shien System\*. Students are required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations.

## 【Outline and objectives】

Communication and academic skills in English

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

佐藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Communication and academic skills in English

## 【到達目標】

Students will develop greater confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn the following:

- 1) many vocabulary items
- 2) effective use of dictionaries
- 3) basics of English pronunciation
- 4) basics of listening
- 5) basics of effective individual presentation
- 6) basics of academic writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include group discussion and presentations based on short reading or audio-visual materials on current affairs and cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Welcome back to class (communicative activities); plans for the semester
2	Basics of pronunciation	Basic rules of pronunciation (phonetic alphabet, pronunciation activities); vocabulary work & quizzes
3	Listening & note-taking skills 1	Basic rules of listening & note-taking 1 (listening activities); vocabulary work & quizzes
4	Listening & note-taking skills 2	Basic rules of listening & note-taking 2 (listening activities); vocabulary work & quizzes
5	Basics of writing 1; individual presentations 1	Basic rules of writing 1: choosing the topic, brain-storming, plagiarism; vocabulary work & quizzes; individual presentations 1
6	Basics of writing 2; individual presentations 2	Basic rules of writing 2: doing research & acknowledging the sources; vocabulary work & quizzes; individual presentations 2

7	Basics of writing 3; individual presentations 3	Basic rules of writing 3: referencing; vocabulary work & quizzes; individual presentations 3
8	Basics of writing 4; individual presentations 4	Basic rules of writing 3: organisation & signposting; vocabulary work & quizzes; individual presentations 4
9	Basics of writing 5; individual presentations 5	Basic rules of writing 5: careful language, editing skill 1; vocabulary work & quizzes; individual presentations 5
10	Basics of writing 6; individual presentations 6	Basic rules of writing 6: editing skill 2; vocabulary work & quizzes; individual presentations 6
11	Basics of writing 7; individual presentations 7	Basic rules of writing 7: editing skill 3; vocabulary work & quizzes; individual presentations 7
12	Basics of writing 8; individual presentations 8	Basic rules of writing 8: editing skill 4; vocabulary work & quizzes; individual presentations 8
13	Basics of writing 9; individual presentations 9	Basic rules of writing 9: final editing; vocabulary work & quizzes; individual presentations 9
14	Recap of the semester & student feedback	Recap of the semester; student feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to do homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials will be provided by the instructor. Students are recommended to have an A4 folder/file to store the materials.

## 【参考書】

Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

## 【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 40%

Presentation and essay: 40%

Please note that attendance and participation are \*extremely\* important. Any student who misses more than 3 classes without a reasonable excuse will be automatically dropped from the class. Please also note that students are responsible for obtaining the homework information and handout materials when they are absent by contacting other students, and for coming back to class in the following week with the homework and preparation done.

## 【学生の意見等からの気づき】

Do your best, and you will be happily surprised to see how much you have improved and achieved!

## 【学生が準備すべき機器他】

Sometimes important announcements will be distributed via \*Jugyo Shien System\*. Students are required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and word-processing software (e.g. Word) for the written assignments.

## 【Outline and objectives】

Communication and academic skills in English

LANe100LA

## 英語 2

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

## 【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

< This class will start from June 1. Detailed schedule and method will be put up on the Class Support System (学習支援システム). >

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills—reading, writing, listening and speaking—although the main focus will be on the latter three.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	How to relate a certain topic
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation

13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 90 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given in class.

## 【テキスト (教科書)】

Materials will be provided in class or posted on the Class Support System.

## 【参考書】

Reference books and material will be suggested by instructor as needed.

## 【成績評価の方法と基準】

< Since classes will be given on-line for at least half of the semester, there will be changes in the grading criteria. Details will be put up on the Class Support System (学習支援システム). >

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

## 英語 4

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

## 【到達目標】

Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation

13	Culture (3)	What is “intercultural communication”?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 90 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the Class Support System.

## 【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

## 【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

## 英語 5

2017 年度以降入学者

## トビー トラブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for communicating in a global society.

## 【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	handout discussion activities Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Environmental Issues Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Technology: Friend or Foe Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Unit 2 Political Refugees Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Protests and dissent Research report/ mini- Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Music and Art Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary. <b>【その他の重要事項】</b> This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course. This syllabus is subject to revision, and likely will change based on the students' needs, and topics will be based on relevant social issues of the moment. Quizzes are not testing your English ability, but on the content of the course. <b>【Outline and objectives】</b> This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.
11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment. Tips for the Quiz	
13	Meritocracy and Theocracy Quiz Song lesson	Quiz Song lesson	
14	Wrap-up	Go over quiz Speaking activity	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

There is no textbook. Handouts will be given in class.

**【参考書】**

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

**【成績評価の方法と基準】**

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations:60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not applicable

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## トビー トラブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

## 【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Homelessness Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Art and War Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

4	Human Compassion Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Is telling lies bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Immigration good, or bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	How neighborhoods happen. Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Rules versus freedom Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Japan surveillance state. Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

10	Fabulous Japan Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	<b>【Outline and objectives】</b> This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.
11	Christmas and holidays. 5 Powerpoints due Christmas/holiday comprehension skill building activity. Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
12	Presentation Day.	Tips for the Quiz	
13	Song lesson My Winter break Pandemics	Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.	
14	Big quiz	Quiz Games Puzzle	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are given a writing assignment almost every week. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

There is no textbook. Handouts will be given in class.

**【参考書】**

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

**【成績評価の方法と基準】**

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations: 60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

**【学生の意見等からの気づき】**

Not applicable

**【学生が準備すべき機器他】**

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

**【その他の重要事項】**

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

LANe100LA

## 英語 5

2017 年度以降入学者

## ラスカイル・ハウザー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5: Academic writing and presentation skills.

## 【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.

13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None

## 【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

None

## 【Outline and objectives】

English 5: Academic writing and presentation skills.

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## ラスカイル・ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

## 【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.

13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None

## 【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

None

## 【Outline and objectives】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

LANe100LA

## 英語 5

2017 年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This class will start on Friday, May 8, 2020 in its regularly scheduled period using the online HOPPII Learning Management System. Students should try to self-register into the student class roster in HOPPII Learning Management System.

The class will be conducted online using the HOPPII Learning Management System until further notice. The HOPPII System will be used as the initial meeting point and communication platform, but students will be expected to branch out and use other technology platforms and/or websites as the course progresses.

For the first part of this semester you will work from home. The lessons are posted on the university website: HOPPII. We will use poetry, songs, animation and YouTube videos. Later, in the classroom, you will work in pairs, groups and with the class. To succeed you will be required to read, speak, listen and write.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Owl and the Pussy Cay. Exploring the world of enchantment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
2	The unicorn. A delightful song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
3	Standing in the Doorway Exploring the feelings of loss.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
4	The Princess Bride. Story telling.	Through this delightful movie we will explore different kinds of love. An essay will be required.
5	I Will Rise. Exploring the language of empowerment.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.

6	Everybody Knows. The power of song.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
7	On the Road to Mandalay Exploring memories.	Listening, reading, speaking and research. You will be asked to write a short poem and an essay.
8	Getting into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

This class will start on Friday, May 8, 2020 in its regularly scheduled period using the online HOPPII Learning Management System. Students should try to self register into the student class roster in HOPPII Learning Management System.

The class will be conducted online using the HOPPII Learning Management System until further notice. The HOPPII System will be used as the initial meeting point and communication platform, but students will be expected to branch out and use other technology platforms and/or websites as the course progresses.

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed. 今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【学生が準備すべき機器他】

You will need access to the Internet.

## 【その他の重要事項】

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

We will work on integrating these skills. You will be working in pairs, in groups and with the class using a wide range of materials.

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## フィル ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will continue to work on your speaking, listening, reading and writing to help you feel more comfortable using English.

## 【到達目標】

To help you feel more confident when expressing yourself in simple everyday English and to give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?.
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework. You should be prepared to produce written assignments and review all work covered in the class. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

No textbook required.

## 【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%. Essays 60%

As a general rule, if you fail to submit four assignments or more, including the ones assigned between April 21 and May 29, you will lose your rights to be awarded credits.

In principle no more than 3 absences per semester are allowed.

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います

## 【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

## 【学生が準備すべき機器他】

You will need access to the Internet.

## 【その他の重要事項】

Please note that things may change so stay in touch with the university web site. Lesson order may change.

## 【Outline and objectives】

Continue to work on integrating these skills using a wide range of materials.

LANe100LA

## 英語 5

2017 年度以降入学者

## ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

## 【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents Presentation preparation-structure	gay issues, coming out Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families Presentation preparation - physical elements	splitting time with parents body language and voice
Week 8	Errands Presentation preparation-visual elements I	errands and chores slide backgrounds
week 9	Neighborhoods Presentation preparation- visual elements II	suburban, countryside, metro slide fonts
week 10	Parties types Presentation preparation script practice	types- wedding, house warming, birthday, showers using a script to speak
week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes

week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition  
978-1-3056-4774-9

## 【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 34%

Homework 33%

Group Presentation 33%

## 【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

## 【その他の重要事項】

No comment

## 【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

## 【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage
week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech

week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition  
978-1-3056-4774-9

## 【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 34%

Homework 33%

Group presentation 33%

## 【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

## 【その他の重要事項】

No comment

## 【Outline and objectives】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

## 英語 5

2017 年度以降入学者

マーク・フィールド

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

## 【到達目標】

The goal of the course is to develop students' receptive (listening and reading) and interactive (speaking and writing) abilities by learning techniques and strategies that help students relate ideas to personal experiences, respond to texts and photos, and synthesize information to overcome limitations. Course content will include extensive reading, listening and vocabulary development, as well as, extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This class will start on Friday, April 24, 2020 in its regularly scheduled period using the online HOPPII Learning Management System. Students should try to self-register into the class student roster using the Romanized version (ローマ字) of their Given and Family names and their university email address.

The class will be conducted online using the HOPPII Learning Management System until further notice. The HOPPII System will be used as the initial meeting point and communication platform, but students will be expected to branch out and use other technology platforms and/or websites as the course progresses.

The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, prepare weekly homework assignments, and review lessons at home.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Requirements of the all-English Classroom
2 回	Introductory Strategy:	When in Doubt Ask the Instructor
3 回	Happiness Part 1:	Understanding Meaning from Context
4 回	Happiness Part 2:	Analyzing and Discussing Information
5 回	Happiness Part 3:	Paragraph Writing
6 回	Inventive Solutions Part 1:	Identifying Key Ideas

7 回	Inventive Solutions Part 2:	Identifying Part of Speech from Context
8 回	Inventive Solutions Part 3:	Writing a Descriptive Paragraph
9 回	Connected Lives Part 1:	Skimming for Gist
10 回	Connected Lives Part 2:	Interpreting Maps
11 回	Connected Lives Part 3:	Writing an Opinion Paragraph
12 回	Saving Our Seas Part 1:	Understanding Meaning from Context
13 回	Saving Our Seas Part 2:	Interpreting Visual Information
14 回	Saving Our Seas Part 3:	Writing a Paragraph that Explains a Chart

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to prepare weekly paper-based homework assignments at home, do internet-based homework assignments by assigned deadlines, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

The standard preparation and review time for this class is two hours per week: 1 hour preparation and 1 hour review.

## 【テキスト (教科書)】

Laurie Blass, Mari Vargo & Keith S. Folse, Pathways 2: Reading, Writing and Critical Thinking 2nd edition, Cengage Learning, 2019, ISBN: 978-1-33-762511-1

## 【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

## 【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

\*\*Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

## 【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

## 【Outline and objectives】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## マーク・フィールド

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

## 【到達目標】

Building on what was studied in the first semester, the goal of the course is to further develop students' ability to interact more successfully in English. Course content will include extensive reading, listening and vocabulary development, as well as, extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, prepare weekly homework assignments, and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Reorientation:	How to Become a More Independent Language Learner
2 回	Learning Strategy:	Knowing What You Don't Know
3 回	Animals and Medicine	Identifying Pros & Cons
4 回	Animals and Medicine	Analyzing and Organizing Information into an Outline
5 回	Animals and Medicine	Writing a Persuasive Paragraph
6 回	Nature's Fury	Identifying Sequences
7 回	Nature's Fury	Synthesizing Information
8 回	Nature's Fury	Writing a Process Paragraph
9 回	Building Wonders	Scanning for Specific Information
10 回	Building Wonders	Using Prior Knowledge to Reflect on Context
12 回	Building Wonders	Writing a Comparison Paragraph
12 回	Form and Function	Analyzing and Discussing Information

13 回	Form and Function	Identifying Problems and Solutions
14 回	Form and Function	Writing a Problem Solution Paragraph

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly paper-based homework assignments at home, do internet-based homework assignments by assigned deadlines, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

The standard preparation and review time for this class is two hours per week: 1 hour preparation and 1 hour review.

## 【テキスト（教科書）】

Laurie Blass, Mari Vargo & Keith S. Folse, Pathways 2: Reading, Writing and Critical Thinking 2nd edition, Cengage Learning, 2019, ISBN: 978-1-33-762511-1

## 【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

## 【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

\*\*Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

## 【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

## 【Outline and objectives】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

LANe100LA

## 英語5

2017年度以降入学者

## ラスカイル・ハウザー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5: Academic writing and presentation skills.

## 【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.

13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None

## 【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

None

## 【Outline and objectives】

English 5: Academic writing and presentation skills.

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## ラスカイル・ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

## 【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.

13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

None

## 【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

None

## 【Outline and objectives】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

LANe100LA

## 英語 5

2017 年度以降入学者

## ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

## 【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents Presentation preparation-structure	gay issues, coming out Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families Presentation preparation - physical elements	splitting time with parents body language and voice
Week 8	Errands Presentation preparation-visual elements I	errands and chores slide backgrounds
week 9	Neighborhoods Presentation preparation- visual elements II	suburban, countryside, metro slide fonts
week 10	Parties types Presentation preparation script practice	types- wedding, house warming, birthday, showers using a script to speak
week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes

week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition  
978-1-3056-4774-9

## 【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 34%

Homework 33%

Group Presentation 33%

## 【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

## 【その他の重要事項】

No comment

## 【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

## 英語 6

2017 年度以降入学者

## ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

## 【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage
week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech

week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

## 【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition  
978-1-3056-4774-9

## 【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

## 【成績評価の方法と基準】

Participation 34%

Homework 33%

Group presentation 33%

## 【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

## 【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing instrument, paper

## 【その他の重要事項】

No comment

## 【Outline and objectives】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。英語で環境問題について話せる様にして行く。

## 【到達目標】

温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロスなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発進していけるようにする。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回2～3人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。学期末にはそれぞれグループに分かれて10～15分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
2	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
3	Unit 1	What do you we do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.
4	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
5	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered.

6	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.
7	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
8	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
9	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.
10	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using a power point.
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming. What can we do to prevent global warming? Preparing for the presentation.
12	Unit 4 Preparing for the presentation	How do we deal with the problems of global warming. Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

## 【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)

David Peaty

Kinseido

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。

4回以上の欠席の場合は単位の取得は不可である。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨年は Greta Thunberg が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して声を発信していた。私たちも彼女に見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていききたい。

## 【到達目標】

世界で起こっている環境問題ならびに様々な問題に深く取り組んで行く。開発途上国の抱える問題、先進国が与える影響などを考えていく。また環境問題に関して英語で話せるようにしていく。昨年は Greta Thunberg が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して発信していた。私たちも彼女に見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちに何ができるかを探っていききたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回 2～3 人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。先進国の開発途上国への影響をかんがえる。学期末にはそれぞれグループに分かれて 10～15 分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
2	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
3.	Unit 5	Is there anything other energy we can use instead of fossil fuel? What is renewable energy and sustainable energy? How can we save energy?
4.	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.
5	Reading the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.	After reading the two speeches what do you think about them. What can you do to stop global warming. Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

6	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.	Discuss what you can do to send out a message to people with concrete ideas.
7	Unit 6. Developing countries	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
8	Unit 6	Talk about the problem existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
9	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this.
10	Unit 7 Human rights Start preparing for a presentation	What is human rights? Does everyone in the world have a human right? Start preparing for a presentation. Refer to the project on p.40
11	Unit 7 Prepare for the presentation	What kind of right do we have? Can we exercise our rights on anything? Prepare for the presentation.
12	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know exactly how your tax money is spent, parents to use physical punishment at home, physical punishment at school and treatment towards ethnic minorities.
13	Presentation	presentation
14	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)

David Peaty

Kinseido

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等 15%、期末試験 70% 計 100%。とする。なお 60% 以上を合格とする。欠席 4 回以上の場合単位取得は不可である。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to deepen their knowledge towards environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

## 【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

## 【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

## 【到達目標】

英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円+税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

## 【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

**【到達目標】**

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

テキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意の説明をします。
2	Unit 1	The UK in the World Today 〈世界における英国の過去と現在〉
3	Unit 2	The British Royal Family: A New Era 〈新たな時代を迎える英国王室〉
4	Unit 3	British Politics: Two-Party System Under Change 〈揺らぐ二大政党制〉
5	Unit 4	People Profile 1: A British University Student 〈人物紹介 1: 英国の大学生〉
6	Unit 5	The Suburbs of London 〈緑豊かなロンドン郊外〉
7	Unit 6	British Food Is Delicious! 〈実はおいしい英国料理〉
8	Unit 7	Park Life 〈公園好きな英国の人々〉
9	Unit 8	People Profile 2: A Young Man in London 〈人物紹介 2: ロンドンで働く若者〉

10	Unit 9	Britain's Favourite Writers 〈世界中で愛される英文学〉
11	Unit 10	British Art: The Pre-Raphaelites 〈ラファエル前派: 英国が誇る芸術家集団〉
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	復習と期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Jonathan Lynch, Kotaro Shitori『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』成美堂、1,900 円+税

**【参考書】**

必要な際には授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

**【学生の意見等からの気づき】**

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書を必ず持参してください。

**【その他の重要事項】**

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

**【Outline and objectives】**

Through reading stories and doing exercises in the textbook "A Fresh Look at Britain" consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

**【到達目標】**

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

テキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 11	What Do the British Watch on TV? 〈テレビ好きな国民が好きな番組とは?〉
2	Unit 12	People Profile 3: A British School Girl 〈人物紹介 3: 英国の中学生〉
3	Unit 13	Earthquakes in Britain 〈英国の辞書に「自然災害はない!?!」〉
4	Unit 14	Street Demonstrations 〈今日もどこかでデモ行進?〉
5	Unit 15	Nuclear Power in Britain 〈原子力発電それとも再生可能エネルギー?〉
6	Unit 16	People Profile 4: A Working Mother in London 〈人物紹介 4: 仕事と育児を両立させるロンドンの女性〉
7	Unit 17	The Titanic: 100 Years On 〈タイタニック号の悲劇から 100 年〉
8	Unit 18	MI6: The Real James Bonds 〈007 の秘密情報局は実在するのか?〉

9	Unit 19	Mysterious Britain 〈幽霊だけじゃ物足りない!?!〉
10	Unit 20	People Profile 5: Yoshi in Britain 〈人物紹介 5: 英国に暮らす日本人〉
11	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	復習と期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてくてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Jonathan Lynch, Kotaro Shitori『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』成美堂、1,900 円+税

**【参考書】**

必要な際には授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

**【学生の意見等からの気づき】**

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書を必ず持参してください。

**【その他の重要事項】**

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

**【Outline and objectives】**

Through reading stories and doing exercises in the textbook “A Fresh Look at Britain” consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

## 【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 6 月 1 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。また、それまでの期間は、共通教材による学習期間となる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Office 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	Restaurant 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Department Store 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Airport 聴解 How Far Will People Go? 語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Bank 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Duty-free Shop 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation

第 8 回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Travel 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Rent-a-Car 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第 10 回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Fitness Center 聴解 追加プリントによる英文読解
第 11 回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Job Training 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第 13 回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300  
Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

## 【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの各章はトピックの内容によって難易度が違うと感じられる傾向があるようだ。一般的な内容は容易だが、生活になじみのない内容や抽象的理論を扱う章の英文は語彙にも慣れていないため難しいという意見があった。いろいろな分野についての英文を読めるようになることを目標に、難しい印象の英文は教員による解説を増やすなど工夫していきたい。また、Writing に慣れていない学生には個別指導で英文の書き方を実践して見せ、英文を書くコツを体得してもらっている。個別指導になると評価に影響するなどということはないので、ご安心いただきたい。

## 【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

## English 1 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

## 【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Business Trip 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Vacation 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Pay 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Exhibition 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Shopping 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Hospital 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Train Station 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing
第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Presentation 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation

第9回	Listening 小テスト9 Lesson 11 Art Appreciation	Lecture 聴解 Accounting for Taste 英文読解、 コメント Writing
第10回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Contract 聴解 Accounting for Taste 語彙問題 と Listening&Dictation
第11回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test1・2 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コ メント Writing
第12回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と 書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第13回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長 文の論理展開を学ぶ
第14回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・ま とめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300  
Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

#### 【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、Writing・和訳などの課題20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも0点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの各章はトピックの内容によって難易度が違うと感じられる傾向があるようだ。一般的な内容は容易だが、生活になじみのない内容や抽象的理論を扱う章の英文は語彙にも慣れていないため難しいという意見があった。いろいろな分野についての英文を読めるようになることを目標に、難しい印象の英文は教員による解説を増やすなど工夫していきたい。また、Writing に慣れていない学生には個別指導で英文の書き方を実践して見せ、英文を書くコツを体得してもらっている。個別指導になると評価に影響するなどということはないので、ご安心いただきたい。

#### 【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

## 根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日はクラス分けの都合上 6 月 1 日となる。以下、当初の授業の進め方と方法もよく確認しておくこと。テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food

第 13 回 Chapter 10

Sympathy for the Delivery Man

第 14 回 学期末試験

学期末試験（筆記試験）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』)(Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間のオンラインでの開講にともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下の当初の方法と基準に可能な限り沿う形をとる予定なので、以下の内容もよく確認しておくこと。

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。語彙表現の定着のために、小テストや試験のみでなく、授業内のコメントや英作文においても、テキスト内で学んだものを取り入れるよう促していきたい。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity
第 10 回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。語彙表現の定着のために、小テストや試験のみでなく、授業内のコメントや英作文においても、テキスト内で学んだものを取り入れるよう促していきたい。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 2 の企業についての文を読んで聞き、企業についての理解と英語の読解力を養う。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

大学からの対面授業の許可がおりるまで、学習支援システムを通して授業を行います。6月1日から授業を行います。春学期終わりまで対面授業ができない場合には、春学期全部が学習支援システムを通しての遠隔授業になる可能性もあります。教科書が手に入るまでの3回は、学習支援システムのネット上の英文を読みます。4回目からは、教科書の英文を読みます。各回確認のテストを確認のために行います。（4回目以降は Exercises をテスト形式にします。）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	6月1日 遠隔授業	テキストを買っておく。キリンで、教科書がないと思われるので、日本企業のサイトで英語を学ぶ。
2	6月8日 遠隔授業	小林製菓のサイトで、教科書がないと思われるので、日本企業のサイトで英語を学ぶ。
3	6月15日 遠隔授業	伊藤忠で、教科書がないと思われるので、日本企業のサイトで英語を学ぶ。
4	6月22日 Unit 2	エドウィンの和製ジーンズの埃にエドウィン 教科書をついての文を読み、ジーンズ、それを作り出した企業について学ぶ。テキストの予習復習をする。今週から使います。それまでに教科書を手しておいてください。
5	6月29日 Unit 3	NPC NPC のマイナスからの復活劇について読み、企業の再生について考える。テキストの予習復習をする。
6	7月6日 Unit 6	お米がくれた庶民の憩いについて 亀田製菓の文を読んで考える。テキストの予習復習をする。
7	7月13日 Unit 7	心をつなぐバス回しをモットーとする浦和レッドダイヤモンズのこれまでの軌跡について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	授業なし	授業なし
9	授業なし	授業なし

10	授業なし	授業なし
11	授業なし	授業なし
12	授業なし	授業なし
13	授業なし	授業なし
14	授業なし	授業なし

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。本文を読み、True/False questions と、Questions & Answers で本文理解を確認し、Listening Comprehension, Vocabulary in Context, Idioms in Use で本文に出てきた表現を確認する。

## 【テキスト（教科書）】

Brenda Hayashi/ 岡田圭子/ 嶋林昭治/ 鈴木充夫著『Moving ahead in the 21st Century: 12 Forward-looking Companies』松柏社

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

各回のテストを 90%、平常点を 10% で計算します。各学期テストや課題の未提出が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

Reading a text called Moving ahead in the 21st Century: 12 Forward-Looking Companies, and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本で最近に起こった、話題になったこと 15 個を取り上げたテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

各授業で予習してきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	シラバスの記載事項について、確認し、辞書の使い方等を指示する。テキストを買って置く。
2 回目	Chapter 1 5 Things You Didn't Know about Kawaii	Kawaii の美学について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
3 回目	Chapter 2 Uniqlo Finds Wealth of Data in Bangladesh Not-For-Profit Venture	ユニクロが蓄積したお宝データについて学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
4 回目	Chapter 3 When the B List Is Best	味が勝負の B 級グルメについて学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
5 回目	Chapter 4 Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon	くまモンの政治経済学について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
6 回目	Chapter 5 Saving Fukuoka's Street Food	福岡の屋台文化の歴史について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
7 回目	Chapter 6 A Japanese Artis Finds New Life a Year after the Quake	ある芸術家（奈良美智）の再生と「成長」について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
8 回目	Chapter 7 Fictional Japanese TV Ba naked Takes Double the Payback	ドラマ『半沢直樹』ヒットの構造について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。

9 回目	Chapter 8 As Sentiment Improves. Red Lipstick Back in Vogue	赤い口紅と景気の関係について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
10 回目	Chapter 9 Japan's Aging, Female Criminals?	女性受刑者の倍増と犯罪のグローバル化について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
11 回目	Chapter 10 Cult TV Travwelogue Let's You Share Wednesday's Ride	『水曜どうでしょう』のロングヒットの秘密について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
12 回目	Chapter 11 Want to Cosplay? Then Lose that Sword	コスプレを安全に楽しむ方法について学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
13 回目	Chapter 12 Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel?	反原発の新刊書を書いたのは誰かについて学ぶ。テキストの予習復習をして置く。
14 回目	復習 まとめ	復習/まとめを行う。学期内で進んで課の復習をして置く。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をして置く。Matching Words & Phrases を辞書を活用して予習し、本文を辞書を活用して読み、かつ、訳せるように予習し、True/False, How to Read a Paragraph の本文理解の質問に答えて置く。英作文については予習して解けるようにしておく。Listening Summary は授業の最後に CD を使って行う。

## 【テキスト（教科書）】

宮本文『15 Things Happening in Japan 1: From < A Hit Drama "Hanzawa Naoki" to < Yoshitomo Nara's New Life >』松柏社

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を 85%、平常点を 15% で計算します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

Reading a textbook called 15 Things Happening in Japan 1, develop English reading skills and come to know what each country eats.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。英語で環境問題について話せる様にして行く。

## 【到達目標】

温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロスなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発進していけるようにする。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

教科書である *You, Me and the World* を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回 2～3 人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。学期末にはそれぞれグループに分かれて 10～15 分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
2	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
3	Unit 1	What do you we do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.
4.	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
5	Unit 2 Endangered species	Think of why some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered.

6	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. Think of how much Human being is playing a part in this and why.
7	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
8	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
9	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.
10	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using a power point.
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming. What can we do to prevent global warming?
12	Back-up class Preparing for the presentation.	Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

*You, Me and the World* (Second edition)

David Peaty

Kinseido

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等 15%、期末試験 70% 計 100%。とする。なお 60% 以上を合格とする。欠席 4 回以上の場合は単位単位不可である。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to deepen their knowledge towards environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き教科書を中心に様々な環境問題を考えて行く。昨年は Greta Thunberg が世界の環境問題に対して将来の危機に関して声を発進していた。私たちが彼女に見習い環境問題に取り組みなければならないと思われる。私たちに何が出来るか企業努力のみに頼らず個人的どのようなことができるかを考えて行く。

## 【到達目標】

世界で起こっている環境問題ならびに様々な問題に深く取り組んで行く。開発途上国の抱える問題、先進国が与える影響などを考えていく。

昨年は Greta Thunberg が世界の中で環境問題に対して将来の危機に関して発信していた。私たちが彼女に見習い環境問題に取り組みなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちに何が出来るかを探っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回 2～3 人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。学期末には春学期同様それぞれグループに分かれて 10～15 分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
2	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
3	Unit 5	Is there anything other energy we can use instead of fossil fuel? What is renewable energy and sustainable energy? How can we save energy?
4	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.
5	Reading the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki	After reading the two speeches what do you think about them. What can you do to stop global warming.
6	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki	Discuss what you can do to send out a message to people, with concrete ideas.

7	Unit 6 Developing countries	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
8	Unit 6	Talk about the problem existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
9	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this
10	Unit 7 Human rights Start preparing for a presentation	What is human rights? Does everyone in the world have a human right? Start preparing for a presentation. Refer to the project on p.40
11	Unit 7 Prepare for the presentation	What kind of right do we have? Can we exercise our rights on anything? Prepare for the presentation.
12	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know exactly how your tax money is spent, parents to use physical punishment at home, physical punishment at school and treatment towards ethnic minorities. Prepare for the presentation.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上となる。

## 【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)

David Peaty

Kinseido

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等 15%、期末試験 70% 計 100% とする。なお 60% 以上を合格とする。欠席 4 回以上の場合は単位取得不可となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to deepen their knowledge towards environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

## 【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
復習と試験	復習と試験を行う。	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

## 【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

## 【到達目標】

英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
復習と試験	復習と試験を行う。	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円+税

## 【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

## 【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 - I

2017年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

**【到達目標】**

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

テキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	The UK in the World Today 〈世界における英国の過去と現在〉
3	Unit 2	The British Royal Family: A New Era 〈新たな時代を迎える英国王室〉
4	Unit 3	British Politics: Two-Party System Under Change 〈揺らぐ二大政党制〉
5	Unit 4	People Profile 1: A British University Student 〈人物紹介 1: 英国の大学生〉
6	Unit 5	The Suburbs of London 〈緑豊かなロンドン郊外〉
7	Unit 6	British Food Is Delicious! 〈実はおいしい英国料理〉
8	Unit 7	Park Life 〈公園好きな英国の人々〉
9	Unit 8	People Profile 2: A Young Man in London 〈人物紹介 2: ロンドンで働く若者〉

10	Unit 9	Britain's Favourite Writers 〈世界中で愛される英文学〉
11	Unit 10	British Art: The Pre-Raphaelites 〈ラファエル前派: 英国が誇る芸術家集団〉
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	復習と期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Jonathan Lynch, Kotaro Shitori『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』成美堂、1,900 円+税

**【参考書】**

必要な際には授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

**【学生の意見等からの気づき】**

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書を必ず持参してください。

**【その他の重要事項】**

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

**【Outline and objectives】**

Through reading stories and doing exercises in the textbook "A Fresh Look at Britain" consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

**【到達目標】**

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

テキスト『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit 11	What Do the British Watch on TV? 〈テレビ好きな国民が好きな番組とは?〉
2	Unit 12	People Profile 3: A British School Girl 〈人物紹介 3: 英国の中学生〉
3	Unit 13	Earthquakes in Britain 〈英国の辞書に「自然災害はない!?!」〉
4	Unit 14	Street Demonstrations 〈今日もどこかでデモ行進?〉
5	Unit 15	Nuclear Power in Britain 〈原子力発電それとも再生可能エネルギー?〉
6	Unit 16	People Profile 4: A Working Mother in London 〈人物紹介 4: 仕事と育児を両立させるロンドンの女性〉
7	Unit 17	The Titanic: 100 Years On 〈タイタニック号の悲劇から 100 年〉
8	Unit 18	MI6: The Real James Bonds 〈007 の秘密情報局は実在するのか?〉

9	Unit 19	Mysterious Britain 〈幽霊だけじゃ物足りない!?!〉
10	Unit 20	People Profile 5: Yoshi in Britain 〈人物紹介 5: 英国に暮らす日本人〉
11	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	復習と期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてくてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてくてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Jonathan Lynch, Kotaro Shitori『英国社会の実像を探る A Fresh Look at Britain』成美堂、1,900 円+税

**【参考書】**

必要な際には授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

**【学生の意見等からの気づき】**

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

**【学生が準備すべき機器他】**

辞書を必ず持参してください。

**【その他の重要事項】**

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

**【Outline and objectives】**

Through reading stories and doing exercises in the textbook “A Fresh Look at Britain” consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

## 【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 6 月 1 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。また、それまでの期間は、共通教材による学習期間となる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Office 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	Restaurant 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Department Store 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Airport 聴解 How Far Will People Go? 語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Bank 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Duty-free Shop 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation

第 8 回 Listening 小テスト 7  
Lesson 5 The Environment  
Travel 聴解  
Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing

第 9 回 Listening 小テスト 8  
Lesson 5 The Environment  
Rent-a-Car 聴解  
Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation

第 10 回 Listening 小テスト 9  
環境問題の英文読解  
Fitness Center 聴解  
追加プリントによる英文読解

第 11 回 Listening 小テスト 10  
Lesson 6 Anthropology/Paleontology  
Job Training 聴解  
Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing

第 12 回 Listening 小テスト 11  
Lesson 6 Anthropology/Paleontology  
Review Test1・2 聴解  
Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation

第 13 回 パラグラフ論理展開学習  
Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ

第 14 回 復習と試験  
学習内容に関する筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300  
Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

## 【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの各章はトピックの内容によって難易度が違うと感じられる傾向があるようだ。一般的な内容は容易だが、生活になじみのない内容や抽象的理論を扱う章の英文は語彙にも慣れていないため難しいという意見があった。いろいろな分野についての英文を読めるようになることを目標に、難しい印象の英文は教員による解説を増やすなど工夫していきたい。また、Writing に慣れていない学生には個別指導で英文の書き方を実践して見せ、英文を書くコツを体得してもらっている。個別指導になると評価に影響するなどということはないので、ご安心いただきたい。

## 【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

## English 1 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

## 【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Business Trip 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Vacation 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Pay 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Exhibition 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Shopping 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Hospital 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Train Station 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing
第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Presentation 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation

第9回	Listening 小テスト9 Lesson 11 Art Appreciation	Lecture 聴解 Accounting for Taste 英文読解、 コメント Writing
第10回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Contract 聴解 Accounting for Taste 語彙問題 と Listening&Dictation
第11回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test1・2 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コ メント Writing
第12回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と 書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第13回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長 文の論理展開を学ぶ
第14回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・ま とめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300  
Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

#### 【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、Writing・和訳などの課題20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも0点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの各章はトピックの内容によって難易度が違うと感じられる傾向があるようだ。一般的な内容は容易だが、生活になじみのない内容や抽象的理論を扱う章の英文は語彙にも慣れていないため難しいという意見があった。いろいろな分野についての英文を読めるようになることを目標に、難しい印象の英文は教員による解説を増やすなど工夫していきたい。また、Writing に慣れていない学生には個別指導で英文の書き方を実践して見せ、英文を書くコツを体得してもらっている。個別指導になると評価に影響するなどということはないので、ご安心いただきたい。

#### 【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

## 根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日はクラス分けの都合上 6 月 1 日となる。以下、当初の授業の進め方と方法もよく確認しておくこと。テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food

第 13 回 Chapter 10

Sympathy for the Delivery Man

第 14 回 学期末試験

学期末試験（筆記試験）

英作文における注意点の説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2（『もっと知りたい！社会のいま 2』）(Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間のオンラインでの開講にともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下の当初の方法と基準に可能な限り沿う形をとる予定なので、以下の内容もよく確認しておくこと。

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。語彙表現の定着のために、小テストや試験のみでなく、授業内のコメントや英作文においても、テキスト内で学んだものを取り入れるよう促していきたい。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

## English 1 - II

2017 年度以降入学者

## 根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

## 【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity
第 10 回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験） 英作文における注意点の説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

## 【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。語彙表現の定着のために、小テストや試験のみでなく、授業内のコメントや英作文においても、テキスト内で学んだものを取り入れるよう促していきたい。

## 【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英国（Britain）についての文を読み、Britain について理解し、英語の読解力を養う。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

大学からの対面授業の許可がおりるまで、学習支援システムを通して授業を行います。6月1日から授業を行います。春学期終わりまで対面授業ができない場合には、春学期全部が学習支援システムを通しての遠隔授業になる可能性もあります。教科書が手に入るまでの3回は、学習支援システムのネット上の英文を読みます。4回目からは、教科書の英文を読みます。各回確認のテストを確認のために行います。（4回目以降は Exercises をテスト形式にします。）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	6月1日 遠隔授業	キリン なので、サイトに載っている英文を読みます。
2	6月8日 遠隔授業	小林製薬 なので、サイトに載っている英文を読みます。
3	6月15日 遠隔授業	伊藤忠 なので、サイトに載っている英文を読みます。
4	6月22日 Chapter 1 The United Kingdom?	教科書の第一章から読みます。これまでに教科書を手に入れましょう。私たちが「イギリス」「英国」と読んでいて基礎的なことを学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	6月29日 Chapter 2 Multi-Cultural Britain	英国の多国籍文化について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	7月6日 Chapter 3 The UK and the EU	すでに Brexit を決定している Britain が EU についてどのような関係を持ってきたについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7	7月13日 Chapter 4 Tea	Britain 人とお茶の関係について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	授業なし	授業なし
9	授業なし	授業なし
10	授業なし	授業なし
11	授業なし	授業なし
12	授業なし	授業なし
13	授業なし	授業なし

14 授業なし

授業なし

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。教科書が手に入ってから、テキストの予習復習をする。それまでは、来週の授業の「学習支援システム」の教材を予習してください。教科書では、Vocabulary Focus を行い、Part 1 の本文を読み、問題で本文の理解度を確認、Part 2 の本文と問題、Part 3 の本文と問題についても同様。Structure Practice, Listening Challenge, Going Further は飛ばす。

## 【テキスト（教科書）】

Tim Knight『Welcome to Britain Revised Edition』鶴見書店

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

各時間のテストを90%、平常点を10%で計算します。各授業のテスト、課題の未提出が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

Reading a text called Welcome to Britain Revised Edition, and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のものづくりの会社を取り上げた 15 章のテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

## 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

各授業で予習してきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	シラバスの記載事項について、確認し、辞書の使い方等を指示する。テキストを買っておく。
2 回目	Chapter 1 Mazda	「走る歓び」を通して人生に輝きをもたらすことを目指してきたマズダについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
3 回目	Chapter 2 House	バーモントカレーなどの発明を行ってきたハウスの歴史について学ぶ。テキストの予習復習をする。
4 回目	Chapter 3 TOTO	腰掛け式水洗便器を製造してきた TOTO の歴史について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Chapter 4 Shimano	サイクリングと釣り用具のメーカー、シマノについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Chapter 5 Mazda Design	車メーカー、マツダのデザインについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Chapter 6 UCC	UCC 上島珈琲の歴史と発展について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8 回目	Chapter 7 Daifuku	ものを動かす技術（マテリアルハンドリング）の総合メーカー、ダイフクについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
9 回目	Chapter 8 Sakura Color Products	サクラクレパスのクレパス、クーピーペンシルの発明などについての企業の軌跡を学ぶ。テキストの予習復習をする。
10 回目	Chapter 9 Yanmar	世界で初めて小型ディーゼルエンジンを開発したヤンマーについて学ぶ。テキストの予習復習をする。

11 回目	Chapter 10 Magokichi Yamaoka	ヤンマーの創業者山岡孫吉について学ぶ。テキストの予習復習をする。
12 回目	Chapter 11 Otafuku Sauce	お好み焼きソースで有名なオタフクソースについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
13 回目	Chapter 12 Tombow	制服メーカー、トンボ学生服について学ぶ。テキストの予習復習をする。
14 回目	復習 まとめ 期末試験	復習／まとめを行う。試験に備えて、学期内で行なった課の復習をしておく。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。Vocabulary を辞書を活用して予習し、授業中に Language in Use を CD を聴きながら穴埋めし、本文を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、Synonym Questions で本文に出てきた単語の理解を深め、Questions & Answers, Comprehension Check, Chronological Table の本文理解の質問に答えておく。Composition は飛ばす。

## 【テキスト（教科書）】

吉野成美／Justin Harris/井上 治／Paul Leeming『Outstanding Monozukuri Companies in Japan』松柏社

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を 85%、平常点を 15% で計算します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

辞書

## 【Outline and objectives】

Reading a textbook called Outstanding Monozukuri Companies in Japan, learn each company and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing）に接続していきます

## 【到達目標】

- 1 音読が適切にできるようになること
- 1 テキストを正確に理解でき分析できるようになること
- 2 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- 1 Reading: paragraph reading
- 2 Listening: listening speech and lectures
- 3 Speaking Workshop: exchanging opinions on topics
- 4 Writing Workshop: summary writing, paragraph writing and essay writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	1 Self-introduction 2 Explanation of the course
2	Critical Thinking and Reading	1 Paragraph reading practice 2 Listening practice (1-1)
3	Essay types and strategies	1 Learning Paragraph Structure 2 Listening practice (1-2)
4	Writing Workshop #1	1 Using English-English Dictionary 2 Writing Topic Sentences and paragraph
5	Elements of Fiction and Drama	1 Paragraph reading 2 Listening practice 3 Learning the Development of a Paragraph
6	Sociology and Religion	1 Reading practice 2 Writing summary 3 Listening practice (2-1)
7	Philosophy and the Good Life	1 Reading practice 2 Writing summary 3 Listening practice (2-2)
8	Writing Workshop #2	1 Learning structure of academic essay: from Paragraph to Essay 2 Writing a short essay
9	Blacking Factory	1 Reading practice 2 Listening practice (3-1) 3 Writing the summary

10	Military Keynesianism (1)	1 Reading practice 2 Learning Opinion Paragraphs 3 Listening practice (3-2)
11	Military Keynesianism (2)	1 Thinking paragraph structure 2 Understanding writer's opinion 3 Writing the summary
12	Workshop #3	1 Reviewing the previous topics 2 Exchanging opinions 3 Writing the summary
13	Writing Workshop #4	1 Writing an essay based on opinion paragraphs
14	Review and Test	Reviewing topics and test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading home assignments: reading assigned paragraphs; vocabulary check; and summary writing
- 2 Weekly listening and speaking home assignments: vocabulary check
- 3 Home assignments for Writing Workshop: paragraph writing or essay writing

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

## 【参考書】

Provided during sessions

## 【成績評価の方法と基準】

Active class participation including workshop activities (30%)

Home assignment (20%)

Tests (50%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

## 【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase opportunities to listen to English materials. I hope your passionate participation makes this course exciting.

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

## 【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

## 【Outline and objectives】

This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will practice skills connected to systematic reading, listening and well-organized writing. There will be also Workshops focusing on paragraph or essay writing as well as speaking your opinions.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」を「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします（Learning four skills of reading, listening, speaking and writing）

## 【到達目標】

- 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
- 学んだトピックについて明確な構造を持つプレゼンテーションができるようになること
- 論理的構成を持つ複数のパラグラフからなるエッセイが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- 1 Reading: reading news and articles
- 2 Listening: listening to new and speech
- 3 Speaking: presentation workshop and exchanging opinions
- 4 Writing: summary and essay writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Meeting and Workshop	Exchanging information and discussing the course of this semester
2	Social Business	1 Reading an article about social business 2 Explaining the main idea in your own words 3 Listening practice
3	Social Business	1 Listening to an interview about social business 2 Explaining the main idea in your own words
4	Presentation Workshop #1	1 Learning presentation types and their structures 2 Watching model presentations 3 Creating your presentation outline
5	Human rights and Global citizenship	1 Reading an article about human right 2 Listening practice 3 mini-presentation
6	Human rights and Global citizenship	1 Reading an article on Universal Declaration of Human Rights 2 Listening practice

7	The End of Poverty	1 Watching speech about poverty 2 Talking about the topic and main idea
8	The End of Poverty	1 Reading passages from The End of Poverty 2 Summarizing the main idea 3 Listening practice
9	Presentation Workshop #2	1 Presenting on a given topic 2 Evaluation
10	Nuclear weapons and Japan	1 Listening to news 2 Reading an article 3 Talking about main ideas
11	Nuclear weapons and Japan	1 Watching a video 2 Reading and analyzing statistics 3 Exchanging your opinions
12	Presentation Workshop #3	1 Presenting on your chosen topic 2 Evaluation
13	Refugee issues	1 Listening to news 2 Reading and analyzing statistics 2 Exchanging opinions about the news
14	Review and test	Reviewing topics and test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします）

- 1 Weekly reading and writing home assignments (reading materials and writing summary)
- 2 Preparation for mini-presentation

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

## 【参考書】

Provided during sessions

## 【成績評価の方法と基準】

Active class participation including presentation activities (30%)

Writing assignment (20%)

Tests (50%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

## 【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' support and encouragement will keep yourself motivated.

だんだんハードになってくると思いますが、励まし合いながらさらなるレベルアップを図りましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

## 【Outline and objectives】

This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will read and listen to authentic materials and practice presentation skills learning basic structures. You will also practice summary and essay writings.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing）に接続していきます

## 【到達目標】

- 1 音読が適切にできるようになること
- 1 テキストを正確に理解でし分析できるようになること
- 2 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- 1 Reading: paragraph reading
- 2 Listening: listening speech and lectures
- 3 Speaking Workshop: exchanging opinions on topics
- 4 Writing Workshop: summary writing, paragraph writing and essay writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	1 Self-introduction 2 Explanation of the course
2	Critical Thinking and Reading	1 Paragraph reading practice 2 Listening practice (1-1)
3	Essay types and strategies	1 Learning Paragraph Structure 2 Listening practice (1-2)
4	Writing Workshop #1	1 Using English-English Dictionary 2 Writing Topic Sentences and paragraph
5	Elements of Fiction and Drama	1 Paragraph reading 2 Listening practice 3 Learning the Development of a Paragraph
6	Sociology and Religion	1 Reading practice 2 Writing summary 3 Listening practice (2-1)
7	Philosophy and the Good Life	1 Reading practice 2 Writing summary 3 Listening practice (2-2)
8	Writing Workshop #2	1 Learning structure of academic essay: from Paragraph to Essay 2 Writing a short essay
9	Blacking Factory	1 Reading practice 2 Listening practice (3-1) 3 Writing the summary

10	Military Keynesianism (1)	1 Reading practice 2 Learning Opinion Paragraphs 3 Listening practice (3-2)
11	Military Keynesianism (2)	1 Thinking paragraph structure 2 Understanding writer's opinion
12	Workshop #3	1 Reviewing the previous topics 2 Exchanging opinions 3 Writing the summary
13	Writing Workshop #4	1 Writing an essay based on opinion paragraphs
14	Review and Test	Reviewing topics and test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading home assignments: reading assigned paragraphs; vocabulary check; and summary writing
- 2 Weekly listening and speaking home assignments: vocabulary check
- 3 Home assignments for Writing Workshop: paragraph writing or essay writing

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

## 【参考書】

Provided during sessions

## 【成績評価の方法と基準】

Active class participation including workshop activities (30%)

Home assignment (20%)

Tests (50%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

## 【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase opportunities to listen to English materials. I hope your passionate participation makes this course exciting.

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

## 【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

## 【Outline and objectives】

This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will practice skills connected to systematic reading, listening and well-organized writing. There will be also Workshops focusing on paragraph or essay writing as well as speaking your opinions.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」を「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします（Learning four skills of reading, listening, speaking and writing）

## 【到達目標】

- 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
- 学んだトピックについて明確な構造を持つプレゼンテーションができるようになること
- 論理的構成を持つ複数のパラグラフからなるエッセイが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- 1 Reading: reading news and articles
- 2 Listening: listening to new and speech
- 3 Speaking: presentation workshop and exchanging opinions
- 4 Writing: summary and essay writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Meeting and Workshop	Exchanging information and discussing the course of this semester
2	Social Business	1 Reading an article about social business 2 Explaining the main idea in your own words 3 Listening practice
3	Social Business	1 Listening to an interview about social business 2 Explaining the main idea in your own words
4	Presentation Workshop #1	1 Learning presentation types and their structures 2 Watching model presentations 3 Creating your presentation outline
5	Human rights and Global citizenship	1 Reading an article about human right 2 Listening practice 3 mini-presentation
6	Human rights and Global citizenship	1 Reading an article on Universal Declaration of Human Rights 2 Listening practice

7	The End of Poverty	1 Watching speech about poverty 2 Talking about the topic and main idea
8	The End of Poverty	1 Reading passages from The End of Poverty 2 Summarizing the main idea 3 Listening practice
9	Presentation Workshop #2	1 Presenting on a given topic 2 Evaluation
10	Nuclear weapons and Japan	1 Listening to news 2 Reading an article 3 Talking about main ideas
11	Nuclear weapons and Japan	1 Watching a video 2 Reading and analyzing statistics 3 Exchanging your opinions
12	Presentation Workshop #3	1 Presenting on your chosen topic 2 Evaluation
13	Refugee issues	1 Listening to news 2 Reading and analyzing statistics 2 Exchanging opinions about the news
14	Review and test	Reviewing topics and test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします）

- 1 Weekly reading and writing home assignments (reading materials and writing summary)
- 2 Preparation for mini-presentation

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

## 【参考書】

Provided during sessions

## 【成績評価の方法と基準】

Active class participation including presentation activities (30%)

Writing assignment (20%)

Tests (50%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

## 【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' support and encouragement will keep yourself motivated.

だんだんハードになってくると思いますが、励まし合いながらさらなるレベルアップを図りましょう。

## 【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

## 【Outline and objectives】

This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will read and listen to authentic materials and practice presentation skills learning basic structures. You will also practice summary and essay writings.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

## 【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第 6 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第 7 回 英会話

クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 8 回 ツアー・休暇の過ごし方を提案する

自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。

第 9 回 リスニング

ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。

第 10 回 リスニング

ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。

第 11 回 プレゼンテーション原稿の作成

ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。

第 12 回 プレゼンテーション

各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第 13 回 英会話

クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 14 回 試験・まとめと解説

これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。

授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

## 【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

## 【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.  
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

## English 2- II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方をつけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

## 【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができますようになります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 5 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 9 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。  
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

#### 【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。  
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

#### 【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。  
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。  
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。  
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。  
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

#### 【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。  
授業には必ず辞書を持参してください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation. First, you will understand the way of organizing a presentation. This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically. In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。言語学習、SNS、技術と暮らしなど世界のトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

## 【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。  
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

少なくとも学期の前半はオンラインでの開講となる。それにととも各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。学習支援システムで授業が開始される日を5月7日(木)とする。第2回の授業までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

2回の授業でひとつの Unit を学習し、続く2回の授業で関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。各回では語彙力を高めるトレーニングと正確に聞き取る能力を高めるディクテーションを行う。また、ネイティブスピーカーの映像素材による基礎的な英語文法の確認も行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Unit2 (1) No Phones in French School	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
3	Unit2 (2) No Phones in French School	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit2 (3) No Phones in French School	Forming Your Opinion -Try this, too!
5	Unit2 (4) No Phones in French School	Presenting Your Opinion -Try this, too!
6	Unit3 (1) Food on Instagram	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)

7	Unit3 (2) Food on Instagram	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
8	Unit3 (3) Food on Instagram	Forming Your Opinion -Try this, too!
9	Unit3 (4) Food on Instagram	Presenting Your Opinion -Try this, too!
10	Unit5 (1) Knocker-Uppers	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
11	Unit5 (2) Knocker-Uppers	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
12	Unit5 (3) Knocker-Uppers	Forming Your Opinion -Try this, too!
13	Unit5 (4) Knocker-Uppers	Presenting Your Opinion -Try this, too!
14	期末試験・学期のまとめ・自主学習のアドバース	期末試験はテキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く3つの技能に関して問題を出題する。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。学期中に2回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.8』、朝日出版社、2020年、1800円（税別）

## 【参考書】

・『LINKS 1500—大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

少なくとも学期の前半がオンラインでの開講となったこととともない、以下に定めた成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法と基準は、第2回の授業までに学習支援システムで提示する。

平常点（予習課題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業ではDVDを使う。

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

## 【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。言語学習、SNS、技術と暮らしなど世界のトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

## 【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。

・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

2 回の授業でひとつの Unit を学習し、続く 2 回の授業で関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。各回では語彙力を高めるトレーニングと正確に聞き取る能力を高めるディクテーションを行う。また、ネイティブスピーカーの映像素材による基礎的な英語文法の確認も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Unit8 (1) Teaching English as a Second Language	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
3	Unit8 (2) Teaching English as a Second Language	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit8 (3) Teaching English as a Second Language	Forming Your Opinion -Try this, too!
5	Unit8 (4) Teaching English as a Second Language	Presenting Your Opinion -Try this, too!
6	Unit10 (1) Ikigai	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
7	Unit10 (2) Ikigai	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
8	Unit10 (3) Ikigai	Forming Your Opinion -Try this, too!
9	Unit10 (4) Ikigai	Presenting Your Opinion -Try this, too!

10	Unit11 (1) Workers in South Korea	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
11	Unit11 (2) Workers in South Korea	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
12	Unit11 (3) Workers in South Korea	Forming Your Opinion -Try this, too!
13	Unit11 (4) Workers in South Korea	Presenting Your Opinion -Try this, too!
14	期末試験・学期のまとめ・自主学習のアドバース	期末試験はテキストの扱われため、スピーキングを除く 3 つの技能に関して問題を出題する。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。学期中に 2 回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.8』、朝日出版社、2020 年、1800 円（税別）

## 【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では DVD を使う。

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

## 【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2020 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生は、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画変更については、学習支援システムでその都度提示する。

この授業は5月中までは共通教材となるのでその指示に従うこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要およびテキストの説明 プリント教材
2	Unit 1 エンジン爆発で旅客機に穴！女性機長が見事に緊急着陸①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 エンジン爆発で旅客機に穴！女性機長が見事に緊急着陸②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 もはや SF ではない「空飛ぶ車」いよいよ実用化段階へ①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 もはや SF ではない「空飛ぶ車」いよいよ実用化段階へ②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 環境にも動物にもやさしい「肉を使わない肉」が香港進出①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 環境にも動物にもやさしい「肉を使わない肉」が香港進出②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 電気自動車・携帯用に需要急増！注目のレアメタル、コバルト①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

9	Unit 4 電気自動車・携帯用に需要急増！注目のレアメタル、コバルト②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 巨大な浮遊式フェンスで回収 海洋プラゴミ一掃作戦が始動①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 巨大な浮遊式フェンスで回収 海洋プラゴミ一掃作戦が始動②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
12	Unit 6 カクレクマノミを救え！豪小学校の「セービング・ニモ」計画①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 6 カクレクマノミを救え！豪小学校の「セービング・ニモ」計画②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験 まとめと解説	期末試験 これまでの内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は音声ダウンロードして聴いておく。

学生は語彙の予習しておく。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (21)

朝日出版 1900 円 + 税

## 【参考書】

特になし

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では DVD と CD を使う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は 3 回までとする。

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

遅刻 20 分以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

## English 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生はリスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming up	プリント教材
2	Unit 7 水に飲まれる米ルイジアナ州沿岸部 水没が急速に進行中①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 水に飲まれる米ルイジアナ州沿岸部 水没が急速に進行中②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 まるで本物！ AI による「ディープフェイク動画」の衝撃①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 まるで本物！ AI による「ディープフェイク動画」の衝撃②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 レンズがとらえた時代の動向 100 年企業「ニコン」①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 レンズがとらえた時代の動向 100 年企業「ニコン」②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

9	Unit 10 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 国が法制化 仏の小中学校で生徒のスマホ使用が全面禁止に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 国が法制化 仏の小中学校で生徒のスマホ使用が全面禁止に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
12	Unit 12 若者には負けられない！ 平均年齢 67 歳のシニア e スポーツチーム①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 12 若者には負けられない！ 平均年齢 67 歳のシニア e スポーツチーム②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験 まとめと解説	期末試験 これまでの授業内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、音声をダウンロードして聴いておく。  
学生は語彙の予習しておく。  
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (21)  
朝日出版 1900 円 + 税

## 【参考書】

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%  
この授業では、全 14 回中、欠席は 3 回までとする。  
欠席は 3 回までとする。  
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。  
遅刻 20 分以上は欠席とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。  
板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。  
授業では、DVD および CD を使用する。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

## 【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は6月4日とし（5月中は共通課題による習熟度別クラス受講のための準備期間となる）、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／レポーターの指名 過去完了の使い方
②	Unit 1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／レポーターの発表 面接の英語表現
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／レポーターの指名 関係代名詞
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／レポーターの発表 電話の応対の英語表現
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの指名 助動詞
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの発表 反論する英語表現
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／レポーターの指名 現在進行形の使い方
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／レポーターの発表 困惑をしめす英語表現
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ 奇跡を起こす／レポーターの指名 助動詞の様々な使い分け
⑩	Unit 5 Andy Performs a Miracle (2)	アンディ 奇跡を起こす／レポーターの発表 依頼する英語表現・希望を伝える英語表現
⑪	Intermission The Princess Diaries (1)	アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。

- ⑫ Intermission The Princess Diaries (2) 前回に引き続き『プリティ・プリンセス』の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。
- ⑬ 復習と期末試験の説明 Unit 1 から Unit 5 の問題演習
- ⑭ 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらうように努力します。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

## 【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Guidance/ テストの返却	テストの返却
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇/レポーターの指名 仮定法
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇/レポーターの発表 驚きを示す英語表現
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ/レポーターの指名 動名詞
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ/レポーターの発表 提案の英語表現
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日/レポーターの指名 受動態
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日/レポーターの発表 意思・予定を述べる英語表現
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀/レポーターの指名 関係代名詞
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀/レポーターの発表 称賛を表す英語表現
⑩	Unit 10 Andy's Final Choice (1)	最後の選択/レポーターの指名 使役動詞
⑪	Unit 10 Andy's Final Choice (2)	最後の選択/レポーターの発表 丁寧な依頼の英語表現
⑫	Post feminism in popular culture	Paul Hodgkinson の 'Media Culture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。
⑬	復習と期末試験の説明	Unit 6 から Unit 10 の問題演習
⑭	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に参加すること。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光や海外旅行で使う英語を学ぶ。

リスニングではカタカナ英語とネイティブの発音の違いを学び、実際に発音できるようにする。また、シャドーイングの練習も行う。5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

## 【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。※初回授業は 4 月 23 日です。

クラス分けまでは共通課題に取り組んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課	この教科書の使い方
3	第 1 課	第 1 課
4	接客コミュニケーション	単語 リスニング
4	第 1 課	発音 口頭練習
5	第 2 課	単語
6	機内サービス	リスニング
6	第 2 課	第 1 課小テスト 発音 口頭練習
7	第 3 課	単語
8	LCC と FSC	ディクテーション
8	第 3 課	第 2 課小テスト 発音 口頭練習
9	第 4 課	第 3 課小テスト
10	面接重視の航空会社	単語 ディクテーション
10	第 4 課	発音 口頭練習
11	第 5 課	第 4 課小テスト
11	チケット販売	単語 ディクテーション
12	第 5 課	発音 口頭練習

13	第 6 課 アトラクション	第 5 課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習などの予習復習に毎日 1 コマにつき 1 時間（＝ 1 日につき 2 時間）充ててほしい。

## 【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年  
三修社 1700 円

ISBN978-4-384-33477-7

## 【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

※今年は異例の授業設定ですので、教室での授業が行われない場合は、4 回以上の課題提出の合算にて評価します。

平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

観光や海外旅行で使われる英語を学ぶ。

まず必要な語彙を学び、実際に使われる会話を聴き取り、また適切に表現することを目標とする。

**【到達目標】**

誤字脱字、ケアレスミス、発音の間違いをなくしていく。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 7 課	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 トラブル発生	単語 リスニング
3	第 7 課	発音 口頭練習
4	第 8 課 業界の先輩メッセージ	7 課小テスト 単語 リスニング
5	第 8 課	発音 口頭練習
6	第 9 課 ホテル業務内容	単語 リスニング
7	第 9 課	第 8 課小テスト 発音 口頭練習
8	第 10 課 料飲部門	単語 リスニング
9	第 10 課	第 9 課小テスト 発音 口頭練習
10	第 11 課 トラブル発生	単語 リスニング
11	第 11 課	第 10 課小テスト 発音 口頭練習
12	第 12 課 ホテル業界就職活動	第 11 課小テスト 単語 リスニング
13	第 12 課 ホテル業界情報	発音 口頭練習
14	授業時試験	復習と試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

**【テキスト（教科書）】**ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年  
三修社 1700 円

ISBN978-4-384-33477-7

**【参考書】**

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

**【成績評価の方法と基準】**期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

**【Outline and objectives】**

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

**【到達目標】**

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC®形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は6月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。また、それまでの期間は、共通教材による学習期間となる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Office 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Restaurant 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Department Store 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Airport 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Bank 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Duty-free Shop 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 7	Travel 聴解 Unit7 海の幸 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking 1 プレゼンテーションの方法	Rent-a-Car 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 1 英語 Paragraph 構成について プリント学習
第 10 回	Listening 小テスト 9 写真説明 Speaking 2 英文原稿の論理構成	Fitness Center 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 2 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 写真説明 Speaking 3 プレゼンテーション原稿作成（1）	Job Training 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 3 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験（含リスニング）・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくれることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Discovering Cool Japan「発掘！ かつこいいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー」津田晶子ほか SEIBIDO ¥2,500  
Listening Promoter for the TOEIC® Test 石井隆之ほか SEIBIDO ¥1,900

なお、メインテキストは PartI と II があり、テキスト本体には II のみが掲載されているため、PartI スクリプトのコピー冊子を作成して配布する。このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

**【参考書】**

Longman Academic Writing Series

**【成績評価の方法と基準】**

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度までの DVD は一般人のインタビューを素材とする Dictation 箇所の多いものだったが、今年度から日本をテーマにした内容で、ナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせで解答箇所も少なめのものにした。ディスカッションは生の音声を利用しているが、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるため、こういった音声を利用しての学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

## 【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

## English 2 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

## 【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と質疑応答によりスピーチに備える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Business Trip 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Vacation 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Pay 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Exhibition 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第6回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Shopping 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第7回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Hospital 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第8回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Train Station 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 1
第9回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Presentation 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 2
第10回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Lecture 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第11回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原 稿作成 (1)	Contract 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第12回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原 稿作成 (2)	Review Test3・4 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第13回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応 答
第14回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験 (含リ スニング)・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストーリーミングで再生可能。事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

Discovering Cool Japan「発掘! かつこいいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー」津田晶子ほか SEIBIDO ¥2,500  
Listening Promoter for the TOEIC® Test 石井隆之ほか SEIBIDO ¥1,900

なお、メインテキストは PartI と II があり、テキスト本体には II のみが掲載されているため、PartI スクリプトのコピー冊子を作成して配布する。このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

#### 【参考書】

Longman Academic Writing Series

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度までの DVD は一般人のインタビューを素材とする Dictation 箇所の多いものだったが、今年度から日本をテーマにした内容で、ナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせで解答箇所も少なめのものにした。ディスカッションは生の音声を利用しているが、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるため、こういった音声を利用しての学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

#### 【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - I

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

## 【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第 6 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第 7 回 英会話

クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 8 回 ツアー・休暇の過ごし方を提案する

自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。

第 9 回 リスニング

ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。

第 10 回 リスニング

ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。

第 11 回 プレゼンテーション原稿の作成

ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。

第 12 回 プレゼンテーション

各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第 13 回 英会話

クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 14 回 試験・まとめと解説

これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。

授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

## 【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

## 【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.  
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

## English 2- II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方をつけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

## 【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするできるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 5 回	英会話	クラスメートとともに日常的な英会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 9 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。まとめと解説

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.  
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。  
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

#### 【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。  
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

#### 【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。  
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。  
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。  
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

#### 【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。  
授業には必ず辞書を持参してください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。言語学習、SNS、技術と暮らしなど世界のトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

## 【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。  
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

少なくとも学期の前半はオンラインでの開講となる。それにととも各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。学習支援システムで授業が開始される日を5月7日(木)とする。第2回の授業までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

2回の授業でひとつの Unit を学習し、続く2回の授業で関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。各回では語彙力を高めるトレーニングと正確に聞き取る能力を高めるディクテーションを行う。また、ネイティブスピーカーの映像素材による基礎的な英語文法の確認も行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Unit2 (1) No Phones in French School	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
3	Unit2 (2) No Phones in French School	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit2 (3) No Phones in French School	Forming Your Opinion -Try this, too!
5	Unit2 (4) No Phones in French School	Presenting Your Opinion -Try this, too!
6	Unit3 (1) Food on Instagram	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)

7	Unit3 (2) Food on Instagram	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
8	Unit3 (3) Food on Instagram	Forming Your Opinion -Try this, too!
9	Unit3 (4) Food on Instagram	Presenting Your Opinion -Try this, too!
10	Unit5 (1) Knocker-Uppers	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
11	Unit5 (2) Knocker-Uppers	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
12	Unit5 (3) Knocker-Uppers	Forming Your Opinion -Try this, too!
13	Unit5 (4) Knocker-Uppers	Presenting Your Opinion -Try this, too!
14	期末試験・学期のまとめ・自主学習のアドバース	期末試験はテキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く3つの技能に関して問題を出題する。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。学期中に2回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.8』、朝日出版社、2020年、1800円（税別）

## 【参考書】

・『LINKS 1500—大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

少なくとも学期の前半がオンラインでの開講となったこととともない、以下に定めた成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法と基準は、第2回の授業までに学習支援システムで提示する。

平常点（予習課題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業ではDVDを使う。

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

## 【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。言語学習、SNS、技術と暮らしなど世界のトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

## 【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。

・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

2 回の授業でひとつの Unit を学習し、続く 2 回の授業で関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。各回では語彙力を高めるトレーニングと正確に聞き取る能力を高めるディクテーションを行う。また、ネイティブスピーカーの映像素材による基礎的な英語文法の確認も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Unit8 (1) Teaching English as a Second Language	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
3	Unit8 (2) Teaching English as a Second Language	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit8 (3) Teaching English as a Second Language	Forming Your Opinion -Try this, too!
5	Unit8 (4) Teaching English as a Second Language	Presenting Your Opinion -Try this, too!
6	Unit10 (1) Ikigai	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
7	Unit10 (2) Ikigai	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
8	Unit10 (3) Ikigai	Forming Your Opinion -Try this, too!
9	Unit10 (4) Ikigai	Presenting Your Opinion -Try this, too!

10	Unit11 (1) Workers in South Korea	Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
11	Unit11 (2) Workers in South Korea	Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
12	Unit11 (3) Workers in South Korea	Forming Your Opinion -Try this, too!
13	Unit11 (4) Workers in South Korea	Presenting Your Opinion -Try this, too!
14	期末試験・学期のまとめ・自主学習のアドバース	期末試験はテキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く 3 つの技能に関して問題を出題する。試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。学期中に 2 回語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

## 【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.8』、朝日出版社、2020 年、1800 円（税別）

## 【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では DVD を使う。

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

## 【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

## English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2020 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生はリスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画変更については、学習支援システムでその都度提示する。

この授業は5月中までは共通教材となるのでその指示に従うこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要およびテキストの説明 プリント教材
2	Unit 1 エンジン爆発で旅客機に穴！女性機長が見事に緊急着陸①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 エンジン爆発で旅客機に穴！女性機長が見事に緊急着陸②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 もはや SF ではない「空飛ぶ車」いよいよ実用化段階へ①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 もはや SF ではない「空飛ぶ車」いよいよ実用化段階へ②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 環境にも動物にもやさしい「肉を使わない肉」が香港進出①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 環境にも動物にもやさしい「肉を使わない肉」が香港進出②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 電気自動車・携帯用に需要急増！注目のレアメタル、コバルト①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

9	Unit 4 電気自動車・携帯用に需要急増！注目のレアメタル、コバルト②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 巨大な浮遊式フェンスで回収 海洋プラゴミ一掃作戦が始動①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 巨大な浮遊式フェンスで回収 海洋プラゴミ一掃作戦が始動②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
12	Unit 6 カクレクマノミを救え！豪小学校の「セービング・ニモ」計画①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 6 カクレクマノミを救え！豪小学校の「セービング・ニモ」計画②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験 まとめと解説	期末試験 これまでの授業内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は音声ダウンロードして聴いておく。

学生は語彙の予習しておく。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (21)

朝日出版 1900 円 + 税

## 【参考書】

特になし

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では DVD と CD を使う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は 3 回までとする。

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

遅刻 20 分以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

## English 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生はリスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming up	プリント教材
2	Unit 7 水に飲まれる米ルイジアナ州沿岸部 水没が急速に進行中①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 水に飲まれる米ルイジアナ州沿岸部 水没が急速に進行中②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 まるで本物！ AI による「ディープフェイク動画」の衝撃①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 まるで本物！ AI による「ディープフェイク動画」の衝撃②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 レンズがとらえた時代の動向 100 年企業「ニコン」①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 レンズがとらえた時代の動向 100 年企業「ニコン」②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

9	Unit 10 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 国が法制化 仏の小中学校で生徒のスマホ使用が全面禁止に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 国が法制化 仏の小中学校で生徒のスマホ使用が全面禁止に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
12	Unit 12 若者には負けられない！ 平均年齢 67 歳のシニア e スポーツチーム①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 12 若者には負けられない！ 平均年齢 67 歳のシニア e スポーツチーム②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験 まとめと解説	期末試験 これまでの授業内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、音声をダウンロードして聴いておく。  
学生は語彙の予習しておく。  
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (21)  
朝日出版 1900 円 + 税

## 【参考書】

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%  
各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。  
この授業では、全 14 回中、欠席は 3 回までとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。  
板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。  
授業では、DVD および CD を使用する。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。  
欠席は 3 回までとする。  
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。  
遅刻 20 分以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

## 【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は6月4日とし（5月中は共通課題による習熟度別クラス受講のための準備期間となる）、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／レポーターの指名 過去完了の使い方
②	Unit 1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／レポーターの発表 面接の英語表現
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／レポーターの指名 関係代名詞
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／レポーターの発表 電話の応対の英語表現
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの指名 助動詞
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの発表 反論する英語表現
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／レポーターの指名 現在進行形の使い方
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／レポーターの発表 困惑をしめす英語表現
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ 奇跡を起こす／レポーターの指名 助動詞の様々な使い分け
⑩	Unit 5 Andy Performs a Miracle (2)	アンディ 奇跡を起こす／レポーターの発表 依頼する英語表現・希望を伝える英語表現
⑪	Intermission The Princess Diaries (1)	アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。

- ⑫ Intermission The Princess Diaries (2) 前回に引き続き『プリティ・プリンセス』の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。
- ⑬ 復習と期末試験の説明 Unit 1 から Unit 5 の問題演習
- ⑭ 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらうように努力します。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

## 【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Guidance/ テストの返却	テストの返却
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇/レポーターの指名 仮定法
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇/レポーターの発表 驚きを示す英語表現
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ/レポーターの指名 動名詞
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ/レポーターの発表 提案の英語表現
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日/レポーターの指名 受動態
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日/レポーターの発表 意思・予定を述べる英語表現
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀/レポーターの指名 関係代名詞
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀/レポーターの発表 称賛を表す英語表現
⑩	Unit 10 Andy's Final Choice (1)	最後の選択/レポーターの指名 使役動詞
⑪	Unit 10 Andy's Final Choice (2)	最後の選択/レポーターの発表 丁寧な依頼の英語表現
⑫	Post feminism in popular culture	Paul Hodgkinson の 'Media Culture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。
⑬	復習と期末試験の説明	Unit 6 から Unit 10 の問題演習
⑭	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に参加すること。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

観光や海外旅行で使われる英語を学ぶ。

まず必要な語彙を学び、実際に使われる会話を聞き取り、また適切に表現することを目標とする。

**【到達目標】**

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。※初回授業は 4 月 23 日です。

クラス分けまでは共通課題に取り組んでください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課 第 1 課 In-Flight Announcements	この教科書の使い方 第 1 課 単語 ディクテーション
4	第 1 課	発音 口頭練習
5	第 2 課 At Immigration and Customs	単語 ディクテーション
6	第 2 課	第 1 課小テスト 発音 口頭練習
7	第 3 課 Getting to a Hotel	単語 ディクテーション
8	第 3 課	第 2 課小テスト 発音 口頭練習
9	第 4 課 Checking into a Hotel	第 3 課小テスト 単語 ディクテーション
10	第 4 課	発音 口頭練習
11	第 5 課 Checking in without a Reservation	第 4 課小テスト 単語 ディクテーション
12	第 5 課	発音 口頭練習

13	第 6 課 At a Restaurant	第 5 課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

**【テキスト（教科書）】**実用観光英語 -改訂新版- 鳥田 他著 2019 年 成美堂  
1900 円

ISBN978-4-7919-7185-5

**【参考書】**

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

**【成績評価の方法と基準】**期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

※今年は異例の授業設定ですので、教室での授業が行われない場合は、4 回以上の課題提出の合算にて評価します。

平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

**【Outline and objectives】**

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

観光や海外旅行で使われる英語を学ぶ。

まず必要な語彙を学び、実際に使われる会話を聞き取り、また適切に表現することを目標とする。

**【到達目標】**

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 Taking the Subway	単語 ディクテーション
3	第 7 課	発音 口頭練習
4	第 8 課 At a Fast -Food Restaurant	7 課小テスト 単語 ディクテーション
5	第 8 課	発音 口頭練習
6	第 9 課 Hotel Service	単語 ディクテーション
7	第 9 課	第 8 課小テスト 発音 口頭練習
8	第 10 課 Booking a Tour	単語 ディクテーション
9	第 10 課	第 9 課小テスト 発音 口頭練習
10	第 11 課 Health Care	単語 ディクテーション
11	第 11 課	第 10 課小テスト 発音 口頭練習
12	第 12 課 Shopping	第 11 課小テスト 単語 ディクテーション
13	予備日	復習・発表など
14	授業時試験	復習と試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

**【テキスト（教科書）】**

実用観光英語 -改訂新版- 鳥田 他著 2019 年 成美堂 1900 円

ISBN978-4-7919-7185-5

**【参考書】**

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

**【Outline and objectives】**

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

**【到達目標】**

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC®形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は6月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。また、それまでの期間は、共通教材による学習期間となる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Office 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Restaurant 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Department Store 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Airport 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Bank 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Duty-free Shop 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 7	Travel 聴解 Unit7 海の幸 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking 1 プレゼンテーションの方法	Rent-a-Car 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 1 英語 Paragraph 構成について プリント学習
第 10 回	Listening 小テスト 9 写真説明 Speaking 2 英文原稿の論理構成	Fitness Center 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 2 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 写真説明 Speaking 3 プレゼンテーション原稿作成（1）	Job Training 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 3 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験（含リスニング）・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくれることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Discovering Cool Japan「発掘！ かつこいいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー」津田晶子ほか SEIBIDO ¥2,500  
Listening Promoter for the TOEIC® Test 石井隆之ほか SEIBIDO ¥1,900

なお、メインテキストは PartI と II があり、テキスト本体には II のみが掲載されているため、PartI スクリプトのコピー冊子を作成して配布する。このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

**【参考書】**

Longman Academic Writing Series

**【成績評価の方法と基準】**

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度までの DVD は一般人のインタビューを素材とする Dictation 箇所の多いものだったが、今年度から日本をテーマにした内容で、ナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせで解答箇所も少なめのものにした。ディスカッションは生の音声を利用しているが、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるため、こういった音声を利用しての学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

## 【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

## English 2 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

## 【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と質疑応答によりスピーチに備える。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Business Trip 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Vacation 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Pay 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Exhibition 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Shopping 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Hospital 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Train Station 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Presentation 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Lecture 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原 稿作成 (1)	Contract 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原 稿作成 (2)	Review Test3・4 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応 答
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験 (含リ スニング)・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストーリーミングで再生可能。事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

Discovering Cool Japan「発掘! かつこいいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー」津田晶子ほか SEIBIDO ¥2,500  
Listening Promoter for the TOEIC® Test 石井隆之ほか SEIBIDO ¥1,900

なお、メインテキストは PartI と II があり、テキスト本体には II のみが掲載されているため、PartI スクリプトのコピー冊子を作成して配布する。このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

#### 【参考書】

Longman Academic Writing Series

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度までの DVD は一般人のインタビューを素材とする Dictation 箇所の多いものだったが、今年度から日本をテーマにした内容で、ナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせで解答箇所も少なめのものにした。ディスカッションは生の音声を利用しているが、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるため、こういった音声を利用しての学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

#### 【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

## English 2 - I

2017 年度以降入学者

## ストックウェル・エスター

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

## 【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content
Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 10	Giving opinions	Listening for agreement and disagreement
Unit 11	Talking about a vacation	Listening for gist and details
	City improvement	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

## 【テキスト（教科書）】

書名：Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名：Jack C. Richards with Grant Trew

発行所：Oxford University Press

## 【参考書】

Listening website for this class:

[www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e](http://www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e)

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

## 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

## English 2 - II

2017 年度以降入学者

## ストックウェル・エスター

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

## 【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 13	Talking about celebrations	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving messages	Listening for topics and details
Unit 17	Talking about time	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content
Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Famous lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Eating habits	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about problems	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

## 【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

## 【参考書】

Listening website for this class:

[www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e](http://www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e)

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

## 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ストックウェル・エスター

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

## 【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content
Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 10	Giving opinions	Listening for agreement and disagreement
Unit 11	Talking about a vacation	Listening for gist and details
	City improvement	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

## 【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

## 【参考書】

Listening website for this class:

[www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e](http://www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e)

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

## 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

## English 2 - II

2017 年度以降入学者

## ストックウェル・エスター

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

## 【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

## 【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 13	Talking about celebrations	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving messages	Listening for topics and details
Unit 17	Talking about time	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content
Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Famous lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Eating habits	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about problems	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

## 【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

## 【参考書】

Listening website for this class:

[www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e](http://www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e)

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

## 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

## 【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ1年：英語 a 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学者が書き下ろした essay を題材として、経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生はリスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、発表などを通して、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DPI

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画変更については、学習支援システムでその都度提示する。

この授業は5月中までは共通教材となるのでその指示に従うこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストの説明 および 授業の進め方の説明
2	Unit 1 Going viral: How are some people getting so famous online?①	Key words, Reading
3	Unit 1 Going viral: How are some people getting so famous online?②	Exercises
4	Unit 2 Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals?①	Key words, Reading
5	Unit 2 Tourist Traps: How is overtourism reshaping life for locals?②	Exercises
6	Unit 5 Fake news: How does false information pass off as news?①	Key words, Reading
7	Unit 5 Fake news: How does false information pass off as news?②	Exercises

8	Unit 6 Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction?①	Key words, Reading
9	Unit 6 Dead as a Dodo: Why are so many species facing extinction?②	Exercises
10	Unit 7 It's a Dry Heat: Where is the hottest place on Earth?①	Key words, Reading
11	Unit 7 It's a Dry Heat: Where is the hottest place on Earth?②	Exercises
12	Unit 10 Man versus Beast: How much of a threat do bears pose to people?①	Key words, Reading
13	Unit 10 Man versus Beast: How much of a threat do bears pose to people?②	Exercises
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は語彙の予習を必ずすること。  
学生は、日常から世の中の動きに関心を持ち、自分の意見を持つようにすること。  
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change The World  
グローバル時代を生き抜く変革への視点  
成美堂 1900 円+税

## 【参考書】

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。  
板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。授業では CD を使用する。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。  
欠席は3回までとする。  
遅刻3回で欠席1回とする。  
遅刻20分以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the text book.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 a 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学者が書き下ろした essay を題材として、経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生はリスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、発表などを通して、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。Unit はあらかじめ選んだものを扱うので、必ず確認すること。前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読し、トピックを選んで自分の意見を英文でまとめるところまで行う。グループワークで進めることが多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-Up	プリント教材
2	Unit 11 A Perfect World: How close are we to achieving world peace?①	Key Words, Reading
3	Unit 11 A Perfect World: How close are we to achieving world peace?②	Exercises
4	Unit 12 Modern Frankenstein : Will genetic engineering change life as we know it?①	Key Words, Reading
5	Unit 12 Modern Frankenstein : Will genetic engineering change life as we know it?②	Exercises
6	Unit 13 Tinted lenses: Is it possible to be truly objective?①	Key Words, Reading
7	Unit 13 Tinted lenses: Is it possible to be truly objective?②	Exercises

8 Unit 16  
Time Travel: Will it  
one day be possible  
to build a time  
machine?①

Key Words,  
Reading

9 Unit 16  
Time Travel: Will it  
one day be possible  
to build a time  
machine?②

Exercises

10 Unit 18  
The Endgame: Has  
artificial intelligence  
surpassed human?  
①

Key Words,  
Reading

11 Unit 18  
The Endgame: Has  
artificial intelligence  
surpassed human?  
②

Exercises

12 Unit 20  
Destination Mars :  
When will humans  
first set foot on the  
Red Planet?①

Key Words,  
Reading

13 Unit 20  
Destination Mars :  
When will humans  
first set foot on the  
Red Planet?②

Exercises

14 期末試験 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は語彙の予習を必ずすること。

学生は、日常から世の中の動きに関心を持ち、自分の意見を持つようにすること。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change The World

グローバル時代を生き抜く変革への視点

成美堂 1900 円 + 税

## 【参考書】

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では CD を使用する予定。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は 3 回までとする。

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

遅刻 20 分以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the text book.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・この授業（習熟度別クラス）の授業開始日は 6 月 1 日です。（4 月 21 日から 5 月 29 日までは共通教材による学習期間となります）

・出欠ガイドライン

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・課題回数は 10 回です。7 週の間で 10 回の授業（課題提出）を実施するので、後半部分では間隔が込み合いますので、予め承してください。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、授業の進め方および履修の方法を説明
第 2 回	Waking up to the media (Reading)	「身の回りに『情報』が溢れていること」の読解
第 3 回	Waking up to the media (exercises)	「身の回りに『情報』が溢れていること」の演習
第 4 回	Introducing the Media Jungle (Reading)	「『情報』理解の大切さについて」の読解
第 5 回	Introducing the Media Jungle (exercises)	「『情報』理解の大切さについて」の演習
第 6 回	“The Truth, the Whole Truth, and Nothing but the Truth” (Reading)	「『情報』は常に正しいのか」の読解
第 7 回	“The Truth, the Whole Truth, and Nothing but the Truth” (Exercises)	「『情報』は常に正しいのか」の演習
第 8 回	In Praise of Books (Reading)	「書物の重要性について」の読解
第 9 回	In Praise of Books (Exercises)	「書物の重要性について」の演習
第 10 回	“The News and Nothing but the News” (Reading)	「『新聞』の公平性について」の読解

第 11 回 “The News and Nothing but the News” (Exercises) 「『新聞』の公平性について」の演習

第 12 回 Watching Television: Is Seeing Believing? (Reading) 「テレビは真実を映しているのか」の読解

第 13 回 Watching Television: Is Seeing Believing? (Exercises) 「テレビは真実を映しているのか」の演習

第 14 回 期末試験と解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英単語調べおよび英文下読み以外にも、世界を含む自分の身の回りの出来事に関心を持って学習し、そのための準備をしておくことが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

John Bray 他: Cutting through the Media Jungle

(メディア社会を生きる)

成美堂 1,800 円 + 税

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

・出欠ガイドライン

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しな

かった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	The Internet and the Information Age(Reading)	「情報化時代の華-インターネット」の読解
第 2 回	The Internet and the Information Age(Exercises)	「情報化時代の華-インターネット」の演習
第 3 回	Bullies, Mobile Phones and the Internet(Reading)	「インターネット上のイジメに抗して」の読解
第 4 回	Bullies, Mobile Phones and the Internet(Exercises)	「インターネット上のイジメに抗して」の演習
第 5 回	Reading British Newspaper(Reading)	「イギリスの新聞を読む」の読解
第 6 回	Reading British Newspaper(Exercises)	「イギリスの新聞を読む」の演習
第 7 回	Lies, Half-truths and Propaganda(Reading)	「プロパガンダを解剖する」の読解
第 8 回	Lies, Half-truths and Propaganda(Exercises)	「プロパガンダを解剖する」の演習
第 9 回	Freedom and Censorship(Reading)	「自由と検閲のせめぎ合い」の読解
第 10 回	Freedom and Censorship(Exercises)	「自由と検閲のせめぎ合い」の演習
第 11 回	NGOs and Campaign Groups: Providing a Voice for the Voiceless(Reading)	「声なき声の代弁者 NGO」の読解
第 12 回	NGOs and Campaign Groups: Providing a Voice for the Voiceless(Exercises)	「声なき声の代弁者 NGO」の演習

第 13 回 Bridging the Digital Divide(Reading) 読解

第 14 回 期末試験と解説 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英単語調べおよび英文下読み以外にも、世界を含む自分の身の回りの出来事に関心を持って学習し、そのための準備をしておくことが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

John Bray 他: Cutting through the Media Jungle

(メディア社会を生きる)

成美堂 1,800 円 + 税

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものは無い。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 %を基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事英語の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	日本の新元号は「令和」／男中心の日本社会は人口動態危機に直面 皇室も
2	Unit 2	英語はもはや英米人だけのものではない
3	Unit 3	なぜ第 5 世代携帯電話は安全ではないのか？
4	Unit 4	ツタの陰から覗くハーバード大学 入学方法
5	Unit 5	アフリカにおける中国の優位性は 貸付金のおかげ
6	Unit 6	スイス人 大臣の英語力不足を嘲笑
7	Unit 7	なぜ無信仰者がノートルダム大聖堂の火災を悲しむのか？
8	Unit 8	タイガー・ウッズと人生ゲーム
9	Unit 9	iPS 細胞での脊髄損傷治療計画実施承認／iPS 細胞を用いたパーキンソン病治療の臨床試験
10	Unit 10	アカデミー賞は多様性に輝いたが、最後は大逆転
11	Unit 11	花崇拜を止めてコーランに
12	Unit 12	ベネズエラから徒歩で脱出
13	Unit 13	国境での米国の恥
14	期末試験	復習と試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Reading のテキストを読み、訳してくること。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Masami Takahasha, Noriko Itoh, Richard Powell/English through the News Media: 2020 edition (ニュースメディアの英語：演習と解説 2020 年度版), 朝日出版社, 2020 年, 1700 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English news and learn how to collect intelligence and to express their opinions through English.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事英語の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 14	オーストラリア人が移民を嫌うようになった理由
2	Unit 15	大統領にユダヤ人が選ばれ、心穏やかでないウクライナのユダヤ人
3	Unit 16	イラン革命 40 周年でイデオロギーによる日常生活の支配が緩む
4	Unit 17	本庄さん 日本は自然科学の基礎研究にもっと投資をと呼びかけ／ノーベル賞受賞研究がガン抑制
5	Unit 18	ケニアでは足が速いと身を減らす
6	Unit 19	英国の EU 離脱 その文化形態／シェイクスピアの出生地「王のいる島」英国が離脱を巡り分断された姿を映し出す
7	Unit 20	高層アパート崩壊でロシアの背骨にひずみが判明
8	Unit 21	フランス人 中国人によるぶどう園の名称変更に恐怖で縮み上がる
9	Unit 22	ローマ法王 ベルシヤ湾訪問時に率直にも遠慮無くタブーを破る／アイルランド人 より自由で、より教義主義の薄いローマカトリック教会を支持
10	Unit 23	科学技術を受容するが、それでもユダヤ教宗指導者の意見に従う
11	Unit 24	ブラックホールの初画像：光の墓場を覗き込む
12	Unit 25	ドイツ 高速道路で速度制限か？
13	Unit 26	混乱の中で途方に暮れたが優勝／大坂 2 大会連続優勝で注目の的
14	期末試験	復習と試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Reading のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell/English through the News Media: 2020 edition (ニュースメディアの英語：演習と解説 2020 年度版), 朝日出版社, 2020 年, 1700 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

期末試験 60 %

学期中に四回以上授業を欠席した場合は、原則として単位の修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English news and learn how to collect intelligence and to express their opinions through English.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

UK ロックの歴史を 50 年代から現代まで辿るテキストを使う。その精読及び速読を通して読解力を強化し、イギリスに対する理解を深めるとともに文化と社会の関係について考える。また、イギリス史を足掛かりに共時態の視点から日本の戦後史を見直し、歴史経験の違いと普遍性を見て行く。さらに、テキストに設定されたディベート演習を通して批判的な思考と論理的な文章を書く力を養う。テキストにはロックソングが教材として取り上げられているが、そのほか映画などを追加して英語の音声に慣れる機会も設ける。

## 【到達目標】

- (1) 単語の意味をつないで適当に文意を類推するのではなく、文の構造や修飾関係を正確に把握した上で内容が理解できる。
- (2) 様々なテーマについて複数の立場から考え、自分の考えを平易な英語で書くことが出来る。
- (3) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分を正しく聞き取ることが出来る。
- (4) 歴史を踏まえて異文化を理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストは全部で 15 ユニットから成っていますが、春学期は Unit 7 まで（ロック前史から 70 年代前半のパンクの登場まで）を扱い、映画鑑賞なども挟んで、特に 60 年代と 70 年代前半を丁寧に見て行きます。テキストは精読、速読を取り混ぜ、意味や構文の取りにくい文に特に注意を払いながら読んでいきますが、予習を促し理解を深めるため、プリント教材による読解演習や小テスト（辞書参照可）を追加する予定です。各ユニットの **Debate & Further Research** のセクションについては全部取り上げず、関連する日本社会の様々な側面に焦点を当てつつ、たたき台として短い作文（英文）を用意した上でグループで話し合ってもらいます。また、映画鑑賞の時間を設けるほか、テキストとは別にロックソングのディクテーションなどのリスニング演習を加えます。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は、共通教材による学習期間を経た後、6 月 1 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語読解のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Reading Practice Learning about History	Unit 1 Introduction: Rock Roots 若者文化台頭の歴史的背景
3	Reading Practice Writing Skills	Unit 1 パラグラフの構造
4	Reading Practice	Unit 2 1850s-1950s: Before Rock and Roll (速読) Unit 3 Early 1960s: Enter Rock and Roll

5	Learning about History Watching a Film	60 年代のイギリスと日本 <i>The Boat That Rocked</i> (1)
6	Reading Practice Watching a Film	Unit 3 <i>The Boat That Rocked</i> (2)
7	Reading Practice Group Talk	Unit 3 + Unit 4 Later 1960s: Into Psychedelic (速読) 60 年代の社会と文化の変化に関連したテーマ (1)
8	Reading Practice Learning about History	Unit 4 + Unit 5 Early 1970s: Prog Rock (速読) 70 年代前半のイギリスと日本
9	Reading Practice	Unit 5 + Unit 6 Early 1970s: Glam Rock
10	Reading Practice Group Talk	Unit 6 60 年代の社会と文化の変化に関連したテーマ (2)
11	Reading Practice Learning about History	Unit 6 70 年代後半のイギリスと日本
12	Reading Practice	Unit 7 Mid-1970s: Punk Rock
13	Reading Practice Group Talk	Unit 7 パンクロックに関連したテーマ
14	期末テスト	総括 + 読解の復習テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Reading Passage の予習は必須。未知の単語を調べるのは勿論のこと、すぐに答えられるよう、精読のユニットはきちんと和訳しておく。また、文の構造や文意についても自分の頭でよく考え、疑問点があれば洗い出し、授業で質問して解消した上で復習しておく。グループトーク/ディベートに備え、必要なりサーチを行い、短い英文の文章を用意する。

## 【テキスト（教科書）】

Paul Hullah & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

## 【参考書】

特に指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

&lt;成績評価の方法&gt;

- ・期末に読解の復習テストを実施します。
- ・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
- ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

&lt;成績評価基準・評価の配分等&gt;

- ・期末テストと読解の小テスト及び演習は到達目標の (1)(4) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、地道な努力が出来ているかどうかを見ます。
- ・英作文やグループトークは到達目標の (1)~(4) に対応し、必要な資料を読み込んだり聞いたりして、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語で表現出来ているかどうかを見ます。
- ・上記のほか、到達目標の (1)~(4) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末テスト (50%)、読解の小テスト及びグループトーク用英作文 (30%)、平常点 (英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など) (20%)

なお、上記はあくまで通常の場合の方法と基準であり、今回、春学期の少なくとも前半がオンライン授業での開講となったことに伴い、変更の必要が生じると考えられます。変更後の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、グループトークの時間を十分取るようにします。

## 【Outline and objectives】

It is often said that in Britain the movements and styles of rock music, a key element of youth culture, are closely connected with the period and social climate from which they emerge. In this course, therefore, students will see how rock songs have reflected the views and moods of British people since the 1950s when rock music first arrived in Britain from the U.S. By reading the texts carefully, they are expected to develop the reading skills necessary to grasp the structure of complex sentences accurately. They will also, by exploring the history of UK rock music, not only learn more about Britain and the British but also understand the historical relationship between culture and society. Thereby, they will be able to expand their horizons as well. There will also be time for debate or group talk, and students are required to write, in English, a few short essays for them.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

70 年代後半から 2000 年代にいたる文化と歴史の関係について、特に 80 年代と 90 年代を中心にイギリスと日本を比較しながら考察する。また、引き続き Writing と Listening の力の向上を目指し、Reading については、正確に、かつ速くたくさん読める力を養う。

## 【到達目標】

- (1) Reading, Listening とともに英語の語順通りに意味を取ることが出来る。
- (2) 速読のコツを掴み、効率的な読み方が出来る。
- (3) グループトークを通して自分の考えを論理的かつ説得力のある英語で表現し、異文化や社会の課題についてより深く批判的な考察が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じで、テキスト後半の Unit 9 からを対象（Unit 8 は省略予定）とします。また、Skimming や Scanning などの代表的な速読方法を学び、より効率的な速読が出来るようにします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading Skills Learning about History	Skimming & Scanning について 80 年代のイギリスと日本
2	Reading Practice	Unit 12 Women in UK Rock (速読)
3	Reading Practice	Unit 9 Early 1980s: New Romanticism, etc.
4	Reading Practice Group Talk	Unit 9 フェミニズムに関連したテーマ
5	Reading Practice	Unit 10 Later 1980s: Romantic Realism
6	Reading Practice Learning about History	Unit 10 90 年代のイギリスと日本
7	Reading Practice Group Talk	Unit 11 1990s: Britpop 80 年代の社会に関連したテーマ
8	Reading Practice Watching a Film	Unit 11 <i>Billy Elliot</i> (1)
9	Reading Practice Watching a Film	Unit 11 <i>Billy Elliot</i> (2)
10	Reading Practice Group Talk	Unit 13 1980s-Present: Dance Music (速読) 90 年代の社会もしくはジェン ダーに関連したテーマ
11	Reading Practice	Unit 14 2000s-Present: Where Now? Where Next?
12	Reading Practice	Unit 14
13	Reading Practice	Unit 15 Conclusion: Function of Rock (速読) + Q & A
14	期末テスト	総括 + 読解の復習テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。春学期同様、Reading Passage の予習は必須。ほかに、読解演習のプリントなどを使った復習やグループトークに備えたりサーチ及び英作文など。

**【テキスト（教科書）】**

Paul Hullar & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

**【参考書】**

特に指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

＜成績評価の方法＞

- ・期末に読解の復習テストを実施します。
  - ・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
  - ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。
- ＜成績評価基準・評価の配分等＞
- ・期末テストと読解の小テスト及び演習は到達目標の (1)(2) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、地道な努力が来ているかどうかを見ます。
  - ・英作文やグループトークは到達目標の (1)～(3) に対応し、必要な資料を読み込んだり聞いたりして、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語で表現出来ているかどうかを見ます。
  - ・上記のほか、到達目標の (1)～(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末テスト (50%)、読解の小テスト及びグループトーク用英作文 (30%)、平常点（英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など）(20%)

**【学生の意見等からの気づき】**

説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、グループトークの時間を十分取るようにします。

**【Outline and objectives】**

You will continue to read about the historical relationship between culture and society from the later 1970s to the present and to compare the post-war histories of Britain and Japan. In addition, you are expected to understand complex sentences as you read them without translating each of them into Japanese, which is necessary for extensive reading and should also lead to your developing confidence in listening.

LANe100LA

**英語 1 - I**

2017 年度以降入学者

**光野 昭雄**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 e 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境宣言を英文で読みながら、人口問題、温暖化等の環境問題について考える。

**【到達目標】**

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入力し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてもらうこともある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その①
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その②
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥
第 8 回	ストックホルム宣言	宣言文その①
第 9 回	ストックホルム宣言	宣言文その②
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その③
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その④
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑤
第 13 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑥
第 14 回	総復習	13 回までの復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

人間環境宣言（鳳書房）

**【参考書】**

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

**【成績評価の方法と基準】**

環境問題に関する基本的英文の理解力を試す。

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

**【学生の意見等からの気づき】**

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

## 【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 e 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら。温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

## 【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてもらうこともある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その①
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その②
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④
第 5 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑤
第 6 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑥
第 7 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑦
第 8 回	東京宣言	宣言文その①
第 9 回	東京宣言	宣言文その②
第 10 回	東京宣言	宣言文その③
第 11 回	東京宣言	宣言文その④
第 12 回	東京宣言	宣言文その⑤
第 13 回	東京宣言	宣言文その⑥
第 14 回	総復習	1-3 回までの内容の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

## 【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得は認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

## 【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

鈴木 博雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学 1 年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

## 【到達目標】

日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・英語の文章の構造を踏まえながら、精読、速読の作業を並行して行う。

・質疑応答により、予習や復習の状況を確認する。

## 【2020.4.20 追記】

本授業は習熟度別クラス編成による授業のため、5 月 30 日（土）までの共通教材による学習期間を経て、本授業の開始日を 6 月 1 日（月）とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法、成績評価の方法と基準などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 1 前半	The amazing flying chair ①
2	テキスト Unit 1 後半	The amazing flying chair ②
3	テキスト Unit 2 前半	Dropping out of high school ①
4	テキスト Unit 2 後半	Dropping out of high school ②
5	テキスト Unit 3 前半	Bad medical advice?①
6	テキスト Unit 3 後半	Bad medical advice?②
7	テキスト Unit 4 前半	The Colonel's bad luck ①
8	テキスト Unit 4 後半	The Colonel's bad luck ②
9	テキスト Unit 5 前半	A world without birds ①
10	テキスト Unit 5 後半	A world without birds ②
11	テキスト Unit 6 前半	The great invention ①
12	テキスト Unit 6 後半	The great invention ②
13	テキスト Unit 7 前半	Garlic, wonder root ①
14	テキスト Unit 7 後半	Garlic, wonder root ②

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『Premium Reader』（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3909-3】

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実に図りたい。

・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

## 【Outline and objectives】

(1) To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen.

(2) By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

鈴木 博雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

## 【到達目標】

春学期に養成した学力を踏まえ、大学 1 年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・英語の文章の構造を踏まえながら、春学期よりも一層高度な精読、速読の作業を並行して行う。
- ・英文内容についての質疑応答を行い、予習、復習の状況を確認する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8 前半	John Chapman, a strange, but heroic man ①
2	Unit 8 後半	John Chapman, a strange, but heroic man ②
3	Unit 9 前半	Baseball curses ①
4	Unit 9 後半	Baseball curses ②
5	Unit 10 前半	Untimely death ①
6	Unit 10 後半	Untimely death ②
7	Unit 11 前半	Train gropers ①
8	Unit 11 後半	Train gropers ②
9	Unit 12 前半	Japan saves an anime star ①
10	Unit 12 後半	Japan saves an anime star ②
11	Unit 13 前半	Seeing red ①
12	Unit 13 後半	Seeing red ②
13	Unit 14 前半	What's your wish?①
14	Unit 14 後半	What's your wish?②

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

【Premium Reader】（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3909-3】

## 【参考書】

適宜、指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

## 【Outline and objectives】

(1) To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen after learning English in the spring semester.

(2) By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ1年：英語 g 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・この授業（習熟度別クラス）の授業開始日は6月1日です。（4月21日から5月29日までは共通教材による学習期間となります）

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・課題回数は10回です。7週の間で10回の授業（課題提出）を実施するので、後半部分では間隔が込み合いますので、予め承してください。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容の説明、履修方法について説明
第2回	Japan's next era to be named Reiwa 及び Patriarchal Japan faces a Demographic Crisis. And So Do Its Royals.	「日本の新元号は『令和』」の読解 及び 「男中心の日本社会は人口動態危機に直面 皇室も」の読解
第3回	Brits and Americans no longer own English	「英語はもはや英米人だけのものではない」の読解
第4回	Why isn't 5G secure?	「なぜ第5世代携帯電話は安全ではないのか？」の読解
第5回	A Peek Behind the Ivy: How to Get into Harvard	「ツタの陰から覗くハーバード大 学入学方法」の読解
第6回	China's edge in Africa: Loans	「アフリカにおける中国の優位性は貸付金のおかげ」の読解
第7回	Swiss mock a top official for his lack of English	「スイス人 大臣の英語力不足を嘲笑」の読解
第8回	Why do nonbelievers grieve for Notre-Dame?	「なぜ無信仰者がノートルダム大聖堂の火災を悲しむのか？」の読解
第9回	Tiger Woods and the Game of Life	「タイガー・ウッズと人生ゲーム」の読解

第10回	Spine injury iPS trial approved 及び iPS cells used in treatment for Parkinson's	「iPS 細胞での脊髄損傷治療計画 実施承認」の読解 及び 「iPS 細胞を用いたパーキンソン病治療の臨床試験」の読解
第11回	Diversity ruled at Oscars. Then came a plot twist.	「アカデミー賞は多様性に輝いたが、最後は大逆転」の読解
第12回	Flower worship gives way to Quran	「花崇拝を止めてコーランに」の読解
第13回	Fleeing Venezuela on foot	「ベネズエラから徒歩で脱出」の読解
第14回	期末試験と解説	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に興味を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤 他編著  
English through the News Media 2020 Edition  
(ニュースメディアの英語 2020 年度版)  
朝日出版社 1,700 円 + 税

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しな

かった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 g 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

## 【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Our disgrace on the border	「国境での米国の恥」の読解
第 2 回	Why Australia soured on idea of immigrants	「オーストラリア人が移民を嫌うようになった理由」の読解
第 3 回	Some Ukraine Jews are unhappy a Jew was elected President	「大統領にユダヤ人が選ばれ、心穏やかでないウクライナのユダヤ人」の読解
第 4 回	Revolution at 40: Iranians Loosen Ideology's Grip on Daily Life	「イラン革命 40 周年でイデオロギーによる日常生活の支配が緩む」の読解
第 5 回	Honjo hopes Japan invests more in science 及び Nobel winners' work put brakes on cancer	「本庄さん 日本は自然科学の基礎研究にもっと投資をと呼びかけ」の読解 及び 「ノーベル賞受賞研究がガン抑制」の読解
第 6 回	In Kenya, running can be a road to ruin	「ケニアでは足が速いと身を滅ぼす」の読解
第 7 回	Brexit: A cultural morphology 及び Shakespeare's birthplace mirrors a 'scepter'd isle' riven by Brexit discontent	「英国の EU 離脱 その文化的背景」の読解 及び 「シェイクスピアの出生地『王のいる島』英国が離脱を巡り分断された姿を映し出す」の読解
第 8 回	Strain on Russia's backbone	「高層アパート崩壊でロシアの背骨にひずみが判明」の読解
第 9 回	French cringe as Chinese rename vineyards	「フランス人 中国人によるぶどう園の名称変更恐怖で縮み上がる」の読解

第 10 回 Pope, Candid and Blunt, Breaks Some Taboos in Visit to Persian Gulf  
及び  
Irish favour more liberal, less dogmatic, Catholic Church

「ローマ法王 ペルシャ湾訪問時に率直にも遠慮無くタブーを破る」の読解  
及び  
「アイルランド人より自由で、より教義主義の薄いローマカトリック教会を支持」の読解

第 11 回 Embracing tech, but still listening to the rabbi

「科学技術を受容するが、それでもユダヤ教指導者の意見に従う」の読解

第 12 回 Peering into light's graveyard: the first image of a Black Hole

「ブラックホールの初画像：光の墓場を覗き込む」の読解

第 13 回 Speed limit on the autobahn?

「ドイツ 高速道路で速度制限か？」の読解

第 14 回 期末試験と解説

試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に興味を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

伊藤 他編著

English through the News Media 2020 Edition  
(ニュースメディアの英語 2020 年度版)

朝日出版社 1,700 円 + 税

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。  
学生が予習済みであれば進度は速くなる。

## 【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

## 【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となったので、学習支援システムを用いて行う。各回の内容については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 6 月 2 日とする。

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉え、うたえ文章全体の内容を適切に読み取っていく。また、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	日本の新元号は「令和」—読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	日本の新元号は「令和」—練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	英語はもはや英米人だけのものではない—読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	英語はもはや英米人だけのものではない—練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	なぜ第 5 世代携帯電話は安全ではないのか?—読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	なぜ第 5 世代携帯電話は安全ではないのか?—練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	アフリカにおける中国の優位性は貸付金のおかげ—読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	アフリカにおける中国の優位性は貸付金のおかげ—練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	iPS 細胞での脊髄損傷治療計画実施承認—読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	iPS 細胞での脊髄損傷治療計画実施承認—練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	花崇拝を止めてコーランに—読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	花崇拝を止めてコーランに—練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に本文の単語を調べて文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

## 【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media -2020- 朝日出版社、2020 年 1 月

## 【参考書】

指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン課題内容（100%）に基づいて評価する。原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各ユニットの内容を着実に消化させる。

## 【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。

初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

## 【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students understand the contents of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

## 【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。また、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Unit 7	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Unit 7 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	ベネズエラから徒歩で脱出一読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	ベネズエラから徒歩で脱出一練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	国境での米国の恥一読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	国境での米国の恥一練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	大統領にユダヤ人が選ばれ、心穏やかでないウクライナのユダヤ人一読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	大統領にユダヤ人が選ばれ、心穏やかでないウクライナのユダヤ人一練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	イラン革命 40 周年でイデオロギーによる日常生活の支配が緩む一読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	イラン革命 40 周年でイデオロギーによる日常生活の支配が緩む一練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	ケニアでは足が速いと身を減らす一読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	ケニアでは足が速いと身を減らす一練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	高層アパート崩壊でロシアの背骨にひずみが判明一読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	高層アパート崩壊でロシアの背骨にひずみが判明一練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に本文の単語を調べ文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

## 【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media -2020- 朝日出版社、2020 年 1 月

## 【参考書】

指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80% と平常点 20% に基づいて評価する。

原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各ユニットの内容を着実に消化させる。

## 【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。

初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

## 【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students understand the contents of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1  
 単位数：1 単位  
 キ 1 年：英語 i 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

## 【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳して行く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	試験的に和訳し進度等を説明する。
第 2 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその①
第 3 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその②
第 4 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその③
第 5 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその④
第 6 回	Gateway to the USA	確認テスト
第 7 回	the Melting Pot	人種のるつぼその①
第 8 回	the Melting Pot	人種のるつぼその②
第 9 回	the Melting Pot	人種のるつぼその③
第 10 回	the Melting Pot	人種のるつぼその④
第 11 回	the Melting Pot	確認テスト
第 12 回	the American Character	アメリカ人の特質その①
第 13 回	the American Character	アメリカ人の特質その②
第 14 回	総復習	13 回までの復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

## 【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

## 【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

## 【Outline and objectives】

This class will show you how your reading skill on America can be developed.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1  
 単位数：1 単位  
 キ 1 年：英語 i 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

## 【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳して行く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	American English	アメリカ英語その①
第 2 回	American English	アメリカ英語その②
第 3 回	American English	アメリカ英語その③
第 4 回	American English	アメリカ英語その④
第 5 回	American English	確認テスト
第 6 回	Blacks and Whites	人種問題その①
第 7 回	Blacks and Whites	人種問題その②
第 8 回	Blacks and Whites	人種問題その③
第 9 回	Blacks and Whites	人種問題その④
第 10 回	Blacks and Whites	確認テスト
第 11 回	The American Indians	インディアン問題その①
第 12 回	The American Indians	インディアン問題その②
第 13 回	The American Indians	インディアン問題その③
第 14 回	総復習	13 回までの復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

## 【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

## 【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

## 【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on America can be developed.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 j 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

## 【到達目標】

大学生として抑えておきたい心理学的、社会学的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

授業は、4月21日からです。5月29日までは共通教材による学習期間とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	発音ドリル	発音の確認
第 3 講	Lesson 1(1) What Is Business Psychology?	内容の講読
第 4 講	Lesson 1(2) What Is Business Psychology?	内容の要約と意見のまとめ
第 5 講	Lesson 2 (2) The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 2 The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 3 Rest Assured	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 4 Working with Robots	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第 9 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 1	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 2
第 10 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 2	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1 (プレゼンの作成)
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2 (発表準備)

復習 全体の復習

復習 (テキスト Lesson1-5 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)

総括 総括

全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

## 【テキスト（教科書）】

Mind Matters -The Psychology of Business and Work- Jim Knudsen 著 南雲堂  
ISBN 978-4-523-17859-0

## 【参考書】

授業時に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の教場練習への参加程度 (10%)、プレゼンテーション (30%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めません。  
本年度特殊事情により、前期の成績評価は、4 回以上の課題提出の見込みです。

## 【学生の意見等からの気づき】

クラスの数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張ってくださいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

## 【その他の重要事項】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

## 【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 j 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

## 【到達目標】

大学生として抑えておきたい心理学的、社会的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。グループ・プレゼンテーションでは、英語で自分の意見を言えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、英語で発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	夏休みの出来事を書く	夏休みの出来事をテンプレートを 用いて書く
第 3 講	夏休みの予定を書く	夏休みの予定をテンプレートを 用いて書く
第 4 講	Lesson 7 Me, Myself, and I	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 5 講	Lesson 8 Give and Take	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 9 What a Troublemaker: The Office Gossip	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 10 What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 11 Handsome Is As Handsome Does	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第 9 講	Lesson 12 My Space, Your Space	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 2
第 10 講	Lesson 13 So You Want to Be An Entrepreneur	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション 3 (打ち合わせ)
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション 4 (リハーサル練習)

4

復習 全体の復習

復習 (テキスト Lesson7-13 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)

総括 総括

全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

## 【テキスト（教科書）】

Mind Matters - The Psychology of Business and Work - Jim Knudsen 著 南雲堂 2017 年 ISBN 978-4-523-17859-0

## 【参考書】

授業時に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の練習への参加程度 (10%)、プレゼンテーション (30%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

## 【学生の意見等からの気づき】

クラスの数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張ってくださいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

## 【その他の重要事項】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

## 【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

宮本 和恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1  
 単位数：1 単位  
 キ 1 年：英語 k 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、読解力向上を主眼としています。

## 【到達目標】

辞書を使わなくとも、ある程度の内容を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	学習の進め方について説明する
2	文型	歌舞伎を革新する松本幸四郎
3	文型	「歌舞伎を革新する松本幸四郎」の読解展開
4	時制	日本の知性
5	助動詞	傑物
6	名詞・代名詞	オバマ広島スピーチ
7	名詞・代名詞	「オバマ広島スピーチ」の読解展開
8	形容詞	多様化する IoT
9	形容詞	「多様化する IoT」の読解展開
10	副詞	金融効率化
11	副詞	「金融効率化」の読解展開
12	比較	癌の救世主
13	比較	「癌の救世主」の読解展開
14	復習	内容の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

進化する日本 南雲堂

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト。小テスト 60%  
 平常点 40%  
 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない  
 遅刻は 30 分まで、それ以降は欠席扱いとする  
 遅刻 3 回で欠席 1 回とする

## 【学生の意見等からの気づき】

学生は、ゆっくりの進捗を希望している

## 【Outline and objectives】

Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

宮本 和恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1  
 単位数：1 単位  
 キ 1 年：英語 k 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、読解力向上に主眼を置いている

## 【到達目標】

辞書を使わなくとも、ある程度、理解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受動態	生態系を解析
2	受動態	「生態系を解析」の読解展開
3	分詞	北限の椿
4	分詞	「北限の椿」の読解展開
5	動名詞	至上の米
6	動名詞	「至上の米」の読解展開
7	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」
8	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」の読解展開
9	前置詞	リーズナブルなジェネリック医薬品
10	前置詞	「リーズナブルなジェネリック医薬品」の読解展開
11	接続詞	夢の自動運転車
12	接続詞	「夢の自動運転車」の読解展開
13	仮定法	無限の再生可能エネルギー
14	復習	内容の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

## 【テキスト（教科書）】

進化する日本 南雲堂

## 【参考書】

特に指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%  
 平常点 40%  
 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない  
 遅刻は 30 分まで、それ以降は欠席扱いとする  
 遅刻 3 回で欠席 1 回とする

## 【学生の意見等からの気づき】

学生はゆっくりした進捗を望んでいる

## 【Outline and objectives】

Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 I 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができるようにします。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読むだけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

## 【到達目標】

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
- ②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
- ③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようにする。
- ④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- ⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむこと目的に速読と精読を組み合わせます。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの課題やグループワークなども行う予定です。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介 現在のリーディング力を診断
第 2 回	英文の内容を予測する	知らない単語を推測する 辞書の効果的な使い方を学ぶ
第 3 回	英文の内容を予測する	トピック：社会——仮想水
第 4 回	英文の内容を予測する	トピック：文化——イギリス王室
第 5 回	メインアイデアを理解する	トピック：科学——生物と科学技術
第 6 回	メインアイデアを理解する	トピック：文化——ポピュラーカルチャー
第 7 回	メインアイデアを理解する	トピックセンテンスを参考に長文の要約をする
第 8 回	メインアイデアを理解する	トピック：科学——涙の味
第 9 回	詳細情報を理解する	トピック：社会——日本の企業と企業の取り組み
第 10 回	シグナルワードを理解する	トピック：社会・科学——オリンピックと水着の開発技術
第 11 回	シグナルワードを理解する	トピック：医学——心臓移植と感情
第 12 回	シグナルワードを理解する	トピック：社会・文化——セールストーク
第 13 回	シグナルワードを理解する	トピック：社会——知的財産
第 14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をすること。

また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Reader's Ark Basic(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

## 【参考書】

適宜授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加状況、宿題、課題等を含む）30%、期末テスト 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

## 【その他の重要事項】

4 回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。

遅刻 3 回で欠席 1 扱い。原則として 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。

辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.

This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 I 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができますようにします。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読むだけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

## 【到達目標】

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
- ②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
- ③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
- ④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- ⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむこと目的に速読と精読を組み合わせます。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの課題やグループワークなども行う予定です。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明 前期の復習
第 2 回	指示語を理解する	トピック：社会——カモフラージュ
第 3 回	指示語を理解する	トピック：文化——音楽
第 4 回	パラグラフ構造を学ぶ	「比較」と「対照」の理解 トピック：文化——休暇
第 5 回	パラグラフ構造を学ぶ	「比較」と「対照」の理解 トピック：科学——生物学と分類
第 6 回	パラグラフ構造を学ぶ	「原因」と「結果」の理解 トピック：心理学——精神と病
第 7 回	パラグラフ構造を学ぶ	「原因」と「結果」の理解 トピック：社会——ゲーム理論
第 8 回	グループワーク（プレゼンテーション準備）	与えられた課題についてグループで取り組む
第 9 回	グループワーク発表	グループワークの成果をプレゼンテーションする
第 10 回	パラグラフ構造を学ぶ	「時間順序」の理解 トピック：文化——料理
第 11 回	パラグラフ構造を学ぶ	「時間順序」の理解 トピック：文化——ミッキーマウスの誕生
第 12 回	パラグラフ構造を学ぶ	「問題解決」の理解 トピック：文化——砂漠でのサバイバル
第 13 回	パラグラフ構造を学ぶ	「問題解決」の理解 トピック：文化——サバイバル法
第 14 回	まとめ	まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をすること。

また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Reader's Ark Basic(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

## 【参考書】

適宜授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加状況、宿題、課題等を含む）30%、期末テスト 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

## 【その他の重要事項】

4 回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。

遅刻 3 回で欠席 1 扱い。原則として 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。

辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.

This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

LANe100LA

## 英語 1 - I

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ1年：英語 m 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

## 【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『タイタニック』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 映画『タイタニック』のあらすじと時代背景を理解する。
第 2 回	'My Heart Will Go On' Celine Dion	Celine Dion 'My Heart Will Go On' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 3 回	リスニング (TOEIC・写真描写問題)	TOEIC 形式の写真描写問題を解く。
第 4 回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの和訳)	カナダのナショナル・アイデンティティに関する英文を日本語に訳す。
第 5 回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの内容理解)	ナショナル・アイデンティティにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 6 回	Maroon 5 'Sugar'	Maroon 5 'Sugar' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング (TOEIC・応答問題)	TOEIC 形式の応答問題を解く。
第 8 回	リーディング (結婚文化の和訳)	欧米の結婚に関する英文を日本語に訳す。
第 9 回	リーディング (結婚文化の内容理解)	欧米の結婚にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 10 回	『ズートピア』	映画『ズートピア』のあらすじと背景を理解する。
第 11 回	'Try Everything'	'Try Everything' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング (迷信の和訳)	欧米の迷信にまつわる英文を日本語に訳す。
第 14 回	リーディング (迷信の内容理解)	欧米の迷信にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 14 回	授業内試験	春学期に学んだ内容に関する筆記試験 (リスニング問題を含む) を行う。・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できない箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授業で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition) (『ポップスで学ぶ総合英語』) . 角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

## 【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』(中級編) 第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加 (20%) と期末試験 (80%) の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

## 【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly reading and listening abilities.

Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics.

You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.

LANe100LA

## 英語 1 - II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 m 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

## 【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『アナと雪の女王』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 『アナと雪の女王』のあらすじと背景を理解する。
第 2 回	'Let It Go'	'Let It Go' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 3 回	リスニング (TOEIC・会話問題)	TOEIC 形式の会話問題を解く。
第 4 回	リーディング (ディズニー・和訳)	ディズニーに関する英文を日本語に訳す。
第 5 回	リーディング (ディズニー・内容理解)	ディズニーにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 6 回	Bruno Mars 'Just The Way You Are'	Bruno Mars 'Just The Way You Are' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング (説明文問題)	TOEIC 形式の説明文問題を解く。
第 8 回	『ハリーポッター』	映画『ハリーポッター』のあらすじと背景を理解する。
第 9 回	リーディング (ハリーポッター・和訳)	『ハリー・ポッター』に関する英文を日本語に訳す。
第 10 回	リーディング (ハリーポッター・内容理解)	『ハリー・ポッター』にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 11 回	Ariana Grande 'Santa Tell Me'	Ariana Grande 'Santa Tell Me' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング (クリスマス・和訳)	クリスマスに関する英文を訳して、その内容を理解する。
第 13 回	リーディング (クリスマス・内容理解)	クリスマスにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 14 回	授業内試験	春学期に学んだ内容に関する筆記試験 (リスニング問題を含む) を行う。・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。

授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できない箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授業で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition) (『ポップスで学ぶ総合英語』・角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869)

## 【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』(中級編) 第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加 (20%) と期末試験 (80%) の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

## 【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

## 【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly reading and listening abilities.

Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics.

You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 a 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語によるコミュニケーションのための、様々な文章における能力を養う。

## 【到達目標】

英語の表現や文章の意味内容を正確に聞き取る能力を養う。また自己の考えや意思を、口頭の英語で的確に表現し伝達し得る力を養う。さらに自己の考えや意思を、英語を書くことで簡潔に表現し、文章を通して伝達する力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・この授業（習熟度別クラス）の授業開始日は6月1日です。（4月21日から5月29日までは共通教材による学習期間となります）

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・課題回数は10回です。7週の間で10回の授業（課題提出）を実施するので、後半部分では間隔が込み合いますので、予め了承してください。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容についての説明、及び履修の仕方を説明
第2回	Nice to Meet You!(Reading)	「挨拶」についての読解
第3回	Nice to Meet You!(Listening Exercises)	「挨拶」についてのリスニング演習
第4回	Don't Be Late(Reading)	海外渡航についての読解
第5回	Don't Be Late (Listening Exercises)	海外渡航についてのリスニング演習
第6回	What Sports Do You Like? (Reading)	「スポーツ」についての読解
第7回	What Sports Do You Like? (Listening Exercises)	「スポーツ」についてのリスニング演習
第8回	Which Hotel Do You Recommend? (Reading)	「宿泊施設」についての読解
第9回	Which Hotel Do You Recommend?(Listening Exercises)	「宿泊施設」についてのリスニング演習
第10回	Let's See the Sights!	「観光」と「冒険」についての読解 (Reading)

第11回 Let's See the Sights! (Listening Exercises) 「観光」と「冒険」についてのリスニング演習

第12回 Can I Take Your Order? (Reading) 「食事」についての読解

第13回 Can I Take Your Order? (Listening Exercises) 「食事」についてのリスニング演習

第14回 期末試験と解説 リスニングおよび筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語の単語下調べ、および英文素読以外にも、日頃から英語の「音」に慣れることが必要です

## 【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しな

かった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課

題の評価（60%）で原則として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 a 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語 2 - I を踏まえ、リスニングにおいては、より速い聞き取り能力が身に付くための反復練習を行う。

## 【到達目標】

口頭表現においては、発音と発声、個々の表現の正確な意味内容を理解し、日常生活の会話等の場面の中での表現を練習する。文章表現においては、前提的な知識として基本的な重要構文が記憶されている必要があり、その知識を繰り返し確認する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、リスニングおよびディクテーションの練習をする。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Cash or Charge? (Reading)	「買い物」についての読解
第 2 回	Cash or Charge? (Listening Exercises)	「買い物」についてのリスニング演習
第 3 回	Entertainment (Reading)	「娯楽」についての読解
第 4 回	Entertainment (Listening exercises)	「娯楽」についてのリスニング演習
第 5 回	Can You Tell Me the Way (Reading)	「町歩き」についての読解
第 6 回	Can You Tell Me the Way (Listening Exercises)	「町歩き」についてのリスニング演習
第 7 回	Would You Like to Go Out? (Reading)	「デート」についての読解
第 8 回	Would You Like to Go Out? (Listening Exercises)	「デート」についてのリスニング演習
第 9 回	Home Sweet Home (Reading & Listening exercises)	「住まい」についての読解およびリスニング演習
第 10 回	Health and Safety (Reading)	「健康と安全」についての読解
第 11 回	Health and Safety (Listening Exercises)	「健康と安全」についてのリスニング演習
第 12 回	Communications and the Internet (Reading)	「インターネット」についての読解
第 13 回	Communications and the Internet (Listening exercises)	「インターネット」についてのリスニング演習
第 14 回	期末試験と解説	リスニングおよび筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から英語の「音」とその速度に慣れ親しむこと

## 【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。教科書を持参しない場合、出席とは扱わない。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、小テスト 10 %、平常点 10 % を基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

## 【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となったので、学習支援システムを用いて行う。各回の内容については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 6 月 2 日とする。

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。また、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行ないながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	文型
3	英作文演習と構文の理解	文の要素
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	動詞の特性
5	英作文演習と構文の理解	動詞の種類と文型の関係
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	句と節
7	英作文演習と構文の理解	単文と複文
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	助動詞の認識的用法
9	英作文演習と構文の理解	助動詞の非認識的用法
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在形と過去形
11	英作文演習と構文の理解	時制
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	進行形

13 英作文演習と構文の理解 分詞構文 解

14 理解度の確認 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

## 【テキスト（教科書）】

スキル統合型:英作文トレーニング

朝日出版社、野田小枝子著

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン課題内容（100%）に基づいて評価する。原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

## 【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。

初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

## 【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

## 【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。また、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行ないながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 13	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 13 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	仮定法
3	英作文演習と構文の理解	自動詞・他動詞
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	能動態・受動態
5	英作文演習と構文の理解	現在時制・過去時制・未来時制
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	動詞 + 前置詞・動詞 + 副詞
7	英作文演習と構文の理解	不定詞
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在完了形・過去完了形
9	英作文演習と構文の理解	未来完了形・現在完了進行形
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	動名詞
11	英作文演習と構文の理解	名詞・冠詞
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	代名詞
13	英作文演習と構文の理解	形容詞・副詞
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

## 【テキスト（教科書）】

スキル統合型:英作文トレーニング  
朝日出版社、野田小枝子著

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%と平常点 20%に基づいて評価する。  
原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

## 【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。  
初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

## 【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宣言文を英文で読みながら温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する記事を英文で読みながら、その中の表現を用いてリスニング、ディクテーション、会話、英作文等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その①
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その②
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥
第 8 回	ストックホルム宣言	内容についての英語での質疑応答
第 9 回	ストックホルム宣言	内容文を用いてのディクテーション
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その①
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その②
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その③
第 13 回	ストックホルム宣言	内容についての英語での質疑応答
第 14 回	ストックホルム宣言	内容文を用いてのディクテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言文を読みながら、スモッグ、酸性雨等の問題について考える。reading, listening, writing, speaking の力を同時に養成する。

## 【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。学生諸君が主体的に読み、書き、聞き、話すことが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する記事を英文で読む。テキスト内の表現を利用して英文を書き、それを基に会話をする。テキスト以外の環境問題に関する英文を聞く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その①
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その②
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④
第 5 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 6 回	東京宣言	内容表現を用いたのディクテーション
第 7 回	東京宣言	宣言文その①
第 8 回	東京宣言	宣言文その②
第 9 回	東京宣言	宣言文その③
第 10 回	東京宣言	宣言文その④
第 11 回	東京宣言	宣言文その⑤
第 12 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 13 回	スモッグ	リスニング
第 14 回	酸性雨	リスニング

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

## 【参考書】

沈黙の春（レイチェル、カーソン）

## 【成績評価の方法と基準】

簡易な英文を聞き、理解し、自分の意見を表現する力を試す。

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得は認めない。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

## 【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。グループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

## 【到達目標】

英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。グループ・プレゼンテーションが英語で行えるような練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。グループ・プレゼンテーションを効果的に行う方法も学びます。

授業は、4月21日（火）からです。5月29日までは共通教材による学習期間とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音練習	発音の練習をする
第 3 講	New York	話し手の意図
Week 1		
第 4 講	Week 2	説明方法
第 5 講	Week 3	意思表示
第 6 講	Week 4	気持ちの伝達
第 7 講	Week 5	許可を求める
第 8 講	Week 6	希望を伝える
第 9 講	Week 7	手助けを申し出る
第 10 講	Week 8	お礼を言う
第 11 講	グループ・プレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1 (打ち合わせ)
第 12 講	グループ・プレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2 (練習とリハーサル)
復習	復習	復習 (テキスト week 1-8 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)
総括	総括	全体総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。内容としては、毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく)、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

## 【テキスト（教科書）】

おとなの基礎英語 Season 6 松本茂監修 主婦の友社 2018 年 ISBN 978-4-07-426578-7

## 【参考書】

英和・和英辞書

**【成績評価の方法と基準】**

授業時の発言 (10%)、グループ発表 (30%)、自主レポート (10%) およびペーパーテスト (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

本年度特殊事情により、前期の成績評価は、4 回以上の課題提出の見込みです。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

**【その他の重要事項】**

授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

**【Outline and objectives】**

This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

LANe100LA

**英語 2 - II**

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。グループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

**【到達目標】**

英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。

授業は、4月22日からです。5月29日までは共通教材による学習期間とします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音クリニック	発音の確認
第 3 講	London	ビジネスの新展開
Week 9		
第 4 講	Week 10	初めての挫折
第 5 講	Week 11	セブン・シスターズへ
第 6 講	Week 12	ロンドンへ戻る
第 7 講	Week 13-16	New York
第 8 講	Week 17-20	London
第 9 講	Week 21-24	New York/ London
第 10 講	グループ・プレゼンテーション 3	グループ・プレゼンテーション 3
第 11 講	グループ・プレゼンテーション 4	グループ・プレゼンテーション 4
第 12 講	グループ・プレゼンテーション 5	グループ・プレゼンテーション 5
復習	復習	全体の復習
総括	総括	全体総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習・復習とクラス外で自己練習が必要です。

**【テキスト（教科書）】**

おとなの基礎英語 Season 6 松本茂監修 主婦の友社 2018 年 ISBN 978-4-07-426578-7

**【参考書】**

英和・和英辞書

**【成績評価の方法と基準】**

授業時の発言 (10%)、グループ発表 (30%)、自主レポート (10%) およびペーパーテスト (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

本年度特殊事情により、前期の成績評価は、4回以上の課題提出の見込みです。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

#### 【学生が準備すべき機器他】

DVD およびプロジェクタを使用する場合があります。

#### 【その他の重要事項】

グループ・プレゼンテーションでは、春学期からのバージョン・アップが求められます。

#### 【Outline and objectives】

This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

LANe100LA

## 英語2－I

2017年度以降入学者

宮本 和恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ1年：英語 e 組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想上の違いについて、学習する

#### 【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1月	導入	授業の進め方について説明
2	名詞（1）	メガネは <b>glass</b> か <b>glasses</b> か
3	名詞（1）	メガネは <b>glass</b> か <b>glasses</b> か
4	名詞（2）	「お客」は常に <b>guest</b> だろうか
5	名詞（2）	「お客」は常に <b>guest</b> だろうか
6	冠詞	<b>by an hour</b> と <b>by the hour</b> の違い
7	冠詞	<b>by an hour</b> と <b>by the hour</b> の違い
8	動詞（1）	<b>marry him</b> と <b>marry with him</b> はどちらが正しいか
9	動詞（1）	<b>marry him</b> と <b>marry with him</b> はどちらが正しいか
10	動詞（2）	「寝る」は常に <b>sleep</b> か
11	動詞（2）	「寝る」は常に <b>sleep</b> か
12	助動詞	<b>shall, will, may</b> の違い
13	時制	動詞は「時」とともに変化する
14	復習	内容理解

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスを参考に予習する

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする

#### 【テキスト（教科書）】

Write it Right! 鶴見書店

#### 【参考書】

特に指定しない

#### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

遅刻は30分までで、それ以降は欠席扱いとする

遅刻3回で欠席1回とする

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生は緩やかな進度を希望している

#### 【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ1年：英語 e 組

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想の違いについて学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらう

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
2	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
3	形容詞（1）	「とても美味しい」は very delicious か
4	形容詞	「とても美味しい」は very delicious か
5	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろうか
6	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろうか
7	副詞	ago と before のちがい
8	副詞	afo と before のちがい
9	比較	多様な比較表現を学習する
10	関係詞	「場所」の後がいつも where か
11	関係詞	「b 所」の後がいつも where か
12	接続詞	日本語の「と」や「が」はいつも and と but ではない
13	接続詞	野本後の「と」や「が」はいつも and と but ではない
14	復習	内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする  
シラバスを参考に予習する

【テキスト（教科書）】

Write it Right 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

遅刻は 30 分まで、それ以降は欠席扱いとする

遅刻 3 回で欠席 1 回とする

【学生の意見等からの気づき】

学生はゆっくりした進度を希望しています

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。基本例文から始め、論理的な構成のパラグラフを書く練習を行います。また書いた内容をもとに口頭でのプレゼンテーションやスピーチも行います。

## 【到達目標】

- ①総合的な英語力の向上。
- ②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- ③使える語彙を増やす。
- ④論理的な構成をもつパラグラフを書くことができる。
- ⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。

リスニング及びディクテーションの練習をおこないます。グループやペアワークで確認してもらった場合が多いのでしっかり予習しましょう。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介 辞書の使い方
第 2 回	自己紹介①	定義の仕方を学ぶ (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 3 回	自己紹介②	定義を加えながら表現する (Guided Writing)
第 4 回	定義を用いた説明	アイディア・マップを使い 考えを整理をしながら、文を書く (Extended Activities)
第 5 回	出来事や経験を語る①	時系列で書く (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 6 回	出来事や経験を語る②	つながりの言葉を学ぶ (Guided Writing)
第 7 回	物語の要約	順序を表す表現を使い表現する (Extended Activities)
第 8 回	手続きや手順の説明①	料理のレシピを読み、手順 を示す文章の特徴を学ぶ (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 9 回	手続きや手順の説明②	順序、時間を表す表現を学ぶ (Guided Writing)
第 10 回	自分の関心のあるプロジェクト	これまで自分がしたこと、やりた いことについての 手続きを英語で書き、発表する (Extended Activities)
第 11 回	パラグラフの書き方①	パラグラフの基本構造を学ぶ (Pre-writing, Integrated Tasks)

第 12 回 パラグラフの書き方② パラグラフの分析をする  
(Guided Writing)

第 13 回 訪れてみたい国 訪れてみたい国について、文章の  
構成を考え表現する  
(Extended Activities)

第 14 回 期末試験、まとめ 期末試験、まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておく。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

## 【参考書】

適宜授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加状況、宿題、課題等を含む）30%、期末テスト 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

## 【その他の重要事項】

4 回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。

遅刻 3 回で欠席 1 回扱い。原則として 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。

辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。基本例文から始め、論理的な構成の段落を書く練習を行います。また書いた内容をもとに口頭でのプレゼンテーションやスピーチも行います。

## 【到達目標】

- ①総合的な英語力の向上。
- ②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- ③使える語彙を増やす。
- ④論理的な構成をもつ段落を書くことができる。
- ⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

段落の構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) を理解し、身近なトピックについて、段落の論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。

リスニング及びディクテーションの練習をおこないます。グループやペアワークで確認してもらった場合が多いのでしっかり予習しましょう。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明 春学期の復習
第 2 回	描写①	興味深い人物についてまとまった文を読み、構成・表現を学ぶ (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 3 回	描写②	場所・空間について書かれた文章を読み、構成・表現を学ぶ (Guided Writing)
第 4 回	場所の表現	文章でまとめ、口頭で発表する (Extended Activities)
第 5 回	例を挙げる①	例を挙げて感情について示す文章を読み、構成・表現を学ぶ (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 6 回	例を挙げる②	アウトラインをつくり、具体例を加える (Guided Writing)
第 7 回	作品などの感想	Topic Sentence Concluding sentence を含んだ文章を書く (Extended Activities)
第 8 回	プロセス・ライティング①	市町村を紹介する文章を読み段落について学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 9 回	プロセス・ライティング②	アイディアマップと段落のアウトラインを書く (Guided Writing)

第 10 回 名所の紹介

Topic Sentence, Concluding Sentence を含んだ文章を書く  
(Extended Activities)

第 11 回 分類①

様々な基準を設定し、分類・説明した文章を読む

第 12 回 分類②

(Pre-writing, Integrated Tasks)  
分類を示す段落に用いられる表現を学ぶ  
(Guided Writing)

第 13 回 世界遺産についての説明

データをもとにした説明をする  
(Extended Activities)

第 14 回 期末試験、まとめ

期末試験、まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておく。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

## 【参考書】

適宜授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加状況、宿題、課題等を含む）30%、期末テスト 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

## 【その他の重要事項】

4 回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。

遅刻 3 回で欠席 1 回扱い。原則として 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。

辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

## 【Outline and objectives】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ1年：英語 g 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2020 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生は、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画変更については、学習支援システムでその都度提示する。

この授業は5月中までは共通教材となるのでその指示に従うこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要とテキストの説明。およびプリント教材
2	Unit 1 エンジン爆発で旅客機に穴！女性機長が見事に緊急着陸①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 エンジン爆発で旅客機に穴！女性機長が見事に緊急着陸②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 もはや SF ではない！「空飛ぶ車」いよいよ実用化段階へ①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 もはや SF ではない！「空飛ぶ車」いよいよ実用化段階へ②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 環境にも動物にもやさしい「肉を使わない肉」が香港進出①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 環境にも動物にもやさしい「肉を使わない肉」が香港進出②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 電気自動車・携帯用に需要急増！注目のレアメタル、コバルト①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

9	Unit 4 電気自動車・携帯用に需要急増！注目のレアメタル、コバルト②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 巨大な浮遊式フェンスで回収 海洋プラゴミ一掃作戦が始動①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 巨大な浮遊式フェンスで回収 海洋プラゴミ一掃作戦が始動②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
12	Unit 6 カクレクマノミを救え！豪小学校の「セービング・ニモ」計画①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 6 カクレクマノミを救え！豪小学校の「セービング・ニモ」計画②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験 まとめと解説	期末試験 これまでの授業内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、音声ダウンロードして聴いておく。

学生は、語彙の予習しておく。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (21)

朝日出版 1900 円 + 税

## 【参考書】

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では DVD と CD を使う。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は原則 3 回までとする。

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

遅刻 20 以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 g 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2020 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

## 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生は、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming Up	プリント教材
2	Unit 7 水に飲まれる米ルイジアナ州沿岸部 水没が急速に進行中①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 水に飲まれる米ルイジアナ州沿岸部 水没が急速に進行中②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 レンズがとらえた時代の動向 100 年企業「ニコン」①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 レンズがとらえた時代の動向 100 年企業「ニコン」②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

9	Unit 10 ヤクザから俳優へ 悪役専門芸能事務所の社会復帰支援が話題に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 国が法制化 仏の小中学校で生徒のスマホ使用が全面禁止に①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 国が法制化 仏の小中学校で生徒のスマホ使用が全面禁止に②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
12	Unit 12 若者には負けられない！ 平均年齢 67 歳のシニア e スポーツチーム①	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 12 若者には負けられない！ 平均年齢 67 歳のシニア e スポーツチーム②	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験 まとめと解説	期末試験 これまでの授業内容のまとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、音声ダウンロードして聴いておく。

学生は、語彙の予習しておく。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間とします。

## 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (21)

朝日出版 1900 円 + 税

## 【参考書】

辞書必携

## 【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

全 14 回の授業のうち、原則として 4 回以上の欠席は単位修得を認めない。

この授業では、全 14 回中、欠席は 3 回までとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

板書の文字を見やすくする。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では、DVD および CD を使用する。

## 【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は原則 3 回までとする。

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

遅刻 20 以上は欠席とする。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語によるコミュニケーションのための、様々な文章における能力を養う。

## 【到達目標】

英語の表現や文章の意味内容を正確に聞き取る能力を養う。また自己の考えや意思を、口頭の英語で的確に表現し伝達し得る力を養う。さらに自己の考えや意思を、英語を書くことで簡潔に表現し、文章を通して伝達する力を養成する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・この授業（習熟度別クラス）の授業開始日は6月1日です。（4月21日から5月29日までは共通教材による学習期間となります）

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・課題回数は10回です。7週の間で10回の授業（課題提出）を実施するので、後半部分では間隔が込み合いますので、予め了承してください。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課題の評価（60%）で原則として行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容についての説明、及び履修の仕方を説明
第2回	Nice to Meet You!(Reading)	「挨拶」についての読解
第3回	Nice to Meet You!(Listening Exercises)	「挨拶」についてのリスニング演習
第4回	Don't Be Late(Reading)	海外渡航についての読解
第5回	Don't Be Late (Listening Exercises)	海外渡航についてのリスニング演習
第6回	What Sports Do You Like? (Reading)	「スポーツ」についての読解
第7回	What Sports Do You Like? (Listening Exercises)	「スポーツ」についてのリスニング演習
第8回	Which Hotel Do You Recommend? (Reading)	「宿泊施設」についての読解
第9回	Which Hotel Do You Recommend?(Listening Exercises)	「宿泊施設」についてのリスニング演習
第10回	Let's See the Sights!	「観光」と「冒険」についての読解 (Reading)

第11回 Let's See the Sights! (Listening Exercises) 「観光」と「冒険」についてのリスニング演習

第12回 Can I Take Your Order? (Reading) 「食事」についての読解

第13回 Can I Take Your Order? (Listening Exercises) 「食事」についてのリスニング演習

第14回 期末試験と解説 リスニングおよび筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。英語の単語下調べ、および英文素読以外にも、日頃から英語の「音」に慣れることが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

・出欠ガイドライン

今学期出す14回分の課題（共通教材期間の4回分を含む）のうち、4回分を提出しな

かった場合は、原則として単位修得の資格を失います。

・成績評価の方法

「共通教材」の課題の評価（40%）および「この授業（習熟度別クラス）」での課

題の評価（60%）で原則として行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語 2 - I を踏まえ、リスニングにおいては、より速い聞き取り能力が身に付くための反復練習を行う。

## 【到達目標】

口頭表現においては、発音と発声、個々の表現の正確な意味内容を理解し、日常生活の会話等の場面の中での表現を練習する。文章表現においては、前提的な知識として基本的な重要構文が記憶されている必要があり、その知識を繰り返し確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、リスニングおよびディクテーションの練習をする。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Cash or Charge? (Reading)	「買い物」についての読解
第 2 回	Cash or Charge? (Listening Exercises)	「買い物」についてのリスニング演習
第 3 回	Entertainment (Reading)	「娯楽」についての読解
第 4 回	Entertainment (Listening exercises)	「娯楽」についてのリスニング演習
第 5 回	Can You Tell Me the Way (Reading)	「町歩き」についての読解
第 6 回	Can You Tell Me the Way (Listening Exercises)	「町歩き」についてのリスニング演習
第 7 回	Would You Like to Go Out? (Reading)	「デート」についての読解
第 8 回	Would You Like to Go Out? (Listening Exercises)	「デート」についてのリスニング演習
第 9 回	Home Sweet Home (Reading & Listening exercises)	「住まい」についての読解およびリスニング演習
第 10 回	Health and Safety (Reading)	「健康と安全」についての読解
第 11 回	Health and Safety (Listening Exercises)	「健康と安全」についてのリスニング演習
第 12 回	Communications and the Internet (Reading)	「インターネット」についての読解
第 13 回	Communications and the Internet (Listening exercises)	「インターネット」についてのリスニング演習
第 14 回	期末試験と解説	リスニングおよび筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から英語の「音」とその速度に慣れ親しむこと。

## 【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。教科書を持参しない場合、出席とは扱わない。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、小テスト 10 %、平常点 10 % を基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

## 【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 i 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

## 【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこなう。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1 (精読、内要理解)
3	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1 (再読、リスニング、質疑応答)
4	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2 (精読、内要理解)
5	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2 (再読、リスニング、質疑応答)
6	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞 (精読、内容理解)
7	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞 (再読、リスニング、質疑応答)
8	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2 (精読、内要理解)
9	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2 (再読、リスニング、質疑応答)
10	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞 (精読、内要理解)
11	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞 (再読、リスニング、質疑応答)
12	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1 (精読、内要理解)
13	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1 (再読、リスニング、質疑応答)

## 14 Unit 7

## Unit 7: 秋葉原を散策 / 接続詞 2 (精読、内要理解)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ - 続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English-English Once More! II-』朝日出版社、2016年

## 【参考書】

授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 i 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

## 【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこなう。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（精読、内容理解）
3	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（精読、内容理解）
5	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（精読、内容理解）
7	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（精読、内容理解）
9	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（精読、内容理解）
11	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（再読、リスニング、質疑応答）
12	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（精読、内容理解）

13 Unit 13

Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（再読、リスニング、質疑応答）

14 Unit 14

Unit 14: 最後の晩餐 / 仮定法 1（精読、リスニング、質疑応答）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ -Introduce Japan in Easy English- English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

## 【参考書】

授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 j 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

単文レベルの和文英訳から一歩進め、アカデミック・ライティングの基礎を身につけて平易な英語を使った説明や自己表現を行う。読み手にわかりやすいパラグラフの書き方を学ぶとともに、効果的に意図を伝えるスキルを実践し着実に身につけるため英文ライティングの演習を行う。同時に、プリント教材を使って英語の音声と口語表現に慣れる。

## 【到達目標】

- (1) 平易な英語で簡単な説明をしたり、自分の考えを述べることができる。
- (2) パラグラフ・ライティングの基礎を学び、首尾一貫性、結束性のある文章が書ける。
- (3) ナチュラルスピードの英語に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストは3つのPartに分けられ、15の章から成っています。春学期は、パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶChapter 9までを扱い、読み手にとって読みやすく説得力のあるパラグラフを書く基本と自分の考えをより具体的に記述する方法を学びます。同時に、意見を正確に伝えるための文法の見直しも行います。各章では様々なアカデミック・ライティングのストラテジーが取り上げられており、ペア又はグループワークなどのタスクを経て、章ごとの課題(SDGsに関する社会的な問題)に沿った、まとまりのある文章を書いてもらうようになっています。ライティング・タスクの中には省略するものもありますが、いくつかは提出してもらいます。また、書くだけでなく、自己添削や互いの書いたものを読者目線でチェックするPeer Review of the Activity もあります。さらに、聴解力強化のため、プリント教材を使ったListening 演習(主にテスト形式)も行います。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は、共通教材での学習期間を経た後、6月1日(月)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や辞書の使い方、英語学習のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Flows of Sentences Listening Practice	Chapter 1 英文の流れの作り方 Listening 演習
3	Basic Paragraph Listening Practice	Chapter 2 パラグラフの基本構造 Listening 演習
4	Developing Coherence Listening Practice	Chapter 3 パラグラフの一貫性の構築 Listening 演習
5	Creating Cohesion Listening Practice	Chapter 3 文法的&意味的結束 Listening 演習

6	Guiding Your Readers Listening Practice	Chapter 4 読者をいかに誘導するか：その方法 Listening 演習
7	Hedges and Boosters Listening Practice	Chapter 5 ヘッジとブースターの使い方 Listening 演習
8	Generating Ideas Listening Practice	Chapter 6 ブレインストーミング Listening 演習
9	Critical Thinking Listening Practice	Chapter 6 Topic: Convenient for Who? Listening 演習
10	How to Attract Your Readers Listening Practice	Chapter 7 Topic & Controlling Ideas Listening 演習
11	Supporting Your Ideas Listening Practice	Chapter 7 + Chapter 8 支持文の書き方 Listening 演習
12	Concluding Paragraphs Listening Practice	Chapter 8 + Chapter 9 パラグラフの終わらせ方 Listening 演習
13	Problem-solving Paragraphs	Chapter 9 Topic: City and Environment
14	Listening Guided Writing	Review Test 指定されたテーマと様式によるワンパラグラフの作文

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。Model Essay は事前に目を通し、疑問点があればピックアップしてテキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。また、学習したポイントはその都度復習し、次の授業に活かせるようにしておく。その他、Writing やグループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。

## 【テキスト(教科書)】

中谷安男 *Academic Writing Strategies - Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals* (2020 金星堂)

## 【参考書】

特に指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

&lt;成績評価の方法&gt;

- ・期末にまとめた内容の文章(長めのワンパラグラフ)を書いてもらいます。
- ・原則として毎週、テスト形式又はディクテーションによるListening 演習を行い、期末にReview Test を実施します。
- ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

&lt;成績評価基準・評価の配分等&gt;

- ・期末の作文と授業内のWriting 関連のタスクは到達目標の(1)(2)に対応し、地道な努力を重ねて学習したことがきちんと身についているかどうか、自分の考えを正確でわかりやすい英語を使い、論理的に表現出来ているかどうかを見ます。
- ・Listening 演習は到達目標の(3)に対応し、英語の語彙の多様性を認識し、勘頼みではなく、ポイントとなる部分を正しく聞き取れているかどうかを見ます。
- ・上記のほか、到達目標の(1)~(3)に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも3回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末の作文(40%)、Listening 演習(Review Test 含む)(30%)、平常点(授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など)(30%)

なお、上記の方法や基準はあくまで通常の場合であり、今回、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、変更の必要が生じることとなります。変更後の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度はグループワークに十分な時間が取れなかったので、今年度は確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングの基礎についても、より丁寧に小さな演習を重ねることで最後の作文に取り組みやすくします。

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn the basics of paragraph writing and some useful writing skills so that they can, in the end, write a paragraph not only easy for readers to follow but also logical and convincing enough. For example, they will learn the basic paragraph structure, ways to develop coherence and create cohesion, how to generate ideas and persuade readers, and so on. The topics in the textbook are all global issues that have something to do with SDGs (Sustainable Development Goals). Students are expected, each week, to do several tasks, including pair work and group talk, in order to put what they have learned into practice, and finally write a long paragraph on a given theme in plain English. In addition, they will have some listening practice so that they can get used to natural-speed English and develop confidence in listening.

LANe100LA

## 英語2－Ⅱ

2017年度以降入学者

## 溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

キ1年：英語j組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ・ライティングとアカデミック・ペーパーの書き方の基礎を学んで複数のパラグラフから成るより長い文章に取り組む。また、春学期に引き続き、リスニング演習を通して聴解力の向上を目指すとともに、正確な表現のための文法の見直しも行う。

## 【到達目標】

- (1) 中級程度の英語を使って意思の伝達や自己表現ができる。
- (2) エッセイ・ライティングの基礎を身につけ、より長い論理的かつ説得力のある文章が書ける。
- (3) 耳にした順に英語の語順で内容を追うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じですが、Guided Writingは2回実施します。テキストはChapter 10からです。パラグラフからエッセイへと重点を移し、比較や問題解決など、広い意味での大学の勉強に必要な（したがって、日本語で書くレポートにも応用可能な）論理的かつ説得力のある文章の書き方を学びます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast Listening Practice	Chapter 10 3つのタイプの比較と対照 Listening 演習
2	Thinking about Education Writing Strategies	Chapter 10 Topic: Education for Future Process Writing
3	Listening Practice Guided Writing	Listening 演習 Writing a comparison and/or contrast paragraph
4	Essay Structure Listening Practice	Chapter 11 エッセイの構成と Thesis Statement の書き方 Listening 演習
5	Prpblem-solving Essay Listening Practice	Chapter 11 + Chapter 12 問題解決型エッセイの書き方 Listening 演習
6	Solving Problems Listening Practice	Chapter 12 Topic: Eco-friendly 問題解決の方法と提示の仕方 Listening 演習
7	The First Step for Academic Papers Listening Practice	Chapter 13 論文の構成 Listening 演習
8	Writing Introduction Listening Practice	Chapter 13 テーマの重要性の伝え方 Listening 演習
9	Creating a Research Niche Listening Practice	Chapter 14 研究論文の基礎 Listening 演習
10	A Persuasive Essay Listening Practice	Chapter 14 説得力のあるエッセイの書き方 Listening 演習

11	Watching a Film Review	映画鑑賞 Part 1 Chapter 15 Academic Writing の復習
12	Listening Practice Watching a Film	Listening 演習 映画鑑賞 Part 2
13	Writing Strategies Group Talk	映画でレポート／論文を書く Talking about the Film
14	Listening Guided Writing	Review Test 映画を素材にしたエッセイ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。春学期同様、Model Essay は事前に目を通し、テキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。その他、ポイントの復習を主体的に行うだけでなく、Writing やグループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

中谷安男 *Academic Writing Strategies - Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals* (2020 金星堂)

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法>

- ・学期の前半と期末の2回、まとまった内容の文章（前半にパラグラフ、期末にエッセイ）を書いてもらいます。
- ・ほぼ毎週、テスト形式又はディクテーションによる Listening 演習を行い、期末に Review Test を実施します。
- ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

<成績評価基準・評価の配分等>

- ・学期前半と期末の Guided Writing と授業内の Writing 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、学習したことがしっかりと身についているかどうか、自分の考えを正確かつわかりやすい英語で表現し、論理的かつ説得力のある形で述べられているかどうかを見ます。
- ・Listening 演習は到達目標の (3) に対応し、勘頼みではなく流れに沿って内容が理解出来ているかどうかを見ます。
- ・上記のほか、到達目標の (1)~(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が4回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも3回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

Guided Writing 2回 (50%)、Listening 演習 (Review Test 含む) (30%)、平常点 (授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など) (20%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度はグループワークに十分な時間が取れなかったため、今年度は確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングの基礎についても、より丁寧に小さな演習を重ねることで2回の作文に取り組みやすくします。

#### 【Outline and objectives】

Students will learn the basics of essay writing and academic papers and are expected to write, following the instructions, one comparison and/or contrast paragraph, and an essay which is related, in one way or another, to the film they will watch in the second part of the semester. Also, as in the spring semester, students will be given opportunities to enhance their abilities to communicate in English through listening practice and group talk.

LANe100LA

## 英語2 - I

2017年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ1年：英語k組

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

#### 【到達目標】

簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表現を用いて簡単な会話の練習をする。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	What's New?	紹介その①
第2回	What's New?	紹介その②
第3回	What's New?	紹介その③
第4回	What's New?	紹介その④
第5回	Major	専攻その①
第6回	Major	専攻その②
第7回	Major	専攻その③
第8回	Major	専攻その④
第9回	Fun to Play	遊びその①
第10回	Fun to Play	遊びその②
第11回	Fun to Play	遊びその③
第12回	Fun to Play	遊びその④
第13回	リスニング	プリント使用
第14回	リスニング	プリント使用

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ずして多くの表現を覚える。本授業の準備学習・復習時間は1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

アメリカ口語表現一初級用（研究者）

#### 【参考書】

英会話フレーズ工具箱（旺文社）

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

#### 【Outline and objectives】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 k 組

### 【Outline and objectives】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

### 【到達目標】

簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表現を用いて簡単な会話の練習をする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	A Modern Home(解説)	Presentation を聞き、その内容について質問する。
第 2 回	A Modern Home (導入)	Dialogue を聞く。
第 3 回	A Modern Home (応用)	Dialogue を読む。
第 4 回	A Modern Home (実践)	Dialogue の表現を用いて会話をする。
第 5 回	Micky's Home Town (解説)	Presentation を聞き、その内容について質問する。
第 6 回	Micky's Home Town (導入)	Dialogue を聞く。
第 7 回	Micky's Home Town (応用)	Dialogue を読む。
第 8 回	Micky's Home Town (実践)	Dialogue の表現を用いて会話をする。
第 9 回	Two Successful Men (解説)	Presentation を聞き、その内容について質問をする。
第 10 回	Two Successful Men (導入)	Dialogue を聞く。
第 11 回	Two Successful Men (応用)	Dialogue の表現を用いて会話をする。
第 12 回	Two Successful Men	二人の成功者その④
第 13 回	リスニング初級	やさしい英文を聞く。
第 14 回	リスニング中級	やや長めの英文を聞く。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習を行いより多くの表現を覚えるようにする事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

アメリカ口語教本－初級用（研究者）

### 【参考書】

英会話フレーズ道具箱（旺文社）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得は認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ1年：英語I組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットや SNS の発達により、今日ではライティングの能力が必須となっている。そこで、このクラスでは、特にリスニングとライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

## 【到達目標】

- ・日常生活のさまざまなトピックについて自分の意見を文章で表現できるようになる。
- ・教材の英語を聞き取れるようになる。
- ・メールを書いたり、グラフや図を英語で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DPI

## 【授業の進め方と方法】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。5月29日までは共通教材を使用した自習となり、テキストを使用した本授業の開始日は6月1日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
- ・わからない単語は辞書を調べ、ルーズリーフやノートに5回ずつ練習してください。出欠時に見せてもらいます（対面授業時のみ）
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べる。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・音声教材を用いて聞き取りを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	共通課題	共通課題による学習
2	共通課題	共通課題による学習
3	共通課題	共通課題による学習
4	共通課題	共通課題による学習
5	Unit 1 Welcome to the party!	友人へメールを書こう
6	Unit 2 I'm planning to study abroad	先輩や先生にメールを書こう
7	Unit 3 I'm afraid that it was damaged	苦情のメールを書こう
8	Unit 4 Let me introduce myself	自分の紹介文を書こう
9	Unit 5 My hobby is ...	自分の趣味を書こう
10	Unit 6 This is my dream	自分の夢を書こう
11	Unit 7 Isn't it exciting to go out?	自分の出来事を書こう
12	Unit 8 My memorial pictures	写真や絵を説明しよう

13 unit 9 印象的な思い出を説明しよう

What I experienced

14 学期末試験 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.kinsei-do.co.jp/download/4040>

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

工藤洋路著『Have Fun Writing! 楽しく学ぶ英文ライティング入門』金星堂、1800円

## 【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）と和英辞典が入っている電子辞書をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更される場合がある。随時シラバスと学習支援システムで提示する。
- ・平常点（授業参加度、授業態度、課題等）30% + 学期末試験 70% = 100%
- ・各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4回以上に匹敵する課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3回遅刻で1回の欠席と同等にする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。
- ・コピー&ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行ったことが明らかになった場合は、当該科目を不可とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン学習時は、学習支援システムを用いるため、スマートフォンやパソコンが必要となります。

## 【その他の重要事項】

コロナ対策のため、シラバスには随時変更があります。

## 【Outline and objectives】

With the development of Internet and SNS today, the English communication is becoming more and more important for Japanese. So, in this class, students will improve the English communication skills of listening and writing.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 I 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年にはオリンピックが開催され、英会話がより必要となっている。そこで、このクラスでは、特にリスニングとスピーキングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

## 【到達目標】

- ・日常生活のさまざまなトピックについて自分の意見を口頭で表現できるようになる。
- ・相手の英語や、教材の英語を聞き取れるようになる。
- ・学生同士が、基本的な英会話をすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・テキストを用いて、ペアやグループになって英会話の練習を行う。
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べる。知らない単語は 5 回ずつ練習して下さい。出欠確認時に見せてもらいます。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・音声教材を用いて聞き取りを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明等
2	Unit 1 Classroom cues	教室での会話
3	Unit 2 School life and lingo	大学生活における表現
4	Unit 3 Family fortunes	家族に関する表現
5	Unit 4 Talk of the town	住んでいる町に関する表現
6	Unit 5 Friends forever	友人に関する表現
7	Unit 6 Vacation variations	休暇に関する表現
8	Unit 7 Story studio	物語
9	unit 8 Pick your favorites	お気に入りに関する表現
10	Unit 9 Fashion Frenzy	流行に関する表現
11	Unit 10 Memory motifs	思い出に関する表現
12	Unit 11 Wanted: work	仕事に関する表現
13	Unit 12 Holiday hoopla	祝日に関する表現
14	学期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、知らない単語はノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Sheila Cliffe 著『Within Your Reach あなたにもできる英会話』南雲堂、2000 円

## 【参考書】

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 学期末試験 70 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・30 分以上遅刻した場合は欠席扱いとし、3 回遅刻で 1 回の欠席と同等にする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する可能性がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The Olympic games will be held in Japan in 2020, and English conversations are becoming more and more important for Japanese. So, in this class, students will improve the English communication skills of listening and speaking.

LANe100LA

## 英語 2 - I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 m 組

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。パラグラフの構造を理解し、論理的なパラグラフを作文できるようになる。

## 【到達目標】

- ・ 論理的な英語のパラグラフを書けるようになる。
- ・ 英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
- ・ 文法力を向上させる。
- ・ 語彙力を向上させる。
- ・ 論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

英文でのパラグラフ作文について学習し、演習問題を通して理解を深める。適宜 Writing の課題を課し提出を求める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Writing Guide	書式と句読法
2	Chapter 1	パラグラフとは？
3	Chapter 2	主題文とは？
4	Chapter 3	支持文とは？
5	Chapter 4	時間の順序
6	Chapter 5	空間の順序
7	Chapter 6	過程・手順と指示
8	Chapter 7	因果関係による展開
9	Chapter 8	例示による展開
10	Chapter 9	定義による展開
11	Chapter 10	分類による展開
12	Chapter 11	比較・対照による展開
13	Chapter 12	まとめと復習
14	Chapter 13	パラグラフから小論文へ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Unit に Writing の実践問題があるので、授業中に扱わなかったものや、時間内に書き終えられなかったものは復習を兼ねて時間外に取り組むこと。

## 【テキスト（教科書）】

Hisatake Jimbo, Kate Elwood & others / Get Your Message Across (効果的なパラグラフの書き方), 南雲堂, 2008 年, 2000 円

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

今学期出す 14 回分の課題（共通教材期間の課題 4 回分を含む）のうち、4 回分を提出しなかった場合は、原則として単位修得の資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to write English paragraphs and to express their opinions in English.

LANe100LA

## 英語 2 - II

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 m 組

提出物 20 %

期末レポート 60 %

学期中に四回以上授業を欠席した場合は、原則として単位の修得を認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to write English essays and to express their opinions in English.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。複数のパラグラフからなる論理的なエッセイを書けるようになる。

### 【到達目標】

- ・ 複数のパラグラフからなる短い英文エッセイを書けるようになる。
- ・ 英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
- ・ 文法力を向上させる。
- ・ 語彙力を向上させる。
- ・ 論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

英文のパラグラフの構造や種類について学習し、演習問題を通して実際にパラグラフを書くことに取り組む。毎回授業時間内に **Writing** の課題を課し提出を求める。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	I am going to write one paragraph
2	Unit 2	Trying to be polite
3	Unit 3	What do you think?
4	Unit 4	This may work!
5	Unit 5	Writing a cause and effect paragraph
6	Unit 6	What is an essay?
7	Unit 7	Who am I?
8	Unit 8	Let me tell you about a beautiful place! (1)
9	Unit 9	Let me tell you about a beautiful place! (2)
10	Unit 10	That's a good point! (1)
11	Unit 11	That's a good point! (2)
12	Unit 12	How are they different? (1)
13	Unit 13	How are they different? (2)
14	Unit 14	Let's sort out!

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Unit に **Writing** の実践問題があるので、授業中に扱わなかったものや、時間内に書き終えられなかったものは復習を兼ねて時間外に取り組むこと。

### 【テキスト（教科書）】

Kate Elwood, Leonid Yoffe/From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II (効果的な英文エッセイの書き方)、南雲堂、2013 年、2000 円

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

LANe100LA	Academic English I	2017 年度以降入学者	8	Unit 2.	Vocabulary - clothing. Reading - image and identity.
	ナダー ジャミリア		9	Unit 2.	Speaking - making suggestions. Writing - being diplomatic.
	開講時期：春学期授業/Spring   曜日・時限：月 1/Mon.1		10	Unit 1 & 2 quiz.	Review of units 1 and 2.
	単位数：2 単位		11	Unit 3. Harmony.	Watch TED Talk. Listening skills - discourse markers. Presentation skills - being relatable.
	法Y 1 年		12	Unit 3.	Presentation performance - my skill. Grammar - cleft sentences. Speaking - evaluating teamwork.
	<b>【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】</b>		13	Unit 3.	Presentation performance - teamwork versus individual genius.
	Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.		14	Unit 3.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.
	<b>【到達目標】</b>		15	Unit 3.	Listening - disagreeing. Writing - disagreeing in emails.
	You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.		16	Unit 4. Challenges.	Vocabulary building. Collaborative listening. Watch TED Talk.
	<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】</b>		17	Unit 4.	Presentation skills - controlling nerves. Grammar - approximation. Speaking - approximation.
	各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1		18	Unit 4.	Reading - names and branding. Speaking - talking about sales, clarifying and repeating.
	<b>【授業の進め方と方法】</b>		19	Unit 3 and 4 quiz.	Writing - instructions. Review of units 3 and 4.
	You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback. Please come to class ready to participate actively and positively.		20	Unit 5. Inspiration.	Listening skills - elision. Watch TED Talk.
	<b>【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】</b>		21	Unit 5.	Presentation skills - repeating key ideas. Presentation performance.
	あり/Yes		22	Unit 5.	Grammar - unreal past. Speaking - life experiences and choices.
	<b>【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】</b>		23	Unit 5.	Listening and Speaking - getting ideas and planning a party.
	なし/No		24	Unit 6. Solutions.	Vocabulary - keywords. Listening skills - signposts. Watch TED Talk.
	<b>【授業計画】</b>		25	Unit 6.	Presentation skills - demonstrating a process. Grammar - purpose. Speaking - talking about why things are useful.
回	テーマ	内容	26	Unit 6.	Speaking - solving problems, discussing options.
1	Orientation. Getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.	27	Unit 6.	Review of units 5 and 6.
2	Unit 1. Necessities.	Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes. Pronunciation - relaxed pronunciation.	28	Review of units 1- 6.	Discussion and listening diary report.
3	Unit 1.	Presentation skills - speech aims & using props.			
4	Unit 1.	Presentation performance. Grammar - perfect aspect. Speaking - luxury or necessity?			
5	Unit. 1	Reading - Why do we sleep? Writing - stating opinions.			
6	Unit 2. Image and identity.	Watch TED Talk. Pronunciation - different accents. Presentation skills - using humor.			
7	Unit 2.	Grammar - comparisons and amounts. Speaking - evaluating data.			
					<b>【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】</b>
					Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.
					<b>【テキスト (教科書)】</b>
					Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.

【参考書】

Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation 45%

Presentations 15%

Quizzes 30%

Reports 10%

\*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less homework.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

Get skills necessary for the 21st century. Expand your knowledge. Reflect on the practical application of big ideas in the world.

LANe100LA

Academic English II

2017年度以降入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法Y 1年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Semester 1 review. Unit 7. Imagination.	Presentation of summer homework. Listening skills - inferring meaning from content. Watch TED Talk.
2	Unit 7.	Watch TED Talk. Presentation skills - being authentic, your accomplishments.
3	Unit 7.	Grammar - the continuous aspect. Speaking - the advantages and disadvantages of daydreaming. Reading and speaking - the power of visualization.
4	Unit 7.	Listening - speculating. Speaking - speculating.
5	Unit 7.	Writing - writing a news story.
6	Unit 8. Working together.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding contrastive sentences. Presentation skills - using visuals.

7	Unit 8.	Grammar - cause and result. Speaking - cause and result relationships.	26	Unit 12.	Listening and Speaking - making arrangements. Writing - group emails.
8	Unit 8.	Vocabulary - teams and teamwork. Reading - how not to motivate people.	27	Units 11 and 12 quiz.	Review of units 11 and 12.
9	Unit 8.	Speaking - work issues and taking part in meetings. Writing - questionnaires.	28	Review of units 7 - 12.	Discussion and listening diary report. Wrap up.
10	Unit 7 & 8 quiz.	Review of units 7 and 8.	<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b>		
11	Unit 9. Stress and relaxation.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding mid-sentence changes in direction. Presentation skills - understanding the speaker's technique and thinking about your audience.	Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.		
12	Unit 9.	Presentation performance - dealing with stress. Grammar - intensifying adjectives. Speaking - hints for a stress-free holiday.	<b>【テキスト（教科書）】</b>		
13	Unit 9.	Presentation performance. Reading - can stress be good for you?	Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.		
14	Unit 9.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.	<b>【参考書】</b>		
15	Unit 9.	Listening - dealing with awkward situations and having difficult situations. Pronunciation - polite and assertive intonation.	Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.		
16	Unit 10. Risk.	Listening skills - avoiding frustration. Critical thinking skills - analogies. Watch TED Talk.	<b>【成績評価の方法と基準】</b>		
17	Unit 10.	Presentation skills - pace and emphasis. Grammar - passive reporting verbs. Speaking - a TV news story.	In-class performance* and participation 45%		
18	Unit 10.	Reading - understanding risk. Speaking - travel risks, informing and advising. Listening - assessing risk.	Presentations 15%		
19	Unit 9 and 10 quiz.	Writing - memos and consumer reviews. Review of units 9 and 10.	Quizzes 30%		
20	Unit 11. Vision.	Listening skills - dealing with accents and different stress patterns. Watch TED Talk.	Reports 10%		
21	Unit 11.	Presentation skills - varying your tone of voice. Presentation performance.	*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.		
22	Unit 11.	Grammar - subordinate clauses. Speaking - geotourism and looking after what matters. Reading - visionaries.	<b>【学生の意見等からの気づき】</b>		
23	Unit 11.	Listening and Speaking - life coaching. Writing - endorsing someone.	Students requested less homework.		
24	Unit 12. The future.	Listening skills - grammatical chunks. Watch TED Talk. Critical thinking - the speaker's motivation.	<b>【学生が準備すべき機器他】</b>		
25	Unit 12.	Presentation skills - being concise. Grammar - future in the past. Speaking - past views of the present.	An English-English dictionary.		
			<b>【その他の重要事項】</b>		
			The above may change according to the interests and abilities of the class.		
			<b>【Outline and objectives】</b>		
			Get skills necessary for the 21st century. Expand your knowledge. Reflect on the practical application of big ideas in the world.		

LANe100LA

Academic English I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening. Practice writing opinion paragraphs each week about the topic.

## 【到達目標】

You will practice speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and write a variety of paragraphs and essays in order to build confidence. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Getting to know you	An explanation of the class requirements. Pair & Group discussion Homework: read unit 1 and write your opinion
2	Unit 1: Making a Difference	Vocabulary Listening Discuss Graphic Homework: Read p 18-9
3	Unit 1: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: prepare 3 minute presentation about the topic
4	Unit 2: Trends	Presentations Homework: write a review of your partner's presentation
5	Unit 2:	Vocabulary Listening Pair discussion Homework: Read p 30-1
6	Unit 2: Continued	Listening Discussion Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write your opinion about TED Talk

7	Unit 2: Continued	Presentations Predicting Trends Write a description of a product
8	Unit 3: Improving Lives	Vocabulary Listening Discussion Homework: Read p42-3
9	Unit 3: Continued	Reading Comprehension View TED Talk Homework: prepare your 3 minute presentation
10	Unit 3: Continued	Writing Presentations Homework: write a review about your own presentation
11	Read handout about politics	Discuss and write your opinion
12	Unit 4: Designing the Web	Vocabulary Listening Discussion Homework: Read p56-57
13	Unit 4: Continued	Reading Comprehension View TED Talk Homework: write a opinion paragraph about the TED Talk
14	Midterm Exam	Homework: Read Unit 4 and finish exercises
15	Unit 4: Continued	Discuss products Write a review in a 4 sentence paragraph
16	Unit 5: Community Builders	Vocabulary Listening Discussion Homework: Read p68-9
17	Unit 5: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph about the TED Talk
18	Unit 5: Continued	Do a survey with your classmates Write a letter to your local government
19	Read handout about politics	Discussion Homework: write about what you learned from this article.
20	Unit 6: Clear Communication	Vocabulary Listening Homework: Read p 80-1
21	Unit 6: Continued	Watch TED Talk Homework: prepare your 3 minute presentation
22	Unit 6: Continued	Presentations
23	Unit 7: Identity	Vocabulary Listening Homework: Read p 94-95 about migration
24	Unit 7: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Discussion Homework: write a review of the TED Talk
25	Unit 8: Transportation Solutions	Vocabulary Listening Homework: Reading p 106
26	Unit 8: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write a review of the TED Talk
27	Unit 8: Continued	Presentation Review for Final

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Department guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course. Homework includes reading articles in the book or the handouts, writing opinion paragraphs on each TED Talk and preparing short opinion presentations about topics we studied.

## 【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

## 【参考書】

na

## 【成績評価の方法と基準】

25% mid-term exam

25% final exam

25% presentation

25% effort/attendance

According to department guidelines, no more than 4 absences are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

none

## 【学生が準備すべき機器他】

none

## 【その他の重要事項】

none

[na]

na

## 【Outline and objectives】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening. Practice writing opinion paragraphs each week about the topic.

LANe100LA

## Academic English II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法 Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening. Improve writing skills by writing opinion paragraphs every week.

## 【到達目標】

You will practice speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and write a variety of paragraphs and essays in order to build confidence. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9: New Words	Vocabulary Listening Homework: Read p 118-9
2	Unit 9 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk
3	Unit 9 Continued	Presentation Writing
4	Unit 10: Understanding Emotions	Vocabulary Listening Homework: Read p132-3
5	Unit 10 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk
6	Unit 10 Continued	Presentations Writing
7	Read handout about politics	Discussion Writing
8	Unit 11: Leaders	Vocabulary Listening Homework: Read p 144-5

9	Unit 11 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk	【その他の重要事項】 na 【na】 na
10	Unit 11 Continued	Presentations Writing	【Outline and objectives】
11	Unit 12: Well-being	Vocabulary Listening Homework: Read p156-7	Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening.Improve writing skills by writing opinion paragraphs every week.
12	Unit 12 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk	
13	Unit 12	Presentations Feedback	
14	Midterm Exam	Review	
15	Read handout about politics	Discussion Homework: write an opinion paragraph on the handout.	
16	Politics Continued	Presentation Feedback	
17	Read handout about politics	Write an opinion essay	
18	Watch TED Talk	Reading Comprehension Homework: write an opinion paragraph on the talk	
19	Read handout about politics	Discussion	
20	Watch TED Talk	Reading Comprehension Homework: write an opinion paragraph on the talk	
21	Continued	Presentation	
22	Read handout about politics	Discussion Homework: write an opinion paragraph on the article	
23	Continued	Writing	
24	Watch TED Talk	Reading Comprehension Homework: write an opinion paragraph on the talk	
25	Continued	Presentations	
26	Read article about politics	Reading Comprehension Discussion Homework: write an opinion paragraph on the article	
27	Continued	Presentations Review	
28	Final Exam	Feedback	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course. Homework includes readings in the book or handouts for every class, writing opinion paragraphs on each TED Talk and preparing short opinion presentations on topics we studied.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

25% mid-term exam  
25% final exam  
25% presentations  
25% effort/attendance  
No more than 4 absences allowed

【学生の意見等からの気づき】

none

【学生が準備すべき機器他】

none

LANe100LA

## Academic English I

2017 年度以降入学者

## コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking.

## 【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction/Overview	Lesson 1
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
11	Presentation II.1	Lesson 6
12	Presentation II.1	Lesson 6
13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7

15	Presentation II.2	Lesson 8
16	Presentation II.2	Lesson 8
17	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
18	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
19	Presentation II.3	Lesson 10
20	Presentation II.3	Lesson 10
21	Paragraph Writing (compari-son/contrast 1)	Lesson 11
22	Paragraph Writing (compari-son/contrast 1)	Lesson 11
23	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12
24	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.

## 【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

LANe100LA

## Academic English II

2017 年度以降入学者

## コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes.

## 【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games.

English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction / Overview	Lesson 1
3	Writing Skills: Review	Lesson 2
4	Writing Skills: Review	Lesson 2
5	Presentation Skills: Review	Lesson 3
6	Presentation Skills: Review	Lesson 3
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
9	Academic Presentation I.1	Lesson 5
10	Academic Presentation I.1	Lesson 5
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6

12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
13	Academic Presentation I.2	Lesson 7
14	Academic Presentation I.2	Lesson 7
15	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
16	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
17	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
18	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
19	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
20	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
21	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11
22	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11
23	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
24	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
25	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
26	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
27	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14
28	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.

## 【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None.

## 【Outline and objectives】

Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

LANe100LA	Academic English I	2017 年度以降入学者	8	Unit 2.	Vocabulary - clothing. Reading - image and identity.
	ナダー ジャミリア		9	Unit 2.	Speaking - making suggestions. Writing - being diplomatic.
	開講時期：春学期授業/Spring   曜日・時限：月 2/Mon.2		10	Unit 2 & 3 quiz.	Review of units 1 and 2.
	単位数：2 単位		11	Unit 3. Harmony.	Watch TED Talk. Listening skills - discourse markers. Presentation skills - being relatable.
	法Y 1 年		12	Unit 3.	Presentation performance - my skill. Grammar - cleft sentences. Speaking - evaluating teamwork.
	<b>【授業の概要と目的 (何を学ぶか)</b>		13	Unit 3.	Presentation performance - teamwork versus individual genius.
	Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.		14	Unit 3.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.
	<b>【到達目標】</b>		15	Unit 3.	Listening - disagreeing. Writing - disagreeing in emails.
	You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.		16	Unit 4. Challenges.	Vocabulary building. Collaborative listening. Watch TED Talk.
	<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】</b>		17	Unit 4.	Presentation skills - controlling nerves. Grammar - approximation. Speaking - approximation.
	各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1		18	Unit 4.	Reading - names and branding. Speaking - talking about sales, clarifying and repeating.
	<b>【授業の進め方と方法】</b>		19	Unit 3 and 4 quiz.	Writing - instructions. Review of units 3 and 4.
	You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback. Please come to class ready to participate actively and positively.		20	Unit 5. Inspiration.	Listening skills - elision. Watch TED Talk.
	<b>【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】</b>		21	Unit 5.	Presentation skills - repeating key ideas. Presentation performance.
	あり / Yes		22	Unit 5.	Grammar - unreal past. Speaking - life experiences and choices.
	<b>【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】</b>		23	Unit 5.	Listening and Speaking - getting ideas and planning a party.
	なし / No		24	Unit 6. Solutions.	Vocabulary - keywords. Listening skills - signposts. Watch TED Talk.
	<b>【授業計画】</b>		25	Unit 6.	Presentation skills - demonstrating a process. Grammar - purpose. Speaking - talking about why things are useful.
回	テーマ	内容	26	Unit 6.	Speaking - solving problems, discussing options.
1	Orientation. Getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.	27	Unit 6.	Review of units 5 and 6.
2	Unit 1. Necessities.	Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes. Pronunciation - relaxed pronunciation.	28	Review of units 1- 6.	Discussion and listening diary report.
3	Unit 1.	Presentation skills - speech aims & using props.			
4	Unit 1.	Presentation performance. Grammar - perfect aspect. Speaking - luxury or necessity?			
5	Unit. 1	Reading - Why do we sleep? Writing - stating opinions.			
6	Unit 2. Image and identity.	Watch TED Talk. Pronunciation - different accents. Presentation skills - using humor.			
7	Unit 2.	Grammar - comparisons and amounts. Speaking - evaluating data.			
					<b>【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】</b>
					Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.
					<b>【テキスト (教科書)】</b>
					Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.

【参考書】

Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance\* and participation 45%

Presentations 15%

Quizzes 30%

Reports 10%

\*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less homework.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

Get skills necessary for the 21st century. Expand your knowledge. Reflect on the practical application of big ideas in the world.

LANe100LA

Academic English II

2017年度以降入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法Y1年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Semester 1 review. Unit 7. Imagination.	Presentation of summer homework. Listening skills - inferring meaning from content. Watch TED Talk.
2	Unit 7.	Watch TED Talk. Presentation skills - being authentic, your accomplishments.
3	Unit 7.	Grammar - the continuous aspect. Speaking - the advantages and disadvantages of daydreaming. Reading and speaking - the power of visualization.
4	Unit 7.	Listening - speculating. Speaking - speculating.
5	Unit 7.	Writing - writing a news story.
6	Unit 8. Working together.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding contrastive sentences. Presentation skills - using visuals.

7	Unit 8.	Grammar - cause and result. Speaking - cause and result relationships.	26	Unit 12.	Listening and Speaking - making arrangements. Writing - group emails.
8	Unit 8.	Vocabulary - teams and teamwork. Reading - how not to motivate people.	27	Units 11 and 12 quiz.	Review of units 11 and 12.
9	Unit 8.	Speaking - work issues and taking part in meetings. Writing - questionnaires.	28	Review of units 7 - 12.	Discussion and listening diary report. Wrap up.
10	Unit 7 & 8 quiz.	Review of units 7 and 8.	<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b>		
11	Unit 9. Stress and relaxation.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding mid-sentence changes in direction. Presentation skills - understanding the speaker's technique and thinking about your audience.	Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.		
12	Unit 9.	Presentation performance - dealing with stress. Grammar - intensifying adjectives. Speaking - hints for a stress-free holiday.	<b>【テキスト（教科書）】</b>		
13	Unit 9.	Presentation performance. Reading - can stress be good for you?	Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.		
14	Unit 9.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.	<b>【参考書】</b>		
15	Unit 9.	Listening - dealing with awkward situations and having difficult situations. Pronunciation - polite and assertive intonation.	Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.		
16	Unit 10. Risk.	Listening skills - avoiding frustration. Critical thinking skills - analogies. Watch TED Talk.	<b>【成績評価の方法と基準】</b>		
17	Unit 10.	Presentation skills - pace and emphasis. Grammar - passive reporting verbs. Speaking - a TV news story.	In-class performance* and participation 45%		
18	Unit 10.	Reading - understanding risk. Speaking - travel risks, informing and advising. Listening - assessing risk.	Presentations 15%		
19	Unit 9 and 10 quiz.	Writing - memos and consumer reviews. Review of units 9 and 10.	Quizzes 30%		
20	Unit 11. Vision.	Listening skills - dealing with accents and different stress patterns. Watch TED Talk.	Reports 10%		
21	Unit 11.	Presentation skills - varying your tone of voice. Presentation performance.	*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.		
22	Unit 11.	Grammar - subordinate clauses. Speaking - geotourism and looking after what matters. Reading - visionaries.	<b>【学生の意見等からの気づき】</b>		
23	Unit 11.	Listening and Speaking - life coaching. Writing - endorsing someone.	Students requested less homework.		
24	Unit 12. The future.	Listening skills - grammatical chunks. Watch TED Talk. Critical thinking - the speaker's motivation.	<b>【学生が準備すべき機器他】</b>		
25	Unit 12.	Presentation skills - being concise. Grammar - future in the past. Speaking - past views of the present.	An English-English dictionary.		
			<b>【その他の重要事項】</b>		
			The above may change according to the interests and abilities of the class.		
			<b>【Outline and objectives】</b>		
			Get skills necessary for the 21st century. Expand your knowledge. Reflect on the practical application of big ideas in the world.		

LANe100LA	6	Unit 2: Continued	Listening Discussion Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write your opinion about TED Talk
Academic English I		2017 年度以降入学者	
ERIC J RITTER	7	Unit 2: Continued	Presentations Predicting Trends Write a description of a product
開講時期：春学期授業/Spring   曜日・時限：月 2/Mon.2 単位数：2 単位 法 Y 1 年	8	Unit 3: Improving Lives	Vocabulary Listening Discussion Homework: Read p42-3
<b>【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】</b> Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening. Practice writing opinion paragraphs each week about the topic.	9	Unit 3: Continued	Reading Comprehension View TED Talk Homework: prepare your 3 minute presentation
<b>【到達目標】</b> You will practice speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and write a variety of paragraphs and essays in order to build confidence. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.	10	Unit 3: Continued	Writing Presentations Homework: write a review about your own presentation
<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】</b> 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1	11	Read handout about politics	Discuss and write your opinion
<b>【授業の進め方と方法】</b> You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.	12	Unit 4: Designing the Web	Vocabulary Listening Discussion Homework: Read p56-57
<b>【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】</b> あり / Yes	13	Unit 4: Continued	Reading Comprehension View TED Talk Homework: write a opinion paragraph about the TED Talk
<b>【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】</b> なし / No	14	Midterm Exam	Homework: Read Unit 4 and finish exercises
<b>【授業計画】</b> 回 テーマ 内容	15	Unit 4: Continued	Discuss products Write a review in a 4 sentence paragraph
1 Orientation. Getting to know you	16	Unit 5: Community Builders	Vocabulary Listening Discussion Homework: Read p68-9
2 Unit 1: Making a Difference	17	Unit 5: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph about the TED Talk
3 Unit 1: Continued	18	Unit 5: Continued	Do a survey with your classmates Write a letter to your local government
4 Unit 2: Trends	19	Read handout about politics	Discussion Homework: write about what you learned from this article.
5 Unit 2:	20	Unit 6: Clear Communication	Vocabulary Listening Homework: Read p 80-1
	21	Unit 6: Continued	Watch TED Talk Homework: prepare your 3 minute presentation
	22	Unit 6: Continued	Presentations
	23	Unit 7: Identity	Vocabulary Listening Homework: Read p 94-95 about migration
	24	Unit 7: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Discussion Homework: write a review of the TED Talk
	25	Unit 8: Transportation Solutions	Vocabulary Listening Homework: Reading p 106

26	Unit 8: Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write a review of the TED Talk
27	Unit 8: Continued	Presentation Review for Final
28	Final	Feedback

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course. Homework includes readings in the book or handouts for every class, writing opinion paragraphs on each TED Talk and preparing short opinion presentations on topics we studied.

## 【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

## 【参考書】

na

## 【成績評価の方法と基準】

25% mid-term exam

25% final exam

25% presentation

25% effort/attendance

According to department guidelines, no more than 4 absences are allowed.

## 【学生の意見等からの気づき】

none

## 【学生が準備すべき機器他】

none

## 【その他の重要事項】

none

## 【na】

na

## 【Outline and objectives】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening. Practice writing opinion paragraphs each week about the topic.

LANe100LA

## Academic English II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give give opinions based on reading and listening. Improve writing skills by writing opinion paragraphs every week.

## 【到達目標】

You will practice speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and write a variety of paragraphs and essays in order to build confidence. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9: New Words	Vocabulary Listening Homework: Read p 118-9
2	Unit 9 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk
3	Unit 9 Continued	Presentation Writing
4	Unit 10: Understanding Emotions	Vocabulary Listening Homework: Read p132-3
5	Unit 10 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk
6	Unit 10 Continued	Presentations Writing
7	Read handout about politics	Discussion Writing
8	Unit 11: Leaders	Vocabulary Listening Homework: Read p 144-5

9	Unit 11 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk	【その他の重要事項】 na 【na】 na
10	Unit 11 Continued	Presentations Writing	【Outline and objectives】
11	Unit 12: Well-being	Vocabulary Listening Homework: Read p156-7	Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. Learn to give opinions based on reading and listening. Improve writing skills by writing opinion paragraphs every week.
12	Unit 12 Continued	Reading Comprehension Watch TED Talk Homework: write an opinion paragraph on the talk	
13	Unit 12	Presentations Feedback	
14	Midterm Exam	Review	
15	Read handout about politics	Discussion Homework: write an opinion paragraph on the handout.	
16	Politics Continued	Presentation Feedback	
17	Read handout about politics	Write an opinion essay	
18	Watch TED Talk	Reading Comprehension Homework: write an opinion paragraph on the talk	
19	Read handout about politics	Discussion	
20	Watch TED Talk	Reading Comprehension Homework: write an opinion paragraph on the talk	
21	Continued	Presentation	
22	Read handout about politics	Discussion Homework: write an opinion paragraph on the article	
23	Continued	Writing	
24	Watch TED Talk	Reading Comprehension Homework: write an opinion paragraph on the talk	
25	Continued	Presentations	
26	Read article about politics	Reading Comprehension Discussion Homework: write an opinion paragraph on the article	
27	Continued	Presentations Review	
28	Final Exam	Feedback	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course. Homework includes readings in the book or handouts for every class, writing opinion paragraphs on each TED Talk and preparing short opinion presentations on topics we studied.

**【テキスト（教科書）】**

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

**【参考書】**

none

**【成績評価の方法と基準】**

25% mid-term exam  
25% final exam  
25% presentations  
25% effort/attendance  
No more than 4 absences allowed

**【学生の意見等からの気づき】**

none

**【学生が準備すべき機器他】**

none

LANe100LA

## Academic English I

2017 年度以降入学者

## コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking.

## 【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction/Overview	Lesson 1
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
11	Presentation II.1	Lesson 6
12	Presentation II.1	Lesson 6
13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7

15	Presentation II.2	Lesson 8
16	Presentation II.2	Lesson 8
17	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
18	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
19	Presentation II.3	Lesson 10
20	Presentation II.3	Lesson 10
21	Paragraph Writing (compari-son/contrast 1)	Lesson 11
22	Paragraph Writing (compari-son/contrast 1)	Lesson 11
23	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12
24	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course. Homework includes readings in the book or handouts for every class, writing opinion paragraphs on each TED Talk and preparing short opinion presentations on topics we studied.

## 【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None

## 【Outline and objectives】

Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

LANe100LA

## Academic English II

2017 年度以降入学者

## コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法Y 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes.

## 【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games.

English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction / Overview	Lesson 1
3	Writing Skills: Review	Lesson 2
4	Writing Skills: Review	Lesson 2
5	Presentation Skills: Review	Lesson 3
6	Presentation Skills: Review	Lesson 3
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
9	Academic Presentation I.1	Lesson 5
10	Academic Presentation I.1	Lesson 5
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6

12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
13	Academic Presentation I.2	Lesson 7
14	Academic Presentation I.2	Lesson 7
15	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
16	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
17	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
18	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
19	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
20	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
21	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11
22	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11
23	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
24	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
25	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
26	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
27	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14
28	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for this course.

## 【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

## 【学生の意見等からの気づき】

None.

## 【Outline and objectives】

Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

LANj100LA

**日本語 1 I**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 1 - I**

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法キ 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生が大学の講義や口頭発表を聞くために必要な日本語の聴解能力を養成する。

学生は、ある程度の長さのスクリプトを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材の Q&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を開き取る訓練を行った後で、要約文を書く。

**【到達目標】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

1. 学生は、講義や発表の概要をつかめるようになる。
2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
3. 学生は、聞いたことの要約ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- i. スクリプト全体を聞く
  - ii. 大意をつかみながらメモを作成
  - iii. Q&A、穴埋め問題に解答
- IV. 要約を作成  
v. ディスカッション

授業では、聞き取り、要約文を書き、理解した内容について討論を行い、自分の意見を発表することで、聴解力、文章力、発表する力を伸ばす練習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入
第 2 回	社会問題 1	導入
第 3 回	社会問題 2	発展
第 4 回	社会問題 3	応用
第 5 回	社会問題 4	まとめ
第 6 回	日本事情 1	導入
第 7 回	日本事情 2	発展
第 8 回	日本事情 3	応用
第 9 回	日本事情 4	まとめ
第 10 回	日本の文化 1	導入
第 11 回	日本の文化 2	発展
第 12 回	日本の文化 3	応用
第 13 回	日本の文化 4	まとめ
第 14 回	総まとめ	総まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

1. 復習型の授業。授業後に学生は練習問題で間違った箇所を再度チェックすること。
2. 要約文は、リライトをし、翌週の授業で提出。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

コピー教材

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本授業で学んだことをもとに応用力をつけていってほしいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

1. 授業開始と同時に聴解を行うので、遅刻しないよう心がけてください。
2. 教室でスマホは使用不可とするので、辞書を持参してください。
3. 課題がある場合は、授業終了直後に課題を提出します。遅れて提出した場合、評価点は与えられません。  
※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をします。必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

Undergraduate listening class -this class will help listening skill of students improve by listening to a script. They will be required to write a summary based on what they have heard and notes they have written.

LANj100LA

**日本語 Ⅱ**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 Ⅰ - Ⅱ**

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法キ 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大学の講義やゼミの受講に必要な日本語の聴解・読解能力を養成する。学生は、ある程度の長さのニュース番組などを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材の Q&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行う。聞き取り練習で扱ったトピックに関する読み物を読み、読みのスキルも同時に養成する。

**【到達目標】**

1. 学生は、講義やゼミの受講に必要な聴解・読解力がつく。
2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
3. 学生は、理解した内容について自分の意見を発表できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- i. ニュース全体を聞く
  - ii. 大意をつかみながらメモを作成する
  - iii. Q&A、穴埋め問題に解答する
- IV. 要約を作成する
- v. 討論と発表 1
  - vi. ニュースのトピックについての文章を読む
  - vii. 討論と発表 2

授業では、聞き取り理解した内容について討論を行い、さらに文章を読み、自分の意見を発表することで、聴解力、読解力、プレゼンテーション力を伸ばす練習を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入
第 2 回	社会問題 1	導入
第 3 回	社会問題 2	発展
第 4 回	社会問題 3	応用
第 5 回	社会問題 4	まとめ
第 6 回	日本事情 1	導入
第 7 回	日本事情 2	発展
第 8 回	日本事情 3	応用
第 9 回	日本事情 4	まとめ
第 10 回	日本の文化 1	導入
第 11 回	日本の文化 2	発展
第 12 回	日本の文化 3	応用
第 13 回	日本の文化 4	まとめ
第 14 回	総まとめ	総まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習型の授業。授業後は、学生は練習問題で間違った箇所を再度チェックし、きちんと復習することで、授業で学んだことを消化する。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教材・資料を毎回配布。

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：授業への積極的取り組みなど（30%）  
課題：ノートテイキング、穴埋め、Q&A、要約など（50%）  
期末試験（20%）

※ 4 回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※ 課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

**【学生の意見等からの気づき】**

本授業で学んだことをもとに応用力をつけていってほしいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

1. 授業開始と同時に聴解を行うので、遅刻しないよう心がけてほしい。
  2. 教室でスマホは使用不可とするので、辞書を持参してください。
  3. 課題がある場合は、授業終了後に課題を提出します。遅れて提出した場合、評価点は与えられません。
- ※ 最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this class is students would be able to listen to the lectures, grasp the point, take a note, and write a summary.

LANj100LA

## 日本語 1 I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 1 - I

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

## 【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. （可能であれば）読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

本授業は 5 月 7 日（木）から開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

## 日本語ⅠⅡ

2017年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語Ⅰ-Ⅱ

2017年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

## 【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解した内容について、自らの意見を述べる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 %、課題（発表、提出物）40 %、試験 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

## 日本語 2 I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 2 - I

2017 年度以降入学者

## 山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法キ 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。

対象は日本語を母語としない学部 1 年の学生を基本とする。

## 【到達目標】

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、文法、表現の知識を持ち、必要に応じてこれが使えらる。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の文体や語彙、表現など、必要な基礎知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Google Classroom と Zoom を使い、教科書に沿った課題演習を中心に行う。適宜ハンドアウトによる補充問題の演習も行う。演習には、毎回何らかの作文作成が含まれる。また、授業のはじめに前週の課題のフィードバックと、復習クイズを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第 2 回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文法の接続
第 3 回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第 4 回	文の基本②	・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・パラフレーズ
第 5 回	首尾一貫した文	・呼応 ・複文の適切な使い方
第 6 回	各種記号と引用	・句読点と記号 ・引用文
第 7 回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第 8 回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第 9 回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第 10 回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第 11 回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第 12 回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中、前週の学習内容について、小テストを行うので、復習しておくこと。また、小テストが受けられなかった場合は、その分の評価を受けられないので注意すること。

・授業外学習時間は 30 分を標準とするが、授業内に課題が完成しない場合、また添削後に書き直しが指示された場合は、さらに 30 分ほど必要と想定している。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

## 【参考書】

①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク

②小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版

③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への 1 2 のステップ』スリーエーネットワーク

## 【成績評価の方法と基準】

提出物（宿題）と平常点、および授業中のクイズで評価する

★提出物を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、期日を守ることを要する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学部 1 年生は、前期末の各教科の各種レポートの作成に不安や戸惑いがあるので、前期終了段階で基礎的なレポート作成の目安がほしいとの声が多かった。そのため、本授業では、前期終了少し前にはレポート作成技術のある程度習得し、学生のニーズに応えられるように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン（PC が好ましい）

## 【その他の重要事項】

★授業は、4 月 21 日に始まります。

★必ず Google Classroom に登録すること。

★Google Classroom への参加方法をはじめ、最新情報を Hoppii で確認すること。

また、法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

・タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

**日本語 2 II**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 - II**

2017 年度以降入学者

**山本 そのこ**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法キ 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語を母語としない、学部 1 年生の日本語作文。

前半は日本語 2 - I に続くレポートの作成練習、後半は様々な実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

**【到達目標】**

日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に対応して簡潔かつ適切な文章表現ができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教科書を用いた演習。

前半は教科書に沿ったレポート作成の基本を学習する。

後半は各テーマごとに、問題点を話し合い、その後各自あるいはグループで、与えられた状況に応じた文章の作成を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	意見と根拠①	・効果的な意見の述べ方 ・意見表明の文末表現
第 2 回	意見と根拠②	・事実と意見のかき分け ・レポート論文における事実文、意見文、行動文の使い方の確認
第 3 回	資料の利用	・資料の探し方と選別、利用のしかた
第 4 回	資料の引用	・引用文の復習 ・参考文献の書き方
第 5 回	レポートの作成①	・レポートの構成と作成のプロセス
第 6 回	レポートの作成②	・レポートのドラフト作成
第 7 回	メールの書き方 お知らせのメール①	・同窓会への招待
第 8 回	お知らせのメール②	・長期欠席の通知
第 9 回	問い合わせのメール	・活動内容の問い合わせ ・資料請求など
第 10 回	お願いのメール① 掲示板やメーリングリストを使う	・本の貸し出し依頼 ・期限の延期願い
第 11 回	お願いのメール②	・アドバイスを求める ・資料提供を求める
第 12 回	掲示板やメーリングリストを使う	・使い方と、トラブル回避の方法
第 13 回	自己アピールをする①	・奨学金などへの応募
第 14 回	自己アピールをする②	・就職・転職活動をする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

第 1 回から第 5 回までの授業では、授業外学習時間は 20～30 分程度を想定していますが、第 6 回目の後は、レポート作成のために 3 時間程度は必要です。

第 7 回以降は、原則として、毎回の授業の終わりに課題が与えられるので、期日（授業の次の金曜日 21:00）までにメールで課題を提出すること。7 回日以降の授業に必要な学習時間は、30～40 分を標準とします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

**【参考書】**

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

**【成績評価の方法と基準】**

提出物：60% 平常点：40%

★欠席 4 回以上で履修資格を失うので注意すること。

★遅刻（授業開始後 20 分まで）3 回で欠席 1 回として扱う。

★課題を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、提出期限を守ることに。

**【学生の意見等からの気づき】**

・トピックによって、グループ活動を行う。

・また、学生の作文の添削作業を一部クラス内で参加者全員で行う。（昨年度後半から学生の意見により導入したところ、好評だったため）

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートホン、タブレット、ノート PC などがあれば便利。

**【Outline and objectives】**

This course is basically designed for the first-year students who use Japanese as second language. It provides students with basic knowledge of writing for practical uses, such as e-mails, application forms, reports, etc., as well as academic report writing.

LANj100LA

**日本語 2 I**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 - I**

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文環 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

**【到達目標】**

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

学習支援システムにアップされた文章作成課題に取り組む。  
課題に対する教師からのフィードバックを読み、課題に修正を加える。  
本授業は5月6日（水）から開始する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	導入、実力診断作文
第2回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎①	「論理的コミュニケーション（論証）」とは何か
第3回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎②	「論理的コミュニケーション（論証）」のプロトタイプ（根拠と主張）を理解する
第4回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎③	「論拠」について理解する
第5回	パラグラフ・ライティングの基礎①	段落を「構成する」ことの重要性を理解する
第6回	パラグラフ・ライティングの基礎②	段落の基本構造を理解する
第7回	パラグラフ・ライティングの基礎③	「論証する」ために段落を「構成する」ことができる
第8回	パラグラフ・ライティングの基礎④	文と文、段落と段落を関連づける、メタ言語の役割を理解する
第9回	要約文①	文章の要約を通して、文章の概要（アウトライン）を把握する
第10回	要約文②	論文の構造を把握し、論文の概要（アウトライン）を把握する
第11回	レポートを書く①	レポートの基本的な書式と形式
第12回	レポートを書く②	序論の展開について理解する
第13回	レポートを書く③	本論と結論の展開について理解する
第14回	総括	今学期の内容を振り返る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- ・毎回、プリントを配布する。
- ・補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくること。

**【参考書】**

適宜指示。

**【成績評価の方法と基準】**

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。  
※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

**日本語 2 II**

2017 年度以降入学者

LANj100LA

**日本語 2 - II**

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文環 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

**【到達目標】**

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教員が課した課題に学生は個人またはグループで取り組む。その後、課題に関連した発表を行う場合もある。文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設ける。時間内に終わらなかった場合は、次回の授業までの宿題とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	レポートを見直す①	春学期に提出したレポートを見直し、修正すべき点を検討する
第 3 回	レポートを見直す②	春学期に提出したレポートを見直し、修正を加える
第 4 回	レポートを見直す③	修正したレポートを再度見直す
第 5 回	ミニレポート①	提示されたテーマについて、ミニレポートを作成する
第 6 回	ミニレポート①見直し	作成したミニレポート①を見直し、修正点を検討する
第 7 回	ミニレポート②	提示されたテーマについて、ミニレポートを作成する
第 8 回	ミニレポート②	作成したミニレポート②を見直し、修正点を検討する
第 9 回	論文①	論文を読み、レジメを作成する
第 10 回	論文①	論文を読み、要約を作成する
第 11 回	論文②	論文を読み、レジメを作成する
第 12 回	論文②	論文を読み、要約を作成する
第 13 回	最終課題	論文①②を引用しつつ、ミニレポートを作成する（レポートの構成を考える）
第 14 回	最終課題	論文①②を引用しつつ、ミニレポートを作成する（レポートを執筆する）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教員が提起した問題、あるいは、課した課題に学生は個人でないグループで取り組む。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設けるが、書き終わらなかった場合は、次回までに完成し提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- ・毎回、プリントを配布する。
- ・補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくる。

**【参考書】**

適宜指示。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点（30 %）
  - ・各授業の課題（40 %）
  - ・期末課題（30 %）
- ※ 4 回以上欠席した場合は、原則として単位を出さない。  
※ 課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

**【学生の意見等からの気づき】**

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。  
※ 最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

## 日本語 2 I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語 2 - I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。  
対象は日本語を母語としない学部 1 年の学生を基本とする。

## 【到達目標】

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、文法、表現の知識を持ち、必要に応じてこれが使えらる。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の文体や語彙、表現など、必要な基礎知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

Google Classroom と Zoom を使い、教科書に沿った課題演習を中心に行う。適宜ハンドアウトによる補充問題の演習も行う。演習には、毎回何らかの作文作成が含まれる。また、授業のはじめに前週の課題のフィードバックと、復習クイズを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第 2 回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文法の接続
第 3 回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文
第 4 回	文の基本②	・助詞「は」と「が」の使い分け ・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・パラフレーズ
第 5 回	首尾一貫した文	・呼応 ・複文の適切な使い方
第 6 回	各種記号と引用	・句読点と記号 ・引用文
第 7 回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第 8 回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第 9 回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第 10 回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第 11 回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第 12 回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中、前週の学習内容について、小テストを行うので、復習しておくこと。また、小テストが受けられなかった場合は、その分の評価を受けられないので注意すること。

・授業外学習時間は 30 分を標準とするが、授業内に課題が完成しない場合、また添削後に書き直しが指示された場合は、さらに 30 分ほど必要と想定している。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

## 【参考書】

①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク

②小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版

③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への 1 2 のステップ』スリーエーネットワーク

## 【成績評価の方法と基準】

提出物（宿題）と平常点、および授業中のクイズで評価する

★提出物を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、期日を守ることを。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するクラスのためアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン（PC が好ましい）

## 【その他の重要事項】

★授業は、4 月 27 日に始まります。

★必ずグーグルクラスルームに登録すること。

★グーグルクラスルームへの参加方法をはじめ、最新情報を Hoppii で確認すること。

また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

・タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

## 【Outline and objectives】

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

## 日本語Ⅱ

2017年度以降入学者

LANj100LA

## 日本語Ⅱ-Ⅱ

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営国 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない、学部1年生の日本語作文。  
前半は日本語2-1に続く小論文・レポート作成練習。後半は様々な  
実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

## 【到達目標】

日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に対応して簡潔かつ  
適切な文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：  
DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、  
キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前半は小論文・レポート作成の基本を学習する。後半は各テーマご  
とに問題点を話し合い、その後各自あるいはグループで、与えられ  
た状況に応じた文章の作成を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	指示詞	指示詞「こ」と「そ」
第2回	前後の関係	接続詞・接続表現
第3回	前の文に関係づける	「のだ」の文
第4回	意見文①	事実と意見
第5回	意見文②	効果的に意見を述べる
第6回	レポート・論文の作成	小論文・レポート
第7回	レポート・論文の作成	小論文・レポート
第8回	Eメール①	メールの書き方 基礎
第9回	Eメール②	お知らせ
第10回	Eメール③	問い合わせ
第11回	Eメール④	お願い
第12回	自己アピールをする①	奨学金などへの応募
第13回	自己アピールをする②	エントリーシート
第14回	レポート・小論文提出	レポート・小論文提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、毎回の授業の終わりに課題が与えられるので、翌週に  
印刷して提出すること。毎週 30分-1 時間必要。小論文・レポート  
作成には 3-4 時間必要。

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布

## 【参考書】

- ①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク
- ②二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
- ③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

⑤野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

⑥小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』スリーエーネットワーク

## 【成績評価の方法と基準】

提出物・クイズ：60% 平常点：40%

★欠席あるいは遅刻4回以上で履修資格を失うので注意すること。

★課題を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、提出期限を守ることに。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のためフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

This course is basically designed for the first-year students who use Japanese as second language. It provides students with basic knowledge of writing for practical uses, such as e-mails, application forms, reports, etc.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 A

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言語について、発音のルール、簡単な表現や基礎的な文法事項を体系的に学習していきます。辞書の使い方を学び、挨拶や自己紹介などの簡単な表現ができるようになることを目指します。

## 【到達目標】

ドイツ語を学ぶ上で重要な基本事項として、(1) 動詞の人称変化、(2) 名詞の性・数・格（変化）が挙げられます。授業および自主学習を通じて、主語に応じて動詞を変化させ、動詞に応じて目的語等を適切に格変化させて、ドイツ語の文を作ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

【変更あり】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einführung	4/22 ガイダンス 4/29 課題
2	Lektion 1A	5/6 動詞の現在人称変化
3	Lektion 1B	5/13 sein と haben の現在人称変化
4	Lektion 2A	5/20 名詞の性と冠詞、冠詞と名詞の格変化
5	Lektion 2B	5/27 所有冠詞・否定冠詞
6	Lektion 3A	6/3 動詞の現在人称変化（不規則）
7	Lektion 3A	6/10 命令・依頼の表現
8	Lektion 3B	6/17 定冠詞類の格変化、人称代名詞の格変化
9	Lektion 3B	6/24 wer と was の格変化
10	Lektion 4A	7/1 前置詞
11	Lektion 4A	7/8 前置詞
12	Lektion 4B	7/15 話法の助動詞、分離動詞
13	なし	なし
14	なし	なし

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているので、そちらも参照してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社、2019年。  
（2400円＋税）

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

【変更あり】平常点（授業への参加態度、宿題、発言/発信など）30%、小テスト 40%、提出課題 30% を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗などにより変更する可能性があります。特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。

## 【Outline and objectives】

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 A

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本的な事項を学んでいきます。春学期よりも豊かで多様な表現を身につけていきます。

## 【到達目標】

現在形以外の時制、接続詞や形容詞の使用など、春学期よりも豊かな表現を読解し、また自分でもアウトプットできるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。独和辞典を必ず持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書は不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	春学期のおさらい
2	Lektion 5A	動詞の 3 基本形
3	Lektion 5A	現在完了
4	Lektion 5B	過去人称変化
5	Lektion 5B	接続詞と副文
6	Lektion 6A	受動文、序数・日付
7	Lektion 6B	非人称の es, zu 不定詞句
8	Lektion 7A	形容詞の格変化
9	Lektion 7A	形容詞の比較級・最上級
10	Lektion 7B	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 8A	関係文（1）
12	Lektion 8A	関係文（2）
13	Lektion 8B	接続法
14	学期末試験	一年間で学んだ内容

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社、2019 年。  
（2400 円＋税）

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）と、授業での課題や小テスト等、普段の取り組み（50％）によって行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。

## 【Outline and objectives】

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法 1 年 B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 1 I では、教科書を用いてドイツ語の初級文法を体系的に学習します。ドイツ語の読解と作文を通してドイツ語の基本的な仕組みを理解することが本授業の目的です。文法の説明とグループワークでの練習によってドイツ語の発音と基本的な表現を身につけます。

★★★重要 Web 授業開始日を 5 月 6 日（配信開始）とします。閲覧して、課題練習をはじめてください。質問は [haruki@tt.rim.or.jp](mailto:haruki@tt.rim.or.jp) へ講義名・曜日・時限・氏名を忘れずに送ってください。大学教務では対応できないそうです。ただし、個別に返信は不可能ですので集約してスレッドに掲載します。

## 【到達目標】

発音、動詞の現在形と未来系、名詞と代名詞、複数形、命令形、冠詞類、前置詞と接続詞、話法の助動詞を修得する。独検 4 級の問題を解けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法説明を終えた後、練習問題を通じて、実際にその文法を使い、修得する。グループ練習をすることで、ドイツ語文法の理解を深め、基本的な会話表現も身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	導入とアルファベット	ドイツ語の基本的な発音を学習する
	遠隔授業開始 5 月 6 日とします。	
2 回	Lektion 1：動詞の現在人称変化	発音の復習を行う。動詞の現在人称変化を学ぶ
3 回	Lektion 1：重要不規則動詞の現在人称変化	sein, haben, werden の現在人称変化・動詞の位置を学ぶ
4 回	Lektion 2:名詞と冠詞	名詞の性と代名詞について学ぶ
5 回	Lektion 2：格変化	定冠詞・不定冠詞・名詞の格変化を学習する
6 回	Lektion 3：複数形	名詞の複数形を修得する
7 回	Lektion 4：不規則動詞の現在人称変化と命令法	不規則動詞と命令法を学ぶ
8 回	Lektion 5: 冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類について学ぶ
9 回	Lektion 5：人称代名詞	人称代名詞を学ぶ
10 回	Lektion 6：前置詞	2・3・4 格支配の接続詞について学習する
11 回	Lektion 6：従属の接続詞	従属の接続詞と副文を学ぶ
12 回	Lektion 7：話法の助動詞	話法の助動詞を学ぶ
13 回	Lektion 7：未来形	未来形を学ぶ
14 回	試験・まとめと解説	期末試験を行う・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間程度を標準とします。課題に関しては、教場授業がはじまってから、レポートとして提出してもらいます。それまで、質問などは、担当の私のメール [haruki@tt.rim.or.jp](mailto:haruki@tt.rim.or.jp) に大学名・学籍番号・氏名とともにお願いします。個別には返信せず、授業スレッドにて質問内容を反映した説明などを載せていきます。

## 【テキスト（教科書）】

クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）、森公成・渡辺広佐、同学社、2018 年、ISBN 978-4-8102-0887-0

現今の状況で、手にはいらなくとも Web 資料でまにあわせませす。

## 【参考書】

特に、なし

## 【成績評価の方法と基準】

小テストの平均点数 60%、期末試験 40%。

ただし、無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。課題を行わない場合、減点する可能性がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、身につく授業にしたいので、よく理解できないことがあれば、気楽に質問するように。

## 【学生が準備すべき機器他】

和独辞書

## 【その他の重要事項】

自主的に予習・復習にとりこんでください。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

Students learn how to translate German plain text into Japanese using the second half of the textbook used in the preceding course German 3 I. It deals with both current events and literary passages equally. In addition to the textbook printed materials (especially literary texts) will be distributed during class. Further information will be provided in the first class

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法 1 年 B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 1 II では、教科書を用いてドイツ語の初級文法を体系的に学習します。ドイツ語の読解と作文を通してドイツ語の基本的な仕組みを理解することが本授業の目的です。文法の説明とグループワークでの練習によってドイツ語の発音と基本的な表現を身につけます。

## 【到達目標】

複合動詞、再帰、形容詞の格変化と比較変化、過去形・現在完了形、受動態、指示代名詞・関係代名詞、接続法を修得する。独検 3 級の問題を解けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法説明を終えた後、練習問題を通じて、実際にその文法を使い、修得する。

グループ練習をすることで、ドイツ語文法の理解を深め、基本的な会話表現も身につける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 8 : 複合動詞	分離動詞と非分離動詞を学ぶ
2 回	Lektion 8 : 再帰	再帰代名詞と再帰動詞を学ぶ
3 回	Lektion 9 : 形容詞	形容詞の強変化・弱変化を学ぶ
4 回	Lektion 9 : 比較変化	形容詞の比較変化を学ぶ
5 回	Lektion 10 : 動詞の 3 基本形	過去基本形と過去分詞を学ぶ
6 回	Lektion 10 : 動詞の過去基本形	動詞の過去人称変化を学ぶ
7 回	Lektion 11 : 現在完了形	現在完了形を学ぶ
8 回	Lektion 11 : 過去完了形	過去完了形を学ぶ
9 回	Lektion 12 : 受動態	受動態を学ぶ
10 回	Lektion 12 : zu 不定詞	zu 不定詞と分詞を学ぶ
11 回	Lektion 13 : 指示代名詞	指示代名詞を学ぶ
12 回	Lektion 13: 関係代名詞	定関係代名詞と不定関係代名詞を学ぶ
13 回	Lektion 14: 接続法	接続法第 1 式と第 2 式を学ぶ
14 回	試験・まとめと解説	期末試験を行う・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）

森公成・渡辺広佐

## 【参考書】

特に、なし

## 【成績評価の方法と基準】

小テストの平均点数 60%、期末試験 40%。  
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。  
課題を行わない場合、減点する可能性がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

楽しく、身につく授業にしたいので、よく理解できないことがあれば、気楽に質問するように。

## 【学生が準備すべき機器他】

和独辞書

## 【その他の重要事項】

注意!! 前期の約 1 か月は、冊子テキストは手に入りにくい状況なので、配信されるスレッド(オリジナル解説)で、ドイツ語入門授業をすすめていきます。ゆっくりとしたペースですすめますので、あせらず、各スレッドを読んでおいてください。疑問や質問に個別にこたえることはできませんが、よくある質問・疑問説明コーナーももうけます。

## 【None】

None

## 【Outline and objectives】

Students learn how to translate German plain text into Japanese using the second half of the textbook used in the preceding course German 3 I. It deals with both current events and literary passages equally. In addition to the textbook printed materials (especially literary texts) will be distributed during class. Further information will be provided in the first class.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

【Outline and objectives】  
German grammar

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 CD

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得

## 【到達目標】

基本的な文法事項を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、一応目安を下記の授業計画に掲載しますが、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日に具体的なオンライン授業の進め方をガイダンスします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方 アルファベットの発音
2.	つづりの読み方と発音	母音の発音 日常会話の基本的表現
3.	つづりの読み方と発音	子音の発音
4.	第 1 課（1）	動詞の現在人称変化（1）
5.	第 1 課（2）	sein と haben の現在人称変化 語順
6.	第 1 課（3）	第 1 課の復習
7.	小テスト	第 1 課のテスト
8.	第 2 課（1）	定冠詞と名詞の格変化
9.	第 2 課（2）	不定冠詞と名詞の格変化
10.	第 2 課（3）	第 2 課の復習
11.	小テスト	第 2 課のテスト
12.	第 3 課（1）	名詞の複数形 人称代名詞
13.	第 3 課（2）	第 3 課の復習
14.	小テスト	第 3 課のテスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

前田・高木『身につくドイツ文法＜ Leicht ＞ 2』 郁文堂

## 【参考書】

授業中、随時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、学習支援システム上で、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 CD

3) 平常点 (出席状況と受講態度) 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

## 【Outline and objectives】

German grammar

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得

## 【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得をします。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は主に次の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習 (各自で問題をやらしてもらったり、ペア練習を行います)
3. 映像鑑賞

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	第 7 課 (1)	話法の助動詞 未来形
2.	第 7 課 (2)	非人称動詞 時刻の表現
3.	第 8 課 (1)	分離動詞 非分離動詞
4.	第 8 課 (2)	接続詞
5.	第 9 課	動詞の 3 基本形 過去形
6.	第 10 課 (1)	現在完了形
7.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習 (1)
8.	第 10 課 (2)	再帰表現
9.	第 11 課	形容詞の格変化 序数 日付の表現
10.	第 12 課 (1)	形容詞と副詞の比較変化
11.	第 12 課 (2)	zu 不定詞
12.	第 13 課 (1)	関係代名詞
13.	第 13 課 (2)	指示代名詞
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習 (2)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

宿題となった練習問題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

前田・高木『身につくドイツ文法 &lt; Leicht &gt; 2』郁文堂

## 【参考書】

授業中、随時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

## 【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

原則として教科書にそって進めます。ひとつの課を 2 週かけて学びます。文法を解説したのち、練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。なおオンライン授業が続くであろう状況を踏まえると、自習の割合が高くなることが予想されるとともに、受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。  
※ 授業は 4 月 27 日から始まります。それまでに Hoppii のお知らせを読み、Google Classroom への登録を済ませてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、 発音	発音の規則、数詞など
第 2 回	Lektion 1	規則的動詞の現在人称変化／動詞の位置など
第 3 回	Lektion 1	復習と練習問題、読解
第 4 回	Lektion 2	sein, haben, werden / 並列の接続詞
第 5 回	Lektion 2	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	Lektion 3	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 4	名詞の複数形／人称代名詞
第 9 回	Lektion 4	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	Lektion 5	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 6	動詞の現在人称変化 (III) / 命令形
第 13 回	Lektion 6	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック ノイ』第三書房、2018 年。

## 【参考書】

辞書については授業時にお話します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、学期末レポート 20 % を基準として総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning basic grammar. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

## 【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning basic grammar. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では前期に引き続きドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

## 【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

原則として教科書にそって進めます。ひとつの課を 2 週かけて学びます。文法を解説したのち、練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期の復習
第 2 回	Lektion 7	話法の助動詞・未来形
第 3 回	Lektion 7	復習と練習問題／読解
第 4 回	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞
第 5 回	Lektion 8	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 9	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞・従属の接続詞
第 7 回	Lektion 9	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 10	動詞の 3 基本形 (I)・過去形・現在完了形
第 9 回	Lektion 10	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion 11	動詞の 3 基本形 (II)・受動態
第 11 回	Lektion 11	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞
第 13 回	Lektion 12	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック ノイ』第三書房、2018 年。

## 【参考書】

辞書については授業時にお話します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、学期末テスト 70 %を基準として総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 A

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語を使いこなすためのドイツ語文法前半の習得を目的とする。

**【到達目標】**

簡単な文法事項に慣れ、使いこなしができる。発音のルールを知り、初めて見るドイツ語の単語が正しく発音できるようになる。簡単なドイツ語の文章を辞書を用いて読めるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は 5 月 8 日より開始する。

当面は PDF を中心とした資料の配付、学修、学習支援システムを利用した課題の提出と説明でおこなう。

ZOOM などのシステムは受講者の状況などをみて判断する。

できるだけたくさん問題を解き、発表してもらおう。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目前半部分はすべて学習するので、欠席は極力避けること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習の仕方
	教科書、学習方法の説明	ドイツ語のアルファベット 簡単なドイツ語の表現
2	Lektion 1	発音、規則動詞・定形の位置
3	Lektion 1	sein と haben
4	Lektion 2	名詞の性
5	Lektion 2	格変化
6	Lektion 3	不規則変化動詞
7	Lektion 3	命令形
8	Lektion 4	定冠詞・不定冠詞
9	Lektion 4	否定の冠詞
10	Lektion 5	人称代名詞
11	Lektion 5	前置詞
12	Lektion 6	未来形
13	Lektion 6	話法の助動詞
14	春学期での習得した知識の確認	今まで習得した文法事項の確認と 応用力のチェック

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『リヒトホーフ』松瀬他（朝日出版社）その他教室で指示したもの。

**【参考書】**

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語一文法中心」在間進、三修社等の参考書は役に立つ。

**【成績評価の方法と基準】**

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

様々な学生への配慮

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is learning the first half of German grammar to understand German.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 A

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ文法後半の学び、春学期に学んだ知識と合わせて、基本的なドイツ語文法全般を習得する。

## 【到達目標】

基本的なドイツ語文法の習得を終了し、辞書を使って様々な文章を読むことができる。簡単なドイツ語の文章が作れるようになる。さらなるドイツ語の学習のための準備段階を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

できるだけたくさんの問題を練習してもらい、積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目は、すべて学習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	分離動詞・非分離動詞
2	Lektion 7	接続詞
3	Lektion 8	動詞の 3 基本形
4	Lektion 8	過去形
5	Lektion 9	完了形
6	Lektion 9	受動態
7	Lektion 10	形容詞の説明
8	Lektion 10	形容詞の練習
9	Lektion 11	再帰代名詞
10	Lektion 11	zu 不定詞
11	Lektion 12	関係代名詞・指示代名詞
12	Lektion 12・13	関係代名詞の練習・接続法
13	Lektion 13	接続法の練習
14	秋学期での習得した知識の確認	今まで習得した文法事項の確認と応用力のチェック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『リヒトホーフ』松鶴他（朝日出版社）その他教室で指示したもの。

## 【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語一文法中心」在間進、三修社等の参考書は役に立つ。

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

様々な学生への対応。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is learning the second half of German grammar to understand German.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

文 1 年 B~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

ドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

## 【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる語彙、表現を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

COVID19 感染拡大により、当面、「学習支援システム」を通して、オンラインで行います。Hoppii から入ることができます。

教材と課題がアップされますので、視聴学習を行ってください。

学習支援システムでの授業の開始日は 4 月 23 日です。

（以下は、教室授業 [対面授業] が再開された場合です。：

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します（リアクションペーパー）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オンラインによるイントロダクション	オンラインによる発音の仕方 発音とアクセント
第 2 回	オンラインによるドイツ語の動詞について	オンラインによる疑問詞 動詞の現在人称変化 名詞の性と格
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	du,ihr,Sie について
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の疑問文について	決定疑問文の答え方
第 6 回	Lektion3 ドイツ語の不規則動詞について	重要な不規則動詞の変化
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	数字 前置詞の格支配
第 8 回	Lektion4 ドイツ語の融合形について	前置詞と冠詞の融合形

第 9 回	<b>Lektion5</b> ドイツ語の es について	非人称の es を用いた表現
第 10 回	<b>Lektion5</b> ドイツ語の代名詞について	人称代名詞の 3・4 格
第 11 回	<b>Lektion6</b> ドイツ語の冠詞類について	定冠詞・不定冠詞
第 12 回	<b>Lektion7</b> ドイツ語の語法の助動詞について	語法の助動詞の用法 nicht と kein の用法
第 13 回	<b>Lektion7</b> ドイツ語の未来形について	未来と推量の助動詞 man の用法
第 14 回	春学期の文法項目の要点とまとめ 期末試験	春学期の文法のみまとめ 期末試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。  
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。  
宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

#### 【テキスト（教科書）】

「仕組みのわかるドイツ語初級文法」 櫻井麻美 三修社  
現状では、テキストが送られてくるまでは授業開始以後、1、2 週間、（物流事情によってはそれ以上）かかることが予想されます。それまではオンラインでも教科書を使わずに、学習します。

#### 【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）  
参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

-----  
期末試験 70%

平常点（課題の提出、授業への積極的参加） 30%

-----  
この評価方法は COVID19 感染拡大の状況によって変更されま  
す-----

#### 【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業が実行できる PC など。  
特にありません。

#### 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

#### 【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center Program.  
This course provides elementary German grammar for beginners.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

文 1 年 B～F

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。  
春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。  
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

#### 【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。  
日常的によく使われる語彙、表現を学ぶことができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします（リアクションペーパー）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	<b>Lektion8</b> ドイツ語の分離動詞について	分離・非分離動詞
第 2 回	<b>Lektion8</b> ドイツ語の従属接続詞について	副文 間接疑問文
第 3 回	<b>Lektion9</b> ドイツ語の過去形について	動詞の 3 基本形
第 4 回	<b>Lektion9</b> ドイツ語の現在完了形について	現在完了形と過去形
第 5 回	<b>Lektion10</b> ドイツ語の過去人称変化について	過去人称変化とその用法
第 6 回	<b>Lektion10</b> ドイツ語の受動態について	受動態の作り方と用法
第 7 回	<b>Lektion11</b> ドイツ語の再帰代名詞について	再帰動詞・代名詞
第 8 回	<b>Lektion11</b> ドイツ語の zu 不定詞について	zu 不定詞と用法
第 9 回	<b>Lektion12</b> ドイツ語の形容詞について	形容詞の格変化
第 10 回	<b>Lektion12</b> ドイツ語の比較級・最上級について	比較級・最上級の用法 序数

第 11 回	<b>Lektion13</b> ドイツ語の関係代名詞 について	関係代名詞
第 12 回	<b>Lektion13</b> ドイツ語の関係副詞に ついて	関係副詞と命令形
第 13 回	<b>Lektion14</b> ドイツ語の接続法につ いて	接続法第 1 式、第 2 式
第 14 回	ドイツ文法の要点とま とめ 期末試験	ドイツ文法総覧 期末試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。自分の試訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

#### 【テキスト（教科書）】

「仕組みのわかるドイツ語初級文法」 櫻井麻美 三修社

#### 【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%

平常点（課題の提出、授業への積極的参加）30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確実なものにします。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

#### 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

#### 【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center Program.  
This course provides elementary German grammar for beginners.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 L・P

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音のルールを知って、初見の単語でも発音できるようにする。

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

#### 【到達目標】

発音、動詞の現在形、名詞、前置詞、接続詞、代名詞、冠詞類を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

4 月 25 日に授業を開始し、しばらくはオンライン授業の形態をとる。教科書が入手できるようになったら、対面授業が可能になるまで学習支援システムと Zoom による双方向リアルタイム授業の組み合わせで授業をする。学習支援システムにお知らせをよく載せるので、常にチェックすること。特に初回の前は早めにお知らせチェックをしてください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入とアルファベート とても大事な回	授業支援システムで楽しみながらやる課題を解く。提出は授業後になる。授業時間内に可能な人だけ顔合わせ目的で少し Zoom の練習（参加しなくても不利益にはならない）。
2	つづりの読み方と発音	発音練習
3	発音練習	前回の続き
	第 1 課：動詞の人称変化	動詞の人称変化について学ぶ
4	動詞の現在人称変化	動詞の現在人称変化、不定詞句と平叙文、疑問文について学ぶ
5	第 2 課：名詞の性、数、格	名詞の性、複数形についてについて学ぶ
6	名詞の格変化	名詞の格変化と格の用法について学ぶ
7	第 3 課：前置詞、接続詞	前置詞の格支配 前置詞と冠詞の融合形について学ぶ
8	従属接続詞と副文	従属接続詞と副文、不規則動詞について学ぶ
9	第 4 課：人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞	人称代名詞の格変化 不定冠詞類 再帰代名詞、再帰動詞について学ぶ
10	第 5 課：冠詞類	定冠詞類の格変化 不定冠詞類の格変化について学ぶ
11	命令の表現	命令の表現と提案の表現
12	第 6 課：形容詞の格変化、比較変化	形容詞の格変化、比較変化、比較変化の表現について学ぶ

- 13 春学期のおさらい 春学期に学んだことをおさらいする  
質問を用意しておくこと
- 14 総復習 学んだことが身につくような復習  
秋学期に向けての準備

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。  
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

**【テキスト（教科書）】**

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

**【参考書】**

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

**【成績評価の方法と基準】**

出席は3分の2以上を必要とする。基本的には期末試験+小テスト70%（オンライン授業が最後まで続いた場合は、期末試験に変わる課題、あるいは長めの小テストをオンライン上で行う）、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻3回で欠席1回にカウントされる。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年度も楽しく、真剣に学びましょう。

**【その他の重要事項】**

楽しく、まじめに勉強しましょう。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を毎回手元に置き、使用すること。

Zoomによる双方向システム授業時は、PC、タブレットで参加するのが望ましいが、スマートフォンしか用意できず、通信料が心配なときは音だけ聞こえれば大丈夫な時間帯はスマートフォンで「安全運転モード」にすることができる。

**【Outline and objectives】**

To master the pronunciation of German and the basic grammar.

LANd100LA

**ドイツ語 1 II**

2017年度以降入学者

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1単位

文1年L・P

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

**【到達目標】**

動詞と助動詞の習得。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ドイツについての豆知識、すぐに役立つ表現も学びながら、分離動詞から接続法までの文法を習得する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだことを復習する。教科書と辞書を持参すること。
2	第7課：分離動詞	分離動詞、非分離動詞について学ぶ
3	分離・非分離前綴り	分離・非分離前綴りについて学ぶ
4	第8課：話法の助動詞	話法の助動詞の変化、話法の助動詞の各種用法について学ぶ
5	助動詞 werden, lassen	助動詞 werden, lassen について学ぶ
6	第9課：過去形	動詞の3基本形、過去形について学ぶ
7	現在完了形	現在完了形について学ぶ
8	第10課：受動態	受動態、状態受動、能動態と受動態について学ぶ
9	受動態の機能	受動態の機能について学ぶ
10	第11課：関係文	定関係代名詞、関係文、不定関係代名詞について学ぶ
11	関係副詞、指示代名詞	関係副詞、指示代名詞について学ぶ
12	第12課：接続法	接続法の変化、接続法第1式について学ぶ
13	接続法第2式	接続法第2式について学ぶ
14	総復習	秋学期に学んだことが身につくような復習と補足

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。  
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

**【テキスト（教科書）】**

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

**【参考書】**

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業に取り組む姿勢、宿題、課題）20%、試験 80%などを総合的に評価する。ただし出席が不足している場合には受験資格はない。詳細は初回の授業で説明される。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。

**【学生の意見等からの気づき】**

好奇心をもって授業にのぞんでもらえるように頑張ります。

**【その他の重要事項】**

春学期と基本的に同じ。

パソコンとモバイルはカバンにしまっておくこと。毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を持参し、使用すること。板書はその場でノートに写し、やむを得ず板書したものを写真にとるときは、教員に許可を求めること。

**【Outline and objectives】**

To master the basic grammar.

LANd100LA

**ドイツ語 1 I**

2017 年度以降入学者

高橋 泰雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 T~W

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身に着けることも目指していきます。

**【到達目標】**

到達目標は 2 年次以降に学ぶ「ドイツ語 3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶこととなりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

授業支援システムでの授業は 4 月 25 日からの開始となります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ドイツ語の世界へようこそ	ドイツ語とはこんな言葉です 発音はむずかしくありません
第 2 回	動詞（規則動詞）の変化	動詞の形は変わります 主語によって動詞の形が変化することを学びます
第 3 回	語順に気をつけましょう	動詞の場所は決まっています 動詞の位置は 2 番目です
第 4 回	冠詞と名詞の変化	冠詞と名詞の形も変わります 定冠詞と不定冠詞の役割を理解します
第 5 回	冠詞の仲間たち	冠詞とよく似た変化をする冠詞類の使い方
第 6 回	動詞（不規則動詞）の変化	母音が変わる動詞があります 不規則な動詞の変化を学びます
第 7 回	読章 ドイツ人の休暇	少しまとまった文章を理解できるようにします
第 8 回	人称代名詞の格変化	ich du er などにも 3 格・4 格の形があります 代名詞の役割と使い方を理解します
第 9 回	前置詞の使い方	前置詞には決まった相手があります 前置詞を使った表現の約束について学びます
第 10 回	読章 ドイツの水事情	少し長めの文章に挑戦します
第 11 回	クロスワードパズル I	ことわざをヒントにしたパズルを解いてみましょう

- 第12回 形容詞の付加語的用法 形容詞にも語尾がつきます  
付加語的に形容詞を使うときの語  
尾の形を学びます
- 第13回 形容詞の名詞化 形容詞は名詞に変われます  
形容詞を名詞として使うことがで  
きます
- 第14回 期末試験とその解説 春学期の学習内容を確認します

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）朝日出版社 2400円

**【参考書】**

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アポロン独和辞典」 同学社

ポケット型の独和辞典は買わないようにしてください。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期はオンライン授業なので出席、小テスト、レポートなどを総合して評価することになります。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってきてください。

**【Outline and objectives】**

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history.

Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

**ドイツ語 1 II**

2017年度以降入学者

高橋 泰雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年 T~W

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身に着けることも目指していきます。

**【到達目標】**

到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶことになりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	話法の助動詞	助動詞を使った文の語順に気を付けましょう 助動詞を使って表現の幅を広げます
第2回	分離動詞とは何か 再帰代名詞	ふたつに分かれる動詞があります もう一人の自分がいます
第3回	動詞の3つの基本となる形	基本的な動詞の不定詞・過去・過去分詞の形を覚えましょう
第4回	動詞の過去形	動詞の過去の形に気を付けましょう 過去形の文の作り方を学びます
第5回	現在完了の用法	完了形は助動詞と過去分詞でつくります 完了の助動詞は2つあります
第6回	読章 テディーベアの話	日本でも人気のあるテディーベアの由来の話を読みます
第7回	関係代名詞の使い方	先行詞のあるものとなないもの 関係代名詞の用法を理解します
第8回	クロスワードパズルII	アルファベットが詰まった表の中から体の部分を意味する単語を探しましょう
第9回	形容詞の比較 現在分詞とは	いろいろな比較の仕方を学びます 現在分詞の使い方を理解します
第10回	読章 ドイツの環境問題	まとまった文の読み方を理解できるようにします
第11回	zu 不定詞の用法	zu 不定詞の使い方 zu 不定詞を使った表現を学びます

- 第12回 受動態 「～される」という言い方  
いろいろな受動的表現を学びます
- 第13回 接続法とは何か 人の言ったことを表すと  
「もしも～ならばの」の言い方
- 第14回 期末試験とその解説 秋学期の学習内容を確認します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）朝日出版社

## 【参考書】

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アポロン独和辞典」 同学社

## 【成績評価の方法と基準】

①平常点 60%（授業での発表 授業態度）

②期末試験 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい項目を少しずつ学ぶこととなります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってきてください。

## 【Outline and objectives】

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We

are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history.

Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 A・B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の使い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようになることを目指します。

## 【到達目標】

ドイツ語文法の二つの基本事項として（1）名詞の格という概念を把握し、冠詞の格変化の仕方を身につけます。（2）主語に対応して動詞の語尾が様々な変化し、主語と動詞の対応によって文が成立することを学ぶことにより、ドイツ語のしくみを理解し習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は学習支援システムを用いてオンラインでの授業を行います。

それ以降は、教科書が入手出来たら、教科書に準じて授業を進め、授業計画に変更があるときは、学習支援システムでその都度提示します。本授業は4月23日に開始し、この日までに具体的な内容などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとアルファベット	ABCの読み方・母音の発音
2	発音と挨拶	子音の発音・挨拶・曜日と月・数字
3	Lektion 1 動詞の現在人称変化 (1)	人称代名詞・動詞（基本） の現在人称変化・動詞の位置
4	Lektion 1 動詞の現在人称変化 (2)	sein・habenの現在人称変化
5	Lektion 2 名詞・冠詞	名詞の性と冠詞の格変化およびその用法
6	Lektion 2 複数形 Lektion 3 動詞の現在人称変化 (2)	複数形の種類・語幹が変化する動詞の現在人称変化
7	Lektion 3 命令形 Lektion 4 定冠詞類	命令形・定冠詞類の種類と格変化
8	Lektion 4 不定冠詞類・否定文	不定冠詞類の種類と格変化 否定文の作り方
9	Lektion 5 人称代名詞・前置詞 (1)	人称代名詞の3格と4格・ 3格支配と4格支配の前置詞
10	Lektion 5 前置詞 (2)	前置詞を用いたいろいろな表現 (融合形など)

11	Lektion 6 話法の助動詞（1）	助動詞の種類と現在人称変化および用法
12	Lektion 6 話法の助動詞（2） 未来形	助動詞を用いた表現・未来形の形態と用法
13	Lektion 7 複合動詞 復習とまとめ	分離動詞と非分離動詞
14	春学期のまとめと試験	文法を中心としたまとめの説明と関連する試験の実施・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。

課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答えは、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「リヒトホーフ」－初級ドイツ語文法－ 松鶴功記・他著 朝日出版社

#### 【参考書】

授業時に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な内容は、今後オンラインでの授業を確認しながら、学習支援システムで提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

#### 【Outline and objectives】

Elementary class of German language. Students learn the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. Also learn the everyday German expressions and reading comprehension of the plain texts with the textbook.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 A・B

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の使い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようになることを目指します。

#### 【到達目標】

助動詞・分離動詞・不定詞・関係代名詞等、主にドイツ語の文章の根幹をなす特色の一つである枠構造に関する文法事項を学びます。さらに、現在形の展開形態として現在完了形・未来形等の時制の変化を、最後に、非現実の事柄が表現できる接続法について学びます。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文法が過不足なく明瞭に理解できるテキストを用います。折にふれて練習問題を配布し、学んだ知識の定着を図ります。文法事項の修得が進むにつれて、次第に複雑で深みのあるドイツ語表現の理解が可能になります。この授業で学んだ文法の知識を十分に活用して、ドイツ語2の授業でまとまった文章を通じて言葉を身につける試みをしてください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と秋学期の展望	春学期の復習をし、秋学期の授業の説明を行う。
2	Lektion 7	分離動詞と非分離動詞の復習・接続詞の種類と副文
3	Lektion 8	いろいろな動詞の3基本形（過去動詞の3基本形）の説明
4	Lektion 8	過去形の人称変化と用法
5	Lektion 9	現在完了形と過去完了形について
6	Lektion 9	受動態の形態とその用法
7	Lektion 10	形容詞の3つの用法と格変化・名詞化について
8	Lektion 10	形容詞と副詞の比較表現
9	Lektion 11	再帰代名詞と再帰動詞および熟語
10	Lektion 11	zu 不定詞句の形態と用法・英語との相違点
11	Lektion 12	定関係代名詞と不定関係代名詞
12	Lektion 12	指示代名詞の形と用法・接続法の1式と2式および時制
13	Lektion 13	接続法の用法（要求・間接・非現実）の説明

## 14 秋学期の復習とまとめ ドイツ語文法のまとめの試験の実施・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。

課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答えは、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「リヒトホーフ」－初級ドイツ語文法－ 松鶴功記・他著 朝日出版社

## 【参考書】

授業時に必要に応じて指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業への取り組み方などを参考に、到達目標に達しているかを問う期末試験 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

## 【Outline and objectives】

Elementary class of German language. Students learn the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. Also learn the everyday German expressions and reading comprehension of the plain texts with the textbook.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

高橋 泰雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 C～J・L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身につけることも目指していきます。

## 【到達目標】

到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶこととなりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

授業支援システムでの授業は4月25日開始となります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ドイツ語の世界へようこそ	ドイツ語とはこんな言葉です 発音はむずかしくありません
第2回	動詞（規則動詞）の変化	動詞の形は変わります 主語によって動詞の形が変化することを学びます
第3回	語順に気をつけましょう	動詞の場所は決まっています 動詞の位置は2番目です
第4回	冠詞と名詞の変化	冠詞と名詞の形も変わります 定冠詞と不定冠詞の役割を理解します
第5回	冠詞の仲間たち	冠詞とよく似た変化をする冠詞類の使い方
第6回	動詞（不規則動詞）の変化	母音が変わる動詞があります 不規則な動詞の変化を学びます
第7回	読章 ドイツ人の休暇	少しまとまった文章を理解できるようにします
第8回	人称代名詞の格変化	ich du er などにも3格・4格の形があります 代名詞の役割と使い方を理解します
第9回	前置詞の使い方	前置詞には決まった相手があります 前置詞を使った表現の約束について学びます
第10回	読章 ドイツの水事情	少し長めの文章に挑戦します
第11回	クロスワードパズル I	ことわざをヒントにしたパズルを解いてみましょう

- 第12回 形容詞の付加語的用法 形容詞にも語尾がつきます  
付加語的に形容詞を使うときの語  
尾の形を学びます
- 第13回 形容詞の名詞化 形容詞は名詞に変われます  
形容詞を名詞として使うことがで  
きます
- 第14回 期末試験とその解説 春学期の学習内容を確認します

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）2400円 朝日出版社

**【参考書】**

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アポロン独和辞典」 同学社

ポケット型の独和辞典は買わないようにしてください。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期はオンライン授業なので出席、小テスト、レポートなどを総合して評価することになります。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってきてください。

**【Outline and objectives】**

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history.

Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

**ドイツ語 1 II**

2017年度以降入学者

高橋 泰雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1単位

営 1年 C~J・L

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身につけることも目指していきます。

**【到達目標】**

到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶことになりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	話法の助動詞	助動詞を使った文の語順に気を付けましょう 助動詞を使って表現の幅を広げます
第2回	分離動詞とは何か	ふたつに分かれる動詞があります
第3回	最帰代名詞	もう一人の自分があります
第3回	動詞の3つの基本となる形	基本的な動詞の不定詞・過去・過去分詞の形を覚えましょう
第4回	動詞の過去形	動詞の過去の形に気を付けましょう 過去形の文の作り方を学びます
第5回	現在完了の用法	完了形は助動詞と過去分詞でつくります 完了の助動詞は2つあります
第6回	読章 テディーベアの話	日本でも人気のあるテディーベアの由来の話を読みます
第7回	関係代名詞の使い方	先行詞のあるものとなないもの 関係代名詞の用法を理解します
第8回	クロスワードパズルII	アルファベットが詰まった表の中から体の部分を意味する単語を探しましょう
第9回	形容詞の比較	いろいろな比較の仕方を学びます
第10回	現在分詞とは	現在分詞の使い方を理解します
第10回	読章 ドイツの環境問題	まとまった文の読み方を理解できるようにします
第11回	zu 不定詞の用法	zu 不定詞の使い方 zu 不定詞を使った表現を学びます

- 第12回 受動態 「～される」という言い方  
いろいろな受動的表現を学びます
- 第13回 接続法とは何か 人の言ったことを表すと  
「もしも～ならばの」の言い方
- 第14回 期末試験とその解説 秋学期の学習内容を確認します

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）朝日出版社

#### 【参考書】

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アポロン独和辞典」 同学社

#### 【成績評価の方法と基準】

①平常点 60%（授業での発表、授業態度）

②期末試験 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってきてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We

are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history.

Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

佐藤 まり子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

営1年K

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音から始め、ドイツ語の初級文法、基本表現を学習する。

#### 【到達目標】

ひととおり初級文法を習得し、辞書を使って平易な文章の読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。独検5級・4級に合格する力がつく。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月27日（月）

春学期前半は少なくともオンライン授業となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。ドイツ語の仕組みがだまかに分かるように、初歩的文法事項を学び、ドイツ語の文章構造を理解する。

前回の授業の復習をしてから、例文を使って新しい文法を説明する。理解したかどうか確かめる為、その場で問題を解いてもらう。

宿題の練習問題の解答合わせをし、覚えてきた短い例文を言ってもらおう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツとドイツ語	ガイダンス、辞書の紹介
2	発音	アルファベット、発音
3	動詞	動詞の現在人称変化、定動詞の位置、語順
4	定冠詞と不定冠詞	格変化
5	名詞、名詞の複数形	名詞の性・数・格と名詞の格変化
6	不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化
7	命令形	命令文の作り方
8	定冠詞類と不定冠詞類	格変化
9	指示代名詞、疑問代名詞	指示代名詞の用法、疑問代名詞を使った文
10	人称代名詞	3格と4格の人称代名詞
11	前置詞	前置詞の格支配
12	話法の助動詞、未来形	話法の助動詞の現在人称変化、未来形の用法
13	従属接続詞	副文
14	まとめと復習	1課～6課

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識が定着するように、授業で習った事をよく復習し、宿題の練習問題をやっておく。各課の最初にあるその課で学ぶ短い例文を覚えてくる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書：『怖くはないぞドイツ文法』春日正男、松澤 淳（朝日出版社）

辞書：独和辞典1冊 1回目の授業で辞書の紹介をするので、必ず説明を聞いてから購入すること。

## 【参考書】

必ずしも必要ではないが、参考書として、『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠麿、平尾浩三、朝倉 巧（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。それについては、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方が早いと思う学生が中にはいるが、1年生で教えるべき文法を終わらせるには、授業2回で1課進む位のペースでやむを得ないのではないだろうか？

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

## 【Outline and objectives】

Students learn the relationship between German letters and pronunciation and pronounce the words.

Students master the fundamentals of German grammar.

Students read easy texts with help of a dictionary and understand the contents.

Students learn fundamental colloquial expressions.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

佐藤 まり子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

営 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発音ができ、ドイツ語の初級文法、基本表現を学習する。

## 【到達目標】

ひととおり初級文法を習得し、辞書を使って平易な文章の読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。独検5級・4級に合格できる力がつく。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

ドイツ語の仕組みがだまかに分かるように、初歩的文法事項を学び、ドイツ語の文章構造を理解する。

前回の授業の復習をしてから、例文を使って新しい文法を説明する。理解したかどうか確かめる為、その場で問題を解いてもらう。宿題の練習問題の解答合わせをし、覚えてきた短い例文を言ってもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	ガイダンス
2	分離動詞と非分離動詞	分離動詞と非分離動詞の前綴り
3	非人称動詞	非人称 ES の用法
4	形容詞	形容詞の格変化
5	形容詞の名詞化	形容詞の名詞化の作り方
6	動詞の三基本形	規則動詞の三基本形の作り方、不規則動詞の三基本形
7	過去	過去人称変化
8	現在完了	現在完了形の作り方
9	定関係代名詞	関係代名詞の文
10	不定関係代名詞	不定関係代名詞の文
11	形容詞の比較級・最高級	作り方と用法
12	ZU 不定詞	作り方と用法
13	復習	7 課～12 課
14	まとめと整理	総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識が定着するように授業で習った事をよく復習し、宿題の練習問題をやっておく。各課の最初にあるその課で学ぶ短い例文を覚えてくる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：『怖くはないぞドイツ文法』春日正男、松澤 淳（朝日出版社）

辞書：独和辞典

## 【参考書】

必ずしも必要ではないが、参考書として、『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠麿、平尾浩三、朝倉 巧（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

試験70%、宿題・授業内課題・授業参加度など平常点30%

## 【学生の意見等からの気づき】

秋学期の文法は難しいが、少し、慣れてきたのか、授業の進み方に関しては、春学期に早いと思っていた学生もなにかついてくれたようで良かったと思う。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

## 【Outline and objectives】

Students learn the relationship between German letters and pronunciation and pronounce the words.

Students master the fundamentals of German grammar.

Students read easy texts with help of a dictionary and understand the contents.

Students learn fundamental colloquial expressions.

LANd100LA

## ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要	綴りの読み方と発音 アルファベット等について 発音記号について
②	Lektion1	人称代名詞と動詞の現在人称変化 (規則動詞)
③	Lektion1	sein・haben の現在人称変化、 語順、 ja,nein の使い方
④	Lektion2	名詞の性と冠詞、名詞の格、定冠詞と名詞の格変化、不定冠詞と名詞の格変化
⑤	Lektion2	格の用法、名詞の複数形、人称代名詞の使い方
⑥	Lektion3	動詞の現在人称変化（不規則動詞）、命令形
⑦	Lektion3	非人称の es、時刻の表現
⑧	Lektion4	定冠詞類、不定冠詞類
⑨	Lektion4	人称代名詞の3格と4格、3格・4格の語順
⑩	Lektion5	前置詞の格支配 前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞 wer と was の格変化
⑪	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『プーメラン・エルエー』

小野寿美子・中川明博・西巻丈児著  
朝日出版社 2020年8刷発行 定価 2500円＋税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600円＋税

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

## ドイツ語 1 II

2017年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1年 Q・R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と副文
②	Lektion6	分離動詞と非分離動詞
③	Lektion7	形容詞の格語尾変化 1
④	Lektion7	形容詞の格語尾変化 2
⑤	Lektion7	形容詞・副詞の比較
⑥	Lektion8	動詞の3基本形 1
⑦	Lektion8	動詞の3基本形 2
⑧	Lektion8	現在完了形
⑨	Lektion9	過去形
⑩	Lektion9	再帰代名詞と再帰動詞
⑪	Lektion10	zu 不定詞（句）
⑫	Lektion10	関係代名詞
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブーメラン・エルエー』

小野寿美子・中川明博・西巻丈児著

朝日出版社 2020年8刷発行 定価 2500円＋税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600円＋税

**【成績評価の方法と基準】**

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

**ドイツ語 2 I**

2017 年度以降入学者

佐藤 まり子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 A

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基礎的な文法事項を習得し、発音のルールを知って単語の発音ができるようになり、平易な文章の読解力を養い、基本的な口語表現を学ぶ。

**【到達目標】**

読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指す。

独検 5 級・4 級に合格する力がつく。

ドイツ語を通じて、ドイツの文化・生活・社会などについて学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業開始日：4 月 27 日（月）

春学期前半は少なくともオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

コンパクトにドイツ語の文法を説明し、授業中に練習問題を解いてもらい、残りは宿題にする。

CD を使って全員でテキストを音読した後、一人ずつ順番に読んで日本語に訳してもらう。

各課に関連した現代ドイツについての話を交えながら、ドイツに対する理解を深めてもらう授業を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ドイツとドイツ語	ガイダンス、辞書の紹介
2	発音（1）	1 課 アルファベット、つづり字と発音
3	動詞（1）	動詞の現在人称変化、定動詞の位置、語順
4	動詞（1）	動詞の現在人称変化
5	自己紹介	2 課「ドイツへ、さまざまな人々、いろいろな変化」
6	冠詞と名詞	定冠詞と不定冠詞、名詞の格変化、複数形
7	ドイツ人の休暇	3 課「旅行大国ドイツと有給休暇」
8	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の格変化
9	車	4 課「ドイツ生まれの車」
10	動詞（2）、命令形、人称代名詞、非人称動詞	不規則動詞の現在人称変化、命令形の作り方、3 格と 4 格の人称代名詞、非人称 es の用法
11	食事	5 課「パンとドイツ料理」
12	前置詞、従属接続詞	前置詞の格支配、副文
13	付加価値税	6 課「ヨーロッパの付加価値税」
14	まとめと復習	1～6 課

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題の文法問題をやっておく。

CD を聴いて、ドイツ語の発音やイントネーションを確認し、テキストを音読する。

辞書を引いてテキストを日本語に訳す。

ドイツについて興味・関心があれば、積極的にインターネットで調べて視野を広げよう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書：『たいむりい』 森田 悟、川上博子、跡守美音（朝日出版社）

辞書：独和辞典 1 冊 1 回目の授業で辞書の紹介をするので、必ず説明を聞いてから購入すること。

#### 【参考書】

必ずしも必要ではないが、参考書として『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾、平尾浩三、朝倉 巧（白水社）

『現代ドイツを知るための 6 2 章』 浜本隆志、高橋 憲（明石書店）

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。それについては、学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

#### 【Outline and objectives】

Students learn the fundamentals of German grammar.

Students know the rules of pronunciation and can pronounce words.

Students cultivate their reading powers and learn fundamental colloquial expressions.

LANd100LA

## ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

佐藤 まり子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 A

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な文法事項を習得し、発音のルールを知って単語の発音ができるようになり、平易な文章の読解力を養い、基本的な口語表現を学ぶ。

#### 【到達目標】

読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指す。

独検 5 級・4 級に合格する力がつく。

ドイツ語を通じて、ドイツの文化・生活・社会などについて学ぶ。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

コンパクトにドイツ語の文法を説明し、授業中に練習問題を解いてもらい、残りは宿題にする。

CD を使って全員でテキストを音読した後、一人ずつ順番に読んで日本語に訳してもらおう。

各課に関連した現代ドイツについての話を交えながら、ドイツに対する理解を深めてもらう授業を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	ガイダンス
2	話法の助動詞、分離・非分離動詞	助動詞文の作り方、分離・非分離の前つづり
3	ドイツの犬や猫事情	7 課「ドイツ人は犬が大好き」
4	zu 不定詞、形容詞の付加語用法	zu 不定詞の用法、形容詞の格変化
5	節約家ドイツ人	8 課「蚤の市」
6	再帰表現、比較表現	再帰代名詞と再帰動詞、形容詞の比較級・最高級
7	教育制度	9 課「ドイツの大学」
8	動詞の三基本形、過去	動詞の三基本形の作り方、過去人称変化
9	クリスマス	10 課「クリスマス」
10	現在完了、受動態	現在完了形の作り方、受動文の作り方
11	原発について	11 課「原子力発電」
12	関係代名詞、接続法	関係文の作り方、接続法 I・II 式の作り方と用法
13	ドイツにおける日本の知名度	12 課「ドイツの中の日本」
14	まとめと整理	総復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題の文法問題をやっておく。

CD を聴いて、ドイツ語の発音やイントネーションを確認し、テキストを音読する。

辞書を引いてテキストを日本語に訳す。

ドイツについて興味・関心があれば、積極的にインターネットで調べて視野を広げよう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書：『たいむりい』 森田 悟、川上博子、跡守美音（朝日出版社）  
辞書：独和辞典1冊

## 【参考書】

必ずしも必要ではないが、参考書として『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾、平尾浩三、朝倉 巧（白水社）  
『現代ドイツを知るための62章』浜本隆志、高橋 憲（明石書店）

## 【成績評価の方法と基準】

試験70%、宿題・授業内課題・授業参加度など30%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

## 【Outline and objectives】

Students learn the fundamentals of German grammar.  
Students know the rules of pronunciation and can pronounce words.  
Students cultivate their reading powers and learn fundamental colloquial expressions.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

## 渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2  
単位数：1単位  
法1年B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語にも触れることにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

## 【到達目標】

簡単なドイツ語が辞書なしで読めるようになる。ドイツ語の基本的な文法事項の前半部分を習得することにより、ドイツ語の簡単な文章の意味が理解できるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は5月8日より開始する。  
当面はPDFを中心とした資料の配付、学修、学習支援システムを利用した課題の提出と説明でおこなう。  
ZOOMなどのシステムは受講者の状況などをみて判断する文法事項の説明。その知識をもとにして練習問題を解く。文章の発音と読解の練習をする。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらい正解を全員で考える。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書の紹介。授業の進め方。ドイツ語とはなにか。アルファベット。簡単な表現。
2	Lektion 1 動詞の現在人称変化	発音の規則の解説と練習。ドイツ語でのあいさつ。現在人称変化。
3	Lektion 1 動詞の現在人称変化の練習	人称代名詞と規則動詞の変化。sein 動詞。定動詞の位置。
4	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化	名詞の性、格変化、haben の文法名詞の性、冠詞の格変化の説明。問題練習。
5	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化の練習	名詞の性、格変化、haben 等を使った表現の練習。2課の読解。
6	Lektion 3 不規則動詞、命令形	不規則動詞、命令形の文法の説明。問題練習。
7	Lektion 3 不規則動詞、命令形の練習	不規則動詞、命令形を使った表現の練習。3課の読解。
8	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類の文法の説明。問題練習。
9	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類の練習	定冠詞類・不定冠詞類を使った表現の練習。4課の読解。
10	Lektion 5 複数形、人称代名詞	複数形、人称代名詞の文法の説明。問題練習。
11	Lektion 5 複数形、人称代名詞の練習	複数形、人称代名詞を使った表現の練習。5課の読解。
12	Lektion 6 前置詞	前置詞の文法の説明。問題練習。

- 13 **Lektion 7** 形容詞の変化（解説と練習）。  
形容詞の格変化
- 14 春学期の学修事項の確 到達度テスト  
認 学修事項の確認と対策

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回に質問する。教科書に添付された学修用 CD を聞いて発音になれる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [改訂版] 「上野成利他」  
白水社

**【参考書】**

任意の独和辞典

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 % 到達度テスト 60 %

**【学生の意見等からの気づき】**

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

**【Outline and objectives】**

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

LANd100LA

**ドイツ語 Ⅱ**

2017 年度以降入学者

**渡辺 国彦**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 B

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語以外の外国語にも触れることにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

**【到達目標】**

ドイツ語の基本的な文法事項の後半を習得することにより、ドイツ語の基本的な文章を理解できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

文法事項の説明。修得した知識をもとに練習問題を解く。文章の発音と読解の練習。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらいその正解を全員で考える。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Lektion 8	話法の助動詞、未来形の文法の説明。問題練習。
2	Lektion 8	話法の助動詞、未来形を使った表現の練習。8 課の読解。
3	Lektion 9	分離動詞、接続詞と副文の文法の説明。問題練習。
4	Lektion 9	分離動詞、接続詞と副文を使った表現の練習。9 課の読解。
5	Lektion 10	zu 不定詞、再帰代名詞の文法の説明。問題練習。
6	Lektion 10	zu 不定詞、再帰代名詞を使った表現の練習。10 課の読解。
7	Lektion 11	三基本形、過去形の文法の説明。問題練習。
8	Lektion 11	三基本形、過去形を使った表現の練習。11 課の読解。
9	Lektion 12	現在完了形の文法の説明。問題練習。
10	Lektion 12	現在完了形を使った表現の練習。12 課の読解。
11	Lektion 13	受動態の文法の説明。問題練習。
12	Lektion 13	受動態を使った表現の練習。13 課の読解。
13	Lektion 14	関係代名詞、関係副詞を使った表現の練習。接続法の練習。
14	Lektion 15	接続法、関係副詞
	秋学期の学修事項の確認	到達度テスト 到達度の確認と対策

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回に質問できるように用意する。教科書に添付された学習用 CD を聞いて発音になれる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [改訂版] 「上野成利他」白水社

**【参考書】**

任意の独和辞典

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 % 到達度テスト 60 %

**【学生の意見等からの気づき】**

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

**【Outline and objectives】**

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

LANd100LA

**ドイツ語 2 I**

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 CD

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

**【到達目標】**

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

開講日は 4 月 23 日（木）です。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

初めの数回は、教科書を使用せずに授業を行います。教科書が学生の皆さんに行き渡った後は、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット、発音とアクセント、挨拶について
第 2 回	第 1 章（1）	動詞の現在人称変化、動詞 <b>sein</b> と <b>haben</b> の変化、動詞の位置
第 3 回	第 1 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 4 回	第 2 章（1）	名詞の性、名詞の 1 格・4 格、所有冠詞
第 5 回	第 2 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 6 回	第 3 章（1）	不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形
第 7 回	第 3 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 8 回	中間試験	第 1～7 回の内容を確認します。
第 9 回	第 4 章（1）	名詞の 3 格、前置詞と名詞の格
第 10 回	第 4 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 11 回	第 5 章（1）	人称代名詞の 3・4 格、分離動詞、非分離動詞
第 12 回	第 5 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 13 回	第 6 章（1）	話法の助動詞、命令形
第 14 回	期末試験	第 9～13 回の内容を確認します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎週、宿題および予習・復習を行ってこることが必須です。本授業の準備・復習時間は、各 60 分～90 分を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2 6 0 0 円 + 税

**【参考書】**

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

**【成績評価の方法と基準】**

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始後に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

文法中心の授業が別にある（ドイツ語 1I, 1II）ので、この授業ではなるべく色々な文章の読解や会話練習などを行いたいと思います。

**【その他の重要事項】**

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

**【Outline and objectives】**

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

**ドイツ語 2 II**

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 CD

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

**【到達目標】**

春学期に引き続き初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を持参すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学んだ内容を復習します。
第 2 回	第 6 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 3 回	第 7 章（1）	3 格・4 格支配の前置詞、並列接続詞
第 4 回	第 7 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 5 回	第 8 章（1）	現在完了形、過去形
第 6 回	第 8 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 7 回	中間試験	第 1～6 回の内容を確認します。
第 8 回	第 9 章（1）	定冠詞類、副文
第 9 回	第 9 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 10 回	第 10 章（1）	比較級と最上級、再帰代名詞と再帰動詞
第 11 回	第 10 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 12 回	第 11 章（1）	形容詞の格変化、非人称表現（es の用法）
第 13 回	第 11 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 14 回	期末試験	第 8～13 回の内容を確認します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎週、宿題および予習・復習を行ってこることが必須です。本授業の準備・復習時間は、各 60 分～90 分を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

書名：『ドイツ語の時間 と きめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2600円＋税

**【参考書】**

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』(中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社)

『ドイツ語のしくみ』(清野智昭著、白水社)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、中間試験(40%)、期末試験(40%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

文法中心の授業が別にある(ドイツ語 1I, 1II)ので、この授業ではなるべく色々な文章の読解や会話練習などを行いたいと思います。

#### 【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

## ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

#### 【到達目標】

基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、一応目安を下記の授業計画に掲載しますが、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始は4月21日とし、この日に具体的なオンライン授業の進め方をガイダンスします。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方 アルファベットの発音
2.	つづりの読み方と発音	母音の発音 日常会話の基本的表現
3.	つづりの読み方と発音	子音の発音
4.	第1課(1)	動詞の現在人称変化(1)
5.	第1課(2)	動詞の現在人称変化(2)
6.	第1課(3)	第1課の復習
7.	小テスト	第1課のテスト
8.	第2課(1)	名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形(1)
9.	第2課(2)	名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形(2)
10.	第2課(3)	第2課の復習
11.	小テスト	第2課のテスト
12.	第3課(1)	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞(1)
13.	第3課(2)	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞(2)
14.	小テスト	第3課のテスト

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

宿題となった練習問題

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

#### 【参考書】

授業中、随時指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、学習支援システム上で、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

**【Outline and objectives】**

German grammar and reading

LANd100LA

**ドイツ語 Ⅱ**

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

**【到達目標】**

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。DVD 映像を使用し、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は主に次の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習（各自で問題をやらしてもらったり、ペア口頭練習を行います）
3. 映像鑑賞

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1.	第 6 課 (1)	話法の助動詞・未来形・分離動詞・非分離動詞・接続詞 (1)
2.	第 6 課 (2)	話法の助動詞・未来形・分離動詞・非分離動詞・接続詞 (2)
3.	第 7 課 (1)	動詞の三基本形・過去形・現在完了形 (1)
4.	第 7 課 (2)	動詞の三基本形・過去形・現在完了形 (2)
5.	第 8 課 (1)	再帰表現・zu 不定詞 (1)
6.	第 8 課 (2)	再帰表現・zu 不定詞 (2)
7.	第 9 課 (1)	形容詞の格変化・比較表現 (1)
8.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習 (1)
9.	第 9 課 (2)	形容詞の格変化・比較表現 (2)
10.	第 10 課 (1)	受動態 (1)
11.	第 10 課 (2)	受動態 (2)
12.	第 11 課 (1)	関係代名詞・指示代名詞 (1)
13.	第 11 課 (2)	関係代名詞・指示代名詞 (2)
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習 (2)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題となった練習問題

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

**【参考書】**

授業中、随時指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

以下の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許す限り、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

## 【Outline and objectives】

German grammar and reading

LANd100LA

## ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 A

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではやさしいドイツ語の文章を読みながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自立的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

## 【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自立的な学習の仕方を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を 2 回の授業で扱い、前半では文法事項について解説してから練習問題を解き、後半では前回学んだ事項の復習をしながらドイツ語の文章を読みます。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。

授業は 4 月 28 日から始めます。それまでに Hoppii のお知らせを読み、Google Classroom への登録を済ませてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と辞書について / ドイツ語の発音
第 2 回	Lektion 1	文法学習：動詞の現在人称変化 / sein と haben の人称変化 / 動詞の位置
第 3 回	Lektion 1	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske I / Deutschland
第 4 回	Lektion 2	文法学習：名詞の性 / 1 格と 4 格 / 不規則動詞 werden / ja, nein, doch
第 5 回	Lektion 2	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske II / Fußball
第 6 回	Lektion 3	文法学習：不規則動詞の現在人称変化 / 名詞の複数形 / 2 格と 3 格
第 7 回	Lektion 3	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske III / Die EU
第 8 回	Lektion 4	文法学習：前置詞と名詞の格 / 副文
第 9 回	Lektion 4	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske IV / Mahlzeit, Mahlzeit!
第 10 回	Lektion 5	文法学習：人称代名詞の 3 格と 4 格 / 再帰代名詞と再帰動詞 / 非人称の es

第 11 回	Lektion 5	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske V / Gute Besserung!
第 12 回	Lektion 6	文法学習：定冠詞類／不定冠詞類／否定冠詞 kein と否定文
第 13 回	Lektion 6	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske VI / Ingeborg Bachmann: Malina
第 14 回	まとめ	到達度の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、復習を重視します。

準備学習：次回扱う範囲の文を正確に発音できるようにするとともに、初出単語を辞書で調べてくる。

復習：授業で学んだことを見直すとともに授業で出された課題をこなす。

#### 【テキスト（教科書）】

清野智昭／須藤温子／會田素子『ドイツ語の時間 -読解編- <読めると楽しい！>』朝日出版社、2011 年。

#### 【参考書】

辞書を必ず買うこと。紙の辞書をおすすめします。くわしくは初回授業時にお話します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、期末テスト（50％）を合わせて総合的に評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning basic grammar and reading texts. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 A

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではやさしいドイツ語の文章を読みながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自立的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

#### 【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自立的な学習の仕方を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を 2 回の授業で扱い、前半では文法事項について解説してから練習問題を解き、後半では前回学んだ事項の復習をしながらドイツ語の文章を読みます。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期の復習
第 2 回	Lektion 7	文法学習：zu 不定詞句／分離動詞と非分離動詞
第 3 回	Lektion 7	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske VII / Erich Kästner: Das doppelte Lottchen
第 4 回	Lektion 8	文法学習：話法の助動詞／未来形
第 5 回	Lektion 8	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske VIII / Michael Ende: Momo (1)
第 6 回	Lektion 9	文法学習：動詞の三基本形／過去形／現在完了形／受動態
第 7 回	Lektion 9	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske IX / Die Sommerzeit
第 8 回	Lektion 10	文法学習：形容詞の用法／形容詞の格変化／比較級と最上級
第 9 回	Lektion 10	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske X / Franz Kafka: Die Verwandlung
第 10 回	Lektion 11	文法学習：関係代名詞／命令形
第 11 回	Lektion 11	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske XI / Michael Ende: Momo (2)
第 12 回	Lektion 12	文法学習：接続法

## 第13回 Lektion 12

文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske XII / Michael Ende: Die unendliche Geschichte  
到達度の確認

## 第14回 まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準としますが、復習を重視します。

準備学習：次回扱う範囲の文を正確に発音できるようにするとともに、初出単語を辞書で調べてくる。

## 復習

2) 授業で学んだことを見直すとともに授業で出された課題をこなす。

## 【テキスト（教科書）】

清野智昭／須藤温子／會田素子『ドイツ語の時間 -読解編- <読めると楽しい！>』朝日出版社、2011年。

## 【参考書】

辞書を必ず買うこと。紙の辞書をおすすめします。くわしくは初回授業時にお話します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末テスト（50%）を合わせて総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning basic grammar and by reading texts. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ I

2017年度以降入学者

## D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1単位

文1年B～F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

\*\*\*授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。\*\*\*

## 【到達目標】

- ・基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
- ・ドイツ人の価値観、文学や音楽、映画などについて知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回、文法のテーマごとに2～3例文（キーセンテンス）を取り上げて文法や使い方などを説明する。練習問題は従来のテキストに沿って進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	発音、その他
②	動詞の現在人称変化	<i>Ich denke, also bin ich (hier falsch).</i>
③	名詞の性と格変化	<i>Der Name der Rose</i>
④	定冠詞類と不定冠詞類	<i>Jeder Mensch ist ein Künstler.</i>
⑤	前置詞の格支配	<i>Liebe geht durch den Magen.</i>
⑥	名詞の複数形	<i>Kleider machen Leute.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	形容詞の格変化	<i>Ein Freund, ein guter Freund, das ist das Beste, was es gibt auf der Welt.</i>
⑨	命令法	<i>Erkenne dich selbst!</i>
⑩	話法の助動詞	<i>Wer nicht hören will, muss fühlen.</i>
⑪	接続詞(1)	<i>Mit Erstaunen bemerkte Aschenbach, dass der Knabe vollkommen schön war.</i>
⑫	分離動詞	<i>Ilsebill salzte nach.</i>
⑬	復習	⑧～⑬
⑭	試験	試験と解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習が必要。詳細は毎回授業の終了時に指示する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は最初の授業時に指示する。

## 【参考書】

独和辞典を持ってきて下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末テスト：70%

平常点：30%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムも利用する。  
普段使用しているメールアドレスを登録してください。

## 【Outline and objectives】

In this class we learn the basics of German grammar using memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc. to become able to read simple texts.

LANd100LA

## ドイツ語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

## D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 B～F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

## 【到達目標】

- 基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
- ドイツ人の価値観、文学や音楽、映画などについて知識を広げる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回、文法のテーマごとに2～3例文（キーセンテンス）を取り上げて文法や使い方などを説明する。練習問題は従来のテキストに沿って進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	過去	<i>Der Esel schrie, der Hund bellte, der Hahn krächte, die Katze miaute.</i>
②	現在完了	<i>Ich hab mein Herz in Heidelberg verloren.</i>
③	接続詞（2）	<i>Als Gregor Samsa eines Morgens aus unruhigen Träumen erwachte, (...)</i>
④	zu 不定詞	<i>Es ist nicht genug zu wissen, man muss auch anwenden. Es ist nicht genug zu wollen, man muss auch tun.</i>
⑤	形容詞の比較変化	<i>Schneller, höher, stärker! (Besser?)</i>
⑥	再帰動詞	<i>Wenn zwei sich streiten, freut sich der Dritte.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	関係文（1）	<i>Wer den Pfennig ehrt, betet den Taler an.</i>
⑨	関係文（2）	<i>Den lieb ich, der Unmögliches begehrt.</i>
⑩	受動	<i>Rom ist nicht an einem Tage erbaut worden.</i>
⑪	接続法（1）	<i>Edel sei der Mensch, hilfreich und gut.</i>
⑫	接続法（2）	<i>Katzen würden Wiskas kaufen.</i>
⑬	復習	⑧～⑫
⑭	学期末試験	試験と解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習が必要。詳細は毎回の授業の終了時に指示する。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は最初の授業時に指示する。

## 【参考書】

独和辞典を持ってきて下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

## 【成績評価の方法と基準】

中間、学期末テスト：70 %

平常点：30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムも利用する。

普段使用しているメールアドレスを登録してください。

## 【Outline and objectives】

In this class we learn the basics of German grammar using memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc. to become able to read simple texts.

LANd100LA

## ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 L・P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

## 【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、ドイツ語を正しく発音し、基本的な表現を口頭で練習し身につけ簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるよう目指す。また、辞書を使い、ドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は学習支援システムを用いてオンラインでの授業を行います。

それ以降は、教科書が入手出来たら、教科書に準じて授業を進め、授業計画に変更があるときは、学習支援システムでその都度提示します。本授業は4月23日に開始し、この日までに具体的な内容などを学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベート	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介。授業の進め方やテキストおよび辞書の説明などを行う。アルファベートの読み方。
2	アルファベートと単語の発音	アルファベートの読み方。単語の発音の原則と注意すべき母音・子音の説明。
3	動詞の形は変わります(1)	主語となる人称代名詞。現在形の形態と用法。
4	動詞の場所は決まっています	定動詞の位置 (1) (平叙文と疑問文)
5	冠詞と名詞の形も変わります	不定冠詞・定冠詞と名詞の性と格変化。2 格の位置、3 格と 4 格の順序。
6	名詞の複数の形・誰・何をあらわすものたち	複数形の種類と格変化・疑問詞 <b>wer</b> と <b>was</b> の用法。
7	母音が変わる動詞があります	語幹の母音が変わる 3 つのパターンと独特な変わり方をする動詞の現在人称変化を覚える。
8	命令の形は 3 種類です・まとめと練習	命令形の作り方と用法・これまでに学んだことの復習と問題練習。
9	冠詞の仲間たち	冠詞と同じような格変化をする定冠詞類や不定冠詞類の形と用法・否定の表現。
10	ich du er などにも 3 格・4 格があります	人称代名詞の格変化と 3 格・4 格の文章における順序。
11	前置詞の相手は決まっています	特定の格と結びつく前置詞の意味と用法 (2 格、3 格、4 格、3・4 格支配)

12	前置詞に関連した事柄	前置詞の融合形と特定の前置詞と結びつく動詞や形容詞を覚える。
13	総復習	春学期で学習した文法項目や各種の表現の復習とこれまでの疑問点の解明。
14	期末試験	文法と読解力のチェックをするための試験を実施する。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の情報を得たうえで、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き、教科書付属のCDで発音練習などもしておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「ドイツ語エコー」—スマート版ドイツ語スパイラル—  
高橋秀彰・著 朝日出版社

#### 【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な内容は、今後オンラインでの授業を確認しながら、学習支援システムで提示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、履修者による発表や自発的な質問を行えるように徹底する。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

文1年L・P

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得し、文の内容を理解する。ドイツ語の発音に習熟する。春学期の文法項目を復習しながら、複雑になってきた文法を正確に理解する。ドイツ語の文章を読みすすめていく中で、ドイツとその文化への関心を深め、日本と日本文化との違いを認識する。

#### 【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、簡単な内容のことならドイツ語で表現できるようにする。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を覚え、辞書を用いてドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目指す。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期終了の箇所から順に学んでいく。文法は基礎を反復練習しながら、詳しく説明し、CDの発音を聞き、ドイツ語の文を全員で読む。テキストの本文や練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学習した項目の復習およびプリントによる問題練習。
2	話法の助動詞・未来のこと	話法の助動詞の種類・用法と未来形の類似点および未来形の用法。
3	ふたつに分かれる動詞があります	分離動詞と非分離動詞の用法。枠構造についての説明。
4	形容詞にも語尾がつきます・形容詞は名詞としても使えます	形容詞の格変化の種類と名詞化された形容詞の意味するもの。
5	比較のしかた・動詞も形容詞のように使えます	形容詞および副詞の比較級と最上級の形とその使い方。現在分詞の形態。現在分詞と過去分詞の付加語としての用法。
6	動詞の3つの基本となる形	規則変化と不規則変化の過去基本形と過去分詞。
7	完了形には完了の助動詞が必要です	現在完了と過去完了の形態と用法。完了の助動詞は <b>sein</b> か <b>haben</b> か？
8	動詞の過去に気をつけましょう・語順を変える接続詞があります	過去の人称変化と用法について。定動詞の位置に関するまとめ。副文について。
9	受動態	受動の表現について学ぶ。動作受動と状態受動について。
10	zu + 不定詞の用法(1)	zu 不定詞の基本的な構造と用法。英語との相違点。
11	zu + 不定詞の用法(2)	zu 不定詞の注意すべき構造と用法。英語との相違点。
12	関係詞とは	先行詞のある関係代名詞の形と用法・関係詞を用いた文中での定動詞の位置の説明。

13	総復習	秋学期に学んだ項目の確認と練習。
14	期末試験	秋学期で学んだ文法と読解力のチェックのための試験を実施する。まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習をする。前もって「授業テーマ」や「授業内容」に目を通して、教科書の該当箇所の事項についての情報を得たうえで疑問点等を明確にしておく。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

「ドイツ語エコー」－スマート版ドイツ語スパイララー  
高橋秀彰・著 朝日出版社

**【参考書】**

必要に応じて授業中に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業に対する取り組み方、授業中に指名されたときに、問題をきちんと解いたかなどの平常点を加味する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、平常点 20 % の割合で総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、また履修者による発表や自主的な質問などができるように徹底する。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture.

LANd100LA

## ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5  
単位数：1 単位  
文 1 年 T～W

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 5 月 1 1 日とし、その日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 10 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット 発音の原則
2	発音 I	母音の発音 子音の発音①
3	発音 II	子音の発音② あいさつ 数詞（1～12）
4	Lektion 1	小テスト（発音） 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ／動詞 <b>sein</b> ・ <b>haben</b> の現在人称変化（不規則動詞）
5	Lektion 1	語順／ <b>ja</b> ・ <b>nein</b> の使い方 会話文 読章 <b>Guten Tag!</b>
6	Lektion 2	名詞の性と冠詞／名詞の格／定冠詞と名詞の格変化／不定冠詞と名詞の格変化／格の用法
7	Lektion 2	名詞の複数形／人称代名詞の使い方 会話文 読章 <b>Cool Japan</b>
8	Lektion 3	動詞の現在人称変化（2）（不規則動詞）／非人称の <b>es</b>
9	Lektion 3	命令形／時刻の表現 会話文 読章 <b>Wien</b>
10	Lektion 4	定冠詞類

11	Lektion 4	不定冠詞類／人称代名詞の3格と4格／3格と4格の語順 会話文 読章 <i>Porträt meiner Familie</i>
12	Lektion 5	前置詞の格支配
13	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形／疑問代名詞 <i>wer</i> と <i>was</i> の格変化
14	Lektion 5	会話文 読章 <i>Basel</i>

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800 ¥2,500

**【参考書】**

その都度指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開校となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

期末試験の得点を60%、平常点を40%の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

**【Outline and objectives】**

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

**ドイツ語Ⅱ**

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1単位

文1年 T~W

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業は演習形式で行う。使用する教科書は10課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Lektion 6	話法の助動詞
2	Lektion 6	未来形／従属の接続詞と副文
3	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞 会話文 読章 <i>Ryota geht ins Konzert</i>
4	Lektion 7	?形容詞の格語尾変化
5	Lektion 7	形容詞・副詞の比較 会話文 読章 <i>Atomkraft? Nein Danke!</i>
6	Lektion 8	動詞の3基本形
7	Lektion 8	現在完了形
8	Lektion 8	会話文 読章 <i>Die Wartburg bei Eisenach</i>
9	Lektion 9	過去形
10	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 9	会話文 読章 <i>Weimar, ein wichtiges Kulturzentrum</i>
12	Lektion 10	zu 不定詞（句）
13	Lektion 10	関係代名詞
14	Lektion 10	会話文 読章 <i>Kölnisch Wasser</i>

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800 ¥2,500

## 【参考書】

その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

## 【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

## ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

## オストヴァルト・イェンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 A・B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解—文法の練習

基礎的な文法を練習します。

活きたドイツ語の表現・会話も学びます。

また、ドイツの旬な情報や日常を紹介しながら、ドイツの文化について触れます。

## 【到達目標】

簡単な文章が読めるようになります。

基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

<重要：春学期の授業開始について>

・本授業の開始日は、4月22日（水）3限目です。

・初回の22日は、Zoom という双方向型のリアルタイム・オンラインシステムを使って、できるだけ皆さんと話をしながら授業を行います。

・Zoom へのアクセスのためのリンクなどは、学習支援システムの本授業の「お知らせ」コーナーにアップしますので、仮登録をして、必ず前日までに確認し、準備をして下さい。

\*\*\*

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業についての説明・オリエンテーション	<b>Einführung</b>
②	<b>Lektion 1</b> 人と知り合う - 1 <b>Kontakte 1</b>	挨拶 発音 住所、出身についての会話
③	<b>Lektion 1</b> 人と知り合う - 1 <b>Kontakte 1</b>	自己紹介の練習 規則動詞の人称変化、疑問文
④	簡単な自己紹介 <b>Lektion 2</b> 人と知り合う - 2 <b>Kontakte 2</b>	自己紹介の練習 名詞の性、定冠詞、所有冠詞
⑤	自己紹介 <b>Lektion 2</b> 人と知り合う - 2 <b>Kontakte 2</b>	電話番号 1000 までの数
⑥	<b>Lektion 3</b> 専攻と言語 <b>Studium und Sprache</b>	不規則変化動詞の人称変化、語順、

⑦	総復習 Lektion 4 趣味 Hobbys 好きなこと	総復習 趣味についての語彙
⑧	Lektion 4 趣味 Hobbys 嫌いなこと	趣味についての会話の練習 否定文
⑨	Lektion 5 食事 Essen und Trinken 好物	食べ物・飲み物についての語彙、 簡単な会話 並列接続詞
⑩	Lektion 5 食事 Essen und Trinken 一日の食事	食べ物・飲み物についての会話 前置詞 mit, ohne
⑪	Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe	家族と職業について 複数形、形容詞
⑫	Lektion 7 持ち物 Gegenstände	持ち物について 代名詞の格変化、形容詞
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	語彙・文法・会話の総復習
⑭	試験日 Prüfungstag	試験日と纏め

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

佐藤修子 「スツェーネン1」 「場面で学ぶドイツ語」  
三修社  
他、別途配布資料

## 【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

## 【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価する

期末試験 50%

小テスト 20%

宿題 10%

平常点 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

## 【Outline and objectives】

German language course for beginners;  
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions  
for daily life;  
introduction to German culture.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

## オストヴァルト・イェンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1単位

営1年A・B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本知識を学習します。秋学期は、簡単な文章が読める程度の文法知識の習得を目指します。

## 【到達目標】

簡単な文章が読めるようになります。

基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	春学期の復習 Wiederholung
②	Lektion 8 住居 Wohnen 部屋・家具	住居についての語彙・簡単な会話 前置詞 auf, in, unter など
③	Lektion 8 住居 Wohnen 学生寮・一人暮らしなど	住居についての会話 所有冠詞
④	Lektion 9 時刻 Uhrzeit	時刻の言い方 日程についての簡単な会話 前置詞、分離動詞
⑤	Lektion 9 日付 Datum Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	日付の言い方 前置詞、分離動詞 過去についての会話の入門 現在完了形、過去形
⑥	Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	過去についての会話 現在完了形、過去形
⑦	Lektion 11 街 Stadt	街についての語彙 道を尋ねる 命令形、前置詞
⑧	Lektion 11 大学 Universität 復習 Wiederholung	大学についての語彙・簡単な話 命令形、前置詞 復習
⑨	Lektion 12 休暇の前 Vor der Ferien	予定についての会話 話法の助動詞 wollen, können, möchten
		話法の助動詞の説明・練習

⑩	話法の助動詞の説明・練習	話法の助動詞 dürfen, sollen, müssen
⑪	話法の助動詞の過去形	話法の助動詞の過去形の練習
⑫	纏め・復習	一年間のドイツ語の纏めや復習
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	一年間のドイツ語の纏めや復習 総復習および予備日
⑭	試験日 Prüfungstag	試験日と纏め

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

佐藤修子『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社  
他、別途配布資料

## 【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

## 【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価する

期末試験 50%

小テスト 20%

宿題 10%

平常点 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に順じてプログラムを変更することもあります

## 【Outline and objectives】

German language course for beginners;  
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions  
for daily life;  
introduction to German culture.

LANd100LA

## ドイツ語2 I

2017年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

営1年C~J・L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではやさしいドイツ語の文章を読みながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自立的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

## 【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自立的な学習の仕方を身につける。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を2回の授業で扱い、前半では文法事項について解説してから練習問題を解きます。後半では前回学んだ事項の復習をしながらドイツ語の文章を読みます。なおオンライン授業が続くであろう状況を踏まえると、自習の割合が高くなることが予想されるとともに、受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。授業は4月27日から始めます。それまでに Hoppii のお知らせを読み、Google Classroom への登録を済ませてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と辞書について/ドイツ語の発音
第2回	Lektion 1	文法学習：動詞の現在人称変化/sein と haben の人称変化/動詞の位置
第3回	Lektion 1	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske I / Deutschland
第4回	Lektion 2	文法学習：名詞の性/1格と4格/不規則動詞 werden / ja, nein, doch
第5回	Lektion 2	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske II / Fußball
第6回	Lektion 3	文法学習：不規則動詞の現在人称変化/名詞の複数形/2格と3格
第7回	Lektion 3	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske III / Die EU
第8回	Lektion 4	文法学習：前置詞と名詞の格/副文
第9回	Lektion 4	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske IV / Mahlzeit, Mahlzeit!

第10回	Lektion 5	文法学習：人称代名詞の3格と4格／再帰代名詞と再帰動詞／非人称の es
第11回	Lektion 5	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske V / Gute Besserung!
第12回	Lektion 6	文法学習：定冠詞類／不定冠詞類／否定冠詞 kein と否定文
第13回	Lektion 6	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske VI / Ingeborg Bachmann: Malina
第14回	まとめ	到達度の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。  
準備学習：次回扱う範囲の文を正確に発音できるようにするとともに、初出単語を辞書で調べてくる。

復習：授業で学んだことを見直すとともに授業で出された課題をこなす。

#### 【テキスト（教科書）】

清野智昭／須藤温子／會田素子『ドイツ語の時間 -読解編- <読めると楽しい！>』朝日出版社、2011年。

#### 【参考書】

辞書を必ず買うこと。紙の辞書をおすすめします。くわしくは初回授業時にお話します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点80%、学期末レポート20%を基準として総合的に判断する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning basic grammar and reading texts. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

営1年C～J・L

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではやさしいドイツ語の文章を読みながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自立的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

#### 【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自立的な学習の仕方を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を2回の授業で扱い、前半では文法事項について解説してから練習問題を解き、後半では前回学んだ事項の復習をしながらドイツ語の文章を読みます。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期の復習
第2回	Lektion 7	文法学習：zu 不定詞句／分離動詞と非分離動詞
第3回	Lektion 7	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske VII / Erich Kästner: Das doppelte Lottchen
第4回	Lektion 8	文法学習：話法の助動詞／未来形
第5回	Lektion 8	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske VIII / Michael Ende: Momo (1)
第6回	Lektion 9	文法学習：動詞の三基本形／過去形／現在完了形／受動態
第7回	Lektion 9	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske IX / Die Sommerzeit
第8回	Lektion 10	文法学習：形容詞の用法／形容詞の格変化／比較級と最上級
第9回	Lektion 10	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske X / Franz Kafka: Die Verwandlung
第10回	Lektion 11	文法学習：関係代名詞／命令形
第11回	Lektion 11	文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske XI / Michael Ende: Momo (2)
第12回	Lektion 12	文法学習：接続法

## 第13回 Lektion 12

文章読解：Das Geheimnis der Goldmaske XII / Michael Ende: Die unendliche Geschichte  
到達度の確認

## 第14回 まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準としますが、復習を重視します。

準備学習：次回扱う範囲の文を正確に発音できるようにするとともに、初出単語を辞書で調べてくる。

## 復習

2) 授業で学んだことを見直すとともに授業で出された課題をこなす。

## 【テキスト（教科書）】

清野智昭／須藤温子／會田素子『ドイツ語の時間 -読解編- <読めると楽しい！>』朝日出版社、2011年。

## 【参考書】

辞書を必ず買うこと。紙の辞書をおすすめします。くわしくは初回授業時にお話します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末テスト（50%）を合わせて総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning basic grammar and by reading texts. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ I

2017年度以降入学者

小野間 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1単位

営1年K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。

辞書を用いて平易なドイツ語のテキストが読める力を養成する。

作文や会話の練習を通じて基本的な語彙や表現を習得する。

## 【到達目標】

初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。

ドイツ語を正確に発音できるようになる。

辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。

また、様々なテーマについて書かれたドイツ語のテキストを読み、語彙や表現を学ぶ。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	ドイツ語のアルファベットと発音を学ぶ
第2回	自己紹介	動詞の現在人称変化を学ぶ
第3回	自己紹介	自己紹介文を読む
第4回	ドイツ語圏の国々	動詞の現在人称変化・並列の接続詞を学ぶ
第5回	ドイツ語圏の国々	ドイツ語圏の国々に関するテキストを読む
第6回	広告	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化を学ぶ
第7回	広告	広告文を読む
第8回	ドイツ語圏の食べ物・飲み物	名詞の複数形・人称代名詞を学ぶ
第9回	ドイツ語圏の食べ物・飲み物	ドイツ語圏の食べ物・飲み物に関するテキストを読む
第10回	家族と職業	不定冠詞類・定冠詞類を学ぶ
第11回	家族と職業	職業に関するテキストを読む
第12回	余暇活動	動詞の現在人称変化・命令形を学ぶ
第13回	余暇活動	『ハイジ』の1節を読む
第14回	試験・まとめ	前期に学んだ内容を確認する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項は随時復習を心掛けること。

読解テキストは必ず予習を行ってから授業に臨むこと。授業中に予習を行うことは一切認めない。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ゲナウ！レーゼン（2版）』新倉真矢子・亀ヶ谷昌秀・正木晶子・中野有希子著、第三書房、2017年刊、2500円（税別）  
ISBN978-4-8086-1060-9

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社、2003年刊、1600円（税別）  
ISBN978-4-560-00492-0

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当変更によりフィードバックできない

## 【Outline and objectives】

This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions. It also will enable students to read texts in plain German with the help of a dictionary.

LANd100LA

## ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

小野間 亮子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3  
単位数：1 単位  
営 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。  
辞書を用いて平易なドイツ語のテキストが読める力を養成する。  
作文や会話の練習を通じて基本的な語彙や表現を習得する。

## 【到達目標】

初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。  
ドイツ語を正確に発音できるようになる。  
辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。  
また、様々なテーマについて書かれたドイツ語のテキストを読み、語彙や表現を学ぶ。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日記・メール	話法の助動詞・未来形を学ぶ
第2回	日記・メール	『アンネの日記』の1節およびメール形式で書かれたを読む
第3回	祝祭	前置詞・再帰動詞を学ぶ
第4回	祝祭	ドイツの祝祭について書かれたテキストを読む
第5回	インタビュー	分離動詞・非分離動詞・zu不定詞句・従属の接続詞を学ぶ
第6回	インタビュー	聖トーマス教会合唱団の団員へのインタビューを読む
第7回	童話	動詞の3基本形・過去形・現在完了形を学ぶ
第8回	童話	『小さい魔女』の1節を読む
第9回	説明文	動詞の3基本形・受動態を学ぶ
第10回	説明文	HARIBOのクマ型グミについての説明文を読む
第11回	イソップ童話	形容詞の変化・比較表現を学ぶ
第12回	イソップ童話	関係代名詞を学ぶ
第13回	イソップ童話	『ウサギとカメ』を読む
第14回	試験・後期のまとめ	後期に学んだ内容を確認する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項は随時復習を心掛けること。  
読解テキストは必ず予習を行ってから授業に臨むこと。  
授業中に予習を行うことは一切認めない。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ゲナウ！レーゼン（2版）』新倉真矢子・亀ヶ谷昌秀・正木晶子・中野有希子著、第三書房、2017年刊、2500円（税別）  
ISBN978-4-8086-1060-9

**【参考書】**

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社、2003年刊、1600円（税別）  
ISBN978-4-560-00492-0

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（発音練習・練習問題への取り組み、読解テキストの予習状況）40%、期末試験60パーセントを総合的に判断する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当変更によりフィードバックできない

**【Outline and objectives】**

This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions. It also will enable students to read texts in plain German with the help of a dictionary.

LANd100LA

**ドイツ語 2 I**

2017年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語の文法をひとつひとつ確認しつつ、適度の文章を読んでゆくことによってドイツ語運用になれていくことをめざします。さらに、文法知識の確認をしながら、読解の助けにしていきます。テキストは Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga,Jun Matsuzawa)、リーダー部分が受講者にとってやさしい場合は、能力に応じてプリントで読解問題を配布します。

★★★重要 Web 授業の開始は 5 月 6 日とします。配信されたテキストを自習し、順次配信された解説を参照しておいてください。Web 授業では市販教材は参考にする程度です。スレッド内容をすこしずつ学んでください。

個別の質問でなければ、私の haruki@tt.rim.or.jp まで大学名前学籍番号 科目名を明記してお寄せください。

**【到達目標】**

辞書を引き、ある程度のドイツ語文章を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。ドイツ語圏の国々やその文化・経済・政治などについても、ある程度の知識を身に付けること。または、その関心を高めること。

To draw a dictionary and to understand some degree of German sentences. Being able to pronounce that German correctly. To acquire a certain level of knowledge about German-speaking countries and their culture, economy, politics and others. Or, raise that interest.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

文法演習と簡単な訳読講義。ドイツ文化圏の情報ソースの提示。画像・動画も利用する。

Reading exercises and lectures. Presentation of information source in German cultural area. Also use images and movies.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容と学生の指導方針を解説。講義の進め方と、ドイツ語をどうまなぶか、適切な指導方針を告げる。
2	規則動詞	初級からのドイツ語 1 動詞の過去形以前までの学習をします。動詞の現在人称変化など基本の復習
3	規則動詞と位置	初級からのドイツ語 2 名詞と冠詞の性
4	不定冠詞類	初級からのドイツ語 3 名詞と性 冠詞
5	不定冠詞類	初級からのドイツ語 4 冠詞類と例文
6	不規則動 1	初級からのドイツ語 5 配布プリント教材で簡単な訳読演習を行う。

7	不規則動詞	前置詞をつかった中級文章	格支配と例文復習
8i	人称代名詞	形容詞の格語尾 比較級・最上級を用いた文章	例文演習
9		前期はテキスト第7課までを目標とする。以後は習熟のための練習・リーディングを行う。	教材訳読 適宜プリントを配布する
10	同上		教材訳読 適宜プリントを配布する
11	同上		教材訳読 適宜プリントを配布する
12	同上		文章を丁寧に読んでいく。教材訳読
13	総復習		文章を丁寧に読んでいく。教材訳読
14	前記試験	ドイツ語の既読文章と初読文章のふたつを訳読する。簡単な文法問題。	辞書使用可のペーパー試験。まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習。単語調べなど。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga,Jun Matsuzawa)

DVD わかるぞドイツ語! みえるぞドイツ語! 朝日出版社。この本文の読解が基本ベースになります。講義ではそのうえプリント教材も配布し活用していきます。

#### 【参考書】

独和辞書は必携。講義内でも使用します。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 70 %および、平常授業時の発表／小テスト／提出課題（計 30 %）をもって総合評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

理解しない学生を残したまま進行せず、そのつど確認していく。

#### 【学生が準備すべき機器他】

独和辞書（電子辞書も可）

#### 【その他の重要事項】

出席重視。やむなく欠席する場合は事前・事後に、申し出て補うこと。（平常時）

:現在 4 月 5 月は非常時です。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間程度を標準とします。課題に関しては、教場授業がはじまってから、レポートとして提出してもらいます。それまで、質問などは、担当の私のメール [haruki@tt.rim.or.jp](mailto:haruki@tt.rim.or.jp) に大学名・学籍番号・氏名とともにお寄せください。個別には返信せず、授業スレッドにて質問内容を反映した説明などを載せていきます。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

#### 【Outline and objectives】

WStudents learn how to translate German plain text into Japanese using the second half of the textbook used in the preceding course German 3 I. It deals with both current events and literary passages equally. In addition to the textbook printed materials (especially literary texts) will be distributed during class. Further information will be provided in the first class

LANd100LA

## ドイツ語2Ⅱ

2017年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の初級程度の文法・訳読テキストを使い、同時にドイツ語圏の文化・歴史・政治・社会への関心や知識もふかめていく。

## 【到達目標】

ドイツ語の読解・運用能力を養う。ドイツを中心としたヨーロッパ世界への知識と関心を高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法・訳読練習と教員による解説・講義。また映像・図版による資料の提示もある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	訳読と理解 1 教材 8 課 分離動詞・再帰動詞	特殊な用法の動詞の説明
第 2 回	訳読と理解 2 教材 8 課 es の用法と例文	多用される便利な表現
第 3 回	訳読と理解 3 教材 9 課 形容詞の格変化	日本人にはややこしい形容詞の各語尾をゆっくりとていねいに解説する。
第 4 回	訳読と理解 4 教材 9 課 形容詞の名詞化	大文字かすれば名詞に早変わり。
第 5 回	訳読と理解 5 教材 10 課 動詞の三基本形	不定詞・過去基本形・過去分詞。表現の幅がひろがる。
第 6 回	訳読と理解 6 教材 10 課 過去人称変化	過去形にも人称変化？ しかし。それほどむずがしかくはない。
第 7 回	訳読と理解 7 教材 11 課 完了形	ドイツ語には完了形が 2 パターンあるのが特徴。
第 8 回	時事的現代文 1 教材 12 課 関係代名詞 1	関係文はなれるが勝ち。構文構造は単純です
第 9 回	時事的現代文 2 教材 13 課 関係代名詞 2	同上
第 10 回	時事的現代文 3 教材 14 課 比較・現在分詞 zu 不定詞	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から 学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 11 回	時事的現代文 4 教材 15 課 受動	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から 学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)

第 12 回 時事的現代文 5  
接続法 1

ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から  
学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)

第 13 回 時事的現代文 6  
接続法 2

ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から  
学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)

第 14 回 期末読解。訳読試験。後期の配布テキストより出題。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどでドイツの情報サイトを検索してみる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Deutschland, wie es ist. Masao Kasuga, Jun Matsuzawa, ASAHI VERLAG

## 【参考書】

Spiegel や ZEIT などのネット記事情報。(授業時に細かく指示します)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点および筆記試験。(期末試験 70 %、小テスト・課題・宿題等の平常評価 30 %を目安に総合評価します。)

## 【学生の意見等からの気づき】

予習などの平常点として各自のノートも授業内に評価する時間も期末にもうけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

独和辞書(電子辞書可)

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

## 【Outline and objectives】

Students learn how to translate German plain text into Japanese using the second half of the textbook used in the preceding course German 3 I. It deals with both current events and literary passages equally. In addition to the textbook printed materials (especially literary texts) will be distributed during class. Further information will be provided in the first class

LANd100LA

## ドイツ語(1) I

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4  
 単位数：1 単位  
 法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語文法の基礎を学びます。言語ばかりでなく、これを話す人々のライフスタイルにも触れ、自身の言語やもの見方との違いも考えていくことになるでしょう。

## 【到達目標】

基礎的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は学習支援システムを用いてオンラインでの授業を行います。

それ以降は、教科書が入手出来たら、教科書に準じて授業を進め、授業計画に変更があるときは、学習支援システムでその都度提示します。本授業は 4 月 27 日に開始し、この日までに具体的な内容などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音	説明と練習
2	動詞の現在形	説明と練習
3	不規則動詞	説明と練習
4	名詞の性	説明と練習
5	名詞の格	説明と練習
6	不定冠詞類	説明と練習
7	命令の表現	説明と練習
8	定冠詞類	説明と練習
9	人称代名詞	説明と練習
10	疑問詞	説明と練習
11	前置詞	説明と練習
12	話法の助動詞	説明と練習
13	分離動詞	説明と練習
14	非分離動詞	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「リヒトホーファー初級ドイツ語文法」 松鶴 功記・他著 朝日出版社

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な内容は、今後オンラインでの授業を確認しながら、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

## ドイツ語(1) II

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4  
 単位数：1 単位  
 法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本を学びます。言語ばかりでなく、これを話している人々のライフスタイルにも触れ、自身の言語や物の見方との違いについても考えていくことになるでしょう。

## 【到達目標】

基本的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習によって理解度を確認しながら進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の 3 基本形	説明と練習
2	現在完了	説明と練習
3	過去	説明と練習
4	接続詞	説明と練習
5	受動態	説明と練習
6	非人称	説明と練習
7	zu 不定詞	説明と練習
8	形容詞の語尾	説明と練習
9	比較級	説明と練習
10	再帰表現	説明と練習
11	指示代名詞	説明と練習
12	関係代名詞	説明と練習
13	接続法Ⅱ式	説明と練習
14	接続法Ⅰ式	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「リヒトホーファー初級ドイツ語文法」 松鶴 功記・他著 朝日出版社

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90%）を中心に、宿題の提出状況等（10%）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

## ドイツ語(2) I

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験(独検)5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は5月11日とし、その日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は10課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット 発音の原則
2	発音 I	母音の発音 子音の発音①
3	発音 II	子音の発音② あいさつ
4	Lektion 1	数詞(1~12) 小テスト(発音) 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ／動詞 sein・haben の現在人称 変化(不規則動詞)
5	Lektion 1	語順／ja・nein の使い方 会話文 読章 Guten Tag!
6	Lektion 2	名詞の性と冠詞／名詞の格／定冠 詞と名詞の格変化／不定冠詞と名 詞の格変化／格の用法
7	Lektion 2	名詞の複数形／人称代名詞の使 い方 会話文 読章 Cool Japan
8	Lektion 3	動詞の現在人称変化(2)(不規則 動詞)／非人称の es
9	Lektion 3	命令形／時刻の表現 会話文 読章 Wien
10	Lektion 4	定冠詞類

11	Lektion 4	不定冠詞類／人称代名詞の 3 格 と 4 格／ 3 格と 4 格の語順 会話文 読章 Porträt meiner Familie
12	Lektion 5	前置詞の格支配
13	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形／疑問代 名詞 wer と was の格変化 会話文
14	Lektion 5	読章 Basel

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

小野寿美子、中川明博、西巻丈児『グーメン・エルエー』(朝日出版  
社) ISBN9784255253800 ¥2,500

## 【参考書】

その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開校となったことにも  
ない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、  
授業開始日に学習支援システムで提示する。

期末試験の得点を 60%、平常点を 40% の合計点で評価する。平常  
点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、ある  
いは、しっかり予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

## 【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

## ドイツ語(2)Ⅱ

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験(独検)5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は10課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 6	語法の助動詞
2	Lektion 6	未来形/従属の接続詞と副文
3	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞 会話文 読章 Ryota geht ins Konzert
4	Lektion 7	?形容詞の格語尾変化
5	Lektion 7	形容詞・副詞の比較 会話文 読章 Atomkraft? Nein Danke!
6	Lektion 8	動詞の3基本形
7	Lektion 8	現在完了形
8	Lektion 8	会話文 読章 Die Wartburg bei Eisenach
9	Lektion 9	過去形
10	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 9	会話文 読章 Weimar, ein wichtiges Kulturzentrum
12	Lektion 10	zu 不定詞(句)
13	Lektion 10	関係代名詞
14	Lektion 10	会話文 読章 Kölnisch Wasser

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

小野寿美子、中川明博、西巻文児『プーメラン・エルエー』(朝日出版社) ISBN9784255253800 ¥2,500

## 【参考書】

その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を60%、平常点を40%の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

## 【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

## ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語 1」と「ドイツ語 3」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテキストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

## 【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常にふり返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。1 年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

(4 月 20 日修正)

授業開始日：4 月 21 日

\*授業方法としては、非同期型（添削+ポイント解説動画ないし音声メモ視聴）と同期型（双方向型ビデオオンラインミーティング/Zoom による実践練習）を適宜組み合わせで行います。

\*以後、授業内容・方法の変更は全て Hoppii ないし履修者の法政 G メール宛連絡します。

\*5 月以降、Google Classroom をツールとして使用する可能性が高いです。

\*\*\*\*\*

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則 1、
2	Lektion1A：発音の規則、ドイツ語圏でどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ あいさつの表現
3	Lektion1A：発音の不規則、動詞の現在人称変化（1）、定動詞と不定詞（1）	自己紹介（1）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞変化（1）、定動詞と不定詞（1）

4	Lektion1B：発音の規則、動詞の現在人称変化（2）、定動詞と不定詞（2）、定動詞の位置と語順（1）	自己紹介（2）、自分の職業を言う（1）
5	Lektion2A：名詞の性と格（1）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する（1）
6	Lektion2B：名詞の性と格（2）、否定冠詞と所有冠詞（1）	自分の家族について話す（1）
7	Lektion2B：否定冠詞と所有冠詞（2）、ja/nein/doch の使い方	自分の家族について話す（2）
8	Lektion3A：語幹が変音する動詞の現在人称変化（1）	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（1）
9	Lektion3A：語幹が変音する動詞の現在人称変化（2）、3 格目的語の使い方	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（2）
10	Lektion3B：定冠詞類（1）、人称代名詞の 3・4 格（1）	旅行の計画をたてる（1）
11	Lektion3B：人称代名詞の 3・4 格、目的語の語順	旅行の計画をたてる（2）
12	Lektion4A：前置詞（1）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（1）
13	Lektion4A：前置詞（2）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（2）
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）  
羽島重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

## 【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）  
清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014 年）

## 【成績評価の方法と基準】

(4 月 20 日修正)

成績評価の方法は一部修正の可能性があります。「学期末試験」を実施する際は事前に余裕を持ったスケジュールで周知します。

\*\*\*\*\*

授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 % を合わせ、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

## 【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。紙媒体の辞書を用いること（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

## 【その他の重要事項】

授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

## 【Outline and objectives】

German course for absolute Beginners, exclusively for Participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

LANd100LA

## ドイツ語3

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語1」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SAドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

## 【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語1」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ1年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A：前置詞（3）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」と「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B：枠構造	ドイツ語の基本的な発想を理解すると話法の助動詞、話法の助動詞の種類について
4	Lektion4B：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（2）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A：動詞の3基本形、現在完了形（1）	夏休みには何をしたの？（1）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（3）
6	Lektion5A/B：現在完了形（2）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（2）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（4）

7	<b>Lektion5B</b> ：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	<b>Lektion6A</b> ：受動態(1)	誕生日という大切な日について(1)、なんで受動態にしなきゃいけないの？ドイツ語の基本的な発想を理解する
9	<b>Lektion6A</b> ：受動態(2)	誕生日という大切な日について(2)、状態受動の意味
10	<b>Lektion6B</b> ：zu不定詞とzu不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る(1)
11	<b>Lektion7A</b> ：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう(1)、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	<b>Lektion7A</b> ：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう(2)、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	<b>Lektion7B</b> ：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかりと理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかりと見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017年）

羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003年）

#### 【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014年）

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 35%（外部試験の受験結果含）、小テスト（単語テスト）や提出物 30%、学期末試験 35%を合わせ、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。紙媒体の辞書を用いること（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

#### 【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・履修者には、2020年12月実施予定の「ドイツ語技能検定試験」（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）、あるいは2020年内に実施されるドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）ないしオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）の試験からどれか1つ以上を受験してもらいます（Goethe Zertifikatについては割引料金適応）。受験級はそれぞれの学習段階にふさわしいものを選び、受験結果は上記「成績評価の方法と基準」のうち「授業への積極的な参加（35%）」に加算されます。受験級は全て事前に担当者に報告のこと。なお、以上の受験費用は自己負担ですが、難しい場合はぜひ担当者に相談してください。

#### 【Outline and objectives】

German course for Beginners, exclusively for Participants of "German 1 (SA)" 2019SS as well as of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces, continuing from the "German 1 (SA)", elementary Grammar, vocabulary and communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

LANd100LA

## ドイツ語2

2017年度以降入学者

## アネッテ・グルーバー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

## 【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

4月25日（土）から授業開始。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Begruessen und vorstellen 1 - du, Sie	einfache Phrasen
3	Begruessen und vorstellen 2	einfache Phrasen, Verbkonjugation im Singular
4	Laender, Sprachen	Idiomatik in Fragen und Antworten
5	Berufe	Ja-/Nein-Fragen, W-Fragen
6	Zahlen von 0 bis 100	einfache Zahlenanwendungen
7	Deutsche Woerter?	Feminin - Maskulin - Neutrum
8	Zahlen bis 1000	Telefonnummern, Hausnummern
9	Informationen zur Person	Alphabet, Buchstabieren
10	Auf der Meldestelle	Formulare auf Behoerden
11	Einladung zum Kaffeetrinken	Verbkonjugation im Plural
12	Was ist wo in unserem Buch?	bestimmter/unbestimmter/negativer Artikel
13	Essen und Trinken	Nominativ und Akkusativ
14	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Phrasen, Artikel, grammtisches Geschlecht, Kasus

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 1-4

## 【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

## 【成績評価の方法と基準】

Reports, online performance

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

## 【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing

LANd100LA

## ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

## 【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Laender in Zahlen	Zahlen ueber 1000
3	Im Moebelhaus	Dinge bewerten: Adjektive, Adverbien
4	Haushaltsgeraete	Artikel im Nominativ und Akkusativ
5	Gespraech im Kaufhaus	Definitpronomen
6	Gebrauchte Sachen	Zeit- und Mengenangaben
7	Beim neunten Nein kommen die Traenen	Text ueber Einkaufen mit Kindern & Diskussion
8	Einkaufen im Supermarkt	idiomatische Phrasen
9	Gespraech mit Gaesten	idiomatische Phrasen
10	Tipps und Ratschlaege	Imperativ
11	Berufe: Vor- und Nachteile	Modalverben
12	Hobbys	Praepositionen mit Dativ und Akkusativ
13	Verabredungen	Idiomatik in typischen Situationen
14	Wiederholung und Zusammenfassung	Syntax, Phrasen, Wortschatz

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

*Tangram aktuell 1, Lektion 5-8*

## 【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

## 【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

## 【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd100LA

## ドイツ語5

2017年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するための授業です。SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

## 【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／発音とあいさつの表現	授業の進め方について／ドイツ語のアルファベットの発音
2	Lektion 1A	発音の規則について／あいさつと自己紹介（1）／数詞
3	Lektion 1B	あいさつと自己紹介（2）／自分の職業を言う
4	Lektion 2A（1）	カフェやレストランで注文をする
5	Lektion 2A（2）	買い物をする
6	Lektion 2B（1）	自分の家族について話す（1）
7	Lektion 2B（2）	自分の家族について話す（2）
8	Lektion 3A（1）	自分のやっていることを説明する（1）／人を招待する（1）
9	Lektion 3A（2）	自分のやっていることを説明する（2）／人を招待する（2）
10	Lektion 3B（1）	旅行の計画をたてる（1）／時刻を言う（1）
11	Lektion 3B（2）	旅行の計画をたてる（2）／時刻を言う（2）
12	Lektion 4A（1）	友人と旅行をする（1）／地図を観る（2）／空間の位置関係を説明する
13	Lektion 4A（2）	友人と旅行をする（2）／地図を観る（2）／時間の経過を説明する
14	まとめ	到達度の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストは必ず音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3.0』（朝日出版社、2017年）

## 【参考書】

授業時に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、期末テスト（50％）を合わせて総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

## 【学生が準備すべき機器他】

独和辞典。とくに紙の辞典を勧めます。

## 【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

## 【Outline and objectives】

This preparatory course for studying abroad aims to acquire the basic language skills in German by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語6

2017年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語 5」に引き続き、SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して、「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

## 【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の復習
2	Lektion 4B (1)	旅先の楽しみ（1）／時を表す表現（1）
3	Lektion 4B (2)	旅先の楽しみ（2）／時を表す表現（2）
4	Lektion 5A (1)	夏休みにはなにをしたの？（1）／数詞（1）
5	Lektion 5A (2)/5B (1)	夏休みにはなにをしたの？（2）／数詞（2）
6	Lektion 5B (2)	過去の出来事を説明する
7	Lektion 6A (1)	誕生日のお祝い（1）／序数と日付
8	Lektion 6A (2)	誕生日のお祝い（2）
9	Lektion 6B	天気表現
10	Lektion 7A (1)	ショッピングに出かける（1）／形容詞を使ってみる
11	Lektion 7A (2)	ショッピングに出かける（2）／ものを比較してみる
12	Lektion 7B (1)	病気になったら？
13	Lektion 7B (2)	再帰動詞を使ってみる
14	まとめ	到達度の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラセ・ノイ Ver. 3.0』（朝日出版社、2017年）

## 【参考書】

授業時に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末テスト（50%）を合わせて総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

## 【学生が準備すべき機器他】

独和辞典。とくに紙の辞書を勧めます。

## 【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

## 【Outline and objectives】

This preparatory course for studying abroad aims to acquire the basic language skills in German by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

## ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者ドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また授業では、ドイツ語圏の事情や習慣を紹介する写真やテキストが含まれている教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、受講者はその場面に必要な表現を習得します。その際、ドイツ語圏の文化も実感できるでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思います。

## 【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

【変更あり】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

火曜日5時限（担当：シュミット）と水曜日4時限（担当：丸山）の授業は連動しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Herzlich Willkommen	自己紹介 アルファベット 人称変化1
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字 0-1000 人称変化2
3	Auf der Berlinale	有名人を紹介する
4	Was ist das?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppen!	haben / möchte 4格の名詞 Blogを書く
6	Die Leipziger Fußgängerzone	歩行者天国でインタビューする
7	Tanzen oder wandern?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く
8	Familie und Freunde	所有冠詞 4格の人称代名詞 国、国籍、言語 seinの過去形

9	Die Alpen in Österreich	写真を描写する
10	Kaffee oder lieber Schokolade?	wollen / müssen 無冠詞 値段の言い方
11	Einkaufsliste	市場での会話 カフェで注文する
12	Termine	時刻 一日のスケジュール können
13	Jochen Krauses Termine	約束する 月と季節 habenの過去形 理想の一日について書く
14	Auf dem Viktualienmarkt	写真を基に会話をつくる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらっても構いません）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen verlag

## 【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005年 ¥1400 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

【変更あり】平常点（授業への参加態度、宿題、発言/発信など）30%、小テスト40%、提出課題30%を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。

## 【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in group or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

## ドイツ語3

2017年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また授業では、ドイツ語圏の事情や習慣を紹介する写真やテキストが含まれている教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、受講者はその場面に必要な表現を習得します。その際、ドイツ語圏の文化も実感できるでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思います。

## 【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、受講者は毎回の宿題の他に、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項を覚える必要があります。

火曜日5時限（担当：シュミット）と水曜日4時限（担当：丸山）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。水曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。

独和辞典を必ず持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書は不可）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß?	3 格の名詞 3 格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Verkehr in der Stadt	交通手段について話す
5	Mein Zuhause	3・4 格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す
6	Gesund und fit	命令形 アドヴァイスをする 健康について話す
7	Die Wohnsiedlung Hard in Zürich	将来の住まいについて話す

8	Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞：3 格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3 格目的語をとる動詞 服装と天気について話す
10	Von Ostern zu Weihnachten	ドイツ語圏の伝統的なお祭りや祭日について話す
11	Geradeaus bis zur Ampel	sollen / dürfen 駅でのアナウンスを理解する 切符を買う
12	Endlich Urlaub!	würde gern+不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Am Foggensee	旅先から絵はがきを出す
14	プレゼンテーション	グループ発表 「ドイツ語圏を旅する」

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen verlag

## 【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017 年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ¥1400 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、出席、宿題、発言など）30 %、小テスト 40 %、提出課題 30 %を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。

## 【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in group or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

## ドイツ語2

2017 年度以降入学者

## ウテ・シュミット

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

## 【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかりと復習します。火曜日5時限（担当：シュミット）と水曜日4時限（担当：丸山）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。水曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書は不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Herzlich Willkommen	自己紹介 アルファベット 人称変化1
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字0-1000 人称変化2
3	Panorama I	Auf der Berlinale ベルリン国際映画祭
4	Was ist das?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppen!	haben/möchten 格変化：4格 Blogを書く

6	Panorama II	Die Leipziger Fußgängerzone ライプチヒの歩道者天国
7	Tanzen oder wandern?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く
8	Familie und Freunde	所有冠詞 人称代名詞の4格 国、国籍、言語 seinの過去形
9	Panorama III	Die Alpen in Österreich オーストリア・アルプス
10	Kaffee oder lieber Schokolade?	助動詞1 無冠詞 値段の言い方
11	Kaffee oder lieber Schokolade?	Einkaufsdialoge Im Kaffeehaus bestellen 買い物と注文
12	Termine	時刻 一日のスケジュール 助動詞2 約束する
13	Termine	月と季節 habenの過去形 作文：理想の一日
14	Panorama IV	Auf dem Viktualienmarkt ヴィクトリアリエンマルクト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらってもあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache  
A1: Kursbuch Gesamtband  
ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2  
Cornelsen Verlag

## 【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017年 ¥1700 + 税  
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005年 ¥1400 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、宿題、発言/発信など）30%、小テスト40%、提出課題30%を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

## 【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

## ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

## ウテ・シュミット

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

## 【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章（が書ける）。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取る。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現したりする練習を重ねます。練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかりと復習します。火曜日 5 時限（担当：シュミット）の授業は水曜日 4 時限（担当：丸山）と連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。水曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß?	名詞の 3 格 3 格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Panorama V	Verkehr in der Stadt
5	Mein Zuhause	3・4 格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す
6	Gesund und fit	命令形 アドバイスを 健康について話す
7	Panorama VI	Die Wohnsiedlung Hard in Zürich

8	Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞の 3 格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3 格目的の動詞 服装と天気について話す。
10	Panorama VII	Von Ostern bis Weihnachten
11	Geradeaus bis zur Ampel	助動詞 3 駅でのアナウンスを理解する、切符を買う
12	Endlich Urlaub !	würde- gern +不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Panorama VIII	Am Forggensee
14	プレゼンテーション	グループ発表 ドイツ語圏を旅する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらったこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen Verlag

## 【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017 年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ¥1400 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、出席、宿題、発言など）30 %、

小テスト 40 %、

提出課題 30 %を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

## 【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

## ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。

この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、英文法との比較も積極的に行います。

## 【到達目標】

今学期の授業では、

- ・ドイツ語の発音の基礎
- ・規則動詞および不規則動詞の人称変化
- ・動詞の命令形
- ・名詞の格および冠詞
- ・人称代名詞
- ・前置詞

について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットおよびドイツ語の発音	ドイツ語のアルファベットおよび母音の発音練習
2	ドイツ語の発音および人称代名詞と動詞の現在人称変化名詞の解説	ドイツ語の子音の発音練習 人称代名詞の1格の導入 動詞の現在人称変化についての解説
3	人称代名詞と動詞の現在人称変化名詞の問題演習	人称代名詞の1格および動詞の現在人称変化についての練習問題を解く 練習問題について解説
4	名詞の性と格の解説	名詞の性と格の概念を解説 定冠詞と不定冠詞の格変化の解説
5	名詞の性と格の解説および問題演習	複数形の解説 名詞の格および性についての練習問題を解く 練習問題について解説
6	中間試験1および定冠詞類と不定冠詞類の解説	発音～名詞の性と格についての中間試験を実施 定冠詞類と不定冠詞類の導入 定冠詞類と不定冠詞類の格変化の解説
7	定冠詞類と不定冠詞類の解説と問題演習	所有冠詞の解説 否定冠詞の解説 定冠詞類と不定冠詞類の練習問題を解く 練習問題の解説

8	人称代名詞の解説	人称代名詞の格変化の解説 3 格と 4 格の語順の解説
9	人称代名詞の解説と問題演習	非人称の es の解説 人称代名詞についての練習問題を解く 練習問題の解説
10	中間試験2 および不規則動詞の解説	定冠詞類と不定冠詞類および人称代名詞についての中間試験を実施 重要な不規則動詞について解説
11	命令形の解説ならびに不規則動詞および命令形の問題演習	命令形について解説 不規則動詞および命令形についての練習問題を解く 練習問題を解説する
12	前置詞の解説	3 格支配の前置詞の解説 4 格支配の前置詞の解説
13	前置詞の解説と問題演習	3・4 格支配の前置詞について解説 前置詞についての練習問題を解く 練習問題について解説する
14	期末試験・まとめと解説	全体を試験範囲とした試験を実施し、その後試験問題を解説しつつまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題で出す問題練習課題の提出状況を重視します。

## 【テキスト（教科書）】

荻原耕平、山崎泰孝  
『プロムナード やさしいドイツ語文法（改訂版・CD付）』  
（白水社、2019年）

## 【参考書】

独和辞典  
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、『アクセス独和辞典』（三修社）  
『大独和辞典』（小学館）  
などを入手してください。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更になります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this class, students shall learn pronunciations and the basic grammar of the German language.

LANd100LA

## ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。

この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、英文法との比較も積極的に行います。

## 【到達目標】

今学期の授業では、  
 ・ドイツ語の文のワク構造  
 ・動詞の時制  
 ・接続法  
 ・形容詞の使い方  
 について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
 環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式で行いますが、授業時間内および時間外  
 に問題演習を積極的に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
 の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	夏学期の復習および分離動詞	夏学期の復習 分離動詞と非分離動詞 枠構造
第 2 回	接続詞	分離動詞の問題演習 従属接続詞および並列接続詞
第 3 回	話法の助動詞の解説	接続詞の問題演習 話法の助動詞 未来・推量の助動詞
第 4 回	中間試験 1 ならびに動詞の 3 基本形	第 3 回までの範囲の中間試験 動詞の 3 基本形 過去分詞で <b>ge</b> がつかない動詞
第 5 回	動詞の過去形の活用	過去形 動詞の 3 基本形と過去形の問題演習
第 6 回	現在完了形	現在完了形 <b>haben</b> 支配と <b>sein</b> 支配 問題演習
第 7 回	受動文	受動文 状態受動 問題演習
第 8 回	形容詞の格変化	形容詞の 3 用法 形容詞の格変化 問題演習
第 9 回	形容詞・副詞の比較表現	比較級と最上級 問題演習
第 10 回	再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞 再帰動詞 問題演習

第 11 回 中間試験 2 ならびに **zu** 不定詞

第 4 回から第 10 回までの範囲の  
中間試験  
**zu** 不定詞の用法  
問題演習

第 12 回 関係代名詞

関係代名詞  
問題演習

第 13 回 接続法

接続法 2 式  
問題演習

第 14 回 期末試験・まとめと解説

秋学期の学習範囲全体を試験範囲  
とした試験を実施し、その後試験  
問題を解説しつまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
 復習を中心に据えて行ってください。特に宿題で出す問題練習課題  
 の提出状況を重視します。

## 【テキスト（教科書）】

荻原耕平、山崎泰孝  
 『プロムナード やさしいドイツ語文法（改訂版・CD 付）』  
 （白水社、2019 年）

## 【参考書】

独和辞典  
 どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、  
 『アクセス独和辞典』（三修社）  
 『大独和辞典』（小学館）  
 などを入手してください。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（問題演習の提出状況）：30%

中間試験 1: 15 %

中間試験 2: 15%

期末試験: 40%

出席要件：

特段の事情（インフルエンザなど）なしに 5 回欠席するとそれ以降  
 の試験の受験資格を失います。

また、独和辞典および教科書を持参してください。持参しない場合  
 は、欠席したものとみなします。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

In this class, students shall learn pronunciations and the basic  
 grammar of the German language.

LANd100LA

## ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A～F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

## 【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につくように、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット、発音とアクセント、挨拶について。
第 2 回	人称と動詞の現在人称変化 (1)	人称代名詞、規則活用動詞の現在人称変化について。
第 3 回	動詞の現在人称変化 (2) と語順	sein、haben の現在人称変化と語順について。
第 4 回	名詞の性・数と格変化	名詞の性・数、冠詞と格変化について。
第 5 回	名詞の複数形と格変化	名詞の複数形と複数形の格変化について。
第 6 回	不規則動詞	代表的な不規則動詞の現在人称変化について。
第 7 回	命令形と人称代名詞の格変化	命令形と人称代名詞の 3 格と 4 格の格変化について。
第 8 回	中間テスト	第 1～第 7 回の内容を確認します。
第 9 回	前置詞の格支配 (1)	特定の格と結びつく前置詞の格支配について。
第 10 回	前置詞の格支配 (2)	3・4 格と結びつく前置詞の格支配と、定冠詞・前置詞の融合形について。
第 11 回	冠詞と定冠詞類の格変化	冠詞と定冠詞類の格変化について。

第 12 回 不定冠詞類と男性弱変化名詞 不定冠詞と不定冠詞類の格変化について。男性弱変化名詞についても補足します。

第 13 回 否定形 nicht と kein の使い分けについて。

第 14 回 期末テスト 春学期に学習した内容すべてについて確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

## 【テキスト（教科書）】

書名：『ミュンヘンに夢中』

著者：アンドレア・ラープ、石井学、石井寿子、保阪靖人、保阪良子

出版社：同学社 ISBN：978-4-8102-0744-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

## 【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』

著者：中島悠爾 / 平尾浩三 / 朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

## 【成績評価の方法と基準】

※当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、学期末テスト (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

音声教材を使用します。また、練習問題の解答などはモニターに映します。

## 【その他の重要事項】

独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

## 【Outline and objectives】

German Course for Beginners (A1 Level)

LANd100LA

## ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

## 【到達目標】

一年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、応用的な練習問題にも徐々に取り組んでいきます。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につくように、手と口とアタマを働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第 2 回	分離動詞と非分離動詞	分離動詞と非分離動詞について。
第 3 回	接続詞と話法の助動詞	接続詞の種類と使い方、話法の助動詞の種類について。
第 4 回	話法の助動詞と未来形	話法の助動詞と未来形の使い方について。
第 5 回	動詞の 3 基本形と過去人称変化	動詞の 3 基本形の作り方、過去基本形について。
第 6 回	動詞の現在完了	完了助動詞の選び方と、現在完了の使い方について。
第 7 回	中間テスト	第 2～第 6 回の内容を確認します。
第 8 回	形容詞の格変化	形容詞の各種格変化について。また形容詞の名詞化について補足します。
第 9 回	形容詞の比較級と最上級、比較表現	形容詞の比較級・最上級の作り方とそれを用いた比較表現について。
第 10 回	zu 不定詞と受動態の基礎	zu 不定詞の用法と受動態の作り方について。
第 11 回	受動態の用法と再帰動詞	状態受動、現在分詞および過去分詞について。さらに再帰代名詞および再帰動詞について。
第 12 回	関係代名詞と関係副詞	定関係代名詞・不定関係代名詞の格変化と用法について。
第 13 回	指示代名詞と接続法	指示代名詞と接続法の人称変化と時制、用法について。

## 第 14 回 期末テスト

秋学期だけでなく 1 年間に学んだ内容についてテストします。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

## 【テキスト（教科書）】

書名：『ミュンヘンに夢中』

著者：アンドレア・ラップ、石井学、石井寿子、保阪靖人、保阪良子  
出版社：同学社 ISBN：978-4-8102-0744-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

## 【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

## 【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

音声教材を使用します。また、練習問題の解答などはモニターに映します。

## 【その他の重要事項】

独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

## 【Outline and objectives】

German Course for Beginners (A1 Level)

LANd100LA

## ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 Lektion0	綴りの読み方と発音 アルファベット等について
②	Lektion1	人称代名詞と不定詞、定動詞の現在人称変化
③	Lektion1	定動詞の位置・語順 sein の現在人称変化
④	Lektion2	名詞の性、名詞の格
⑤	Lektion2	冠詞の変化、haben の現在人称変化
⑥	Lektion3	名詞の複数形
⑦	Lektion3	男性弱変化名詞と例外的な名詞、人称代名詞の3・4格
⑧	Lektion4	不規則動詞の現在人称変化、命令形
⑨	Lektion5	不定冠詞類
⑩	Lektion5	定冠詞類
	LektionS	前期確認問題
⑪	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『つながるドイツ語みっとりーべ』

中村修・中川拓哉・大澤タカコ著

朝日出版社 2019 年第 2 刷発行 定価 2600 円+税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600 円+税

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

## ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion1~5	復習事項
②	Lektion6	前置詞の格支配 2格・3格・4格支配
③	Lektion6	3・4格支配 前置詞と定冠詞の融合形
④	Lektion7	分離動詞、非分離動詞
⑤	Lektion8	話法の助動詞 従属の接続詞
⑥	Lektion9	zu 不定詞 再帰代名詞と再帰動詞
⑦	Lektion10	動詞の3基本形 1 過去形
⑧	Lektion10	動詞の3基本形 2 現在完了形
⑨	Lektion W	後期確認問題
⑩	Lektion StepUp	受動態 前置詞+人称代名詞の融合形
⑪	Lektion StepUp	形容詞の語尾変化 比較表現
⑫	Lektion Grammatik	人称代名詞と動詞の人称変化、冠詞類等の総復習
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『つながるドイツ語みっとりーべ』

中村修・中川拓哉・大澤タカコ著

朝日出版社 2019年第2刷発行 定価2600円+税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価1,600円+税

## 【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

## ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要	綴りの読み方と発音 アルファベット等について 発音記号について
②	Lektion1	主語になる人称代名詞 動詞の現在人称変化 (1)(規則動詞)
③	Lektion1	sein・haben の現在人称変化 (不規則動詞)、語順 (定動詞の位置)
④	Lektion2	名詞の性・冠詞、名詞の格変化
⑤	Lektion2	疑問代名詞 wer, was の格変化、 並列の接続詞
⑥	Lektion3	動詞の現在人称変化 (不規則動詞)、命令形
⑦	Lektion3	人称代名詞の 3 格 (〜に) と 4 格 (〜を)、3 格と 4 格の語順、非人称の es
⑧	Lektion4	名詞の複数形、冠詞類 kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
⑨	Lektion5	前置詞の格支配 1
⑩	Lektion5	前置詞の格支配 2 前置詞と定冠詞の融合形
⑪	期末試験	期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』

小野寿美子・中川明博著

朝日出版社 2019 年第 2 刷発行 定価 2500 円 + 税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600 円 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

## ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

## 【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞の現在人称変化、未来形
②	Lektion6	従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 <b>man</b>
③	Lektion7	形容詞の2つの使い方、形容詞の格変化
④	Lektion7	形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較
⑤	Lektion8	分離動詞・非分離動詞
⑥	Lektion8	分離動詞・非分離動詞、 <b>zu</b> 不定詞・ <b>zu</b> 不定詞句
⑦	Lektion9	動詞の3基本形 1、過去分詞に <b>ge-</b> を付けない動詞
⑧	Lektion9	動詞の3基本形 2、現在完了形
⑨	Lektion10	過去形、再帰代名詞と再帰動詞
⑩	文法の補足	関係代名詞、関係副詞
⑪	文法の補足	受動形、分詞
⑫	文法の補足	接続法
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』

小野寿美子・中川明博著

朝日出版社 2019 年第 2 刷発行 定価 2500 円 + 税

## 【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600 円 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

## ドイツ語2-I

2017年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

## 【到達目標】

1年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

開講日は4月23日（木）です。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

初めの数回は、教科書を使用せずに授業を行います。教科書が学生の皆さんに行き渡った後は、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	アルファベット、発音とアクセント、挨拶について
第2回	第1章（1）	動詞の現在人称変化、動詞 <b>sein</b> と <b>haben</b> の変化、動詞の位置
第3回	第1章（2）	前週の内容の定着と応用
第4回	第2章（1）	名詞の性、名詞の1格・4格、所有冠詞
第5回	第2章（2）	前週の内容の定着と応用
第6回	第3章（1）	不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形
第7回	第3章（2）	前週の内容の定着と応用
第8回	中間試験	第1～7回の内容を確認します。
第9回	第4章（1）	名詞の3格、前置詞と名詞の格
第10回	第4章（2）	前週の内容の定着と応用
第11回	第5章（1）	人称代名詞の3・4格、分離動詞、非分離動詞
第12回	第5章（2）	前週の内容の定着と応用
第13回	第6章（1）	話法の助動詞、命令形
第14回	期末試験	第9～13回の内容を確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、宿題および予習・復習を行ってこることが必須です。本授業の準備・復習時間は、各60分～90分を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2600円＋税

## 【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始後に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

## 【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

## ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

### 【到達目標】

春学期に引き続き初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を持参すること。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	春学期に学んだ内容を復習します。
第2回	第6章（2）	前週の内容の定着と応用
第3回	第7章（1）	3格・4格支配の前置詞、並列接続詞
第4回	第7章（2）	前週の内容の定着と応用
第5回	第8章（1）	現在完了形、過去形
第6回	第8章（2）	前週の内容の定着と応用
第7回	中間試験	第1～6回の内容を確認します。
第8回	第9章（1）	定冠詞類、副文
第9回	第9章（2）	前週の内容の定着と応用
第10回	第10章（1）	比較級と最上級、再帰代名詞と再帰動詞
第11回	第10章（2）	前週の内容の定着と応用
第12回	第11章（1）	形容詞の格変化、非人称表現（es）の用法
第13回	第11章（2）	前週の内容の定着と応用
第14回	期末試験	第8～13回の内容を確認します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、宿題および予習・復習を行ってこることが必須です。本授業の準備・復習時間は、各 60 分～90 分を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2600円＋税

### 【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、中間試験（40％）、期末試験（40％）

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

## ドイツ語2-I

2017年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音から始まるドイツ語のきまりを学ぶ。文法事項、単語を覚え、会話練習することで、ドイツ語の基礎知識を習得する。

## 【到達目標】

話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月23日、8時50分からZoomで開催するため、準備をしておいてほしい。URLは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	発音	授業の進め方 勉強方法 発音
あいさつ	あいさつを覚える	あいさつ 数詞
人称代名詞	Lektion1	1人称、2人称、3人称
動詞の変化	Lektion1	規則動詞
名詞の格と冠詞	Lektion2	単数名詞の性 名詞の格変化
疑問代名詞	Lektion2	was,wer の変化
不規則動詞	Lektion3	動詞の現在人称変化
命令形	Lektion3	命令形のつくり方
定冠詞と不定冠詞	Lektion4	dieser, mein 等の語尾変化
名詞の複数形	Lektion4	複数形の作り方
前置詞	Lektion5	前置詞の格支配
前置詞と定冠詞	Lektion5	前置詞と定冠詞の融合形
おさらい	これまでの復習	練習問題を解く
テスト	春学期のテスト	学習の習熟度をチェック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1課を2回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。

各課毎に小テストを実施する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ドイチュブラーヴォ + a』

小野 寿美子・他著 朝日出版社

## 【参考書】

必要に応じて授業中に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における取り組みと小テスト（もしくはオンラインでの課題提出）で50%、期末テスト50%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

要望があればその都度、対応する。学生が自発的に質問する、自ら発表できる授業づくりを進める。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

## ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音から始まるドイツ語のきまりを学ぶ。文法事項、単語を覚え、会話練習することで、ドイツ語の基礎知識を習得する。

## 【到達目標】

話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

文法事項を学習する一方で、CDを繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。

各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
助動詞	Lektion6	助動詞の変化 未来形
接続詞	Lektion6	接続詞と副文
形容詞	Lektion7	形容詞の格語尾変化
zu 不定詞	Lektion7	zu 不定詞のつくり方
動詞の過去形	Lektion8	不定詞 過去基本形 過去分詞
過去人称変化	Lektion8	語尾変化
現在完了形	Lektion9	haben/sein の使い分け
分離動詞	Lektion9	分離動詞の基本形と zu 不定詞
比較	Lektion10	形容詞・副詞の比較級・最上級
関係代名詞	Lektion10	関係文
受動態	文法の補足	受動態 現在分詞と過去分詞
接続法第1式	文法の補足	接続法第1式の人称変化と用法
接続法第2式	文法の補足	接続法第2式の人称変化と用法
テスト	秋学期のテスト	学習の習熟度をチェック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項を学習する一方で、CDを繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。

各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ドイツ語ラーヴォ + a』

小野 寿美子・他著 朝日出版社

## 【参考書】

必要に応じて授業中に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における取り組みと小テストで50%、期末テスト50%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

要望があればその都度、対応する。学生が自発的に質問する、自ら発表できる授業づくりを進める。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

## ドイツ語2-I

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は5月11日とし、その日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は10課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット 発音の原則
2	発音 I	母音の発音 子音の発音①
3	発音 II	子音の発音② あいさつ 数詞（1~12）
4	Lektion 1	小テスト（発音） 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ／動詞 <b>sein</b> ・ <b>haben</b> の現在人称 変化（不規則動詞）
5	Lektion 1	語順／ <b>ja</b> ・ <b>nein</b> の使い方 会話文 読章 <b>Guten Tag!</b>
6	Lektion 2	名詞の性と冠詞／名詞の格／定冠 詞と名詞の格変化／不定冠詞と名 詞の格変化／格の用法
7	Lektion 2	名詞の複数形／人称代名詞の使 い方 会話文 読章 <b>Cool Japan</b>
8	Lektion 3	動詞の現在人称変化（2）（不規則 動詞）／非人称の <b>es</b>
9	Lektion 3	命令形／時刻の表現 会話文 読章 <b>Wien</b>
10	Lektion 4	定冠詞類

11	Lektion 4	不定冠詞類／人称代名詞の 3 格 と 4 格／ 3 格と 4 格の語順 会話文 読章 <b>Porträt meiner Familie</b>
12	Lektion 5	前置詞の格支配
13	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形／疑問代 名詞 <b>wer</b> と <b>was</b> の格変化 会話文 読章 <b>Basel</b>
14	Lektion 5	

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野寿美子、中川明博、西巻丈児『グーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800 ¥2,500

## 【参考書】

その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開校となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

## 【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

## ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は10課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 6	語法の助動詞
2	Lektion 6	未来形／従属の接続詞と副文
3	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞 会話文 読章 Ryota geht ins Konzert
4	Lektion 7	?形容詞の格語尾変化
5	Lektion 7	形容詞・副詞の比較 会話文 読章 Atomkraft? Nein Danke!
6	Lektion 8	動詞の3基本形
7	Lektion 8	現在完了形
8	Lektion 8	会話文 読章 Die Wartburg bei Eisenach
9	Lektion 9	過去形
10	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 9	会話文 読章 Weimar, ein wichtiges Kulturzentrum
12	Lektion 10	zu 不定詞（句）
13	Lektion 10	関係代名詞
14	Lektion 10	会話文 読章 Kölnisch Wasser

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野寿美子、中川明博、西巻文児『プーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800 ¥2,500

## 【参考書】

その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を60%、平常点を40%の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

## 【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

## ドイツ語2-I

2017年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ1年I～P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言語について、発音のルール、簡単な表現や基礎的な文法事項を体系的に学習していきます。辞書の使い方を学び、挨拶や自己紹介などの簡単な表現ができるようになることを目指します。

## 【到達目標】

ドイツ語を学ぶ上で重要な基本事項として、(1) 動詞の人称変化、(2) 名詞の性・数・格（変化）が挙げられます。授業および自主学習を通じて、主語に応じて動詞を変化させ、動詞に応じて目的語等を適切に格変化させて、ドイツ語の文を作ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

【変更あり】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einführung	アルファベット, 発音, あいさつ
2	Lektion 1A	動詞の現在人称変化
3	Lektion 1B	sein と haben の現在人称変化
4	Lektion 2A	名詞の性と冠詞, 冠詞と名詞の格変化
5	Lektion 2B	所有冠詞
6	Lektion 2B	否定冠詞
7	Lektion 3A	動詞の現在人称変化（不規則）
8	Lektion 3A	命令・依頼の表現
9	Lektion 3B	定冠詞類の格変化, 人称代名詞の格変化
10	Lektion 3B	wer と was の格変化
11	Lektion 4A	前置詞
12	Lektion 4A	前置詞
13	Lektion 4B	話法の助動詞, 分離動詞
14	学期末試験	春学期に学んだ内容

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているので、そちらも参照してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社、2019年。  
（2400円＋税）

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

【変更あり】平常点（授業への参加態度、宿題、発言/発信など）30%、小テスト40%、提出課題30%を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗などにより変更する可能性があります。特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。

## 【Outline and objectives】

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

LANd100LA

## ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ1年I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本的な事項を学んでいきます。春学期よりも豊かで多様な表現を身につけていきます。

## 【到達目標】

現在形以外の時制、接続詞や形容詞の使用など、春学期よりも豊かな表現を読解し、また自分でもアウトプットできるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。  
 独和辞典を必ず持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書は不可。）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	春学期のおさらい
2	Lektion 5A	動詞の3基本形
3	Lektion 5A	現在完了
4	Lektion 5B	過去人称変化
5	Lektion 5B	接続詞と副文
6	Lektion 6A	受動文, 序数・日付
7	Lektion 6B	非人称の es, zu 不定詞句
8	Lektion 7A	形容詞の格変化
9	Lektion 7A	形容詞の比較級・最上級
10	Lektion 7B	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 8A	関係文(1)
12	Lektion 8A	関係文(2)
13	Lektion 8B	接続法
14	学期末試験	一年間で学んだ内容

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社、2019年。  
 （2400円＋税）

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）と、授業での課題や小テスト等、普段の取り組み（50％）によって行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。

## 【Outline and objectives】

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

## 【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業をすすめたい。

\*なお、春学期は 4 月 21 日より、学習支援システムにて授業を開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課：名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェヌマン、エリズイヨンの解説。問題練習。
第 4 回	2 課：動詞 être	主語人称代名詞の解説。être の直説法現在。問題練習。
第 5 回	2 課：動詞 avoir	avoir の直説法現在。il y a の表現。問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課：第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習、そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課：疑問形、数詞	事項解説と問題練習。ディクテ。
第 8 回	4 課：形容詞	形容詞の性数一致の原則、位置。問題練習。
第 9 回	5 課：指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習、そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課：第 2 群規則動詞	事項解説。数字。問題練習。ディクテ。
第 11 回	6 課：動詞の aller と venir、定冠詞の縮約、命令法	事項解説。国名と前置詞。近接未来と近接過去。問題練習。ディクテ。
第 12 回	7 課：不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説。天候表現、時間表現。週・月・曜日・日付の表現。ディクテ。
第 13 回	8 課：疑問代名詞・疑問副詞。	事項解説。さまざまな否定表現。数字。問題練習。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は復習に重点をおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

## 【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % と期末試験 70 % で評価する。

\*春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）3～4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行う。その際、春学期に続き、声を出して文を読み、フランス語を正確に発音できるように指導する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	直説法現在形活用まとめ	直説法現在形活用表の使い方、その他事項解説と問題練習。
第 2 回	9 課：動詞 <i>vouloir</i> , <i>pouvoir</i> , <i>devoir</i> . 補語人称代名詞	事項解説。補語人称代名詞の位置と語順。 問題練習。
第 3 回	10 課：比較	復習問題と補足解説。
第 4 回	10 課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説。 位置を示す前置詞。 問題練習。
第 5 回	11 課：中性代名詞	事項解説と問題練習。
第 6 回	11 課：動詞 <i>savoir</i> と <i>connaître</i>	事項解説。 さまざまな数量表現。 ダイクテ。
第 7 回	12 課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説。問題練習。
第 8 回	12 課：複合過去（2）	時の表現。時を表す前置詞。 ダイクテ。
第 9 回	13 課：関係代名詞	事項解説。 問題練習。
第 10 回	13 課：受動態、強調構文	事項解説。 問題練習。
第 11 回	14 課：代名動詞	事項解説。 問題練習。 ダイクテ。
第 12 回	15 課：半過去、単純未来	事項解説。 問題練習。 ダイクテ。
第 13 回	16 課：大過去、前未来、条件法	事項解説。 問題練習。 ダイクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は、予習中心の準備学習に切り替えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

## 【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % と期末試験 70 % で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボンジュール！ フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。フランス語の発音のしくみを理解し、簡単な挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

## 【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、発音できるようにする。
2. フランス語の文法の構造を理解し、習得する。
3. フランス語の文章が読めるようになるための基礎固めをする。
4. フランス語で会話ができるようになるための練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日は 4/27（月）です。学習支援システム・Hoppii を用いて遠隔授業を行います。まず、Hoppii の「掲示板」を開いてください。そこで指示する該当箇所を『新モン・フランセ』（駿河台出版社）を読み練習問題も行い、CD を聞いて、しっかりと理解してください。この本は独学用に書かれている分かりやすい本です。次に『フラッシュ！』を用いて指示された練習問題や会話の訳にチャレンジしましょう。

毎回、Hoppii の「アンケート」や「お知らせ」を確認してください。何か不明な点があれば、下記メールアドレスまでお送りください。  
kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	挨拶する	名詞の性と数 冠詞
2	自己紹介する	主語人称代名詞 直説法現在
3	自己紹介する	形容詞 否定文
4	尋ねる	avoir 疑問文
5	尋ねる	疑問形容詞
6	まとめ	総復習
7	ものや人を提示する	提示表現 指示形容詞 所有形容詞
8	夏休みの予定	aller, venir 前置詞と冠詞
9	夏休みの予定	近接未来・過去
10	バカンスの報告をする	直説法複合過去（1）
11	バカンスの報告をする	直説法複合過去（2）
12	バカンスの報告をする	比較級
13	バカンスの報告をする	最上級
14	総合練習	直説法現在

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習中心で覚えるべき単語や文法について、60 分はしっかりと勉強してください。

## 【テキスト（教科書）】

(1) 『フラッシュ！ -絵とアクティヴィテで学ぶフランス語-』、Emmanuel Antier、三上純子、ほか著、駿河台出版社、2020 年、2,400 円。

(2) 『新モン・フランセ 一ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社、2,750 円。

(2) は Amazon や書店などで注文して購入してください。

## 【参考書】

『フランス後をひとつひとつわかりやすく』、学研、1,650 円。

## 【成績評価の方法と基準】

随時 Hoppii で指示する課題により評価します（100%）

## 【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

## 【Outline and objectives】

This is the first class for students studying French. The goal is to lay the foundation of communication, centering on basic grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

## 【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。

会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：  
DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説  
明します。練習問題が宿題になります。また会話のスケッチの和訳  
も宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	贈り物を考える	目的語人称代名詞
2	贈り物を考える	中性代名詞
3	贈り物を考える	数量表現を使って、食べ物・飲み物をいう。
4	日常の行動をいう	代名動詞
5	日常の行動をいう	現在分詞・ジェロンディフ
6	日常の行動をいう	日課をいう
7	過去を語る	半過去
8	過去を語る	複合過去と半過去
9	過去を語る	自分の過去を語る
10	旅した国について話す	関係代名詞
11	旅した国について話す	過去分詞の一致
12	旅した国について話す	旅先からメッセージを書く
13	未来の計画を語る	単純未来
14	未来の計画を語る	強調構文

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フ  
ランス語初級文法を身につけてください。

また、役に立つ会話表現を覚えてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『フラッシュ！ -絵とアクティビティで学ぶフランス語-』、Emmanuel  
Antier、三上純子ほか、駿河台出版社、2020 年、2,400 円。

## 【参考書】

『新モン・フランセ ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験と期末試験の合計点（90%）

小テストの合計点（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出  
席して、楽しみながら勉強を続けてください。

## 【Outline and objectives】

Following the Spring semester, you will acquire elementary  
French grammar and broaden the range of communication.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級  
文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

## 【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5  
級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：  
DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問  
題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参  
してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音  
や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、ア  
ルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、  
学習支援システム上で通知する。

授業は、学習支援システムを利用して 4/22 日に開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、 疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞 名詞と形容詞の女性形と複数形の 特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説 法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮 約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認しま す。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題  
を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合  
わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

小テストと期末テストを行って、その点数を基準にして評価します（100％）。

ただし、当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

## 【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4級ならびに3級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。教室では大きな声で、フランス語を読みましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100％）。

## 【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法の基礎を固め、読解力、表現力を培う

## 【到達目標】

フランス語文法の基礎を把握し、フランス語という言語の特質を把握する

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めますが、適宜プリントを用いて文法事項の確認をします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業方針の説明
第2回	第1課	主語人称代名詞 発音
第3回	第1課	動詞 être の活用 名詞の性と数 発音
第4回	第1課	国籍、職業の言い方 発音 数詞
第5回	第2課	動詞 avoir の活用 不定冠詞 定冠詞
第6回	第2課	形容詞の性と数 中性指示代名詞
第7回	第2課	動詞の復習
第8回	第3課	第1群規則動詞の活用 所有形容詞
第9回	第3課	疑問文 否定文
第10回	第4課	形容詞の位置 形容詞と名詞の女性形・複数形
第11回	第5課	指示形容詞 定冠詞の縮約
第12回	第5課	人称代名詞の強勢形
第13回	まとめ	まとめ
第14回	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップロードされた動画を見る前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおいてください。動画を見た後、掲示板で指示した練習問題を必ず解いてください。質問は掲示板で受け付けます。質問は教師へのメールでも受け付けます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『新・彼女は食いしん坊！ 1』 藤田裕二、朝日出版社

## 【参考書】

授業時に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習する内容をしっかりと把握できるような速度で進みます。

## 【Outline and objectives】

learn elementary grammar in use

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様に、文法の基礎を学んでいく

## 【到達目標】

春学期に引き続いて、文法の基礎を学び、フランス語の特質を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。随時テキストを配布し、文法事項を確認する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期に学んだことを再確認する
第 2 回	第 5 課	近接未来 近接過去
第 3 回	第 6 課	疑問代名詞 疑問副詞
第 4 回	第 6 課	中性代名詞
第 5 回	第 7 課	部分冠詞 数量の表現
第 6 回	第 7 課	動詞の復習
第 7 回	第 8 課	疑問形容詞 命令形
第 8 回	第 8 課	非人称構文
第 9 回	第 9 課	指示代名詞 比較級
第 10 回	第 9 課	最上級 数詞
第 11 回	第 10 課	補語人称代名詞 代名動詞
第 12 回	第 10 課	複合過去
第 13 回	まとめ	単純未来 まとめ
第 14 回	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当箇所を事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『新・彼女は食いしん坊！ 1』 藤田裕二、朝日出版社

## 【参考書】

授業時に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、小テスト（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

理解力を深めるために、ゆっくりしたペースで進んでいきます。

## 【Outline and objectives】

learn elementary grammar in use

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは主としてフランス語の初歩の文法を学びます。このクラスを履修する学生は基本的なフランス語の「読み」「書き」をあわせて学んでいきます。フランス語 1 II と合わせて最終的に初歩のフランス語の 4 技能の獲得を目指します。

## 【到達目標】

このクラスを履修する学生は、実用フランス語技能検定試験 5 級に合格するために必要なフランス語運用能力、とくに文法を学んでいきます。あわせて簡単なフランス語の文章を読むために必要な語彙や表現も身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

主として演習形式で授業を進めていきます。また次週に向けた課題などにも学生は積極的に取り組んでもらいます。また当分は遠隔授業ですので、第 1 回は 4 月 30 日に行います。資料等は「学習支援システム」にアップしてあります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
発音 1	フランス語の発音	フランス語の発音 (母音や子音)
発音 2	フランス語の発音	フランス語の発音 (鼻母音や複合母音など)
発音 3	フランス語の発音	発音のまとめ
1 課	名詞の性と数	男性名詞と女性名詞
2 課	冠詞	3 つの冠詞の用法
2 課	提示の表現	「もの」を提示する
	代名詞	表現 主語の代名詞
3 課	規則動詞の活用	規則動詞の直説法現在形の活用
4 課	疑問形と否定形	3 つの疑問形の作り方 否定の作り方
4 課	疑問文への応答	疑問文に肯定と否定で答える
	形容詞	指示形容詞の用法
5 課	形容詞の女性形	形容詞の女性形の作り方
	名詞や形容詞の複数形	名詞や形容詞の複数形の作り方
6 課	不規則動詞	重要な不規則動詞の活用と用法
	形容詞	疑問形容詞
7 課	命令形	命令文の作り方
	形容詞	所有形容詞
8 課	形容詞と名詞の比較級	形容詞と名詞の比較級、最上級の
	および最上級	用法 特殊な形容詞と名詞の最上級、比較級の作り方
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の用法と作り方
復習	春学期の学習内容の確認と見直し	春学期に学習したテキスト 1 課から 9 課までの文法事項や動詞の活用を総合的に復習する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は学習した文法事項の理解の定着のために復習の課題をやりまします。合わせて予習として次回学習予定の文法事項の大きな理解を求められます。復習と予習合わせて 90 分が標準となります。

## 【テキスト（教科書）】

『ル・フランセ』 斉藤昌三、白水社

## 【参考書】

参考書に関しては特に指定はしません。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、課題提出 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

とくに大きな改善点の指摘はなかったが、練習問題の量を少し増やしていきたい。

## 【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for an elementary french grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスを受講する学生はフランス語 1 I で学んだ文法事項の確認からはじめフランス語の初級文法の完成と外国語としてのフランス語の初歩の 4 技能の獲得を目指します。

## 【到達目標】

このクラスを受講する学生は外国語としてのフランス語の「読み」「書き」の基本をすべて学習します。結果として実用フランス語技能検定 4 級合格に必要な文法事項や語彙及び表現を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

原則として演習形式で進めていきます。受講学生の積極的な授業への取り組みを期待しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
春学期 の復習	春学期の復習	テキスト 1 課から 9 課までの文法事項を復習する
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の否定形と倒置疑問形の作り方
10 課	関係代名詞	4 つの主要な関係代名詞の用法を学ぶ
10 課	疑問代名詞	疑問代名詞の種類と用法を学ぶ
11 課	人称代名詞	直接目的と間接目的の人称代名詞の用法 強勢形人称代名詞の用法
12 課	受動態	動詞の態を変える
	指示代名詞	指示代名詞の用法
12 課、	強調構文	文の各要素を強調する
13 課	代名動詞	代名詞を伴う動詞の活用と用法
13 課	代名動詞の過去形 非人称構文	代名動詞の直説法複合過去形の作り方と用法 非人称構文の用法
14 課	直説法単純未来	未来時制の作り方と用法
14 課	中性代名詞	3 つの中性代名詞の用法
15 課	さまざまな過去時制	直説法半過去と大過去の作り方と用法
16 課	条件法現在形	条件法現在形の作り方と用法
17、18 課	現在分詞とジェロン ディフ	現在分詞とジェロンディフの作り方と用法
	接続法	接続法の活用と用法
まとめ	秋学期のまとめ	秋学期で学習した文法事項の確認と復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は学習した文法事項の理解を深めるために毎回出される復習の課題をやる必要があります。同時に次週に学習予定の文法項目のたまかな理解も求められます。復習と予習で毎回 90 分程度時間を要します。

## 【テキスト（教科書）】

フランス語 1 I と同じテキスト

## 【参考書】

特に指示する参考書はありません

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、課題提出 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

課題の量を増やす

## 【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 M

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本来は文法のクラスなのですが、ペアを組む教師と相談の上、このクラスではフランス語の初歩的な会話を学びます。

### 【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞いて、書いて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでそのつど提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、具体的なオンライン授業の方法などは「第一回」授業の資料に記載します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。
2 回目	Leçon 1	アルファベ 国籍を言う
3 回目	Leçon 1	主語人称代名詞 「～である」
4 回目	Leçon 2	職業・身分を言う
5 回目	Leçon 2	er 動詞現在形
6 回目	Leçon 3	名詞の性と数
7 回目	Leçon 3	否定文
8 回目	Leçon 4	「持つ」 否定の冠詞
9 回目	Leçon 4	疑問文
10 回目	Leçon 5	所有形容詞 疑問詞
11 回目	Leçon 5	形容詞の性と数
12 回目	Leçon 6	定冠詞
13 回目	Leçon 6	場所を言う
14 回目	期末試験	試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』、ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社

### 【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』森本・三野著、駿河台出版社、1900 円

### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、「第一回」授業の資料に記載します。

### 【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

### 【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

### 【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 M

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ペアを組む教師と相談の上、このクラスでは主にフランス語の初歩的な会話を学びます。

## 【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞いて、書いて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

CDを聞き、教師が解説した後、学生たちに基本例文と単語を暗記してもらいます。その後、指名された学生が口頭で発表します。テキストの練習問題は適当に飛ばし、2回の授業でテキストの1課を終える予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	春学期の復習	復習
2 回目	Leçon 7	形容詞
3 回目	Leçon 7	「～がある」
4 回目	Leçon 8	比較
5 回目	Leçon 8	目的語代名詞
6 回目	Leçon 9	部分冠詞
7 回目	Leçon 9	中性代名詞 en
8 回目	Leçon 10	「行く」と「来る」
9 回目	Leçon 10	中性代名詞 y
10 回目	Leçon 11	代名動詞
11 回目	Leçon 11	時刻の言い方・聞き方
12 回目	Leçon 12	目的語代名詞
13 回目	Leçon 12	疑問詞
14 回目	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』、朝日出版社

## 【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験 50 % で総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

## 【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

## 【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

## 【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する。

授業は、学習支援システムを利用して 4/22 日に開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer, aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

小テストと期末テストを行って、その点数を基準にして評価します（100 %）。

ただし、当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚え、秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

## 【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。教室では大きな声で、フランス語を読みましよう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 <b>manger, dire</b>
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 <b>s'appeler</b>
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 <b>le, en, y</b> 、不規則動詞 <b>devoir</b>
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 <b>vivre</b>
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

営 1 年 A～E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

## 【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業を進める。

\*なお、春学期は 4 月 21 日より、学習支援システムにて授業を開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課：名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェヌマン、エリズイヨンの解説。問題練習。
第 4 回	2 課：動詞 être	主語人称代名詞の解説。être の直説法現在。問題練習。
第 5 回	2 課：動詞 avoir	avoir の直説法現在。il y a の表現。問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課：第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習、そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課：疑問形、数詞	事項解説と問題練習。ディクテ。
第 8 回	4 課：形容詞	形容詞の性数一致の原則、位置。問題練習。
第 9 回	5 課：指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習、そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課：第 2 群規則動詞	事項解説。数字。問題練習。ディクテ。
第 11 回	6 課：動詞の aller と venir、定冠詞の縮約、命令法	事項解説。国名と前置詞。近接未来と近接過去。問題練習。ディクテ。
第 12 回	7 課：不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説。天候表現、時間表現。週・月・曜日・日付の表現。ディクテ。
第 13 回	8 課：疑問代名詞・疑問副詞。	事項解説。さまざまな否定表現。数字。問題練習。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は復習に重点をおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

## 【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）と到達目標に関する期末試験（70 %）で総合的に評価する。

\*春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

営 1 年 A～E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）3～4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた題練習を行う。その際、春学期に続き、声を出して文を読み、フランス語を正確に発音できるように指導する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	直説法現在形活用まとめ	直説法現在形活用表の使い方、その他事項解説と問題練習。
第 2 回	9 課：動詞 <i>vouloir</i> , <i>pouvoir</i> , <i>devoir</i> . 補語人称代名詞	事項解説。補語人称代名詞の位置と語順。問題練習。
第 3 回	10 課：比較	復習問題と補足解説。
第 4 回	10 課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説。位置を示す前置詞。問題練習。
第 5 回	11 課：中性代名詞	事項解説と問題練習。
第 6 回	11 課：動詞 <i>savoir</i> と <i>connaître</i>	事項解説。さまざまな数量表現。ダイクテ。
第 7 回	12 課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説。問題練習。
第 8 回	12 課：複合過去（2）	時の表現。時を表す前置詞。ダイクテ。
第 9 回	13 課：関係代名詞	事項解説。問題練習。
第 10 回	13 課：受動態、強調構文	事項解説。問題練習。
第 11 回	14 課：代名動詞	事項解説。問題練習。ダイクテ。
第 12 回	15 課：半過去、大過去、単純未来、前未来	事項解説。問題練習。ダイクテ。
第 13 回	16 課：条件法、接続法	事項解説。問題練習。ダイクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は、予習中心の準備学習に切り替えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

## 【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と到達目標に関する期末試験（70%）で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

営 1 年 F~R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボンジュール！ フランス語をはじめ学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。フランス語の発音のしくみを理解し、簡単な挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

## 【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、発音できるようにする。
2. フランス語の文法の構造を理解し、習得する。
3. フランス語の文章が読めるようになるための基礎固めをする。
4. フランス語で会話ができるようになるための練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日は 4/27（月）です。学習支援システム・Hoppii を用いて遠隔授業を行います。まず、Hoppii の「揭示版」を開いてください。そこで指示する該当箇所を『新モン・フランセ』（駿河台出版社）を読み練習問題も行い、CD を聞いて、しっかりと理解してください。この本は独学用に書かれている分かりやすい本です。次に『フラッシュ！』を用いて指示された練習問題や会話の訳にチャレンジしましょう。

毎回、「アンケート」や「お知らせ」の項目も確認するようにしてください。

何か不明な点があれば、下記のメールアドレスまでお送りください。  
kaz.obata@nifty.com

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	挨拶する	名詞の性と数 冠詞
2	自己紹介する	主語人称代名詞 直説法現在
3	自己紹介する	形容詞 否定文
4	尋ねる	<b>avoir</b> 疑問文
5	尋ねる	疑問形容詞
6	まとめ	総復習
7	ものや人を提示する	提示表現 指示形容詞 所有形容詞
8	夏休みの予定	<b>aller, venir</b> 前置詞と冠詞
9	夏休みの予定	近接未来・過去
10	バカンスの報告をする	直説法複合過去（1）
11	バカンスの報告をする	直説法複合過去（2）
12	バカンスの報告をする	比較級
13	バカンスの報告をする	最上級
14	総合練習	直説法現在

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習中心で覚えるべき単語や文法について、60 分はしっかりと勉強してください。

## 【テキスト（教科書）】

- (1) 『フラッシュ！ -絵とアクティビティで学ぶフランス語-』、Emmanuel Antier、三上純子ほか、駿河台出版社、2020 年、2,400 円。
- (2) 『新モン・フランセ -ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社、2,750 円。

(2) は Amazon や書店などで注文して購入してください。

## 【参考書】

『フランス語をひとつひとつわかりやすく』、学研、1,650 円

## 【成績評価の方法と基準】

Hoppii で指示する課題の提出によって評価します（100%）

## 【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

## 【Outline and objectives】

This is the first class for students studying French. The goal is to lay the foundation of communication, centering on basic grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1  
 単位数：1 単位  
 営 1 年 F~R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

## 【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。  
 会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説明します。練習問題が宿題になります。また会話のスケッチの和訳も宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	贈り物を考える	目的語人称代名詞
2	贈り物を考える	中性代名詞
3	贈り物を考える	数量表現を使って、食べ物・飲み物をいう。
4	日常の行動をいう	代名動詞
5	日常の行動をいう	現在分詞・ジェロンディフ
6	日常の行動をいう	日課をいう
7	過去を語る	半過去
8	過去を語る	複合過去と半過去
9	過去を語る	自分の過去を語る
10	旅した国について話す	関係代名詞
11	旅した国について話す	過去分詞の一致
12	旅した国について話す	旅先からメッセージを書く
13	未来の計画を語る	単純未来
14	未来の計画を語る	強調構文

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フランス語初級文法を身につけてください。  
 また、役に立つ会話表現を覚えてください。  
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『フラッシュ！ -絵とアクティビティで学ぶフランス語-』、Emmanuel Antier、三上純子ほか、駿河台出版社、2020 年、2,400 円。

## 【参考書】

『新モン・フランセ ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験と期末試験の合計点（90%）  
 小テストの合計点（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出席して、楽しみながら勉強を続けてください。

## 【Outline and objectives】

Following the Spring semester, you will acquire elementary French grammar and broaden the range of communication.

LANf100LA

## フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3  
 単位数：1 単位  
 営 1 年 S

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間でフランス語の初級文法の習得を目指す。春学期は、初歩的な文法事項を学んでいく。文法事項をよく復習し、一つ一つをきちんと理解しながら進んでいくことが大事になる。

## 【到達目標】

春学期は、名詞、冠詞、形容詞、動詞の現在形などの文法事項を学ぶ。春学期が終了した段階で、動詞を現在形で正しく活用させて、簡単なフランス語の文が作れるレベルにまで到達することを目標とする。学期末試験では、そのレベルに達しているかを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

随時、Hoppii でお知らせするので、そちらをご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課	フランス語のアルファベットの発音を確認し、覚えてもらう。
第 2 回	第 2 課	フランス語の名詞には性と数があることや、三種類の冠詞について説明する。
第 3 回	第 3 課	主語人称代名詞の使い方と基本動詞の活用について説明する。
第 4 回	第 4 課	2つの規則動詞の活用と形容詞の使い方について説明する。
第 5 回	第 5 課	否定形の作り方について説明する。
第 6 回	第 6 課	疑問形の作り方、所有形容詞の使い方について説明する。
第 7 回	第 7 課	指示形容詞の使い方、名詞と形容詞の女性形の特殊形などについて説明する。
第 8 回	第 8 課	二つの重要動詞の活用、近接未来と近接過去の作り方、使い方について説明する。
第 9 回	第 9 課	疑問代名詞と疑問副詞の使い方について説明する。
第 10 回	第 10 課	疑問形容詞の使い方、比較級と最上級の作り方について説明する。
第 11 回	第 11 課	命令形の作り方、非人称構文の使い方について説明する。
第 12 回	2 課から 6 課までの復習	動詞の活用を覚えているかなどを確認する。

第13回 7課から11課までの 文法事項の再確認を行う。

復習

第14回 最後のまとめ 総復習をする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習よりも復習に重点をおいて、習った動詞の活用や文法事項をしっかり覚える。また、各自で練習問題に取り組む。予習復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『マ・グラメール』小野ゆり子、村松マリ＝エマニュエル著 白水社  
2300円

**【参考書】**

仏和辞書（電子辞書も可）

**【成績評価の方法と基準】**

Hoppii でお知らせするので、そちらをご覧ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

フランス語の文法は難しいという意見が多いので、できるだけ分かりやすい説明をするよう努力したいと思う。

**【Outline and objectives】**

Students aim to learn elementary grammar in French in on year. In the spring semester, students will learn elementary grammar.

LANf100LA

**フランス語 1 II**

2017年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続いて、フランス語の初級文法の習得を目指す。秋学期は、動詞の過去形や未来形などを学習し、フランス語の文章を読むための文法事項の完全理解を図る。

**【到達目標】**

秋学期は、代名動詞、複合過去、半過去、単純未来、条件法など、動詞関係の文法事項を学ぶ。また、関係代名詞なども学習する。最後まできちんと取り組んでいけば、初級文法の主要な項目を習得することができる。学期末テストでは、動詞の活用を中心に、重要事項を確認する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期と同様、文法事項の説明を行い、練習問題に取り組んでもらう。また、適宜、小テストを実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	第12課 過去分詞	過去分詞の作り方について説明する。
第2回	第12課 複合過去	複合過去の作り方と使い方を説明する。
第3回	第13課 直接目的と間接目的の 人称代名詞	直接目的と間接目的の人称代名詞について説明する。
第4回	第14課 複合過去と過去分詞の 一致	過去分詞の性・数一致について説明する。
第5回	第15課 関係代名詞 強調構文	関係代名詞と強調構文について説明する。
第6回	第16課 代名動詞	代名動詞について説明する。
第7回	第17課 単純未来	単純未来の活用と使い方について説明する。
第8回	第17課 中性代名詞	3種類の中性代名詞の使い方について説明する。
第9回	第18課 半過去	半過去の活用と使い方について説明する。
第10回	第19課 受動態 現在分詞 ジェロンディフ	受動態の作り方、現在分詞、ジェロンディフの作り方と使い方について説明する。
第11回	第20課 条件法	条件法の活用と用法について説明する。
第12回	第20課 接続法	接続法の科活用と使い方を説明する。
第13回	補遺1 単純過去など	単純過去について説明する。
第14回	最後のまとめ	文法事項の総復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習よりも復習に重点をおいて、習った文法事項をしっかりと理解して、覚える。予習復習時間は、各2時間を基準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『マ・グラメール』小野ゆり子、村松 y マリ＝エマニュエル著 白水社 2300円

**【参考書】**

仏和辞書（電子辞書も可）

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト（30%）、学期末テスト（70%）の点数を合計し、60点以上を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

秋学期の文法事項が頭に入らない学生が多いようなので、途中で挫折しないよう工夫したいと思う。

**【Outline and objectives】**

Students aim to learn elementary grammar in French in one year. In the fall semester, students will try to understand the grammar necessary to read French sentences.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017年度以降入学者

野村 訓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法 1 年 D

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初めてフランス語を習う学生を対象に、文法との関連で、語彙やさまざまな文型と表現を学習する。始めに、正しく綴り字が読めることと発音できることを指導する。

**【到達目標】**

基本的なコミュニケーションの文型を学び、使ってみる。（書く、話す、など）

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書に沿って、本文の意味の解釈の後、音読を行なう。さらに練習問題を解きながら、語彙や表現の定着を図る。

短い文の書き取り・暗記などの練習もしたい。

遠隔授業の実施に伴い、授業計画については学習支援システムで通知する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	授業の紹介
②	フランス語の音とつづり字	フランス語の音とつづり字
③	フランス語の音とつづり字	フランス語の音とつづり字：続き
④	1 課	自己紹介 名詞の性と数
⑤	1 課	前回の続き
⑥	2 課	いろいろな質問 疑問文の型
⑦	2 課	前回の続き
⑧	3 課	自己紹介 2 動詞 avoir の活用
⑨	3 課	前回の続き
⑩	4 課	ものの名前 所有形容詞
⑪	4 課	前回の続き
⑫	5 課	パリの友だち 第一群規則動詞の活用
⑬	5 課	前回の続き
⑭	まとめと試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新しい課に入る前に、その意味内容を予習し考えてくること。また、練習問題については指示に応じて、自宅で準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『パリ・ボルドー』（朝日出版社）

**【参考書】**

辞書としては『プチ・ロワイヤル』（旺文社）を推薦。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（30%）、試験の成績（70%）により、評価をする。試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。遠隔授業の実施に伴い、成績評価の変更については授業支援システムで通知する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの質問に答えながら、ゆっくと進めたい。

**【Outline and objectives】**

We will study the basic expressions and the vocabulary of french language. French pronunciation is regular according to the spells. At first, we will master this regularity.

LANf100LA

**フランス語 2 II**

2017年度以降入学者

**野村 訓子**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法 1 年 D

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語 2-I につづけて、さらに語彙、文型また表現の学習を進める。文法事項との関連も踏まえるようにしたい。

**【到達目標】**

基本的なコミュニケーションのための文型を知り、使ってみる。（書く、読む、など）

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書に沿って、本文の意味の解釈の後、音読を行なう。さらに練習問題を解きながら、語彙や表現の定着を図る。短い文の書き取り・暗記などの練習もしたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	6 課	医者にかかる 動詞 <b>aller</b> , <b>venir</b> の活用を学ぶ。
②	6 課続き	前回の続き 練習問題をやる。
③	7 課	時刻の表現 近接未来・近接過去
④	7 課続き	前回の続き
⑤	8 課	天候の表現 形容詞・副詞の比較級
⑥	8 課続き	前回の続き
⑦	9 課	喫茶店での注文 複合過去形
⑧	9 課続き	前回の続き
⑨	10 課	休暇の計画 単純未来形
⑩	10 課続き	前回の続き
⑪	11 課	道順の表現。パリの歴史建造物の 固有名詞を 詠む。練習。
⑫	11 課続き	11 課続き。練習問題を扱う。
⑬	12 課	複合過去の第二形に触れる。練習 する。
⑭	試験日	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新しい課に入る前に、その意味内容を予習し考えてくること。また、練習問題については指示に応じて、自宅で準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ココリコ・ココリコ』（駿河台出版社）

**【参考書】**

辞書としては『プチ・ロワイヤル』（旺文社）を推薦。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（30%）、期末試験の成績（70%）により、評価をする。期末試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの質問に答えながら、ゆっくりと進みたい。

**【Outline and objectives】**

We will continue to learn the basical expressions and the vocabulary of french language.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017 年度以降入学者

**ヴァリエンス コリヌ**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

**【到達目標】**

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 点、期末テスト 60 点

**【学生の意見等からの気づき】**

無い

**【Outline and objectives】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

**フランス語 Ⅱ**

2017 年度以降入学者

**ヴァリエンス コリンヌ**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

**【到達目標】**

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 点、期末テスト 60 点

**【学生の意見等からの気づき】**

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

**【Outline and objectives】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017 年度以降入学者

村松 マリ エマニュエル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 T

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」との関連を図る。

**【到達目標】**

DELFL A1 レベルへの早期の到達を目指す。

It is a course to prepare DELFL A1.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

授業開始は 5 月 1 日（金）からです。

教科書を使わず、プリントを配る。会話のモデルの発音の練習した後学生同士で会話を練習する。そして学生の好みに合わせてお用練習をする。

You will not use text book but prints. You will learn small conversation model and practice with other student.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
回 1	挨拶・数 Greeting - Count up to 20	(名前、住所)・20 までの数 Introducing yourself - Count up to 20
回 2	国政・数 Nationality - Count up to 40	文化：フランスの地理 国籍を言う、尋ねる。40 までの数 Asking nationality
回 3	職業・数 Profession - Count up to 60	文化：パリのマップで住所を探す 職業を聞く・大学での専攻を言う Asking profession ~Saying your subject of studies
回 4	電話番号とメールアドレス・数 Phone number and mail address - Count up to 100	文化：フランスの大学システム 電話番号とメールアドレスを言う・100 までの数 Saying and asking a phone number or a mail address
回 5	年齢・日付・数 Age - Date - Count up to one thousand	文化：知って置きたい電話番号（警察、救急など） 年齢、誕生日などを言う・1000 までの数 Saying your age and date of birth
回 6	好みと趣味 Expressing likes	文化：フランスの祭日 好みと趣味を言う Expressing likes, the degree of like
回 7	中間テスト Oral Test	文化：フランスの若者の好きなこと 会話のテスト：当てられたテーマで学生が 2 人で会話をする Conversation between two students

回 8	値段・買い物 Price	値段を尋ねる・簡単な買い物をする <b>Asking a price</b> 文化：フランスのパン屋のパンと菓子パン
回 9	家族について Family	兄弟や両親について話す <b>Talking about your parents and brothers and sisters</b> 文化：フランスのいろんな家族のタイプ
回 10	物の名前 Objects	物の名前と用途を言う <b>Saying the name of objects and their use</b> 文化：フランスでは普通だが日本にはない物
回 11	洋服 Clothes	洋服の名前、サイズ、色を言う <b>Saying the name, the color and the size of the clothes</b> 文化：フランスで知られている日本のブランド
回 12	天気・季節 Weather - Season	天気について話す・四季の名前 <b>Talking about weather and the four seasons</b> 文化：フランスの夏
回 13	旅行の計画 Planning a travel	旅行の計画を立てる：目的地、交通、宿泊 <b>Planning a travel: placem transport and hotel</b> 文化：パリ・プラージュ：夏休みの間だけパリに砂浜が実現
回 14	期末テスト Oral test	会話のテスト：当てられたテーマについて、学生が2人で会話をする <b>Conversation between two students</b>

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト使わず、プリントを配る

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 60%+期末テスト 40%

Average in the class 60%+ Oral test 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

今回初めての担当なので特になし。

Nothing

## 【その他の重要事項】

必要に応じて上記のプログラムを少し変えることがある

## 【Outline and objectives】

It is a conversation class for beginners with a presentation of the french speaking countries life and culture. It is in relation with the class "French 1" (Furansugo 1).

LANf100LA

## フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

村松 マリ エマニュエル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春に続き、初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」との関連を図る。

## 【到達目標】

DELFL A1 レベルへの早期の到達を目指す。It is a course to prepare DELFL A1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書を使わず、プリントを配る。会話のモデルの発音の練習した後学生同士で会話を練習する。そして学生の好みに合わせてお用練習をする。

You will not use text book but prints. You will learn small conversation model and practice with other student.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
回 1	春期の復讐 Revisions	クイズで春期で習ったことを復讐する <b>Quiz to revise the things learned on spring semester</b> フランスの夏休みの写真
回 2	時間 Hours	時間を尋ねる <b>Asking about time</b> 文化：日本とフランスの時差
回 3	日常について Things of every day	日々やることについて話す <b>Talking about things that you do every day</b> 文化：フランスの小学生の1週間
回 4	町の店などの名前 Different place in a town	町のいろんな店や建物の名前を言う・そこで何をするかを言う <b>Saying the name of different places of a town and their purpose</b> 文化：フランスの自動車学校
回 5	人を誘う Inviting somebody	友達を夕飯に誘う <b>Inviting a friend fo dinner</b> 文化：フランス人はよく家に友達を誘う
回 6	食生活 Food	食生活について話す <b>Talking about food</b> 文化：変化していく食生活：有機栽培、ベジタリアン
回 7	中間テスト Oral test	会話のテスト:当てられたテーマで学生が2人で会話をする <b>Conversation between two students</b>

回 8	レストランで In a restaurant	注文・料理についての質問・感想 Ordering in a restaurant 文化：フランスの基本的な食事 前週の週末について話す Telling what you did last weekend 文化：フランスのテレビで前週のニュースを見る
回 9	過去の話 Last weekend	許可を求める・禁止事項を伝える Asking permission - Forbidding something 文化：フランスの社会のルールで禁止されていること
回 10	許可 Permission and prohibition	予定を言う・希望や望みを言う Saying what you intend to do 文化：フランスの若者の将来感
回 11	予定・希望 Intention	旅行先について話す・情報を聞く Talking about a place - Asking for information 文化：パリの観光名所
回 12	旅行 Travel	苦情を言う・困ったことを説明する・謝る Complain, explain a problem, apologize 文化：フランスを旅行するためのアドバイス
回 13	苦情・困難・謝罪 Complain, problem	会話のテスト: 当てられたテーマについて、学生が2人で会話をする Conversation between two students
回 14	期末テスト Oral test	

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキスト使わず、プリントを配る

No textbook, only prints

## 【参考書】

特になし

Nothing

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 60%+期末テスト 40%

Average in the class 60%+ Oral test 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

今回初めての担当なので特になし。

Nothing

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

Nothing

## 【その他の重要事項】

必要に応じて上記のプログラムを少し変えることがある

## 【Outline and objectives】

In continuation of the spring's semester, this class is a conversation class to learn basic french.

LANf100LA

## フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初心者のための会話表現を身につける。あわせてフランス語圏の文化を紹介する。

## 【到達目標】

フランス語技能検定試験（仏検）4～3 級程度の会話表現に必要な知識を習得することが目標である。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

各課の例文を解説しそれを暗記してもらい、つぎに文法事項に必要な規則を解説し、聞き取り問題を行い、フランス語の発音を学ぶ。またフランス文化映像で実際のフランス語にふれ、それに馴染むように指導したい。

\*なお、春学期は4月21日より、学習支援システムにて授業を開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 1	フランス語の音と文字。 フランス文化映像 1.
第2回	Introduction 2	フランス語の発音規則。 フランス文化映像 2.
第3回	第1課	例文暗記。 冠詞、提示表現。 フランス文化映像 3.
第4回	第2課	例文暗記。 主語人称代名詞。直説法現在の être, avoir 動詞の活用。フランス文化映像 4.
第5回	第2課つづき	まとめ聞き取り問題。 形容詞。国名。数詞。 前置詞まとめ 1.
第6回	第3課	例文暗記。 -er 動詞の活用。 フランス文化映像 5.
第7回	第3課つづき	否定文・疑問文の作り方。答え方。前置詞まとめ 2。 まとめ聞き取り問題。 前置詞のまとめ 2.
第8回	第4課	例文暗記。 aller, venir の活用。 近接未来・過去の用法。 フランス文化映像 6.
第9回	第4課つづき	前置詞と冠詞の縮訳形。形容詞の位置と男性第2形をもつ形容詞。 不定代名詞の on。聞き取り問題。 例文暗記。
第10回	第5課	-ir 動詞の活用。 フランス文化映像 7.

第11回 第5課つづき	所有形容詞。 強勢形人称代名詞。 不定代名詞。 まとめ聞き取り問題。
第12回 第6課	部分冠詞。指示形容詞。 フランス文化映像 8。
第13回 第6課つづき	-re 動詞の活用。 使役構文。 まとめ問題。
第14回 期末試験	1～7 課までの総合問題。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

例文をくりかえし暗唱し、書けるようになること。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ディアグラム』（渡辺・須田著、三修社）

**【参考書】**

『フランス語ハンドブック』（白水社）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30%と期末試験 70%で評価する。  
\*春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

This course is for beginners who are learning a basic French conversation, while it will give you a French culture.

LANf100LA

**フランス語 2 II**

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語の初心者のための会話表現を身につける。あわせてフランス語圏の文化を紹介する。

**【到達目標】**

フランス語技能検定試験（仏検）4～3 級程度の会話表現に必要な知識を習得することが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期に続き、7 課以降の例文を解説し、それを暗記してもらう。つぎに文法事項に必要な規則を解説し、聞き取り問題を行い、フランス語の発音を学ぶ。またフランス文化映像で実際のフランス語にふれ、それに馴染むように指導したい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	例文暗記。 疑問形容詞。非人称構文。 フランス文化映像 9。
第 2 回	第 7 課つづき	-re 動詞の直説法現在の活用 1。 月・曜日・季節のフランス語暗記。 補語と属詞。
第 3 回	第 8 課	例文暗記。 =re 動詞の直説法現在の活用 2。 疑問代名詞。 フランス文化映像 10。
第 4 回	第 8 課つづき	疑問代名詞の複合形。 疑問副詞。聞き取り問題練習。 フランス文化映像 11。
第 5 回	第 9 課	-oir 動詞の直説法現在の活用。補語人称代名詞 1。移動手段の表現。指示代名詞。 前置詞のまとめ。
第 6 回	第 10 課	例文暗記。 命令法。補語人称代名詞 2。比較級。 フランス文化映像 12。
第 7 回	第 11 課	例文暗記。 最上級表現。 直説法複合過去と用法。
第 8 回	第 11 課つづき	受動態。 冠詞のイメージ。 フランス文化映像 13。
第 9 回	第 12 課	例文暗記。 直説法半過去形と用法。代名動詞の活用と用法。
第 10 回	第 13 課	例文暗記。 直説法単純未来と用法。中性代名詞と用法。 フランス文化映像 14。

第 11 回 第 14 課	例文暗記. 条件法現在・過去. 関係代名詞と用法. 強調構文.
第 12 回 第 15 課	例文暗記. 接続法と用法. 現在分詞とジェロンディフの用法.
第 13 回 まとめ	7～15 課までのまとめ問題.
第 14 回 期末試験	7～15 課までの筆記試験と聞き取り問題. 試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

例文をくりかえし暗唱して、書けるようになること。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ディアグラム』（渡辺・須田著、三修社）

**【参考書】**

フランス語ハンドブック（白水社）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30 % と期末試験 70 % で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

This course is for beginners who are learning a basic French conversation, while it will give you a French culture.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

**【到達目標】**

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。  
フランス語の文章をみて意味ができるようにする。  
フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

- 1 単語や短文の小テスト（計 10 回）
- 2 初級文法解説
- 3 練習問題  
（辞書は常に携帯すること）

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間授業内容の説明 成績評価の方法 アルファベの発音
2	発音の練習 1	基本的な挨拶
3	発音の練習 2	1 課 提示の表現
4	名詞と冠詞	「やせるって簡単？」
5	主語人称代名詞	2 課 疑問文
6	動詞 vouloir の使い方	「きみやせたいの？」
7	動詞 être	3 課 形容詞
8	性数一致	「きみスマートだよね」
9	er 動詞	4 課 aimer の表現
10	不定冠詞	「きみたくさん食べるほう？」
11	動詞 pouvoir	5 課 動詞の不定法
12	定冠詞	「これは何ですか？」
13	所有形容詞	6 課 目的語代名詞
14	前期のまとめ	会話表現のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

次回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000 円＋税、フランス図書経由）

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 100 点分を 50 % で、200 点満点のうち 60 % = 120 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 S/A+/A-/B+/B-/C+/C-/D で決定する。以下に変更します。↓

遠隔授業の開始により、期末試験が不可能になります。遠隔授業中に練習問題や小テストを課題として出しますから、それに答えてください。その合計点数で成績をつけたいと思います。

**【学生の意見等からの気づき】**

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像を紹介する

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知します。

**【Outline and objectives】**

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANf100LA

**フランス語 2 II**

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

**【到達目標】**

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。  
フランス語の文章をみて意味ができるようにする。  
フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

- 1 単語や短文の小テスト（計 10 回）
- 2 初級文法解説
- 3 練習問題  
(辞書は常に携帯すること)

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	後期ガイダンス	発音の復習 成績評価の方法
2	動詞 <b>faire, aller</b>	7 課 条件を表す
3	動詞 <b>venir, prendre</b>	「バッグの中にチョコ持ってる」
4	<b>avoir+</b> 過去分詞	8 課 複合過去
5	<b>être+</b> 過去分詞	「きみ何してるの?」
6	否定の表現	9 課 半過去
7	複合過去と半過去	「ある日、私はやせる決心をしました」
8	近接未来と単純未来	10 課 未来形
9	現在分詞と過去分詞	この春私はバりにいきました」
10	疑問形容詞	11 課 比較級・最上級
11	関係代名詞	「私はたくさん食べていました」
12	中性代名詞 <b>en, y, le</b>	12 課 条件法
13	疑問副詞・疑問代名詞	「私はいっそう幸せになる」
14	後期のまとめ	時制のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

次回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『フラ語ダイエット』（トレブル出版、2000 円＋税、フランス図書経由）

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 100 点分を 50 %で、200 点満点のうち 60 % = 120 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 S/A+/A-/B+/B-/B-C+/C-/C-/D で決定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像を紹介する

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline and objectives】**

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017 年度以降入学者

野村 訓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 M

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語 2 の授業であるが、担当者間の取り決めにより、文法の授業を行う。初めてフランス語を習う学生を対象に、文法の諸規則を説明する。名詞に性・数があること、動詞が主語の人称に応じて変化することなどを見る。英語に似ている側面も多い。

**【到達目標】**

初歩のフランス語文法を理解し、文法規則を運用できるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

教科書に沿って、文法事項の説明の後、練習問題を解くことで、事項の理解と吸収を図る。予習と復が必要。

遠隔授業の実施に伴い、授業計画については授業支援システム上で通知する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	フランス語についての紹介。今後の授業の進め方について説明をする。
②	フランス語の音とつづり字	フランス語の母音について説明と、音と綴り字の関係について説明、練習を行う。
③	フランス語の音とつづり字	フランス語の子音について説明と、音と綴り字の関係について説明、練習を行う。
④	1 課 名詞の性と数	フランス語の名詞の男性・女性の区別について説明、練習を行う。
⑤	1 課 つづき 不定冠詞と部分冠詞	名詞に先立つ冠詞の中で、不定冠詞と部分冠詞について説明、練習を行う。
⑥	2 課 定冠詞	名詞に先立つ冠詞の中で、定冠詞について説明、練習を行う。
⑦	2 課 つづき - er 動詞の活用	動詞の中で一番数の多い、第一群規則動詞について説明、練習を行う。
⑧	3 課 動詞 avoir の活用	「持つ」という意味を持ち、過去形の助動詞としても用いられる動詞の活用を学び、練習する。
⑨	3 課 つづき 否定形と疑問形	文型の中の、否定形と疑問形について説明し、練習する。
⑩	4 課 動詞 etre の活用	「いる、存在する」という意味を持つ、基本的な動詞の活用を覚え、練習する。
①	4 課 つづき 指示形容詞と所有形容詞	名詞に先立つ、「これ・あれ」という意味の指示形容詞と所有者を示す所有形容詞について説明し、練習する。

- ② 5 課 形容詞の位置 基本的に名詞の後ろに置かれる形容詞、名詞の前に置かれる形容詞について説明、練習する。
- ③ 5 課 つづき 名詞と形容詞の複数形 名詞と形容詞が同時に複数形になる、英語とは異なるフランス語の規則を見て、練習する。
- ④ 予備日 今までのとりまとめ、復習を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語の文法事項が積み重なるように、復習をし、特に動詞の活用は、その都度、暗記をするようにしていただきたい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『パリ・ボルドー』（朝日出版社）

## 【参考書】

辞書として『プチ・ロワヤル』（旺文社）を勧めます。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、期末試験 80%とし評価を行う。  
遠隔授業の実施に伴い、成績評価の基準については授業支援システム上で通知する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、丁寧な説明をこころがけたい。

## 【Outline and objectives】

We will study the basical points of french grammar. The structure of a language is like an architectural straucture. Then do not miss a piece of this structure.

LANf100LA

## フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

野村 訓子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 M

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 2-1 につづけて、フランス語文法の諸規則を習う。動詞による時制の表し方、動詞の目的語になる代名詞類、名詞に文を結びつける関係代名詞などを扱う。

## 【到達目標】

フランス語の文法規則を理解し、運用できるようにする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の説明の後、練習問題を解きつつ、事項の理解と吸収を図る。予習と復習が必要。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	6 課 動詞 aller, venir の活用形	「行く」「来る」という意味を持ち、時制の表示にも関わる動詞の活用を学び、練習する。
②	6 課 つづき 前置詞と定冠詞の縮約、命令形	前置詞と定冠詞の間に生じる、縮約の減少を学び、練習する。命令の文についても学ぶ。
③	7 課 動詞 choisir, prendre の活用形	「選ぶ」「取る」という意味を持つ、動詞の活用を学び、練習する。
④	7 課 つづき 形容詞と副詞の比較級と最上級	「より・・・だ、一番・・・だ」という意味を持つ形容詞と副詞の比較級、最上級について学ぶ。
⑤	8 課 動詞 faire, partir の活用形	「行う」「出発する」という意味を持つ、動詞の活用を学び、練習する。
⑥	8 課 つづき 動詞の目的語となる人称代名詞	「・・・に」「・・・を」という意味の目的語となる代名詞について学び、練習する。
⑦	9 課 動詞 devoir, pouvoir, vouloir の活用形	「するべきだ」「できる」「欲する」という意味で、他の動詞を助けて意味を構成する動詞について学び、練習する。
⑧	9 課 つづき 疑問代名詞と代名動詞	自分自身を指す代名詞を伴う代名動詞、「誰が」「誰を」「何が」「何を」という意味を持つ疑問代名詞について学び、練習する。
⑨	10 課 過去文詞	動詞の過去分詞の作り方を学び練習する。
⑩	10 課 つづき 複合過去形	「・・・した」という完結した過去の事実を示す複合過去について学び、練習する。
①	11 課 半過去形	「・・・していた」という進行中の過去を示す半過去形について学び、練習する。
②	11 課 つづき 代名詞 en, y	名詞を置き換える代名詞の中で、性と数によって変化しない2つの代名詞を学び、練習する。

- ③ 12 課 単純未来形 未来の事柄をしめす動詞の単純未来形について学ぶ。
- ④ 12 課 つづき 非人称構文、強調構文 形式上の主語を持つ非人称構文と、文中の一つの要素を強調する強調構文を学び練習する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

フランス語の文法事項が積み重なるように、よく復習して、特に動詞の活用については、随時、暗記をしていただきたい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『アベセデ フランセ』（白水社）

**【参考書】**

辞書として『ブチ・ロワヤル』（旺文社）を勧めます。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 20%、期末試験 80%とし評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの質問に答えながら、丁寧に説明をしたい。

**【Outline and objectives】**

We will study the basical points of french grammar.The grammar of a language is like an architectural structue. The do not miss a piece of this structure.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

**【到達目標】**

フランス語で挨拶をする、自己紹介するなどの、初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

随時、Hoppii でお知らせするので、そちらをご覧ください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベットなど
2	1 課 会話表現	フランス語で自己紹介をする。国籍を言う。元気がどうかを聞く。
3	1 課 文法	練習問題 数字 1～20
4	2 課 会話表現	フランス語で職業を言う。 住所を言う。
5	2 課 文法	練習問題 数字 21～30
6	3 課 会話表現	フランス語で国籍を言う。 カフェで注文する。
7	3 課 文法	練習問題 数字 31～69
8	4 課 会話表現	フランス語で、年齢を尋ねる、答える。
9	4 課 文法	練習問題 数字 0～69 の復習
10	5 課 会話表現	フランス語で、人物を描写する。 国名を言う。
11	5 課 文法	練習問題 フランス語でインタビュー
12	6 課 会話表現	フランス語で、「これは何ですか」と尋ねる、答える。
13	6 課 文法	練習問題 数字 70～100
14	最後のまとめ	総復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各 2 時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

『カフェ・フランセ』 ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400円

**【参考書】**

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

## 【成績評価の方法と基準】

Hoppii でお知らせするので、そちらをご覧ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

## 【Outline and objectives】

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

LANf100LA

## フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

## 【到達目標】

フランス語で買い物をするときや、友人と話すときなどに使う初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行う。また、フランス語の聞き取り練習も合わせて行っていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7 課 会話表現	フランス語で好き嫌いを言う。
2	7 課 文法	練習問題 Il y a など
3	8 課 会話表現	フランス語で天気を尋ねる、答える。
4	8 課 文法	練習問題 比較級など
5	9 課 会話表現 文法	フランス語でどんなスポーツをするかを言う。 練習問題
6	10 課 会話表現 文法	フランス語で人を誘う、招待する。 練習問題
7	11 課 会話表現 文法	フランス語で時刻を言う。 練習問題
8	12 課 会話表現 文法	フランス語でアルバイトについて話す。 練習問題
9	13 課 会話表現 文法	フランス語で料理を注文する。 練習問題
10	14 課 会話表現	フランス語で過去のことを話す。
11	14 課 文法	練習問題 複合過去
12	15 課 会話表現	フランス語で未来のことを話す。
13	15 課 文法	連数問題 近接未来
14	最後のまとめ	総復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各2時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400円

**【参考書】**

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

**【成績評価の方法と基準】**

随時行う口頭テストの評価（70%）と、平常点（30%）を合わせて100点満点とし、60点以上で合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

**【Outline and objectives】**

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017年度以降入学者

**アガエス ジュリアン**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 A～E

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語による会話と作文・読解、聴解等のスキルを伸ばすこと。授業を通して、フランスやフランコフォニーとその文化を発見してください。

**【到達目標】**

フランス語で表現する練習を通じて、文法・語彙を血肉にすること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

文章と口頭のスキルを練習して、文法と語彙を吸収させます。グループワーク、簡単なプレゼンテーション、ゲーム、リスニング等。During this unusual semester, I will use Zoom (Online classroom). You just need to download the program. I will also send files and homeworks on Google classroom. I will start the meetings on Zoom from today (April 15th)

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する

授業は4月22日（月）に開始します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Initiation 1	Initiation 1	授業の紹介
Initiation 2	Initiation 2	挨拶
Leçon 1	leçon 1	名前、職業、住んでいる所
Leçon 1	Leçon 1	前のレッスンで見た要素の再利用
Leçon 2	Leçon 2	国籍、数字、将来の職業
Leçon 2	Leçon 2	前のレッスンで見た要素の再利用
Leçon 3	Leçon 3	情報を尋ねる、フランコフォニーについて
Leçon 3	Leçon 3	前のレッスンで見た要素の再利用。
Leçon 4	Leçon 4	好みについての話
Leçon 4	Leçon 4	前のレッスンまでに学んだ要素の再利用
Leçon 5	Leçon 5	好きな物事について話す
Leçon 6	Leçon 6	人の身体の説明
Leçon 6	Leçon 6	テストの準備のための復習
Test	試験	最終試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。  
インターネットサイト『フラ語』での自習活動を奨励する。

【テキスト（教科書）】

Spirale nouvelle édition A1  
Gaele Crépieux, Philippe Callens

【参考書】

<https://www.furago.education/>

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 30 %

試験 40 %

『フラ語』のウェブサイトでの活動(最低 2500 ポイント) 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。

【Outline and objectives】

自己紹介、自分の好み、日常生活について話すことができるようになる

LANf100LA

フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

アガエス ジュリアン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語による会話と作文・読解、聴解等のスキルを伸ばすこと。  
授業を通して、フランスやフランコフォニーとその文化を発見して  
ください。

【到達目標】

フランス語で表現する練習を通じて、文法・語彙を血肉にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：  
DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文章と口頭のスキルを練習して、文法と語彙を吸収させます。グ  
ループワーク、簡単なプレゼンテーション、ゲーム、リスニング等。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Révisions	Révisions	復習
leçon 7	leçon 7	大学とその時間割について
leçon 7	leçon 7	50 から 100 までの数字、時間
leçon 8	leçon 8	自分の持ち物、ペット、所有形容詞
leçon 8	leçon 8	否定の練習
leçon 9	leçon 9	場所の前置詞と、関連する表現
leçon 9	leçon 9	場所と前置詞
leçon 10	leçon 10	文化的活動
leçon 10	leçon 10	好きな物事の詳細を伝える
leçon 11	leçon 11	自分の習慣や日常生活について話す
leçon 11	leçon 11	ゲームを用いたこれまでの復習、家族について
leçon 12	leçon 12	家族についての発表
Révisions	復習	テストのための練習
テスト	テスト	最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。  
インターネットサイト『フラ語』での自習活動を奨励する。

【テキスト（教科書）】

Spirale nouvelle édition A1  
Gaele Crépieux, Philippe Callens

【参考書】

<https://www.furago.education/>

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 30 %

試験 40 %

『フラ語』のウェブサイトでの活動(最低 2500 ポイント) 10 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。

## 【Outline and objectives】

自己紹介、自分の好み、日常生活について話すことができるようになる

LANf100LA

## フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 F~R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは外国語としてのフランス語運用能力を養うことを目的としています。とりわけ基礎的なフランス語を「話す力」、「聞く力」をバランスよく、着実に身につけていきます。

## 【到達目標】

まずフランス語の読み方に慣れることから始め、簡単な日常会話での表現、基本動詞を用いた会話のための文章作成を学んでいきます。これにより日常の様々な場面において使用できるフランス語の表現と文章を会話に取り入れていくことが出来るようになります。結果としてフランス語実用検定 5 級合格に必要な表現や語彙の習得が可能になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

演習形式で進めていきます。授業中に学習した表現等を用いて、簡単なフランス語を用いて会話をおこなっていきます。同時にリスニングにも注力していきます。ただ、当分の間は遠隔授業です。授業は 4 月 30 日より開始です。教材は「学習支援システム」にアップしてあります。よろしく願いいたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	フランス語の読みと発音	母音字と子音字の基本的な読み方を学習します
2 回	フランス語の読みと発音	鼻母音と注意する必要がある子音を集中的に学習します
3 回	フランス語の文章の読み	第 1 回、2 回の授業で学習した内容をふまえて、フランス語の文章を正しく読めるようにしていきます
4 回	簡単な表現	ごく簡単な挨拶の表現を学習し、主語人称代名詞を覚えます
5 回	冠詞や前置詞	定冠詞と日常よく用いる前置詞を学習し、会話の中で使っていきます
6 回	基本動詞の一つを学ぶ	<b>Etre</b> 動詞を学び、様々な会話のバリエーションに用いていきます
7 回	疑問文の作り方	3 種類の疑問の形を覚え、簡単な疑問文の作成と答え方を学びます
8 回	疑問副詞と名前を言う表現	場所をたずねる疑問の形と名前を答える表現などを学びます
9 回	2 つの冠詞と否定形	不定冠詞と部分冠詞の用法を学び、これを用いた会話文の作成をします。また否定の形もあわせて学習します。
10 回	基本動詞の使い方	<b>Avoir</b> 動詞を学び、この動詞を用いた様々な表現を用いて会話をします
11 回	否定のバリエーション	様々な否定の表現を学習し、文章を作成してみます

☑回	第1群規則動詞	規則動詞の活用を練習し、会話の中で使えるようにします
13回	指示形容詞	前回の復習で規則動詞を用いた会話の練習と指示形容詞の用法を学習します
14回	前期の振り返りと解説	前期に学習した内容をテストの形式でチェックし、その後、解説をしていきます

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生には毎回復習のための課題が義務付けられます。また予習として指示されたテキストの会話表現の意味等を予め調べておくことも必要となります。準備と復習に各40分が想定されます。

#### 【テキスト（教科書）】

『ヌーヴォー！』（小倉博史、朝日出版社）

#### 【参考書】

とくに指定はしません

#### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70%）、小テスト（30%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

#### 【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

## フランス語2Ⅱ

2017年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：1単位

営1年F~R

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは引き続き初歩のフランス語の「話す力」と「聞く力」をつけていきます。フランス語2Ⅱで身につけた表現、語彙そして文法事項をもとに一段高いレベルの語学運用能力を獲得していきます。

#### 【到達目標】

学生はこのクラスを履修することで、フランス語2Ⅱに引き続いてフランスでの日常会話に必要な表現や語句を覚えてき、様々な生活場面でフランス語での表現が出来るようになります。結果として実用フランス語検定4級合格に必要なフランス語の語彙力と表現力を手に入れることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進めていきます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	所有形容詞と場所の前置詞	所有形容詞の用法を学び、それを会話の中で使っていきます。また場所の前置詞も覚えます。
2回	品質形容詞と疑問形容詞	形容詞の基本的な使い方と疑問形容詞の用法を学び、会話の中で使ってみます。
3回	年齢の表現、数詞と命令形	年齢を訪ねる表現と数の表現を学び、実際に会をしてみます。また命令形の用法も学習します。
4回	時間や天気表現	時間をたずね、それに答える表現を学びます。
5回	形容詞と副詞の比較級、最上級	比較級と最上級の用法を学び、会話の中で文章を作成していきます
6回	単純未来と近接未来	2つの未来形の形を学習し、実際に会話で使ってみます。
7回	疑問代名詞	「ひと」と「もの」をたずねる疑問代名詞を学び、質問に的確に答えられるようにします。
8回	複合過去形（1）と近接過去	2つの過去形の形と用法を学びます。そして実際に会話のなかで使ってみます。
9回	複合過去形（2）	前回は引き続き複合過去形を学習し、会話での使用を更に進めていきます。
10回	曜日、月、四季の表現	7曜日、12カ月そして四季の言い方を学び、正しく発音できると同時に書けるようにする。
11回	直説法半過去	半過去の用法を学び、複合過去との使い分けを意識しながら、会話の中で表現してみる。
12回	条件法現在	主として会話で用いる「丁寧な表現」としての条件法を学び、会話の中で使ってみる。

- 13 回 不規則動詞 代表的な不規則動詞の活用を覚え、会話の中で使ってみる。
- 14 回 振り返りと解説 学期末テスト実施し、その後解説する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回知識の定着のために復習課題を出します。記述式のものもあります。また同時に学生はテキストより指示された文法事項及び表現に関して予習をおこなう必要があります。予習と復習を合わせて 90 分程度になります。

**【テキスト（教科書）】**

フランス語 2 I のテキストを継続使用します。

**【参考書】**

とくに指定はしません。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト（70%）と小テスト（30%）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline and objectives】**

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

**フランス語 2 I**

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

最初歩のフランス語会話の習得を目指します。

**【到達目標】**

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書いて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでそのつど提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、具体的なオンライン授業の方法などは「第一回」授業の資料に記載します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、フランス語の挨拶。	授業の進め方と成績のつけ方。フランス語の挨拶。
②	Initiation 1	挨拶。
③	Initiation 2	挨拶。国籍、職業を聞く。
④	Leçon 1	名前、職業、住所を聞く。自分の仕事を言う。
⑤	Leçon 1	人について質問する。
⑥	Leçon 2	職業を聞く。
⑦	Leçon 2	何語を話すか聞く。
⑧	Leçon 3	人について聞く。もの、ことを言う。
⑨	Leçon 3	何語を話すか言う。
⑩	Leçon 4	好きなものを言う。
⑪	Leçon 4	どちらが好きか言う。
⑫	Leçon 5	好きなことを言う。
⑬	Leçon 5	したいことを言う。
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『Spirale（新スパラル）』、クレピュー、カランス著、アシェット・ジャボン

**【参考書】**

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、「第一回」授業の資料に記載します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ペアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

**【その他の重要事項】**

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

**【Outline and objectives】**

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

**フランス語 2 II**

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基礎的なフランス語会話力の習得を目指します。

**【到達目標】**

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用・変化させながら、基礎的なフランス語会話力の習得を目指します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	Leçon 6	好みを説明する
②	Leçon 6	人を描写する
③	Leçon 7	自分について、科目について話す
④	Leçon 7	時間割を言う
⑤	Leçon 8	持っているものを言う
⑥	Leçon 8	ものを借りる
⑦	Leçon 9	場所を説明する、聞く
⑧	Leçon 9	場所について聞く
⑨	Leçon 10	何をするか聞く、答える
⑩	Leçon 10	詳しく聞く
⑪	Leçon 11	趣味について言う
⑫	Leçon 11	習慣を言う、頻度を言う
⑬	Leçon 12	家族のことを言う
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『Spirale（新スパラル）』、クレピュー、カラン著、アシェット・ジャポン

**【参考書】**

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（50%）と平常点（50%）で総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ペアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

**【その他の重要事項】**

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

## 【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

## フランス語(1) I

2017年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項のサポートをおこないながら、授業を進めていきます。

## 【到達目標】

フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。また、同時にパートナーを組んでいるフランス人の先生の文法事項についても解説します。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。(4月22日から始めます)

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第2回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第3回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第4回	L2 演習	L2の練習問題
第5回	L3 動詞1	動詞の活用
第6回	L3 演習	L3の練習問題
第7回	L4 動詞2	2つの規則動詞
第8回	L4 演習	L4の練習問題
第9回	L5 不規則動詞	ALLER VENIR
第10回	L5 演習	L5 練習問題
第11回	L6 形容詞	指示形容詞 所有形容詞
第12回	L6 演習	練習問題
第13回	L7 代名詞	疑問代名詞 関係代名詞
第14回	テスト	テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）  
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

## 【参考書】

授業で説明します。  
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % 平常点 20 %

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline and objectives】  
To learn the Elementary grammar of French

LANf100LA

フランス語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ひきつづきコンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項を説明しながら、フランス語の初級文法を教えます。

【到達目標】

フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項について解説を行いながら、体系的に文法を解説して行きます。

まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	L8 人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第2回	L8 演習	L8 練習問題
第3回	L9 複合過去	複合過去について
第4回	L9 演習	練習問題
第5回	L10 代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第6回	L10 演習	練習問題
第7回	L11 未来形	単純未来
第8回	L11 演習	練習問題
第9回	L12 過去形	半過去・大過去
第10回	L12 演習	練習問題
第11回	L13 条件法	条件法
第12回	L13 演習	練習問題
第13回	L14 接続法	接続法
第14回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）  
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。  
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 80% 平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】  
To learn the Elementary grammar of French

LANf100LA

## フランス語(2) I

2017年度以降入学者

## ヴァリエンス コリヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

## 【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介するDVDや字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLEN+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

## 【学生の意見等からの気づき】

無い

**【Outline and objectives】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

**フランス語(2) II**

2017年度以降入学者

**ヴァリエンス コリンヌ**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

**【到達目標】**

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

**【授業の進め方と方法】**

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介するDVDや字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLEN+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 点、期末テスト 60 点

**【学生の意見等からの気づき】**

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

## 【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

## フランス語 1

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目です。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を学ぶ。

## 【到達目標】

SA アンジェに備え、春semester終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5級合格、秋semester終了時には4級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期初回授業日：4月22日。

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティブ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をする。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】 2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 1	-アルファベット -主語人称代名詞 -s'appeler（名前を言う）
2	Leçon 1	-動詞 être -qui を用いた疑問文
3	Leçon 2	-定冠詞と不定冠詞
4	Leçon 2	-形容詞の男性形/女性形 -前置詞
5	Leçon 3	-動詞 aller -所有形容詞 -疑問詞 quel(1)
6	Leçon 5	-定冠詞/不定冠詞のまとめ -Il y a -Qu'est-ce que~の使い方
7	Leçon 6	-人称代名詞強勢形 -動詞 avoir -否定文 -名詞と形容詞の性・数一致
8	Leçon 7	-疑問形容詞 quel(2) -comment と combien を用いた疑問文 -指示形容詞
9	Leçon 9	-様々な前置詞表現 -où を用いた疑問文
10	Leçon 10	-命令法 -前置詞と冠詞の縮約
11	Leçon 10	-動詞 prendre -中性代名詞 y
12	Leçon 11	-方角 -主語人称代名詞 on
13	期末テスト	筆記試験
14	まとめ	-期末テストの返却・答え合わせ -補足

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習として、付属の CD をよく聞き、声に出して読んで下さい。復習を必ず行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- 1 『Le Nouveau Taxi! 1』(Hachette)
- 2 『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社)

**【参考書】**

授業内で適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、「フランス語 2」「フランス語 5」と擦り合わせて学習支援システムで受講者に通知します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline and objectives】**

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

**フランス語 3**

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目です。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を学ぶ。

**【到達目標】**

SA アンジェに備え、春semester 終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5 級合格、秋semester 終了時には 4 級合格に相当する語学力の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティブ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をします。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】 2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Leçon 13	-時間の言い方 -動詞 partir
2	Leçon 14	-動詞 faire - est-ce que を用いた疑問文 - 職業を表す名詞の性・数
3	Leçon 15	-動詞 lire, écrire
4	Leçon 15	-代名動詞
5	Leçon 17	-faire + 部分冠詞 + スポーツ -部分冠詞
6	Leçon 18	-動詞 boire, acheter -形容詞 beau の女性形・複数形
7	Leçon 19	-複合過去 (1) -複合過去 (2) -前置詞 pour, dans を用いた時間の表現
8	まとめ・復習	複合過去
9	Leçon 21	-動詞 pouvoir -否定命令形
10	Leçon 21	-命令形における補語人称代名詞の位置
11	Leçon 22	-動詞 vouloir, savoir -非人称表現 Il faut～ -近接未来
12	Leçon 23	-動詞 connaître -補語人称代名詞
13	期末テスト	筆記試験
14	まとめ	-期末テストの返却・答え合わせ -補足

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習として、付属の CD をよく聞き、声に出して読んで下さい。復習を必ず行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

- 1 『Le Nouveau Taxi! 1』 (Hachette)
- 2 『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』 (白水社)

## 【参考書】

授業内で適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

## フランス語2

2017 年度以降入学者

## 鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1（日本人教員）、フランス語 5（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、フランス語の初歩～中級を学びます。表現としては自己紹介、人やものの描写、道順の尋ね方など、文法としては、人称代名詞、文法上の性、現在時制の動詞の活用などを学びます。通じる発音を身に付ける訓練もします。

## 【到達目標】

SA に行って現地で生活し、学校で学ぶのに必要な知識と技能を身に付けることを目標とします。上記の事柄に関して、聞いてわかる、話す、読む、書くことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

下記の教科書① (Nouveau Taxi) を 3 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。この教科書を SA 出発までの 1 年半（3つのセメスター）で終わらせます。

私はさらに下記の教科書②を補助に用いて、特に文法を中心に担当します。この教科書により、初級、さらに中級の文法を、豊富な実例とともに体系的に学ぶことができます。

発音や聞き取りの訓練や模擬会話も頻繁に行います。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムでお知らせします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation・Unité 1 L0	授業の紹介 導入 知っている単語はどれかな 数詞 アルファベット
2	Unité 1 L1 : ようこそ	自己紹介/ 人称代名詞、規則動詞の現在時制、 基本動詞 être、
3	Unité 1 L2 : 誰ですか	誰ですか 男性名詞と女性名詞、不規則動詞
4	Unité 1 L3 : 元気？	不定冠詞、疑問詞
5	Unité 1 L4 : メル友募集	Eメールの表現
6	まとめ	進度による調整と小テスト
7	Unité 2 L5 : どこにありますか	定冠詞、基本動詞 être
8	Unité 2 L6 : 面通し	人の描写/ 基本動詞 avoir、否定文
9	Unité 2 L7 : 買い物	疑問詞、指示形容詞

10	<b>Unité 2 L8 :</b> 芸術家たち	エディット・ピアフの伝記映画
11	<b>Unité 3 L9 :</b> アパートを借りる	位置の表現／前置詞
12	<b>Unité 3 L10 :</b> ルーヴルに行くには	道順の説明／ 命令法、不規則動詞、縮約形
13	授業内試験 <b>Unité 3 L11 :</b> よい旅行を！	授業内試験 レユニオン島
14	試験の復習 <b>Unité 3 L11 :</b>	試験の復習 それは～だ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、予習・復習を欠かさないようにしてください。  
自己紹介の仕方、道の尋ねかた、教え方などの表現は、声を出して演じましょう。

特に新しい動詞を習ったときには、(7回、8回、12回など)必ず活用を覚えてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。  
フランスに関する情報に常に注意を払うようにしましょう。

**【テキスト（教科書）】**

① **Guy Capelle & Robert Menand, Le nouveau taxi 1, Hachette**『新装版タクシー!』の第1レベル(初級)を用います。世界中のフランス語学習者のために作られたコミュニケーション重視の教科書です。全部で9つの単位からなり、それぞれが4つの課から成り立ちます。見開きのページからなる1つの課には対話文、文法や表現のまとめ、聞き取り、文法、発話の練習問題が含まれます。また4課ごとつまりひとつの単位の終わりには総復習の問題があります。3人の教員の授業の共通教科書です。

②『初級フランス語文法(三訂版)』、著者：天羽均 他、朝日出版社。

初級とありますが、中級以上にも使える詳しい教科書です。発音に関して詳しい説明が載っています。①の教科書を補って、文法を体系的に学び、時に振り返って調べなおすために用います。

**【参考書】**

鈴木豊、久富健 「かんたんフランス文法小辞典」朝日出版社  
久松健一 『でる順仏検単語集』(5級～2級準備レベル)駿河台出版社  
辞書：初級『クラウン仏和辞典』三省堂/『ディコ仏和辞典』白水社/『ロペール・クレ』駿河台出版社  
中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社

**【成績評価の方法と基準】**

小テストや参加状況による平常点(25%)、期末試験成績(75%)を総合して評価します。

日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して付録のDVDを見る、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

授業中に発音練習で声を出す、会話練習で積極的に発話することが大切です。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やや進みが遅いのではないかとのご指摘をいただきました。  
飛ばしすぎは困りますが、無駄のない効率的な授業を心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course introduces students who are to participate in the SA France programme to the basic and intermediate level of the French language. It is relayed by other two teachers. The students learn how to introduce themselves, how to describe persons or things, how to ask ways, etc. They learn also the grammar : pronominal nouns, grammatical genders, verbes in the present indicative, etc. They train themselves to make themselves understood in oral communications.

LANf100LA

**フランス語 4**

2017年度以降入学者

**鈴木 正道**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1単位

国1年 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語3(日本人教員)、フランス語6(外国人教員)と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、引き続きフランス語の初歩～中級を学びます。表現としては、注文や依頼、要求など、文法としては不規則動詞、代名動詞、近接未来、過去時制などを学びます。

**【到達目標】**

SAでの成果をあげるために必要な知識と技量をさらに増やすことを目標とします。駅やレストラン、大学など、日常での様々な場面に対応できるようにします。

フランス語検定試験4級もしくは3級、ヨーロッパ共通参照枠A1レベルの技能を身に付けることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

引き続き教科書(下記の**Nouveau Taxi**)を3人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。

私は特に文法を中心に担当します。3人の教員が使う教科書の文法の進度はやや遅いので、過去など一部の項目に関しては補助の教科書を用いてやや先取りして行う予定です。発音や聞き取りの訓練や模擬会話も頻繁に行います。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	<b>Orientation :</b>	授業の紹介・春学期の総合まとめ
2	<b>Unité 3 L12 :</b> これまでの復習	マルセイユ界限
3	<b>Unité 4 L13 :</b> 駅の窓口で	疑問詞、不規則動詞
4	<b>Unité 4 L14 :</b> 日常生活を説明する	不規則動詞、行為者を表す名詞
5	<b>Unité 4 L15 :</b> 週末の過ごし方を説明する	不規則動詞、代名動詞
6	<b>Unité 4 L16 :</b> ロール・マノドゥって知ってますか。	有名人に関する文章を読む
7	まとめ 実用の知識	不規則動詞、代名動詞
8	<b>Unité 5 L17 :</b> クレープを作る	要求、飲食の習慣、量の表現/ 部分冠詞
9	<b>Unité 5 L18 :</b> 昨日何をしたの?	過去の出来事、意見/ 複合過去(助動詞 avoir)
10	<b>Unité 5 L19 :</b> 手紙	過去について話す、期間/ 複合過去(助動詞 être)
11	<b>Unité 5 L20 :</b> 行事	お祭りについて説明する
12	<b>Unité 6 L21 :</b> 機内で/ホテルで	許可-禁止/ 否定命令、命令法と人称代名詞

13	授業内試験 Unité 6 L22 : 求人	授業内試験 非人称、近接未来
14	試験の復習 Unité 6 L23 :	試験の復習 提案/ 目的語としての人称代名詞

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回予習・復習を欠かさないようにしてください。  
駅での切符の買い方、提案の仕方など、声に出して演じましょう。  
特に新しい動詞を学んだあとでは（3回、4回、5回、7回、9回、10回）必ず活用を覚えてください。  
また参考書にあげた『ホームステイのフランス語』でホームステイで役に立つ表現を覚えてください。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

春学期の教科書を引き続き使います。

- ① Guy Capelle & Robert Menand, *Le nouveau taxi 1*, Hachette  
② 『初級フランス語文法（三訂版）』、著者：天羽均 他、朝日出版社。

**【参考書】**

鈴木豊、久富健 『かんたんフランス文法小辞典』朝日出版社  
阿南婦美代 『ホームステイのフランス語』白水社

**【成績評価の方法と基準】**

小テストや参加状況による平常点（25%）、期末試験成績（75%）を総合し評価します。  
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して付録のDVDを見る、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。  
授業中に発音練習で声を出す、会話練習で積極的に発話することが大切です。

**【学生の意見等からの気づき】**

やや進みが遅いのではないかとのご指摘をいただきました。  
飛ばしすぎは困りますが、無駄のない効率的な授業を心がけます。

**【Outline and objectives】**

This course introduces students who are to participate in the SA France programme to the basic and intermediate level of the French language. It is relayed by other two teachers.  
The students learn how to command dishes or drinks, how to ask or demand something of someone else, etc. They learn also the grammar :irregular verbes, pronominal verbes, near future, past tenses, etc.

LANf100LA

**フランス語5**

2017年度以降入学者

**ジョルディ・フィリップ**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2  
単位数：1 単位  
国 1 年 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語 1,2 で学んだフランス語を実践的に応用します。

**【到達目標】**

コミュニケーション・スキルズを中心に授業を進めます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業開始日：2020年4月21日（火）  
フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。発音練習・会話練習を毎回LL教室で行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 L0	授業の紹介
②	Unité 1 L1	紹介・自己紹介
③	Unité 1 L2	誰ですか
④	Unité 1 L3	お元気ですか
⑤	Unité 1 L4	メールのペンフレンド
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 2 L5	どこにありますか
⑧	Unité 2 L6	人の描写
⑨	Unité 2 L7	買い物
⑩	Unité 2 L8	芸術家たち
⑪	Unité 3 L9	アパートを借りる
⑫	Unité 3 L10	道順の説明
⑬	Unité 3 L11	よい旅行を！
⑭	まとめ	復習 最終テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）。本授業の準備・復習時間は、2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

**【参考書】**

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。  
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

発音や語彙についての練習をさらに強化します。

**【学生が準備すべき機器他】**

LL 教室ですが、録音機の持ち込みは構いません。

**【none】**

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

## 【Outline and objectives】

French for beginners (1st part). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

LANf100LA

## フランス語 6

2017 年度以降入学者

## ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 5 の続きですが、口頭表現と発音を重視した授業です。

## 【到達目標】

来年の留学先（SA フランス）を考慮しながら、フランス語基礎能力をのばすことを目的としています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。勿論、予習・復習を必要とします。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	春学期の総合まとめ
②	Unité 3 L12	マルセイユ
③	Unité 4 L13	駅の窓口に
④	Unité 4 L14	スケジュール
⑤	Unité 4 L15	日常の行動、スポーツ
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 4 L16	ロール・マノデュウ
⑧	Unité 5 L17	要求、飲食の習慣、量
⑨	Unité 5 L18	過去の出来事、意見
⑩	Unité 5 L19	過去について話す、期間
⑪	Unité 5 L20	行事
⑫	Unité 6 L21	許可-禁止
⑬	Unité 6 L22	求人
⑭	Unité 6 L23	提案
	まとめ	最終テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）。本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

## 【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

## 【成績評価の方法と基準】

出席率と授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。中間テスト + 期末試験 = 60%、平常点（宿題、参加度）= 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

発音や語彙についての練習をさらに強化します。

## 【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、録音機の持ち込みは構いません。

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

## 【Outline and objectives】

French for beginners (2nd part). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

LANf100LA

## フランス語 1

2017 年度以降入学者

## 廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業開始日は、4月24日（金）となります。】

本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけ確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りと行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

## 【到達目標】

本授業は秋学期の「フランス語 3」に繋がる授業です。

一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようにします。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 2」（フランス人教員担当）と連携して授業を進めることになります。本授業「フランス語 1」では文法に重点を置くのに対して、「フランス語 2」は発話に重点を置きます。本授業では時に「フランス語圏（＝フランコフォニー）」に関する映像・音声等を見聞きする場合があります。

毎回の授業では、教科書を中心にして進めますが、特に文法事項に関しては配布資料などで教科書を補足します。また、教科書や配布資料の文法事項については、学生自ら「文法ノート」として纏めてもらい、学期末に提出してもらいます。

教科書や配布資料の練習問題は授業内で解答できない部分もあるため、宿題として課すことになります。さらに、学期途中に小テストを課すことがあります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Phonétique Initiation 1	・挨拶／自己紹介等 ・母音と子音 ・数字／強勢形
2	Vocabulaire de la classe Initiation 2	・教室で使うフランス語／挨拶／ 職業・国籍について尋ねる／名前の綴りを言う等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞 ／男性形と女性形

3	Unité 1 Leçon 1	・名前・職業・住んでいる所について尋ねる／自分の仕事を話す等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
4	Unité 1 Leçon 1	・人について質問する等 ・基礎動詞の現在形／肯定形、否定形、疑問形
5	Unité 1 Leçon 2	・職業を尋ねる／やりたい職業を言う等 ・所有形容詞／名詞と形容詞の性数一致
6	Unité 1 Leçon 2	・何語を話すか言う（1）等 ・動詞 <i>vouloir</i> の条件法／国籍と言語
7	Unité 1 Leçon 3	・人について尋ねる／もの・ことを示す等 ・動詞 <i>connaître</i> の現在形単数／性数一致／前置詞＋国名 ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）／したいことについて話す等
8	Unité 1 Leçon 3	・何語を話すか言う（2）等 ・人称代名詞と <i>on</i> ／観光名所の前に付く定冠詞
9	Unité 2 Leçon 4	・好きなものを言う／好き嫌いの程度（物）等 ・動詞 <i>aimer, préférer</i> の現在形単数／定冠詞
10	Unité 2 Leçon 4	・どちらが好きか言う等
11	Unité 2 Leçon 5	・副詞の位置／否定形／ <i>il y a...</i> ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）等
12	Unité 2 Leçon 5	・ER 動詞の現在形のすべて ・したいことについて話す等 ・動詞 <i>aimer</i> ＋動詞の不定詞／動詞 <i>vouloir</i> の条件法
13	Unité 2 Leçon 6	・好みを説明する／どちらが好きか理由を述べる等 ・形容詞の男性形、女性形／比較級の基礎／ <i>trouver ça</i> 形容詞 ・人を描写する等 ・理由の表現／ <i>C'est</i> ＋形容詞の男性形
14	期末試験	試験・まとめと解説

**【成績評価の方法と基準】**

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。

評価配分は、以下の通り

- ①平常点：30%（宿題および文法ノートの提出、小テスト、授業への参加度など）
- ②期末試験：70%

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・学生の理解度を確認しながら、説明と練習のバランスや進捗を調整する。
- ・説明が冗長にならないように気を付けながら、ただし確りと教える。
- ・説明を聞き取りやすい声で行う。

**【Outline and objectives】**

This course aims to introduce French language to first-year students of the Faculty of Intercultural Communication (without SA France). In addition to basic learning of French language and cultures, we will enhance global understanding of the French speaking world by listening to (or seeing) audio-visual materials.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・教科書・配布資料の文章は、確りと読み込むこと。
  - ・教科書・配布資料の問題は、必ず予習・復習しておくこと。
  - ・意味や発音の分からない単語などは、必ず辞書で調べておくこと。
  - ・教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

・『Spirale: nouvelle édition』, Gaël Crépieux et Philippe Callens 他著, Hachette, 2015年。  
（\*購入の際には「新版」であることに注意してください。）

**【参考書】**

お奨め参考書

- ①文法全般：『ケータイ「万能」フランス語文法』, 久松健一著, 駿河台出版社, 2000年；『増補改訂版 新リュミエール』, 森本英夫他著, 駿河台出版社, 2013年。
- ②動詞活用：『フランス語動詞60』, 久保田剛史他著, 朝日出版社, 2015年。
- ③仏和辞典：（初級～）『ディコ仏和辞典』, 白水社；（中級～）『ロワイヤル仏和中辞典』, 旺文社；『ロベール・クレ 仏和辞典』, 駿河台出版社。

LANf100LA

## フランス語 3

2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけ確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りで行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

## 【到達目標】

本授業は春学期の「フランス語 1」を引き継いだ授業です。

一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになりま。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようにします。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 4」（フランス人教員担当）と連携して授業を進めることとなります。本授業「フランス語 3」では文法に重点を置くのに対して、「フランス語 4」は発話に重点を置きます。本授業では時に「フランス語圏（＝フランコフォニー）」に関する映像・音声等を見聞きする場合があります。

毎回の授業では、教科書を中心にして進めますが、特に文法事項に関しては配布資料などで教科書を補足します。また、教科書や配布資料の文法事項については、学生自ら「文法ノート」として纏めてもらい、学期末に提出してもらいます。

教科書や配布資料の練習問題は授業内で解答できない部分もあるため、宿題として課すこととなります。さらに、学期途中に小テストを課すことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 春学期の復習	・自己紹介／他者紹介／国籍と職業／好き嫌い等 ・基礎動詞の活用／名詞と形容詞の性数一致
2	Unité 3 Leçon 7	・自分について話す（年齢）／科目について話す等 ・動詞 avoir の現在形／序数
3	Unité 3 Leçon 7	・時間の使い方、時間割について話す等 ・疑問形容詞 quel / 曜日

4	Unité 3 Leçon 8	・持ち物について話す／所有を表す等 ・不定冠詞／人称代名詞の強勢形
5	Unité 3 Leçon 8	・物を借りる等
6	Unité 3 Leçon 9	・否定形 n'...pas de / 所有形容詞 ・場所について説明する／場所について情報を求める等 ・C'est, Ce sont + 名詞 / 不定冠詞から定冠詞へ / 動詞 savoir
7	Unité 3 Leçon 9	・ある場所について尋ねる等
8	Unité 4 Leçon 10	・il y a / 命令法 / 縮約 ・何をするか尋ねる、答える / 何をするか尋ねる等 ・不規則動詞の活用 / Qu'est-ce que...comme...? / 否定形
9	Unité 4 Leçon 10	・詳しく訊く等 ・指示形容詞 / 特徴を言い、正確に伝える表現
10	Unité 4 Leçon 11	・趣味、余暇について話す / 頻度を示す等 ・faire de, jouer de / 否定形（復習） / jouer à
11	Unité 4 Leçon 11	・習慣について話す等 ・中性代名詞 en / 頻度を示す副詞 / 形容詞 autre
12	Unité 4 Leçon 12	・家族について話す / 過去の出来事について語る等 ・所有形容詞 / 動詞 être の現在形 / avoir を用いる複合過去 / 過去分詞の作り方
13	Unité 4 Leçon 12	・過去の出来事について語る等 ・avoir と être を用いる複合過去 / 過去分詞の作り方 / 複合過去の否定形 ・過去の出来事について語る等 ・avoir と être を用いる複合過去 / 複合過去の疑問形
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書・配布資料の文章は、確りと読み込むこと。  
・教科書・配布資料の問題は、必ず予習・復習しておくこと。  
・意味や発音の分からない単語などは、必ず辞書で調べておくこと。  
・教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・『Spirale: nouvelle édition』, Gaël Crépieux et Philippe Callens 他著, Hachette, 2015 年。  
（\*購入の際には、「新版」であることに注意してください。）

## 【参考書】

お奨め参考書

- ①文法全般：『ケータイ「万能」フランス語文法』, 久松健一著, 駿河台出版社, 2000 年；『増補改訂版 新リュミエール』, 森本英夫他著, 駿河台出版社, 2013 年。
- ②動詞活用：『フランス語動詞 60』, 久保田剛史他著, 朝日出版社, 2015 年。
- ③仏和辞典：（初級～）『ディコ仏和辞典』, 白水社；（中級～）『ロワイヤル仏和中辞典』, 旺文社；『ロベール・クレ 仏和辞典』, 駿河台出版社。

## 【成績評価の方法と基準】

評価配分は、以下の通り

- ①平常点：30 %（宿題および文法ノートの提出、小テスト、授業への参加度など）
- ②期末試験：70 %

## 【学生の意見等からの気づき】

・学生の理解度を確認しながら、説明と練習のバランスや進度を調整する。  
・説明が冗長にならないように気を付けながら、ただし確りと教える。  
・説明を聞き取りやすい声で行う。

## 【Outline and objectives】

This course aims to introduce French language to first-year students of the Faculty of Intercultural Communication (without SA France). In addition to basic learning of French language and cultures, we will enhance global understanding of the French speaking world by listening to (or seeing) audio-visual materials.

LANf100LA

## フランス語2

2017年度以降入学者

## カレンス・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者レベルでフランス語を学ぶ授業です。実践で使えることを目的として日常生活のフランス語の能力を高める。

## 【到達目標】

日本人教師とフランス人教師が行う授業です。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに、フランスの文化、習慣などをコラムや資料を使って楽しく伝え、理解力を深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テーマに即した会話を聞き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。さらに、フランスの文化、習慣などをコラムや資料を使って楽しく伝え、理解力を深める。

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する。"Hoppii が不調のときは Google Classroom を使います。クラスコードは zndfvoyn".

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Initiation 1	授業の紹介 挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す
4	Leçon 1	ある人について質問する
5	Leçon 2	職業をたずねる やりたい職業を言う
6	Leçon 2	国籍をたずねる 何語を話すのか言う
7	Leçon 3	ある人についてたずねる 何かを示す
8	Test Leçon 3	中間テスト 何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちらが好きかを言う
11	Leçon 5	なにをするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	Test	テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Spirale  
Gael Crépieux / Philippe Callens  
Hachette

## 【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点: 10% 積極性: 20% 中間テスト・期末試験: 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

予習と復習は大事です。フランス語を使えるという意識をもってください。

そうすれば、進歩が速いはず。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn basic knowledge which are necessary to communicate in French in various situations.

LANf100LA

## フランス語 4

2017 年度以降入学者

## カレンス・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者レベルでフランス語を学ぶ授業です。

実践で使えることを目的として日常生活のフランス語の能力を高める。

## 【到達目標】

要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テーマに即した会話のパターンを聞き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。さらに、フランスの文化、習慣などをコラムや資料を使って楽しく伝え、理解力を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す
3	Leçon 7	時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	詳しくきく
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	Test	テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Spirale  
Gael Crépieux / Philippe Callens  
Hachette

## 【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点: 10% 積極性: 20%

中間テスト・期末試験: 70 %

**【学生の意見等からの気づき】**

予習と復習は大事です。フランス語を使えるという意識をもってください。

そうすれば、進歩が速いはず。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn basic knowledge which are necessary to communicate in French in various situations.

LANf100LA

**フランス語 1**

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語の基本的な会話と文法を学ぶ授業です。

**【到達目標】**

簡単なフランス語を聞きとり、話すことができ、書いて読めるようになること。DELF 試験の A 1 レベルに対応しています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

日本人教師の「フランス語 1」とフランス人教師の「フランス語 2」は、同じ教科書を使って交互に授業を行います。合計 3～4 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。会話練習や聞き取りは、オンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる練習をします。練習問題 *Écrivez* の部分などは Hoppii 上に提出してもらいます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回目	Initiation 1	あいさつ、名前、数字 0~5 つと自己紹介
2 回目	Initiation 2	自己紹介 国籍・身分・名前のつづり、数字 6~10
3 回目	Leçon 1	自分について 動詞 <i>s'appeler, faire, habiter</i>
4 回目	Leçon 1	第三者について話す 否定形、疑問形
5 回目	Leçon 2	職業・国籍 国籍、男性形・女性形をたずねる
6 回目	Leçon 2	話せる言語 前置詞 + 国名 (1)
7 回目	Leçon 3	知らないと言 動詞 <i>connaître</i> 、形容詞の一致
8 回目	Leçon 3	話せる言語 主語 <i>on</i> 、定冠詞 (2)
9 回目	Leçon 4	好きなものを言う 動詞 <i>aimer/ préférer</i>
10 回目	Leçon 4	程度の表現 副詞の位置、 <i>il y a</i>
11 回目	Leçon 5	何を好むかの表現 動詞 <i>aimer</i> + 不定詞 が好きな言う
12 回目	Leçon 5	したいこと 動詞 <i>vouloir</i> の条件法について話す
13 回目	Leçon 6	好みを説明する 形容詞の男性形・女性形
14 回目	Leçon 6	好きな理由を述べる 動詞 <i>trouver, parce que</i>

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。モデル文と同じような受け答えができるように次の回に備えて練習しておきましょう。

**【テキスト（教科書）】**

『Spirale』 Gaël Crépieux、Philippe Callens 著 (Hachette)

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の発言・課題の提出で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランス語をどのくらい使っているか、授業をするかは、クラスの状況を見て判断します。

## 【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書と、動詞の変化表があると便利です。

## 【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997年4月1日～2000年3月31日 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019年4月1日～ フランス語科の高2文法・高3作文と受験文法を担当）

## 【Outline and objectives】

This course is for beginners to learn basic French conversation and grammar.

LANf100LA

## フランス語3

2017年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な会話と文法を学ぶ授業です。

## 【到達目標】

簡単なフランス語を聞きとり、話すことができ、書いて読めるようになること。DELFL試験のA1レベルに対応しています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

日本人教師の「フランス語1」とフランス人教師の「フランス語2」は、同じ教科書を使って交互に授業を行います。合計3～4回の授業で1レッスンずつ進みます。会話練習や聞き取りは、オンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる練習をします。練習問題 *Écrivez* の部分などは *Hoppii* 上に提出してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	年齢・科目	数字 11~59、授業の科目名
2 回目	Leçon 7 時間の使い方	疑問形容詞 <i>quel</i> 、曜日
3 回目	Leçon 8 持っているものについて話す	不定冠詞、人称代名詞強勢形
4 回目	Leçon 8 あやまる	否定の <i>de</i> 、所有形容詞
5 回目	Leçon 9 場所についてたずねる	<i>C'est / Ce sont</i> 、不定冠詞と定冠詞
6 回目	Leçon 9 位置づける	命令法、前置詞
7 回目	Leçon 10 何をするかたずねる	不規則動詞、 <i>Qu'est-ce que</i> と <i>quoi</i>
8 回目	Leçon 10 詳しくきく	指示形容詞
9 回目	Leçon 11 余暇の過ごし方について話す	動詞 <i>faire, jouer</i>
10 回目	Leçon 11 習慣について話す	中性代名詞 <i>en</i>
11 回目	Leçon 12 家族について話す	所有形容詞、動詞 <i>être</i> 複数
12 回目	Leçon 12 過去の出来事を話す	<i>avoir</i> を使う複合過去
13 回目	Leçon 13 どこに行くかたずねる	中性代名詞 <i>y, être</i> を使う複合過去
14 回目	Leçon 13 時間をたずねる	動詞 <i>finir</i> 、過去分詞

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。モデル文と同じような受け答えができるように次の回に備えて練習しておきましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『Spirale』 Gaël Crépieux、Philippe Callens 著（Hachette）

## 【参考書】

特にありません。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の発言・課題の提出で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

**【学生の意見等からの気づき】**

フランス語をどの程度使って授業をするかは、クラスの状況を見て判断します。

**【学生が準備すべき機器他】**

仏和・和仏の辞書と、動詞の変化表があると便利です。

**【その他の重要事項】**

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997年4月1日～2000年3月31日 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019年4月1日～ フランス語科の高2文法・高3作文と受験文法を担当）

**【Outline and objectives】**

This course is for beginners to learn basic French conversation and grammar.

LANf100LA

**フランス語2**

2017年度以降入学者

**ヴァリエンス コリヌ**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

**【到達目標】**

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介するDVDや字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 点、期末テスト 60 点

**【学生の意見等からの気づき】**

無い

**【Outline and objectives】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

**フランス語 4**

2017 年度以降入学者

**ヴァリエンス コリヌ**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

**【到達目標】**

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40 点、期末テスト 60 点

**【学生の意見等からの気づき】**

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

**【Outline and objectives】**

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

**フランス語 1 - I**

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1  
 単位数：1 単位  
 環 1 年 G~L

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語の初級文法の習得を目指します。

**【到達目標】**

フランス語の初級文法の習得を目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されるとおと考えてください。授業は5月11日に開始します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	第0課	アルファベ、綴り字記号、など
第2回	第1課	名詞の性と数、動詞 <b>etre</b> など
第3回	第2課	<b>er</b> 動詞、冠詞など
第4回	第3課	<b>avoir</b> , 疑問文など
第5回	第4課	所有形容詞、不規則動詞など
第6回	第5課	部分冠詞、近い未来・近い過去など
第7回	第5課	指示形容詞、疑問代名詞など
第8回	復習1	第1回小テスト（予定）
第9回	第6課	疑問副詞、定冠詞の縮約など
第10回	第7課	形容詞など
第11回	第8課	目的語人称代名詞など
第12回	第8課	非人称構文など
第13回	復習2	第2回小テスト（予定）
第14課	総括	期末試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ヴァズイ!』（駿河台出版社）を使用します。

**【参考書】**

授業中に指示することもあるかと思えます。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験が100点、動詞の活用に関する小テスト2回各25点、合計150点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。

詳細は第一回の授業で説明します。

**【学生の意見等からの気づき】**

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

**【Outline and objectives】**

study of elementary grammar of French language

LANf100LA

## フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1  
 単位数：1 単位  
 環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

## 【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
 環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授  
 業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度  
 は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指  
 します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
 の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習 1	第 0 課～第 8 課
第 2 回	第 9 課	代名動詞
第 3 回	第 10 課	直説法単純未来
第 4 回	第 10 課	比較級、最上級など
第 5 回	復習 2	第 1 回小テスト（予定）
第 6 回	第 11 課	直説法複合過去など
第 7 回	第 12 課	直説法半過去、大過去など
第 8 回	第 12 課	中性代名詞など
第 9 回	第 13 課	関係代名詞など
第 10 回	復習 3	第 2 回小テスト（予定）など
第 11 回	第 14 課	条件法現在・過去など
第 12 回	第 15 課	現在分詞、ジェルマンディフなど
第 13 回	第 16 課	接続法現在、過去など
第 14 回	総括	期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習  
 時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ヴァズイ！』（駿河台出版社）を使用します。

## 【参考書】

授業中に指示することもあるかと思えます。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合  
 計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評  
 価を下します。

詳細は第一回目の授業で説明します。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉  
 は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

## 【Outline and objectives】

study of elementary grammar of French language

LANf100LA

## フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2  
 単位数：1 単位  
 環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定  
 教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

## 【到達目標】

フランス語の初級文法について、直接目的補語・間接目的補語の人  
 称代名詞までを 1 学期間でマスターする。

DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到  
 達を目標とする。仏検 5 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され  
 たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
 環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

【本授業は、4/27 月曜日 2 限より開始する。大学の方針により、当  
 面は文字情報と音声を中心とした「学習支援システム」を用いた授  
 業とするが、語学の授業という性質に鑑みて、受講者のネット環境  
 次第では、ビデオ通話ツールを用いた授業を行う可能性がある。】

\*学習支援システムのほか、グーグル・クラスルームも使用するの  
 で、登録しておくこと。

教室コードは、n4ac4fq である。

教員による文法事項の解説 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答  
 え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り  
 返し

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
 の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・アルファベ、綴り字の読み方 ・単母音字・複母音字・鼻母音 字・子音字 ・リエゾン・アンシェスマン・エ リジオン
第 2 回	第 1 課	・名詞の性と数 ・不定冠詞 ・定冠詞 ・提示表現 * 数詞（1-10） ・名詞の複数形 ・不定冠詞の用法 ・定冠詞の用法
第 3 回	第 2 課	・動詞 être 直説法現在と主語人 称代名詞 ・形容詞の性・数一致と位置 ・特殊な女性形をもつ形容詞 ・不定冠詞 des → de (d')
第 4 回	第 3 課	・職業・身分を表す名詞 ・動詞 avoir 直説法現在 ・部分冠詞 ・否定文 ・否定の冠詞 ・否定の表現

第5回 第4課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1群規則動詞の直説法現在</li> <li>・疑問文</li> <li>・肯定・否定の疑問文の答え方</li> <li>・疑問形容詞</li> <li>・倒置疑問文</li> <li>・語幹に変化のある第1群規則動詞</li> </ul>
第6回 第1-4課のまとめ	第1-4課の文法事項の復習
第7回 第5課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2群規則動詞の直説法現在</li> <li>・指示形容詞</li> <li>・所有形容詞</li> <li>*数詞(11-20)</li> <li>・所有代名詞</li> </ul>
第8回 第6課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞 <b>faire / mettre</b> 直説法現在</li> <li>・疑問代名詞</li> <li>・主語人称代名詞 <b>on</b></li> <li>・不規則動詞 <b>aller / partir</b> 直説法現在</li> <li>・前置詞 <b>à</b> と定冠詞 <b>le / les</b> の縮約</li> <li>・疑問副詞</li> <li>・近接未来</li> <li>・前置詞 <b>à</b> + 国名「～へ」・「～で」</li> </ul>
第9回 第7課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞 <b>venir / prendre</b> 直説法現在</li> <li>・前置詞 <b>de</b> と定冠詞 <b>le / les</b> の縮約</li> <li>・指示代名詞</li> <li>・近接過去</li> <li>・前置詞 <b>de</b> 「～から」+ 国名</li> </ul>
第10回 第8課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞 <b>voir / attendre</b> 直説法現在</li> <li>・直接目的語・強勢形の人称代名詞</li> <li>・命令法</li> <li>・不規則動詞 <b>écrire / dire</b> 直説法現在</li> <li>・間接目的語の人称代名詞</li> <li>・非人称構文</li> <li>・数詞/時刻/曜日/月</li> </ul>
第11回 第5-8課のまとめ	第5-8課の文法事項の復習
第12回 第9課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞 <b>écrire / dire</b> 直説法現在</li> <li>・間接目的語の人称代名詞</li> <li>・非人称構文</li> <li>・数詞/時刻/曜日/月</li> </ul>
第13回 第10課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則動詞 <b>écrire / dire</b> 直説法現在</li> <li>・間接目的語の人称代名詞</li> <li>・非人称構文</li> <li>・数詞/時刻/曜日/月</li> </ul>
第14回 期末試験・まとめと解説	春学期の文法事項の総復習

**【参考書】**

仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する(単語、熟語などの見やすさなどの利点から)。

**【成績評価の方法と基準】**

【以下の成績評価の方法と基準は、2020年度春学期いっぱい対面授業が再開できないことを前提に設けるものである。対面授業が再開した場合はこの限りではない。

→ 毎回提示する小テストや課題(50%) + 学期末レポート(50%)による評価とする】

← 「語彙・活用に関する小テスト(学期に3回実施)[20%] + 期末試験[80%]」から変更(4/16)

ただし、授業中に指名するにあたって際に、単語調べなどの予習をやっていた場合、授業進行の妨害とみなし、その都度1点ずつ減点する。

教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

なし

**【Outline and objectives】**

This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習・復習・宿題は当然必要。

準備学習と宿題には1時間、復習にも1時間必要であろう。

〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CDなどの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。

〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたいうえで、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。

〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何か在那里で生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書(BDも含め)、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界LA」、「フランスの文化と社会LA」、「フランス生活文化論LA」などの履修を強く推奨する。なお、文化も含めたフランス語系科目の紹介について下記の通りリンクを貼っておく。

**【テキスト(教科書)】**

中村敦子『〈基本+アルファ〉のフランス語文法(CD付)』、駿河台出版社、2014年。

ISBN: 978-4-411-0773-5

定価: 2,300円+税

LANf100LA

## フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「フランス語 1-I」に引き続き、フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

## 【到達目標】

フランス語の初級文法について、接続法現在までを 1 学期間でマスターする。

DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 4 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教員による文法事項の解説 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 11 課	・代名動詞
第 2 回	第 12 課	・不規則動詞 <i>pouvoir / devoir</i> 直説法現在
第 3 回	第 13 課 (1)	・直説法複合過去 (1) ・不規則動詞 <i>croire / lire</i> 直説法現在
第 4 回	第 13 課 (2)	・直説法複合過去 (2) ・再帰代名詞と過去分詞の性・数一致
第 5 回	第 14 課 (1)	・不規則動詞 <i>vouloir / savoir</i> 直説法現在
第 6 回	第 14 課 (2)	・中性代名詞 <i>en / y</i>
第 7 回	第 11-14 課のまとめ	・中性代名詞 <i>le</i> ・第 2 群規則動詞の直説法現在 ・代名動詞 ・指示形容詞 ・所有形容詞 * 数詞 (11-20) ・所有代名詞 ・中性代名詞
第 8 回	第 15 課 (1)	・不規則動詞 <i>connaître courir</i> 直説法現在 ・比較級 (形容詞・副詞) ・最上級 (形容詞・副詞)
第 9 回	第 15 課 (2)	・名詞の比較級 ・名詞の最上級 ・副詞 <i>beaucoup, peu</i> の優等比較級
第 10 回	第 16 課	・直説法半過去
第 11 回	第 17 課	・不規則動詞 <i>offrir / recevoir</i> 直説法現在 ・関係代名詞
第 12 回	第 18 課	・直説法単純未来 ・受動態

第 13 回 第 19 課

- ・条件法現在
- ・現在分詞
- ・ジェロンディフ

第 14 回 第 20 課

- ・接続法現在
- ・強調構文

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は当然必要。  
準備学習と宿題には 1 時間、復習にも 1 時間必要であろう。

〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。

〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたいので、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。

〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何がそこで生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書 (BD も含め)、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界 LB」、「フランスの文化と社会 LB」、「フランス生活文化論 LB」などの履修を推奨する。なお、文化も含めたフランス語系科目の紹介について下記の通りリンクを貼っておく。

## 【テキスト（教科書）】

中村敦子『〈基本+アルファ〉のフランス語文法 (CD 付)』、駿河台出版社、2014 年。

ISBN : 978-4-411-0773-5

定価：2300 円 + 税

## 【参考書】

仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する (単語、熟語などの見やすさなどの利点から)。

## 【成績評価の方法と基準】

語彙・活用に関する小テスト (学期に 3 回実施) [20%] + 期末試験 [80%]

ただし、授業中に指名するにあたっては、単語調べなどの予習をやっていなかった場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。

教科書、辞書を手ししない学生は評価の対象外とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.

LANf100LA

## フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

## 【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する。

授業は、学習支援システムを利用して 4/22 日に開始する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

小テストと期末テストを行って、その点数を基準にして評価します（100 %）。

ただし、当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚え、秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

## 【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。教室では大きな声で、フランス語を読みましよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 <b>manger, dire</b>
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 <b>s'appeler</b>
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 <b>le, en, y</b> 、不規則動詞 <b>devoir</b>
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 <b>vivre</b>
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

## フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

瀬戸 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ1年I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級（基本）文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う。

## 【到達目標】

英語とは異なるフランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

今学期はオンラインでの開講になる。それに伴う各回の授業計画の変更は学習支援システムでその都度提示する。

フランス語の簡単な会話と文法を学ぶ。

なお本授業の開始日は 5 月 6 日とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、アルファベ	英語との相違と共通点 アルファベの練習
②	発音の基礎 つづり字の読み方	ビデオ使用でネイティブの発音 単語による発音と文字の読み方記憶
③	つづり字の読み方 (2) 旅の基本表現と数字	つづり字の読み方の規則と発音の 復習 続き
④	自己紹介 挨拶表現	名詞の性・数 主語人称代名詞 規則動詞
⑤	パリに親しむ	簡単なフランス語表現、パリの名所
⑥	be 動詞、国籍・職業を言う モノを頼む表現	形容詞と性・数の一致 所有・指示形容詞
⑦	have 動詞、許可を求める	よく使う表現、形容詞（続き）
⑧	プチ・ホテルを取る	値段を尋ねる フランスはてる事情
⑨	場所を尋ねる	疑問文と否定文 命令文
⑩	モノの位置関係	不規則動詞（1）
⑪	Cafe に入る	不規則動詞（2）
⑫	季節と天候表現 身体の不調を訴える	習った動詞の総復習 習った会話表現の確認
⑬	文法復習	期末テスト（1）筆記
⑭	総復習とまとめ	期末テスト（2）聞き取り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小テスト（会話・文法）の為の学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「街かどのフランス語－第三版－」 朝日出版

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業内課題（2つの会話練習含む）40パーセント、期末テスト50パーセント、平常点（授業参加度10パーセント）も考慮する。上記記載の評価方法は通常の対面式授業の場合で、少なくとも前半はオンライン授業になるとこの基準は変更となる。

毎回の小さな課題提出50%、レポート形式のやや大きな課題30%、簡単な小テスト20%、を考えている。

なお、途中から従来のクラス内授業が可能になれば、また変更となりうるが、その場合は速やかに知らせる。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

This French class aims at teaching students beginners' grammar, and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading, writing, listening, and speaking.

LANf100LA

## フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

瀬戸 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ1年I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎力と読み・書き・聞く・話すの総合力を養う。

## 【到達目標】

英語とは異なるフランス語の文字の読み方と基礎文法をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

フランス語初級文法の理解と簡単な会話表現を積極的・能動的に学習。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習 基本動詞	基本動詞の復習、とくに発音
②	電話をかける、バレエをみる	春学期に学んだ数字表現の復習と丁寧表現
③	時刻表現、様々な疑問文	レストラン予約
④	自己紹介	疑問文の総合学習、質疑応答表現
⑤	ブティックで買い物	比較級と人称代名詞の目的格
⑥	色彩と比較表現 愛の表現	ブティックでの買い物、試着をする
⑦	メトロに乗る	代名動詞
⑧	非人称表現、最上級	疑問文、命令文の復習
⑨	過去の表現 旅のトラブル会話	複合過去（1）
⑩	レストランで注文 フランス料理	第二の規則動詞
⑪	パリ・ディズニールランドに行く 様々なカードを書く	複合過去（2） 金札過去・未来
⑫	絵葉書を書く 思い出を書く	単純未来、半過去
⑬	文法総復習	期末テスト（1）筆記
⑭	初級会話の総復習	期末テスト（2）聞き取り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内小テスト、会話練習・暗記のための事前学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「街かどのフランス語－第三版－」 続き

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

授業内課題（2つの大きな会話課題を含む）40パーセント、授業内期末テスト40パーセント。平常点20パーセント  
出席重視 内容は前期に同じ

## 【学生の意見等からの気づき】

出来るだけゆっくり丁寧に説明する

## 【その他の重要事項】

なし

## 【Outline and objectives】

This French class aims at teaching students beginners' grammar, and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading, writing, listening, and speaking.

LANf100LA

## フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

## ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は遠隔授業の形で行う予定です。ZOOM（オンラインミーティングアプリ）を使用します。遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム Hoppii か Google Classroom 上で通知する。

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 1 と関連した授業です。

## 【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELFA 1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Initiation 1	授業の紹介 挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す ある人について質問する
4	Leçon 1	職業をたずねる
5	Leçon 2	やりたい職業を言う 国籍をたずねる
6	Leçon 2	何語を話すのか言う
7	Leçon 3	ある人についてたずねる 何かを示す
8	Test Leçon 3	中間テスト 何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちらが好きかを言う
11	Leçon 5	なにをするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	Test	期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN : 978-2-01-401581-2

## 【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

## 【成績評価の方法と基準】

遠隔授業に伴う評価基準：

ZOOM 会議中の参加（25%）

遠隔授業の後に教科書の練習問題をし、その後その写メを撮って先生に Hoppii の課題提出機能で先生に送る。（25%）

追加の課題（フランス語で文章を書いて提出する）。（25%）

期末試験（口述試験のみ）（25%）

以下は無効です。

中間テスト 40% 期末試験 40%、平常点（授業中の発言）20% で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声ダウンロードができます。

## 【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.

This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

## フランス語 2-II

2017 年度以降入学者

## ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 1 と関連した授業です。

## 【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A 1 レベル）に対応しています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す
3	Leçon 7	時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	余暇の過ごし方
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	生活習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	Test	テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN : 978-2-01-401581-2

## 【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40% 期末試験 40 %、平常点（授業中の発言）20%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声ダウンロードができます。

## 【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.

This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

## フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A～F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は遠隔授業の形で行う予定です。ZOOM（オンラインミーティングアプリ）を使用します。遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 1 と関連した授業です。

## 【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A1 レベル）に対応しています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
2	Initiation 1 Initiation 2	挨拶 自己紹介
3	Leçon 1	数字 名前、職業、住んでいるところについて尋ねる
4	Leçon 1	自分の仕事について話す
5	Leçon 2	ある人について質問する 職業をたずねる
6	Leçon 2	やりたい職業を言う 国籍をたずねる
7	Leçon 3	何語を話すのか言う ある人についてたずねる
8	Test	何かを示す 中間テスト
9	Leçon 3 Leçon 4	何語を話すか言う 好きなものを言う
10	Leçon 4	好き嫌いの程度を言い表す
11	Leçon 5	どちが好きかを言う
12	Leçon 5	なにをするのが好きか言う 好き嫌いの程度を言い表す
13	Leçon 6	したいことについて話す 好みを説明する
14	Test	どちらが好きか理由を述べる 期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN : 978-2-01-401581-2

## 【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

## 【成績評価の方法と基準】

遠隔授業に伴う評価基準：

ZOOM 会議中の参加（25%）

遠隔授業の後に教科書の練習問題をし、その後その写メを撮って先生に Hoppii の課題提出機能で先生に送る。（25%）

追加の課題（フランス語で文章を書いて提出する）。（25%）

期末試験（口述試験のみ）（25%）

以下は無効です。

中間テスト 40% 期末試験 40%、平常点（授業中の発言）20%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声をダウンロードができます。

## 【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.

This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

## フランス語 2-II

2017 年度以降入学者

## ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 1 と関連した授業です。

## 【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A 1 レベル）に対応しています。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す
3	Leçon 7	時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	余暇の過ごし方
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	生活習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	Test	期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépeux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN : 978-2-01-401581-2

## 【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40% 期末試験 40 %、平常点（授業中の発言）20%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声ダウンロードができます。

## 【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.

This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

## フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

篠原 学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で会話してみましょう。

## 【到達目標】

フランス語であいさつできるようになる。  
フランス語で自己紹介できるようになる。  
フランス語で家族のことが話せるようになる。  
フランス語で好きなものが言えるようになる。  
フランス語で買い物ができるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

当面は、学習支援システムを活用したオンラインでの開講となります。本授業の開始日は4月24日で、この日は Google hangouts meet を用いて、今後の進め方等についてガイダンスを行います（メールで URL をお送りします）。ガイダンスに出席できなかった学生のために、学習支援システムに資料を残す予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	フランス語の文字	アルファベ、発音の規則、数詞
第2回	あいさつする	基本的な動詞、動詞の活用
第3回	体調について話す	名詞の性数、定冠詞
第4回	自己紹介する	不定冠詞、形容詞、定時表現
第5回	人を紹介する	人称代名詞の強勢形、前置詞と定冠詞
第6回	ものの位置を説明する	第一群規則動詞、所有形容詞
第7回	質問に否定で答える	否定文、疑問文、所有代名詞
第8回	昨日のことを話す	直説法複合過去、部分冠詞、第二群規則動詞
第9回	様々な質問をする	疑問詞、疑問代名詞
第10回	市場で買い物をする	近接未来、指示形容詞
第11回	好きなもの、予定を話す	直説法複合過去、人称代名詞
第12回	洋服を買う	疑問形容詞、指示形容詞
第13回	人について詳しく語る	比較級、疑問副詞、疑問代名詞
第14回	これまでのまとめ	振り返りと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしましょう。家でも声を出して練習することが大切です。そのさいは付属の音声ファイルを活用してください。

## 【テキスト（教科書）】

『Le Grand saut（フランス語にダイヴ）』、石井洋二郎・野崎夏生、朝日出版社、2019年、2300円＋税

## 【参考書】

参考書は指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での毎回の取り組み 40%

期末試験 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【Outline and objectives】

This is a French conversation course for beginners. Through the oral exercises in class, students will be familiar with this language and understand the French culture at the certain level. Don't hesitate to speak loudly. Let's talk in French.

LANf100LA

## フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

篠原 学

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。先学期に引き続き、フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で会話してみましょう。

## 【到達目標】

フランス語で過去のことについて話せるようになる。  
フランス語で未来のことについて話せるようになる。  
フランス語でレストランで注文できるようになる。  
フランス語で仕事や社会のことを話せるようになる。  
フランス語で関心のある分野について話せるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。文法等の解説もしますが、授業内での口頭運用の練習が中心です。重要な表現は何度も口に出して発音してもらいます。フランス語を聞いて、理解する力の伸長にも取り組みます。学生どうして会話してもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	先学期の振り返り	すでに学んだ表現が定着しているかどうかの確認
第 2 回	公共の場のルールについて話す	命令形、受動態
第 3 回	一日を語る	代名動詞の基本
第 4 回	人の性格について語る	関係代名詞、疑問副詞
第 5 回	時間を聞く	非人称構文、場所を表す代名詞
第 6 回	レストランで注文する	条件法現在
第 7 回	値段を尋ねる	非人称構文の応用
第 8 回	評価をする、人を誘う	様々な疑問副詞
第 9 回	子どもの頃について語る	直説法半過去
第 10 回	仕事について話す	中性代名詞と特殊な代名詞
第 11 回	社会について話す	代名動詞の応用
第 12 回	季節の行事について話す	最上級
第 13 回	関心のある分野について話す	接続法現在
第 14 回	これまでのまとめ	振り返りと期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れ、授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしてください。とくに、音声ファイルを活用して、何度も口に出して発音する練習をしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『Le Grand saut（フランス語にダイヴ）』、石井洋二郎・野崎夏生、朝日出版社、2019 年、2300 円＋税

## 【参考書】

参考書は指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での主体的な取り組み 40 %

期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【Outline and objectives】

This is a French conversation course for beginners. Through the oral exercises in class, students will be familiar with this language and understand the French culture at the certain level. Don't hesitate to speak loudly. Let's talk in French.

LANf100LA

## フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

### 【到達目標】

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。  
フランス語の文章をみて意味ができるようになる。  
フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

1 単語や短文の小テスト（計 10 回）

2 初級文法解説

3 練習問題

（辞書は常に携帯すること）

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等） の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間授業内容の説明 成績評価の方法 アルファベの発音
2	発音の練習 1	基本的な挨拶
3	発音の練習 2	1 課 提示の表現
4	名詞と冠詞	「やせるって簡単？」
5	主語人称代名詞	2 課 疑問文
6	動詞 vouloir の使い方	「きみやせたいの？」
7	動詞 être	3 課 形容詞
8	性数一致	「きみスマートだよね」
9	er 動詞	4 課 aimer の表現
10	不定冠詞	「きみたくさん食べるほう？」
11	動詞 pouvoir	5 課 動詞の不定法
12	定冠詞	「これは何ですか？」
13	所有形容詞	6 課 目的語代名詞
14	前期のまとめ	会話表現のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間  
を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000 円＋税、フランス図書  
経由）

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 100 点分を  
50 %で、200 点満点のうち 60 % = 120 点以上を合格として、素点  
による新しい成績評価基準 S/A+/A-/A-/B+/B-/B-C+/C-/D で決定す  
る。以下に変更します。↓

遠隔授業の開始により、期末試験が不可能になります。遠隔授業  
中に練習問題や小テストを課題として出しますから、それに答えて  
ください。その合計点数で成績をつけたいと思います。

### 【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像  
を紹介する

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、  
学習支援システム上で通知します。

### 【Outline and objectives】

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANf100LA

## フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

## 【到達目標】

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。

フランス語の文章をみて意味ができるようにする。

フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1 単語や短文の小テスト（計 10 回）

2 初級文法解説

3 練習問題

（辞書は常に携帯すること）

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期ガイダンス	発音の復習 成績評価の方法
2	動詞 faire, aller	7 課 条件を表す
3	動詞 venir, prendre	「バッグの中にチョコ持ってる」
4	avoir+過去分詞	8 課 複合過去
5	être+過去分詞	「きみ何してるの？」
6	否定の表現	9 課 半過去
7	複合過去と半過去	「ある日、私はやせる決心をしました」
8	近接未来と単純未来	10 課 未来形
9	現在分詞と過去分詞	この春私はバりにいきました」
10	疑問形容詞	11 課 比較級・最上級
11	関係代名詞	「私はたくさん食べていました」
12	中性代名詞 en, y, le	12 課 条件法
13	疑問副詞・疑問代名詞	「私はいっそう幸せになる」
14	後期のまとめ	時制のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000 円＋税、フランス図書経由）

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 100 点分を 50 %で、200 点満点のうち 60 % = 120 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 S/A+/A-/B+/B-/C-/D で決定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube など映像を紹介する

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANr100LA

ロシア語 1 I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 (1) I 2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

法 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア語を「読む・聞く・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につける。正確に文字を発音し、テキストをきれいに音読できる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。文法を使いテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指した準備を始める。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>o</sup>の開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>o</sup>その都度提示します。本授業の開始日は4月23日(木5)とします。その際に当面の授業形態について説明します。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。(旧シラバス：最初の一ヶ月間で、ロシア語の文字とその発音をしっかりと習得します。名詞、形容詞、動詞を中心とした初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、視聴覚教材や習字帳などを用い、「読む・聞く・話す・書く」等、五感でロシア語に親しみます。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第1課 文字の発音と書き方	ロシア語の文字の発音と書き方、発音練習 (母音)
3	第1課 文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア語の文字と単語の発音 (子音)、アクセント、発音のテスト
4	第2課 基本文型 (~は... である)	基本文型 (~は... である)、イントネーション (平叙文と疑問文)、挨拶の練習
5	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第4課 形容詞	形容詞 (硬変化、軟変化) とその練習問題

10	第5課 動詞の不定形と過去形	動詞 (不定形と過去形)
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形 (現在人称変化) と未来形 (合成未来)
13	第6課 前置格	前置格の説明、春学期の復習
14	授業内試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習 (新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く) や復習 (文法の暗記、テキスト音読練習) を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級合格を目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得していく。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座 (テレビとラジオ) などでもリスニングの練習をする。

授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

・『初級ロシア語』(法政大学ロシア語担当教員編) 2020 年

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
 ・露和辞典 (博友社ロシア語辞典 (1995 年、¥6291) が望ましい)  
 ・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が<sup>o</sup>オンラインで<sup>o</sup>の開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。また、実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

## 【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

You will practice Russian by “listening, reading, talking, and writing” and definitely acquire it as your first new language subject at the university. You will be able to pronounce characters exactly and read text smoothly. You will learn basic grammar using textbooks. You will be able to understand the meaning of text by using the grammar you have acquired. You will be able to greet people in Russian. You will start preparing to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語 1 II 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 (1) II 2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

法 1 年

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の諸学者を対象とする。本授業ではロシア語の初級文法の習得に加え、簡単な会話、文章の読み書きを学ぶ。

## 【到達目標】

(1) 簡単なロシア語会話ができる。(2) ロシア語の文章から情報を得たり、ロシア語で必要な情報を伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら習得を目指す。また、文法の勉強と並行して会話練習や文章講読などにも取り組み、学んだ文法知識を実践する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項の確認
2	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の命令形、対格変化 (名詞、人称代名詞)
3	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	対格変化、曜日の表現
4	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の変化 (-с я、歯音、唇音)
5	第 8 課 運動の動詞	運動の動詞 (定向動詞と不定向動詞)
6	第 8 課 運動の動詞	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
7	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格
8	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の変化
9	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	人称代名詞の変化
10	第 10 課 生格	生格変化 (名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞)
11	第 10 課 生格	所有の表現、否定生格
12	第 11 課 与格と造格	与格変化 (名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞)
13	第 11 課 与格と造格	造格変化 (名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞)
14	まとめと確認	秋学期に学んだ文法事項のまとめと確認

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

『初級ロシア語』(法政大学ロシア語担当教員編)

## 【参考書】

露和・和露辞典 (博友社『ロシア語辞典』(1995 年) など)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (小テストを含む) (60 %)、期末テスト (40 %) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

重要な文法事項については繰り返し復習を行って確実な定着を図る。

## 【Outline and objectives】

This course introduces you to the foundations of Russian language. It will be offered to students who take the “Russian 1 I” course in the spring semester. In this semester, we will focus on providing knowledge on Russian grammar and vocabulary, as well as basic reading, listening comprehension, speaking, and writing skills. By the end of this course, students will be able to 1) communicate in Russian through basic phrases and 2) read and write basic Russian texts.

LANr100LA

ロシア語 1 I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 2017 年度以降入学者

## 木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

## 【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。これにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示するので、同システムの情報を常に確認するようにしてください。本授業の開始日は5月6日水曜とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語 1 II」とセットになっています。また、「ロシア語 2 I」と提携して行なわれる授業です。ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから、英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。毎回小テスト等で復習しながら、着実にものにしていきましょう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。

⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。  
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、5月6日の授業開始以降、学習支援システムで提示します。以下は変更前の方法と基準です。参考にしてください。

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

## 【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.).

LANr100LA

**ロシア語 1 II**

2017 年度以降入学者

LANr100LA

**ロシア語 3**

2017 年度以降入学者

**木部 敬**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

**【到達目標】**

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2 II」と提携して行なわれる授業です。ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。問題を繰り返し解く反復練習を行い、春学期にも増して小テスト等での復習を重視します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形など。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

**【テキスト（教科書）】**『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。  
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

**【学生の意見等からの気づき】**

音声教材をより一層利用するよう努める。

**【Outline and objectives】**

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA

## ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

長屋 房夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを学び、単語の発音から始めて、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようになる。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい（秋学期授業を受けるためには春学期の試験合格が前提）

## 【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが読めるようになる。練習問題や宿題を積み重ねて理解度を上げる

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

2名の先生がリレー方式で授業をします。基本的に前回の授業で終えたところから次の先生が続ける。下記の授業計画の中で毎回テキストの読みや宿題の答え合わせを行い、中間テストとして発音・暗記ミニテストを行います

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識	授業ガイダンス、ロシア語について
2	第1課 ロシア語文字と発音	アルファベットの習得と書き方、母音の発音、文字の発音練習
3	第1課 文字と発音	子音の発音、単語の中での発音、例外など特殊な音
4	第2課 基本文型	基本文型の特徴的な文法説明、テキストの読みと訳
5	第2課 基本文型	イントネーションと練習問題
6	第3課 名詞の複数、所有代名詞、テキスト	新出単語の説明、文法、テキストの読みと訳
7	第3課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせと説明
8	第4課 形容詞	新出単語の説明、文法とテキストの読み、訳
9	第4課 会話と練習問題	会話の訳と文法説明、練習問題の答え合わせ
10	第5課 動詞の過去形、副詞、格	新出単語の説明、文法とテキスト
11	第5課 会話と練習問題	会話の訳と文法説明、練習問題の答え合わせ
12	第6課 動詞の現在人称形、未来形、前置格	新出単語の説明、文法説明とテキストの読み、訳
13	第6課 会話と練習問題。春期総復習	会話の訳と文法説明、練習問題の答え合わせ。試験に向けて復習をする
14	春学期の試験	授業内試験（1時間）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・反復・復習が大切なので、まずは単語を覚え、文法も学習しながら練習問題で確実に学習する。毎回の宿題を予習し、各課のテキストは間違いなく発音できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

## 【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一 白水社

## 【成績評価の方法と基準】

授業内試験（60%）ミニテスト・宿題回答（20%）平常点（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

ミニテストや中間テストを行う。その他、単語や発音、文章の暗記なども積極的に取り入れる

## 【学生が準備すべき機器他】

春期は新出単語の説明をしますが、秋期は各自辞書を用意して自分で単語を引く。辞書については授業内で説明します

## 【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして3回以上欠席した学生は授業内受験の権利を失います。（授業の中で詳しく説明します）

## 【Outline and objectives】

You can learn the Russian alphabet, start with the pronunciation of a word, read a simple sentence, and use a dictionary to understand the meaning. It is preferable to take this course through the spring and autumn semester (it is premised that you pass the spring semester exam in order to take the autumn semester)

LANr100LA

## ロシア語 1 II

2017 年度以降入学者

長屋 房夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で用いた「初級ロシア語」の教科書を継続します。春学期に終了した箇所から始め、ロシア語の文法・語彙を深めます

## 【到達目標】

この教科書の第 1 1 課まで終えるのが目標です。秋期からはロシア語的な難しさが文法にも出てくるので、嫌にならないように関心を持ち、集中して学びましょう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春期と同じように、教科書に沿って授業を進めます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春期の復習	夏休みで忘れてしまった文法や単語、練習問題で復習する
2	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日	文法説明とテキストの読みと訳
3	第 7 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
4	第 8 課 運動の動詞	運動の動詞の文法説明、前置格と対格の使用例、テキストの読みと訳
5	第 8 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
6	第 9 課 形容詞、所有代名詞の対格、前置格	文法説明とテキストの読みと訳
7	第 9 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
8	第 10 課 生格（名詞の生格）、生格を要求する前置詞、形容詞の生格変化、所有代名詞の生格	生格（名詞の生格）、生格を要求する前置詞、形容詞の生格変化、所有代名詞の生格の文法説明
9	第 10 課 生格（所有を表す表現、否定生格）	文法説明とテキストの読みと訳
10	第 10 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
11	第 11 課 与格と造格	文法説明とテキスト
12	第 11 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
13	秋学期の総復習	第 7 課から 11 課までの総復習
14	秋学期試験	授業内試験（1 時間）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は各自調べる。宿題だけでなくテキストの読みもスラスラ読めるまで練習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

## 【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一 白水社

## 【成績評価の方法と基準】

授業内試験（60%）、中間テスト・宿題（20%）、平常点（20%）で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習を確実に身につけるためのテストをします。単語のテスト、発音を学ぶため暗記テストなどを実施します

## 【学生が準備すべき機器他】

ロシア語初級レベルの辞書

## 【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして 3 回以上欠席した学生は授業内受験資格を失います。（授業の中で詳しく説明します）

## 【Outline and objectives】

We will continue with the "Getting Started Russian" textbook, which used in the spring semester. We will begin with the end of the spring and deepen the grammar and vocabulary of the Russian language.

LANr100LA

ロシア語 2 I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 (2) I 2017 年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年

#### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

#### 【Outline and objectives】

This class is for students learning Russian for the first time. Start with how to read and write Cyrillic (Russian), and then we will begin learning simple greetings and grammar. Practice of pronunciation and intonation peculiar to Russian are performed using audiovisual materials.

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

#### 【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音し、イントネーションを意識して文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるため、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示します。基本的には説明、課題提示 → 課題提出 → 添削、返却などの形になります。また、ロシア語 1 との連携授業です。授業開始日は 4 月 27 日です。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化	第 1 変化の説明と練習
10	動詞の現在人称変化	第 2 変化の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	既習事項の復習	既習事項のまとめと復習
14	既習事項の確認	既習事項の確認

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

#### 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法を変更します。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示します。

LANr100LA

ロシア語 2 II 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 (2) II 2017 年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

**【到達目標】**

動詞の形（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の順に授業を進めます。

なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	運動の動詞	行先と交通手段の表現
4	形容詞などの格変化	形容詞などの格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と練習
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有・否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格を要求する前置詞など
12	格変化の復習①	名詞の格変化の総復習
13	格変化の復習②	形容詞などの格変化の総復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

**【参考書】**

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

ロシア語 2 I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2 2017 年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

文 1 年

#### 【Outline and objectives】

This class is for students learning Russian for the first time. Start with how to read and write Cyrillic (Russian), and then we will begin learning simple greetings and grammar. Practice of pronunciation and intonation peculiar to Russian are performed using audiovisual materials.

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

#### 【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音し、イントネーションを意識して文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるのに伴い、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでお知らせします。授業は基本的に課題提示 → 課題提出 → 添削などの流れになります。授業開始日は 4 月 24 日です。ロシア語 1 との提携授業です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化	第 1 変化の説明と練習
10	動詞の現在人称変化	第 2 変化の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	既習事項の復習	既習事項のまとめと復習
14	既習事項の確認	既習事項の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

#### 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法を変更します。具体的には授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

LANr100LA

ロシア語 2 II 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 4 2017 年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

文 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

**【到達目標】**

動詞の形（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の順に授業を進めます。

なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	運動の動詞	行先と交通手段の表現
4	形容詞などの格変化	形容詞などの格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と練習
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有・否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格を要求する前置詞など
12	格変化の復習①	名詞の格変化の総復習
13	格変化の復習②	形容詞などの格変化の総復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

**【参考書】**

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

## ロシア語2 I

2017年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1 単位

営1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語1で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

## 【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音し、イントネーションを意識して文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるのに伴い、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでお知らせします。授業は基本的に課題提示 → 課題提出 → 添削、返却などの形になります。授業開始日は4月27日です。ロシア語1との連携授業です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化	第1変化の説明と練習
10	動詞の現在人称変化	第2変化の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	既習事項の復習	既習事項のまとめと復習
14	既習事項の確認	既習事項の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の準備学習・復習は2時間を目安とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

## 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法を変更します。具体的なことは授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

## 【Outline and objectives】

This class is for students learning Russian for the first time. Start with how to read and write Cyrillic (Russian), and then we will begin learning simple greetings and grammar. Practice of pronunciation and intonation peculiar to Russian are performed using audiovisual materials.

LANr100LA

## ロシア語2Ⅱ

2017年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

営1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語1で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である6つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

## 【到達目標】

動詞の形（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

ロシア語1と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の順に授業を進めます。

なお、授業の進捗によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	運動の動詞	行先と交通手段の表現
4	形容詞などの格変化	形容詞などの格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と練習
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有・否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格を要求する前置詞など
12	格変化の復習①	名詞の格変化の総復習
13	格変化の復習②	形容詞などの格変化の総復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は2時間を目安とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

## 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30%、学期末試験70%の総合評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

## ロシア語 1

2017 年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）の授業です。ロシア文字の読み方、書き方から始め、初級文法を学習します。ロシア語の発音とイントネーションを重視し、ロシア語の単語の聞き取りや簡単な文の作成までも練習します。

## 【到達目標】

ロシア語の文字、言葉、文書を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を理解することができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語2」とセットになっています。まずはロシア語文字に慣れ、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることとなります。

【更新事項】春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>o</sup>の開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>o</sup>その都度提示する。本授業の開始日は4月21日とする。具体的なオンライン授業の方法など<sup>o</sup>を、学習支援システムで<sup>o</sup>提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文字と発音（その1）	ロシア語に関する総合的説明。ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
2	文字と発音（その2）	ロシア語の単語の読み方の規則。
3	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
4	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
5	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
6	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
7	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
8	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
9	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
10	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
11	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。

12	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
13	まとめと復習	ここまでの学習のポイント。期末試験対策。
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

## 【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、小テスト 20 %、期末試験 60 %。原則として、3～4回の授業で前回の内容を復習する小テストを行う。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながる。

【更新事項】春学期の少なくとも前半が<sup>o</sup>オンラインで<sup>o</sup>の開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで<sup>o</sup>提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

The main objective of the elementary course of the Russian language for beginners is to enable students to read Russian letters, to master Russian pronunciations, to understand the elementary Russian grammar.

LANr100LA

## ロシア語3

2017年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきましょう。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょう。具体的には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がついているはずですが、また、ロシアの豊かな芸術や文化に触れてもらうため、映像や音楽を楽しむようにします。

## 【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。春学期に学んだ文法事項を復習するところから始め、引き続き、新たな文法事項を練習問題や読解を通して着実に身につけていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵ですので、一生懸命吸収してください。授業は音読に力を入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習／映像鑑賞。	春学期期末試験の確認を通して復習を行う。映像鑑賞。
第 2 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の人称変化。練習問題。映像鑑賞。	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の概念について。その人称変化を確認。映像鑑賞。
第 3 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）。方向の示し方。交通手段。対格、前置格。映像鑑賞。	前回授業の復習。方向を示す副詞句。交通手段を表す表現。対格と前置格の復習。映像鑑賞。
第 4 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。練習問題。映像鑑賞。	形容詞＋名詞の前置格、対格を覚える。映像鑑賞。
第 5 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。テキスト読解。映像鑑賞。	前回授業の復習。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 6 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。練習問題。映像鑑賞。	形容詞＋名詞の生格を覚える。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 7 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。テキスト読解。映像鑑賞。	前回授業の復習。練習問題。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。

第 8 回	与格と造格。練習問題。映像鑑賞。	形容詞＋名詞の与格を覚える。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 9 回	与格と造格。テキスト読解。映像鑑賞。	形容詞＋名詞のを造格を覚える。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 10 回	動詞の完了体・不完了体。練習問題。映像鑑賞。	動詞の完了体・不完了体の概念としくみについて。その区別を行う練習問題。映像鑑賞。
第 11 回	動詞の完了体・不完了体。映像鑑賞。	前回授業の復習と確認。映像鑑賞。
第 12 回	関係代名詞。テキスト読解。映像鑑賞。	関係代名詞のしくみについて。文章の中で、関係代名詞の機能を確認していく。映像鑑賞。
第 13 回	関係代名詞／目的を示す接続詞。テキスト読解。映像鑑賞。	前回の復習。目的を示す接続詞を学ぶ。仮定法のしくみについて。映像鑑賞。
第 14 回	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめ解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習（とくに辞書を引く作業）。復習を兼ねた課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

春学期に同じ。

## 【参考書】

春学期に同じ。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでどおり、文法と会話の力を身につけていく工夫を重ねていきます。

## 【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 4 and Russian 6.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

LANr100LA

## ロシア語2

2017年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1、ロシア語 5 と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画や歌謡を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間ももちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

## 【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。ロシア語 1 で学んだ文法事項を練習問題や簡単な口頭表現で定着させていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵となりますので、一生懸命に吸収してください。授業は音読に力を入れます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音／映像鑑賞	ガイダンス。 ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。映像鑑賞。
第 2 回	文字と発音／映像鑑賞	ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。映像鑑賞。
第 3 回	基本文型「これは何？」「これは誰？」 会話練習。映像鑑賞	物や人を尋ねる表現を覚え、基本的な名詞もどんどん覚えて反復練習。映像鑑賞。
第 4 回	基本文型。名詞の性について。練習問題。映像鑑賞。	平叙文の基本文型と疑問詞のない疑問文を確認しつつ、練習問題で基本文型の基礎固めを行う。名詞の性分類。映像鑑賞。
第 5 回	名詞の複数。所有代名詞。自己紹介の練習。練習問題。映像鑑賞。	名詞の複数形の数々を覚え、いくつかの例外も記憶する。名詞の性と所有代名詞の関係を覚える。映像鑑賞。
第 6 回	名詞の複数。所有代名詞。会話練習。練習問題。個数詞 1～10。	前回の内容を復習しながら、新たな例外も覚える。個数詞を暗記。映像鑑賞。
第 7 回	指示代名詞と形容詞。モスクワを案内する会話練習。練習問題。個数詞 1～12。	名詞の性と形容詞の関係について覚える。モスクワの街について知る。個数詞を復習しながら 12 まで書けるようにする。映像鑑賞。

第 8 回	動詞の過去形。対話練習。ロシア人の名前について。練習問題。個数詞 11～20。映像鑑賞。	動詞の過去形の作り方を覚える。ロシア人の名前・父称・姓について。個数詞を 20 まで覚える。映像鑑賞。
第 9 回	動詞の現在形。前置格。場所の表現。個数詞 11～20。	動詞の現在人称変化（第 1 変化／第 2 変化）を覚える。場所を表す前置格の使い方について。個数詞の復習。
第 10 回	動詞の未来形。前置格。練習問題。個数詞 21～69。映像鑑賞。	動詞の未来形（合成未来）の作り方を覚える。個数詞を 69 まで口頭で言えるようにする。映像鑑賞。
第 11 回	動詞の命令形。曜日の表現。対格。「～が好き」を使った会話練習。個数詞 70～100。映像鑑賞。	動詞の命令形の作り方について。曜日を覚えて、「～曜日に～した（する）」という表現でやりとりをする。個数詞を 100 まで口頭で言えるようにする。映像鑑賞。
第 12 回	動詞の歯音変化と唇音変化。再帰動詞の変化。練習問題。個数詞 50～199。映像鑑賞。	動詞の歯音変化と唇音変化を覚える。再帰動詞のしくみと変化について。個数詞を 199 まで口頭練習。映像鑑賞。
第 13 回	動詞の現在、過去、未来形の復習。会話練習。練習問題。個数詞 11～199。映像鑑賞。	前期に学習したロシア語文法とロシア語の会話表現、疑問文、個数詞の復習を行う。映像鑑賞。
第 14 回	期末試験。	筆記とリスニング、もしくはディクテーションからなる期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習。復習を兼ねた課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

## 【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版（白水社）  
その他、プリントやテキストを適宜、配付します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。授業開始日は 4 月 27 日（月）16 時 50 分～、学習支援システムにて。

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでどおり、文法の基礎固めのために分かり易い論理的な説明を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 1 and Russian 5.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar and increase the vocabulary of Russian. We will be able to say greetings and easy conversation in Russian.

LANr100LA

## ロシア語 4

2017 年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 3、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきましょう。この授業が終わる頃には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がつきます。SA ロシアに向けて、口語的表現の習得にも力を入れます。

## 【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活に困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ロシア語 3 と同じ教材を使用し、各担当教員がリレー方式で授業を行います。ロシア語 3 で学んだ文法事項を復習しつつ、練習問題を解いたり、テキストを読解することで応用力を養います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学んだ事項の確認と復習。
2	対格の用法	対格の説明と用法練習。
3	対格を使った表現	曜日など対格が含まれる表現の練習。
4	交通の表現	交通の手段と行先の表現（前置格、対格の応用）
5	所有代名詞・形容詞の格変化（前置格・対格）	所有代名詞・形容詞の格変化の説明と練習。
6	生格の用法	生格の説明と練習。
7	生格の用法	生格の説明と練習。
8	与格と造格の用法	与格と造格の説明と練習。
9	与格と造格の復習	名詞の格変化の総復習。
10	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の概念としくみ。練習問題。
11	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の復習
12	関係代名詞	関係代名詞のしくみについて
13	関係代名詞・目的を示す接続詞	関係代名詞の練習
14	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学で予習、復習は大切です。新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことはしっかり復習しましょう。格変化は変化表でくりかえし確認し覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

## 【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業を目指します。授業には積極的に参加しましょう。

## 【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 3 and Russian 6.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

LANr100LA

## ロシア語5

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語1、2で学んだことを復習しつつ、ロシア語の正しい発音、基本的な単語や文法を習得していきます。

## 【到達目標】

ロシア語のアクセントの位置やイントネーションを確認して、正しく発音できるようになること、また教科書に出てきた単語や文法を習得することを目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために単語テストを実施します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文字と発音	ロシア（キリル）文字の発音練習。
2	文字と発音	ロシア（キリル）文字の発音練習。
3	基本文型（～は～である。～に～がある。）	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
4	基本文型（～は～である。～に～がある。）	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
5	名詞の複数、所有代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	形容詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の過去形、副詞、格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の現在形、未来形、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	動詞の現在形、未来形、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	動詞の命令形、対格、曜日	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	動詞の命令形、対格、曜日	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	運動の動詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	運動の動詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語の暗記、宿題の準備。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

法政大学ロシア語担当教員編『初級ロシア語』

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（50%）。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

一歩一歩着実にレベルアップしていきましょう。

## 【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to give students practice at listening and speaking, and (2) to teach students useful words and expressions.

LANr100LA

## ロシア語6

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で初級ロシア語を学んだ学生を対象とした授業です。ロシア語3、4で学んだことを復習しつつ、基本的な単語や文法を習得していきます。

## 【到達目標】

教科書に出てきた単語や文法を習得することによって、ロシア語検定試験の4・3級レベルに合格する程度の力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために単語テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	形容詞・所有代名詞の対格、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
2	形容詞・所有代名詞の対格、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
3	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
4	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
5	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の完了体、不完了体	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の完了体、不完了体	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	関係代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	関係代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	数詞と名詞の結合	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	数詞と名詞の結合	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	比較級、最上級、仮定法	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語の暗記、宿題の準備。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

法政大学ロシア語担当教員編『初級ロシア語』。

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

一步一步着実にレベルアップしていきましょう。

## 【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to teach students basic grammar, useful words, and expressions; (2) to give students practice at writing, listening, and speaking.

LANr100LA

## ロシア語 1 - I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで`の開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで`その都度提示します。本授業の開始日は4月23日（木2）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス；最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第 1 課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第 1 課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第 2 課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第 5 課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2 課から 4 課）、第 5 課 動詞（不定形と過去形）
10	第 5 課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
12	第 6 課 前置格	第 6 課 前置格

13 春学期の復習 春学期の復習（5 課と 6 課の動

詞と格変化を中心に復習）

14 春学期授業内期末試験 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020 年

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
 ・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き－3 級・4 級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005 年、¥1650）  
 ・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が`オンラインで`の開講となったことにとまない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。

## 【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

## ロシア語 1 - II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

## 【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、初級文法を着実に習得し練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形、曜日	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト（7 課と 8 課）
7	第 9 課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の総復習	秋学期の総復習
14	期末テスト	期末テスト（9-11 課）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。

ロシア語能力検定試験 4 級、3 級に向けて練習問題・過去問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編、2020 年）

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
 ・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

## 【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

## 【その他の重要事項】

ロシア語 1-I を履修していることが受講条件です。授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

## ロシア語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1）文字と発音の習得、2）初級文法の最初の段階。

## 【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。これにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示するので、同システムの情報を常に確認するようにしてください。本授業の開始日は5月6日水曜とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語 1-II」とセットになっています。また、「ロシア語 2-I」と提携して行なわれる授業です。ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから、英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。毎回小テスト等で復習しながら、着実にものにしていきたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。

⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。  
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、5月6日の授業開始以降、学習支援システムで提示します。以下は変更前の方法と基準です。参考にしてください。

平常点 20%、期末試験 80%。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

## 【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.).

LANr100LA

## ロシア語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

## 【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「ロシア語 1 - I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2 - II」と提携して行なわれる授業です。ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。問題を繰り返し解く反復練習を行い、春学期にも増して小テスト等での復習を重視します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形など。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

## 【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

## 【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA

## ロシア語2 - I

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>o</sup>の開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>o</sup>その都度提示します。本授業の開始日は4月27日（月1）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス：最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第1課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第1課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント、母音の弱化、子音の同化
3	第2課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第5課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2課から4課）、第5課 動詞（不定形と過去形）
10	第5課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）

12	第6課 前置格	第6課 前置格
13	春学期の復習	春学期の復習（5課と6課の動詞と格変化を中心に復習）
14	春学期授業内期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切なです。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけてください。小テスト前には集中的に復習をしましょう。また、ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をするなど、自ら学習を深めてください。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020年

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404  
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）  
 ・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き - 3級・4級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005年、¥1650）  
 ・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019年、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が<sup>o</sup>オンラインで<sup>o</sup>の開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。

## 【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

## ロシア語2-II

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

## 【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。また、ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、必須単語を習得、過去問題や練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。初級文法の規則性、基礎変化等を繰り返し覚えながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使してテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト（7-8 課）、会話の練習、自己紹介等
7	第 9 課 前置格（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定対策問題も解いていく
14	期末試験	期末試験（9-11 課）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けて準備を進める。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404  
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）  
 ・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

## 【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

## 【その他の重要事項】

ロシア語 2-I を履修した学生が対象です。授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

## ロシア語2 - I

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

## 【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで<sup>o</sup>の開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで<sup>o</sup>その都度提示します。本授業の開始日は4月24日（金4）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス：最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第1課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第1課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント、母音の弱化、子音の同化
3	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第5課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2課から4課）、第5課 動詞（不定形と過去形）
10	第5課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）

12	第6課 前置格	第6課 前置格
13	春学期の復習	春学期の復習（5課と6課の動詞と格変化を中心に復習）
14	春学期授業内期末試験	春学期授業内期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切なです。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけてください。小テスト前には集中的に復習をしましょう。また、ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をするなど、自ら学習を深めてください。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020年

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404  
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）  
 ・『ロシア語能力検定試験 合格への手引き - 3級・4級対策問題集』北岡千夏、横井幸子、三浦由香利著（2005年、¥1650）  
 ・『ティータイムのロシア語』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著（2019年、¥2310）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が<sup>o</sup>オンラインで<sup>o</sup>の開講となったことにとまない、成績評価の方法と基準も変更します。授業への積極的な参加、課題提出とその評価が基本です。通学が可能になった場合は、学期末でのテストを加えた総合評価を考えています。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。

## 【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

## ロシア語2-II

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

## 【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。また、ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、必須単語を習得、過去問題や練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。初級文法の規則性、基礎変化等を繰り返し覚えながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使してテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第7課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第7課 対格、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第8課 運動の動詞1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第8課 運動の動詞2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト（7-8課）、会話の練習、自己紹介等
7	第9課 前置格（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第9課 対格（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第10課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第10課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第11課 与格	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第11課 造格	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定対策問題も解いていく
14	期末試験	期末試験（9-11課）・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。ロシア語能力検定試験4級合格に向けて準備を進める。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHKロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。授業外の学習時間は一時間以上を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

## 【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404  
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）  
 ・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620

## 【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の60%となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40%とし、総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

## 【その他の重要事項】

ロシア語2-Iを履修した学生が対象です。授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性があります。

## 【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になると思います。それのともなう各回の授業計画の変更は、学習支援システムでその都度お知らせします。

この授業は4月23日(木)を開始日としますので、学習支援システムで提示されている事前準備を必ず行って下さい。

また、火曜日2限、孫琦先生とリレー方式で授業を行います。中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期における対面授業の開始日により、成績評価の方法と基準も変わってきます。現段階では、もし対面式授業が可能な場合は、各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト70%、平常点（小テスト含む）30%）

となります。

万が一、対面授業が春学期中に行われなかった場合は、毎回の課題の実施状況（eラーニングなど）によって評価することになると考えています。

具体的な方法と基準は、決まり次第学生支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようで、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの 復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの 復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成し  
たり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各  
回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言  
しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判  
断し、評価します。

（期末テスト 70%、平常点（小テスト含む）30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようでしたの  
で、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法 1 年 1・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度表示します。本授業の開始日は4月23日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

講義中に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 7～8 割、小テスト・授業態度を 2～3 割として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は講義中に説明します。出席回数が授業回数 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。

※当面の間、オンラインでの開講になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更になります。対面授業が再開されなかった場合は、毎回の課題の実施状況によって評価します。具体的な基準に関しては、状況を見ながら後日学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法 1 年 I・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

講義中に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を 7～8 割、小テスト・授業態度を 2～3 割として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細については講義中に説明します。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とします）。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

※ 4 月 25 日（土）から学習支援システムによる授業を開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつこ とば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 Ⅰ Ⅱ

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

NHK テレビ講座テキスト、NHK ラジオ講座テキスト

## 【成績評価の方法と基準】

・全授業回数の三分の二以上出席すること。

（欠席が三分の一を越えた時点で不合格とする）

・E 宿題 20 %、中間試験 40 %、期末試験 40 % の割合で計算し成績評価をする。

・E 宿題（全 20 回の予定）は 1 回につき期日までにやれば 1 点、期日を過ぎた場合は 0.5 点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・発音練習をするときは大きな声で発音すること。

・授業に集中すること。

・疑問に感じたこと、よくわからないことがあれば遠慮なく質問すること。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

NHK テレビ講座テキスト、NHK ラジオ講座テキスト

## 【成績評価の方法と基準】

・全授業回数の三分の二以上出席すること。

（三分の一以上欠席した時点で不合格とする）

・E 宿題 20 %、中間試験 40 %、期末試験 40 % の割合で計算し成績評価をする。

・E 宿題（全 20 回の予定）は 1 回につき期日までにやれば 1 点、期日を過ぎた場合は 0.5 点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・発音練習するときは大きな声で発音すること。

・授業に集中すること。

・疑問やよくわからないところがあれば遠慮なく質問すること。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。本授業の開始日は 4 月 21 日です。オンラインでの開講に伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。その内容については、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

## 【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕(40%) および期末試験(60%)の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

## 【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

※変更がありますので「学習支援システム」を確認してください。

※授業開始日は 4 月 22 日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など  
そのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（e 宿題 20 % と小テスト 30 %）、学期末試験 50 %  
①本クラスでは、e 宿題（教科書準拠の e ラーニング）を授業時間外学習の復習教材として使用します。平常点に加味されますので、毎回かならず取り組んでください。

②毎回、音読あるいは書き取りの小テストを行います。

③原則として遅刻は厳禁です。

※変更がありますので「学習支援システム」を確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業外学習として e 宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など  
そのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（e 宿題 20 %と小テスト 30 %）、学期末試験 50 %

①本クラスでは、e 宿題（教科書準拠の e ラーニング）を授業時間外学習の復習教材として使用します。平常点に加味されますので、毎回かならず取り組んでください。

②毎回、音読あるいは書き取りの小テストを行います。

③原則として遅刻は厳禁です。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業外学習として e 宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 B~G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 Ⅰ Ⅱ

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 B～G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの 復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの 復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成し  
たり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各  
回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 H・I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

※変更がありますので「学習支援システム」で確認してください。

※授業開始日は 4 月 22

日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など  
そのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（e 宿題 20 %と小テスト 30 %）、学期末試験 50 %

①本クラスでは、e 宿題（教科書準拠の e ラーニング）を授業時間外学習の復習教材として使用します。平常点に加味されますので、毎回かならず取り組んでください。

②毎回、音読あるいは書き取りの小テストを行います。

③原則として遅刻は厳禁です。

※変更がありますので「学習支援システム」で確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業外学習として e 宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 H・I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）などそのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（e 宿題 20 %と小テスト 30 %）、学期末試験 50 %

①本クラスでは、e 宿題（教科書準拠の e ラーニング）を授業時間外学習の復習教材として使用します。平常点に加味されますので、毎回かならず取り組んでください。

②毎回、音読あるいは書き取りの小テストを行います。

③原則として遅刻は厳禁です。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業外学習として e 宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 L~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席は 4 回までです 5 回以上休んだ者は不合格です。遅刻 2 回で 1 回欠席。

期末テスト 70 %、授業態度 20 %、e 宿題 10 %、で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく、勉強しやすいように伝える努力をします。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 L~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席は 4 回まで、5 回以上は不合格です。2 回遅刻で 1 回欠席です。期末テスト 70 %、授業態度 20 %、e 宿題 10 % で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲や勉強の仕方について、もう少しわかりやすく伝えていきます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

倉持 貴文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に 1 課ずつ進めていきます。私の授業では、文法事項（ポイント）を説明してから本文に入ることが多くなると思います。単語、補充単語、本文は何回も音読してください。原則、練習問題は時間内に答え合わせをするつもりですが、宿題になることもあります。家に帰ってから、よく復習し、e 宿題をやってください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつこ とば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が大事です。予習・復習を十分に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。e 宿題は必ずやること。その前に CD を使ってよく復習してください。予習としても、よく耳をすませて CD を何度も聞いてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教科書に適した参考書は特にありません。ただ、参考書がなくて不安な人は、中国語に関するものがたくさん出版されているので、そのなかで自分に合っていると思うものを購入してください。推薦辞書『中日辞典第 3 版』小学館。

## 【成績評価の方法と基準】

概ね期末試験 60%。平常点とは、毎回の授業で作業した内容を総合した点数です。本文の発音・翻訳をはじめとして、教師からの質問への答え、宿題、小テストなどを含みます。いわゆる「出席点はありません。なるべく欠席・遅刻せず、積極的に授業に参加すれば、結果的に平常点は多くなります。

## 【学生の意見等からの気づき】

初修外国語を学ぶ場合、少人数クラスであれば発音をていねいにチェックできますが、多人数クラスではひとりひとりの音を直していくのはかなり困難になります。きちんとした音を身につけるには、各自のモチベーションを高め、予習復習をていねいにやるしかありません。授業中にわからない・はっきりしないことがあれば、すぐに教師に言ってください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語ⅠⅡ

2017年度以降入学者

倉持 貴文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文1年Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が大事です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。CDを十分に活用して予習復習をしてください。e宿題は必須。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし。

推薦辞書『中日辞典第3版』小学館。

## 【成績評価の方法と基準】

おおむね期末試験60%。平常点40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

教師のほうから質問したとき、注意力・集中力がなく、まともに答えられない人が多くなっています。直前に言ったことが聞き取れていないのです。ぜひ、授業に集中してください。もし私が言ったことがわからなければ、すぐ・その場で指摘してください。また、授業が終わってから質問に来る人がいますが、なるべく授業中にしてください。わからない・はっきりしないことは共通していることが多いです。恥ずかしがらず発言してください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 U・V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストの合計点により期末テストの点数に 0.6～1.2 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問にきてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 U・V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストの合計点により期末テストの点数に 0.6~1.2 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問にしてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー考察記入（50%）＋定期試験（50%）＝100%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時に個別指導を強化して学生の理解度チェックを図っていきます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大切です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー考察記入（50 %）＋定期試験（50 %）＝ 100 %

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時の個別指導を強化して学生の到達度チェックを図っていきます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 B・C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になると思います。それのともなう各回の授業計画の変更は、学習支援システムでその都度お知らせします。

この授業は4月23日(木)を開始日としますので、学習支援システムで提示されている事前準備を必ず行って下さい。

また、火曜日3限、孫琦先生とリレー方式で授業を行います。中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期における対面授業の開始日により、成績評価の方法と基準も変わってきます。現段階では、もし対面式授業が可能な場合は、各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト70%、平常点（小テスト含む）30%）

となります。

万が一、対面授業が春学期中に行われなかった場合は、毎回の課題の実施状況（eラーニングなど）によって評価することになると考えています。

具体的な方法と基準は、決まり次第学生支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようで、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 B・C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト 70%、平常点（小テスト含む）30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようでしたので、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー記入 (50%) + 定期試験 (50%) = 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時に個別指導の時間を設けて学生の到達度をチェックしていきます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語ⅠⅡ

2017年度以降入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語Ⅰ・Ⅱの教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
小テストを行います。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー記入(50%) + 定期試験(50%) = 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業時に学生の個別指導を実施して各自の到達度チェックを図っていきます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。本授業の開始日は 4 月 21 日です。オンラインでの開講に伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。その内容については、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

## 【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 Ⅰ Ⅱ

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕(40%) および期末試験(60%)の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

## 【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

倉持 貴文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に 1 課ずつ進めていきます。私の授業では、文法事項（ポイント）を説明してから本文に入ることが多くなると思います。新出単語、補充単語、本文を何回も音読してください。原則、練習問題は時間内に答え合わせをするつもりですが、宿題になることもあります。家に帰ってからよく復習し、e 宿題をやってください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし。

推薦辞書『中日辞典第 3 版』小学館

## 【成績評価の方法と基準】

おおむね期末試験 60%。平常点 40%。平常点とは、毎回の授業で作業した内容を総合した点数です。本文の発音・翻訳をはじめとして、教師からの質問への答え、宿題・小テストなどを含みます。いわゆる「出席点」はありません。なるべく欠席・遅刻せず、積極的に授業に参加すれば、結果的に平常点は多くなります。

## 【学生の意見等からの気づき】

初修外国語を学ぶ場合、少人数クラスであれば発音をていねいにチェックできますが、多人数クラスではひとりひとりの音を直していくのはかなり困難になります。きちんとした音を身につけるには、各自のモチベーションを高め、予習復習をていねいにやるしかありません。授業中にわからない・はっきりしないことがあれば、すぐに教師に言ってください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

倉持 貴文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし。

推薦辞書『中日辞典第 3 版』小学館

## 【成績評価の方法と基準】

おおむね期末試験 60%。平常点 40%。平常点とは、毎回の授業で作業した内容を総合した点数です。本文の発音・翻訳をはじめとして、教師からの質問への答え、宿題・小テストなどを含まれます。いわゆる「出席点」はありません。なるべく欠席・遅刻せず、積極的に授業に参加すれば、結果的に平常点は多くなります。

## 【学生の意見等からの気づき】

初修外国語を学ぶ場合、少人数クラスであれば発音をていねいにチェックできますが、多人数クラスではひとりひとりの音を直していくのはかなり困難になります。きちんとした音を身につけるには、各自のモチベーションを高め、予習復習をていねいにやるしかありません。授業中にわからない・はっきりしないことがあれば、すぐに教師に言ってください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習  
14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『東京外国語大学言語モジュール 中国語』 <http://www.coelAng.tufts.Ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

他に任意の小テストを行い、優秀な成績には加点をする。

授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻・早退は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

他に任意の小テストを行い、優秀な成績には加点をする。

授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻・早退は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席は 4 回まで、5 回以上は不合格です。

期末テスト 70 %、授業態度 20 %、e 宿題 10 % で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく、伝えます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70 %、授業態度 20 %、e 宿題 10 % で評価します。欠席は 4 回まで、5 回以上は不合格です。遅刻 2 回で欠席 1 回になります。

## 【学生の意見等からの気づき】

評価基準とテスト範囲をわかりやすく伝えます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 O・Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

※ 4 月 25 日（土）から学習支援システムによる授業を開始します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 O・Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」 までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」 までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）40 %、期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）40 %、期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 I I

2017 年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日です。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示いたします。基本的には中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方。 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」のまとめ
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文の基本」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文の基本」あるいは「名詞述語文の基本」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文の基本」あるいは「連体修飾語、連用修飾語の基本」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語の基本」あるいは「動詞述語文 1 “是” の用法他」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2 “的” の用法他」あるいは「動詞述語文 3 “有”(所有) の用法他」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4 “有”(所属) の用法他」あるいは「動詞述語文 5 “有”(存在) の用法他」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6 “請” の用法他」あるいは「動詞述語文 7 連動文他」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」あるいは「変化態」

- 13 授業内口頭試験・まと 「第 1 課から第 20 課」までの口  
めと解説 頭試験、まとめと解説
- 14 授業内筆記試験・まと 「第 1 課から第 20 課」までの筆  
めと解説 記試験、まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 30 分～1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）に取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、後日学習支援システムで提示いたします。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストと期末の口頭試験は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用する web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』は、スマートフォンやネットに接続された自宅の PC、学内の PC での学習が可能です。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、学習支援システムを介し、担当者にお寄せください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語ⅠⅡ

2017年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語Ⅰ・Ⅱの教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文1 形容詞と副詞他」 あるいは「形容詞述語文2 比較の用法他」
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文3 “多～”の用法他」 あるいは「名詞述語文1 月日・曜日他」
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文2 時刻他」あるいは 「名詞述語文3 金額他」
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語の用法他」あるいは 「連用修飾語の用法他」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「補語1 程度補語他」あるいは 「補語2 数量補語他」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「補語3 結果補語他」あるいは 「補語4 方向補語他」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「補語5 可能補語他」あるいは 「助動詞の用法他」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文の用法他」あるいは「受け身表現他」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「“把”構文の用法他」あるいは 「存現文の用法」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第40課」までの復習
13	授業内筆記試験・まとめと解説	「第21課から第40課」までの筆記試験、まとめと解説
14	授業内口頭試験・まとめと解説	「第21課から第40課」までの口頭試験、まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各30分～1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）に取り組みいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URLのページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

## 【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行う小テストの結果やweb教材を用いた自宅学習も評価に反映させ、授業への参加姿勢などの平常点、口頭試験、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点20%、小テスト20%、自宅学習20%、口頭試験20%、期末試験20%となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストと期末の口頭試験は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。口頭試験と筆記試験の順序を変えてほしいという要望については、意図してこの順序としているため、申し訳ありませんが現時点での変更は考えておりません。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用するweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』は、スマートフォンやネットに接続された自宅のPC、学内のPCでの学習が可能です。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、その都度個別に時間をとり、教室もしくは会議室などで対応します。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 G~K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）40 %、期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 G~K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの 復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの 復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成し  
たり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各  
回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）40 %、期末試験 60 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

法 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席は 4 回まで、5 回以上は不合格です。遅刻 2 回で欠席 1 回です。期末テスト 70 %、授業態度 20 %、e 宿題 10 % で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 II

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

法 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

欠席は 4 回まで、5 回以上は不合格です。遅刻 2 回で欠席 1 回です。期末テスト 70 %、授業態度 20 %、e 宿題 10 % で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」 までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」 までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』 小学館

『中日辞典』 講談社

NHK テレビ講座テキスト、NHK ラジオ講座テキスト

## 【成績評価の方法と基準】

・全授業回数の三分の二以上出席すること。

（三分の一以上欠席した時点で不合格とする）

・E 宿題 20 %、中間試験 40 %、期末試験 40 % の割合で計算し成績評価をする。

・E 宿題（全 20 回の予定）は 1 回につき期日までにやれば 1 点、期日を過ぎた場合は 0.5 点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・発音練習をするときは大きな声で発音すること。

・授業に集中すること。

・疑問やよくわからないところがあったら遠慮なく質問すること。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
 部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
 出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
 練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
 小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。  
 語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各  
 回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

NHK テレビ講座テキスト、NHK ラジオ講座テキスト

## 【成績評価の方法と基準】

・全授業回数の三分の二以上出席すること。

（三分の一以上欠席した時点で不合格とする）

・E 宿題 20 %、中間試験 40 %、期末試験 40 % の割合で計算し成績評価をする。

・E 宿題（全 20 回の予定）は 1 回につき期日までにやれば 1 点、期日を過ぎた場合は

0.5 点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・発音練習をするときは大きな声で発音すること。

・授業に集中すること。

・質問・疑問があれば遠慮なく発言すること。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

- 13 「第 3 9 課」 「把構文」  
あるいは 「あるいは」  
「第 4 0 課」 「存現文」
- 14 「第 3 6 課から 4 0 課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

## 【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 斉 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』（小学館）

もしくはほかの辞書（ネットで使えるものも可）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します

出席は必須とする

そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 齊 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します

出席は必須とする

そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1  
 単位数：1 単位  
 法 1 年 I・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト (約 25 分) を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習 (約 40 分)。3) 文法問題の演習、会話 (約 35 分)。また授業は教室での学習と自宅での学習 (予習、復習) を組み合わせて進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、 発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」
第 13 回	第 1 課～第 20 課の復習	第 1 課～第 20 課の発音、文法事項に関する復習
第 14 回	第 1 課～第 20 課の文法問題の演習	第 1 課～第 20 課の文法問題に関する演習、確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

## 【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法 1 年 1・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進捗で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習 1	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	復習、文法問題の演習 2	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 秋期の文法問題の演習「第 2 1 課から第 4 0 課」までの文法問題の演習、確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

法 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

注意！（4 月 23 日よりオンライン授業がスタート。オンライン授業が続く間は先生がアップロードした動画を見て、指示に従い課題を提出するという形で授業を進めて行くにします。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつとば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

教室試験が行えない場合は、オンライン授業を受けて提出した課題の完成度などの平常点 (60%)、オンライン期末試験 (40%) という割合で総合的に評価します。

教室試験を行う場合は、平常点 (40%)、期末試験 (60%) とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

法 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 斉 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します

出席は必須とする

そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 斉 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します

出席は必須とする

そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 斉 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します

出席は必須とする

そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 斉 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

もしくはほかの辞書（ネットで使えるものも可）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します

出席は必須とする

そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 馬 挺

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）

それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。

（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）

香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）

相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。

2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。

（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）

3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で教員と学生との真剣勝負！ 意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

## 【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。

PC、DVD、ブルーレイの放映機器

初級なら、ほかに PC。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

馬 挺

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
 部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
 出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
 練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
 小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）

それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。

（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）

香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）

相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。

2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。

（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）

3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で教員と学生との真剣勝負！ 意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

## 【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。

PC、DVD、ブルーレイの放映機器

初級なら、ほかに PC。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

王安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

文 1 年 B~G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日(木)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などは、学習支援システムで提示している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」

11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）

その他の資料は授業で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 30 %、平常点 10 % を総合して評価する。

変更：

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思えます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

文 1 年 B~G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）

その他の資料は授業で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 30 %、平常点 10 % を総合して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思えます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 馬 挺

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 H・I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）

それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。

（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）

香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）

相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。

2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。

（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）

3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で教員と学生との真剣勝負！ 意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

## 【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。

PC、DVD、ブルーレイの放映機器

初級なら、ほかに PC。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

馬 挺

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 H・I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）

それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。

（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）

香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）

相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。

2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。

（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）

3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で教員と学生との真剣勝負！ 意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

## 【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。

PC、DVD、ブルーレイの放映機器

初級なら、ほかに PC。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 L~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 春学期の授業内容全般「第 1 課から第 20 課」までの到達度チェック。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

四技能、すなわち中国語にかかわる書く、聴く、言う、読むに関するもの

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価と方法（100 点満点）

- 1、授業受講時の態度、姿勢、出席（欠席五回以上は失格）など：20 点
- 2、春学期期末における到達度チェック：80 点

## 【学生の意見等からの気づき】

随時学生の声に耳を傾き、授業の改善を大前提に対応する。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 L~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	秋学期授業内容の全般	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの到達度チェック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法（100 点満点）

1、授業受講の態度、姿勢、出席回数（欠席五回以上は失格する）：

20 点

2、期末到達度チェック：

80 点

## 【学生の意見等からの気づき】

板書をすぐに消さない

説明のスピードに注意する

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

個別指導する

## 【成績評価の方法と基準】

毎週小テストを行い、小テスト点数 (30%) を期末テストの成績 (70%) と合わせて最終評価を出す。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

個別に指導する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎週小テストを行い、小テスト点数 (30%) を期末テストの成績 (70%) と合わせて最終評価を出す。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 U・V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

新型コロナウイルス蔓延により、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」

11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は毎回授業中で行う小テストが 25 点で、毎回授業後、復習のために e 宿題をやるのが 15 点で、中間テストと期末テストが 60 点です。

欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

楽しい授業になるように心がけます。

発音が楽しい！先生が丁寧に分かりやすく発音を教えます。

練習が楽しい！学生がペアになって会話を練習します。

発表が楽しい！学生がクラス或いはグループで会話を発表します。

中国の文化が楽しい！先生が授業内容にあわせて、随時中国の若者の生活、中国人の伝統、流行の歌などを紹介します。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 U・V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は毎回授業中で行う小テストが 25 点で、毎回授業後、復習のために e 宿題をやるのが 15 点で、中間テストと期末テストが 60 点です。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

楽しい授業になるように心がけます。

発音が楽しい！先生が丁寧に分かりやすく発音を教えます。

練習が楽しい！学生がペアになって会話を練習します。

発表が楽しい！学生がクラス或いはグループで会話を発表します。

中国の文化が楽しい！先生が授業内容にあわせて、随時中国の若者の生活、中国人の伝統、流行の歌などを紹介します。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

文 1 年 X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

劉の担当授業は 4 月 27 日より開始します。

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつとば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

中日辞典、日中辞典

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、授業参加、小テストや課題の完成など（40%）による総合評価です。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

文 1 年 X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

中日辞典、日中辞典

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、授業参加、小テストや課題の完成など（40%）による総合評価です。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 B・C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」 までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」 までの試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 B・C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

- 13 「第 3 9 課」 「把構文」  
あるいは 「あるいは」  
「第 4 0 課」 「存現文」
- 14 「第 3 6 課から 4 0 課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

## 【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト(約 25 分)を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習(約 40 分)。3) 文法問題の演習、会話(約 35 分)。また授業は教室での学習と自宅での学習(予習、復習)を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、 発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」
第 13 回	第 1 課～第 20 課の復習	第 1 課～第 20 課の発音、文法事項に関する復習
第 14 回	第 1 課～第 20 課の文法問題の演習	第 1 課～第 20 課の文法問題に関する演習、確認

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

## 【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情(健康不良など)があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取る。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習 1	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	復習、文法問題の演習 2	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 秋期の文法問題の演習「第 2 1 課から第 4 0 課」までの文法問題の演習、確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

注意！ 4 月 25 日より最初のオンライン授業がスタート。オンライン授業が続く間は先生がアップロードした動画を見て、指示に従い課題を提出するという形で授業を進めて行くにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつこ とば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

教室試験が行えない場合は、オンライン授業を受けて提出した課題の完成度などの平常点 (60%)、期末試験 (40%) という割合で総合的に評価します。

教室試験を行う場合は、平常点 (40%)、期末試験 (60%) とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

営 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語Ⅱ

2017年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

営 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

## 【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

営 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

劉の担当授業は 4 月 27 日より開始します。

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつとば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第 1 課から第 20 課」までのまとめと試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

中日辞典、日中辞典

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、授業参加、小テストや課題の完成など（40%）による総合評価です。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

営 1 年 L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業のまとめと授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までのまとめと試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

中日辞典、日中辞典

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、授業参加、小テストや課題の完成など（40%）による総合評価です。

## 【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 葉 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」

12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

## 【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2~5 点マイナスになる。

検定試験準 4 級合格者：I 期終了時合格は 90 点プラス。

検定試験 4 級合格者：I 期終了時合格は 100 点プラス。

## 【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 葉 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

## 【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2~5 点マイナスになる。

検定試験準 4 級合格者：Ⅱ期終了時合格は 15 点プラス。

検定試験 4 級合格者：Ⅱ期終了時合格は 90 点プラス。

## 【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

柯 明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年 O・Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日：4 月 21 日～

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しませんが、普段の学習以外ももっと興味があれば、以下の参考書がおすすめです。

木村英樹 著『中国語ははじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）  
発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検-準 4 級』（光生館）など

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も

変更します。

対面授業が再開された場合には、定期試験を実施しますが、再開されなかった場合には、E 宿題と毎回の課題の実施状況によって評価します。

（元の内容：毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点（30%）、期末試験（70%）をもとに総合的に評価します。）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

柯 明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年 O・Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しませんが、普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすです。

木村英樹 著『中国語はじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）

発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検-準 4 級』（光生館）など

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 取 函

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

授業開始日は 4 月 23 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつとば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufts.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末筆記テストを 50 %、会話の小テストや E 宿題をそれぞれ 20 %、また平常

点を 10 %にし、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の学習意欲を引き出し、使える中国語の習得を目指して、様々な工夫を重ねていきたい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 取 函

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 R

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、簡単な会話の練習も取り入れます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufts.Ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

期末筆記テストを 50 %、会話の小テストや E 宿題をそれぞれ 20 %、また平常

点を 10 %にし、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の学習意欲を引き出し、使える中国語の習得を目指して、様々な工夫を重ねていきたい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

\* 4 月 25 日よりオンライン授業が始まります。学習支援システムを使ってください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。毎週 1 時間を目標に予習・復習をしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

日中・中日辞典（電子辞書も可）

## 【成績評価の方法と基準】

（\*オンライン授業の場合は、課題の完成度が平常点として評価されます。）

期末試験の成績（100 点）を基本とする。小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

## 【学生の意見等からの気づき】

各課の難易度に従って、適度に授業の進行を調節します。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	まとめ	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は、1 時間ほど各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

日中・中日辞典（電子辞書も可）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 点）の成績を基本とします。小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

## 【学生の意見等からの気づき】

各課の難易度によって適度に進行を調節します。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

蒋 彧婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

営 1 年 G~K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」

12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果を生かしていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

蒋 彧婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

営 1 年 G~K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
小テストを行います。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、 把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方  
でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テ  
スト（20 %）、

平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしてい  
きたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

注意！ 4 月 25 日より最初のオンライン授業がスタート。オンライン授業が続く間は先生がアップロードした動画を見て、指示に従い課題を提出するという形で授業を進めて行くにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

教室試験が行えない場合は、オンライン授業を受けて提出した課題の完成度などの平常点 (60%)、期末試験 (40%) という割合で総合的に評価します。

教室試験を行う場合は、平常点 (40%)、期末試験 (60%) とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

## 薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

営 1 年 S

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」 までの復習

14 春学期の授業内容全般 「第 1 課から第 20 課」 までの到達度チェック。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

## 【参考書】

四技能、すなわち中国語にかかわる書く、聴く、言う、読むに関するもの

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価と方法（100 点満点）

- 1、授業受講時の態度、姿勢、出席（欠席五回以上は失格）など：20 点
- 2、春学期期末における到達度チェック：80 点

## 【学生の意見等からの気づき】

随時学生の声に耳を傾き、授業の改善を大前提に対応する。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

営 1 年 S

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	秋学期授業内容の全般	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの到達度チェック

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大切です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』（小学館）

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法（100 点満点）

1、授業受講の態度、姿勢、出席回数（欠席五回以上は失格する）：

20 点

2、期末到達度チェック：

80 点

## 【学生の意見等からの気づき】

板書をすぐに消さない

説明のスピードに注意する

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 I

2017 年度以降入学者

柯 明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月21日～

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しませんが、普段の学習以外ももっと興味があれば、以下の参考書がおすすめです。

木村英樹 著『中国語ははじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）  
発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検-準4級』（光生館）など

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も

変更します。

対面授業が再開された場合には、定期試験を実施しますが、再開されなかった場合には、E宿題と毎回の課題の実施状況によって評価します。

（元の内容：毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点（30%）、期末試験（70%）をもとに総合的に評価します。）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 II

2017 年度以降入学者

柯 明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

指定しませんが、普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすです。

木村英樹 著『中国語はじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）

発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検-準 4 級』（光生館）など

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語(1) I

2017年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

NHK テレビ講座テキスト、NHK ラジオ講座テキスト

## 【成績評価の方法と基準】

・全授業回数の三分の二以上出席すること。

（三分の一以上欠席した時点で不合格とする）

・E 宿題 20 %、中間試験 40 %、期末試験 40 % の割合で計算し成績評価をする。

・E 宿題（全 20 回の予定）は 1 回につき期日までにやれば 1 点、期日を過ぎた場合は 0.5 点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・発音練習をするときは大きな声で発音すること。

・授業に集中すること。

・質問や疑問があれば遠慮なく発言すること。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

NHK テレビ講座テキスト、NHK ラジオ講座テキスト

## 【成績評価の方法と基準】

・全授業回数の三分の二以上出席すること。

（三分の一以上欠席した時点で不合格とする）

・E宿題20%、中間試験40%、期末試験40%の割合で計算し成績評価をする。

・E宿題（全20回の予定）は1回につき期日までにやれば1点、期日を過ぎた場合は0.5点とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

・発音練習するときは大きな声を出すこと。

・授業に集中すること。

・質問や疑問があれば遠慮なく発言すること。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語(1) I

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

※変更がありますので「学習支援システム」で確認してください。

※授業開始日は4月21日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など  
そのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（e宿題 20%と小テスト 30%）、学期末試験 50%

①本クラスでは、e宿題（教科書準拠のeラーニング）を授業時間外学習の復習教材として使用します。平常点に加味されますので、毎回かならず取り組んでください。

②毎回、音読あるいは書き取りの小テストを行います。

③原則として遅刻は厳禁です。

※変更がありますので「学習支援システム」で確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）などそのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%（e宿題20%と小テスト30%）、学期末試験50%

①本クラスでは、e宿題（教科書準拠のeラーニング）を授業時間外学習の復習教材として使用します。平常点に加味されますので、毎回かならず取り組んでください。

②毎回、音読あるいは書き取りの小テストを行います。

③原則として遅刻は厳禁です。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語(2) I

2017年度以降入学者

## 康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それともなう各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月25日とし、この日までに具体的なオンライン授業方法などを学習支援システムで掲示します。中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつとば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

対面授業が再開された場合には期末試験を実施するが、再開されなかった場合には、毎回の課題の実施状況によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎が大事です。繰り返し発音練習を根気よく指導します。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語(2)Ⅱ

2017年度以降入学者

## 康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新  
出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから  
練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜  
小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。  
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成し  
たり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各  
回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試  
験（40点）により総合評価します

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎が大事です。繰り返し発音練習を根気よく指導します。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語(2) I

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

\*4月25日よりオンライン授業が始まります。学習支援システムを使ってください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。毎週 1 時間ほど復習をしてください。単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、本文を覚えるようにしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

日中・中日辞典（電子辞書も可）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 点）の成績を基本とします。普段の小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

\*オンライン授業の場合は、平常点として評価されます。

## 【学生の意見等からの気づき】

適宜に進度を調節します。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語(2)Ⅱ

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	まとめ	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。毎週1時間を目途に、各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

日中・中日辞典（電子辞書も可）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100点）の成績を基本とします。また、小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

## 【学生の意見等からの気づき】

各課の難易度に応じて適宜に進行を調節します。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

S A 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

## 【到達目標】

新 HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

## ①小テスト（約 20 分）

教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

## ②テキストの学習（約 50 分）

テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。

## ③コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語
第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞“是”の用法

第 8 回 動詞述語文 (2) 動詞“有”の用法

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 9 回 動詞述語文 (3) 名量詞・動量詞

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 10 回 動詞述語文 (4) 連動文

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 11 回 中国語の態 (1) 変化態

中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 12 回 中国語の態 (2) 経験態、進行態・持続態

中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 13 回 形容詞述語文 程度副詞、比較表現①～⑤

形容詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 14 回 名詞述語文 月日・曜日、時刻、金額の表現方法

名詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、そのポイントの 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に応じて与えられる。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

## 【参考書】

劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

## 【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e ラーニングに出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、初回の授業で説明する。

## 【Outline and objectives】

Chinese 1 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 1.

Skills work:

We will expand vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA

## 中国語 3

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

S A 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙 (300 語)、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

## 【到達目標】

新 H S K（漢語水平考試）2 級を取得するのに必要な中国語力を身につけることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。

後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e ラーニング教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学先での授業準備 (1)	e ラーニング教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこで質疑応答に必要な表現力を身につけていく
第 8 回	留学先での授業準備 (2)	同上
第 9 回	留学先での授業準備 (3)	同上
第 10 回	留学先での授業準備 (4)	同上

第 11 回	留学先での授業準備 (5)	同上
第 12 回	留学先での授業準備 (6)	同上
第 13 回	留学先での授業準備 (7)	同上
第 14 回	留学先での授業準備 (8)	同上

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を使用する。

後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e ラーニング教材と HSK（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

#### 【参考書】

劉月華『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e ラーニングに出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

#### 【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、春学期の授業と同じ。

#### 【Outline and objectives】

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 2.

Skills work:

We will extend vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA

## 中国語 2

2017 年度以降入学者

蔣 彧婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎および文法の基本を学び、中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら 2 年次につながる必要な知識を身につけていく。

#### 【到達目標】

中国語の発音ができる。

文法の基礎を理解する。

自己紹介や日常会話などを表現できる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

発音および読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の説明
2	第 1 課～第 3 課	発音 1～3
3	第 4 課～第 6 課	発音 4、あいさつ、動詞述語文
4	第 7 課～第 9 課	形容詞述語文、名詞述語文、主述語文
5	第 10 課～第 12 課	連体・連用修飾語、補語、動詞述語文（一）
6	第 13 課～第 15 課	動詞述語文（二）、動詞述語文（三）、動詞述語文（四）
7	第 16 課～第 18 課	動詞述語文（五）、動詞述語文（六）、動詞述語文（七）
8	第 19 課～第 21 課	完了態、変化態、経験態
9	第 22 課～第 24 課	進行・持続態、形容詞述語文（一）、形容詞述語文（二）
10	第 25 課～第 27 課	形容詞述語文（三）、名詞述語文（一）、名詞述語文（二）
11	第 28 課～第 30 課	名詞述語文（三）、連体修飾語、連用修飾語
12	復習 1	春学期前半の学習内容の復習
13	復習 2	春学期後半の学習内容の復習
14	試験、まとめ、解説	これまでの学習内容の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習してくる。毎課の新出単語と文法をしっかりと記憶し、理解したかどうかチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』  
東方書店

#### 【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に (50 %)、学習態度や学習意欲 (20 %)、小テスト (20 %)、平常点なども (10 %) 勘案して、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を行うため、前年度の授業アンケートをいかしていきたい。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 4

2017 年度以降入学者

蔣 彧婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎および文法の基本を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら 2 年次につながる必要な知識を身に付けていく。

## 【到達目標】

発音の基礎を固める。

文法・構文を理解し、応用することができる。

一般的な会話の聞き取りと表現ができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

発音および読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期期末テストの解説と復習	春学期に習った文法などをどこまで覚えているか、チェックする。
第 2 回	第 31 課～第 33 課	程度補語、数量補語、結果補語
第 3 回	第 34 課～第 36 課	方向補語、可能補語、助動詞
第 4 回	第 37 課～第 39 課	兼語文、受身表現、把構文
第 5 回	第 40 課	存現文
第 6 回	復習 1	自己紹介、挨拶
第 7 回	復習 2	趣味の表現
第 8 回	復習 3	コミュニケーションの常用表現
第 9 回	復習 4	買い物の表現
第 10 回	復習 5	道を尋ねる表現
第 11 回	復習 6	友達を作るための表現
第 12 回	復習 7	授業での常用表現
第 13 回	復習 8	様々な質問表現
第 14 回	試験、まとめ、解説	習った文法を使って、自由に会話させる。これまでの学習内容のまとめ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習してくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

毎課の新出単語と文法をしっかりと記憶し、理解したかどうかチェックすること。

毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』<改訂版>

東方書店

## 【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、

平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を行うため、前期のアンケートの結果を生かしていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 5

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

S A 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

## 【到達目標】

新 HSK（漢語水平考）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

## ①小テスト（約 20 分）

教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

## ②テキストの学習（約 50 分）

テキストを使いながら、発音や文法を中心に学習する。

## ③コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語
第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞“是”の用法

第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “有” の用法
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態
第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	経験態、進行態・持続態
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法と それを使ったさまざまな 表現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそ れを使ったさまざまな 表現を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方 法

We will expand vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけていってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

#### 【参考書】

劉月華ほか『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e ラーニングに出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

#### 【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、初回の授業で説明する。

#### 【Outline and objectives】

Chinese 1 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 1.

Skills work:

LANe100LA

## 中国語6

2017年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙 (300 語)、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

## 【到達目標】

新 HSK (漢語水平考試) 2 級の取得に必要な中国語力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつフリレー式で授業を進めていく。

後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学準備 (1)	e-Learning 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。
第 8 回	留学準備 (2)	同上
第 9 回	留学準備 (3)	同上
第 10 回	留学準備 (4)	同上
第 11 回	留学準備 (5)	同上
第 12 回	留学準備 (6)	同上
第 13 回	留学準備 (7)	同上

第 14 回 留学準備 (8) 同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級』（東方書店）を使用する。

後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材と HSK (漢語水平考試) の過去問データを使用する。

## 【参考書】

劉月華『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

## 【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り (4 問 × 5 点 = 20 点)、短文の聞き取り (2 問 × 10 点 = 20 点)、日文中訳 (2 問 × 10 点 = 20 点)、e-Learning による自宅学習の達成度 (4 種 × 10 点 = 40 点) の計 100 点。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限 (最大 20 題) を設けることにした。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、春学期の授業と同じ。

## 【Outline and objectives】

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 2.

Skills work:

We will extend vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANe100LA

## 中国語 1

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020.04.18 追記

※オンライン授業開始に伴い、授業計画や成績評価が一部変更になる可能性があります。詳しくは、学習支援システムを確認してください。

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心をもち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓? ]、動詞述語文 [你学习什么? ]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服? ]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时? ]、 動詞述語文（一）[她是谁? ]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么? ]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗? ]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几个人? ]、 動詞述語文（五）[这儿有邮局吗? ]

10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什么? ]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗? ]、 変化態 [快要考试了]
12	復習	春学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

## 【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

・劉月華（他）2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館

・相原茂（他）2016『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社

・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう掛けたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

## 【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 3

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心をもち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習項目の復習・確認	既習項目（第一課～第二十課）の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗? ]、進行態・持続態 [你在做什么呢? ]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗? ]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号? ]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点? ]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱? ]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮! ]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好? ]、数量補語 [你打了几年网球? ]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢? ]、受身表現 [衣服都被淋湿了]

11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	秋学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。  
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

## 【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 (他) 2019『実用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則 (他) 2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

## 【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。  
・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビギナーのための初級中国語の授業です。

## 【到達目標】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

発音・文法・語彙等、中国語を運用するための基本能力のトレーニングを行います。

教員の説明と、受講者とのやりとりを通じて、初級に必要なとされる項目をすべて習得します。

注意！ 4月21日より最初のオンライン授業がスタート。オンライン授業が続く間は先生がアップロードした動画を見て、指示に従い課題を提出するという形で授業を進めて行くにします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国語とは
第 2 回	第一課（第二課）	発音（一） 発音（二）
第 3 回	第三課（第四課）	発音（三） 発音（四）
第 4 回	第五課（第六課）	発音の仕上げ、人称代詞、姓名の表現、発音の総復習、四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ
第 5 回	第七課（第八課）	四文型②形容詞述語文、四文型③名詞述語文、数の数え方①
第 6 回	第九課（第十課）	「四文型④主述述語文、身体部分のいい方、連体修飾語 連用修飾語
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課（第十二課）	「補語」、「動詞述語文（一）」
第 9 回	第十三課（第十四課）	「動詞述語文（二）」、「動詞述語文（三）」
第 10 回	第十五課（第十六課）	「動詞述語文（四）」、「動詞述語文（五）」
第 11 回	第十七課（第十八課）	動詞述語文（六）、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 12 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 13 回	第十九課（第二十課）	「完了態」、「変化態」
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室へ来る前に、必ず前週まで習った内容やスピーチの内容を確認してください。また使用するテキストの CD も聞いてきてください。E ラーニングを各自行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語』 改訂版 東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

教室試験が行えない場合は、オンライン授業を受けて提出した課題の完成度などの平常点（60%）、期末試験（40%）という割合で総合的に評価します。

教室試験を行う場合は、平常点（40%）、期末試験（60%）とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

発音の学習はピンインが中心になります。「中国語音節表」を理解できるようにしてください。また日本語と同じように「漢字」を使用しているが、全く別の言語であることも理解してください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 4

2017 年度以降入学者

## 葉 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビギナーのための初級中国語の授業です。

## 【到達目標】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際  
文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

発音・文法・語彙等、中国語を運用するための基本能力のトレー  
ニングを行います。教員の説明と、受講者とのやりとりを通じて、初級に必要なとされる  
項目をすべて習得します。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二十一課（第二十二課）	経験態、可能表現、進行態・持続態
第 2 回	第二十三課（第二十四課）	形容詞述語文（一）、程度の表現、 形容詞述語文（二）、比較表現① ～③、四季と寒暑
第 3 回	第二十五課（第二十六課）	形容詞述語文（三）、比較表現④ ⑤、数の数え方②長さの単位
第 4 回	第二十六課（第二十七課）	名詞述語文（一）、名詞述語文 （二）日時の表現時刻の表現
第 5 回	第二十八課（第二十九課）	名詞述語文（三）、数の数え方③ ～⑤金額の表現、連体修飾語
第 6 回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修 飾語の総復習
第 7 回	第三十一課（第三十二課）	程度補語、球技のいろいろ、数量 補語
第 8 回	第三十三課（第三十四課）	結果補語、方向補語、“是～的”の 表現、家電製品のいろいろ
第 9 回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第 10 回	第三十六課（第三十七課）	助動詞、兼語文、使役表現
第 11 回	第三十八課（第三十九課）	受身表現、“把”構文
第 12 回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について 総復習
第 13 回	総合復習と口頭試験	総合復習と口頭試験
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室へ来る前に、必ず前週まで習った内容やスピーチの内容を確認  
してください。また使用するテキストの CD も聞いてきてください。E ラーニングを各自行ってください。本授業の準備学習・復習時間  
は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語』 改訂版 東方書店

## 【参考書】

指定しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常  
点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

発音の学習はピンインが中心になります。「中国語音節表」を理解で  
きるようにしてください。また日本語と同じように「漢字」を使用  
しているが、全く別の言語であることも理解してください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1

2017 年度以降入学者

曾 士才

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音・基本的文法事項・基本表現を習得し、中国語の基礎力を確立する。また、中国語の学習を通じて、多様な言語で自己表現を行う楽しさを覚えてもらう。

## 【到達目標】

HSK1 級に合格するレベルの基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、初めて中国語を学ぶ人が中国語の基礎力を確立することを目指す。中国語上達の鍵となる発音と、声調・ピンイン・簡体字の習得を徹底する。また、中国語の基本文型を理解する。文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編集したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに、第一課	イントロダクション、発音（一）
第 2 回	第二課、第三課	声母、ピンインのつづり方①、韻母
第 3 回	第三課、第四課	ピンインのつづり方②、韻母、声調
第 4 回	第五課、発音の仕上げ	人称代詞、姓名の表現、発音の総復習
第 5 回	第六課、第七課	四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ、四文型②形容詞述語文
第 6 回	第八課、第九課	四文型③名詞述語文、数の数え方①、四文型④主述述語文、身体部分のいい方
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課、第十二課	補語、動詞述語文（一）、国名・地域名のいろいろ
第 9 回	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、指示代詞①、数詞、量詞、動詞述語文（三）、所有の表現、文房具のいろいろ
第 10 回	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、家族構成の表現、動詞述語文（五）、指示代詞②、存在表現、所在表現、方位名詞、公共施設のいろいろ
第 11 回	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 12 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 13 回	第十九課、第二十課	完了態、変化態
第 14 回	全体のめとめ	前期授業の総復習、練習問題、質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の始めに小テストを実施し、前の週に学んだことの定着度を測ります。学習したことの復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著 『ポイント学習中国語初級【新装版】』 東方書店

## 【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の始めに行う小テスト（100 %）の成績で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

## 【その他の重要事項】

欠席や遅刻が重なると授業についていけなくなります。注意してください。

## 【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping students develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

At the end of this course, students are expected to get a pass in HSK level 1.

LANc100LA

## 中国語2

2017年度以降入学者

## 祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進捗で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト(約 25 分)を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習(約 40 分)。3) 文法問題の演習、会話(約 35 分)。また授業は教室での学習と自宅での学習(予習、復習)を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、 発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	第 15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」
第 13 回	第 1 課～第 20 課の復習	第 1 課～第 20 課の発音、文法事項に関する復習
第 14 回	第 1 課～第 20 課の文法問題の演習	第 1 課～第 20 課の文法問題に関する演習、確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

## 【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取る。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語3

2017年度以降入学者

曾 士才

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音や声調をマスターするとともに、初級中国語の基本的文法事項・基本表現を習得する。また、最終的に中国語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになってもらう。

## 【到達目標】

HSK2 級に合格することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、中国語を習い始めたばかりの人が、基本的文法を習得することを旨とする。また文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二十一課、第二十二課	経験態、可能表現、進行態・持続態
第 2 回	第十九課～第二十二課	中国語の態について総復習
第 3 回	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、程度表現、 形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第 4 回	第二十五課、第二十六課	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、長さの単位
第 5 回	第二十三課～第二五課	形容詞述語文の総復習
第 6 回	第二十六課、第二七課	名詞述語文（一）、時間の表現
第 7 回	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（一）、金額の表現、 連体修飾語
第 8 回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第 9 回	第三十一課、第三十二課	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第 10 回	第三十三課、第三十四課	結果補語、方向補語、家電製品のいろいろ
第 11 回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第 12 回	第三十六課、第三十七課	助動詞、兼語文、使役表現
第 13 回	第三十八課、第三十九課	受身表現、把構文
第 14 回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について 総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の始めに小テストを行い、前の週に学んだことの定着度を測るので、学習したことを復習すること。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著『ポイント学習 中国語初級 [新装版]』東方書店

## 【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の始めに行う小テスト（100 %）の結果で成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

## 【その他の重要事項】

欠席や遅刻が重なると授業についていけなくなります。注意してください。

## 【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping students develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

At the end of this course, students are expected to get a pass in HSK level 2.

LANe100LA

## 中国語 4

2017 年度以降入学者

## 祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 秋期の文法問題の演習「第 2 1 課から第 4 0 課」までの文法問題の演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

康玉華 『漢語 3 0 1 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

## 【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二 音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓? ]、動詞述語 文 [你学习什么? ]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服? ]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年級 的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时? ]、動 詞述語文（一）[她是谁? ]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么? ]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗? ]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口 人? ]、動詞述語文（五）[这儿有 邮箱吗? ]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什 么? ]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗? ]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習

13 中国語検定準 4 級 リスニング問題とその解説

チャレンジ 1

14 中国語検定準 4 級 筆記問題とその解説

チャレンジ 2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

## 【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）] も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

## 【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗? ]、進行態・持続態 [你在做什么呢? ]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗? ]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号? ]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点? ]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱? ]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮! ]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好? ]、数量補語 [你打了几年网球? ]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢? ]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]

11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその 解説 2	筆記問題のその解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店)

## 【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあわせておく。

- ・劉月華 他 『实用現代漢語語法 (増訂本)』(商務印書館)
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』(東方書店)
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』(同人社)

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』(くろしお出版)] も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

## 【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復 習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真 漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地 干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢?
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高 个子

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %

- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二 音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓? ]、動詞述語 文 [你学习什么? ]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服? ]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年級 的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时? ]、動 詞述語文（一）[她是谁? ]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么? ]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗? ]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口 人? ]、動詞述語文（五）[这儿有 邮箱吗? ]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什 么? ]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗? ]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習

13 中国語検定準 4 級 リスニング問題とその解説

チャレンジ 1

14 中国語検定準 4 級 筆記問題とその解説

チャレンジ 2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

## 【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）] も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

## 【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗? ]、進行態・持續態 [你在做什么呢? ]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗? ]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号? ]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点? ]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱? ]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮! ]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好? ]、数量補語 [你打了几年网球? ]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢? ]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]

11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその 解説 2	筆記問題のその解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店)

## 【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあわせておく。

- ・劉月華 他 『实用現代漢語語法 (増訂本)』(商務印書館)
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』(東方書店)
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』(同人社)

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』(くろしお出版)] も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

## 【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復 習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真 漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地 干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好? 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢?
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高 个子

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %

- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十課 快要考试了

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真 漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地 干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢?
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高 个子

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %

- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 E~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」

12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 E~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から第 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I～L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十課 快要考试了

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I～L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真 漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干 了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑫	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑬	さまざまな表現 期末復習	第四十課 大楼门口出来了一个高 个子 一年間勉強した内容をまとめて総 復習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

## 劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」

12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

## 劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復 習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真 漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地 干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑫	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑬	さまざまな表現 期末復習	第四十課 大楼门口出来了一个高 个子 一年間勉強した内容をまとめて総 復習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語2-I

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第1課から第20課」 「第1課から第20課」までの復習

14 授業のまとめと試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語2-II

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 発音（一）
②	発音の基本	第二课 発音（二）
③	発音の基本	第三课 発音（三）
④	発音の基本	第四课 発音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九课 这本书你看了吗？ 第二十课 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復 習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

## 賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~C

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真 漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地 干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑫	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑬	さまざまな表現 期末復習	第四十課 大楼门口出来了一个高 个子 一年間勉強した内容をまとめて総 復習する
⑭	授業のまとめと期末試 験	ヒアリングテスト・筆記試験 まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布  
すること）

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANe100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13 「第 1 課から第 20 課」 「第 1 課から第 20 課」 までの復習

14 授業のまとめと試験 「第 1 課から第 20 課」 までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語2-II

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）50%、期末試験50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~D

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにと  
もなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその  
都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具  
体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京 大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿 不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是 什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七 课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験80%

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにと  
もない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、  
授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~D

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

### 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

### 【参考書】

授業の中で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験 80%

LANe100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 E~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストの合計点により期末テストの点数に 0.6~1.2 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語2-II

2017年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1年 E~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」あるいは 「第40課」	「把構文」あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト50%、期末テスト40%、e宿題10%の割合で評価する。小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストの合計点により期末テストの点数に0.6~1.2を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の3分の1以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退2回で欠席1回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問にきてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間  
環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。  
「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式  
に教える。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにと  
もなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその  
都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具  
体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京 大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿 不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是 什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七 课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験 80%

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにと  
もない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、  
授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course  
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will  
improve the skills of listening, speaking, reading and writing  
through studying pronunciation, grammar, conversation and  
composition.

LANc100LA

## 中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~L

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）  
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験 80%

LANe100LA

## 中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストの合計点により期末テストの点数に 0.6~1.2 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

## 【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

## 【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストの合計点により期末テストの点数に 0.6~1.2 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問にきてください。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

文環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

## 【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回は発音篇、その後文法を中心とした本篇に入ります。本篇の各課は本文・文法・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。また、毎回単語、または文法例文の小テスト、本文の暗誦を課します。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度表示します。本授業の開始日は4月23日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・発音 1	授業の進め方について・中国語とは・発音
②	発音 2	発音
③	発音 3	発音
④	発音 4	発音
⑤	第 1 課	文法
⑥	第 1・2 課	文法
⑦	第 2 課	文法
⑧	第 3 課	文法
⑨	第 3・4 課	文法
⑩	第 4 課	文法
⑪	第 5 課	文法
⑫	第 5・6 課	文法
⑬	第 6 課	文法
⑭	授業のまとめと試験	発音 1～4、第 1～6 課の試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『初級中国語 この 1 冊 - 4 技能の習得を目指して-』丸尾誠他著、金星堂、2019 年

## 【参考書】

『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店、2010 年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（3～4 割）と期末試験（6～7 割）の総合評価。

平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

※当面の間、オンラインでの開講になったこととともない、成績評価の方法と基準も変更になります。対面授業が再開されなかった場合は、毎回の課題の実施状況によって評価します。具体的な基準は、状況を見ながら後日学習支援システムに提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

文環キ 2～3 年（再履修のみ）

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

### 【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

各課は文法・本文・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。また、毎回単語または文法例文の小テスト、本文の暗誦を課します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・第 7 課	文法
②	第 7・8 課	文法
③	第 8 課	文法
④	第 9 課	文法
⑤	第 9・10 課	文法
⑥	第 10 課	文法
⑦	第 11 課	文法
⑧	第 11・12 課	文法
⑨	第 12 課	文法
⑩	第 13 課	文法
⑪	第 13 課	文法
⑫	第 7～13 課の復習	学習内容の確認
⑬	総復習又は補充教材	学習内容の確認・発展
⑭	授業のまとめと試験	第 7～13 課の試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『初級中国語 この 1 冊 - 4 技能の習得を目指して -』丸尾誠他著、金星堂、2019 年

### 【参考書】

『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店、2010 年

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（3～4 割）と期末試験（6～7 割）の総合評価。平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

### 【その他の重要事項】

秋学期からの受講の場合でも、教科書は 4 月中に購入し、初回の授業に必ず持参して下さい。

### 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、中国語の発音・文法の基礎をしっかりと身につけ、読む・書く・聴く・話すという 4 つの技能をバランスよく訓練し、初級レベルの中国語能力を総合的に引き上げる。また、中国の文化・社会・生活習慣などを紹介し、多文化理解を目指す。

## 【到達目標】

- 1、中国語の文字と発音を知り、ピンインや簡体字の仕組みを理解する。
- 2、中国語文法の基礎知識及び中国語運用能力を総合的に習得する。
- 3、挨拶などの日常会話を学び、中国語で簡単なコミュニケーションをする。
- 4、中国の文化、習慣、社会について知る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わし、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身に着ける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

## &lt;重要&gt;

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などは、学習支援システムで提示している。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	①授業の説明 ②中国語の基本知識の紹介
2 回	第 1 課発音（1）	中国語の母音と声調
3 回	第 2 課発音（2）	中国語の子音（その 1）
4 回	第 2 課発音（2）	中国語の子音（その 2）
5 回	第 3 課発音（3）	複合母音・ピンインの綴り
6 回	第 4 課発音（4）	中国語の鼻母音（その 1）
7 回	第 4 課発音（4）	中国語の鼻母音（その 2）
8 回	第 5 課発音（5）	発音規則、発音部分復習
9 回	第 6 課	“是” 構文、中国語の人称代詞
10 回	第 6 課	副詞“都”“也”の用法、否定表現“不”の用法、疑問を表す語気助詞
11 回	第 7 課	動詞述語文、疑問詞疑問文
12 回	第 7 課	中国語の指示代詞の用法、語気助詞“呢”、構造助詞“的”の用法
13 回	第 1 課～7 課	これまでの復習、まとめ、会話練習

14 回 授業のまとめと期末テ 筆記試験・まとめと解説  
スト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課をしっかりと予習・復習すること。特に各課の本文をしっかりと音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『標準中国語・基礎篇』孫樹林・王欣・王安著 2,200 円（朝日出版）ISBN978-4-255-45161-9 C1087

## 【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）  
その他の資料は授業で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 % + 平常点（授業への取組、予習など）20 % + 小テスト・課題 20 % で総合的に評価する。

## &lt;変更&gt;

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が分かりやすいとのコメントを頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、学習効果を着実に上げていきたいと思えます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

## 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修の推奨

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、中国語の発音・文法の基礎をしっかりと身につけ、初級レベルの中国語能力を総合的に引き上げる。また、中国の文化・社会・生活習慣などを紹介し、多文化理解を目指す。

## 【到達目標】

- 1、中国語文法の基礎知識及び中国語運用能力を総合的に習得する。
- 2、挨拶などの日常会話を学び、中国語で簡単なコミュニケーションをする。
- 3、中国語の基本構文を理解し、中国語で短文章を書く。
- 4、中国の文化、習慣、社会について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わり、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身に付ける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の説明、前期内容の復習
2 回	第 8 課	形容詞述語文、よく使われる程度副詞の用法
3 回	第 8 課	反復疑問文、中国語の数詞、逆接続詞“但是”の用法
4 回	第 9 課	存在表現、中国語の方位詞
5 回	第 9 課	否定表現“没”の用法と機能、副詞“只”の用法、中国語の数量詞
6 回	第 10 課	名詞述語文、前置詞“ <input type="checkbox"/> ”“ <input type="checkbox"/> ”の用法
7 回	第 10 課	時刻、年月日、季節などの言い方
8 回	第 11 課	連動文、疑問詞疑問文（その 2）
9 回	第 11 課	否定表現“別”の用法、語気助詞（その 2）、お金の言い方
10 回	第 11 課	買い物の際によく使われる表現、言い方
11 回	第 12 課	中国語のアスペクト：“進行”、“過去の経験”、“完了”など
12 回	第 12 課	語気助詞“了”の用法及びアスペクト助詞“了”との相違、時間副詞の用法など
13 回	第 12 課	数量補語、これまでの復習とまとめ
14 回	授業のまとめと期末テスト	筆記試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課をしっかりと予習・復習すること。特に各課の本文をしっかりと音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『標準中国語・基礎篇』孫樹林・王欣・王安著 2,200 円（朝日出版）ISBN978-4-255-45161-9 C1087

## 【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）

その他の資料は授業で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 % + 平常点（授業への取組、予習など）20 % + 小テスト・課題 20 % で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を着実に上げていきたいと思ひます。

## 【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

## 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修の推奨

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

## 【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	挨拶（1）	子音・母音（1）など
3 回目	挨拶（2）	子音・母音（2）など
4 回目	挨拶（3）	母音（3）など
5 回目	初めて会う（1）	疑問文・形容詞述語文など
6 回目	初めて会う（2）	動詞述語文など
7 回目	尋ねる（1）	名詞述語文など
8 回目	尋ねる（2）	「有」文・前置詞構造
9 回目	尋ねる（3）	時間詞など
10 回目	尋ねる（4）	連動文など
11 回目	尋ねる（5）	方位詞など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験2	筆記試験、春学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

## 【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

## 【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

## 【Outline and objectives】

なし

LANe100LA

## 中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

## 【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	必要（1）	語気助詞「了」（1）
3 回目	必要（2）	主述述語文など
4 回目	必要（3）	二重目的語文など
5 回目	必要（4）	兼語文・語気助詞「了」（2）
6 回目	必要（5）	結果補語など
7 回目	約束（1）	動態助詞「過」など
8 回目	約束（2）	方向補語（1）など
9 回目	迎える（1）	1）文型「要～了」 2）文型「是～的」
10 回目	迎える（2）	動量補語など
11 回目	招待する	程度補語
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験2	筆記試験、秋学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

## 【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

## 【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

## 【Outline and objectives】

なし

LANe100LA

## 中国語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と方針の説明、定着度判定の為の小テスト
②	第一課：発音	声調・単母音・二重母音・第三声の変調などの確認
③	第二課：発音	三重母音・鼻母音などの確認
④	第三課：発音	子音（声母）の確認
⑤	第四課：数詞・r化	数詞・年月日・曜日などの基本的語彙の確認
⑥	第五課：発音表と簡単な表現	声母・韻母の総まとめ、簡単な挨拶表現の確認
⑦	第六課：他是☒？	人称代名詞・「是」構文・本文・練習問題など
⑧	第七課：☒是什么茶？	指示代名詞・動詞述語文・本文・練習問題など
⑨	第八課：明天冷☒？	形容詞述語文・量詞・名詞述語文・本文・練習問題など
⑩	第九課：我坐地☒去	連動文・場所代名詞・反復疑問文など
⑪	第九課：我坐地☒去	本文・練習問題など
⑫	第十課：你☒没☒☒典☒？	動態助詞「了」・語気助詞「了」など
⑬	第十課：你☒没☒☒典☒？	本文・練習問題など
⑭	学習内容総括と理解度	期末試験・まとめと解説の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
- ・宿題として出された練習問題を解く。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010年、取扱：東方書店）

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験80%

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

## 【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	第十一課：你爸爸会用 ☒☒☒？	助動詞「会」「能」「想」・経験態 など
②	第十一課：你爸爸会用 ☒☒☒？	本文・練習問題など
③	第十二課：今天天气又 下降了 2 度	助動詞「得」・比較文・結果補語 など
④	第十二課：今天天气又 下降了 2 度	本文・練習問題など
⑤	第十三課：从☒儿到公 司☒不☒？	動態助詞「着」・自然現象・可能 補語など
⑥	第十三課：从☒儿到公 司☒不☒？	本文・練習問題など
⑦	第十四課：你把☒典放 在哪儿了？	「把」構文・方向補語・受け身文 など
⑧	第十四課：你把☒典放 在哪儿了？	本文・練習問題など
⑨	第十五課：你在看什么 呢？	進行形・状態補語・二重目的語な ど
⑩	第十五課：你在看什么 呢？	本文・練習問題など
⑪	第十六課：☒台上有一 副眼☒	存現文・複合方向補語・兼語文な ど
⑫	第十六課：☒台上有一 副眼☒	本文・練習問題など
⑬	総合復習	これまで学んだ文法事項の再確認
⑭	学習内容総括と理解度 の確認	期末試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
- ・宿題として出された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010 年、取扱：東方書店）

## 【参考書】

授業の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験 80%

## 【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

## 中国語補講 2 - I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4  
 単位数：1 単位  
 法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

## 【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	挨拶（1）	子音・母音（1）など
3 回目	挨拶（2）	子音・母音（2）など
4 回目	挨拶（3）	母音（3）など
5 回目	初めて会う（1）	疑問文・形容詞述語文など
6 回目	初めて会う（2）	動詞述語文など
7 回目	尋ねる（1）	名詞述語文など
8 回目	尋ねる（2）	「有」文・前置詞構造
9 回目	尋ねる（3）	時間詞など
10 回目	尋ねる（4）	連動文など
11 回目	尋ねる（5）	方位詞など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

## 【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す

## 【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

## 【Outline and objectives】

なし

LANc100LA

## 中国語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4  
 単位数：1 単位  
 法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

## 【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	必要（1）	語気助詞「了」（1）
3 回目	必要（2）	主述述語文など
4 回目	必要（3）	二重目的語文など
5 回目	必要（4）	兼語文・語気助詞「了」（2）
6 回目	必要（5）	結果補語など
7 回目	約束（1）	動態助詞「過」など
8 回目	約束（2）	方向補語（1）など
9 回目	迎える（1）	1）文型「要～了」 2）文型「是～的」
10 回目	迎える（2）	動量補語など
11 回目	招待する	程度補語
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

## 【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

## 【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

## 【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

## 【Outline and objectives】

なし

LANe100LA

## 中国語補講 2 - I

2017 年度以降入学者

## 余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間中国語の発音と文法の基礎を学習します。

## 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

新出単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いたり、テストを受けたりして、知識を定着するようにします。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課～4課	発音
2	第5課	名前・挨拶
3	第6課	動詞述語文
4	第7課	形容詞述語文
5	第8課	名詞述語文
6	第9課	主述述語文
7	第10課	修飾語
	中間テスト	
8	第11課	補語
9	第12課	動詞述語文
10	第13課	動詞述語文
11	第14課	動詞述語文
12	第15課	動詞述語文
13	第16課	動詞述語文
14	復習	試験・まとめと解説
	期末テスト	

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後必ず添付CDを聞いてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ポイント学習中国語初級改訂版

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回行う小テストが40点。

中間テストが30点。

期末テストが30点。

欠席と遅刻をすると小テストができませんので、注意してください。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間中国語の発音と文法の基礎を学習します。

### 【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

新出単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いたり、テストを受けたりして、知識を定着するようにします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 17 課	数量補語
2	第 18 課	連動文
3	第 19 課	動詞の完了態
4	第 20 課	変化態
5	第 21 課	動詞の経験態
6	第 22 課	動詞の進行態
7	第 23 課	形容詞述語文
	中間テスト	
8	第 24 課	比較表現
9	第 25 課	比較表現
10	第 26 課	月日・曜日の言い方
11	第 27 課	時刻の言い方
12	第 28 課	金額の言い方
13	第 29 課	連体修飾語
14	授業のまとめと期末テスト	授業のまとめと試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後添必ず付の CD を聞いてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

ポイント学習中国語初級改訂版

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回行う小テストが 40 点。

中間テストが 30 点。

期末テストが 30 点。

欠席と遅刻をすると小テストができませんので、注意してください。

### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

### 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 2 - I

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

## 【到達目標】

これまで習った中国語の基本文法を再確認し、日常コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業は 4 月 27 日より開始します。

ポイントの学習、新出単語、本文の音読、ペアの会話、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音の復習 第 5 課 出迎える	名前の言い方 名前のたずね方
2	第 5 課 出迎える	ペアの会話とドリル
3	第 6 課 歓迎パーティー	動詞「是」 助詞「的」
4	第 6 課 歓迎パーティー	ペアの会話とドリル
5	第 7 課 タクシーに乗る	基本語順 連動文
6	第 7 課 タクシーに乗る	ペアの会話とドリル
7	第 8 課 宿泊する	助動詞「想」 動詞「有」 指示代名詞
8	第 8 課 宿泊する	ペアの会話とドリル
9	第 9 課 道をたずねる	動詞「在」 方位詞 前置詞「从」、「往」 場所を表す指示代名詞
10	第 9 課 道をたずねる	ペアの会話とドリル
11	第 10 課 ショッピングをする	数の言い方 中国のお金の言い方 値段のたずね方 形容詞述語文
12	第 10 課 ショッピングをする	ペアの会話とドリル
13	第 11 課 おしゃべりをする	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
14	復習と授業内試験	試験、解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CD を聴いて、学習内容を復習し、覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」  
朝日出版社

## 【参考書】

中日辞典、日中辞典

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、授業参加、小テストや課題の完成など（40%）による総合評価です。

## 【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら授業を進めていきます。場合によって学習の進度を調整することもあります。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

## 中国語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

## 【到達目標】

これまで習った中国語の基本文法を再確認し、日常コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ポイントの学習、新出単語、本文の音読、ペアの会話、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 12 課 料理を注文する	量詞 動詞の重ね方
2	第 12 課 料理を注文する	ペアの会話とドリル
3	第 13 課 サッカーのチケットを買う	時刻の言い方 文末助詞「了」
4	第 13 課 サッカーのチケットを買う	ペアの会話とドリル
5	第 14 課 マッサージをする	時間の長さの言い方 動作行為の完了を表す助詞「了」
6	第 14 課 マッサージをする	ペアの会話とドリル
7	第 15 課 インターネット・カフェ	前置詞「給」 助動詞「可以」、「能」
8	第 15 課 インターネット・カフェ	ペアの会話とドリル
9	第 16 課 電話をかける	動作行為の進行を表す表現
10	第 16 課 電話をかける	ペアの会話とドリル
11	第 17 課 アルバイトする	前置詞「在」 二重目的語をとる動詞
12	第 17 課 アルバイトする	ペアの会話とドリル
13	第 18 課 レストランで	経験を表す「 <input type="checkbox"/> 」 選択疑問文
14	復習と授業内試験	試験、解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CD を聴いて、学習内容を復習し、覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」

朝日出版社

## 【参考書】

中日辞典、日中辞典

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）によって総合評価です。

## 【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら授業を進めていきます。場合によって学習の進度を調整することもあります。

## 【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 1・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④ **Gustar** 型動詞の意味と用法について理解し、好みについて述べるができる。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス アルファベット 第 1 課	本シラバスを用いた授業の説明。 発音、アクセント。 主格人称代名詞。
2	第 1 課	動詞 <b>ser</b> 、文の基本的な構成など。 会話文、練習問題。
3	第 2 課	名詞、冠詞、形容詞。
4	第 2 課	会話文、練習問題。
5	第 3 課	動詞 <b>estar</b> 、 <b>hay</b> 、時刻の表現など。
6	第 3 課	会話文、練習問題。
7	理解度確認 第 4 課	中間試験を実施。 指示詞、所有形容詞、直説法現在規則動詞。
8	第 4 課	会話文、練習問題。
9	第 5 課	直説法現在語幹母音変化動詞、直説法現在不規則動詞など。
10	第 5 課	会話文、練習問題。
11	第 6 課	人称代名詞：直接目的語と間接目的語、 <b>Gustar</b> 型動詞など。
12	第 6 課	会話文、練習問題。
13	理解度確認	春学期授業の総復習。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書 京都烏丸スペイン語教室 (2019)『世界につながるスペイン語 - 改訂版』朝日出版社 978-4-255-55103-6

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD を随時聞けるように、スマートフォンなどに移しておくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。授業内容に関する質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。  
etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 I・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形、線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④比較表現を理解し、ものごとを形態的、品質的観点から相対的に描写できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。おおむね教科書のひとつの課を 2 回の授業で終わらせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第 7 課	直説法点過去、疑問詞を用いた疑問文。
3	第 7 課	会話文、練習問題。
4	第 8 課	再帰動詞。
5	第 8 課	会話文、練習問題。
6	第 9 課	直説法線過去、関係詞。
7	理解度確認	中間試験を実施
8	第 9 課	会話文、練習問題。
9	第 10 課	過去分詞、直説法現在完了、無人称文、受身表現。
10	第 10 課	会話文、練習問題。
11	第 11 課	直説法過去完了、不定詞と否定語、比較表現。
12	第 11 課	会話文、練習問題。
13	理解度確認	期末試験を実施。
14	理解度確認	秋学期の総復習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

京都丸丸スペイン語教室 (2019)『世界につながるスペイン語 改訂版』朝日出版社。ISBN978-4-255-55103-6

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 30%、中間試験 30%、期末試験 40%とし、総合的に評価する。居眠り、度を越えた私語、無断退席、辞書を持たずに予習もしてこないなどの受講の様態は減点の対象となり得る。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。授業内容に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

## 敦賀 公子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 K・L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語世界への理解と興味を導く第一歩として、スペイン語の基本文法・表現を学ぶことを目標とします。

## 【到達目標】

今学期は特に、名詞、冠詞、形容詞の性数変化と基本動詞の現在形、目的格人称代名詞などを習得します。

基本文法を活用して、日常生活の中で使う簡単な語彙と文章に慣れるとともに、簡単な会話文を理解できるようになることをめざします。また、日本語や英語とは異なる言語のしくみについて考え、多様な魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めていきます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は、5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

原則的にはテキストにそって、文法の解説・理解し、その後、練習問題、リスニング、訳読などで、さらに理解を深め、知識の定着を図ります。より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを宿題とし提出を求めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	簡単な自己紹介文 アルファベット、読み方など
2	Lección 1	主語代名詞など
3	Lección 1	動詞 ser、名詞など
4	Lección 2	形容詞など
5	Lección 2	動詞 estar、ser など
6	Lección 3	冠詞、動詞 hay など
7	Lección 3	hay と estar の違いなど 数字など
8	中間テスト	Lección 3 までの確認
	Lección 4	目的語、時刻の表現など
9	Lección 4	否定文、疑問文など
10	Lección 5	目的語の人称代名詞など
11	Lección 5	目的語の人称代名詞、不規則動詞 など
12	Lección 6	不規則動詞など
13	Lección 6	所有形容詞、指示代名詞など
14	期末テスト	Lección 6 までの確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業毎の予習・復習、宿題など。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『イデアル (IDEAL)』

宇野和美、平井素子、パウラ・レテリエル 著（同人社）

## 【参考書】

西和辞典

その他必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は 5 月 6 日の本授業開始日までを目処に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい、活気のある授業をめざし、言語のみならず、スペイン語圏の社会への興味を引き出すような授業にしたいと思います。初回に本授業への希望やオンライン授業への要望など、簡単なアンケートを行います。

## 【Outline and objectives】

This course introduces the basic grammar and expression of Spanish to students taking this course. It also enhances understanding and interest in the diverse cultures of the Spanish World.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

敦賀 公子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 K・L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に習得した知識の上に、発展した基本文法を習得し、スペイン語やスペイン語諸国についての理解と興味をさらに深めることを目標とします。

## 【到達目標】

今学期は特に、再帰動詞、動詞の現在完了形、過去形などを習得します。

春学期の知識に加え、さらに発展した基礎文法を活用することで、様々な日常生活の場面で使う語彙と文章に親しみます。それによって多様で魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めるとともに、日本語や日本文化との比較分析を行い、異文化理解へと発展させていきます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、訳読などでさらに理解を深めます。なお、より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを宿題とします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 Lección 7	春学期のポイントの復習 不規則動詞など
2	Lección 7 Lección 8	不規則動詞など 再帰動詞など
3	Lección 8	再帰動詞など
4	Lección 9	gustar 動詞など
5	Lección 9	比較表現など
6	Lección 10	過去分詞など
7	中間テスト Lección 10	Lección 9 もしくは 10 までの確認 過去完了など
8	Lección 11	過去時制について
9	Lección 11	点過去など
10	Lección 11	点過去、数字など
11	Lección 12	線過去など
12	Lección 12	点過去と線過去の使い分けなど
13	Lección 12	過去時制のまとめ
14	期末テスト	Lección 12 までの確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業毎の予習・復習、宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『イデアール (IDEAL)』宇野和美、平井素子、パウラ・レテリエル 著（同学社）

## 【参考書】

西和辞典

その他、授業で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

1、試験（中間・期末、小テスト）70 %

2、平常点 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい、活気のある授業をめざし、言語のみならず、スペイン語社会への興味を引き出すような授業にしたいと思います。

## 【Outline and objectives】

On the knowledge acquired in the Spring Semester, this course lead the step up grammar and expression of the basic Spanish to students taking this course. It also enhances the development of understanding in the Spanish Countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 M

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第1課	シラバスを用いての授業の説明。 文字と発音。
2	第1課	アクセントの位置、数詞、曜日、 など。
3	第2課	名詞の性と冠詞、など。
4	第2課	会話文と練習問題。
5	第3課	指示形容詞と指示代名詞、など。
6	第3課	会話文と練習問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第4課	規則動詞の活用と不規則動詞、 など。
9	第4課	会話文と練習問題。
10	第5課	1人称単数不規則動詞、など。
11	第5課	会話文と練習問題。
12	第6課	語幹母音変化動詞、など。
13	第6課	会話文と練習問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹(2010)『改訂版・ミラ』同学社、2500円+税。ISBN978-4-8102-0354-7

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社(2002)を推薦する。他にも授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録のCDの音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 M

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

- ① *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べるができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 7 課	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞、時刻の表現。
2	第 7 課	会話文と練習問題。
3	第 8 課	動詞 <i>gustar</i> の用法、比較級、最上級、など。
4	第 8 課	会話文と練習問題。
5	第 9 課	点過去の規則動詞、同等比較など。
6	第 9 課	会話文と練習問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 10 課	点過去の不規則形、否定語と不定語など。
9	第 10 課	会話文と練習問題。
10	第 11 課	線過去、点過去と線過去の違いなど。
11	第 11 課	会話文と練習問題。
12	第 12 課	過去分詞、関係詞など。
13	第 12 課	会話文と練習問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹 (2010) 『改訂版・ミラ』 同学社、2500 円 + 税。ISBN978-4-8102-0354-7

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 30%、中間試験 30 %、期末試験 40%とし、総合的に評価する。居眠り、度を越えた私語、無断退席、辞書を持たずに予習もしてこないなどの受講の様態は減点の対象となり得る。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時間けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達が出来様に学んでいく。

## 【到達目標】

この授業では、教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日まで春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなうに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	こんにちは、名前なんて言うの？	挨拶や感謝の言葉を伝える。スペイン語を正しく発音、スベルを言う。
2 回	こんにちは、名前なんて言うの？	基本的な個人情報を探るや答える。
3 回	私は東京出身の日本人です。	名前、出身国や職業について尋ねる、答える。
4 回	私は東京出身の日本人です。	自分自身や人を紹介する。
5 回	私の大学	大学や住んでいる町について話す。
6 回	私の大学	都市の位置について尋ねる、答える。自分の大学について皆の前で話す。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	私はサラマンカ大学で勉強をしています。	勉強について話す。日常や余暇の過ごし方について話す。
9 回	私はサラマンカ大学で勉強をしています。	時刻を言い、スケジュールについて話す。
10 回	家族	家族について話す。
11 回	家族	人の性格や容姿について話す。
12 回	休暇バルセロナに行く予定。	有名な場所話す、そこに何があるか言う。
13 回	休暇バルセロナに行く予定。	場所ややりたい活動についての情報をやり取り。旅の計画や簡単な行程について皆の前で話す。
14 回	期末テスト	期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
  - ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
  - ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
  - ・努めて語彙を増やしていくこと。
  - ・スペイン語圏のニュースに注意している
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

いいね！ スペイン語  
朝日出版

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

## 【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

## 【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達出来る様に学んでいく。

## 【到達目標】

この授業では、教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	私はポップミュージックとても好き。	好み、趣味や好みについて話す。
2 回	私はポップミュージックとても好き。	計画や義務について話すや尋ねる。
3 回	買い物	店で欲しいものを伝える、質問に答える。
4 回	買い物	店での会話を聞いて理解する。市場や店の様子を理解する、記述する。
5 回	ごはんですよ！	スペイン語圏の食べ物について話すや尋ねる。食べたいもの飲みたいものを頼む。
6 回	ごはんですよ！	レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	メキシコ人は早起きする。	1 日の生活について情報交換する。天候についてのやり取り。
9 回	メキシコ人は早起きする。	スペイン語圏の祭りやその他の文化的行動についてよんで理解する。
10 回	私はとてもうれしい。	体調や気分について尋ねる、話す。体の痛い場所や体調について説明する。
11 回	私はとてもうれしい。	健康的な生活をおくるためのアドバイスをする。
12 回	旅行中	過去の旅行中に行ったことや食べ物などについて話す。
13 回	旅行中	今年度の出来事について話す。
14 回	期末テスト	期末テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。

- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
  - ・努めて語彙を増やしていくこと。
  - ・スペイン語圏のニュースに注意している
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

いいね！ スペイン語  
朝日出版

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 15 %・授業参加 15%、中間テスト 30 %と学期末試験 40 %で総合評価します

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

## 【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

## 【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年 W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的な文法をテキストに沿って順次学び、初級の文法を確実に習得することで初級スペイン語を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

最終的に初級のスペイン語を習得し、簡単な文章を書いたり、読解、またコミュニケーション（ヒアリングとスピーキング）ができるレベルに持って行くことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いながら初級の文法について毎回講義し、その説明に沿った多くの練習問題を授業内で解いていきながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語の名詞の性と数および冠詞について。	名詞毎に分かれる女性名詞と男性名詞、名詞の複数形に関する説明とそれに連動する冠詞の説明。
2	スペイン語の名詞の性と数および冠詞について。	前回講義を行った名詞の性と数、そして冠詞に関する練習問題を全員で授業内で解いていきながら、逐次疑問点について説明。
3	主語人称代名詞と動詞 <b>ser</b> の現在形について	最も基本的かつ重要な主語人称代名詞について説明を行い、英語の <b>be</b> 動詞の役割を果たす <b>ser</b> 動詞について。
4	主語人称代名詞と動詞 <b>ser</b> の現在形	主語人称代名詞と動詞 <b>ser</b> の使い方についてさらに練習問題を解きながら講義を進める。
5	形容詞と指示代名詞。	スペイン語の基本的な形容詞を学ぶと共に名詞との関係を説明。指示代名詞についての説明。
6	動詞 <b>estar</b> の現在形。	主語の所在を表したり、主語の置かれた状態を表す <b>estar</b> について。
7	<b>ser</b> と <b>estar</b> の使い分け。	どちらも英語の <b>be</b> 動詞にあたるものだが、意味が異なり、使い分けが必要であることの説明とその使い方。
8	指示形容詞、 <b>hay</b> と <b>estar</b> の使い分けについて。	この、その、あのを表す指示形容詞と”ある”という意味を表す <b>hay</b> と <b>estar</b> についての説明と使い分けについて。
9	現在形規則動詞。	現在形動詞 <b>ar</b> 型、 <b>er</b> 型、 <b>ir</b> 型についてと使い方についての説明。
10	指示形容詞と所有形容詞。	これ、それ、あれ、を表す指示代名詞と私の、君の、彼の、私達の、君達の、彼らのという表現に備する所有形容詞の前置形について。

- |    |   |   |
|----|---|---|
| 11 | 動詞の現在形・語幹母音変化動詞、基数 1～30 までの呼び方。                 | 動詞の中での語幹の母音のみが変化する動詞についてと基数の呼び方の練習。   |
| 12 | 時刻の表現、動詞の原形を従える動詞、 <b>a</b> + 人（目的語）。           | 時を表す言い方と動詞の後に動詞の原形を接続する動詞。目的語が人であった場合の前置詞 <b>a</b> について。                              |
| 13 | 動詞の現在形で 1 人称単数のみが不規則な動詞、曜日と日付、基数 30～100 までの呼び方。 | 動詞の現在形のうち、1 人称のみが不規則な動詞の形についての説明と、曜日と日付の呼び方と文中での使い方。30 から 100 までの呼びからの練習。             |
| 14 | 所有形容詞、天候の表現、動詞の現在形のその他の不規則動詞、動詞を従える動詞（2）。       | 私の、君の、彼の、私達の、君達の、彼らの、という表現を名詞の後に配置する場合。天候の表し方、動詞の現在形のその他の不規則動詞のかたち、動詞の原形を接続させる動詞について。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として度々演習問題を配布するため、これを必ず行って次の授業での答え合わせや質問に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 土井祐文、下田幸男、佐藤邦彦著、朝日出版社、初版 2010 年

## 【参考書】

ひとりで学べるスペイン語教室、国際語学社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）平常点（40%）

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見、要望に応じて授業の質を向上させるために練習問題の改善、授業内容の改善（復習を増やすなど）を行う。

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるので、最初の授業から連絡事項、課題など Hoppii にて確認すること。初回授業は 28 日とする。

## 【Outline and objectives】

Learning basic Spanish grammar using textbook.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年 W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

## 【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみがない動詞	現在形で一人称単数のみがない動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 朝日出版

## 【参考書】

「新版スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %。また欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

時折配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

## 【Outline and objectives】

To structure conversation in Spanish and write sentences. Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences. Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 B~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回はオンライン授業で、授業開始日は4月28日です。動画をアップして発音などを確認しながら、課題を出して授業を進めていきます。

その後、通常授業に戻るみこみがない場合には、全員が参加できるような授業方法を模索することにいたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Lección 1	文字と発音
2	Lección 1	数詞、曜日、月の名前、挨拶の言葉
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞、動詞 ser、疑問文と否定文
5	Lección 3	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞前置形
6	Lección 3	形容詞、動詞 estar、hay
7	Lección 4	直説法現在：規則動詞、動詞 ir、tener
8	Lección 4	疑問詞 cuánto/a・cuántos/as、muy と mucho、前置詞 I
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用（一人称だけが不規則な動詞）、直接目的語〈を格〉人称代名詞
10	Lección 5	動詞 saber と conocer、動詞 oír と escuchar、動詞 hacer、関係代名詞 que
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用（語幹母音変化動詞）
12	Lección 6	間接目的語〈に格〉人称代名詞、動詞 guerer と poder
13	総合問題 + DVD	巻末にある総合問題（1課～6課）、スペイン語圏の映画、またはドキュメンタリー
14	振り返り	1課～6課の総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

第1課に関しては、出版社で用意したオンライン用教科書『プラサ・マヨール』を使います。

[https://text.asahipress.com/spanish/news\\_detail.php?id=187&liid](https://text.asahipress.com/spanish/news_detail.php?id=187&liid)

第2課からは『改訂版・ミラ』糸魚川美樹、二村久則、水戸博之、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7 を用意しましょう。生協の受付が4月21日～5月15日、それから入金を確認して発送するということですから、6月初旬ぐらいまでは当日に使う教科書のコピーを添付します。

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが50%、期末テストが50%で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度までは文法中心の教科書を使っていましたが、今年度は耳から入るスペイン語にも力を入れたいので、『改訂版・ミラ』を選びました。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 B~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の4つの過去へ）。

## 【到達目標】

- 1) *gustar* 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の4つの過去を学び、活用を覚えるだけでなく、用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、文法、会話表現、練習問題、聞き取りテストと変わりませんが、内容がより複雑になりますので、予習・復習が大切になります。スペイン語圏の文化については適宜に DVD や CD などを使って紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 スペイン語圏の DVD	復習問題を解く
2	Lección 7	再帰動詞
3	Lección 7	時刻の表現
4	Lección 8	<i>gustar</i> 型動詞
5	Lección 8	比較級・最上級・絶対最上級、所有形容詞後置形
6	Lección 9	点過去規則動詞、時間の経過表現
7	Lección 9	前置詞 II、同等比較
8	Lección 10	点過去不規則動詞
9	Lección 10	不定語と否定語
10	Lección 11	線過去、点過去と線過去の違い
11	Lección 11	接続詞 <i>que</i> 、接続詞 <i>cuando</i>
12	Lección 12	過去分詞（現在完了・過去完了）
13	Lección 12	関係詞
14	振り返り	7 課～12 課の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身につけていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹、二村久則、水戸博之著、『改訂版・ミラ』、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかり学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50% で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して、学習の充実を図りたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引ながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第0課	シラバスを用いての授業の説明。 文字と発音、アクセント。
2	第1課	名詞、冠詞、主格人称代名詞など。
3	第1課－第2課	練習問題、会話文。 直説法現在形規則動詞、疑問文、否定文。
4	第2課	練習問題、会話文。
5	第3課	形容詞、動詞 <b>ser</b> と <b>estar</b> 。
6	第3課－第4課	練習問題、会話文。 <b>Hay</b> 、指示詞、所有形容詞。
7	理解度確認 第4課	中間試験を実施。
8	第5課	時刻の表現、練習問題、会話文。 直接目的格人称代名詞、直説法現在形1人称単数が不規則な動詞など。
9	第5課－第6課	練習問題、会話文。 直説法現在語幹母音変化動詞など。
10	第6課	練習問題、会話文。
11	第7課	間接目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞など。
12	第7課	練習問題、会話文。
13	理解度確認	春学期授業の総復習。
14	理解度確認。	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・プラド他(2007)『スペイン語のリズムで』同学社。  
978-4-8102-0371-4

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社(2002)を推薦する。他にも授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録のCDの音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

- ①"IR(行く)"、"VENIR(来る)"などの重要な不規則動詞や再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ②比較級の表現を用いて、形態、品質などを相対的観点から描写できる。
- ③動詞の直説法現在完了形や直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 8 課	本シラバスを用いての授業の説明。 直説法現在不規則動詞など。
2	第 8 課 - 第 9 課	練習問題、会話文。再帰動詞など。
3	第 9 課	練習問題、会話文。
4	第 10 課	現在分詞、不定語と否定語など。
5	第 10 課 - 第 11 課	練習問題、会話文。比較表現など。
6	第 11 課	練習問題、会話文。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 12 課	過去分詞、直説法現在完了など。
9	第 12 課 - 第 13 課	練習問題、会話文。直説法点過去規則動詞など。
10	第 13 課	練習問題、会話文。
11	第 14 課	直説法点過去不規則動詞、受身文。
12	第 14 課 - 第 15 課	練習問題、会話文。直説法線過去。
13	理解度確認	期末試験を実施。
14	理解度確認	秋学期の総復習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・ブラド他 (2007) 『スペイン語のリズムで』 同学社

978-4-8102-0371-4

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 30%、中間試験 30%、期末試験 40%とし、総合的に評価する。居眠り、度を越えた私語、無断退席、辞書を持たずに予習もしてこないなどの受講の様態は減点の対象となり得る。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write simple texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

## 【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

## 【変更】

周知されているとおり、少なくとも春学期の前半はオンラインでの授業となります。当スペイン語クラスの授業開始日は4月28日（火）とします。履修希望者は4月21日（火）に学習支援システムにて詳細を確認してください。

教科書に沿って文法事項や会話表現などを学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地でも収集した食材、生活用具などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思っております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、スペイン語の世界へようこそ！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第 2 回	教科書第 1 課	アファベット、母音、子音
第 3 回	教科書第 1 課	音節の分け方、アクセントのルール
第 4 回	教科書第 2 課	名詞の性、名詞の数
第 5 回	教科書第 2 課	冠詞、形容詞
第 6 回	教科書第 3 課	主格人称代名詞、ser 動詞
第 7 回	教科書第 3 課	文の構造、指示語
第 8 回	教科書第 4 課	estar 動詞、所有形容詞
第 9 回	教科書第 4 課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第 10 回	教科書第 5 課	直説法現在形・規則動詞
第 11 回	教科書第 5 課	直説法現在形・規則動詞
第 12 回	教科書第 6 課	現在形不規則動詞 1
第 13 回	教科書第 6 課	直接目的格人称代名詞
第 14 回	教科書第 7 課	現在形不規則動詞 2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「エスビギター-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で出向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

## 【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

## 【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って文法事項や会話表現などを学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地でも収集した食材、生活用具などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していききたいと思います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	<b>gustar</b> 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞 所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級、関係副詞
第14回	まとめ	総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらおう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「エスピゲーター-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

## 【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で出向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

## 【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 U~X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④再帰動詞の意味と用法について理解する。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、第1課(2ページ)	本シラバスを用いた授業の説明。アルファベット。
2	第1課(3ページ)	発音、アクセント。
3	第2課(6-7ページ)	名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞 <i>ser</i> 、など
4	第2課(8-9ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第3課(10-11ページ)	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞、動詞 <i>estar</i> 、動詞 <i>tener</i> 、など。
6	第3課(12-13ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第4課(18-19ページ)	規則動詞、時刻の表現、など
9	第4課(20-21ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第5課(22-23ページ)	指示形容詞、動詞 <i>ir</i> と <i>ver</i> 、など。
11	第5課(24-25ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第6課(26-27ページ)	語根母音変化動詞、直接目的格人称代名詞、など。
13	第6課(28-29ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【テキスト（教科書）】

デル・プラド他(2013)『スペイン語のある風景 (Panoramica del español)』同学社。ISBN978-4-8102-0395-0、2700 円+税。

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社(2002)を推薦する。他にも授業時に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

担当教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 U~X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形、線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④ *gustar* 型動詞の用法を理解できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。おおむね教科書のひとつの課を 2 回の授業で終わらせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第 7 課 (34-35 ページ)	間接目的格人称代名詞、動詞 <i>traer, decir</i> 、など。
3	第 7 課 (36-37 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
4	第 8 課 (40-41 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第 9 課 (42-43 ページ)	前置詞格人称代名詞、動詞 <i>gustar</i> 、など。
6	第 9 課 (44-45 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施
8	第 10 課 (50-51 ページ)	比較級、不定語、など。
9	第 10 課 (52-53 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第 11 課 (54-55 ページ)	規則動詞、不規則動詞の点過去形、など。
11	第 11 課 (56-57 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第 12 課 (58-59 ページ)	線過去形、点過去形と線過去形の違い、など。
13	第 12 課 (60-61 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

デル・プラド他 (2013) 『スペイン語のある風景 (Panoramica del español)』 同文館。ISBN978-4-8102-0395-0。2700 円 + 税。

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 30%、中間試験 30%、期末試験 40%とし、総合的に評価する。居眠り、度を越えた私語、無断退席、辞書を持たずに予習もしてこないなどの受講の様態は減点の対象となり得る。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。授業内容に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

[etsuohasegawa@gmail.com](mailto:etsuohasegawa@gmail.com)

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

## 【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通じた簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いることがあります。

内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。

教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となり、それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明。 アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	主語人称代名詞、動詞 ser、名詞の性と数	主語人称代名詞と動詞の活用概念を理解する。 動詞 ser の活用と用法を練習する。 名詞の性と数を理解する。
3	形容詞、動詞 estar	形容詞の用法を理解する。 動詞 estar の活用と用法を練習する。
4	動詞 ser と estar の使い分け	ser と estar を復習したうえで違いを確認し、使い分けるための練習をする。
5	冠詞、存在を表す hay	冠詞を理解する。 存在を表す hay の用法を理解する。
6	動詞 estar と hay の使い分け、数詞（1～1000）	estar と hay を復習したうえで違いを確認し、使い分けるための練習をする。
7	直接法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の用法と活用を学び練習する。

8	時間に関する表現	時間に関する表現を学び練習する。
9	目的語人称代名詞	目的語人称代名詞の用法を学び練習する。
10	直接法現在不規則動詞 I	直接法現在不規則動詞の活用を学び練習する。 動詞 saber と conocer の違いを学ぶ。
11	直接法現在不規則動詞 II	直接法現在不規則動詞の活用を学び練習する。 特に動詞 tener と ir の用法を練習する。
12	所有形容詞、天候の表現	所有形容詞の前置形と後置形の用法と違いを学び練習する。 天候表現を学び練習する。
13	直説法現在語幹母音変化動詞	直接法現在語幹母音変化動詞の活用を学び練習する。 特に動詞 querer と poder の用法を練習する。
14	春学期のまとめと期末試験、解説	春学期に学習したことをまとめ、期末試験とその解説を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にする。宿題の授業内の確認によって、疑問点をなくすようにする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

宇野和美、平井素子、Letelier, Paula. 2020『イデアル（改訂新版）』（Ideal -edición revisada-）（同学社）

## 【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館。

『クラウン西和辞典』三省堂。

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社。

『現代スペイン語辞典』白水社。

参考書は以下。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社。

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社。

## 【成績評価の方法と基準】

遠隔授業においては、課題を期日までに提出することで出席、期日を過ぎて提出は遅刻、提出をしていない場合は欠席とみなします。詳細に関しては、授業初日もしくはそれまでに、学習支援システムに掲載します。

## 【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。

語彙を覚えられるように、単語のチェックを含めて小テストを行います。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムの「お知らせ」を、初回の授業前までに必ず確認してください。

## 【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通じた簡単な表現ができるようにします。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

## 【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。  
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。  
平易な文章を読み、理解できるようになる。  
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる場合があります。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習、	春学期の復習。
2	再帰動詞（全人称）	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。
3	再帰動詞（3人称）	再帰動詞の3人称用法についても学び、練習する。
4	動詞 gustar と gustar 型動詞	動詞 gustar の用法を理解する。gustar 型動詞の用法を学び練習する。
5	比較	比較表現を学び練習する。
6	直説法現在形の復習	ここまでで学んだ直説法現在に関する文法事項の復習と練習。
7	点過去（規則活用）	点過去の概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
8	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
9	点過去練習	点過去をまとめ、点過去を用いた表現の練習をする。
10	線過去	線過去の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。
11	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。
12	過去分詞と直説法現在完了	過去分詞の形と用法を学び練習する。 直接法現在完了の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。

13	現在分詞、秋学期まとめ	現在分詞の形と用法を学び練習する。 秋学期に学習したことをまとめる。
14	1年間のふりかえりと期末試験、解説	1年を通して学んだことをふりかえり、期末試験とその解説を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にする。宿題の授業内の確認によって、疑問点をなくすようにする。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

宇野和美、平井素子、Letelier, Paula. 2020『イデアル（改訂新版）』（Ideal -edición revisada-）（同学社）

## 【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携です。  
『西和中辞典』小学館  
『クラウン西和辞典』三省堂  
『プエルタ新スペイン語辞典』研究社  
『現代スペイン語辞典』白水社  
参考書は以下。必携ではありません。  
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社  
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（60%）、期末試験（40%）  
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、5回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。

## 【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。  
語彙を覚えられるように、単語のチェックを小テストに含めます。

## 【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

## 【到達目標】

履修生は今学期終了時までには、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。これにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は5月2日（土）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示しますので、履修予定の人は必ず学習支援システムの「お知らせ」を見てください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベット 母音と子音の発音	本授業のガイダンス スペイン語と英語のアルファベットの違い 母音と子音の発音規則 (テキスト: 第 1 課)
2	アクセントのルール 注意すべきつづり 名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	単語の発音規則 名詞の性の概念と複数化 定冠詞と不定冠詞 (テキスト: 第 1 課、第 2 課)
3	主格人称代名詞 動詞 ser	主語となる人称代名詞 動詞 ser の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)
4	形容詞 所有形容詞前置形	性と数に対応した形容詞の変化 名詞の前につく形の所有形容詞 (テキスト: 第 3 課)
5	疑問文と否定文 動詞 tener 数 1 ~ 100	疑問文と否定文の語順 動詞 tener の意味と用法 1 から 100 までの数詞 (テキスト: 第 3 課)
6	直説法現在形規則動詞 疑問詞 (1)	直説法現在形の動詞規則変化 よく用いられる疑問詞 (テキスト: 第 4 課)
7	指示形容詞 動詞 estar ser と estar	指示形容詞の種類と用法 動詞 estar の意味と用法 動詞 ser と estar の使い分け (テキスト: 第 5 課)
8	中間試験 hay 存在文 tener + 名詞の表現	中間試験 hay 存在文の用法 hay 存在文と estar 所在文の使い分け tener を用いた状態の表現 (テキスト: 第 5 課)

9	動詞 ir 動詞 ver 動詞 hacer 動詞 poner 動詞 salir	動詞 ir、ver、hacer、poner、salir の意味と用法 (テキスト: 第 6 課)
10	ir a + 不定詞の表現 tener que + 不定詞の表現 時刻表現	動詞 ir を用いた予定の表現 動詞 tener を用いた義務の表現 時刻表現 (テキスト: 第 6 課)
11	日付表現 疑問詞 (2) 語幹母音変化動詞	曜日と月の表現 知っておくと便利な疑問詞 語幹母音変化動詞 (テキスト: 第 6 課、第 7 課)
12	天候表現 動詞 oír 動詞 venir 動詞 saber 動詞 conocer	天候を表す 3 人称表現 動詞 oír、venir、saber、conocer の意味と用法 (テキスト: 第 8 課)
13	動詞 dar 動詞 decir 動詞 traer 質疑応答	動詞 dar、decir、traer の意味と用法 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

## 【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

## 【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

## 【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、簡単な過去形や現在完了形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 1I」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中で一度、理解の確認のための小テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 1)	春学期のおさらい 目的語と目的格代名詞① (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
2	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 2)	目的語と目的格代名詞② (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
3	前置詞格人称代名詞 動詞 <i>gustar</i> <i>gustar</i> 型動詞	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 <i>gustar</i> の意味と用法 <i>gustar</i> と似た使い方をする動詞 (テキスト: 第 10 課)
4	所有形容詞後置形 再帰動詞	名詞の後に置かれる所有形容詞 再帰動詞の概念と基本用法 (テキスト: 第 9 課、第 10 課)
5	再帰動詞のその他の 用法 義務の表現	再帰動詞のその他の用法 いくつかの義務の表現 (テキスト: 第 9 課)
6	比較級	「〇〇よりも ×× である」という 文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
7	最上級 不定語と否定語 感嘆文	「最も ×× である」という文の作 り方 よく用いられる不定語と否定語 感嘆文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
8	中間試験 直説法点過去規則活用	中間試験 直説法点過去形の規則活用と用法 (テキスト: 第 12 課)

9	直説法点過去不規則 活用 数 100 ~ 2,000	直説法点過去形の不規則動詞 100 から 2,000 までの数詞 (テキスト: 第 12 課)
10	直説法線過去規則活用 直説法線過去不規則 活用 点過去と線過去の使い 分け	直説法線過去形の規則動詞と不規則動詞 点過去形と線過去形の違い (テキスト: 第 13 課)
11	直接話法・間接話法 数 10,000 ~ 序数	直接話法と間接話法の違い 10,000 以上の数 序数の種類と用法 (テキスト: 第 13 課)
12	過去分詞	過去分詞の作り方と用法 (テキスト: 第 14 課)
13	直説法現在完了 質疑応答	直説法現在完了形の意味と用法 (テキスト: 第 14 課) 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対するの質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

## 【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。  
<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

## 【成績評価の方法と基準】

学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。

## 【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

## 【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

## 【到達目標】

履修生は今学期終了時までには、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。これにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月24日（金）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示しますので、履修予定の人は必ず学習支援システムの「お知らせ」を見てください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベット 母音と子音の発音	本授業のガイダンス スペイン語と英語のアルファベットの違い 母音と子音の発音規則 (テキスト: 第 1 課)
2	アクセントのルール 注意すべきつづり 名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	単語の発音規則 名詞の性の概念と複数化 定冠詞と不定冠詞 (テキスト: 第 1 課、第 2 課)
3	主格人称代名詞 動詞 ser	主語となる人称代名詞 動詞 ser の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)
4	形容詞 所有形容詞前置形	性と数に対応した形容詞の変化 名詞の前につく形の所有形容詞 (テキスト: 第 3 課)
5	疑問文と否定文 動詞 tener 数 1 ~ 100	疑問文と否定文の語順 動詞 tener の意味と用法 1 から 100 までの数詞 (テキスト: 第 3 課)
6	直説法現在形規則動詞 疑問詞 (1)	直説法現在形の動詞規則変化 よく用いられる疑問詞 (テキスト: 第 4 課)
7	指示形容詞 動詞 estar ser と estar	指示形容詞の種類と用法 動詞 estar の意味と用法 動詞 ser と estar の使い分け (テキスト: 第 5 課)
8	中間試験 hay 存在文 tener + 名詞の表現	中間試験 hay 存在文の用法 hay 存在文と estar 所在文の使い分け tener を用いた状態の表現 (テキスト: 第 5 課)

9	動詞 ir 動詞 ver 動詞 hacer 動詞 poner 動詞 salir	動詞 ir、ver、hacer、poner、salir の意味と用法 (テキスト: 第 6 課)
10	ir a + 不定詞の表現 tener que + 不定詞の表現 時刻表現	動詞 ir を用いた予定の表現 動詞 tener を用いた義務の表現 時刻表現 (テキスト: 第 6 課)
11	日付表現 疑問詞 (2) 語幹母音変化動詞	曜日と月の表現 知っておくと便利な疑問詞 語幹母音変化動詞 (テキスト: 第 6 課、第 7 課)
12	天候表現 動詞 oír 動詞 venir 動詞 saber 動詞 conocer	天候を表す 3 人称表現 動詞 oír、venir、saber、conocer の意味と用法 (テキスト: 第 8 課)
13	動詞 dar 動詞 decir 動詞 traer 質疑応答	動詞 dar、decir、traer の意味と用法 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組む、理解度を把握することが必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

## 【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

## 【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

## 【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

## 【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、簡単な過去形や現在完了形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 1I」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中で一度、理解の確認のための小テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 1)	春学期のおさらい 目的語と目的格代名詞① (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
2	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 2)	目的語と目的格代名詞② (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
3	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar gustar 型動詞	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 gustar の意味と用法 gustar と似た使い方をする動詞 (テキスト: 第 10 課)
4	所有形容詞後置形 再帰動詞	名詞の後に置かれる所有形容詞 再帰動詞の概念と基本用法 (テキスト: 第 9 課、第 10 課)
5	再帰動詞のその他の 用法 義務の表現	再帰動詞のその他の用法 いくつかの義務の表現 (テキスト: 第 9 課)
6	比較級	「〇〇よりも ×× である」という 文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
7	最上級 不定語と否定語 感嘆文	「最も ×× である」という文の作 り方 よく用いられる不定語と否定語 感嘆文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
8	中間試験 直説法点過去規則活用	中間試験 直説法点過去形の規則活用と用法 (テキスト: 第 12 課)

9	直説法点過去不規則 活用 数 100 ~ 2,000	直説法点過去形の不規則動詞 100 から 2,000 までの数詞 (テキスト: 第 12 課)
10	直説法線過去規則活用 直説法線過去不規則 活用 点過去と線過去の使い 分け	直説法線過去形の規則動詞と不規則動詞 点過去形と線過去形の違い (テキスト: 第 13 課)
11	直接話法・間接話法 数 10,000 ~ 序数	直接話法と間接話法の違い 10,000 以上の数 序数の種類と用法 (テキスト: 第 13 課)
12	過去分詞	過去分詞の作り方と用法 (テキスト: 第 14 課)
13	直説法現在完了 質疑応答	直説法現在完了形の意味と用法 (テキスト: 第 14 課) 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対するの質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

## 【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。  
<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

## 【成績評価の方法と基準】

学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。

## 【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

## 【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回はオンライン授業で、授業開始日は4月28日です。動画をアップして発音などを確認しながら、課題を出して授業を進めていきます。

その後、通常授業に戻るみこみがない場合には、全員が参加できるような授業方法を模索することにいたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Lección 1	文字と発音
2	Lección 1	数詞、曜日、月の名前、挨拶の言葉
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞、動詞 ser、疑問文と否定文
5	Lección 3	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞前置形
6	Lección 3	形容詞、動詞 estar、hay
7	Lección 4	直説法現在：規則動詞、動詞 ir、tener
8	Lección 4	疑問詞 cuánto/a・cuántos/as、muy と mucho、前置詞 I
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用（一人称だけが不規則な動詞）、直接目的語〈を格〉人称代名詞
10	Lección 5	動詞 saber と conocer、動詞 oír と escuchar、動詞 hacer、関係代名詞 que
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用（語幹母音変化動詞）
12	Lección 6	間接目的語〈に格〉人称代名詞、動詞 guerer と poder
13	総合問題 + DVD	巻末にある総合問題（1課～6課）、スペイン語圏の映画、またはドキュメンタリー
14	振り返り	1課～6課の総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

第1課に関しては、出版社で用意したオンライン用教科書『プラサ・マヨール』を使います。

[https://text.asahipress.com/spanish/news\\_detail.php?id=187&liid](https://text.asahipress.com/spanish/news_detail.php?id=187&liid)

第2課からは『改訂版・ミラ』糸魚川美樹、二村久則、水戸博之、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7 を用意しましょう。生協の受付が4月21日～5月15日、それから入金を確認して発送するということから、6月初旬ぐらいまでは当日に使う教科書のコピーを添付します。

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが50%、期末テストが50%で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度までは文法中心の教科書を使っていましたが、今年度は耳から入るスペイン語にも力を入れたいので、『改訂版・ミラ』を選びました。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の4つの過去へ）。

## 【到達目標】

- 1) *gustar* 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の4つの過去を学び、活用を覚えるだけでなく、用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、文法、会話表現、練習問題、聞き取りテストと変わりませんが、内容がより複雑になりますので、予習・復習が大切になります。スペイン語圏の文化については適宜に DVD や CD などを使って紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 スペイン語圏の DVD	復習問題を解く
2	Lección 7	再帰動詞
3	Lección 7	時刻の表現
4	Lección 8	<i>gustar</i> 型動詞
5	Lección 8	比較級・最上級・絶対最上級、所有形容詞後置形
6	Lección 9	点過去規則動詞、時間の経過表現
7	Lección 9	前置詞 II、同等比較
8	Lección 10	点過去不規則動詞
9	Lección 10	不定語と否定語
10	Lección 11	線過去、点過去と線過去の違い
11	Lección 11	接続詞 <i>que</i> 、接続詞 <i>cuando</i>
12	Lección 12	過去分詞（現在完了・過去完了）
13	Lección 12	関係詞
14	振り返り	7 課～12 課の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身につけていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹、二村久則、水戸博之著、『改訂版・ミラ』、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかり学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50% で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して、学習の充実を図りたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年 T・U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的な文法をテキストに沿って順次学び、初級の文法を確実に習得することで初級スペイン語を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

最終的に初級のスペイン語を習得し、簡単な文章を書いたり、読解、またコミュニケーション（ヒアリングとスピーキング）ができるレベルに持って行くことを目的とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いながら初級の文法について毎回講義し、その説明に沿った多くの練習問題を授業内で解いていきながら授業を進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語の名詞の性と数および冠詞について。	名詞毎に分かれる女性名詞と男性名詞、名詞の複数形に関する説明とそれに連動する冠詞の説明。
2	スペイン語の名詞の性と数および冠詞について。	前回講義を行った名詞の性と数、そして冠詞に関する練習問題を全員で授業内で解いていきながら、逐次疑問点について説明。
3	主語人称代名詞と動詞 <b>ser</b> の現在形について	最も基本的かつ重要な主語人称代名詞について説明を行い、英語の <b>be</b> 動詞の役割を果たす <b>ser</b> 動詞について。
4	主語人称代名詞と動詞 <b>ser</b> の現在形	主語人称代名詞と動詞 <b>ser</b> の使い方についてさらに練習問題を解きながら講義を進める。
5	形容詞と指示代名詞。	スペイン語の基本的な形容詞を学ぶと共に名詞との関係を説明。指示代名詞についての説明。
6	動詞 <b>estar</b> の現在形。	主語の所在を表したり、主語の置かれた状態を表す <b>estar</b> について。
7	<b>ser</b> と <b>estar</b> の使い分け。	どちらも英語の <b>be</b> 動詞にあたるものだが、意味が異なり、使い分けが必要であることの説明とその使い方。
8	指示形容詞、 <b>hay</b> と <b>estar</b> の使い分けについて。	この、その、あのを表す指示形容詞と”ある”という意味を表す <b>hay</b> と <b>estar</b> についての説明と使い分けについて。
9	現在形規則動詞。	現在形動詞 <b>ar</b> 型、 <b>er</b> 型、 <b>ir</b> 型についてと使い方についての説明。
10	指示形容詞と所有形容詞。	これ、それ、あれ、を表す指示代名詞と私の、君の、彼の、私達の、君達の、彼らのという表現に備する所有形容詞の前置形について。

- |    |   |   |
|----|---|---|
| 11 | 動詞の現在形・語幹母音変化動詞、基数 1～30 までの呼び方。                 | 動詞の中での語幹の母音のみが変化する動詞についてと基数の呼び方の練習。   |
| 12 | 時刻の表現、動詞の原形を従える動詞、 <b>a</b> + 人（目的語）。           | 時を表す言い方と動詞の後に動詞の原形を接続する動詞。目的語が人であった場合の前置詞 <b>a</b> について。                              |
| 13 | 動詞の現在形で 1 人称単数のみが不規則な動詞、曜日と日付、基数 30～100 までの呼び方。 | 動詞の現在形のうち、1 人称のみが不規則な動詞の形についての説明と、曜日と日付の呼び方と文中での使い方。30 から 100 までの呼びからの練習。             |
| 14 | 所有形容詞、天候の表現、動詞の現在形のその他の不規則動詞、動詞を従える動詞（2）。       | 私の、君の、彼の、私達の、君達の、彼らの、という表現を名詞の後に配置する場合。天候の表し方、動詞の現在形のその他の不規則動詞のかたち、動詞の原形を接続させる動詞について。 |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として度々演習問題を配布するため、これを必ず行って次の授業での答え合わせや質問に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 土井祐文、下田幸男、佐藤邦彦著、朝日出版社、初版 2010 年

## 【参考書】

ひとりで学べるスペイン語教室、国際語学社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）平常点（40%）

携帯電話の使用は減点の対象とする。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見、要望に応じて授業の質を向上させるために練習問題の改善、授業内容の改善（復習を増やすなど）を行う。

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるため、春学期初回より Hoppii にて連絡事項や課題を確認すること。初回授業は 28 日とする。

## 【Outline and objectives】

Leaning basic Spanish grammar using textbook. Objective is to be able to carry out a fluent basic conversation in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

## 【到達目標】

スペイン語での簡単な文法を身につけ、文章表現ができるようになること。スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú

## 【参考書】

「新版スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %。欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

適宜配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

## 【Outline and objectives】

Learn basic Spanish grammars in order to structure basic conversation and paragraphs.

LANs100LA

## スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、人やモノの所在、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為について述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション	シラバスを用いての授業の説明。 文字と発音。アクセントの位置。
2	Lección 1	主語代名詞、動詞 <b>ser</b> 、名詞。
3	Lección 1	問題演習。
4	Lección 2	形容詞、動詞 <b>estar</b> 、動詞 <b>ser</b> 。
5	Lección 2	問題演習。
6	Lección 3	冠詞、存在を表す <b>hay</b> 、動詞 <b>estar</b> 。
7	理解度確認 Lección 3	中間試験を実施。 問題演習。
8	Lección 4	規則動詞、目的語につく前置詞 <b>a</b> 、時刻の表現。
9	Lección 4	問題演習。
10	Lección 5	間接目的語・直接目的語の人称代名詞、不規則動詞 I。
11	Lección 5	問題演習。
12	Lección 6	不規則動詞 II、" <b>tener</b> "、" <b>ir</b> "を使った表現、所有形容詞、天候の表現。
13	Lección 6	問題演習。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

宇野他 (2020) 『イデアル〈改訂新版〉』同学社。2500 円 + 税。  
ISBN978-4-8102-0439-1

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営 1 年 T・U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

## 【到達目標】

- ① gustar 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Lección 7	本シラバスを用いての授業の説明。 不規則動詞 III、不定詞と目的語 人称代名詞、指示形容詞。
2	Lección 7	問題演習。
3	Lección 8	再帰代名詞を伴う動詞、不定詞と再帰代名詞。
4	Lección 8	問題演習。
5	Lección 9	gustar 型動詞、比較表現。
6	Lección 9	問題演習。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	Lección 10	過去時制 I：点過去。
9	Lección 10	問題演習。
10	Lección 11	過去時制 II：線過去、点過去と線過去の使い分け。
11	Lección 11	問題演習。
12	Lección 12	現在完了、過去分詞、現在分詞。
13	Lección 12	問題演習。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

宇野他 (2020) 『イデアル〈改訂新版〉』同学社。2500 円 + 税。  
ISBN978-4-8102-0439-1

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加 30%、中間試験 30%、期末試験 40%とし、総合的に評価する。居眠り、度を越えた私語、無断退席、辞書を持たずに予習もしてこないなどの受講の様態は減点の対象となり得る。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時間けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

## 【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

## 【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 I・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP9

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字 (1~12)
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字 (13~30)
14	試験	試験に向け、質問など 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じて授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 I・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the saying I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気 of the saying II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

## オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 K・L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は 5 月 11 日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR. VENIR

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 60 %

期末試験の結果 40 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

## オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 K・L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は 5 月 11 日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞 II
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER,SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリー/買い物	前置詞 (a,de,en,...) 間接目的人称名詞/比較現在 I
6	色/クリスマス	動詞 DAR,TRAER,DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同 じように用いられる動詞 ENCAN-TAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR.
8	趣味/スポーツ	比較現在 II/比較表現 III/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調.感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞.不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去.直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去/不規則活用/所有詞 後置形

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, , Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 60 %

期末試験の結果 40 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 M

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 M

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

## 【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 朝日出版社

## 【参考書】

「新版スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %。欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。携帯電話の使用は減点の対象となるので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるため、初回より Hoppii にて連絡事項や課題を確認すること。尚初回授業は 28 日以降とする。

## 【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

## スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

## 【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 朝日出版社

## 【参考書】

「新版スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %。欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。携帯電話の使用は減点の対象となる。

## 【学生の意見等からの気づき】

適宜配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

## 【Outline and objectives】

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences. To structure conversation and write sentences in Spanish. Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 W

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 B~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちの一つである。スペイン、ラテンアメリカ諸国での公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

## 【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。理解度・進度に合わせ、内容を変更する。

【追記】学習支援システムでの授業開始日：4月30日(木)

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／文字と発音	春学期講義概要のほか、スペイン語のアルファベット、発音に慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的人称代名詞
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせてプリントを配布。

## 【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

## 【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

## 【Outline and objectives】

This class aims at improving comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1  
 単位数：1 単位  
 文 1 年 B~I

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「スペイン語 2 I」からの継続。  
 引き続き文法中心の授業。

## 【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級/最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法/現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則/不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い/練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則/不規則
第 12 回	過去未来	規則/不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了/過去未来完了
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

## 【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

## 【Outline and objectives】

Continuation of Spanish grammar from 1st semester.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2  
 単位数：1 単位  
 文 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちのひとつである。スペイン、ラテンアメリカ諸国での公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に、学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

## 【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。理解度・進度に合わせ、内容を変更する。

【追記】学習支援システムでの授業開始日：4月30日(木)

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション/ 文字と発音	春学期講義概要のほか、スペイン語のアルファベット、発音に慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞/不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞/hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞/指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞/所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞/直接目的 人称代名詞
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせプリントを配布。

## 【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

## 【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんです、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

## 【Outline and objectives】

This class aims at improving comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 M・N

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「スペイン語 2 I」からの継続。

引き続き文法中心の授業。

## 【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

## 【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんです、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

## 【Outline and objectives】

Continuation of Spanish grammar from 1st semester.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

## オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月11日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE,IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	未来を表す IR A +不定詞/語幹母音変化動詞 I
14	交通機関	動詞 SALIR, VENIR

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 60%

期末試験の結果 40%

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world

LANs100LA

## スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月11日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居. 天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER, REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞 動詞 VER. SABER, CONOCER
4	レシピ/レストランで	Saber + 不定詞、PODER + 不定詞、QUERER + 不定詞、PODER + 不定詞
5	衣服とアクセサリー、色	間接目的人称代名詞。 動詞 DAR, TRAER, DECIR
6	クリスマス. 買い物	比較現在 I. 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
7	余暇活動 スポーツ	動詞 GUSTAR. 活用
8	スペイン語圏の国々のお祭り	GUSTAR と同じ ように用いられる動詞 ENCAN- TAR, INTERESAR, PARECER, IMPORTAR/ 比較現在 II/ 比較現在 III. 数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER. ESTAR II
10	状態	SER+形容詞. estar+形容詞
11	体調. 感情表現	感情文. SER+形容詞. estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定詞と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則 活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去. 不規則活用. 所有 詞後 置形

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 60 %

期末試験の結果 40 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 U~X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。オンライン授業の場合も基本的に教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1回から8回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 U~X

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

## オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

当 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月11日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関	未来を表す IR A +不定詞

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, segunda edición. Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 60 %

期末試験の結果 40 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

## オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

営 1 年 D~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は 5 月 11 日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞 II
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER,SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリー/買い物	前置詞 (a,de,en,...) 間接目的人称名詞/比較現在 I
6	色/クリスマス	動詞 DAR,TRAER,DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同 じように用いられる動詞 ENCAN-TAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR.
8	趣味/スポーツ	比較現在 II/比較表現 III/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調.感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞.不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去.直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去/不規則活用/所有詞 後置形

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1,segunda edición , Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 60 %

期末試験の結果 40 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字 (1~12)
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字 (13~30)
14	試験	試験に向け、質問など 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 G

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the 言い方 I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気 of the 言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

## ヴィラ・ラケル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

4 月 23 日（木）授業開始

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。

状況により、授業進度を調整する可能性がある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オープニング 第 1 課 Hola, ¿ cómo te llamas?	ガイダンス 挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 1/3
2	第 1 課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 2/3
3	第 1 課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 3/3
4	第 2 課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 1/3
5	第 2 課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 2/3
6	第 2 課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 3/3
7	中間テスト	Examen U1-2
8	第 3 課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す 都市の位置 1/2
9	第 3 課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す 都市の位置 2/2
10	第 4 課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方について理解し話す 時刻を言い、スケジュールについて話す 1/2
11	第 4 課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方について理解し話す 時刻を言い、スケジュールについて話す 2/2
12	第 5 課 La familia	家族について話す 人の性格や容姿 1/2

13 第 5 課  
La familia 家族について話す  
人の性格や容姿  
2/2

14 期末試験 Examen final

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「¡ Muy bien! いいね! スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カステイージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

## 【参考書】

とくになし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、試験の成績 60%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

## 【Outline and objectives】

Introduction to Spanish.

LANs100LA

## スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

## ヴィラ・ラケル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学  
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：  
DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。  
状況により、授業進度を調整する可能性がある。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）  
の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オープニング 第6課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 1/3	春学期の復習とガイダンス。 有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情 報をやり取りする
2	第6課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 2/3	有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情 報をやり取りする
3	第6課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 3/3	有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情 報をやり取りする
4	第7課 Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 1/2	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
5	第7課 Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 2/2	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
6	中間テスト	Examen ~ U7
7	第8課 De compras 1/2	店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
8	第8課 De compras 2/2	店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
9	第9課 ¡ A comer! 1/2	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの飲みたいものを頼む レストラン、カフェテリア、バル などのメニューや営業時間を読んで理解する 2/2

10	第9課 ¡ A comer! 2/2	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの飲みたいものを頼む レストラン、カフェテリア、バル などのメニューや営業時間を読んで理解する 1/2
11	第10課 Los mexicanos se levantan pronto 1/2	1日の生活について情報交換する 天候
12	第10課 Los mexicanos se levantan pronto 2/2	1日の生活について情報交換する 天候
13	期末試験	Examen final
14	振り返って1年のま め	Clase final - Reflexión

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人  
で進む学習をすること。復習をすること。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

「¡ Muy bien! 1 いいね! スペイン語」、フアン・カルロス・モヤ  
ノ・ロベス/カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ/廣康好  
美、朝日出版社、2,600円+税

## 【参考書】

とくになし

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、テスト/試験の成績60%

## 【学生の意見等からの気づき】

未確認

## 【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

## 【Outline and objectives】

Introduction to Spanish

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

営 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。オンライン授業の場合も基本的に教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser" y "estar" 2	ser + 形容詞、estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1回から8回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

当 1 年 K

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回はオンライン授業で、授業開始日は5月1日です。動画をアップして発音などを確認しながら、課題を出して授業を進めていきます。

その後、通常授業に戻るみこみがない場合には、全員が参加できるような授業方法を模索することにいたします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文字と発音
	Lección 1	
2	Lección 1	数詞、曜日、月の名前、挨拶の言葉
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞、動詞 ser、疑問文と否定文
5	Lección 3	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞前置形
6	Lección 3	形容詞、動詞 estar、hay
7	Lección 4	直説法現在：規則動詞、動詞 ir、tener
8	Lección 4	疑問詞 cuánto/a・cuántos/as、muy と mucho、前置詞 I
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用（一人称だけが不規則な動詞）、直接目的語〈を格〉人称代名詞
10	Lección 5	動詞 saber と conocer、動詞 oír と escuchar、動詞 hacer、関係代名詞 que
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用（語幹母音変化動詞）
12	Lección 6	間接目的語〈に格〉人称代名詞、動詞 guerer と poder
13	総合問題 + DVD	巻末にある総合問題（1課～6課）、スペイン語圏の映画、またはドキュメンタリー
14	振り返り	1課～6課の総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

第1課に関しては、出版社で用意したオンライン用教科書『プラサ・マヨール』を使います。

[https://text.asahipress.com/spanish/news\\_detail.php?id=187&liid](https://text.asahipress.com/spanish/news_detail.php?id=187&liid)

第2課からは『改訂版・ミラ』糸魚川美樹、二村久則、水戸博之、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7 を用意しましょう。生協の受付が4月21日～5月15日、それから入金を確認して発送するということですから、6月初旬ぐらいまでは当日に使う教科書のコピーを添付します。

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが50%、期末テストが50%で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度までは文法中心の教科書を使っていましたが、今年度は耳から入るスペイン語にも力を入れたいので、『改訂版・ミラ』を選びました。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

当 1 年 M~Q

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の4つの過去へ）。

## 【到達目標】

- 1) *gustar* 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の4つの過去を学び、活用を覚えるだけでなく、用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、文法、会話表現、練習問題、聞き取りテストと変わりませんが、内容がより複雑になりますので、予習・復習が大切になります。スペイン語圏の文化については適宜にDVDやCDなどを使って紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 スペイン語圏のDVD	復習問題を解く
2	Lección 7	再帰動詞
3	Lección 7	時刻の表現
4	Lección 8	<i>gustar</i> 型動詞
5	Lección 8	比較級・最上級・絶対最上級、所有形容詞後置形
6	Lección 9	点過去規則動詞、時間の経過表現
7	Lección 9	前置詞 II、同等比較
8	Lección 10	点過去不規則動詞
9	Lección 10	不定語と否定語
10	Lección 11	線過去、点過去と線過去の違い
11	Lección 11	接続詞 <i>que</i> 、接続詞 <i>cuando</i>
12	Lección 12	過去分詞（現在完了・過去完了）
13	Lección 12	関係詞
14	振り返り	7課～12課の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分をCDで聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身につけていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹、二村久則、水戸博之著、『改訂版・ミラ』、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかり学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが50%、期末テストが50%で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して、学習の充実を図りたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

当 1 年 T・U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。オンライン授業の場合も基本的に教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1回から8回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営 1 年 T・U

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語(1) I

2017年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにならう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第1課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第2課	名詞の性、名詞の数
3	第2課	冠詞、主格人称代名詞
4	第4課	ser 動詞の活用と用法
5	第5課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第4課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第4課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第5課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第5課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第6課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第6課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第7課	目的格人称代名詞
13	第7課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は遠慮なく申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法1年Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語(1)Ⅰから連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第8課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第8課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第9課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第10課	再帰動詞の活用と用法
5	第10課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第11課	過去分詞、現在分詞
7	第11課	現在完了の活用と用法
8	第12課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第12課	不定語と否定語、比較表現
10	第13課	点過去（不規則）1
11	第13課	点過去（不規則）2
12	第14課	再帰動詞の点過去
13	第14課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨールⅠ ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900円(+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点40%、試験60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語(1) I

2017年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法(冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在)を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

最初の数回はオンライン授業で、授業開始日は5月2日です。動画をアップして発音などを確認しながら、課題を出して授業を進めていきます。

その後、通常授業に戻るみこみがない場合には、全員が参加できるような授業方法を模索することにいたします。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Lección 1	文字と発音
2	Lección 1	数詞、曜日、月の名前、挨拶の言葉
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞、動詞 ser、疑問文と否定文
5	Lección 3	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞前置形
6	Lección 3	形容詞、動詞 estar、hay
7	Lección 4	直説法現在：規則動詞、動詞 ir、tener
8	Lección 4	疑問詞 cuánto/a・cuántos/as、muy と mucho、前置詞 I
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用(一人称だけが不規則な動詞)、直接目的語(を格)人称代名詞
10	Lección 5	動詞 saber と conocer、動詞 oír と escuchar、動詞 hacer、関係代名詞 que
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用(語幹母音変化動詞)
12	Lección 6	間接目的語(に格)人称代名詞、動詞 guerer と poder
13	総合問題+ DVD	巻末にある総合問題(1課～6課)、スペイン語圏の映画、またはドキュメンタリー
14	振り返り	1課～6課の総復習

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

第1課に関しては、出版社で用意したオンライン用教科書『プラサ・マヨール』を使います。

[https://text.asahipress.com/spanish/news\\_detail.php?id=187&liid](https://text.asahipress.com/spanish/news_detail.php?id=187&liid)

第2課からは『改訂版・ミラ』糸魚川美樹、二村久則、水戸博之、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7 を用意しましょう。生協の受付が4月21日～5月15日、それから入金を確認して発送するということですから、6月初旬ぐらいまでは当日に使う教科書のコピーを添付します。

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが50%、期末テストが50%で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度までは文法中心の教科書を使っていましたが、今年度は耳から入るスペイン語にも力を入れたいので、『改訂版・ミラ』を選びました。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の4つの過去へ）。

## 【到達目標】

- 1) **gustar** 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の4つの過去を学び、活用を覚えるだけでなく、用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、文法、会話表現、練習問題、聞き取りテストと変わりませんが、内容がより複雑になりますので、予習・復習が大切になります。スペイン語圏の文化については適宜に DVD や CD などを使って紹介します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 スペイン語圏の DVD	復習問題を解く
2	Lección 7	再帰動詞
3	Lección 7	時刻の表現
4	Lección 8	<b>gustar</b> 型動詞
5	Lección 8	比較級・最上級・絶対最上級、所有形容詞後置形
6	Lección 9	点過去規則動詞、時間の経過表現
7	Lección 9	前置詞 II、同等比較
8	Lección 10	点過去不規則動詞
9	Lección 10	不定語と否定語
10	Lección 11	線過去、点過去と線過去の違い
11	Lección 11	接続詞 <b>que</b> 、接続詞 <b>cuando</b>
12	Lección 12	過去分詞（現在完了・過去完了）
13	Lección 12	関係詞
14	振り返り	7 課～12 課の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹、二村久則、水戸博之著、『改訂版・ミラ』、同学社 ISBN978-4-8102-0354-7

## 【参考書】

特になし。教科書をしっかり学習すること。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50% で評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して、学習の充実を図りたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

## 【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

## 【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

## スペイン語 (2) I

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。オンライン授業の場合も基本的に教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞 (前置系) を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir, venir, al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト (教科書)】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 (2) II

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト (教科書)】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 (2) I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞 (前置形、後置形)
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか (著)、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』(小学館)

『わかるスペイン語』西川喬 (同学社)

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意を要する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるため、春学期初回より Hoppii にて連絡事項や課題を確認すること。4 月 27 日以降の開講となる。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 (2) II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去 (不規則) 1
11	第 13 課	点過去 (不規則) 2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか (著)、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』(小学館)

『わかるスペイン語』西川喬 (同学社)

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

## 【参考書】

初回授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

## 【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

## スペイン語3

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAに参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

## 【参考書】

初回授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)を総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

## 【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

## スペイン語 2

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

## 【参考書】

初回授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

## 【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

## スペイン語 4

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

## 【参考書】

初回授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

## 【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

## スペイン語5

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAに参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項と語彙・表現の知識を生かしながら、簡単な読み書きができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得を目指す。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行う。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ。
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ。
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ。
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ。
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ。
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ。
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ。
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ。
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ。
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ。
13	接続詞と比較の学習	スペイン語の接続詞と、形容詞・副詞の比較について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018年、ISBN9784255550985、本体価格2,100円。

- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009年、ISBN9784255550282、本体価格1,600円。

## 【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

## 【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.

LANs100LA

## スペイン語6

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国1年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAに参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、文法事項の知識と語彙・表現のさらなる充実によって、読み書き能力の向上を目指す。

## 【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得を目指す。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の学習事項の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則形）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則形）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨールI 改訂版』朝日出版社、2018年、ISBN9784255550985、本体価格2,100円。  
- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009年、ISBN9784255550282、本体価格1,600円。

## 【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20%、小テスト：20%、学期末試験：60%。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

春学期と同様に、1種以上の西和辞典を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

## 【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading and writing Spanish text.

LANs100LA

## スペイン語 1

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

## 【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を習得する。
5	人称代名詞の主格と動詞 <b>ser</b> （現在形）	人称代名詞の主格の用法と、動詞 <b>ser</b> の現在形の活用と用法を習得する。
6	動詞 <b>estar</b> （現在形）と形容詞	動詞 <b>estar</b> の現在形の活用と用法と、形容詞の用法を習得する。
7	所有詞と存在文	所有詞と存在文の用法を習得する。
8	現在形規則活用（ <b>-ar</b> 動詞）	<b>-ar</b> 動詞の現在形の規則活用と用法を習得する。
9	現在形規則活用（ <b>-er</b> 動詞、 <b>-ir</b> 動詞）	<b>-er</b> 動詞と <b>-ir</b> 動詞の現在形の規則活用と用法を習得する。
10	目的格と前置詞格	人称代名詞の目的格と前置詞格の用法を習得する。
11	<b>gustar</b> 型動詞	<b>gustar</b> 型動詞の活用と用法を習得する。
12	現在形不規則活用（語根母音変化動詞）	現在形における語根母音変化動詞の活用と用法を習得する。
13	現在形不規則活用（その他）	現在形におけるその他の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

東京大学教養学部スペイン語部会『スペイン語学習の羅針盤』朝日出版社、2020 年、ISBN9784255511111、本体価格 2,200 円。

## 【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語3

2017年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

## 【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	動詞 <i>gustar</i> と所有詞	動詞 <i>gustar</i> と所有詞の用法を習得する。
3	比較級と最上級	比較級と最上級の用法を習得する。
4	再帰動詞	再帰動詞の用法を習得する。
5	点過去形規則活用	点過去形の規則活用と用法を習得する。
6	点過去形不規則活用	点過去形の不規則活用と用法を習得する。
7	数詞と月日・曜日	数詞および月日と曜日の表現を習得する。
8	感嘆文と不定語・否定語	感嘆文および不定語と否定語の用法を習得する。
9	線過去形	線過去形の活用と用法を習得する。
10	過去時制のまとめ	点過去形と線過去形の用法を整理する。
11	現在分詞と進行形	現在分詞と進行形の用法を習得する。
12	過去分詞と完了形	過去分詞と完了形の用法を習得する。
13	受動表現	受動表現を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

東京大学教養学部スペイン語部会『スペイン語学習の羅針盤』朝日出版社、2020年、ISBN9784255551111、本体価格2,200円。

## 【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

## 【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20%、小テスト：20%、学期末試験：60%。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

西和辞典を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

また、授業内容は受講者の理解度に沿って柔軟に対応するため、授業計画には変更が生じる場合もある。

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語2

2017年度以降入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国1年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第1外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

## 【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	アルファベット	発音とアクセント
2.	名詞と冠詞	性と数 定冠詞と不定冠詞
3.	形容詞	位置と語尾変化
4.	直説法現在	<b>ar,er,ir</b> 規則動詞 主語の人称代名詞
5.	直説法現在	所有形容詞と所有代名詞 国名とその形容詞
6.	直説法現在	数字（0～30） 指示形容詞と指示代名詞
7.	直説法現在	<b>ser</b> 動詞と <b>estar</b> 動詞
8.	直説法現在	語根母音変化動詞 その他の不規則動詞
9.	直説法現在	時刻と日付の表現
10.	直説法現在	目的格人称代名詞 序数
11.	直説法現在	<b>gustar</b> と <b>gustar</b> 型動詞 天候の表現
12.	直説法現在	再帰動詞 比較の表現
13.	復習	春学期文法事項のおさらいをする。
14.	期末試験	期末試験を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

## 【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材より積極的活用

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 4

2017 年度以降入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

## 【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	過去分詞	スペイン語過去分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
2.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
3.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
4.	現在分詞	スペイン語の現在分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
5.	関係代名詞	スペイン語の関係代名詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
6.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
7.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
8.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
9.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
10.	直説法過去完了	スペイン語の過去完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
11.	直接法未来	スペイン語の未来形に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
12.	直説法未来完了	スペイン語の未来完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。

13. 復習 春学期文法事項のおさらいをする。
14. 期末試験 期末試験を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

## 【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材より積極的活用

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

## 【参考書】

初回授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

## 【Outline and objectives】

In this course, we will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

## スペイン語3

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

## 【参考書】

初回授業時に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

## 【Outline and objectives】

In this course we will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

## スペイン語2

2017年度以降入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国1年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第1外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

## 【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	アルファベット	発音とアクセント
2.	名詞と冠詞	性と数 定冠詞と不定冠詞
3.	形容詞	位置と語尾変化
4.	直説法現在	<b>ar,er,ir</b> 規則動詞 主語の人称代名詞
5.	直説法現在	所有形容詞と所有代名詞 国名とその形容詞
6.	直説法現在	数字（0～30） 指示形容詞と指示代名詞
7.	直説法現在	<b>ser</b> 動詞と <b>estar</b> 動詞
8.	直接法現在	語根母音変化動詞 その他の不規則動詞
9.	直接法現在	時刻と日付の表現
10.	直説法現在	目的格人称代名詞 序数
11.	直説法現在	<b>gustar</b> と <b>gustar</b> 型動詞 天候の表現
12.	直説法現在	再帰動詞 比較の表現
13.	復習	春学期文法事項のおさらいをする。
14.	期末試験	期末試験を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

## 【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的活用

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 4

2017 年度以降入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

## 【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	過去分詞	スペイン語過去分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
2.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
3.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
4.	現在分詞	スペイン語の現在分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
5.	関係代名詞	スペイン語の関係代名詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
6.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
7.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
8.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
9.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
10.	直説法過去完了	スペイン語の過去完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
11.	直説法未来	スペイン語の未来形に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
12.	直説法未来完了	スペイン語の未来完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。

13. 復習 春学期文法事項のおさらいをする。
14. 期末試験 期末試験を実施する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

## 【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

## 【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的活用

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。オンライン授業の場合も基本的に教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 <b>ser</b> を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 <b>hay</b> 、動詞 <b>estar</b> を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	<b>ser</b> + 形容詞、 <b>estar</b> + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 <b>tener</b> 、動詞 <b>hacer</b> を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 <b>ir</b> 、 <b>venir</b> 、 <b>al</b> と <b>del</b> 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。オンライン授業の場合も基本的に教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir, venir, al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビツ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

## 【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

## 【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

## 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

## スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学生社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるため、初回より Hoppii にて連絡事項や課題を確認すること。4 月 27 日以降の開講となる。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法

## 【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初級文法	オリエンテーション アルファベットと発音
2	初級文法	アクセント あいさつ
3	初級文法	主格人称代名詞 名詞の性と数
4	初級文法	冠詞 形容詞
5	初級文法	ser の直説法現在 所有形容詞（前置形）
6	初級文法	estar の直説法現在 ser + 形容詞と estar + 形容詞の比較
7	初級文法	疑問文と否定文 動詞 hay
8	初級文法	復習
9	初級文法	hay と estar の比較 直説法現在規則活用動詞
10	初級文法	直接目的語と前置詞 a 一人称単数形のみ不規則活用をする動詞
11	初級文法	天候を表す hace 主な前置詞
12	初級文法	指示形容詞 指示代名詞
13	初級文法	語幹母音変化動詞 querer と poder の用法
14	初級文法	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

i Por supuesto!

もちろん！ スペイン語

(著 者) 内田千重子

(出版社) 同学社

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

試験 (70%)、平常点 (30%)

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材より積極的活用

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

## ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法

## 【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初級文法	その他の主要な不規則活用動詞 <b>tener</b> と <b>ir</b> の用法
2	初級文法	所有形容詞（後置形） 目的格人称代名詞
3	初級文法	前置詞格人称代名詞 <b>gustar</b> 型動詞
4	初級文法	再帰動詞 時間の表現
5	初級文法	無人称表現 不定語と否定語
6	初級文法	過去分詞 直説法現在完了
7	初級文法	復習
8	初級文法	現在分詞 疑問詞
9	初級文法	直説法点過去規則活用 比較級
10	初級文法	最上級 絶対最上級
11	初級文法	直説法点過去不規則活用 時間の経過を表す <b>hace</b> 主な関係詞
12	初級文法	直説法線過去 点過去と線過去の比較
13	初級文法	直説法過去完了 直説法未来と過去未来
14	初級文法	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

| Por supuesto!

もちろん！ スペイン語

(著 者) 内田千重子

(出版社) 同学社

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

試験 (70 %)、平常点 (30 %)

## 【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材より積極的活用

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

## 【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および ~があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「~は~である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 朝日出版社

## 【参考書】

新版「スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

携帯電話の使用は減点の対象となる。

欠席は3回までとする。3回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるため、初回より Hoppii にて連絡事項や課題を確認すること。4月27日以降の開始となる。

## 【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation. The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

LANs100LA

## スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

## 【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の内容についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやっておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú

## 【参考書】

「新版スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

携帯電話の使用は減点の対象とする。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

適宜配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

## 【Outline and objectives】

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences. To structure conversation in Spanish and write sentences. Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

LANs100LA

## スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

## 【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 朝日出版社

## 【参考書】

新版「スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

携帯電話の使用は減点の対象となる。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

## 【その他の重要事項】

オンラインでの授業となるため、初回より Hoppii にて連絡事項や課題を確認すること。4 月 27 日以降の開始となる。

## 【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation. The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

LANs100LA

## スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

## 【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の内容についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやっておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Ahora tú 朝日出版社

## 【参考書】

「新版スペイン語の入門」

## 【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

携帯電話の使用は減点の対象とする。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

適宜配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

## 【Outline and objectives】

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences. To structure conversation in Spanish and write sentences. Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

LANs100LA

## スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1 年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月11日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR. VENIR

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi. 2a. edición

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 60 %

期末試験の結果 40 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

## オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ1年 A~H

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

## 【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開講日は5月11日。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居. 天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER, REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名 動詞 VER. SABER, CONOCER
4	レシピ/レストランで	Saber + 不定詞, PODER + 不定詞, QUERER + 不定詞, PODER + 不定詞
5	衣服とアクセサリー. 色	間接目的人称代名詞. 動詞 DAR, TRAER, DECIR
6	クリスマス. 買い物	比較現在 I. 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
7	余暇活動 スポーツ	動詞 GUSTAR. 活用
8	スペイン語圏の国々のお祭り	GUSTAR と同じ ように用いられる動詞 ENCAN- TAR, INTERESAR, PARECER, IMPORTAR/ 比較現在 II/比較現在 III. 数量の 比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER. ESTAR II
10	状態	SER+形容詞. estar+形容詞
11	体調. 感情表現	感情文. SER+形容詞. estar+形容 詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則 活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去. 不規則活用. 所有 詞後 置形

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi

## 【参考書】

授業の進行によって随時提示。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40 %

期末試験の結果 60 %

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

## 【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

## スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30）
14	試験	試験に向け、質問など 試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は遠慮なく申し出てください。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語 2-II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ1年I~P

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2-I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the 言い方 I
9	直説法点過去 天気②	直説法点過去形の規則活用 天気 of the 言い方 II
10	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
11	直説法線過去 直説法線過去	直説法線過去形の規則活用 直説法線過去形の不規則活用
12	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の規則活用 直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の規則活用 直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語補講 1ー I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) でその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、Hoppii で提示する。オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字 (1～12)
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字 (13～30) 試験に向け、質問など
14	試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に Hoppii で提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【その他の重要事項】

重要！

履修希望者が多い場合には、選抜を実施する。前期後期を問わず、前期初回授業に出席しなかった学生は原則履修を許可しないので、必ず初回授業に出席すること。

オンライン授業でも授業開始時刻は同じである。必ず各授業の開始時刻に Hoppii の「お知らせ」を確認すること。授業時間を過ぎると情報は参照できなくなるので注意すること。

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は遠慮なく申し出ること。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

## 【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語補講 1 - I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the 言い方 I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気 of the 言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
14	試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

## 【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

## 【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

## スペイン語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2~3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者（再履修者）を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業である。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいく。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていく。

## 【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈する。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をやる。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用する。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となり、それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明、アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	発音と文字の規則、名詞の性と数	発音と文字の規則を理解し、基本単語を覚える。あいさつの練習。名詞の性と数を理解する
3	冠詞、主語人称代名詞、動詞 ser	冠詞を理解し、ser の用法を練習する。
4	形容詞	形容詞の理解と、指示形容詞、指示代名詞の練習。
5	動詞 estar と hay、所有形容詞	所有形容詞を覚えるほか、estar、hay の用法を理解し練習する。
6	復習と中間試験	第1課～第3課の復習、中間試験。
7	直説法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の活用練習と用法の理解。
8	不規則活用動詞 1	不規則活用動詞の活用練習と用法の理解。特に ir、tener の用法を確認。
9	不規則活用動詞 2	不規則活用動詞の活用練習と用法の理解。特に conocer、saber の違いを確認。
10	時刻、天候の表現	時刻の表現と天候の表現を確認する。既出の動詞を用いた練習をする。

11	語幹母音変化動詞	語幹母音変化動詞の活用練習と用法の理解。特に querer、poder、pensar の用法を確認。
12	直接目的語人称代名詞	直接目的語人称代名詞の用法を理解し練習する。
13	間接目的語人称代名詞	間接目的語人称代名詞の用法を理解し練習する。
14	復習と期末試験、解説	第4課～第8課の復習と期末試験とその解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合、また宿題に関しては適宜指示するが、復習を必ず行うこと。

教科書を中心に学習すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

阿由葉恵利子他（2017）『ミ カミーノ（Mi camino）』同出版社

## 【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携である。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下。必携ではない。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

## 【成績評価の方法と基準】

遠隔授業においては、課題を期日までに提出することで出席、期日を過ぎて提出は遅刻、提出をしていない場合は欠席とみなします。詳細に関しては、授業初日もしくはそれまでに、学習支援システムに掲載します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗を頻繁に見直す。

## 【その他の重要事項】

学習支援システムの「お知らせ」を、初回の授業前までに必ず確認してください。

再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。必ず4月28日の本来の授業時間中（2限目）に学習支援システムにアクセスしてください。提出物を求めますので、締め切りまでに提出してください。提出の無い場合、抽選の有無にかかわらず履修を認めないこともあります。

## 【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

## スペイン語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2~3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語補講 1 - I からの継続である。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいく。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていく。

## 【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。

好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。

平易な文章を読み、理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈する。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をやる。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用する。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、春学期復習	授業概要説明し、春学期の復習をする。
2	<b>gustar</b> 型動詞	<b>gustar</b> 型動詞を理解し練習する。
3	比較	比較級・最上級・絶対最上級を理解し練習する。
4	再帰動詞 1	再帰動詞の全人称用法を理解し練習する。
5	再帰動詞 2	再帰動詞の 3 人称用法を理解し練習する。
6	復習と中間試験	第 9 課から第 11 課と直接法現在形の復習、中間試験をする。
7	点過去規則動詞	点過去の用法を理解し、規則動詞の活用を練習する。
8	点過去不規則動詞	点過去不規則動詞の活用を練習する。
9	線過去	線過去の用法を理解し練習する。
10	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解して使い分ける練習をする。
11	現在分詞、不定語と否定語	現在分詞の形と用法を理解する。不定語と否定語の用法を理解し練習する。
12	過去分詞、現在完了	過去分詞と現在完了の形と用法を覚え練習する。
13	過去時制（現在完了、点過去、線過去）のまとめ	既出の過去時制を整理し違いを理解し、基本的な使い分けが確実にできるよう練習する。
14	復習と期末試験、解説	第 12 課から第 16 課の復習をし、期末試験とその解説を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合、また宿題に関しては適宜指示するが、復習を必ず行うこと。

教科書を中心に学習すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

阿由葉恵利子他（2017）『ミ カミーノ（Mi camino）』同人社

## 【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携である。

『西和辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下。必携ではない。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）60%、期末試験 40%

5 回以上の欠席、期末試験を受けなかったものは評価の対象としない。

## 【学生の意見等からの気づき】

小テストのフィードバックをより詳細に行う。復習する時間をより多く設ける。

## 【その他の重要事項】

秋学期のみの履修でも、履修希望者は春学期の第 1 回目の授業に出席してください。欠席した場合、秋学期からのみでも欠席 1 回を計算します。

また秋学期からの履修でも、春学期の授業に出席することを推奨します。そうでない場合は、春学期のシラバスを確認し、春学期の範囲を各自できちんと復習しておいてください。

## 【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

【Outline and objectives】

Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の復習。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。理解度・進度に合わせ、内容を変更する。

【追記】学習支援システムでの授業開始日：4月30日(木)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容説明。
第2回	名詞	性と数
第3回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第4回	形容詞／hay	性と数
第5回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第6回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第7回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第8回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第9回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第10回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第11回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第12回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第13回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的 人称代名詞
第14回	テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせてプリントを配布。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

LANs100LA

## スペイン語補講 2-Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4  
 単位数：1 単位  
 法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「スペイン語補講 2Ⅰ」からの継続。  
 引き続き文法中心の授業。

## 【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級/最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法/現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則/不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い/練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則/不規則
第 12 回	過去未来	規則/不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了/過去未来完了
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

## 【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

## 【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

## 【Outline and objectives】

Continuing Spanish grammar class from 1st semester.

LANs100LA

## スペイン語補講 2-Ⅰ

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4  
 単位数：1 単位  
 法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から  
 学んでいく。

## 【到達目標】

- ①綴りを見て単語を発音することができる。
- ②人の職業や国籍・出身地について述べることができる。
- ③特定のものや人の所在について述べるができる。
- ④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。
- ⑤直説法現在形の動詞の活用から不定詞を推測し、辞書を引くことができる。
- ⑥ querer, poder などの動詞の用法を理解し、欲求、願望、可能、許可などについての表現ができる。
- ⑦ スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにと  
 なる各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都  
 度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具  
 体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業について説明。
2	文法解説と演習 1	名詞、冠詞、hay など。
3	文法解説と演習 2	主格人称代名詞、規則活用の動詞など。
4	文法解説と演習 3	形容詞、動詞 ser、疑問文など。
5	文法解説と演習 4	所有形容詞、動詞 estar など。
6	文法解説と演習 5	1 人称単数のみ不規則な活用の動詞など。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	文法解説と演習 6	指示形容詞と指示代名詞、語幹母音変化動詞。
9	文法解説と演習 7	所有形容詞後置形と所有代名詞、目的格人称代名詞。
10	文法解説と演習 8	時間の表現、5 つの不規則活用の動詞など。
11	文法解説と演習 9	前置詞と名詞・代名詞、Gustar 型の動詞など。
12	文法解説と演習 10	再帰動詞、知覚・使役・放任の構文。
13	文法解説と演習 11	再帰動詞、天候表現など。
14	理解度確認	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社(2002)を推薦する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

## 【その他の重要事項】

教員のメールアドレスは  
etsuohasegawa@gmail.com

## 【Outline and objectives】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

LANs100LA

## スペイン語補講 2-I

2017年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

## 【到達目標】

①過去形、現在完了形の用法を理解し、過去の行為、動作、状況について述べることができる。②再帰動詞の用法を理解し、日常生活について話すことができる。③ *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤日付・曜日の表現ができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期スペイン語補講 2-I で選定して使用した教科書を用いる。初回の授業で教科書などについて指示する。以後は教科書に沿ってすすめる。文法事項の学習と問題演習を行ってゆく。受講生を指名して、音読、問題への解答を求める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業について説明。
2	文法解説と演習 1	直説法点過去規則活用など。
3	文法解説と演習 2	直説法点過去不規則活用、時の経過を表す表現など。
4	文法解説と演習 3	過去分詞、直説法現在完了。
5	文法解説と演習 4	過去分詞、名詞句で用いられる過去分詞、受動文。
6	文法解説と演習 5	直説法線過去、-mente の副詞。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	文法解説と演習 6	比較表現の基本的な型、現在分詞、進行形。
9	文法解説と演習 7	比較表現 1、直説法過去完了。
10	文法解説と演習 8	直説法未来、比較表現 2。
11	文法解説と演習 9	直説法過去未来。
12	文法解説と演習 10	関係代名詞、直説法未来完了。
13	理解度確認	期末試験を実施。
14	理解度確認	秋学期の総復習。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

初回の授業で指示する。

## 【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社(2002)を推薦する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加 30%、中間試験 30%、期末試験 40%とし、総合的に評価する。居眠り、度を越えた私語、無断退席、辞書を持たずに予習もしてこないなどの受講の様態は減点の対象となり得る。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が5回に達すると、単位認定資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

**【その他の重要事項】**

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。授業内容に関する質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。etsuhasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能な上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

**【Outline and objectives】**

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

LANk100LA

**朝鮮語 1 I**

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 A～I

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

**【到達目標】**

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語1Ⅱ**

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

法1年A～I

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 I

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

文 1 年 L~N

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語1Ⅱ**

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

文1年L～N

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 I

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

文1年P～X

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語1Ⅱ**

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

文1年P～X

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 I

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

営 1 年 A～L

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語1Ⅱ**

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

営1年A～L

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 I

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1年 M~U

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

## 朝鮮語1Ⅱ

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 M~U

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

#### 【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 I

2017年度以降入学者

永原 歩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

法1年J～T

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語1Ⅱ**

2017年度以降入学者

永原 歩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

法1年J～T

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年 U~W、文 1 年 A~I

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課/第 2 課	基本母音字/子音字その 1
2	第 3 課/第 4 課	子音字その 2/子音字その 3
3	第 5 課/第 6 課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第 7 課/第 8 課	激音/合成母音字
5	第 9 課/第 10 課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第 11 課/第 12 課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第 13 課/第 14 課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課/第 16 課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第 17 課/第 18 課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第 19 課/第 20 課	過去形その 1/過去形その 2
13	第 21 課/第 22 課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が 10%ずつ、合計 100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

## 朝鮮語1Ⅱ

2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

法1年U~W、文1年A~I

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

#### 【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2 I

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

法1年A～I

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月22日

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語2Ⅱ**

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

法1年A～I

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2 I

2017年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

文1年 L~N

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語2Ⅱ**

2017年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1単位

文1年L～N

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2 I

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：1単位

文1年P～X

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

## 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。(以下はオンライン授業実施決定以前の評価基準です)

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席(遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります)がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

## 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

## 【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangu and basic Korean grammar.

LANk100LA

## 朝鮮語2Ⅱ

2017年度以降入学者

## 神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

文1年P～X

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言(動詞、形容詞など)に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

## 【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

## 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式(同一の教材を用いて一体の授業として行なう)によって授業を進めます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

## 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

## 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2 I

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

営1年A～L

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月22日

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語2Ⅱ**

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

営1年A～L

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2 I

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：1単位

営1年M~U

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

## 朝鮮語2 II

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 M~U

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

#### 【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2 I

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法1年J～T

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語2Ⅱ**

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

法1年J～T

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

### 内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法 1 年 U~W、文 1 年 A~I

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課/第 2 課	基本母音字/子音字その 1
2	第 3 課/第 4 課	子音字その 2/子音字その 3
3	第 5 課/第 6 課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第 7 課/第 8 課	激音/合成母音字
5	第 9 課/第 10 課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第 11 課/第 12 課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第 13 課/第 14 課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課/第 16 課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第 17 課/第 18 課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第 19 課/第 20 課	過去形その 1/過去形その 2
13	第 21 課/第 22 課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が 10%ずつ、合計 100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

## 朝鮮語2Ⅱ

2017年度以降入学者

### 内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1単位

法1年U~W、文1年A~I

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

#### 【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

#### 【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

### 朝鮮語(1) I

2017年度以降入学者

LANk100LA

### 朝鮮語1

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

法1年Y

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語(1)Ⅱ**

2017年度以降入学者

LANk100LA

**朝鮮語3**

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

法1年Y

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

**朝鮮語(2) I**

2017年度以降入学者

LANk100LA

**朝鮮語2**

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

法1年Y

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

**【到達目標】**

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

4月23日授業開始

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANK100LA

**朝鮮語(2)Ⅱ**

2017年度以降入学者

LANK100LA

**朝鮮語4**

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

法1年Y

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

**朝鮮語 1**

2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

国1年SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約400語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」「朝鮮語2」「朝鮮語5」は3名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課/第3課	基本母音字/子音字その1/子音字その2
2	第4課/第5課/第6課	子音字その3/7つの終声/用言の「ですます形」
3	第7課/第8課/第9課	激音/合成母音字/濃音
4	第10課/第11課/第12課	連音化/疑問形と否定形/平音の濃音化
5	第13課/第14課/第15課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化/子音語幹用言
6	第16課/第17課/第18課	複数の用言をつなぐ/動詞の進行形と連体形/固有数字とその単位
7	第19課/第20課/第21課	過去形その1/過去形その2/あいさつと尊敬形
8	第22課/第23課/第24課	指定詞の否定形・用言の活用と語基/形容詞ともうひとつの否定形/命令形と意思形
9	第25課/第26課/第27課	リウル語幹用言/形容詞の連体形/希望をあらわす「～したい」
10	第28課/第29課	勧誘をあらわす「～しましょう」/パンマルとヘヨ体
11	第30課/第31課	ヘヨ体の尊敬形/指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第32課/第33課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言/動詞の過去連体形と未来連体形
13	第34課/第35課	義務をあらわす「～しなければならない」/意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%，期末テスト 80%によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 3

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習, 「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
5	第 3 課	文中の疑問形, 方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言, 動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
8	第 5 課	用言の名詞形, いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現, 大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
11	第 7 課	「～しながら」, 指定詞の第 III 語基
12	第 8 課	用言の「である」形, 間接話法 1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テストの成績によります。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【その他の重要事項】**

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk100LA

**朝鮮語 2**

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%，期末テスト 80%によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hanguk and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 4

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

【到達目標】

自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

課題の発表やテキストに沿って授業を進めます。会話が可能になることを前提した授業にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と授業の進め方について	復習と授業の進め方についての説明。
2	第 1 課 韓国語伸びましたね	会話の本文を読みます。
3	第 1 課 韓国語伸びましたね	本文の説明をします。
4	第 1 課 韓国語伸びましたね	練習問題
5	第 2 課 何限までありますか	会話の本文を読みます。
6	第 2 課 何限までありますか	本文の説明をします。
7	第 2 課 何限までありますか	練習問題
8	第 3 課 趣味は何ですか	会話の本文を読みます。
9	第 3 課 趣味は何ですか	本文の説明をします。
10	第 3 課 趣味は何ですか	練習問題
11	まとめ会話練習	会話の練習をします。
12	課題発表	発表をしてもらいます。
13	第 4 課 一年になりますね	会話の本文を読みます。
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を出します。作文練習や読む練習、また、翻訳や内容のまとめを韓国でやってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梁禮先『中級韓国語〔私家版〕』（授業で配布します）

【参考書】

授業で時々発表します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

積極的に授業に参加してください。

授業内容は、少々変わることがあります。

## 【Outline and objectives】

While continuing to study the contents covered in the spring semester, we will focus on improving your pronunciation and obtaining speaking and writing skills.

LANk100LA

## 朝鮮語 5

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

## 【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となります。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%，期末テスト 80%によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 6

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習, 「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
5	第 3 課	文中の疑問形, 方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言, 動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
8	第 5 課	用言の名詞形, いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現, 大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
11	第 7 課	「～しながら」, 指定詞の第 III 語基
12	第 8 課	用言の「である」形, 間接話法 1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テストの成績によります。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【その他の重要事項】**

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk100LA

**朝鮮語 1 - I**

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

**【到達目標】**

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

4 月 27 日授業開始

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語1-II**

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

環1年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語 1 - I

2017年度以降入学者

### 内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語 1 - II**

2017 年度以降入学者

**内山 政春**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2-I

2017年度以降入学者

### 内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

環1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行いません。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

#### 【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語2-II**

2017年度以降入学者

**内山 政春**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

環1年

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

## 朝鮮語2-I

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：1単位

キ1年

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

#### 【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課/第2課	基本母音字/子音字その1
2	第3課/第4課	子音字その2/子音字その3
3	第5課/第6課	7つの終声/用言の「ですます」形
4	第7課/第8課	激音/合成母音字
5	第9課/第10課	濃音/連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第11課/第12課	疑問形と否定形/平音の濃音化
8	第13課/第14課	日本語のハングル表記/激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第15課/第16課	子音語幹用言/複数の用言をつなぐ
10	第17課/第18課	動詞の進行形と連体形/固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第19課/第20課	過去形その1/過去形その2
13	第21課/第22課	あいさつと尊敬形/指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの

(以下はオンライン授業実施決定以前の評価基準です)

授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席(遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります)がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

**朝鮮語2-II**

2017年度以降入学者

**神谷 丹路**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1単位

キ1年

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約100語をさらに習得します。また用言(動詞、形容詞など)に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

**【到達目標】**

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は2名の教員がリレー方式(同一の教材を用いて一体の授業として行なう)によって授業を進めます。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第23課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第24課	命令形と意思形
3	第25課	リウル語幹用言
4	第26課	形容詞の連体形
5	第27課	希望をあらわす「～したい」
6	第28課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第29課	パンマルとヘヨ体
8	第30課	ヘヨ体の尊敬形
9	第31課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第32課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第33課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第34課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第35課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の共通テスト

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

**【参考書】**

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は1年生の間は不要です。

**【成績評価の方法と基準】**

「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも50%に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト100%で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

**【学生の意見等からの気づき】**

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

